

科目名	経済学基礎	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	前田 一樹	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	経済学を学ぶ基盤を修得する		
授業の目的及び概要	本科目は、「経済学」の学修をはじめるにあたって必要最低限の知識を修得することを目指す必修科目です。すなわち、本科目と同じく必修科目である、ミクロ経済学Ⅰやマクロ経済学Ⅰの学修に備えて、経済学の専門用語や関連する概念、数学的スキルを学びます。 経済学は社会を科学的に分析する優れた体系であり、マスターすれば社会の仕組みが手に取るように分かるようになるでしょう。このためには、経済学特有の「専門用語」や、経済学の考え方・概念の理解、初歩的な計算スキルが重要です。そこで、本科目では初めて経済学を学ぶ方に向けて、初歩から着実に一連の経済学に関する諸理論・諸概念を学びます。 さらに、本科目で学修した知識を活用することで、経済学部における学びを通じて修得することを目指す「実学としての経済学」を、より円滑に学ぶことができるようになります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 経済学の学修に必要な基礎的な専門用語を説明できる。 2. 経済学の入門的諸概念を説明できる。 3. ミクロ経済学・マクロ経済学の学修に必要な最低限の数学的手法を用いることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・毎回の提出課題について、次回授業で解説等のフィードバックを行います。 ・中間試験について、講評等のフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	教科書は指定しません。 授業内で配付する資料に基づき、講義を進めます。	ISBN	なし
参考書	必要がある場合、授業中に適宜紹介します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	本科目は経済学部の全 1 年生が履修する必修科目ですので、不合格となれば再履修しなければなりません。 また、他の経済学に関する科目の大多数と深く関連する基礎的内容を扱いますので、毎回の課題提出や復習などにしっかりと取り組んで、授業内容を十分に理解して、本科目に合格することが、今後の専門学修を円滑に進めるためにも非常に重要です。 毎回の授業をよく聞くだけでなく、分からない箇所があれば積極的に質問するなど、特に力を入れて授業に取り組みましょう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス（経済学とは何か？）	授業中の説明を振り返り、授業の進め方を再確認するとともに、今後の学修計画を検討してください。	4 時間
第2回	対面	経済学の登場人物と経済学的意思決定	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。	4 時間
第3回	対面	ライフイベントと経済学①	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に需要曲線と供給曲線はグラフをよく見て、それぞれの意味を正確に理解するように復習してください。	4 時間
第4回	対面	ライフイベントと経済学②	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。さらに、授業で紹介した図を参考に、自分自身はどのようなライフイベントに直面すると思うか考えてみてください。	4 時間
第5回	対面	需要曲線と供給曲線の図示と、変化要因、傾きの意味	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。 授業で解説された数学を用いた計算問題等について、練習問題等を活用しながら十分に復習を行ってください。	5 時間
第6回	対面	市場均衡点の導出	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。 授業で解説された数学を用いた計算問題等について、練習問題等を活用しながら十分に復習を行ってください。 中間試験に向けた復習をはじめてください。	5 時間
第7回	対面	完全競争市場と市場の失敗	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。 これまでの授業回で登場した計算問題が苦手だと感じる方は、特に時間をかけて復習してください。 中間試験に向けた復習を行ってください。	5 時間
第8回	対面	中間試験	中間試験の試験対策を行ってください（予習）。 中間試験の問題について振り返りを行ってください（復習）。	4 時間
第9回	対面	GDP①	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。	4 時間
第10回	対面	GDP②	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。さらに関連する新聞記事がないか探してみてください。	4 時間
第11回	対面	経済成長と景気循環	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。	4 時間
第12回	対面	金融論の基礎	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。	4 時間
第13回	対面	国際経済学の基礎（国際的な経済取引と為替レート）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。	4 時間
第14回	対面	授業内容の総まとめ	授業で示されたポイントを中心に、定期試験に備えて総復習を行ってください。	6 時間
第15回	オンデマンド	定期試験に向けた総復習	授業で示されたポイントを中心に、定期試験に備えて総復習を行ってください。	6 時間

科目名	経済学基礎	開講年度	2026 年度春学期
担当者	前田 一樹	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	経済学を学ぶ基盤を修得する		
授業の目的及び概要	本科目は、「経済学」の学修をはじめるにあたって必要最低限の知識を修得することを目指す必修科目です。すなわち、本科目と同じく必修科目である、ミクロ経済学Ⅰやマクロ経済学Ⅰの学修に備えて、経済学の専門用語や関連する概念、数学的スキルを学びます。 経済学は社会を科学的に分析する優れた体系であり、マスターすれば社会の仕組みが手に取るように分かるようになるでしょう。このためには、経済学特有の「専門用語」や、経済学の考え方・概念の理解、初歩的な計算スキルが重要です。そこで、本科目では初めて経済学を学ぶ方に向けて、初歩から着実に一連の経済学に関する諸理論・諸概念を学びます。 さらに、本科目で学修した知識を活用することで、経済学部における学びを通じて修得することを目指す「実学としての経済学」を、より円滑に学ぶことができるようになります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 経済学の学修に必要な基礎的な専門用語を説明できる。 2. 経済学の入門的諸概念を説明できる。 3. ミクロ経済学・マクロ経済学の学修に必要な最低限の数学的手法を用いることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・毎回の提出課題について、次回授業で解説等のフィードバックを行います。 ・中間試験について、講評等のフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	教科書は指定しません。 授業内で配付する資料に基づき、講義を進めます。	ISBN	なし
参考書	必要がある場合、授業中に適宜紹介します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	本科目は経済学部の全 1 年生が履修する必修科目ですので、不合格となれば再履修しなければなりません。 また、他の経済学に関する科目の大多数と深く関連する基礎的内容を扱いますので、毎回の課題提出や復習などにしっかりと取り組んで、授業内容を十分に理解して、本科目に合格することが、今後の専門学修を円滑に進めるためにも非常に重要です。 毎回の授業をよく聞くだけでなく、分からない箇所があれば積極的に質問するなど、特に力を入れて授業に取り組みましょう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス（経済学とは何か？）	授業中の説明を振り返り、授業の進め方を再確認するとともに、今後の学修計画を検討してください。	4時間
第2回	対面	経済学の登場人物と経済学的意思決定	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。	4時間
第3回	対面	ライフイベントと経済学①	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に需要曲線と供給曲線はグラフをよく見て、それぞれの意味を正確に理解するように復習してください。	4時間
第4回	対面	ライフイベントと経済学②	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。さらに、授業で紹介した図を参考に、自分自身はどのようなライフイベントに直面すると思うか考えてみてください。	4時間
第5回	対面	需要曲線と供給曲線の図示と、変化要因、傾きの意味	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。 授業で解説された数学を用いた計算問題等について、練習問題等を活用しながら十分に復習を行ってください。	5時間
第6回	対面	市場均衡点の導出	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。 授業で解説された数学を用いた計算問題等について、練習問題等を活用しながら十分に復習を行ってください。 中間試験に向けた復習をはじめてください。	5時間
第7回	対面	完全競争市場と市場の失敗	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。 これまでの授業回で登場した計算問題が苦手だと感じる方は、特に時間をかけて復習してください。 中間試験に向けた復習を行ってください。	5時間
第8回	対面	中間試験	中間試験の試験対策を行ってください（予習）。 中間試験の問題について振り返りを行ってください（復習）。	4時間
第9回	対面	GDP①	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。	4時間
第10回	対面	GDP②	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。さらに関連する新聞記事がないか探してみてください。	4時間
第11回	対面	経済成長と景気循環	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。	4時間
第12回	対面	金融論の基礎	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。	4時間
第13回	対面	国際経済学の基礎（国際的な経済取引と為替レート）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。	4時間
第14回	対面	授業内容の総まとめ	授業で示されたポイントを中心に、定期試験に備えて総復習を行ってください。	6時間
第15回	オンデマンド	定期試験に向けた総復習	授業で示されたポイントを中心に、定期試験に備えて総復習を行ってください。	6時間

科目名	経済学基礎	開講年度	2026 年度春学期
担当者	藤田 峻	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	経済学を学ぶ基盤を修得する		
授業の目的及び概要	本科目は、「経済学」の学修をはじめるにあたって必要最低限の知識を修得することを目指す必修科目です。すなわち、本科目と同じく必修科目である、ミクロ経済学Ⅰやマクロ経済学Ⅰの学修に備えて、経済学の専門用語や関連する概念、数学的スキルを学びます。 経済学は社会を科学的に分析する優れた体系であり、マスターすれば社会の仕組みが手に取るように分かるようになるでしょう。このためには、経済学特有の「専門用語」や、経済学の考え方・概念の理解、初歩的な計算スキルが重要です。そこで、本科目では初めて経済学を学ぶ方に向けて、初歩から着実に一連の経済学に関する諸理論・諸概念を学びます。 さらに、本科目で学修した知識を活用することで、経済学部における学びを通じて修得することを目指す「実学としての経済学」を、より円滑に学ぶことができるようになります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 経済学の学修に必要な基礎的な専門用語を説明できる。 2. 経済学の入門的諸概念を説明できる。 3. ミクロ経済学・マクロ経済学の学修に必要な最低限の数学的手法を用いることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・毎回の提出課題について、次回授業で解説等のフィードバックを行います。 ・中間試験について、講評等のフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	教科書は指定しません。 授業内で配付する資料に基づき、講義を進めます。	ISBN	なし
参考書	必要がある場合、授業中に適宜紹介します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	本科目は経済学部の全 1 年生が履修する必修科目ですので、不合格となれば再履修しなければなりません。 また、他の経済学に関する科目の大多数と深く関連する基礎的内容を扱いますので、毎回の課題提出や復習などにしっかりと取り組んで、授業内容を十分に理解して、本科目に合格することが、今後の専門学修を円滑に進めるためにも非常に重要です。 毎回の授業をよく聞くだけでなく、分からない箇所があれば積極的に質問するなど、特に力を入れて授業に取り組みましょう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス（経済学とは何か？）	授業中の説明を振り返り、授業の進め方を再確認するとともに、今後の学修計画を検討してください。	4 時間
第2回	対面	経済学の登場人物と経済学的意思決定	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。	4 時間
第3回	対面	ライフイベントと経済学①	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に需要曲線と供給曲線はグラフをよく見て、それぞれの意味を正確に理解するように復習してください。	4 時間
第4回	対面	ライフイベントと経済学②	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。さらに、授業で紹介した図を参考に、自分自身はどのようなライフイベントに直面すると思うか考えてみてください。	4 時間
第5回	対面	需要曲線と供給曲線の図示と、変化要因、傾きの意味	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。 授業で解説された数学を用いた計算問題等について、練習問題等を活用しながら十分に復習を行ってください。	5 時間
第6回	対面	市場均衡点の導出	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。 授業で解説された数学を用いた計算問題等について、練習問題等を活用しながら十分に復習を行ってください。 中間試験に向けた復習をはじめてください。	5 時間
第7回	対面	完全競争市場と市場の失敗	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。 これまでの授業回で登場した計算問題が苦手だと感じる方は、特に時間をかけて復習してください。 中間試験に向けた復習を行ってください。	5 時間
第8回	対面	中間試験	中間試験の試験対策を行ってください（予習）。 中間試験の問題について振り返りを行ってください（復習）。	4 時間
第9回	対面	GDP①	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。	4 時間
第10回	対面	GDP②	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。さらに関連する新聞記事がないか探してみてください。	4 時間
第11回	対面	経済成長と景気循環	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。	4 時間
第12回	対面	金融論の基礎	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。	4 時間
第13回	対面	国際経済学の基礎（国際的な経済取引と為替レート）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。	4 時間
第14回	対面	授業内容の総まとめ	授業で示されたポイントを中心に、定期試験に備えて総復習を行ってください。	6 時間
第15回	オンデマンド	定期試験に向けた総復習	授業で示されたポイントを中心に、定期試験に備えて総復習を行ってください。	6 時間

科目名	情報処理基礎	開講年度	2026 年度春学期
担当者	岩田 順敬	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	情報処理と ICT に関する基礎的な知識・スキルを習得し、情報リテラシー（情報活用能力）を養う。		
授業の目的及び概要	・本科目は、情報処理と ICT（情報通信技術）に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得を目的とする。これら能力は、これからの大学生活を送る上で基本となる「汎用的技能」であり、卒業後の仕事でも必須となる「就業力」といえる。例えば、大学では、特定のテーマについて調査し、レポートを作成後、プレゼンテーションを実施する。また、現代の情報化社会にあっては、あらゆる場面で ICT が利用され、利活用することが求められる。 ・本科目では、PC の基本操作に慣れるとともに、大学生活やビジネス現場で最も使われているワープロ、表計算、プレゼンテーション等の基本ソフトの「使い方」（操作知識とスキル）の基礎を修得する。また、本学の教学システム、関連した SNS（Social Networking Services）・クラウドサービス・メールサービスの利活用、図書館情報システム・インターネットを使った情報の検索方法、コンピュータ、情報通信ネットワーク、情報モラル・情報セキュリティ（IT パスポート出題内容）についても学修する。		
履修条件・留意点	パソコンを毎回持参すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・本科目の到達目標は、大学 4 年間及び入社時に最低限必要となる ICT（情報通信技術）・情報処理に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1) PC を操作し、本学の教学システム、関連した SNS やクラウドサービスを適切に利用できる。 2) インターネットを使った適切な情報検索（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等を含む）ができる。 3) 情報化社会の特性を踏まえ、情報モラル・情報セキュリティ・個人情報・著作権等について説明できる。 4) キーボードを使って文字入力ができる（5 分間で日本語 300 文字以上）。 5) プレゼンテーションソフト（PowerPoint）を用いて簡易なスライド資料の作成ができる。 6) ワードプロソフト（Word）を用いて簡易な文書作成ができる。 7) 表計算ソフト（Excel）を用いて、情報を分析評価・整理等するために簡易な集計表やグラフの作成ができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答する。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	「情報リテラシー13 講 基礎と実践」 岩田順敬、宮崎裕 学術図書出版 2026	ISBN	978-4-7806-1424-4
参考書	—	ISBN	—
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	30
	その他（％）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	毎回の授業に出席し課題に取り組み、PC、タイピング、ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフト等に関する基本的な操作スキルを身につけることができる。これらスキルの修得には一定の時間と量が必要となる。4年間の大学生活だけでなく卒業後の仕事においても必須のスキルとなるため、集中して取り組むこと。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	1) ガイダンス 2) 本学の情報通信機器及び教学システムの概要や基本操作 ・本学 ICT 環境(1) : Learning Portal、Universal Passport、クラウドサービス (Microsoft/Office365) 等 ・Windows の操作(1) ・情報セキュリティ・パスワード変更 第1～3 回講義 (学内システムの設定など) では授業資料を配布する。	○事前学修 ・全 15 回のシラバスをすべて読んで授業計画を確認して下さい。 ・学内システムのパスワードをどのようにするかについて決めてきてください (パスワードは半角英数字記号を利用します)。 ○事後学修 ・以後、本学の教学システムに毎日ログインし、学内の連絡事項を確認してください。 ・自宅 PC から本学の教学システムにアクセスし授業資料をダウンロードし閲覧してください。	4 時間
第2回	対面	1) 学内システムの基本操作 ・Windows の操作(2) ・本学 ICT 環境(2) : 学修ポートフォリオ、クラウドサービス/SNS Microsoft/Office 365 (Outlook、OneDrive 等)、情報検索と図書館蔵書検索 第1～3 回講義 (学内システムの設定など) では授業資料を配布する。	○事前学修 ・Learning Portal にログインできるようにする。 ○事後学修 ・microsoft365 にログインできるようにする。	4 時間
第3回	対面	1) 学内システムの基本操作 ・本学 ICT 環境(3) : 2) Windows の操作(3)・タイピングの基礎 ・Windows の基本操作 ・日本語入力・タイピングの基礎 ・作成ファイルのアップロード 第1～3 回講義 (学内システムの設定など) では授業資料を配布する。	○事前学修 ・第 4 回目授業開始までに必ずテキストを購入しておくこと。 ○事後学修 ・授業内で指定したタイピング課題を作成し、学内システムを通じて提出すること。	4 時間
第4回	対面	Word を使った文書の作成 (全 3 回) 1 回目 教科書 第 1 講	○事前学修 ・テキストの第 1 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 1 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第5回	対面	Word を使った文書の作成 (全 3 回) 2 回目 教科書 第 2 講	○事前学修 ・テキストの第 2 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 2 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第6回	対面	Word を使った文書の作成 (全 3 回) 3 回目 教科書 第 3 講	○事前学修 ・テキストの第 3 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 3 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第7回	対面	Excel を使った表計算 (全 3 回) 1 回目 教科書 第 4 講	○事前学修 ・テキストの第 4 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 4 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第8回	対面	Excel を使った表計算 (全 3 回) 2 回目 教科書 第 5 講	○事前学修 ・テキストの第 5 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修	4 時間

			・テキストの第5講の操作を復習しておくが良い。	
第9回	対面	Excelを使った表計算（全3回） 3回目 教科書 第6講	○事前学修 ・テキストの第6講を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第6講の操作を復習しておくが良い。	4時間
第10回	対面	PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成（全3回） 1回目 教科書 第7講	○事前学修 ・テキストの第7講を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第7講の操作を復習しておくが良い。	4時間
第11回	対面	PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成（全3回） 2回目 教科書 第8講	○事前学修 ・テキストの第8講を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第8講の操作を復習しておくが良い。	4時間
第12回	対面	PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成（全3回） 3回目 教科書 第9講	○事前学修 ・テキストの第9を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第9の操作を復習しておくが良い。	4時間
第13回	対面	プレゼンテーション実習	○事前学修 ・発表に使うプレゼンテーションファイルを仕上げておくこと	4時間
第14回	対面	オンデマンド講義（ELSIの基礎知識） ・テキストの第10~13講を事前に確認しておくが良い。 課題を仕上げて提出	○事前学修 ・テキストの第10~13講を事前に確認しておくことよい。 ○事後学修 ・すべての問題に正答できるようにする。わからないところがあれば、担当教員に teams などを用いて質問する。	4時間
第15回	オンデマンド	1) 総合演習課題 2) 情報モラル&情報セキュリティ課題の提出 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておくこと ○事後学修 ・総合演習課題(3)を完成させ提出しておくこと	4時間

科目名	情報処理基礎	開講年度	2026 年度春学期
担当者	森下 浩平	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	情報処理と ICT に関する基礎的な知識・スキルを習得し、情報リテラシー（情報活用能力）を養う。		
授業の目的及び概要	・本科目は、情報処理と ICT（情報通信技術）に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得を目的とする。これら能力は、これからの大学生活を送る上で基本となる「汎用的技能」であり、卒業後の仕事でも必須となる「就業力」といえる。例えば、大学では、特定のテーマについて調査し、レポートを作成後、プレゼンテーションを実施する。また、現代の情報化社会にあっては、あらゆる場面で ICT が利用され、利活用することが求められる。 ・本科目では、PC の基本操作に慣れるとともに、大学生活やビジネス現場で最も使われているワープロ、表計算、プレゼンテーション等の基本ソフトの「使い方」（操作知識とスキル）の基礎を修得する。また、本学の教学システム、関連した SNS（Social Networking Services）・クラウドサービス・メールサービスの利活用、図書館情報システム・インターネットを使った情報の検索方法、コンピュータ、情報通信ネットワーク、情報モラル・情報セキュリティ（IT パスポート出題内容）についても学修する。		
履修条件・留意点	パソコンを毎回持参すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・本科目の到達目標は、大学 4 年間及び入社時に最低限必要となる ICT（情報通信技術）・情報処理に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1) PC を操作し、本学の教学システム、関連した SNS やクラウドサービスを適切に利用できる。 2) インターネットを使った適切な情報検索（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等を含む）ができる。 3) 情報化社会の特性を踏まえ、情報モラル・情報セキュリティ・個人情報・著作権等について説明できる。 4) キーボードを使って文字入力ができる（5 分間で日本語 300 文字以上）。 5) プレゼンテーションソフト（PowerPoint）を用いて簡易なスライド資料の作成ができる。 6) ワードプロソフト（Word）を用いて簡易な文書作成ができる。 7) 表計算ソフト（Excel）を用いて、情報を分析評価・整理等するために簡易な集計表やグラフの作成ができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答する。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	「情報リテラシー13 講 基礎と実践」 岩田順敬、宮崎裕 学術図書出版 2026	ISBN	978-4-7806-1424-4
参考書	—	ISBN	—
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	30
	その他（％）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	毎回の授業に出席し課題に取り組み、PC、タイピング、ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフト等に関する基本的な操作スキルを身につけることができる。これらスキルの修得には一定の時間と量が必要となる。4年間の大学生活だけでなく卒業後の仕事においても必須のスキルとなるため、集中して取り組むこと。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	1) ガイダンス 2) 本学の情報通信機器及び教学システムの概要や基本操作 ・本学 ICT 環境(1) : Learning Portal、Universal Passport、クラウドサービス (Microsoft/Office365) 等 ・Windows の操作(1) ・情報セキュリティ・パスワード変更 第1～3 回講義 (学内システムの設定など) では授業資料を配布する。	○事前学修 ・全 15 回のシラバスをすべて読んで授業計画を確認して下さい。 ・学内システムのパスワードをどのようにするかについて決めてきてください (パスワードは半角英数字記号を利用します)。 ○事後学修 ・以後、本学の教学システムに毎日ログインし、学内の連絡事項を確認してください。 ・自宅 PC から本学の教学システムにアクセスし授業資料をダウンロードし閲覧してください。	4 時間
第2回	対面	1) 学内システムの基本操作 ・Windows の操作(2) ・本学 ICT 環境(2) : 学修ポートフォリオ、クラウドサービス/SNS Microsoft/Office 365 (Outlook、OneDrive 等)、情報検索と図書館蔵書検索 第1～3 回講義 (学内システムの設定など) では授業資料を配布する。	○事前学修 ・Learning Portal にログインできるようにする。 ○事後学修 ・microsoft365 にログインできるようにする。	4 時間
第3回	対面	1) 学内システムの基本操作 ・本学 ICT 環境(3) : 2) Windows の操作(3)・タイピングの基礎 ・Windows の基本操作 ・日本語入力・タイピングの基礎 ・作成ファイルのアップロード 第1～3 回講義 (学内システムの設定など) では授業資料を配布する。	○事前学修 ・第 4 回目授業開始までに必ずテキストを購入しておくこと。 ○事後学修 ・授業内で指定したタイピング課題を作成し、学内システムを通じて提出すること。	4 時間
第4回	対面	Word を使った文書の作成 (全 3 回) 1 回目 教科書 第 1 講	○事前学修 ・テキストの第 1 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 1 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第5回	対面	Word を使った文書の作成 (全 3 回) 2 回目 教科書 第 2 講	○事前学修 ・テキストの第 2 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 2 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第6回	対面	Word を使った文書の作成 (全 3 回) 3 回目 教科書 第 3 講	○事前学修 ・テキストの第 3 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 3 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第7回	対面	Excel を使った表計算 (全 3 回) 1 回目 教科書 第 4 講	○事前学修 ・テキストの第 4 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 4 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第8回	対面	Excel を使った表計算 (全 3 回) 2 回目 教科書 第 5 講	○事前学修 ・テキストの第 5 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修	4 時間

			・テキストの第5講の操作を復習しておくが良い。	
第9回	対面	Excelを使った表計算（全3回） 3回目 教科書 第6講	○事前学修 ・テキストの第6講を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第6講の操作を復習しておくが良い。	4時間
第10回	対面	PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成（全3回） 1回目 教科書 第7講	○事前学修 ・テキストの第7講を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第7講の操作を復習しておくが良い。	4時間
第11回	対面	PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成（全3回） 2回目 教科書 第8講	○事前学修 ・テキストの第8講を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第8講の操作を復習しておくが良い。	4時間
第12回	対面	PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成（全3回） 3回目 教科書 第9講	○事前学修 ・テキストの第9を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第9の操作を復習しておくが良い。	4時間
第13回	対面	プレゼンテーション実習	○事前学修 ・発表に使うプレゼンテーションファイルを仕上げておくこと	4時間
第14回	対面	オンデマンド講義（ELSIの基礎知識） ・テキストの第10~13講を事前に確認しておくが良い。 課題を仕上げて提出	○事前学修 ・テキストの第10~13講を事前に確認しておくことよい。 ○事後学修 ・すべての問題に正答できるようにする。わからないところがあれば、担当教員に teams などを用いて質問する。	4時間
第15回	オンデマンド	1) 総合演習課題 2) 情報モラル&情報セキュリティ課題の提出 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておくこと ○事後学修 ・総合演習課題(3)を完成させ提出しておくこと	4時間

科目名	情報処理基礎	開講年度	2026 年度春学期
担当者	岩田 順敬	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	情報処理と ICT に関する基礎的な知識・スキルを習得し、情報リテラシー（情報活用能力）を養う。		
授業の目的及び概要	・本科目は、情報処理と ICT（情報通信技術）に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得を目的とする。これら能力は、これからの大学生活を送る上で基本となる「汎用的技能」であり、卒業後の仕事でも必須となる「就業力」といえる。例えば、大学では、特定のテーマについて調査し、レポートを作成後、プレゼンテーションを実施する。また、現代の情報化社会にあっては、あらゆる場面で ICT が利用され、利活用することが求められる。 ・本科目では、PC の基本操作に慣れるとともに、大学生活やビジネス現場で最も使われているワープロ、表計算、プレゼンテーション等の基本ソフトの「使い方」（操作知識とスキル）の基礎を修得する。また、本学の教学システム、関連した SNS（Social Networking Services）・クラウドサービス・メールサービスの利活用、図書館情報システム・インターネットを使った情報の検索方法、コンピュータ、情報通信ネットワーク、情報モラル・情報セキュリティ（IT パスポート出題内容）についても学修する。		
履修条件・留意点	パソコンを毎回持参すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・本科目の到達目標は、大学 4 年間及び入社時に最低限必要となる ICT（情報通信技術）・情報処理に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1) PC を操作し、本学の教学システム、関連した SNS やクラウドサービスを適切に利用できる。 2) インターネットを使った適切な情報検索（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等を含む）ができる。 3) 情報化社会の特性を踏まえ、情報モラル・情報セキュリティ・個人情報・著作権等について説明できる。 4) キーボードを使って文字入力ができる（5 分間で日本語 300 文字以上）。 5) プレゼンテーションソフト（PowerPoint）を用いて簡易なスライド資料の作成ができる。 6) ワードプロソフト（Word）を用いて簡易な文書作成ができる。 7) 表計算ソフト（Excel）を用いて、情報を分析評価・整理等するために簡易な集計表やグラフの作成ができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答する。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	「情報リテラシー13 講 基礎と実践」 岩田順敬、宮崎裕 学術図書出版 2026	ISBN	978-4-7806-1424-4
参考書	—	ISBN	—
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	30
	その他（％）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	毎回の授業に出席し課題に取り組み、PC、タイピング、ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフト等に関する基本的な操作スキルを身につけることができる。これらスキルの修得には一定の時間と量が必要となる。4年間の大学生活だけでなく卒業後の仕事においても必須のスキルとなるため、集中して取り組むこと。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	1) ガイダンス 2) 本学の情報通信機器及び教学システムの概要や基本操作 ・本学 ICT 環境(1) : Learning Portal、Universal Passport、クラウドサービス (Microsoft/Office365) 等 ・Windows の操作(1) ・情報セキュリティ・パスワード変更 第1～3 回講義 (学内システムの設定など) では授業資料を配布する。	○事前学修 ・全 15 回のシラバスをすべて読んで授業計画を確認して下さい。 ・学内システムのパスワードをどのようにするかについて決めてきてください (パスワードは半角英数字記号を利用します)。 ○事後学修 ・以後、本学の教学システムに毎日ログインし、学内の連絡事項を確認してください。 ・自宅 PC から本学の教学システムにアクセスし授業資料をダウンロードし閲覧してください。	4 時間
第2回	対面	1) 学内システムの基本操作 ・Windows の操作(2) ・本学 ICT 環境(2) : 学修ポートフォリオ、クラウドサービス/SNS Microsoft/Office 365 (Outlook、OneDrive 等)、情報検索と図書館蔵書検索 第1～3 回講義 (学内システムの設定など) では授業資料を配布する。	○事前学修 ・Learning Portal にログインできるようにする。 ○事後学修 ・microsoft365 にログインできるようにする。	4 時間
第3回	対面	1) 学内システムの基本操作 ・本学 ICT 環境(3) : 2) Windows の操作(3)・タイピングの基礎 ・Windows の基本操作 ・日本語入力・タイピングの基礎 ・作成ファイルのアップロード 第1～3 回講義 (学内システムの設定など) では授業資料を配布する。	○事前学修 ・第 4 回目授業開始までに必ずテキストを購入しておくこと。 ○事後学修 ・授業内で指定したタイピング課題を作成し、学内システムを通じて提出すること。	4 時間
第4回	対面	Word を使った文書の作成 (全 3 回) 1 回目 教科書 第 1 講	○事前学修 ・テキストの第 1 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 1 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第5回	対面	Word を使った文書の作成 (全 3 回) 2 回目 教科書 第 2 講	○事前学修 ・テキストの第 2 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 2 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第6回	対面	Word を使った文書の作成 (全 3 回) 3 回目 教科書 第 3 講	○事前学修 ・テキストの第 3 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 3 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第7回	対面	Excel を使った表計算 (全 3 回) 1 回目 教科書 第 4 講	○事前学修 ・テキストの第 4 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 4 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第8回	対面	Excel を使った表計算 (全 3 回) 2 回目 教科書 第 5 講	○事前学修 ・テキストの第 5 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修	4 時間

			・テキストの第5講の操作を復習しておくが良い。	
第9回	対面	Excelを使った表計算（全3回） 3回目 教科書 第6講	○事前学修 ・テキストの第6講を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第6講の操作を復習しておくが良い。	4時間
第10回	対面	PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成（全3回） 1回目 教科書 第7講	○事前学修 ・テキストの第7講を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第7講の操作を復習しておくが良い。	4時間
第11回	対面	PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成（全3回） 2回目 教科書 第8講	○事前学修 ・テキストの第8講を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第8講の操作を復習しておくが良い。	4時間
第12回	対面	PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成（全3回） 3回目 教科書 第9講	○事前学修 ・テキストの第9を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第9の操作を復習しておくが良い。	4時間
第13回	対面	プレゼンテーション実習	○事前学修 ・発表に使うプレゼンテーションファイルを仕上げておくこと	4時間
第14回	対面	オンデマンド講義（ELSIの基礎知識） ・テキストの第10~13講を事前に確認しておくが良い。 課題を仕上げて提出	○事前学修 ・テキストの第10~13講を事前に確認しておくことよい。 ○事後学修 ・すべての問題に正答できるようにする。わからないところがあれば、担当教員に teams などを用いて質問する。	4時間
第15回	オンデマンド	1) 総合演習課題 2) 情報モラル&情報セキュリティ課題の提出 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておくこと ○事後学修 ・総合演習課題(3)を完成させ提出しておくこと	4時間

科目名	情報処理基礎	開講年度	2026 年度春学期
担当者	宮崎 裕	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	情報処理と ICT に関する基礎的な知識・スキルを習得し、情報リテラシー（情報活用能力）を養う。		
授業の目的及び概要	・本科目は、情報処理と ICT（情報通信技術）に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得を目的とする。これら能力は、これからの大学生活を送る上で基本となる「汎用的技能」であり、卒業後の仕事でも必須となる「就業力」といえる。例えば、大学では、特定のテーマについて調査し、レポートを作成後、プレゼンテーションを実施する。また、現代の情報化社会にあっては、あらゆる場面で ICT が利用され、利活用することが求められる。 ・本科目では、PC の基本操作に慣れるとともに、大学生活やビジネス現場で最も使われているワープロ、表計算、プレゼンテーション等の基本ソフトの「使い方」（操作知識とスキル）の基礎を修得する。また、本学の教学システム、関連した SNS（Social Networking Services）・クラウドサービス・メールサービスの利活用、図書館情報システム・インターネットを使った情報の検索方法、コンピュータ、情報通信ネットワーク、情報モラル・情報セキュリティ（IT パスポート出題内容）についても学修する。		
履修条件・留意点	パソコンを毎回持参すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・本科目の到達目標は、大学 4 年間及び入社時に最低限必要となる ICT（情報通信技術）・情報処理に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1) PC を操作し、本学の教学システム、関連した SNS やクラウドサービスを適切に利用できる。 2) インターネットを使った適切な情報検索（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等を含む）ができる。 3) 情報化社会の特性を踏まえ、情報モラル・情報セキュリティ・個人情報・著作権等について説明できる。 4) キーボードを使って文字入力ができる（5 分間で日本語 300 文字以上）。 5) プレゼンテーションソフト（PowerPoint）を用いて簡易なスライド資料の作成ができる。 6) ワードプロソフト（Word）を用いて簡易な文書作成ができる。 7) 表計算ソフト（Excel）を用いて、情報を分析評価・整理等するために簡易な集計表やグラフの作成ができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答する。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	「情報リテラシー13 講 基礎と実践」 岩田順敬、宮崎裕 学術図書出版 2026	ISBN	978-4-7806-1424-4
参考書	—	ISBN	—
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	最終課題
この科目の受講にあたって	毎回の授業に出席し課題に取り組み、PC、タイピング、ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフト等に関する基本的な操作スキルを身につけることができる。これらスキルの修得には一定の時間と量が必要となる。4年間の大学生活だけでなく卒業後の仕事においても必須のスキルとなるため、集中して取り組むこと。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	1) ガイダンス 2) 本学の情報通信機器及び教学システムの概要や基本操作 ・本学 ICT 環境(1) : Learning Portal、Universal Passport、クラウドサービス (Microsoft/Office365) 等 ・Windows の操作(1) ・情報セキュリティ・パスワード変更 第1～3 回講義 (学内システムの設定など) では授業資料を配布する。	○事前学修 ・全 15 回のシラバスをすべて読んで授業計画を確認して下さい。 ・学内システムのパスワードをどのようにするかについて決めてきてください (パスワードは半角英数字記号を利用します)。 ○事後学修 ・以後、本学の教学システムに毎日ログインし、学内の連絡事項を確認してください。 ・自宅 PC から本学の教学システムにアクセスし授業資料をダウンロードし閲覧してください。	4 時間
第2回	対面	1) 学内システムの基本操作 ・Windows の操作(2) ・本学 ICT 環境(2) : 学修ポートフォリオ、クラウドサービス/SNS Microsoft/Office 365 (Outlook、OneDrive 等)、情報検索と図書館蔵書検索 第1～3 回講義 (学内システムの設定など) では授業資料を配布する。	○事前学修 ・Learning Portal にログインできるようにする。 ○事後学修 ・microsoft365 にログインできるようにする。	4 時間
第3回	対面	1) 学内システムの基本操作 ・本学 ICT 環境(3) : 2) Windows の操作(3)・タイピングの基礎 ・Windows の基本操作 ・日本語入力・タイピングの基礎 ・作成ファイルのアップロード 第1～3 回講義 (学内システムの設定など) では授業資料を配布する。	○事前学修 ・第 4 回目授業開始までに必ずテキストを購入しておくこと。 ○事後学修 ・授業内で指定したタイピング課題を作成し、学内システムを通じて提出すること。	4 時間
第4回	対面	Word を使った文書の作成 (全 3 回) 1 回目 教科書 第 1 講	○事前学修 ・テキストの第 1 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 1 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第5回	対面	Word を使った文書の作成 (全 3 回) 2 回目 教科書 第 2 講	○事前学修 ・テキストの第 2 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 2 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第6回	対面	Word を使った文書の作成 (全 3 回) 3 回目 教科書 第 3 講	○事前学修 ・テキストの第 3 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 3 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第7回	対面	Excel を使った表計算 (全 3 回) 1 回目 教科書 第 4 講	○事前学修 ・テキストの第 4 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 4 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第8回	対面	Excel を使った表計算 (全 3 回) 2 回目 教科書 第 5 講	○事前学修 ・テキストの第 5 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修	4 時間

			・テキストの第5講の操作を復習しておくが良い。	
第9回	対面	Excelを使った表計算（全3回） 3回目 教科書 第6講	○事前学修 ・テキストの第6講を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第6講の操作を復習しておくが良い。	4時間
第10回	対面	PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成（全3回） 1回目 教科書 第7講	○事前学修 ・テキストの第7講を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第7講の操作を復習しておくが良い。	4時間
第11回	対面	PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成（全3回） 2回目 教科書 第8講	○事前学修 ・テキストの第8講を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第8講の操作を復習しておくが良い。	4時間
第12回	対面	PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成（全3回） 3回目 教科書 第9講	○事前学修 ・テキストの第9を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第9の操作を復習しておくが良い。	4時間
第13回	対面	プレゼンテーション実習	○事前学修 ・発表に使うプレゼンテーションファイルを仕上げておくこと	4時間
第14回	対面	1) 設定テーマについてレポート提出 2) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておくこと ○事後学修 ・総合演習課題(3)を完成させ提出しておくこと	4時間
第15回	オンデマンド	プレゼンテーション実習のための資料作成	○事前学修 ・発表に使うプレゼンテーションファイルを作成するための資料を集めておくこと	4時間

科目名	情報処理基礎	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	宮崎 裕	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	情報処理と ICT に関する基礎的な知識・スキルを習得し、情報リテラシー（情報活用能力）を養う。		
授業の目的及び概要	・本科目は、情報処理と ICT（情報通信技術）に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得を目的とする。これら能力は、これからの大学生活を送る上で基本となる「汎用的技能」であり、卒業後の仕事でも必須となる「就業力」といえる。例えば、大学では、特定のテーマについて調査し、レポートを作成後、プレゼンテーションを実施する。また、現代の情報化社会にあっては、あらゆる場面で ICT が利用され、利活用することが求められる。 ・本科目では、PC の基本操作に慣れるとともに、大学生活やビジネス現場で最も使われているワープロ、表計算、プレゼンテーション等の基本ソフトの「使い方」（操作知識とスキル）の基礎を修得する。また、本学の教学システム、関連した SNS（Social Networking Services）・クラウドサービス・メールサービスの利活用、図書館情報システム・インターネットを使った情報の検索方法、コンピュータ、情報通信ネットワーク、情報モラル・情報セキュリティ（IT パスポート出題内容）についても学修する。		
履修条件・留意点	パソコンを毎回持参すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・本科目の到達目標は、大学 4 年間及び入社時に最低限必要となる ICT（情報通信技術）・情報処理に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1) PC を操作し、本学の教学システム、関連した SNS やクラウドサービスを適切に利用できる。 2) インターネットを使った適切な情報検索（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等を含む）ができる。 3) 情報化社会の特性を踏まえ、情報モラル・情報セキュリティ・個人情報・著作権等について説明できる。 4) キーボードを使って文字入力ができる（5 分間で日本語 300 文字以上）。 5) プレゼンテーションソフト（PowerPoint）を用いて簡易なスライド資料の作成ができる。 6) ワードプロソフト（Word）を用いて簡易な文書作成ができる。 7) 表計算ソフト（Excel）を用いて、情報を分析評価・整理等するために簡易な集計表やグラフの作成ができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答する。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	「情報リテラシー13 講 基礎と実践」 岩田順敬、宮崎裕 学術図書出版 2026	ISBN	978-4-7806-1424-4
参考書	—	ISBN	—
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	最終課題
この科目の受講にあたって	毎回の授業に出席し課題に取り組み、PC、タイピング、ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフト等に関する基本的な操作スキルを身につけることができる。これらスキルの修得には一定の時間と量が必要となる。4年間の大学生活だけでなく卒業後の仕事においても必須のスキルとなるため、集中して取り組むこと。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	1) ガイダンス 2) 本学の情報通信機器及び教学システムの概要や基本操作 ・本学 ICT 環境(1) : Learning Portal、Universal Passport、クラウドサービス (Microsoft/Office365) 等 ・Windows の操作(1) ・情報セキュリティ・パスワード変更 第1～3 回講義 (学内システムの設定など) では授業資料を配布する。	○事前学修 ・全 15 回のシラバスをすべて読んで授業計画を確認して下さい。 ・学内システムのパスワードをどのようにするかについて決めてきてください (パスワードは半角英数字記号を利用します)。 ○事後学修 ・以後、本学の教学システムに毎日ログインし、学内の連絡事項を確認してください。 ・自宅 PC から本学の教学システムにアクセスし授業資料をダウンロードし閲覧してください。	4 時間
第2回	対面	1) 学内システムの基本操作 ・Windows の操作(2) ・本学 ICT 環境(2) : 学修ポートフォリオ、クラウドサービス/SNS Microsoft/Office 365 (Outlook、OneDrive 等)、情報検索と図書館蔵書検索 第1～3 回講義 (学内システムの設定など) では授業資料を配布する。	○事前学修 ・Learning Portal にログインできるようにする。 ○事後学修 ・microsoft365 にログインできるようにする。	4 時間
第3回	対面	1) 学内システムの基本操作 ・本学 ICT 環境(3) : 2) Windows の操作(3)・タイピングの基礎 ・Windows の基本操作 ・日本語入力・タイピングの基礎 ・作成ファイルのアップロード 第1～3 回講義 (学内システムの設定など) では授業資料を配布する。	○事前学修 ・第 4 回目授業開始までに必ずテキストを購入しておくこと。 ○事後学修 ・授業内で指定したタイピング課題を作成し、学内システムを通じて提出すること。	4 時間
第4回	対面	Word を使った文書の作成 (全 3 回) 1 回目 教科書 第 1 講	○事前学修 ・テキストの第 1 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 1 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第5回	対面	Word を使った文書の作成 (全 3 回) 2 回目 教科書 第 2 講	○事前学修 ・テキストの第 2 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 2 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第6回	対面	Word を使った文書の作成 (全 3 回) 3 回目 教科書 第 3 講	○事前学修 ・テキストの第 3 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 3 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第7回	対面	Excel を使った表計算 (全 3 回) 1 回目 教科書 第 4 講	○事前学修 ・テキストの第 4 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 4 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第8回	対面	Excel を使った表計算 (全 3 回) 2 回目 教科書 第 5 講	○事前学修 ・テキストの第 5 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修	4 時間

			・テキストの第5講の操作を復習しておくが良い。	
第9回	対面	Excelを使った表計算（全3回） 3回目 教科書 第6講	○事前学修 ・テキストの第6講を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第6講の操作を復習しておくが良い。	4時間
第10回	対面	PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成（全3回） 1回目 教科書 第7講	○事前学修 ・テキストの第7講を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第7講の操作を復習しておくが良い。	4時間
第11回	対面	PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成（全3回） 2回目 教科書 第8講	○事前学修 ・テキストの第8講を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第8講の操作を復習しておくが良い。	4時間
第12回	対面	PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成（全3回） 3回目 教科書 第9講	○事前学修 ・テキストの第9を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第9の操作を復習しておくが良い。	4時間
第13回	対面	プレゼンテーション実習	○事前学修 ・発表に使うプレゼンテーションファイルを仕上げておくこと	4時間
第14回	対面	1) 設定テーマについてレポート提出 2) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておくこと ○事後学修 ・総合演習課題(3)を完成させ提出しておくこと	4時間
第15回	オンデマンド	プレゼンテーション実習のための資料作成	○事前学修 ・発表に使うプレゼンテーションファイルを作成するための資料を集めておくこと	4時間

科目名	情報処理基礎	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	岩見 真希	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	情報処理と ICT に関する基礎的な知識・スキルを習得し、情報リテラシー（情報活用能力）を養う。		
授業の目的及び概要	・本科目は、情報処理と ICT（情報通信技術）に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得を目的とする。これら能力は、これからの大学生活を送る上で基本となる「汎用的技能」であり、卒業後の仕事でも必須となる「就業力」といえる。例えば、大学では、特定のテーマについて調査し、レポートを作成後、プレゼンテーションを実施する。また、現代の情報化社会にあっては、あらゆる場面で ICT が利用され、利活用することが求められる。 ・本科目では、PC の基本操作に慣れるとともに、大学生活やビジネス現場で最も使われているワープロ、表計算、プレゼンテーション等の基本ソフトの「使い方」（操作知識とスキル）の基礎を修得する。また、本学の教学システム、関連した SNS（Social Networking Services）・クラウドサービス・メールサービスの利活用、図書館情報システム・インターネットを使った情報の検索方法、コンピュータ、情報通信ネットワーク、情報モラル・情報セキュリティ（IT パスポート出題内容）についても学修する。		
履修条件・留意点	パソコンを毎回持参すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・本科目の到達目標は、大学 4 年間及び入社時に最低限必要となる ICT（情報通信技術）・情報処理に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1) PC を操作し、本学の教学システム、関連した SNS やクラウドサービスを適切に利用できる。 2) インターネットを使った適切な情報検索（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等を含む）ができる。 3) 情報化社会の特性を踏まえ、情報モラル・情報セキュリティ・個人情報・著作権等について説明できる。 4) キーボードを使って文字入力ができる（5 分間で日本語 300 文字以上）。 5) プレゼンテーションソフト（PowerPoint）を用いて簡易なスライド資料の作成ができる。 6) ワードプロソフト（Word）を用いて簡易な文書作成ができる。 7) 表計算ソフト（Excel）を用いて、情報を分析評価・整理等するために簡易な集計表やグラフの作成ができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答する。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	「情報リテラシー13 講 基礎と実践」 岩田順敬、宮崎裕 学術図書出版 2026	ISBN	978-4-7806-1424-4
参考書	—	ISBN	—
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	最終課題
この科目の受講にあたって	毎回の授業に出席し課題に取り組み、PC、タイピング、ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフト等に関する基本的な操作スキルを身につけることができる。これらスキルの修得には一定の時間と量が必要となる。4年間の大学生活だけでなく卒業後の仕事においても必須のスキルとなるため、集中して取り組むこと。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	1) ガイダンス 2) 本学の情報通信機器及び教学システムの概要や基本操作 ・本学 ICT 環境(1) : Learning Portal、Universal Passport、クラウドサービス (Microsoft/Office365) 等 ・Windows の操作(1) ・情報セキュリティ・パスワード変更 第1～3 回講義 (学内システムの設定など) では授業資料を配布する。	○事前学修 ・全 15 回のシラバスをすべて読んで授業計画を確認して下さい。 ・学内システムのパスワードをどのようにするかについて決めてきてください (パスワードは半角英数字記号を利用します)。 ○事後学修 ・以後、本学の教学システムに毎日ログインし、学内の連絡事項を確認してください。 ・自宅 PC から本学の教学システムにアクセスし授業資料をダウンロードし閲覧してください。	4 時間
第2回	対面	1) 学内システムの基本操作 ・Windows の操作(2) ・本学 ICT 環境(2) : 学修ポートフォリオ、クラウドサービス/SNS Microsoft/Office 365 (Outlook、OneDrive 等)、情報検索と図書館蔵書検索 第1～3 回講義 (学内システムの設定など) では授業資料を配布する。	○事前学修 ・Learning Portal にログインできるようにする。 ○事後学修 ・microsoft365 にログインできるようにする。	4 時間
第3回	対面	1) 学内システムの基本操作 ・本学 ICT 環境(3) : 2) Windows の操作(3)・タイピングの基礎 ・Windows の基本操作 ・日本語入力・タイピングの基礎 ・作成ファイルのアップロード 第1～3 回講義 (学内システムの設定など) では授業資料を配布する。	○事前学修 ・第 4 回目授業開始までに必ずテキストを購入しておくこと。 ○事後学修 ・授業内で指定したタイピング課題を作成し、学内システムを通じて提出すること。	4 時間
第4回	対面	Word を使った文書の作成 (全 3 回) 1 回目 教科書 第 1 講	○事前学修 ・テキストの第 1 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 1 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第5回	対面	Word を使った文書の作成 (全 3 回) 2 回目 教科書 第 2 講	○事前学修 ・テキストの第 2 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 2 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第6回	対面	Word を使った文書の作成 (全 3 回) 3 回目 教科書 第 3 講	○事前学修 ・テキストの第 3 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 3 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第7回	対面	Excel を使った表計算 (全 3 回) 1 回目 教科書 第 4 講	○事前学修 ・テキストの第 4 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 4 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第8回	対面	Excel を使った表計算 (全 3 回) 2 回目 教科書 第 5 講	○事前学修 ・テキストの第 5 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修	4 時間

			・テキストの第5講の操作を復習しておくが良い。	
第9回	対面	Excelを使った表計算（全3回） 3回目 教科書 第6講	○事前学修 ・テキストの第6講を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第6講の操作を復習しておくが良い。	4時間
第10回	対面	PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成（全3回） 1回目 教科書 第7講	○事前学修 ・テキストの第7講を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第7講の操作を復習しておくが良い。	4時間
第11回	対面	PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成（全3回） 2回目 教科書 第8講	○事前学修 ・テキストの第8講を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第8講の操作を復習しておくが良い。	4時間
第12回	対面	PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成（全3回） 3回目 教科書 第9講	○事前学修 ・テキストの第9を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第9の操作を復習しておくが良い。	4時間
第13回	対面	プレゼンテーション実習	○事前学修 ・発表に使うプレゼンテーションファイルを仕上げておくこと	4時間
第14回	対面	1) 設定テーマについてレポート提出 2) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておくこと ○事後学修 ・総合演習課題(3)を完成させ提出しておくこと	4時間
第15回	オンデマンド	プレゼンテーション実習のための資料作成	○事前学修 ・発表に使うプレゼンテーションファイルを作成するための資料を集めておくこと	4時間

科目名	情報処理基礎	開講年度	2026 年度春学期
担当者	岩見 真希	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	情報処理と ICT に関する基礎的な知識・スキルを習得し、情報リテラシー（情報活用能力）を養う。		
授業の目的及び概要	・本科目は、情報処理と ICT（情報通信技術）に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得を目的とする。これら能力は、これからの大学生活を送る上で基本となる「汎用的技能」であり、卒業後の仕事でも必須となる「就業力」といえる。例えば、大学では、特定のテーマについて調査し、レポートを作成後、プレゼンテーションを実施する。また、現代の情報化社会にあっては、あらゆる場面で ICT が利用され、利活用することが求められる。 ・本科目では、PC の基本操作に慣れるとともに、大学生活やビジネス現場で最も使われているワープロ、表計算、プレゼンテーション等の基本ソフトの「使い方」（操作知識とスキル）の基礎を修得する。また、本学の教学システム、関連した SNS（Social Networking Services）・クラウドサービス・メールサービスの利活用、図書館情報システム・インターネットを使った情報の検索方法、コンピュータ、情報通信ネットワーク、情報モラル・情報セキュリティ（IT パスポート出題内容）についても学修する。		
履修条件・留意点	パソコンを毎回持参すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・本科目の到達目標は、大学 4 年間及び入社時に最低限必要となる ICT（情報通信技術）・情報処理に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1) PC を操作し、本学の教学システム、関連した SNS やクラウドサービスを適切に利用できる。 2) インターネットを使った適切な情報検索（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等を含む）ができる。 3) 情報化社会の特性を踏まえ、情報モラル・情報セキュリティ・個人情報・著作権等について説明できる。 4) キーボードを使って文字入力ができる（5 分間で日本語 300 文字以上）。 5) プレゼンテーションソフト（PowerPoint）を用いて簡易なスライド資料の作成ができる。 6) ワードプロソフト（Word）を用いて簡易な文書作成ができる。 7) 表計算ソフト（Excel）を用いて、情報を分析評価・整理等するために簡易な集計表やグラフの作成ができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答する。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	「情報リテラシー13 講 基礎と実践」 岩田順敬、宮崎裕 学術図書出版 2026	ISBN	978-4-7806-1424-4
参考書	—	ISBN	—
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	最終課題
この科目の受講にあたって	毎回の授業に出席し課題に取り組み、PC、タイピング、ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフト等に関する基本的な操作スキルを身につけることができる。これらスキルの修得には一定の時間と量が必要となる。4年間の大学生活だけでなく卒業後の仕事においても必須のスキルとなるため、集中して取り組むこと。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	1) ガイダンス 2) 本学の情報通信機器及び教学システムの概要や基本操作 ・本学 ICT 環境(1) : Learning Portal、Universal Passport、クラウドサービス (Microsoft/Office365) 等 ・Windows の操作(1) ・情報セキュリティ・パスワード変更 第1～3 回講義 (学内システムの設定など) では授業資料を配布する。	○事前学修 ・全 15 回のシラバスをすべて読んで授業計画を確認して下さい。 ・学内システムのパスワードをどのようにするかについて決めてきてください (パスワードは半角英数字記号を利用します)。 ○事後学修 ・以後、本学の教学システムに毎日ログインし、学内の連絡事項を確認してください。 ・自宅 PC から本学の教学システムにアクセスし授業資料をダウンロードし閲覧してください。	4 時間
第2回	オンデマンド	1) 学内システムの基本操作 ・Windows の操作(2) ・本学 ICT 環境(2) : 学修ポートフォリオ、クラウドサービス/SNS Microsoft/Office 365 (Outlook、OneDrive 等)、情報検索と図書館蔵書検索 第1～3 回講義 (学内システムの設定など) では授業資料を配布する。	○事前学修 ・Learning Portal にログインできるようにする。 ○事後学修 ・microsoft365 にログインできるようにする。	4 時間
第3回	オンデマンド	1) 学内システムの基本操作 ・本学 ICT 環境(3) : 2) Windows の操作(3)・タイピングの基礎 ・Windows の基本操作 ・日本語入力・タイピングの基礎 ・作成ファイルのアップロード 第1～3 回講義 (学内システムの設定など) では授業資料を配布する。	○事前学修 ・第 4 回目授業開始までに必ずテキストを購入しておくこと。 ○事後学修 ・授業内で指定したタイピング課題を作成し、学内システムを通じて提出すること。	4 時間
第4回	オンデマンド	Word を使った文書の作成 (全 3 回) 1 回目 教科書 第 1 講	○事前学修 ・テキストの第 1 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 1 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第5回	オンデマンド	Word を使った文書の作成 (全 3 回) 2 回目 教科書 第 2 講	○事前学修 ・テキストの第 2 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 2 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第6回	オンデマンド	Word を使った文書の作成 (全 3 回) 3 回目 教科書 第 3 講	○事前学修 ・テキストの第 3 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 3 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第7回	オンデマンド	Excel を使った表計算 (全 3 回) 1 回目 教科書 第 4 講	○事前学修 ・テキストの第 4 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 4 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第8回	オンデマンド	Excel を使った表計算 (全 3 回) 2 回目 教科書 第 5 講	○事前学修 ・テキストの第 5 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修	4 時間

			・テキストの第5講の操作を復習しておくが良い。	
第9回	オンデマンド	Excelを使った表計算（全3回） 3回目 教科書 第6講	○事前学修 ・テキストの第6講を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第6講の操作を復習しておくが良い。	4時間
第10回	オンデマンド	PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成（全3回） 1回目 教科書 第7講	○事前学修 ・テキストの第7講を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第7講の操作を復習しておくが良い。	4時間
第11回	オンデマンド	PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成（全3回） 2回目 教科書 第8講	○事前学修 ・テキストの第8講を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第8講の操作を復習しておくが良い。	4時間
第12回	オンデマンド	PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成（全3回） 3回目 教科書 第9講	○事前学修 ・テキストの第9を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第9の操作を復習しておくが良い。	4時間
第13回	オンデマンド	プレゼンテーション実習	○事前学修 ・発表に使うプレゼンテーションファイルを仕上げておくこと	4時間
第14回	オンデマンド	1) 設定テーマについてレポート提出 2) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておくこと ○事後学修 ・総合演習課題(3)を完成させ提出しておくこと	4時間
第15回	オンデマンド	プレゼンテーション実習のための資料作成	○事前学修 ・発表に使うプレゼンテーションファイルを作成するための資料を集めておくこと	4時間

科目名	情報処理基礎	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	岩見 真希	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	情報処理と ICT に関する基礎的な知識・スキルを習得し、情報リテラシー（情報活用能力）を養う。		
授業の目的及び概要	・本科目は、情報処理と ICT（情報通信技術）に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得を目的とする。これら能力は、これからの大学生活を送る上で基本となる「汎用的技能」であり、卒業後の仕事でも必須となる「就業力」といえる。例えば、大学では、特定のテーマについて調査し、レポートを作成後、プレゼンテーションを実施する。また、現代の情報化社会にあっては、あらゆる場面で ICT が利用され、利活用することが求められる。 ・本科目では、PC の基本操作に慣れるとともに、大学生活やビジネス現場で最も使われているワープロ、表計算、プレゼンテーション等の基本ソフトの「使い方」（操作知識とスキル）の基礎を修得する。また、本学の教学システム、関連した SNS（Social Networking Services）・クラウドサービス・メールサービスの利活用、図書館情報システム・インターネットを使った情報の検索方法、コンピュータ、情報通信ネットワーク、情報モラル・情報セキュリティ（IT パスポート出題内容）についても学修する。		
履修条件・留意点	パソコンを毎回持参すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・本科目の到達目標は、大学 4 年間及び入社時に最低限必要となる ICT（情報通信技術）・情報処理に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1) PC を操作し、本学の教学システム、関連した SNS やクラウドサービスを適切に利用できる。 2) インターネットを使った適切な情報検索（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等を含む）ができる。 3) 情報化社会の特性を踏まえ、情報モラル・情報セキュリティ・個人情報・著作権等について説明できる。 4) キーボードを使って文字入力ができる（5 分間で日本語 300 文字以上）。 5) プレゼンテーションソフト（PowerPoint）を用いて簡易なスライド資料の作成ができる。 6) ワードプロソフト（Word）を用いて簡易な文書作成ができる。 7) 表計算ソフト（Excel）を用いて、情報を分析評価・整理等するために簡易な集計表やグラフの作成ができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答する。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	「情報リテラシー13 講 基礎と実践」 岩田順敬、宮崎裕 学術図書出版 2026	ISBN	978-4-7806-1424-4
参考書	—	ISBN	—
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	最終課題
この科目の受講にあたって	毎回の授業に出席し課題に取り組み、PC、タイピング、ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフト等に関する基本的な操作スキルを身につけることができる。これらスキルの修得には一定の時間と量が必要となる。4年間の大学生活だけでなく卒業後の仕事においても必須のスキルとなるため、集中して取り組むこと。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	1) ガイダンス 2) 本学の情報通信機器及び教学システムの概要や基本操作 ・本学 ICT 環境(1) : Learning Portal、Universal Passport、クラウドサービス (Microsoft/Office365) 等 ・Windows の操作(1) ・情報セキュリティ・パスワード変更 第1～3 回講義 (学内システムの設定など) では授業資料を配布する。	○事前学修 ・全 15 回のシラバスをすべて読んで授業計画を確認して下さい。 ・学内システムのパスワードをどのようにするかについて決めてきてください (パスワードは半角英数字記号を利用します)。 ○事後学修 ・以後、本学の教学システムに毎日ログインし、学内の連絡事項を確認してください。 ・自宅 PC から本学の教学システムにアクセスし授業資料をダウンロードし閲覧してください。	4 時間
第2回	オンデマンド	1) 学内システムの基本操作 ・Windows の操作(2) ・本学 ICT 環境(2) : 学修ポートフォリオ、クラウドサービス/SNS Microsoft/Office 365 (Outlook、OneDrive 等)、情報検索と図書館蔵書検索 第1～3 回講義 (学内システムの設定など) では授業資料を配布する。	○事前学修 ・Learning Portal にログインできるようにする。 ○事後学修 ・microsoft365 にログインできるようにする。	4 時間
第3回	オンデマンド	1) 学内システムの基本操作 ・本学 ICT 環境(3) : 2) Windows の操作(3)・タイピングの基礎 ・Windows の基本操作 ・日本語入力・タイピングの基礎 ・作成ファイルのアップロード 第1～3 回講義 (学内システムの設定など) では授業資料を配布する。	○事前学修 ・第 4 回目授業開始までに必ずテキストを購入しておくこと。 ○事後学修 ・授業内で指定したタイピング課題を作成し、学内システムを通じて提出すること。	4 時間
第4回	オンデマンド	Word を使った文書の作成 (全 3 回) 1 回目 教科書 第 1 講	○事前学修 ・テキストの第 1 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 1 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第5回	オンデマンド	Word を使った文書の作成 (全 3 回) 2 回目 教科書 第 2 講	○事前学修 ・テキストの第 2 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 2 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第6回	オンデマンド	Word を使った文書の作成 (全 3 回) 3 回目 教科書 第 3 講	○事前学修 ・テキストの第 3 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 3 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第7回	オンデマンド	Excel を使った表計算 (全 3 回) 1 回目 教科書 第 4 講	○事前学修 ・テキストの第 4 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 4 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第8回	オンデマンド	Excel を使った表計算 (全 3 回) 2 回目 教科書 第 5 講	○事前学修 ・テキストの第 5 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修	4 時間

			・テキストの第5講の操作を復習しておくが良い。	
第9回	オンデマンド	Excelを使った表計算（全3回） 3回目 教科書 第6講	○事前学修 ・テキストの第6講を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第6講の操作を復習しておくが良い。	4時間
第10回	オンデマンド	PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成（全3回） 1回目 教科書 第7講	○事前学修 ・テキストの第7講を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第7講の操作を復習しておくが良い。	4時間
第11回	オンデマンド	PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成（全3回） 2回目 教科書 第8講	○事前学修 ・テキストの第8講を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第8講の操作を復習しておくが良い。	4時間
第12回	オンデマンド	PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成（全3回） 3回目 教科書 第9講	○事前学修 ・テキストの第9を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第9の操作を復習しておくが良い。	4時間
第13回	オンデマンド	プレゼンテーション実習	○事前学修 ・発表に使うプレゼンテーションファイルを仕上げておくこと	4時間
第14回	オンデマンド	1) 設定テーマについてレポート提出 2) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておくこと ○事後学修 ・総合演習課題(3)を完成させ提出しておくこと	4時間
第15回	オンデマンド	プレゼンテーション実習のための資料作成	○事前学修 ・発表に使うプレゼンテーションファイルを作成するための資料を集めておくこと	4時間

科目名	データサイエンス基礎	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	岩田 順敬	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」のモデルカリキュラムに準拠し、表計算ソフトを用いたデータ処理や統計解析の基礎を学修する。		
授業の目的及び概要	・本科目は、学生の数理・データサイエンス・AI への関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AI を適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成することを目的とします。 ・数理・データサイエンス・AI に関するリテラシーは、Society 5.0 の実現や SDGs を達成する上で必要となる「汎用的技能」であり、また、卒業後の仕事でも必要となる「就業力」といえます。 ・データや AI に関する法的性質を知り、現代ビジネスの諸課題に取り組み、社会で活躍できる力を育成する上でも数理・データサイエンス・AI に関する基礎的知識やスキルは必須の能力と言えます。 ・本科目では、このような数理・データサイエンス・AI に関する能力の修得に向けて、各オフィスソフトを操作しながら課題に取り組みます。また、社会における実課題や実データを活用する実践的な学修のため、企業等から提供される実課題や実データを活用します。 ・また、情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（IT パスポート出題内容）についても学修します。 ・本科目は「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム」に準拠しています。		
履修条件・留意点	パソコンを毎回持参すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は、数理・データサイエンス・AI に関する能力の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1) 社会で起きている変化、社会で活用されているデータ、データ・AI の活用領域、データ・AI 利活用の現場、データ・AI 利活用の最新動向について説明できる。 2) データを読み、説明し、扱うことができる。 3) データ・AI を扱う上での留意事項及びデータを守る上での留意事項、情報倫理・情報セキュリティなど情報の取扱いに係る法規・倫理について説明できる。 4) 企業等から提供される実データを活用して、実データを処理・分析し実課題の解決に資する報告資料を作成できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答する。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	改訂新版 AI データサイエンスリテラシー入門, 吉岡剛志, 技術評論社, 2024 年	ISBN	9784297144098
参考書	—	ISBN	—
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	最終課題
この科目の受講にあたって	・毎回の授業に出席し、課題に取り組み、 「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）」 に関する知識や技能を身につける事が可能です。 ・欠席した場合は LearningPortal を確認し、課題がある場合は提出しておきましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	・ガイダンス 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化 ・情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（※以降、ELSI&S: Ethical, Legal and Social Issues & Security と略記を用いる） ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化を復習しておきましょう。	4 時間
第2回	対面	ELSI&S テスト 第1章 1-2 社会で活用されているデータ①、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作 ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第1章 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作を復習してください。	4 時間
第3回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ②、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第4回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第5回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術①、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・デ	ELSI&S テスト ○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修	4 時間

		ータを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第6回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術②、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法① モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第7回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場①、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法② モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第8回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場②、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図① モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第9回	対面	ELSI&S テスト 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図② モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第10回	対面	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1①、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成 モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成を事前に読んでください。 ○事後学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第11回	対面	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI 利活用における留意	○事前学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、	4 時間

		事項 3-1②、第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出 モデルカリキュラムとの対応(追加資料含む): 社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AIの活用領域	第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出を事前に読んでください。 ○事後学修 第3章 データ・AI利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第12回	対面	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計 ・モデルカリキュラムとの対応(追加資料含む): 社会で起きている変化、データ・AI利活用の現場、データ・AIの活用領域・データ・AIを扱う上での留意事項	○事前学修 第3章 データ・AI利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第3章 データ・AI利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計を復習しておきましょう。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4時間
第13回	対面	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(1)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させてください。	4時間
第14回	対面	総合演習(最終課題)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させてください。	4時間
第15回	オンデマンド	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(2)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させ提出してください。	4時間

科目名	データサイエンス基礎	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	森下 浩平	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」のモデルカリキュラムに準拠し、表計算ソフトを用いたデータ処理や統計解析の基礎を学修する。		
授業の目的及び概要	・本科目は、学生の数理・データサイエンス・AI への関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AI を適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成することを目的とします。 ・数理・データサイエンス・AI に関するリテラシーは、Society 5.0 の実現や SDGs を達成する上で必要となる「汎用的技能」であり、また、卒業後の仕事でも必要となる「就業力」といえます。 ・データや AI に関する法的性質を知り、現代ビジネスの諸課題に取り組み、社会で活躍できる力を育成する上でも数理・データサイエンス・AI に関する基礎的知識やスキルは必須の能力と言えます。 ・本科目では、このような数理・データサイエンス・AI に関する能力の修得に向けて、各オフィスソフトを操作しながら課題に取り組みます。また、社会における実課題や実データを活用する実践的な学修のため、企業等から提供される実課題や実データを活用します。 ・また、情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（IT パスポート出題内容）についても学修します。 ・本科目は「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム」に準拠しています。		
履修条件・留意点	パソコンを毎回持参すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は、数理・データサイエンス・AI に関する能力の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1) 社会で起きている変化、社会で活用されているデータ、データ・AI の活用領域、データ・AI 利活用の現場、データ・AI 利活用の最新動向について説明できる。 2) データを読み、説明し、扱うことができる。 3) データ・AI を扱う上での留意事項及びデータを守る上での留意事項、情報倫理・情報セキュリティなど情報の取扱いに係る法規・倫理について説明できる。 4) 企業等から提供される実データを活用して、実データを処理・分析し実課題の解決に資する報告資料を作成できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答する。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	改訂新版 AI データサイエンスリテラシー入門, 吉岡剛志, 技術評論社, 2024 年	ISBN	9784297144098
参考書	—	ISBN	—
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	30
	その他の内容	最終課題
この科目の受講にあたって	・毎回の授業に出席し、課題に取り組み、 「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）」 に関する知識や技能を身につける事が可能です。 ・欠席した場合は LearningPortal を確認し、課題がある場合は提出しておきましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	・ガイダンス 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化 ・情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（※以降、ELSI&S: Ethical, Legal and Social Issues & Security と略記を用いる） ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化を復習しておきましょう。	4 時間
第2回	対面	ELSI&S テスト 第1章 1-2 社会で活用されているデータ①、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作 ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第1章 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作を復習してください。	4 時間
第3回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ②、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第4回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第5回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術①、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・デ	ELSI&S テスト ○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修	4 時間

		ータを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第6回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術②、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法① モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第7回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場①、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法② モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第8回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場②、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図① モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第9回	対面	ELSI&S テスト 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図② モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第10回	対面	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1①、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成 モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成を事前に読んでください。 ○事後学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第11回	対面	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI 利活用における留意	○事前学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、	4 時間

		事項 3-1②、第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出 モデルカリキュラムとの対応(追加資料含む): 社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AIの活用領域	第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出を事前に読んでください。 ○事後学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第12回	対面	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計 ・モデルカリキュラムとの対応(追加資料含む): 社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計を復習しておきましょう。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第13回	対面	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(1)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第14回	対面	総合演習(最終課題)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第15回	オンデマンド	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(2)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間

科目名	データサイエンス基礎	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	岩田 順敬	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」のモデルカリキュラムに準拠し、表計算ソフトを用いたデータ処理や統計解析の基礎を学修する。		
授業の目的及び概要	・本科目は、学生の数理・データサイエンス・AI への関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AI を適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成することを目的とします。 ・数理・データサイエンス・AI に関するリテラシーは、Society 5.0 の実現や SDGs を達成する上で必要となる「汎用的技能」であり、また、卒業後の仕事でも必要となる「就業力」といえます。 ・データや AI に関する法的性質を知り、現代ビジネスの諸課題に取り組み、社会で活躍できる力を育成する上でも数理・データサイエンス・AI に関する基礎的知識やスキルは必須の能力と言えます。 ・本科目では、このような数理・データサイエンス・AI に関する能力の修得に向けて、各オフィスソフトを操作しながら課題に取り組みます。また、社会における実課題や実データを活用する実践的な学修のため、企業等から提供される実課題や実データを活用します。 ・また、情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（IT パスポート出題内容）についても学修します。 ・本科目は「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム」に準拠しています。		
履修条件・留意点	パソコンを毎回持参すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は、数理・データサイエンス・AI に関する能力の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1) 社会で起きている変化、社会で活用されているデータ、データ・AI の活用領域、データ・AI 利活用の現場、データ・AI 利活用の最新動向について説明できる。 2) データを読み、説明し、扱うことができる。 3) データ・AI を扱う上での留意事項及びデータを守る上での留意事項、情報倫理・情報セキュリティなど情報の取扱いに係る法規・倫理について説明できる。 4) 企業等から提供される実データを活用して、実データを処理・分析し実課題の解決に資する報告資料を作成できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答する。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	改訂新版 AI データサイエンスリテラシー入門, 吉岡剛志, 技術評論社, 2024 年	ISBN	9784297144098
参考書	—	ISBN	—
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	最終課題
この科目の受講にあたって	・毎回の授業に出席し、課題に取り組み、 「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）」 に関する知識や技能を身につける事が可能です。 ・欠席した場合は LearningPortal を確認し、課題がある場合は提出しておきましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	・ガイダンス 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化 ・情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（※以降、ELSI&S: Ethical, Legal and Social Issues & Security と略記を用いる） ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化を復習しておきましょう。	4 時間
第2回	対面	ELSI&S テスト 第1章 1-2 社会で活用されているデータ①、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作 ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第1章 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作を復習してください。	4 時間
第3回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ②、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第4回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第5回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術①、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・デ	ELSI&S テスト ○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修	4 時間

		ータを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第6回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術②、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法① モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第7回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場①、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法② モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第8回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場②、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図① モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第9回	対面	ELSI&S テスト 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図② モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第10回	対面	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1①、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成 モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成を事前に読んでください。 ○事後学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第11回	対面	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI 利活用における留意	○事前学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、	4 時間

		事項 3-1②、第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出 モデルカリキュラムとの対応(追加資料含む): 社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AIの活用領域	第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出を事前に読んでください。 ○事後学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第12回	対面	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計 ・モデルカリキュラムとの対応(追加資料含む): 社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計を復習しておきましょう。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第13回	対面	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(1)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第14回	対面	総合演習(最終課題)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第15回	オンデマンド	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(2)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間

科目名	データサイエンス基礎	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	宮崎 裕	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」のモデルカリキュラムに準拠し、表計算ソフトを用いたデータ処理や統計解析の基礎を学修する。		
授業の目的及び概要	・本科目は、学生の数理・データサイエンス・AI への関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AI を適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成することを目的とします。 ・数理・データサイエンス・AI に関するリテラシーは、Society 5.0 の実現や SDGs を達成する上で必要となる「汎用的技能」であり、また、卒業後の仕事でも必要となる「就業力」といえます。 ・データや AI に関する法的性質を知り、現代ビジネスの諸課題に取り組み、社会で活躍できる力を育成する上でも数理・データサイエンス・AI に関する基礎的知識やスキルは必須の能力と言えます。 ・本科目では、このような数理・データサイエンス・AI に関する能力の修得に向けて、各オフィスソフトを操作しながら課題に取り組みます。また、社会における実課題や実データを活用する実践的な学修のため、企業等から提供される実課題や実データを活用します。 ・また、情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（IT パスポート出題内容）についても学修します。 ・本科目は「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム」に準拠しています。		
履修条件・留意点	パソコンを毎回持参すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は、数理・データサイエンス・AI に関する能力の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1) 社会で起きている変化、社会で活用されているデータ、データ・AI の活用領域、データ・AI 利活用の現場、データ・AI 利活用の最新動向について説明できる。 2) データを読み、説明し、扱うことができる。 3) データ・AI を扱う上での留意事項及びデータを守る上での留意事項、情報倫理・情報セキュリティなど情報の取扱いに係る法規・倫理について説明できる。 4) 企業等から提供される実データを活用して、実データを処理・分析し実課題の解決に資する報告資料を作成できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答する。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	改訂新版 AI データサイエンスリテラシー入門, 吉岡剛志, 技術評論社, 2024 年	ISBN	9784297144098
参考書	—	ISBN	—
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	最終課題
この科目の受講にあたって	・毎回の授業に出席し、課題に取り組み、 「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）」 に関する知識や技能を身につける事が可能です。 ・欠席した場合は LearningPortal を確認し、課題がある場合は提出しておきましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	・ガイダンス 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化 ・情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（※以降、ELSI&S: Ethical, Legal and Social Issues & Security と略記を用いる） ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化を復習しておきましょう。	4 時間
第2回	対面	ELSI&S テスト 第1章 1-2 社会で活用されているデータ①、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作 ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第1章 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作を復習してください。	4 時間
第3回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ②、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第4回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第5回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術①、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・デ	ELSI&S テスト ○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修	4 時間

		ータを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第6回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術②、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法① モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第7回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場①、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法② モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第8回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場②、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図① モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第9回	対面	ELSI&S テスト 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図② モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第10回	対面	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1①、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成 モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成を事前に読んでください。 ○事後学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第11回	対面	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI 利活用における留意	○事前学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、	4 時間

		事項 3-1②、第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出 モデルカリキュラムとの対応(追加資料含む): 社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AIの活用領域	第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出を事前に読んでください。 ○事後学修 第3章 データ・AI利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第12回	対面	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計 ・モデルカリキュラムとの対応(追加資料含む): 社会で起きている変化、データ・AI利活用の現場、データ・AIの活用領域・データ・AIを扱う上での留意事項	○事前学修 第3章 データ・AI利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第3章 データ・AI利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計を復習しておきましょう。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4時間
第13回	対面	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(1)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させてください。	4時間
第14回	対面	総合演習(最終課題)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させてください。	4時間
第15回	オンデマンド	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(2)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4時間

科目名	データサイエンス基礎	開講年度	2026 年度春学期
担当者	宮崎 裕	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」のモデルカリキュラムに準拠し、表計算ソフトを用いたデータ処理や統計解析の基礎を学修する。		
授業の目的及び概要	・本科目は、学生の数理・データサイエンス・AI への関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AI を適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成することを目的とします。 ・数理・データサイエンス・AI に関するリテラシーは、Society 5.0 の実現や SDGs を達成する上で必要となる「汎用的技能」であり、また、卒業後の仕事でも必要となる「就業力」といえます。 ・データや AI に関する法的性質を知り、現代ビジネスの諸課題に取り組み、社会で活躍できる力を育成する上でも数理・データサイエンス・AI に関する基礎的知識やスキルは必須の能力と言えます。 ・本科目では、このような数理・データサイエンス・AI に関する能力の修得に向けて、各オフィスソフトを操作しながら課題に取り組みます。また、社会における実課題や実データを活用する実践的な学修のため、企業等から提供される実課題や実データを活用します。 ・また、情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（IT パスポート出題内容）についても学修します。 ・本科目は「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム」に準拠しています。		
履修条件・留意点	パソコンを毎回持参すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は、数理・データサイエンス・AI に関する能力の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1) 社会で起きている変化、社会で活用されているデータ、データ・AI の活用領域、データ・AI 利活用の現場、データ・AI 利活用の最新動向について説明できる。 2) データを読み、説明し、扱うことができる。 3) データ・AI を扱う上での留意事項及びデータを守る上での留意事項、情報倫理・情報セキュリティなど情報の取扱いに係る法規・倫理について説明できる。 4) 企業等から提供される実データを活用して、実データを処理・分析し実課題の解決に資する報告資料を作成できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答する。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	改訂新版 AI データサイエンスリテラシー入門, 吉岡剛志, 技術評論社, 2024 年	ISBN	9784297144098
参考書	—	ISBN	—
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	最終課題
この科目の受講にあたって	・毎回の授業に出席し、課題に取り組み、 「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）」 に関する知識や技能を身につける事が可能です。 ・欠席した場合は LearningPortal を確認し、課題がある場合は提出しておきましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	・ガイダンス 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化 ・情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（※以降、ELSI&S: Ethical, Legal and Social Issues & Security と略記を用いる） ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化を復習しておきましょう。	4 時間
第2回	対面	ELSI&S テスト 第1章 1-2 社会で活用されているデータ①、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作 ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第1章 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作を復習してください。	4 時間
第3回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ②、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第4回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第5回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術①、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・デ	ELSI&S テスト ○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修	4 時間

		ータを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第6回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術②、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法① モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第7回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場①、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法② モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第8回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場②、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図① モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第9回	対面	ELSI&S テスト 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図② モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第10回	対面	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1①、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成 モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成を事前に読んでください。 ○事後学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第11回	対面	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI 利活用における留意	○事前学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、	4 時間

		事項 3-1②、第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出 モデルカリキュラムとの対応(追加資料含む): 社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AIの活用領域	第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出を事前に読んでください。 ○事後学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第12回	対面	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計 ・モデルカリキュラムとの対応(追加資料含む): 社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計を復習しておきましょう。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第13回	対面	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(1)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第14回	対面	総合演習(最終課題)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第15回	オンデマンド	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(2)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間

科目名	データサイエンス基礎	開講年度	2026 年度春学期
担当者	岩見 真希	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」のモデルカリキュラムに準拠し、表計算ソフトを用いたデータ処理や統計解析の基礎を学修する。		
授業の目的及び概要	・本科目は、学生の数理・データサイエンス・AI への関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AI を適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成することを目的とします。 ・数理・データサイエンス・AI に関するリテラシーは、Society 5.0 の実現や SDGs を達成する上で必要となる「汎用的技能」であり、また、卒業後の仕事でも必要となる「就業力」といえます。 ・データや AI に関する法的性質を知り、現代ビジネスの諸課題に取り組み、社会で活躍できる力を育成する上でも数理・データサイエンス・AI に関する基礎的知識やスキルは必須の能力と言えます。 ・本科目では、このような数理・データサイエンス・AI に関する能力の修得に向けて、各オフィスソフトを操作しながら課題に取り組みます。また、社会における実課題や実データを活用する実践的な学修のため、企業等から提供される実課題や実データを活用します。 ・また、情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（IT パスポート出題内容）についても学修します。 ・本科目は「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム」に準拠しています。		
履修条件・留意点	パソコンを毎回持参すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は、数理・データサイエンス・AI に関する能力の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1) 社会で起きている変化、社会で活用されているデータ、データ・AI の活用領域、データ・AI 利活用の現場、データ・AI 利活用の最新動向について説明できる。 2) データを読み、説明し、扱うことができる。 3) データ・AI を扱う上での留意事項及びデータを守る上での留意事項、情報倫理・情報セキュリティなど情報の取扱いに係る法規・倫理について説明できる。 4) 企業等から提供される実データを活用して、実データを処理・分析し実課題の解決に資する報告資料を作成できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答する。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	改訂新版 AI データサイエンスリテラシー入門, 吉岡剛志, 技術評論社, 2024 年	ISBN	9784297144098
参考書	—	ISBN	—
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	最終課題
この科目の受講にあたって	・毎回の授業に出席し、課題に取り組み、 「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）」 に関する知識や技能を身につける事が可能です。 ・欠席した場合は LearningPortal を確認し、課題がある場合は提出しておきましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	・ガイダンス 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化 ・情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（※以降、ELSI&S: Ethical, Legal and Social Issues & Security と略記を用いる） ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化を復習しておきましょう。	4 時間
第2回	対面	ELSI&S テスト 第1章 1-2 社会で活用されているデータ①、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作 ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第1章 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作を復習してください。	4 時間
第3回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ②、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第4回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第5回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術①、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・デ	ELSI&S テスト ○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修	4 時間

		ータを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第6回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術②、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法① モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第7回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場①、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法② モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第8回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場②、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図① モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第9回	対面	ELSI&S テスト 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図② モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第10回	対面	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1①、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成 モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成を事前に読んでください。 ○事後学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第11回	対面	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI 利活用における留意	○事前学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、	4 時間

		事項 3-1②、第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出 モデルカリキュラムとの対応(追加資料含む): 社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出を事前に読んでください。 ○事後学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第12回	対面	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計 ・モデルカリキュラムとの対応(追加資料含む): 社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計を復習しておきましょう。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第13回	対面	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(1)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第14回	対面	総合演習(最終課題)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第15回	オンデマンド	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(2)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間

科目名	データサイエンス基礎	開講年度	2026 年度春学期
担当者	岩見 真希	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」のモデルカリキュラムに準拠し、表計算ソフトを用いたデータ処理や統計解析の基礎を学修する。		
授業の目的及び概要	・本科目は、学生の数理・データサイエンス・AI への関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AI を適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成することを目的とします。 ・数理・データサイエンス・AI に関するリテラシーは、Society 5.0 の実現や SDGs を達成する上で必要となる「汎用的技能」であり、また、卒業後の仕事でも必要となる「就業力」といえます。 ・データや AI に関する法的性質を知り、現代ビジネスの諸課題に取り組み、社会で活躍できる力を育成する上でも数理・データサイエンス・AI に関する基礎的知識やスキルは必須の能力と言えます。 ・本科目では、このような数理・データサイエンス・AI に関する能力の修得に向けて、各オフィスソフトを操作しながら課題に取り組みます。また、社会における実課題や実データを活用する実践的な学修のため、企業等から提供される実課題や実データを活用します。 ・また、情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（IT パスポート出題内容）についても学修します。 ・本科目は「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム」に準拠しています。		
履修条件・留意点	パソコンを毎回持参すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は、数理・データサイエンス・AI に関する能力の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1) 社会で起きている変化、社会で活用されているデータ、データ・AI の活用領域、データ・AI 利活用の現場、データ・AI 利活用の最新動向について説明できる。 2) データを読み、説明し、扱うことができる。 3) データ・AI を扱う上での留意事項及びデータを守る上での留意事項、情報倫理・情報セキュリティなど情報の取扱いに係る法規・倫理について説明できる。 4) 企業等から提供される実データを活用して、実データを処理・分析し実課題の解決に資する報告資料を作成できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答する。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	改訂新版 AI データサイエンスリテラシー入門, 吉岡剛志, 技術評論社, 2024 年	ISBN	9784297144098
参考書	—	ISBN	—
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	最終課題
この科目の受講にあたって	・毎回の授業に出席し、課題に取り組み、 「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）」 に関する知識や技能を身につける事が可能です。 ・欠席した場合は LearningPortal を確認し、課題がある場合は提出しておきましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	・ガイダンス 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化 ・情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（※以降、ELSI&S: Ethical, Legal and Social Issues & Security と略記を用いる） ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化を復習しておきましょう。	4 時間
第2回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第1章 1-2 社会で活用されているデータ①、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作 ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第1章 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作を復習してください。	4 時間
第3回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ②、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第4回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第5回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術①、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・デ	ELSI&S テスト ○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修	4 時間

		ータを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第6回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術②、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法① モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第7回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場①、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法② モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第8回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場②、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図① モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第9回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図② モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第10回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1①、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成 モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成を事前に読んでください。 ○事後学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第11回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI 利活用における留意	○事前学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、	4 時間

		事項 3-1②、第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出 モデルカリキュラムとの対応(追加資料含む): 社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出を事前に読んでください。 ○事後学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第12回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計 ・モデルカリキュラムとの対応(追加資料含む): 社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計を復習しておきましょう。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第13回	オンデマンド	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(1)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第14回	オンデマンド	総合演習(最終課題)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第15回	オンデマンド	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(2)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間

科目名	データサイエンス基礎	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	岩見 真希	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」のモデルカリキュラムに準拠し、表計算ソフトを用いたデータ処理や統計解析の基礎を学修する。		
授業の目的及び概要	・本科目は、学生の数理・データサイエンス・AI への関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AI を適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成することを目的とします。 ・数理・データサイエンス・AI に関するリテラシーは、Society 5.0 の実現や SDGs を達成する上で必要となる「汎用的技能」であり、また、卒業後の仕事でも必要となる「就業力」といえます。 ・データや AI に関する法的性質を知り、現代ビジネスの諸課題に取り組み、社会で活躍できる力を育成する上でも数理・データサイエンス・AI に関する基礎的知識やスキルは必須の能力と言えます。 ・本科目では、このような数理・データサイエンス・AI に関する能力の修得に向けて、各オフィスソフトを操作しながら課題に取り組みます。また、社会における実課題や実データを活用する実践的な学修のため、企業等から提供される実課題や実データを活用します。 ・また、情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（IT パスポート出題内容）についても学修します。 ・本科目は「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム」に準拠しています。		
履修条件・留意点	パソコンを毎回持参すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は、数理・データサイエンス・AI に関する能力の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1) 社会で起きている変化、社会で活用されているデータ、データ・AI の活用領域、データ・AI 利活用の現場、データ・AI 利活用の最新動向について説明できる。 2) データを読み、説明し、扱うことができる。 3) データ・AI を扱う上での留意事項及びデータを守る上での留意事項、情報倫理・情報セキュリティなど情報の取扱いに係る法規・倫理について説明できる。 4) 企業等から提供される実データを活用して、実データを処理・分析し実課題の解決に資する報告資料を作成できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答する。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	改訂新版 AI データサイエンスリテラシー入門, 吉岡剛志, 技術評論社, 2024 年	ISBN	9784297144098
参考書	—	ISBN	—
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	最終課題
この科目の受講にあたって	・毎回の授業に出席し、課題に取り組み、 「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）」 に関する知識や技能を身につける事が可能です。 ・欠席した場合は LearningPortal を確認し、課題がある場合は提出しておきましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	・ガイダンス 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化 ・情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（※以降、ELSI&S: Ethical, Legal and Social Issues & Security と略記を用いる） ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化を復習しておきましょう。	4 時間
第2回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第1章 1-2 社会で活用されているデータ①、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作 ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第1章 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作を復習してください。	4 時間
第3回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ②、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第4回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第5回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術①、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・デ	ELSI&S テスト ○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修	4 時間

		ータを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第6回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術②、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法① モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第7回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場①、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法② モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第8回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場②、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図① モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第9回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図② モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第10回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1①、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成 モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成を事前に読んでください。 ○事後学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第11回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI 利活用における留意	○事前学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、	4 時間

		事項 3-1②、第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出 モデルカリキュラムとの対応(追加資料含む): 社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AIの活用領域	第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出を事前に読んでください。 ○事後学修 第3章 データ・AI利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第12回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計 ・モデルカリキュラムとの対応(追加資料含む): 社会で起きている変化、データ・AI利活用の現場、データ・AIの活用領域・データ・AIを扱う上での留意事項	○事前学修 第3章 データ・AI利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第3章 データ・AI利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計を復習しておきましょう。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4時間
第13回	オンデマンド	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(1)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させてください。	4時間
第14回	オンデマンド	総合演習(最終課題)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させてください。	4時間
第15回	オンデマンド	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(2)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4時間

科目名	ミクロ経済学Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	二替 大輔	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	部分均衡理論の基礎		
授業の目的及び概要	本講義では、経済学の基本的な考え方を扱ったミクロ経済学を学んでいきます。ミクロ経済学Ⅰでは、消費者や生産者の経済活動を対象とし、どのような資源配分が実現するかを分析します。講義では、グラフや簡単な数式を用いて、市場の動きについて理解できることを目指します。本講義で得ることができる知識・思考法は、社会に出てからも役立つ「実学としての経済学」のひとつであると言えます。また、今後の応用科目でも活用できるミクロ経済学の基礎を修得することを目的とします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目では以下の到達目標を設定します。 1. 部分均衡理論と関連するミクロ経済学の基本的な考え方を理解する。 2. グラフや式を用いた経済学的な説明を理解することができる。 3. 計算を伴う関連する練習問題を解くことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内で実施する問題演習や中間試験に対して、授業内で時間を設けてフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。 配布資料を用いて授業を行います。	ISBN	なし
参考書	①ミクロ経済学第3版、伊藤元重、日本評論社、2018年（図書館の電子ブックで閲覧することもできます。） ②ミクロ経済学の力、神取道宏、日本評論社、2014年 ③ベーシックプラス ミクロ経済学の基礎、小川光・家森信善、中央経済社、2016年	ISBN	①9784535558441 ②9784535557567 ③9784502179518
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	講義で理解できないことがあれば質問をしてください。 また、新聞の経済欄を見て、現実経済の動向に関心を持ってください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	【予習】シラバスおよび学修計画の確認をしてください。	4 時間

			【復習】授業資料・内容の復習をしてください。	
第2回	対面	需要の理論（需要曲線）	【予習】「需要の理論（需要曲線）」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「需要の理論（需要曲線）」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	3 時間
第3回	対面	消費者行動の理論（消費者余剰）	【予習】「消費者行動の理論（消費者余剰）」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「消費者行動の理論（消費者余剰）」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第4回	対面	供給の理論（供給曲線）	【予習】「供給の理論（供給曲線）」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「供給の理論（供給曲線）」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第5回	対面	生産費用と供給曲線	【予習】「生産費用と供給曲線」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「生産費用と供給曲線」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第6回	対面	生産者行動の理論（生産者余剰）	【予習】「生産者行動の理論（生産者余剰）」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「生産者行動の理論（生産者余剰）」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第7回	対面	弾力性（需要の価格弾力性）	【予習】「弾力性（需要の価格弾力性）」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「弾力性（需要の価格弾力性）」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第8回	対面	中間試験とこれまでの復習	【予習】中間試験に向けての復習をしてください。 【復習】中間試験の振り返りをしてください。	6 時間
第9回	対面	中間試験の解説と復習	【予習】参考書の該当箇所の再確認をしてください 【復習】中間テスト問題の解きなおしをしてください。	4 時間
第10回	対面	市場の理論	【予習】「市場の理論」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「市場の理論」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第11回	対面	完全競争均衡と余剰分析	【予習】「完全競争均衡と余剰分析」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「完全競争均衡と余剰分析論」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第12回	対面	需要と供給による経済問題の分析	【予習】「需要と供給による経済問題の分析」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「需要と供給による経済問題の分析」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第13回	対面	余剰分析の応用例	【予習】「余剰分析の応用例」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「余剰分析の応用例」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第14回	対面	授業内容の総復習	【復習】授業資料・内容の復習をしてください。	4 時間
第15回	オンデマンド	試験に向けた総復習	【予習】配布資料を読んで理解できなかったところをまとめておいてください。	6 時間

2026/05/01

			【復習】授業で配布した資料を使って，講義内容を復習をしてください。	

科目名	ミクロ経済学 I	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	篠田 太郎	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	部分均衡理論の基礎		
授業の目的及び概要	ミクロ経済学は経済理論の基盤として重要な、近代経済学の基礎理論です。必修科目である本科目で学修する理論は、ゲーム理論や行動経済学などのミクロ経済理論を学ぶ基盤であるとともに、産業組織論や国際経済学、労働経済学、都市経済学などの応用分野に直結し、企業の行動や国際的な現象など、全てのコースに関連して幅広く社会について考えるための土台となります。 本科目では、商品を購入して使用する消費者の行動と、商品を生産して販売する企業の行動、そして両者が商品をやり取りする市場のメカニズムを中心に解説します。経済・市場を理解するためにミクロ経済学の学修は必要不可欠であり、本科目で得ることができる知識・思考法は、社会に出てからも役立つ経済学であると言えます。 たとえば、社会における様々な出来事が需要と供給にどのような影響を与え、その結果として市場全体では何が起こるのか、社会全体として状況が改善されるのか、などを理解することができれば、ニュースから今後の状況を推理することができるようになります。 よって本科目では、以上のような人生において役立つ思考法を獲得し、今後の応用科目でも活用できるミクロ経済学の基礎を修得することを目的とします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目では以下の到達目標を設定します。 1. 部分均衡理論と関連するミクロ経済学の諸理論の概要を理解できる 2. グラフや式を用いた経済学的な説明を理解することができる 3. 計算を伴う関連する練習問題を解くことができる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	適宜実施する練習問題やコメントシート等に対して、授業冒頭等の時間を活用してフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しません。 配付する資料に基づき授業を進めます。	ISBN	なし
参考書	①ミクロ経済学第 3 版、伊藤元重、日本評論社、2018 年（図書館の電子ブックで閲覧することもできます。） ②ミクロ経済学の力、神取道宏、日本評論社、2014 年	ISBN	①9784535558441 ②9784535557567
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講に	ミクロ経済学は数理的に体系化された理論であるため、数学的な要素が授業に登場することは		

あたって	避けられません。しかし、数学が苦手な学生でも授業内容が理解できるよう、必要な数学については授業内で復習を行います。 また、ミクロ経済学は消費者としての自分自身や身近な企業も分析の対象としています。よって、一見すると現実離れしているように感じる理論も、具体例を考えてみると日常で直面している現象を論理的に説明しているだけであることに気付くことができると思います。単に用語や計算を暗記するのではなく、具体例を考えることで理論を真に理解することができれば、今後の学修にも大いに役立つ力を得ることができるでしょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス、ミクロ経済学に必要な数学入門	・シラバスおよび学修計画の確認 ・参考書①（pp. 1-18）等の確認	4時間
第2回	対面	需要曲線・供給曲線の概要	・授業資料・内容の復習 ・参考書①（pp. 19-28）等の確認 ・参考書①（pp. 29-43）等の確認 ・参考書①p. 43 演習問題の確認	4時間
第3回	対面	需要曲線と弾力性	・授業資料・内容の復習 ・参考書①（pp. 44-53）等の確認	4時間
第4回	対面	需要曲線のシフト要因と消費者余剰	・授業資料・内容の復習 ・参考書①（pp. 54-81）等の確認	4時間
第5回	対面	供給曲線と費用	・授業資料・内容の復習 ・参考書①（pp. 83-89）等の確認	4時間
第6回	対面	利潤最大化と生産者余剰	・授業資料・内容の復習 ・参考書①（pp. 90-100）等の確認 ・参考書①（pp. 100-110）等の確認	4時間
第7回	対面	均衡への調整過程、中間試験に向けた復習	・授業資料・内容の復習	4時間
第8回	対面	中間試験	・中間テスト問題の振り返り・解きなおし	4時間
第9回	対面	中間試験の解説・振り返り	・授業資料・内容の復習 ・消費者・生産者理論の復習	4時間
第10回	対面	完全競争均衡と余剰分析	・授業資料・内容の復習 ・テキスト（pp. 122-128）または参考書でこれに準じる箇所の確認 ・消費者・生産者理論の復習	4時間
第11回	対面	課税と補助金の効果	・授業資料・内容の復習	4時間
第12回	対面	外部性を考慮した余剰分析	・授業資料・内容の復習	4時間
第13回	対面	ミクロ経済学の展開	・授業資料・内容の復習	4時間
第14回	対面	振り返りと総復習	・授業資料を活用して試験対策を十全に行ってください。 ・授業内容全体を振り返り、経済学の学びの中で本科目の内容がどのような位置付けであるか再確認してください。	4時間
第15回	オンデマンド	試験対策のポイント	・授業資料を活用して試験対策を十全に行ってください。	4時間

科目名	ミクロ経済学 I	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	藤田 峻	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	部分均衡理論の基礎		
授業の目的及び概要	ミクロ経済学は経済理論の基盤として重要な、近代経済学の基礎理論です。必修科目である本科目で学修する理論は、ゲーム理論や行動経済学などのミクロ経済理論を学ぶ基盤であるとともに、産業組織論や国際経済学、労働経済学、都市経済学などの応用分野に直結し、企業の行動や国際的な現象など、全てのコースに関連して幅広く社会について考えるための土台となります。 本科目では、商品を購入して使用する消費者の行動と、商品を生産して販売する企業の行動、そして両者が商品をやり取りする市場のメカニズムを中心に解説します。経済・市場を理解するためにミクロ経済学の学修は必要不可欠であり、本科目で得ることができる知識・思考法は、社会に出てからも役立つ経済学であると言えます。 たとえば、社会における様々な出来事が需要と供給にどのような影響を与え、その結果として市場全体では何が起こるのか、社会全体として状況が改善されるのか、などを理解することができれば、ニュースから今後の状況を推理することができるようになります。 よって本科目では、以上のような人生において役立つ思考法を獲得し、今後の応用科目でも活用できるミクロ経済学の基礎を修得することを目的とします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目では以下の到達目標を設定します。 1. 部分均衡理論と関連するミクロ経済学の諸理論の概要を理解できる 2. グラフや式を用いた経済学的な説明を理解することができる 3. 計算を伴う関連する練習問題を解くことができる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	適宜実施する練習問題やコメントシート等に対して、授業冒頭等の時間を活用してフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しません。 配付する資料に基づき授業を進めます。	ISBN	なし
参考書	①ミクロ経済学第 3 版、伊藤元重、日本評論社、2018 年（図書館の電子ブックで閲覧することもできます。） ②ミクロ経済学の力、神取道宏、日本評論社、2014 年	ISBN	①9784535558441 ②9784535557567
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講に	ミクロ経済学は数理的に体系化された理論であるため、数学的な要素が授業に登場することは		

あたって	避けられません。しかし、数学が苦手な学生でも授業内容が理解できるよう、必要な数学については授業内で復習を行います。 また、ミクロ経済学は消費者としての自分自身や身近な企業も分析の対象としています。よって、一見すると現実離れしているように感じる理論も、具体例を考えてみると日常で直面している現象を論理的に説明しているだけであることに気付くことができると思います。単に用語や計算を暗記するのではなく、具体例を考えることで理論を真に理解することができれば、今後の学修にも大いに役立つ力を得ることができるでしょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス、ミクロ経済学に必要な数学入門	・シラバスおよび学修計画の確認 ・参考書①（pp. 1-18）等の確認	4時間
第2回	対面	需要曲線・供給曲線の概要	・授業資料・内容の復習 ・参考書①（pp. 19-28）等の確認 ・参考書①（pp. 29-43）等の確認 ・参考書①p. 43 演習問題の確認	4時間
第3回	対面	需要曲線と弾力性	・授業資料・内容の復習 ・参考書①（pp. 44-53）等の確認	4時間
第4回	対面	需要曲線のシフト要因と消費者余剰	・授業資料・内容の復習 ・参考書①（pp. 54-81）等の確認	4時間
第5回	対面	供給曲線と費用	・授業資料・内容の復習 ・参考書①（pp. 83-89）等の確認	4時間
第6回	対面	利潤最大化と生産者余剰	・授業資料・内容の復習 ・参考書①（pp. 90-100）等の確認 ・参考書①（pp. 100-110）等の確認	4時間
第7回	対面	均衡への調整過程、中間試験に向けた復習	・授業資料・内容の復習	4時間
第8回	対面	中間試験	・中間テスト問題の振り返り・解きなおし	4時間
第9回	対面	中間試験の解説・振り返り	・授業資料・内容の復習 ・消費者・生産者理論の復習	4時間
第10回	対面	完全競争均衡と余剰分析	・授業資料・内容の復習 ・テキスト（pp. 122-128）または参考書でこれに準じる箇所の確認 ・消費者・生産者理論の復習	4時間
第11回	対面	課税と補助金の効果	・授業資料・内容の復習	4時間
第12回	対面	外部性を考慮した余剰分析	・授業資料・内容の復習	4時間
第13回	対面	ミクロ経済学の展開	・授業資料・内容の復習	4時間
第14回	対面	振り返りと総復習	・授業資料を活用して試験対策を十全に行ってください。 ・授業内容全体を振り返り、経済学の学びの中で本科目の内容がどのような位置付けであるか再確認してください。	4時間
第15回	オンデマンド	試験対策のポイント	・授業資料を活用して試験対策を十全に行ってください。	4時間

科目名	ミクロ経済学 I	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	田中 征史	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	初めてミクロ経済学を学ぶ学生を対象に、ミクロ経済学の基礎を授業する。		
授業の目的及び概要	本科目では、はじめて経済学を学ぶ学生がミクロ経済学の基本的な考え方や分析方法を習得し、受講生が現実社会で起きている問題を経済学的視点から考えられるようになることを目的としています。ミクロ経済学はあらゆる経済学分野の基礎となっていると言っても過言ではなく、経済学を専攻する学生にとってミクロ経済理論を理解することは必須となります。本講義では、経済学の前提知識のない学生を対象としているため、複雑な数式計算は極力避け、より直感的な解説を中心に講義を行っていきます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この授業で扱う主なトピックは、需要と供給、政府による政策介入の効果、市場の効率性、国際貿易、外部性と公共政策の 5 つです。各トピックでは、グラフや具体例を使った直感的な解説を行います。多少の数式計算は避けられません。よって、受講生の到達目標は以下の 3 点となります。 1. 各トピックの概要を理解する 2. グラフを使った分析ができるようになる 3. 連立方程式を解き、経済の均衡を分析できるようになる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	Learning Portal の提出課題に対してコメントする、または、学生からの問い合わせにはメールにて対応する。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	この科目ではテキストは使用しません。	ISBN	この科目ではテキストは使用しません。
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	この講義を受講するにあたって受講生が数学の基礎知識を既に習得していることが受講条件ではありませんが、講義では数式を使った分析を行うことも多々あります。数学を苦手としている人は、講義中の解説や小テストを解くことによって、この授業で登場する数式を扱えるようになってください。期末試験を受ける段階で、関数のグラフの図示や連立方程式の解の導出ができなければ単位を取得することが難しくなります。授業中の私語は固く禁じます。ただし、授業中の質問は歓迎しますので、質問がある場合は遠慮なく聞いてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	初回のガイダンスとして、今後の授業の進め方やレポート課題、期末試験等に関してアナウンスをする。残りの時間は、この科目のイントロダクションとして、経済学の十大原理について紹介する。テキスト第1章が該当範囲となる。	事前に配布している講義資料をダウンロードし、授業までに当該内容に目を通しておくことを予習とする。 講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。	4時間
第2回	オンデマンド	経済学の基本的な考え方を紹介する。特に、ミクロ経済学とマクロ経済学の違い、ストックとフローの違い、生産可能性フロンティアを中心に解説していく。また、グラフの描き方等に関する数学も説明する。テキスト第2章が該当範囲となる。	事前に配布している講義資料をダウンロードし、授業までに当該内容に目を通しておくことを予習とする。 講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。	4時間
第3回	オンデマンド	国際間での財の貿易に関する経済学の基本的な考え方を紹介する。特に、絶対優位と比較優位の違いについて中心的に講義する。テキスト第3章が該当範囲となる。	事前に配布している講義資料をダウンロードし、授業までに当該内容に目を通しておくことを予習とする。 講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。	4時間
第4回	オンデマンド	比較優位の応用例について紹介する。テキスト第3章が該当範囲となる。	事前に配布している講義資料をダウンロードし、授業までに当該内容に目を通しておくことを予習とする。 講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。	4時間
第5回	オンデマンド	市場の概念と競争の概念について。価格と需要量との関係について解説を行う。テキスト第4章が該当範囲となる。	事前に配布している講義資料をダウンロードし、授業までに当該内容に目を通しておくことを予習とする。 講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。	4時間
第6回	オンデマンド	価格と供給との関係について解説を行う。テキスト第4章が該当範囲となる。	事前に配布している講義資料をダウンロードし、授業までに当該内容に目を通しておくことを予習とする。 講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。	4時間
第7回	オンデマンド	需要と供給から市場均衡を分析する。市場均衡の導出に関する演習問題を解く。テキスト第4章が該当範囲となる。	事前に配布している講義資料をダウンロードし、授業までに当該内容に目を通しておくことを予習とする。 講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。	4時間
第8回	オンデマンド	需要の価格弾力性、供給の価格弾力性に関して解説する。テキスト第5章が該当範囲となる。	事前に配布している講義資料をダウンロードし、授業までに当該内容に目を通しておくことを予習とする。 講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。	4時間
第9回	オンデマンド	需要の価格弾力性、供給の価格弾力性に関して解説する。弾力性の計算に関する演習を行う。テキスト第5章が該当範囲となる。	事前に配布している講義資料をダウンロードし、授業までに当該内容に目を通しておくことを予習とする。 講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。	4時間
第10回	オンデマンド	価格規制は市場取引にどのような影響を及ぼすか。テキスト第6章が該当範囲となる。	事前に配布している講義資料をダウンロードし、授業までに当該内容に目を通しておくことを予習とする。 講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。	4時間
第11回	オンデマンド	課税は市場取引にどのような影響を及ぼすか。テキスト第6章が該当範囲となる。	事前に配布している講義資料をダウンロードし、授業までに当該内容に目を通しておくことを予習とする。	4時間

			講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。	
第12回	オンデマンド	消費者余剰と生産者余剰に関する解説を中心に行う。テキスト第7章が該当範囲となる。	事前に配布している講義資料をダウンロードし、授業までに当該内容に目を通しておくことを予習とする。 講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。	4時間
第13回	オンデマンド	消費者余剰と生産者余剰から市場の効率性を考える。また、市場の効率性と市場の失敗についても解説を行い、同トピックに関する演習を行う。テキスト第7章が該当範囲となる。	事前に配布している講義資料をダウンロードし、授業までに当該内容に目を通しておくことを予習とする。 講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。	4時間
第14回	オンデマンド	税が変化した場合の死荷重と税収について解説する。テキスト第8章が該当範囲となる。	事前に配布している講義資料をダウンロードし、授業までに当該内容に目を通しておくことを予習とする。 講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。	4時間
第15回	オンデマンド	これまでのまとめとして、扱ったトピックを総復習する。	事前に配布している講義資料をダウンロードし、授業までに当該内容に目を通しておくことを予習とする。 総復習の授業内容を復習し、期末試験に向けた学習を行うこと。	4時間

科目名	ミクロ経済学Ⅱ		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	二替 大輔		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	部分均衡分析から一般均衡分析へ			
授業の目的及び概要	本講義では、ミクロ経済学の基礎である消費者（家計）行動の理論と生産者（企業）行動の理論を中心に学んでいきます。ミクロ経済学Ⅱでは、効用関数、無差別曲線、限界代替率、予算制約、所得効果、代替効果、費用最小化、利潤最大化などについて学修していきます。この授業を受講することにより、ミクロ経済学の視点から、現実の経済現象を理解できる力を身につけることを目的とします。			
履修条件・留意点	この科目は「ミクロ経済学Ⅰ」の単位を修得していないと履修できません。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	この授業の到達目標を以下のように設定します。 1. 一般均衡分析の概要を理解することができる。 2. 与えられたグラフの経済学的な意味を読み取ることができる。 3. 練習問題の計算等を通じて、数学というツールを用いて経済に関する諸問題を考えることができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業内で実施する練習問題・中間試験について、授業内で復習時間を設けフィードバックを行います。			
アクティブ・ラーニング の取組み				
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	テキストは指定しません。 配布資料を用いて授業を行います。		ISBN	なし
参考書	①ミクロ経済学第3版、伊藤元重、日本評論社、2018年（図書館の電子ブックで閲覧することもできます。） ②ミクロ経済学の力、神取道宏、日本評論社、2014年		ISBN	①9784535558441 ②9784535557567
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		0	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		30	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		50	
	その他（％）		0	
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	「ミクロ経済学Ⅰ」と「ミクロ経済学Ⅱ」はその両方を履修してはじめて内容が完結しますので、「ミクロ経済学Ⅰ」の修得後には直ちに「ミクロ経済学Ⅱ」を履修してください。また、「ミクロ経済学Ⅱ」は「ミクロ経済学Ⅰ」の単位を修得してから履修してください。数学が苦手な学生も興味を持てるように丁寧に解説します。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	【予習】シラバスと講義資料を事前に読んで、基本的な内容について予習してください。	3 時間

			【復習】授業で配布した資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	
第2回	対面	消費者行動の基礎①：無差別曲線と効用	【予習】「無差別曲線と効用」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「無差別曲線と効用」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第3回	対面	消費者行動の基礎②：予算制約	【予習】「予算制約」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「予算制約」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第4回	対面	消費者行動の基礎③：効用最大化	【予習】「効用最大化」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「効用最大化」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第5回	対面	消費者行動の展開①：所得の変化と需要	【予習】「所得の変化と需要」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「所得の変化と需要」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第6回	対面	消費者行動の展開②：価格の変化と需要	【予習】「価格の変化と需要」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「価格の変化と需要」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第7回	対面	消費者行動の展開③：代替効果と所得効果	【予習】「代替効果と所得効果」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「代替効果と所得効果」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第8回	対面	前半のまとめと・中間試験	【予習】中間試験に向けての復習をしてください。 【復習】中間試験の振り返りをしてください。	4 時間
第9回	対面	中間試験の解説・消費者行動の応用（労働供給）	【予習】「労働供給」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】中間テスト問題の解きなおし、授業で配布した「労働供給」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第10回	対面	生産者行動①：生産関数	【予習】「生産関数」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「生産関数」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第11回	対面	生産者行動②：費用最小化	【予習】「費用最小化」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「費用最小化」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第12回	対面	生産者行動③：利潤最大化	【予習】「利潤最大化」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「利潤最大化」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第13回	対面	一般均衡理論①：エッジワース・ボックス	【予習】「エッジワース・ボックス」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「エッジワース・ボックス」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第14回	対面	一般均衡理論②：生産可能性フロンティア	【予習】「生産可能性フロンティア」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「生産可能性フロンティア」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第15回	オンデ	定期試験に向けて、これまでの内容の総復	【予習】配布資料を読んで理解できなかったところ	5 時間

2026/05/01

	マンド	習をオンデマンドで配信します。	をまとめておいてください。 【復習】授業で配布した資料を使って，講義内容を復習をしてください。	

科目名	ミクロ経済学Ⅱ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	藤田 峻	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	部分均衡分析から一般均衡分析へ		
授業の目的及び概要	ミクロ経済学は経済理論の基盤を形成する、近代経済学の基礎となる理論です。本科目で学修する理論は、産業組織論や国際経済学、労働経済学、都市経済学などの応用分野に直結し、企業の行動や国際的な現象など、幅広く社会について考えるための土台となります。 本科目では、「ミクロ経済学Ⅰ」で解説された部分均衡理論から更に進んで、複数の産業や市場を同時に考えることができる一般均衡理論を扱います。経済・市場を理解するためにミクロ経済学の学修は必要不可欠であり、本科目で得ることができる知識・思考法は、社会に出てからも役立つ経済学であると言えます。 たとえば、社会における様々な出来事が需要と供給にどのような影響を与え、その結果として市場全体では何が起こるのか理解することができれば、ニュースから今後の状況を推理することができるようになります。 本科目では、以上のように人生において役立つ思考法を獲得することができるとともに、「ミクロ経済学Ⅲ」、「上級ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」や各コースの専門に深く関連する応用科目でも活用できる、ミクロ経済学の基礎を修得することを目的とします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目では以下の到達目標を設定します。 1. 一般均衡理論と関連するミクロ経済学の諸理論の概要を理解できる 2. グラフや式を用いた経済学的な説明を理解することができる 3. 計算を伴う関連する練習問題を解くことができる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	実施される課題・テスト等の結果について講評します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	クリッカー等の理解度把握システムの利用		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	教科書は指定しません。 配付する資料に基づき授業を進めます。	ISBN	なし
参考書	①ミクロ経済学（第 3 版）、伊藤元重、日本評論社、2018 年（図書館の電子ブックで閲覧することもできます。復習事項の指示における参考書は本書を指します。） ②ミクロ経済学の力、神取道宏、日本評論社、2014 年	ISBN	①9784535558441 ②9784535557567
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講に	本科目は「ミクロ経済学Ⅰ」と比べて使用する数学の難易度が上昇します。しかし、ミクロ経		

あたって	経済学は数理的に体系化された理論であるため、数学的な要素が授業に登場することは避けられません。ただし、数学が苦手な学生でも授業内容が理解できるよう、必要な数学については授業内で復習を行います。 また、ミクロ経済学は消費者としての自分自身や身近な企業も分析の対象としています。よって、一見すると現実離れしているように感じる理論も、具体例を考えてみると日常で直面している現象を論理的に説明しているだけであることに気付くことができると思います。単に用語や計算を暗記するのではなく、具体例を考えることで理論を真に理解することができれば、今後の学修にも大いに役立つ力を得ることができるでしょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス ミクロ経済学Ⅱのための経済数学入門	・シラバスおよび学修計画の確認（2時間程度） ・数学的手法の復習（2時間程度）	4時間
第2回	対面	消費者理論1 （予算制約）	・授業資料・内容の復習	4時間
第3回	対面	消費者理論2 （無差別曲線）	・授業資料・内容の復習	4時間
第4回	対面	消費者理論3 （効用最大化問題）	授業資料に基づく計算問題の復習	4時間
第5回	対面	フルバージョンの効用最大化問題	・授業資料・内容の復習（2時間程度） ・ラグランジュ乗数法の計算練習（2時間程度）	4時間
第6回	対面	消費者理論4 （所得効果）	・授業資料・内容の復習	4時間
第7回	対面	消費者理論5 （価格効果とスルツキー分解）	・授業資料・内容の復習	4時間
第8回	対面	問題演習	・授業で示された練習問題の残りを解く ・授業資料の復習	4時間
第9回	対面	生産者理論1	・授業資料・内容の復習（2時間程度） ・参考書（pp. 205－221）または参考書でこれに準じる箇所の確認（2時間程度）	4時間
第10回	対面	生産者理論2	・授業資料・内容の復習（2時間程度） ・参考書（pp. 221－237）または参考書でこれに準じる箇所の確認（2時間程度）	4時間
第11回	対面	一般均衡理論1	・授業資料・内容の復習（2時間程度） ・参考書（pp. 239－249）または参考書でこれに準じる箇所の確認（2時間程度）	4時間
第12回	対面	一般均衡理論2	・授業資料・内容の復習（2時間程度） ・参考書（pp. 239－249）または参考書でこれに準じる箇所の確認（2時間程度）	4時間
第13回	対面	一般均衡理論3	・授業資料・内容の復習（2時間程度） ・一般均衡理論の復習（2時間程度）	4時間
第14回	対面	ミクロ経済学の展開・試験に向けた復習	・授業資料・内容の復習	4時間
第15回	オンデマンド	試験に向けた総復習	・試験に向けた総復習	4時間

科目名	ミクロ経済学Ⅱ		開講年度	2026 年度春学期
担当者	田中 征史		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	ミクロ経済学Ⅰの受講者を対象に、ミクロ経済学の基礎を授業する			
授業の目的及び概要	本科目では、はじめて経済学を学ぶ学生がミクロ経済学の基本的な考え方や分析方法を習得し、受講生が現実社会で起きている問題を経済学的視点から考えられるようになることを目的としています。ミクロ経済学はあらゆる経済学分野の基礎となっていると言っても過言ではなく、経済学を専攻する学生にとってミクロ経済理論を理解することは必須となります。本講義では、経済学の前提知識のない学生を対象としているため、複雑な数式計算は極力避け、より直感的な解説を中心に講義を行っていきます。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	この授業で扱う主なトピックは、企業の費用関数、独占と寡占、労働の需要と供給、消費の最適化、情報の非対称性の 5 つです。各トピックでは、グラフや具体例を使った直感的な解説を行います。多少の数式計算は避けられません。よって、受講生の到達目標は以下の 3 点となります。 1. 各トピックの概要を理解する 2. グラフを使った分析ができるようになる 3. 連立方程式を解き、経済の均衡を分析できるようになる			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	Learning Portal の提出課題に対してコメントする、または、学生からの問い合わせにはメールにて対応する。			
アクティブ・ラーニングの取り組み				
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	この科目では特定のテキストは指定しない。		ISBN	この科目では特定のテキストは指定しない。
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		30	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		70	
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	この講義を受講するにあたって受講生が数学の基礎知識を既に習得していることが受講条件ではありませんが、講義では数式を使った分析を行うことも多々あります。数学を苦手としている人は、講義中の解説やレポート課題を解くことによって、この授業で登場する数式を扱えるようになってください。期末試験を受ける段階で、関数のグラフの図示や連立方程式の解の導出ができなければ単位を取得することが難しくなります。			

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式		学修時間
第1回	オンデマンド	初回のガイダンスとして、今後の授業の進め方やレポート課題、期末試験等に関してアナウンスをする。残りの時間は、この科目のイントロダクションとして、ミクロ経済学Ⅰの内容の簡単なまとめと、本講義で扱うトピックの紹介を行う。	講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。 4 時間
第2回	オンデマンド	機会費用や限界・平均費用の概念について紹介する。テキスト第 13 章が該当範囲となる。	講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。 4 時間
第3回	オンデマンド	短期経済と長期経済における費用の捉え方の違いについても解説する。テキスト第 13 章が該当範囲となる。	講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。 4 時間
第4回	オンデマンド	競争市場の概念について。また、企業の利潤最大化行動がどのように分析することができるかを解説する。テキスト第 14 章が該当範囲となる。	講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。 4 時間
第5回	オンデマンド	企業の利潤最大化をグラフを使って分析する。テキスト第 14 章が該当範囲となる。	講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。 4 時間
第6回	オンデマンド	企業の利潤最大化行動によって供給曲線がどのように導かれるかを解説する。テキスト第 14 章が該当範囲となる。	講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。 4 時間
第7回	オンデマンド	企業は自社で雇う労働者の数をどのように決定する？労働需要に関する解説を行う。テキスト第 18 章が該当範囲となる。	講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。 4 時間
第8回	オンデマンド	労働者は自身の労働時間をどのように決定する？労働供給に関する解説を行う。テキスト第 18 章が該当範囲となる。	講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。 4 時間
第9回	オンデマンド	予算制約線と無差別曲線について。テキスト第 21 章が該当範囲となる。	講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。 4 時間
第10回	オンデマンド	消費者にとって最適な消費量とはどのように決定される？消費者による効用最大化に関して解説を行う。テキスト第 21 章が該当範囲となる。	講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。 4 時間
第11回	オンデマンド	所得や価格の変化が消費者の選択に及ぼす影響について分析する。テキスト第 21 章が該当範囲となる。	講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。 4 時間
第12回	オンデマンド	外部性と市場の非効率性について解説を行う。テキスト第 10 章が該当範囲となる。	講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。 4 時間
第13回	オンデマンド	外部性に対する公共政策について解説を行う。テキスト第 10 章が該当範囲となる。	講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。 4 時間
第14回	オンデマンド	公共財のフリーライダー問題とは。共有資源における共有地の悲劇とは。テキスト第 11 章が該当範囲となる。	講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。 4 時間
第15回	オンデマンド	これまでのまとめとして、扱ったトピックを総復習する。	講義で紹介した重要語句や演習問題の解法に関して十分に復習しておくこと。 4 時間

科目名	ミクロ経済学Ⅲ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	伊勢 公人	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	ミクロ経済学の展開		
授業の目的及び概要	この授業では、ミクロ経済学Ⅰおよびミクロ経済学Ⅱなどで学習してきたミクロ経済学の基本的な考え方を、いろいろな問題に応用するとともに、さらに発展した問題や新しいトピックスについてとりあげます。まず基本的なミクロ経済学の内容（完全競争市場）について復習します。次に、独占や寡占、市場の失敗など資源配分にゆがみが生じるケースについて学修します。さらにゲーム理論の基本的な考え方を習得した上で不完全情報の経済学、不確実性が存在する場合の市場取引について学びます。 「実学としての経済学」との関係 この授業を受講することにより、ミクロ経済学の視点から、現実の経済現象を理解できる力を身につけることを目的としています。		
履修条件・留意点	この科目は「ミクロ経済学Ⅰ」の単位を修得していないと履修できません。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（１）独占、寡占、市場の失敗やその結果としての資源配分や社会厚生について説明することができる。 （２）上記の内容について計算し、グラフに表現することができる。 （３）ゲーム理論の基本的な考え方を説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題については、授業中に解説及び講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1987 年から民間企業に 34 年間勤務しており、欧州事務所の副所長を務めた経験を有している。また、経済産業省の受託研究のプロジェクトリーダーを始め、多くの調査プロジェクトを担ってきた。本科目では、これらの経験を生かした授業を行う。		
テキスト	テキストの指定は行いません。毎回、講義資料を配布します。	ISBN	なし
参考書	ミクロ経済学（第 3 版）、伊藤元重、日本評論社、2018 年	ISBN	9784535558441
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	配布資料を利用して復習を行ってください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	ガイダンス：授業の概要や到達目標等	【復習】シラバスとガイダンス資料を読み直し、確認して下さい。	2 時間
第2回	対面	生産者行動の理論	【復習】「生産者行動の理論」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第3回	対面	市場均衡（1）	【復習】「市場均衡（1）」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第4回	対面	市場均衡（2）	【復習】「市場均衡（2）」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第5回	対面	市場の失敗(1)	【復習】「市場の失敗（1）」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第6回	対面	市場の失敗(2)	【復習】「市場の失敗（2）」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第7回	対面	独占	【復習】「独占」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第8回	対面	ゲーム理論（1）	【復習】「ゲーム理論（1）」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第9回	対面	寡占への応用(1)	【復習】「寡占への応用（1）」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第10回	対面	ゲーム理論(2)	【復習】「ゲーム理論（2）」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第11回	対面	寡占への応用(2)	【復習】「寡占への応用（2）」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第12回	対面	情報の経済学(1)	【復習】「情報の経済学（1）」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第13回	対面	情報の経済学（2）	【復習】「情報の経済学（2）」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第14回	対面	総復習	【復習】期末試験に向けて授業中に実施した演習問題、小テストを解き直してください。	4 時間
第15回	オンデマンド	授業全体の総括	【復習】これまでの授業回の配布資料を読み直し、総復習してください。	6 時間

科目名	マクロ経済学Ⅰ		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	前田 一樹		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	財市場のマクロ経済均衡理論（45 度線分析）とマクロ経済に関する基本的な諸指標を学ぶ			
授業の目的及び概要	マクロ経済学は国全体の経済に関して、家計・企業・政府・外国といった経済主体の動きに注目した分析を行う近代経済学の代表的理論体系です。マクロ経済学を学ぶことで、個別の企業や消費者の意思決定を詳細に分析するミクロ経済学とは異なり、本科目では経済主体の選択を「大雑把」に考えることで、経済全体の流れや政府による経済政策の効果を直観的に理解することができるようになります。すなわち、ニュースや新聞の経済記事を理解し、その内容が自分自身とどのように関連しているのかを考えることに役立ちます。 必修科目である本科目では、このようなマクロ経済学の出発点として、最も基本的なマクロ経済を分析するための数理モデルである「45 度線モデル」を最終的な到達点として関連する理論を学ぶとともに、マクロ経済を観察するために最低限理解すべきである各種経済指標についても学びます。 さらに本科目は、後続する「マクロ経済学Ⅱ・Ⅲ」や「上級マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」などの講義科目で、より本格的なマクロ経済学を学ぶための基盤を形成することにも寄与します。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	本科目では以下の 3 点を到達目標とします。 ① マクロ経済における財市場の均衡を数理モデルによって説明できる。 ② 国民経済計算などにおける主要な経済指標を説明できる。 ③ マクロ経済学の入門的な計算問題に正しく解答できる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	適宜実施する練習問題やコメントシート等に対して、授業冒頭等の時間を活用してフィードバックを行います。			
アクティブ・ラーニングの取り組み				
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	教科書は指定しません。授業内で必要に応じて資料を配付します。	ISBN	なし	
参考書	基本講義マクロ経済学 第 2 版, 中村勝克, 新世社, 2022 年	ISBN	①978-4-88384-356-5	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	30		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	50		
	その他（％）	0		
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	毎授業の積み重ねが重要です。しっかり復習し、授業に臨んでください。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス，基礎的な計算の復習	学修計画の確認してください。 マクロ経済学Ⅰに必要な数学について復習してください。	4時間
第2回	対面	GDP とは何か・三面等価の原則	授業資料・内容の復習してください。 本内容の理解には，参考書 pp. 9-46 の内容が参考になります。	4時間
第3回	対面	GDP に関連した諸概念など	授業資料・内容の復習してください。 本内容の理解には，参考書 pp. 47-68 の内容が参考になります。	4時間
第4回	対面	産業連関表	授業資料・内容の復習してください。	4時間
第5回	対面	マクロ経済学に必要な数学入門（連立方程式と1次関数のグラフ）	授業資料・内容の復習してください。	4時間
第6回	対面	財市場（民間部門のみ）の均衡と乗数効果	授業資料・内容の復習してください。 本内容の理解には，参考書 pp. 69-94 の内容が参考になります。	4時間
第7回	対面	インフレギャップ・デフレギャップ	授業資料・内容の復習してください。	4時間
第8回	対面	中間試験	中間試験問題を振り返り・解き直してください。	4時間
第9回	対面	中間試験の解説 マクロ経済学に必要な数学入門（無限等比級数）	中間試験問題を振り返り・解き直してください。	4時間
第10回	対面	政府支出を含む 45 度線分析と財政政策の効果	授業資料・内容の復習してください。	4時間
第11回	対面	租税を含む 45 度線分析と均衡予算乗数	授業資料・内容の復習してください。	4時間
第12回	対面	マクロ経済学に必要な数学入門（これまでの計算練習と偏微分）	授業資料・内容の復習してください。	4時間
第13回	対面	外国貿易を含む 45 度線分析	授業資料・内容の復習してください。	4時間
第14回	対面	総復習	総復習をしてください。	4時間
第15回	オンデマンド	総復習	試験対策を行ってください。	4時間

科目名	マクロ経済学Ⅰ		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	楊 倩倩		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	財市場のマクロ経済均衡理論（45 度線分析）とマクロ経済に関する基本的な諸指標を学ぶ			
授業の目的及び概要	マクロ経済学は国全体の経済に関して、家計・企業・政府・外国といった経済主体の動きに注目した分析を行う近代経済学の代表的理論体系です。マクロ経済学を学ぶことで、個別の企業や消費者の意思決定を詳細に分析するミクロ経済学とは異なり、本科目では経済主体の選択を「大雑把」に考えることで、経済全体の流れや政府による経済政策の効果を直観的に理解することができるようになります。すなわち、ニュースや新聞の経済記事を理解し、その内容が自分自身とどのように関連しているのかを考えることに役立ちます。 必修科目である本科目では、このようなマクロ経済学の出発点として、最も基本的なマクロ経済を分析するための数理モデルである「45 度線モデル」を最終的な到達点として関連する理論を学ぶとともに、マクロ経済を観察するために最低限理解すべきである各種経済指標についても学びます。 さらに本科目は、後続する「マクロ経済学Ⅱ・Ⅲ」や「上級マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」などの講義科目で、より本格的なマクロ経済学を学ぶための基盤を形成することにも寄与します。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	本科目では以下の 3 点を到達目標とします。 ① マクロ経済における財市場の均衡を数理モデルによって説明できる。 ② 国民経済計算などにおける主要な経済指標を説明できる。 ③ マクロ経済学の入門的な計算問題に正しく解答できる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	適宜実施する練習問題やコメントシート等に対して、授業冒頭等の時間を活用してフィードバックを行います。			
アクティブ・ラーニングの取り組み				
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	教科書は指定しません。授業内で必要に応じて資料を配付します。	ISBN	なし	
参考書	基本講義マクロ経済学 第 2 版, 中村勝克, 新世社, 2022 年	ISBN	①978-4-88384-356-5	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	30		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	50		
	その他（％）	0		
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	毎授業の積み重ねが重要です。しっかり復習し、授業に臨んでください。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス，基礎的な計算の復習	学修計画の確認してください。 マクロ経済学Ⅰに必要な数学について復習してください。	4時間
第2回	対面	GDP とは何か・三面等価の原則	授業資料・内容の復習してください。 本内容の理解には，参考書 pp. 9-46 の内容が参考になります。	4時間
第3回	対面	GDP に関連した諸概念など	授業資料・内容の復習してください。 本内容の理解には，参考書 pp. 47-68 の内容が参考になります。	4時間
第4回	対面	産業連関表	授業資料・内容の復習してください。	4時間
第5回	対面	マクロ経済学に必要な数学入門（連立方程式と1次関数のグラフ）	授業資料・内容の復習してください。	4時間
第6回	対面	財市場（民間部門のみ）の均衡と乗数効果	授業資料・内容の復習してください。 本内容の理解には，参考書 pp. 69-94 の内容が参考になります。	4時間
第7回	対面	インフレギャップ・デフレギャップ	授業資料・内容の復習してください。	4時間
第8回	対面	中間試験	中間試験問題を振り返り・解き直してください。	4時間
第9回	対面	中間試験の解説 マクロ経済学に必要な数学入門（無限等比級数）	中間試験問題を振り返り・解き直してください。	4時間
第10回	対面	政府支出を含む 45 度線分析と財政政策の効果	授業資料・内容の復習してください。	4時間
第11回	対面	租税を含む 45 度線分析と均衡予算乗数	授業資料・内容の復習してください。	4時間
第12回	対面	マクロ経済学に必要な数学入門（これまでの計算練習と偏微分）	授業資料・内容の復習してください。	4時間
第13回	対面	外国貿易を含む 45 度線分析	授業資料・内容の復習してください。	4時間
第14回	対面	総復習	総復習をしてください。	4時間
第15回	オンデマンド	総復習	試験対策を行ってください。	4時間

科目名	マクロ経済学Ⅰ		開講年度	2026 年度春学期
担当者	二替 大輔		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	マクロ経済学で登場する基本的な指標および所得水準の決定理論を学ぶ。			
授業の目的及び概要	本講義では、学部で必要とされるマクロ経済学の理論を学んでいきます。前半はマクロ経済を計測するための基礎概念を扱います。後半では、マクロ経済の短期分析を扱います。講義では、練習問題を解くことにより、基本的なマクロ経済理論の知識の習得を目指します。本講義で得ることができる知識は、社会に出てからも役立つ「実学としての経済学」のひとつであると言えます。また、今後の応用科目でも活用できるマクロ経済学の基礎を修得することを目的とします。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	本講義では、以下の3点を到達目標とします。 1. マクロ経済学における財市場の均衡を中心とする基礎的理論を身につける。 2. 国民経済計算などにおける主要な経済指標を正しく説明できる。 3. マクロ経済学の入門的な計算問題が解けるようになる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業内で実施する問題演習・中間試験について、授業内で時間を設けフィードバックを行います。			
アクティブ・ラーニングの取り組み				
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	テキストは指定しません。 配布資料を用いて授業を行います。		ISBN	なし
参考書	①やさしいマクロ経済学，塩路悦郎，日本経済新聞社出版，2019 年 ②ベーシックプラス マクロ経済学の基礎（第2版），家森信善，中央経済社，2021 年 ③マクロ経済学・入門（第6版），福田慎一・照山博司，有斐閣，2023 年		ISBN	①9784532114053 ②9784502371318 ③9784641222243
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		20	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		30	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		50	
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	マクロ経済学Ⅰでは、マクロ経済の動きを理解するための基礎的な知識を得ることができますが、合格すれば、「マクロ経済学Ⅱ」も履修して勉強することが望ましいです。マクロ経済学Ⅱでは利子率、株価、債券の価格、企業の設備投資、為替レート、財政政策と金融政策について勉強します。			

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	ガイダンス	【予習】：シラバスを確認する 【復習】：授業で配布した資料を読み直し授業内容の復習をすること	2 時間
第2回	対面	GDP の定義	【予習】：事前に配布する講義資料を読んでおくこと 【復習】：授業で配布した資料を読み直し授業内容の復習をすること	4 時間
第3回	対面	GDP の計測①：付加価値	【予習】：事前に配布する講義資料を読んでおくこと 【復習】：授業で配布した資料を読み直し授業内容の復習をすること	4 時間
第4回	対面	GDP の計測②：分配面・支出面	【予習】：事前に配布する講義資料を読んでおくこと 【復習】：授業で配布した資料を読み直し授業内容の復習をすること	5 時間
第5回	対面	名目 GDP と実質 GDP	【予習】：事前に配布する講義資料を読んでおくこと 【復習】：授業で配布した資料を読み直し授業内容の復習をすること	5 時間
第6回	対面	物価指数	【予習】：事前に配布する講義資料を読んでおくこと 【復習】：授業で配布した資料を読み直し授業内容の復習をすること	5 時間
第7回	対面	中間試験とこれまでの復習	【予習】：中間試験に向けての復習をすること 【復習】：中間試験の振り返りをすること	5 時間
第8回	対面	中間試験の解説と復習	【予習】：講義資料の該当箇所の再確認をすること 【復習】：中間試験の解き直しをすること	5 時間
第9回	対面	労働統計（失業率・有効求人倍率）	【予習】：事前に配布する講義資料を読んでおくこと 【復習】：授業で配布した資料を読み直し授業内容の復習をすること	4 時間
第10回	対面	総需要①：消費と貯蓄・消費関数，企業の投資・投資関数	【予習】：事前に配布する講義資料を読んでおくこと 【復習】：授業で配布した資料を読み直し授業内容の復習をすること	4 時間
第11回	対面	総需要②：政府支出と政府の役割・純輸出・総需要関数	【予習】：事前に配布する講義資料を読んでおくこと 【復習】：授業で配布した資料を読み直し授業内容の復習をすること	4 時間
第12回	対面	財市場分析①：45 度線分析	【予習】：事前に配布する講義資料を読んでおくこと 【復習】：授業で配布した資料を読み直し授業内容の復習をすること	4 時間
第13回	対面	財市場分析②：乗数効果	【予習】：事前に配布する講義資料を読んでおくこと 【復習】：授業で配布した資料を読み直し授業内容の復習をすること	4 時間
第14回	対面	授業内容の総復習	【予習】：事前に配布する講義資料を読んでおくこと 【復習】：授業で配布した資料を読み直し授業内容の復習をすること	5 時間
第15回	オンデマンド	試験に向けた総復習	【予習】 配布資料を読んで理解できなかったところをまとめておいてください。 【復習】 授業で配布した資料を使って，講義内容を復習をしてください。	5 時間

科目名	マクロ経済学Ⅰ		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	田中 征史		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	マクロ経済学を初めて学ぶ学生を対象に、マクロ経済学の基礎を授業する			
授業の目的及び概要	本科目では、初級のマクロ経済学を講義します。GDP の成長や物価の変動、景気の変動、貿易収支、財政赤字といった用語は普段テレビや新聞などのメディアで耳にする言葉でしょう。こういった「経済指標」は、ある国、もしくは、ある地域全体の経済活動を包括的に分析するために用いられるものです。マクロ経済学とは、このように個々人の経済活動を集計的に捉え、国や地域全体の経済の変動について分析する学問です。この講義では、マクロ経済学の基礎を学ぶことで、受講生が現実世界のマクロ経済現象に対して論理的に理解できるようになることを目標としています。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	この授業で扱う主なトピックは、GDP、物価指数、経済成長、資金市場の分析、中央銀行の役割と金融政策の 5 つです。各トピックでは、グラフや具体例を使った直感的な解説を行います。多少の数式計算は避けられません。よって、受講生の到達目標は以下の 3 点となります。 1. 各トピックの概要を理解する 2. グラフを使い、経済の均衡を分析ができるようになる 3. 経済政策に伴う市場の変化を考察できるようになる			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	本科目では 15 回のすべての授業を遠隔（オンデマンド）で実施するため、受講生からの質問はメールにて対応します。また、質問内容がメールでは返答できない場合は、日程を決めて Zoom 等で回答することも可能です。担当教員のメールアドレスは初回授業時に受講生にお知らせします。			
アクティブ・ラーニングの取り組み				
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	指定のテキストはありません		ISBN	指定のテキストはありません
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	70		
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって				

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	オンデマンド	初回のガイダンスとして、今後の授業の進め方やレポート課題、期末試験等に関してアナウンスをする。残りの時間は、マクロ経済学の役割や、ミクロ経済学との違いについて解説を行う。	講義レジュメや授業動画を再度閲覧しながら授業内容を復習し、Learning Portal の小テストに1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第2回	オンデマンド	マクロ経済モデルで分析する経済主体に関して。	講義レジュメや授業動画を再度閲覧しながら授業内容を復習し、Learning Portal の小テストに1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第3回	オンデマンド	生産面で測った GDP とは？GDP と付加価値に関して解説を行い、その後、GDP の計算に関して演習問題を解く。	講義レジュメや授業動画を再度閲覧しながら授業内容を復習し、Learning Portal の小テストに1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第4回	オンデマンド	所得で測った GDP と支出で測った GDP について解説を行う。また、実質 GDP と名目 GDP の定義を解説し、これらの計算に関する演習を行う。	講義レジュメや授業動画を再度閲覧しながら授業内容を復習し、Learning Portal の小テストに1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第5回	オンデマンド	物価の定義について。GDP デフレータの定義と計算演習。	講義レジュメや授業動画を再度閲覧しながら授業内容を復習し、Learning Portal の小テストに1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第6回	オンデマンド	消費者物価指数や企業物価指数の定義と計算演習。	講義レジュメや授業動画を再度閲覧しながら授業内容を復習し、Learning Portal の小テストに1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第7回	オンデマンド	世界の国の経済発展の違いは何によって説明されるか？経済成長と物的資本の関係について。	講義レジュメや授業動画を再度閲覧しながら授業内容を復習し、Learning Portal の小テストに1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第8回	オンデマンド	ソロー経済成長モデルの解説と演習。	講義レジュメや授業動画を再度閲覧しながら授業内容を復習し、Learning Portal の小テストに1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第9回	オンデマンド	金融市場における貯蓄と投資の関係について。	講義レジュメや授業動画を再度閲覧しながら授業内容を復習し、Learning Portal の小テストに1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第10回	オンデマンド	利子率の決定について解説を行う。	講義レジュメや授業動画を再度閲覧しながら授業内容を復習し、Learning Portal の小テストに1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第11回	オンデマンド	貨幣の定義と役割について解説を行う。	講義レジュメや授業動画を再度閲覧しながら授業内容を復習し、Learning Portal の小テストに1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第12回	オンデマンド	中央銀行の役割について解説を行う。	講義レジュメや授業動画を再度閲覧しながら授業内容を復習し、Learning Portal の小テストに1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第13回	オンデマンド	貨幣とインフレーションに関して。	講義レジュメや授業動画を再度閲覧しながら授業内容を復習し、Learning Portal の小テストに1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第14回	オンデマンド	フィッシャー効果とデフレの罠。	講義レジュメや授業動画を再度閲覧しながら授業内容を復習し、Learning Portal の小テストに1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第15回	オンデマンド	これまでの講義内容のまとめを講義する。	講義レジュメや授業動画を再度閲覧しながら授業内容を復習し、Learning Portal の小テストに1週間以内に解答して提出すること。	4時間

科目名	マクロ経済学Ⅱ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	嶋田 裕光	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	財市場における需給の均衡に加え、貨幣の需要や供給から導かれる金融市場の均衡を組み合わせた理論枠組みとなる IS-LM モデルに習熟する。		
授業の目的及び概要	最近「責任ある積極財政といった財政政策のスタンスの変化、日本銀行の金融政策の変更は経済にどのような影響を与えるのだろうか？」といった話題が経済ニュースでよく取り上げられています。本講義では、マクロ経済学Ⅰで学んだ財市場の均衡を中心とする理論の枠組みから、貨幣の需要や供給からなる金融市場における均衡まで織り込んだ IS-LM モデルまで分析の枠組みをを上げ、金融市場も含めた経済全体の動きをより体系的に理解し、上記のような話題も含め実際の経済の動きを理論に即して説明できる力を身につけることを目的とします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本講義では、以下の3点を到達目標とします。 1. マクロ経済学Ⅰで学んだ財市場の均衡に加え金融市場での均衡も考慮したマクロ経済モデル（IS-LM モデル）の基礎的理論を身につける。 2. マクロ経済学で学んだ視点をもって具体的な経済事象の相互の関係や財政金融政策の効果などについても理解し、自ら説明できるようになる。 3. 公務員試験など各種就職資格試験における関連分野の問題（より応用的な問題も含め）が解けるようになる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎講義後、ラーニングポータルで確認のための小テスト（選択式）を掲載しますので、期限までに解答してもらい、期限終了後、直ちに自動採点によって理解度をチェックできるようにします。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1986 年に経済企画庁（現内閣府）に入庁し、国家公務員として 30 年以上のキャリアを積んでいる。また、経済白書や経済計画、GDP 統計、社会福祉政策にも携わった実務経験から、マクロ経済学、財政学、GDP 統計、少子化問題を専門領域としている。本科目では、これらの経験を生かし、経済データを正しく評価する目を養い、社会で役立てるための基本的な理論から実務的なプロセスまで含めた幅広い授業を行う。		
テキスト	テキスト指定は行いません。必要な資料を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	①マクロ経済学・入門(第6版), 福田慎一・照山博司, 有斐閣, 2023 年 ②入門マクロ経済学【第4版】, 井堀利宏, 新世社, 2020 年 かなり平易に書かれているマクロ経済学の基礎的なテキストです。 ③入門マクロ経済学【第6版】, 中谷巖, 日本評論社, 2021 年。 伝統的なマクロ経済学のテキストとして広く読まれています。 どの参考書も後半部分が本講義の対象内容に該当します。	ISBN	①9784641222243 ②9784883843084 ③9784535557956
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	

	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	30
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	50
	その他（%）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	本講義はマクロ経済学Ⅰで講義した基礎的なマクロ経済学の知識を前提として講義を行いますので、受講生は必修科目であるマクロ経済学Ⅰの単位を取得できていることが必要となります。なお、授業が始まるまでに、参考書などでGDPの概念や財市場均衡（45度線分析）の枠組みまで抑えた予習を行って下さい。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	初回のガイダンスとして、今後の授業の進め方や確認課題（ラーニングポータルで実施する小テスト）、中間、期末試験等に関して説明します。	今回講義内容の復習を行っておいてください。毎講義後、確認のための小テストをラーニングポータル上に掲載しますので、期限までに解答するようにしてください。	4時間
第2回	対面	マクロ経済学Ⅰで学修したGDP統計（国民経済計算）の概要と乗数分析（45度線分析）のおさらいをします。	今回講義内容の復習を行っておいてください。講義後、確認のための小テストをラーニングポータル上に掲載しますので、期限までに解答するようにしてください。	4時間
第3回	対面	マクロ経済学Ⅰで学修した財市場の均衡の変化をもたらす要因について復習を行います。特に、消費関数の裏側にある貯蓄関数や、今後学修する金融市場との繋がりが深い投資関数について解説します。これにより貯蓄と投資のバランスという観点から財市場の均衡を見る目を養います。	今回講義内容の復習を行っておいてください。講義後、確認のための小テストをラーニングポータル上に掲載しますので、期限までに解答するようにしてください。	4時間
第4回	対面	そもそもの金融市場の仕組み、債券と金利（利回り）の関係、株価（資産として地価についても）形成などについて解説します。	今回講義内容の復習を行っておいてください。講義後、確認のための小テストをラーニングポータル上に掲載しますので、期限までに解答するようにしてください。	4時間
第5回	対面	貨幣需要の理論として貨幣保有動機（取引動機と投機的動機）からケインズの流動性選好の理論を学修し、その比較として古典派の貨幣理論であるフィッシャーの交換方程式、マーシャルのkなどについて解説します。	今回講義内容の復習を行っておいてください。講義後、確認のための小テストをラーニングポータル上に掲載しますので、期限までに解答するようにしてください。	4時間
第6回	対面	前回の貨幣の需要面の理論の復習から信用創造を通じた貨幣供給の仕組みと中央銀行による金融政策の効果について解説します。	今回講義内容の復習を行っておいてください。講義後、確認のための小テストをラーニングポータル上に掲載しますので、期限までに解答するようにしてください。	4時間
第7回	対面	貨幣の需要と供給から導き出される貨幣市場の均衡と均衡点の変化をもたらす要因について解説します。さらに、中間テストに備えた模擬問題も提示します。	今回講義内容の復習を行っておいてください。講義後、確認のための小テストをラーニングポータル上に掲載しますので、期限までに解答するようにしてください。併せて中間テストに向けた復習をしっかりと行なってください。	4時間
第8回	対面	中間テストを実施し、授業内に解説を行います。	中間テストに備え、これまでの授業内容や演習問題の復習を十分しておくこと。テスト後は間違えた箇所について正答が得られるまでよく復習してください。	4時間
第9回	対面	財市場の均衡を表すIS曲線と貨幣市場の均衡を表すLM曲線の導出方法について解	今回講義内容の復習を行っておいてください。講義後、確認のための小テストをラーニングポータル上	4時間

		説します。	に掲載しますので、期限までに解答するようにしてください。	
第10回	対面	IS 曲線、LM 曲線のシフトをもたらす要因、IS 曲線、LM 曲線の形状の違いをもたらす要因について様々なケースについて検討します。	今回講義内容の復習を行っておいてください。講義後、確認のための小テストをラーニングポータル上に掲載しますので、期限までに解答するようにしてください。	4 時間
第11回	対面	IS-LM 分析を用いた財政政策の効果についてそれに付随する副作用効果としてクラウディングアウト効果や「流動性のわな」など特殊な状況下における金融政策の効果について解説します。	今回講義内容の復習を行っておいてください。講義後、確認のための小テストをラーニングポータル上に掲載しますので、期限までに解答するようにしてください。	4 時間
第12回	対面	IS-LM 分析を用いた財政金融政策の政策効果、完全雇用達成に向けた政策の有効性の比較と同時実施（ポリシーミックス）による効果について解説します。	今回講義内容の復習を行っておいてください。講義後、確認のための小テストをラーニングポータル上に掲載しますので、期限までに解答するようにしてください。	4 時間
第13回	対面	前回に引き続き IS-LM 曲線が特殊な形状をしているより複雑なケースでの財政金融政策の効果について解説します。また、定期試験に備えた問題を解く練習も行います。	今回講義内容の復習を行っておいてください。講義後、確認のための小テストをラーニングポータル上に掲載しますので、期限までに解答するようにしてください。	4 時間
第14回	対面	閉鎖体系（輸出入を含まない）での IS-LM 分析の総まとめとして、定期試験を想定した模擬問題演習をおこないます。	期末定期試験対策として今回講義内で行った演習問題を再度解き直すなど復習をしっかりと行ってください。	4 時間
第15回	オンデマンド	これまでの総復習として、前回取り上げた IS=LM モデルに関する演習問題を材料に解答とそのポイントを解説します。オンデマンド形式で行いますので、繰り返し視聴することにより学修内容に対する理解を定着させ、期末定期試験に臨むようにしてください。	期末テストに備え、授業後にこれまでの確認課題や前回取り組んだ模擬問題も含め、授業内容の復習を十分しておいて下さい。	5 時間

科目名	マクロ経済学Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	グスタボ・バルダス	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	GDP・利子率・為替レートの決定メカニズムと財政政策と金融政策の効果		
授業の目的及び概要	マクロ経済学Ⅰの続きとして、マクロ経済学Ⅱの主な目的は、GDP、雇用、賃金、利子率、為替レートなどはどのようなメカニズムによって決定されるか、変動させる要因が何か、そして経済政策が実体経済にどのような影響を与えるかを勉強することです。特に貨幣市場、債券市場、外国為替市場、財政政策と金融政策の効果を勉強します。マクロ経済学を理解することによって、経済学の各分野である労働・金融・貿易などをより広範に理解できるようになります。マクロ経済学Ⅱでは、経済の変動を起こす要因の理論を勉強することと共に、データから日本経済の現状と将来の見通しについて勉強します。この科目の最終的な目標は、学生が卒業した後、より充実した就職活動もでき、社会に貢献できる人材になることです。マクロ経済学Ⅱで勉強する GDP、利子率、為替レート、貿易のつながりのメカニズムは、本学の経済学部が取り組んでいる「実学としての経済学」の内容を理解するための基本知識です。「実学としての経済学」の取り組みが主に各演習で行い、同トピックスの理解を深め、応用問題の解き方も勉強します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この授業の学修の主な到達目標は以下の能力を身に付けるようにすることです。 1. マクロ経済学の理論を理解する力 2. 日本経済の現状と将来の見通しについて分析できる力 3. 経済を変動させるメカニズムを説明する力 4. マクロ経済の諸問題を理解し、解決策を考える力		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された練習問題のなか、正解率の低い問題がある場合、後に同タイプの問題を解説して、フィードバックします。分からない点があれば、自由に質問してください。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストを使用しないが、以下の参考書・データベースの情報を利用して作成した資料を Learning Portal の「授業内容/教材」にアップします。	ISBN	なし
参考書	① 中谷巖『入門マクロ経済学（第6版）』日本評論社、2021 年 ② マンキューマクロ経済学Ⅰ 入門篇 第5版、東洋経済新報社（2024） ③ マンキューマクロ経済学Ⅱ 応用篇 第5版、東洋経済新報社（2024） データベース 内閣府： https://www.cao.go.jp/ 日本銀行： https://www.boj.or.jp/ 政府統計の総合窓口： https://www.e-stat.go.jp/ 経済産業省： https://www.meti.go.jp/ 財務省： https://www.mof.go.jp/	ISBN	① 4535557950 ② 9784492315583 ③ 9784492315590

	日本貿易振興機構（Jetro）： https://www.jetro.go.jp/ 外務省： https://www.mofa.go.jp/mofaj/ International Monetary Fund（World Economic Outlook Databases）： https://www.imf.org/ インターネットサイト 日経新聞： https://www.nikkei.com/ Bloomberg： https://www.bloomberg.com/asia CNN： https://www.cnn.co.jp/		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		0
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		50
	成果発表（口頭・実技）		0
	中間試験		0
	【定期試験】レポート試験		0
	【定期試験】筆記試験（対面）		50
	その他（％）		0
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	マクロ経済学 II で勉強するトピックスは、特に大学院進学、公務員、銀行員などといった進路を望んでいる学生にとって不可欠な知識であり、貿易会社、商社、一般企業といった他の進路を望んでいる学生にも役に立ちます。		

授業回	授業形式	授業計画	事事前事後学修（予習・復習等）	事事前事後の学修時間
第1回	対面	授業の案内を行う。	予習：「授業1 授業の案内」を読んでください。 復習：「練習1 マクロ経済学の主なトピックス」を解いて、オンラインで、回答してください。	1時間
第2回	対面	日本経済の現状と将来の見通しについて勉強する。	予習：「授業2 日本経済の現状と将来の見通し」を読んで下さい。 復習：「練習2 日本経済の現状と将来の見通し」を解いて、オンラインで、回答してください。	4時間
第3回	対面	投資家が債券・株・不動産・貨幣を保有する理由について勉強する。	予習：「授業3 資産市場・資金調達・貨幣」を読んで下さい。 復習：「練習3 資産市場・資金調達・貨幣」を解いて、オンラインで、回答をしてください。	4時間
第4回	対面	資産の価値を計算する方法について勉強する。	予習：「授業4 割引現在価値と資産の価値」を読んで下さい。 復習：「練習4 割引現在価値と資産の価値」を解いて、オンラインで、回答をしてください。	4時間
第5回	対面	債券の価格の決定メカニズムについて勉強する。	予習：「授業5 債券の価格」を読んで下さい。 復習：「練習5 債券の価格」を解いて、オンラインで、回答をしてください。	4時間
第6回	対面	株価と株式市場について勉強する。	予習：「授業6 株価と株式市場」を読んで下さい。 復習：「練習6 株価と株式市場」を解いて、オンラインで、回答をしてください。	4時間
第7回	対面	貨幣の供給について勉強する。	予習：「授業7 貨幣の供給・金融政策・貨幣の乗数」を読んで下さい。 復習：「練習7 貨幣の供給・金融政策・貨幣の乗数」を解いて、オンラインで、回答をしてください。	4時間

第8回	対面	貨幣需要・貨幣市場・LM曲線について勉強する。	予習：「授業8 貨幣の需要・貨幣市場・LM曲線」を読んで下さい。 復習：「練習8 貨幣の需要・貨幣市場・LM曲線」を解いて、オンラインで回答してください。	4時間
第9回	対面	企業の投資プロジェクトと投資関数について勉強する。	予習：「授業9 企業の投資プロジェクトと投資関数」を読んで下さい。 復習：「練習9 企業の投資プロジェクトと投資関数」と「特別な練習1」を解いて、オンラインで回答してください。	4時間
第10回	対面	IS-LM曲線モデルによる利子率とGDPの決定と政策の効果について勉強する。	予習：「授業10 IS-LM曲線モデル」を読んで下さい。 復習：「練習10 IS-LM曲線モデル」を解いて、オンラインで回答してください。	4時間
第11回	対面	IS-LM曲線モデルによる不況の原因、物価の変動の説明、クラウドディングアウトについて勉強する。	予習：「授業11 不況・クラウドディングアウト・インフレーション」を読んで下さい。 復習：「練習11 不況・クラウドディングアウト・インフレーション」を解いて、オンラインで回答してください。	4時間
第12回	対面	線形IS-LM曲線を利用して、均衡と経済政策の効果の計算方法について勉強する。	予習：「授業12 線形IS-LMモデル」を読んで下さい。 復習：「練習12 線形IS-LMモデル」を解いて、オンラインで回答してください。 試験の準備を行ってください。	4時間
第13回	対面	IS-LM曲線モデルによる失業の発生、失業を減少させる政策の効果、IS-LM曲線モデルの特殊なケースについて勉強する。	予習：「授業13 IS-LM曲線のその他のトピックス」を読んで下さい。 復習：「練習13 IS-LM曲線のその他のトピックス」を解いて、オンラインで回答してください。 試験の準備を続けてください。	5時間
第14回	対面	変動為替相場制度における為替レートの変動と円安・円高の原因について勉強する。	予習：「授業14 為替レートと外国為替市場」を読んで下さい。 復習：「練習14 為替レートと外国為替市場」を解いて、オンラインで回答してください。 試験の準備を行ってください。	5時間
第15回	オンデマンド	開放経済IS-LM曲線モデルにおける経済政策の効果分析。 定期試験に向けて復習を行う。	予習：「授業15 開放経済IS-LM曲線モデルの入門」を読んで下さい。 復習：「練習15 開放経済IS-LM曲線モデルの入門」を解いて、オンラインで回答してください。 「特別な練習2」と「試験のための練習」を解いて、オンラインで回答してください。 試験の準備を行ってください。	5時間

科目名	マクロ経済学Ⅱ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	田中 征史	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	マクロ経済学Ⅰを履修した学生を対象に、マクロ経済学の基礎を授業する		
授業の目的及び概要	本科目では、初級のマクロ経済学を講義します。GDP の成長や物価の変動、景気の変動、貿易収支、財政赤字といった用語は普段テレビや新聞などのメディアで耳にする言葉でしょう。こういった「経済指標」は、ある国、もしくは、ある地域全体の経済活動を包括的分析するために用いられるものです。マクロ経済学とは、このように個々人の経済活動を集計的に捉え、国や地域全体の経済の変動について分析する学問です。 この授業は、「マクロ経済学Ⅰ」で学んだ基礎理論を土台として、景気変動、失業、インフレーション、金融政策・財政政策など、現代経済が直面するマクロ経済問題を理論とデータの両面から体系的に理解することを目的とします。数式やグラフを用いながらも、現実の経済ニュースや政策事例と結びつけて解説することで、学生が経済全体の動きを論理的に捉えられるようになることを目指します。授業レベルは学部専門科目の初級段階に位置づけられ、基礎的な経済学の知識を習得させていく内容となります。 本授業を通じて、学生は経済現象を表面的ではなく、背後にあるメカニズムから考察する力を身につけます。これにより、新聞やニュースで報じられる景気対策、金利政策、財政赤字などの話題を、自らの頭で理解・評価できるようになります。また、論理的思考力やデータをもとに判断する力は、将来、企業、官公庁、金融機関など幅広い分野で活かされるとともに、市民として社会の動きを主体的に捉える力へとつながります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目では以下 2 点を主な到達目標とします。 1. この講義では長期のマクロ経済モデルと短期のマクロ経済モデルについて重点的に解説を行うため、この 2 つのモデルの違いを十分に理解すること 2. 授業の後半で扱う失業や財政赤字の持続可能性といった応用的なトピックを分析できるようになること		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	本科目では 15 回のすべての授業を遠隔（オンデマンド）で実施するため、受講生からの質問はメールにて対応します。また、質問内容がメールでは返答できない場合は、日程を決めて Zoom 等で回答することも可能です。担当教員のメールアドレスは初回授業時に受講生にお知らせします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定するテキストはありません	ISBN	指定するテキストはありません
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	

	その他 (%)	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	初回のガイダンスとして、今後の授業の進め方やレポート課題、期末試験等に関してアナウンスをする。残りの時間は、春学期開講のマクロ経済学Ⅰの内容に関して簡単に復習を行う。	授業レジュメの記載、授業動画の内容を再度閲覧しながら授業内容を復習し、1週間以内に Learning Portal の小テストに解答し提出すること。	4時間
第2回	オンデマンド	GDP と物価水準の測り方、各市場の均衡に関して解説を行う。	授業レジュメの記載、授業動画の内容を再度閲覧しながら授業内容を復習し、1週間以内に Learning Portal の小テストに解答し提出すること。	4時間
第3回	オンデマンド	海外との財の取引や資本の取引について解説を行う。	授業レジュメの記載、授業動画の内容を再度閲覧しながら授業内容を復習し、1週間以内に Learning Portal の小テストに解答し提出すること。	4時間
第4回	オンデマンド	国際取引によって決定される名目為替レートと実質為替レートに関して解説を行い、応用問題の演習を行う。	授業レジュメの記載、授業動画の内容を再度閲覧しながら授業内容を復習し、1週間以内に Learning Portal の小テストに解答し提出すること。	4時間
第5回	オンデマンド	開放経済モデルを紹介する。	授業レジュメの記載、授業動画の内容を再度閲覧しながら授業内容を復習し、1週間以内に Learning Portal の小テストに解答し提出すること。	4時間
第6回	オンデマンド	開放経済モデルにおける名目為替レートの決定と政策効果に関して解説を行い、その後、応用問題の演習を行う。	授業レジュメの記載、授業動画の内容を再度閲覧しながら授業内容を復習し、1週間以内に Learning Portal の小テストに解答し提出すること。	4時間
第7回	オンデマンド	総需要と総供給の決定について解説を行う。	授業レジュメの記載、授業動画の内容を再度閲覧しながら授業内容を復習し、1週間以内に Learning Portal の小テストに解答し提出すること。	4時間
第8回	オンデマンド	短期経済モデルの均衡と、短期経済から長期経済にかけての市場調整に関して解説を行い、その後、応用問題の演習を行う。	授業レジュメの記載、授業動画の内容を再度閲覧しながら授業内容を復習し、1週間以内に Learning Portal の小テストに解答し提出すること。	4時間
第9回	オンデマンド	経済変動の分析を行う。総需要の変動や総供給の変動が経済に与える影響を短期、長期ともに分析を行う。	授業レジュメの記載、授業動画の内容を再度閲覧しながら授業内容を復習し、1週間以内に Learning Portal の小テストに解答し提出すること。	4時間
第10回	オンデマンド	経済安定化政策に関する分析を行う。	授業レジュメの記載、授業動画の内容を再度閲覧しながら授業内容を復習し、1週間以内に Learning Portal の小テストに解答し提出すること。	4時間
第11回	オンデマンド	失業の定義と失業発生メカニズムについて。	授業レジュメの記載、授業動画の内容を再度閲覧しながら授業内容を復習し、1週間以内に Learning Portal の小テストに解答し提出すること。	4時間
第12回	オンデマンド	経済学では失業はどのように説明されるか？代表的な失業モデルを簡単に紹介する。	授業レジュメの記載、授業動画の内容を再度閲覧しながら授業内容を復習し、1週間以内に Learning Portal の小テストに解答し提出すること。	4時間
第13回	オンデマンド	日本の財政赤字の実態に関して解説を行う。特に、アベノミクスによる金融緩和と財政赤字の関係に関して。	授業レジュメの記載、授業動画の内容を再度閲覧しながら授業内容を復習し、1週間以内に Learning Portal の小テストに解答し提出すること。	4時間
第14回	オンデマンド	簡単な経済モデルを使って財政赤字の持続可能性を分析する。残りの時間で、応用問題の演習を行う。	授業レジュメの記載、授業動画の内容を再度閲覧しながら授業内容を復習し、1週間以内に Learning Portal の小テストに解答し提出すること。	4時間
第15回	オンデマンド	これまでの授業のまとめを行う。	授業レジュメの記載、授業動画の内容を再度閲覧しながら授業内容を復習し、1週間以内に Learning Portal の小テストに解答し提出すること。	4時間

科目名	マクロ経済学Ⅲ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	嶋田 裕光	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	国際取引（貿易や資本移動）や供給面も考慮したマクロ経済学の分析枠組みの拡大と経済成長論の基礎を理解する。		
授業の目的及び概要	これまで需要面を中心に学修してきたマクロ経済学Ⅰ、Ⅱの分析の枠組みを、貿易、資本移動といった国際取引を考慮した開放体系に拡張するとともに、供給面の条件を加えて物価水準の決定のメカニズムを分析する枠組みとして AD-AS モデルを取り上げます。さらに、これまでの静学的な分析からマクロ経済の動きの時間的な変化を辿る枠組みとしてハロッド＝ドーマー理論をはじめとする成長論の基礎を学修します。この学修を通じて、マクロ経済学Ⅰから学んできたマクロ経済学の基礎的理論の内容を完結させることができ、現実の経済の動きの学びと相まって学部レベルでは十分な水準の「実学としての経済学」の修得を果たすことになります。		
履修条件・留意点	マクロ経済学Ⅲは、マクロ経済学Ⅰとマクロ経済学Ⅱの学修内容の応用に位置付けられるものなので、それらの単位取得を前提としています。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この講義は以下の能力を身につけることを目標にします。 1. マクロ経済学における国際取引を含めた枠組みを総合的に理解できる 2. マクロ経済学における供給面を考慮した需給均衡と物価水準の決定メカニズムを理解できる 3. マクロ経済の時間的な変化を考慮した成長論の基礎を理解できる 4. 上記のような拡張されたマクロ経済学の分析枠組みにおいて、各種の政策変更がもたらす効果について体系的に理解できる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の講義で取り上げた内容の類題をラーニングポータル上で演習問題として出題し、それを解答していくことで理解の定着を図ります。解答期間終了後、直ちに自動採点され解説が参照できるように設定しますが、正答率が低い問題については次回講義で改めて取り上げ復習します。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1986 年に経済企画庁（現内閣府）に入庁し、国家公務員として 30 年以上のキャリアを積んでいる。また、経済白書や経済計画、GDP 統計、社会福祉政策にも携わった実務経験から、マクロ経済学、財政学、GDP 統計、少子化問題を専門領域としている。本科目では、これらの経験を生かし、経済データを正しく評価する目を養い、社会で役立てるための基本的な理論から実務的なプロセスまで含めた幅広い授業を行う。		
テキスト	特定のテキストは用いませんが、以下の参考書・演習書をもとに作成した教材を適宜用います。	ISBN	特になし。
参考書	基本的なマクロ経済学の教科書として定番なのは ① 中谷巖『入門マクロ経済学（第6版）』日本評論社、2021 年 があげられます。本授業では、後半部分の範囲が該当します。 世界的に広く読まれている教科書としては次が挙げられますが、マクロ経済学の基礎をじっくりと確認する人に向いています。 ② マンキュー「マクロ経済学Ⅰ、入門編（第5版）」東洋経済新報社 2024 年 また、授業で取り上げる演習問題のレベルとしては、 ③ 米田昌弘「行政職公務員試験一専門問題と解答一	ISBN	① 9784535557956 ② 9784492315583 ③ 9784866922423

	マクロ経済学編」大学教育出版 2023 年 に対応できることを目指しますが、マクロ経済学全体 の学修内容を演習問題を通じて復習することにも役立 ちます。		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講に あたって	この科目は、マクロ経済学Ⅰ、Ⅱの内容の続編となるため、それらを履修していることが条件 となります。また、グラフや方程式数も増え計算も複雑になってきますので、並行して経済数 学などを履修し数学的な扱いにも慣れていくことを推奨します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業計画、マクロ経済学 I、II の学修内容（特に IS-LM モデル）の振り返りを行います。さらにこれからの学修に新たに必要となる数学的準備（微分など）を説明します。	授業前日までに説明予定の教材をラーニングポータルに掲載しますので、予習として事前に読んでください。 また、授業後、授業で取り上げた内容を小テストの形でラーニングポータルに掲載しますので、復習として次回授業前日までに解答するようにしてください。	2 時間
第2回	対面	マクロ経済学 II で学修した閉鎖体系を開放体系に拡張するに際して必要となる国際取引について考えます。まず、国際収支の定義と仕組みから始め、その内訳である経常収支について学修します。	授業前日までに説明予定の教材をラーニングポータルに掲載しますので、予習として事前に読んでください。 また、授業後、授業で取り上げた内容を小テストの形でラーニングポータルに掲載しますので、復習として次回授業前日までに解答するようにしてください。	4 時間
第3回	対面	為替レートに関する基本的知識と、国際収支（貿易と国際資本移動）と為替レートとの関係について説明します。為替変動と貿易収支の関係に関してはマーシャルラーナー条件についても触れることになります。	授業前日までに説明予定の教材をラーニングポータルに掲載しますので、予習として事前に読んでください。 また、授業後、授業で取り上げた内容を小テストの形でラーニングポータルに掲載しますので、復習として次回授業前日までに解答するようにしてください。	4 時間
第4回	対面	国際収支均衡の条件から BP 曲線の導き方とその読み方、それがシフトする条件などについて学修します。	授業前日までに説明予定の教材をラーニングポータルに掲載しますので、予習として事前に読んでください。 また、授業後、授業で取り上げた内容を小テストの形でラーニングポータルに掲載しますので、復習として次回授業前日までに解答するようにしてください。	4 時間
第5回	対面	BP 曲線（国際収支の均衡）を IS=LM 分析に加えた枠組みの中でマクロ経済全体の均衡について解説します（IS=LM=BP 分析）。	授業前日までに説明予定の教材をラーニングポータルに掲載しますので、予習として事前に読んでください。 また、授業後、授業で取り上げた内容を小テストの形でラーニングポータルに掲載しますので、復習として次回授業前日までに解答するようにしてください。	4 時間

第6回	対面	マンデル＝フレミングモデルを使って、様々な国際取引の条件下（為替相場制度（固定か変動かの別）や国際資本移動の有無）での政策の効果について説明します。	授業前日までに説明予定の教材をラーニングポータルに掲載しますので、予習として事前に読んでおいてください。 また、授業後、授業で取り上げた内容を小テストの形でラーニングポータルに掲載しますので、復習として次回授業前日までに解答するようにしてください。	4 時間
第7回	対面	中間テストにも向け、これまでのオープンマクロ経済の理論の総復習と、模擬問題の演習を実施します。	授業前日までに説明予定の教材をラーニングポータルに掲載しますので、予習として事前に読んでおいてください。 また、授業後、授業で取り上げた内容を小テストの形でラーニングポータルに掲載しますので、復習として次回授業前日までに解答するようにしてください。	4 時間
第8回	対面	第7回目までの学修内容を範囲とした中間テストを実施します。	中間テストに備え、第7回授業までの範囲について、配布した教材の見直し、毎回実施した小テストの復習を行なってください。	5 時間
第9回	対面	AD－AS モデルのうち、これまで学修した $IS=LM$ 分析から AD 曲線（総需要曲線）を導出する方法について解説します。	授業前日までに説明予定の教材をラーニングポータルに掲載しますので、予習として事前に読んでおいてください。 また、授業後、授業で取り上げた内容を小テストの形でラーニングポータルに掲載しますので、復習として次回授業前日までに解答するようにしてください。	4 時間
第10回	対面	AD－AS モデルのうち AS 曲線（総供給曲線）の導出方法、および諸条件の変化による影響について説明します。供給側の話はマクロ I, II ではあまり触れていない内容ですが、ミクロ経済学での知識が役にたつ内容となります。	授業前日までに説明予定の教材をラーニングポータルに掲載しますので、予習として事前に読んでおいてください。 また、授業後、授業で取り上げた内容を小テストの形でラーニングポータルに掲載しますので、復習として次回授業前日までに解答するようにしてください。	4 時間
第11回	対面	AD－AS 分析の枠組みを用いて、均衡所得水準、均衡物価水準の求め方、政策など諸条件の変化による効果について解説します。	授業前日までに説明予定の教材をラーニングポータルに掲載しますので、予習として事前に読んでおいてください。 また、授業後、授業で取り上げた内容を小テストの形でラーニングポータルに掲載しますので、復習として次回授業前日までに解答するようにしてください。	4 時間
第12回	対面	ケインズの経済成長論に該当するハロッド＝ドーマーモデルの基本（保証成長率や自然成長率の導出方法）と、ナイフエッジ原理（不安定性原理）について解説します。	授業前日までに説明予定の教材をラーニングポータルに掲載しますので、予習として事前に読んでおいてください。 また、授業後、授業で取り上げた内容を小テストの形でラーニングポータルに掲載しますので、復習として次回授業前日までに解答するようにしてください。	4 時間
第13回	対面	ケインズの経済成長論に対して、不安定性原理が回避される新古典派成長論（ソローモデル）の基礎とそれをもとにした成長会計分析について解説します。	授業前日までに説明予定の教材をラーニングポータルに掲載しますので、予習として事前に読んでおいてください。 また、授業後、授業で取り上げた内容を小テストの形でラーニングポータルに掲載しますので、復習として次回授業前日までに解答するようにしてください。	5 時間
第14回	対面	定期試験対策として中間テスト以降の学修範囲の復習を模擬試験演習問題の形で実施します。（ただし、定期テストは中間テスト前の内容も含む）	事前に、第9回から第13回授業までに取り上げた内容の総復習を、配布した資料レジュメや小テストの見直しによって行ってください。 第14回授業で行った模擬試験問題については完全に解けるようになるまで、第15回授業のオンデマ	5 時間

2026/05/01

			ンド授業動画も参照しながら復習してください。	
第15回	オンデマンド	総復習（オンデマンド回）として、14回授業で実施した定期試験模擬問題の解答解説を行います。	オンデマンド教材を繰り返し閲覧して復習し、第14回授業の模擬試験を完全に解けるようになった状態で定期試験に臨めるようにしてください。	5時間

科目名	社会経済学 I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	西 淳	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	資本主義という経済システムを古典派経済学やマルクス経済学の視点から考える。マクロ経済学やミクロ経済学とは異なる資本主義についての見方を提示する。		
授業の目的及び概要	資本主義社会はそれ以前の社会とあきらかに異なる経済社会です。利潤追求が経済活動の中心となるし、人々は日々、労働力を売らなければ生活ができません。また資本主義に入ってから人類は初めて経済成長というものを経験するようになりました。しかし、他方で資本主義社会にはこれまでの社会と同じ側面もあります。この「社会経済学 I」では、資本主義社会が人間の経済システムとして歴史的に不変的な部分をもちつつも、それが市場や分業、それに資本賃労働関係を基礎としているがゆえに、それ以前の経済社会とまったく違うものとして現われているということを学びます。 この授業を受講することで、ミクロ経済学やマクロ経済学とはまた違った視点から経済現象について考え、それについての自分の意見をもつことができるようになるはずです。 なお、最終回はオンデマンド授業を行います。		
履修条件・留意点	特にありません。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	●商品や貨幣の問題について説明することができる。 ●社会システムの再生産について説明することができる。 ●経済学における価値の問題について説明することができる。 ●経済の営みにとって制約となることについて説明することができる。 ●搾取の問題について説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメント・シートを配布し受講生の理解を確かめ、それを以降の授業にフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特に定めません(授業の中で配布するプリントを中心に進めます)	ISBN	なし
参考書	①経済学, 置塩信雄・鶴田満彦・米田康彦, 大月書店, 1988 年 ②はじめてのマルクス経済学入門, 松尾匡・橋本貴彦, 筑摩書房, 2016 年 ③最強のマルクス経済学講義, 松尾匡編著, ナカニシヤ出版, 2021 年 その他については、授業中に指示します。	ISBN	①9784272110568 ②9784480016362 ③978-4779515866
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	10	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	90	
	その他（%）		
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	ミクロ経済学やマクロ経済学とは違った、マルクス経済学の資本主義に対する見方とはどのようなものかについて関心をもって授業にのぞんでください。経済に対する見方は決して一つではありません。さまざまな見方を理解してこそ、経済という対象を理解することができるようになると思われます。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	はじめに：全体の議論の前提、全体の授業の流れについての説明。	復習：当日の配布プリントについて復習すること（2時間程度）。	2時間
第2回	オンデマンド	資本主義の基本的特質について。資本主義のそれ以前の経済社会との違い。	予習：生産、分配、消費といったことが何を意味するかを調べておくこと（2時間程度）。 復習：当日配布するプリントについて復習すること（2時間程度）。	4時間
第3回	オンデマンド	商品生産と資本主義…商品、そして貨幣。商品とは何か、貨幣とは何か。	予習：商品には使用価値と交換価値があることを調べておくこと（2時間程度）。 復習：当日配布するプリントについて復習すること（2時間程度）。	4時間
第4回	オンデマンド	貨幣の問題について。貨幣の三機能について。貨幣の資産としての側面について。	予習：貨幣のもつ諸機能について調べておくこと（2時間程度）。 復習：当日配布するプリントについて復習すること（2時間程度）。	4時間
第5回	オンデマンド	価格調整と数量調整。なぜ、需要と供給が価格で調整される商品と数量で調整される商品があるのか。	予習：市場の需要と供給の調整はどのようになされているか考えておくこと（2時間程度）。 復習：当日配布するプリントについて復習すること（2時間程度）。	4時間
第6回	オンデマンド	価格の決まり方、つづき。資産価格の決まり方。割引現在価値について。	予習：生産物の価格と資産の価格の決まり方の違いについて考えておくこと（2時間程度）。 復習：当日配布するプリントについて復習すること（2時間程度）。	4時間
第7回	オンデマンド	価値について(1)：効用価値論と労働価値論について。価値が効用で決まる、あるいは労働時間で決まるとはどういうことか。	予習：価値と価格との違いはなにか、調べておくこと（2時間程度）。 復習：当日配布するプリントについて復習すること（2時間程度）。	4時間
第8回	オンデマンド	価値について(2)：価値をどう規定するか。価値方程式について。	予習：労働価値説とはどのような学説なのかを調べておくこと（2時間程度）。 復習：当日配布するプリントについて復習すること（2時間程度）。	4時間
第9回	オンデマンド	生産技術と資源との関係について。経済学における生産の表現の仕方について。	予習：「生産関数」、「等量曲線」、「生産可能性集合」などの用語を調べておくこと（2時間程度）。 復習：当日配布するプリントについて復習すること（2時間程度）。	4時間
第10回	オンデマンド	価値について(3)：労働価値論をどう使うか。交換比率論と希少資源の配分論。	予習：労働も一つの生産資源であるが、その資本や土地といった生産資源とどこが違うかを調べておくこと（2時間程度）。 復習：当日配布するプリントについて復習すること（2時間程度）。	4時間
第11回	オンデマンド	価値増殖の観点からみた資本(不変資本と可変資本)。資本のさまざまな分類について。	予習：生産要素の付加価値生産性とはどのようなことか、調べておくこと（2時間程度）。 復習：当日配布するプリントについて復習すること（2時間程度）。	4時間
第12回	オンデマンド	賃労働と資本：労働力商品について。社会経済学における労働力商品の位置づけとはなにか。	予習：「労働」と「労働力」はどう違うかを調べておくこと（2時間程度）。 復習：当日配布するプリントについて復習すること（2時間程度）。	4時間
第13回	オンデマンド	剰余労働の搾取について(1)：搾取とはなにか。搾取をどう定義するか。	予習：「必要」と「剰余」という概念を調べておくこと（2時間程度）。 復習：当日配布するプリントについて復習すること（2時間程度）。	4時間

			(2時間程度)。	
第14回	オンデマンド	剰余労働の搾取について(2)：絶対的と相対的、その他。	予習：技術革新はわれわれの生活にいかなる影響をもたらすのか考えておくこと(2時間程度)。 復習：当日配布するプリントについて復習すること(2時間程度)。	4時間
第15回	オンデマンド	まとめ。これまでの内容を総括します。	予習：これまで配布してきたプリントを読み返しておくこと(2時間程度)。 復習：当日配布するプリントについて復習すること(2時間程度)。	4時間

科目名	社会経済学Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	西 淳	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	マルクス経済学の視点から資本主義のメカニズムについて考える。ミクロ経済学やマクロ経済学とは違った資本主義の見方を考える。		
授業の目的及び概要	資本主義という経済体制のもつ特質を理解することによってそのなかに生きている自分のありようを理解することが目的となります。自分の存在のありようを理解するということはほかの視点からも行うことができるかもしれませんが、資本主義という歴史的にも特殊的な経済体制のなかで生き生活しているということが我々の存在を規定しているということを理解することが重要です。しかし資本主義には経済の再生産という、歴史普遍的な側面もあります。よって、「社会経済学Ⅱ」においては、その両面から資本主義を考察し、そのもつメカニズムについて考えます。この授業を履修することによって、われわれがそのなかで生きている資本主義について客観的な視点から考えるためのヒントが得られることと思います。また、経済についての見方は一つではないという視点が得られ、現実を複眼的にみる見方を身につけることができます。なお、「実学としての経済学」という観点からいえば、この授業を履修すると、社会における格差の問題や日本社会が抱える独自の問題(少子高齢化など)に対して経済学がいかに役に立つのかが理解できるようになります。		
履修条件・留意点	特にありません。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	●資本の概念について説明することができる。 ●資本主義の成長の原因について説明することができる。 ●価値と価格の違いについて説明することができる。 ●失業についての諸原因について説明することができる。 ●近代経済学とマルクス経済学との違いについて説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメント・シートを配布して受講生の理解度を確認し、それを以降の授業でフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特に定めません(授業中に配布するプリントで進めます)。	ISBN	なし
参考書	①経済学, 置塩信雄・鶴田満彦・米田康彦, 大月書店, 1988 年 ②はじめてのマルクス経済学入門, 松尾匡・橋本貴彦, 筑摩書房, 2016 年 ③最強のマルクス経済学講義, 松尾匡編著, ナカニシヤ出版, 2021 年	ISBN	①9784272110568 ②9784480016362 ③978-4779515866
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	10	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	90	
	その他（%）		

	その他の内容	
この科目の受講にあたって	資本主義のなかで生きていかなければならないわれわれにとって、資本主義の理解は欠かすことができません。たんなる市場や分業に還元されつくすことのない資本主義という経済システムについて考えなければならぬと思われまふ。さらには経済についての見方は一つではないという視点を獲得することが重要であると思われまふ。これらのことに留意して授業にのぞんでください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	はじめに：授業の進め方と、「社会経済学Ⅰ」の復習をします（もちろん、私の「社会経済学Ⅰ」を受講していなくてもわかるように説明します）。	復習：当日配布するプリントについて復習すること（2時間程度）。	2時間
第2回	オンデマンド	資本とは何か。また社会経済学における資本とは他の経済学のそれとどう違うのか。貨幣資本、生産資本、商品資本、不変資本、可変資本、流動資本、固定資本等について。	予習：資本の経済学的意味について考えておくこと（2時間程度）。 復習：当日配布するプリントについて復習すること（2時間程度）。	4時間
第3回	オンデマンド	資本の回転について。また資本の回転が利潤率に及ぼす影響を与えるのか。	予習：資本の回転とはどういうことかを調べておくこと（2時間程度）。 復習：当日配布するプリントについて復習すること（2時間程度）。	4時間
第4回	オンデマンド	価格の一時的決定について。生産価格とは区別されるものとしての一時的均衡価格について。一時的均衡価格決定の諸要因について。	予習：経済学における「短期」と「長期」の違いはなにかを調べておくこと（2時間程度）。 復習：当日配布するプリントについて復習すること（2時間程度）。	4時間
第5回	オンデマンド	剰余価値と利潤。また総生産と純生産、必要生産物と剰余生産物、必要労働と剰余労働などの概念について。	予習：「必要」と「剰余」という概念を調べておくこと（2時間程度）。 復習：当日配布するプリントについて復習すること（2時間程度）。	4時間
第6回	オンデマンド	価値と生産価格。価値はなぜ価値からずれるのか、その原因の解明について。	予習：財の交換比率とはどういうことかを調べておくこと（2時間程度）。 復習：当日配布するプリントについて復習すること（2時間程度）。	4時間
第7回	オンデマンド	経済の再生産について：経済の再生産についての諸学説（リカード vs. マルサス論争など）。資本制における再生産の補填の問題について。純生産が可能とはどういうことか。	予習：「セイ法則」とはどのような法則なのかを調べておくこと（2時間程度）。 復習：当日配布するプリントについて復習すること（2時間程度）。	4時間
第8回	オンデマンド	単純再生産について。単純再生産における総生産、純生産等について。再生産と労働価値説について。	予習：「単純再生産」の意味を調べておくこと（2時間程度）。 復習：当日配布するプリントについて復習すること（2時間程度）。	4時間
第9回	オンデマンド	拡大再生産について。拡大再生産における総生産、純生産等について。生産関係を考慮して貯蓄率や成長率の関係を考える。	予習：「拡大再生産」の意味を調べておくこと（2時間程度）。 復習：当日配布するプリントについて復習すること（2時間程度）。	4時間
第10回	オンデマンド	労働市場における資源の希少性と失業。ケインズ型失業、マルクス型失業、新古典派型失業、等について。	予習：失業の原因にどのようなものがあるかを調べておくこと（2時間程度）。 復習：当日配布するプリントについて復習すること（2時間程度）。	4時間
第11回	オンデマンド	利潤率の傾向的低下論。資本の有機構成の高度化論をめぐる諸議論。柴田＝置塩の定理。相対的過剰人口の累積論。	予習：利潤率が低下することが資本主義にとってどのような意味をもつか、考えておくこと（2時間程度）。 復習：当日配布するプリントについて復習すること（2時間程度）。	4時間
第12回	オンデマンド	国際価値論について。国際的不等価交換論	予習：「国際価値論」の意味を調べておくこと（2時	4時間

	マンド	と搾取。	間程度)。 復習：当日配布するプリントについて復習すること (2時間程度)。	
第13回	オンデマンド	【補論1】利潤の源泉、賃金の水準はどのように決まるかについての学説史。ミクロ経済学やマクロ経済学と社会経済学とでは利潤や賃金の決まり方がどう違うか。	予習：利潤はどこから生まれてくるかについて考えておくこと(2時間程度)。 復習：当日配布するプリントについて復習すること (2時間程度)。	4時間
第14回	オンデマンド	【補論2】近代経済学とマルクス経済学とはどう違うのか。所得分配や経済政策についての考え方の違い。	予習：「近代経済学」とは具体的に何を指す用語か調べておくこと(2時間程度)。 復習：当日配布するプリントについて復習すること (2時間程度)。	4時間
第15回	オンデマンド	全体の議論を総括します。	予習：これまで配布してきたプリントを読み返しておくこと(3時間程度)。 復習：当日配布するプリントについて復習すること (3時間程度)。	6時間

科目名	経済史 I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	脇村 孝平	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	経済史入門－経済とは何かを歴史から学ぶ		
授業の目的及び概要	経済学で使われるキーワードを、様々な歴史的事例を学ぶなかで理解し自分のものにすることが目標となる。具体的には、主に西洋（ヨーロッパ）経済史の諸事例と著名な経済学者が残した言葉を学びつつ、経済学の基本的な概念を理解することが目標となる。 なお、適宜「実学としての経済学」という学修も考慮に入れた講義を行う。本経済学部において「実学としての経済学」の学修とは、具体的にはGDP・為替レート・金利などの経済諸指標の連関を理解しつつ、経済諸指標が互いに連動するマクロ経済学的な連関性を学ぶことを意味する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	「市場」、「貨幣」、「資本主義」、「産業革命」、「社会主義」、「企業」、「政府」、「所得分配」、「グローバル経済」などの基本的な経済学の概念を、歴史的事例を使いつつ、他者に説明できることを目指す。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の授業の後、復習のために、Learning Portal の「経済史 I」のテスト欄に設定する設問に答えてもらうことになるが、その解答について、その次の回の授業の冒頭で解説をする。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし	ISBN	なし
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）	0	
	その他の内容	なし	
この科目の受講にあたって	本講義では、経済学の基本的な概念を理解してもらうために、歴史的事例をツール（道具）として使うことを心がけるので、「経済学入門」のような科目だと思って履修してほしい。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	序論－経済史をなぜ学ぶ必要があるのか？	【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習したうえで、Learning Portal のテスト欄に設定した設問に答えてください。	2 時間
第2回	対面	「市場」とは何か？	【予習】資料「アダム・スミスの分業論」を予習しておいてください。 【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習し	2 時間

			たうえで、Learning Portal のテスト欄に設定した設問に答えてください。	
第3回	対面	「貨幣」の登場－物々交換の困難	【予習】資料「カール・メンガーの貨幣論」を予習しておいてください。 【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習したうえで、Learning Portal のテスト欄に設定した設問に答えてください。	2 時間
第4回	対面	「資本主義」とは何か？	【予習】資料「世界システム論」を予習しておいてください。 【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習したうえで、Learning Portal のテスト欄に設定した設問に答えてください。	2 時間
第5回	対面	「市場社会」の出現－労働・土地・資本の商品化	【予習】資料「労働・土地・貨幣の商品化」を予習しておいてください。 【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習したうえで、Learning Portal のテスト欄に設定した設問に答えてください。	2 時間
第6回	対面	「産業革命」とは何か？－化石エネルギーの利用	【予習】資料「E・A・リグリーの産業革命論」を予習しておいてください。 【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習したうえで、Learning Portal のテスト欄に設定した設問に答えてください。	2 時間
第7回	対面	「所得分配」をかながえる－「資本主義」再考	【予習】資料「トマ・ピケティの格差論」を予習しておいてください。 【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習したうえで、Learning Portal のテスト欄に設定した設問に答えてください。	2 時間
第8回	対面	「社会主義」－なぜ成功しなかったのか？	【予習】資料「フリードリッヒ・ハイエクの知識論」を予習しておいてください。 【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習したうえで、Learning Portal のテスト欄に設定した設問に答えてください。	2 時間
第9回	対面	「企業」とは何か－経営管理と革新	【予習】資料「ロナルド・コースの企業論」を予習しておいてください。 【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習したうえで、Learning Portal のテスト欄に設定した設問に答えてください。	2 時間
第10回	対面	大企業の出現－「株式会社」制度について	【予習】資料「A. A. バリーとG. C. ミーンズの株式会社論」を予習しておいてください。 【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習したうえで、Learning Portal のテスト欄に設定した設問に答えてください。	2 時間
第11回	対面	大恐慌と「政府の役割」－不確実性と流動性	【予習】資料「J・M・ケインズの貨幣論」を予習しておいてください。 【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習したうえで、Learning Portal のテスト欄に設定した設問に答えてください。	2 時間
第12回	対面	大恐慌と「政府の役割」（その2）－金融政策	【予習】資料「ミルトン・フリードマンの大恐慌論」を予習しておいてください。 【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習したうえで、Learning Portal のテスト欄に設定した設問に答えてください。	2 時間
第13回	対面	グローバル経済（その1）－貿易 復習篇①：市場と貨幣	【予習】資料「比較生産費説」を予習しておいてください。 【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習したうえで、Learning Portal のテスト欄に設定した設問に答えてください。	2 時間

第14回	対面	グローバル経済（その2）－直接投資 復習篇②：資本主義と企業	【予習】資料「国際収支表」を予習しておいてください。 【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習したうえで、Learning Portal のテスト欄に設定した設問に答えてください。	2 時間
第15回	オンデマンド	復習篇①：市場と貨幣 復習篇②：資本主義と企業 復習篇③：政府－財政政策と金融政策	【復習】資料「復習篇①」、「復習篇②」、「復習篇③」を復習しておいてください。	6 時間

科目名	経済史 I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	北西 正人	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	経済史入門－経済社会の変容を概観する		
授業の目的及び概要	経済社会の変容を学ぶなかで、経済学で使われる基本的な概念を理解するとともに、現代社会の成り立ちを理解することが目的である。たんに経済史上の出来事を羅列することにとどまらず、諸事象に関する著名な経済学者たちの解釈を紹介しながら、経済社会の変容を説明する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	市場や貨幣、資本主義、産業革命、社会主義、企業といった基本的な経済学の概念をふまえて、経済社会の歴史的展開を他者に説明できることを目指す。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回(出席確認を兼ねた)小テストを実施し、次の授業で解答例を確認する。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特に指定しない。	ISBN	—
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	60	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	40	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	「歴史」は、たんに年号や出来事を暗記するだけの学問ではありません。これまで人間がどのような経済行為を営んできたかを学ぶことによって、「現在」を生きるわれわれにとって、「未来」を紡ぐ教訓を得ることができるでしょう。そうした問題意識をもって、履修者には積極的に学ぶ姿勢を期待します。		

授業回	授業形式	授業計画	事事前事後学修（予習・復習等）	事事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	序論－経済史を学ぶ意義	【予習】事前に掲載する資料をよく読んでおいてください。 【復習】講義内容を整理し、(出席確認を兼ねた)小テストに回答してください。	4 時間
第2回	オンデマンド	経済発展段階論とその批判①	【予習】事前に掲載する資料をよく読んでおいてください。 【復習】講義内容を整理し、(出席確認を兼ねた)小テストに回答してください。	4 時間
第3回	オンデマンド	経済発展段階論とその批判②	【予習】事前に掲載する資料をよく読んでおいてください。	4 時間

			【復習】講義内容を整理し、(出席確認を兼ねた)小テストに回答してください。	
第4回	オンデマンド	市場	【予習】事前に掲載する資料をよく読んでおいてください。 【復習】講義内容を整理し、(出席確認を兼ねた)小テストに回答してください。	4 時間
第5回	オンデマンド	貨幣	【予習】事前に掲載する資料をよく読んでおいてください。 【復習】講義内容を整理し、(出席確認を兼ねた)小テストに回答してください。	4 時間
第6回	オンデマンド	資本主義と世界システム	【予習】事前に掲載する資料をよく読んでおいてください。 【復習】講義内容を整理し、(出席確認を兼ねた)小テストに回答してください。	4 時間
第7回	オンデマンド	産業革命	【予習】事前に掲載する資料をよく読んでおいてください。 【復習】講義内容を整理し、(出席確認を兼ねた)小テストに回答してください。	4 時間
第8回	オンデマンド	大企業の出現	【予習】事前に掲載する資料をよく読んでおいてください。 【復習】講義内容を整理し、(出席確認を兼ねた)小テストに回答してください。	4 時間
第9回	オンデマンド	社会主義	【予習】事前に掲載する資料をよく読んでおいてください。 【復習】講義内容を整理し、(出席確認を兼ねた)小テストに回答してください。	4 時間
第10回	オンデマンド	帝国主義の時代	【予習】事前に掲載する資料をよく読んでおいてください。 【復習】講義内容を整理し、(出席確認を兼ねた)小テストに回答してください。	4 時間
第11回	オンデマンド	大恐慌とその影響	【予習】事前に掲載する資料をよく読んでおいてください。 【復習】講義内容を整理し、(出席確認を兼ねた)小テストに回答してください。	4 時間
第12回	オンデマンド	戦後国際経済秩序	【予習】事前に掲載する資料をよく読んでおいてください。 【復習】講義内容を整理し、(出席確認を兼ねた)小テストに回答してください。	4 時間
第13回	オンデマンド	ヨーロッパの統合	【予習】事前に掲載する資料をよく読んでおいてください。 【復習】講義内容を整理し、(出席確認を兼ねた)小テストに回答してください。	4 時間
第14回	オンデマンド	アジアの経済発展	【予習】事前に掲載する資料をよく読んでおいてください。 【復習】講義内容を整理し、(出席確認を兼ねた)小テストに回答してください。	4 時間
第15回	オンデマンド	総括	【予習】事前に掲載する資料をよく読んでおいてください。 【復習】講義内容を整理し、(出席確認を兼ねた)小テストに回答してください。	4 時間

科目名	経済史Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	脇村 孝平	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	「南北問題」再考－経済格差のグローバル・ヒストリー		
授業の目的及び概要	●経済学の世界では通常、「所得分配」の問題というと、基本的には「各国内の不平等」のことを指していた。しかし、「国家間の不平等」の問題が、かつて「南北問題」という言葉で論じられていたことは、今日あまり意識されていない。少なくとも日本では 1980 年代の末ぐらいまで、ジャーナリズム、アカデミズムを問わず、この「南北問題」という用語は頻繁に使われていた。ここで言う「国家間の不平等」とは、各国家の平均所得を相互に比較した場合の所得格差を指すが、この言葉は先進国と発展途上国の経済格差を示す用語として、かつて使用頻度の高いものであった。 ●本講義では、「南北問題」という言葉を基軸にして、主に 19 世紀以降の世界経済史を、時代の変遷にしたがって、講義することにした。言い換えるならば、「グローバル格差」の世界史ということになる。		
履修条件・留意点	なし		
DP との関係	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本講義では、経済学の内部における専門領域として、国際経済学、開発経済学、経済史などの複数の分野に関わる問題を扱うことになる。様々な歴史的な事象を通して、これらの各分野の基本的な概念や理論について学んでもらい、知識として身に付けてもらうことが目標となる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・電子メールを使用して、質問等を受けつける。それらに対して、適宜お答えする。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし	ISBN	なし
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）	0	
	その他の内容	なし	
この科目の受講にあたって	・歴史の講義であるが、本講義の最終目的は、現代の世界世界が直面している諸問題のうち、特に重要かつ深刻な問題である「グローバル格差（global inequality）」の問題を取り上げ、それを歴史的視野の中で考察することを目的としている。1990 年代から進んできたグローバル化の進行の中で、かつて発展途上国と呼ばれた国々のうちで大きく経済発展を進めた国々が存在する一方で、その波に必ずしも乗れなかった国々や、あるいは経済発展を顕著に進めつつもその国の内部で巨大な経済格差が進行した国々など、「グローバル格差」の様相は複雑である。本講義では、こうした世界経済の様相をできるだけ、分かりやすく説明することに努めたい。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	「南北問題」再考－アジアを中心に考える	【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習したうえで、Learning Portal のテスト欄に設定した設問に答えてください。	2 時間
第2回	対面	経済発展とは何か？	【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習したうえで、Learning Portal のテスト欄に設定した設問に答えてください。	2 時間
第3回	対面	貧困と格差・不平等	【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習したうえで、Learning Portal のテスト欄に設定した設問に答えてください。	2 時間
第4回	対面	貿易と国際分業－19 世紀の世界経済	【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習したうえで、Learning Portal のテスト欄に設定した設問に答えてください。	2 時間
第5回	対面	19 世紀のアジア－アジア間貿易を中心に	【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習したうえで、Learning Portal のテスト欄に設定した設問に答えてください。	2 時間
第6回	対面	両大戦間期のアジア－輸入代替工業化の開始	【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習したうえで、Learning Portal のテスト欄に設定した設問に答えてください。	2 時間
第7回	対面	脱植民地化の時代－1950 年代・1960 年代	【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習したうえで、Learning Portal のテスト欄に設定した設問に答えてください。	2 時間
第8回	対面	輸入代替工業化と援助－インドの場合	【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習したうえで、Learning Portal のテスト欄に設定した設問に答えてください。	2 時間
第9回	対面	新国際分業－1970 年代・1980 年代のアジア経済	【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習したうえで、Learning Portal のテスト欄に設定した設問に答えてください。	2 時間
第10回	対面	世界市場への復帰－中国とインドの 1980 年代・1990 年代	【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習したうえで、Learning Portal のテスト欄に設定した設問に答えてください。	2 時間
第11回	対面	グローバル化(1)－直接投資	【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習したうえで、Learning Portal のテスト欄に設定した設問に答えてください。	2 時間
第12回	対面	グローバル化(2)－GVC	【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習したうえで、Learning Portal のテスト欄に設定した設問に答えてください。	2 時間
第13回	対面	エレファント・カーブと「南北問題」の収束	【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習したうえで、Learning Portal のテスト欄に設定した設問に答えてください。	2 時間
第14回	対面	逆グローバル化	【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習したうえで、Learning Portal のテスト欄に設定した設問に答えてください。	2 時間
第15回	オンデマンド	「南北問題」再考－未来を考える	【復習】講義資料（授業中に配布した資料）を復習したうえで、Learning Portal のテスト欄に設定した設問に答えてください。	6 時間

科目名	経済史Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	北西 正人	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	地域別経済史—日本・ヨーロッパ・アジア・アフリカ—		
授業の目的及び概要	日本やヨーロッパ，アジア，アフリカの経済環境がどのように変容して現在に至っているのかを概観する。本講座を通じて，各地域の特性や歴史的背景を理解し，社会において必要となるであろうグローバルな視点を獲得できるようにする。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	日本やヨーロッパ，アジア，アフリカにおける大まかな経済発展の流れを説明できるようにする。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業期間中のレポートについて，有意義と認められるものは講義内で講評する。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特に指定しない。	ISBN	—
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	60	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	40	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事件事後学修（予習・復習等）	事件事後の学修時間
第1回	オンデマンド	日本経済の変容(1)	【予習】事前に掲載する資料をよく読んでおいてください。 【復習】講義内容を整理し、(出席確認を兼ねた)小テストに回答してください。	4 時間
第2回	オンデマンド	日本経済の変容(2)	【予習】事前に掲載する資料をよく読んでおいてください。 【復習】講義内容を整理し、(出席確認を兼ねた)小テストに回答してください。	4 時間
第3回	オンデマンド	日本経済の変容(3)	【予習】事前に掲載する資料をよく読んでおいてください。 【復習】講義内容を整理し、(出席確認を兼ねた)小テストに回答してください。	4 時間

第4回	オンデマンド	日本経済の変容(4)	【予習】事前に掲載する資料をよく読んでおいてください。 【復習】講義内容を整理し、(出席確認を兼ねた)小テストに回答してください。	4 時間
第5回	オンデマンド	ヨーロッパ経済の展開(1)	【予習】事前に掲載する資料をよく読んでおいてください。 【復習】講義内容を整理し、(出席確認を兼ねた)小テストに回答してください。	4 時間
第6回	オンデマンド	ヨーロッパ経済の展開(2)	【予習】事前に掲載する資料をよく読んでおいてください。 【復習】講義内容を整理し、(出席確認を兼ねた)小テストに回答してください。	4 時間
第7回	オンデマンド	ヨーロッパ経済の展開(3)	【予習】事前に掲載する資料をよく読んでおいてください。 【復習】講義内容を整理し、(出席確認を兼ねた)小テストに回答してください。	4 時間
第8回	オンデマンド	ヨーロッパ経済の展開(4)	【予習】事前に掲載する資料をよく読んでおいてください。 【復習】講義内容を整理し、(出席確認を兼ねた)小テストに回答してください。	4 時間
第9回	オンデマンド	アジア経済圏の連関(1)	【予習】事前に掲載する資料をよく読んでおいてください。 【復習】講義内容を整理し、(出席確認を兼ねた)小テストに回答してください。	4 時間
第10回	オンデマンド	アジア経済圏の連関(2)	【予習】事前に掲載する資料をよく読んでおいてください。 【復習】講義内容を整理し、(出席確認を兼ねた)小テストに回答してください。	4 時間
第11回	オンデマンド	アジア経済圏の連関(3)	【予習】事前に掲載する資料をよく読んでおいてください。 【復習】講義内容を整理し、(出席確認を兼ねた)小テストに回答してください。	4 時間
第12回	オンデマンド	アフリカの経済発展(1)	【予習】事前に掲載する資料をよく読んでおいてください。 【復習】講義内容を整理し、(出席確認を兼ねた)小テストに回答してください。	4 時間
第13回	オンデマンド	アフリカの経済発展(2)	【予習】事前に掲載する資料をよく読んでおいてください。 【復習】講義内容を整理し、(出席確認を兼ねた)小テストに回答してください。	4 時間
第14回	オンデマンド	アフリカの経済発展(3)	【予習】事前に掲載する資料をよく読んでおいてください。 【復習】講義内容を整理し、(出席確認を兼ねた)小テストに回答してください。	4 時間
第15回	オンデマンド	総括	【予習】第1回～第14回の講義で学習した内容をよく確認おいてください。 【復習】講義内容を整理し、(出席確認を兼ねた)小テストに回答してください。	4 時間

科目名	経済数学 I		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	篠田 太郎		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	一変数関数の微分法と経済学への応用			
授業の目的及び概要	本科目では、経済学で必要となる数学について学修します。前半では1次関数や2次関数の式とグラフの関係を学び、需要曲線や供給曲線と市場均衡、利潤最大化問題といった経済学の最重要概念との結びつきを理解します。後半では指数の扱いに加えて、経済学において欠かせない微分法を学びます。これにより経済学における「限界」の概念を理解するとともに、より幅広い最適化問題を解けるようになることを目指します。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	一変数関数の微分法を習得してそれを経済学に応用し、グラフの概形を描くことや利潤最大化問題を解くことができるようになることを目指します。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	（ほぼ）毎回の提出課題および中間試験について、講義中に解説や講評を行います。			
アクティブ・ラーニングの取組み				
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	①改訂版 経済学で出る数学：高校数学からきちんと攻める，尾山大輔・安田洋祐，日本評論社，2013 年 テキストの内容を資料としてまとめて使用するため、毎回持ってくる必要はありませんが、必要に応じて指定したページの問題を解かせることがあります。	ISBN	①ISBN：978-4535556591	
参考書	①経済学のための数学入門，浦井憲・神谷和也，東京大学出版，2019 年 ②現代経済学の数学基礎 [第4版] (上)，A.C. チャン・K. ウェインライト，CAP 出版，2020 年 ③現代経済学の数学基礎 [第4版] (下)，A.C. チャン・K. ウェインライト，CAP 出版，2020 年	ISBN	①ISBN：978-4130091350 ②ISBN：978-4779160042 ③ISBN：978-4779160059	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	25		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	40		
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	本講義は「数学が苦手な学生」を想定して進行します。そのため、高校までの数学が得意だった学生には履修を推奨しません。また講義の中でも外でも、とにかく「手を動かす」、すなわち計算をする、グラフを描くなどの作業を多く求めます。手を動かさない学生は十分な習得ができず、また単位に合格することもできませんので、ご注意ください。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	ガイダンスと前提知識の整理	【予習】事前にシラバスによく目を通し、自身の高校までの数学の理解度を振り返ってください。(2時間程度) 【復習】シラバスを読み直し、講義の前提となる知識を確認してください。(2時間程度)	4 時間
第2回	対面	関数とグラフ	【予習】「関数とグラフ」に関する配布資料・テキストを事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「関数とグラフ」に関する配布資料を読み直し、問題を解いてください。(2時間程度)	4 時間
第3回	対面	1次関数と市場均衡	【予習】「1次関数と市場均衡」に関する配布資料・テキストを事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「1次関数と市場均衡」に関する配布資料を読み直し、問題を解いてください。(2時間程度)	4 時間
第4回	対面	2次関数の導入	【予習】「2次関数の導入」に関する配布資料・テキストを事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「2次関数の導入」に関する配布資料を読み直し、問題を解いてください。(2時間程度)	4 時間
第5回	対面	2次関数の最大・最小	【予習】「2次関数の最大・最小」に関する配布資料・テキストを事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「2次関数の最大・最小」に関する配布資料を読み直し、問題を解いてください。(2時間程度)	4 時間
第6回	対面	2次関数と利潤最大化問題	【予習】「2次関数と利潤最大化問題」に関する配布資料・テキストを事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「2次関数と利潤最大化問題」に関する配布資料を読み直し、問題を解いてください。(2時間程度)	4 時間
第7回	対面	第2回から第6回までの復習	【予習】第2回から第6回までの配布資料・テキストを事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】第2回から第6回までの配布資料を読み直し、中間試験の対策問題を解いてください。(2時間程度)	4 時間
第8回	対面	中間試験	【予習】中間試験の対策問題を解いてください。(2時間程度) 【復習】解けなかった問題に関連する配布資料を読み直ししてください。(2時間程度)	4 時間
第9回	対面	指数の計算	【予習】「指数の計算」に関する配布資料・テキストを事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「指数の計算」に関する配布資料を読み直し、問題を解いてください。(2時間程度)	4 時間
第10回	対面	微分の導入	【予習】「微分の導入」に関する配布資料・テキストを事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「微分の導入」に関する配布資料を読み直し、問題を解いてください。(2時間程度)	4 時間
第11回	対面	微分と関数の増減	【予習】「微分と関数の増減」に関する配布資料・テキストを事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「微分と関数の増減」に関する配布資料を読み直し、問題を解いてください。(2時間程度)	4 時間
第12回	対面	微分と3次関数	【予習】「微分と3次関数」に関する配布資料・テキストを事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「微分と3次関数」に関する配布資料を読み直し、問題を解いてください。(2時間程度)	4 時間
第13回	対面	微分と経済学	【予習】「微分と経済学」に関する配布資料・テキストの該当部分を事前に読んで解いてください。(2時	4 時間

			間程度) 【復習】「微分と経済学」に関する配布資料を読み直し、テキストの指定問題を解いてください。(2時間程度)	
第14回	対面	第9回から第13回までの復習	【予習】第9回から第13回までの配布資料・テキストを事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】第9回から第13回までの配布資料を読み直し、定期試験の対策問題を解いてください。(2時間程度)	4時間
第15回	オンデマンド	講義内容の総まとめ	【予習】これまでの講義の配布資料・テキストを確認し、振り返りを行ってください。(2時間程度) 【復習】これまでの講義の配布資料を読み直し、解けなかった問題を復習してください。(2時間程度)	4時間

科目名	経済数学 I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	前田 一樹	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	一変数関数の微分法と経済学への応用		
授業の目的及び概要	本科目では、経済学で必要となる数学について学修します。前半では 1 次関数や 2 次関数の式とグラフの関係を学び、需要曲線や供給曲線、市場均衡、利潤最大化問題といった経済学の最重要概念との結びつきを理解します。後半では指数の扱いに加えて、経済学において欠かせない微分法を学びます。これにより経済学における「限界」の概念を理解するとともに、より幅広い最適化問題を解けるようになることを目指します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 1 次関数の傾き・切片とグラフの関係を理解し、それを需要曲線や供給曲線などの経済学の基本概念に応用して説明できる。 2. 市場均衡、消費者余剰・生産者余剰、価格規制による死荷重などを数式とグラフを用いて分析できる。 3. 指数・対数や微分の基本的な計算を理解し、微分を用いて利潤最大化問題などの経済学における最適化問題を解くことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の提出課題について、次回授業で解説等のフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	教科書は指定しません。授業内で配付する資料に基づき、講義を進めます。	ISBN	なし
参考書	①改訂版 経済学で出る数学：高校数学からきちんと攻める，尾山大輔・安田洋祐，日本評論社，2013 年 ②経済学のための数学入門，浦井憲・神谷和也，東京大学出版，2019 年 ③現代経済学の数学基礎 [第 4 版] (上)，A.C. チャン・K. ウェインライト，CAP 出版，2020 年 ④現代経済学の数学基礎 [第 4 版] (下)，A.C. チャン・K. ウェインライト，CAP 出版，2020 年	ISBN	①9784788920484 ②9784130091350 ③9784779160042 ④9784779160059
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	本講義は、「数学が苦手な学生」を想定して進めます。そのため、高校までの数学が得意だった学生にとっては、内容が基礎的に感じられる可能性があります。また、本講義では講義の内外を問わず、「手を動かす」ことを重視します。具体的には、計算を行うことやグラフを描くことなどの作業に積極的に取り組むことを求めます。これらの取り組みを十分に行わない場合、本		

講義の内容を習得することが難しくなる可能性があるため、注意してください。

授業回	授業形式	授業計画	事事前事後学修（予習・復習等）	事事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	ガイダンスと前提知識の整理	シラバス・配布資料を事前によく読み、今後の学修計画を検討してください。また、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4時間
第2回	オンデマンド	関数と変数，グラフ	授業で解説された専門用語を中心に，語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に，関数・グラフについて，授業中に示した問題が自身で解けるように何度も復習してください。	4時間
第3回	オンデマンド	1次関数の連立方程式と市場均衡	授業で解説された専門用語を中心に，語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に，1次関数・市場均衡について，授業中に示した問題が自身で解けるように何度も復習してください。	4時間
第4回	オンデマンド	2次関数とトレードオフ	授業で解説された専門用語を中心に，語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に，2次関数について，授業中に示した問題が自身で解けるように何度も復習してください。	4時間
第5回	オンデマンド	寡占市場とゲーム理論	授業で解説された専門用語を中心に，語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に，寡占市場について，授業中に示した問題が自身で解けるように何度も復習してください。	4時間
第6回	オンデマンド	複利計算と累乗	授業で解説された専門用語を中心に，語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に，複利計算・累乗について，授業中に示した問題が自身で解けるように何度も復習してください。	4時間
第7回	オンデマンド	対数の計算	授業で解説された専門用語を中心に，語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に，対数について，授業中に示した問題が自身で解けるように何度も復習してください。	4時間
第8回	オンデマンド	等比数列と数列の極限	授業で解説された専門用語を中心に，語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に，等比数列・数列の極限について，授業中に示した問題が自身で解けるように何度も復習してください。	4時間
第9回	オンデマンド	貯蓄と級数	授業で解説された専門用語を中心に，語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に，貯蓄と級数について，授業中に示した問題が自身で解けるように何度も復習してください。	4時間
第10回	オンデマンド	微分と関数の増減	授業で解説された専門用語を中心に，語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に，関数の増減・微分について，授業中に示した問題が自身で解けるように何度も復習してください。	4時間
第11回	オンデマンド	微分公式に基づく計算	授業で解説された専門用語を中心に，語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に，微分公式について，授業中に示した問題が自身で解けるように何度も復習してください。	4時間
第12回	オンデマンド	微分と経済学の関係性	授業で解説された専門用語を中心に，語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に，微分について，授業中に示した問題が自身で解けるように何度も復習してください。	4時間
第13回	オンデマンド	微分と最適化①	授業で解説された専門用語を中心に，語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に，最適化問題について，授業中に示した問題が自身で解けるように何度も復習してください。	4時間
第14回	オンデマンド	微分と最適化②	授業で解説された専門用語を中心に，語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に，最	4時間

2026/05/01

	マンド		適化問題について，授業中に示した問題が自身で解けるように何度も復習してください。	
第15回	オンデマンド	講義内容の総まとめ	授業で示されたポイントを復習し，学期末レポートに備えて総復習してください。	4時間

科目名	経済数学Ⅱ		開講年度	2026 年度春学期
担当者	篠田 太郎		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G3		授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	多変数関数の微分法など、経済学で使用する数学を学びます			
授業の目的及び概要	本科目では、経済学で必要となる数学について学修します。前半では指数の計算や微分の復習を行ったあと、偏微分を学ぶことで多変数関数の解析を理解します。後半では積分の計算のあと、本講義の到達目標であるラグランジュの未定乗数法を学び、多変数関数の制約付き最適化問題を解けるようになることを目指します。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	多変数関数の解析を習得してそれを経済学に応用し、複雑な最適化問題を解くことができるようになることを目指します。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	（ほぼ）毎回の提出課題および中間試験について、講義中に解説や講評を行います。			
アクティブ・ラーニングの取り組み				
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	①改訂版 経済学で出る数学：高校数学からきちんと攻める，尾山大輔・安田洋祐，日本評論社，2013 年	ISBN	①9784535556591	
参考書	①経済学のための数学入門，浦井憲・神谷和也，東京大学出版，2019 年 ②現代経済学の数学基礎 [第 4 版] (上)，A.C. チャン・K. ウェインライト，CAP 出版，2020 年 ③現代経済学の数学基礎 [第 4 版] (下)，A.C. チャン・K. ウェインライト，CAP 出版，2020 年	ISBN	①9784130091350 ②9784779160042 ③9784779160059	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	15		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	25		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	40		
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	本講義は「経済数学Ⅰを履修、合格した学生」「高校時代に数学が得意だった学生」を想定して進行します。そのため、経済数学Ⅰの単位が取れなかった、もしくは高校までの数学が苦手だった学生には履修を推奨しません。また講義の中でも外でも、とにかく「手を動かす」、すなわち計算をする、グラフを描くなどの作業を多く求めます。手を動かさない学生は十分な習得ができず、また単位に合格することもできませんので、ご注意ください。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	ガイダンスと前提知識の整理	【予習】事前にシラバスによく目を通し、自身の数学の理解度を振り返ってください。（2 時間程度） 【復習】シラバスを読み直し、講義の前提となる知識	4 時間

			を確認してください。(2時間程度)	
第2回	対面	指数の計算	【予習】「指数の計算」に関する配布資料・テキストを事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「指数の計算」に関する配布資料を読み直し、問題を解いてください。(2時間程度)	4時間
第3回	対面	微分の計算	【予習】「微分の計算」に関する配布資料・テキストを事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「微分の計算」に関する配布資料を読み直し、問題を解いてください。(2時間程度)	4時間
第4回	対面	微分と関数の増減	【予習】「微分と関数の増減」に関する配布資料・テキストを事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「微分と関数の増減」に関する配布資料を読み直し、問題を解いてください。(2時間程度)	4時間
第5回	対面	偏微分の計算	【予習】「偏微分の計算」に関する配布資料・テキストを事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「偏微分の計算」に関する配布資料を読み直し、問題を解いてください。(2時間程度)	4時間
第6回	対面	偏微分と利潤最大化問題	【予習】「偏微分と利潤最大化問題」に関する配布資料・テキストを事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「偏微分と利潤最大化問題」に関する配布資料を読み直し、問題を解いてください。(2時間程度)	4時間
第7回	対面	第2回から第6回までの復習	【予習】第2回から第6回までの配布資料・テキストを事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】第2回から第6回までの配布資料を読み直し、中間試験の対策問題を解いてください。(2時間程度)	4時間
第8回	対面	中間試験	【予習】中間試験の対策問題を解いてください。(2時間程度) 【復習】解けなかった問題に関連する配布資料を読み直してください。(2時間程度)	4時間
第9回	対面	積分の計算	【予習】「積分の計算」に関する配布資料・テキストを事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「積分の計算」に関する配布資料を読み直し、問題を解いてください。(2時間程度)	4時間
第10回	対面	効用最大化問題	【予習】「効用最大化問題」に関する配布資料・テキストを事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「効用最大化問題」に関する配布資料を読み直し、問題を解いてください。(2時間程度)	4時間
第11回	対面	ラグランジュの未定乗数法	【予習】「ラグランジュの未定乗数法」に関する配布資料・テキストを事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「ラグランジュの未定乗数法」に関する配布資料を読み直し、問題を解いてください。(2時間程度)	4時間
第12回	対面	需要関数の導出	【予習】「需要関数の導出」に関する配布資料・テキストを事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「需要関数の導出」に関する配布資料を読み直し、問題を解いてください。(2時間程度)	4時間
第13回	対面	全微分の計算と対数の計算	【予習】「全微分の計算と対数の計算」に関する配布資料・テキストを事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「全微分の計算と対数の計算」に関する配布資料を読み直し、問題を解いてください。(2時間程度)	4時間
第14回	対面	第9回から第13回までの復習	【予習】第9回から第13回までの配布資料・テキス	4時間

			トを事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】第9回から第13回までの配布資料を読み直し、定期試験の対策問題を解いてください。(2時間程度)	
第15回	オンデマンド	講義内容の総まとめ	【予習】これまでの講義の配布資料・テキストを確認し、振り返りを行ってください。(2時間程度) 【復習】これまでの講義の配布資料を読み直し、解けなかった問題を復習してください。(2時間程度)	4時間

科目名	経済統計学Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	内海 正郎	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	記述統計の基礎		
授業の目的及び概要	本講義では経済現象の分析に用いられる統計の知識を身に着ける事を目的としています。春学期開講の経済統計学Ⅰでは、調査対象のデータから傾向や特徴を見出す記述統計学の基礎を学びます。秋学期開講の経済統計学Ⅱでは推測統計学の基礎を学びます。これらを合わせて履修する事によって、経済統計学の基礎を一通り学ぶ事ができます。経済統計学の知識を身に着ける事により、現実の統計データが分析できるようになります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	度数分布表やヒストグラムの作成、データ集団の整理や分析を行える知識を身に着ける事を目標とします。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中に解説を行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	はじめての統計学、鳥居泰彦、日本経済新聞出版社、1994 年	ISBN	ISBN：9784532130749
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	70	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	科目の性質上、数学の知識が不可欠な部分もありますが、極力平易に解説していきます。予習復習をしっかりとこなして計算に慣れてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	初回ガイダンスで講義の進め方、試験や成績評価について説明を行い、統計学の概要を紹介する。	【予習】シラバスをよく読み、指定教科書に目を通しておく事。（2 時間程度）。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください（1 時間程度）。	3 時間
第 2 回	対面	度数分布表およびヒストグラムについての解説する。	【予習】テキスト 1～9 ページまで読み込んでおく事。（1 時間程度）。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください（2 時間程度）。	3 時間
第 3 回	対面	確率、確率分布について解説する。	【予習】テキスト 10～14 ページまで読み込んでおく	3 時間

			事。(1時間程度)。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください(2時間程度)。	
第4回	対面	母集団、及び標本の概念について解説する。	【予習】テキスト15～31ページまで読み込んでおく事。(2時間程度)。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください(2時間程度)。	4時間
第5回	対面	階級データ及び、ヒストグラムの作成について解説する。	【予習】テキスト33～36ページまで読み込んでおく事。また、37～42ページまでの演算を取り扱う補論の内容も確認しておく事。(1時間程度)。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください(2時間程度)。	3時間
第6回	対面	平均値、中央値、最頻値の概念を解説し、値を算出する計算を行う。	【予習】テキスト49～62ページまで読み込んでおく事。(2時間程度)。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください(2時間程度)。	4時間
第7回	対面	分散、標準偏差、変動係数の概念を解説し、値を算出する計算を行う。	【予習】テキスト63～71ページまで読み込んでおく事。(2時間程度)。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください(2時間程度)。	4時間
第8回	対面	中間試験。 試験問題と類似した模擬問題を用いて解法の解説を行う。 試験はオンラインで提出を求める。	【予習】これまでに学習した内容を復習しておく事。(2時間程度)。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください(2時間程度)。	4時間
第9回	対面	階乗、順列、組合せの概念を解説し、値を算出する計算を行う。 また、中間試験の解説を行う。	【予習】テキスト77～87ページまで読み込んでおく事。(2時間程度)。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください(2時間程度)。	4時間
第10回	対面	確率変数について解説する。	【予習】テキスト88～92ページまで読み込んでおく事。(2時間程度)。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください(2時間程度)。	4時間
第11回	対面	二項分布について解説する。	【予習】テキスト93～99ページまで読み込んでおく事。(3時間程度)。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください(2時間程度)。	5時間
第12回	対面	ポアソン分布について解説する。	【予習】テキスト100～106ページまで読み込んでおく事。(3時間程度)。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください(2時間程度)。	5時間
第13回	対面	一様分布について解説する。	【予習】テキスト107～110ページまで読み込んでおく事。(3時間程度)。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください(2時間程度)。	5時間
第14回	対面	正規分布について解説する。	【予習】テキスト111～117ページまで読み込んでおく事。(3時間程度)。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください(2時間程度)。	5時間
第15回	オンデマンド	正規分布の標準化について解説し、計算を行う。	【予習】テキスト118～124ページまで読み込んでおく事。(3時間程度)。 【復習】これまでの配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を総復習してください(3時間程度)。	6時間

科目名	経済統計学Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	前田 一樹	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	統計学に関する基本的な概念や知識の習得		
授業の目的及び概要	本科目は、「統計学」の学修をはじめると必要最低限の知識を修得し、統計検定 4 級の合格を目指す科目です。 統計学はビジネスや公務員（行政）の現場でも今後必須となる能力であり、マスターすれば市場調査や投資判断、政策立案などデータに基づき意思決定を行うことができます。このためには、統計学特有の「専門用語」や、考え方・概念の理解、初歩的な計算スキルが重要です。そこで、本科目では初めて統計学を学ぶ方に向けて、初歩から着実に一連の統計学に関する知識を学びます。 さらに、統計検定 4 級で出題された過去問に基づく問題演習・解説を通じて、統計検定 4 級の合格に必要な知識を身につけることができます。		
履修条件・留意点	履修上の留意点 ・本科目と同時に開講される「経済統計学Ⅱ」と連動しているため、両方の科目を必ず履修すること。 ・統計検定 4 級の受験は学期末に実施します。申し込み等の詳細は随時授業内でアナウンスします。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. データの種類、標本調査、統計グラフ、度数分布表・ヒストグラム、代表値、分布の散らばりの尺度、クロス集計表、確率などの統計学の基礎概念を理解し、説明できる。 2. 統計学の用語を正しく使いこなし、統計的な思考ができる。 3. 統計検定 4 級の試験範囲を網羅し、合格に必要な知識と計算能力を修得する。		
資格・検定試験への対応	統計検定 4 級：7 月の試験での合格を目指します。		
フィードバックの方法	・毎回の提出課題について、次回授業で解説等のフィードバックを行います。 ・中間試験について、講評等のフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①統計検定 3 級・4 級 公式問題集, 日本統計学会[編], 実務教育出版, 2023 年	ISBN	①9784788920484
参考書	必要がある場合、授業中に適宜紹介します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	30	
	その他（％）	30	
	その他の内容	統計検定 4 級の得点	
この科目の受講にあたって	統計学の知識は、計量経済学といったより深い経済学の内容を理解するうえでも重要です。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス・統計的問題解決の方法・データの種類の把握する	シラバス・配布資料を事前によく読み、今後の学修計画を検討してください。また、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第2回	対面	基本的なグラフの見方・読み方	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、基本的なグラフについて、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第3回	対面	質的データの分析	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、質的データの分析方法について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第4回	対面	量的データの分析	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、量的データについて、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第5回	対面	グラフ、量・質的データに関する総復習	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。これまでの授業回で登場した演習問題で苦手だと感じる部分について、特に時間をかけて復習してください。	4 時間
第6回	対面	データの代表値	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、データの代表値について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第7回	対面	時系列データの基本的な見方	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、時系列データの基本的な見方について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第8回	対面	確率の基礎①	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、確率について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第9回	対面	確率の基礎②	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、確率について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第10回	対面	標本調査の知識	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、標本調査について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。中間試験に向けて復習を行ってください。	4 時間
第11回	対面	中間試験	中間試験に向けてこれまでの内容を復習してください。また、試験後は中間試験の問題を振り返ってください。	4 時間
第12回	対面	過去問演習①	授業で示されたポイントを中心に、資格試験・定期試験に備えて復習してください。	6 時間
第13回	対面	過去問演習②	授業で示されたポイントを中心に、資格試験・定期試験に備えて復習してください。	6 時間
第14回	対面	総復習	授業で示されたポイントを中心に、資格試験・定期試験に備えて総復習してください。	4 時間
第15回	オンデマンド	統計学に必要な数学補習	授業で示されたポイントを中心に、資格試験・定期試験に備えて総復習してください。	4 時間

科目名	経済統計学Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	渡邊 祐作	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	統計学に関する基本的な概念や知識の習得		
授業の目的及び概要	本科目は、「統計学」の学修をはじめると必要最低限の知識を修得し、統計検定 4 級の合格を目指す科目です。 統計学はビジネスや公務員（行政）の現場でも今後必須となる能力であり、マスターすれば市場調査や投資判断、政策立案などデータに基づき意思決定を行うことができます。このためには、統計学特有の「専門用語」や、考え方・概念の理解、初歩的な計算スキルが重要です。そこで、本科目では初めて統計学を学ぶ方に向けて、初歩から着実に一連の統計学に関する知識を学びます。 さらに、統計検定 4 級で出題された過去問に基づく問題演習・解説を通じて、統計検定 4 級の合格に必要な知識を身につけることができます。		
履修条件・留意点	履修上の留意点 ・本科目と同時に開講される「経済統計学Ⅱ」と連動しているため、両方の科目を必ず履修すること。 ・統計検定 4 級の受験は学期末に実施します。申し込み等の詳細は随時授業内でアナウンスします。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. データの種類、標本調査、統計グラフ、度数分布表・ヒストグラム、代表値、分布の散らばりの尺度、クロス集計表、確率などの統計学の基礎概念を理解し、説明できる。 2. 統計学の用語を正しく使いこなし、統計的な思考ができる。 3. 統計検定 4 級の試験範囲を網羅し、合格に必要な知識と計算能力を修得する。		
資格・検定試験への対応	統計検定 4 級：7 月の試験での合格を目指します。		
フィードバックの方法	・毎回の提出課題について、次回授業で解説等のフィードバックを行います。 ・中間試験について、講評等のフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①統計検定 3 級・4 級 公式問題集, 日本統計学会[編], 実務教育出版, 2023 年	ISBN	①9784788920484
参考書	必要がある場合、授業中に適宜紹介します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	30	
	その他（％）	30	
	その他の内容	統計検定 4 級の得点	
この科目の受講にあたって	統計学の知識は、計量経済学といったより深い経済学の内容を理解するうえでも重要です。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス・統計的問題解決の方法・データの種類を把握する	シラバス・配布資料を事前によく読み、今後の学修計画を検討してください。また、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4時間
第2回	対面	基本的なグラフの見方・読み方	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、基本的なグラフについて、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4時間
第3回	対面	質的データの分析	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、質的データの分析方法について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4時間
第4回	対面	量的データの分析	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、量的データについて、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4時間
第5回	対面	グラフ、量・質的データに関する総復習	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。これまでの授業回で登場した演習問題で苦手だと感じる部分について、特に時間をかけて復習してください。	4時間
第6回	対面	データの代表値	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、データの代表値について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4時間
第7回	対面	時系列データの基本的な見方	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、時系列データの基本的な見方について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4時間
第8回	対面	確率の基礎①	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、確率について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4時間
第9回	対面	確率の基礎②	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、確率について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4時間
第10回	対面	標本調査の知識	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、標本調査について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。中間試験に向けて復習を行ってください。	4時間
第11回	対面	中間試験	中間試験に向けてこれまでの内容を復習してください。また、試験後は中間試験の問題を振り返ってください。	4時間
第12回	対面	過去問演習①	授業で示されたポイントを中心に、資格試験・定期試験に備えて復習してください。	6時間
第13回	対面	過去問演習②	授業で示されたポイントを中心に、資格試験・定期試験に備えて復習してください。	6時間
第14回	対面	総復習	授業で示されたポイントを中心に、資格試験・定期試験に備えて総復習してください。	4時間
第15回	オンデマンド	統計学に必要な数学補習	授業で示されたポイントを中心に、資格試験・定期試験に備えて総復習してください。	4時間

科目名	経済統計学Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	楊 倩倩	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	統計学に関する基本的な概念や知識の習得		
授業の目的及び概要	本科目は、「統計学」の学修をはじめると必要最低限の知識を修得し、統計検定 4 級の合格を目指す科目です。 統計学はビジネスや公務員（行政）の現場でも今後必須となる能力であり、マスターすれば市場調査や投資判断、政策立案などデータに基づき意思決定を行うことができます。このためには、統計学特有の「専門用語」や、考え方・概念の理解、初歩的な計算スキルが重要です。そこで、本科目では初めて統計学を学ぶ方に向けて、初歩から着実に一連の統計学に関する知識を学びます。 さらに、統計検定 4 級で出題された過去問に基づく問題演習・解説を通じて、統計検定 4 級の合格に必要な知識を身につけることができます。		
履修条件・留意点	履修上の留意点 ・本科目と同時に開講される「経済統計学Ⅱ」と連動しているため、両方の科目を必ず履修すること。 ・統計検定 4 級の受験は学期末に実施します。申し込み等の詳細は随時授業内でアナウンスします。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. データの種類、標本調査、統計グラフ、度数分布表・ヒストグラム、代表値、分布の散らばりの尺度、クロス集計表、確率などの統計学の基礎概念を理解し、説明できる。 2. 統計学の用語を正しく使いこなし、統計的な思考ができる。 3. 統計検定 4 級の試験範囲を網羅し、合格に必要な知識と計算能力を修得する。		
資格・検定試験への対応	統計検定 4 級：7 月の試験での合格を目指します。		
フィードバックの方法	・毎回の提出課題について、次回授業で解説等のフィードバックを行います。 ・中間試験について、講評等のフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①統計検定 3 級・4 級 公式問題集, 日本統計学会[編], 実務教育出版, 2023 年	ISBN	①9784788920484
参考書	必要がある場合、授業中に適宜紹介します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	30	
	その他（％）	30	
	その他の内容	統計検定 4 級の得点	
この科目の受講にあたって	統計学の知識は、計量経済学といったより深い経済学の内容を理解するうえでも重要です。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス・統計的問題解決の方法・データの種類を把握する	シラバス・配布資料を事前によく読み、今後の学修計画を検討してください。また、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第2回	対面	基本的なグラフの見方・読み方	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、基本的なグラフについて、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第3回	対面	質的データの分析	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、質的データの分析方法について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第4回	対面	量的データの分析	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、量的データについて、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第5回	対面	グラフ、量・質的データに関する総復習	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。これまでの授業回で登場した演習問題で苦手だと感じる部分について、特に時間をかけて復習してください。	4 時間
第6回	対面	データの代表値	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、データの代表値について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第7回	対面	時系列データの基本的な見方	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、時系列データの基本的な見方について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第8回	対面	確率の基礎①	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、確率について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第9回	対面	確率の基礎②	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、確率について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第10回	対面	標本調査の知識	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、標本調査について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。中間試験に向けて復習を行ってください。	4 時間
第11回	対面	中間試験	中間試験に向けてこれまでの内容を復習してください。また、試験後は中間試験の問題を振り返ってください。	4 時間
第12回	対面	過去問演習①	授業で示されたポイントを中心に、資格試験・定期試験に備えて復習してください。	6 時間
第13回	対面	過去問演習②	授業で示されたポイントを中心に、資格試験・定期試験に備えて復習してください。	6 時間
第14回	対面	総復習	授業で示されたポイントを中心に、資格試験・定期試験に備えて総復習してください。	4 時間
第15回	オンデマンド	統計学に必要な数学補習	授業で示されたポイントを中心に、資格試験・定期試験に備えて総復習してください。	4 時間

科目名	経済統計学Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	内海 正郎	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	推測統計の基礎		
授業の目的及び概要	本講義では経済現象の分析に用いられる統計の知識を身に着ける事を目的としています。春学期開講の経済統計学Ⅰでは、調査対象のデータから傾向や特徴を見出す記述統計学の基礎を学びます。秋学期開講の経済統計学Ⅱでは推測統計学の基礎を学びます。これらを合わせて履修する事によって、経済統計学の基礎を一通り学ぶ事ができます。経済統計学の知識を身に着ける事により、現実の統計データが分析できるようになります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	まず経済統計学Ⅰで学習した記述統計学について復習を行います。この後、区間推定や仮説検定など推測統計学の内容を学習していきます。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中に解説を行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	はじめての統計学、鳥居泰彦、日本経済新聞出版社、1994 年	ISBN	ISBN：9784532130749
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	70	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	科目の性質上、数学の知識が不可欠な部分もありますが、極力平易に解説していきます。予習復習をしっかりとこなして計算に慣れてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	初回ガイダンスで講義の進め方、試験や成績評価について説明を行い、その後講義全体の概観を説明する。	【予習】シラバスをよく読み、指定教科書に目を通しておく事（1 時間程度）。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください（1 時間程度）。	2 時間
第 2 回	対面	平均、分散、標準偏差等の概念と計算方法を解説し、演習を行う。	【予習】テキスト 49～68 ページまで読み込んでおく事（3 時間程度）。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください（1 時間程度）。	4 時間
第 3 回	対面	二項分布、ポアソン分布の概念を解説す	【予習】テキスト 79～106 ページまで読み込んでお	4 時間

		る。	く事（3時間程度）。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください（1時間程度）。	
第4回	対面	一様分布、正規分布の概念を解説する。	【予習】テキスト107～126ページまで読み込んでおく事（3時間程度）。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください（1時間程度）。	4時間
第5回	対面	信頼係数、有意水準の概念を解説する。	【予習】テキスト131～138ページまで読み込んでおく事（2時間程度）。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください（2時間程度）。	4時間
第6回	対面	標本平均について解説する。	【予習】テキスト139～144ページまで読み込んでおく事（2時間程度）。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください（2時間程度）。	4時間
第7回	対面	母平均の区間推定について解説する。	【予習】テキスト145～150ページまで読み込んでおく事（2時間程度）。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください（2時間程度）。	4時間
第8回	対面	中間試験。 試験問題と類似した模擬問題を用いて解法の解説を行う。 試験はオンラインで提出を求める。	【予習】これまでに学習した内容を復習しておく事（2時間程度）。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください（1時間程度）。	3時間
第9回	対面	t分布について解説する。 また、中間試験の解説を行う。	【予習】テキスト155～160ページまで読み込んでおく事（2時間程度）。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください（2時間程度）。	4時間
第10回	対面	前回に引き続きt分布について解説する。 また、応用問題を用いて演習を行う。	【予習】テキストの前の範囲、及び講義内容をよく復習しておく事（2時間程度）。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください（2時間程度）。	4時間
第11回	対面	母平均の推定について解説する。	【予習】テキスト162～169ページまで読み込んでおく事（2時間程度）。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください（2時間程度）。	4時間
第12回	対面	前回に引き続き母平均の推定について解説する。また、応用問題を用いて演習を行う。	【予習】テキストの前の範囲を復習しておく事。及び章末問題に挑戦しておく事（3時間程度）。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください（2時間程度）。	5時間
第13回	対面	仮説検定の基本的な概念を解説する。	【予習】テキスト191～196ページまで読み込んでおく事（3時間程度）。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください（2時間程度）。	5時間
第14回	対面	前回に引き続き仮説検定について解説する。	【予習】テキスト197～203ページまで読み込んでおく事（3時間程度）。 【復習】配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を確認してください（2時間程度）。	5時間
第15回	オンデマンド	定期試験と類似した模擬問題を用いて解法の解説を行う。	【予習】前回の講義内容を復習しておく事（3時間程度）。 【復習】これまでの配布プリント、ノートを読み直し、講義で得た知識を総復習してください（3時間程度）。	6時間

科目名	経済統計学Ⅱ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	楊 倩倩	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	統計学に関する基本的な概念や知識の習得		
授業の目的及び概要	本科目は、「統計学」の学修をはじめると必要最低限の知識を修得し、統計検定 4 級の合格を目指す科目です。 統計学はビジネスや公務員（行政）の現場でも今後必須となる能力であり、マスターすれば市場調査や投資判断、政策立案などデータに基づき意思決定を行うことができます。このためには、統計学特有の「専門用語」や、考え方・概念の理解、初歩的な計算スキルが重要です。そこで、本科目では初めて統計学を学ぶ方に向けて、初歩から着実に一連の統計学に関する知識を学びます。 さらに、統計検定 4 級で出題された過去問に基づく問題演習・解説を通じて、統計検定 4 級の合格に必要な知識を身につけることができます。		
履修条件・留意点	履修上の留意点 ・本科目と同時に開講される「経済統計学Ⅰ」と連動しているため、両方の科目を必ず履修すること。 ・統計検定 4 級の受験は学期末に実施します。申し込み等の詳細は随時授業内でアナウンスします。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. データの種類、標本調査、統計グラフ、度数分布表・ヒストグラム、代表値、分布の散らばりの尺度、クロス集計表、確率などの統計学の基礎概念を理解し、説明できる。 2. 統計学の用語を正しく使いこなし、統計的な思考ができる。 3. 統計検定 4 級の試験範囲を網羅し、合格に必要な知識と計算能力を修得する。		
資格・検定試験への対応	統計検定 4 級：7 月の試験での合格を目指します。		
フィードバックの方法	・毎回の提出課題について、次回授業で解説等のフィードバックを行います。 ・中間試験について、講評等のフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①統計検定 3 級・4 級 公式問題集, 日本統計学会[編], 実務教育出版, 2023 年	ISBN	①9784788920484
参考書	必要がある場合、授業中に適宜紹介します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	30	
	その他（％）	30	
	その他の内容	統計検定 4 級の得点	
この科目の受講にあたって	統計学の知識は、計量経済学といったより深い経済学の内容を理解するうえでも重要です。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	問題演習（統計的問題解決の方法・データの種類の把握する）、数学力確認テスト	シラバス・配布資料を事前によく読み、今後の学修計画を検討してください。また、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第2回	対面	問題演習（基本的なグラフの見方・読み方）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、基本的なグラフの見方・読み方について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第3回	対面	問題演習（質的データの分析）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、質的データの分析方法について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第4回	対面	問題演習（量的データの分析）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、量的データの分析について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。中間試験に向けた復習を行ってください。	4 時間
第5回	対面	中間試験（グラフ、質・量的データに関する内容）・解説	中間試験に向けてこれまでの内容を復習してください。また、試験後は中間試験の問題を振り返ってください。	4 時間
第6回	対面	問題演習（データの代表値①）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、データの代表値について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第7回	対面	問題演習（データの代表値②）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、データの代表値について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第8回	対面	問題演習（時系列データの基本的な見方・読み方）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、時系列データの見方・読み方について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第9回	対面	問題演習（確率の基礎①）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、確率について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第10回	対面	問題演習（確率の基礎②）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、確率について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第11回	対面	中間試験（解説）	試験後は中間試験の問題を振り返ってください。	4 時間
第12回	対面	問題演習（標本調査）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、標本調査の意味について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第13回	対面	過去問演習（解説）	授業で示されたポイントを中心に、資格試験・定期試験に備えて復習してください。	6 時間
第14回	対面	統計検定4級の受験	授業で示されたポイントを中心に、資格試験・定期試験に備えて総復習してください。	4 時間
第15回	オンデマンド	重要ポイントの解説・復習	授業で示されたポイントを復習し、資格試験・定期試験に備えて総復習してください。	4 時間

科目名	経済統計学Ⅱ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	篠田 太郎	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	統計学に関する基本的な概念や知識の習得		
授業の目的及び概要	本科目は、「統計学」の学修をはじめると必要最低限の知識を修得し、統計検定 4 級の合格を目指す科目です。 統計学はビジネスや公務員（行政）の現場でも今後必須となる能力であり、マスターすれば市場調査や投資判断、政策立案などデータに基づき意思決定を行うことができます。このためには、統計学特有の「専門用語」や、考え方・概念の理解、初歩的な計算スキルが重要です。そこで、本科目では初めて統計学を学ぶ方に向けて、初歩から着実に一連の統計学に関する知識を学びます。 さらに、統計検定 4 級で出題された過去問に基づく問題演習・解説を通じて、統計検定 4 級の合格に必要な知識を身につけることができます。		
履修条件・留意点	履修上の留意点 ・本科目と同時に開講される「経済統計学Ⅰ」と連動しているため、両方の科目を必ず履修すること。 ・統計検定 4 級の受験は学期末に実施します。申し込み等の詳細は随時授業内でアナウンスします。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. データの種類、標本調査、統計グラフ、度数分布表・ヒストグラム、代表値、分布の散らばりの尺度、クロス集計表、確率などの統計学の基礎概念を理解し、説明できる。 2. 統計学の用語を正しく使いこなし、統計的な思考ができる。 3. 統計検定 4 級の試験範囲を網羅し、合格に必要な知識と計算能力を修得する。		
資格・検定試験への対応	統計検定 4 級：7 月の試験での合格を目指します。		
フィードバックの方法	・毎回の提出課題について、次回授業で解説等のフィードバックを行います。 ・中間試験について、講評等のフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①統計検定 3 級・4 級 公式問題集, 日本統計学会[編], 実務教育出版, 2023 年	ISBN	①9784788920484
参考書	必要がある場合、授業中に適宜紹介します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	30	
	その他（％）	30	
	その他の内容	統計検定 4 級の得点	
この科目の受講にあたって	統計学の知識は、計量経済学といったより深い経済学の内容を理解するうえでも重要です。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	問題演習（統計的問題解決の方法・データの種類の把握する）、数学力確認テスト	シラバス・配布資料を事前によく読み、今後の学修計画を検討してください。また、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第2回	対面	問題演習（基本的なグラフの見方・読み方）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、基本的なグラフの見方・読み方について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第3回	対面	問題演習（質的データの分析）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、質的データの分析方法について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第4回	対面	問題演習（量的データの分析）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、量的データの分析について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。中間試験に向けた復習を行ってください。	4 時間
第5回	対面	中間試験（グラフ、質・量的データに関する内容）・解説	中間試験に向けてこれまでの内容を復習してください。また、試験後は中間試験の問題を振り返ってください。	4 時間
第6回	対面	問題演習（データの代表値①）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、データの代表値について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第7回	対面	問題演習（データの代表値②）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、データの代表値について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第8回	対面	問題演習（時系列データの基本的な見方・読み方）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、時系列データの見方・読み方について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第9回	対面	問題演習（確率の基礎①）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、確率について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第10回	対面	問題演習（確率の基礎②）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、確率について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第11回	対面	中間試験（解説）	試験後は中間試験の問題を振り返ってください。	4 時間
第12回	対面	問題演習（標本調査）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、標本調査の意味について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第13回	対面	過去問演習（解説）	授業で示されたポイントを中心に、資格試験・定期試験に備えて復習してください。	6 時間
第14回	対面	統計検定4級の受験	授業で示されたポイントを中心に、資格試験・定期試験に備えて総復習してください。	4 時間
第15回	オンデマンド	重要ポイントの解説・復習	授業で示されたポイントを復習し、資格試験・定期試験に備えて総復習してください。	4 時間

科目名	経済統計学Ⅱ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	岩見 真希	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	統計学に関する基本的な概念や知識の習得		
授業の目的及び概要	本科目は、「統計学」の学修をはじめると必要最低限の知識を修得し、統計検定 4 級の合格を目指す科目です。 統計学はビジネスや公務員（行政）の現場でも今後必須となる能力であり、マスターすれば市場調査や投資判断、政策立案などデータに基づき意思決定を行うことができます。このためには、統計学特有の「専門用語」や、考え方・概念の理解、初歩的な計算スキルが重要です。そこで、本科目では初めて統計学を学ぶ方に向けて、初歩から着実に一連の統計学に関する知識を学びます。 さらに、統計検定 4 級で出題された過去問に基づく問題演習・解説を通じて、統計検定 4 級の合格に必要な知識を身につけることができます。		
履修条件・留意点	履修上の留意点 ・本科目と同時に開講される「経済統計学Ⅰ」と連動しているため、両方の科目を必ず履修すること。 ・統計検定 4 級の受験は学期末に実施します。申し込み等の詳細は随時授業内でアナウンスします。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. データの種類、標本調査、統計グラフ、度数分布表・ヒストグラム、代表値、分布の散らばりの尺度、クロス集計表、確率などの統計学の基礎概念を理解し、説明できる。 2. 統計学の用語を正しく使いこなし、統計的な思考ができる。 3. 統計検定 4 級の試験範囲を網羅し、合格に必要な知識と計算能力を修得する。		
資格・検定試験への対応	統計検定 4 級：7 月の試験での合格を目指します。		
フィードバックの方法	・毎回の提出課題について、次回授業で解説等のフィードバックを行います。 ・中間試験について、講評等のフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①統計検定 3 級・4 級 公式問題集, 日本統計学会[編], 実務教育出版, 2023 年	ISBN	①9784788920484
参考書	必要がある場合、授業中に適宜紹介します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	30	
	その他（％）	30	
	その他の内容	統計検定 4 級の得点	
この科目の受講にあたって	統計学の知識は、計量経済学といったより深い経済学の内容を理解するうえでも重要です。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	問題演習（統計的問題解決の方法・データの種類の把握する）、数学力確認テスト	シラバス・配布資料を事前によく読み、今後の学修計画を検討してください。また、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第2回	対面	問題演習（基本的なグラフの見方・読み方）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、基本的なグラフの見方・読み方について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第3回	対面	問題演習（質的データの分析）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、質的データの分析方法について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第4回	対面	問題演習（量的データの分析）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、量的データの分析について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。中間試験に向けた復習を行ってください。	4 時間
第5回	対面	中間試験（グラフ、質・量的データに関する内容）・解説	中間試験に向けてこれまでの内容を復習してください。また、試験後は中間試験の問題を振り返ってください。	4 時間
第6回	対面	問題演習（データの代表値①）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、データの代表値について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第7回	対面	問題演習（データの代表値②）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、データの代表値について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第8回	対面	問題演習（時系列データの基本的な見方・読み方）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、時系列データの見方・読み方について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第9回	対面	問題演習（確率の基礎①）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、確率について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第10回	対面	問題演習（確率の基礎②）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、確率について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第11回	対面	中間試験（解説）	試験後は中間試験の問題を振り返ってください。	4 時間
第12回	対面	問題演習（標本調査）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、標本調査の意味について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第13回	対面	過去問演習（解説）	授業で示されたポイントを中心に、資格試験・定期試験に備えて復習してください。	6 時間
第14回	対面	統計検定4級の受験	授業で示されたポイントを中心に、資格試験・定期試験に備えて総復習してください。	4 時間
第15回	オンデマンド	重要ポイントの解説・復習	授業で示されたポイントを復習し、資格試験・定期試験に備えて総復習してください。	4 時間

科目名	経済統計学Ⅱ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	渡邊 祐作	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	統計学に関する基本的な概念や知識の習得		
授業の目的及び概要	本科目は、「統計学」の学修をはじめると必要最低限の知識を修得し、統計検定 4 級の合格を目指す科目です。 統計学はビジネスや公務員（行政）の現場でも今後必須となる能力であり、マスターすれば市場調査や投資判断、政策立案などデータに基づき意思決定を行うことができます。このためには、統計学特有の「専門用語」や、考え方・概念の理解、初歩的な計算スキルが重要です。そこで、本科目では初めて統計学を学ぶ方に向けて、初歩から着実に一連の統計学に関する知識を学びます。 さらに、統計検定 4 級で出題された過去問に基づく問題演習・解説を通じて、統計検定 4 級の合格に必要な知識を身につけることができます。		
履修条件・留意点	履修上の留意点 ・本科目と同時に開講される「経済統計学Ⅰ」と連動しているため、両方の科目を必ず履修すること。 ・統計検定 4 級の受験は学期末に実施します。申し込み等の詳細は随時授業内でアナウンスします。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. データの種類、標本調査、統計グラフ、度数分布表・ヒストグラム、代表値、分布の散らばりの尺度、クロス集計表、確率などの統計学の基礎概念を理解し、説明できる。 2. 統計学の用語を正しく使いこなし、統計的な思考ができる。 3. 統計検定 4 級の試験範囲を網羅し、合格に必要な知識と計算能力を修得する。		
資格・検定試験への対応	統計検定 4 級：7 月の試験での合格を目指します。		
フィードバックの方法	・毎回の提出課題について、次回授業で解説等のフィードバックを行います。 ・中間試験について、講評等のフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①統計検定 3 級・4 級 公式問題集, 日本統計学会[編], 実務教育出版, 2023 年	ISBN	①9784788920484
参考書	必要がある場合、授業中に適宜紹介します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	30	
	その他（％）	30	
	その他の内容	統計検定 4 級の得点	
この科目の受講にあたって	統計学の知識は、計量経済学といったより深い経済学の内容を理解するうえでも重要です。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	問題演習（統計的問題解決の方法・データの種類の把握する）、数学力確認テスト	シラバス・配布資料を事前によく読み、今後の学修計画を検討してください。また、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第2回	対面	問題演習（基本的なグラフの見方・読み方）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、基本的なグラフの見方・読み方について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第3回	対面	問題演習（質的データの分析）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、質的データの分析方法について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第4回	対面	問題演習（量的データの分析）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、量的データの分析について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。中間試験に向けた復習を行ってください。	4 時間
第5回	対面	中間試験（グラフ、質・量的データに関する内容）・解説	中間試験に向けてこれまでの内容を復習してください。また、試験後は中間試験の問題を振り返ってください。	4 時間
第6回	対面	問題演習（データの代表値①）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、データの代表値について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第7回	対面	問題演習（データの代表値②）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、データの代表値について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第8回	対面	問題演習（時系列データの基本的な見方・読み方）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、時系列データの見方・読み方について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第9回	対面	問題演習（確率の基礎①）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、確率について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第10回	対面	問題演習（確率の基礎②）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、確率について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第11回	対面	中間試験（解説）	試験後は中間試験の問題を振り返ってください。	4 時間
第12回	対面	問題演習（標本調査）	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるように復習を行ってください。特に、標本調査の意味について、授業中に示した問題が自身で解けるよう何度も復習してください。	4 時間
第13回	対面	過去問演習（解説）	授業で示されたポイントを中心に、資格試験・定期試験に備えて復習してください。	6 時間
第14回	対面	統計検定4級の受験	授業で示されたポイントを中心に、資格試験・定期試験に備えて総復習してください。	4 時間
第15回	オンデマンド	重要ポイントの解説・復習	授業で示されたポイントを復習し、資格試験・定期試験に備えて総復習してください。	4 時間

科目名	産業組織論Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	渡邊 祐作	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	産業組織論入門		
授業の目的及び概要	この授業では、産業組織論の入門的内容について学修します。 産業組織論は、市場における企業の意思決定や産業の構造について考察するミクロ経済学の応用分野の一つです。本講義では、産業組織論の代表的なトピックスについて、その理論と分析手法を学ぶとともに、経済学のツールで経営という現象を分析するビジネス・エコノミクス（経営の経済学/企業の経済学）の視点を踏まえて、実際の企業戦略や産業政策にどのように応用されているのかを説明します。 講義では、実際の企業や政策の具体例や実証研究の結果を豊富に紹介することで、現実と理論がリンクしているという実感を得られるように心がけます。特に、近年注目されるデジタル市場やプラットフォーム産業など、現代的なビジネス課題も多く取り上げる予定です。 「産業組織論Ⅰ」では、まず基本的なミクロ経済学の内容（完全競争市場）について復習します。次に、不完全競争市場（独占市場や寡占市場）がどのような企業行動を引き起こし、また企業行動がどのように市場構造に影響を与えるかを考えます。さらに、その結果として資源配分や社会厚生はどのようなのかについて学修します。		
履修条件・留意点	この科目は「ミクロ経済学Ⅰ」の単位を修得していないと履修できません。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	(1) ミクロ経済学を基礎として、産業組織論の基本的な考え方や主要なモデルを理解し、説明できる。 (2) 上記の内容について数式を用いて計算したり、グラフ等に表現することができる。 (3) 現実の企業や産業の事例を、産業組織論の視点で分析・考察できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシート、課題の結果については、授業内または Learning Portal でフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは使用せず、配付資料に基づいて授業を行います。	ISBN	なし
参考書	①産業組織論とビジネスの経済学，花蘭誠，有斐閣，2018 年 ②産業組織のエッセンス，明城聡・大西宏一郎，有斐閣，2022 年 ③産業組織論への招待，西村淳一・山内勇，サイエンス社，2025 年 ④産業組織論 理論・戦略・政策を学ぶ，小田切宏之，有斐閣，2019 年 ⑤企業の経済学：産業組織論入門，ルイシュ・カブラル，日本評論社，2023 年 ⑥マネジメント・テキスト ビジネス・エコノミクス[第2 版]，伊藤元重，日本経済新聞出版，2021 年 ⑦経営の経済学[第3 版]，丸山雅祥，有斐閣，2017 年	ISBN	①9784641150591 ②9784641151000 ③9784883844036 ④9784641165533 ⑤9784535559615 ⑥9784532323806 ⑦9784641164956
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	70
	その他（%）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	(1) 講義内でも復習しますが、ミクロ経済学について基礎的な知識を習得していることを前提とします。 (2) 講義ではグラフや数式を用いて解説します。数式を使う場合は式の経済学的な意味を丁寧に説明するつもりですが、不安な場合は復習しておいてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	・ガイダンス：授業の概要や到達目標等 ・イントロダクション：産業組織論はどのような学問か？、産業組織論の分析対象と方法	【予習】シラバスとガイダンス資料を事前に読んでおいてください。 【復習】シラバスとガイダンス資料を読み直し、確認してください。	4 時間
第2回	対面	ミクロ経済学の復習①：消費者の行動	【予習】参考資料などで需要曲線、供給曲線、市場均衡について復習しておいてください。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第3回	対面	ミクロ経済学の復習②：様々な費用と企業の行動	【予習】参考資料などで需要曲線、供給曲線、市場均衡について復習しておいてください。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第4回	対面	ミクロ経済学の復習③：市場均衡	【予習】参考資料などで需要曲線、供給曲線、市場均衡について復習しておいてください。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第5回	対面	ミクロ経済学の復習④：市場の失敗と政府による市場介入	【予習】参考資料などで需要曲線、供給曲線、市場均衡について復習しておいてください。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第6回	対面	独占市場	【予習】「独占市場」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第7回	対面	価格差別	【予習】「価格差別」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第8回	対面	ゲーム理論の基礎①：ゲーム理論とは	【予習】「ゲーム理論」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第9回	対面	ゲーム理論の基礎②：ゲームの均衡	【予習】「ゲーム理論」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第10回	対面	ゲーム理論の基礎③：展開形ゲーム	【予習】「ゲーム理論」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第11回	対面	寡占市場①：同質財市場における競争	【予習】「寡占市場」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認	4 時間

			してください。	
第12回	対面	寡占市場②：差別財市場における競争	【予習】「寡占市場」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第13回	対面	寡占市場③：シュタッケルベルグ競争	【予習】「寡占市場」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第14回	対面	カルテル	【予習】「カルテル」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第15回	オンデマンド	定期試験に向けて、これまでの内容の総復習をオンデマンドで配信します。	【復習】オンデマンド動画を視聴した上で、これまでの学修内容の総復習を行ってください。	4 時間

科目名	産業組織論Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	伊勢 公人	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	産業組織論入門		
授業の目的及び概要	この授業では、産業組織論の入門的内容について学修します。まず基本的なミクロ経済学の内容（完全競争市場）について復習します。次に、不完全競争市場構造（独占市場や寡占市場）がどのような企業行動を引き起こし、また企業行動がどのように市場構造に影響を与えるか、さらに、その結果として資源配分や社会厚生はどうなるのかについて学修します。これらの授業を通じて、公務員や中学校・高等学校の教員にとって必要な産業組織論についての入門的な知識を修得します。 「実学としての経済学」との関連 この授業を受講することにより、産業組織論の視点から、現実の経済現象を理解できる力を身につけることを目的としています。		
履修条件・留意点	この科目は「ミクロ経済学Ⅰ」の単位を修得していないと履修できません。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（１）ミクロ経済学を基礎として、独占市場における企業行動やその結果としての資源配分や社会厚生について説明することができる。 （２）上記の内容について計算し、グラフに表現することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題については、授業中に解説及び講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1987 年から民間企業に 34 年間勤務しており、欧州事務所の副所長を務めた経験を有している。また、経済産業省の受託研究のプロジェクトリーダーを始め、多くの調査プロジェクトを担ってきた。本科目では、これらの経験を生かした授業を行う。		
テキスト	テキストは使用せず、配付資料に基づいて授業を行います。	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	配布資料を利用して予習・復習を行ってください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	ガイダンス：授業の概要や到達目標等	ガイダンスの内容を基に、授業の方法・進行について確認してください。	4 時間

第2回	対面	ミクロ経済学の復習1	【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第3回	対面	ミクロ経済学の復習2	【復習】需要の価格弾力性、供給の価格弾力性に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第4回	対面	費用の諸概念	【復習】「費用の諸概念」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第5回	対面	余剰	【復習】「余剰」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第6回	対面	市場介入（1）	【復習】「上限価格規制」「下限価格規制」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第7回	対面	市場介入（2）	【復習】「数量規制」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第8回	対面	参入規制	【復習】「参入規制」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください（4時間程度）。	4時間
第9回	対面	独占企業の価格設定	【復習】「独占企業の価格設定」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第10回	対面	価格差別（1）	【復習】「価格差別の手段と効果」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第11回	対面	価格差別（2）	【復習】「市場分割」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第12回	対面	定期試験対策	【復習】「定期試験対策」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第13回	対面	自然独占と規制	【復習】「自然独占と規制」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第14回	対面	コンテストブル市場	【復習】「コンテストブル市場」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第15回	オンデマンド	授業全体の総括	【復習】これまでの授業回の配布資料を読み直し、総復習してください。	4時間

科目名	産業組織論 I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	伊勢 公人	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	産業組織論入門		
授業の目的及び概要	この授業では、産業組織論の入門的内容について学修します。まず基本的なミクロ経済学の内容（完全競争市場）について復習します。次に、不完全競争市場構造（独占市場や寡占市場）がどのような企業行動を引き起こし、また企業行動がどのように市場構造に影響を与えるか、さらに、その結果として資源配分や社会厚生はどうなるのかについて学修します。これらの授業を通じて、公務員や中学校・高等学校の教員にとって必要な産業組織論についての入門的な知識を修得します。 「実学としての経済学」との関連 この授業を受講することにより、産業組織論の視点から、現実の経済現象を理解できる力を身につけることを目的としています。		
履修条件・留意点	この科目は「ミクロ経済学 I」の単位を修得していないと履修できません。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（１）ミクロ経済学を基礎として、独占市場における企業行動やその結果としての資源配分や社会厚生について説明することができる。 （２）上記の内容について計算し、グラフに表現することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題については、授業中に解説及び講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1987 年から民間企業に 34 年間勤務しており、欧州事務所の副所長を務めた経験を有している。また、経済産業省の受託研究のプロジェクトリーダーを始め、多くの調査プロジェクトを担ってきた。本科目では、これらの経験を生かした授業を行う。		
テキスト	テキストは使用せず、Learning Portal にアップする資料に基づいて授業を行います。	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	Learning Portal 上の資料を利用して復習を行ってください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	オンデマンド	ガイダンス：授業の概要や到達目標等	ガイダンスの内容を基に、授業の方法・進行について確認してください。	4 時間

第2回	オンデマンド	ミクロ経済学の復習1	【復習】Learning Portal にアップされた資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第3回	オンデマンド	ミクロ経済学の復習2	【復習】需要の価格弾力性、供給の価格弾力性に関する Learning Portal 上の資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第4回	オンデマンド	費用の諸概念	【復習】「費用の諸概念」に関する Learning Portal 上の資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第5回	オンデマンド	余剰	【復習】「余剰」に関する Learning Portal 上の資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第6回	オンデマンド	市場介入 (1)	【復習】「上限価格規制」「下限価格規制」に関する Learning Portal 上の資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第7回	オンデマンド	市場介入 (2)	【復習】「数量規制」に関する Learning Portal 上の資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第8回	オンデマンド	参入規制	【復習】「参入規制」に関する Learning Portal 上の資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください (4 時間程度)。	4 時間
第9回	オンデマンド	独占企業の価格設定	【復習】「独占企業の価格設定」に関する Learning Portal 上の資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第10回	オンデマンド	価格差別 (1)	【復習】「価格差別の手段と効果」に関する Learning Portal 上の資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第11回	オンデマンド	価格差別 (2)	【復習】「市場分割」に関する Learning Portal 上の資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第12回	オンデマンド	定期試験対策	【復習】「定期試験対策」に関する Learning Portal 上の資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第13回	オンデマンド	自然独占と規制	【復習】「自然独占と規制」に関する Learning Portal 上の資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第14回	オンデマンド	コンテスト市場	【復習】「コンテスト市場」に関する Learning Portal 上の資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第15回	オンデマンド	授業全体の総括	【復習】これまでの授業回の Learning Portal 上の資料を読み直し、総復習してください。	4 時間

科目名	産業組織論Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	渡邊 祐作	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	産業組織論の応用		
授業の目的及び概要	この授業では、産業組織論の入門的内容について学修します。 産業組織論は、市場における企業の意思決定や産業の構造について考察するミクロ経済学の応用分野の一つです。本講義では、産業組織論の代表的なトピックスについて、その理論と分析手法を学ぶとともに、経済学のツールで経営という現象を分析するビジネス・エコノミクス（経営の経済学/企業の経済学）の視点を踏まえて、実際の企業戦略や産業政策にどのように応用されているのかを説明します。 講義では、実際の企業や政策の具体例や実証研究の結果を豊富に紹介することで、現実と理論がリンクしているという実感を得られるように心がけます。特に、近年注目されるデジタル市場やプラットフォーム産業など、現代的なビジネス課題も多く取り上げる予定です。 「産業組織論Ⅱ」では、「産業組織論Ⅰ」を前提として、価格差別や製品差別化など現実社会で観察される企業の戦略的な行動を、ミクロ経済学の考え方をを使って分析する方法を学修します。		
履修条件・留意点	この科目は「ミクロ経済学Ⅰ」の単位を取得していないと履修できません。 この科目は「産業組織論Ⅰ」の上位科目であり、「産業組織論Ⅰ」の合格者の履修を推奨します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	(1) ミクロ経済学を基礎として、産業組織論の基本的な考え方や主要なモデルを理解し、説明できる。 (2) 上記の内容について数式を用いて計算したり、グラフ等に表現することができる。 (3) 現実の企業や産業の事例を、産業組織論の視点で分析・考察できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシート、課題の結果については、授業内または Learning Portal でフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは使用せず、配付資料に基づいて授業を行います。	ISBN	なし
参考書	①産業組織論とビジネスの経済学，花園誠，有斐閣，2018 年 ②産業組織のエッセンス，明城聡・大西宏一郎，有斐閣，2022 年 ③産業組織論への招待，西村淳一・山内勇，サイエンス社，2025 年 ④産業組織論 理論・戦略・政策を学ぶ，小田切宏之，有斐閣，2019 年 ⑤企業の経済学：産業組織論入門，ルイシュ・カブラル，日本評論社，2023 年 ⑥マネジメント・テキスト ビジネス・エコノミクス[第2 版]，伊藤元重，日本経済新聞出版，2021 年 ⑦経営の経済学 [第3 版]，丸山雅祥，有斐閣，2017 年	ISBN	①9784641150591 ②9784641151000 ③9784883844036 ④9784641165533 ⑤9784535559615 ⑥9784532323806 ⑦9784641164956
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	

	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	70
	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	(1) 講義内でも復習しますが、ミクロ経済学について基礎的な知識を習得していることを前提とします。 (2) 講義ではグラフや数式を用いて解説します。数式を使う場合は式の経済学的な意味を丁寧に説明するつもりですが、不安な場合は復習しておいてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	- ガイダンス：授業の概要や到達目標等 - イントロダクション：産業組織論はどのような学問か？、産業組織論の分析対象と方法 「産業組織論Ⅰ」の振り返り	【予習】シラバスとガイダンス資料を事前に読んでおいてください。 【復習】シラバスとガイダンス資料を読み直し、確認してください。	4時間
第2回	対面	- 数学とミクロ経済学の復習 - ゲーム理論の復習 「産業組織論Ⅰ」の復習	【予習】参考資料などで需要曲線、供給曲線、市場均衡について復習しておいてください。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第3回	対面	価格差別：分断化された市場での価格決定	【予習】「価格差別」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第4回	対面	垂直的な企業間関係：取引先の行動をいかに制御するか、二重限界化	【予習】「垂直的な企業間関係」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第5回	対面	寡占市場での企業競争の復習：価格競争と数量競争	【予習】「寡占市場」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第6回	対面	競争政策の基礎：効率性・公平性の追求	【予習】「競争政策の基礎」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第7回	対面	競争緩和のための非価格戦略①：製品差別化	【予習】「非価格戦略」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第8回	対面	競争緩和のための非価格戦略②：探索財、スイッチングコスト、広告	【予習】「非価格戦略」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第9回	対面	価格決定における企業共謀：談合、カルテル	【予習】「価格決定における企業共謀」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第10回	対面	市場構造の決定要因：参入と退出	【予習】「市場構造」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第11回	対面	市場構造を変更する戦略：参入阻止・合併・提携	【予習】「市場構造」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4時間

			してください。	
第12回	対面	研究開発と知的財産権：R&Dのインセンティブ、イノベーション	【予習】「研究開発と知的財産権」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第13回	対面	ネットワーク効果と消費者・企業行動①：需要が需要を生むメカニズム	【予習】「ネットワーク効果と消費者・企業行動」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第14回	対面	ネットワーク効果と消費者・企業行動②：プラットフォーム	【予習】「ネットワーク効果と消費者・企業行動」に関する配布資料を事前に読んでおいてください。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第15回	オンデマンド	定期試験に向けて、これまでの内容の総復習をオンデマンドで配信します。	【復習】オンデマンド動画を視聴した上で、これまでの学修内容の総復習を行ってください。	4時間

科目名	産業組織論Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	伊勢 公人	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	寡占市場における企業の行動理論		
授業の目的及び概要	産業組織論は企業の競争に関連する行動や、競争の中で生じる社会的な問題に対する規制を分析する学問分野です。このため本講義では、競争的な状況に直面する企業の行動を議論の主要な対象とします。 本講義では企業間の戦略的な駆け引きを扱いますので、本講義を通じて得られた知識は、卒業後に企業の一員として意思決定を行う場合や、消費者として企業の思惑を見抜く場合などに活用できます。すなわち、本科目を通じて得られる知識は、企業の行動を理解して実践に活かすことにつながり、「実学としての経済学」の修得に関連します。		
履修条件・留意点	この科目は「ミクロ経済学Ⅰ」の単位を取得していないと履修できません。 この授業科目は、産業組織論Ⅰの上位科目であり、産業組織論Ⅰの合格者の履修を推奨します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	寡占市場において企業が直面する状況を知り、合理的な意思決定の結果どのような選択が行われるのか考察できるようになることを目標とします。この表現方法として、数式やグラフによって理論を説明することが望ましいです。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出課題に対するコメントを、授業の冒頭等の時間を用いて適宜行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1987 年から民間企業に 34 年間勤務しており、欧州事務所の副所長を務めた経験を有している。また、経済産業省の受託研究のプロジェクトリーダーを始め、多くの調査プロジェクトを担ってきた。本科目では、これらの経験を生かした授業を行う。		
テキスト	テキストは使用しません。 必要な資料等は授業中に配付します。	ISBN	なし
参考書	ミクロ経済学の力、神取道宏、日本評論社、2014 年	ISBN	9784535557567
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	産業組織論を学ぶと、企業の” 思惑 ”が見えてきます。 企業が意思決定を行う指標は利潤の最大化であっても、利潤追求の方法を論理的に理解するためには、数理モデルに基づく議論が役立ちます。 本科目ではミクロ経済学や初歩的な数学を用いた議論を行いますが、これらの小難しい理論を学ぶと論理的思考力が高まり、卒業後の人生にも大いに役立ちます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	ガイダンス	・ シラバスの確認	1 時間
第2回	対面	数学とミクロ経済学の復習	・ 授業での配布資料に基づく復習 (2 時間程度) ・ 高校までの参考書等を用いた計算練習 (2 時間程度)	4 時間
第3回	対面	独占企業の価格設定	・ 授業での配布資料に基づく復習 (2 時間程度) ・ 参考書等で独占企業の価格設定を扱う章を読む (2 時間程度)	4 時間
第4回	対面	価格差別	・ 授業での配布資料に基づく復習 (2 時間程度) ・ 価格差別の具体例を考える (2 時間程度)	4 時間
第5回	対面	戦略形ゲームの基礎	・ 授業での配布資料に基づく復習 (2 時間程度) ・ 身近な例をゲームで表す練習 (2 時間程度)	4 時間
第6回	対面	戦略形ゲームを解く	・ 授業での配布資料に基づく復習 (2 時間程度) ・ ゲーム理論の教科書等を用いた支配戦略均衡を求める練習 (2 時間程度)	4 時間
第7回	対面	戦略形ゲームとナッシュ均衡	・ 授業での配布資料に基づく復習 (2 時間程度) ・ ゲーム理論の教科書等を用いたナッシュ均衡を求める練習 (2 時間程度)	4 時間
第8回	対面	クールノーモデル	・ 授業での配布資料に基づく復習 (2 時間程度) 特にクールノーモデルにおける利得計算を自分の手で計算してみてください。	4 時間
第9回	対面	クールノー競争による複占市場の分析	・ 授業での配布資料に基づく復習 (4 時間程度) 特に余剰分析について十分に時間をかけて復習してください。	4 時間
第10回	対面	ベルトランモデル	・ 授業での配布資料に基づく復習 (4 時間程度) 理論的に理解することが大変な部分なので、十分に時間をかけて復習してください。	4 時間
第11回	対面	戦略的代替	・ 授業での配布資料に基づく復習 (4 時間程度) ・ クールノーモデルを用いて課税政策や補助金政策を分析する (2 時間程度)	4 時間
第12回	対面	戦略的補完	・ 授業での配布資料に基づく復習 (2 時間程度) ・ ベルトランモデルを用いて課税政策や補助金政策を分析する (2 時間程度)	4 時間
第13回	対面	展開形ゲーム	・ 授業での配布資料に基づく復習 (2 時間程度) ・ 身近な現象を展開形ゲームで表す練習 (2 時間程度)	4 時間
第14回	対面	シュタッケルベルグ競争	・ 授業での配布資料に基づく復習 (2 時間程度) ・ 期末試験に備えた総復習 (3 時間程度)	5 時間
第15回	オンデマンド	総復習	・ 授業での配布資料に基づく復習 (2 時間程度) ・ 期末試験に向けた総復習 (4 時間程度)	6 時間

科目名	産業組織論Ⅱ		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	伊勢 公人		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	寡占市場における企業の行動理論			
授業の目的及び概要	産業組織論は企業の競争に関連する行動や、競争の中で生じる社会的な問題に対する規制を分析する学問分野です。このため本講義では、競争的な状況に直面する企業の行動を議論の主要な対象とします。 本講義では企業間の戦略的な駆け引きを扱いますので、本講義を通じて得られた知識は、卒業後に企業の一員として意思決定を行う場合や、消費者として企業の思惑を見抜く場合などに活用できます。すなわち、本科目を通じて得られる知識は、企業の行動を理解して実践に活かすことにつながり、「実学としての経済学」の修得に関連します。			
履修条件・留意点	この科目は「ミクロ経済学Ⅰ」の単位を取得していないと履修できません。 この授業科目は、産業組織論Ⅰの上位科目であり、産業組織論Ⅰの合格者の履修を推奨します。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	寡占市場において企業が直面する状況を知り、合理的な意思決定の結果どのような選択が行われるのか考察できるようになることを目標とします。この表現方法として、数式やグラフによって理論を説明することが望ましいです。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	提出課題に対するコメントを、授業の冒頭等の時間を用いて適宜行います。			
アクティブ・ラーニングの取組み				
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1987 年から民間企業に 34 年間勤務しており、欧州事務所の副所長を務めた経験を有している。また、経済産業省の受託研究のプロジェクトリーダーを始め、多くの調査プロジェクトを担ってきた。本科目では、これらの経験を生かした授業を行う。			
テキスト	テキストは使用しません。 Learning Portal にアップする資料に基づいて授業を行います。		ISBN	なし
参考書	ミクロ経済学の力, 神取道宏, 日本評論社, 2014 年		ISBN	9784535557567
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		30	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		50	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	産業組織論を学ぶと、企業の”思惑”が見えてきます。 企業が意思決定を行う指標は利潤の最大化であっても、利潤追求の方法を論理的に理解するためには、数理モデルに基づく議論が役立ちます。 本科目ではミクロ経済学や初歩的な数学を用いた議論を行います。これらの小難しい理論を学ぶと論理的思考力が高まり、卒業後の人生にも大いに役立ちます。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	オンデマンド	ガイダンス	・シラバスの確認	1 時間
第2回	オンデマンド	数学とミクロ経済学の復習	・授業での資料に基づく復習（2 時間程度） ・高校までの参考書等を用いた計算練習（2 時間程度）	4 時間
第3回	オンデマンド	独占企業の価格設定	・授業での資料に基づく復習（2 時間程度） ・参考書等で独占企業の価格設定を扱う章を読む（2 時間程度）	4 時間
第4回	オンデマンド	価格差別	・授業での資料に基づく復習（2 時間程度） ・価格差別の具体例を考える（2 時間程度）	4 時間
第5回	オンデマンド	戦略形ゲームの基礎	・授業での資料に基づく復習（2 時間程度） ・身近な例をゲームで表す練習（2 時間程度）	4 時間
第6回	オンデマンド	戦略形ゲームを解く	・授業での資料に基づく復習（2 時間程度） ・ゲーム理論の教科書等を用いた支配戦略均衡を求める練習（2 時間程度）	4 時間
第7回	オンデマンド	戦略形ゲームとナッシュ均衡	・授業での資料に基づく復習（2 時間程度） ・ゲーム理論の教科書等を用いたナッシュ均衡を求める練習（2 時間程度）	4 時間
第8回	オンデマンド	クールノーモデル	・授業での資料に基づく復習（2 時間程度） 特にクールノーモデルにおける利得計算を自分の手で計算してみてください。	4 時間
第9回	オンデマンド	クールノー競争による複占市場の分析	・授業での資料に基づく復習（4 時間程度） 特に余剰分析について十分に時間をかけて復習してください。	4 時間
第10回	オンデマンド	バルトランモデル	・授業での資料に基づく復習（4 時間程度） 理論的に理解することが大変な部分なので、十分に時間をかけて復習してください。	4 時間
第11回	オンデマンド	戦略的代替	・授業での資料に基づく復習（4 時間程度） ・クールノーモデルを用いて課税政策や補助金政策を分析する（2 時間程度）	4 時間
第12回	オンデマンド	戦略的補完	・授業での資料に基づく復習（2 時間程度） ・バルトランモデルを用いて課税政策や補助金政策を分析する（2 時間程度）	4 時間
第13回	オンデマンド	展開形ゲーム	・授業での資料に基づく復習（2 時間程度） ・身近な現象を展開形ゲームで表す練習（2 時間程度）	4 時間
第14回	オンデマンド	シュタッケルベルグ競争	・授業での資料に基づく復習（2 時間程度） ・期末試験に備えた総復習（3 時間程度）	5 時間
第15回	オンデマンド	総復習	・授業での資料に基づく復習（2 時間程度） ・期末試験に向けた総復習（4 時間程度）	6 時間

科目名	財政学 I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	中村 和之	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	政府の経済活動である財政の役割・機能と制度を学ぶ。		
授業の目的及び概要	財政学の目的は公共部門の経済活動を分析することです。公共部門とは、国や地方自治体等の一般政府や公的企業を指します。経済活動とは、公共部門が行う財・サービスの供給や社会基盤の整備、社会保障といった公共支出に関する活動と、その財源となる租税や公債発行による資金調達に関する活動を指します。分析するとは、公共部門の経済活動が家計や企業の経済活動に与える影響を考察すること（実証分析）と、公平性と効率性という基準から望ましい経済活動の在り方を考えること（規範分析）を意味します。 この目的のために、財政学 I では、ミクロ経済学やマクロ経済学の理論を用いながら、日本の財政制度や公共支出の経済効果を財政の役割や目的と関連させながら解説します。税制や公債については財政学 II で取り上げます。財政は私たちの暮らしと密接に関係しているのですが、その仕組みは複雑で分かりにくいところがあります。この授業では、財政の仕組みや機能をできるだけ見通し良く理解できるように心がけます。 政府の経済活動は、公共サービスや租税など私たちの暮らしに身近なものであるとともに、マクロ経済にも大きな影響を与えます。財政を学ぶことによって、実社会で求められる幅広い視野を身に付けることができます。		
履修条件・留意点	・秋学期に開講される「財政学 II」とあわせて受講すれば、財政の全体像をしっかりと理解できます。 ・都道府県や市町村など地方自治体の財政に関心がある人には「地方財政論」の受講を薦めます。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本講義では以下を到達目標とします。 1 政府による経済活動の意義を市場の失敗という観点から説明できる。 2 新聞や雑誌などで報道される財政に関するニュースをその背景も含めて理解・説明できる。 3 財政に関する政策が経済社会に与える影響を経済学の理論を援用して推論できる。 4 わが国の財政が直面する問題について理論を踏まえて自分なりの意見を持つことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・毎回の授業終了後にコメントシートを提出してもらい、次回の授業開始時に紹介、質問や意見に回答します。 ・毎回の授業の理解度を確認するために出題する小テストの結果はラーニングポータル上でフィードバックします。 ・レポート課題についてもラーニングポータル上でフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、民間企業（小売チェーン）での業務経験があり、本科目では、この実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	特定のテキストの指定はしません。 講義資料や補助教材をラーニングポータルに掲載します。各自で印刷もしくはダウンロードして閲覧できるように準備してください。	ISBN	なし
参考書	①入門財政学(第2版), 土居丈朗, 日本評論社, 2021年 ②図説 日本の財政(令和6年度版), 渡邊和紀, 財經詳報社, 2024年 ③財政学をつかむ【第3版】, 畑農鋭矢・林正義・	ISBN	①9784535540071 ②9784881779101 ③9784641177338

	吉田 浩, 有斐閣, 2024 年		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	授業では資料を用意しますが、受講生の皆さん自身も必ずノートを作成してください。良い成績をとる人には、(1)ノートを作成して学んだことを自分なりに整理している、(2)経済学の理論と財政の制度を関連させて考える習慣が身についている、(3)社会で起こっている出来事を常に関心を持って観察している、といった共通の特徴があります。		
	財政学の醍醐味は、公共サービスや財政政策、税制など身近でかつ実践的な問題を経済学の理論を用いて明快に理解できることです。そのためには若干の忍耐を必要としますが、担当教員も発展的な学修に向けた話題提供、補助教材の提供などで支援しますので、ぜひ粘り強く取り組んでください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	講義内容の計画や授業の進め方を説明します。続いて、財政を巡る近年の課題を解説します。	【予習】シラバスの各回の授業内容を読んでおいてください。財政と関係すると思われるニュースやネットの記事などをあらかじめピックアップしておく、財政学のイメージがわくと思います。【復習】授業後は改めて授業で取り上げたトピックスについて図書館やネットで調べてください。	2 時間
第2回	対面	【財政の役割】私たちの社会で政府の経済活動（財政）が必要とされる理由を学びます。	【予習】政府が担っている経済活動を見つけて、それらがなぜ民間の企業や家計で担えないのかを考えてみてください。【復習】財政の目的はこれからの授業の核となるので必ず復習してください。また、新聞やインターネット等で報じられている財政に関するニュースを探して、それは財政のどのような目的と関係するのかを考えてください。	4 時間
第3回	対面	【財政と国民経済】国全体の経済活動の中でみた財政の規模と動向を学びます。	【予習】中学校の公民科で学んだ国内総生産（GDP）や経済成長率など国の経済活動を測る指標について復習しておいてください。【復習】政府の統計（estat）などから授業で説明した財政の動向を調べてみてください。公務員志望の人は参考書②を使いながら知識の定着を図ってください。	4 時間
第4回	対面	【予算制度】国の予算の制度と仕組み、近年の動向を学びます。	【復習】予算の仕組みや規模、その使途など授業で解説した内容を復習してください。公務員志望の人は参考書②などでさらに詳細な学修にチャレンジしてください。	4 時間
第5回	対面	【国の財政と地方の財政】国と地方自治体の財政は密接に関係しています。授業では財政の機能分担や財源の配分の制度と実態を学びます。	【復習】地方の財政は「地方財政論」で講義しますが、関心ある人は『地方財政白書』（ネットで読めます）等で理解を深めてください。	5 時間
第6回	対面	【市場経済における資源配分】財政を経済学的に分析する上でミクロ経済学の知識は必須です。ここではミクロ経済学の復習を兼ねて、需要の理論と供給の理論を概説します。	【予習】授業では需要曲線や供給曲線、限界便益や限界費用について解説するので、配布予定の資料やミクロ経済学のテキストなどで予め復習しておいてください。【復習】授業を聴いてわかりにくかったところは必ず自習や教員への質問などで解消するように	5 時間

			してください。	
第7回	対面	【市場経済の効率性】いくつかの条件を満たせば価格メカニズム（市場経済）は効率的な資源配分を達成することを学びます。	【予習】この授業は前回の授業の理解が基本になります。消費者余剰や生産者余剰などミクロ経済学で学んだ諸概念を復習しておくことで理解が深まります。【復習】簡単な計算問題が解けるように小テストなどで復習してください。	4 時間
第8回	対面	【市場の失敗】市場経済は素晴らしいが万能ではなく、政府の経済活動（財政）が求められることを学びます。	【予習】この授業は前回の授業の理解が基本になるので、必ず配布資料等で前回の復習を済ませて授業を受けてください。【復習】前回と今回でお話する内容は、これ以降、知っているものとして授業を進めるので、知識の定着を心がけてください。	4 時間
第9回	対面	【公共財】市場（民間）で上手く供給できない財に公共財と呼ばれる財があります。ここでは公共財の定義と特徴、その供給を巡る問題を考えます。	【復習】公共財の性質を理解するとともに、民間では上手く供給できない理由を説明できるように復習してください。また、身近な財、サービスを例にとって公共財の特徴を考えてみてください。	4 時間
第10回	対面	【外部性】政府の経済活動が必要とされる一つの理由である外部性について学びます。	【予習】国や地方自治体が私たちや企業の経済活動に補助金を出しているものや逆に課税している事例を調べてみてください。【復習】ピグー税やピグー補助金の考え方や効果を経済理論を用いて説明できるように復習してください。	4 時間
第11回	対面	【所得再分配】財政の重要な役割である所得の再分配について、その必要性や財政における政策手段を学びます。	【復習】所得再分配の目的は公平性です。どのような状態が公平なのでしょう。授業を踏まえて各自で考えてみてください。	4 時間
第12回	対面	【社会保険の考え方】政府は医療や介護、労働、年金に関する保険制度を運営しています。これらを総称して社会保険と言います。ここでは保険制度の基本的な考え方を学びます。	【復習】社会保険制度の詳細は「財政学 II」で学びます。ここでは保険と言う仕組みの理論的な側面を学びます。ここで解説するリスクについての考え方はこの講義に限らず広く役立つのでぜひ理解を確かなものにしてください。	4 時間
第13回	対面	【財政政策と景気安定化機能】不況期に財政支出を増やすことによって国全体の所得を増やそうとする財政政策の考え方を学びます。	【復習】乗数効果のメカニズムを確実に理解してください。公務員志望の人はこの授業内容を復習したのちミクロ経済学で発展的な学修に取り組んでください。	4 時間
第14回	対面	【公共支出を巡る新しい潮流】社会資本整備における公民連携をはじめとして財政の新しい動きを学びます。	【復習】これまでの授業を参考にして、財政の世界での新たな取り組みの背景や課題を説明できるように復習してください。	4 時間
第15回	オンデマンド	これまでの講義全体における重要ポイントを復習します。	【予習】これまでの授業でわかりにくかったところをあらかじめピックアップしておきましょう。【復習】定期試験に向けて授業全体の流れを整理しておきましょう。	4 時間

科目名	財政学Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	吉田 匠	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	財政と社会のつながりについて学ぶ		
授業の目的及び概要	税や社会保障など、財政への関心が近年ますます高まり続けている一方で、「財政」と聞くと難解なイメージを持つ人も多いかもしれません。本授業では、数式や細かい制度論にとらわれず、財政学の考え方を直観的に掴むための入門講義を行います。財政の基本的な役割や理論から始め、歳入および歳出の仕組み、そして現在の社会で注目されている財政に関わる問題について幅広く扱います。私たちは財政を通じて、社会と深くつながっています。財政学を学ぶことは、私たちが社会とどう接続しているかを理解することでもあります。これから皆さんが一人の市民、そして社会人として生きていく上で、経済・政治・社会の動きを財政の視点から多角的に捉える力を身に付けてほしいと考えています。		
履修条件・留意点	前提知識は必要ありませんが、授業後に新しく習った内容について振り返ることを強く推奨します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 財政学の考え方や基礎知識を学び、財政学に関するコンセプトや財政と社会のつながりについて理解することで、それらを他者に論理的に説明できるようになること。 ② 財政赤字や増税、社会保障改革といった現代的な政策課題について、多角的かつ批判的に考え、自分の考えをもって学術的見地を踏まえた議論ができるようになること。 ※①および②について、身につけてほしい具体例 ①水平的効率性と垂直的公平性の概念に基づき、所得税と消費税とを比較しながら、それぞれの特徴を説明することができるようになる。 ②近代財政学における財政の三機能の視点から、これからの人口減少社会における社会保障の役割について議論できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題については、出した翌週の授業始めに解説および講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①Why not?! 財政学 超入門からホット 이슈まで、江成稯・倉地真太郎・佐藤一光・藤原遥，有斐閣，2025 年	ISBN	9784641200210
参考書	参考書や参考文献については、授業中や授業資料にて適宜紹介します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	普段から財政や政策に関する報道などに意識的に触れ、疑問に思ったことや考えたことを整理した上で、授業に参加することが望ましいです。財政学を専門的に学んでみたい人だけでなく、皆さんが将来社会人として活躍する上でも、財政学は社会を多角的に視るための有用な道具に		

なります。本授業をきっかけに、奥深い財政学の世界に興味を持ってもらえると幸いです。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション：財政学とは何か（テキスト第1章に相当）	【予習】シラバスとガイダンス資料を事前に読んでください（1時間程度） 【復習】シラバスとガイダンス資料を読み直し、復習しておいてください（1時間程度）	2時間
第2回	対面	財政が担う「公共性」（テキスト第2章および第3章に相当）	【予習】テキストの第2章および第3章(p21~42)を読み、事前に疑問点や考えたことを整理してください。（2時間程度） 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第3回	対面	財政の所得再分配と経済安定化機能（テキスト第4章および第5章に相当）	【予習】テキストの第4章および第5章(p43~62)を読み、事前に疑問点や考えたことを整理してください。（2時間程度） 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第4回	対面	予算の決定と財政民主主義（テキスト第6章および第7章に相当）	【予習】テキストの第6章および第7章(p63~82)を読み、事前に疑問点や考えたことを整理してください。（2時間程度） 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第5回	対面	歳出と歳入（テキスト第8章および第15章に相当）	【予習】テキストの第8章および第15章(p85~94, p157~166)を読み、事前に疑問点や考えたことを整理してください。（2時間程度） 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第6回	対面	歳出①ケアと教育（テキスト第9章および第10章に相当）	【予習】テキストの第9章および第10章(p95~114)を読み、事前に疑問点や考えたことを整理してください。（2時間程度） 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第7回	対面	歳出②公共投資と民間投資（テキスト第11章および第12章に相当）	【予習】テキストの第11章および第12章(p115~134)を読み、事前に疑問点や考えたことを整理してください。（2時間程度） 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第8回	対面	歳出③生活保障と次世代支援（テキスト第13章および第14章に相当）	【予習】テキストの第13章および第14章(p135~154)を読み、事前に疑問点や考えたことを整理してください。（2時間程度） 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第9回	対面	歳入①所得税と消費税（テキスト第16章および第17章に相当）	【予習】テキストの第16章および第17章(p167~186)を読み、事前に疑問点や考えたことを整理してください。（2時間程度） 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間

第10回	対面	歳入②財源のさまざまな負担方法(テキスト第18章～第20章に相当)	【予習】テキストの第18章～第20章(p187~216)を読み、事前に疑問点や考えたことを整理してください。(2時間程度) 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください(2時間程度)	4時間
第11回	対面	グローバル化と財政(テキスト第22章および第23章に相当)	【予習】テキストの第22章および第23章(p231~250)を読み、事前に疑問点や考えたことを整理してください。(2時間程度) 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください(2時間程度)	4時間
第12回	対面	地域経済と財政(テキスト第21章および第24章に相当)	【予習】テキストの第21章および第24章(p217~228, p251~260)を読み、事前に疑問点や考えたことを整理してください。(2時間程度) 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください(2時間程度)	4時間
第13回	対面	環境と財政(テキスト第25章および第26章に相当)	【予習】テキストの第25章および第26章(p261~280)を読み、事前に疑問点や考えたことを整理してください。(2時間程度) 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください(2時間程度)	4時間
第14回	対面	合意形成、多様性と財政(テキスト第27章および第28章に相当)	【予習】テキストの第27章および第28章(p281~300)を読み、事前に疑問点や考えたことを整理してください。(2時間程度) 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください(2時間程度)	4時間
第15回	オンデマンド	まとめと振り返り	【予習】これまでの授業資料を見直して、自分が十分に理解できているところや苦手なところを整理しておいてください(2時間程度) 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、期末試験のために、これまでの資料を読み直して総復習するようにしてください(4時間程度)	6時間

科目名	財政学 I		開講年度	2026 年度春学期
担当者	嶋田 裕光		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	政府の経済活動である財政の役割・機能と制度の基礎を学ぶ			
授業の目的及び概要	本講義（オンデマンド）では、まず政府や公共部門の経済活動である財政の果たす役割・機能とその背景にある基礎理論からはじめ、国の財政（予算や租税）の制度、国と地方政府との関係、今後の財政を巡る課題について概要を解説します。これによって、ニュースなどで報道される内容だけでなく、今後、自らの実生活のなかでも財政とのつながりや改革の必要性について正しく理解できる力を身につけることを目的とします。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	本講義では以下を到達目標とします。 1. 財政の理論や制度の基本的な知識を身につけ、財政の果たす役割や機能について理解すること 2. 財政と経済全体、国民生活との相互の関係を整合的に説明できるようになること			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	オンデマンド動画による講義毎に、内容の理解を確認するための小テストをラーニングポータル上に掲載しますので、それに次回講義資料掲載日まで（概ね1週間程度の期間）に解答してもらいます。解答期間終了後、直ちに自動採点され理解度をチェックできるようにします。			
アクティブ・ラーニングの取り組み				
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1986 年に経済企画庁（現内閣府）に入庁し、国家公務員として 30 年以上のキャリアを積んでいる。また、経済白書や経済計画、GDP 統計、社会福祉政策にも携わった実務経験から、マクロ経済学、財政学、GDP 統計、少子化問題を専門領域としている。本科目では、これらの経験を生かし、経済データを正しく評価する目を養い、社会で役立てるための基本的な理論から実務的なプロセスまで含めた幅広い授業を行う。			
テキスト	特定のテキストの指定はしません。 動画により講義資料を配信します。		ISBN	なし
参考書	①入門財政学(第 2 版), 土居丈朗, 日本評論社, 2021 年 ②図説 日本の財政(令和 7 年度版), 財経詳報社, 2026 年 ③財政学 1 5 講, 麻生良文, 小黒一正, 鈴木将覚, 新世社, 2018 年		ISBN	①9784535540071 ②9784881779194 ③9784883842698
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		50	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		50	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		0	
	その他の内容			
この科目の受講に	これまでの教員の実体験も交えながら、皆さんの日常の生活にも深い関わりのある財政の理論や仕組みについての有益な知識、視点、考え方を学修してもらいます。			

あたって	講義内容の理解を深め、知識を定着させるため、各回のオデマンドによる講義毎にラーニングポータルで小テストを掲載しますので、動画資料や自分でとったしたノートを参照しながら解答してください。また、夏場や年末、年度末までの時期に財政が特に話題になるシーズンがあることも抑えながら、日頃から、新聞・テレビ、インターネット、雑誌などで、財政に関することに興味を持って目を通す機会を増やしてください。 なお、財政の機能の理論の理解を深めるために、ミクロ経済学、マクロ経済学などの講義を併せて履修しておくことを薦めます。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	講義内容の計画とオンデマンドによる授業の進め方、成績評価の方法について説明します。併せて、最近の身近なニュースを引用しながら、財政の役割について関心を高めてもらいます。	ラーニングポータルに小テストを掲載しますので、講義動画視聴後、復習をかねて期限（1週間程度）までに解答してください。期限後、直ちに自動採点されますので、理解度をその都度チェックしながら、学修を進めてください。	2時間
第2回	オンデマンド	国や地方の経済活動である「財政」とはそもそもどういうものか、その目的や企業活動との相違点について解説します。	ラーニングポータルに小テストを掲載しますので、講義動画視聴後、復習をかねて期限（1週間程度）までに解答してください。期限後、直ちに自動採点されますので、理解度をその都度チェックしながら、学修を進めてください。	4時間
第3回	オンデマンド	財政が必要とされる基礎理論として、まず財政の機能①（ミクロ的機能：公共財の定義、私的財との違い、と公共財の最適な提供条件）について解説します。	ラーニングポータルに小テストを掲載しますので、講義動画視聴後、復習をかねて期限（1週間程度）までに解答してください。期限後、直ちに自動採点されますので、理解度をその都度チェックしながら、学修を進めてください。	4時間
第4回	オンデマンド	財政が必要とされる基礎理論として、前回に引き続き財政の機能②（ミクロ的機能：市場の失敗の是正、ピグー課税）について解説します。	ラーニングポータルに小テストを掲載しますので、講義動画視聴後、復習をかねて期限（1週間程度）までに解答してください。期限後、直ちに自動採点されますので、理解度をその都度チェックしながら、学修を進めてください。	4時間
第5回	オンデマンド	財政が必要とされる基礎理論として、前回に引き続き財政の機能③（ミクロ的機能：リンダール均衡、自然独占、情報の非対称性など）について解説します。	ラーニングポータルに小テストを掲載しますので、講義動画視聴後、復習をかねて期限（1週間程度）までに解答してください。期限後、直ちに自動採点されますので、理解度をその都度チェックしながら、学修を進めてください。	4時間
第6回	オンデマンド	財政が必要とされる基礎理論として、財政の機能④（マクロ的機能：経済安定化、ビルトインスタビライザー効果、所得再分配政策）について解説します。	ラーニングポータルに小テストを掲載しますので、講義動画視聴後、復習をかねて期限（1週間程度）までに解答してください。期限後、直ちに自動採点されますので、理解度をその都度チェックしながら、学修を進めてください。	5時間
第7回	オンデマンド	国の財政について、財政の基本ルール（憲法や財政法）、予算制度、歳出内容の概要について解説します。	ラーニングポータルに小テストを掲載しますので、講義動画視聴後、復習をかねて期限（1週間程度）までに解答してください。期限後、直ちに自動採点されますので、理解度をその都度チェックしながら、学修を進めてください。	4時間
第8回	オンデマンド	国の歳出の現状とその背景にある要因について（高齢化など）について解説します。	ラーニングポータルに小テストを掲載しますので、講義動画視聴後、復習をかねて期限（1週間程度）までに解答してください。期限後、直ちに自動採点されますので、理解度をその都度チェックしながら、学修を進めてください。	4時間
第9回	オンデマンド	歳入の基本財源である租税制度の概要について解説します。	ラーニングポータルに小テストを掲載しますので、講義動画視聴後、復習をかねて期限（1週間程度）までに解答してください。期限後、直ちに自動採点されますので、理解度をその都度チェックしながら、学修を進めてください。	4時間
第10回	オンデマンド	租税制度の原則（歴史的原則と現代の原則）、租税制度が果たす機能と背景にある	ラーニングポータルに小テストを掲載しますので、講義動画視聴後、復習をかねて期限（1週間程度）ま	4時間

		理論について解説します。	でに解答してください。期限後、直ちに自動採点されますので、理解度をその都度チェックしながら、学修を進めてください。	
第11回	オンデマンド	代表的な税である所得税、消費税、法人税の特徴と仕組みの概要をそれぞれ解説します。	ラーニングポータルに小テストを掲載しますので、講義動画視聴後、復習をかねて期限（1週間程度）までに解答してください。期限後、直ちに自動採点されますので、理解度をその都度チェックしながら、学修を進めてください。	4時間
第12回	オンデマンド	国と地方との関係（地方交付税交付金、国庫支出金など財政資金の流れを含む）について解説します。	ラーニングポータルに小テストを掲載しますので、講義動画視聴後、復習をかねて期限（1週間程度）までに解答してください。期限後、直ちに自動採点されますので、理解度をその都度チェックしながら、学修を進めてください。	4時間
第13回	オンデマンド	財政赤字の現状とその背後にある要因をレビューしたのち、財政赤字を巡る理論（リカードの中立命題やドーマー理論など）について解説します。	ラーニングポータルに小テストを掲載しますので、講義動画視聴後、復習をかねて期限（1週間程度）までに解答してください。期限後、直ちに自動採点されますので、理解度をその都度チェックしながら、学修を進めてください。	4時間
第14回	オンデマンド	財政再建の必要性やそれを巡る目標や論争点などについて解説します。	ラーニングポータルに小テストを掲載しますので、講義動画視聴後、復習をかねて期限（1週間程度）までに解答してください。期限後、直ちに自動採点されますので、理解度をその都度チェックしながら、学修を進めてください。	4時間
第15回	オンデマンド	これまでの講義内容全体の重要なポイントを復習します。	定期試験（レポート課題）に備えて、理解が不十分だった回の動画を再度見直すとともにノート、小テストの問題を解き直しながら、十分復習を行って下さい。	5時間

科目名	財政学Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	中村 和之	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	税制や財政収支を中心として政府の経済活動である財政の役割・機能と制度を学ぶ。		
授業の目的及び概要	財政学の目的は公共部門の経済活動を分析することです。公共部門とは、国や地方自治体等の一般政府や公的企業を指します。経済活動とは、公共部門が行う財・サービスの供給や社会基盤の整備、社会保障といった公共支出に関する活動と、租税や公債発行といった財源調達に関する活動を指します。分析するとは、公共部門の経済活動が家計や企業の経済活動に与える影響を考察すること（実証分析）と、公平性と効率性という基準から望ましい経済活動の在り方を考えること（規範分析）を意味します。 この目的のために、財政学Ⅱでは、ミクロ経済学やマクロ経済学の理論を用いながら、税制や社会保障制度、公債発行の仕組みと経済効果を、財政の目的と関連させながら解説します。財政の全体像は財政学Ⅰで取り上げるので、両科目を履修することで財政に対する理解が一層深まります。 税制や社会保障は私たちの暮らしと深く関係しています。授業では、これらの仕組みや機能をできるだけ見通し良く理解できるように解説します。財政を学ぶことによって、実社会で求められる幅広い視野を身に付けることができます。		
履修条件・留意点	・春学期に開講される「財政学Ⅰ」とあわせて受講すれば、財政の全体像をしっかりと理解できます。 ・都道府県や市町村など地方自治体の財政に関心がある人には「地方財政論」の受講を薦めます。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本講義では以下を到達目標とします。 1 政府の歳入調達の方法や財政収支の動向を統計指標などを用いながら説明できる。 2 新聞や雑誌などで報道される税制や社会保障、財政収支に関するニュースをその背景も含めて理解・説明できる。 3 租税が経済社会に与える影響を経済学の理論を用いながら説明できる。 4 わが国の財政が直面する問題について理論を踏まえて自分なりの意見を持つことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・毎回の授業終了後にコメントシートを提出してもらい、次回の授業開始時に紹介、質問や意見に回答します。 ・毎回の授業終了後にラーニングポータルで出題する小テストの結果は、ラーニングポータル上でフィードバックします。 ・提出された中間レポートについてもラーニングポータル上でフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、民間企業（小売チェーン）での業務経験があり、本科目では、この実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	特定のテキストの指定はしません。 講義資料をラーニングポータルで配布します。	ISBN	なし
参考書	①入門財政学(第2版), 土居丈朗, 日本評論社, 2021年 ②図説 日本の財政(令和6年度版), 渡邊和紀, 経経詳報社, 2024年 ③財政学をつかむ【第3版】, 畑農鋭矢・林正義・吉田 浩, 有斐閣, 2024年	ISBN	①9784535540071 ②9784881779101 ③9784641177338
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	

	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	60
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	授業では資料を用意しますが、受講生の皆さん自身も必ずノートを作成してください。良い成績をとる人には、(1)ノートを作成して学んだことを自分なりに整理している、(2)経済学の理論と財政の制度を関連させて考える習慣が身についている、(3)社会で起こっている出来事を常に興味を持って観察している、といった共通の特徴があります。 財政学の醍醐味は、公共サービスや財政政策、税制など身近で実践的な問題を経済学の理論を用いて明快に理解できることです。そのためには若干の忍耐を必要としますが、担当教員もコメントシート、復習テストへのフィードバックや発展的な学修に向けた学修に向けたトピックスの提供等で支援しますので、意欲的な取り組みを期待しています。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【ガイダンス・財政の目的】講義内容の計画や授業の進め方を説明します。続いて、財政の目的を学びます。	【予習】シラバスの各回の授業内容を読んでおいてください。【復習】財政の目的は今後の授業のコアになる事柄なので、復習により理解を確かなものにしてください。	4時間
第2回	対面	【財政における意思決定】政府の意思決定過程を説明する理論を学ぶことを通じて、社会が望ましい意思決定を行うことの困難さを学びます。	【復習】授業の内容を踏まえて、社会的な意思決定のメカニズムを復習してください。	4時間
第3回	対面	【政府の収入と国民経済】租税をはじめとする政府収入の動向をマクロ経済と関連させながら学びます。	【復習】租税や社会保障経費の負担が時代とともにどのように推移したかを統計指標の暗記ではなく、時々の経済状況や政策課題と関連させて説明できるように復習してください。公務員志望の人は参考書②などで大きな流れをつかんでください。	4時間
第4回	対面	【租税の理念と体系】税制を学ぶ上で必要な概念を学び、望ましい租税が備えるべき原則（租税原則）について考えます。	【復習】租税原則は抽象的な概念なので、より具体的なイメージをつかめるように復習してください。また、公務員志望の人は参考書②などで租税原則の学説上の展開（論者や内容）を整理してください。	4時間
第5回	対面	【所得課税（所得税）の考え方と仕組み】所得税の制度と仕組みを解説します。	【復習】所得の定義がこのセクションの理解の基礎となるので講義資料で復習してください。	4時間
第6回	対面	【所得課税（所得税）の経済効果】所得税が労働供給に与える影響を考えます。	【予習】所得税の経済効果を考えるために、やや進んだミクロ経済学のツールを用います。消費者理論で学ば無差別曲線や所得効果、代替効果と言った概念をあらかじめ学んでおくとう理解が容易いと思われます。	4時間
第7回	対面	【消費課税（消費税）の仕組み】消費税をはじめとするモノやサービスの消費に着目して課税される租税の制度と経済効果を学びます。	【予習】日本では、消費税は常に政策的な議論になる税です。消費税を巡る議論を新聞記事等で検索して目を通しておけば関心が深まると思います。需要と供給の理論を用いて租税の経済効果を考えるので、復習しておいてください。【復習】日本の消費税は付加価値税の一種です。付加価値税の仕組みを復習しておきましょう。ここで解説する「租税の転嫁と帰着」や「死荷重」と言った考え方は租税の経済分析の中心となる考え方です。図を用いながら独力で説明できるまで復習してください。	4時間
第8回	対面	【所得税と消費税の比較、資産課税】税制改革の議論では常に所得税と消費税のあ	【予習】毎年の税制改正では常に所得税と消費税の役割や機能が議論になります。新聞記事で税制のト	4時間

		り方が議論となります。このふたつの税はどこがどう違うのでしょうか。また、どこが同じなのでしょう。この授業では、所得税と消費税の機能を比較しながら、望ましい税制を考えるための視点を学びます。さらに、高齢化社会において重要な税である資産課税の制度や実態を概説します。	ピックスを調べておくに関心が深まります。【復習】望ましい税制を考えるうえで唯一の正解はありません。皆さん自身がこれまで学んだ知識を総動員して、皆さんなりの評価の視点を定めて、税制の在り方を論じることができるようになってください。	
第9回	対面	【企業課税（法人税）】企業に対する課税の制度と仕組みを考えます。	【復習】このセクションは用語が難しいところです。まずは法人税の仕組みや実態のエッセンスを捉えられるように復習してください。	4 時間
第10回	対面	【社会保障と財政—公的年金—】政府支出の中でも大きな比重を占める社会保障の制度を学ぶとともに、社会保険制度の負担配分のあり方や効率性を考えます。まず、このセクションでは公的年金の制度や仕組みを学ぶとともに、負担配分のあり方や効率性について考えます。	【復習】公的年金の理念や目的、機能を講義資料等で復習してください。	4 時間
第11回	対面	【社会保障と財政—医療・介護—】人口構成の高齢化や総人口の減少に伴い、医療や介護の役割は益々高まっています。このセクションでは、社会保険制度のうち、医療と介護を取り上げ、その仕組みや課題を考えます。	【復習】医療、介護といった社会保険制度は私たちにとって身近なものです。その仕組みや課題を理解できるように復習してください。	4 時間
第12回	対面	【財政収支】政府は租税や社会保険料の他に公債を発行して借入の形で財源を賄っています。政府収入と政府支出のバランスを財政収支と言います。ここでは基礎的財政収支をはじめとするいくつかの指標の概念とその構造を学びます。	【復習】この授業のキーワードのひとつである基礎的財政収支（プライマリーバランス）は新聞記事やニュースでもよく言及されます。その意味を理解できるよう資料や統計などで復習してください。	4 時間
第13回	対面	【財政の持続可能性】政府の借金（債務）が増え続けて財政運営が破たんすることはあるのでしょうか。ここでは財政の持続可能性について基本的な理論を学びます。	【復習】このセクションは少し難易度が高くなりますが、理論の根幹部分を理解できるように講義資料等で復習してください。	4 時間
第14回	対面	【税制・社会保障の課題】経済のグローバル化やデジタル化、わが国の人口減少や高齢化は税制や社会保障に変革を求めています。これまで取り上げたトピックスを改めて展望します。	【予習】これまでの授業で学んだ税制や社会保障の知識を復習し、自分なりにその課題を抽出してみてください。【復習】授業で取り上げた課題を巡る社会の動向を新聞やネット等で調べてみてください。	4 時間
第15回	オンデマンド	これまでの講義を振り返り、重要ポイントを復習します。	【予習】これまでの授業でわかりにくかったところをあらかじめピックアップしておきましょう。【復習】定期試験に向けて授業全体の流れを整理しておきましょう。	4 時間

科目名	財政学Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	吉田 匠	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	現実を捉える視角としての財政理論を学ぶ		
授業の目的及び概要	近年、税や社会保障など財政への関心が高まるなか、われわれは財政をどのように捉え、議論すべきでしょうか。本授業では、近代国家における財政の役割、租税、社会保障、公債、公共投資、政府間財政関係といった、財政を巡る諸課題を扱います。その際、単なる「公共部門の経済分析」としての財政学を超え、政治・社会・歴史的背景などの様々な側面から財政現象を分析する「総合社会科学」としての財政学を学びます。財政とは、われわれと社会をつなぐ結節点に他なりません。一人の市民として現代社会を生き抜くために、経済・政治・社会の動向を財政の視点から多角的に捉える力を養うことを目指します。なお、本授業は前期開講科目「財政学Ⅰ」の発展的な位置づけとなります。		
履修条件・留意点	履修条件は設けませんが、本講義は前期開講科目「財政学Ⅰ」の発展科目として位置づけられます。「財政学Ⅰ」を未履修である場合、各自で参考文献等を用いて基礎知識を補う必要がある点に留意してください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 財政学の基礎理論を学び、現実社会の財政現象を捉えるための学術的な理論を理解することで、それらを他者に論理的に説明できるようになること。 ② 財政赤字や増税、社会保障改革といった社会的な話題について、多角的かつ批判的に考え、自分の考えをもって学術的見地を踏まえた議論ができるようになること。 ※①および②について、身につけてほしい具体例 ①包括的所得税の議論に基づき、所得税と法人税との関係性を踏まえながら、法人課税の根拠は何であるかを説明することができるようになる ②日本における消費税の特徴と問題点を理解し、整理したうえで、今後消費税の税率をどうすべきかについて自らの意見を学術的見地から議論できるようになる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題については、出した翌週の授業始めに解説および講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	教科書については、講義資料を用意するので購入の必要はありません。	ISBN	なし
参考書	①および②については授業資料の元となっているテキストです。より深く学習したい人は読むことをお勧めします。 ③については前期開講科目「財政学Ⅰ」のテキストです。復習したい人や財政学Ⅰを履修していない人は読むことをお勧めします。 ①テキストブック現代財政学（第2版），植田和弘・諸富徹編，有斐閣，2016年 ②財政学 第3版，神野直彦，有斐閣，2021年 ③①Why not?! 財政学 超入門からホット 이슈まで，江成穰・倉地真太郎・佐藤一光・藤原遥，有斐閣，2025年	ISBN	①9784641184329 ②9784641165816 ③9784641200210
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	50
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	本講義は前期開講科目「財政学Ⅰ」の発展科目として位置づけられます。「財政学Ⅰ」を未履修である場合、各自で参考文献等を用いて基礎知識を補う必要がある点に留意してください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション：財政学の歩み	【予習】シラバスとガイダンス資料を事前に読んでおいてください（1時間程度） 【復習】シラバスとガイダンス資料を読み直し、復習しておいてください（1時間程度）	2時間
第2回	対面	近代国家における財政の役割	【予習】事前配布資料を読み、事前に疑問点や考えたことを整理するとともに、毎日15~20分程度、新聞やテレビ、ネットニュースなどの報道をチェックし、財政や政策に関する情報収集をしてください。（2時間程度） 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第3回	対面	財政民主主義と予算制度	【予習】事前配布資料を読み、事前に疑問点や考えたことを整理するとともに、毎日15~20分程度、新聞やテレビ、ネットニュースなどの報道をチェックし、財政や政策に関する情報収集をしてください。（2時間程度） 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第4回	対面	公共財の最適供給理論	【予習】事前配布資料を読み、事前に疑問点や考えたことを整理するとともに、毎日15~20分程度、新聞やテレビ、ネットニュースなどの報道をチェックし、財政や政策に関する情報収集をしてください。（2時間程度） 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第5回	対面	公共投資・財政改革・産業構造転換	【予習】事前配布資料を読み、事前に疑問点や考えたことを整理するとともに、毎日15~20分程度、新聞やテレビ、ネットニュースなどの報道をチェックし、財政や政策に関する情報収集をしてください。（2時間程度） 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第6回	対面	社会保障と費用負担制度	【予習】事前配布資料を読み、事前に疑問点や考えたことを整理するとともに、毎日15~20分程度、新聞やテレビ、ネットニュースなどの報道をチェックし、財政や政策に関する情報収集をしてください。（2時間程度） 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間

第7回	対面	社会保障各論：年金・医療・介護・福祉	【予習】事前配布資料を読み、事前に疑問点や考えたことを整理するとともに、毎日15~20分程度、新聞やテレビ、ネットニュースなどの報道をチェックし、財政や政策に関する情報収集をしてください。(2時間程度) 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください(2時間程度)	4時間
第8回	対面	租税論①：租税の基礎理論	【予習】事前配布資料を読み、事前に疑問点や考えたことを整理するとともに、毎日15~20分程度、新聞やテレビ、ネットニュースなどの報道をチェックし、財政や政策に関する情報収集をしてください。(2時間程度) 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください(2時間程度)	4時間
第9回	対面	租税論②：所得税	【予習】事前配布資料を読み、事前に疑問点や考えたことを整理するとともに、毎日15~20分程度、新聞やテレビ、ネットニュースなどの報道をチェックし、財政や政策に関する情報収集をしてください。(2時間程度) 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください(2時間程度)	4時間
第10回	対面	租税論③：法人税	【予習】事前配布資料を読み、事前に疑問点や考えたことを整理するとともに、毎日15~20分程度、新聞やテレビ、ネットニュースなどの報道をチェックし、財政や政策に関する情報収集をしてください。(2時間程度) 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください(2時間程度)	4時間
第11回	対面	租税論④：消費税	【予習】事前配布資料を読み、事前に疑問点や考えたことを整理するとともに、毎日15~20分程度、新聞やテレビ、ネットニュースなどの報道をチェックし、財政や政策に関する情報収集をしてください。(2時間程度) 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください(2時間程度)	4時間
第12回	対面	租税論⑤：資産課税	【予習】事前配布資料を読み、事前に疑問点や考えたことを整理するとともに、毎日15~20分程度、新聞やテレビ、ネットニュースなどの報道をチェックし、財政や政策に関する情報収集をしてください。(2時間程度) 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください(2時間程度)	4時間
第13回	対面	公債と財政政策	【予習】事前配布資料を読み、事前に疑問点や考えたことを整理するとともに、毎日15~20分程度、新聞やテレビ、ネットニュースなどの報道をチェックし、財政や政策に関する情報収集をしてください。(2時間程度) 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください(2時間程度)	4時間
第14回	対面	国と地方の財政関係	【予習】事前配布資料を読み、事前に疑問点や考えた	4時間

			ことを整理するとともに、毎日 15~20 分程度、新聞やテレビ、ネットニュースなどの報道をチェックし、財政や政策に関する情報収集をしてください。(2 時間程度) 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください (2 時間程度)	
第 15 回	オンデマンド	まとめと振り返り	【予習】これまでの授業資料を見直して、自分が十分に理解できているところや苦手なところを整理しておいてください (2 時間程度) 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、期末試験のために、これまでの資料を読み直して総復習するようにしてください (4 時間程度)	6 時間

科目名	財政学Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	嶋田 裕光	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	経費（支出）と租税（収入）の両面から見た財政が直面する課題の基本的考察		
授業の目的及び概要	政府の経済活動である財政の経費を賄うための各種の租税制度と政策効果、経費膨張の主要因となっている社会保障関係の制度や課題や対策、財政赤字を巡る各種の議論を解説します。本講義（オンデマンドによる実施）を受講することにより、納税者あるいは被保険者としても実生活で接することになる財政の仕組みについて、経済社会全体への影響といった視野を広く持って理解できる力を身につけることを目的とします。なお、本講義は、春学期の財政学Ⅰの内容をさらに掘り下げたものと位置付けられます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本講義では以下を到達目標とします。 1. 日本の財政について、経費や租税の主な項目についての制度の基本的な仕組みとその考え方について理解できること 2. 経済や人口の動向から財政との相互の関係を整合的に説明できるようになること 3. 日本の財政が置かれている課題を理解し、その対応策について自らも意見を持てるようになること		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	講義ごとに、内容の理解を確認するための小テストをラーニングポータルに掲載しますので講義動画視聴後、解答してください。解答終了後（解答期限は概ね資料掲載から1週間後）、直ちに自動採点され理解度をチェックできるようにします。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1986 年に経済企画庁（現内閣府）に入庁し、国家公務員として 30 年以上のキャリアを積んでいる。また、経済白書や経済計画、GDP 統計、社会福祉政策にも携わった実務経験から、マクロ経済学、財政学、GDP 統計、少子化問題を専門領域としている。本科目では、これらの経験を生かし、経済データを正しく評価する目を養い、社会で役立てるための基本的な理論から実務的なプロセスまで含めた幅広い授業を行う。		
テキスト	特定のテキストは指定しません。適宜、動画教材とともに必要な資料があればラーニングポータルに掲載します。	ISBN	なし
参考書	①入門財政学（第2版），土居文朗，日本評論社，2021 年 ②図説 日本の財政（令和7年度版），財経詳報社，2026 年	ISBN	①9784535540071 ②9784881779194
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	本講義では、春学期の「財政学Ⅰ（財政と制度）」の講義（オンデマンド）に引き続き、より各論的にテーマを取り上げながら今後の財政の財源や需要を巡る社会的課題と対応策について理解を深めることを目的とします。並行して特にマクロ経済学関連科目の履修を薦めます。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	講義（オンデマンド）全体で取り上げる内容の流れと、成績評価方法について説明します。また、最近の具体的事例を用いながら財政の巡る課題を取り上げ関心を高めてもらいます。	ラーニングポータルに小テストを掲載しますので、講義動画視聴後、復習をかねて期限（1週間程度）までに解答してください。期限後、直ちに自動採点されますので、理解度をその都度チェックしながら、学修を進めてください。	2時間
第2回	オンデマンド	財政学Ⅰの内容の再確認として、財政ルール全般に関わる話として、まず憲法、財政法などに定められている財政の諸原則について解説します。	ラーニングポータルに小テストを掲載しますので、講義動画視聴後、復習をかねて期限（1週間程度）までに解答してください。期限後、直ちに自動採点されますので、理解度をその都度チェックしながら、学修を進めてください。	4時間
第3回	オンデマンド	歴史的な租税原則をレビューしたのち、公平、中立、簡素といった現代の租税三原則と租税体系の体系、及び租税特別措置などの考え方について解説します。	ラーニングポータルに小テストを掲載しますので、講義動画視聴後、復習をかねて期限（1週間程度）までに解答してください。期限後、直ちに自動採点されますので、理解度をその都度チェックしながら、学修を進めてください。	4時間
第4回	オンデマンド	租税理論（最適な課税のあり方など）について解説します。	ラーニングポータルに小テストを掲載しますので、講義動画視聴後、復習をかねて期限（1週間程度）までに解答してください。期限後、直ちに自動採点されますので、理解度をその都度チェックしながら、学修を進めてください。	4時間
第5回	オンデマンド	財政収入における所得税の位置づけ、政策効果（累進制度による効果や各種減税）、課題について国際比較なども交え解説します。	ラーニングポータルに小テストを掲載しますので、講義動画視聴後、復習をかねて期限（1週間程度）までに解答してください。期限後、直ちに自動採点されますので、理解度をその都度チェックしながら、学修を進めてください。	4時間
第6回	オンデマンド	財政収入における消費税の位置づけ、政策効果（軽減税率など）、課題について国際比較も交え解説します。	ラーニングポータルに小テストを掲載しますので、講義動画視聴後、復習をかねて期限（1週間程度）までに解答してください。期限後、直ちに自動採点されますので、理解度をその都度チェックしながら、学修を進めてください。	4時間
第7回	オンデマンド	法人税の制度概要、課税を巡る理論（法人実在説、法人擬制説など）、法人税改革（税率引き下げの経緯）、政策減税（租税特別措置）について解説します。。	ラーニングポータルに小テストを掲載しますので、講義動画視聴後、復習をかねて期限（1週間程度）までに解答してください。期限後、直ちに自動採点されますので、理解度をその都度チェックしながら、学修を進めてください。	4時間
第8回	オンデマンド	資産課税（相続税、贈与税）、その他最近注目される税目を取り上げその目的や効果について解説します。	ラーニングポータルに小テストを掲載しますので、講義動画視聴後、復習をかねて期限（1週間程度）までに解答してください。期限後、直ちに自動採点されますので、理解度をその都度チェックしながら、学修を進めてください。	5時間
第9回	オンデマンド	社会保険制度（年金、医療、介護、雇用）、社会保険料負担と国庫負担との関係など日本の社会保障制度の全体の仕組みと課題について解説します。	ラーニングポータルに小テストを掲載しますので、講義動画視聴後、復習をかねて期限（1週間程度）までに解答してください。期限後、直ちに自動採点されますので、理解度をその都度チェックしながら、学修を進めてください。	4時間
第10回	オンデマンド	社会保障制度のうち、日本の年金制度についてその仕組みと課題について解説します。	ラーニングポータルに小テストを掲載しますので、講義動画視聴後、復習をかねて期限（1週間程度）までに解答してください。期限後、直ちに自動採点されますので、理解度をその都度チェックしながら、学修を進めてください。	4時間

第11回	オンデマンド	社会保障制度のうち、医療保険制度、介護保険制度についてその仕組みの概要と課題について解説します。	ラーニングポータルに小テストを掲載しますので、講義動画視聴後、復習をかねて期限（1週間程度）までに解答してください。期限後、直ちに自動採点されますので、理解度をその都度チェックしながら、学修を進めてください。	4時間
第12回	オンデマンド	大きな政府か小さな政府かの選択、重要な財政指標（国民負担率など）について国際比較も交えながら解説します。	ラーニングポータルに小テストを掲載しますので、講義動画視聴後、復習をかねて期限（1週間程度）までに解答してください。期限後、直ちに自動採点されますので、理解度をその都度チェックしながら、学修を進めてください。	5時間
第13回	オンデマンド	膨張する社会保障を背景に拡大する財政赤字の功罪、再建目標等について最近の財政の現場での議論も踏まえながら解説します。	ラーニングポータルに小テストを掲載しますので、講義動画視聴後、復習をかねて期限（1週間程度）までに解答してください。期限後、直ちに自動採点されますので、理解度をその都度チェックしながら、学修を進めてください。	4時間
第14回	オンデマンド	行財政改革の必要性和、その一環として、EBPM(証拠に基づく政策立案)、PFIといった新しい行政手法について具体例も交えながら解説します。	ラーニングポータルに小テストを掲載しますので、講義動画視聴後、復習をかねて期限（1週間程度）までに解答してください。期限後、直ちに自動採点されますので、理解度をその都度チェックしながら、学修を進めてください。	4時間
第15回	オンデマンド	定期テスト対策（レポート試験）として繰り返し参照できるようこれまでの講義の全体総括を行います。	定期試験（レポート試験）に備えて、これまでのノートや講義資料を読み直すとともに、重要ポイントの知識、考え方を確認するなど十分復習を行ってください。	5時間

科目名	ゲーム理論	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	藤田 峻	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	ゲーム理論の基礎を修得する		
授業の目的及び概要	ゲーム理論は社会の出来事や仕組みを理解・分析するにあたって、非常に強力なツールです。本科目ではゲーム理論の基礎を学修することで、日常生活で直面する人間関係から企業の戦略、国家間の交渉まで、さまざまな社会の構造を分析できるようになることを目的とします。ゲーム理論を修得すると、例えば次のような疑問に答えられるようになります。弱者が強者を利用して勝つことができる状況とは、どのような状況でしょうか。就職活動で業務と直接関係ない経験や資格等が評価されるのはなぜでしょうか。将棋やチェスに必勝法は存在するのでしょうか。このような互いの選択が互いの利害に影響を与え合うような「戦略的關係」を、数理モデルによって体系づけられた経済理論として考える分野がゲーム理論です。なお数学が苦手な方にも可能な範囲で配慮しますが、ゲーム理論に関する問題を解くために、経済学部の 1 年次必修科目で扱う程度の数学的手法を活用できることを前提として授業を進めます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 現実の様々な状況を「ゲーム」として表現できる 2. ゲーム理論における解概念を理解し、均衡を導出できる 3. ゲーム理論に基づき現実の戦略的状況を解釈できる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	適宜実施する練習問題やコメントシート等に対して、授業冒頭等の時間を活用してフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。 必要な資料等は授業中に配付・紹介します。	ISBN	なし
参考書	図解で学ぶゲーム理論入門，天谷研一，日本能率協会マネジメントセンター，2011 年	ISBN	9784820747185
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	練習問題を解くとともに、自分でゲームを設定して解いてみることを実践すると、ゲーム理論を今後の人生で活用できるようになります。ゲーム理論は論理的思考を助ける強力なツールですので、本科目の履修を通じて、ぜひ論理的に物事を考える力を高めてください。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	ガイダンス	ガイダンスの内容を基に、授業の方法・進行について確認してください。	4 時間
第2回	対面	戦略形ゲームの定義	身近な戦略的状况を考えて、戦略形ゲームを構成する3要素を列挙し、ゲームを定義する復習を行ってください。 例) 参考書 pp. 1-35 を復習してください。	4 時間
第3回	対面	支配戦略均衡	授業内容を復習してください。 例) 参考書 pp. 38-49 を復習してください。	4 時間
第4回	対面	ナッシュ均衡	授業内容を復習してください。 例) 参考書 pp. 50-59 を復習してください。	4 時間
第5回	対面	ナッシュ均衡の応用	戦略的状况と言える社会問題や身近な例を考えて、利得表を用いてナッシュ均衡を調べる方法で、ゲーム理論を実際に活用する練習を行ってください。 例) 参考書 pp. 70-91 を復習してください。	4 時間
第6回	対面	混合戦略	授業内容を復習してください。 例) 参考書 pp. 60-63 を復習してください。数学が苦手な場合、pp. 226-229 も参考にしてください。	4 時間
第7回	対面	混合戦略ナッシュ均衡	授業内容を復習してください。 例) 参考書 pp. 64-67 を復習してください。	4 時間
第8回	対面	展開形ゲームの設定	授業内容を復習してください。 例) 参考書 pp. 94-101 を復習してください。	4 時間
第9回	対面	部分ゲーム完全均衡	授業内容を復習してください。 例) 参考書 pp. 102-105 を復習してください。	4 時間
第10回	対面	部分ゲーム完全均衡の応用	授業内容を復習してください。 例) 参考書 pp. 108-117 を復習してください。	4 時間
第11回	対面	無限繰り返しゲーム	授業内容を復習してください。 例) 参考書 pp. 178-207 を復習してください。数学が苦手な場合、pp. 232-233 も参考にしてください。	4 時間
第12回	対面	オークション理論入門	授業内容を復習してください。 例) 参考書 pp. 120-149 を復習してください。	4 時間
第13回	対面	シグナリング理論入門	授業内容を復習してください。 例) 参考書 pp. 152-175 を復習してください。	4 時間
第14回	対面	ゲーム理論の最先端	授業資料を基に復習を行ってください。また、定期試験に備えた総復習を開始してください。	4 時間
第15回	オンデマンド	総復習	定期試験に備えて総復習を行ってください。	4 時間

科目名	ゲーム理論	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	藤田 峻	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	ゲーム理論入門		
授業の目的及び概要	ゲーム理論は社会の出来事や仕組みを理解・分析するにあたって、非常に強力なツールです。本科目ではゲーム理論の基礎を学修することで、日常生活で直面する人間関係から企業の戦略、国家間の交渉まで、さまざま社会の構造を分析できるようになることを目的とします。ゲーム理論を修得すると、例えば次のような疑問に答えられるようになります。弱者が強者を利用して勝つことができる状況とは、どのような状況でしょうか。就職活動で業務と直接関係ない経験や資格等が評価されるのはなぜでしょうか。将棋やチェスに必勝法は存在するのでしょうか。このような互いの選択が互いの利害に影響を与え合うような「戦略的關係」を、数理モデルによって体系づけられた経済理論として考える分野がゲーム理論です。本科目では直観的な理解を重視してゲーム理論のエッセンスを学びます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 現実の様々な状況を「ゲーム」として表現できる 2. ゲーム理論における解概念を理解し、初歩的な均衡を導出できる 3. ゲーム理論に基づき現実の戦略的状況を考えることができる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内課題において必要に応じたフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。 必要な資料等は授業で配付・紹介します。	ISBN	なし
参考書	図解で学ぶゲーム理論入門，天谷研一，日本能率協会マネジメントセンター，2011 年	ISBN	9784820747185
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	練習問題を解くとともに、自分でゲームを設定して解いてみることを実践すると、ゲーム理論を今後の人生で活用できるようになります。 ゲーム理論は論理的思考を助ける強力なツールですので、本科目の履修を通じて、ぜひ論理的に物事を考える力を高めてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	オンデマンド	ガイダンス	ガイダンスの内容を基に、授業の方法・進行について確認してください。	4 時間

第2回	オンデマンド	戦略形ゲームの定義	身近な戦略的状况を考えて、戦略形ゲームを構成する3要素を列挙し、ゲームを定義する復習を行ってください。 例) 参考書 pp. 1–35 を復習してください。	4 時間
第3回	オンデマンド	支配戦略均衡	授業内容を復習してください。 例) 参考書 pp. 38–49 を復習してください。	4 時間
第4回	オンデマンド	ナッシュ均衡	授業内容を復習してください。 例) 参考書 pp. 50–59 を復習してください。	4 時間
第5回	オンデマンド	ナッシュ均衡の応用	戦略的状况と言える社会問題や身近な例を考えて、利得表を用いてナッシュ均衡を調べる方法で、ゲーム理論を実際に活用する練習を行ってください。 例) 参考書 pp. 70–91 を復習してください。	4 時間
第6回	オンデマンド	混合戦略	授業内容を復習してください。 例) 参考書 pp. 60–63 を復習してください。数学が苦手な場合、pp. 226–229 も参考にしてください。	4 時間
第7回	オンデマンド	混合戦略ナッシュ均衡	授業内容を復習してください。 例) 参考書 pp. 64–67 を復習してください。	4 時間
第8回	オンデマンド	展開形ゲームの設定	授業内容を復習してください。 例) 参考書 pp. 94–101 を復習してください。	4 時間
第9回	オンデマンド	部分ゲーム完全均衡	授業内容を復習してください。 例) 参考書 pp. 102–105 を復習してください。	4 時間
第10回	オンデマンド	部分ゲーム完全均衡の応用	授業内容を復習してください。 例) 参考書 pp. 108–117 を復習してください。	4 時間
第11回	オンデマンド	無限繰り返しゲーム	授業内容を復習してください。 例) 参考書 pp. 178–207 を復習してください。数学が苦手な場合、pp. 232–233 も参考にしてください。	4 時間
第12回	オンデマンド	オークション理論入門	授業内容を復習してください。 例) 参考書 pp. 120–149 を復習してください。	4 時間
第13回	オンデマンド	シグナリング理論入門	授業内容を復習してください。 例) 参考書 pp. 152–175 を復習してください。	4 時間
第14回	オンデマンド	レポート試験のポイント	授業資料を基に復習を行ってください。 また、レポート作成を進めてください。	4 時間
第15回	オンデマンド	総復習	授業全体の総復習を行ってください。	4 時間

科目名	上級ミクロ経済学Ⅰ		開講年度	2026 年度春学期
担当者	朱 東平		配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G4		授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	完全競争と資源配分			
授業の目的及び概要	この授業は、専門知識・能力の高度化を図る科目です。授業で扱う内容は、大学院入試、公務員試験などに出題される問題を解くために最低限必要な知識をカバーしています。効用関数、予算制約、需要、双対性、スルツキー方程式、生産関数、費用関数、利潤最大化、供給、均衡などについて学修していきます。 この授業は国家公務員試験対策・大学院入試対策に必要なミクロ経済学に関する知識を身につけることを目的としています。授業のレベルは、大学院進学や公務員試験に対応する数学を含めるレベル設定になります。			
履修条件・留意点	この科目の授業は、微分等を用いて行いますので、微分を修得していない学生は、「経済数学Ⅰ」と「経済数学Ⅱ」の単位を修得した後に履修することを推奨します。			
DP との関係	本科目と学位授与の方針（DP）との関係については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	授業の到達目標を以下のように設定します。 1. ミクロ経済学の基本的な考え方を理解することができる。 2. 国家公務員試験、大学院入試の問題を解くことができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	小テストや中間試験などに対して、必要に応じて授業時間を利用してフィードバックを行います。			
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	テキストは指定しません。必要な教材はラーニングポータルで配布します。	ISBN	なし	
参考書	予習・復習の際、下記の参考書を授業と並行して読んでください。 演習ミクロ経済学，武隈愼一，新世社，2017 年	ISBN	9784883842490	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	30		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	50		
	その他（％）	0		
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	経済学系大学院への進学を志望する学生、国家公務員や経済・経済学に通じた公務員を目指す学生はぜひこの授業を履修してください。 ただし、この授業は数学を用いるので、微分を修得できていない学生は、必ず「経済数学Ⅰ」「経済数学Ⅱ」の単位を事前に修得してから履修してください。 また、「上級ミクロ経済学Ⅰ」を履修した後に、必ず「上級ミクロ経済学Ⅱ」を履修してください。			

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	ガイダンス	シラバスと授業計画を確認してください。 (なお、2回目以降の内容は計画であり、授業の進行に合わせて変更することがあります。)	1 時間
第2回	対面	数学の復習 (微分を中心に)	配布資料を確認し、内容を復習する上、練習問題に取り組んでください。	4 時間
第3回	対面	効用関数と無差別曲線	効用関数と無差別曲線に関する配布資料の内容を復習するうえ、練習問題に取り組んでください。	4 時間
第4回	対面	予算制約の下での効用最大化 (1)	予算制約の下での効用最大化に関する配布資料の内容を復習するうえ、練習問題に取り組んでください。	4 時間
第5回	対面	予算制約の下での効用最大化 (2)	予算制約の下での効用最大化に関する配布資料の内容を復習するうえ、練習問題に取り組んでください。	4 時間
第6回	対面	間接効用関数、ロフの恒等式	間接効用関数とロフの恒等式に関する配布資料の内容を復習するうえ、練習問題に取り組んでください。	5 時間
第7回	対面	支出最小化、シェパードの補題	支出最小化とシェパードの補題に関する配布資料の内容を復習するうえ、練習問題に取り組んでください。	5 時間
第8回	対面	双対性、所得変化の影響	双対性、所得変化の影響に関する配布資料の内容を復習するうえ、練習問題に取り組んでください。	5 時間
第9回	対面	価格変化の影響、スルツキー方程式	価格変化の影響とスルツキー方程式に関する配布資料の内容を復習するうえ、練習問題に取り組んでください。また、これまでの内容を復習し、中間試験に備えてください。	6 時間
第10回	対面	中間試験	これまでの授業内容を完全に理解できるように復習し、中間試験問題の解答を確認してください。	5 時間
第11回	対面	生産関数、費用最小化と利潤最大化	生産関数、費用最小化と利潤最大化に関する配布資料の内容を復習するうえ、練習問題に取り組んでください。	5 時間
第12回	対面	短期の費用関数と供給関数、ホテリングの補題、包絡線	短期の費用関数と供給関数、ホテリングの補題、包絡線に関する配布資料の内容を復習するうえ、練習問題に取り組んでください。	5 時間
第13回	対面	均衡、ワルラス・マーシャル調整、蜘蛛の巣モデル	均衡、ワルラス・マーシャル調整、蜘蛛の巣モデルに関する配布資料の内容を復習するうえ、練習問題に取り組んでください。	5 時間
第14回	対面	まとめ・復習 (1)	配布資料を中心に、授業内容と練習問題の解答を復習してください。	5 時間
第15回	オンデマンド	まとめ・復習 (2)	配布資料を中心に、授業内容と練習問題の解答を復習してください。	6 時間

科目名	上級ミクロ経済学Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	朱 東平	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	市場の失敗と戦略的行動		
授業の目的及び概要	この授業は、専門知識・能力の高度化を図る科目です。授業で扱う内容は、大学院入試、公務員試験などに出題される問題を解くために最低限必要な知識をカバーしています。独占、複占、クールノー均衡、外部効果、公共財、一般均衡、厚生経済学、不確実性、ゲーム理論などについて学修していきます。 この授業は国家公務員試験対策・大学院入試対策に必要なミクロ経済学に関する知識を身につけることを目的としています。授業のレベルは、大学院進学や公務員試験に対応する数学を含めるレベル設定になります。		
履修条件・留意点	この授業科目は、「上級ミクロ経済学Ⅰ」の単位を修得した学生を対象とします。また、この科目の授業は、微分等を用いて行いますので、微分を修得していない学生は、「経済数学Ⅰ」と「経済数学Ⅱ」の単位を修得した後に履修することを推奨します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業の到達目標を以下のように設定します。 1. ミクロ経済学の基本的な考え方を理解することができる。 2. 国家公務員試験、大学院入試の問題を解くことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	小テストや中間試験などに対して、必要に応じて授業時間を利用してフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。必要な教材はラーニングポータルで配布します。	ISBN	なし
参考書	予習・復習の際、下記の参考書を授業と並行して読んでください。 演習ミクロ経済学，武隈愼一，新世社，2017 年	ISBN	9784883842490
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	経済学系大学院への進学を志望する学生、国家公務員や経済・経済学に通じた公務員を目指す学生はぜひこの授業を履修してください。 ただし、この授業は数学を用いるので、微分を修得できていない学生は、必ず「経済数学Ⅰ」「経済数学Ⅱ」の単位を事前に修得してから履修してください。 また、「上級ミクロ経済学Ⅱ」を履修する前に、必ず「上級ミクロ経済学Ⅰ」を履修してください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	シラバスと授業計画を確認してください。 （なお、2回目以降の内容は計画であり、授業の進行に合わせて変更することがあります。）	1 時間
第2回	対面	余剰分析と政策評価	余剰分析と政策評価に関する配布資料の内容を復習するうえ、練習問題に取り組んでください。	5 時間
第3回	対面	独占、複占、クールノー均衡	独占、複占、クールノー均衡に関する配布資料の内容を復習するうえ、練習問題に取り組んでください。	5 時間
第4回	対面	外部効果	外部効果に関する配布資料の内容を復習するうえ、練習問題に取り組んでください。	5 時間
第5回	対面	公共財とリンダールメカニズム	公共財とリンダールメカニズムに関する配布資料の内容を復習するうえ、練習問題に取り組んでください。	5 時間
第6回	対面	一般均衡、厚生経済学第1 命題	一般均衡、厚生経済学第1 命題に関する配布資料の内容を復習するうえ、練習問題に取り組んでください。	5 時間
第7回	対面	一般均衡、厚生経済学第2 命題	一般均衡、厚生経済学第2 命題に関する配布資料の内容を復習するうえ、練習問題に取り組んでください。	5 時間
第8回	対面	中間試験に向けた復習	これまでの授業内容を完全に理解できるように復習し、練習問題に取り組んでください。	6 時間
第9回	対面	中間試験	中間試験問題の解答を確認してください。	2 時間
第10回	対面	不確実性	不確実性に関する配布資料の内容を復習するうえ、練習問題に取り組んでください。	5 時間
第11回	対面	支配戦略、ナッシュ均衡	支配戦略、ナッシュ均衡に関する配布資料の内容を復習するうえ、練習問題に取り組んでください。	5 時間
第12回	対面	混合戦略ナッシュ均衡	混合戦略ナッシュ均衡に関する配布資料の内容を復習するうえ、練習問題に取り組んでください。	5 時間
第13回	対面	展開型ゲーム、部分ゲーム完全均衡	展開型ゲーム、部分ゲーム完全均衡に関する配布資料の内容を復習するうえ、練習問題に取り組んでください。	5 時間
第14回	対面	まとめ・復習（1）	配布資料を中心に、授業内容と練習問題の解答を復習してください。	5 時間
第15回	オンデマンド	まとめ・復習（2）	配布資料を中心に、授業内容と練習問題の解答を復習してください。	6 時間

科目名	上級マクロ経済学Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	嶋田 裕光	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	マクロ経済学の枠組みの数学的な理解に慣れるとともに異時点間の視点に基づいたミクロ的な基礎について学ぶ。		
授業の目的及び概要	これまで学修したマクロ経済学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの内容をより数学的な表現を用いながら分析の枠組みやメカニズムについてより理解を深化させるとともに、マクロ経済学の背景にあるミクロ経済学的な基礎も含めて学修します。具体的には、異時点間モデルを用いて家計の消費・貯蓄行動や企業の投資活動、それらが出会う市場均衡を通じて所得と物価水準が決まるメカニズムを取り上げていきます。この学修を通じて、現実のマクロ経済に関わる様々な経済変数の動きを将来の時間軸も念頭において理論的に理解することが可能になり、学部レベルでの「実学としての経済学」の学びの総仕上げにつながるようになります。		
履修条件・留意点	マクロ経済学の応用科目となるため、マクロ経済学Ⅰ、Ⅱはもちろんのこと、マクロ経済学Ⅲまで履修を終えていることが望ましい。また、適宜数学も用いるため、経済数学など別途関連科目も履修していることを推奨します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この講義は以下の能力を身につけることを目標にします。 1. これまでマクロ経済学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを通じて学修したマクロ経済学の枠組みを一般的な関数による数学的な表現によっても理解できること 2. マクロ経済学におけるミクロ的な基礎を理解すること 3. マクロ経済学における異時点間の分析の視点に立った様々な最適概念に習熟すること 4. 演習課題を通じて数学的な処理を伴う実践的な問題（大学院入試や公務員試験など）を解けるようになること		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	本授業では毎回の授業の演習による理解の定着を重視します。そのため、受講人数にも異なりますが、授業中に演習問題を提示し、それを宿題として持ち帰ってもらってラーニングポータルを活用して解答し、次回に解説するという流れを基本とします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1986 年に経済企画庁（現内閣府）に入庁し、国家公務員として 30 年以上のキャリアを積んでいる。また、経済白書や経済計画、GDP 統計、社会福祉政策にも携わった実務経験から、マクロ経済学、財政学、GDP 統計、少子化問題を専門領域としている。本科目では、これらの経験を生かし、経済データを正しく評価する目を養い、社会で役立てるための基本的な理論から実務的なプロセスまで含めた幅広い授業を行う。		
テキスト	特定のテキストは用いませんが、以下の参考書・演習書をもとに作成した教材を適宜用います。	ISBN	なし
参考書	① 入門マクロ経済学（第6版）、中谷巖、日本評論社 2021年 定番テキストとしてこれまでの学修事項の確認にも活用できます。 ② 標準マクロ経済学（第3版）、笹倉和幸、東洋経済新報社 2024年 マクロ経済学の初歩を終えたレベルの人向けで、数学付録の添付や数式展開も丁寧に行われており、本授業ではこの水準を念頭に置きます。本講義では第Ⅰ部、第Ⅱ部の内容を扱うことになります。 ③ マクロ経済学（第2版）、二神孝一、有斐閣、2017年（基礎編・応用編として第3版が近刊予定）	ISBN	①9784535557956 ②9784492315606 ③9784641165021 ④9784788947276

	中級のマクロ経済学のテキストとして定評のあるもので、本授業でも内容を適宜活用するほか、より進んで学修したい人向けです。 ④ 経済学ゼミナール上級編（初版）、西村和雄、実務教育出版 2015年 具体的な問題に実際にあたって理論の理解を深めるために欠かせない演習書（11章以下のマクロ経済学部分が対応）として活用できます。		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		0
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		30
	成果発表（口頭・実技）		0
	中間試験		30
	【定期試験】レポート試験		0
	【定期試験】筆記試験（対面）		40
	その他（%）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	マクロ経済学Ⅰ、Ⅱ（さらにはⅢ）の内容の応用となるため、それら履修していることが条件となります。なお、「限界」、「最適」という概念も頻繁に登場しますので、ミクロ経済学Ⅱや経済数学などを履修し数学的な扱いにも慣れておくことを推奨します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業計画の説明の後、これまでのマクロ経済学の授業で学修した内容の復習と今後の授業で説明する分析モデルが必要となる数学的準備（偏微分、全微分など）について解説します。	授業の解説後、理解の定着を図るために類題となる演習問題を課題として出しますので、ラーニングポータル（解答形式は問題によります）を活用して次回授業日前日までに解答を提出してください。	4時間
第2回	対面	マクロ経済学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで学修した財市場の均衡（45度線分析）、貨幣市場の均衡、IS=LM分析、AD-AS分析について、グラフだけでなく微分など数学的な表現も使いながら体系的にまとめて復習します。	授業の解説後、理解の定着を図るために類題となる演習問題を課題として出しますので、ラーニングポータル（解答形式は問題によります）を活用して次回授業日前日までに解答を提出してください。	4時間
第3回	対面	マクロ経済学Ⅲまでに学修した内容（IS-LM分析やAD-AS分析）をより数理的に表現する方法を用いながら解説します。	授業の解説後、理解の定着を図るために類題となる演習問題を課題として出しますので、ラーニングポータル（解答形式は問題によります）を活用して次回授業日前日までに解答を提出してください。	4時間
第4回	対面	特に様々な前提の場合分けが必要となるマンデルフレミングモデルの政策効果について数学的な展開で理解できるよう解説します。	授業中の解説後、理解の定着を図るために類題となる演習問題を課題として出しますので、ラーニングポータル（解答形式は問題によります）を活用して次回授業日前日までに解答を提出してください。	4時間
第5回	対面	AD-ASモデルを一般形関数形を用いながら、その曲線の形状や政策変更による均衡の変化を数的に表現することも含めて解説します。	授業の解説後、理解の定着を図るために類題となる演習問題を課題として出しますので、ラーニングポータル（解答形式は問題によります）を活用して次回授業日前日までに解答を提出してください。	4時間
第6回	対面	家計の消費・貯蓄行動の背景にある理論として、ミクロ経済学的なアプローチから導かれる異時点間の消費と貯蓄の選択（最適条件を示すオイラー方程式など）について解説します。	次回7回は中間テストとなりますのでこれまでの演習問題をよく復習するようにしてください。	6時間
第7回	対面	これまでの学修内容を範囲（特にIS-LM、AD-ASモデルの数理的展開）として中間テストを実施します。	中間テスト実施後に授業中に解答解説を行いますので、間違えたところを中心に理解が足りなかった部分を潰しておいてください。	4時間
第8回	対面	第6回目授業から取り上げた異時点間消	授業の解説後、理解の定着を図るために類題となる	4時間

		費モデルから導かれる最適消費の条件のインプリケーションをもとに、これまでマクロ経済学ⅠやⅡで扱ってきた消費関数との関係を考察します。	演習問題を課題として出しますので、ラーニングポータル（解答形式は問題によります）を活用して次回授業日前日までに解答を提出してください。	
第9回	対面	これまでの家計の行動から企業側の行動に観点を移して、異時点間モデルを使って新古典派学派による投資理論（この内容は秋学期開講の上級マクロ経済学Ⅱで扱う経済成長モデルにも関係します）解説します。	授業中の解説後、理解の定着を図るために類題となる演習問題を課題として出しますので、ラーニングポータル（解答形式は問題によります）を活用して次回授業日前日までに解答を提出してください。	4 時間
第10回	対面	前回から取り上げている異時点間モデルを使って新古典派学派による投資理論に基づく最適な資本ストックと投資額が満たすべき条件と、その条件の変化による資本ストックや投資額への影響について、数式やグラフを交えて解説します。	授業中の解説後、理解の定着を図るために類題となる演習問題を課題として出しますので、ラーニングポータル（解答形式は問題によります）を活用して次回授業日前日までに解答を提出してください。	4 時間
第11回	対面	これまで学修した異時点間モデルの枠組みを用いて、家計行動、企業行動を統合して簡単なマクロモデルを構築し、時点間の相互の連関を考察します。	授業中の解説後、理解の定着を図るために類題となる演習問題を課題として出しますので、ラーニングポータル（解答形式は問題によります）を活用して次回授業日前日までに解答を提出してください。	4 時間
第12回	対面	前回に引き続き家計と企業を統合した異時点間モデルに、さらに政府部門と貿易を組み込んで拡張した場合の最適条件の変化について学修します。	授業中の解説後、理解の定着を図るために類題となる演習問題を課題として出しますので、ラーニングポータル（解答形式は問題によります）を活用して次回授業日前日までに解答を提出してください。	4 時間
第13回	対面	前回までに学修した拡張された異時点間モデルにさらに貨幣市場を考慮した際、物価やインフレ率がどのようなメカニズムで決定されるかについて解説します。	授業中の解説後、理解の定着を図るために類題となる演習問題を課題として出しますので、ラーニングポータル（解答形式は問題によります）を活用して次回授業日前日までに解答を提出してください。	4 時間
第14回	対面	定期試験に備えて、中間テスト以降学修した異時点間モデルを用いて家計消費、企業投資、市場均衡、各種の政策効果について総復習します。最後に復習すべき重点演習問題を提示します。	授業最後に提示した重点演習問題を再度解いておくようにしてください。次回15回授業（オンデマンド）でその解説を行います。	4 時間
第15回	オンデマンド	これまでの学修内容の総復習と前回の演習問題の解説をオンデマンドで行いますので、教材を繰り返し聴講して定着を図ってください。	ラーニングポータル上に掲載したオンデマンド動画教材を繰り返し聴講するとともに、定期試験に向けて今一度これまでの演習問題などを用いて総復習を行ってください。	6 時間

科目名	上級マクロ経済学Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	嶋田 裕光	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	マクロ経済学の中長期的な分析の枠組み（動学的 AD-AS モデル、ソローの経済成長モデルなど）を理解する。		
授業の目的及び概要	異時点間の比較静学分析を中心とした上級マクロ経済学Ⅰでの内容に期待予測や動学的要素を取り入れ、均衡に至るまでの過程も含めたマクロ経済の中長期的な分析の枠組みの理解を図ります。具体的には、上級マクロ経済学Ⅰで学修した AD=AS モデルに将来期待要素を取り入れて物価の連続的な変化（インフレやデフレ）などを説明する動学モデル、新古典派による経済成長モデルの基本型であるソローモデル、その後の成長論として注目されている内生的成長理論を順次取り上げていきます。この学修を通じて、現実のマクロ経済に関わる経済指標の時間的な変化や中長期にわたる経済成長のメカニズムについて理論的に理解することが可能になり、学部レベルでの「実学としての経済学」の学びの総仕上げにつながるようになります。		
履修条件・留意点	上級マクロ経済学Ⅰの続編となりますので、同授業を履修していることが望まれます。また、差分方程式や対数微分も使いますので経済数学について履修していると理解が速いです。		
DP との関係	本科目と学位授与の方針（DP）との関係については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この講義は以下の能力を身につけることを目標にします。 1. マクロ経済学における中長期的な分析の枠組みを理解すること 2. マクロ経済に関する経済指標の時間を通じた連続的な変化のメカニズムを理解すること 3. 経済成長のメカニズムを理論的に説明できること 4. 演習課題を通じて数学的な処理を伴う実証的な問題（大学院入試や公務員試験）を解けるようになること		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	本授業では毎回の授業の演習による理解の定着を重視します。そのため、受講人数にもよりますが、授業中に演習問題を提示し、それを宿題として持ち帰ってもらってラーニングポータルを活用して解答し、次回に解説するという流れを基本とします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1986 年に経済企画庁（現内閣府）に入庁し、国家公務員として 30 年以上のキャリアを積んでいる。また、経済白書や経済計画、GDP 統計、社会福祉政策にも携わった実務経験から、マクロ経済学、財政学、GDP 統計、少子化問題を専門領域としている。本科目では、これらの経験を生かし、経済データを正しく評価する目を養い、社会で役立てるための基本的な理論から実務的なプロセスまで含めた幅広い授業を行う。		
テキスト	テキスト指定は行いません。必要なレジュメを適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	① 入門マクロ経済学（第6版）、中谷巖、日本評論社 2021年 定番テキストとしてこれまでの学修事項の確認にも活用できます。特に後半部分が本講義の内容に該当します。 ② 標準マクロ経済学（第3版）、笹倉和幸、東洋経済新報社 2024年 マクロ経済学の初歩を終えたレベルの人向けで、数学付録の添付や数式展開も丁寧に行われており、本授業ではこの水準を念頭に置きます。本講義では第Ⅲ部以降の内容を扱うことになります。 ③ マクロ経済学（第2版）、二神孝一、有斐閣、2017年（基礎編、応用編に分かれて第3版が近刊予定）	ISBN	①9784535557956 ②9784492315606 ③9784641165021 ④9784788947276

	中級のマクロ経済学のテキストとして定評のあるもので、本授業でも適宜内容を活用する他、より進んで学修したい人向けです。 ④ 経済学ゼミナール上級編（初版）、西村和雄、実務教育出版 2015年 具体的な問題にあたって理論の理解を深めるために欠かせない演習書（11章以下のマクロ経済学部分に対応）として活用できます。		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		0
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		30
	成果発表（口頭・実技）		0
	中間試験		30
	【定期試験】レポート試験		0
	【定期試験】筆記試験（対面）		40
	その他（%）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	マクロ経済学 I、II の内容の応用となるため、それら履修していることが条件となります。また、上級マクロ I 経済学の続編となるため、連続して受講することでマクロ経済学全体の理解が深まります。なお、上級マクロ経済学 I と同様に「限界」、「最適」という概念が多数登場しますので、ミクロ経済学 II や経済数学などを履修し数学的な扱い（差分方程式や微分）にも慣れておくことを推奨します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業計画について説明したのち、今後の授業で必要となる最低限の数学的な準備（対数微分、簡単な差分方程式など）について解説します。	授業の解説後、理解の定着を図るために類題となる演習問題を課題として出しますので、ラーニングポータル（解答形式は問題によります）を活用して次回授業日前日までに解答を提出してください。	4 時間
第2回	対面	AD-AS 分析において AS 曲線をインフレーションと失業などの関係から導かれるフィリップス曲線やオウクンの法則を使いながら導出し、AD 曲線との均衡の求め方と長期均衡までの調整過程について学修します。	授業の解説後、理解の定着を図るために類題となる演習問題を課題として出しますので、ラーニングポータル（解答形式は問題によります）を活用して次回授業日前日までに解答を提出してください。	4 時間
第3回	対面	前回導出した物価水準の時間的変化を組み込んだ AS 曲線を使って、政策的なショックが起きた場合などの AD 曲線との交点となる所得水準と物価水準の均衡の動きや長期均衡への影響などについて解説します。	授業の解説後、理解の定着を図るために類題となる演習問題を課題として出しますので、ラーニングポータル（解答形式は問題によります）を活用して次回授業日前日までに解答を提出してください。	4 時間
第4回	対面	前回学修した AS 曲線と AD 曲線をさらに適応的期待などの期待形成仮説を織り込んだ動学的表現にした形の動学的 AD-AS モデルにまで拡張し、そのモデルもとに初期条件からどのように所得水準とインフレ率の均衡点が動いていくか（長期均衡までの軌跡）について学修します。	授業の解説後、理解の定着を図るために類題となる演習問題を課題として出しますので、ラーニングポータル（解答形式は問題によります）を活用して次回授業日前日までに解答を提出してください。	4 時間
第5回	対面	前回までに学修した動学的 AD-AS 曲線を使って、財政や金融政策の変更など経済的なショックが生じた場合に長期均衡までの調整過程がどのように変化するかについて学修します。	授業の解説後、理解の定着を図るために類題となる演習問題を課題として出しますので、ラーニングポータル（解答形式は問題によります）を活用して次回授業日前日までに解答を提出してください。	4 時間
第6回	対面	動学的 AD=AS モデルを用いた均衡の求め方から財政金融政策の効果、生産条件の変	今回は中間テストとなりますので、これまで学修した内容を授業中に取り上げた演習問題を解き直すな	6 時間

		化などによるインフレーション分析に関する具体的な演習問題を取りあげながら、中間テスト前の復習を行います。	ど、総復習を行ってください。	
第7回	対面	これまでの学修内容を範囲として、中間テストを実施します。	授業中にテストの解答解説を行いますので、誤ったところを中心に理解が足りなかった部分を潰しておいてください。	4 時間
第8回	対面	経済成長論の基礎となるケインズ理論に基づくハロッド＝ドーマーモデルについて、生産関数などの前提条件、ナイフエッジの原理などを学修します。	授業の解説後、理解の定着を図るために類題となる演習問題を課題として出しますので、ラーニングポータル（解答形式は問題によります）を活用して次回授業日前日までに解答を提出してください。	4 時間
第9回	対面	新古典派の経済成長理論の基本となるソローモデルを取り上げ、新古典派理論における生産関数を前提に、生産要素、財市場の需給均衡条件から導きだされる資本蓄積方程式について解説します。	授業の解説後、理解の定着を図るために類題となる演習問題を課題として出しますので、ラーニングポータル（解答形式は問題によります）を活用して次回授業日前日までに解答を提出してください。	4 時間
第10回	対面	前回学修したソローモデルを用いて定常状態と外生変数（労働人口、貯蓄率）の変化による成長率への効果について解説します。	授業の解説後、理解の定着を図るために類題となる演習問題を課題として出しますので、ラーニングポータル（解答形式は問題によります）を活用して次回授業日前日までに解答を提出してください。	4 時間
第11回	対面	前回までに学修したソローモデルについて黄金律の導出、さらに技術進歩の要素を導入しソローモデルの考え方を適用した実際の成長会計分析について解説します。	授業の解説後、理解の定着を図るために類題となる演習問題を課題として出しますので、ラーニングポータル（解答形式は問題によります）を活用して次回授業日前日までに解答を提出してください。	4 時間
第12回	対面	ソローモデルを前提に、技術進歩の中立性（ヒックス、ハロッド、ソロー）についてについて解説します。	授業の解説後、理解の定着を図るために類題となる演習問題を課題として出しますので、ラーニングポータル（解答形式は問題によります）を活用して次回授業日前日までに解答を提出してください。	4 時間
第13回	対面	新古典派の成長論以降展開された内生的成長論について概説します。	授業の解説後、理解の定着を図るために類題となる演習問題を課題として出しますので、ラーニングポータル（解答形式は問題によります）を活用して次回授業日前日までに解答を提出してください。	4 時間
第14回	対面	中間テスト以降に学修した成長論全体の復習を行います。	授業の解説後、理解の定着を図るために類題となる演習問題を課題として出しますので、ラーニングポータル（解答形式は問題によります）を活用して次回授業日前日までに解答を提出してください。	4 時間
第15回	オンデマンド	総復習回としてオンデマンドで実施しますので、教材を繰り返し聴講し、これまでの学修内容全体の理解の定着を図ってください。	ラーニングポータルに掲載するオンデマンド動画教材を繰り返し聴講し、全体の理解を定着させるとともに、これまでの演習問題を再度復習して、期末定期試験に備えてください。	6 時間

科目名	行動経済学	開講年度	2026 年度春学期
担当者	篠田 太郎	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	行動経済学および実験経済学の導入		
授業の目的及び概要	本科目では、行動経済学と実験経済学について学修します。前半では行動経済学分野から人間の心理的バイアスを理解します。後半では実験経済学分野から人間の合理性に関する理解を深めることを目指します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	基本的な経済学が想定する「合理的な人間」と現実の人間とのギャップが理解できるようになることを目指します。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	（ほぼ）毎回の提出課題について、講義中に解説や講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①行動経済学入門，グレッグ・マルデフ，東洋経済新報社，2017 年	ISBN	①9784492314975
参考書	①Behavioral Game Theory, Colin F. Camerer, Princeton University Press, 2003 年 ②実験ミクロ経済学，小川一仁・川越敏司・佐々木俊一郎，東洋経済新報社，2016 年	ISBN	①9780691090399 ②9784492314289
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	55	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	本講義は「基礎的な経済理論を修得した学生」を想定して進行します。そのため、特にミクロ経済学やゲーム理論の理解が浅い学生には履修を推奨しません。またアウトプットとして自分の考えを論じる課題を出しますので、自分の思考を言葉にすることが苦手な学生は十分な習得ができず、また単位に合格することもできませんので、ご注意ください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンスと行動経済学の導入	【予習】事前にシラバスによく目を通し、自身のこれまでのミクロ経済学やゲーム理論の理解度を振り返ってください。 【復習】シラバスを読み直し、講義の前提となる知識を確認してください。	4 時間
第2回	対面	ヒューリスティックス	【予習】配布資料を予め読み、疑問点を洗い出しておいてください。	4 時間

			【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	
第3回	対面	時間非整合性	【予習】配布資料を予め読み、疑問点を洗い出しておいてください。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第4回	対面	リスク選好と期待効用理論	【予習】配布資料を予め読み、疑問点を洗い出しておいてください。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第5回	対面	プロスペクト理論	【予習】配布資料を予め読み、疑問点を洗い出しておいてください。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第6回	対面	ナッジ	【予習】配布資料を予め読み、疑問点を洗い出しておいてください。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第7回	対面	第1回から第6回までの復習	【予習】これまでの配布資料を予め読み、疑問点を洗い出しておいてください。 【復習】これまでの配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第8回	対面	実験経済学の導入	【予習】配布資料を予め読み、疑問点を洗い出しておいてください。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第9回	対面	市場実験	【予習】配布資料を予め読み、疑問点を洗い出しておいてください。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第10回	対面	オークション実験	【予習】配布資料を予め読み、疑問点を洗い出しておいてください。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第11回	対面	独裁者ゲームと最後通牒ゲーム	【予習】配布資料を予め読み、疑問点を洗い出しておいてください。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第12回	対面	信頼ゲームと公共財供給ゲーム	【予習】配布資料を予め読み、疑問点を洗い出しておいてください。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	5 時間
第13回	対面	公共財供給ゲームの発展形	【予習】配布資料を予め読み、疑問点を洗い出しておいてください。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第14回	対面	第8回から第13回までの復習	【予習】これまでの配布資料を予め読み、疑問点を洗い出しておいてください。 【復習】これまでの配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	5 時間
第15回	オンデマンド	講義内容の総まとめ	【予習】これまでの講義の配布資料を確認し、振り返りを行ってください。 【復習】これまでの講義の配布資料を読み直し、自分の考えを整理してください。	6 時間

科目名	企業経済学Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	二替 大輔	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	企業の流通・マーケティング戦略を経済モデルに基づいて理解する。		
授業の目的及び概要	本講義では、企業のマーケティング戦略について学修します。講義では、ミクロ経済学および産業組織論の知識を用いるので、まず、その復習から始めていきます。またグラフや簡単な数式を用いるのでその復習も行います。次に、企業の価格戦略、垂直的取引関係およびプラットフォーム・ビジネス等の現象を経済学的に考えるための基礎知識を解説します。そして、企業戦略の経済学的評価方法について実例を用いながら検討していきます。また、講義内容の理解を深めるために問題演習を実施します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	(1) 独占企業の意思決定に関する理論を理解し、説明することができる。 (2) 企業の流通・マーケティング戦略について、ミクロ経済学を応用して説明することができる。 (3) 企業の流通・マーケティング戦略について、経済学的評価を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	問題演習・中間試験については、採点した上で返却します 期末試験については、Learning Portal で解答・解説を公開します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。 配布資料を用いて授業を行います。	ISBN	なし
参考書	①経営の経済学（第3版）、丸山雅祥、有斐閣、2017 年 ②産業組織と企業行動、池田剛士、税務経理協会、2021 年 ③プラクティカル産業組織論、泉田成泉・柳川隆、有斐閣、2008 年 ④ベーシックプラス ミクロ経済学の基礎、小川光・家森信善、中央経済社、2016 年	ISBN	①9784641164956 ②9784419067700 ③9784641123724 ④9784502179518
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	10	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	ミクロ経済学の内容を復習しておくことで授業の理解が深まります。また、産業組織論と共通する箇所があるので、履修した人は産業組織論についても復習しておいてください。講義を通じて、ミクロ経済学の考え方をどのように現実社会に応用するかを授業を通じて理解できるようにしてください。図や数式を使うこともあります。講義では問題演習を行って理解度を確かめるので、必ず復習を行ってください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	【予習】シラバスと講義資料を事前に読んで、基本的な内容について予習してください。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4時間
第2回	対面	消費者行動と需要の特性	【予習】「消費者行動と需要の特性」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「消費者行動と需要の特性」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4時間
第3回	対面	生産者行動と企業の費用	【予習】「生産者行動と企業の費用」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「生産者行動と企業の費用」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4時間
第4回	対面	独占企業の行動	【予習】「独占企業の行動」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「独占企業の行動」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4時間
第5回	対面	小売企業の価格戦略①：グループ別価格差別	【予習】「グループ別価格差別」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「グループ別価格差別」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4時間
第6回	対面	小売企業の製品戦略②：バンドリング	【予習】「バンドリング」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「バンドリング」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4時間
第7回	対面	小売企業の価格戦略③：二部料金制	【予習】「二部料金制」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「二部料金制」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4時間
第8回	対面	小売企業の価格戦略④：異時点間の価格差別	【予習】「異時点間の価格差別」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「異時点間の価格差別」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4時間
第9回	対面	前半のまとめと中間試験	【予習】「第1回から第8回」に関する資料を読んで理解できなかったところをまとめておいてください。中間試験に向けての復習をしてください。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4時間
第10回	対面	中間試験の解説	【予習】講義資料の該当箇所の再確認してください。 【復習】中間試験の解き直しをしてください。	4時間
第11回	対面	垂直的取引関係①：垂直的取引の仕組みと二重マージン問題	【予習】「垂直的取引の仕組みと二重マージン問題」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「垂直的取引の仕組みと二重マージン問題」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4時間
第12回	対面	垂直的取引関係②：二重マージン問題の解決	【予習】「二重マージン問題の解決」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「二重マージン問題の解決」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4時間

第13回	対面	プラットフォーム・ビジネスの基礎概念について学びます。	【予習】「プラットフォーム・ビジネスの基礎概念」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「プラットフォーム・ビジネスの基礎概念」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第14回	対面	プラットフォーム・ビジネスにおける価格戦略について学びます。	【予習】「プラットフォーム・ビジネスにおける価格戦略」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「プラットフォーム・ビジネスにおける価格戦略」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第15回	オンデマンド	講義全体のまとめを行います。	【予習】配布資料を読んで理解できなかったところをまとめておいてください。 【復習】授業で配布した資料を使って、講義内容を復習をしてください。	4 時間

科目名	企業経済学Ⅱ		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	二替 大輔		配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G3		授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	寡占市場における企業の流通・マーケティング戦略について理解する。			
授業の目的及び概要	本講義では、寡占市場における企業の流通・マーケティング戦略について学修します。講義では、ゲーム理論及び産業組織論の理論を用いるので、その復習から始めていきます。またグラフや簡単な数式を用いるのでその復習も行います。次に、企業の製品戦略、技術開発投資や広告投資等の競争戦略およびプラットフォームにおける競争について解説します。そして、寡占市場における企業戦略に関わる経済学的評価方法について実例を用いながら検討していきます。また、講義内容の理解を深めるために問題演習を実施します。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	(1) 寡占市場における企業戦略を理解し、説明することができる。 (2) 現実に見られる企業の行動について、ミクロ経済学を応用して説明することができる。 (3) 現実に見られる企業の行動について、経済学的評価を行うことができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	問題演習・中間試験については、採点した上で返却します 期末試験については、Learning Portal で解答・解説を公開します。			
アクティブ・ラーニング の取り組み				
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	テキストは指定しません。 配布資料を用いて授業を行います。		ISBN	なし
参考書	①経営の経済学（第3版）、丸山雅祥、有斐閣、2017 年 ②産業組織と企業行動、池田剛士、税務経理協会、2021 年 ③プラクティカル産業組織論、泉田成泉・柳川隆、有斐閣、2008 年 ④ベーシックプラス ミクロ経済学の基礎、小川光・家森信善、中央経済社、2016 年		ISBN	①9784641164956 ②9784419067700 ③9784641123724 ④9784502179518
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		10	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		20	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		70	
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	ミクロ経済学の内容を復習しておくことで授業の理解が深まります。また、ゲーム理論・産業組織論と共通する箇所があるので、履修した人は産業組織論についても復習しておいてください。講義を通じて、ミクロ経済学の考え方をどのように現実社会に応用するかを授業を通じて理解できるようにしてください。図や数式を使うこともあります。講義では問題演習を行って理解度を確かめるので、必ず復習を行ってください。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス・独占企業の行動の復習	【予習】シラバスと講義資料を事前に読んで、基本的な内容について予習してください。 【復習】授業で配布した資料「独占企業の行動」を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4時間
第2回	対面	寡占市場の分析①：数量競争	【予習】「数量競争」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「数量競争」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4時間
第3回	対面	寡占市場の分析②：価格競争（1）	【予習】「価格競争（1）」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「価格競争（1）」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4時間
第4回	対面	寡占市場③：価格競争（2）	【予習】「価格競争（2）」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「価格競争（2）」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4時間
第5回	対面	企業の製品戦略①：製品の多様化	【予習】「製品の多様化」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「製品の多様化」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4時間
第6回	対面	企業の製品戦略②：垂直的差別化	【予習】「垂直的差別化」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「垂直的差別化」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4時間
第7回	対面	企業の製品戦略③：水平的差別化	【予習】「水平的差別化」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「水平的差別化」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4時間
第8回	対面	前半のまとめと中間試験	【予習】「第1回から第7回」に関する資料を読んで理解できなかったところをまとめておいてください。中間試験に向けての復習をしてください。 【復習】中間試験の振り返りをしてください。	4時間
第9回	対面	中間試験の解説	【予習】講義資料の該当箇所の再確認してください。 【復習】中間試験の解き直しをしてください。	4時間
第10回	対面	競争戦略①：戦略効果	【予習】「戦略効果」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「戦略効果」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4時間
第11回	対面	競争戦略②：競争戦略の分類	【予習】「競争戦略の分類」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「競争戦略の分類」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4時間
第12回	対面	競争戦略③：競争戦略を用いた企業行動の分析	【予習】「競争戦略を用いた企業行動の分析」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「競争戦略を用いた企業行動の分析」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4時間
第13回	対面	プラットフォームにおける競争①：プラットフォームの価格設定	【予習】「プラットフォームの価格設定」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「プラットフォームの価格設定」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4時間
第14回	対面	プラットフォームにおける競争②：シングルホーミングとマルチホーミング	【予習】「シングルホーミングとマルチホーミング」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「シングルホーミングとマル	4時間

			チホーミング」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	
第15回	オンデマンド	講義全体のまとめを行います。	【予習】配布資料を読んで理解できなかったところをまとめておいてください。 【復習】授業で配布した資料を使って、後半の内容を復習をしてください。	4時間

科目名	公共経済学Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	篠田 太郎	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	厚生経済学の観点を身につける		
授業の目的及び概要	本科目では、公共経済学の中でも、特に厚生経済学について学修します。前半では選好や効用など消費者理論を学ぶことで、個人合理性を理解します。後半では社会全体の合理性を学び、公平さとは何か、どのようにそれを実現するかという観点を身につけることを目指します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	さまざまな公平性を習得して社会全体のよさを論じることができるようになることを目指します。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	中間試験について、講義中に講評を行います。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①公共経済学(第2版), 小川光・西森晃, 中央経済社, 2021 年	ISBN	①ISBN:978-4502411717
参考書	①ミクロ経済学, 芦谷政浩, 有斐閣, 2009 年	ISBN	①ISBN:978-4641163508
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	35	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	本講義は「ミクロ経済学の基礎を理解している学生」を想定して進行します。そのため、ミクロ経済学が苦手な学生には履修を推奨しません。また講義の中でも外でも、とにかく「手を動かす」、すなわち計算をする、グラフを描くなどの作業を多く求めます。手を動かさない学生は十分な習得ができず、また単位に合格することもできませんので、ご注意ください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンスと厚生経済学の導入	【予習】事前にシラバスによく目を通し、自身のミクロ経済学の理解度を振り返ってください。（2時間程度） 【復習】シラバスを読み直し、講義の前提となる知識を確認してください。（2時間程度）	4 時間
第2回	対面	選好	【予習】「選好」に関する配布資料・テキストを事前に読んで解いてください。（2時間程度） 【復習】「選好」に関する配布資料を読み直し、問題を解いてください。（2時間程度）	4 時間

第3回	対面	効用	【予習】「効用」に関する配布資料・テキストを事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「効用」に関する配布資料を読み直し、問題を解いてください。(2時間程度)	4 時間
第4回	対面	無差別曲線	【予習】「無差別曲線」に関する配布資料・テキストを事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「無差別曲線」に関する配布資料を読み直し、問題を解いてください。(2時間程度)	4 時間
第5回	対面	効用最大化問題	【予習】「効用最大化問題」に関する配布資料・テキストを事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「効用最大化問題」に関する配布資料を読み直し、問題を解いてください。(2時間程度)	4 時間
第6回	対面	制約付き最適化問題	【予習】「制約付き最適化問題」に関する配布資料・テキストを事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「制約付き最適化問題」に関する配布資料を読み直し、問題を解いてください。(2時間程度)	4 時間
第7回	対面	第2回から第6回までの復習	【予習】第2回から第6回までの配布資料・テキストを事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】第2回から第6回までの配布資料を読み直し、中間試験の対策問題を解いてください。(2時間程度)	4 時間
第8回	対面	中間試験	【予習】中間試験の対策問題を解いてください。(2時間程度) 【復習】解けなかった問題に関連する配布資料を読み直してください。(2時間程度)	4 時間
第9回	対面	パレート効率性	【予習】「パレート効率性」に関する配布資料・テキストを事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「パレート効率性」に関する配布資料を読み直し、問題を解いてください。(2時間程度)	4 時間
第10回	対面	厚生経済学の第1定理	【予習】「厚生経済学の第1定理」に関する配布資料・テキストを事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「厚生経済学の第1定理」に関する配布資料を読み直し、問題を解いてください。(2時間程度)	4 時間
第11回	対面	厚生経済学の第2定理	【予習】「厚生経済学の第2定理」に関する配布資料・テキストを事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「厚生経済学の第2定理」に関する配布資料を読み直し、問題を解いてください。(2時間程度)	4 時間
第12回	対面	社会的厚生関数	【予習】「社会的厚生関数」に関する配布資料・テキストを事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「社会的厚生関数」に関する配布資料を読み直し、問題を解いてください。(2時間程度)	4 時間
第13回	対面	社会的選択理論	【予習】「社会的選択理論」に関する配布資料・テキストを事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「社会的選択理論」に関する配布資料を読み直し、問題を解いてください。(2時間程度)	4 時間
第14回	対面	第9回から第13回までの復習	【予習】第9回から第13回までの配布資料・テキストを事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】第9回から第13回までの配布資料を読み直し、定期試験の対策問題を解いてください。(2時間程度)	4 時間
第15回	オンデマンド	講義内容の総まとめ	【予習】これまでの講義の配布資料・テキストを確認し、振り返りを行ってください。(2時間程度) 【復習】これまでの講義の配布資料を読み直し、解けなかった問題を復習してください。(2時間程度)	4 時間

科目名	公共経済学Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	篠田 太郎	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	公共部門における政府の役割を理解する		
授業の目的及び概要	本科目では、公共部門での政府の役割について学修します。前半では余剰分析と不完全競争市場を学ぶことで政府の介入の必要性を理解します。後半では政府の介入の仕方を学び、現実的な課題やその対策を理解することを目指します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	余剰分析を習得して政府の介入の是非を論じることができるようになることを目指します。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	中間試験について、講義中に講評を行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①公共経済学(第2版), 小川光・西森晃, 中央経済社, 2021 年	ISBN	①ISBN:978-4502411717
参考書	①ミクロ経済学, 芦谷政浩, 有斐閣, 2009 年	ISBN	①ISBN:978-4641163508
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	35	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	本講義は「ミクロ経済学の基礎を理解している学生」を想定して進行します。そのため、ミクロ経済学が苦手な学生には履修を推奨しません。また講義の中でも外でも、とにかく「手を動かす」、すなわち計算をする、グラフを描くなどの作業を多く求めます。手を動かさない学生は十分な習得ができず、また単位に合格することもできませんので、ご注意ください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンスと公共経済学の導入	【予習】事前にシラバスによく目を通し、自身のミクロ経済学の理解度を振り返ってください。（2時間程度） 【復習】シラバスを読み直し、講義の前提となる知識を確認してください。（2時間程度）	4 時間
第2回	対面	需要曲線と消費者余剰	【予習】「需要曲線と消費者余剰」に関する配布資料・テキストを事前に読んで解いてください。（2時間程度） 【復習】「需要曲線と消費者余剰」に関する配布資料を読み直し、問題を解いてください。（2時間程度）	4 時間

第3回	対面	供給曲線と生産者余剰	【予習】「供給曲線と生産者余剰」に関する配布資料・テキストを事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「供給曲線と生産者余剰」に関する配布資料を読み直し、問題を解いてください。(2時間程度)	4 時間
第4回	対面	外部性とピグー税	【予習】「外部性とピグー税」に関する配布資料・テキストを事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「外部性とピグー税」に関する配布資料を読み直し、問題を解いてください。(2時間程度)	4 時間
第5回	対面	コースの定理	【予習】「コースの定理」に関する配布資料・テキストを事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「コースの定理」に関する配布資料を読み直し、問題を解いてください。(2時間程度)	4 時間
第6回	対面	独占市場分析	【予習】「独占市場分析」に関する配布資料・テキストを事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「独占市場分析」に関する配布資料を読み直し、問題を解いてください。(2時間程度)	4 時間
第7回	対面	第2回から第6回までの復習	【予習】第2回から第6回までの配布資料・テキストを事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】第2回から第6回までの配布資料を読み直し、中間試験の対策問題を解いてください。(2時間程度)	4 時間
第8回	対面	中間試験	【予習】中間試験の対策問題を解いてください。(2時間程度) 【復習】解けなかった問題に関連する配布資料を読み直してください。(2時間程度)	4 時間
第9回	対面	規模の経済と自然独占	【予習】「規模の経済と自然独占」に関する配布資料・テキストを事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「規模の経済と自然独占」に関する配布資料を読み直し、問題を解いてください。(2時間程度)	4 時間
第10回	対面	独占に対する価格規制	【予習】「独占に対する価格規制」に関する配布資料・テキストを事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「独占に対する価格規制」に関する配布資料を読み直し、問題を解いてください。(2時間程度)	4 時間
第11回	対面	インセンティブ規制	【予習】「インセンティブ規制」に関する配布資料・テキストを事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「インセンティブ規制」に関する配布資料を読み直し、問題を解いてください。(2時間程度)	4 時間
第12回	対面	公共財とサミュエルソンルール	【予習】「公共財とサミュエルソンルール」に関する配布資料・テキストを事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「公共財とサミュエルソンルール」に関する配布資料を読み直し、問題を解いてください。(2時間程度)	4 時間
第13回	対面	公共財とリンダールメカニズム	【予習】「公共財とリンダールメカニズム」に関する配布資料・テキストを事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】「公共財とリンダールメカニズム」に関する配布資料を読み直し、問題を解いてください。(2時間程度)	4 時間
第14回	対面	第9回から第13回までの復習	【予習】第9回から第13回までの配布資料・テキストを事前に読んで解いてください。(2時間程度) 【復習】第9回から第13回までの配布資料を読み直	4 時間

2026/05/01

			し、定期試験の対策問題を解いてください。(2時間程度)	
第15回	オンデマンド	講義内容の総まとめ	【予習】これまでの講義の配布資料・テキストを確認し、振り返りを行ってください。(2時間程度) 【復習】これまでの講義の配布資料を読み直し、解けなかった問題を復習してください。(2時間程度)	4時間

科目名	計量経済学 I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	加藤 路子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	経済データを利用した計量的分析		
授業の目的及び概要	受講生が経済データを利用した統計的分析を行うことができるようになることを目標とした講義です。 経済データを扱う統計的手法にはさまざまなものがありますが、その中から回帰分析を中心に講義します。 データ分析を行う上での基礎的事項を、実際のデータに触れながら学んだ後、2つの経済データの関係性を捉える単純回帰分析、3 つ以上の経済データの関係性を捉える重回帰分析へと進んでいきます。		
履修条件・留意点	数学、および、統計学関連の講義を履修済みであることが望ましい。 また統計解析ソフトを用いたデータ分析を行うため、キーボード入力、マウス操作、ファイル管理などの基礎的な PC の素養があることが望ましい。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	経済データを正しく読み取るとともに、それらを利活用できるようになることを学修の到達目標としています。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業で課す小テストやレポートに対する解説、講評は、授業支援システム(Learning Portal)に掲載します。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『44 の例題で学ぶ計量経済学』， 唐渡広志， オーム社， 2013 年	ISBN	9784274069314
参考書	『計量経済学 第 2 版』， 山本拓， 新世社， 2022 年	ISBN	9784883843435
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	40	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	この授業では Excel， Word， および， 必要に応じて R Studio(統計解析ソフト) を利用します。 PC 操作の基礎的な力であるファイル操作の基本、スムーズなキーボード入力、Ctrl + C や Ctrl + P、Ctrl + V、Ctrl + F などの基本的なショートカットの知識があるとストレスなく学ぶことができます。Excel， Word に関しては基本的な操作（ファイルの操作や簡単な演算、作図など）を習得済みであるものとして講義を行います。RStudio の操作は講義の中で随時、説明します。 また事前に数学、統計学、あるいは、それに関連する科目を修得していると、授業を理解しやすいでしょう。 計量経済学は知識の積み重ねが重要ですから「欠席しない」ことが何よりも大切です。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【計量経済学とは何か】 計量経済学とは何か、具体例を通じて大まかなイメージをつかみます。 また演習に利用する Excel および Rstudio の基本操作について解説します。	事前にテキスト、および、web を通じて配信するレジュメを読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は Excel、および、Rstudio の操作について復習してください。	4 時間
第2回	対面	【データの整理1】 データの分類について説明した上で、質的データを整理し、読み解く方法について解説します。	事前にテキスト、および、web を通じて配信するレジュメを読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4 時間
第3回	対面	【データの整理2】 量的データを整理して読み解く方法について解説します。	事前にテキスト、および、web を通じて配信するレジュメを読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4 時間
第4回	対面	【記述統計】 データの中心傾向や散らばりを示す統計量と、2つのデータの関係性を示す統計量について解説します。	事前にテキスト、および、web を通じて配信するレジュメを読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4 時間
第5回	対面	【単純回帰分析】 2つの変量の因果関係の分析を目的とする、「単純回帰分析」とよばれる統計解析手法の基礎について解説します	事前にテキスト、および、web を通じて配信するレジュメを読んで、疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4 時間
第6回	対面	【重回帰分析】 3つ以上のデータの因果関係の分析を目的とする、「重回帰分析」とよばれる統計手法の基本について解説します	事前にテキスト、および、web を通じて配信するレジュメを読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4 時間
第7回	対面	【回帰モデルの関数形】 逆数や多項式など、非線形の回帰モデルについて解説します	事前にテキスト、および、web を通じて配信するレジュメを読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4 時間
第8回	対面	【回帰パラメータの解釈】 線形モデル、非線形モデルで推計する回帰パラメータの値をどう読み解けばよいのか、解説します。	事前にテキスト、および、web を通じて配信するレジュメを読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4 時間
第9回	対面	【はずれ値】 分析対象の中にははずれ値が存在する場合について、はずれ値の見つけ方、はずれ値が分析に与える影響、はずれ値がある場合の対処方法などを解説します。	事前にテキスト、および、web を通じて配信するレジュメを読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4 時間
第10回	対面	【確率論入門】 確率、確率変数、確率分布といった統計的推測において必須となる確率論の基礎的な概念について説明します。	事前にテキスト、および、web を通じて配信するレジュメを読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4 時間
第11回	対面	【推測統計入門】 区間推定や検定といった推測統計の基本について解説します。	事前にテキスト、および、web を通じて配信するレジュメを読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4 時間
第12回	対面	【回帰パラメータの区間推定】 推計した回帰式のパラメータについて、区間推定を実行する方法について解説します。	事前にテキスト、および、web を通じて配信するレジュメを読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4 時間
第13回	対面	【回帰パラメータの有意性検定】 「推計した回帰パラメータは、真にゼロではないと考えて良いのか」を検証する方法について解説します。	事前にテキスト、および、web を通じて配信するレジュメを読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4 時間

第14回	対面	【F検定】 回帰式のパラメータの線形結合に関する仮説を立てて検証する方法を解説します。	事前にテキスト、および、配布するレジュメを読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4時間
第15回	オンデマンド	【まとめ】 データの扱い方や、データの特性を読み解く方法、そして、データとデータの因果関係を分析する回帰分析と呼ぶ解析手法について学んだことをまとめます。	事前にテキスト、および、webを通じて配信するレジュメを読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指定された章末課題等に取り組んで知識の定着を図ってください。	4時間

科目名	計量経済学Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	加藤 路子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	観測個体が持つ複数の情報(変量)の関係性や構造を分析する様々な手法の理解		
授業の目的及び概要	受講生が経済データを利用した統計的分析を行うことができるようになることを目標とする講義です。 計量経済学Ⅰで取り上げた回帰分析のほか、クラスター分析、主成分分析、判別分析、分散分析、因子分析など、多変量なデータを解析する手法を学びます。 受講生が、研究テーマに応じた適切な手法を選択、実行できるようになることが本講義における最大の目標です。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	経済データを正しく読み取るとともに、研究テーマに応じた適切な手法を選択して分析できるようになることを学修の到達目標としています。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中に実施する小テストやレポート課題に対する解説・講評は、授業支援システム(Learning Portal)に掲載します。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①『例題でよくわかるはじめての多変量解析』, 加藤豊, 森北出版株式会社, 2020 年	ISBN	① 9784627082212
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	60	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	20	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	この授業では R Studio(統計解析ソフト), Excel, Word を利用します。 PC 操作の基礎的な力であるファイル操作の基本、スムーズなキーボード入力、Ctrl + C や Ctrl + P、Ctrl + V、Ctrl + F などの基本的なショートカットの知識があるとストレスなく学ぶことができます。Excel, Word に関しては基本的な操作（ファイルの操作や簡単な演算、作図など）を習得済みであるものとして講義を行います。RStudio の操作は講義の中で随時、説明します。 また事前に数学、統計学、あるいは、それに関連する科目を修得していると、授業を理解しやすいでしょう。 計量経済学は知識の積み重ねが重要ですから「欠席しない」ことが何よりも大切です		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	【はじめに】 多変量解析とは何か、その目的について解説します。また多変量解析を学んでいくための準備としてデータの記述について解説するとともに、統計解析ソフトの基本操作を学びます。	事前にテキスト、および、web で配信する資料を読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指示された課題に取り組みながら、学んだ事項を復習してください。	4 時間
第2回	対面	【確率・統計の基礎】 確率論の基礎と、推測統計の基礎について解説します。	事前にテキスト、および、web で配信する資料を読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指示された課題に取り組みながら、学んだ事項を復習してください。	4 時間
第3回	対面	【相関分析1】 データの種類について説明した上で、順位尺度 vs. 順位尺度、間隔尺度 vs. 間隔尺度の相関を測る統計量について解説します。	事前にテキスト、および、web で配信する資料を読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指示された課題に取り組みながら、学んだ事項を復習してください。	4 時間
第4回	対面	【相関分析2】 データの種類について説明した上で、名義尺度 vs. 名義尺度、名義尺度 vs. 間隔尺度の相関を測る統計量について解説します。	事前にテキスト、および、web で配信する資料を読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指示された課題に取り組みながら、学んだ事項を復習してください。	4 時間
第5回	対面	【回帰分析1】 回帰式の推定方法と評価方法、推定値の確率分布と予測値の区間推定について解説します。	事前にテキスト、および、web で配信する資料を読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指示された課題に取り組みながら、学んだ事項を復習してください。	4 時間
第6回	対面	【回帰分析2】 最小2乗法による推定量が望ましい性質を持つ条件（古典的仮定）が満たされないときに生じる問題について解説します。	事前にテキスト、および、web で配信する資料を読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指示された課題に取り組みながら、学んだ事項を復習してください。	4 時間
第7回	対面	【数量化Ⅰ類】 量的変数を質的変数で説明する手法を解説します。 【分散分析1】 統計的検定について基礎的事項を解説した上で、一元配置の分散分析について解説します	事前にテキスト、および、web で配信する資料を読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指示された課題に取り組みながら、学んだ事項を復習してください。	4 時間
第8回	対面	【判別分析】 判別分析の目的と、マハラノビス距離を用いた判別分析について解説します。 【分散分析2】 繰返しのない二元配置の分散分析と、繰返しがある二元配置の分散分析について解説します。	事前にテキスト、および、web で配信する資料を読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指示された課題に取り組みながら、学んだ事項を復習してください。	4 時間
第9回	対面	【数量化Ⅱ類】 質的変数で、質的変数を説明する手法を解説します。	事前にテキスト、および、web で配信する資料を読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指示された課題に取り組みながら、学んだ事項を復習してください。	4 時間
第10回	対面	【クラスター解析1】 クラスター解析とは何か説明した上で、階層的クラスター化の過程をエクセルを用いて学びます。	事前にテキスト、および、web で配信する資料を読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指示された課題に取り組みながら、学んだ事項を復習してください。	4 時間
第11回	対面	【クラスター分析2】 クラスター解析で用いる様々な距離と、クラスター化の手法について解説します。	事前にテキスト、および、web で配信する資料を読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指示された課題に取り組みながら、学んだ事項を復習してください。	4 時間
第12回	対面	【クラスター解析3】 非階層的クラスター解析について説明します。	事前にテキスト、および、web で配信する資料を読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指示された課題に取り組みながら、学んだ事項を復習してください。	4 時間
第13回	対面	【主成分分析】	事前にテキスト、および、web で配信する資料を読んで	4 時間

		主成分分析を理解するために必要な線形代数の基礎を解説した上で、主成分分析とは何か、何のために行うのかを、例題を通して解説します。	で疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指示された課題に取り組みながら、学んだ事項を復習してください。	
第14回	対面	【因子分析】 因子分析とは何か、何のために行うのか例題を通して解説します。	事前にテキスト、および、web で配信する資料を読んで疑問点をまとめておきましょう。 講義後は、指示された課題に取り組みながら、学んだ事項を復習してください。	4 時間
第15回	オンデマンド	【総括】 これまでの講義を振り返り、ポイントを解説します。	全体を振り返った上で、疑問点をまとめておきましょう。	4 時間

科目名	経済成長論	開講年度	2026 年度春学期
担当者	田中 征史	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	経済成長の要因、経済成長モデル		
授業の目的及び概要	経済成長論とはマクロ経済学の代表的な分野の一つです。皆さんはマクロ経済学の授業で、1 年間に生産できる財・サービスの量が GDP だと学んだはずですが。経済成長とは GDP の成長（GDP が前年に比べてどれだけ増加したか）を意味する言葉です。この経済成長論という科目では、5 年や 10 年、場合によってはそれよりも長い歳月を対象に、経済成長がこういった要因によって引き起こされるのかを学びます。 この授業の前半部分では、まずは経済成長の要因を理解してもらいます。後半では、ソローモデルと呼ばれる最も基本的な経済成長モデルを紹介します。ソローモデルは学部のマクロ経済学のトピックとしては難易度が高いものになりますので、モデルの具体的な説明に入る前に、マクロ経済学の基礎を復習します。 本科目の学びを通じて、受講生にはマクロ経済学の応用分野を修得し、更に、大学院進学を目指す学生には大学院入試で出題される経済成長論に関する問題を解く力を修得することが目標となります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 経済成長の要因を理解できる ② 経済成長理論を学ぶための前提知識となるマクロ経済学の基礎を定着させる ③ 経済成長モデルであるソローモデルの分析手法を学び、経済成長のメカニズムを理論的に理解できる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	Learning Portal の提出課題に対してコメントする、または、学生からの問い合わせにはメールにて対応する。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	本科目では特定のテキストを指定することはありません。	ISBN	本科目では特定のテキストを指定することはありません。
参考書	経済成長（第 2 版）、デイヴィッド・N. ワイル（著） 早見 弘・早見 均（翻訳）、ピアソン桐原、2010 年	ISBN	ISBN-13: 978-4864010016
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	経済成長理論とはマクロ経済学の理論をベースに構築されるものです。受講生にはこの科目を履修登録する段階で、マクロ経済学Ⅰ・Ⅱの単位が取得できていることを求めます。同様に、経済学の基礎でもあるミクロ経済学Ⅰ・Ⅱも既に受講していることが望ましいです。		

	また、この科目では、授業の後半部分でソローモデルと呼ばれる経済成長モデルを解説していきます。このモデルでは数式が登場しますので、受講生にはある程度の数学力があることが望ましいです。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	【概要】 ・授業ガイダンス ・経済成長論を学ぶ上で知っておくべき事実	事前に講義資料を Learning Portal にアップロードするので、その講義資料を予習すること。また、授業後には確認小テストに向けて授業内容を復習しておくこと	4 時間
第2回	オンデマンド	【経済成長の歴史】 ・日本の戦後の経済成長 ・欧米先進諸国の経済成長 ・アジア発展途上国の経済成長 ・アフリカの低開発	事前に講義資料を Learning Portal にアップロードするので、その講義資料を予習すること。また、授業後には確認小テストに向けて授業内容を復習しておくこと	4 時間
第3回	オンデマンド	【経済成長の要因1】 ・物的資本 ・人口成長	事前に講義資料を Learning Portal にアップロードするので、その講義資料を予習すること。また、授業後には確認小テストに向けて授業内容を復習しておくこと	4 時間
第4回	オンデマンド	【経済成長の要因2】 ・将来人口 ・人的資本	事前に講義資料を Learning Portal にアップロードするので、その講義資料を予習すること。また、授業後には確認小テストに向けて授業内容を復習しておくこと	4 時間
第5回	オンデマンド	【生産性1】 ・生産性とは？ ・生産性をどのように測るか ・技術革新と生産性の向上	事前に講義資料を Learning Portal にアップロードするので、その講義資料を予習すること。また、授業後には確認小テストに向けて授業内容を復習しておくこと	4 時間
第6回	オンデマンド	【生産性2】 ・生産性と効率との関係 ・開放経済の成長	事前に講義資料を Learning Portal にアップロードするので、その講義資料を予習すること。また、授業後には確認小テストに向けて授業内容を復習しておくこと	4 時間
第7回	オンデマンド	【経済成長の要因3】 ・政府 ・所得不平等 ・文化	事前に講義資料を Learning Portal にアップロードするので、その講義資料を予習すること。また、授業後には確認小テストに向けて授業内容を復習しておくこと	4 時間
第8回	オンデマンド	【経済成長の要因4】 ・地理 ・気候 ・天然資源	事前に講義資料を Learning Portal にアップロードするので、その講義資料を予習すること。また、授業後には確認小テストに向けて授業内容を復習しておくこと	4 時間
第9回	オンデマンド	【マクロ経済学の復習】 ・マクロ経済における家計と企業の役割 ・ストックとフロー ・生産面から見た GDP	事前に講義資料を Learning Portal にアップロードするので、その講義資料を予習すること。また、授業後には確認小テストに向けて授業内容を復習しておくこと	4 時間
第10回	オンデマンド	【マクロ経済学の復習】 ・支出面から見た GDP ・分配面から見た GDP ・一人当たり GDP	事前に講義資料を Learning Portal にアップロードするので、その講義資料を予習すること。また、授業後には確認小テストに向けて授業内容を復習しておくこと	4 時間
第11回	オンデマンド	【ソローモデル】 ・コブ・ダグラス型生産関数 ・規模に関して収穫一定 ・技術進歩と全要素生産性	事前に講義資料を Learning Portal にアップロードするので、その講義資料を予習すること。また、授業後には確認小テストに向けて授業内容を復習しておくこと	4 時間
第12回	オンデマンド	【ソローモデル】 ・物的資本の蓄積 ・資本の減耗 ・消費と貯蓄、貯蓄率	事前に講義資料を Learning Portal にアップロードするので、その講義資料を予習すること。また、授業後には確認小テストに向けて授業内容を復習しておくこと	4 時間
第13回	オンデマンド	【ソローモデル】 ・ソローモデルの定差方程式	事前に講義資料を Learning Portal にアップロードするので、その講義資料を予習すること。また、授業	4 時間

		・ 動学モデルの均衡概念	後には確認小テストに向けて授業内容を復習しておくこと	
第14回	オンデマンド	【ソローモデル】 ・ 均衡までの移行過程 ・ 人口成長率の経済成長への影響 ・ 貯蓄率の経済成長への影響	事前に講義資料を Learning Portal にアップロードするので、その講義資料を予習すること。また、授業後には確認小テストに向けて授業内容を復習しておくこと	4 時間
第15回	オンデマンド	【まとめ】 ・ レポートの解説 ・ これまでの授業のまとめ ・ 期末試験に向けて	事前に講義資料を Learning Portal にアップロードするので、その講義資料を予習すること。また、授業後には確認小テストに向けて授業内容を復習しておくこと	4 時間

科目名	経済データサイエンス I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	牧田 修治	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	統計データリテラシー（データ取得・グラフ化・読み解く能力）の向上。		
授業の目的及び概要	「経済データサイエンス」の授業の目的は、データ分析や経済モデルを駆使して、社会問題を発見し解決できる力を身につけることです。「経済データサイエンス I」では、統計データの定義など統計データに関する基礎的な知識、統計データの取得方法を説明し、実際に統計データを取得してデータを観察し、データから読み取れることを考察するという統計データサイエンスの基礎的な内容を学修します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 政府統計の総合窓口（e-Stat）を利用して統計データを取得することができる。 2. プレゼン資料等に使える完成度の高いグラフ・表を作成することができる。 3. 統計データに基づいて社会経済の問題点や課題を考察できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の授業で小テストを行います。授業中に前回授業の小テストの説明を行い理解の定着を図ります。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、金融機関のシンクタンクや徳島県庁で、長年にわたり統計データ分析や政策分析の業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	毎回講義資料を配布します。	ISBN	ナシ
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	第1回 ガイダンス、データベースの紹介	【予習】政府統計の総合窓口（e-Stat）のサイトを閲覧しておいてください。 【復習】授業で得た知識の整理を行ってください。	4 時間
第2回	対面	第2回 エクセルを使ったグラフ作成	【予習】エクセルの使い方を復習しておいてください。 【復習】授業で得た知識の整理を行ってください。	4 時間
第3回	対面	第3回 統計データの作成（統計の設計、	【予習】講義資料を読んでおいてください。	4 時間

		統計調査の方法等)	【復習】授業で得た知識の整理を行ってください。	
第4回	対面	第4回 国勢調査（人口・世帯）①	【予習】講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で得た知識の整理を行ってください。	4 時間
第5回	対面	第5回 国勢調査（人口・世帯）②	【予習】講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で得た知識の整理を行ってください。	4 時間
第6回	対面	第6回 国勢調査（配偶関係）①	【予習】講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で得た知識の整理を行ってください。	4 時間
第7回	対面	第7回 国勢調査（配偶関係）②	【予習】講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で得た知識の整理を行ってください。	4 時間
第8回	対面	第8回 国勢調査（人口移動）①	【予習】講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で得た知識の整理を行ってください。	4 時間
第9回	対面	第9回 国勢調査（人口移動）②	【予習】講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で得た知識の整理を行ってください。	4 時間
第10回	対面	第10回 国勢調査（労働力状態）①	【予習】講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で得た知識の整理を行ってください。	4 時間
第11回	対面	第11回 国勢調査（労働力状態）②	【予習】講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で得た知識の整理を行ってください。	4 時間
第12回	対面	第12回 経済センサス①	【予習】講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で得た知識の整理を行ってください。	4 時間
第13回	対面	第13回 経済センサス②	【予習】講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で得た知識の整理を行ってください。	4 時間
第14回	対面	第14回 金融	【予習】講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で得た知識の整理を行ってください。	4 時間
第15回	オンデマンド	第15回 まとめ	【予習】第1回から第14回の授業内容を復習しておいてください。 【復習】授業内容を確認し、重要ポイントを整理してください。	4 時間

科目名	経済データサイエンスⅡ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	牧田 修治	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	統計データリテラシー（データ取得・グラフ化・読み解く能力）の向上。		
授業の目的及び概要	「経済データサイエンス」の授業の目的は、データ分析や経済モデルを駆使して、社会問題を発見し解決できる力を身につけることです。「経済データサイエンスⅡ」では、政策課題として出生率を取り上げ、政策立案過程にしたがって、統計データによる現状把握・問題点の発見、仮説の設定、仮説の検証、政策決定、政策効果の検証について学修します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 統計データの観察による課題の発見とその原因に関する仮説を設定することができる。 2. 仮説を統計学的な手法によって検証することができる。 3. 政策評価の検証方法を説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の授業で小テストを行います。授業中に前回授業の小テストの説明を行い理解の定着を図ります。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、金融機関のシンクタンクや徳島県庁で、長年にわたり統計データ分析や政策分析の業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	毎回講義資料を配布します。	ISBN	ナシ
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	第1回 ガイダンス、EBPM(Evidence Based Policy Making)とは何か	【予習】講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で得た知識の整理を行ってください。	4 時間
第2回	対面	第2回 現状分析と課題発見①	【予習】講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で得た知識の整理を行ってください。	4 時間
第3回	対面	第3回 現状分析と課題発見②	【予習】講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で得た知識の整理を行ってください。	4 時間
第4回	対面	第4回 仮説の設定（文献リサーチ）①	【予習】講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で得た知識の整理を行ってください。	4 時間

第5回	対面	第5回 仮説の設定（データ収集、変数作成の注意点）②	【予習】講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で得た知識の整理を行ってください。	4 時間
第6回	対面	第6回 仮説の設定（相関関係と因果関係）③	【予習】講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で得た知識の整理を行ってください。	4 時間
第7回	対面	第7回 仮説の設定（ロジックモデル）④	【予習】講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で得た知識の整理を行ってください。	4 時間
第8回	対面	第8回 実証分析の注意点①（コントロール変数の重要性）①	【予習】講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で得た知識の整理を行ってください。	4 時間
第9回	対面	第9回 実証分析の注意点②（ダミー変数の使い方）②	【予習】講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で得た知識の整理を行ってください。	4 時間
第10回	対面	第10回 政策の決定（政策の変遷）	【予習】講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で得た知識の整理を行ってください。	4 時間
第11回	対面	第11回 政策評価の方法①（検証方法とエビデンスレベル）	【予習】講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で得た知識の整理を行ってください。	4 時間
第12回	対面	第12回 政策評価の方法②（DID、回帰不連続デザイン）	【予習】講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で得た知識の整理を行ってください。	4 時間
第13回	対面	第13回 政策評価の方法③（保育所整備の検証方法）	【予習】講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で得た知識の整理を行ってください。	4 時間
第14回	対面	第14回 政策評価の方法④（保育所整備の検証方法の問題点）	【予習】講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で得た知識の整理を行ってください。	4 時間
第15回	オンデマンド	第15回 まとめ	【予習】第1回から第14回の授業内容を復習しておいてください。 【復習】授業内容を確認し、重要ポイントを整理してください。	4 時間

科目名	経済学特別講義Ⅰ【FPⅠ】	開講年度	2026 年度春学期
担当者	小巻 善郎	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	ファイナンシャル・プランニングの基礎		
授業の目的及び概要	この経済学特別講義Ⅰは、家計の資産形成を設計するファイナンシャル・プランニングの知識・技能を身につけることを目的としています。 授業では、まず、金融についての基礎的な学修を行います。それを踏まえて、ファイナンシャル・プランニングの学修、すなわち①ライフプランニングと資金計画、②リスク管理、③金融資産運用、④タックスプランニング、⑤不動産、⑥相続・事業承継の6分野の学修を行います。そして、その学修の成果として、国家資格であるFP技能検定3級資格の取得を目指します。加えて、この経済学特別講義Ⅰでは、グループワークやディスカッション等を通じて、社会に出てから必要となる協調性、コミュニケーション能力を身につけることができます。		
履修条件・留意点	この経済学特別講義Ⅰは、FP技能検定3級試験に対応した科目であり、基本的には金融リテラシー検定に合格した学生を対象としています。 また、この経済学特別講義Ⅰは、経済学特別講義Ⅱと相互に連携した授業内容となっているため、経済学特別講義Ⅱをあわせて履修してください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	以下の3点を学修の到達目標とします。 （1）金融に関する基本的な用語が説明できる （2）ライフプランニングと資金計画を立てることができる （3）FP技能検定3級レベルの知識・技能を修得する		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートを次の授業で紹介し、質問への回答や補足説明を行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当者は、都市銀行に26年間在職し、その間、支店や本部、海外支店において内部事務、営業・渉外、調査といった様々な業務に携わってきた。本科目では、そうした長年にわたる実務経験を通じて得た専門知識や知見などを授業に反映し、理論だけでなく具体的な事例の紹介などを基とした実践的な教育を行う。		
テキスト	2025－2026 年版 みんなが欲しかった！FPの教科書 3級、瀧澤ななみ、TAC出版、2025	ISBN	9784300116012
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	10	
	その他の内容	FP技能検定3級の受検	
この科目の受講にあたって	人生100年時代を迎えている現在、ファイナンシャル・プランニングの知識・技能は、個々人の夢や目標（＝ライフプラン）をかなえるうえで必要不可欠なものとなっています。FP技能検定3級資格の取得はそのための一歩です。夢や目標の実現に向けて一緒に切磋琢磨しましょう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション 授業の進め方を説明し、金融の基礎を学修します。またFP技能検定3級の受検申し込みを行います。	【復習】授業配布資料を復習してください。	2時間
第2回	対面	ライフプランニングと資金計画① テキストの第1章「ライフプランニングと資金計画」の基本的な内容を解説します。	【復習】テキストの第1章「ライフプランニングと資金計画」を復習してください。 【予習】テキストの第4章「タックスプランニング」を予習してください。	4時間
第3回	対面	タックスプランニング① テキストの第4章「タックスプランニング」の基本的な内容を解説します。	【復習】テキストの第4章「タックスプランニング」を復習してください。 【予習】テキストの第2章「リスクマネジメント」を予習してください。	4時間
第4回	対面	リスクマネジメント① テキストの第2章「リスクマネジメント」の基本的な内容を解説します。	【復習】テキストの第2章「リスクマネジメント」を復習してください。 【予習】テキストの第5章「不動産」を予習してください。	4時間
第5回	対面	不動産① テキストの第5章「不動産」の基本的な内容を解説します。	【復習】テキストの第5章「不動産」を復習してください。 【予習】テキストの第6章「相続・事業承継」を予習してください。	4時間
第6回	対面	相続・事業承継① テキストの第6章「相続・事業承継」の基本的な内容を解説します。	【復習】テキストの第6章「相続・事業承継」を復習してください。 【予習】テキストの第3章「金融資産運用」を予習してください。	4時間
第7回	対面	金融資産運用① テキストの第3章「金融資産運用」の基本的な内容を解説します。	【復習】テキストの第3章「金融資産運用」を復習してください。 【予習】テキストの第1章「ライフプランニングと資金計画」を予習してください。	4時間
第8回	対面	ライフプランニングと資金計画② テキストの第1章「ライフプランニングと資金計画」を再度解説し、知識の定着を行います。	【復習】テキストの第1章「ライフプランニングと資金計画」を復習してください。 【予習】テキストの第4章「タックスプランニング」を予習してください。	4時間
第9回	対面	タックスプランニング② テキストの第4章「タックスプランニング」を再度解説し、知識の定着を行います。	【復習】テキストの第4章「タックスプランニング」を復習してください。 【予習】テキストの第2章「リスクマネジメント」を予習してください。	4時間
第10回	対面	リスクマネジメント② テキストの第2章「リスクマネジメント」を再度解説し、知識の定着を行います。	【復習】テキストの第2章「リスクマネジメント」を復習してください。 【予習】テキストの第5章「不動産」を予習してください。	4時間
第11回	対面	不動産② テキストの第5章「不動産」を再度解説し、知識の定着を行います。	【復習】テキストの第5章「不動産」を復習してください。 【予習】テキストの第6章「相続・事業承継」を予習してください。	4時間
第12回	対面	相続・事業承継② テキストの第6章「相続・事業承継」を再度解説し、知識の定着を行います。	【復習】テキストの第6章「相続・事業承継」を復習してください。 【予習】テキストの第3章「金融資産運用」を予習してください。	4時間
第13回	対面	金融資産運用② テキストの第3章「金融資産運用」を再度解説し、知識の定着を行います。	【復習】テキストの第3章「金融資産運用」を復習してください。 【予習】事前配布資料「実技試験過去問」を予習してください。	4時間
第14回	対面	実技試験対策 FP技能検定3級の実技試験の過去問の	【復習】配布資料「実技試験対策」を復習してください。	4時間

2026/05/01

		答練とその解説を行います。		
第15回	オンデマンド	春学期の総括 春学期の総括と定期試験の解説を行います。	【復習】配布資料「春学期の総括と定期試験の解説」を復習し、定期試験の準備を進めてください。	6時間

科目名	経済学特別講義Ⅱ 【FPⅡ】		開講年度	2026 年度春学期
担当者	小巻 善郎		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	ファイナンシャル・プランニングの応用			
授業の目的及び概要	この経済学特別講義Ⅱは、家計の資産形成を設計するファイナンシャル・プランニングの知識・技能を身につけることを目的としています。 授業では、国家資格である FP 技能検定 3 級試験の過去問の答練を通して、ファイナンシャル・プランニングの学修、すなわち①ライフプランニングと資金計画、②リスク管理、③金融資産運用、④タックスプランニング、⑤不動産、⑥相続・事業承継の 6 分野の学修を行います。 そして、その学修の成果として、FP 技能検定 3 級の資格取得を目指します。 また、この経済学特別講義Ⅱでは、グループワークやディスカッション等を通じて、社会に出てから必要となる協調性、コミュニケーション能力を身につけることができます。			
履修条件・留意点	この経済学特別講義Ⅱは、F P 技能検定 3 級試験に対応した科目であり、基本的には金融リテラシー検定に合格した学生を対象としています。 また、この経済学特別講義Ⅱは、経済学特別講義Ⅰと相互に連携した授業内容となっているため、経済学特別講義Ⅰをあわせて履修してください。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（D P）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	以下の 3 点を学修の到達目標とします。 （１）生活に必要なおカネのことを理解し、適切に判断することができる。 （２）生活に必要なおカネに関して、他者とコミュニケーションを円滑に行うことができる。 （３）F P 技能検定 3 級レベルの知識・技能を修得する。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	コメントシートを次回の授業で紹介し、質問への回答や補足説明を行います。			
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当者は、都市銀行に 2 6 年間に在職し、その間、支店や本部、海外支店において内部事務、営業・渉外、調査といった様々な業務に携わってきた。本科目では、そうした長年にわたる実務経験を通じて得た専門知識や知見などを授業に反映し、理論だけでなく具体的な事例の紹介などを基とした実践的な教育を行う。			
テキスト	2025－2026 年版 みんなが欲しかった！ F P の問題集 3 級、瀧澤ななみ、T A C 出版、2025		ISBN	9784300116050
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		0	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		30	
	その他（％）		40	
	その他の内容		F P 技能検定 3 級の受検	
この科目の受講にあたって	人生 100 年時代を迎えている現在、ファイナンシャル・プランニングの知識・技能は、個々人の夢や目標（＝ライフプラン）をかなえるうえで必要不可欠なものになっています。F P 技能検定 3 級資格の取得はそのための第一歩です。夢や目標の実現に向けて一緒に切磋琢磨しましょう。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション 授業の進め方を説明します。また、金融の基礎を学修します。	【復習】授業配布資料を復習してください。	2 時間
第2回	対面	ライフプランニングと資金計画① テキストの第1章「ライフプランニングと資金計画」の過去問の答練と解説を行います。	【復習】テキストの第1章「ライフプランニングと資金計画」を復習してください。	4 時間
第3回	対面	タックスプランニング① テキストの第4章「タックスプランニング」の過去問の答練と解説を行います。	【復習】テキストの第4章「タックスプランニング」を復習してください。	4 時間
第4回	対面	リスクマネジメント① テキストの第2章「リスクマネジメント」の過去問の答練と解説を行います。	【復習】テキストの第2章「リスクマネジメント」を復習してください。	4 時間
第5回	対面	不動産① テキストの第5章「不動産」の過去問の答練と解説を行います。	【復習】テキストの第5章「不動産」を復習してください。	4 時間
第6回	対面	相続・事業承継① テキストの第6章「相続・事業承継」の過去問の答練と解説を行います。	【復習】テキストの第6章「相続・事業承継」を復習してください。	4 時間
第7回	対面	金融資産運用① テキストの第3章「金融資産運用」の過去問の答練と解説を行います。	【復習】テキストの第3章「金融資産運用」を復習してください。	4 時間
第8回	対面	ライフプランニングと資金計画② テキストの第1章「ライフプランニングと資金計画」の過去問の答練と解説の2回目を行います。	【復習】テキストの第1章「ライフプランニングと資金計画」を復習してください。	4 時間
第9回	対面	タックスプランニング② テキストの第4章「タックスプランニング」の過去問の答練と解説の2回目を行います。	【復習】テキストの第4章「タックスプランニング」を復習してください。	4 時間
第10回	対面	リスクマネジメント② テキストの第2章「リスクマネジメント」の過去問の答練と解説の2回目を行います。	【復習】テキストの第2章「リスクマネジメント」を復習してください。	4 時間
第11回	対面	不動産② テキストの第5章「不動産」の過去問の答練と解説の2回目を行います。	【復習】テキストの第5章「不動産」を復習してください。	4 時間
第12回	対面	相続・事業承継② テキストの第6章「相続・事業承継」の過去問の答練と解説の2回目を行います。	【復習】テキストの第6章「相続・事業承継」を復習してください。	4 時間
第13回	対面	金融資産運用② テキストの第3章「金融資産運用」の過去問の答練と解説の2回目を行います。	【復習】テキストの第3章「金融資産運用」を復習してください。	4 時間
第14回	対面	実技試験対策 F P技能検定3級の実技試験の過去問の答練とその解説を行います。	【復習】テキストの実技試験のすべての過去問を復習してください。	4 時間
第15回	オンデマンド	春学期の総括 春学期の総括と定期試験の解説を行います。	【復習】授業配布資料を復習し、定期試験の準備を進めてください。	6 時間

科目名	日本経済史	開講年度	2026 年度春学期
担当者	久米 高史	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	近現代の日本経済史を学ぶ		
授業の目的及び概要	この授業の目的は、近代および現代の日本経済史を概観することにあります。具体的には幕末開港から高度経済成長期までの日本経済を扱います。経済を長期的視点から分析する手法を理解することによって、受講する学生諸君は、日本経済史に関するより深い理解が得られることでしょう。		
履修条件・留意点	特にありません。日本経済史ではありますが、西洋経済史・アジア経済史の視点も踏まえた講義を行います。日本経済はどのような変遷を経て今日に至るのかについて、強い関心を持っている学生諸君の受講を期待します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この授業の学修の到達目標は、幕末開港から高度経済成長期までの日本経済史に関わる深い理解を得ることにありますが、また同時にそれらに関わる年表や資料(グラフ・表などのデータ)を読み解く能力を身に付けることにもあります。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・毎講授業終了後にラーニングポータルより小テストを実施し、理解度をチェックします。 ・コメントシートは翌週の授業で紹介し、質問への回答や補足説明をします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①概説日本経済史 近現代 [第4 版], 三和良一・三和元, 東京大学出版会 2021 年	ISBN	①9784130421539
参考書	特にありませんが、必要な際は授業の中で説明します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	各講で学習するテキストの内容を事前に読んでおくことは必須です。疑問点を明確にして授業に臨んでください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	・授業の全体像や成績評価の基準などについて ・テキスト第1章 資本制社会論	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。 【復習】テキスト及び授業のレジュメを振り返り、ラーニングポータルより小テストに解答すること。 ☆この講義では第1章の概略を説明します。特に「封建制」「資本制」の定義と、封建制から資本制への移行が何を意味しているのかを分かりやすく説明しま	4 時間

			す。	
第2回	対面	テキスト第2章 幕末の経済と開港	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。 【復習】テキスト及び授業のレジュメを振り返り、ラーニングポータルより小テストに解答すること。	4 時間
第3回	対面	テキスト第3章 明治維新	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。 【復習】テキスト及び授業のレジュメを振り返り、ラーニングポータルより小テストに解答すること。	4 時間
第4回	対面	テキスト第4章 殖産興業と松方財政	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。 【復習】テキスト及び授業のレジュメを振り返り、ラーニングポータルより小テストに解答すること。	4 時間
第5回	対面	テキスト第5章 近代産業の発達(1)－軽工業－	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。 【復習】テキスト及び授業のレジュメを振り返り、ラーニングポータルより小テストに解答すること。	4 時間
第6回	対面	テキスト第6章 近代産業の発達(2)－重工業－	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。 【復習】テキスト及び授業のレジュメを振り返り、ラーニングポータルより小テストに解答すること。	4 時間
第7回	対面	テキスト第7章 日清・日露戦争と日本経済	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。 【復習】テキスト及び授業のレジュメを振り返り、ラーニングポータルより小テストに解答すること。	4 時間
第8回	対面	テキスト第8章 第一次世界大戦と日本経済	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。 【復習】テキスト及び授業のレジュメを振り返り、ラーニングポータルより小テストに解答すること。	4 時間
第9回	対面	テキスト第9章 1920 年代 ①	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。 【復習】テキスト及び授業のレジュメを振り返り、ラーニングポータルより小テストに解答すること。	4 時間
第10回	対面	テキスト第9章 1920 年代 ② 第10章 昭和恐慌 ①	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。 【復習】テキスト及び授業のレジュメを振り返り、ラーニングポータルより小テストに解答すること。	4 時間
第11回	対面	テキスト第10章 昭和恐慌 ② 第11章 高橋財政	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。 【復習】テキスト及び授業のレジュメを振り返り、ラーニングポータルより小テストに解答すること。	4 時間
第12回	対面	テキスト 第12章 戦時経済 第13章 戦後経済改革 ①	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。 【復習】テキスト及び授業のレジュメを振り返り、ラーニングポータルより小テストに解答すること。	4 時間
第13回	対面	テキスト 第13章 戦後経済改革② 第14章 経済復興	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。 【復習】テキスト及び授業のレジュメを振り返り、ラーニングポータルより小テストに解答すること。	4 時間
第14回	対面	テキスト第15章 高度経済成長	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。 【復習】テキスト及び授業のレジュメを振り返り、ラーニングポータルより小テストに解答すること。	4 時間
第15回	オンデマンド	オンデマンド授業で、第14回までの講義内容を振り返り、期末試験のポイントを解説して試験準備を行います。	【復習】テキスト及び授業のレジュメを振り返り、期末試験に備えること。	4 時間

科目名	国際経済史	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	久米 高史	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	16 世紀以降、第 2 次世界大戦後の冷戦期までのヨーロッパ諸国とアメリカ合衆国の経済史を中心に、適宜アジア経済史や日本経済史と比較しつつ、世界経済の歴史を概観する。		
授業の目的及び概要	全体としてはグローバル化が推進されつつも、自由貿易推進と保護主義が交互に展開してきた国際経済の歴史を理解することで、2020 年代の現在における国際経済の大変動が実は歴史の繰り返しであることに、学生諸君には気づいてもらいたい。この理解を深めることで、社会人になってからも世間の情報に惑わされることなく、うまく世の中を乗り切っていけるようになるための一助としたい。		
履修条件・留意点	初歩的な世界史の知識を有していることが望ましいが、世界経済の動態とそれの日本への影響に強い関心を持っている学生諸君の参加を期待する。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	現在の経済社会が抱える諸問題に底流する世界経済の歴史的展開を理解し、それを卒業後の社会人としての人生の文脈で考えられるようになること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎講小テストを実施しますが、講評を次講で行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①『エレメンタル欧米経済史』，馬場 哲・山本 浩・廣田 功・須藤 功，晃洋書房，2012 年	ISBN	①9784771023406
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	特に要望はありませんが、常に世界と日本(留学生の場合は母国)を比較する視点を持っていたきたい。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	ガイダンスー国際経済史とその意義 テキスト 第 9 章 16・17 世紀のヨーロッパ経済 第 1 節 「拡張の 16 世紀」から「危機の 17 世紀」へ	予習内容；テキスト第 9 章の第 1 節を精読しておく。 復習内容；配布した講義レジュメを参照しながら、講義内容を整理する。	4 時間
第 2 回	対面	テキスト 第 9 章 16・17 世紀のヨーロッパ経済 第 2 節 16～18 世紀のヨーロッパ	予習内容；テキスト第 9 章の第 2～4 節を精読しておく。 復習内容；配布した講義レジュメを参照しながら、講義内容を整理する。	4 時間

		パ農村社会 から 第4節 東ヨーロッパにおける農場領主制の形成と展開 まで	義内容を整理する。	
第3回	対面	テキスト第 10 章 イングランドの絶対王政、市民革命と重商主義	予習内容；テキスト第 10 章全体を精読しておく。 復習内容；配布した講義レジュメを参照しながら、講義内容を整理する。	4 時間
第4回	対面	テキスト第 11 章 フランス・ドイツの絶対主義と市民革命	予習内容；テキスト第 11 章全体を精読しておく。 復習内容；配布した講義レジュメを参照しながら、講義内容を整理する。	4 時間
第5回	対面	テキスト第 12 章 「最初の工業国家」イギリス	予習内容；テキスト第 12 章全体を精読しておく。 復習内容；配布した講義レジュメを参照しながら、講義内容を整理する。	4 時間
第6回	対面	テキスト第 14 章 イギリス産業革命とその帰結	予習内容；テキスト第 14 章全体を精読しておく。 復習内容；配布した講義レジュメを参照しながら、講義内容を整理する。	4 時間
第7回	対面	テキスト第 15 章 ヨーロッパ大陸の産業革命	予習内容；テキスト第 15 章全体を精読しておく。 復習内容；配布した講義レジュメを参照しながら、講義内容を整理する。	4 時間
第8回	対面	テキスト第 18 章 「パックス・ブリタニカ」の時代	予習内容；テキスト第 18 章全体を精読しておく。 復習内容；配布した講義レジュメを参照しながら、講義内容を整理する。	4 時間
第9回	対面	テキスト第 21 章 世紀転換期のドイツ・フランス経済	予習内容；テキスト第 21 章全体を精読しておく。 復習内容；配布した講義レジュメを参照しながら、講義内容を整理する。	4 時間
第10回	対面	テキスト第 22 章 世紀転換期のアメリカ経済	予習内容；テキスト第 22 章全体を精読しておく。 復習内容；配布した講義レジュメを参照しながら、講義内容を整理する。	4 時間
第11回	対面	テキスト第 23 章 両大戦間期のアメリカ経済(1) 第一次世界大戦から大恐慌まで	予習内容；テキスト第 23 章全体を精読しておく。 復習内容；配布した講義レジュメを参照しながら、講義内容を整理する。	4 時間
第12回	対面	テキスト第 24 章 両大戦間期のヨーロッパ経済(1)	予習内容；テキスト第 24 章全体を精読しておく。 復習内容；配布した講義レジュメを参照しながら、講義内容を整理する。	4 時間
第13回	対面	テキスト第 25 章 両大戦間期のアメリカ経済(2) 大恐慌から第二次世界大戦	予習内容；テキスト第 25 章全体を精読しておく。 復習内容；配布した講義レジュメを参照しながら、講義内容を整理する。	4 時間
第14回	対面	テキスト第 27 章 第二次世界大戦後のアメリカ経済	予習内容；テキスト第 27 章全体を精読しておく。 復習内容；配布した講義レジュメを参照しながら、講義内容を整理する。	4 時間
第15回	オンデマンド	<オンデマンド講義> ・第1講から第14講までの振り返り ・学期末試験の概要説明と重要ポイント	予習内容；テキストとレジュメ全体を通読し、これまでの講義内容を確認する。 復習内容；動画での説明を参考に、学期末試験への準備を完了する。	4 時間

科目名	国際経済史	開講年度	2026 年度春学期
担当者	北西 正人	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	16 世紀以降に加速するグローバル化にともなって、各地域の経済社会がどのように繋がりが合い、変容したのか(しなかったのか)を分析する。		
授業の目的及び概要	グローバル化し、多極化する世界において、地域を限定した経済史研究では世界の動向を理解するには限界がある。そこで、世界的な連動を重視し、世界の多様性にも注目して、経済世界の変容について考えたい。		
履修条件・留意点	初歩的な世界史の知識を有していることが望ましい。そうでない場合でも、世界史に関心をもっている学生諸氏の参加を期待します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	現在の経済社会が抱える諸課題に底流する、各地域の歴史的な関係性を理解し、表現できるようになること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題については授業内で講評します。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①グローバル経済の歴史，河崎信樹・村上衛・山本千映(著)，有斐閣アルマ，2020 年	ISBN	①9784641221482
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	履修者の状況によっては、講義の中で理解度を確認する小テストを課す可能性があります。その場合、小テストの結果は成績評価に含みます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	ガイダンスー国際経済史とその意義	予習内容；教科書「序章」を精読しておく。 復習内容；講義内容を整理する。	4 時間
第 2 回	対面	グローバル化以前の世界(～15 世紀)	予習内容；教科書「第 1 章」を精読しておく。 復習内容；配布した資料を参考に、講義内容を整理する。	4 時間
第 3 回	対面	グローバル化の開始(16 世紀)	予習内容；教科書「第 2 章」を精読しておく。 復習内容；配布した資料を参考に、講義内容を整理する。	4 時間
第 4 回	対面	危機の時代(17 世紀)	予習内容；教科書「第 3 章」を精読しておく。 復習内容；配布した資料を参考に、講義内容を整理する。	4 時間

			る。	
第5回	対面	近世経済の成立(18世紀)	予習内容;教科書「第4章」を精読しておく。 復習内容;配布した資料を参考に,講義内容を整理する。	4時間
第6回	対面	工業化の開始と普及	予習内容;教科書「第5章」を精読しておく。 復習内容;配布した資料を参考に,講義内容を整理する。	4時間
第7回	対面	ヒト・モノ・カネの移動の拡大と制度的枠組みの変化	予習内容;教科書「第6章」を精読しておく。 復習内容;配布した資料を参考に,講義内容を整理する。	4時間
第8回	対面	小括	予習内容;教科書「第1章~第6章」を通読し,これまでの講義内容を確認する。 復習内容;配布した資料を参考に,これまでの講義内容を整理する。	4時間
第9回	対面	植民地体制の変容とラテンアメリカ,アジア	予習内容;教科書「第7章」を精読しておく。 復習内容;配布した資料を参考に,講義内容を整理する。	4時間
第10回	対面	工業化の新しい波と世界大戦	予習内容;教科書「第8章」を精読しておく。 復習内容;配布した資料を参考に,講義内容を整理する。	4時間
第11回	対面	世界大恐慌とグローバル化の停滞	予習内容;教科書「第9章」を精読しておく。 復習内容;配布した資料を参考に,講義内容を整理する。	4時間
第12回	対面	再始動するグローバル化	予習内容;教科書「第10章」を精読しておく。 復習内容;配布した資料を参考に,講義内容を整理する。	4時間
第13回	対面	グローバル化と開発	予習内容;教科書「第11章」を精読しておく。 復習内容;配布した資料を参考に,講義内容を整理する。	4時間
第14回	対面	加速するグローバル化	予習内容;教科書「第12章」を精読しておく。 復習内容;配布した資料を参考に,講義内容を整理する。	4時間
第15回	オンデマンド	総括	予習内容;教科書全体を通読し,これまでの講義内容を確認する。 復習内容;配布した資料を参考に,これまでの講義内容を整理する。	4時間

科目名	日本経済論 I		開講年度	2026 年度春学期
担当者	米山 秀隆		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目			
テーマ	日本の経済データの読み方			
授業の目的及び概要	この授業では、日本経済の現状を把握する上で必要な、経済データ（経済指標）の見方について学びます。まず、データを見る上で必要な基礎知識を説明し、経済全体の動向を捉えるための経済データとして GDP（国内総生産）と景気動向指数を取り上げます。次いで、企業部門の動向を捉えるための経済データ（生産、設備投資など）、家計部門を捉えるための経済データ（消費、雇用など）についてそれぞれ学び、さらに経済の体温とも言うべき物価について学びます。政府、日銀は、これら経済データの全体から、景気動向を分析する文書を定期的に発表していますが、その読み方も説明します。また、政府、日銀や経済の調査機関（シンクタンク）は、現状を把握した上で、将来の予測を行っていますが、予測手法の基本も学びます。こうした一連の知識を身に付けることで、新聞の経済面に掲載される経済データに関する記事を読みこなし、生活や将来の仕事に役立てられるようになることを目指します。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	・ 経済データを読むための基礎知識を身に付ける。 ・ 経済全体と物価を捉える経済指標について説明できる。 ・ 企業部門、家計部門を捉える経済指標を説明できる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	コメントシート、課題の結果については、授業内または Learning Portal でフィードバックします。			
アクティブ・ラーニングの取組み				
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	テキストは使用しません。		ISBN	なし
参考書	予測の達人が教える経済指標の読み方，新家義貴，日本経済新聞出版，2017 年		ISBN	9784532357030
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		30	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		70	
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	経済データの読み方を習得すれば、世の中の流れがわかるようになります。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	オンデ	授業の目標や到達目標等についてガイド	【予習】 Learning Portal に掲載する配布資料を事前	4 時間

	マンド	ンスを行います。	に読んでおいて下さい。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	
第2回	オンデマンド	何が景気循環をもたらすのかについて学びます。	【予習】配布資料（参考書第1章1～3の内容）を事前に読んでおいて下さい。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4時間
第3回	オンデマンド	経済データを読み解くための基礎知識について学びます。	【予習】配布資料（参考書第1章4の内容）を事前に読んでおいて下さい。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4時間
第4回	オンデマンド	経済データのチェックポイントについて学びます。	【予習】配布資料（参考書第2章の内容）を事前に読んでおいて下さい。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4時間
第5回	オンデマンド	経済全体の動向を捉える経済データ（GDP、景気動向指数）について学びます。	【予習】配布資料（参考書第3章1、2の内容）を事前に読んでおいて下さい。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4時間
第6回	オンデマンド	企業部門を捉える経済データ（貿易）について学びます。	【予習】配布資料（参考書第4章1の内容）を事前に読んでおいて下さい。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4時間
第7回	オンデマンド	企業部門を捉える経済データ（生産、企業収益）について学びます。	【予習】配布資料（参考書第4章2、3の内容）を事前に読んでおいて下さい。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4時間
第8回	オンデマンド	企業部門を捉える捉える経済データ（景況感）について学びます。	【予習】配布資料（参考書第4章4の内容）を事前に読んでおいて下さい。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4時間
第9回	オンデマンド	企業部門を捉える捉える経済データ（設備投資）について学びます。	【予習】配布資料（参考書第4章5の内容）を事前に読んでおいて下さい。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4時間
第10回	オンデマンド	家計部門を捉える経済データ（雇用・賃金）について学びます。	【予習】配布資料（参考書第5章1の内容）を事前に読んでおいて下さい。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4時間
第11回	オンデマンド	家計部門を捉える経済データ（消費）について学びます。	【予習】配布資料（参考書第5章2の内容）を事前に読んでおいて下さい。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4時間
第12回	オンデマンド	物価を捉える経済データについて学びます。	【予習】配布資料（参考書第5章3の内容）を事前に読んでおいて下さい。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4時間
第13回	オンデマンド	月例経済報告について学びます。	【予習】配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4時間
第14回	オンデマンド	経済見通しについて学びます。	【予習】配布資料（参考書第6章の内容）を事前に読んでおいて下さい。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4時間
第15回	オンデマンド	経済予測の方法について学びます。	【予習】配布資料（参考書第6章の内容）を事前に読んでおいて下さい。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認	4時間

2026/05/01

		して下さい。	

科目名	日本経済論 I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	米山 秀隆	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	日本の経済データの読み方		
授業の目的及び概要	この授業では、日本経済の現状を把握する上で必要な、経済データ（経済指標）の見方について学びます。まず、データを見る上で必要な基礎知識を説明し、経済全体の動向を捉えるための経済データとして GDP（国内総生産）と景気動向指数を取り上げます。次いで、企業部門の動向を捉えるための経済データ（生産、設備投資など）、家計部門を捉えるための経済データ（消費、雇用など）についてそれぞれ学び、さらに経済の体温とも言うべき物価について学びます。政府、日銀は、これら経済データの全体から、景気動向を分析する文書を定期的に発表していますが、その読み方も説明します。また、政府、日銀や経済の調査機関（シンクタンク）は、現状を把握した上で、将来の予測を行っていますが、予測手法の基本も学びます。こうした一連の知識を身に付けることで、新聞の経済面に掲載される経済データに関する記事を読みこなし、生活や将来の仕事に役立てられるようになることを目指します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ 経済データを読むための基礎知識を身に付ける。 ・ 経済全体と物価を捉える経済指標について説明できる。 ・ 企業部門、家計部門を捉える経済指標を説明できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシート、課題の結果については、授業内または Learning Portal でフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは使用しません。	ISBN	なし
参考書	予測の達人が教える経済指標の読み方，新家義貴，日本経済新聞出版，2017 年	ISBN	9784532357030
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	経済データの読み方を習得すれば、世の中の流れがわかるようになります。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	オンデ	授業の目標や到達目標等についてガイド	【予習】 Learning Portal に掲載する配布資料を事前	4 時間

	マンド	ンスを行います。	に読んでおいて下さい。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	
第2回	オンデマンド	何が景気循環をもたらすのかについて学びます。	【予習】配布資料（参考書第1章1～3の内容）を事前に読んでおいて下さい。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4時間
第3回	オンデマンド	経済データを読み解くための基礎知識について学びます。	【予習】配布資料（参考書第1章4の内容）を事前に読んでおいて下さい。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4時間
第4回	オンデマンド	経済データのチェックポイントについて学びます。	【予習】配布資料（参考書第2章の内容）を事前に読んでおいて下さい。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4時間
第5回	オンデマンド	経済全体の動向を捉える経済データ（GDP、景気動向指数）について学びます。	【予習】配布資料（参考書第3章1、2の内容）を事前に読んでおいて下さい。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4時間
第6回	オンデマンド	企業部門を捉える経済データ（貿易）について学びます。	【予習】配布資料（参考書第4章1の内容）を事前に読んでおいて下さい。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4時間
第7回	オンデマンド	企業部門を捉える経済データ（生産、企業収益）について学びます。	【予習】配布資料（参考書第4章2、3の内容）を事前に読んでおいて下さい。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4時間
第8回	オンデマンド	企業部門を捉える捉える経済データ（景況感）について学びます。	【予習】配布資料（参考書第4章4の内容）を事前に読んでおいて下さい。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4時間
第9回	オンデマンド	企業部門を捉える捉える経済データ（設備投資）について学びます。	【予習】配布資料（参考書第4章5の内容）を事前に読んでおいて下さい。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4時間
第10回	オンデマンド	家計部門を捉える経済データ（雇用・賃金）について学びます。	【予習】配布資料（参考書第5章1の内容）を事前に読んでおいて下さい。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4時間
第11回	オンデマンド	家計部門を捉える経済データ（消費）について学びます。	【予習】配布資料（参考書第5章2の内容）を事前に読んでおいて下さい。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4時間
第12回	オンデマンド	物価を捉える経済データについて学びます。	【予習】配布資料（参考書第5章3の内容）を事前に読んでおいて下さい。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4時間
第13回	オンデマンド	月例経済報告について学びます。	【予習】配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4時間
第14回	オンデマンド	経済見通しについて学びます。	【予習】配布資料（参考書第6章の内容）を事前に読んでおいて下さい。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4時間
第15回	オンデマンド	経済予測の方法について学びます。	【予習】配布資料（参考書第6章の内容）を事前に読んでおいて下さい。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認	4時間

2026/05/01

		して下さい。	

科目名	日本経済論Ⅱ		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	米山 秀隆		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目			
テーマ	現代日本経済の構造			
授業の目的及び概要	この授業では、現代の日本経済を理解する上で重要なトピックスを取り上げ、経済学の知識や分析道具を使って、理解を深めていきます。取り上げるトピックスは、日本経済の成長の歩み、労働市場、産業構造、環境・エネルギー、金融、財政、地域、社会保障、グローバル化などです。これら日本経済の様々な側面は、一見、どうしてそのような状況になったのかを理解しにくい場合でも、経済学の枠組みを使えば、その構造がよくわかることがあります。現象の背後に隠れたメカニズムを解き明かしながら、現代の日本経済が直面する課題の全体像に迫っていきます。経済学といっても、使うのは最低限の基礎的な部分で、その都度必要な知識は説明していきます。経済学的に考えてみる習慣は、普段の生活や将来の仕事にも役立つはずです。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	・日本経済の成長の歩みについて説明できる。 ・日本の労働市場や産業構造、環境・エネルギー問題について説明できる。 ・日本の金融や財政、社会保障の問題について説明できる ・日本の地域経済やグローバル化の問題について説明できる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	コメントシート、課題の結果については、授業内または Learning Portal でフィードバックします。			
アクティブ・ラーニングの取り組み				
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	日本経済論（第2版），宮川努・細野薫・細谷圭・川上淳之，中央経済社，2021 年		ISBN	9784502374814
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		30	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		70	
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	日本経済の課題の全体像について理解を深めておくことは、個々の専門的な勉強に進んでいく上での基礎となります。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	授業の目標や到達目標等についてガイダンスを行います。	【予習】テキスト第1章と Learning Portal に掲載する配布資料を事前に読んでおいて下さい。	4 時間

			【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	
第2回	オンデマンド	高度成長はなぜ実現できたのかについて学びます。	【予習】テキスト第2章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4時間
第3回	オンデマンド	バブルとその後の長期停滞について学びます。	【予習】テキスト第3章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4時間
第4回	オンデマンド	労働市場の構造変化と所得格差について学びます。	【予習】テキスト第4章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4時間
第5回	オンデマンド	中小企業・ベンチャー企業の役割について学びます。	【予習】テキスト第5章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4時間
第6回	オンデマンド	産業構造の変化と日本経済の盛衰について学びます。	【予習】テキスト第6章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4時間
第7回	オンデマンド	環境・エネルギー問題の克服について学びます。	【予習】テキスト第7章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4時間
第8回	オンデマンド	日本の金融システムについて学びます。	【予習】テキスト第8章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4時間
第9回	オンデマンド	デフレと非伝統的金融政策について学びます。	【予習】テキスト第9章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4時間
第10回	オンデマンド	財政の維持可能性について学びます。	【予習】テキスト第10章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4時間
第11回	オンデマンド	地域経済と政府の役割について学びます。	【予習】テキスト第11章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4時間
第12回	オンデマンド	人口減少と社会保障について学びます。	【予習】テキスト第12章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4時間
第13回	オンデマンド	国際経済の中の日本経済について学びます。	【予習】テキスト第13章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4時間
第14回	オンデマンド	これからの日本経済（平成経済から令和経済へ）について学びます。	【予習】テキスト第14章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4時間
第15回	オンデマンド	経済財政白書について学びます。	【予習】配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4時間

科目名	経済政策論Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	吉田 匠	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	マクロ経済学・ミクロ経済学・政治経済学の3つの視点から経済政策を捉える		
授業の目的及び概要	「政府は経済活動に介入すべきか、するならばどの程度が適切か」という問いは、経済学における最も重要なテーマの一つです。なぜなら、政府が採用する政策によって、国内の経済成長や国民の生活水準（経済厚生）は大きく左右されるからです。本講義では、マクロ・ミクロ・政治経済学という3つの視点から、経済政策の基礎理論を扱います。前半では、政府による経済への介入を、それぞれの経済理論がどう捉えるかという理論的枠組みを学びます。後半では産業政策を例として、経済政策の実際について議論します。経済学の考え方を通して、経済政策の根拠とその波及メカニズムを理解する力を身に付けることで、現実の経済動向を論理的に読み解く眼を養うことを目標とします。		
履修条件・留意点	入門レベルのミクロ経済学およびマクロ経済学を身に付けていると望ましいですが、必要となる知識は授業内で説明します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① マクロ経済学・ミクロ経済学・政治経済学のそれぞれの理論において、経済政策をどのように分析しているのかを理解することで、それらを他者に論理的に説明できるようになること。 ② 構造改革、規制緩和といった経済政策に関する現実の話題について、多角的かつ批判的に考え、自分の考えをもって学術的見地を踏まえた議論ができるようになること。 ※①および②について、身につけてほしい具体例 ①マクロ経済学の理論に基づき、財政政策と金融政策における乗数効果がそれぞれどのようなものなのかを説明することができるようになる ②構造改革以後の経済政策について、「失われた 30 年」における日本政府の経済政策は有効であったかを評価することができるようになる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題については、出した翌週の授業始めに解説および講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	セオリー＆プラクティス経済政策, 柳川隆・永合位行・藤岡秀英（編）, 有斐閣コンパクト, 2017 年	ISBN	9784641164994
参考書	希望をつくる経済政策入門： 日常から学ぶ日本経済論, 岩佐和幸・大貝健二（編著）, 法律文化社, 2025 年	ISBN	9784589044358
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	ニュースによる報道や、インターネット上などで経済政策に関する話題を積極的に収集し、それらの言説がどのような理論・根拠に基づいているのか（あるいは基づいていないのか）を、本授業の内容と照らして考える習慣を身に付けることで、より理解が深まると思います。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス：現代日本経済を巡る状況	【予習】シラバスとガイダンス資料を事前に読んでおいてください（1時間程度） 【復習】シラバスとガイダンス資料を読み直し、復習しておいてください（1時間程度）	2時間
第2回	対面	現代日本経済の歩みと政策（参考書①p2~22に相当）	【予習】事前配布資料を読み、事前に疑問点や考えたことを整理しておいてください（2時間程度） 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第3回	対面	経済政策の思想と理論（参考書①p23~47に相当）	【予習】事前配布資料を読み、事前に疑問点や考えたことを整理しておいてください（2時間程度） 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第4回	対面	社会政策の思想と理論（参考書①p48~73に相当）	【予習】事前配布資料を読み、事前に疑問点や考えたことを整理しておいてください（2時間程度） 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第5回	対面	マクロ経済学から経済政策を考える①：財政政策（参考書①p74~88に相当）	【予習】事前配布資料を読み、事前に疑問点や考えたことを整理しておいてください（2時間程度） 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第6回	対面	マクロ経済学から経済政策を考える②：金融政策（参考書①p89~98に相当）	【予習】事前配布資料を読み、事前に疑問点や考えたことを整理しておいてください（2時間程度） 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第7回	対面	マクロ経済学から経済政策を考える③：長期のマクロ経済政策（参考書①p99~107に相当）	【予習】事前配布資料を読み、事前に疑問点や考えたことを整理しておいてください（2時間程度） 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第8回	対面	ミクロ経済学から経済政策を考える①：市場の効率性（参考書①p108~120に相当）	【予習】事前配布資料を読み、事前に疑問点や考えたことを整理しておいてください（2時間程度） 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第9回	対面	ミクロ経済学から経済政策を考える②：不完全競争市場と市場の失敗（参考書①p121~127, および p170~182に相当）	【予習】事前配布資料を読み、事前に疑問点や考えたことを整理しておいてください（2時間程度） 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第10回	対面	政治経済学から経済政策を考える①：市民生活と経済政策の関わり（参考書②p2~21に相当）	【予習】事前配布資料を読み、事前に疑問点や考えたことを整理しておいてください（2時間程度） 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第11回	対面	政治経済学から経済政策を考える②：資本主義の発展と経済政策（参考書②p22~43）	【予習】事前配布資料を読み、事前に疑問点や考えたことを整理しておいてください（2時間程度） 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間

第12回	対面	経済政策の実際－産業政策を例に考える ①：産業育成、競争と規制（参考書①p130～148に相当）	【予習】事前配布資料を読み、事前に疑問点や考えたことを整理しておいてください(2時間程度) 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第13回	対面	経済政策の実際－産業政策を例に考える ②：構造改革から産業政策の新機軸へ（参考書②p112～128に相当）	【予習】事前配布資料を読み、事前に疑問点や考えたことを整理しておいてください(2時間程度) 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第14回	対面	経済政策の実際－産業政策を例に考える ③：中小企業政策（参考書②p129～146に相当）	【予習】事前配布資料を読み、事前に疑問点や考えたことを整理しておいてください(2時間程度) 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第15回	オンデマンド	まとめと振り返り	【予習】これまでの授業資料を見直して、自分が十分に理解できているところや苦手なところを整理しておいてください（2時間程度） 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、期末試験のために、これまでの資料を読み直して総復習するようにしてください（4時間程度）	6時間

科目名	経済政策論 I		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	田中 征史		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	経済政策と経済理論			
授業の目的及び概要	本講義では、ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎理論をもとに経済政策の基礎を解説する。現実の政府が実施する政策は多岐にわたるが、消費者の行動や生産者の行動といった経済活動に影響を及ぼすのが経済政策である。市場経済において非効率な資源配分が実現してしまう原因は何か。また、これらの非効率性に対してどのような政策介入を行うべきか。経済の不況期に有効な経済政策とは何か。こういった疑問に対して、理論分析を行えるようになることが本講義の目的となります。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	受講生が現実の経済政策に対して経済理論を使って考える力を身に付けられるようになることが学習の到達目標になります。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	Learning Portal の提出課題に対してコメントする、または、学生からの問い合わせにはメールにて対応する。			
アクティブ・ラーニングの取り組み				
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	指定しません。		ISBN	指定しません。
参考書	1. セオリー＆プラクティス経済政策, 柳川隆・永合位行・藤岡秀英（編）, 有斐閣コンパクト, 2017 年 2. ミクロ経済学の力, 神取道宏, 日本評論社, 2014 年 3. マンキューマクロ経済学 I 入門編, N・グレゴリー・マンキュー, 東洋経済新報社, 2003 年		ISBN	1. 978-4641164994 2. 978-4535557567 3. 978-4492313220
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		30	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		70	
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	ミクロ経済学やマクロ経済学の基礎知識の復習を徹底するように心掛けてください。本科目では 15 回のすべての授業を遠隔（オンデマンド）で実施するため、受講生からの質問はメールにて対応します。また、質問内容がメールでは返答できない場合は、日程を決めて Zoom 等で回答することも可能です。担当教員のメールアドレスは初回授業時に受講生にお知らせします。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	オンデマンド	ガイダンスと授業の概要 ・日本のマクロ経済 ・経済の構造変化 ・経済政策の歴史	【予習】 Learning Portal に事前にアップロードされた講義資料を事前に読んでおく（2時間程度） 【復習】 授業内で扱った演習問題の復習をし、小テストを解く（2時間程度）	4 時間
第2回	オンデマンド	市場の需要・供給と余剰（1） ・消費者行動 ・需要曲線 ・消費者余剰	【予習】 Learning Portal に事前にアップロードされた講義資料を事前に読んでおく（2時間程度） 【復習】 授業内で扱った演習問題の復習をし、小テストを解く（2時間程度）	4 時間
第3回	オンデマンド	市場の需要・供給と余剰（2） ・生産者行動 ・供給曲線 ・生産者余剰 ・総余剰	【予習】 Learning Portal に事前にアップロードされた講義資料を事前に読んでおく（2時間程度） 【復習】 授業内で扱った演習問題の復習をし、小テストを解く（2時間程度）	4 時間
第4回	オンデマンド	市場の需要・供給と余剰（3） ・市場均衡の効率性 ・価格規制	【予習】 Learning Portal に事前にアップロードされた講義資料を事前に読んでおく（2時間程度） 【復習】 授業内で扱った演習問題の復習をし、小テストを解く（2時間程度）	4 時間
第5回	オンデマンド	税金（1） ・消費者への課税 ・生産者への課税 ・租税帰着	【予習】 Learning Portal に事前にアップロードされた講義資料を事前に読んでおく（2時間程度） 【復習】 授業内で扱った演習問題の復習をし、小テストを解く（2時間程度）	4 時間
第6回	オンデマンド	税金（2） ・貿易による余剰の変化 ・関税	【予習】 Learning Portal に事前にアップロードされた講義資料を事前に読んでおく（2時間程度） 【復習】 授業内で扱った演習問題の復習をし、小テストを解く（2時間程度）	4 時間
第7回	オンデマンド	外部性（1） ・外部性に伴う市場の効率性の損失	【予習】 Learning Portal に事前にアップロードされた講義資料を事前に読んでおく（2時間程度） 【復習】 授業内で扱った演習問題の復習をし、小テストを解く（2時間程度）	4 時間
第8回	オンデマンド	外部性（2） ・課税による負の外部性の解決	【予習】 Learning Portal に事前にアップロードされた講義資料を事前に読んでおく（2時間程度） 【復習】 授業内で扱った演習問題の復習をし、小テストを解く（2時間程度）	4 時間
第9回	オンデマンド	公共財（1） ・公共財の役割と問題点	【予習】 Learning Portal に事前にアップロードされた講義資料を事前に読んでおく（2時間程度） 【復習】 授業内で扱った演習問題の復習をし、小テストを解く（2時間程度）	4 時間
第10回	オンデマンド	公共財（2） ・公益事業に対する規制と競争政策	【予習】 Learning Portal に事前にアップロードされた講義資料を事前に読んでおく（2時間程度） 【復習】 授業内で扱った演習問題の復習をし、小テストを解く（2時間程度）	4 時間
第11回	オンデマンド	IS-LM モデルの基礎（1） ・財市場と IS 曲線	【予習】 Learning Portal に事前にアップロードされた講義資料を事前に読んでおく（2時間程度） 【復習】 授業内で扱った演習問題の復習をし、小テストを解く（2時間程度）	4 時間
第12回	オンデマンド	IS-LM モデルの基礎（2） ・貨幣市場と LM 曲線 ・IS-LM モデルにおける均衡	【予習】 Learning Portal に事前にアップロードされた講義資料を事前に読んでおく（2時間程度） 【復習】 授業内で扱った演習問題の復習をし、小テストを解く（2時間程度）	4 時間
第13回	オンデマンド	短期マクロ経済政策（1） ・財政政策が IS 曲線に与える影響とその帰結 ・金融政策が LM 曲線に与える影響とその帰結	【予習】 Learning Portal に事前にアップロードされた講義資料を事前に読んでおく（2時間程度） 【復習】 授業内で扱った演習問題の復習をし、小テストを解く（2時間程度）	4 時間
第14回	オンデマンド	短期マクロ経済政策（2） ・金融政策と財政政策の相互作用、ショックが均衡に与える影響	【予習】 Learning Portal に事前にアップロードされた講義資料を事前に読んでおく（2時間程度） 【復習】 授業内で扱った演習問題の復習をし、小テストを解く（2時間程度）	4 時間

2026/05/01

			トを解く（2時間程度）	
第15回	オンデマンド	総復習	【予習】Learning Portal に事前にアップロードされた講義資料を事前に読んでおく（2時間程度） 【復習】授業内で扱った演習問題の復習をし、小テストを解く（2時間程度）	4時間

科目名	経済政策論Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	前田 一樹	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	実際の経済政策と経済理論		
授業の目的及び概要	本科目では、基礎的な経済学の理論に基づき、現実に行われている経済政策について学修します。政府が採用する経済政策によって、一国の経済の活動水準や成長率、国民の経済厚生は大きな影響を受けます。経済政策の効果の波及メカニズムを理解することはとても重要です。経済政策論Ⅰでは「経済政策の基礎」を学びます。まず 1980 年代以降の日本経済の動向を取り上げ、実際に採用されてきた経済政策を概観します。そのうえで、経済政策の背後にある基礎的な考え方を、ミクロ経済学やマクロ経済学の基本的な知識を用いて理解します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 経済政策の基本目的（効率・公平など）や所得分配の考え方を理解し、ジニ係数などの指標を用いて経済格差を説明できる。 2. マクロ経済政策の基本的な分析枠組みを理解し、乗数効果や財政政策の効果を数式および文章で説明できる。 3. 需要・供給関数や余剰概念を用いて、価格規制などの経済政策が市場や社会的厚生に与える影響を評価できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の提出課題について、次回授業で解説等のフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	教科書は指定しません。授業内で配付する資料に基づき、講義を進めます。	ISBN	なし
参考書	①柳川隆・永合位行・藤岡秀英（編）『セオリー＆プラクティス経済政策』有斐閣コンパクト、2017 年 ②藤川清史（編）『経済政策入門』法律文化社、2020 年 ③芦谷政浩『ミクロ経済学』有斐閣、2009 年 ④神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社、2014 年	ISBN	①9784641164994 ②9784589040855 ③9784641163508 ④9784535557567
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	本講義では、毎回提出課題を設定します。期限内に課題に取り組み、理解を深めるようにしてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	オンデマンド	ガイダンスと授業の概要	シラバス・配布資料を事前によく読み、今後の学修計画を検討してください。また、授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるよう復習を行ってください。	4時間
第2回	オンデマンド	日本のマクロ経済と経済政策	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるよう復習を行ってください。特に、日本のマクロ経済と経済政策について復習してください。	4時間
第3回	オンデマンド	日本経済の構造変化と経済政策	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるよう復習を行ってください。特に、日本の構造変化と経済政策について復習してください。	4時間
第4回	オンデマンド	経済政策の基本課題	授業で解説された専門用語を中心に、語句を暗記し説明ができるよう復習を行ってください。特に、経済政策の基本課題について整理しながら復習してください。	4時間
第5回	オンデマンド	経済政策の主体	授業で解説された専門用語を中心に、語句を暗記し説明ができるよう復習を行ってください。特に、経済政策の主体について整理しながら復習してください。	4時間
第6回	オンデマンド	社会問題と社会政策	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるよう復習を行ってください。特に、社会問題と社会政策について整理しながら復習してください。	4時間
第7回	オンデマンド	社会政策と社会保障	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるよう復習を行ってください。特に、社会政策と社会保障について整理しながら復習してください。	4時間
第8回	オンデマンド	マクロ経済政策：基礎	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるよう復習を行ってください。特に、マクロ経済政策について整理しながら復習してください。	4時間
第9回	オンデマンド	マクロ経済政策：財政政策	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるよう復習を行ってください。特に、財政政策について整理しながら復習してください。	4時間
第10回	オンデマンド	マクロ経済政策：金融政策	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるよう復習を行ってください。特に、金融政策について整理しながら復習してください。	4時間
第11回	オンデマンド	ミクロ経済政策：基礎	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるよう復習を行ってください。特に、ミクロ経済政策について整理しながら復習してください。	4時間
第12回	オンデマンド	ミクロ経済政策：価格規制	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるよう復習を行ってください。特に、価格規制による影響について整理しながら復習してください。	4時間
第13回	オンデマンド	ミクロ経済政策：市場の失敗	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるよう復習を行ってください。特に、市場の失敗について整理しながら復習してください。	4時間
第14回	オンデマンド	社会保障政策	授業で解説された専門用語を中心に、語句の暗記と説明ができるよう復習を行ってください。特に、社会保証政策について整理しながら復習してください。	4時間
第15回	オンデマンド	講義内容の総まとめ	授業で示されたポイントを復習し、学期末レポートに備えて総復習してください。	6時間

科目名	経済政策論Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	吉田 匠	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	日本における経済政策の理論と実際に触れる		
授業の目的及び概要	「経済政策」と一口に言っても、その対象は多岐にわたり、分野ごとに固有の背景や目的が存在します。本講義では、農業、環境、労働、社会保障、財政、金融といった、日本における主要な経済政策について、経済理論を背景に各論的に取り扱います。その際、ミクロおよびマクロ的な視点から理論的に政策を捉えるだけでなく、戦後日本における政策展開を歴史的に振り返ります。「理論」と「歴史」の両面から経済政策にアプローチすることで、現代日本経済が抱える諸課題について理解を深めることを目標とします。なお、本講義は前期開講科目「経済政策論Ⅰ」の各論的な位置づけとなります。		
履修条件・留意点	本講義は前期開講科目「経済政策論Ⅰ」の発展科目として位置づけられます。「経済政策論Ⅰ」を未履修である場合、各自で参考文献等を用いて基礎知識を補う必要がある点に留意してください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 農業、環境、労働、社会保障といった個別の政策領域について、経済理論および戦後日本の歴史的変遷の双方の視点を踏まえ、政策の背景や課題を他者に論理的に説明できるようになること。 ② 現代日本経済が抱える諸課題（少子高齢化、財政赤字、環境問題など）について、現状の制度が形成された歴史的経緯を踏まえて多角的かつ批判的に考え、学術的見地にに基づいた自身の意見を議論できるようになること。 ※①および②について、身につけてほしい具体例 ①ミクロ経済学における「市場の失敗」や「外部性の内部化」の概念に基づき、なぜ環境規制が必要とされるのか、その理論的根拠と政策の効果を具体的に説明することができるようになる ②日本における年金制度が、戦後どのような経済環境下で形成され、現在どのような課題を抱えているのか踏まえ、社会保障制度の持続可能性について論じることができるようになる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題については、出した翌週の授業始めに解説および講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	セオリー＆プラクティス経済政策, 柳川隆・永合位行・藤岡秀英（編）, 有斐閣コンパクト, 2017 年	ISBN	9784641164994
参考書	希望をつくる経済政策入門： 日常から学ぶ日本経済論, 岩佐和幸・大貝健二（編著）, 法律文化社, 2025 年	ISBN	9784589044358
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講に	ニュースによる報道や、インターネット上などで経済政策に関する話題を積極的に収集し、そ		

あたって	これらの言説がどのような理論・根拠に基づいているのか（あるいは基づいていないのか）を、本授業の内容と照らして考える習慣を身に付けることで、より理解が深まると思います。本講義は前期開講科目「経済政策論Ⅰ」の発展科目として位置づけられます。「経済政策論Ⅰ」を未履修である場合、各自で参考文献等を用いて基礎知識を補う必要がある点に留意してください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス：経済政策論Ⅰの復習	【予習】シラバスとガイダンス資料を事前に読んでおいてください（1時間程度） 【復習】シラバスとガイダンス資料を読み直し、復習しておいてください（1時間程度）	2時間
第2回	対面	農業政策(1)日本の農業政策（参考書②p44~60に相当）	【予習】事前配布資料を読み、事前に疑問点や考えたことを整理しておいてください(2時間程度) 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第3回	対面	農業政策(2)農業の特殊性と非経済的意義（参考書①p159~169に相当）	【予習】事前配布資料を読み、事前に疑問点や考えたことを整理しておいてください(2時間程度) 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第4回	対面	環境政策(1)日本の脱炭素化政策（参考書②p253~269に相当）	【予習】事前配布資料を読み、事前に疑問点や考えたことを整理しておいてください(2時間程度) 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第5回	対面	環境政策(2)環境政策のミクロ的基礎（参考書①p182~193に相当）	【予習】事前配布資料を読み、事前に疑問点や考えたことを整理しておいてください(2時間程度) 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第6回	対面	労働政策(1)日本の労働政策（参考書②p147~165に相当）	【予習】事前配布資料を読み、事前に疑問点や考えたことを整理しておいてください(2時間程度) 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第7回	対面	労働政策(2)労働市場モデルにおける政策効果（参考書①p200~221に相当）	【予習】事前配布資料を読み、事前に疑問点や考えたことを整理しておいてください(2時間程度) 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第8回	対面	社会保障政策(1)日本の社会保障制度（参考書①p222~229に相当）	【予習】事前配布資料を読み、事前に疑問点や考えたことを整理しておいてください(2時間程度) 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第9回	対面	社会保障政策(2)年金・医療保険（参考書①p229~p237、参考書②p60~75に相当）	【予習】事前配布資料を読み、事前に疑問点や考えたことを整理しておいてください(2時間程度) 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第10回	対面	社会保障政策(3)介護・福祉・住宅（参考書①p238~247、および参考書②p76~92に相当）	【予習】事前配布資料を読み、事前に疑問点や考えたことを整理しておいてください(2時間程度) 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間

第11回	対面	日本の財政政策（参考書②p181~199 に相当）	【予習】事前配布資料を読み、事前に疑問点や考えたことを整理しておいてください(2時間程度) 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第12回	対面	日本の金融政策（参考書②p200~217 に相当）	【予習】事前配布資料を読み、事前に疑問点や考えたことを整理しておいてください(2時間程度) 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第13回	対面	日本の国土政策（参考書②p166~180 に相当）	【予習】事前配布資料を読み、事前に疑問点や考えたことを整理しておいてください(2時間程度) 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第14回	対面	日本の通商政策（参考書②p218~236 に相当）	【予習】事前配布資料を読み、事前に疑問点や考えたことを整理しておいてください(2時間程度) 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第15回	オンデマンド	まとめと振り返り	【予習】これまでの授業資料を見直して、自分が十分に理解できているところや苦手なところを整理しておいてください（2時間程度） 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、期末試験のために、これまでの資料を読み直して総復習するようにしてください（4時間程度）	6時間

科目名	環境経済論	開講年度	2026 年度春学期
担当者	伊勢 公人	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	環境経済学の基礎理論		
授業の目的及び概要	この授業は、大気汚染や地球温暖化など、日本や世界が直面する環境問題の原因について、経済学的アプローチから理解し、解決策を考えることを目的とします。 この授業では、様々な環境問題を対象とし、環境問題の原因や解決策について環境経済学の基礎理論を用いて説明します。また、企業に就職する際に必要となる企業の環境配慮経営についても説明します。 「実学としての経済学」との関係： この授業を受講することにより、環境経済学の視点から、環境問題に関わる現実の経済現象を理解できる力を身につけることを目的とします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①環境問題とは何か、そして環境問題はどのようにして生じるのかについて、経済学の視点から説明できる。 ②将来の環境問題解決のために経済活動の中でどのような環境保護の取組が必要かを説明できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題については、授業中に講評、解説を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1987 年から民間企業に 34 年間勤務しており、欧州事務所の副所長を務めた経験を有している。また、経済産業省の受託研究のプロジェクトリーダーを始め、多くの調査プロジェクトを担ってきた。本科目では、これらの経験を生かした授業を行う。		
テキスト	環境経済学の第一歩, 大沼あゆみ・柘植隆宏, 有斐閣, 2021 年	ISBN	9784641150898
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	授業に積極的に参加し、テキストを用いて復習を行い、環境問題に関する新聞記事についても日頃から目を通しておいください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス：授業の概要や到達目標等	ガイダンスの内容を基に、授業の方法・進行について	4 時間

			確認してください。	
第2回	対面	経済と環境	授業内容を復習してください。 例) テキスト pp. 1-18 を復習してください。	4 時間
第3回	対面	外部性と市場の失敗	授業内容を復習してください。 例) テキスト pp. 23-36 を復習してください。	4 時間
第4回	対面	汚染	授業内容を復習してください。 例) テキスト pp. 37-57 を復習してください。	4 時間
第5回	対面	ゲーム理論と越境汚染	授業内容を復習してください。 例) テキスト pp. 57-61 を復習してください。	4 時間
第6回	対面	地球温暖化	授業内容を復習してください。 例) テキスト pp. 63-85 を復習してください。	4 時間
第7回	対面	エネルギー	授業内容を復習してください。 例) テキスト pp. 87-104 を復習してください。	4 時間
第8回	対面	廃棄物	授業内容を復習してください。 例) テキスト pp. 105-124 を復習してください。	4 時間
第9回	対面	枯渇資源	授業内容を復習してください。 例) テキスト pp. 125-141 を復習してください。	4 時間
第10回	対面	再生可能資源	授業内容を復習してください。 例) テキスト pp. 143-164 を復習してください。	4 時間
第11回	対面	生物多様性	授業内容を復習してください。 例) テキスト pp. 165-187 を復習してください。	4 時間
第12回	対面	企業と環境配慮	授業内容を復習してください。 例) テキスト pp. 189-206 を復習してください。	4 時間
第13回	対面	環境評価 (1)	授業内容を復習してください。 例) テキストのコラム (pp. 18-20, pp. 31-33, pp. 40-44) を復習してください。	4 時間
第14回	対面	環境評価 (2)	授業内容を復習してください。 例) テキストのコラム (pp. 171-175, pp. 201-203) を復習してください。	4 時間
第15回	オンデマンド	総復習	定期試験に備えて総復習を行ってください。	4 時間

科目名	環境経済論	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	吉田 匠	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	国際標準的な環境政策論の基礎を身に付けるとともに、日本の環境経済学の草創期を知る		
授業の目的及び概要	気候変動をはじめとする環境問題への関心が高まるなか、脱炭素化や資源循環、生物多様性の保全などを通じた持続可能な社会の実現が喫緊の課題となっています。本授業では、経済学の視点から環境問題の解決策を探る学術的なアプローチについての講義を行います。前半では、ミクロ経済学に基づく環境政策の基礎理論を学び、経済学による環境問題の原因や解決策に関する分析枠組みを身に付けてもらいます。後半では、世界に先駆けて環境経済学の地平を切り拓き、国際的にも活躍した日本の経済学者たちの議論を取り上げます。本授業を通じ、環境経済学における国際標準的な考え方を修得するだけでなく、学問の黎明期に現実と格闘した先人たちの思想に触れることで、環境経済学が持つ「深み」を体感してもらうことを目指します。		
履修条件・留意点	入門レベルのミクロ経済学を身に付けていると望ましいですが、必要となる知識は授業内で説明します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①ミクロ経済学に基づいた環境政策論の基礎理論を学び、環境問題の原因およびその解決策に関して学術的に分析し、他者に論理的に説明できるようになること。 ② 日本の環境経済学の草創期における議論を学び、日本の環境経済学が培ってきた独自の視点を現代に応用して議論できるようになること。 ※①および②について、身につけてほしい具体例 ①外部性を内部化する方法として、価格規制と総量規制とを比較しながら、それぞれの特徴を説明することができるようになる ②企業の脱炭素化の取り組みについて、「素材」と「体制」の二つの側面から批判的に評価することができるようになる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題については、出した翌週の授業始めに解説および講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	教科書については、講義資料を用意するので購入の必要はありません。	ISBN	なし
参考書	環境経済学をつかむ〔第 5 版〕, 栗山浩一・馬奈木俊介, 有斐閣, 2024 年	ISBN	9784641177345
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	普段から環境問題に関する報道などに意識的に触れ、疑問に思ったことや考えたことを整理した上で、授業に参加することが望ましいです。 前期開講科目である、「資源・エネルギー経済論」の内容と一部重なる部分があるので、あわせて受講するとより理解が深まります。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション：環境経済学とは何か	【予習】シラバスとガイダンス資料を事前に読んでおいてください（1時間程度） 【復習】シラバスとガイダンス資料を読み直し、復習しておいてください（1時間程度）	2時間
第2回	対面	外部性と市場の失敗	【予習】毎日15~20分程度、新聞やテレビ、ネットニュースなどの報道をチェックし、環境や資源、エネルギー問題に関する情報収集をしてください。（計2時間程度） 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第3回	対面	公共財と環境問題	【予習】毎日15~20分程度、新聞やテレビ、ネットニュースなどの報道をチェックし、環境や資源、エネルギー問題に関する情報収集をしてください。（計2時間程度） 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第4回	対面	共有資源の利用と管理	【予習】毎日15~20分程度、新聞やテレビ、ネットニュースなどの報道をチェックし、環境や資源、エネルギー問題に関する情報収集をしてください。（計2時間程度） 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第5回	対面	ごみ問題と循環型社会	【予習】毎日15~20分程度、新聞やテレビ、ネットニュースなどの報道をチェックし、環境や資源、エネルギー問題に関する情報収集をしてください。（計2時間程度） 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第6回	対面	環境政策の基礎理論①：直接規制と市場メカニズム	【予習】毎日15~20分程度、新聞やテレビ、ネットニュースなどの報道をチェックし、環境や資源、エネルギー問題に関する情報収集をしてください。（計2時間程度） 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第7回	対面	環境政策の基礎理論②：環境税と補助金	【予習】毎日15~20分程度、新聞やテレビ、ネットニュースなどの報道をチェックし、環境や資源、エネルギー問題に関する情報収集をしてください。（計2時間程度） 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第8回	対面	環境政策の基礎理論③：排出量取引	【予習】毎日15~20分程度、新聞やテレビ、ネットニュースなどの報道をチェックし、環境や資源、エネルギー問題に関する情報収集をしてください。（計2時間程度） 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第9回	対面	環境政策の基礎理論④：政策手段の選択	【予習】毎日15~20分程度、新聞やテレビ、ネットニ	4時間

			ユースなどの報道をチェックし、環境や資源、エネルギー問題に関する情報収集をしてください。(計2時間程度) 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください(2時間程度)	
第10回	対面	環境の価値評価(1)	【予習】毎日15~20分程度、新聞やテレビ、ネットニュースなどの報道をチェックし、環境や資源、エネルギー問題に関する情報収集をしてください。(計2時間程度) 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください(2時間程度)	4時間
第11回	対面	環境の価値評価(2)	【予習】毎日15~20分程度、新聞やテレビ、ネットニュースなどの報道をチェックし、環境や資源、エネルギー問題に関する情報収集をしてください。(計2時間程度) 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください(2時間程度)	4時間
第12回	対面	日本の環境経済学の泰斗① 都留重人:公害の政治経済学	【予習】毎日15~20分程度、新聞やテレビ、ネットニュースなどの報道をチェックし、環境や資源、エネルギー問題に関する情報収集をしてください。(計2時間程度) 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください(2時間程度)	4時間
第13回	対面	日本の環境経済学の泰斗② 宮本憲一:中間システム論	【予習】毎日15~20分程度、新聞やテレビ、ネットニュースなどの報道をチェックし、環境や資源、エネルギー問題に関する情報収集をしてください。(計2時間程度) 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください(2時間程度)	4時間
第14回	対面	日本の環境経済学の泰斗③ 宇沢弘文:社会的共通資本の理論	【予習】毎日15~20分程度、新聞やテレビ、ネットニュースなどの報道をチェックし、環境や資源、エネルギー問題に関する情報収集をしてください。(計2時間程度) 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください(2時間程度)	4時間
第15回	オンデマンド	まとめと振り返り	【予習】毎日15~20分程度、新聞やテレビ、ネットニュースなどの報道をチェックし、環境や資源、エネルギー問題に関する情報収集をしてください。(計2時間程度) 【復習】各回課題に取り組んで提出するとともに、期末試験のために、これまでの資料を読み直して総復習するようにしてください(4時間程度)	6時間

科目名	資源・エネルギー経済論	開講年度	2026 年度春学期
担当者	吉田 匠	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	再エネを中心としたエネルギーの経済学および政策論の基礎を学ぶ		
授業の目的及び概要	気候変動を中心に環境・エネルギー問題が主要な社会課題となるなか、再生可能エネルギー（再エネ）は、脱炭素化政策を通じて気候変動問題を解決し、持続可能な社会の実現に貢献することが期待されています。そこで本授業では再エネを中心に、主に環境経済学の議論に基づきながら、資源・エネルギー問題についての基礎知識に関する講義を行います。もちろん受講者のなかには本分野を専門としない人も多いと思うので、必ずしも本講義で扱う内容を完全に覚えておく必要はありません。本授業が目指すのは知識の詰め込みではなく、適切かつさまざまな情報源へアクセスすることができる情報収集能力、得た知識を論理的に組み立てることができる情報処理能力、健全な批判精神に基づいた情報発信能力を習得してもらうことです。本授業を通して、資源・エネルギー問題について世間に広まっている固定観念に惑わされることなく、学術的な議論を踏まえた自分なりの見方を身に付けてほしいと考えています。		
履修条件・留意点	前提知識は必要ありませんが、授業後に新しく習った内容について振り返ることを強く推奨します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①環境経済学の議論やエネルギー政策に関する分析手法を学び、それらの発想に触れることで、様々な資源・ エネルギー問題を理解するための思考の軸を形成し、他者に論理的に説明できるようになること ② 資源・エネルギー問題や気候変動問題、およびそれらを取りまく言説について、多角的かつ批判的に考え、自分の考えをもって学術的見地を踏まえた議論ができるようになること。 ※①および②について、身につけてほしい具体例 ①ミクロ経済学の理論に基づき、価格規制（炭素税）と総量規制（排出量取引）とを比較しながら、それぞれの特徴を説明することができるようになる ②日本の再エネ導入促進政策について、他国と比較しながらその評価をすることができるようになる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題については、出した翌週の授業始めに解説および講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	教科書については、講義資料を用意するので購入の必要はありません。	ISBN	なし
参考書	参考書や参考文献については、授業中や授業資料にて適宜紹介します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	40	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講に	普段から資源・エネルギー問題に関する報道などに意識的に触れ、疑問に思ったことや考えた		

あたって	ことを整理した上で、授業に参加することが望ましいです。 後期開講科目である、「環境経済論」の内容と一部重なる部分があるので、あわせて受講するとより理解が深まります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション: エネルギー問題の考え方	【予習】シラバスとガイダンス資料を事前に読んでおいてください（1時間程度） 【復習】シラバスとガイダンス資料を読み直し、復習しておいてください（1時間程度）	2時間
第2回	対面	エネルギー基本計画と世界のエネルギー動向	【予習】毎日15~20分程度、新聞やテレビ、ネットニュースなどの報道をチェックし、環境や資源、エネルギー問題に関する情報収集をしてください。（計2時間程度） 【復習】各回課題に取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第3回	対面	エネルギー消費とエネルギー効率、エネルギー自給率	【予習】毎日15~20分程度、新聞やテレビ、ネットニュースなどの報道をチェックし、環境や資源、エネルギー問題に関する情報収集をしてください。（計2時間程度） 【復習】各回課題に取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第4回	対面	エネルギーのコストと外部コスト	【予習】毎日15~20分程度、新聞やテレビ、ネットニュースなどの報道をチェックし、環境や資源、エネルギー問題に関する情報収集をしてください。（計2時間程度） 【復習】各回課題に取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第5回	対面	政府の失敗と市場の失敗	【予習】毎日15~20分程度、新聞やテレビ、ネットニュースなどの報道をチェックし、環境や資源、エネルギー問題に関する情報収集をしてください。（計2時間程度） 【復習】各回課題に取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第6回	対面	外部性の内部化	【予習】毎日15~20分程度、新聞やテレビ、ネットニュースなどの報道をチェックし、環境や資源、エネルギー問題に関する情報収集をしてください。（計2時間程度） 【復習】各回課題に取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第7回	対面	カーボンプライシング（炭素税と排出量取引）	【予習】毎日15~20分程度、新聞やテレビ、ネットニュースなどの報道をチェックし、環境や資源、エネルギー問題に関する情報収集をしてください。（計2時間程度） 【復習】各回課題に取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第8回	対面	再エネ導入促進政策（FIT制度）	【予習】毎日15~20分程度、新聞やテレビ、ネットニュースなどの報道をチェックし、環境や資源、エネルギー問題に関する情報収集をしてください。（計2時間程度） 【復習】各回課題に取り組んで提出するとともに、資	4時間

			料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	
第9回	対面	炭素生産性とイノベーション	【予習】毎日15~20分程度、新聞やテレビ、ネットニュースなどの報道をチェックし、環境や資源、エネルギー問題に関する情報収集をしてください。（計2時間程度） 【復習】各回課題に取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第10回	対面	電力自由化と発送電分離	【予習】毎日15~20分程度、新聞やテレビ、ネットニュースなどの報道をチェックし、環境や資源、エネルギー問題に関する情報収集をしてください。（計2時間程度） 【復習】各回課題に取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第11回	対面	電力市場	【予習】毎日15~20分程度、新聞やテレビ、ネットニュースなどの報道をチェックし、環境や資源、エネルギー問題に関する情報収集をしてください。（計2時間程度） 【復習】各回課題に取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第12回	対面	日本と世界の電力システム	【予習】毎日15~20分程度、新聞やテレビ、ネットニュースなどの報道をチェックし、環境や資源、エネルギー問題に関する情報収集をしてください。（計2時間程度） 【復習】各回課題に取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第13回	対面	公正な移行とエネルギー正義	【予習】毎日15~20分程度、新聞やテレビ、ネットニュースなどの報道をチェックし、環境や資源、エネルギー問題に関する情報収集をしてください。（計2時間程度） 【復習】各回課題に取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第14回	対面	社会的受容性を満たした再エネ導入のあり方	【予習】毎日15~20分程度、新聞やテレビ、ネットニュースなどの報道をチェックし、環境や資源、エネルギー問題に関する情報収集をしてください。（計2時間程度） 【復習】各回課題に取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第15回	オンデマンド	まとめと振り返り	【予習】毎日15~20分程度、新聞やテレビ、ネットニュースなどの報道をチェックし、環境や資源、エネルギー問題に関する情報収集をしてください。（計2時間程度） 【復習】各回課題に取り組んで提出するとともに、期末レポート課題のために、これまでの資料を読み直して総復習するようにしてください（4時間程度）	6時間

科目名	農業経済論	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	金子 治平	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	主に日本を対象として、歴史的な流れをふまえて食料問題と農業問題を考えます。		
授業の目的及び概要	この授業は、主に日本を対象として、食料問題や農業問題を理解してもらうことを目的としています。 各回の講義は各授業回の授業計画に沿って進めますが、受講者が持つ事前の知識や理解度に応じて適宜変更することもあります。		
履修条件・留意点	この授業は対面授業です。 下記の事後学習を行う必要があります。 ・授業後に、講義資料を何回も読み直して復習を行う（最低でも 30 分）(※1) ・その回の講義内容に対するアンケート(※2)に回答する（約 5 分） ・その前の回の講義内容に対する小テスト(※3)を受験する（約 15 分） ※ 1 各回の講義資料は、日本語で A4 判 4~8 ページあります。日本語の文章がすらすら読める人でも 30 分、日本語に習熟していない人だと 2 時間以上かかると思います。 ※ 2 アンケートは、「Learning Portal」のテストの最後に記入することになります。アンケートへの回答は「わかった」「わからなかった」などではなく、その回の授業に対応した具体的なものを記述する必要があります。 ※ 3 アンケートを含むテストの成績が、成績評価 100 点満点中 60 点分になります。15 回の授業なので、1 回あたりのテストによる加点は約 4 点分になります。つまり、毎回のテストでいい成績を取ることが、合格するための条件になります。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ほかの財や産業と比較した農業や食料の特質を理解し、説明することができる。 ・農業保護の論理の変化について理解し、説明することができる。 ・（途上国の現状とも通じる）日本農業の明治期以降の農業の発展過程を理解し、説明することができる。 ・現在の日本における食料や農業が抱える諸問題について理解し、説明することができる。 ・上記を通じて、主として日本を中心とする現代の食料や農業問題を検討することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	teams 上で質問を受け付けて、 ・受講生全員に関係する質問等であれば、翌週(あるいは翌々週)の授業で説明します。 ・受講生全員には関係しない質問等であれば、2~3 日以内に teams あるいはメールで回答します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	使用しません。 資料は、授業支援システム「Learning Portal」にアップロードするとともに、授業時に配布します。	ISBN	なし
参考書	農林水産省や FAO の Web ページなどのほか、配布した資料に適宜、記載します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	60	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	40
	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	食料や農業の現状の課題を他産業と比較しながら理解し、経済とどのように関連しているか、に興味を持ってもらいたいと思います。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション シラバスに記載してある授業の目的、概要、授業を受ける際の留意点、学習目標、成績評価などについて説明します。 また、ペティ＝クラークの法則、エンゲルの法則、需要の所得弾力性などについて説明します。	・事前学習として、授業支援システム「Learning Portal」にアップロードした資料に目を通してください。 ・事後学習として、講義資料を何回も読み直して、理解してください。 ・理解した点や疑問点などを整理してください。 ・「Learning Portal」のテストに、理解した点や疑問点などを回答してください。	4時間
第2回	対面	農業の生産過程の特徴 第1回で学んだペティ＝クラークの法則やエンゲル係数と、需要の所得弾力性の関係について説明します。 稲作の作業過程、農業生産と工業生産の違い、農業経営と工業経営の違いについて説明します。	・事後学習として、講義資料を何回も読み直して、理解してください。 ・理解した点や疑問点などを整理してください。 ・「Learning Portal」のテストで、第1回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください。このテストの中には、第2回の講義内容に対する理解した点や疑問点などの記入も含まれます。	4時間
第3回	対面	ミクロ経済学の復習 需要曲線、需要曲線のシフト、需要の価格弾力性と消費者余剰、供給曲線、供給曲線のシフト、供給の価格弾力性と生産者余剰について説明します。	・事後学習として、講義資料を何回も読み直して、理解してください。 ・理解した点や疑問点などを整理してください。 ・「Learning Portal」のテストで、第2回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください。このテストの中には、第3回の講義内容に対する理解した点や疑問点などの記入も含まれます。	4時間
第4回	対面	農産物の価格変動の特徴 世界の穀物価格の乱高下や豊作貧乏、および、それらの現象と需要の価格弾力性との関連を説明します。	・事後学習として、講義資料を何回も読み直して、理解してください。 ・理解した点や疑問点などを整理してください。 ・「Learning Portal」のテストで、第3回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください。このテストの中には、第4回の講義内容に対する理解した点や疑問点などの記入も含まれます。	4時間
第5回	対面	政府による貿易への介入と社会的総余剰（1） 閉鎖市場や開放市場の場合の社会的総余剰、自由貿易のメリットなどについて説明します。	・事後学習として、講義資料を何回も読み直して、理解してください。 ・理解した点や疑問点などを整理してください。 ・「Learning Portal」のテストで、第4回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください。このテストの中には、第5回の講義内容に対する理解した点や疑問点などの記入も含まれます。	4時間
第6回	対面	政府による貿易への介入と社会的総余剰（2） 第5回で学んだ図を自分で描けるように、復習を行います。	・事後学習として、講義資料を何回も読み直して、理解してください。 ・理解した点や疑問点などを整理してください。 ・「Learning Portal」のテストで、第5回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください。このテストの中には、第6回の講義内容に対する理解した点や疑問点などの記入も含まれます。	4時間
第7回	対面	政府による貿易への介入と社会的総余剰（3） 輸入割り当て制度と輸入関税制度、日本における農産物「自由化」の進展について	・事後学習として、講義資料を何回も読み直して、理解してください。 ・理解した点や疑問点などを整理してください。 ・「Learning Portal」のテストで、第6回の講義内容	4時間

		説明します。	についての理解度をチェックする問題を受験してください。このテストの中には、第7回の講義内容に対する理解した点や疑問点などの記入も含まれます。	
第8回	対面	農業保護の論理（1） 農業保護の必要性、農業保護の根拠の変遷、食料自給率や食料自給力などについて説明します。	・事後学習として、講義資料を何回も読み直して、理解してください ・理解した点や疑問点などを整理してください。 ・「Learning Portal」のテストで、第7回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください。このテストの中には、第8回の講義内容に対する理解した点や疑問点などの記入も含まれます。	4 時間
第9回	対面	農業保護の論理（2）と、農業による環境への負荷 農業の多面的機能、農業生産による温室効果ガスの排出について説明します。	・事後学習として、講義資料を何回も読み直して、理解してください ・理解した点や疑問点などを整理してください。 ・「Learning Portal」のテストで、第8回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください。このテストの中には、第9回の講義内容に対する理解した点や疑問点などの記入も含まれます。	4 時間
第10回	対面	日本農業の歴史（1） 明治期から高度成長期頃までの、農業の歴史に関する重要な出来事について説明します。	・事後学習として、講義資料を何回も読み直して、理解してください ・理解した点や疑問点などを整理してください。 ・「Learning Portal」のテストで、第9回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください。このテストの中には、第10回の講義内容に対する理解した点や疑問点などの記入も含まれます。	4 時間
第11回	対面	日本農業の歴史（2） 値食糧管理法のもとでの米価政策と、農業機械の普及、農業における規模の経済性について説明します。	・事後学習として、講義資料を何回も読み直して、理解してください ・理解した点や疑問点などを整理してください。 ・「Learning Portal」のテストで、第10回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください。このテストの中には、第11回の講義内容に対する理解した点や疑問点などの記入も含まれます。	4 時間
第12回	対面	米流通の変化と、食料・農業・農村基本法 食糧管理法と食糧法のもとでの米流通の違い、食料・農業・農村基本法、農家と農業経営の違いなどについて説明します。 また、定期試験対策について説明します。	・事後学習として、講義資料を何回も読み直して、理解してください ・理解した点や疑問点などを整理してください。 ・「Learning Portal」のテストで、第11回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください。このテストの中には、第12回の講義内容に対する理解した点や疑問点などの記入も含まれます。	4 時間
第13回	対面	農業経営の現状（1） 農業経営の収支計算の基礎的な用語について説明します。	・事後学習として、講義資料を何回も読み直して、理解してください ・理解した点や疑問点などを整理してください。 ・「Learning Portal」のテストで、第12回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください。このテストの中には、第13回の講義内容に対する理解した点や疑問点などの記入も含まれます。	4 時間
第14回	対面	農業経営の現状（2） 規模階層別の農業経営の収支がどのようになっているか、について説明します。	・事後学習として、講義資料を何回も読み直して、理解してください ・理解した点や疑問点などを整理してください。 ・「Learning Portal」のテストで、第13回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください。このテストの中には、第14回の講義内容に対する理解した点や疑問点などの記入も含まれます。	4 時間
第15回	オンデ	まとめ	これまでの講義資料を読み直すとともに、毎回の小	4 時間

2026/05/01

	マンド	必要であれば補充説明を行うとともに、 全体の講義を振り返ります。	テストを使って、よく復習してください。	

科目名	農業経済論	開講年度	2026 年度春学期
担当者	吉田 茂一	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	今日の日本の食料問題と日本農業の現状について考える。		
授業の目的及び概要	この授業は、日本の食料と農業の現状を理解してもらう目的でおこなう。この授業を受講することにより、日本の農業についての基礎的知識を身につけるとともに、市場の成り立ちや経済学的な視点から今の日本の農業が抱える諸問題を理解することができる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	食料と農業経済に関する専門知識を修得し、経済学的視点から考察する能力を身につけることを目標とする。 必要に応じて最新のデータを用いた分析方法について解説し、学生各自が行うことができるようにする。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	メールにより質問を受け付けます。必要に応じて翌週の授業で説明します。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①農業経済学(第 5 版) ， 荏開津典生・鈴木宣弘, 岩波書店, 2020 年	ISBN	①9784000289221
参考書	－	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	60	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	「農業」の知識を「経済学」的な理論でどのように捉えるのか、に興味を持ってもらいたいと思います。 なお、学生の皆さんも日々の生活の中でお気付きでしょうが、昨今の食糧価格は高騰しており現状の食糧市場を取り巻く状況を理解するためには、最新のニュースや Web 上の参考資料を確認する必要があります。 配布資料には教科書だけではなく、現状を理解するために必要な最新ニュースのリンクなども追加しますので、必ず確認しておいてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	初回ガイダンス 1. 経済学と農業的世界	テキストの第1章を読んでおいてください。 復習として、配布資料を確認しておいてください。	4 時間
第2回	オンデマンド	2. 経済発展と農業	テキストの第2章を読んでおいてください。 復習として、配布資料を確認しておいてください。	5 時間

第3回	オンデマンド	3. 食料の需給と供給	テキストの第3章を読んでおいてください。 復習として、配布資料を確認しておいてください。	4 時間
第4回	オンデマンド	4. 農業生産と土地	テキストの第4章を読んでおいてください。 復習として、配布資料を確認しておいてください。	5 時間
第5回	オンデマンド	5. 農業の経営組織	テキストの第5章を読んでおいてください。 復習として、配布資料を確認しておいてください。	4 時間
第6回	オンデマンド	6. 農産物の市場組織	テキストの第6章を読んでおいてください。 復習として、配布資料を確認しておいてください。	3 時間
第7回	オンデマンド	7. 農産物貿易と農業保護政策	テキストの第7章を読んでおいてください。 復習として、配布資料を確認しておいてください。	3 時間
第8回	オンデマンド	前半部分の振り返り(まとめ動画による解説を含む)	配布資料および動画解説資料をよく確認しておいてください。	5 時間
第9回	オンデマンド	8. 世界の人口と食料	テキストの第8章を読んでおいてください。 復習として、配布資料を確認しておいてください。	4 時間
第10回	オンデマンド	9. 食生活の成熟とフード・システム	テキストの第9章を読んでおいてください。 復習として、配布資料を確認しておいてください。	4 時間
第11回	オンデマンド	10. 農業の近代化	テキストの第10章を読んでおいてください。 復習として、配布資料を確認しておいてください。	4 時間
第12回	オンデマンド	11. 資源・環境と農業	テキストの第11章を読んでおいてください。 復習として、配布資料を確認しておいてください。	4 時間
第13回	オンデマンド	12. 日本の農業と食料	テキストの第12章を読んでおいてください。 復習として、配布資料を確認しておいてください。	4 時間
第14回	オンデマンド	後半部分の振り返り(まとめ動画による解説を含む)	配布資料および動画解説資料をよく確認しておいてください。	4 時間
第15回	オンデマンド	まとめ	理解できていない箇所を掘り下げ、よく復習しておくようにしてください。	3 時間

科目名	地域経済論 I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	藤原 幸則	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	都市・地域問題と都市・地域政策		
授業の目的及び概要	私たちが実際に生活している都市・地域の具体的な諸問題の原因と解決策を考えることを授業の目的とします。 授業では、都市経済学を含む広義の意味での地域経済学の基礎理論を学びつつ、地域に共通する問題、地域固有の問題や特徴を発見・理解し、問題の解決に向けてどのような解決策が実施されているのか、その効果あるいは有効性について学修します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	地域経済学に関する基礎理論を習得するとともに、都市・地域の再生や活性化を実現させていくための国と地方自治体の制度および政策について理解する力を身に付け、活力ある豊かな都市・地域のあり方について考えられるようになることを目指します。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	小テスト（3 回実施）は、授業中に解答を示し、説明と講評を行います。問題と正解は、授業支援システム（Learning Portal）にも掲載します。 授業中に適宜質問を受ける時間を設け、その場で回答します。質問内容に応じて、補足して説明すべきことは、翌週の授業の際に解説します。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しません。 担当教員が作成する授業資料により授業を行います。 授業資料は、授業支援システム（Learning Portal）に掲載します（原則、授業開講日の前日午前 9 時から閲覧可能）。	ISBN	なし
参考書	①地域経済学入門（第 3 版）， 山田浩之・徳岡一幸，有斐閣， 2018 年 ②地域政策の経済学，林 宜嗣・山鹿久木・林 亮輔・林 勇貴，日本評論社，2018 年	ISBN	①9784641165229 ②9784535558687
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	都市・地域政策に携わる公務員志望者はもとより、都市・地域をビジネスのフィールドとして仕事をしたい人や都市・地域問題に関心のある皆さんの受講を歓迎します。 授業内容の理解を深め、知識を定着させるため、各回の授業資料を利用して復習を行ってください。授業後はできれば当日に復習を行うとともに、授業中に気になった単語や内容について、必ず自分で調べる手間を惜しまないでください。さらに、より深く理解したい場合は、参考書		

	を活用して学修してください。 日ごろから、新聞、インターネットなどで、現代のさまざまな都市・地域問題に関することに関心を持って目を通す機会を増やしてください。 なお、地域経済学は経済学の応用分野で、内容を理解するためには、ミクロ経済学の基礎分野を学修しておく必要があります。本授業を履修する前に、もしくは同時並行してミクロ経済学の基礎分野を学修しておくことをお勧めします。授業では、地域経済学の理論や考え方について、直観的な説明にとどまらず、一定の厳密性を確保するため、数式の展開による説明も随所で取り入れていきます。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション：これから地域経済を学ぼう 授業の目的、学修の到達目標、進め方、評価方法について説明します。そして、入門的内容として、経済学の中での地域経済学の位置づけ、地域経済学を学ぶ意義について解説します。	【予習】事前にシラバスや Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	1.5 時間
第2回	対面	日本の地域と都市 日本の中で地域がどの程度異なっているのか、人口規模という基本的な指標に注目して概観していきます。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第3回	対面	地域の産業構造 地域の経済活動の活発さを表す指標となる県内総生産という考え方を紹介し、それを用いて地域の違いを特徴付けることを解説します。 また、授業終了後、第1回小テストを Web で行います。出題範囲は、第2回と第3回の授業内容です。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。また、小テストを受ける前に、出題範囲の授業資料を読み直してください。	4.5 時間
第4回	対面	地域間人口移動 日本の地域間人口移動の状況を概観し、人口移動の要因と影響を分析できる枠組みの基礎について解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第5回	対面	集積の経済と都市化 日本の都市化の状況を概観し、都市化を引き起こした要因について解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第6回	対面	住宅市場 住宅・土地市場の特徴、そこにおける価格の決め方、日本の住宅・土地政策について解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第7回	対面	都市内土地利用の分析 立地による土地の価値の違いを表現できる枠組み、地価や地代、住宅価格や家賃が立地ごとにどのように決まるかを解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第8回	対面	都市システムモデルと最適人口規模（1） 都市をシステムとしてとらえる考え方、都市形成のメカニズムと都市規模の決定の基礎理論について解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第9回	対面	都市システムモデルと最適人口規模（2） 都市システムモデルによる都市規模の決定に関する応用分析について解説します。 また、授業終了後、第2回小テストを Web で行います。出題範囲は第4回から第9回までの授業内容です。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。また、小テストを受ける前に、出題範囲の授業資料を読み直してください。	4.5 時間

第10回	対面	地域間交易 全国各地間で交易を行うことの利点、交易が行われる要因、交易の社会への影響について解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第11回	対面	企業立地 工業立地と商業立地の観点から、企業がどこに立地するかを決める要因について解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第12回	対面	交通サービス 通勤・通学、物流などの交通サービスの特徴と起こりうる問題、解決法について解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第13回	対面	地方政府の役割 地域問題に対応する地方政府（地方自治体）の役割、地方公共財の最適供給、企業誘致と租税競争について解説します。 また、授業終了後、第3回小テストを Web で行います。出題範囲は、第10回から第13回までの授業内容です。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。また、小テストを受ける前に、出題範囲の授業資料を読み直してください。	4.5 時間
第14回	対面	地域経済分析の手引き 地域で発生している問題の背景（決定要因）を探る「回帰分析の手法」、地域政策やプロジェクトの経済波及効果を計測する「産業連関分析」について解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第15回	オンデマンド	全体総括：定期試験に向けて 定期試験に向けて、これまでの授業内容の重要ポイントを復習していきます。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 定期試験に向けて、授業資料を読み直すとともに、重要ポイントの知識、考え方を確認してください。特に、小テスト問題で取り上げた事項は、基本的かつ重要なことなので、必ず復習するようにしてください。	5 時間

科目名	地域経済論Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	藤原 幸則	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	地域生活と経済、地域づくり-関西地域をケースに		
授業の目的及び概要	本授業では、私たちに最も身近な地域である「関西」を対象に、その成り立ち、現状と課題、課題に対応するための処方箋について学修してもらいます。授業全体を通じた問題意識は、少子高齢化、グローバル化、技術革新、社会資本ストックの老朽化、災害の多発化などが進む中で、どのように関西の地域づくりを進めていくかです。この難しい問いに対して、皆さんも考えていく足がかりとなるよう、経済理論も踏まえた担当教員が考える処方箋を紹介していきます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	以下の 3 点を到達目標とします。 ①関西地域の強みと弱みについて説明できる。 ②関西地域が抱える課題とその対応策について、説明と自分なりの提案ができる。 ③一つでも多く関西について知り、履修前よりも関西が好きになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	小テスト（3 回実施）は、授業中に解答を示し、説明と講評を行います。問題と正解は、授業支援システム（Learning Portal）にも掲載します。 授業中に適宜質問を受ける時間を設け、その場で回答します。質問内容に応じて、補足して説明すべきことは、翌週の授業の際に解説します。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しません。 担当教員が作成する授業資料により授業を行います。 授業資料は、授業支援システム（Learning Portal）に掲載します（原則、授業開講日の前日午前 9 時から閲覧可能）。	ISBN	なし
参考書	アジア太平洋と関西 関西経済白書 2025, アジア太平洋研究所, 日経印刷, 2025 年	ISBN	9784865794908
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	社会の現場の問題意識も踏まえ、皆さんが関西の行政機関や企業、団体などで活躍していく上で、有益な知識・視点・考え方を学修してもらいます。 授業内容の理解を深め、知識を定着させるため、各回の授業資料を利用して復習を行ってください。授業後はできれば当日に復習を行うとともに、授業中に気になった単語や内容について、自分で調べる手間を惜しまないでください。さらに、より深く理解したい場合は、参考書をゼ		

	ひ活用して学修してください。参考書には、関西の経済・社会に関する主要なデータも付けられています（ダウンロード利用可）。 日ごろから、新聞、テレビ、インターネットなどで、関西に関することに関心を持って目を通す機会を増やしてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション:これから関西の話しよう 授業の目的、学修の到達目標、進め方、評価方法について説明します。そして、入門的内容として、関西地域の基本的な情報・統計について解説します。	【予習】事前にシラバスや Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	1.5 時間
第2回	対面	関西経済の歩み 江戸から平成までの関西経済の歴史を一気に振り返ります(大阪を中心に)。これから関西の経済や地域のことを学修していくうえで、関西経済の歴史を知っておくことは欠かせない基礎知識になります。 また、授業終了後、第1回小テストを Web で行います。出題範囲は、第1回と第2回の授業内容です。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。また、小テストを受ける前に、第1回の授業資料も読み直してください。	4.5 時間
第3回	対面	関西名経営者列伝 関西経済の発展に尽力した経営者を紹介します。2つのショウト（商都、笑都）の形成に貢献した五大友厚と吉本せいの2人を取り上げます。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第4回	対面	関西経済の長期低迷 1970 年をピークに GRP の全国シェアが低下し続けている関西経済の長期低迷要因について、産業構造、法規制、人口移動などから解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第5回	対面	人口減少と関西 人口動態を知る基礎知識とともに、関西の人口減少や少子高齢化について解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第6回	対面	女性の活躍と関西経済 全国平均に比べて関西の女性有業率は低くなっています。関西の女性活躍の現況と課題について解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第7回	対面	災害リスク管理からみた関西の課題 地震や高潮などの関西が直面する災害リスクと課題について解説します。 また、授業終了後、第2回小テストを Web で行います。出題範囲は第3回から第7回までの授業内容です。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。また、小テストを受ける前に、出題範囲の授業資料を読み直してください。	4.5 時間
第8回	対面	関西企業の強み 意外と知られていない点もある関西企業の強みについて、企業の時価総額のデータ分析などにより解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第9回	対面	貿易構造からみる関西経済 貿易統計検索に関する基礎知識とともに、対中国を中心に貿易構造からみる関西経済の特徴について解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第10回	対面	関西のインバウンド戦略 インバウンド(訪日外国人旅行者)による消費行動は、人口減少下の日本経済にとつ	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え	4 時間

		て、成長牽引が期待されています。そこで、関西経済におけるインバウンドによる消費行動の意義・効果・課題、さらにはコロナ禍を教訓にした持続可能なインバウンド戦略のあり方について解説します。	方を確認してください。	
第11回	対面	スポーツ振興と関西経済 関西のスポーツ振興の歴史と課題、産業面も含めたスポーツ振興戦略について解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第12回	対面	関西の交通インフラの課題 関西の交通インフラである空港、港湾、道路、鉄道の最新動向と課題について解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第13回	対面	関西の建設需要 建築と建設の違い、建設業の役割と構造、建設投資の動向、うめきた2期などのお店の都市開発の状況、大阪ビジネス地区のオフィス需給の動向について解説します。 また、授業終了後、第3回小テストを Web で行います。出題範囲は、第8回から第13回までの授業内容です。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。また、小テストを受ける前に、出題範囲の授業資料を読み直してください。	4.5 時間
第14回	対面	MICE・IR と関西経済 これからの関西のビジネス・観光の振興において重要となるのが MICE (国際会議、コンベンション等) の誘致・開催、IR (統合型リゾート施設) による誘客です。これらの最新動向、関西経済にとっての意義と効果について解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第15回	オンデマンド	全体総括：定期試験に向けて 定期試験に向けて、これまでの授業内容の重要ポイントを復習していきます。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 定期試験に向けて、授業資料を読み直すとともに、重要ポイントの知識、考え方を確認してください。特に、小テスト問題で取り上げた事項は、基本的かつ重要なことなので、必ず復習するようにしてください。	5 時間

科目名	経済地理 I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	藤原 幸則	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	地域政策の考え方・手法・課題の学修		
授業の目的及び概要	経済地理学は、「経済現象を空間的側面や地域性から明らかにし、問題解決に寄与する」学問分野です。経済地理学に関する理論や考え方は別開講の地域経済論と重複しますので、本授業では実学の視点から政策論に焦点を当てることとし、地域問題を把握しその解決を図る「地域政策」を取り上げます。これまでの地域問題や地域政策のサーベイ、最新のデータや新しい地域政策関連の法律・政策・計画の紹介もしつつ、地域政策の考え方・手法・課題について学修してもらいます。今や、地域政策は行政だけでなく、民間も関与し公民連携が盛んになっています。公務員、企業、団体で地域の活性化に取り組むにあたり役立つような授業にしていきます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	地域政策の担い手として、実際に地域活性化を実践するために必要な地域問題の把握方法を習得し、その基礎的な解決法を提示することができるようになることを目指しています。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	小テスト（3回実施）は、授業中に解答を示し、説明と講評を行います。問題と正解は、授業支援システム（Learning Portal）にも掲載します。 授業中に適宜質問を受ける時間を設け、その場で回答します。質問内容に応じて、補足して説明すべきことは、翌週の授業の際に解説します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しません。 担当教員が作成する授業資料により授業を行います。 授業資料は、授業支援システム（Learning Portal）に掲載します（原則、授業開講日の前日午前9時から閲覧可能）。	ISBN	なし
参考書	①経済地理学への招待，伊藤達也・小田宏信・加藤幸治，ミネルヴァ書房，2020 年 ②地域政策の経済学，林 宜嗣・山鹿久木・林 亮輔・林 勇貴，日本評論社，2018 年 ③地域政策（第2版），山崎 朗・杉浦勝章・山本匡毅・豆本一茂・田村大樹・岡部遊志，中央経済社，2023 年	ISBN	①9784623086917 ②9784535558687 ③9784502446719
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	地域政策に携わる公務員志望者はもとより、会社やNPOなどで地域の活性化に貢献したい人や地域政策に関心のある皆さんの受講を歓迎します。		

	授業内容の理解を深め、知識を定着させるため、各回の授業資料を利用して復習を行ってください。授業後はできれば当日に復習を行うとともに、授業中に気になった単語や内容について、必ず自分で調べる手間を惜しまないでください。さらに、より深く理解したい場合は、参考書を活用して学修してください。 日ごろから、新聞、インターネットなどで、現代のさまざまな地域問題や地域政策に関することに関心を持って目を通す機会を増やしてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス、地域システム変動のメカニズム(1) 授業の目的、学修の到達目標、進め方、評価方法について説明します。そして、入門的内容として、個別の地域政策を論じる前に、地域システムを変化させていくメカニズムについて解説します。第1回授業では、経済活動と空間の関係（空間障壁）について学修してもらいます。	【予習】事前にシラバスや Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	1.5 時間
第2回	対面	地域システム変動のメカニズム(2) 個別の地域政策を論じる前に、地域システムを変化させていくメカニズムについて解説します。第2回授業では、産業構造と地域再編、資本 vs 労働者、産業配置について学修してもらいます。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第3回	対面	産業立地(1) どの地点が企業にとって最大の利益をもたらすのかを明らかにする産業立地論、ウェーバーの理論をもとにした工業立地論について解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第4回	対面	産業立地(2) クリスタラーによる中心地理論に代表される商業立地論、最近産業集積の新たな機能として注目されている地域イノベーションシステムについて解説します。 また、授業終了後、第1回小テストを Web で行います。出題範囲は、第1回から第4回の授業内容です。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。また、小テストを受ける前に、出題範囲の授業資料を読み直してください。	4.5 時間
第5回	対面	都市システム(1) 都市システムとは何か、都市システムの分析方法の一つである都市の階層性について解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第6回	対面	都市システム(2) 都市の成長要因となる中枢管理機能、国境を越えたグローバル時代の都市システムについて解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第7回	対面	人口移動と地域(1) 日本の人口の分布と変化、人口の地域間移動について解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第8回	対面	人口移動と地域(2) 人口減少の都市経済へのインパクト、人口減少による都市の再編、新型コロナウイルスによる人口移動の変化と地域システムについて解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第9回	対面	情報技術と地域システム(1) 地域システムに大きな影響を及ぼしている情報技術に着目していきます。情報技術	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え	4 時間

		の特徴、コンピュータ・ネットワークの空間的含意、サイバー空間と市場の世界化について解説します。	方を確認してください。	
第10回	対面	情報技術と地域システム(2) 情報技術が Web2.0 から Web3.0 へとバージョンアップしつつあるデジタル社会の地域システムについて解説します。 また、授業終了後、第2回小テストを Web で行います。出題範囲は第5回から第10回までの授業内容です。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。また、小テストを受ける前に、出題範囲の授業資料を読み直してください。	4.5 時間
第11回	対面	地域政策の論理 地域政策の定義・構成要素・政策発動の契機、地域政策の目標に該当する地域間格差の是正、地域政策の新しい担い手について解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第12回	対面	国土計画 国土整備の方向性を定める国土計画の目的・策定経緯、新たな国土計画の模索について解説します。 また、授業終了後、第3回小テストを Web で行います。出題範囲は、第11回と第12回の授業内容です。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。また、小テストを受ける前に、出題範囲の授業資料を読み直してください。	4.5 時間
第13回	対面	東京の行方(1) 2回の授業回に分けて、情報技術の革新が今後も続いていく中で、東京の行方はどうなるか。さらに東京一極集中が進行するのか。この東京問題は日本最大の地域問題であり、その対応には大胆な地域政策が求められるといえます。東京問題に関する最近の話題を紹介して、皆さんと東京の行方を考えたいと思います。今回は、東京と地方で広がる生産性格差について取り上げます。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第14回	対面	東京の行方(2) 前回授業に続き、皆さんと東京の行方を考えたいと思います。東京問題に関する最近の話題として、今回は東京に迫る「ジェントリフィケーション」問題（住宅費高騰が招く社会の分断）について取り上げます。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第15回	オンデマンド	全体総括：定期試験に向けて 定期試験に向けて、これまでの授業内容の重要ポイントを復習していきます。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 定期試験に向けて、授業資料を読み直すとともに、重要ポイントの知識、考え方を確認してください。特に、小テスト問題で取り上げた事項は、基本的かつ重要なことなので、必ず復習するようにしてください。	5 時間

科目名	経済地理Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	藤原 幸則	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	地域政策の考え方・手法・課題の学修		
授業の目的及び概要	経済地理学は、「経済現象を空間的側面や地域性から明らかにし、問題解決に寄与する」学問分野です。経済地理学に関する理論や考え方は別開講の地域経済論と重複しますので、本授業では実学の視点から政策論に焦点を当てることとし、地域問題を把握しその解決を図る「地域政策」を取り上げます。これまでの地域問題や地域政策のサーベイ、最新のデータや新しい地域政策関連の法律・政策・計画の紹介もしつつ、地域政策の考え方・手法・課題について学修してもらいます。今や、地域政策は行政だけでなく、民間も関与し公民連携が盛んになっています。公務員、企業、団体で地域の活性化に取り組むにあたり役立つような授業にしていきます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	地域政策の担い手として、実際に地域活性化を実践するために必要な地域問題の把握方法を習得し、その基礎的な解決法を提示することができるようなことを目指しています。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	小テスト（3回実施）は、授業中に解答を示し、説明と講評を行います。問題と正解は、授業支援システム（Learning Portal）にも掲載します。 授業中に適宜質問を受ける時間を設け、その場で回答します。質問内容に応じて、補足して説明すべきことは、翌週の授業の際に解説します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しません。 担当教員が作成する授業資料により授業を行います。 授業資料は、授業支援システム（Learning Portal）に掲載します（原則、授業開講日の前日午前9時から閲覧可能）。	ISBN	なし
参考書	①経済地理学への招待，伊藤達也・小田宏信・加藤幸治，ミネルヴァ書房，2020 年 ②地域政策の経済学，林 宜嗣・山鹿久木・林 亮輔・林 勇貴，日本評論社，2018 年 ③地域政策（第2版），山崎 朗・杉浦勝章・山本匡毅・豆本一茂・田村大樹・岡部遊志，中央経済社，2023 年	ISBN	①9784623086917 ②9784535558687 ③9784502446719
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	地域政策に携わる公務員志望者はもとより、会社やNPOなどで地域の活性化に貢献したい人や地域政策に関心のある皆さんの受講を歓迎します。		

	授業内容の理解を深め、知識を定着させるため、各回の授業資料を利用して復習を行ってください。授業後はできれば当日に復習を行うとともに、授業中に気になった単語や内容について、必ず自分で調べる手間を惜しまないでください。さらに、より深く理解したい場合は、参考書を活用して学修してください。 日ごろから、新聞、インターネットなどで、現代のさまざまな地域問題や地域政策に関することに関心を持って目を通す機会を増やしてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション 授業の目的、学修の到達目標、進め方、評価方法について説明します。そして、春学期で学修した事項で重要なことを改めて振り返ることにします。	【予習】事前にシラバスや Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	1.5 時間
第2回	対面	人口減少時代の地域問題(1) 人口減少時代における新しい地域間格差（地域の持続可能性格差）、地方都市の衰退について解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第3回	対面	人口減少時代の地域問題(2) 農業を基盤としている農村の衰退、山村の限界集落化、廃村や集落の統合のようなコミュニティの再編について解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第4回	対面	産業集積の衰退と再生(1) 工場の大都市集中と分散政策、地方圏への企業誘致について解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第5回	対面	産業集積の衰退と再生(2) 地域競争力を高める産業クラスター計画、産業集積の再生について解説します。 また、授業終了後、第1回小テストを Web で行います。出題範囲は、第2回から第5回の授業内容です。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。また、小テストを受ける前に、出題範囲の授業資料を読み直してください。	4.5 時間
第6回	対面	地場産業の活性化 地場産業とは何か、地場産業の現状と課題、地場産業の活性化策について解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第7回	対面	商業の再生戦略(1) 小売店舗の郊外化と大型化などの変化する店舗形態、商店街の衰退と中心市街地の空洞化について解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第8回	対面	商業の再生戦略(2) 中心市街地の衰退に歯止めをかけるためのまちづくり3法、中心市街地の将来像、コンパクトシティについて解説します。 また、授業終了後、第2回小テストを Web で行います。出題範囲は、第6回から第8回の授業内容です。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。また、小テストを受ける前に、出題範囲の授業資料を読み直してください。	4.5 時間
第9回	対面	新産業の創出(1) 新産業とは何か、地方活性化策としての再生可能エネルギー、地域経済に大きな影響を与える自動車のEV化について解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第10回	対面	新産業の創出(2) 成長が続く医療機器産業、医療機器クラスターの形成、ものづくり中小企業の参入が期待できる航空機産業、地方再生のカギとなるほかの新産業（再生医療など）につい	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間

		て解説します。		
第11回	対面	地方分権による地域再生(1) 国から地方へ権限と財源を移譲する地方分権の動向、地方財政システムと三位一体の改革について解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第12回	対面	地方分権による地域再生(2) 小規模な市町村を再編して事務能力を高める市町村合併、都道府県に代わる広域的な自治体としての道州制、地方における人口減少の克服と自立的で持続的な社会づくりをめざす地方創生戦略について解説します。 また、授業終了後、第3回小テストを Web で行います。出題範囲は、第9回から第12回の授業内容です。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。また、小テストを受ける前に、出題範囲の授業資料を読み直してください。	4.5 時間
第13回	対面	地域のグローバル化(1) 日本の貿易や国際旅客の動向からみたグローバル化の進展、農林水産物・食品の輸出について解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第14回	対面	地域のグローバル化(2) 外国人観光客(インバウンド)の受け入れ、地方の自立的な国際交流活動を可能とする広域国際交流圏について解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第15回	オンデマンド	全体総括：定期試験に向けて 定期試験に向けて、これまでの授業内容の重要ポイントを復習していきます。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 定期試験に向けて、授業資料を読み直すとともに、重要ポイントの知識、考え方を確認してください。特に、小テスト問題で取り上げた事項は、基本的かつ重要なことなので、必ず復習するようにしてください。	5 時間

科目名	都市経済論 I	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	吉田 匠	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	実際の都市現象に関するメカニズムを実証的に捉える		
授業の目的及び概要	皆さんは「都市」と聞いて、どのような風景を思い浮かべるでしょうか。オフィスビルやタワーマンションなどの高層ビルが林立する都心、さまざまな店が立ち並ぶ商店街、ネオン煌めく歓楽街、あるいは郊外の閑静な住宅街など、都市は実に多様な顔を有しています。本授業では、都市の生成過程や都市特有の現象について、最新の実証研究を取り上げたテキストを用い、経済学の視点から具体例を通した講義を行います。具体的には、産業集積や土地利用、交通、再開発といった現代日本の都市を取り巻くトピックを扱います。私たちが普段何気なく見ている街の風景、その背後にある経済学的なメカニズムを論理的に捉えると同時に、データを使って現実の都市を分析する力を身につけることを目標とします。		
履修条件・留意点	基本的なミクロ経済学および統計学・計量経済学の知識を習得していることが望ましいです。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 都市現象にまつわるメカニズムや実証分析の事例を学び、それらの発想に触れることで、都市の形成メカニズムや空間的な経済現象を理解するための思考の軸を形成し、他者に論理的に説明できるようになること。 ② 産業集積、都市の過密・過疎、再開発といった都市問題、およびそれらに関連するトピックについて、データに基づいた分析をすることで、自分の考えをもって学術的見地を踏まえた議論ができるようになること。 ※①および②について、身につけてほしい具体例 ①都市に人や企業が集まる利益（集積の経済）と、集まりすぎることによる不利益（混雑費用）を比較しながら、都市の規模や形成過程の特徴を説明することができるようになる。 ②大阪・梅田の都市再開発政策や交通インフラ整備について、地価推移などのデータに基づいて、実証的な知見を踏まえながら、社会・経済的な利益と不利益についてその評価をすることができるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題については、出した翌週の授業始めに解説および講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	歩いて学ぶ都市経済学，中島賢太郎・手島健介・山崎潤一，日本評論社，2025 年	ISBN	9784535541108
参考書	参考書や参考文献については、授業中や授業資料にて適宜紹介します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート 課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	40	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講に	普段から、自分の出身地や興味のある街に関する報道などに意識的に触れ、疑問に思ったこと		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス：都市経済をどのように捉えるか	【予習】シラバスとガイダンス資料を事前に読んでおいてください（1時間程度） 【復習】シラバスとガイダンス資料を読み直し、復習しておいてください（1時間程度）	2時間
第2回	対面	商業集積のメカニズム（テキスト第1章に相当）	【予習】テキストの第1章(p1~16)を読み、事前に疑問点や考えたことを整理してください。（2時間程度） 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第3回	対面	生産活動の集積のメカニズム（テキスト第2章に相当）	【予習】テキストの第2章(p17~30)を読み、事前に疑問点や考えたことを整理してください。（2時間程度） 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第4回	対面	通勤が形成する都市（テキスト第3章に相当）	【予習】テキストの第3章(p31~42)を読み、事前に疑問点や考えたことを整理してください。（2時間程度） 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第5回	対面	住宅としての土地利用（テキスト第4章に相当）	【予習】テキストの第4章(p43~52)を読み、事前に疑問点や考えたことを整理してください。（2時間程度） 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第6回	対面	都市のカタチ（テキスト第5章に相当）	【予習】テキストの第5章(p53~66)を読み、事前に疑問点や考えたことを整理してください。（2時間程度） 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第7回	対面	土地利用規制（テキスト第6章に相当）	【予習】テキストの第6章(p67~80)を読み、事前に疑問点や考えたことを整理してください。（2時間程度） 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第8回	対面	期末レポート作成に向けた都市・地域データの紹介	【予習】事前配布資料を読み、事前に疑問点や考えたことを整理しておいてください（2時間程度） 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第9回	対面	観光が帰る都市の姿（テキスト第7章に相当）	【予習】テキストの第7章(p81~94)を読み、事前に疑問点や考えたことを整理してください。（2時間程度） 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第10回	対面	都市の破壊と再生（テキスト第8章に相当）	【予習】テキストの第8章(p95~104)を読み、事前に疑問点や考えたことを整理してください。（2時間程度） 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2時間程度）	4時間
第11回	対面	土地住宅市場の摩擦（テキスト第9章に相当）	【予習】テキストの第9章(p105~118)を読み、事前に疑問点や考えたことを整理してください。（2時間程度）	4時間

			【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2 時間程度）	
第 1 2 回	対面	地域を分かち境界（テキスト第 10 章に相当）	【予習】テキストの第 10 章(p119~138)を読み、事前に疑問点や考えたことを整理してください。（2 時間程度） 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2 時間程度）	4 時間
第 1 3 回	対面	都市をつなぐ高速交通網（テキスト第 11 章に相当）	【予習】テキストの第 11 章(p139~150)を読み、事前に疑問点や考えたことを整理してください。（2 時間程度） 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2 時間程度）	4 時間
第 1 4 回	対面	多様性の交差点(テキスト第 12 章に相当)	【予習】テキストの第 12 章(p151~165)を読み、事前に疑問点や考えたことを整理してください。（2 時間程度） 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、資料を読み直して理解を深めるようにしてください（2 時間程度）	4 時間
第 1 5 回	オンデマンド	まとめと振り返り	【予習】これまでの授業資料を見直して、自分が十分に理解できているところや苦手なところを整理しておいてください（2 時間程度） 【復習】リアクションペーパーに取り組んで提出するとともに、期末レポート作成のために、これまでの資料を読み直して総復習するようにしてください（4 時間程度）	6 時間

科目名	都市経済論Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	藤原 幸則	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	日本の都市をめぐる経済現象や都市問題に関する経済分析 － 理論の学修		
授業の目的及び概要	国民の大半は都市に住んでおり、さまざまな経済・社会活動が展開されています。こうした現代社会における都市の重要性からみて、経済学の視点から都市を分析することは重要です。授業では、①日本の都市をめぐる経済現象や都市問題について理解すること、②都市問題に対応する政策のあり方や手法を考えること、ということを目 的としています。 なお、授業では、実学の観点から、都市経済論の基礎理論の解説にとどまらず、その理論や考え方を日本・関西の現実の都市問題にも関連づけて解説していきます。さらに、具体的な都市計画、都市インフラ、都市開発、都市政策と都市問題については、都市経済論Ⅱで学修してもらうことになっています。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この授業を通じて、以下の到達目標を定めています。 ①都市問題について、その原因と課題を説明することができること。 ②都市問題について、対応のあり方や政策を論じることができること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	小テスト（3 回実施）は、授業中に解答を示し、説明と講評を行います。問題と正解は、授業支援システム（Learning Portal）にも掲載します。 授業中に適宜質問を受ける時間を設け、その場で回答します。質問内容に応じて、補足して説明すべきことは、翌週の授業の際に解説します。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しません。 担当教員が作成する授業資料により授業を行います。 授業資料は、授業支援システム（Learning Portal）に掲載します（原則、授業開講日の前日午前 9 時から閲覧可能）。	ISBN	なし
参考書	①都市経済学，高橋孝明，有斐閣，2012 年 ②都市経済学（第 2 版），金本良嗣・藤原 徹，東洋経済新報社，2016 年	ISBN	①9784641184060 ②9784492813034
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	学生の皆さんにとっての就職先には、地方自治体や不動産、流通、都市開発、交通といった都市経済論の知識が役立つ産業が多くあります。都市政策に携わる公務員志望者はもとより、都市をビジネスのフィールドとして仕事をしたい人や都市問題に関心のある皆さんの受講を歓迎		

	します。 都市経済論の入門的な授業となりますが、担当教員が経済団体とシンクタンクでの業務経験を生かし、実際の事例やデータも豊富に取り上げて、実学としての学修にも配慮します。 なお、都市経済論の理論や考え方を的確に理解するには、経済学の基礎理論、特にミクロ経済学の知識が必要ですが、授業では、適宜、ミクロ経済学の基礎的部分を解説したり、経済学の独特な考え方に注意を促したりすることによって、都市経済論の基本的なメッセージを的確に理解できるようにします。数学的な理解など、より厳密に理論や考え方を学修したい場合は、参考書を活用してください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション：これから都市経済論を学ぼう 授業の目的、学修の到達目標、進め方、評価方法、授業計画について説明します。そして、入門的内容として、私たちの毎日の生活や住んでいる場所にかかわる身近な例をあげつつ、都市経済論を学ぶことの意義やメリットについて解説します。	【予習】事前にシラバスや Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	1.5 時間
第2回	対面	日本の地域と都市問題（1） 現在の日本で検討すべき都市・地域問題は何か、さまざまなデータをもとに解説します。この授業回では、人口減少が予想される中での都市問題・地域問題を取り上げます。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第3回	対面	日本の地域と都市問題（2） 前回授業に続き、現在の日本で検討すべき都市・地域問題は何か、さまざまなデータをもとに解説します。この授業回では、都市圏と地方の都市環境の比較、感染症による都市や地域経済への影響を取り上げます。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第4回	対面	住宅市場と住宅政策（1） 住宅市場の分析をするために、住宅の需要曲線、供給曲線と住宅市場の均衡と余剰について解説します。これらはミクロ経済学の応用になります。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第5回	対面	住宅市場と住宅政策（2） 日本の住宅市場ではさまざまな政府の介入が行われていますが、これらの介入政策を経済学的に考えます。そして、住宅市場で問題となる外部性や情報の非対称性について解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第6回	対面	都市の住宅立地（1） 都市経済論の基礎となる都市の住宅立地の理論を学びます。ミクロ経済学で学んだ無差別曲線と予算制約線を用いて、都市内での地代や土地利用がどのように決まり、その決定要因である通勤費や所得などの影響を解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第7回	対面	都市の住宅立地（2） 前回授業に続き、都市の住宅立地の理論を学びます。この授業回では、都市構造の分析とその応用（郊外化や外部不経済に対する施策）について解説します。 また、授業終了後、第1回小テストを Web で行います。第2回から第7回までの授業	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。また、小テストを受ける前に、出題範囲の授業資料を読み直してください。	4.5 時間

		内容から出題します。		
第8回	対面	日本の地域間格差問題 日本の地域には、さまざまな視点から地域間格差の存在を指摘できます。この授業回では、人口や産業構造に関しての地域間格差をローレンツ曲線や特化係数といった指標をもとに考察できることを解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第9回	対面	地域間人口移動の理論と実際 この授業回では、実際のデータを示しながら日本の人口移動の特性について解説します。また、人口移動に関する理論の紹介も行います。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第10回	対面	都市集積と都市規模 古代から現代、そして未来へ、多くの人が生活を営み、さまざまな経済社会活動が行われる都市がどうして存在するのか。そのために必要な3つの要素、自然条件、規模の経済、集積の経済について解説します。また、授業終了後、第2回小テストを Web で行います。第8回から第10回までの授業内容から出題します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。また、小テストを受ける前に、出題範囲の授業資料を読み直してください。	4.5 時間
第11回	対面	都市インフラ（1） 人口減少下では都市インフラの整備や維持補修は非常に重要になってきます。教育施設から上下水道など生活に必要な都市インフラから防災まで幅広く経済学の視点から考えていきます。この授業回では、地方公共財・公共サービス、都市インフラの規模の経済と集積の経済を取り上げて解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第12回	対面	都市インフラ（2） 前回授業に続き、都市インフラについてさらに学びます。この授業回では、生活に身近な医療サービス、保育・教育サービス、介護サービス、防災インフラを取り上げて、経済学の視点から解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第13回	対面	都市交通 大都市と地方都市では交通に関する問題点が異なります。大都市では混雑現象、地方都市では交通インフラの維持が問題になります。交通経済は経済学の1つの分野として成り立つぐらい広範な問題を取り扱っていますので、ここでは都市経済論に必要な最小限度の問題について解説します。交通経済に興味をもった方は、都市経済論Ⅱの受講をお勧めします。また、授業終了後、第3回小テストを Web で行います。第11回から第13回までの授業内容から出題します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。また、小テストを受ける前に、出題範囲の授業資料を読み直してください。	4.5 時間
第14回	対面	地方公共投資と都市財政 都市の魅力を高めるために、各自治体は公共投資や公共サービスの供給を行っています。ここでは、これらの供給がどのように変化しているか、その財政的基盤がどのようにになっているかを解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第15回	オンデ	全体総括	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料を	5 時間

	マンド	定期試験に向けて、これまでの授業内容の重要ポイントを復習していきます。	あらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】定期試験に向けて授業資料を読み直すとともに、重要ポイントの知識、考え方を確認してください。特に、小テスト問題で取り上げた事項は、基本的かつ重要なことなので、必ず復習するようにしてください。	

科目名	都市経済論Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	藤原 幸則	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	日本の都市をめぐる経済現象や都市問題に関する経済分析 - 具体的なケースや事例からの学修		
授業の目的及び概要	国民の大半は都市に住んでおり、さまざまな経済・社会活動が展開されています。こうした現代社会における都市の重要性からみて、経済学の視点から都市を分析することは重要です。授業では、実学の観点も踏まえ、日本・関西の具体的なケースや事例を数多くとりあげて、①日本の都市をめぐる経済現象や都市問題について理解すること、②都市問題に対応する政策のあり方や手法を考えること、そして、③都市の将来的なあり方を考える力を養うこと、ということまでを目的としています。都市経済論Ⅰで学修した基礎的な理論や考え方を実際の社会の現場の問題に応用して考えてもらうこともねらいとしています。また、交通経済は都市経済論の重要な一部門であり、現実にも都市交通は都市にとって重要な役割がありますので、重点的に取り上げています。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この授業を通じて、以下の到達目標を定めています。 ①具体的な都市問題について、その原因と課題を説明することができること。 ②具体的な都市問題について、対応のあり方や政策を論じることができること。 ③都市の将来的なあり方について、自分なりの考えが述べられること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	小テスト（3回実施）は、授業中に解答を示し、説明と講評を行います。問題と正解は、授業支援システム（Learning Portal）にも掲載します。 授業中に適宜質問を受ける時間を設け、その場で回答します。質問内容に応じて、補足して説明すべきことは、翌週の授業の際に解説します。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しません。 担当教員が作成する授業資料により授業を行います。 授業資料は、授業支援システム（Learning Portal）に掲載します（原則、授業開講日の前日午前9時から閲覧可能）。	ISBN	なし
参考書	①都市経済学(第2版), 金本良嗣・藤原 徹, 東洋経済新報社, 2016 年 ②交通経済のエッセンス, 田邊勝巳, 有斐閣, 2017 年 ③交通政策への招待, 青木 亮・須田昌弥, ミネルヴァ書房, 2024 年	ISBN	①9784492813034 ②9784641150492 ③9784623096732
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（%）	0	

	その他の内容
この科目の受講にあたって	都市政策に携わる公務員志望者はもとより、都市をビジネスのフィールドとして仕事をしたい人や都市問題に関心のある皆さんの受講を歓迎します。担当教員が経済団体やシンクタンクでの実務の知見・経験を生かして、都市問題の制度・政策、都市開発プロジェクト、スーパーシティなどの未来の都市づくりについて、最新の動向も紹介していきます。 日本・関西の具体的なケースや事例を取り上げた実学的な授業となりますが、授業内容の理解を深め、知識を定着させるため、各回の授業資料を利用して復習を行ってください。授業後はできれば当日に復習を行うとともに、授業中に気になった単語や内容について、自分で調べる手間を惜しまないでください。 さらに、数学的な理解など、より厳密に理論や考え方を学修したい場合は、参考書を活用してください。 日ごろから、新聞、テレビ、インターネットなどで、都市問題や都市政策に関することに関心を持って目を通す機会を増やしてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション：都市問題の具体的なケースや事例から学ぼう 授業の目的、学修の到達目標、進め方、評価方法について説明します。そして、日本の都市計画制度のあらましについて解説します。都市問題に対応する政策で、最も基本的なものは都市計画制度です。ゾーニング規制を主として、望ましい都市づくりのための規制・誘導を行うものです。これから取り上げる都市問題の具体的なケースや事例を学修するうえでの基礎知識となります。	【予習】事前にシラバスや Learning Portal に掲載された授業資料に目を通しておいて授業に出席してください。 【復習】授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	1.5 時間
第2回	対面	東京一極集中の都市問題 他の先進国に比べて、日本は首都・東京への人口・企業等の著しい集中があります。東京一極集中により、さまざまな都市問題が生じています。集中の要因は都市経済論Ⅰで学んだ理論を応用して考えることができます。そこで、東京一極集中の都市問題の要因、現状、リスク、政府の対応について、理論も踏まえた解説をします。 また、授業終了後、第1回小テストをWebで行います。第1回と第2回の授業内容から出題します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。また、小テストを受ける前に、第1回の授業資料も読み直してください。	4.5 時間
第3回	対面	都市財政 都市における円滑な経済活動や都市住民の快適な生活のためには、公共サービスの供給が不可欠です。これら公共サービスのかなりの部分は地方自治体によって供給されています。そこで、財政収入と財政支出の構造から都市財政の基本を学ぶとともに、都市公共サービスの供給が必要とされる経済学的な理由、そして、都市財政の新たな動きとして、官民連携やエリア・マネジメントの動きを解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第4回	対面	災害リスクと都市 災害リスクに対して脆弱性を内在している大都市は、首都・東京だけではなく、関西の大都市、つまり、大阪、京都、神戸についても同様な災害リスクがあります。こうした災害リスクは、「必ず起こ	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間

		るけれど、いつ起こるかわからない」という特徴をもっています。そこで、関西の大都市を主な対象として、地震・洪水・高潮などの災害リスクの現状と課題を解説します。		
第5回	対面	副首都構想の経済効果や課題 現与党の連立政権合意により、副首都構想の議論が本格化しています。副首都は「平時の日本の成長」、「非常時の首都機能バックアップ」を担う拠点を首都以外に置くというものです。コロナ禍以降、東京一極集中は加速しており、弊害が目立ち始めています。市場原理に従う限り東京一極集中は止まらず、副首都の必要性は増えています。そこで、副首都構想の経済効果や課題を考えてみたいと思います。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第6回	対面	交通サービスの特徴と交通需要 都市交通について考えるうえで、交通需要の特徴をより深く理解することが重要です。そこで、交通サービスの4つの特徴、利用者が交通機関を選択する原理（犠牲量モデル）、交通需要予測モデル（四段階推定法）の考え方、交通需要予測を利用する際の注意点を解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第7回	対面	交通インフラの評価と費用便益分析 公的部門が整備することの多い交通インフラはプロジェクトごとに評価され、投資の意思決定がなされています。プロジェクトを実施することで得られる便益と費用を比較し、いくつかのプロジェクトの中から実施されるプロジェクトが決定されます。この実務でよく使われている費用便益分析という手法について、基礎理論、分析手法、手法の限界と留意点を解説します。また、授業終了後、第2回小テストをWebで行います。第3回から第7回までの授業内容から出題します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。また、小テストを受ける前に、出題範囲の授業資料を読み直してください。	4.5 時間
第8回	対面	都市インフラとしての空港 いまや、世界の大都市では、国内各地や海外との人・モノ・情報の交流が活発化しています。そのゲートウェイとして、空港は都市インフラとして欠かすことができないものです。関西には、西日本の国際拠点空港である関西国際空港をはじめ、伊丹空港、神戸空港の3つの空港があります。3空港の存立の経緯から、現在、最適運用にはどのような課題があり、どのような対応がとられているか、といったことを解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第9回	対面	都市インフラとしての港湾・道路 国内外との人流・物流のゲートウェイとして、港湾は重要な都市インフラです。国際コンテナ戦略港湾に指定された阪神港に即して、港湾の機能強化にはどのような課題があり、どのような対応がとられているか、といったことを解説します。また、都市の道路は経済活動や住民生活に欠かせ	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間

		ないものです。さらに、海外との関係で、国際物流の円滑化にも大きな関係があります。関西は港湾につながる道路でミッシングリンク（途切れた区間）があり、大都市の渋滞緩和・災害事故対応に必要な環状道路の整備が遅れています。関西の道路ネットワークに即して、どのような課題があり、どのような対応がとられているか、といったことも解説します。		
第10回	対面	都市インフラとしての鉄道 鉄道の中でも、新幹線は日本の基幹的な高速輸送体系であり、地域社会の振興や経済活性化に大きな効果をもたらし、安全かつ環境にやさしいという優れた特性を持っています。都市内外との交通を支える都市インフラとしても重要な機能をもっています。関連エリアの都市開発も促していきます。今回の授業では、関西の都市の発展にも大きなインパクトがあるとされる、北陸新幹線、リニア中央新幹線の現状と課題を学修してもらいます。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第11回	対面	大阪の都市開発プロジェクト 2011年の都市再生特別措置法の改正以来、東京23区をはじめ、関東・中部・関西の大都市地域において、大規模な都市再開発事業が活発に進められています。大阪・関西の都市開発のリーディングプロジェクトが「うめきたプロジェクト」であり、大阪駅北側で大規模な複合開発が進められています。2013年にグランフロント大阪を開業した先行開発区域に続き、グラングリーン大阪と呼ばれる「うめきた2期地区開発」として都市開発事業が進んでいます。今回の授業では、うめきたプロジェクト、新しい新大阪のまちづくりを中心に、大阪の都市開発プロジェクトの動向、大阪・関西の都市づくりや経済に与えるインパクトについて紹介します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第12回	対面	都市と観光 関西・日本にとって、観光は大きなニーズと将来性があり、都市の基幹産業として成長が期待されています。関西では、2025年大阪・関西万博により世界へ関西の魅力が発信され、万博後も継続的に訪日外国人旅行客の増加が見込まれ、2030年秋ごろの統合型リゾート施設（IR）開業で世界水準のMICE施設が整備されれば一層の訪日外国人旅行客の拡大が期待されます。こうした都市を拠点する観光の発展について、現状と課題、将来展望について解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第13回	対面	コンパクトシティ コンパクトシティは、都市のスプロール化を抑え、持続可能な都市づくりの概念とされています。コンパクトシティに求めるものは、世界各国それぞれの都市によりさまざまです。日本では、1990年代から人口減	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。また、小テストを受ける前に、出題範囲の授業資料を読み直してください。	4.5 時間

		少と超高齢社会の到来を喫緊の課題とし取り組まれています。最近では脱炭素や災害に強いまちづくりのためにもコンパクトシティが注目されています。コンパクトシティの意義、国内外の事例に即した現状と課題、取り組みを促進するための方策について解説します。 また、授業終了後、第3回小テストをWebで行います。第8回から第13回までの授業内容から出題します。		
第14回	対面	スーパーシティ スーパーシティとは、人工知能（AI）やビッグデータなどの最先端技術を活用し、大胆な規制改革も導入して、社会のあり方を根本から変える未来都市のことです。日本では、2030年ごろの実現をめざして、茨城県つくば市と大阪府大阪市の2地域が国からスーパーシティの区域指定を受けています。大阪府・市の対象エリアは、2025年万博開催地の「夢洲」、大阪駅北の「うめきた2期地区」の2つの新規開発エリアです。スマートシティとの違いも含めて、スーパーシティの意義、概要、現状と課題について解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 授業資料を読み直し、授業で得た知識、考え方を確認してください。	4 時間
第15回	オンデマンド	全体総括：定期試験に向けて 定期試験に向けて、これまでの授業内容の重要ポイントを復習していきます。	【予習】 Learning Portal に掲載された授業資料をあらかじめ読んでおいて授業に出席してください。 【復習】 定期試験に向けて授業資料を読み直すとともに、重要ポイントの知識、考え方を確認してください。特に、小テスト問題で取り上げた事項は、基本的かつ重要なことなので、必ず復習するようにしてください。	5 時間

科目名	観光経済学	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	二替 大輔	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	観光現象を経済学的手法を用いて分析する。		
授業の目的及び概要	本講義では、観光現象をミクロ経済学およびマクロ経済学の理論を用いて分析する方法を学びます。講義の理解に必要な経済学の基礎知識や、グラフ・簡単な数式の復習も行います。ミクロ経済学の視点からは、観光に関する需要・供給の特徴や観光関連企業の戦略を扱います。マクロ経済学の視点からは、観光と GDP の関係、乗数理論、経済波及効果などについて学びます。さらに、日本の観光政策の現状や主要な統計データについても取り上げます。理解を深めるため、講義内では問題演習も実施します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	(1) 観光現象とその経済学的特徴について説明することができる。 (2) 観光に関する主要な統計の意義を理解し、データを用いて観光の現状を説明できる。 (3) ミクロ経済学及びマクロ経済学の視点から観光現象を理論的に分析することができる。 (4) 日本の観光政策について、経済学的な視点からその目的と課題を考察できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	問題演習・中間試験については、採点した上で返却します 期末試験については、Learning Portal で解答・解説を公開します。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。 配布資料を用いて授業を行います。	ISBN	なし
参考書	①観光経済学 理論とデータで学ぶ、山内弘隆・山本史門・山崎茂雄・川口明子編，有斐閣，2022 年 ②観光経済学の基礎講義，中平千彦・薮田雅弘編，九州大学出版会，2017 年 ③観光経済学入門，ジェームズ・マック，日本評論社，2005 年 ④ベーシックプラス ミクロ経済学の基礎，小川光・家森信善，中央経済社，2016 年 ⑤ベーシックプラス マクロ経済学の基礎 第3版，家森信善，中央経済社，2026 年	ISBN	①9784641166073 ②9784798502045 ③9784535554320 ④9784502179518 ⑤9784502563911
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	ミクロ経済学・マクロ経済学の内容を復習しておくことで授業の理解が深まります。講義を通じて、ミクロ経済学やマクロ経済学の理論を観光現象にどのように応用するかを授業を通じて理解で		

きるようにしてください。図や数式を使うこともあります。講義では問題演習を行って理解度
を確かめるので、必ず復習を行ってください。また、観光に関わるニュース・新聞記事等に注
目してください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	【予習】シラバスと講義資料を事前に読んで、基本的な内容について予習してください。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第2回	対面	観光需要①：観光需要の理論	【予習】「観光需要の理論」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「観光需要の理論」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第3回	対面	観光需要②：観光需要と価格弾力性	【予習】「観光需要と価格弾力性」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「観光需要と価格弾力性」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第4回	対面	観光供給①：観光供給の理論	【予習】「観光供給の理論」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「観光供給の理論」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第5回	対面	観光供給②：観光関連企業の行動	【予習】「観光関連企業の行動」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「観光関連企業の行動」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第6回	対面	観光市場の構造	【予習】「観光市場の構造」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「観光市場の構造」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第7回	対面	観光関連企業の戦略	【予習】「観光関連企業の戦略」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「観光関連企業の戦略」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第8回	対面	前半のまとめと中間試験	【予習】「第1回から第7回」に関する資料を読んで理解できなかったところをまとめておいてください。中間試験に向けての復習をしてください。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第9回	対面	観光とマクロ経済学①：観光と GDP	【予習】「観光と GDP」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「観光と GDP」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第10回	対面	観光とマクロ経済学②：観光と乗数理論	【予習】「観光と乗数理論」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「観光と乗数理論」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第11回	対面	観光とマクロ経済学③：観光の経済波及効果	【予習】「観光の経済波及効果」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「観光の経済波及効果」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第12回	対面	観光統計①：観光に関する統計	【予習】「観光に関する統計」に関する資料を事前に読んでおいてください。	4 時間

			【復習】授業で配布した「観光に関する統計」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	
第13回	対面	観光統計②：観光サテライト勘定	【予習】「観光サテライト勘定」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「観光サテライト勘定」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第14回	対面	観光政策	【予習】「観光政策」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「観光政策」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4 時間
第15回	オンデマンド	講義全体のまとめ	【予習】配布資料を読んで理解できなかったところをまとめておいてください。 【復習】授業で配布した資料を使って、講義内容を復習をしてください。	4 時間

科目名	観光経済学	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	二替 大輔	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	観光現象を経済学的手法を用いて分析する。		
授業の目的及び概要	本講義では、観光現象をミクロ経済学およびマクロ経済学の理論を用いて分析する方法を学びます。講義の理解に必要な経済学の基礎知識や、グラフ・簡単な数式の復習も行います。ミクロ経済学の視点からは、観光に関する需要・供給の特徴や観光関連企業の戦略を扱います。マクロ経済学の視点からは、観光と GDP の関係、乗数理論、経済波及効果などについて学びます。さらに、日本の観光政策の現状や主要な統計データについても取り上げます。理解を深めるため、講義内では問題演習も実施します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	(1) 観光現象とその経済学的特徴について説明することができる。 (2) 観光に関する主要な統計の意義を理解し、データを用いて観光の現状を説明できる。 (3) ミクロ経済学及びマクロ経済学の視点から観光現象を理論的に分析することができる。 (4) 日本の観光政策について、経済学的な視点からその目的と課題を考察できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題については、採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。 配布資料を用いて授業を行います。	ISBN	なし
参考書	①観光経済学 理論とデータで学ぶ、山内弘隆・山本史門・山崎茂雄・川口明子編、有斐閣、2022 年 ②観光経済学の基礎講義、中平千彦・薮田雅弘編、九州大学出版会、2017 年 ③観光経済学入門、ジェームズ・マック、日本評論社、2005 年 ④ベーシックプラス ミクロ経済学の基礎、小川光・家森信善、中央経済社、2016 年 ⑤ベーシックプラス マクロ経済学の基礎 第 3 版、家森信善、中央経済社、2026 年	ISBN	①9784641166073 ②9784798502045 ③9784535554320 ④9784502179518 ⑤9784502563911
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	ミクロ経済学・マクロ経済学の内容を復習しておくことで授業の理解が深まります。講義を通じて、ミクロ経済学やマクロ経済学の理論を観光現象にどのように応用するかを授業を通じて理解できるようにしてください。図や数式を使うこともあります。講義では問題演習を行って理解度		

を確かめるので、必ず復習を行ってください。また、観光に関わるニュース・新聞記事等に注目してください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	ガイダンス	【予習】シラバスと講義資料を事前に読んで、基本的な内容について予習してください。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4時間
第2回	オンデマンド	観光需要①：観光需要の理論	【予習】「観光需要の理論」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「観光需要の理論」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4時間
第3回	オンデマンド	観光需要②：観光需要と価格弾力性	【予習】「観光需要と価格弾力性」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「観光需要と価格弾力性」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4時間
第4回	オンデマンド	観光供給①：観光供給の理論	【予習】「観光供給の理論」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「観光供給の理論」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4時間
第5回	オンデマンド	観光供給②：観光関連企業の行動	【予習】「観光関連企業の行動」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「観光関連企業の行動」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4時間
第6回	オンデマンド	観光市場の構造	【予習】「観光市場の構造」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「観光市場の構造」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4時間
第7回	オンデマンド	観光関連企業の戦略	【予習】「観光関連企業の戦略」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「観光関連企業の戦略」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4時間
第8回	オンデマンド	前半のまとめと中間試験	【予習】「第1回から第7回」に関する資料を読んで理解できなかったところをまとめておいてください。中間試験に向けての復習をしてください。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4時間
第9回	オンデマンド	観光とマクロ経済学①：観光とGDP	【予習】「観光とGDP」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「観光とGDP」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4時間
第10回	オンデマンド	観光とマクロ経済学②：観光と乗数理論	【予習】「観光と乗数理論」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「観光と乗数理論」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4時間
第11回	オンデマンド	観光とマクロ経済学③：観光の経済波及効果	【予習】「観光の経済波及効果」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「観光の経済波及効果」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4時間
第12回	オンデマンド	観光統計①：観光に関する統計	【予習】「観光に関する統計」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「観光に関する統計」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4時間

			る資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	
第13回	オンデマンド	観光統計②：観光サテライト勘定	【予習】「観光サテライト勘定」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「観光サテライト勘定」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4時間
第14回	オンデマンド	観光政策	【予習】「観光政策」に関する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した「観光政策」に関する資料を読み直し、授業内容の復習をしてください。	4時間
第15回	オンデマンド	講義全体のまとめ	【予習】配布資料を読んで理解できなかったところをまとめておいてください。 【復習】授業で配布した資料を使って、講義内容を復習をしてください。	4時間

科目名	地方財政論	開講年度	2026 年度春学期
担当者	中村 和之	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	地方自治体（都道府県や市町村など）の経済活動（地方財政）について、その仕組みや役割、機能を学ぶ。		
授業の目的及び概要	この授業の目的は、地方政府の経済活動（地方財政）を考えることです。地方政府とは、都道府県や市町村などの地方自治体を指します。経済活動とは、地方政府が行う公共支出や課税、国から地方への補助金の配分などを意味します。考えるとは、地方政府の活動が経済に与える影響や望ましい地方財政のありかたを検討することを指します。これによって地方財政を巡る課題を考える手がかりを得たいと思います。 都道府県や市町村の経済活動は、私たちの仕事や暮らしと密接に関係しています。地方財政の制度や機能を知ることは実社会に出てからも大きな力となります。		
履修条件・留意点	国全体の財政は「財政学 I」「財政学 II」で学びます。この授業とあわせて受講すれば、財政の全体像をしっかりと理解できます。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本講義では以下を到達目標とします。 1 日本の地方財政制度のあらましを説明できる、 2 地方政府の経済活動が社会に与える影響を経済学の理論を用いて考えることができる、 3 地方財政を巡る政策課題について、授業で学んだことを手がかりとして自分なりの見解を述べることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・毎回の授業終了後にコメントシートを提出してもらい、次回の授業開始時に紹介、質問や意見に回答します。 ・毎回の授業終了後にラーニングポータル上で出題する小テストの結果は、ラーニングポータル上でフィードバックします。 ・提出された中間レポートについてもラーニングポータル上でフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、民間企業（小売チェーン）での業務経験があり、本科目では、この実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	特定のテキストの指定はしません。 ラーニングポータルに講義資料を掲載します。毎回の授業で閲覧できるように準備してください。	ISBN	なし
参考書	①地方財政の見取り図、菅原宏太・松本睦・加藤秀弥、有斐閣、2023 年 ②新しい地方財政論 新版、中井英雄・齊藤慎・堀場勇夫・戸谷裕之、有斐閣、2020 年	ISBN	①9784641151161 ②9784641221567
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（%）	0	
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	授業では資料を用意しますが、受講生の皆さん自身も必ずノートを作成してください。良い成績をとる人には、(1)ノートを作成して学んだことを自分なりに整理している、(2)経済学の理論と財政の制度を関連させて考える習慣が身についている、(3)社会で起こっている出来事を常に関心を持って観察している、といった共通の特徴があります。 地方財政は私たちの生活と密接に関係しています。ぜひ、地元の自治体の財政に関心を持ちながら学修に取り組んでください。また、地方財政を学ぶ上では「地域の多様性」を知ることが鍵となります。この授業を通じて広い視野を獲得することを願っています。 担当教員は発展的な学修に向けた話題提供、基礎的な理解を高めるための事例紹介や補助教材の提供などで皆さんの学修を支援するので、粘り強く取り組んでください。 地方公務員を志望する受講生はもとより、これから社会に出るすべての受講生にとって地方財政に関する知識や経済学的な考え方は大きな力になります。意欲的な取り組みを期待します。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【ガイダンス・地方財政を巡るトピックス】講義の計画と授業の進め方を説明します。続いて、地方財政を巡るトピックスを学びます。	【予習】シラバスの各回の授業内容を読んでください。【復習】地元や自分が関心ある自治体の人口構成や財政状況を調べてみてください。	4時間
第2回	対面	【市場経済と地方政府の役割】授業で用いる経済理論の復習を兼ねて、市場経済における地方政府の経済活動の意義を学びます。	【予習】ミクロ経済学（需要と供給の理論）を復習しておいてください。【復習】講義資料等を活用して経済分析の手法に慣れるように復習してください。	4時間
第3回	対面	【地方財政制度のあらまし】国と地方の財政関係を中心に地方財政の制度と仕組みを学びます。	【復習】様々な専門用語が出てきて戸惑うところですが、参考書や地方財政白書などで制度や仕組みの大枠を把握してください。	4時間
第4回	対面	【地方の歳入、歳出と予算】地方政府の歳入、歳出の状況を知るとともに、予算の仕組みを学びます。	【復習】授業の内容を踏まえて、地元や関心ある自治体の歳入、歳出の状況をネット等で調べてみてください。	4時間
第5回	対面	【地方における公共サービス供給】地方政府が供給する公共サービスの現況と効率的な供給に向けた取り組みを学びます。	【復習】公共サービス生産の効率性に関する諸概念を講義資料等で復習してください。	4時間
第6回	対面	【地方公共財、公共サービス便益の漏出】それぞれの地域には多数の人々が暮らしており、他地域の人々と行き来しながら経済活動を営んでいます。その中での公共サービス供給のあり方を学びます。	【復習】理論的な解説が多くなるので、現実に引き寄せて理解できるように復習してください。	4時間
第7回	対面	【地方政府による公共投資】地方政府によるインフラや公共施設の整備について、現況や機能、課題を学びます。	【復習】授業では基礎的な事柄をお話するので、地元や関心ある自治体での状況を調べて理解を定着させてください。	4時間
第8回	対面	【費用便益分析】地方自治体が行うプロジェクトの評価手法を学びます。	【復習】授業で学ぶ「割引現在価値」の考え方はビジネスにおいてもよく使うので理解を定着させてください。	4時間
第9回	対面	【地方税総論、理念、制度、経済効果】租税に関する基礎的な概念を学ぶとともに、地方政府が課す租税の制度と現況、経済効果を学びます。	【復習】国の税制で求められる役割や機能と、地方政府が課す租税に求められる役割や機能の共通点と異なる点を理解できるように整理、復習してください。	4時間
第10回	対面	【地方税（各論）】主要な地方税の制度と仕組み、実態を知るとともに、地方税制度の課題を学びます。	【復習】都道府県や市町村が課す主な租税の仕組みを理解できるように復習してください。	4時間
第11回	対面	【地方交付税】国から地方政府への財政移転である地方交付税の制度と機能を学びます。	【予習】地方交付税の仕組みが理解できるように復習してください。さらに、地方交付税が地方財政で果たしている役割を講義をもとに考えてください。	4時間
第12回	対面	【国庫支出金】国から地方自治体への補助金の実態と経済効果を学びます。	【復習】補助金の経済効果は理論的な解説が主となります。グラフを用いた説明が理解できるように復習してください。	4時間
第13回	対面	【地方債と財政健全化指標】地方政府の借り入れである地方債の発行について、その	【復習】地方債発行の意義や機能を復習するとともに、財政健全化指標の意味を理解できるように復習	4時間

		制度と役割，機能を学ぶとともに，財政健全化を巡る制度や指標を学びます。	してください。	
第14回	対面	【地方財政を巡る課題と展望】これまでの授業を踏まえて，改めて初回の授業で取り上げたトピックスを考えます。	【予習】講義資料でこれまでに取り上げたテーマの重要な論点を復習しておくとう理解が深まります。【復習】ここで考えた地方財政の課題が皆さんの住んでいる自治体ではどのように現れているのか考えてみてください。	4時間
第15回	オンデマンド	これまでの講義を振り返り，重要ポイントを復習します。	【予習】これまでの授業でわかりにくかったところをあらかじめピックアップしておきましょう。【復習】定期試験に向けて授業全体の流れを整理しておきましょう。	4時間

科目名	金融論Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	小巻 善郎	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	金融市場と金融商品		
授業の目的及び概要	この金融論Ⅰは、社会に出てから必要となる金融の知識、すなわち金融リテラシーを身につけることを目的としています。 授業では、預金や信託、生命保険、損害保険、公社債、株式、金融派生商品などの代表的な金融商品についての学修が中心となります。 具体的には、まず貨幣の役割や金利・利回り、金融機関の種類といった金融商品の学修に必要な基礎的なことを学びます。その上で、各種の金融商品の具体的な内容とそのリスクを学ぶことに加えて、預金保険制度といった信用秩序維持制度や金融機関への規制のほか、資産選択の理論についても学びます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	以下の3点を学修の到達目標とします。 ・金融市場の仕組みを理解できるようになる。 ・金融機関の種類を理解できるようになる。 ・主な金融商品の内容とそのリスクを理解できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	この金融論Ⅰでは、パワーポイントを使った講義中心の授業を行います。パワーポイント用の資料は、事前に「授業レジュメ」としてラーニングポータルに掲載します。 授業中に毎回課題を出しますので、授業終了時にその課題を提出することが必要です。課題の結果は、授業において口頭でフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当者は、都市銀行に26年間在職し、その間、支店や本部、海外支店において内部事務、営業・渉外、調査といった様々な業務に携わってきた。本科目では、そうした長年にわたる実務経験を通じて得た専門知識や知見などを授業に反映し、理論だけでなく具体的な事例の紹介などを基とした実践的な教育を行う。		
テキスト	テキスト指定はありません。	ISBN	なし
参考書	①金融論（第3版），家森信善，中央経済社，2022 年	ISBN	①9784502415913
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	45	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	55	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	金融論で取り扱う研究テーマは、金融政策に関するもの、金融システムに関するもの、ファイナンスに関するもの、国際金融に関するものなど多岐にわたっています。 この金融論Ⅰでは、そうした金融論への入門として、金融商品を中心に学修しますが、金融政策やファイナンス、金融システム、国際金融に関するものは、秋学期からの金融論Ⅱで取り上		

げますので、この金融論Ⅰの履修生には、秋学期の金融論Ⅱも履修することを期待しています。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 授業の概要や進め方について、ガイダンスを行います。	・第1回授業レジュメと配布資料を復習する。	4時間
第2回	対面	貨幣の役割 貨幣の役割のほか、マネーストックの定義や、電子マネーなどの新しい決済手段、中央銀行デジタルマネーの動向について学びます。	・参考書の第2章「貨幣」を予習する。 ・第2回授業レジュメを復習する。	4時間
第3回	対面	金利と利回り 金利と利回りの意味、その決定要因などについて学びます。	・参考書の第3章「金利」を予習する。 ・第3回授業レジュメを復習する。	4時間
第4回	対面	金融市場の種類 金融市場の種類とその特徴のほか、決済システムの概要などについて学びます。	・参考書の第7章「金融システムと金融仲介機関の役割」を予習する。 ・第4回授業レジュメを復習する。	4時間
第5回	対面	金融機関の種類と役割 金融機関の種類と役割に加えて、間接金融と直接金融の違いなどについて学びます。	・参考書の第8章「銀行以外の金融機関」を予習する。 ・第5回授業レジュメを復習する。	4時間
第6回	対面	金融商品の基礎…預金・信託 預金の種類とその特徴、信託の基本的な機能とおもな信託商品について学びます。	・参考書の第12章「間接金融型の金融商品」を予習する。 ・第6回授業レジュメを復習する。	4時間
第7回	対面	金融商品の基礎…生命保険・損害保険 生命保険の種類とその特徴、損害保険の種類とその特徴について学びます。	・参考書の第13章「間接金融型の金融商品」を予習する。 ・第7回授業レジュメを復習する。	4時間
第8回	対面	金融商品の基礎…公社債 公社債市場の内容と、公社債の種類とその特徴について学びます。	・参考書の第13章「直接金融型の金融商品」を予習する。 ・第8回授業レジュメを復習する。	4時間
第9回	対面	金融商品の基礎…株式 株式市場の内容と、株式の種類とその特徴、株価の決定要因などについて学びます。	・参考書の第13章「直接金融型の金融商品」を予習する。 ・第9回授業レジュメを復習する。	4時間
第10回	対面	金融商品の基礎…投資信託 投資信託の種類とその特徴について学びます。	・参考書の第13章「直接金融型の金融商品」を予習する。 ・第10回授業レジュメを復習する。	4時間
第11回	対面	金融商品の基礎…デリバティブ商品 デリバティブ商品（先物・オプション・スワップ）の内容とその特徴について学びます。	・参考書の第13章「直接金融型の金融商品」を予習する。 ・第11回授業レジュメを復習する。	4時間
第12回	対面	金融機関の破綻への対応策 預金保険制度、分別管理と投資者保護基金、保険契約者保護などについて学びます。	・参考書の第10章「金融機関の破綻への対応策」を予習する。 ・第12回授業レジュメを復習する。	4時間
第13回	対面	金融市場への規制 金融市場への規制の必要性やその内容について学びます。	・参考書の第11章「金融市場に関する規制」を予習する。 ・第13回授業レジュメを復習する。	4時間
第14回	対面	資産選択の理論 資産選択の理論に関する基礎的な内容を学びます。	・参考書の第14章「ファイナンスの基礎理論」を予習する。 ・第14回授業レジュメを復習する。	4時間
第15回	オンデマンド	春学期の総括 春学期の講義内容の総括を行います。	・第15回授業レジュメを復習するとともに、学期末の定期試験に向けて、ポイントを押さえた春学期全体の復習を行う。	4時間

科目名	金融論Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	小巻 善郎	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	金融市場と金融商品		
授業の目的及び概要	この金融論Ⅰ（オンデマンド）は、社会に出てから必要となる金融の知識、すなわち金融リテラシーを身につけることを目的としています。 授業では、預金や信託、生命保険、損害保険、公社債、株式、金融派生商品などの代表的な金融商品についての学修が中心となります。 具体的には、まず貨幣の役割や金利・利回り、金融機関の種類といった金融商品の学修に必要な基礎的なことを学びます。その上で、各種の金融商品の具体的な内容とそのリスクを学ぶことに加えて、預金保険制度といった信用秩序維持制度や金融機関への規制のほか、資産選択の理論についても学びます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	以下の3点を学修の到達目標とします。 ・金融市場の仕組みを理解できるようになる。 ・金融機関の種類を理解できるようになる。 ・主な金融商品の内容とそのリスクを理解できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	ラーニングポータルのアンケート機能を活用して、毎回の授業への質問・意見等に対してフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当者は、都市銀行に26年間に在職し、その間、支店や本部、海外支店において内部事務、営業・渉外、調査といった様々な業務に携わってきた。本科目では、そうした長年にわたる実務経験を通じて得た専門知識や知見などを授業に反映し、理論だけでなく具体的な事例の紹介などを基とした実践的な教育を行う。		
テキスト	テキスト指定はありません。	ISBN	なし
参考書	①金融論（第3版），家森信善，中央経済社，2022 年	ISBN	①9784502415913
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	金融論で取り扱う研究テーマは、金融政策に関するもの、金融システムに関するもの、ファイナンスに関するもの、国際金融に関するものなど多岐にわたっています。 この金融論Ⅰ（オンデマンド）では、そうした金融論への入門として、金融商品を中心に学修しますが、金融政策やファイナンス、金融システム、国際金融に関するものは、秋学期からの金融論Ⅱ（オンデマンド）で取り上げますので、この金融論Ⅰの履修生には、秋学期の金融論Ⅱも履修することを期待しています。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	ガイダンス 授業の概要や進め方について、ガイダンスを行います。	動画教材や授業レジュメを再度閲覧して復習し、知識の定着を図るとともに、ラーニングポータルに掲載している「小テスト」に1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第2回	オンデマンド	貨幣の役割 貨幣の役割のほか、マネーストックの定義や、電子マネーなどの新しい決済手段、中央銀行デジタルマネーの動向について学びます。	動画教材や授業レジュメを再度閲覧して復習し、知識の定着を図るとともに、ラーニングポータルに掲載している「小テスト」に1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第3回	オンデマンド	金利と利回り 金利と利回りの意味、その決定要因などについて学びます。	動画教材や授業レジュメを再度閲覧して復習し、知識の定着を図るとともに、ラーニングポータルに掲載している「小テスト」に1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第4回	オンデマンド	金融市場の種類 金融市場の種類とその特徴のほか、決済システムの概要などについて学びます。	動画教材や授業レジュメを再度閲覧して復習し、知識の定着を図るとともに、ラーニングポータルに掲載している「小テスト」に1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第5回	オンデマンド	金融機関の種類と役割 金融機関の種類と役割に加えて、間接金融と直接金融の違いなどについて学びます。	動画教材や授業レジュメを再度閲覧して復習し、知識の定着を図るとともに、ラーニングポータルに掲載している「小テスト」に1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第6回	オンデマンド	金融商品の基礎…預金・信託 預金の種類とその特徴、信託の基本的な機能とおもな信託商品について学びます。	動画教材や授業レジュメを再度閲覧して復習し、知識の定着を図るとともに、ラーニングポータルに掲載している「小テスト」に1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第7回	オンデマンド	金融商品の基礎…生命保険・損害保険 生命保険の種類とその特徴、損害保険の種類とその特徴について学びます。	動画教材や授業レジュメを再度閲覧して復習し、知識の定着を図るとともに、ラーニングポータルに掲載している「小テスト」に1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第8回	オンデマンド	金融商品の基礎…公社債 公社債市場の内容と、公社債の種類とその特徴について学びます。	動画教材や授業レジュメを再度閲覧して復習し、知識の定着を図るとともに、ラーニングポータルに掲載している「小テスト」に1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第9回	オンデマンド	金融商品の基礎…株式 株式市場の内容と、株式の種類とその特徴、株価の決定要因などについて学びます。	動画教材や授業レジュメを再度閲覧して復習し、知識の定着を図るとともに、ラーニングポータルに掲載している「小テスト」に1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第10回	オンデマンド	金融商品の基礎…投資信託 投資信託の種類とその特徴について学びます。	動画教材や授業レジュメを再度閲覧して復習し、知識の定着を図るとともに、ラーニングポータルに掲載している「小テスト」に1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第11回	オンデマンド	金融商品の基礎…デリバティブ商品 デリバティブ商品（先物・オプション・スワップ）の内容とその特徴について学びます。	動画教材や授業レジュメを再度閲覧して復習し、知識の定着を図るとともに、ラーニングポータルに掲載している「小テスト」に1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第12回	オンデマンド	金融機関の破綻への対応策 預金保険制度、分別管理と投資者保護基金、保険契約者保護などについて学びます。	動画教材や授業レジュメを再度閲覧して復習し、知識の定着を図るとともに、ラーニングポータルに掲載している「小テスト」に1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第13回	オンデマンド	金融市場への規制 金融市場への規制の必要性やその内容について学びます。	動画教材や授業レジュメを再度閲覧して復習し、知識の定着を図るとともに、ラーニングポータルに掲載している「小テスト」に1週間以内に解答して提出すること。	4時間

第14回	オンデマンド	資産選択の理論 資産選択の理論に関する基礎的な内容を学びます。	動画教材や授業レジュメを再度閲覧して復習し、知識の定着を図るとともに、ラーニングポータルに掲載している「小テスト」に1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第15回	オンデマンド	春学期の総括 春学期の講義内容の総括を行います。	動画教材や授業レジュメを再度閲覧して復習し、知識の定着を図るとともに、ラーニングポータルに掲載している「小テスト」に1週間以内に解答して提出すること。	4時間

科目名	金融論Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	小巻 善郎	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	金融のしくみと基礎理論		
授業の目的及び概要	この金融論Ⅱでは、資産運用や為替レートなど社会に出てから必要となる金融の知識を身につけることを目的としています。 そのため、金融論の主要な研究テーマ（金融政策に関するもの、金融システムに関するもの、ファイナンスに関するもの、国際金融に関するもの）のそれぞれの基礎的な内容を学修します。授業ではまず、金融取引の全体像を資金循環の観点から概観し、次いで銀行の貸出行動、家計の資金運用、企業の資金調達といった部門別の金融取引について学びます。続いて、中央銀行の役割と機能、金融政策の手段と波及効果とともに、財政と金融の問題についても学びます。最後に、国際金融分野では国際通貨制度と為替レートの変動要因を学びます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	以下の3点を学修の到達目標とします。 ・家計や企業などの部門別の金融取引を理解できるようになる。 ・中央銀行の役割と機能、金融政策を理解できるようになる。 ・国際通貨制度と為替レートの変動要因を理解できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	この金融論Ⅱでは、パワーポイントを使った講義中心の授業を行います。パワーポイント用の資料は事前に「授業レジュメ」としてラーニングポータルに掲載します。 授業中に毎回課題を出しますので、授業終了時にその課題を提出することが必要です。課題の結果は、授業において口頭でフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当者は、都市銀行に26年間在職し、その間、支店や本部、海外支店において内部事務、営業・渉外、調査といった様々な業務に携わってきた。本科目では、そうした長年にわたる実務経験を通じて得た専門知識や知見などを授業に反映し、理論だけでなく具体的な事例の紹介などを基とした実践的な教育を行う。		
テキスト	テキスト指定はありません。	ISBN	なし
参考書	①誰でもわかる金融論，代田純，学文社，2016 年	ISBN	①9784762026874
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	45	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	55	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	この金融論Ⅱでは、春学期の金融論Ⅰで学修した内容を踏まえたうえで、金融政策に関するもの、金融システムに関するもの、ファイナンスに関するもの、国際金融に関するものなどの基礎的な内容を取り上げますので、金融論Ⅰを履修していることが望ましいと思います。 なお、金融論Ⅰを履修していなくても理解できるように授業は進めていく予定です。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 授業の概要や進め方について、ガイダンスを行います。	・第1回授業レジュメを復習する。	2時間
第2回	対面	景気変動と金利 景気変動による資金の需給バランスと金利との関係について学びます。	・参考書の第5章「金利と利回り」を予習する。 ・第2回授業レジュメを復習する。	4時間
第3回	対面	資金循環と金融 各経済主体（家計・企業・政府等）の金融資産・負債、資金運用・調達額、資金過不足の状況について学びます。	・参考書の第1章「金融と通貨」を予習する。 ・第3回授業レジュメを復習する。	4時間
第4回	対面	決済システム 日銀ネットや全銀システムといった決済システムの仕組みについて学びます。	・参考書の第1章「金融と通貨」を予習する。 ・第4回授業レジュメを予習する。	4時間
第5回	対面	銀行の貸出行動 銀行貸出の種類と特徴、貸出残高の推移、貸出金利の決定要因について学びます。	・参考書の第4章「金融機関」を予習する。 ・第5回授業レジュメを復習する。	4時間
第6回	対面	家計の資産運用 家計の貯蓄率の動向や背景、資産運用の特徴などについて学びます。	・参考書の第2章「家計と金融」を予習する。 ・第6回授業レジュメを復習する。	4時間
第7回	対面	企業の資金調達① 企業の資金過不足の動向、資金需要の種類と特徴について学びます。	・参考書の第3章「企業と金融」を予習する。 ・第7回授業レジュメを復習する。	4時間
第8回	対面	企業の資金調達② 銀行借入や社債といった企業の資金調達の方法と特徴について学びます。	・参考書の第3章「企業と金融」を予習する。 ・第8回授業レジュメを復習する。	4時間
第9回	対面	中央銀行の役割と機能 日本銀行の歴史と、日本銀行の3つの役割と機能について学びます。	・参考書の第6章「中央銀行」を予習する。 ・第9回授業レジュメを復習する。	4時間
第10回	対面	中央銀行の金融政策手段 日本銀行の伝統的な金融政策手段の内容について学びます。	・参考書の第6章「中央銀行」を予習する。 ・第10回授業レジュメを復習する。	4時間
第11回	対面	中央銀行の金融政策の効果 日本銀行の非伝統的金融政策の内容とその効果、現状の日本銀行の金融政策の内容について学びます。	・参考書の第6章「中央銀行」を予習する。 ・第11回授業レジュメを復習する。	4時間
第12回	対面	財政政策と金融政策 財政政策の内容と金融政策との関係について学びます。	・参考書の第8章「財政と金融」を予習する。 ・第12回授業レジュメを復習する。	4時間
第13回	対面	国際通貨制度の変遷 戦後の固定相場制から変動相場制への国際通貨制度の変遷について学びます。	・参考書の第9章「国際金融」を予習する。 ・第13回授業レジュメを復習する。	4時間
第14回	対面	為替レートの変動要因 円ドルレートの推移とその変動要因について学びます。	・参考書の第9章「国際金融」を予習する。 ・第14回授業レジュメを復習する。	4時間
第15回	オンデマンド	秋学期の総括 秋学期の講義内容の総括を行います。	・第15回授業レジュメを復習するとともに、学期末の定期試験に向けて、ポイントを押さえた秋学期全体の復習を行う。	6時間

科目名	金融論Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	小巻 善郎	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	金融のしくみと基礎理論		
授業の目的及び概要	この金融論Ⅱ（オンデマンド）では、資産運用や為替レートなど社会に出てから必要となる金融の知識を身につけることを目的としています。 そのため、金融論の主要な研究テーマ（金融政策に関するもの、金融システムに関するもの、ファイナンスに関するもの、国際金融に関するもの）のそれぞれの基礎的な内容を学修します。授業ではまず、金融取引の全体像を資金循環の観点から概観し、次いで銀行の貸出行動、家計の資金運用、企業の資金調達といった部門別の金融取引について学びます。続いて、中央銀行の役割と機能、金融政策の手段と波及効果とともに、財政と金融の問題についても学びます。最後に、国際金融分野では国際通貨制度と為替レートの変動要因を学びます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	以下の3点を学修の到達目標とします。 ・家計や企業などの部門別の金融取引を理解できるようになる。 ・中央銀行の役割と機能、金融政策を理解できるようになる。 ・国際通貨制度と為替レートの変動要因を理解できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	ラーニングポータルのアンケート機能を活用して、毎回の授業への質問・意見等に対してフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当者は、都市銀行に26年間に在職し、その間、支店や本部、海外支店において内部事務、営業・渉外、調査といった様々な業務に携わってきた。本科目では、そうした長年にわたる実務経験を通じて得た専門知識や知見などを授業に反映し、理論だけでなく具体的な事例の紹介などを基とした実践的な教育を行う。		
テキスト	テキスト指定はありません。	ISBN	なし
参考書	①誰でもわかる金融論，代田純，学文社，2016 年	ISBN	①9784762026874
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	この金融論Ⅱ（オンデマンド）では、春学期の金融論Ⅰ（オンデマンド）で学修した内容を踏まえたうえで、金融政策に関するもの、金融システムに関するもの、ファイナンスに関するもの、国際金融に関するものなどの基礎的な内容を取り上げますので、金融論Ⅰを履修していることが望ましいと思います。 なお、金融論Ⅰを履修していなくても理解できるように授業は進めていく予定です。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	ガイダンス 授業の概要や進め方について、ガイダンスを行います。	動画教材や授業レジュメを再度閲覧して復習し、知識の定着を図るとともに、ラーニングポータルに掲載している「小テスト」に1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第2回	オンデマンド	景気変動と金利 景気変動による資金の需給バランスと金利との関係について学びます。	動画教材や授業レジュメを再度閲覧して復習し、知識の定着を図るとともに、ラーニングポータルに掲載している「小テスト」に1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第3回	オンデマンド	資金循環と金融 各経済主体（家計・企業・政府等）の金融資産・負債、資金運用・調達額、資金過不足の状況について学びます。	動画教材や授業レジュメを再度閲覧して復習し、知識の定着を図るとともに、ラーニングポータルに掲載している「小テスト」に1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第4回	オンデマンド	決済システム 日銀ネットや全銀システムといった決済システムの仕組みについて学びます。	動画教材や授業レジュメを再度閲覧して復習し、知識の定着を図るとともに、ラーニングポータルに掲載している「小テスト」に1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第5回	オンデマンド	銀行の貸出行動 銀行貸出の種類と特徴、貸出残高の推移、貸出金利の決定要因について学びます。	動画教材や授業レジュメを再度閲覧して復習し、知識の定着を図るとともに、ラーニングポータルに掲載している「小テスト」に1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第6回	オンデマンド	家計の資産運用 家計の貯蓄率の動向や背景、資産運用の特徴などについて学びます。	動画教材や授業レジュメを再度閲覧して復習し、知識の定着を図るとともに、ラーニングポータルに掲載している「小テスト」に1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第7回	オンデマンド	企業の資金調達① 企業の資金過不足の動向、資金需要の種類と特徴について学びます。	動画教材や授業レジュメを再度閲覧して復習し、知識の定着を図るとともに、ラーニングポータルに掲載している「小テスト」に1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第8回	オンデマンド	企業の資金調達② 銀行借入や社債といった企業の資金調達の方法と特徴について学びます。	動画教材や授業レジュメを再度閲覧して復習し、知識の定着を図るとともに、ラーニングポータルに掲載している「小テスト」に1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第9回	オンデマンド	中央銀行の役割と機能 日本銀行の歴史と、日本銀行の3つの役割と機能について学びます。	動画教材や授業レジュメを再度閲覧して復習し、知識の定着を図るとともに、ラーニングポータルに掲載している「小テスト」に1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第10回	オンデマンド	中央銀行の金融政策手段 日本銀行の伝統的な金融政策手段の内容について学びます。	動画教材や授業レジュメを再度閲覧して復習し、知識の定着を図るとともに、ラーニングポータルに掲載している「小テスト」に1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第11回	オンデマンド	中央銀行の金融政策の効果 日本銀行の非伝統的金融政策の内容とその効果、現状の日本銀行の金融政策の内容について学びます。	動画教材や授業レジュメを再度閲覧して復習し、知識の定着を図るとともに、ラーニングポータルに掲載している「小テスト」に1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第12回	オンデマンド	財政政策と金融政策 財政政策の内容と金融政策との関係について学びます。	動画教材や授業レジュメを再度閲覧して復習し、知識の定着を図るとともに、ラーニングポータルに掲載している「小テスト」に1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第13回	オンデマンド	国際通貨制度の変遷 戦後の固定相場制から変動相場制への国際通貨制度の変遷について学びます。	動画教材や授業レジュメを再度閲覧して復習し、知識の定着を図るとともに、ラーニングポータルに掲載している「小テスト」に1週間以内に解答して提出すること。	4時間
第14回	オンデマンド	為替レートの変動要因 円ドルレートの推移とその変動要因について学びます。	動画教材や授業レジュメを再度閲覧して復習し、知識の定着を図るとともに、ラーニングポータルに掲載している「小テスト」に1週間以内に解答して提出すること。	4時間

2026/05/01

			すること。	
第15回	オンデマンド	秋学期の総括 秋学期の講義内容の総括を行います。	動画教材や授業レジュメを再度閲覧して復習し、知識の定着を図るとともに、ラーニングポータルに掲載している「小テスト」に1週間以内に解答して提出すること。	4時間

科目名	ファイナンス論	開講年度	2026 年度春学期
担当者	牧田 修治	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	企業財務、証券価格、資本市場に関する経済学的理解		
授業の目的及び概要	本授業では、企業財務、証券価格、資本市場を経済学的に理解することを目的とします。ファイナンス論は、企業金融論（コーポレート・ファイナンス）と証券投資論に大別されることから、授業の前半で企業金融論を学び、後半で証券投資論を学びます。企業金融論では企業価値の最大化について学びます。証券投資論では、株式や債券などの証券価格の評価モデルや資産運用には必須の知識であるポートフォリオ理論を学びます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	学修の到達目標は次の 2 つです。 1. 資本コストを説明し、実際に計算できる。 2. リスク・リターンを説明し、実際に計算できる。 3. 日本経済新聞「投資」欄の記事が理解できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の授業で小テストを行います。授業中に小テストを行い、理解を確実にするために授業内で質問を受け付け、疑問点の解説を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、金融機関のシンクタンクや徳島県庁で、長年にわたり統計データ分析や政策分析の業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	『ファイナンス論・入門』 俊野雅司・白須洋子・時岡規夫著、有斐閣、2020 年	ISBN	9784641165700
参考書	教科書の補足資料を毎回配布します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	40	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	金融の仕組み（教科書 CHAPTER 1）	【予習】教科書 CHAPTER 1 を読んでおいてください。 【復習】小テストを見直してください。	4 時間
第 2 回	対面	財務諸表の活用（教科書 CHAPTER 2）	【予習】教科書 CHAPTER 2 を読んでおいてください。 【復習】小テストを見直してください。	4 時間
第 3 回	対面	ファイナンスの基礎概念（教科書 CHAPTER 3）	【予習】教科書 CHAPTER 3 を読んでおいてください。 【復習】小テストを見直してください。	4 時間

第4回	対面	割引率と現在価値・将来価値（教科書 CHAPTER 4）	【予習】教科書 CHAPTER 4 を読んでおいてください。 【復習】小テストを見直してください。	4 時間
第5回	対面	ファイナンス論の想定する世界（教科書 CHAPTER 5）	【予習】教科書 CHAPTER 5 を読んでおいてください。 【復習】小テストを見直してください。	4 時間
第6回	対面	企業経営とコーポレートファイナンス（教科書 CHAPTER 13）	【予習】教科書 CHAPTER 13 を読んでおいてください。 【復習】小テストを見直してください。	4 時間
第7回	対面	中間テスト	【予習】第1回から第7回の授業の復讐を行ってください。 【復習】中間テストの問題と解答を見直してください。	4 時間
第8回	対面	資本構成（教科書 CHAPTER 15）	【予習】教科書 CHAPTER 15 を読んでおいてください。 【復習】小テストを見直してください。	4 時間
第9回	対面	ペイアウト政策（教科書 CHAPTER 16）	【予習】教科書 CHAPTER 16 を読んでおいてください。 【復習】小テストを見直してください。	4 時間
第10回	対面	証券価格の評価とリスク管理（教科書 CHAPTER 7）	【予習】教科書 CHAPTER 7 を読んでおいてください。 【復習】小テストを見直してください。	4 時間
第11回	対面	株式の理論価格（教科書 CHAPTER 8）	【予習】教科書 CHAPTER 8 を読んでおいてください。 【復習】小テストを見直してください。	4 時間
第12回	対面	債券の理論価格（教科書 CHAPTER 9）	【予習】教科書 CHAPTER 9 を読んでおいてください。 【復習】小テストを見直してください。	4 時間
第13回	対面	ポートフォリオ理論（教科書 CHAPTER 10）	【予習】教科書 CHAPTER 10 を読んでおいてください。 【復習】小テストを見直してください。	4 時間
第14回	対面	資本資産評価モデル（教科書 CHAPTER 11）	【予習】教科書 CHAPTER 11 を読んでおいてください。 【復習】小テストを見直してください。	4 時間
第15回	オンデマンド	まとめ	【予習】第8回から第14回までの授業内容を復習しておいてください。 【復習】授業内容を確認し、重要ポイントを整理してください。	4 時間

科目名	金融特別講義Ⅰ【金融リテラシー入門】		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	小巻 善郎		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義	
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	社会人に求められる金融リテラシーを獲得して経済学の専門学修に活用する。			
授業の目的及び概要	近年は、NISA（ニーサ）や iDeCo（イデコ）に代表されるように、株式市場をはじめ金融市場への個人の関心が急速に高まっています。このような状況の中で、正しい金融知識を身につけること、すなわち「金融リテラシー」を身に付けることは、これからの社会を生き抜くために重要なことであるとともに、経済学における重要な一分野としての金融を理解するための基盤にもなります。 そこで本科目では、S M B C コンシューマーファイナンス株式会社の講師をお招きし、家計管理や生活設計といったことから、金融経済事情の理解や適切な金融商品の利用選択、そして金融トラブルの対処方法といったことに至る金融リテラシーの幅広い内容を学修するとともに、「金融リテラシー検定」の資格取得も目指します。 本科目を通じて学ぶ金融リテラシーは、生涯にわたって有益な知識となるとともに、経済学部で学ぶための基礎知識としても有益なものとなります。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（D P）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	本科目では以下の 3 点を到達目標とします。 ①金融の基礎的な仕組みを理解できる。 ②経済学における金融に係る学問領域を学ぶための基礎知識を身につけている。 ③「金融リテラシー検定」に合格する。			
資格・検定試験への対応	金融リテラシー検定：12 月の試験での合格を目指します。			
フィードバックの方法	授業中で行う			
アクティブ・ラーニングの取り組み				
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当者は、都市銀行に 2 6 年間に在職し、その間、支店や本部、海外支店において内部事務、営業・渉外、調査といった様々な業務に携わってきた。本科目では、そうした長年にわたる実務経験を通じて得た専門知識や知見などを授業に反映し、理論だけでなく具体的な事例の紹介などを基とした実践的な教育を行う。			
テキスト	金融リテラシー検定対応テキスト（PDF 版、無償配布）	ISBN	なし	
参考書	なし	ISBN	なし	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	50		
	その他（％）	30		
	その他の内容	金融リテラシー検定の受検		
この科目の受講にあたって	生きていくうえで必要なおカネの知識・判断力、それが「金融リテラシー」です。本科目では、最低限身につけるべき金融リテラシーを学びます。そして、「金融リテラシー検定」の資格取得を目指します。 受講生の皆さんの積極的な授業への参加・取り組みを期待します。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 本科目の目的・概要、学修の到達目標、成績評価の基準・方法を説明します。 加えて、人生100年時代の金融リテラシーについて学修します。	事前配布資料をよく読んでおいてください。	4時間
第2回	対面	SMBC グループ金融経済教育 講座① 「目標実現と先取貯蓄」をテーマとしてアクティブラーニングで学修します。	事前配布資料をよく読んでおいてください。	4時間
第3回	対面	SMBC グループ金融経済教育 講座② 「投資という選択肢」をテーマとしてアクティブラーニングで学修します。	事前配布資料をよく読んでおいてください。	4時間
第4回	対面	SMBC グループ金融経済教育 講座③ 「稼ぐ方法を考える」をテーマとしてアクティブラーニングで学修します。	事前配布資料をよく読んでおいてください。	4時間
第5回	対面	金融リテラシー検定対策講座① テキストの第1章「ライフプランを描こう」を学修します。	テキスト第1章をよく読んでおいてください。	4時間
第6回	対面	金融リテラシー検定対策講座② テキストの第2章「賢い消費者になろう」を学修します。	テキスト第2章をよく読んでおいてください。	4時間
第7回	対面	金融リテラシー検定対策講座③ テキストの第3章「金融・経済の仕組みを理解しよう」を学修します。	テキスト第3章をよく読んでおいてください。	4時間
第8回	対面	金融リテラシー検定対策講座④ テキストの第4章「金融商品・保険を活用しよう」を学修します。	テキスト第4章をよく読んでおいてください。	4時間
第9回	対面	金融リテラシー検定対策講座⑤ テキストの第5章「支え合う社会の仕組みを知ろう」を学修します。	テキスト第5章をよく読んでおいてください。	4時間
第10回	オンデマンド	金融リテラシー検定対策動画 金融リテラシー検定の対策動画を視聴するとともに、提出課題に取り組みます。	動画教材を見てしっかり理解してください。	4時間
第11回	対面	金融リテラシー検定直前対策演習 金融リテラシー検定について、過去問を中心に解説を行います。	これまでの復習をしてください	4時間
第12回	対面	金融リテラシー検定 金融リテラシー検定を授業内で受検します。	これまでの復習をしてください。	4時間
第13回	対面	SMBC グループ金融経済教育 講座④ 資産形成の基礎知識として、ニュースから始める「連想ゲーム」投資術について学修します。	事前配布資料をよく読んでおいてください。	4時間
第14回	対面	SMBC グループ金融経済教育 講座⑤ 株式の基礎として、株価チャートの見方について学修します。	事前配布資料をよく読んでおいてください。	4時間
第15回	対面	全体のまとめと定期試験対策のポイント 秋学期のまとめと、定期試験の概要・対策について説明します。	これまでの復習をしてください。	4時間

科目名	金融特別講義Ⅰ【地域金融論】	開講年度	2026 年度春学期
担当者	米山 秀隆	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	地域金融論		
授業の目的及び概要	地域の中で人々のお金を預かり、必要とする企業にお金を貸し出す地域金融機関は、地域の経済を回していく上で重要な役割を果たしています。地域金融機関には、地銀、第二地銀、信用金庫、信用組合など様々な形態がありますが、その役割を説明した後、地域金融機関で現在必要とされている機能がどのようなものであるかについて学びます。地域金融機関は、事業性を適正に評価した上で必要な資金を供給するだけではなく、近年は地域において様々な事業をプロデュース、推進していく役割も求められています。さらに、各種のファンドやプロジェクトファイナンスなどの仕組みを使い、幅広く資金を調達するためのコーディネーター役としての機能も重要になっています。身近な金融機関の役割を知ることは、日々の生活や将来の仕事に役立つはずです。また、地域経済に主体的に関わることで地域を変え、生き残りを図ろうとする地域金融機関の姿は、地域活性化を志す人々にとっても参考になります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ 地域金融機関の類型を説明できる。 ・ 地域金融機関が求められている機能、役割について説明できる。 ・ ファンドやプロジェクトファイナンスの仕組みについて説明できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシート、課題の結果については、授業内または Learning Portal でフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは使用しません。	ISBN	なし
参考書	実践から学ぶ地方創生と地域金融，山口省蔵・江口晋太郎，学芸出版社，2020 年	ISBN	9784761527488
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	地域金融機関を就職先として考えている人だけではなく、広く地域に関心を持つ人の受講を勧めます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	授業の目標や到達目標等についてガイダンスを行います。	【予習】Learning Portal に掲載する配布資料を事前に読んでおいて下さい。	4 時間

			【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	
第2回	オンデマンド	地域金融機関の役割と成り立ちについて学びます。	【予習】配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第3回	オンデマンド	地域金融機関の基本業務と経営状況について学びます。	【予習】配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第4回	オンデマンド	地域金融機関の再編問題について学びます。	【予習】配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第5回	オンデマンド	中小企業金融の特性について学びます。	【予習】配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第6回	オンデマンド	新たな審査・融資機能（事業性評価）について学びます。	【予習】配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第7回	オンデマンド	新たな審査・融資機能（コミュニティローン）について学びます。	【予習】配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第8回	オンデマンド	地域金融機関の新たな機能（事業者支援）について学びます。	【予習】配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第9回	オンデマンド	地域金融機関の新たな機能（地域ビジネスプロデュース）について学びます。	【予習】配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第10回	オンデマンド	地域金融機関の新たな機能（地域商社の設立）について学びます。	【予習】配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第11回	オンデマンド	地域金融機関の新たな機能（まちづくりファンド）について学びます。	【予習】配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第12回	オンデマンド	地域金融機関の新たな機能（クラウドファンディング）について学びます。	【予習】配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第13回	オンデマンド	地域金融機関の新たな機能（プロジェクトファイナンス）について学びます。	【予習】配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第14回	オンデマンド	地域金融機関の新たな機能（地域通貨）について学びます。	【予習】配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第15回	オンデマンド	授業全体の振り返りを行います。 併せて、地域金融の今後について展望します。	【予習】配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間

科目名	金融特別講義Ⅱ 【生活経済学】		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	林 紫乃		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	パーソナルファイナンス（個人の人生設計に基づくお金の管理）			
授業の目的及び概要	学生が自らの生活を主体的に設計し、将来の不確実性に備えるための基礎的な経済知識とパーソナルファイナンスの実践力を身につけることを目的とする。 収入・支出・貯蓄・投資・保険・税金・社会保障など、生活に密接に関わるテーマを体系的に学ぶことで、卒業後の人生において合理的かつ自分らしい意思決定ができる力を育成する。 また、キャリア形成やライフイベントを見据えた長期的な視点を養い、経済的な自立とウェルビーイングの向上を目指す。			
履修条件・留意点	自分の生活や将来を題材にワークを行うため、主体的な参加が望まれる。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	1. 自分のライフプランを作成し、キャッシュフロー表に落とし込める 2. 家計管理の基本を理解し、支出の最適化ができる 3. 投資・保険・税金・社会保障の基礎知識を生活に応用できる 4. 将来のリスクに備え、持続可能な生活設計ができる			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	コメントシート及びワークシートについて、個別・全体フィードバックを行う。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	ファイナンシャル・プランニング入門-for Students-〔第7版〕、日本ファイナンシャルプランナーズ協会、2026 年	ISBN	9784911044490	
参考書	①10 代から学ぶパーソナルファイナンス、日本 FP 協会、2025 年（配布予定） ②生活経済学、大藪千穂、放送大学教育振興会、2025 年	ISBN	②9784595325083	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	40		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	お金の知識は、すべての人にとって必要な「生活の基礎体力」です。 本授業では、「自分の人生にどう役立つか」を重視します。 最初は数字や制度が難しく感じるかもしれませんが、ワークを通じて自然に理解できるようになります。 自分のキャリアや将来を考える良い機会になるので、楽しみながら取り組んでください。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	オリエンテーション・生活経済学、パーソナルファイナンスとは何か 授業の目的とパーソナルファイナンスの意義を理解し、学習全体の流れを把握します。	【予習】教科書「序章 ファイナンシャル・プランニングを学ぶ意義」 【復習】第1回授業資料	2時間
第2回	対面	ライフプランニングと人生のお金 人生設計の考え方と将来必要な資金を見える化する方法を学びます。	【予習】教科書「第1編 ファイナンシャル・プランニング概論」 【復習】第2回授業資料	4時間
第3回	対面	家計管理 家計の収支把握と家計管理の基本を理解し、健全な家計運営を考えます。	【予習】参考書『10代から学ぶパーソナルファイナンス』 Lesson 1 【復習】第3回授業資料	4時間
第4回	対面	社会人の収入と社会保障 給与の仕組みと社会保障制度の基礎を理解し、働いている期間の生活を考えます。	【予習】参考書『10代から学ぶパーソナルファイナンス』 Lesson 2 【復習】第4回授業資料	4時間
第5回	対面	子育て世代の教育費 教育費の種類と必要額を知り、準備方法について学びます。	【予習】教科書「第2編 ライフプランニング 第1章ライフプランニングと資金計画」 【復習】第5回授業資料	4時間
第6回	対面	マイホームと住宅ローン 住宅取得・賃貸の特徴と費用構造を理解し、選択の視点を学びます。	【予習】教科書「第2編 ライフプランニング 第1章ライフプランニングと資金計画」 【復習】第6回授業資料	4時間
第7回	対面	リスク管理と保険 生活上のリスクと保険の役割を理解し、必要保障を考えます。	【予習】教科書「第4編 リスクマネジメント」 【復習】第7回授業資料	4時間
第8回	対面	貯蓄と資産形成 貯蓄と投資の基本を学び、長期的な資産形成の考え方を身につけます。	【予習】参考書『10代から学ぶパーソナルファイナンス』 Lesson 3 【復習】第8回授業資料	4時間
第9回	対面	税金 税金の種類と仕組みを理解し、社会とのつながりを考えます。	【予習】教科書「第3編 タックスプランニング」 【復習】第9回授業資料	4時間
第10回	対面	奨学金・借金・クレジット 奨学金の仕組みを理解し、返済の予定を立てます。借入やクレジットの仕組みと注意点を学び、適切な利用を考えます。	【予習】参考書『10代から学ぶパーソナルファイナンス』 Lesson 3 【復習】第10回授業資料	4時間
第11回	対面	老後の生活費と公的年金 老後の生活費と公的年金の基礎を学び、準備の重要性を理解します。	【予習】教科書「第2編 ライフプランニング 第3章公的年金」 【復習】第11回授業資料	4時間
第12回	対面	相続と資産承継 相続の基本概念と手続きの流れを理解し、家族の資産承継を考えます。	【予習】教科書「第7編 相続・事業承継」 【復習】第12回授業資料	4時間
第13回	対面	消費者トラブルと契約 契約の基本と消費者トラブル事例を学び、身を守る力を養います。	【予習】参考書『10代から学ぶパーソナルファイナンス』 Lesson 4 【復習】第13回授業資料	4時間
第14回	対面	キャッシュフロー表の作成 将来設計を基にキャッシュフロー表を作成し、理解を深めます。	【予習】教科書「第8編 キャッシュフロー表の作り方」 【復習】第14回授業資料	4時間
第15回	オンデマンド	秋学期の総括（オンデマンド） 秋学期全体の内容を振り返り、理解度を確認して学びを定着させます。	【復習】第1回から第14回授業資料	6時間

科目名	国際経済学 I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	張 哲	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	国際貿易の基礎理論と貿易政策について学ぶ		
授業の目的及び概要	経済の国際化が進んでいる中で、国境を超える財・サービスの輸出と輸入は活発に発生しています。 この講義では、「比較優位」など国際経済学の基礎理論を踏まえ、国際貿易（輸出・輸入）に焦点を当て、国際経済の動向を分析していきます。 この講義を受講することにより、国際経済学の基礎知識を身に付けることを目的とします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（１）国際経済学の基礎知識を身に付けること。 （２）国際貿易の理論を身に付けること。 （３）関税をはじめとする貿易政策の効果を理解できること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内課題やコメントシートに基づき授業の中で説明します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは使用しない。	ISBN	なし
参考書	①国際経済をつかむ 第 2 版, 石川城太・椋寛・菊池徹, 有斐閣, 2013 年 ②コア・テキスト国際経済学 第 2 版, 大川昌幸, 新世社, 2015 年	ISBN	①9784641177192 ②9784883842322
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	講義資料や参考書などを予習しておくことを期待します。なお、授業の進行状況により内容を変更することがあります。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	イントロダクション、授業の進め方について	【予習】 シラバスや資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】 受講した内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第 2 回	対面	国際貿易の概観	【予習】 資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】 受講した内容を整理し、理解を深めましょ	4 時間

			う。	
第3回	対面	国際収支	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第4回	対面	国際分業	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第5回	対面	リカード・モデル	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第6回	対面	ヘクシャー＝オリーン・モデル	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第7回	対面	規模の経済と産業集積	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第8回	対面	中間試験と解説	【予習】今までの受講内容を復習しましょう。 【復習】中間試験でわからなかった内容を復習し、理解を深めましょう。	4 時間
第9回	対面	生産要素の国際移動	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第10回	対面	関税の費用と便益①	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第11回	対面	関税の費用と便益②	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第12回	対面	発展途上国の貿易政策	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第13回	対面	為替レート	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第14回	対面	為替相場制度	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第15回	オンデマンド	講義の振り返りと定期試験に向けての準備	これまでの講義内容を復習し、試験の準備をしましょう。	4 時間

科目名	国際経済学 I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	朱 浩良	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	国際貿易の基礎理論と貿易政策の効果について学びます。		
授業の目的及び概要	この講義では、「比較優位の原理」などの国際経済学の基本的な考え方を学ぶことから出発して、「財・サービスの取引（貿易）」に焦点を当てて、世界経済の基本的な成り立ちを平易に解説し、世界経済の現状を分析していきます。まず、貿易が行われる理論的背景を理解し、国際貿易がもたらす経済的な恩恵を理論モデルで示し、経済のグローバル化のもとで、現在の世界情勢について触れていきます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	(1) 国際経済学と世界経済のしくみに関する基本知識を身につけます。 (2) 国際経済情報を自ら分析する能力の基礎を身につけます。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	テストの内容や解答方法については、授業の中で解説します。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは使用しない。毎回の講義資料をラーニングポータル上に掲載するので、各自で取得しておくこと。	ISBN	なし
参考書	①国際経済をつかむ 第 2 版, 石川城太・椋寛・菊池徹, 有斐閣, 2013 年 ②入門 国際経済学〈第 2 版〉, 大川良文, 中央経済社, 2024 年	ISBN	①9784641177192 ②9784502494819
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	この授業では経済学の基礎知識が必要となります。授業では必要に応じてそれらの基礎知識について解説を加えます。 なお、授業の進行状況によっては内容を変更することがあります。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	オンデマンド	ガイダンス及び世界と日本の貿易の現状	授業内容の復習	4 時間
第 2 回	オンデマンド	部分均衡分析を用いた輸入需要と輸出供給の考え方	授業内容の復習	4 時間

第3回	オンデマンド	余剰分析を用いた貿易利益の考え方	授業内容の復習	4 時間
第4回	オンデマンド	絶対優位と比較優位の考え方	授業内容の復習	4 時間
第5回	オンデマンド	リカード・モデル（1）	授業内容の復習	4 時間
第6回	オンデマンド	リカード・モデル（2）	授業内容の復習	4 時間
第7回	オンデマンド	生産要素と国際貿易（1）	授業内容の復習	4 時間
第8回	オンデマンド	生産要素と国際貿易（2）	授業内容の復習	4 時間
第9回	オンデマンド	規模の経済	授業内容の復習	4 時間
第10回	オンデマンド	産業内貿易	授業内容の復習	4 時間
第11回	オンデマンド	フラグメンテーション/ グローバル・バリューチェーン	授業内容の復習	4 時間
第12回	オンデマンド	関税政策の基礎分析（1）	授業内容の復習	4 時間
第13回	オンデマンド	関税政策の基礎分析（2）	授業内容の復習	4 時間
第14回	オンデマンド	地域貿易協定	授業内容の復習	4 時間
第15回	オンデマンド	まとめと期末評価の準備	授業内容の復習	4 時間

科目名	国際経済学 I		開講年度	2026 年度春学期
担当者	畑佐 伸英		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	国際貿易の基礎理論と貿易政策の効果、並びに外国為替制度について学ぶ			
授業の目的及び概要	経済の国際化が進んでいる中で、モノが国境を越えて移動する貿易については、各国の利害関係が複雑に絡み合っており、難しい問題を惹起させている。さらに、グローバルマネーの動きによって、経済が大きな影響を受ける事態も、頻繁に発生している。 本講義では、貿易をすることでどのようなメリット・デメリットがあるのかを、基礎的な理論をもとに、わかりやすく解説していく。さらに、様々な貿易政策とその効果についても、経済学的な分析を用いながら説明する。また、為替制度とその決定要因についても学習していくことで、今後の為替の動向やそれが貿易や経済に与える影響についても理解を深めていく。 本講義で学んだことは、現実の国際社会で起こっている貿易摩擦の本質を理解するうえで有益であるとともに、国家間の対立に起因した様々な貿易政策の経済的な効果を予測することにも資する。さらに、為替と貿易・経済の相互関係を理解することで、現在と未来の国際経済の動向を読み解いていく力にもなる。 本科目は、国際経済の中核的な分野である、貿易と為替の基礎的な知識と理論を学んでいくことから、国際経済コースを選択する学生にとっては、最初に受講すべき重要な基本科目となる。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	（１）なぜ貿易が行われるのかについて、基本的な理論を用いて説明できる。 （２）様々な貿易政策の効果について、経済学的な視点から分析できる。 （３）為替の動向とその経済への影響について理解できる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	テストの内容や解答方法については、授業の中で解説する。			
アクティブ・ラーニングの取り組み				
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	特定のテキストは使用しない。毎回の講義資料をラーニングポータル上に掲載するので、各自で取得しておくこと。	ISBN	なし	
参考書	①国際経済をつかむ 第 2 版, 石川城太・椋寛・菊池徹, 有斐閣, 2013 年 ②コア・テキスト国際経済学 第 2 版, 大川昌幸, 新世社, 2015 年	ISBN	①9784641177192 ②9784883842322	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	15		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	35		
	【定期試験】レポート試験	50		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	講義資料や参考書などを熟読して予習をするとともに、授業中には必ずノートを取ることが重要である。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	ガイダンス及び国際収支 講義の進め方や評価の方法を説明し、本講義で取り扱う国際経済の基本統計でもある国際収支について概説する。	講義資料や参考書①の「序章 国際経済学とは」を熟読して予習を行うとともに、授業後は、ノートに書き取った内容を何度も読み返して、理解度を深めておくこと。また、練習問題については各自で取り組み、見直しも行っておくこと。	4 時間
第2回	オンデマンド	国際貿易の概況を日本の貿易統計を示しながら学んでいく。	講義資料や参考書①の「第3章 unit 5 産業間貿易と産業内貿易」と「第9章 unit 17 サービス貿易の定義と現状」を熟読して予習を行うとともに、授業後は、ノートに書き取った内容を何度も読み返して、理解度を深めておくこと。また、練習問題については各自で取り組み、見直しも行っておくこと。	4 時間
第3回	オンデマンド	自由貿易と GATT/WT0 体制について概説する。	講義資料や参考書①の「第8章 国際貿易のルールと貿易交渉—GATT と WT0」を熟読して予習を行うとともに、授業後は、ノートに書き取った内容を何度も読み返して、理解度を深めておくこと。また、練習問題については各自で取り組み、見直しも行っておくこと。	4 時間
第4回	オンデマンド	様々な貿易を制限する政策について学習する。	講義資料や参考書①の「第8章 unit 15 GATT と WT0 の歴史と現状」を熟読して予習を行うとともに、授業後は、ノートに書き取った内容を何度も読み返して、理解度を深めておくこと。また、練習問題については各自で取り組み、見直しも行っておくこと。	4 時間
第5回	オンデマンド	サービス貿易と貿易理論の概念について学ぶ。	講義資料や参考書①の「第1章 unit 1 比較優位と分業の利益」と「第9章 unit 17 サービス貿易の定義と現状」を熟読して予習を行うとともに、授業後は、ノートに書き取った内容を何度も読み返して、理解度を深めておくこと。また、練習問題については各自で取り組み、見直しも行っておくこと。	4 時間
第6回	オンデマンド	リカードの比較生産費理論について理解する。	講義資料や参考書①の「第1章 比較優位」を熟読して予習を行うとともに、授業後は、ノートに書き取った内容を何度も読み返して、理解度を深めておくこと。また、練習問題については各自で取り組み、見直しも行っておくこと。	4 時間
第7回	オンデマンド	比較優位を決定する要因は何かについて考察する。	講義資料や参考書①の「第2章 unit 4 比較優位の決定要因」を熟読して予習を行うとともに、授業後は、ノートに書き取った内容を何度も読み返して、理解度を深めておくこと。また、練習問題については各自で取り組み、見直しも行っておくこと。	4 時間
第8回	オンデマンド	貿易の利益と輸入関税の効果を部分均衡分析を用いて説明する。	講義資料や参考書①の「第2章 unit 3 貿易利益」と「第4章 unit 7 関税・輸入割当の効果」を熟読して予習を行うとともに、授業後は、ノートに書き取った内容を何度も読み返して、理解度を深めておくこと。また、練習問題については各自で取り組み、見直しも行っておくこと。	4 時間
第9回	オンデマンド	生産補助金の効果と輸入関税の効果を比較し、検討する。	講義資料や参考書①の「第4章 unit 7 関税・輸入割当の効果」を熟読して予習を行うとともに、授業後は、ノートに書き取った内容を何度も読み返して、理解度を深めておくこと。また、練習問題については各自で取り組み、見直しも行っておくこと。	4 時間
第10回	オンデマンド	保護貿易を擁護する主張について学ぶ。	講義資料や参考書①の「第4章 unit 8 保護貿易を擁護する主張」、「第5章 貿易政策 応用 I」、「第7章 貿易政策の政治経済学」を熟読して予習を行うとともに、授業後は、ノートに書き取った内容を何度も読み返して、理解度を深めておくこと。また、練習	4 時間

			問題については各自で取り組み、見直しも行うこと。	
第11回	オンデマンド	FTAの現状と制度について解説する。	講義資料や参考書①の「第10章 unit 19 地域貿易協定の現状と制度」を熟読して予習を行うとともに、授業後は、ノートに書き取った内容を何度も読み返して、理解度を深めておくこと。また、練習問題については各自で取り組み、見直しも行うこと。	4時間
第12回	オンデマンド	FTAの経済的効果について学ぶ。	講義資料や参考書①の「第10章 unit 20 地域貿易協定の経済学」を熟読して予習を行うとともに、授業後は、ノートに書き取った内容を何度も読み返して、理解度を深めておくこと。また、練習問題については各自で取り組み、見直しも行うこと。	4時間
第13回	オンデマンド	外国為替とその変動要因について概説する。	講義資料や参考書②の「第12章 外国為替市場と外国為替レート」と「第13章 外国為替相場の決定理論」を熟読して予習を行うとともに、授業後は、ノートに書き取った内容を何度も読み返して、理解度を深めておくこと。また、練習問題については各自で取り組み、見直しも行うこと。	4時間
第14回	オンデマンド	円高・円安による効果と国際通貨制度について学んでいく。	講義資料や参考書②の「第12章 外国為替市場と外国為替レート」を熟読して予習を行うとともに、授業後は、ノートに書き取った内容を何度も読み返して、理解度を深めておくこと。また、練習問題については各自で取り組み、見直しも行うこと。	4時間
第15回	オンデマンド	定期試験に向けて	定期試験に関する案内に沿って、各自で試験に向けた課題に取り組んでください。これまでの学習を通して学んだこと、分かったこと、発見したこと、難しかったこと、興味や関心を抱いたこと、などについて振り返りを行ってください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくといいでしょう。	4時間

科目名	国際経済学Ⅱ（経済学部）／世界経済論（経営学部）	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	張 哲	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	世界経済のあり方と課題		
授業の目的及び概要	経済の国際化が進んでいる中で、各国・地域間の連携が深まります。 この講義では、国際経済学の基礎理論を踏まえ、グローバル経済システムの内容と現状、各国・地域の経済の歴史と現状について説明します。 この講義を受講することにより、国際経済学の基礎知識を身に付けることと主要国の経済発展を理解できることを目的とします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（１）世界経済の基礎理論を理解できること。 （２）主要国の経済発展を理解できること。 （３）世界経済に影響を及ぼす重要な出来事を説明できること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内課題やコメントシートに基づき授業の中で説明します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは使用しない。	ISBN	なし
参考書	授業中に随時紹介します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	講義資料や参考書などを予習しておくことを期待します。なお、授業の進行状況により内容を変更することがあります。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション、授業の進め方について	【予習】 シラバスや資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】 受講した内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第2回	対面	第2次世界大戦後の世界経済	【予習】 資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】 受講した内容を整理し、理解を深めましょ	4 時間

			う。	
第3回	対面	国際貿易と国際通貨の基礎理論	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第4回	対面	国際通貨システム	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第5回	対面	国際貿易システム	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第6回	対面	途上国における開発戦略	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第7回	対面	対外投資	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第8回	対面	中間試験と解説	【予習】今までの受講内容を復習しましょう。 【復習】中間試験でわからなかった内容を復習し、理解を深めましょう。	4 時間
第9回	対面	戦後アメリカ経済	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第10回	対面	EU 経済	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第11回	対面	中国経済	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第12回	対面	アジア NIES と ASEAN	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第13回	対面	新興国・途上国経済	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第14回	対面	現代日本経済	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第15回	オンデマンド	講義の振り返りと定期試験に向けての準備	これまでの講義内容を復習し、試験の準備をしましょう。	4 時間

科目名	国際金融論	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	嶋田 裕光	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	国際的な金融取引や為替レートの動きの要因と影響について考察する		
授業の目的及び概要	経済がグローバル化する中で、国際的な取引は貿易にとどまらず外国の債券や株の売買など多岐にわたる金融取引が拡大しています。こうした国際間の資金移動を引き起こす要因やそうした取引に介在する為替レートの果たす役割とその決定要因、また為替レート変動の影響、為替相場制度の変遷とその中での変動相場制や共通通貨制度の功罪についても学修します。本講義を通じて、日常のニュースなどで取り上げられる為替レートの変動や国際的な経済関係、国際金融の動きと財政金融政策との関係に対する認識を深めることを目的とします。		
履修条件・留意点	経済理論に基づく分析を含むため、ミクロ経済学やマクロ経済学の授業を履修していることが望ましい。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①国際収支や国際間の資金移動の動向について正確に理解できる。 ②為替レートの水準を決める要素や変動要因、その変動による経済への影響について理論的に説明できる。 ③「日米の金融政策の変更が円安あるいは円高につながっている」、「最近、実質的には半世紀前と同じ円安水準となっている」といった国際金融関連の日々のニュースの内容を、講義での学修内容と対応させて理解することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回、講義の内容に関する課題をラーニングポータル上で掲載しますので、それを解答してもらい、正答率に応じて次回講義で復習します。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1986 年に経済企画庁（現内閣府）に入庁し、国家公務員として 30 年以上のキャリアを積んでいる。また、経済白書や経済計画、GDP 統計、社会福祉政策にも携わった実務経験から、マクロ経済学、財政学、GDP 統計、少子化問題を専門領域としている。本科目では、これらの経験を生かし、経済データを正しく評価する目を養い、社会で役立てるための基本的な理論から実務的なプロセスまで含めた幅広い授業を行う。		
テキスト	特定のテキストは指定しません。毎回の講義資料をラーニングポータル上に掲載するので、各自事前に閲覧予習しておくこと。	ISBN	なし
参考書	国際収支の定義が大幅に変更されているため、古い参考書、問題集は使えません。できるだけ最近のものを参照してください。 ①国際金融論をつかむ、橋本 優子・小川 英治・熊本 方雄、有斐閣、2019 年 ②国際金融論 15 講、佐野綾野、中田勇人、新世社、2021 年	ISBN	①9784641177284 ②9784883843237
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	

	その他 (%)	0
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	この授業ではミクロ経済学、マクロ経済学双方の基礎知識を応用する内容を含みます。該当するところではわからなかった場合は、ミクロ、マクロ経済学の基礎に立ち返って復習しましょう。なお、授業では必要に応じてそれらの基礎知識について解説を加えます。また、授業の進行状況によっては内容を変更することがあります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンスとして授業内容の全体の流れや進め方、学修成果の評価方法について説明します。	国際金融の講義を通じて学習する内容を確認し、外国為替（円レート）などに関するニュースについて日頃から注意してみる習慣をつけましょう。 なお、事前にラーニングポータルに掲載する資料を予習として目を通しておくようにしてください。	2 時間
第2回	対面	国際金融取引と貿易の関係を概観するために、国際収支表を用いて、国際収支（経常取引と金融取引）の基本的な見方と最近の動向について解説します。	（予習）事前にラーニングポータルに掲載する資料を予習として目を通しておくようにしてください。 （復習）講義後、理解の定着を図るためにラーニングポータル上で授業内容に関連する問題（小テスト形式）で掲載しますので、復習を兼ねて必ず解答してください。正答率に応じて次回講義内で解説します。	4 時間
第3回	対面	外国為替の基礎として、為替市場のしくみと様々な為替関係指標の見方について解説します。	（予習）事前にラーニングポータルに掲載する資料を予習として目を通しておくようにしてください。 （復習）講義後、理解の定着を図るためにラーニングポータル上で授業内容に関連する問題（小テスト形式）で掲載しますので、復習を兼ねて必ず解答してください。正答率に応じて次回講義内で解説します。	4 時間
第4回	対面	為替レートの実力を測る指標となる実質為替レート、実質実効為替レートの計算方法について解説します。これを元に近年の日本円の真の価値の動きを評価します。	（予習）事前にラーニングポータルに掲載する資料を予習として目を通しておくようにしてください。 （復習）講義後、理解の定着を図るためにラーニングポータル上で授業内容に関連する問題（小テスト形式）で掲載しますので、復習を兼ねて必ず解答してください。正答率に応じて次回講義内で解説します。	4 時間
第5回	対面	為替レートの決定理論の一つとなる、相手国との物価の相対的な動きに基づく購買力平価説について解説します。	（予習）事前にラーニングポータルに掲載する資料を予習として目を通しておくようにしてください。 （復習）講義後、理解の定着を図るためにラーニングポータル上で授業内容に関連する問題（小テスト形式）で掲載しますので、復習を兼ねて必ず解答してください。正答率に応じて次回講義内で解説します。	4 時間
第6回	対面	為替レートの決定理論の一つである、相手国との金利差が影響するとする金利平価説①（将来リスクに対するカバーなし）について解説します。	（予習）事前にラーニングポータルに掲載する資料を予習として目を通しておくようにしてください。 （復習）講義後、理解の定着を図るためにラーニングポータル上で授業内容に関連する問題（小テスト形式）で掲載しますので、復習を兼ねて必ず解答してください。正答率に応じて次回講義内で解説します。	4 時間
第7回	対面	為替レートの決定理論の一つである、相手国との金利差が影響する金利平価説②（将来リスクに対するカバー付き）について解説します。この関連で、実際の先物レート決定方法についても触れます。	（予習）事前にラーニングポータルに掲載する資料を予習として目を通しておくようにしてください。 （復習）講義後、理解の定着を図るためにラーニングポータル上で授業内容に関連する問題（小テスト形式）で掲載しますので、復習を兼ねて必ず解答してください。正答率に応じて次回講義内で解説します。	4 時間
第8回	対面	第7回授業までで学修した国際収支表、為替指標、為替決定理論に関して中間テストを実施します。	中間テストに備えて7回目までに学修した内容の総復習をしてください。	4 時間
第9回	対面	為替変動の背景にある理論的な説明としてまずフローアプローチ（国際収支変動による説明）を取り上げたのち、アセットア	（予習）事前にラーニングポータルに掲載する資料を予習として目を通しておくようにしてください。 （復習）講義後、理解の定着を図るためにラーニング	4 時間

		プーロチ（資産保有変動による説明）のうちアセツモデル（貨幣供給と金利変化に注目したモデル）について説明します。	ポータル上で授業内容に関連する問題（小テスト形式）で掲載しますので、復習を兼ねて必ず解答してください。正答率に応じて次回講義内で解説します。	
第10回	対面	為替変動の背景にある理論的な説明としてアセツ・アプローチ（貨幣市場の需給変化による説明）のうちマネタリーモデル（貨幣供給量と価格変化に注目したモデル）を取り上げます。	（予習）事前にラーニングポータルに掲載する資料を予習として目を通しておくようにしてください。 （復習）講義後、理解の定着を図るためにラーニングポータル上で授業内容に関連する問題（小テスト形式）で掲載しますので、復習を兼ねて必ず解答してください。正答率に応じて次回講義内で解説します。	4 時間
第11回	対面	為替変動の背景にある理論的な説明としてのアセツ・アプローチのうちポートフォリオ・バランスモデル（貨幣と国内債券、外国債券の保有比率の変化に注目したモデル）を取り上げます。また、残された時間で、マクロ経済学Ⅲでも学修しているオープンマクロ経済学の枠組みについて復習します。	（予習）事前にラーニングポータルに掲載する資料を予習として目を通しておくようにしてください。 （復習）講義後、理解の定着を図るためにラーニングポータル上で授業内容に関連する問題（小テスト形式）で掲載しますので、復習を兼ねて必ず解答してください。正答率に応じて次回講義内で解説します。	4 時間
第12回	対面	オープンマクロ経済学（マクロ経済学Ⅲで学修）における国際収支均衡線（BP 曲線）について復習したのち、マンデルフレミングモデルの枠組みを用いて、為替制度と資本移動と財政政策/金融政策の有効性の関係について学修します。	（予習）事前にラーニングポータルに掲載する資料を予習として目を通しておくようにしてください。 （復習）講義後、理解の定着を図るためにラーニングポータル上で授業内容に関連する問題（小テスト形式）で掲載しますので、復習を兼ねて必ず解答してください。正答率に応じて次回講義内で解説します。	4 時間
第13回	対面	為替相場制が戦前の金本位制からブレトンウッズ体制、現在の変動相場制に移り変わる背景について学修します。また、為替の安定と金融政策の独立、自由な資本移動の間に存在する国際金融のトリレンマの問題についても解説します。	（予習）事前にラーニングポータルに掲載する資料を予習として目を通しておくようにしてください。 （復習）講義後、理解の定着を図るためにラーニングポータル上で授業内容に関連する問題（小テスト形式）で掲載しますので、復習を兼ねて必ず解答してください。正答率に応じて次回講義内で解説します。	4 時間
第14回	対面	近年の為替相場制度が抱える国際金融上の問題が顕在化した例として、①1990年代のアジア通貨危機に見られたドルペッグ制の限界、②2010年初頭に発生した欧州債務危機に見られた共通通貨制（ユーロ）の課題について解説します。最後に、期末テストに関する注意事項について触れます。	（予習）事前にラーニングポータルに掲載する資料を予習として目を通しておくようにしてください。 （復習）講義後、理解の定着を図るためにラーニングポータル上で授業内容に関連する問題（小テスト形式）で掲載しますので、復習を兼ねて必ず解答してください。正答率に応じて次回講義内で解説します。	4 時間
第15回	オンデマンド	定期試験に備え授業全体の総復習（オンデマンド形式）をします。	定期試験に備え、第2回授業（特に中間テスト後の第9回以降）から14回授業までの授業内容の総復習をしてください。	6 時間

科目名	開発経済論	開講年度	2026 年度春学期
担当者	張 哲	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	経済発展メカニズムや経済開発における諸問題を、経済学的な視点から勉強する。		
授業の目的及び概要	この授業では、経済発展メカニズムや経済開発における諸問題を、経済学的な視点から勉強します。 貧困のメカニズムや人口問題、経済発展と分配の不平等化、貿易や産業政策の役割、政府の役割などの、開発経済学の入門的な知識を身に着けることを目的とします。 なお、講義内容は授業の進捗状況や受講者の関心に沿って変更することがあります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	(1) 開発における課題や開発のメカニズムに関する理解を深める。 (2) データやグラフから現状を読み解くことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回授業終わりに理解度チェック課題を実施します。その解説は次回の講義の最初に行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	開発経済学入門（第 3 版），渡辺利夫，東洋経済新報社，2010 年	ISBN	9784492443644
参考書	授業中に随時紹介します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	講義資料や参考書などを予習しておくことを期待します。なお、授業の進行状況により内容を変更することがあります。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	オンデマンド	イントロダクション、授業の進め方について	【予習】テキスト 1～14 ページを事前に読んでください。 【復習】理解度チェック課題に取り組みましょう。	4 時間
第 2 回	オンデマンド	貧困のメカニズムについて知る	【予習】テキストの 15～25 ページ事前に読んでください。 【復習】理解度チェック課題に取り組みましょう。	4 時間
第 3 回	オンデマンド	人口転換と出生の経済学について学ぶ	【予習】テキストの 27～44 ページを事前に読んでください。 【復習】理解度チェック課題に取り組みましょう。	4 時間

第4回	オンデマンド	少子高齢化について学ぶ	【予習】テキストの45～66ページを事前に読んでおいてください。 【復習】理解度チェック課題に取り組みましょう。	4時間
第5回	オンデマンド	農業の技術進歩が引き起こされる要因について学ぶ	【予習】テキストの67～86ページを事前に読んでおいてください。 【復習】理解度チェック課題に取り組みましょう。	4時間
第6回	オンデマンド	工業発展①農工2部門モデルについて学ぶ	【予習】テキストの87～111ページを事前に読んでおいてください。 【復習】理解度チェック課題に取り組みましょう。	4時間
第7回	オンデマンド	工業発展②工業化政策について学ぶ	【予習】テキストの113～132ページを事前に読んでおいてください。 【復習】理解度チェック課題に取り組みましょう。	4時間
第8回	オンデマンド	中間レポートと解説	【予習】今までの受講内容を復習しましょう。 【復習】復習を通して、理解を深めましょう。	4時間
第9回	オンデマンド	貿易と海外直接投資について学ぶ	【予習】テキストの133～154ページを事前に読んでおいてください。 【復習】理解度チェック課題に取り組みましょう。	4時間
第10回	オンデマンド	市場経済への転換について学ぶ	【予習】テキストの155～183ページを事前に読んでおいてください。 【復習】理解度チェック課題に取り組みましょう。	4時間
第11回	オンデマンド	政府開発援助について学ぶ	【予習】テキストの185～202ページを事前に読んでおいてください。 【復習】理解度チェック課題に取り組みましょう。	4時間
第12回	オンデマンド	経済危機について知る	【予習】テキストの203～230ページを事前に読んでおいてください。 【復習】理解度チェック課題に取り組みましょう。	4時間
第13回	オンデマンド	経済統合について考える	【予習】テキストの231～249ページを事前に読んでおいてください。 【復習】理解度チェック課題に取り組みましょう。	4時間
第14回	オンデマンド	持続可能な開発について考える	【予習】持続可能な開発について調べてみましょう。 【復習】理解度チェック課題に取り組みましょう。	4時間
第15回	オンデマンド	講義の振り返りと定期試験に向けての準備	これまでの講義内容を復習し、試験の準備をしましょう。	4時間

科目名	アジア経済概論	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	張 哲	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	アジア経済発展のメカニズムを解明するとともに、現在生じつつある新たな課題についても理解する。		
授業の目的及び概要	この授業の目的は、アジア経済発展のメカニズムや現在生じている新たな課題に対する知見を深めることです。授業では、東アジアおよび東南アジアの経済に焦点を当て、特に 21 世紀のアジア経済に注目し、各国のアジア経済における位置づけを勉強します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	(1) アジア経済発展の特徴およびその背景に関する知識を深める。 (2) データや図表等からアジアの経済の現状や将来を読み解くことができるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎講授業終了後にコメントシートを回収します。 コメントシートは翌週の授業で紹介し、質問への回答や補足説明をします。		
アクティブ・ラーニング の取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	現代アジア経済論―「アジアの世紀」を学ぶ、遠藤環・伊藤亜聖・大泉啓一郎・後藤健太（編），有斐閣ブックス，2018 年	ISBN	9784641184428
参考書	授業中に随時紹介します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	講義資料や参考書などを予習しておくことを期待します。なお、授業の進行状況により内容を変更することがあります。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	イントロダクション、授業の進め方について テキスト序章 「アジアの世紀」のアジア経済論	【予習】 シラバスや資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】 受講した内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第 2 回	対面	テキスト第 1 章 変貌するアジア―アジア経済はどう論じられてきたか	【予習】 資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】 受講した内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第 3 回	対面	テキスト第 2 章 アジア化するアジア―域内貿易と経済統合の進展	【予習】 資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】 受講した内容を整理し、理解を深めましょ	4 時間

			う。	
第4回	対面	テキスト第3章 中国が変えるアジアー ー改革開放と経済大国・中国の登場	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょ う。	4 時間
第5回	対面	テキスト第4章 生産するアジアーグ ローバルな分業ネットワークと地場企業 の発展	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょ う。	4 時間
第6回	対面	テキスト第5章 資本がめぐるアジアー ー成長と資本フロー	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょ う。	4 時間
第7回	対面	テキスト第6章 移動するアジアー相 互依存関係の深まりと加速するヒトの流れ	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょ う。	4 時間
第8回	対面	中間試験と解説	【予習】今までの受講内容を復習しましょう。 【復習】中間試験でわからなかった内容を復習し、理 解を深めましょう。	4 時間
第9回	対面	テキスト第7章 革新するアジアー中 所得国化と成長パターンの転換	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょ う。	4 時間
第10回	対面	テキスト第8章 都市化するアジアー メガリージョン化する都市	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょ う。	4 時間
第11回	対面	テキスト第9章 インフォーマル化する アジアーアジア経済のもう1つのダイ ナミズム	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょ う。	4 時間
第12回	対面	テキスト第10章 老いていくアジアー 人口ボーナスから人口オーナスへ	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょ う。	4 時間
第13回	対面	テキスト第11章 不平等化するアジアー ー貧困から格差へ	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょ う。	4 時間
第14回	対面	テキスト第12章 環境問題に向き合うア ジアー後発性と多様性のなかで 第13章 分かちあうアジアー 開発協力と相互依存	【予習】資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょ う。	4 時間
第15回	オンデ マンド	第1回～第14回授業の講義内容を振り返 るとともに、期末試験に向けての対策につ いて、オンデマンド授業を実施します。	これまでの講義内容を復習し、試験の準備をしまし ょう。	4 時間

科目名	アジア経済概論	開講年度	2026 年度春学期
担当者	久米 高史	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	躍進するアジア経済発展のメカニズムを解明するとともに、現在生じつつある新たな課題についても理解する。		
授業の目的及び概要	本授業の目的は、アジア経済発展のメカニズムについての理解を深め、現在生じている新たな課題についても知見を深めることにある。授業では、特に東アジア、東南アジア、南アジアの経済に焦点を当てる。本授業では、以下の2つのアプローチを通してアジア経済への理解を深めていく。第1のアプローチは、1950 年代から 60 年代にかけての輸入代替工業化に始まり 1970 年代から 90 年代までの輸出指向型工業化の成功に見られるキャッチアップ型工業化の時代、そして 2000 年代以降から現在に至るポスト・キャッチアップの時代におけるアジア経済の大きな変化と課題を考察することである。第2のアプローチは、アジア諸国における様々な経済活動が国境を越えてグローバルに行われていることを踏まえ、アジアという地域レベルの統合や、アジアが世界的なサプライチェーンの一環に組み込まれていることを理解することである。		
履修条件・留意点	・ 特にありませんが、1950 年代以降のアジア経済の発展を振り返るとともに、現在の世界経済に占めるアジア経済の重要性について理解を深めたい学生諸君の履修を期待しています。 ・ テキストの内容すべてを扱うわけではありませんが、アジア経済の現状についての基本的な理解が得られるように章を選んで講義を行います。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	日本との相互依存関係がますます強くなりつつあるアジア経済の現状を理解し、今後のアジアの経済発展について、自らの言葉で語り、また分析できるようになること、そして、本授業で学修したことが将来の職業選択や就職活動に資するようになることを目標としています。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・ 毎講授業終了後に Learning Portal より小テストを実施し、理解度をチェックします。 ・ 小テストの講評は翌週の授業で行い、質問への回答や補足説明をします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	アジア経済論，小林尚朗・山本博史・矢野秀一，春日尚雄 編著，文真堂，2022 年	ISBN	9784830951749
参考書	特にありませんが、必要があれば、適宜授業の中で指示します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）	0	
	その他の内容	なし	
この科目の受講にあたって	・ 各講で学習するテキストの内容を事前に読んでおくことは必須です。 ・ 疑問点を明確にして授業に臨んでください。 ・ 本授業を通して、アジア経済と日本経済との結びつきの強さとともに、グローバル・エコノミーの中でのアジア経済の重要性についての理解を深めてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	・授業の全体像や成績評価の基準などについて。 ・テキスト 第1章 アジア経済の発展と新たなフロンティア（その1）	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおき、疑問点を明確にして授業に臨むこと。 【復習】テキスト及び講義のレジュメを復習して、ラーニングポータルから小テストに解答すること。	4時間
第2回	対面	テキスト 第1章 アジア経済の発展と新たなフロンティア（その2）	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおき、疑問点を明確にして授業に臨むこと。 【復習】テキスト及び講義のレジュメを復習して、ラーニングポータルから小テストに解答すること。	4時間
第3回	対面	テキスト 第2章 アジアの経済統合の現状と課題（その1）	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおき、疑問点を明確にして授業に臨むこと。 【復習】テキスト及び講義のレジュメを復習して、ラーニングポータルから小テストに解答すること。	4時間
第4回	対面	テキスト 第2章 アジアの経済統合の現状と課題（その2）	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおき、疑問点を明確にして授業に臨むこと。 【復習】テキスト及び講義のレジュメを復習して、ラーニングポータルから小テストに解答すること。	4時間
第5回	対面	テキスト 第3章 中国の経済発展と今後の制約要因（その1）	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおき、疑問点を明確にして授業に臨むこと。 【復習】テキスト及び講義のレジュメを復習して、ラーニングポータルから小テストに解答すること。	4時間
第6回	対面	テキスト 第3章 中国の経済発展と今後の制約要因（その2）	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおき、疑問点を明確にして授業に臨むこと。 【復習】テキスト及び講義のレジュメを復習して、ラーニングポータルから小テストに解答すること。	4時間
第7回	対面	テキスト 第4章 対外経済政策としての一帯一路構想テキスト（その1）	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおき、疑問点を明確にして授業に臨むこと。 【復習】テキスト及び講義のレジュメを復習して、ラーニングポータルから小テストに解答すること。	4時間
第8回	対面	テキスト 第4章 対外経済政策としての一帯一路構想テキスト（その2）	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおき、疑問点を明確にして授業に臨むこと。 【復習】テキスト及び講義のレジュメを復習して、ラーニングポータルから小テストに解答すること。	4時間
第9回	対面	テキスト 第5章 シンガポールにおける経済発展－国家主導型開発モデルテキスト（その1）	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおき、疑問点を明確にして授業に臨むこと。 【復習】テキスト及び講義のレジュメを復習して、ラーニングポータルから小テストに解答すること。	4時間
第10回	対面	テキスト 第5章 シンガポールにおける経済発展－国家主導型開発モデルテキスト（その2）	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおき、疑問点を明確にして授業に臨むこと。 【復習】テキスト及び講義のレジュメを復習して、ラーニングポータルから小テストに解答すること。	4時間
第11回	対面	テキスト 第6章 変容する現代インド経済－再生可能エネルギー、デジタル分野を中心に（その1）	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおき、疑問点を明確にして授業に臨むこと。 【復習】テキスト及び講義のレジュメを復習して、ラーニングポータルから小テストに解答すること。	4時間
第12回	対面	テキスト 第6章 変容する現代インド経済－再生可能エネルギー、デジタル分野を中心に（その2）	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおき、疑問点を明確にして授業に臨むこと。 【復習】テキスト及び講義のレジュメを復習して、ラーニングポータルから小テストに解答すること。	4時間
第13回	対面	テキスト 第15章 アジアのエネルギー市場と気候変動（その1）	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおき、疑問点を明確にして授業に臨むこと。 【復習】テキスト及び講義のレジュメを復習して、ラーニングポータルから小テストに解答すること。	4時間
第14回	対面	テキスト 第15章 アジアのエネルギー市場と気候変動（その2）	【予習】テキストの該当箇所を事前に読んでおき、疑問点を明確にして授業に臨むこと。	4時間

			【復習】テキスト及び講義のレジメを復習して、ラーニングポータルから小テストに解答すること。	
第15回	オンデマンド	第1回～第14回授業の講義内容を振り返るとともに、期末試験に向けての対策について、オンデマンド授業で解説講義を実施する。	【復習】動画視聴で再確認した重要事項を中心に、期末試験に向けての準備を万端にしておいてください。	4時間

科目名	中国経済論	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	木下 英雄	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	戦後日中経済関係、米中経済関係の歴史		
授業の目的及び概要	この授業は、改革開放後、特に経済大国化した後の中国経済の現状と課題について理解することを目指す。具体的には、国交回復前の日中貿易の発展とその限界、国交回復後の日中貿易、ODA、日系企業進出等による日本の貢献等について解説する。また今年度は、昨年度に引き続き、米中経済関係の歴史と一帯一路、台湾有事とそれに対応する半導体供給網強化政策の問題点などについてもみていくこととする。また、現代における中国の著しい経済発展の要因について理解するとともに、それによって生じる格差、貧困、環境汚染等の問題に焦点をあて、これらの諸問題の解決方法についても考察する。		
履修条件・留意点	毎回のラーニングポータルの小テストは、毎回配布するまとめプリントからだします。そして、期末試験も、6 割以上は、まとめプリントから同じ様に穴埋め式で出す予定であります。近年の部分は、情勢の変化により、重要と考えられる部分は変化しますので、内容は少し流動的になります。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	2010 年代後半には、第一次トランプ政権の時代に成り対中敵対政策が行われる中で、日中関係は、逆に改善傾向が一時的にみられたものの、米国バイデン政権の対中強硬政策の同盟国を巻き込む形の遂行が行われる中、敵基地攻撃能力保有で、日中国交回復の 50 周年を祝うべき年であった 2022 年は、再び日中関係が険悪化、2025 年、第二次トランプ政権は、同盟国に対しても中国に対してと同様に高関税を課すとともに、同盟諸国の税収を上回る規模の対米投資を行わせて、その使い道は米国が自由に決め、利益の 90%を米国が受け取るという、同盟諸国にとって極めて屈辱的な「罰金」を科している。逆に中国に対してはレアアースと報復関税に屈して大きく税率を引き下げ、表面的には中国との敵対姿勢を示さなくなり、米国は正面衝突を回避するかのようです。しかし、同盟諸国にはこれまでにないペースでの軍拡を要求しています。日本とは本来は無関係なはずの中台危機のためにわざわざ日本が南西諸島を中心に敵基地攻撃可能なミサイルを配備する動きは変わっていません。そこに 2025 年 11 月 7 日の高市首相の台湾有事を想定した安保法制に基づく存立危機事態発言が行われ、日中関係はこれまでにない険悪化を経験しています。良好な日中関係を今後築いていくために何が必要かを一緒に考えていきましょう。 一、国交のなかった 50 年代、60 年代、 二、国交回復後の良好な関係が築かれていた蜜月期を含む 70 年代から 90 年代前半、 三、悪化した関係の続く 90 年代後半以降 の 3 つの時期に区分して、それぞれの時期の経済交流の特徴を理解する。社会におけるいろいろな状況に置かれた人たちのそれぞれの立場から考えて、どのような経済政策、貿易・投資政策、日中交流の在り方、それぞれの人の社会に向き合う態度が望ましいか、それぞれの人の利益に合うかを考えることが出来るようになることが重要です。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回授業の最後に質問時間を設けていますが、時間なかったり、質問しにくかったりする場合もあるかと思しますので、毎回の受講票に質問内容を書いておいてください。学会発表前や新しいプリントの作成の時には出来ないことも出て来るかとは思いますが、出来る限り次の授業で回答するようにしたいと思います。もし、答えて欲しい質問に回答がなかったり、回答が早く欲しい場合は、目立つように赤色など色のついたペンでもう一度書いておいてください。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは使用しません。	ISBN	テキストは使用しません。

参考書	①日中関係史, 国分良成・渋谷芳秀・高原明生・川島真, 有斐閣アルマ, 2013 年 ②日中関係, 毛里和子, 岩波新書, 2006 年 ③『日中関係史Ⅱ 1972-2012 経済』, 服部健治・丸川知雄, 東京大学出版会	ISBN	①9784641220065 ②9784004310211 ③9784130230629
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	10	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	日本人学生の皆さんには歴史認識問題に強くなり、日中関係の改善に貢献できる人になってもらえればと思います。中国人の皆さんには日本国内の現実をよく見て歴史認識問題が根強く残る要因と友好を育む大多数の日本人との付き合い方を考えてもらえればと思います。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	戦後日中関係を概観するビデオを見てもらいます。	ビデオの内容を中心とした、戦後日中関係を整理したプリントを配布しますので、それを見ておいてください。 大きな(前学期からの)更新を行う場合以外は、配布プリントをラーニングポータルにも、1週間前くらいにアップロードすることにしますので、一度目通しして予習してから授業に臨みましょう。じゅぎょうが終わったら、ラーニングポータルの穴埋めテストで復習しましょう。 4時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	4時間
第2回	対面	日華平和条約とココムの制約下で始まった日中民間貿易(50年代)。50年代に国交のない状態で始められた民間の日中貿易はどのような環境にあったか。その貿易の特徴はどのようなものだったか。貿易協定で日本と中国、それぞれの基本的姿勢はどのようなものであったか。58年にいったん全面ストップした原因は？	50年代の日中関係に関するまとめプリントを配布しますので、授業で用いるレジュメとともに目を通しておいてください。また、余裕ある人は、参考書の該当箇所を見ておいてください。参考書①p39-73 ②p1-14, p21-32, p36-42 ③p5-9 大きな(前学期からの)更新を行う場合以外は、配布プリントをラーニングポータルにも、1週間前くらいにアップロードすることにしますので、一度目通しして予習してから授業に臨みましょう。じゅぎょうが終わったら、ラーニングポータルの穴埋めテストで復習しましょう。 4時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	4時間
第3回	対面	2つのチャンネルで行われた日中貿易(60年代)。60年代の2つの貿易チャンネルとは？経済政策重視の池田内閣の下で中国側の念願の工業プラント輸入を実現するためにとられた貿易の方式とは？これは通産省の役人の支持を取り付けて行われた半官半民の貿易とされるが、それに対し政府はどのような態度を取り、これを阻止するために台湾はどのような行動に出たか？	60年代の日中関係に関するまとめプリントを配布しますので、授業で用いるレジュメとともに目を通しておいてください。また、余裕ある人は、参考書の該当箇所を見ておいてください。参考書①p75-104 ②p14-20, p33-35, p43-48 ③p9-13 大きな(前学期からの)更新を行う場合以外は、配布プリントをラーニングポータルにも、1週間前くらいにアップロードすることにしますので、一度目通しして予習してから授業に臨みましょう。じゅぎょうが終わったら、ラーニングポータルの穴埋めテストで復習しましょう。	4時間

			4時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	
第4回	対面	米中接近と日中国交正常化。米中それぞれのどのような事情が米中接近へと向かわせたか。60年代後半に工業プラント貿易を可能にした貿易方式が、台湾の行動で失速していたが、70年の「周恩来四条件」はどのような効果をもたらしていたか。米中接近後、一気に日中国交正常化に突き進んだ要因は?	参考書の該当箇所を見ておいてください。参考書①p105-128②p49-94③55-57 大きな(前学期からの)更新を行う場合以外は、配布プリントをラーニングポータルにも、1週間前くらいにアップロードすることにしますので、一度目通しして予習してから授業に臨みましょう。じゅぎょうが終わったら、ラーニングポータルの穴埋めテストで復習しましょう。 4時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	4時間
第5回	対面	対ソ戦略提携と中国近代化路線の下で発展した日中貿易(70年代)。70年代の日中貿易の発展は、日中双方のどのような経済状況に基づくものか。1974年日中貿易協定で、対ソ戦略提携のもと米国が行った貿易規制緩和をまねたと考えられるその中身とは?1978年長期貿易協定により、ようやく日本政府も正式に承認して始められた工業プラント輸入にいったんストップがかかった要因は?またそれに対して日本側はどのような手を差しのべたか。	70年代日中関係について説明したまとめプリントを配布しますので、授業で用いるレジュメとともに目を通しておいてください。また、余裕ある人は、参考書の該当箇所を見ておいてください。参考書①p129-137, p142-145 ②p96-104③p58-63, p73-80, p123-130 さらに出来れば p81-95 大きな(前学期からの)更新を行う場合以外は、配布プリントをラーニングポータルにも、1週間前くらいにアップロードすることにしますので、一度目通しして予習してから授業に臨みましょう。じゅぎょうが終わったら、ラーニングポータルの穴埋めテストで復習しましょう。 4時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	4時間
第6回	対面	改革開放政策と ODA 援助(80年代)。日本が ODA 援助を行い、中国がそれを受けることになったそれぞれの事情はどういうものか。米国からの対中 ODA 援助が少なく日本がダントツだった原因は?ODA 援助実施に当たっては日本の省庁間で諸外国の懸念もあり対立があった。その対立はどのようなもので、どのような調整が図られたか。ODA 援助に対して中国人の評価は?80年代の対中直接投資に多かった委託加工とは?	80年代の日中関係に関するまとめプリントを配布しますので、授業で用いるレジュメとともに目を通しておいてください。また、余裕ある人は、参考書の該当箇所を見ておいてください。参考書①p145-167②p44-45, p104-128③p105-121, p131-137 さらに出来れば p139-163 大きな(前学期からの)更新を行う場合以外は、配布プリントをラーニングポータルにも、1週間前くらいにアップロードすることにしますので、一度目通しして予習してから授業に臨みましょう。じゅぎょうが終わったら、ラーニングポータルの穴埋めテストで復習しましょう。 4時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	4時間
第7回	対面	天安門事件の背後の2つの経済路線勢力と日本。歴史的に重要な第11期3中全会ののち改革開放が直ちには始まらず、海外からの工業プラント輸入キャンセル問題を惹き起こす原因を作った勢力とは?それに対し、鄧小平はどのように行動し、日本はそれをどのように支えたか。天安門事件において学生、民衆は何に抗議していたか、それに対し武力鎮圧を行った異なる2つの方向の勢力とは?それに対して日本はどのような態度で臨んだか?	2つの経済路線勢力と日本の中国関与政策に関するまとめプリントを配布しますので、授業で用いるレジュメとともに目を通しておいてください。また、余裕ある人は、参考書の該当箇所を見ておいてください。参考書①p160-167 大きな(前学期からの)更新を行う場合以外は、配布プリントをラーニングポータルにも、1週間前くらいにアップロードすることにしますので、一度目通しして予習してから授業に臨みましょう。じゅぎょうが終わったら、ラーニングポータルの穴埋めテストで復習しましょう。 4時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	4時間
第8回	対面	南巡講話と外資企業、日系外資企業(90年代)。世界的対中投資ブームが起こった要因は?90年代に現地法人を設立した外資企業は何を目的として進出してきた企業が	90年代の日中関係に関するまとめプリントを配布しますので、授業で用いるレジュメとともに目を通しておいてください。また、余裕ある人は、参考書の該当箇所を見ておいてください。参考書①p172-181③p	4時間

		多いか。WTO 加盟を果たすためにどのような規制緩和が行われたか。2000 年前後から外資企業の進出目的が増えてきたのはどのような目的か?90 年代後半以降、ODA の重点は環境協力に移行する。日本の環境協力について見ておく。	22-31, p46-47, p167-181, さらに出来れば p175-181, p219-243 大きな(前学期からの)更新を行う場合以外は、配布プリントをラーニングポータルにも、1 週間前くらいにアップロードすることにしますので、一度目通しして予習してから授業に臨みましょう。じゅぎょうが終わったら、ラーニングポータルの穴埋めテストで復習しましょう。 4 時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	
第9回	対面	台湾海峡危機、安保再定義、中国の高度経済成長と日中関係の悪化。95 年くらいまでは日中関係は蜜月関係と言われるほど良好であったが、95 年前後以降、一気に悪化した。その要因は何だったか。	参考書の該当箇所を見ておいてください。参考書①p181-201②p130-184 大きな(前学期からの)更新を行う場合以外は、配布プリントをラーニングポータルにも、1 週間前くらいにアップロードすることにしますので、一度目通しして予習してから授業に臨みましょう。じゅぎょうが終わったら、ラーニングポータルの穴埋めテストで復習しましょう。 4 時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	4 時間
第10回	対面	中国の海洋経済発展戦略。中国の海洋発展戦略とその土台となっている海洋経済発展戦略とはどんなものか。領有権問題における帰属についてどのように考えるべきか。中国、日本はそれぞれどのような根拠に基づいて自国領有権を主張しているか。	海洋経済発展戦略に関するまとめプリントを配布しますので、授業で用いるレジュメとともに目を通しておいてください。また、余裕ある人は参考書の該当箇所を見ておいてください。①p232-247 大きな(前学期からの)更新を行う場合以外は、配布プリントをラーニングポータルにも、1 週間前くらいにアップロードすることにしますので、一度目通しして予習してから授業に臨みましょう。じゅぎょうが終わったら、ラーニングポータルの穴埋めテストで復習しましょう。 4 時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	4 時間
第11回	対面	米国の対中関与政策。米国は中国に対し、50 年代のココムをはじめとして、経済関係の規制を行ってきた。中国から GATT、WTO 加盟申請に対して、米国はどのように対応してきたか。中国が GATT、WTO 加盟を申請するに至るまでおよび申請後、交渉し、実際に加盟を果たす中でどのような変化を遂げてきたか。	米国の対中関与政策に関するまとめプリントを配布しますので、授業で用いるレジュメとともに目を通しておいてください。参考書の該当箇所なし。 大きな(前学期からの)更新を行う場合以外は、配布プリントをラーニングポータルにも、1 週間前くらいにアップロードすることにしますので、一度目通しして予習してから授業に臨みましょう。じゅぎょうが終わったら、ラーニングポータルの穴埋めテストで復習しましょう。 4 時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	4 時間
第12回	対面	新たな外資導入政策と中国進出日本企業の特徴(2000 年代以降)。2000 年代の政冷経熱、2012 年以降の政冷経冷の意味は? 外資企業の沿海部に集中している状況に対し、中国政府はどのような政策を打ち出したか。中国に進出した外資企業の中で、日本企業はどのような特徴を持っているか。	2000 年代の日中関係に関するまとめプリントを配布しますので、授業で用いるレジュメとともに目を通しておいてください。参考書①p203-231 ②p185-223 ③p247-256 p333-342 さらに出来れば p307-330。 大きな(前学期からの)更新を行う場合以外は、配布プリントをラーニングポータルにも、1 週間前くらいにアップロードすることにしますので、一度目通しして予習してから授業に臨みましょう。じゅぎょうが終わったら、ラーニングポータルの穴埋めテストで復習しましょう。 4 時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	4 時間
第13回	対面	中国「一帯一路」政策。中国は、米国の制止を振り切って参加してきた英独仏伊含	中国「一帯一路」政策に関するまとめプリントを配布しますので、授業で用いるレジュメとともに目を通	4 時間

		む 70 か国もの参加国を集めて AIIB(アジアインフラ投資銀行)を創設し、中国から欧州までを「シルクロード経済帯」(「一帯」)と「21 世紀海上シルクロード」(「一路」)で結ぶために交通インフラを建設しそれを金融面から支えようとしている。具体的進行状況とともにその目的について見ておきます。	しておいてください。参考書の該当箇所なし。 大きな(前学期からの)更新を行う場合以外は、配布プリントをラーニングポータルにも、1 週間前くらいにアップロードすることにしますので、一度目通しして予習してから授業に臨みましょう。じゅぎょが終わったら、ラーニングポータルの穴埋めテストで復習しましょう。 4 時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	
第 14 回	対面	米中関係の戦後史を見ることにします。新中国建国間もないころのココム、チンコム対中包囲網、米中接近後のチャイナカード時代、対中関与政策の時代と「新冷戦」に入る前の米中関係の歴史を見ていきます。	米中関係の歴史に関するまとめプリントを配布しますので、授業プリントとともに目を通しておいてください。参考書の該当箇所なし。 大きな(前学期からの)更新を行う場合以外は、配布プリントをラーニングポータルにも、1 週間前くらいにアップロードすることにしますので、一度目通しして予習してから授業に臨みましょう。じゅぎょが終わったら、ラーニングポータルの穴埋めテストで復習しましょう。 4 時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	4 時間
第 15 回	オンデマンド	対中関与政策との決別と対中制裁の行方。米国トランプ政権は、TPP を離脱し、保護貿易政策を打ち出し、世界各国に自国第一主義の貿易政策、投資政策などを押し付けました。中国との間には米中貿易戦争など対中制裁が行われました。バイデン政権も、自国第一主義の政策は廃止したものの対中強硬路線は続いています。対中制裁の背景、具体的様相と日本への影響を見るとともに、今後あるべき世界経済秩序について考えることとします。	対中関与政策との決別と対中制裁に関するまとめプリントを配布しますので、授業で用いるレジュメとともに目を通しておいてください。参考書の該当箇所なし。 大きな(前学期からの)更新を行う場合以外は、配布プリントをラーニングポータルにも、1 週間前くらいにアップロードすることにしますので、一度目通しして予習してから授業に臨みましょう。じゅぎょが終わったら、ラーニングポータルの穴埋めテストで復習しましょう。 4 時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	4 時間

科目名	中国経済論	開講年度	2026 年度春学期
担当者	木下 英雄	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	戦後日中経済関係、米中経済関係の歴史		
授業の目的及び概要	この授業は、改革開放後、特に経済大国化した後の中国経済の現状と課題について理解することを目指す。具体的には、国交回復前の日中貿易の発展とその限界、国交回復後の日中貿易、ODA、日系企業進出等による日本の貢献等について解説する。また今年度は、昨年度に引き続き、米中経済関係の歴史と一帯一路、台湾有事とそれに対応する半導体供給網強化政策の問題点などについてもみていくこととする。また、現代における中国の著しい経済発展の要因について理解するとともに、それによって生じる格差、貧困、環境汚染等の問題に焦点をあて、これらの諸問題の解決方法についても考察する。		
履修条件・留意点	毎回のラーニングポータルの小テストは、毎回配布するまとめプリントからだします。そして、期末試験も、6 割以上は、まとめプリントから同じ様に穴埋め式で出す予定であります。近年の部分は、情勢の変化により、重要と考えられる部分は変化しますので、内容は少し流動的になります。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	2010 年代後半には、第一次トランプ政権の時代に成り対中敵対政策が行われる中で、日中関係は、逆に改善傾向が一時的にみられたものの、米国バイデン政権の対中強硬政策の同盟国を巻き込む形の遂行が行われる中、敵基地攻撃能力保有で、日中国交回復の 50 周年を祝うべき年であった 2022 年は、再び日中関係が険悪化、2025 年、第二次トランプ政権は、同盟国に対しても中国に対してと同様に高関税を課すとともに、同盟諸国の税収を上回る規模の対米投資を行わせて、その使い道は米国が自由に決め、利益の 90%を米国が受け取るという、同盟諸国にとって極めて屈辱的な「罰金」を科している。逆に中国に対してはレアアースと報復関税に屈して大きく税率を引き下げ、表面的には中国との敵対姿勢を示さなくなり、米国は正面衝突を回避するかのようです。しかし、同盟諸国にはこれまでにないペースでの軍拡を要求しています。日本とは本来は無関係なはずの中台危機のためにわざわざ日本が南西諸島を中心に敵基地攻撃可能なミサイルを配備する動きは変わっていません。そこに 2025 年 11 月 7 日の高市首相の台湾有事を想定した安保法制に基づく存立危機事態発言が行われ、日中関係はこれまでにない険悪化を経験しています。良好な日中関係を今後築いていくために何が必要かを一緒に考えていきましょう。 一、国交のなかった 50 年代、60 年代、 二、国交回復後の良好な関係が築かれていた蜜月期を含む 70 年代から 90 年代前半、 三、悪化した関係の続く 90 年代後半以降 の 3 つの時期に区分して、それぞれの時期の経済交流の特徴を理解する。社会におけるいろいろな状況に置かれた人たちのそれぞれの立場から考えて、どのような経済政策、貿易・投資政策、日中交流の在り方、それぞれの人の社会に向き合う態度が望ましいか、それぞれの人の利益に合うかを考えることが出来るようになることが重要です。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回授業の最後に質問時間を設けていますが、時間なかったり、質問しにくかったりする場合もあるかと思うので、毎回の受講票に質問内容を書いておいてください。学会発表前や新しいプリントの作成の時には出来ないことも出て来るかとは思いますが、出来る限り次の授業で回答するようにしたいと思います。もし、答えて欲しい質問に回答がなかったり、回答が早く欲しい場合は、目立つように赤色など色のついたペンでもう一度書いておいてください。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは使用しません。	ISBN	テキストは使用しません。

参考書	①日中関係史, 国分良成・渋谷芳秀・高原明生・川島真, 有斐閣アルマ, 2013 年 ②日中関係, 毛里和子, 岩波新書, 2006 年 ③『日中関係史Ⅱ 1972-2012 経済』, 服部健治・丸川知雄, 東京大学出版会	ISBN	①9784641220065 ②9784004310211 ③9784130230629
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	10	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	日本人学生の皆さんには歴史認識問題に強くなり、日中関係の改善に貢献できる人になってもらえればと思います。中国人の皆さんには日本国内の現実をよく見て歴史認識問題が根強く残る要因と友好を育む大多数の日本人との付き合い方を考えてもらえればと思います。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	戦後日中関係を概観するビデオを見てもらいます。	ビデオの内容を中心とした、戦後日中関係を整理したプリントを配布しますので、それを見ておいてください。 大きな(前学期からの)更新を行う場合以外は、配布プリントをラーニングポータルにも、1週間前くらいにアップロードすることにしますので、一度目通しして予習してから授業に臨みましょう。じゅぎょうが終わったら、ラーニングポータルの穴埋めテストで復習しましょう。 4時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	4時間
第2回	対面	日華平和条約とココムの制約下で始まった日中民間貿易(50年代)。50年代に国交のない状態で始められた民間の日中貿易はどのような環境にあったか。その貿易の特徴はどのようなものだったか。貿易協定で日本と中国、それぞれの基本的姿勢はどのようなものであったか。58年にいったん全面ストップした原因は？	50年代の日中関係に関するまとめプリントを配布しますので、授業で用いるレジュメとともに目を通しておいてください。また、余裕ある人は、参考書の該当箇所を見ておいてください。参考書①p39-73 ②p1-14, p21-32, p36-42 ③p5-9 大きな(前学期からの)更新を行う場合以外は、配布プリントをラーニングポータルにも、1週間前くらいにアップロードすることにしますので、一度目通しして予習してから授業に臨みましょう。じゅぎょうが終わったら、ラーニングポータルの穴埋めテストで復習しましょう。 4時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	4時間
第3回	対面	2つのチャンネルで行われた日中貿易(60年代)。60年代の2つの貿易チャンネルとは？経済政策重視の池田内閣の下で中国側の念願の工業プラント輸入を実現するためにとられた貿易の方式とは？これは通産省の役人の支持を取り付けて行われた半官半民の貿易とされるが、それに対し政府はどのような態度を取り、これを阻止するために台湾はどのような行動に出たか？	60年代の日中関係に関するまとめプリントを配布しますので、授業で用いるレジュメとともに目を通しておいてください。また、余裕ある人は、参考書の該当箇所を見ておいてください。参考書①p75-104 ②p14-20, p33-35, p43-48 ③p9-13 大きな(前学期からの)更新を行う場合以外は、配布プリントをラーニングポータルにも、1週間前くらいにアップロードすることにしますので、一度目通しして予習してから授業に臨みましょう。じゅぎょうが終わったら、ラーニングポータルの穴埋めテストで復習しましょう。	4時間

			4時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	
第4回	対面	米中接近と日中国交正常化。米中それぞれのどのような事情が米中接近へと向かわせたか。60年代後半に工業プラント貿易を可能にした貿易方式が、台湾の行動で失速していたが、70年の「周恩来四条件」はどのような効果をもたらしていたか。米中接近後、一気に日中国交正常化に突き進んだ要因は?	参考書の該当箇所を見ておいてください。参考書①p105-128②p49-94③55-57 大きな(前学期からの)更新を行う場合以外は、配布プリントをラーニングポータルにも、1週間前くらいにアップロードすることにしますので、一度目通しして予習してから授業に臨みましょう。じゅぎょうが終わったら、ラーニングポータルの穴埋めテストで復習しましょう。 4時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	4時間
第5回	対面	対ソ戦略提携と中国近代化路線の下で発展した日中貿易(70年代)。70年代の日中貿易の発展は、日中双方のどのような経済状況に基づくものか。1974年日中貿易協定で、対ソ戦略提携のもと米国が行った貿易規制緩和をまねたと考えられるその中身とは?1978年長期貿易協定により、ようやく日本政府も正式に承認して始められた工業プラント輸入にいったんストップがかかった要因は?またそれに対して日本側はどのような手を差しのべたか。	70年代日中関係について説明したまとめプリントを配布しますので、授業で用いるレジュメとともに目を通しておいてください。また、余裕ある人は、参考書の該当箇所を見ておいてください。参考書①p129-137, p142-145 ②p96-104③p58-63, p73-80, p123-130 さらに出来れば p81-95 大きな(前学期からの)更新を行う場合以外は、配布プリントをラーニングポータルにも、1週間前くらいにアップロードすることにしますので、一度目通しして予習してから授業に臨みましょう。じゅぎょうが終わったら、ラーニングポータルの穴埋めテストで復習しましょう。 4時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	4時間
第6回	対面	改革開放政策と ODA 援助(80年代)。日本が ODA 援助を行い、中国がそれを受けることになったそれぞれの事情はどういうものか。米国からの対中 ODA 援助が少なく日本がダントツだった原因は?ODA 援助実施に当たっては日本の省庁間で諸外国の懸念もあり対立があった。その対立はどのようなもので、どのような調整が図られたか。ODA 援助に対して中国人の評価は?80年代の対中直接投資に多かった委託加工とは?	80年代の日中関係に関するまとめプリントを配布しますので、授業で用いるレジュメとともに目を通しておいてください。また、余裕ある人は、参考書の該当箇所を見ておいてください。参考書①p145-167②p44-45, p104-128③p105-121, p131-137 さらに出来れば p139-163 大きな(前学期からの)更新を行う場合以外は、配布プリントをラーニングポータルにも、1週間前くらいにアップロードすることにしますので、一度目通しして予習してから授業に臨みましょう。じゅぎょうが終わったら、ラーニングポータルの穴埋めテストで復習しましょう。 4時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	4時間
第7回	対面	天安門事件の背後の2つの経済路線勢力と日本。歴史的に重要な第11期3中全会ののち改革開放が直ちには始まらず、海外からの工業プラント輸入キャンセル問題を惹き起こす原因を作った勢力とは?それに対し、鄧小平はどのように行動し、日本はそれをどのように支えたか。天安門事件において学生、民衆は何に抗議していたか、それに対し武力鎮圧を行った異なる2つの方向の勢力とは?それに対して日本はどのような態度で臨んだか?	2つの経済路線勢力と日本の中国関与政策に関するまとめプリントを配布しますので、授業で用いるレジュメとともに目を通しておいてください。また、余裕ある人は、参考書の該当箇所を見ておいてください。参考書①p160-167 大きな(前学期からの)更新を行う場合以外は、配布プリントをラーニングポータルにも、1週間前くらいにアップロードすることにしますので、一度目通しして予習してから授業に臨みましょう。じゅぎょうが終わったら、ラーニングポータルの穴埋めテストで復習しましょう。 4時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	4時間
第8回	対面	南巡講話と外資企業、日系外資企業(90年代)。世界的対中投資ブームが起こった要因は?90年代に現地法人を設立した外資企業は何を目的として進出してきた企業が	90年代の日中関係に関するまとめプリントを配布しますので、授業で用いるレジュメとともに目を通しておいてください。また、余裕ある人は、参考書の該当箇所を見ておいてください。参考書①p172-181③p	4時間

		多いか。WTO 加盟を果たすためにどのような規制緩和が行われたか。2000 年前後から外資企業の進出目的が増えてきたのはどのような目的か?90 年代後半以降、ODA の重点は環境協力に移行する。日本の環境協力について見ておく。	22-31, p46-47, p167-181, さらに出来れば p175-181, p219-243 大きな(前学期からの)更新を行う場合以外は、配布プリントをラーニングポータルにも、1 週間前くらいにアップロードすることにしますので、一度目通しして予習してから授業に臨みましょう。じゅぎょうが終わったら、ラーニングポータルの穴埋めテストで復習しましょう。 4 時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	
第9回	対面	台湾海峡危機、安保再定義、中国の高度経済成長と日中関係の悪化。95 年くらいまでは日中関係は蜜月関係と言われるほど良好であったが、95 年前後以降、一気に悪化した。その要因は何だったか。	参考書の該当箇所を見ておいてください。参考書①p181-201②p130-184 大きな(前学期からの)更新を行う場合以外は、配布プリントをラーニングポータルにも、1 週間前くらいにアップロードすることにしますので、一度目通しして予習してから授業に臨みましょう。じゅぎょうが終わったら、ラーニングポータルの穴埋めテストで復習しましょう。 4 時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	4 時間
第10回	対面	中国の海洋経済発展戦略。中国の海洋発展戦略とその土台となっている海洋経済発展戦略とはどんなものか。領有権問題における帰属についてどのように考えるべきか。中国、日本はそれぞれどのような根拠に基づいて自国領有権を主張しているか。	海洋経済発展戦略に関するまとめプリントを配布しますので、授業で用いるレジュメとともに目を通しておいてください。また、余裕ある人は参考書の該当箇所を見ておいてください。①p232-247 大きな(前学期からの)更新を行う場合以外は、配布プリントをラーニングポータルにも、1 週間前くらいにアップロードすることにしますので、一度目通しして予習してから授業に臨みましょう。じゅぎょうが終わったら、ラーニングポータルの穴埋めテストで復習しましょう。 4 時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	4 時間
第11回	対面	米国の対中関与政策。米国は中国に対し、50 年代のココムをはじめとして、経済関係の規制を行ってきた。中国から GATT、WTO 加盟申請に対して、米国はどのように対応してきたか。中国が GATT、WTO 加盟を申請するに至るまでおよび申請後、交渉し、実際に加盟を果たす中でどのような変化を遂げてきたか。	米国の対中関与政策に関するまとめプリントを配布しますので、授業で用いるレジュメとともに目を通しておいてください。参考書の該当箇所なし。 大きな(前学期からの)更新を行う場合以外は、配布プリントをラーニングポータルにも、1 週間前くらいにアップロードすることにしますので、一度目通しして予習してから授業に臨みましょう。じゅぎょうが終わったら、ラーニングポータルの穴埋めテストで復習しましょう。 4 時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	4 時間
第12回	対面	新たな外資導入政策と中国進出日本企業の特徴(2000 年代以降)。2000 年代の政冷経熱、2012 年以降の政冷経冷の意味は? 外資企業の沿海部に集中している状況に対し、中国政府はどのような政策を打ち出したか。中国に進出した外資企業の中で、日本企業はどのような特徴を持っているか。	2000 年代の日中関係に関するまとめプリントを配布しますので、授業で用いるレジュメとともに目を通しておいてください。参考書①p203-231 ②p185-223 ③p247-256 p333-342 さらに出来れば p307-330。 大きな(前学期からの)更新を行う場合以外は、配布プリントをラーニングポータルにも、1 週間前くらいにアップロードすることにしますので、一度目通しして予習してから授業に臨みましょう。じゅぎょうが終わったら、ラーニングポータルの穴埋めテストで復習しましょう。 4 時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	4 時間
第13回	対面	中国「一帯一路」政策。中国は、米国の制止を振り切って参加してきた英独仏伊含	中国「一帯一路」政策に関するまとめプリントを配布しますので、授業で用いるレジュメとともに目を通	4 時間

		む 70 か国もの参加国を集めて AIIB(アジアインフラ投資銀行)を創設し、中国から欧州までを「シルクロード経済帯」(「一帯」)と「21 世紀海上シルクロード」(「一路」)で結ぶために交通インフラを建設しそれを金融面から支えようとしている。具体的進行状況とともにその目的について見ておきます。	しておいてください。参考書の該当箇所なし。 大きな(前学期からの)更新を行う場合以外は、配布プリントをラーニングポータルにも、1 週間前くらいにアップロードすることにしますので、一度目通しして予習してから授業に臨みましょう。じゅぎょが終わったら、ラーニングポータルの穴埋めテストで復習しましょう。 4 時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	
第 14 回	対面	米中関係の戦後史を見ることにします。新中国建国間もないころのココム、チンコム対中包囲網、米中接近後のチャイナカード時代、対中関与政策の時代と「新冷戦」に入る前の米中関係の歴史を見ていきます。	米中関係の歴史に関するまとめプリントを配布しますので、授業プリントとともに目を通しておいてください。参考書の該当箇所なし。 大きな(前学期からの)更新を行う場合以外は、配布プリントをラーニングポータルにも、1 週間前くらいにアップロードすることにしますので、一度目通しして予習してから授業に臨みましょう。じゅぎょが終わったら、ラーニングポータルの穴埋めテストで復習しましょう。 4 時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	4 時間
第 15 回	オンデマンド	対中関与政策との決別と対中制裁の行方。米国トランプ政権は、TPP を離脱し、保護貿易政策を打ち出し、世界各国に自国第一主義の貿易政策、投資政策などを押し付けました。中国との間には米中貿易戦争など対中制裁が行われました。バイデン政権も、自国第一主義の政策は廃止したものの対中強硬路線は続いています。対中制裁の背景、具体的様相と日本への影響を見るとともに、今後あるべき世界経済秩序について考えることとします。	対中関与政策との決別と対中制裁に関するまとめプリントを配布しますので、授業で用いるレジュメとともに目を通しておいてください。参考書の該当箇所なし。 大きな(前学期からの)更新を行う場合以外は、配布プリントをラーニングポータルにも、1 週間前くらいにアップロードすることにしますので、一度目通しして予習してから授業に臨みましょう。じゅぎょが終わったら、ラーニングポータルの穴埋めテストで復習しましょう。 4 時間勉強するのが通例だそうです。しっかり勉強しましょう。	4 時間

科目名	アメリカ経済論	開講年度	2026 年度春学期
担当者	畑佐 伸英	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	アメリカ経済の現状と課題		
授業の目的及び概要	世界第一の経済大国であるアメリカは、紛れもなくグローバル社会の中心的存在として、各国・地域の政治や経済の動向にも大きな影響を及ぼしている。 そのアメリカの経済の状況や構造を学んでいくことは、単にその国についての知識と教養を深めるのみならず、今後のグローバル経済の行方や国際政治の流れを読み解くうえでも重要なファクターとなる。 本講義では、こうしたアメリカと国際社会との関係にも注視しながら、現在のアメリカ経済の実態を様々な視点から平易に解説し、アメリカが抱えている経済的な問題や課題についても明らかにしていく。 本科目は、国際経済コースを選択した学生に求められる、国家間の経済関係や諸外国の経済事情への理解を深めていくことを目的としており、本コースの基本科目となっている。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（１）アメリカ経済の実態について、あらゆる角度から説明できる。 （２）アメリカが直面している経済問題について理解し、その対応策を導き出すことができる。 （３）アメリカ経済と各国・地域の経済との関係を把握し、グローバル経済の行方を考察できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	テストの内容や解答方法については、授業の中で解説する。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは使用しない。毎回の講義資料をラーニングポータル上に掲載するので、各自で取得しておくこと。	ISBN	なし
参考書	①現代アメリカ経済分析―理念・歴史・政策, 中本悟・宮崎礼二, 日本評論社, 2013 年 ②アメリカ経済論入門 第3 版, 宮田由紀夫・玉井敬人, 晃洋書房, 2018 年 ③入門アメリカ経済 Q&A100, 坂出健・秋元英一・加藤一誠, 中央経済社, 2019 年 ④現代アメリカ経済史 「問題大国」の出現, 谷口明丈・須藤功, 有斐閣, 2017 年	ISBN	①9784535557604 ②9784771036178 ③9784502291913 ④9784641164925
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	35	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	講義資料や参考書を熟読して予習をするとともに、授業中には必ずノートを取ることが重要である。中間テストや定期試験に対応するには、講義内で示されるポイントを理解しておくことがカギとなるため、欠かさずに授業に出席することが求められる。また、普段から新聞やニュースを通して、アメリカの政治経済事情に触れておくとい良いでしょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	ガイダンス 講義の進め方や評価の方法を説明し、本講義で取り扱うアメリカ経済の主要なトピックスについて概説する。	講義資料に目を通して、学習する内容を把握しておくとともに、復習として、ノートに書き取った内容は読み返し、更に授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは追記して、ノートやファイルの整理を行いながら、講義の内容をまとめておくとい良いでしょう。	4時間
第2回	オンデマンド	アメリカ経済の土台となっている基本的な理念や政治との関係について説明する。	講義資料や参考書①「第1章 資本主義発展と遠ざかる建国の理念」を熟読して予習を行うとともに、復習として、ノートに書き取った内容は読み返し、更に授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは追記して、ノートやファイルの整理を行いながら、講義の内容をまとめておくとい良いでしょう。	4時間
第3回	オンデマンド	アメリカ経済の発展の経緯を GDP 統計と主要な経済イベントに着目して解説していく。	講義資料や参考書①「第2章 マクロ経済の展開と政策思想の変遷」を熟読して予習を行うとともに、復習として、ノートに書き取った内容は読み返し、更に授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは追記して、ノートやファイルの整理を行いながら、講義の内容をまとめておくとい良いでしょう。	4時間
第4回	オンデマンド	産業構造の変化とその特徴について学んでいく。	講義資料や参考書①「第3章 産業構造の再編とその現段階」を熟読して予習を行うとともに、復習として、ノートに書き取った内容は読み返し、更に授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは追記して、ノートやファイルの整理を行いながら、講義の内容をまとめておくとい良いでしょう。	4時間
第5回	オンデマンド	雇用環境と企業システムについて、主要な企業などにも注目して解説する。	講義資料や参考書①「第3章 産業構造の再編とその現段階」と「第5章 社会保障制度」を熟読して予習を行うとともに、復習として、ノートに書き取った内容は読み返し、更に授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは追記して、ノートやファイルの整理を行いながら、講義の内容をまとめておくとい良いでしょう。	4時間
第6回	オンデマンド	アメリカ経済の大きな問題となっている格差と貧困の状況について学習する。	講義資料や参考書①「第4章 科学技術政策と教育政策」、「第5章 社会保障制度」、「第8章 低所得コミュニティの開発と金融」を熟読して予習を行うとともに、復習として、ノートに書き取った内容は読み返し、更に授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは追記して、ノートやファイルの整理を行いながら、講義の内容をまとめておくとい良いでしょう。	4時間
第7回	オンデマンド	政策論争の中心的な課題となりやすい社会保障制度について学んでいく。	講義資料や参考書①「第5章 社会保障制度」を熟読して予習を行うとともに、復習として、ノートに書き取った内容は読み返し、更に授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは追記して、ノートやファイルの整理を行いながら、講義の内容をまとめておくとい良いでしょう。	4時間
第8回	オンデマンド	アメリカの国家予算と財政状況について説明する。	講義資料や参考書①「第6章 オバマ政権と自由裁量の財政政策の復権」を熟読して予習を行うとともに、復習として、ノートに書き取った内容は読み返し、更に授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは追記して、ノートやファイルの整理を行いながら、講義の内容をまとめておくとい良いでしょう。	4時間

第9回	オンデマンド	2008年に世界経済を揺るがした米国発の金融危機について解説する。	講義資料や参考書①「第7章 金融規制の政治経済学」を熟読して予習を行うとともに、復習として、ノートに書き取った内容は読み返し、更に授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは追記して、ノートやファイルの整理を行いながら、講義の内容をまとめておくといいでしょう。	4時間
第10回	オンデマンド	連邦準備制度と金融政策について学習する。	講義資料や参考書①「第9章 金融システムとアンバנקト」を熟読して予習を行うとともに、復習として、ノートに書き取った内容は読み返し、更に授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは追記して、ノートやファイルの整理を行いながら、講義の内容をまとめておくといいでしょう。	4時間
第11回	オンデマンド	貿易の状況と自由貿易協定（FTA）政策について概説する。	講義資料や参考書①「第11章 NAFTAと対ラテンアメリカFTA戦略」を熟読して予習を行うとともに、復習として、ノートに書き取った内容は読み返し、更に授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは追記して、ノートやファイルの整理を行いながら、講義の内容をまとめておくといいでしょう。	4時間
第12回	オンデマンド	通商政策とその根幹をなす貿易戦略について学んでいく。	講義資料や参考書①「第10章 多極化のなかの通商政策」を熟読して予習を行うとともに、復習として、ノートに書き取った内容は読み返し、更に授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは追記して、ノートやファイルの整理を行いながら、講義の内容をまとめておくといいでしょう。	4時間
第13回	オンデマンド	国際通貨制度とドルの機能について説明する。	講義資料や参考書①「第12章 グローバルな資金循環とドル体制の行方」を熟読して予習を行うとともに、復習として、ノートに書き取った内容は読み返し、更に授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは追記して、ノートやファイルの整理を行いながら、講義の内容をまとめておくといいでしょう。	4時間
第14回	オンデマンド	日本とアメリカの経済関係について、これまでの経緯も含めて学んでいく。	講義資料や参考書①「終章 戦後日米経済関係」を熟読して予習を行うとともに、復習として、ノートに書き取った内容は読み返し、更に授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは追記して、ノートやファイルの整理を行いながら、講義の内容をまとめておくといいでしょう。	4時間
第15回	オンデマンド	定期試験に向けて	定期試験に関する案内に沿って、各自で試験に向けた課題に取り組んでください。これまでの学習を通して学んだこと、分かったこと、発見したこと、難しかったこと、興味や関心を抱いたこと、などについて振り返りを行ってください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくといいでしょう。	4時間

科目名	社会政策	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	穴井 佑	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	本講義では社会政策について、第 1 回～第 11 回で現在の日本を事例として、第 12～14 回) では近現代のイギリスを事例として、社会政策に対する理解を深めていく。		
授業の目的及び概要	本講義では、わたしたちが安定した生活を営んでいくうえで欠かすことのできない社会政策について、現代日本の政策と近現代イギリスの社会政策をめぐる試行錯誤の歴史から学びます。この授業を受講することにより、労働者の生活を保護する社会政策の必要性や意義を、実学としての経済学の一環として理解することを目的とします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	第一に、わたしたちが安定した生活を営んでいくうえで欠かすことのできない社会保障政策、労働政策、保健・医療制度のあらましについて説明することができる。 第二に、自由放任を旨としたイギリスにおいて福祉国家が誕生し、解体され、転換を迫られた歴史的事実を学ぶことで、国家は民事に介入すべきでないという原則をもつ資本主義市場経済において、その原則を修正するような社会政策がなぜ必要とされたのか、具体的な事例や問題を挙げて説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の授業後にレスポンスシートを執筆してもらいます。各授業では、それに対する応答をしたうえで、講義を行っていきます。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特にありません。	ISBN	なし
参考書	参考文献については、適宜授業中に指示します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	日頃から、政治、経済、社会、労働、社会保障のニュースに関心を持って、新聞や TV を視聴するようにしましょう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	【ガイダンス】 前半に授業の進め方について説明し、後半で社会政策とは何かについて講義します。	予習：労働や社会保障のニュースに意図的に触れて、自分なりに社会政策とは何かを考えてみる。 復習：レジュメをよく読み、とくに用語の意味と論理展開をしっかりと理解すること。	4 時間
第 2 回	対面	【最低生活保障システム①】	予習：前回のレジュメをよく読み、内容を整理してお	4 時間

		最低賃金に着目しながら、私たちの生活を安定させる最低生活保障システムについて学びます。	くこと。 復習：レジュメをよく読み、とくに用語の意味と論理展開をしっかり理解すること。関心のあるトピックに関しては、レジュメに記載する参考文献にあたってみること。	
第3回	対面	【最低生活保障システム②】 生活保護、社会保険などに着目しながら、私たちの生活を安定させる最低生活保障システムについて学びます。	予習：前回のレジュメをよく読み、内容を整理しておくこと。 復習：レジュメをよく読み、とくに用語の意味と論理展開をしっかり理解すること。関心のあるトピックに関しては、レジュメに記載する参考文献にあたってみること。	4 時間
第4回	対面	【働き方改革①】 「働き方改革」について、労働時間をめぐる諸問題に着目しながら理解を深めます。	予習：前回のレジュメをよく読み、内容を整理しておくこと。 復習：レジュメをよく読み、とくに用語の意味と論理展開をしっかり理解すること。関心のあるトピックに関しては、レジュメに記載する参考文献にあたってみること。	4 時間
第5回	対面	【働き方改革②】 「働き方改革」について、非正規雇用や同一価値労働同一賃金などをキーワードとして学びます。	予習：前回のレジュメをよく読み、内容を整理しておくこと。 復習：レジュメをよく読み、とくに用語の意味と論理展開をしっかり理解すること。関心のあるトピックに関しては、レジュメに記載する参考文献にあたってみること。	4 時間
第6回	対面	【働き方改革③】 「働き方改革」について、WLB（ワーク・ライフ・バランス）を模索する政策を中心に学びます。 【高齢社会における福祉】 高齢社会に対応する社会政策のあり方について学びます。	予習：前回のレジュメをよく読み、内容を整理しておくこと。 復習：レジュメをよく読み、とくに用語の意味と論理展開をしっかり理解すること。関心のあるトピックに関しては、レジュメに記載する参考文献にあたってみること。	4 時間
第7回	対面	【失業問題と社会政策①】 近年の日本における失業者の動向を把握したうえで、雇用を安定させ、失業問題を改善する手段としての社会政策について学びます。	予習：前回のレジュメをよく読み、内容を整理しておくこと。 復習：レジュメをよく読み、とくに用語の意味と論理展開をしっかり理解すること。関心のあるトピックに関しては、レジュメに記載する参考文献にあたってみること。第8回授業で行う中間テストに向けてポイント解説を行うので、その内容をしっかり身につけること。	5 時間
第8回	対面	【中間テスト】 第1回～第7回の授業範囲から中間テストを行います。 【現代日本の社会政策】 これまでに学んできた現代日本の社会政策を概略したうえで、社会政策の意義と必要性について考えます。	予習：前回のレジュメをよく読み、内容を整理しておくこと。第7回の授業時に中間テストのポイント解説を行うので、その内容をしっかり復習してくること。 復習：レジュメをよく読み、とくに用語の意味と論理展開をしっかり理解すること。関心のあるトピックに関しては、レジュメに記載する参考文献にあたってみること。	5 時間
第9回	対面	【失業問題と社会政策②】 雇用保険の制度に対する理解を深めるとともに、その問題点についても学びます。	予習：前回のレジュメをよく読み、内容を整理しておくこと。 復習：レジュメをよく読み、とくに用語の意味と論理展開をしっかり理解すること。関心のあるトピックに関しては、レジュメに記載する参考文献にあたってみること。	4 時間
第10回	対面	【外国人労働者問題①】 外国人労働者をとりまく諸問題を確認したうえで、それを改善するための社会政策について学びます。	予習：前回のレジュメをよく読み、内容を整理しておくこと。 復習：レジュメをよく読み、とくに用語の意味と論理展開をしっかり理解すること。関心のあるトピックに関しては、レジュメに記載する参考文献にあた	4 時間

			てみること。	
第11回	対面	【外国人労働者問題②】 20 世紀転換イギリスにおける外国人移民と労働をめぐる問題から、社会政策の成立過程における諸課題を学び、社会社会政策についての理解を深めます。	予習：前回のレジュメをよく読み、内容を整理しておくこと。 復習：レジュメをよく読み、とくに用語の意味と論理展開をしっかり理解すること。関心のあるトピックに関しては、レジュメに記載する参考文献にあたってみること。	4 時間
第12回	対面	【19 世紀イギリスにおける救貧法と工場法】 19 世紀イギリスにおける救貧法（の改正）と工場法の制定過程を学び、自由放任を是とした 19 世紀イギリスにおける社会保障政策の必要性とそのあり方について解説します。	予習：前回のレジュメをよく読み、内容を整理しておくこと。 復習：レジュメをよく読み、とくに用語の意味と論理展開をしっかり理解すること。関心のあるトピックに関しては、レジュメに記載する参考文献にあたってみること。	4 時間
第13回	対面	【19 世紀末の貧困調査からリベラル・リフォームへ】 C. ブースと B. S. ラウントリーの貧困調査から 19 世紀末のイギリスの貧困状態を学んだうえで、20 世紀初頭に制定された国民保険法などの一連の社会政策立法について解説します。	予習：前回のレジュメをよく読み、内容を整理しておくこと。 復習：レジュメをよく読み、とくに用語の意味と論理展開をしっかり理解すること。関心のあるトピックに関しては、レジュメに記載する参考文献にあたってみること。	4 時間
第14回	対面	【イギリス福祉国家の形成】 ベヴァリッジ報告において描き出されたイギリスの福祉国家構想を学びます。	予習：13 回のレジュメをよく読み、内容を整理しておくこと。 復習：レジュメをよく読み、とくに用語の意味と論理展開をしっかり理解すること。関心のあるトピックに関しては、レジュメに記載する参考文献にあたってみること。	4 時間
第15回	オンデマンド	【まとめと総括】 定期試験に向けて授業を総括する動画教材をオンデマンドで配信します。	【予習】これまでのレジュメを読んで、学んできた内容を整理すること。 【復習】オンデマンド動画を視聴した上で、ラーニングポータル上で配布する資料を中心に、これまでの学修内容の総復習を行うこと。	5 時間

科目名	社会政策	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	穴井 佑	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	本講義では社会政策について、第 1 回～第 11 回で現在の日本を事例として、第 12～14 回）では近現代のイギリスを事例として、社会政策に対する理解を深めていく。		
授業の目的及び概要	本講義では、わたしたちが安定した生活を営んでいくうえで欠かすことのできない社会政策について、現代日本の政策と近現代イギリスの社会政策をめぐる試行錯誤の歴史から学びます。この授業を受講することにより、労働者の生活を保護する社会政策の必要性や意義を、実学としての経済学の一環として理解することを目的とします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	第一に、わたしたちが安定した生活を営んでいくうえで欠かすことのできない社会保障政策、労働政策、保健・医療制度のあらましについて説明することができる。 第二に、自由放任を旨としたイギリスにおいて福祉国家が誕生し、解体され、転換を迫られた歴史的事象を学ぶことで、国家は民事に介入すべきでないという原則をもつ資本主義市場経済において、その原則を修正するような社会政策がなぜ必要とされたのか、具体的な事例や問題を挙げて説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の授業後に課題兼レスポンスシートを執筆してもらいます。各授業では、それに対する応答をしたうえで、講義を行っていきます。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特にありません。	ISBN	なし
参考書	参考文献については、適宜授業中に指示します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	50	
	その他の内容	毎回の授業後にレスポンスシートを兼ねた課題の提出を求めます。その内容によって評価します。	
この科目の受講にあたって	日頃から、政治、経済、社会、労働、社会保障のニュースに関心を持って、新聞や TV を視聴するようにしましょう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	オンデマンド	【ガイダンス】 前半に授業の進め方について説明し、後半で社会政策とは何かについて講義します。	予習：労働や社会保障のニュースに意図的に触れて、自分なりに社会政策とは何かを考えてみること。 復習：レジュメをよく読み、とくに用語の意味と論理展開をしっかり理解すること。	4 時間

第2回	オンデマンド	【最低生活保障システム①】 最低賃金に着目しながら、私たちの生活を安定させる最低生活保障システムについて学びます。	予習：前回のレジュメをよく読み、内容を整理しておくこと。 復習：レジュメをよく読み、とくに用語の意味と論理展開をしっかり理解すること。関心のあるトピックに関しては、レジュメに記載する参考文献にあたってみること。	4 時間
第3回	オンデマンド	【最低生活保障システム②】 生活保護、社会保険などに着目しながら、私たちの生活を安定させる最低生活保障システムについて学びます。	予習：前回のレジュメをよく読み、内容を整理しておくこと。 復習：レジュメをよく読み、とくに用語の意味と論理展開をしっかり理解すること。関心のあるトピックに関しては、レジュメに記載する参考文献にあたってみること。	4 時間
第4回	オンデマンド	【働き方改革①】 「働き方改革」について、労働時間をめぐる諸問題に着目しながら理解を深めます。	予習：前回のレジュメをよく読み、内容を整理しておくこと。 復習：レジュメをよく読み、とくに用語の意味と論理展開をしっかり理解すること。関心のあるトピックに関しては、レジュメに記載する参考文献にあたってみること。	4 時間
第5回	オンデマンド	【働き方改革②】 「働き方改革」について、非正規雇用や同一価値労働同一賃金などをキーワードとして学びます。	予習：前回のレジュメをよく読み、内容を整理しておくこと。 復習：レジュメをよく読み、とくに用語の意味と論理展開をしっかり理解すること。関心のあるトピックに関しては、レジュメに記載する参考文献にあたってみること。	4 時間
第6回	オンデマンド	【働き方改革③】 「働き方改革」について、WLB（ワーク・ライフ・バランス）を模索する政策を中心に学びます。 【高齢社会における福祉】 高齢社会に対応する社会政策のあり方について学びます。	予習：前回のレジュメをよく読み、内容を整理しておくこと。 復習：レジュメをよく読み、とくに用語の意味と論理展開をしっかり理解すること。関心のあるトピックに関しては、レジュメに記載する参考文献にあたってみること。	4 時間
第7回	オンデマンド	【失業問題と社会政策①】 近年の日本における失業者の動向を把握したうえで、雇用を安定させ、失業問題を改善する手段としての社会政策について学びます。	予習：前回のレジュメをよく読み、内容を整理しておくこと。 復習：レジュメをよく読み、とくに用語の意味と論理展開をしっかり理解すること。関心のあるトピックに関しては、レジュメに記載する参考文献にあたってみること。第8回授業で行う中間テストに向けてポイント解説を行うので、その内容をしっかり身につけること。	5 時間
第8回	オンデマンド	【現代日本の社会政策】 これまでに学んできた現代日本の社会政策を概略したうえで、社会政策の意義と必要性について中間総括します。	予習：前回のレジュメをよく読み、内容を整理しておくこと。第7回の授業時に中間テストのポイント解説を行うので、その内容をしっかり復習してくること。 復習：レジュメをよく読み、とくに用語の意味と論理展開をしっかり理解すること。関心のあるトピックに関しては、レジュメに記載する参考文献にあたってみること。	5 時間
第9回	オンデマンド	【失業問題と社会政策②】 雇用保険の制度に対する理解を深めるとともに、その問題点についても学びます。	予習：前回のレジュメをよく読み、内容を整理しておくこと。 復習：レジュメをよく読み、とくに用語の意味と論理展開をしっかり理解すること。関心のあるトピックに関しては、レジュメに記載する参考文献にあたってみること。	4 時間
第10回	オンデマンド	【外国人労働者問題①】 外国人労働者をとりまく諸問題を確認したうえで、それを改善するための社会政策について学びます。	予習：前回のレジュメをよく読み、内容を整理しておくこと。 復習：レジュメをよく読み、とくに用語の意味と論理展開をしっかり理解すること。関心のあるトピック	4 時間

			に関しては、レジュメに記載する参考文献にあたってみること。	
第11回	オンデマンド	【外国人労働者問題②】 20 世紀転換イギリスにおける外国人移民と労働をめぐる問題から、社会政策の成立過程における諸課題を学び、社会社会政策についての理解を深めます。	予習：前回のレジュメをよく読み、内容を整理しておくこと。 復習：レジュメをよく読み、とくに用語の意味と論理展開をしっかり理解すること。関心のあるトピックに関しては、レジュメに記載する参考文献にあたってみること。	4 時間
第12回	オンデマンド	【19 世紀イギリスにおける救貧法と工場法】 19 世紀イギリスにおける救貧法（の改正）と工場法の制定過程を学び、自由放任を是とした 19 世紀イギリスにおける社会保障政策の必要性とそのあり方について解説します。	予習：前回のレジュメをよく読み、内容を整理しておくこと。 復習：レジュメをよく読み、とくに用語の意味と論理展開をしっかり理解すること。関心のあるトピックに関しては、レジュメに記載する参考文献にあたってみること。	4 時間
第13回	オンデマンド	【19 世紀末の貧困調査からリベラル・リフォームへ】 C. ブースと B. S. ラウントリーの貧困調査から 19 世紀末のイギリスの貧困状態を学んだうえで、20 世紀初頭に制定された国民保険法などの一連の社会政策立法について解説します。	予習：前回のレジュメをよく読み、内容を整理しておくこと。 復習：レジュメをよく読み、とくに用語の意味と論理展開をしっかり理解すること。関心のあるトピックに関しては、レジュメに記載する参考文献にあたってみること。	4 時間
第14回	オンデマンド	【イギリス福祉国家の形成】 ベヴァリッジ報告において描き出されたイギリスの福祉国家構想を学びます。	予習：13 回のレジュメをよく読み、内容を整理しておくこと。 復習：レジュメをよく読み、とくに用語の意味と論理展開をしっかり理解すること。関心のあるトピックに関しては、レジュメに記載する参考文献にあたってみること。	4 時間
第15回	オンデマンド	【まとめと総括】 定期試験に向けて授業を総括します。	【予習】これまでのレジュメを読んで、学んできた内容を整理すること。 【復習】オンデマンド動画を視聴した上で、ラーニングポータル上で配布する資料を中心に、これまでの学修内容の総復習を行うこと。	5 時間

科目名	社会保障	開講年度	2026 年度春学期
担当者	呉 紅敏	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	社会保障制度にはどのような制度があるの？		
授業の目的及び概要	社会保障制度の歴史、概念と範囲、機能、財政、制度の体系と概要およびそれらの問題について概観する。 この授業を受講することにより、社会保障制度の現状と課題について理解できる力を身に付けることを目的とする。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	社会保障制度にかかわる基本的知識、いわば社会保障制度の基礎的な常識を身につけることを第一目標とする。少子高齢化社会の中で改革が急務といわれている社会保障制度の現状や改革議論について、身近な例を挙げながら具体的にわかりやすく説明し、その上で、社会保険制度や社会福祉制度の個別制度の基礎知識について解説し、社会保障制度の基礎知識を得ることを第二の目標とする。 この授業を通じて、皆さんが大学を卒業し、社会で重責を担う年齢に達したときに、自分自身で社会保障制度の動向を評価できる基礎知識を身につけることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の講義に、コメントカードに質問、意見、提案などを書いてもらい、次の授業中に口頭で回答を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①新・初めての社会保障論（第3版）、古橋エツ子編、法律文化社、2024 年	ISBN	①9784589038890
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	40	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	『社会政策』の科目を履修することをお勧めします。担当者は、法学部の「社会保険法」、「社会福祉法」の科目も担当しているので、興味ある方は、受講してください。 受講生の勉強状況や理解度に応じて、講義内容が多少前後になることもあります。 毎回レジュメを配布しているので、教科書持たずに、勉強はできますが、レジュメ以外の勉強も必要なので、教科書は必須です。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 何のために社会保障があるの？	専門用語などが多いので、授業前に、予習などをする ことをお勧めします。また、授業後はレジュメを用	3 時間

			い、復習してください（1 時間程度）。 教科書、1～15 頁の「社会保障とは」を読んで予習してください（2 時間程度）。	
第 2 回	対面	社会保障制度にはどんなものがあるんだろう？ 社会政策とは何か、何のために社会政策があるの？	授業後は、教科書、1～15 頁の「社会保障とは」を読んで復習してください（2 時間程度）。 社会政策とは、別紙でご紹介致します。 また、16 頁～20 頁の第 2 章「医療保険」の医療保険とはを予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第 3 回	対面	病気になったらどうする？（1） 医療保険の保険関係と財源	授業後は、教科書の 16 頁～20 頁の第 2 章「医療保険」の医療保険とはを復習してください（2 時間程度）。 また、21 頁～37 頁の医療保険仕組みと課題について予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第 4 回	対面	病気になったらどうする？（2） 保険診療の法体系・医療供給体制・保険診療の内容 医療保険制度の課題	授業後は、教科書の 21 頁～37 頁の医療保険仕組みと課題について復習してください（2 時間程度）。 また、38～41 頁の第 3 章「介護保険」について予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第 5 回	対面	介護保険 ・介護保険とは	授業後は、教科書の 38～41 頁の第 3 章「介護保険」について復習してください（2 時間程度）。 また、42～57 頁の介護保険制度の概要と課題について予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第 6 回	対面	介護保険の概要 今後の課題	授業後は、教科書の 42～57 頁の介護保険制度の概要と課題について復習してください（2 時間程度）。 また、58～69 頁の年金制度とは何かを予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第 7 回	対面	年金制度 年金制度とは何か	授業後は、教科書の 58～69 頁の年金制度とは何かを復習してください（2 時間程度）。 また、70～85 頁の年金制度の仕組みと現状、課題について予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第 8 回	対面	年金制度の仕組みと現状 公的年金制度の課題	授業後は、教科書の 70～85 頁の年金制度の仕組みと現状、課題について復習してください（2 時間程度）。 これまでの勉強した内容を教科書やレジュメを用い、しっかり復習してください（2 時間程度）。	4 時間
第 9 回	対面	これまでの勉強した内容を総括	授業後は、これまでの勉強した内容を教科書やレジュメを用い、復習してください（2 時間程度）。 また、教科書の 86～95 頁の労働保険の内容について予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第 10 回	対面	労働保険 労働者災害補償保険制度とは	授業後は、教科書 86 頁～95 頁の労働者災害補償保険制度について復習してください（2 時間程度）。 また、96～107 頁の雇用保険制度と課題について予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第 11 回	オンデマンド	雇用保険制度とは 今後の課題	授業後は、教科書 96～107 頁の雇用保険制度と課題について復習してください（2 時間程度）。 また、118～124 頁の第 7 章社会福祉とを予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第 12 回	対面	社会福祉とは 今後のゆくえ	授業後は、教科書の 118～124 頁の第 7 章社会福祉とを復習してください（2 時間程度）。 また、168～183 頁の生活保護制度について予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第 13 回	対面	生活保護制度とは 生活保護制度のしくみ その課題	授業後は、教科書の 168～183 頁の生活保護制度について復習してください（2 時間程度）。 また、128～135 頁の児童福祉について予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第 14 回	対面	児童福祉 児童福祉とは 児童福祉の仕組みと現状 課題	授業後は、教科書 128 頁～137 頁の児童福祉について復習してください（2 時間程度）。 また、159～167 頁の第 11 章の社会手当を予習してください（2 時間程度）。	4 時間

2026/05/01

第15回	対面	社会手当 社会手当とは 社会手当の種類と概要 今後の課題	授業後は、教科書の159～167頁の第11章の社会手当を復習してください（5時間程度）。	5時間

科目名	社会保障	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	呉 紅敏	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	社会保障制度にはどのような制度があるの？		
授業の目的及び概要	社会保障制度の歴史、概念と範囲、機能、財政、制度の体系と概要およびそれらの問題について概観する。 この授業を受講することにより、社会保障制度の現状と課題について理解できる力を身に着けることを目的とする。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	社会保障制度にかかわる基本的知識、いわば社会保障制度の基礎的な常識を身につけることを第一目標とする。少子高齢化社会の中で改革が急務といわれている社会保障制度の現状や改革議論について、身近な例を挙げながら具体的にわかりやすく説明し、その上で、社会保険制度や社会福祉制度の個別制度の基礎知識について解説し、社会保障制度の基礎知識を得ることを第二の目標とする。 この授業を通じて、皆さんが大学を卒業し、社会で重責を担う年齢に達したときに、自分自身で社会保障制度の動向を評価できる基礎知識を身につけることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の講義に、コメントカードに質問、意見、提案などを書いてもらい、次の授業中に口頭で回答を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①新・初めての社会保障論（第3版），古橋エツ子編，法律文化社，2024 年	ISBN	①9784589038890
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	40	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	『社会政策』の科目を履修することをお勧めします。担当者は、法学部の「社会保険法」、「社会福祉法」の科目も担当しているので、興味ある方は、受講してください。 受講生の勉強状況や理解度に応じて、講義内容が多少前後になることもあります。 毎回レジュメを配布しているので、教科書持たずに、勉強はできますが、レジュメ以外の勉強も必要なので、教科書は必須です。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 何のために社会保障があるの？	専門用語などが多いので、授業前に、予習などをする ことをお勧めします。また、授業後はレジュメを用	3 時間

			い、復習してください（1 時間程度）。 教科書、1～15 頁の「社会保障とは」を読んで予習してください（2 時間程度）。	
第 2 回	対面	社会保障制度にはどんなものがあるんだろう？ 社会政策とは何か、何のために社会政策があるの？	授業後は、教科書、1～15 頁の「社会保障とは」を読んで復習してください（2 時間程度）。 社会政策とは、別紙でご紹介致します。 また、16 頁～20 頁の第 2 章「医療保険」の医療保険とはを予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第 3 回	対面	病気になったらどうする？（1） 医療保険の保険関係と財源	授業後は、教科書の 16 頁～20 頁の第 2 章「医療保険」の医療保険とはを復習してください（2 時間程度）。 また、21 頁～37 頁の医療保険仕組みと課題について予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第 4 回	対面	病気になったらどうする？（2） 保険診療の法体系・医療供給体制・保険診療の内容 医療保険制度の課題	授業後は、教科書の 21 頁～37 頁の医療保険仕組みと課題について復習してください（2 時間程度）。 また、38～41 頁の第 3 章「介護保険」について予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第 5 回	対面	介護保険 ・介護保険とは	授業後は、教科書の 38～41 頁の第 3 章「介護保険」について復習してください（2 時間程度）。 また、42～57 頁の介護保険制度の概要と課題について予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第 6 回	対面	介護保険の概要 今後の課題	授業後は、教科書の 42～57 頁の介護保険制度の概要と課題について復習してください（2 時間程度）。 また、58～69 頁の年金制度とは何かを予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第 7 回	対面	年金制度 年金制度とは何か	授業後は、教科書の 58～69 頁の年金制度とは何かを復習してください（2 時間程度）。 また、70～85 頁の年金制度の仕組みと現状、課題について予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第 8 回	対面	年金制度の仕組みと現状 公的年金制度の課題	授業後は、教科書の 70～85 頁の年金制度の仕組みと現状、課題について復習してください（2 時間程度）。 これまでの勉強した内容を教科書やレジュメを用い、しっかり復習してください（2 時間程度）。	4 時間
第 9 回	対面	これまでの勉強した内容を総括	授業後は、これまでの勉強した内容を教科書やレジュメを用い、復習してください（2 時間程度）。 また、教科書の 86～95 頁の労働保険の内容について予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第 10 回	対面	労働保険 労働者災害補償保険制度とは	授業後は、教科書 86 頁～95 頁の労働者災害補償保険制度について復習してください（2 時間程度）。 また、96～107 頁の雇用保険制度と課題について予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第 11 回	オンデマンド	雇用保険制度とは 今後の課題	授業後は、教科書 96～107 頁の雇用保険制度と課題について復習してください（2 時間程度）。 また、118～124 頁の第 7 章社会福祉とを予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第 12 回	対面	社会福祉とは 今後のゆくえ	授業後は、教科書の 118～124 頁の第 7 章社会福祉とを復習してください（2 時間程度）。 また、168～183 頁の生活保護制度について予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第 13 回	対面	生活保護制度とは 生活保護制度のしくみ その課題	授業後は、教科書の 168～183 頁の生活保護制度について復習してください（2 時間程度）。 また、128～135 頁の児童福祉について予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第 14 回	対面	児童福祉 児童福祉とは 児童福祉の仕組みと現状 課題	授業後は、教科書 128 頁～137 頁の児童福祉について復習してください（2 時間程度）。 また、159～167 頁の第 11 章の社会手当を予習してください（2 時間程度）。	4 時間

2026/05/01

第15回	対面	社会手当 社会手当とは 社会手当の種類と概要 今後の課題	授業後は、教科書の159～167頁の第11章の社会手当を復習してください（5時間程度）。	5時間

科目名	労働経済学	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	李 慧慧	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	働くことを経済学的視点から学びます。		
授業の目的及び概要	この科目では、経済学の理論的枠組みとデータに基づき、労働経済学について学修します。はじめに、労働経済学の基礎理論（労働供給と労働需要）を扱います。その後、人的資本および「多様化する働き方」について学びます。これらの授業を通じて、経済学的視点から労働や家族の未来、特に賃金格差の大きい女性労働・非正規雇用のあり方・失業などの社会問題が発生する要因を理解できる力を身につけることを目的としています。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この科目の目標は、以下の通り設定しています。 1. ミクロ経済学を基礎として、労働需要や労働供給などの労働市場に関する経済理論と分析枠組みを理解することができる。 2. 日本の労働市場を客観的に考えることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題については、授業中に適宜的に解説及び講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／クリッカー等の理解度把握システムの利用		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは以下の通りです。それ以外は、講義の際に紹介します。労働経済学をつかむ、大森義明・永瀬伸子、有斐閣，2021 年	ISBN	9784641177307
参考書	労働経済学―理論と実証をつなぐ、川口大司、有斐閣，2017 年	ISBN	9784641165076
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	30	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
この科目の受講にあたって	その他の内容		
	1. テキストを入手して読み理解することです。 2. 時事的問題について受講と並行して自習することです。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	オンデマンド	授業の概要と日本の労働市場	【予習】事前にシラバスによく目を通し、労働経済学について考えてみましょう（1 時間程度）；テキストの第 1 章を事前に読んでおいてください。（1 時間程度） 【復習】シラバスとテキストの第 1 章を読み直し、講	4 時間

			義で得た知識を確認してください。また、講義テーマに関連するニュースを日頃から確認してください。(2時間程度)	
第2回	オンデマンド	労働供給と労働需要の導入内容	【予習】テキストの第1章と第2章を事前に読んでおいてください。(1時間程度) 【復習】テキストの第1章と第2章および配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。また、講義テーマに関連するニュースを日頃から確認してください。(3時間程度)	4時間
第3回	オンデマンド	労働供給(1)	【予習】テキストの第2章のunit3「労働供給」(ページ31~38)を事前に読んでおいてください。(1時間程度) 【復習】テキストの第2章のunit3「労働供給」および配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。また、講義テーマに関連するニュースを日頃から確認してください。(3時間程度)	4時間
第4回	オンデマンド	労働供給(2)	【予習】テキストの第2章を事前に読んでおいてください。(1時間程度) 【復習】テキストの第2章および配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。また、講義テーマに関連するニュースを日頃から確認してください。(3時間程度)	4時間
第5回	オンデマンド	労働需要(1)	【予習】テキストの第3章を事前に読んでおいてください。(2時間程度) 【復習】テキストの第3章および配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。また、講義テーマに関連するニュースを日頃から確認してください。(2時間程度)	4時間
第6回	オンデマンド	労働需要(2)	【予習】テキストの第3章を事前に読んでおいてください。(2時間程度) 【復習】テキストの第3章および配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。また、講義テーマに関連するニュースを日頃から確認してください。(2時間程度)	4時間
第7回	オンデマンド	教育・訓練と人的資本	【予習】テキストの第4章を事前に読んでおいてください。(1時間程度) 【復習】テキストの第4章および配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。(3時間程度)	4時間
第8回	オンデマンド	長期雇用の賃金決定のメカニズム	【予習】テキストの第5章を事前に読んでおいてください。(1時間程度) 【復習】テキストの第5章および配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。(3時間程度)	4時間
第9回	オンデマンド	転職・就職	【予習】テキストの第6章を事前に読んでおいてください。(1時間程度) 【復習】テキストの第6章および配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。また、講義テーマに関連するニュースを日頃から確認してください。(3時間程度)	4時間
第10回	オンデマンド	賃金格差	【予習】テキストの第7章を事前に読んでおいてください。(1時間程度) 【復習】テキストの第7章および配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。(3時間程度)	4時間
第11回	オンデマンド	失業と不安定雇用	【予習】テキストの第8章のunit16「不本意な非正規雇用」を事前に読んでおいてください。(1時間程度)	4時間

			度) 【復習】テキストの第 8 章の unit16「不本意な非正規雇用」および配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。また、講義テーマに関連するニュースを日頃から確認してください。(3 時間程度)	
第 1 2 回	オンデマンド	女性労働	【予習】テキストの第 9 章を事前に読んでおいてください。(1 時間程度) 【復習】テキストの第 9 章および配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。また、講義テーマに関連するニュースを日頃から確認してください。(3 時間程度)	4 時間
第 1 3 回	オンデマンド	高齢者の就業と引退	【予習】テキストの第 10 章を事前に読んでおいてください。(1 時間程度) 【復習】テキストの第 10 章および配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。(3 時間程度)	4 時間
第 1 4 回	オンデマンド	これからの労働	【予習】テキストの unit23「結 これからの労働」を事前に読んでおいてください。(1 時間程度) 【復習】テキストの unit23「結 これからの労働」および配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。また、講義テーマに関連するニュースを日頃から確認してください。(3 時間程度)	4 時間
第 1 5 回	オンデマンド	まとめ	【予習】これまでの授業回の配布資料を事前に読んでおいてください。(2 時間程度) 【復習】これまでの授業回の配布資料を読み直し、講義で得た知識を総復習してください。(2 時間程度)	4 時間

科目名	経済学史 I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	西 淳	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	経済学の歴史を学ぶことを通じて、経済学の基本的な考え方を理解することがテーマです。この授業を履修することで、経済学的に思考する方法を学んでください。		
授業の目的及び概要	履修者が、経済学の歴史の学修を通じて経済学の基本を理解できるようになることを目標とします。経済学の歴史の授業ですから個々の学説の紹介も重要ですが、それだけでなく、それらと現代の経済問題がどのように関係しているのかに集中して授業を進めていきます。また総花的に何人もの学者や諸学説をとりあげて解説するというのではなく絞ってとり上げ、それらの議論を深く掘り下げていくという方向で考えたいと思います。経済学史 I で取り上げるのは、重商主義、重農主義、アダム・スミス、デヴィッド・リカードです。この授業を履修することを通じて、市民社会における自立した個人として身につけるべき経済学についての考え方が獲得できます。 なお、この授業を受講することにより、現実の経済現象について考えるだけでなく、みずからの考察をそれに付け加えることができるようになるはずです。 最終回はオンデマンド授業を行います。		
履修条件・留意点	特にありません。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	過去の経済学者の学説の学修を学び、その理解を現代の経済学の理解へとつなげていくことが最終的な目標となります。もちろん理論的な問題だけでなく、その背後にある思想的な問題についても説明しますので、理論との関連で理解してほしいと考えます。そして最終目標は、そのような学修を通じて現実の経済への理解につながるような知識を身につけることです。この授業の履修を通じて経済学の歴史について説明することができるようになり、そのような知識を通じて現実の経済を自分の力で考えていくことができるようになります。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中、コメント・シートの提出を求めることがあります。それは返却はしませんが、その内容については次の授業の時にいくつか取り上げ論評するようにしたいと考えます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特に定めません(授業中に配布するプリントで進めます)。	ISBN	なし
参考書	①経済学史, 喜多見洋・水田健編著, ミネルヴァ書房, 2012 年 ②対話でわかる痛快明解経済学史, 松尾匡, 日経 BP 社, 2009 年 ③経済学史, 三土修平, 新世社, 1993 年	ISBN	①9784623059362 ②9784822247645 ③978-4915787324
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	10	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	90	
	その他（%）	0	
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	経済学史は経済学についての昔話ではなく、現実の経済を理解するための方法を獲得するための科目です。そのつもりで、授業にのぞんでください。またこの授業の内容と、ミクロ経済学やマクロ経済学、また社会経済学などで学ぶ内容との関連を常に注意してください。また私語は厳禁です。ご注意ください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	経済学とは何か。経済学の歴史を学ぶことの意義とは何か。授業の内容の説明。授業を受講する際の注意点の説明。	予習：「経済学史」とはいかなる学問かについて、記載している参考書などで調べておくこと。復習：オリエンテーションで述べる内容について、プリントを読み直して理解を深めておくこと。なお予習、復習とも少なくとも1時間程度は行うことが望ましい。	4時間
第2回	対面	経済学の誕生と資本主義の成立の関係について。なぜ資本主義は経済学を発展させるきっかけとなったか。学派や学説の対立をどうみるか。20世紀と経済学。	予習：資本主義とはどのような社会であり、またそれは経済学の成立といかなる関係があるのかが授業で説明されるので、資本主義とはいかなる経済システムであるかということ各自、調べておくこと。復習：配布プリントを読み直し、その日の授業内容の再確認しておくこと。なお予習、復習とも少なくとも1時間程度行うことが望ましい。	4時間
第3回	対面	スミス以前の経済学について（スミス以前の経済学は豊かさなどをどうとらえたか）。重商主義と重農主義とは何か。またそれらの学派とスミスとの関係。	予習：「豊かさ」の意味について考えておくこと。復習：配布されたプリントを読み直し、その日の内容を再確認しておくこと。なお予習、復習とも少なくとも1時間程度は行うことが望ましい。	4時間
第4回	対面	市場の役割（神の見えざる手）。どういう前提があれば、市場は最もよい状態を実現するのか。資源配分の効率性とはどういうことか。	予習：市場とはどのような機能をもつのかを調べておくこと。また市場の存在が、われわれの日常生活にどのようなプラス効果とマイナス効果を与えているかを考えておくこと。復習：配布プリントを読み直し、その日の授業の内容を再確認しておくこと。なお予習、復習とも少なくとも1時間程度は行うことが望ましい。	4時間
第5回	対面	分業とは何か（組織内分業、国内分業、国際分業）。分業の利点と欠点はどこにあるのか。分業と市場との関係はどのようになっているのか。	予習：分業（仕事を社会成員全体で手分けしてすること）がわれわれの日常生活に対して与えるプラス効果とマイナス効果について考えておくこと。復習：配布プリントを読み直し、その日の授業の内容を再確認しておくこと。なお予習、復習とも少なくとも1時間程度は行うことが望ましい。	4時間
第6回	対面	絶対優位の貿易理論とはなにか。小さな政府論について。	予習：「絶対優位」とはいかなる概念かについて調べておくこと。また、個々人の経済活動を政府の干渉からの自由ゆだねるとどのようなよいことがあるかを考えておくこと。復習：配布プリントを読み直し、その日の授業の内容を再確認しておくこと。なお予習、復習とも少なくとも1時間程度は行うことが望ましい。	4時間
第7回	対面	経済倫理の違い（貯蓄は美徳か、消費は美徳か）が人々の経済活動にどのような違いをもたらすのか。スミスの株式会社批判はどのようなものか。『国富論』における経済成長論。	予習：貯蓄という行為がどのような意味を持つか（個人レベルで、あるいは社会全体のレベルで）を考えておくこと。また、「法人」と「自然人」という用語について調べておくこと。復習：配布プリントを読み直し、その日の授業の内容を再確認すること。なお予習、復習とも少なくとも1時間程度は行うことが望ましい。	4時間
第8回	対面	財の交換比率はどう決まるのか（労働量と希少性）。再生産不可能な財と再生産可能な財について。	予習：経済学によく出てくる用語である「価格」と「価値」はどのように違うのかを調べておくこと。復習：配布プリントを読み直し、その日の授業の内容を再確認すること。なお予習、復習とも少なくとも1時間程度は行うことが望ましい。	4時間

第9回	対面	生産できる生産要素とできない生産要素との違いの重要性。差額地代論について。土地が狭い国の経済成長の法則とは(希少な生産要素である土地と成長の問題)。	予習:「生産要素」とはいかなる用語かを調べておくこと。またそれにはどのようなものがあるのかについても調べておくこと。復習:配布プリントを読み直し、その日の授業の内容の再確認をしておくこと。なお予習、復習とも少なくとも1時間程度は行うことが望ましい。	4時間
第10回	対面	経済的レント(地代)の問題。比較優位にもとづく貿易理論とはどのようなものか。また比較生産費説が成り立つための前提はなにか。	予習:「生産要素」の価格はどう決まるのかについてミクロ経済学のテキストなどを読んで調べておくこと。復習:配布プリントを読み直し、その日の授業の内容を再確認しておくこと。なお予習、復習とも少なくとも1時間程度は行うことが望ましい。	4時間
第11回	対面	自由貿易の利益とは何か。機会費用とは何か。自由貿易主義と保護貿易主義との対立について。	予習:「自由貿易の利益」という用語の意味について調べておくこと。また「保護貿易」という用語についても調べておくこと。復習:配布プリントを読み直し、その日の授業の内容を再確認しておくこと。なお予習、復習とも少なくとも1時間程度は行うことが望ましい。	4時間
第12回	対面	セイ法則とは何か(リカードとマルサスの論争について)。ケインズのリカード評価。一般的過剰生産と部分的過剰生産について。	予習:「セイ法則」ということの意味について、提示している参考書などで調べておくこと。また「過剰生産」という用語についても調べておくこと。復習:配布プリントを読み直し、その日の授業の内容を再確認しておくこと。なお予習、復習とも1時間程度行うことが望ましい。	4時間
第13回	対面	リカードとマルサスの一般的過剰生産をめぐる論争のつづき。価値とはなにか、またそれはどう定義されるか。	予習:貨幣のもつ役割について調べておくこと。復習:配布プリントを読み直し、その日の授業の内容を再確認しておくこと。なお予習、復習とも少なくとも1時間程度は行うことが望ましい。	4時間
第14回	対面	【補論】資本主義の誕生と経済学の成立過程とはどのように関係しているのかを考える。	予習:経済史における「共同体」や「産業革命」とはどのようなものか、調べておくこと。復習:配布プリントを読み直し、その日の授業の内容を再確認しておくこと。なお予習、復習とも少なくとも1時間程度は行うことが望ましい。	4時間
第15回	オンデマンド	これまでの内容を復習し、その流れを説明する。	予習:これまでの授業の全体的な流れをこれまで配布したプリントを参照しつつ、考えておくこと。復習:まとめプリントをよみ、授業全体の内容を再確認しておくこと。なお予習、復習とも少なくとも1時間程度行うことが望ましい。	4時間

科目名	経済学史Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	西 淳	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	主に、マルクス、マーシャルとケインズの学説を通じて、経済学を学ぶ。経済学史の学習を通じて、経済現象を理解する能力をはぐくむ。		
授業の目的及び概要	この授業では、経済学の基本的な考え方を過去の経済学者たちの学説を通じて考えてみたいと思います。現代において論じられている経済についての考え方は歴史的なプロセスを通じて形成されてきたものですので、そのプロセスを学ぶことは経済学の基礎的なロジックを身につけるのに役に立ちます。過去の学説の紹介に終るのではなく、現代の経済をみる力を身につけるのが目的です。とりあげる経済学者は主には、マルクス、マーシャル、ケインズ、シュムペーターです。この授業の履修を通じて経済をみる目をやしなってください。 この授業を受講することにより、現実の経済の動きを理解し、それについての自分の意見をもつことができるようになるはずです。 なお、最終回はオンデマンド授業を行います。		
履修条件・留意点	特にありません。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	過去の経済学者の学説を学ぶのがこの授業の内容ですが、その理解を現代の経済学の理解へとつなげていくことが最終的な目標となります。もちろん理論的な問題だけでなく、その背後にある思想的な問題についても説明します。この授業を履修することによって、経済学、経済思想の歴史について説明することができ、またそのような知識によって自分の力で現実の経済について考えることができるようになります。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出されたコメント・シートを読んで、それについての意見、論評を次の授業の際に行うようにします。なお、コメント・シートの提出は毎回あるわけではありません。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特に定めません(授業中に配布するプリントで進めます)。	ISBN	なし
参考書	①経済学史、喜多見洋・水田健編著、ミネルヴァ書房、2012 年 ②対話でわかる痛快明解経済学史、松尾匡、日経 BP 社、2009 年 ③経済学史、三土修平、新世社、1993 年	ISBN	①9784623059362 ②9784822247645 ③978-4915787324
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	10	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	90	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	経済学史Ⅰのシラバスでも書きましたが、経済学史は昔の経済学を学んで終わりという授業ではありません。そうではなく、過去の経済学者の学説の検討を通じて現代の現実の経済を理解するための方法を獲得するための科目です。そのつもりで、授業にのぞんでください。また、		

他の科目、マクロ経済学やミクロ経済学、社会経済学で学ぶ内容との関連を常に注意してください。なお、私語は厳禁です。ご注意ください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	はじめに。経済学史を学ぶための前提となる事柄について。授業計画の説明。授業の進め方についての注意。	「カール・マルクス」、「アルフレッド・マーシャル」、「ジョン・メイナード・ケインズ」とは、それぞれどのような人物か、提示している参考書などで調べておくこと。復習：その日の配布プリントを読み直し、授業内容についての理解を深めておくこと。なお、予習、復習はそれぞれ少なくとも1時間程度は行うことが望ましい。	4時間
第2回	対面	カール・マルクスの経済学(1)：剰余労働の搾取とはどういうことか。マルクスは搾取の問題をどう考えたのか。マルクスの説明の問題点について。資本主義における搾取の問題。	予習：「搾取」という言葉について調べておくこと。復習：配布プリントを読み直し、その日の授業内容についての理解を深めておくこと。なお、予習、復習はそれぞれ少なくとも1時間程度は行うことが望ましい。	4時間
第3回	対面	カール・マルクスの経済学(2)：資本主義における搾取は、奴隷制社会や封建制社会のそれに比べてなぜわかりにくい。再生産の理論。史的唯物論とはなにか。	予習：「歴史法則」というものについて調べておくこと。またそもそも歴史に法則性があるのかについても考えておくこと。復習：配布プリントを読み直し、その日の授業内容についての理解を深めておくこと。なお、予習、復習はそれぞれ少なくとも1時間程度は行うことが望ましい。	4時間
第4回	対面	カール・マルクスの経済学(3)：社会主義論が提起する問題とは何か(平等性と効率性は両立するのか、それとも対立するのか)。単純商品生産社会と資本主義社会はどう違うのか。	予習：「社会主義」と「資本主義」とはどう違うのか、調べておくこと。復習：配布プリントを読み直し、その日の授業内容についての理解を深めておくこと。なお、予習、復習はそれぞれ少なくとも1時間程度は行うことが望ましい。	4時間
第5回	対面	アルフレッド・マーシャルの経済学(1)：限界主義の方法論とはなにか、その特徴(限界とはなにか。資源の希少性、機会費用、など)。	予習：「限界」という用語の意味を調べておくこと。復習：配布プリントを読み直し、その日の授業内容についての理解を深めておくこと。なお、予習、復習はそれぞれ少なくとも1時間程度は行うことが望ましい。	4時間
第6回	対面	アルフレッド・マーシャルの経済学(2)：需要と供給の法則について(モノの希少性を評価するものとしての価格)。均衡理論の問題(そもそも均衡点は存在するか、均衡点は一つか、また価格の動きは安定的か)。	予習：「希少性」という経済学の用語について調べておくこと(普通の辞書に出てくる意味ではなく)。復習：配布プリントを読み直し、その日の授業内容についての理解を深めておくこと。なお、予習、復習はそれぞれ少なくとも1時間程度は行うことが望ましい。	4時間
第7回	対面	アルフレッド・マーシャルの経済学(3)：部分均衡と一般均衡。経済学における時間の概念(一時的、短期的、長期的、超長期的)。規模の経済。企業のライフ・サイクル理論。労働組合は労働者の味方か？	予習：経済学における「短期」や「長期」の意味について、ミクロ経済学の本などを参照して調べておくこと。復習：配布プリントを読み直し、その日の授業内容についての理解を深めておくこと。なお、予習、復習はそれぞれ少なくとも1時間程度は行うことが望ましい。	4時間
第8回	対面	“ケインズ以前の経済学”とはどのようなものであったか(1)：新古典派経済学の特徴(価格メカニズム重視、家計と企業の調和的ヴィジョン、失業観など)について。	予習：自由放任主義とはどのような考え方が調べておくこと。復習：配布プリントを読み直し、その日の授業内容についての理解を深めておくこと。なお、予習、復習はそれぞれ少なくとも1時間程度は行うことが望ましい。	4時間
第9回	対面	“ケインズ以前の経済学”とはどのようなものであったか(2)：選択の自由と自己責任の重視。ただめしはないという経済学。経済学では失業の原因についてどう考えるか。	予習：個々人の経済活動が「政府の干渉から自由」であるとはどういうことか調べておくこと。復習：配布プリントを読み直し、その日の授業内容についての理解を深めておくこと。なお、予習、復習はそれぞれ少なくとも1時間程度は行うことが望ましい。	4時間
第10回	対面	ジョン・メイナード・ケインズの経済学(1)：ケインズ経済学の重要な論点について	予習：個々人の経済活動は社会関係(他の人々との関係)のなかで行われ、その結果がそれぞれの個人にも	4時間

		での説明。有効需要の原理、数量調整について。	たらされるが、その中のどれだけの部分がどういう理由で自己責任だといえるだろうか。考えておくこと。復習：配布プリントを読み直し、その日の授業内容についての理解を深めておくこと。なお、予習、復習はそれぞれ少なくとも1時間程度は行うことが望ましい。	
第11回	対面	ジョン・メイナード・ケインズの経済学(2)：物価の下落は何をもたらすのか。デフレ予想の景気への影響、企業の意思決定の優位性。ケインズの失業についての考え方。	予習：一国の豊かさを決めるのは需要であるという考え方について調べておくこと。復習：配布プリントを読み直し、その日の授業内容についての理解を深めておくこと。なお、予習、復習はそれぞれ少なくとも1時間程度は行うことが望ましい。	4時間
第12回	対面	ジョン・メイナード・ケインズの経済学(3)：新古典派の側からのケインズへの批判とそれに対する反批判。民間と政府の混合体制(なぜ自由放任主義ではいけないのか)。	予習：「貨幣」は「交換の潤滑油」であるという考え方と「不況の原因」であるという考え方がある。それぞれについて調べておくこと。復習：配布プリントを読み直し、その日の授業内容についての理解を深めておくこと。なお、予習、復習はそれぞれ少なくとも1時間程度は行うことが望ましい。	4時間
第13回	対面	ジョン・メイナード・ケインズの経済学(4)：ただめしがあるという経済学。資産保有の問題(貨幣の魅力は、資産という観点から考えると何であるのか)。	予習：政府も民間と同じように行動した方がよいという考え方(小さな政府論)とそれではいけないという考え方がある。それぞれの考え方について調べておくこと。復習：配布プリントを読み直し、その日の授業内容の理解を深めておくこと。なお、予習、復習はそれぞれ少なくとも1時間程度は行うことが望ましい。	4時間
第14回	対面	J.A. シュムペーターの経済学：イノベーションと経済発展、利潤、景気循環との関係。資本主義は今後、どのように変わっていくのか。	予習：イノベーションとはどのようなものか調べておくこと。復習：配布プリントを読み直し、その日の授業内容の理解を深めておくこと。なお、予習、復習はそれぞれ少なくとも1時間程度は行うことが望ましい。	4時間
第15回	オンデマンド	全体のまとめ。これまでの学びをふりかえる。	予習：これまでの配布プリントを読み返すことによって授業の全体的な流れを理解しておくこと。復習：最後のまとめプリントを読み直すことで、全体の復習をしておくこと。なお、予習、復習はそれぞれ少なくとも1時間程度は行うことが望ましい。	4時間

科目名	経済学部生のための経営学入門	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	渡邊 祐作	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	経営学の基礎を学ぶ		
授業の目的及び概要	この授業では、経営学を専門としない経済学部生にとって、最低限知っておくべき経営学の知識を学びます。 経営学は経営者のための学問、金儲けのための学問と誤解されることがあります。もちろん、使い方によってはそのために応用することも可能だと思います。しかし、経営学の本質は、人や（人が織りなす）組織について探究する学問であるということです。また、経営学のもう一つの重要な側面は、研究方法ではなく研究対象によって定義される学問であるということです。現代の経営学では、「そもそも人・組織はどのように物事を考え、どのように行動するのか」という根本原理に対して、主に経済学・心理学・社会学の 3 つの学問分野から理論を応用しています。 本講義では、「企業経営」という現象を多面的に捉え、その全体像を明らかにすることで、学際的な経営学の各トピックスを広く学修します。 講義では、実際の企業の具体例（ケース）や実証研究の結果を豊富に紹介することで、現実と理論がリンクしているという実感を得られるように心がけます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ 企業とはどういうものかを説明できる。 ・ 企業の戦略で必要な要素について説明できる。 ・ 企業のマネジメントで必要な要素について説明できる。 ・ 社会的存在としての企業のあり方について説明できる。 ・ 経営学の全体像とその位置づけを理解し、説明できる。 ・ 現実の企業や産業の事例を、経営学の視点で分析・考察できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシート、課題の結果については、授業内または Learning Portal でフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	経験から学ぶ経営学入門 [第 3 版], 上林憲雄・奥林康司・團 泰雄・開本浩矢・森田雅也・竹林 明・中村志保, 有斐閣, 2024 年	ISBN	9784641184725
参考書	①ゼミナール経営学入門 [新装版], 伊丹敬之・加護野忠男, 日本経済新聞出版, 2022 年 ②世界標準の経営理論, 入山章栄, ダイヤモンド社, 2019 年 ③ケースに学ぶ経営学 [第 3 版], 東北大学経営学グループ, 有斐閣, 2019 年 ④経営学入門 (ベーシック+), 藤田誠, 中央経済社, 2015 年 ⑤はじめての経営学, 日本大学商学部経営学科, 同文館出版, 2020 年	ISBN	①9784532135263 ②9784478109571 ③9784641184480 ④9784502133916 ⑤9784495390358
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	70
	その他（%）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	企業は経済学の分析対象でもあります。経営学の視点も学んでおけば、企業をより深く理解できるようになります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	・ガイダンス ・経営学とはどんな学問か：学問論について学びます。 ・会社の経営とはどんなことか：企業経営とは何かについて学びます。	【予習】テキスト第1章と Learning Portal に掲載する配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第2回	対面	会社はどのようにして社会に役立っているのか：企業とは何かについて学びます。	【予習】テキスト第2章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第3回	対面	会社は誰が動かしているのか：コーポレート・ガバナンスについて学びます。	【予習】テキスト第3章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第4回	対面	会社はどのような方針で動いているのか：経営理念と戦略について学びます。	【予習】テキスト第4章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第5回	対面	会社はどんな仕組みで動いているのか：組織形態について学びます。	【予習】テキスト第5章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第6回	対面	会社は他の会社とどのように協力しているのか：組織間関係について学びます。	【予習】テキスト第6章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第7回	対面	会社はどのようにしてモノを作るのか：生産管理について学びます。	【予習】テキスト第7章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第8回	対面	社員は仕事をどのように分担しているのか：組織構造と職務設計について学びます。	【予習】テキスト第8章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第9回	対面	社員はなぜ働くのか：モチベーションとリーダーシップについて学びます。	【予習】テキスト第9章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第10回	対面	社員はなぜ組織にとどまろうとするのか：雇用システムについて学びます。	【予習】テキスト第10章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第11回	対面	社員はどのような報酬を求めるのか：報酬制度について学びます。	【予習】テキスト第11章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た	4 時間

			知識を確認して下さい。	
第12回	対面	社員はどのようにして育てられるのか：人材育成制度について学びます。	【予習】テキスト第12章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4時間
第13回	対面	会社はどのようにして商品を提供するのか：マーケティングについて学びます。	【予習】テキスト第13章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4時間
第14回	対面	会社は海外でどのように経営しているのか：国際経営について学びます。	【予習】テキスト第14章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4時間
第15回	オンデマンド	定期試験に向けて、これまでの内容の総復習をオンデマンドで配信します。	【復習】オンデマンド動画を視聴した上で、これまでの学修内容の総復習を行ってください。	4時間

科目名	経済学部生のための経営学入門	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	渡邊 祐作	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	経営学の基礎を学ぶ		
授業の目的及び概要	この授業では、経営学を専門としない経済学部生にとって、最低限知っておくべき経営学の知識を学びます。 経営学は経営者のための学問、金儲けのための学問と誤解されることがあります。もちろん、使い方によってはそのために応用することも可能だと思います。しかし、経営学の本質は、人や（人が織りなす）組織について探究する学問であるということです。また、経営学のもう一つの重要な側面は、研究方法ではなく研究対象によって定義される学問であるということです。現代の経営学では、「そもそも人・組織はどのように物事を考え、どのように行動するのか」という根本原理に対して、主に経済学・心理学・社会学の 3 つの学問分野から理論を応用しています。 本講義では、「企業経営」という現象を多面的に捉え、その全体像を明らかにすることで、学際的な経営学の各トピックスを広く学修します。 講義では、実際の企業の具体例（ケース）や実証研究の結果を豊富に紹介することで、現実と理論がリンクしているという実感を得られるように心がけます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ 企業とはどういうものかを説明できる。 ・ 企業の戦略で必要な要素について説明できる。 ・ 企業のマネジメントで必要な要素について説明できる。 ・ 社会的存在としての企業のあり方について説明できる。 ・ 経営学の全体像とその位置づけを理解し、説明できる。 ・ 現実の企業や産業の事例を、経営学の視点で分析・考察できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシート、課題の結果については、授業内または Learning Portal でフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	経験から学ぶ経営学入門 [第 3 版], 上林憲雄・奥林康司・團 泰雄・開本浩矢・森田雅也・竹林 明・中村志保, 有斐閣, 2024 年	ISBN	9784641184725
参考書	①ゼミナール経営学入門 [新装版], 伊丹敬之・加護野忠男, 日本経済新聞出版, 2022 年 ②世界標準の経営理論, 入山章栄, ダイヤモンド社, 2019 年 ③ケースに学ぶ経営学 [第 3 版], 東北大学経営学グループ, 有斐閣, 2019 年 ④経営学入門 (ベーシック+), 藤田誠, 中央経済社, 2015 年 ⑤はじめての経営学, 日本大学商学部経営学科, 同文館出版, 2020 年	ISBN	①9784532135263 ②9784478109571 ③9784641184480 ④9784502133916 ⑤9784495390358
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	70
	その他（%）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	企業は経済学の分析対象でもあります。経営学の視点も学んでおけば、企業をより深く理解できるようになります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	・ガイダンス ・経営学とはどんな学問か：学問論について学びます。 ・会社の経営とはどんなことか：企業経営とは何かについて学びます。	【予習】テキスト第1章と Learning Portal に掲載する配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第2回	対面	会社はどのようにして社会に役立っているのか：企業とは何かについて学びます。	【予習】テキスト第2章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第3回	対面	会社は誰が動かしているのか：コーポレート・ガバナンスについて学びます。	【予習】テキスト第3章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第4回	対面	会社はどのような方針で動いているのか：経営理念と戦略について学びます。	【予習】テキスト第4章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第5回	対面	会社はどんな仕組みで動いているのか：組織形態について学びます。	【予習】テキスト第5章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第6回	対面	会社は他の会社とどのように協力しているのか：組織間関係について学びます。	【予習】テキスト第6章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第7回	対面	会社はどのようにしてモノを作るのか：生産管理について学びます。	【予習】テキスト第7章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第8回	対面	社員は仕事をどのように分担しているのか：組織構造と職務設計について学びます。	【予習】テキスト第8章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第9回	対面	社員はなぜ働くのか：モチベーションとリーダーシップについて学びます。	【予習】テキスト第9章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第10回	対面	社員はなぜ組織にとどまろうとするのか：雇用システムについて学びます。	【予習】テキスト第10章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4 時間
第11回	対面	社員はどのような報酬を求めるのか：報酬制度について学びます。	【予習】テキスト第11章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た	4 時間

			知識を確認して下さい。	
第12回	対面	社員はどのようにして育てられるのか：人材育成制度について学びます。	【予習】テキスト第12章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4時間
第13回	対面	会社はどのようにして商品を提供するのか：マーケティングについて学びます。	【予習】テキスト第13章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4時間
第14回	対面	会社は海外でどのように経営しているのか：国際経営について学びます。	【予習】テキスト第14章と配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】テキスト、配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認して下さい。	4時間
第15回	オンデマンド	定期試験に向けて、これまでの内容の総復習をオンデマンドで配信します。	【復習】オンデマンド動画を視聴した上で、これまでの学修内容の総復習を行ってください。	4時間

科目名	海外フィールドスタディ I		開講年度	2026 年度春学期
担当者	穴井 佑		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G1		授業方法	実習
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	日本以外の経済社会に対する関心と知識を高めるとともに、同世代の韓国人学生と交流し「気づき」を得る			
授業の目的及び概要	日本以外の経済社会を学び、日本の経済社会を相対化するとともに、両者を比較検討する。特に韓国と日本は相違点も多い一方、共通する課題も少なくない間柄である。これまでに学んできた基礎的な経済学の知識に、現地でのフィールドワークを行うなかで体感した知見を加えて、経済学部での学びを実践的な学問へと発展させる。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	（１）事前学習を通じて、韓国の政治、経済、文化、言語学び、理解を深める。 （２）韓国の経済社会が抱える問題と日本の経済社会が抱える問題を比較検討できるようになる。 （３）歴史・文化施設や世界遺産などを訪問することで、研修先の国の歴史と文化を肌で感じていくことで、その国の特徴や多様性を探る手掛かりを得る。 （４）現地での韓国語研修並びに、提携先大学生・留学生との交流を通して、異なる人々との協働を経験し、言語運用能力とコミュニケーション能力を向上させるとともに国際理解と国際性を涵養する。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	優秀なレポートや発表報告は授業中に紹介したり、良い質問や課題についてはディスカッションしていきます。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	テキスト指定は行いません。必要な資料を適宜配布します。		ISBN	なし
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		40	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		30	
	その他の内容		現地での研修評価	
この科目の受講にあたって	韓国の経済社会に対する興味・関心を広げ、自国の歴史・文化・社会について研修先国との歴史・文化・社会との相違から、多くの「気づき」を得てほしいと思います。そのためにも、学生はプログラムにおける積極性が強く求められ、どんどん見聞きし、経験していく姿勢が重要です。 日本ではなく、全く異なった歴史や文化背景をもつ国に行くことで、「日本」という枠組みから離れ「マイノリティー」になってみる。そうすることで文化とは何か、社会とは何かを、普段自分が当たり前と思っていた状況とは正反対の状況で考えることになります。危機管理や不慣れな状況を体験することで、国際感覚を研ぎ澄ますことが大切です。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	”プログラムの概要説明と意義と意図について理解 渡航に当たっての注意（危機管理オリエンテーション（ビザ情報含む）、 ・グループ分けと取り組む課題について話し合い、テーマや取り組み方を決める”	事後学修：韓国現代文化の特徴について調べ、自分の関心をまとめておく	2 時間
第2回	対面	現代韓国社会と文化について理解を深め、その発展の過程を考える	事前学修：現代韓国社会の特徴とアジアでの経済的発展について調べる 事後学修：世界的に流行する K カルチャーの強みや戦略について調べまとめておく	4 時間
第3回	対面	日本の近代化の歴史のなかで韓国がどのように扱われてきたかを学ぶ。また、戦後韓国の経済成長について学び、理解を深める。	事前学修：日本の近代化の歴史と戦後日本の経済成長について振り返っておく 事後学修：韓国と日本の近代化および経済成長について比較検討する	4 時間
第4回	対面	現地で訪問するジェトロ（日本貿易振興機構）ソウル事務所とジェトロの役割について学ぶ	事前学修：ジェトロの HP を確認しておく 事後学修：韓国でおこなれているジェトロの取り組みの一つを選び、内容をまとめる	4 時間
第5回	対面	中央銀行の役割と韓国銀行について学ぶ	事前学修：中央銀行の役割について振り返っておく 事後学修：現地で訪問予定の韓国銀行貨幣博物館について調べておく	4 時間
第6回	対面	現地での学修 フィールドワーク①	事前学修：課題の調査のための方法や情報を準備する 事後学修：今回得られた情報と知識についてまとめ、次のフィールドワークでの方法や目標を考える	4 時間
第7回	対面	現地での学修 ジェトロ訪問	事前学修：韓国や韓国に進出している日本企業の情報及びビジネス戦略について調べる 事後学修：現地学修や自分の課題の取り組みができていたかを振り返り、考えをまとめる	4 時間
第8回	対面	現地での学修 フィールドワーク②	事前学修：課題の調査のための方法や情報を準備する 事後学修：今回得られた情報と知識についてまとめ、次のフィールドワークでの方法や目標を考える	4 時間
第9回	対面	現地での学修 フィールドワーク③	事前学修：課題の調査のための方法や情報を準備する 事後学修：今回得られた情報と知識についてまとめ、次のフィールドワークでの方法や目標を考える	4 時間
第10回	対面	現地での学修 韓国銀行貨幣博物館訪問	事前学修：空港や市内の換金所のレートをチェックしておく 事後学修：為替や金融についての基礎知識を整理し、その中に訪問先で学んだ知見を加える	4 時間
第11回	対面	現地での学修 フィールドワーク④	事前学修：課題の調査のための方法や情報を準備する 事後学修：今回得られた情報と知識についてまとめ、次のフィールドワークでの方法や目標を考える	4 時間
第12回	対面	現地での学修 現地企業訪問	事前学修：訪問先の企業情報及びビジネス戦略について調べ、関連する日本企業との違いを把握。 事後学修：現地学修や自分の課題の取り組みができていたかを考え、企業訪問レポート作成	4 時間
第13回	対面	現地での学修 フィールドワーク⑤	事前学修：課題の調査のための方法や情報を準備する 事後学修：これまで得られた情報と知識についてまとめ、グループでプレゼン内容についてディスカッション	4 時間

第14回	対面	帰国後のグループワーク 課題発表のまとめ作業	事前学修：企業訪問レポートとグループ課題についてまとめておく。 事後学修：グループで討議した内容に基づいてプレゼン作成	6 時間
第15回	対面	成果発表 海外フィールドスタディについての成果 発表のフィードバックと総括	事前学修：これまでのグループで議論し作成した プレゼン資料等について読み返し、成果と課題について 明らかにしておく 事後学修：グループ課題発表を今後の自身の学修にどのように生かすかを考える	4 時間

科目名	海外フィールドスタディ I	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	畑野 吉則	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	実習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	訪問先での見学や視察及び同世代の現地学生との交流を通して、新たな「気づき」を得る		
授業の目的及び概要	経済学部では、グローバル経済と日本経済における諸課題を理解し解決策を提案する力（DP2）や、外国語・コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚（DP4）を、身につけることを DP に掲げている。本海外研修プログラムでは、NIEs の一員として韓国、香港、シンガポールと共に、急成長を遂げた台湾を取り上げ、その発展が可能となった経済的な要因を探っていくと共に、現在の経済の特徴並びにその課題と展望についても考察していく。国際社会の中でも本地域は独特な環境下にあることから、その台湾を取り巻く国際関係の変化の歴史を辿ることで、世界の中での現在の台湾の立ち位置も明らかにしていく。また、英語の学習や異なる人々との交流を通して、外国語の運用能力やコミュニケーション力の向上及び国際理解の促進も目指していく。さらに、「実学としての経済学」（DP3）にも直結する取り組みとして、経済や商業の現状が学べる公的機関への訪問、さらに現地の歴史や文化が学習できる施設の見学なども行い、参加者が肌で感じることが出来る貴重な経験も提供していく。こうした海外での異なる環境における学びと体験を通して、経済学的思考に更に磨きをかけ、幅広い経済社会の一員として行動できる能力を身につけていくこと（DP5）を、大きな目標に掲げている。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（１）台湾が一早く経済成長を遂げることができた要因や、国際社会での立ち位置の変化について、説明できるようになる。 （２）台湾の企業や商業施設、街並み等の現場に足を運び実体験を深める中で、現地の経済の状況や生活の様子についての肌感覚を得ることができる。 （３）台湾の歴史や文化に深く関連した様々な施設の見学やそこでの体験を通して、当該地域に対する認識と理解を広げ、興味と関心を深めることができる。 （４）語学研修及び提携先大学生との交流を通して、異文化の人々との協働を促し、言語運用能力とコミュニケーション能力の向上、並びに国際理解と国際性の涵養を図ることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	優秀なレポートや発表報告は授業中に紹介したり、良い質問や重要な課題については適宜取り上げて議論していく。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定のテキストはありません。必要な資料を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	40	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	現地での研修評価	

この科目の受講にあたって	世界に対する興味・関心を広げ、自国の政治経済・社会・歴史・文化について研修先国との相違から、多くの「気づき」を得てほしいと思います。そのためにも、参加学生にはプログラムにおける積極性が強く求められ、どんどん見聞きし、経験していく姿勢が重要となります。 日本ではなく、全く異なった政治経済制度や、社会慣習、歴史・文化的背景を持つ国や地域に行くことで、「日本」という枠組みから離れ「マイノリティー」になってみるのが可能となります。こうした経験を得ることで、普段の生活の中で自分が当たり前と思っていた、様々な制度や仕組み、習慣や考え方などについて、より広い視野で客観的に考えられるようになります。また、異国での不慣れな状況を体験していくにあたって、危機管理意識や国際感覚を研ぎ澄ましていくことも求められます。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	事前研修：第1回「オリエンテーション」 ・プログラムの説明（概要説明、単位認定、連絡手段、海外渡航の注意） ・自己紹介、アイスブレイキング	事後学修：訪問先の国や地域について調べ、自分の関心をまとめておく	2時間
第2回	オンデマンド	事前研修：第2回「台湾について」 ・台湾の概容と共に、その成り立ちや政治、経済、社会の主な特徴について学んでいく	事前学修：台湾の成り立ちや、政治、経済、社会の特徴について調べておく 事後学修：授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどを、ノートやファイルにまとめる等の作業を通して復習を行う	4時間
第3回	対面	事前研修：第3回「台湾を取り巻く国際関係の変遷について」 ・台湾は国際社会における立場がめまぐるしく変化してきていることから、その様相について学習していく	事前学修：台湾の国際社会での立ち位置について調べ考えておく 事後学修：授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどを、ノートやファイルにまとめる等の作業を通して復習を行う	4時間
第4回	対面	事前研修：第4回「台湾の経済発展について」 ・NIEsの一員として経済発展を成し遂げた要因と、現在直面している課題並びにその展望について考えていく	事前学修：台湾経済の発展の経緯とその施策について調べておく 事後学修：授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどを、ノートやファイルにまとめる等の作業を通して復習を行う	4時間
第5回	対面	事前研修：第5回「現地訪問先について」 ・各見学先の特徴や概容などを説明し、理解を深めておく	事前学修：訪問先の情報について収集し理解を深めておく 事後学修：授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどを、ノートやファイルにまとめる等の作業を通して復習を行う	4時間
第6回	対面	現地での学修① 英語研修、交流事務所への訪問、文化施設の見学	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく 事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	4時間
第7回	対面	現地での学修② 英語研修、研究所への訪問及び研究員による講義	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく 事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	4時間
第8回	対面	現地での学修③ 英語研修、現地学生との交流	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく 事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	4時間
第9回	対面	現地での学修④ 英語研修、歴史・文化施設の見学	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく	4時間

			事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	
第10回	対面	現地での学修⑤ 英語研修、政府関連施設並びに歴史研究機関への訪問	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく 事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	4 時間
第11回	対面	現地での学修⑥ 文化体験、商業施設の視察	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく 事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	4 時間
第12回	対面	現地での学修⑦ 主要観光施設の見学、地方視察	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく 事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	4 時間
第13回	対面	現地での学修⑧ 英語研修、現地学生との交流	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく 事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	4 時間
第14回	対面	事後研修：第1回「現地渡航の振り返り」と「報告資料の作成」 ・現地研修からの学びと気づきなどについての議論を通して、成果や課題などについて整理する ・発表の構成と内容を考え、学修成果の報告に向けてパワーポイント資料を作成する	事前学修：現地研修で学んだこと気づいたことなどについてまとめておく 事後学修：グループで討議した内容に基づいてプレゼン資料を作成する	6 時間
第15回	対面	事後研修：第2回「発表・報告」 ・海外フィールドスタディを通じての学修成果について、プレゼンテーションを行う	事前学修：作成したプレゼン資料等を読み返し、成果と課題について明らかにしておく 事後学修：今回の海外フィールドスタディでの経験を、今後の自身の学修にどのように生かすかを考える	4 時間

科目名	海外フィールドスタディ I	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	畑佐 伸英	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	実習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	訪問先での見学や視察及び同世代の現地学生との交流を通して、新たな「気づき」を得る		
授業の目的及び概要	経済学部では、グローバル経済と日本経済における諸課題を理解し解決策を提案する力（DP2）や、外国語・コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚（DP4）を、身につけることを DP に掲げている。本海外研修プログラムでは、ASEAN 経済の中でもその一翼を担う存在として、模範的な繁栄を遂げてきた多民族国家であるマレーシアの特徴や社会経済の学習を通して、その経済発展の過程において日本がどのように関わってきたのか、そして、他の ASEAN 各国との類似点や相違点は何なのかを明らかにしながら、マレーシアが現在直面する課題やその解決策について探究する機会としていく。また、英語の学習や異なる人々との交流を通して、外国語の運用能力やコミュニケーション力の向上及び国際理解の促進も目指していく。さらに、「実学としての経済学」（DP3）にも直結する取り組みとして、経済やビジネスの実態が学べる公的機関や企業への訪問、さらに現地文化に基づいた金融や食品のあり方が垣間見える施設の見学なども行い、マレーシアの社会経済の現状を実感できる経験も提供していく。こうした海外での異なる環境における学びと体験を通して、経済学的思考に更に磨きをかけ、幅広い経済社会の一員として行動できる能力を身につけていくこと（DP5）を、大きな目標に掲げている。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（１）マレーシアの経済発展の経緯や、日本や ASEAN との関係性、現在の経済情勢並びに社会状況について、説明できるようになる。 （２）マレーシアのビジネスや商業の現場を訪問して、実際の様子を見聞きすることで、現在の同国の経済状況や市場の動向について、その一端を垣間見ることができる。 （３）現地の社会や文化に関連した施設の見学や視察を通して、その国に対する認識と理解を深めることができる。 （４）語学研修及び提携先大学生との交流を通して、異文化の人々との協働を促し、言語運用能力とコミュニケーション能力の向上、並びに国際理解と国際性の涵養を図ることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	優秀なレポートや発表報告は授業中に紹介したり、良い質問や重要な課題については適宜取り上げて議論していく。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定のテキストはありません。必要な資料を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	40	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	現地での研修評価	

この科目の受講にあたって	世界に対する興味・関心を広げ、自国の政治経済・社会・歴史・文化について研修先国との相違から、多くの「気づき」を得てほしいと思います。そのためにも、参加学生にはプログラムにおける積極性が強く求められ、どんどん見聞きし、経験していく姿勢が重要となります。 日本ではなく、全く異なった政治経済制度や、社会慣習、歴史・文化的背景を持つ国や地域に行くことで、「日本」という枠組みから離れ「マイノリティー」になってみるのが可能となります。こうした経験を得ることで、普段の生活の中で自分が当たり前と思っていた、様々な制度や仕組み、習慣や考え方などについて、より広い視野で客観的に考えられるようになります。また、異国での不慣れな状況を体験していくにあたって、危機管理意識や国際感覚を研ぎ澄ましていくことも求められます。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	事前研修：第1回「オリエンテーション」 ・プログラムの説明（概要説明、単位認定、連絡手段、海外渡航の注意） ・自己紹介、アイスブレーキング	事後学修：訪問先の国や地域について調べ、自分の関心をまとめておく	2時間
第2回	オンデマンド	事前研修：第2回「ASEANについて」 ・ASEANの概容と共に、その中のマレーシアの立ち位置や役割などについて学習していく	事前学修：ASEANの成立過程や、その組織の特徴について調べておく 事後学修：授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどを、ノートやファイルにまとめる等の作業を通して復習を行う	4時間
第3回	対面	事前研修：第3回「マレーシアについて」 ・多民族国家であるマレーシアの成り立ちや、その政治、経済、社会の特徴について学んでいく	事前学修：マレーシアの国家の歴史や、政治、経済、社会の特徴について調べておく 事後学修：授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどを、ノートやファイルにまとめる等の作業を通して復習を行う	4時間
第4回	対面	事前研修：第4回「マレーシアの経済発展について」 ・経済成長の経緯と日本との関係、並びに直面する社会経済上の課題について、明らかにしていく	事前学修：マレーシア経済の発展の軌跡とその施策について調べておく 事後学修：授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどを、ノートやファイルにまとめる等の作業を通して復習を行う	4時間
第5回	対面	事前研修：第5回「現地訪問先について」 ・各見学先の特徴や概容などを説明し、理解を深めておく	事前学修：訪問先の情報について収集し理解を深めておく 事後学修：授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどを、ノートやファイルにまとめる等の作業を通して復習を行う	4時間
第6回	対面	事前研修：第6回「出発前確認」 ・これまで学習してきた内容を整理すると共に、渡航に向けた準備を万全と進めていく	事前学修：これまでの事前研修の内容を整理し、訪問先の情報や渡航に際しての注意事項、持ち物などについて再確認しておく 事後学修：授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどを、ノートやファイルにまとめる等の作業を通して復習を行う	4時間
第7回	対面	現地での学修① 現地学生との交流、マレーシアと日本の文化紹介	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく 事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	4時間
第8回	対面	現地での学修② 行政都市の視察、文化施設の見学	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく 事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	4時間
第9回	対面	現地での学修③ 多文化共生の探究、フィールドワークの実施	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく	4時間

			事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	
第10回	対面	現地での学修④ 日本の現地援助機関への訪問、クアラルンプール市内の視察	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく 事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	4 時間
第11回	対面	現地での学修⑤ 世界遺産の見学、異文化体験、地方視察	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく 事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	4 時間
第12回	対面	現地での学修⑥ 商業施設の視察、閉会式、現地学生との交流	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく 事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	4 時間
第13回	対面	事後研修：第1回「現地渡航の振り返り」・現地研修からの学びと気づきなどについての議論を通して、成果や課題などについて整理する	事前学修：全体の研修内容を振り返って、学んだことや印象に残ったこと、得られた気づきなどについて整理しておく 事後学修：現地研修を振り返りながら、今回のプロジェクトの成果をどのような形で報告していくのかを考えておく	4 時間
第14回	対面	事後研修：第2回「報告資料の作成」・発表の構成と内容を考え、学修成果の報告に向けてパワーポイント資料を作成する	事前学修：現地研修で学んだこと気づいたことなどについてまとめておく 事後学修：グループで討議した内容に基づいてプレゼン資料を完成させる	6 時間
第15回	対面	事後研修：第3回「発表・報告」・海外フィールドスタディを通じての学修成果について、プレゼンテーションを行う	事前学修：作成したプレゼン資料等を読み返し、成果と課題について明らかにしておく 事後学修：今回の海外フィールドスタディでの経験を、今後の自身の学修にどのように生かすかを考える	4 時間

科目名	海外フィールドスタディⅡ		開講年度	2026 年度春学期
担当者	穴井 佑		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G1		授業方法	実習
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	日本以外の経済社会に対する関心と知識を高めめるとともに、同世代の韓国人学生と交流し「気づき」を得る			
授業の目的及び概要	日本以外の経済社会を学び、日本の経済社会を相対化するとともに、両者を比較検討する。特に韓国と日本は相違点も多い一方、共通する課題も少なくない間柄である。これまでに学んできた基礎的な経済学の知識に、現地でのフィールドワークを行うなかで体感した知見を加えて、経済学部での学びを実践的な学問へと発展させる。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	（１）事前学習を通じて、韓国の政治、経済、文化、言語学び、理解を深める。 （２）韓国の経済社会が抱える問題と日本の経済社会が抱える問題を比較検討できるようになる。 （３）歴史・文化施設や世界遺産などを訪問することで、研修先の国の歴史と文化を肌で感じていくことで、その国の特徴や多様性を探る手掛かりを得る。 （４）現地での韓国語研修並びに、提携先大学生・留学生との交流を通して、異なる人々との協働を経験し、言語運用能力とコミュニケーション能力を向上させるとともに国際理解と国際性を涵養する。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	優秀なレポートや発表報告は授業中に紹介したり、良い質問や課題についてはディスカッションしていきます。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	テキスト指定は行いません。必要な資料を適宜配布します。		ISBN	なし
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		40	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		30	
	その他の内容		現地での研修評価	
この科目の受講にあたって	韓国の経済社会に対する興味・関心を広げ、自国の歴史・文化・社会について研修先国との歴史・文化・社会との相違から、多くの「気づき」を得てほしいと思います。そのためにも、学生はプログラムにおける積極性が強く求められ、どんどん見聞きし、経験していく姿勢が重要です。 日本ではなく、全く異なった歴史や文化背景をもつ国に行くことで、「日本」という枠組みから離れ「マイノリティー」になってみる。そうすることで文化とは何か、社会とは何かを、普段自分が当たり前と思っていた状況とは正反対の状況で考えることになります。危機管理や不慣れな状況を体験することで、国際感覚を研ぎ澄ますことが大切です。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	”プログラムの概要説明と意義と意図について理解 渡航に当たっての注意（危機管理オリエンテーション（ビザ情報含む）、 ・グループ分けと取り組む課題について話し合い、テーマや取り組み方を決める”	事後学修：韓国現代文化の特徴について調べ、自分の関心をまとめておく	2 時間
第2回	対面	現代韓国社会と文化について理解を深め、その発展の過程を考える	事前学修：現代韓国社会の特徴とアジアでの経済的発展について調べる 事後学修：世界的に流行する K カルチャーの強みや戦略について調べまとめておく	4 時間
第3回	対面	日本の近代化の歴史のなかで韓国がどのように扱われてきたかを学ぶ。また、戦後韓国の経済成長について学び、理解を深める。	事前学修：日本の近代化の歴史と戦後日本の経済成長について振り返っておく 事後学修：韓国と日本の近代化および経済成長について比較検討する	4 時間
第4回	対面	現地で訪問するジェットロ（日本貿易振興機構）ソウル事務所とジェットロの役割について学ぶ	事前学修：ジェットロの HP を確認しておく 事後学修：韓国でおこなれているジェットロの取り組みの一つを選び、内容をまとめる	4 時間
第5回	対面	中央銀行の役割と韓国銀行について学ぶ	事前学修：中央銀行の役割について振り返っておく 事後学修：現地で訪問予定の韓国銀行貨幣博物館について調べておく	4 時間
第6回	対面	現地での学修 フィールドワーク①	事前学修：課題の調査のための方法や情報を準備する 事後学修：今回得られた情報と知識についてまとめ、次のフィールドワークでの方法や目標を考える	4 時間
第7回	対面	現地での学修 ジェットロ訪問	事前学修：韓国や韓国に進出している日本企業の情報及びビジネス戦略について調べる 事後学修：現地学修や自分の課題の取り組みができていたかを振り返り、考えをまとめる	4 時間
第8回	対面	現地での学修 フィールドワーク②	事前学修：課題の調査のための方法や情報を準備する 事後学修：今回得られた情報と知識についてまとめ、次のフィールドワークでの方法や目標を考える	4 時間
第9回	対面	現地での学修 フィールドワーク③	事前学修：課題の調査のための方法や情報を準備する 事後学修：今回得られた情報と知識についてまとめ、次のフィールドワークでの方法や目標を考える	4 時間
第10回	対面	現地での学修 韓国銀行貨幣博物館訪問	事前学修：空港や市内の換金所のレートをチェックしておく 事後学修：為替や金融についての基礎知識を整理し、その中に訪問先で学んだ知見を加える	4 時間
第11回	対面	現地での学修 フィールドワーク④	事前学修：課題の調査のための方法や情報を準備する 事後学修：今回得られた情報と知識についてまとめ、次のフィールドワークでの方法や目標を考える	4 時間
第12回	対面	現地での学修 現地企業訪問	事前学修：訪問先の企業情報及びビジネス戦略について調べ、関連する日本企業との違いを把握。 事後学修：現地学修や自分の課題の取り組みができていたかを考え、企業訪問レポート作成	4 時間
第13回	対面	現地での学修 フィールドワーク⑤	事前学修：課題の調査のための方法や情報を準備する 事後学修：これまで得られた情報と知識についてまとめ、グループでプレゼン内容についてディスカッション	4 時間

第14回	対面	帰国後のグループワーク 課題発表のまとめ作業	事前学修：企業訪問レポートとグループ課題についてまとめておく。 事後学修：グループで討議した内容に基づいてプレゼン作成	6 時間
第15回	対面	成果発表 海外フィールドスタディについての成果 発表のフィードバックと総括	事前学修：これまでのグループで議論し作成した プレゼン資料等について読み返し、成果と課題について 明らかにしておく 事後学修：グループ課題発表を今後の自身の学修にどのように生かすかを考える	4 時間

科目名	海外フィールドスタディⅡ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	畑野 吉則	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	実習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	訪問先での見学や視察及び同世代の現地学生との交流を通して、新たな「気づき」を得る		
授業の目的及び概要	経済学部では、グローバル経済と日本経済における諸課題を理解し解決策を提案する力（DP2）や、外国語・コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚（DP4）を、身につけることを DP に掲げている。本海外研修プログラムでは、NIEs の一員として韓国、香港、シンガポールと共に、急成長を遂げた台湾を取り上げ、その発展が可能となった経済的な要因を探っていくと共に、現在の経済の特徴並びにその課題と展望についても考察していく。国際社会の中でも本地域は独特な環境下にあることから、その台湾を取り巻く国際関係の変化の歴史を辿ることで、世界の中での現在の台湾の立ち位置も明らかにしていく。また、英語の学習や異なる人々との交流を通して、外国語の運用能力やコミュニケーション力の向上及び国際理解の促進も目指していく。さらに、「実学としての経済学」（DP3）にも直結する取り組みとして、経済や商業の現状が学べる公的機関への訪問、さらに現地の歴史や文化が学習できる施設の見学なども行い、参加者が肌で感じることが出来る貴重な経験も提供していく。こうした海外での異なる環境における学びと体験を通して、経済学的思考に更に磨きをかけ、幅広い経済社会の一員として行動できる能力を身につけていくこと（DP5）を、大きな目標に掲げている。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（１）台湾が一早く経済成長を遂げることができた要因や、国際社会での立ち位置の変化について、説明できるようになる。 （２）台湾の企業や商業施設、街並み等の現場に足を運び実体験を深める中で、現地の経済の状況や生活の様子についての肌感覚を得ることができる。 （３）台湾の歴史や文化に深く関連した様々な施設の見学やそこでの体験を通して、当該地域に対する認識と理解を広げ、興味と関心を深めることができる。 （４）語学研修及び提携先大学生との交流を通して、異文化の人々との協働を促し、言語運用能力とコミュニケーション能力の向上、並びに国際理解と国際性の涵養を図ることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	優秀なレポートや発表報告は授業中に紹介したり、良い質問や重要な課題については適宜取り上げて議論していく。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定のテキストはありません。必要な資料を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	40	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	現地での研修評価	

この科目の受講にあたって	世界に対する興味・関心を広げ、自国の政治経済・社会・歴史・文化について研修先国との相違から、多くの「気づき」を得てほしいと思います。そのためにも、参加学生にはプログラムにおける積極性が強く求められ、どんどん見聞きし、経験していく姿勢が重要となります。 日本ではなく、全く異なった政治経済制度や、社会慣習、歴史・文化的背景を持つ国や地域に行くことで、「日本」という枠組みから離れ「マイノリティー」になってみるのが可能となります。こうした経験を得ることで、普段の生活の中で自分が当たり前と思っていた、様々な制度や仕組み、習慣や考え方などについて、より広い視野で客観的に考えられるようになります。また、異国での不慣れな状況を体験していくにあたって、危機管理意識や国際感覚を研ぎ澄ましていくことも求められます。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	事前研修：第1回「オリエンテーション」 ・プログラムの説明（概要説明、単位認定、連絡手段、海外渡航の注意） ・自己紹介、アイスブレイキング	事後学修：訪問先の国や地域について調べ、自分の関心をまとめておく	2時間
第2回	オンデマンド	事前研修：第2回「台湾について」 ・台湾の概容と共に、その成り立ちや政治、経済、社会の主な特徴について学んでいく	事前学修：台湾の成り立ちや、政治、経済、社会の特徴について調べておく 事後学修：授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどを、ノートやファイルにまとめる等の作業を通して復習を行う	4時間
第3回	対面	事前研修：第3回「台湾を取り巻く国際関係の変遷について」 ・台湾は国際社会における立場がめまぐるしく変化してきていることから、その様相について学習していく	事前学修：台湾の国際社会での立ち位置について調べ考えておく 事後学修：授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどを、ノートやファイルにまとめる等の作業を通して復習を行う	4時間
第4回	対面	事前研修：第4回「台湾の経済発展について」 ・NIEsの一員として経済発展を成し遂げた要因と、現在直面している課題並びにその展望について考えていく	事前学修：台湾経済の発展の経緯とその施策について調べておく 事後学修：授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどを、ノートやファイルにまとめる等の作業を通して復習を行う	4時間
第5回	対面	事前研修：第5回「現地訪問先について」 ・各見学先の特徴や概容などを説明し、理解を深めておく	事前学修：訪問先の情報について収集し理解を深めておく 事後学修：授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどを、ノートやファイルにまとめる等の作業を通して復習を行う	4時間
第6回	対面	現地での学修① 英語研修、交流事務所への訪問、文化施設の見学	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく 事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	4時間
第7回	対面	現地での学修② 英語研修、研究所への訪問及び研究員による講義	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく 事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	4時間
第8回	対面	現地での学修③ 英語研修、現地学生との交流	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく 事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	4時間
第9回	対面	現地での学修④ 英語研修、歴史・文化施設の見学	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく	4時間

			事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	
第10回	対面	現地での学修⑤ 英語研修、政府関連施設並びに歴史研究機関への訪問	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく 事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	4 時間
第11回	対面	現地での学修⑥ 文化体験、商業施設の視察	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく 事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	4 時間
第12回	対面	現地での学修⑦ 主要観光施設の見学、地方視察	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく 事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	4 時間
第13回	対面	現地での学修⑧ 英語研修、現地学生との交流	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく 事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	4 時間
第14回	対面	事後研修：第1回「現地渡航の振り返り」と「報告資料の作成」 ・現地研修からの学びと気づきなどについての議論を通して、成果や課題などについて整理する ・発表の構成と内容を考え、学修成果の報告に向けてパワーポイント資料を作成する	事前学修：現地研修で学んだこと気づいたことなどについてまとめておく 事後学修：グループで討議した内容に基づいてプレゼン資料を作成する	6 時間
第15回	対面	事後研修：第2回「発表・報告」 ・海外フィールドスタディを通じての学修成果について、プレゼンテーションを行う	事前学修：作成したプレゼン資料等を読み返し、成果と課題について明らかにしておく 事後学修：今回の海外フィールドスタディでの経験を、今後の自身の学修にどのように生かすかを考える	4 時間

科目名	海外フィールドスタディⅡ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	畑佐 伸英	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	実習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	訪問先での見学や視察及び同世代の現地学生との交流を通して、新たな「気づき」を得る		
授業の目的及び概要	経済学部では、グローバル経済と日本経済における諸課題を理解し解決策を提案する力（DP2）や、外国語・コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚（DP4）を、身につけることを DP に掲げている。本海外研修プログラムでは、ASEAN 経済の中でもその一翼を担う存在として、模範的な繁栄を遂げてきた多民族国家であるマレーシアの特徴や社会経済の学習を通して、その経済発展の過程において日本がどのように関わってきたのか、そして、他の ASEAN 各国との類似点や相違点は何なのかを明らかにしながら、マレーシアが現在直面する課題やその解決策について探究する機会としていく。また、英語の学習や異なる人々との交流を通して、外国語の運用能力やコミュニケーション力の向上及び国際理解の促進も目指していく。さらに、「実学としての経済学」（DP3）にも直結する取り組みとして、経済やビジネスの実態が学べる公的機関や企業への訪問、さらに現地文化に基づいた金融や食品のあり方が垣間見える施設の見学なども行い、マレーシアの社会経済の現状を実感できる経験も提供していく。こうした海外での異なる環境における学びと体験を通して、経済学的思考に更に磨きをかけ、幅広い経済社会の一員として行動できる能力を身につけていくこと（DP5）を、大きな目標に掲げている。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（１）マレーシアの経済発展の経緯や、日本や ASEAN との関係性、現在の経済情勢並びに社会状況について、説明できるようになる。 （２）マレーシアのビジネスや商業の現場を訪問して、実際の様子を見聞きすることで、現在の同国の経済状況や市場の動向について、その一端を垣間見ることができる。 （３）現地の社会や文化に関連した施設の見学や視察を通して、その国に対する認識と理解を深めることができる。 （４）語学研修及び提携先大学生との交流を通して、異文化の人々との協働を促し、言語運用能力とコミュニケーション能力の向上、並びに国際理解と国際性の涵養を図ることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	優秀なレポートや発表報告は授業中に紹介したり、良い質問や重要な課題については適宜取り上げて議論していく。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定のテキストはありません。必要な資料を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	40	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	現地での研修評価	

この科目の受講にあたって	世界に対する興味・関心を広げ、自国の政治経済・社会・歴史・文化について研修先国との相違から、多くの「気づき」を得てほしいと思います。そのためにも、参加学生にはプログラムにおける積極性が強く求められ、どんどん見聞きし、経験していく姿勢が重要となります。 日本ではなく、全く異なった政治経済制度や、社会慣習、歴史・文化的背景を持つ国や地域に行くことで、「日本」という枠組みから離れ「マイノリティー」になってみるのが可能となります。こうした経験を得ることで、普段の生活の中で自分が当たり前と思っていた、様々な制度や仕組み、習慣や考え方などについて、より広い視野で客観的に考えられるようになります。また、異国での不慣れな状況を体験していくにあたって、危機管理意識や国際感覚を研ぎ澄ましていくことも求められます。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	事前研修：第1回「オリエンテーション」 ・プログラムの説明（概要説明、単位認定、連絡手段、海外渡航の注意） ・自己紹介、アイスブレイキング	事後学修：訪問先の国や地域について調べ、自分の関心をまとめておく	2時間
第2回	オンデマンド	事前研修：第2回「ASEANについて」 ・ASEANの概念と共に、その中のマレーシアの立ち位置や役割などについて学習していく	事前学修：ASEANの成立過程や、その組織の特徴について調べておく 事後学修：授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどを、ノートやファイルにまとめる等の作業を通して復習を行う	4時間
第3回	対面	事前研修：第3回「マレーシアについて」 ・多民族国家であるマレーシアの成り立ちや、その政治、経済、社会の特徴について学んでいく	事前学修：マレーシアの国家の歴史や、政治、経済、社会の特徴について調べておく 事後学修：授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどを、ノートやファイルにまとめる等の作業を通して復習を行う	4時間
第4回	対面	事前研修：第4回「マレーシアの経済発展について」 ・経済成長の経緯と日本との関係、並びに直面する社会経済上の課題について、明らかにしていく	事前学修：マレーシア経済の発展の軌跡とその施策について調べておく 事後学修：授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどを、ノートやファイルにまとめる等の作業を通して復習を行う	4時間
第5回	対面	事前研修：第5回「現地訪問先について」 ・各見学先の特徴や概容などを説明し、理解を深めておく	事前学修：訪問先の情報について収集し理解を深めておく 事後学修：授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどを、ノートやファイルにまとめる等の作業を通して復習を行う	4時間
第6回	対面	事前研修：第6回「出発前確認」 ・これまで学習してきた内容を整理すると共に、渡航に向けた準備を万全と進めていく	事前学修：これまでの事前研修の内容を整理し、訪問先の情報や渡航に際しての注意事項、持ち物などについて再確認しておく 事後学修：授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどを、ノートやファイルにまとめる等の作業を通して復習を行う	4時間
第7回	対面	現地での学修① 現地学生との交流、マレーシアと日本の文化紹介	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく 事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	4時間
第8回	対面	現地での学修② 行政都市の視察、文化施設の見学	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく 事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	4時間
第9回	対面	現地での学修③ 多文化共生の探究、フィールドワークの実施	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく	4時間

			事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	
第10回	対面	現地での学修④ 日本の現地援助機関への訪問、クアラルンプール市内の視察	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく 事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	4 時間
第11回	対面	現地での学修⑤ 世界遺産の見学、異文化体験、地方視察	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく 事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	4 時間
第12回	対面	現地での学修⑥ 商業施設の視察、閉会式、現地学生との交流	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく 事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	4 時間
第13回	対面	事後研修：第1回「現地渡航の振り返り」・現地研修からの学びと気づきなどについての議論を通して、成果や課題などについて整理する	事前学修：全体の研修内容を振り返って、学んだことや印象に残ったこと、得られた気づきなどについて整理しておく 事後学修：現地研修を振り返りながら、今回のプロジェクトの成果をどのような形で報告していくのかを考えておく	4 時間
第14回	対面	事後研修：第2回「報告資料の作成」・発表の構成と内容を考え、学修成果の報告に向けてパワーポイント資料を作成する	事前学修：現地研修で学んだこと気づいたことなどについてまとめておく 事後学修：グループで討議した内容に基づいてプレゼン資料を完成させる	6 時間
第15回	対面	事後研修：第3回「発表・報告」・海外フィールドスタディを通じての学修成果について、プレゼンテーションを行う	事前学修：作成したプレゼン資料等を読み返し、成果と課題について明らかにしておく 事後学修：今回の海外フィールドスタディでの経験を、今後の自身の学修にどのように生かすかを考える	4 時間

科目名	Practical Business English I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	宋 南先	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	英語を通してビジネスに必要な知識、教養を学ぶ。 ビジネスに必要な英語の読解力、語彙力、コミュニケーションスキルを身に着ける。		
授業の目的及び概要	本授業では、ビジネスに関する様々なアーティクルを読み、現代社会におけるビジネスに必要な知識・教養を英語を通して学ぶ。 また、ビジネスの場における英語コミュニケーションに必要な基礎英語力（語彙・文法・構文・表現）を養うことを目的とする。ビジネスシーンで頻繁に使用される英語表現、文法構造を理解し、正確な英語コミュニケーション能力を養う。		
履修条件・留意点	春学期の Practical Business English I と 秋学期の Practical Business EnglishⅡは連動しております。両方とも履修することが望ましいです。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 英語を通してビジネスに必要な知識・素養を学ぶ。 ② ビジネスに必要な英語の読解力、語彙力、コミュニケーションスキルを身に着ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業や課題のフィードバックは、授業時間内に適宜行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①Business Sense , Andrew E. Bennett 著, 南雲堂, 2015 年	ISBN	①9784523177425
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	30	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	母語が日本語でない受講者は、日本語能力 N2 以上あることが望ましいです。また、春学期の Practical Business English I と 秋学期の Practical Business EnglishⅡは連動しており、両方とも履修することが望ましいです。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	Introduction: 受講上の留意点、授業内容、授業の進め方	課題と予習	2 時間
第 2 回	対面	Lesson 1: An Express Courier Legend アーティクルを読み、英語での質疑応答を通して内容の理解、語彙の理解を深める。	予習と課題	4 時間

第3回	対面	Lesson 1: An Express Courier Legend トピックについてのリスニング課題、語彙の応用、ディスカッションを行う。	課題と予習。	4 時間
第4回	対面	Lesson 2: The student Who Started Google アートを読み、英語での質疑応答を通して内容の理解、語彙の理解を深める。	課題と予習	4 時間
第5回	対面	Lesson 2: The student Who Started Google トピックについてのリスニング課題、語彙の応用、ディスカッションを行う。	課題と予習	4 時間
第6回	対面	Lesson 3: Emotional Intelligence in the workplace アートを読み、英語での質疑応答を通して内容の理解、語彙の理解を深める。	課題と予習	4 時間
第7回	対面	Lesson 3: Emotional Intelligence in the workplace トピックについてのリスニング課題、語彙の応用、ディスカッションを行う。	課題と予習	4 時間
第8回	対面	Lesson 4: Toyota – R&D Powerhouse アートを読み、英語での質疑応答を通して内容の理解、語彙の理解を深める。	課題と予習	4 時間
第9回	対面	Lesson 4: Toyota – R&D Powerhouse トピックについてのリスニング課題、語彙の応用、ディスカッションを行う。	課題と予習	4 時間
第10回	対面	Lesson 5: Michael E. Porter – Management Guru アートを読み、英語での質疑応答を通して内容の理解、語彙の理解を深める。	課題と予習	4 時間
第11回	対面	Lesson 5: Michael E. Porter – Management Guru トピックについてのリスニング課題、語彙の応用、ディスカッションを行う。	課題と予習	4 時間
第12回	対面	Lesson 6: Harley-Davidson – A legend Rolls on アートを読み、英語での質疑応答を通して内容の理解、語彙の理解を深める。	課題と予習	4 時間
第13回	対面	Lesson 6: Harley-Davidson – A legend Rolls on トピックについてのリスニング課題、語彙の応用、ディスカッションを行う。	課題と予習	4 時間
第14回	対面	Lesson 7: Sporting Troubles – The Financial Fall of Leeds United アートを読み、英語での質疑応答を通して内容の理解、語彙の理解を深める。	課題と予習	4 時間
第15回	オンデマンド	Lesson 7: Sporting Troubles – The Financial Fall of Leeds United トピックについてのリスニング課題、語彙の応用、ディスカッションを行う。	・今学期の全ての授業内容を振り返り、授業中に取ったノート内容を参考に纏めて整理する。 ・今学期の全ての授業内容を振り返り、自分が強化すべき項目を確認して今後の課題とする。 ・返却された今学期全ての課題を見直し、今後取り組むべき項目を認識する。	6 時間

科目名	Practical Business English II		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	宋 南先		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目			
テーマ	英語を通してビジネスに必要な知識、教養を学ぶ。 ビジネスに必要な英語の読解力、語彙力、コミュニケーションスキルを身に着ける。			
授業の目的及び概要	本授業では、ビジネスに関する様々なアーティクルを読み、現代社会におけるビジネスに必要な知識・教養を英語を通して学ぶ。 また、ビジネスの場における英語コミュニケーションに必要な基礎英語力（語彙・文法・構文・表現）を養うことを目的とする。ビジネスシーンで頻繁に使用される英語表現、文法構造を理解し、正確な英語コミュニケーション能力を養う。			
履修条件・留意点	Practical Business English I に続き講義を行います。Practical Business English I を履修していることが望ましいです。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	① 英語を通してビジネスに必要な知識・素養を学ぶ。 ② ビジネスに必要な英語の読解力、語彙力、コミュニケーションスキルを身に着ける。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業や課題のフィードバックは、授業時間内に適宜行う。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	①Business Sense , Andrew E. Bennett 著, 南雲堂, 2015 年		ISBN	①9784523177425
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		30	
	成果発表（口頭・実技）		40	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	母語が日本語でない受講者は、日本語能力 N2 以上あることが望ましいです。また、春学期の Practical Business English I と 秋学期の Practical Business English II は連動しており、両方とも履修することが望ましいです。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	Introduction: 受講上の留意点、授業内容、授業の進め方	課題と予習	4 時間
第 2 回	対面	Lesson 8: Women in Business アーティクルを読み、英語での質疑応答を通して内容の理解、語彙の理解を深める。	課題と予習	4 時間

第3回	対面	Lesson 8: Women in Business トピックについてのリスニング課題、語彙の応用、ディスカッションを行う。	課題と予習	4 時間
第4回	対面	Lesson 9: Fighting African Poverty with Cell Phones アーティクルを読み、英語での質疑応答を通して内容の理解、語彙の理解を深める。	課題と予習	4 時間
第5回	対面	Lesson 9: Fighting African Poverty with Cell Phones トピックについてのリスニング課題、語彙の応用、ディスカッションを行う。	課題と予習	4 時間
第6回	対面	Lesson 10: The Creative Vision of Walt Disney アーティクルを読み、英語での質疑応答を通して内容の理解、語彙の理解を深める。	課題と予習	4 時間
第7回	対面	Lesson 10: The Creative Vision of Walt Disney トピックについてのリスニング課題、語彙の応用、ディスカッションを行う。	課題と予習	4 時間
第8回	対面	Lesson 11: Tata - India's Mega Group アーティクルを読み、英語での質疑応答を通して内容の理解、語彙の理解を深める。	課題と予習	4 時間
第9回	対面	Lesson 11: Tata - India's Mega Group トピックについてのリスニング課題、語彙の応用、ディスカッションを行う。	課題と予習	4 時間
第10回	対面	Lesson 12: Big Banks, Big Problems アーティクルを読み、英語での質疑応答を通して内容の理解、語彙の理解を深める。	課題と予習	4 時間
第11回	対面	Lesson 12: Big Banks, Big Problems トピックについてのリスニング課題、語彙の応用、ディスカッションを行う。	課題と予習	4 時間
第12回	対面	Lesson 13. The Spending Habits of the Super Rich アーティクルを読み、英語での質疑応答を通して内容の理解、語彙の理解を深める。	課題と予習	4 時間
第13回	対面	Lesson 13. The Spending Habits of the Super Rich トピックについてのリスニング課題、語彙の応用、ディスカッションを行う。	課題と予習	4 時間
第14回	対面	Lesson 14: The Story of Marvel Comics アーティクルを読み、英語での質疑応答を通して内容の理解、語彙の理解を深める。	課題と予習	4 時間
第15回	オンライン オンデマンド	Lesson 14: The Story of Marvel Comics トピックについてのリスニング課題、語彙の応用、ディスカッションを行う。	事後学修	2 時間

科目名	Economic Issues in English I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	グスタボ・バルダス	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	英語で経済動向と金融市場（株式市場、貸出市場、債券市場）について勉強する。		
授業の目的及び概要	この授業は英語で行われる。この科目の主な目的は、マクロ経済の動きと企業のビジネスについて勉強することである。特に、株価、為替レート、利子率、賃金、物価、税金、住宅価格といった変数の変動を起こす要因は何か、そして企業、投資家、個人にどのような影響を与えるかについて勉強する。更に、この科目は、本学の経済学部が取り組んでいる「実学としての経済学」の内容（GDP、利子率、為替レート、貿易のつながりのメカニズム）の関連科目であり、英語で勉強することができる。更に、日本の多国籍企業、貿易会社、金融機関、外資系会社などに勤めたい学生がより充実な就職活動もでき、社会に貢献できる人材になることである。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この授業の学修の主な目標はマクロ経済とビジネス戦略の関係について英語で考えて、英語で説明できるようになることである。この目標を達成するために、授業では以下の力を身につけるようにしたいと思う。 1. 日本のマクロ経済と企業の経営の関係について英語で考えて、分析できる力 2. 株式や債券といった金融投資について分析ができ、英語で説明できる力 3. 利子率、為替レート、貿易、観光、金融政策について、英語で話せる力 4. 株価や利子率の変動を予測でき、英語で説明できる力 5. 英語でコミュニケーションできる力		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業の内容についての練習問題に対して Learning Portal に毎回フィードバックする。必要があれば、次の授業で改めて説明する。「最終レポート」に対してもコメントを Learning Portal にフィードバックする。課題の再提出も認める。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストを使用しないが、以下の参考書と日本政府のデータベースの情報を利用して作成した資料を大学のホームページのなか、Learning Portal、授業内容/教材にアップする。	ISBN	なし
参考書	①Business Economics, Gillespie, Andrew, 2013, Oxford University Press 以下のインターネットサイトやデータベースを利用して、世界や日本の現状、国際経済、貿易、直接投資などについて勉強することができる。 https://www.bloomberg.com/asia https://www.reuters.com/ http://www.ibtimes.com/ https://edition.cnn.com/ https://www.bbc.com/ https://www.nikkei.com/ データベース e-Stat https://www.e-stat.go.jp/ IMF: https://www.imf.org/	ISBN	①0199657998

	WORLD BANK: https://data.worldbank.org/ JETRO: https://www.jetro.go.jp/ Bank of Japan（日本銀行）: https://www.boj.or.jp/ Ministry of Foreign Affairs of Japan（外務省）: https://www.mofa.go.jp/mofaj/ Ministry of Finance（財務省）: https://www.mof.go.jp/		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	20	
	その他の内容	最終レポート	
この科目の受講にあたって	この科目では英語で経済や金融について勉強するため、特に、貿易会社、外資系会社、旅行会社で働きたいと思っている学生は是非履修してみてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業の案内を行う。	予習：「Class 1 Course outline」を読んで下さい。 復習：「Exercise 1 Main topics of the course」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートのテーマを決めて、内容について計画を立ててください。	1 時間
第2回	対面	日本経済の現状と将来の見通しについて勉強する。	予習：「Class 2 Japan economic outlook」を読んで下さい。 復習：「Exercise 2 Japan economic outlook」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートの作成に向けて、図書館やインターネットから情報を集め分析してください。	4 時間
第3回	対面	貯蓄と預金の残高の計算法について勉強する。	予習：「Class 3 Savings and bank accounts」を読んで下さい。 復習：「Exercise 3 Savings and bank accounts」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートの作成に向けて、図書館やインターネットから情報を集め分析してください。	4 時間
第4回	対面	割引現在価値について勉強する。	予習：「Class 4 Loans and the NPV」を読んで下さい。 復習：「Exercise 4 Loans and the NPV」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートの作成に向けて、図書館やインターネットから情報を集め分析してください。	4 時間
第5回	対面	債券の仕組みと債券の価格について勉強する。	予習：「Class 5 Bond prices」を読んで下さい。 復習：「Exercise 5 Bond prices」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートの作成を少しずつ行ってください。	4 時間
第6回	対面	リスクのある債券、格付け、利回り率について勉強する。	予習：「Class 6 Risk, credit rating and the yield of a bond」を読んで下さい。 復習：「Exercise 6 Bonds and risk」を解いて、オ	4 時間

			ンラインで回答してください。 最終レポートの作成を少しずつ行ってください。	
第7回	対面	株の価値について勉強する。	予習:「Class 7 The value of stocks」を読んで下さい。 復習:「Exercise 7 The value of stocks」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートの作成を少しずつ行ってください。	4時間
第8回	対面	株式市場について勉強する。	予習:「Class 8 The stock market」を読んで下さい。 復習:「Exercise 8 The stock market」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートの作成を少しずつ行ってください。	4時間
第9回	対面	貸出市場、利子率、インフレ率、経済政策について勉強する。	予習:「Class 9 The interest rate, prices and economic policy」を読んで下さい。 復習:「Exercise 9 The interest rate, prices and economic policy」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートの作成を少しずつ行ってください。	4時間
第10回	対面	投資家が将来の見通しをどのように予想するかについて勉強する。	予習:「Class 10 How investors predict the future」を読んで下さい。 復習:「Exercise 10 How investors predict the future」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートを準備してください。	4時間
第11回	対面	株式市場におけるバブルについて勉強する。	予習:「Class 11 Stock bubbles」を読んで下さい。 復習:「Exercise 11 Stock bubbles」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートを準備してください。	4時間
第12回	対面	先渡し取引と先物取引について勉強する。	予習:「Class 12 Forward and Futures transactions」を読んで下さい。 復習:「Exercise 12 Forward and Futures transactions」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートを準備してください。	4時間
第13回	対面	財務諸表について勉強する。	予習:「Class 13 Financial Statements」を読んで下さい。 復習:「Exercise 13 Financial Statements」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートと定期試験の準備をしてください。	5時間
第14回	対面	変動為替相場、円安と円高の原因について勉強する。	予習:「Class 14 The foreign exchange market」を読んで下さい。 復習:「Exercise 14 The foreign exchange market」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートと定期試験の準備をしてください。	5時間
第15回	オンデマンド	まとめと定期試験に向けた案内を行う。	予習:「Class 15 End of Course Summary」を読んで下さい。 復習:「Exercise 15 End of Course Summary」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートを完成させて、Learning Portal のレポート機能に提出してください。 「Practice for exam」を解いて、Learning Portal に提出してください。 定期試験の準備を行ってください。	5時間

科目名	Economic Issues in English II	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	グスタボ・バルダス	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	英語で経済のメカニズムと経済政策の効果について勉強する。		
授業の目的及び概要	この授業は英語で行われる。この科目の主な目的は、マクロ経済の動きと企業のビジネスについて勉強することである。特に、為替レート、利子率、賃金、住宅価格といった変数の変動を起こす要因は何か、企業・投資家・個人がどのように反応するかについて勉強する。更に、データから日本経済の現状と将来の見通し、貿易、観光などについて学ぶ。日本の多国籍企業、貿易会社、金融機関、外資系会社などに勤めたい学生がより充実な就職活動もでき、社会に貢献できる人材になる。更に、この科目は、本学の経済学部が取り組んでいる「実学としての経済学」の関連科目であり、英語で勉強することができる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この授業の学修の主な目標はマクロ経済とビジネス戦略の関係について英語で考えて、英語で説明できるようになることである。この目標を達成するために、授業では以下の力を身につけるようにしたいと思う。 1. 経済動向や市場の変化が企業に与える影響について分析ができ、英語で説明できる力 2. 利子率、住宅市場、不動産の投資について、英語で話せる力 3. 経済政策が市場や企業に与える影響を予測でき、英語で説明できる力 4. 英語でコミュニケーションできる力		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業の内容についての練習問題に対して毎回フィードバックをする。必要があれば、次の授業で改めて説明する。最終レポートに対してもコメントをフィードバックする。課題の再提出も認める。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストを使用しないが、以下の参考書・データベースの情報を利用して作成した資料を Learning Portal の「授業内容/教材」にアップする。	ISBN	なし
参考書	以下の本が経済や国際経済について様々な面白いトピックスを扱っている。授業の内容をより深く勉強することができるので、良ければ、図書館で借りてください。 ①Business Economics, Gillespie, Andrew, 2013, Oxford University Press 以下のインターネットサイトやデータベースを利用して、世界の現状、国際経済、貿易、直接投資などについて勉強することができる。最終レポートの作成にも活用してみてください。 インターネットサイト： https://www.bloomberg.com/asia https://www.reuters.com/ http://www.ibtimes.com/ https://edition.cnn.com/ https://www.bbc.com/ データベース International Monetary Fund:	ISBN	①0199657998

	https://www.imf.org/ World Bank: https://data.worldbank.org/ e-Stat: https://www.e-stat.go.jp/ JETRO（日本貿易振興機構）： https://www.jetro.go.jp/ Bank of Japan（日本銀行）： https://www.boj.or.jp/ Japan Tourism Agency（観光庁）： https://www.mlit.go.jp/kankocho/index.html Japan Tourism Statistics（日本の観光統計データ）： https://statistics.jnto.go.jp/ Ministry of Finance, Japan（財務省）： https://www.mof.go.jp/ Ministry of Foreign Affairs of Japan（外務省）： https://www.mofa.go.jp/mofaj/		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		15
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		15
	成果発表（口頭・実技）		0
	中間試験		0
	【定期試験】レポート試験		0
	【定期試験】筆記試験（対面）		50
	その他（％）		20
	その他の内容	最終レポート	
この科目の受講にあたって	この科目では英語で経済について勉強するため、特に、貿易会社、外資系会社、旅行会社で働きたいと思っている学生は是非履修してみてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業の案内を行う。	予習：「Class 1 Course outline」を読んで下さい。 復習：「Exercise 1 Main topics of the course」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートのテーマを決めて、内容について計画を立ててください。	1 時間
第2回	対面	日本経済の現状と将来の見通しについて勉強する。	予習：「Class 2 Japanese economy outlook」を読んで下さい。 復習：「Exercise 2 Japanese economy outlook」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートの作成に向けて、図書館やインターネットから情報を集め分析してください。	4 時間
第3回	対面	労働市場について勉強する。	予習：「Class 3 The labor market」を読んで下さい。 復習：「Exercise 3 The labor market」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートの作成に向けて、図書館やインターネットから情報を集め分析してください。	4 時間
第4回	対面	お金の時間的な価値について勉強する。	予習：「Class 4 Time value of money」を読んで下さい。 復習：「Exercise 4 Time value of money」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートの作成に向けて、図書館やインターネット	4 時間

			ットから情報を集め分析してください。	
第5回	対面	ビジネス投資について勉強する。	予習:「Class 5 Business investment」を読んで下さい。 復習:「Exercise 5 Business investment」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートの作成に向けて、図書館やインターネットから情報を集め分析してください。	4 時間
第6回	対面	ビジネス投資の財務分析について勉強する。	予習:「Class 6 Financial Analysis of Investment Projects」を読んで下さい。 復習:「Exercise 6 Financial Analysis of Investment Projects」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートの作成を少しずつ行ってください。	4 時間
第7回	対面	税金について勉強する。	予習:「Class 7 Taxes」を読んで下さい。 復習:「Exercise 7 Taxes」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートの作成を少しずつ行ってください。	4 時間
第8回	対面	住宅の価値と住宅の価格について勉強する。	予習:「Class 8 Home value and home prices」を読んで下さい。 復習:「Exercise 8 Home value and home prices」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートの作成を少しずつ行ってください。	4 時間
第9回	対面	住宅市場について勉強する。	予習:「Class 9 The housing market」を読んで下さい。 復習:「Exercise 9 The housing market」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートの作成を少しずつ行ってください。	4 時間
第10回	対面	貸出市場と利子率について勉強する。	予習:「Class 10 The credit market and the interest rate」を読んで下さい。 復習:「Exercise 10 The credit market and the interest rate」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートの作成を少しずつ行ってください。	4 時間
第11回	対面	住宅バブルについて勉強する。	予習:「Class 11 Housing bubbles」を読んで下さい。 復習:「Exercise 11 Housing bubbles」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートの作成を行ってください。	4 時間
第12回	対面	貿易、観光、外国投資について勉強する。	予習:「Class 12 Trade, tourism and foreign investment」を読んで下さい。 復習:「Exercise 12 Trade, tourism and foreign investment」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートの作成を行ってください。	4 時間
第13回	対面	自由貿易協定又は経済連携協定について勉強する。	予習:「Class 13 Free trade agreements」を読んで下さい。 復習:「Exercise 13 Free trade agreements」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートの作成を行ってください。	5 時間
第14回	対面	経済政策の効果・貿易・為替レートの関係について勉強する。	予習:「Class 14 Economic policy, trade and the exchange rate」を読んで下さい。 復習:「Exercise 14 Economic policy, trade and the exchange rate」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートの作成を行ってください。試験の準備も行ってください。	5 時間
第15回	オンデマンド	まとめと定期試験に向けた案内を行う。	予習:「Class 15 End of Course Summary」を読んで下さい。	5 時間

2026/05/01

			復習：「Exercise 15 End of Course Summary」を解いて、オンラインで回答してください。 最終レポートを完成させて、Learning Portal のレポート機能に提出してください。 「Practice for exam」を解いて、Learning Portal に提出してください。 定期試験の準備を行ってください。	

科目名	経済学部生のための法学入門	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	呉 紅敏	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	経済学部 1 年生のための法学入門		
授業の目的及び概要	法が現実の社会生活のなかでどのように使われ、どのような働きをもっているかについて、具体例を示しつつ説明していき、社会における法の役割について、全体的なイメージを作っていきます。そのなかで法律知識・法学的思考方法を身につけていくことで、経済学科生として、生活と学修を自信と夢をもって進めるための基盤となる知識・スキルを養う。同時に市民としての法律の常識を身に着けることによって、社会人としての基礎力を養うことになり、就業力育成の土台となります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	現代社会に生きる市民として、 ①法学の基礎的（ベーシック）な用語・概念を他者にわかりやすく説明することができる。 ②各々の法分野に関心・問題意識を持ち、法律系科目を選択する際の基盤をつくる。 ③経済学科生・経営学科生として、本科目で得た法学の知識・法的思考方法により、日常生活のできごとやニュースの意味の理解を深めることができる。 ④社会的な問題について、自分の意見を表明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	①毎回の授業で学んだテキストの内容（とくに法学基礎必須用語の意味・概念）をしっかりと確認すること。とくに必須用語は覚えること。②毎回、learning portal による法律重要用語の復習をしっかりとやってください。③翌週の授業のはじめに教員が、学生たちの書いたコメントシートの疑問・質問に答え、感想や学んだ点について講評し評価する。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	① 『経法大新入生のための法学入門』, 大阪経済法科大学法学部「法学入門」作成委員会著（2024 年）	ISBN	①9784797257519
参考書		ISBN	①9784797257540
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	40	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	法学は、日常生活になじみのない専門用語が沢山出てきます。学生諸君は、初めは戸惑うかもしれませんが、この科目の学修は、より専門的な法学の学修や社会生活において必ず役に立ちます。ですから、まず、授業に積極的に参加してください。それから、予習・復習をしてください。あせらずに、やってください。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	① ガイダンス ② 法と人間とのかかわり ③ 法を学ぶ意義 ④ 「規範」としての法 ⑤ 法と道徳の区別	①予習；テキスト『経法大新入生のための法学入門』を通読しておくこと（2時間）。 ②復習；(1)毎回の授業に添って、テキストの法学重要用語を「必須150ワード」を使って、漢字で書けるように覚えること、用語の概念を確認しておくこと。 (2)e-learning でしっかり復習すること（2時間）。	4時間
第2回	対面	① 法の体系 ② 法の種類 ③ 法律の構造	①予習；テキスト『経法大新入生のための法学入門』を通読しておくこと（2時間）。 ②復習；(1)毎回の授業に添って、テキストの法学重要用語を「必須150ワード」を使って、漢字で書けるように覚えること、用語の概念を確認しておくこと。 (2)e-learning でしっかり復習すること（2時間）。	4時間
第3回	対面	① 法の解釈の方法 ② 法の適用の方法 ③ 裁判所による法の解釈	①予習；テキスト『経法大新入生のための法学入門』を通読しておくこと（2時間）。 ②復習；(1)毎回の授業に添って、テキストの法学重要用語を「必須150ワード」を使って、漢字で書けるように覚えること、用語の概念を確認しておくこと。 (2)e-learning でしっかり復習すること（2時間）。	4時間
第4回	対面	① 「憲法」とは何か ② わが国の統治体制 ③ 三権分立	①予習；テキスト『経法大新入生のための法学入門』を通読しておくこと（2時間）。 ②復習；(1)毎回の授業に添って、テキストの法学重要用語を「必須150ワード」を使って、漢字で書けるように覚えること、用語の概念を確認しておくこと。 (2)e-learning でしっかり復習すること（2時間）。	4時間
第5回	対面	第1回～第4回目までの確認テスト	①予習；テキスト『経法大新入生のための法学入門』を通読しておくこと（2時間）。 ②復習；(1)毎回の授業に添って、テキストの法学重要用語を「必須150ワード」を使って、漢字で書けるように覚えること、用語の概念を確認しておくこと。 (2)e-learning でしっかり復習すること（2時間）。	4時間
第6回	対面	① 日本国憲法の理念 ② 基本的人権の尊重 ③ 新しい権利	①予習；テキスト『経法大新入生のための法学入門』を通読しておくこと（2時間）。 ②復習；(1)毎回の授業に添って、テキストの法学重要用語を「必須150ワード」を使って、漢字で書けるように覚えること、用語の概念を確認しておくこと。 (2)e-learning でしっかり復習すること（2時間）。	4時間
第7回	対面	① 「民法」とは何か ② 「契約」とは何か ③ 「不法行為」とは何か	①予習；テキスト『経法大新入生のための法学入門』を通読しておくこと（2時間）。 ②復習；(1)毎回の授業に添って、テキストの法学重要用語を「必須150ワード」を使って、漢字で書けるように覚えること、用語の概念を確認しておくこと。 (2)e-learning でしっかり復習すること（2時間）。	4時間
第8回	対面	① 「家族」とは何か ② 婚姻と離婚 ③ 親子関係と相続	①予習；テキスト『経法大新入生のための法学入門』を通読しておくこと（2時間）。 ②復習；(1)毎回の授業に添って、テキストの法学重要用語を「必須150ワード」を使って、漢字で書けるように覚えること、用語の概念を確認しておくこと。 (2)e-learning でしっかり復習すること（2時間）。	4時間
第9回	対面	第6回～第8回目までの確認テスト	①予習；テキスト『経法大新入生のための法学入門』を通読しておくこと（2時間）。 ②復習；(1)毎回の授業に添って、テキストの法学重要用語を「必須150ワード」を使って、漢字で書けるように覚えること、用語の概念を確認しておくこと。 (2)e-learning でしっかり復習すること（2時間）。	4時間
第10回	対面	① 「刑法」とは何か ② 「犯罪」とは何か	①予習；テキスト『経法大新入生のための法学入門』を通読しておくこと（2時間）。	4時間

		③ 「犯罪」が成立しない場合	②復習；(1)毎回の授業に添って、テキストの法学重要用語を「必須 150 ワード」を使って、漢字で書けるように覚えること、用語の概念を確認しておくこと。 (2)e-learning でしっかり復習すること (2 時間)。	
第 1 1 回	オンデマンド	① 「刑罰」とは何か ② 刑罰の正当化 ③ 少年法	①予習；テキスト『経法大新入生のための法学入門』を通読しておくこと (2 時間)。 ②復習；(1)毎回の授業に添って、テキストの法学重要用語を「必須 150 ワード」を使って、漢字で書けるように覚えること、用語の概念を確認しておくこと。 (2)e-learning でしっかり復習すること (2 時間)。	4 時間
第 1 2 回	対面	① 裁判制度と裁判所 ② 民事手続 ③ 刑事手続 ④ 裁判の担い手	①予習；テキスト『経法大新入生のための法学入門』を通読しておくこと (2 時間)。 ②復習；(1)毎回の授業に添って、テキストの法学重要用語を「必須 150 ワード」を使って、漢字で書けるように覚えること、用語の概念を確認しておくこと。 (2)e-learning でしっかり復習すること (2 時間)。	4 時間
第 1 3 回	対面	① 国際社会 (international community) とは何か ② 国家の基本的な権利義務 ③ 国家の具体的な権利義務と秩序の回復	①予習；テキスト『経法大新入生のための法学入門』を通読しておくこと (2 時間)。 ②復習；(1)毎回の授業に添って、テキストの法学重要用語を「必須 150 ワード」を使って、漢字で書けるように覚えること、用語の概念を確認しておくこと。 (2)e-learning でしっかり復習すること (2 時間)。	4 時間
第 1 4 回	対面	第 11 回～第 13 回目までの確認テスト	①予習；テキスト『経法大新入生のための法学入門』を通読しておくこと (2 時間)。 ②復習；(1)毎回の授業に添って、テキストの法学重要用語を「必須 150 ワード」を使って、漢字で書けるように覚えること、用語の概念を確認しておくこと。 (2)e-learning でしっかり復習すること (2 時間)。	4 時間
第 1 5 回	対面	全体のまとめ；テキストの内容を全部ふり返り、重要用語の概念や疑問点を洗い出し確認する。	①予習；テキスト全体をふり返り、疑問点を洗い出し自分で調べてみる通読しておくこと (2 時間)。 ②復習；(1)毎回の授業に添って、テキストの法学重要用語を「必須 150 ワード」を使って、漢字で書けるように覚えること、用語の概念を確認しておくこと。 (2)e-learning でしっかり復習すること (2 時間)。 (3)「論述問題」対策準備を行う (2 時間)	4 時間

科目名	基礎演習 A		開講年度	2026 年度春学期
担当者	二替 大輔		配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G1		授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	大学での学び方（姿勢、学修技法）を身につける			
授業の目的及び概要	1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得などを目標とする入門的な内容の授業（演習）です。高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目指します。 大学においては、自ら学び、行動する自主的な学修態度が重要です。この演習では、レポート作成方法などのテクニックとともに、大学における学び方の態度・姿勢を学びつつ、経済新聞の活用等も通じて、社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。また、大学生活、さらには社会人に求められる、良好な人間関係を築く能力を身につけるため、他者への理解やコミュニケーション能力の向上を主な目標とします。 さらに、本科目は経済・社会に関するテーマを題材に経済学部での学びをスタートさせるための知識・技能の獲得を目指します。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	①書籍等の適切な情報源を参照することができる。 ②適切な書式・様式に基づく文章を作成することができる。 ③基礎的なプレゼンテーション技法に基づく発表を行うことができる。 ④他者との適切なコミュニケーションを通じて課題等に取り組むことができる。 ⑤経済学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業中に提出された課題や発表については、教員によるフィードバックを行います。			
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	必要な資料等は授業中に配布・紹介します。		ISBN	なし
参考書	①日経新聞を「読む技術」「活用する技術」、山本 博幸，ディスカヴァー・トゥエンティワン，2019 年 ②SDGs 見るだけノート：基礎知識とビジネスチャンスにつなげた成功事例が丸わかり!，笹谷 秀光，宝島社，2022 年 （②については図書館の電子ブックでも閲覧することができます。）		ISBN	①9784799325476 ②9784299004512
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		50	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	本科目を通じて、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築く機会としてください。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	「大学生としてやるべき事」「自分がやりたいこと」について分析し、春学期の目標を立てる。春学期の面談シートを完成させ提出してください。	4時間
第2回	オンデマンド	オンデマンドガイダンス（図書館・学内施設紹介）	オンデマンド動画を視聴し、ガイダンス資料について復習を行ってください。	4時間
第3回	対面	大学オリエンテーション（学内施設紹介）	キャンパスマップを確認して、大学の施設を活用するイメージを持ってください。	4時間
第4回	対面	フェルミ推定	授業中で配布された資料を読み返し、改めて例題を考えてください。	4時間
第5回	対面	レポート作成ガイダンス1	レポート作成に関する授業資料を精読し、レポートの基本的な書式について復習を行ってください。	4時間
第6回	対面	レポート作成ガイダンス2	レポート作成に関する授業資料を精読し、レポート作成を行ってください。	4時間
第7回	対面	合同授業（金融経済セミナー）	セミナー内で配布された講義資料の復習を行ってください。	4時間
第8回	対面	グループ発表準備1	図書館等を活用しながら、グループ報告に向けた情報収集を行ってください。	4時間
第9回	対面	レポート作成ガイダンス3	講評を受けて、自身のレポートを見直し・加筆修正を行ってください。	4時間
第10回	対面	グループ発表準備2	図書館等を活用しながら、グループ報告に向けた情報収集を進めてください。授業中にグループで確認した方針に基づき、情報収集をさらに進めてください。	4時間
第11回	対面	グループ発表準備3	図書館等を活用しながら、グループ報告に向けた情報収集を進めてください。授業中にグループで確認した方針に基づき、情報収集をさらに進めてください。	4時間
第12回	対面	グループ発表準備4	スライドの作成と発表練習を行ってください。	4時間
第13回	対面	グループ発表1	自身の発表に関する改善点等について振り返ってください。	4時間
第14回	対面	グループ発表2 留学・海外体験ガイダンス	自身の発表に関する改善点等について振り返ってください。 期末レポートの作成を行ってください。 本学でサポートを受けられる留学制度について理解してください。	4時間
第15回	対面	振り返り	春学期の学生生活（学修）についてまとめてください。 夏休みの過ごし方（学修）について計画してください。	4時間

科目名	基礎演習 A		開講年度	2026 年度春学期
担当者	吉田 匠		配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G1		授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	大学での学び方（姿勢、学修技法）を身につける			
授業の目的及び概要	1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得などを目標とする入門的な内容の授業（演習）です。高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目指します。 大学においては、自ら学び、行動する自主的な学修態度が重要です。この演習では、レポート作成方法などのテクニックとともに、大学における学び方の態度・姿勢を学びつつ、経済新聞の活用等も通じて、社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。また、大学生活、さらには社会人に求められる、良好な人間関係を築く能力を身につけるため、他者への理解やコミュニケーション能力の向上を主な目標とします。 さらに、本科目は経済・社会に関するテーマを題材に経済学部での学びをスタートさせるための知識・技能の獲得を目指します。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	①書籍等の適切な情報源を参照することができる。 ②適切な書式・様式に基づく文章を作成することができる。 ③基礎的なプレゼンテーション技法に基づく発表を行うことができる。 ④他者との適切なコミュニケーションを通じて課題等に取り組むことができる。 ⑤経済学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業中に提出された課題や発表については、教員によるフィードバックを行います。			
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	必要な資料等は授業中に配布・紹介します。		ISBN	なし
参考書	①日経新聞を「読む技術」「活用する技術」, 山本 博幸 , ディスカヴァー・トゥエンティワン, 2019 年 ②SDGs 見るだけノート：基礎知識とビジネスチャンスにつなげた成功事例が丸わかり!, 笹谷 秀光, 宝島社, 2022 年 (②については図書館の電子ブックでも閲覧することができます。)		ISBN	①9784799325476 ②9784299004512
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		50	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	本科目を通じて、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築く機会としてください。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	「大学生としてやるべき事」「自分がやりたいこと」について分析し、春学期の目標を立てる。春学期の面談シートを完成させ提出してください。	4時間
第2回	オンデマンド	オンデマンドガイダンス（図書館・学内施設紹介）	オンデマンド動画を視聴し、ガイダンス資料について復習を行ってください。	4時間
第3回	対面	大学オリエンテーション（学内施設紹介）	キャンパスマップを確認して、大学の施設を活用するイメージを持ってください。	4時間
第4回	対面	フェルミ推定	授業中で配布された資料を読み返し、改めて例題を考えてください。	4時間
第5回	対面	レポート作成ガイダンス1	レポート作成に関する授業資料を精読し、レポートの基本的な書式について復習を行ってください。	4時間
第6回	対面	レポート作成ガイダンス2	レポート作成に関する授業資料を精読し、レポート作成を行ってください。	4時間
第7回	対面	合同授業（金融経済セミナー）	セミナー内で配布された講義資料の復習を行ってください。	4時間
第8回	対面	グループ発表準備1	図書館等を活用しながら、グループ報告に向けた情報収集を行ってください。	4時間
第9回	対面	レポート作成ガイダンス3	講評を受けて、自身のレポートを見直し・加筆修正を行ってください。	4時間
第10回	対面	グループ発表準備2	図書館等を活用しながら、グループ報告に向けた情報収集を進めてください。授業中にグループで確認した方針に基づき、情報収集をさらに進めてください。	4時間
第11回	対面	グループ発表準備3	図書館等を活用しながら、グループ報告に向けた情報収集を進めてください。授業中にグループで確認した方針に基づき、情報収集をさらに進めてください。	4時間
第12回	対面	グループ発表準備4	スライドの作成と発表練習を行ってください。	4時間
第13回	対面	グループ発表1	自身の発表に関する改善点等について振り返ってください。	4時間
第14回	対面	グループ発表2 留学・海外体験ガイダンス	自身の発表に関する改善点等について振り返ってください。 期末レポートの作成を行ってください。 本学でサポートを受けられる留学制度について理解してください。	4時間
第15回	対面	振り返り	春学期の学生生活（学修）についてまとめてください。 夏休みの過ごし方（学修）について計画してください。	4時間

科目名	基礎演習 A		開講年度	2026 年度春学期
担当者	前田 一樹		配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G1		授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	大学での学び方（姿勢、学修技法）を身につける			
授業の目的及び概要	1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得などを目標とする入門的な内容の授業（演習）です。高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目指します。 大学においては、自ら学び、行動する自主的な学修態度が重要です。この演習では、レポート作成方法などのテクニックとともに、大学における学び方の態度・姿勢を学びつつ、経済新聞の活用等も通じて、社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。また、大学生活、さらには社会人に求められる、良好な人間関係を築く能力を身につけるため、他者への理解やコミュニケーション能力の向上を主な目標とします。 さらに、本科目は経済・社会に関するテーマを題材に経済学部での学びをスタートさせるための知識・技能の獲得を目指します。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	①書籍等の適切な情報源を参照することができる。 ②適切な書式・様式に基づく文章を作成することができる。 ③基礎的なプレゼンテーション技法に基づく発表を行うことができる。 ④他者との適切なコミュニケーションを通じて課題等に取り組むことができる。 ⑤経済学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業中に提出された課題や発表については、教員によるフィードバックを行います。			
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	必要な資料等は授業中に配布・紹介します。		ISBN	なし
参考書	①日経新聞を「読む技術」「活用する技術」、山本 博幸，ディスカヴァー・トゥエンティワン，2019 年 ②SDGs 見るだけノート：基礎知識とビジネスチャンスにつなげた成功事例が丸わかり!，笹谷 秀光，宝島社，2022 年 （②については図書館の電子ブックでも閲覧することができます。）		ISBN	①9784799325476 ②9784299004512
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		50	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	本科目を通じて、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築く機会としてください。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	「大学生としてやるべき事」「自分がやりたいこと」について分析し、春学期の目標を立てる。春学期の面談シートを完成させ提出してください。	4時間
第2回	オンデマンド	オンデマンドガイダンス（図書館・学内施設紹介）	オンデマンド動画を視聴し、ガイダンス資料について復習を行ってください。	4時間
第3回	対面	大学オリエンテーション（学内施設紹介）	キャンパスマップを確認して、大学の施設を活用するイメージを持ってください。	4時間
第4回	対面	フェルミ推定	授業中で配布された資料を読み返し、改めて例題を考えてください。	4時間
第5回	対面	レポート作成ガイダンス1	レポート作成に関する授業資料を精読し、レポートの基本的な書式について復習を行ってください。	4時間
第6回	対面	レポート作成ガイダンス2	レポート作成に関する授業資料を精読し、レポート作成を行ってください。	4時間
第7回	対面	合同授業（金融経済セミナー）	セミナー内で配布された講義資料の復習を行ってください。	4時間
第8回	対面	グループ発表準備1	図書館等を活用しながら、グループ報告に向けた情報収集を行ってください。	4時間
第9回	対面	レポート作成ガイダンス3	講評を受けて、自身のレポートを見直し・加筆修正を行ってください。	4時間
第10回	対面	グループ発表準備2	図書館等を活用しながら、グループ報告に向けた情報収集を進めてください。授業中にグループで確認した方針に基づき、情報収集をさらに進めてください。	4時間
第11回	対面	グループ発表準備3	図書館等を活用しながら、グループ報告に向けた情報収集を進めてください。授業中にグループで確認した方針に基づき、情報収集をさらに進めてください。	4時間
第12回	対面	グループ発表準備4	スライドの作成と発表練習を行ってください。	4時間
第13回	対面	グループ発表1	自身の発表に関する改善点等について振り返ってください。	4時間
第14回	対面	グループ発表2 留学・海外体験ガイダンス	自身の発表に関する改善点等について振り返ってください。 期末レポートの作成を行ってください。 本学でサポートを受けられる留学制度について理解してください。	4時間
第15回	対面	振り返り	春学期の学生生活（学修）についてまとめてください。 夏休みの過ごし方（学修）について計画してください。	4時間

科目名	基礎演習 A		開講年度	2026 年度春学期
担当者	藤田 峻		配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G1		授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	大学での学び方（姿勢、学修技法）を身につける			
授業の目的及び概要	1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得などを目標とする入門的な内容の授業（演習）です。高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目指します。 大学においては、自ら学び、行動する自主的な学修態度が重要です。この演習では、レポート作成方法などのテクニックとともに、大学における学び方の態度・姿勢を学びつつ、経済新聞の活用等も通じて、社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。また、大学生活、さらには社会人に求められる、良好な人間関係を築く能力を身につけるため、他者への理解やコミュニケーション能力の向上を主な目標とします。 さらに、本科目は経済・社会に関するテーマを題材に経済学部での学びをスタートさせるための知識・技能の獲得を目指します。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	①書籍等の適切な情報源を参照することができる。 ②適切な書式・様式に基づく文章を作成することができる。 ③基礎的なプレゼンテーション技法に基づく発表を行うことができる。 ④他者との適切なコミュニケーションを通じて課題等に取り組むことができる。 ⑤経済学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業中に提出された課題や発表については、教員によるフィードバックを行います。			
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	必要な資料等は授業中に配布・紹介します。		ISBN	なし
参考書	①日経新聞を「読む技術」「活用する技術」、山本 博幸，ディスカヴァー・トゥエンティワン，2019 年 ②SDGs 見るだけノート：基礎知識とビジネスチャンスにつなげた成功事例が丸わかり!，笹谷 秀光，宝島社，2022 年 （②については図書館の電子ブックでも閲覧することができます。）		ISBN	①9784799325476 ②9784299004512
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		50	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	本科目を通じて、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築く機会としてください。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	「大学生としてやるべき事」「自分がやりたいこと」について分析し、春学期の目標を立てる。春学期の面談シートを完成させ提出してください。	4時間
第2回	オンデマンド	オンデマンドガイダンス（図書館・学内施設紹介）	オンデマンド動画を視聴し、ガイダンス資料について復習を行ってください。	4時間
第3回	対面	大学オリエンテーション（学内施設紹介）	キャンパスマップを確認して、大学の施設を活用するイメージを持ってください。	4時間
第4回	対面	フェルミ推定	授業中で配布された資料を読み返し、改めて例題を考えてください。	4時間
第5回	対面	レポート作成ガイダンス1	レポート作成に関する授業資料を精読し、レポートの基本的な書式について復習を行ってください。	4時間
第6回	対面	レポート作成ガイダンス2	レポート作成に関する授業資料を精読し、レポート作成を行ってください。	4時間
第7回	対面	合同授業（金融経済セミナー）	セミナー内で配布された講義資料の復習を行ってください。	4時間
第8回	対面	グループ発表準備1	図書館等を活用しながら、グループ報告に向けた情報収集を行ってください。	4時間
第9回	対面	レポート作成ガイダンス3	講評を受けて、自身のレポートを見直し・加筆修正を行ってください。	4時間
第10回	対面	グループ発表準備2	図書館等を活用しながら、グループ報告に向けた情報収集を進めてください。授業中にグループで確認した方針に基づき、情報収集をさらに進めてください。	4時間
第11回	対面	グループ発表準備3	図書館等を活用しながら、グループ報告に向けた情報収集を進めてください。授業中にグループで確認した方針に基づき、情報収集をさらに進めてください。	4時間
第12回	対面	グループ発表準備4	スライドの作成と発表練習を行ってください。	4時間
第13回	対面	グループ発表1	自身の発表に関する改善点等について振り返ってください。	4時間
第14回	対面	グループ発表2 留学・海外体験ガイダンス	自身の発表に関する改善点等について振り返ってください。 期末レポートの作成を行ってください。 本学でサポートを受けられる留学制度について理解してください。	4時間
第15回	対面	振り返り	春学期の学生生活（学修）についてまとめてください。 夏休みの過ごし方（学修）について計画してください。	4時間

科目名	基礎演習 A		開講年度	2026 年度春学期
担当者	穴井 佑		配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G1		授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	大学での学び方（姿勢、学修技法）を身につける			
授業の目的及び概要	1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得などを目標とする入門的な内容の授業（演習）です。高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目指します。 大学においては、自ら学び、行動する自主的な学修態度が重要です。この演習では、レポート作成方法などのテクニックとともに、大学における学び方の態度・姿勢を学びつつ、経済新聞の活用等も通じて、社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。また、大学生活、さらには社会人に求められる、良好な人間関係を築く能力を身につけるため、他者への理解やコミュニケーション能力の向上を主な目標とします。 さらに、本科目は経済・社会に関するテーマを題材に経済学部での学びをスタートさせるための知識・技能の獲得を目指します。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	①書籍等の適切な情報源を参照することができる。 ②適切な書式・様式に基づく文章を作成することができる。 ③基礎的なプレゼンテーション技法に基づく発表を行うことができる。 ④他者との適切なコミュニケーションを通じて課題等に取り組むことができる。 ⑤経済学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業中に提出された課題や発表については、教員によるフィードバックを行います。			
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	必要な資料等は授業中に配布・紹介します。		ISBN	なし
参考書	①日経新聞を「読む技術」「活用する技術」、山本 博幸，ディスカヴァー・トゥエンティワン，2019 年 ②SDGs 見るだけノート：基礎知識とビジネスチャンスにつなげた成功事例が丸わかり!，笹谷 秀光，宝島社，2022 年 （②については図書館の電子ブックでも閲覧することができます。）		ISBN	①9784799325476 ②9784299004512
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		50	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	本科目を通じて、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築く機会としてください。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	「大学生としてやるべき事」「自分がやりたいこと」について分析し、春学期の目標を立てる。春学期の面談シートを完成させ提出してください。	4時間
第2回	オンデマンド	オンデマンドガイダンス（図書館・学内施設紹介）	オンデマンド動画を視聴し、ガイダンス資料について復習を行ってください。	4時間
第3回	対面	大学オリエンテーション（学内施設紹介）	キャンパスマップを確認して、大学の施設を活用するイメージを持ってください。	4時間
第4回	対面	フェルミ推定	授業中で配布された資料を読み返し、改めて例題を考えてください。	4時間
第5回	対面	レポート作成ガイダンス1	レポート作成に関する授業資料を精読し、レポートの基本的な書式について復習を行ってください。	4時間
第6回	対面	レポート作成ガイダンス2	レポート作成に関する授業資料を精読し、レポート作成を行ってください。	4時間
第7回	対面	合同授業（金融経済セミナー）	セミナー内で配布された講義資料の復習を行ってください。	4時間
第8回	対面	グループ発表準備1	図書館等を活用しながら、グループ報告に向けた情報収集を行ってください。	4時間
第9回	対面	レポート作成ガイダンス3	講評を受けて、自身のレポートを見直し・加筆修正を行ってください。	4時間
第10回	対面	グループ発表準備2	図書館等を活用しながら、グループ報告に向けた情報収集を進めてください。授業中にグループで確認した方針に基づき、情報収集をさらに進めてください。	4時間
第11回	対面	グループ発表準備3	図書館等を活用しながら、グループ報告に向けた情報収集を進めてください。授業中にグループで確認した方針に基づき、情報収集をさらに進めてください。	4時間
第12回	対面	グループ発表準備4	スライドの作成と発表練習を行ってください。	4時間
第13回	対面	グループ発表1	自身の発表に関する改善点等について振り返ってください。	4時間
第14回	対面	グループ発表2 留学・海外体験ガイダンス	自身の発表に関する改善点等について振り返ってください。 期末レポートの作成を行ってください。 本学でサポートを受けられる留学制度について理解してください。	4時間
第15回	対面	振り返り	春学期の学生生活（学修）についてまとめてください。 夏休みの過ごし方（学修）について計画してください。	4時間

科目名	基礎演習 A		開講年度	2026 年度春学期
担当者	楊 倩倩		配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G1		授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	大学での学び方（姿勢、学修技法）を身につける			
授業の目的及び概要	1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得などを目標とする入門的な内容の授業（演習）です。高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目指します。 大学においては、自ら学び、行動する自主的な学修態度が重要です。この演習では、レポート作成方法などのテクニックとともに、大学における学び方の態度・姿勢を学びつつ、経済新聞の活用等も通じて、社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。また、大学生活、さらには社会人に求められる、良好な人間関係を築く能力を身につけるため、他者への理解やコミュニケーション能力の向上を主な目標とします。 さらに、本科目は経済・社会に関するテーマを題材に経済学部での学びをスタートさせるための知識・技能の獲得を目指します。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	①書籍等の適切な情報源を参照することができる。 ②適切な書式・様式に基づく文章を作成することができる。 ③基礎的なプレゼンテーション技法に基づく発表を行うことができる。 ④他者との適切なコミュニケーションを通じて課題等に取り組むことができる。 ⑤経済学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業中に提出された課題や発表については、教員によるフィードバックを行います。			
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	必要な資料等は授業中に配布・紹介します。		ISBN	なし
参考書	①日経新聞を「読む技術」「活用する技術」, 山本 博幸 , ディスカヴァー・トゥエンティワン, 2019 年 ②SDGs 見るだけノート：基礎知識とビジネスチャンスにつなげた成功事例が丸わかり!, 笹谷 秀光, 宝島社, 2022 年 (②については図書館の電子ブックでも閲覧することができます。)		ISBN	①9784799325476 ②9784299004512
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		50	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	本科目を通じて、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築く機会としてください。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	「大学生としてやるべき事」「自分がやりたいこと」について分析し、春学期の目標を立てる。春学期の面談シートを完成させ提出してください。	4時間
第2回	オンデマンド	オンデマンドガイダンス（図書館・学内施設紹介）	オンデマンド動画を視聴し、ガイダンス資料について復習を行ってください。	4時間
第3回	対面	大学オリエンテーション（学内施設紹介）	キャンパスマップを確認して、大学の施設を活用するイメージを持ってください。	4時間
第4回	対面	フェルミ推定	授業中で配布された資料を読み返し、改めて例題を考えてください。	4時間
第5回	対面	レポート作成ガイダンス1	レポート作成に関する授業資料を精読し、レポートの基本的な書式について復習を行ってください。	4時間
第6回	対面	レポート作成ガイダンス2	レポート作成に関する授業資料を精読し、レポート作成を行ってください。	4時間
第7回	対面	合同授業（金融経済セミナー）	セミナー内で配布された講義資料の復習を行ってください。	4時間
第8回	対面	グループ発表準備1	図書館等を活用しながら、グループ報告に向けた情報収集を行ってください。	4時間
第9回	対面	レポート作成ガイダンス3	講評を受けて、自身のレポートを見直し・加筆修正を行ってください。	4時間
第10回	対面	グループ発表準備2	図書館等を活用しながら、グループ報告に向けた情報収集を進めてください。授業中にグループで確認した方針に基づき、情報収集をさらに進めてください。	4時間
第11回	対面	グループ発表準備3	図書館等を活用しながら、グループ報告に向けた情報収集を進めてください。授業中にグループで確認した方針に基づき、情報収集をさらに進めてください。	4時間
第12回	対面	グループ発表準備4	スライドの作成と発表練習を行ってください。	4時間
第13回	対面	グループ発表1	自身の発表に関する改善点等について振り返ってください。	4時間
第14回	対面	グループ発表2 留学・海外体験ガイダンス	自身の発表に関する改善点等について振り返ってください。 期末レポートの作成を行ってください。 本学でサポートを受けられる留学制度について理解してください。	4時間
第15回	対面	振り返り	春学期の学生生活（学修）についてまとめてください。 夏休みの過ごし方（学修）について計画してください。	4時間

科目名	基礎演習 A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	伊勢 公人	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	大学での学び方（姿勢、学修技法）を身につける		
授業の目的及び概要	1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得などを目標とする入門的な内容の授業（演習）です。高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目指します。 大学においては、自ら学び、行動する自主的な学修態度が重要です。この演習では、レポート作成方法などのテクニックとともに、大学における学び方の態度・姿勢を学びつつ、経済新聞の活用等も通じて、社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。また、大学生活、さらには社会人に求められる、良好な人間関係を築く能力を身につけるため、他者への理解やコミュニケーション能力の向上を主な目標とします。 さらに、本科目は経済・社会に関するテーマを題材に経済学部での学びをスタートさせるための知識・技能の獲得を目指します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①書籍等の適切な情報源を参照することができる。 ②適切な書式・様式に基づく文章を作成することができる。 ③基礎的なプレゼンテーション技法に基づく発表を行うことができる。 ④他者との適切なコミュニケーションを通じて課題等に取り組むことができる。 ⑤経済学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中に提出された課題や発表については、教員によるフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1987 年から民間企業に 34 年間勤務しており、欧州事務所の副所長を務めた経験を有している。また、経済産業省の受託研究のプロジェクトリーダーを始め、多くの調査プロジェクトを担ってきた。本科目では、これらの経験を生かした授業を行う。		
テキスト	必要な資料等は授業中に配布・紹介します。	ISBN	なし
参考書	①日経新聞を「読む技術」「活用する技術」, 山本 博幸 , ディスカヴァー・トゥエンティワン, 2019 年 ②SDGs 見るだけノート : 基礎知識とビジネスチャンスにつなげた成功事例が丸わかり!, 笹谷 秀光, 宝島社, 2022 年 (②については図書館の電子ブックでも閲覧することができます。)	ISBN	①9784799325476 ②9784299004512
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）		
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	本科目を通じて、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築く機会としてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	「大学生としてやるべき事」「自分がやりたいこと」について分析し、春学期の目標を立てる。春学期の面談シートを完成させ提出してください。	4時間
第2回	オンデマンド	オンデマンドガイダンス（図書館・学内施設紹介）	オンデマンド動画を視聴し、ガイダンス資料について復習を行ってください。	4時間
第3回	対面	大学オリエンテーション（学内施設紹介）	キャンパスマップを確認して、大学の施設を活用するイメージを持ってください。	4時間
第4回	対面	フェルミ推定	授業中で配布された資料を読み返し、改めて例題を考えてください。	4時間
第5回	対面	レポート作成ガイダンス1	レポート作成に関する授業資料を精読し、レポートの基本的な書式について復習を行ってください。	4時間
第6回	対面	レポート作成ガイダンス2	レポート作成に関する授業資料を精読し、レポート作成を行ってください。	4時間
第7回	対面	合同授業（金融経済セミナー）	セミナー内で配布された講義資料の復習を行ってください。	4時間
第8回	対面	グループ発表準備1	図書館等を活用しながら、グループ報告に向けた情報収集を行ってください。	4時間
第9回	対面	レポート作成ガイダンス3	講評を受けて、自身のレポートを見直し・加筆修正を行ってください。	4時間
第10回	対面	グループ発表準備2	図書館等を活用しながら、グループ報告に向けた情報収集を進めてください。授業中にグループで確認した方針に基づき、情報収集をさらに進めてください。	4時間
第11回	対面	グループ発表準備3	図書館等を活用しながら、グループ報告に向けた情報収集を進めてください。授業中にグループで確認した方針に基づき、情報収集をさらに進めてください。	4時間
第12回	対面	グループ発表準備4	スライドの作成と発表練習を行ってください。	4時間
第13回	対面	グループ発表1	自身の発表に関する改善点等について振り返ってください。	4時間
第14回	対面	グループ発表2 留学・海外体験ガイダンス	自身の発表に関する改善点等について振り返ってください。 期末レポートの作成を行ってください。 本学でサポートを受けられる留学制度について理解してください。	4時間
第15回	対面	振り返り	春学期の大学生活（学修）についてまとめてください。 夏休みの過ごし方（学修）について計画してください。	4時間

科目名	基礎演習 A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	牧田 修治	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	大学での学び方（姿勢、学修技法）を身につける		
授業の目的及び概要	1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得などを目標とする入門的な内容の授業（演習）です。高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目指します。 大学においては、自ら学び、行動する自主的な学修態度が重要です。この演習では、レポート作成方法などのテクニックとともに、大学における学び方の態度・姿勢を学びつつ、経済新聞の活用等も通じて、社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。また、大学生活、さらには社会人に求められる、良好な人間関係を築く能力を身につけるため、他者への理解やコミュニケーション能力の向上を主な目標とします。 さらに、本科目は経済・社会に関するテーマを題材に経済学部での学びをスタートさせるための知識・技能の獲得を目指します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①書籍等の適切な情報源を参照することができる。 ②適切な書式・様式に基づく文章を作成することができる。 ③基礎的なプレゼンテーション技法に基づく発表を行うことができる。 ④他者との適切なコミュニケーションを通じて課題等に取り組むことができる。 ⑤経済学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中に提出された課題や発表については、教員によるフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、金融機関のシンクタンクや徳島県庁で、長年にわたり統計データ分析や政策分析の業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	必要な資料等は授業中に配布・紹介します。	ISBN	なし
参考書	①日経新聞を「読む技術」「活用する技術」、山本 博幸，ディスカヴァー・トゥエンティワン，2019 年 ②SDGs 見るだけノート：基礎知識とビジネスチャンスにつなげた成功事例が丸わかり!，笹谷 秀光，宝島社，2022 年 （②については図書館の電子ブックでも閲覧することができます。）	ISBN	①9784799325476 ②9784299004512
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講に	本科目を通じて、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、大学生		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	「大学生としてやるべき事」「自分がやりたいこと」について分析し、春学期の目標を立てる。春学期の面談シートを完成させ提出してください。	4時間
第2回	オンデマンド	オンデマンドガイダンス（図書館・学内施設紹介）	オンデマンド動画を視聴し、ガイダンス資料について復習を行ってください。	4時間
第3回	対面	大学オリエンテーション（学内施設紹介）	キャンパスマップを確認して、大学の施設を活用するイメージを持ってください。	4時間
第4回	対面	フェルミ推定	授業中で配布された資料を読み返し、改めて例題を考えてください。	4時間
第5回	対面	レポート作成ガイダンス1	レポート作成に関する授業資料を精読し、レポートの基本的な書式について復習を行ってください。	4時間
第6回	対面	レポート作成ガイダンス2	レポート作成に関する授業資料を精読し、レポート作成を行ってください。	4時間
第7回	対面	合同授業（金融経済セミナー）	セミナー内で配布された講義資料の復習を行ってください。	4時間
第8回	対面	グループ発表準備1	図書館等を活用しながら、グループ報告に向けた情報収集を行ってください。	4時間
第9回	対面	レポート作成ガイダンス3	講評を受けて、自身のレポートを見直し・加筆修正を行ってください。	4時間
第10回	対面	グループ発表準備2	図書館等を活用しながら、グループ報告に向けた情報収集を進めてください。授業中にグループで確認した方針に基づき、情報収集をさらに進めてください。	4時間
第11回	対面	グループ発表準備3	図書館等を活用しながら、グループ報告に向けた情報収集を進めてください。授業中にグループで確認した方針に基づき、情報収集をさらに進めてください。	4時間
第12回	対面	グループ発表準備4	スライドの作成と発表練習を行ってください。	4時間
第13回	対面	グループ発表1	自身の発表に関する改善点等について振り返ってください。	4時間
第14回	対面	グループ発表2 留学・海外体験ガイダンス	自身の発表に関する改善点等について振り返ってください。 期末レポートの作成を行ってください。 本学でサポートを受けられる留学制度について理解してください。	4時間
第15回	対面	振り返り	春学期の学生生活（学修）についてまとめてください。 夏休みの過ごし方（学修）について計画してください。	4時間

科目名	基礎演習 A		開講年度	2026 年度春学期
担当者	篠田 太郎		配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G1		授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	大学での学び方（姿勢、学修技法）を身につける			
授業の目的及び概要	1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得などを目標とする入門的な内容の授業（演習）です。高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目指します。 大学においては、自ら学び、行動する自主的な学修態度が重要です。この演習では、レポート作成方法などのテクニックとともに、大学における学び方の態度・姿勢を学びつつ、経済新聞の活用等も通じて、社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。また、大学生活、さらには社会人に求められる、良好な人間関係を築く能力を身につけるため、他者への理解やコミュニケーション能力の向上を主な目標とします。 さらに、本科目は経済・社会に関するテーマを題材に経済学部での学びをスタートさせるための知識・技能の獲得を目指します。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	①書籍等の適切な情報源を参照することができる。 ②適切な書式・様式に基づく文章を作成することができる。 ③基礎的なプレゼンテーション技法に基づく発表を行うことができる。 ④他者との適切なコミュニケーションを通じて課題等に取り組むことができる。 ⑤経済学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業中に提出された課題や発表については、教員によるフィードバックを行います。			
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	必要な資料等は授業中に配布・紹介します。		ISBN	なし
参考書	①日経新聞を「読む技術」「活用する技術」、山本 博幸，ディスカヴァー・トゥエンティワン，2019 年 ②SDGs 見るだけノート：基礎知識とビジネスチャンスにつなげた成功事例が丸わかり!，笹谷 秀光，宝島社，2022 年 （②については図書館の電子ブックでも閲覧することができます。）		ISBN	①9784799325476 ②9784299004512
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		50	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	本科目を通じて、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築く機会としてください。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	「大学生としてやるべき事」「自分がやりたいこと」について分析し、春学期の目標を立てる。春学期の面談シートを完成させ提出してください。	4時間
第2回	オンデマンド	オンデマンドガイダンス（図書館・学内施設紹介）	オンデマンド動画を視聴し、ガイダンス資料について復習を行ってください。	4時間
第3回	対面	大学オリエンテーション（学内施設紹介）	キャンパスマップを確認して、大学の施設を活用するイメージを持ってください。	4時間
第4回	対面	フェルミ推定	授業中で配布された資料を読み返し、改めて例題を考えてください。	4時間
第5回	対面	レポート作成ガイダンス1	レポート作成に関する授業資料を精読し、レポートの基本的な書式について復習を行ってください。	4時間
第6回	対面	レポート作成ガイダンス2	レポート作成に関する授業資料を精読し、レポート作成を行ってください。	4時間
第7回	対面	合同授業（金融経済セミナー）	セミナー内で配布された講義資料の復習を行ってください。	4時間
第8回	対面	グループ発表準備1	図書館等を活用しながら、グループ報告に向けた情報収集を行ってください。	4時間
第9回	対面	レポート作成ガイダンス3	講評を受けて、自身のレポートを見直し・加筆修正を行ってください。	4時間
第10回	対面	グループ発表準備2	図書館等を活用しながら、グループ報告に向けた情報収集を進めてください。授業中にグループで確認した方針に基づき、情報収集をさらに進めてください。	4時間
第11回	対面	グループ発表準備3	図書館等を活用しながら、グループ報告に向けた情報収集を進めてください。授業中にグループで確認した方針に基づき、情報収集をさらに進めてください。	4時間
第12回	対面	グループ発表準備4	スライドの作成と発表練習を行ってください。	4時間
第13回	対面	グループ発表1	自身の発表に関する改善点等について振り返ってください。	4時間
第14回	対面	グループ発表2 留学・海外体験ガイダンス	自身の発表に関する改善点等について振り返ってください。 期末レポートの作成を行ってください。 本学でサポートを受けられる留学制度について理解してください。	4時間
第15回	対面	振り返り	春学期の学生生活（学修）についてまとめてください。 夏休みの過ごし方（学修）について計画してください。	4時間

科目名	基礎演習 A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	久米 高史	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	大学での学び方（姿勢、学修技法）を身につける		
授業の目的及び概要	1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得などを目標とする入門的な内容の授業（演習）です。高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目指します。 大学においては、自ら学び、行動する自主的な学修態度が重要です。この演習では、レポート作成方法などのテクニックとともに、大学における学び方の態度・姿勢を学びつつ、経済新聞の活用等も通じて、社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。また、大学生活、さらには社会人に求められる、良好な人間関係を築く能力を身につけるため、他者への理解やコミュニケーション能力の向上を主な目標とします。 さらに、本科目は経済・社会に関するテーマを題材に経済学部での学びをスタートさせるための知識・技能の獲得を目指します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①書籍等の適切な情報源を参照することができる。 ②適切な書式・様式に基づく文章を作成することができる。 ③基礎的なプレゼンテーション技法に基づく発表を行うことができる。 ④他者との適切なコミュニケーションを通じて課題等に取り組むことができる。 ⑤経済学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中に提出された課題や発表については、教員によるフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	必要な資料等は授業中に配布・紹介します。	ISBN	なし
参考書	①日経新聞を「読む技術」「活用する技術」、山本 博幸，ディスカヴァー・トゥエンティワン，2019 年 ②SDGs 見るだけノート：基礎知識とビジネスチャンスにつなげた成功事例が丸わかり!，笹谷 秀光，宝島社，2022 年 （②については図書館の電子ブックでも閲覧することができます。）	ISBN	①9784799325476 ②9784299004512
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	本科目を通じて、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築く機会としてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	「大学生としてやるべき事」「自分がやりたいこと」について分析し、春学期の目標を立てる。春学期の面談シートを完成させ提出してください。	4時間
第2回	オンデマンド	オンデマンドガイダンス（図書館・学内施設紹介）	オンデマンド動画を視聴し、ガイダンス資料について復習を行ってください。	4時間
第3回	対面	大学オリエンテーション（学内施設紹介）	キャンパスマップを確認して、大学の施設を活用するイメージを持ってください。	4時間
第4回	対面	フェルミ推定	授業中で配布された資料を読み返し、改めて例題を考えてください。	4時間
第5回	対面	レポート作成ガイダンス1	レポート作成に関する授業資料を精読し、レポートの基本的な書式について復習を行ってください。	4時間
第6回	対面	レポート作成ガイダンス2	レポート作成に関する授業資料を精読し、レポート作成を行ってください。	4時間
第7回	対面	合同授業（金融経済セミナー）	セミナー内で配布された講義資料の復習を行ってください。	4時間
第8回	対面	グループ発表準備1	図書館等を活用しながら、グループ報告に向けた情報収集を行ってください。	4時間
第9回	対面	レポート作成ガイダンス3	講評を受けて、自身のレポートを見直し・加筆修正を行ってください。	4時間
第10回	対面	グループ発表準備2	図書館等を活用しながら、グループ報告に向けた情報収集を進めてください。授業中にグループで確認した方針に基づき、情報収集をさらに進めてください。	4時間
第11回	対面	グループ発表準備3	図書館等を活用しながら、グループ報告に向けた情報収集を進めてください。授業中にグループで確認した方針に基づき、情報収集をさらに進めてください。	4時間
第12回	対面	グループ発表準備4	スライドの作成と発表練習を行ってください。	4時間
第13回	対面	グループ発表1	自身の発表に関する改善点等について振り返ってください。	4時間
第14回	対面	グループ発表2 留学・海外体験ガイダンス	自身の発表に関する改善点等について振り返ってください。 期末レポートの作成を行ってください。 本学でサポートを受けられる留学制度について理解してください。	4時間
第15回	対面	振り返り	春学期の学生生活（学修）についてまとめてください。 夏休みの過ごし方（学修）について計画してください。	4時間

科目名	基礎演習 A		開講年度	2026 年度春学期
担当者	張 哲		配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G1		授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	大学での学び方（姿勢、学修技法）を身につける			
授業の目的及び概要	1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得などを目標とする入門的な内容の授業（演習）です。高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目指します。 大学においては、自ら学び、行動する自主的な学修態度が重要です。この演習では、レポート作成方法などのテクニックとともに、大学における学び方の態度・姿勢を学びつつ、経済新聞の活用等も通じて、社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。また、大学生活、さらには社会人に求められる、良好な人間関係を築く能力を身につけるため、他者への理解やコミュニケーション能力の向上を主な目標とします。 さらに、本科目は経済・社会に関するテーマを題材に経済学部での学びをスタートさせるための知識・技能の獲得を目指します。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	①書籍等の適切な情報源を参照することができる。 ②適切な書式・様式に基づく文章を作成することができる。 ③基礎的なプレゼンテーション技法に基づく発表を行うことができる。 ④他者との適切なコミュニケーションを通じて課題等に取り組むことができる。 ⑤経済学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業中に提出された課題や発表については、教員によるフィードバックを行います。			
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	必要な資料等は授業中に配布・紹介します。		ISBN	なし
参考書	①日経新聞を「読む技術」「活用する技術」, 山本 博幸 , ディスカヴァー・トゥエンティワン, 2019 年 ②SDGs 見るだけノート：基礎知識とビジネスチャンスにつなげた成功事例が丸わかり!, 笹谷 秀光, 宝島社, 2022 年 (②については図書館の電子ブックでも閲覧することができます。)		ISBN	①9784799325476 ②9784299004512
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		50	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	本科目を通じて、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築く機会としてください。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	「大学生としてやるべき事」「自分がやりたいこと」について分析し、春学期の目標を立てる。春学期の面談シートを完成させ提出してください。	4時間
第2回	オンデマンド	オンデマンドガイダンス（図書館・学内施設紹介）	オンデマンド動画を視聴し、ガイダンス資料について復習を行ってください。	4時間
第3回	対面	大学オリエンテーション（学内施設紹介）	キャンパスマップを確認して、大学の施設を活用するイメージを持ってください。	4時間
第4回	対面	フェルミ推定	授業中で配布された資料を読み返し、改めて例題を考えてください。	4時間
第5回	対面	レポート作成ガイダンス1	レポート作成に関する授業資料を精読し、レポートの基本的な書式について復習を行ってください。	4時間
第6回	対面	レポート作成ガイダンス2	レポート作成に関する授業資料を精読し、レポート作成を行ってください。	4時間
第7回	対面	合同授業（金融経済セミナー）	セミナー内で配布された講義資料の復習を行ってください。	4時間
第8回	対面	グループ発表準備1	図書館等を活用しながら、グループ報告に向けた情報収集を行ってください。	4時間
第9回	対面	レポート作成ガイダンス3	講評を受けて、自身のレポートを見直し・加筆修正を行ってください。	4時間
第10回	対面	グループ発表準備2	図書館等を活用しながら、グループ報告に向けた情報収集を進めてください。授業中にグループで確認した方針に基づき、情報収集をさらに進めてください。	4時間
第11回	対面	グループ発表準備3	図書館等を活用しながら、グループ報告に向けた情報収集を進めてください。授業中にグループで確認した方針に基づき、情報収集をさらに進めてください。	4時間
第12回	対面	グループ発表準備4	スライドの作成と発表練習を行ってください。	4時間
第13回	対面	グループ発表1	自身の発表に関する改善点等について振り返ってください。	4時間
第14回	対面	グループ発表2 留学・海外体験ガイダンス	自身の発表に関する改善点等について振り返ってください。 期末レポートの作成を行ってください。 本学でサポートを受けられる留学制度について理解してください。	4時間
第15回	対面	振り返り	春学期の学生生活（学修）についてまとめてください。 夏休みの過ごし方（学修）について計画してください。	4時間

科目名	基礎演習 A		開講年度	2026 年度春学期
担当者	朱 東平		配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G1		授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	大学での学び方（姿勢、学修技法）を身につける			
授業の目的及び概要	1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得などを目標とする入門的な内容の授業（演習）です。高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目指します。 大学においては、自ら学び、行動する自主的な学修態度が重要です。この演習では、レポート作成方法などのテクニックとともに、大学における学び方の態度・姿勢を学びつつ、経済新聞の活用等も通じて、社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。また、大学生活、さらには社会人に求められる、良好な人間関係を築く能力を身につけるため、他者への理解やコミュニケーション能力の向上を主な目標とします。 さらに、本科目は経済・社会に関するテーマを題材に経済学部での学びをスタートさせるための知識・技能の獲得を目指します。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	①書籍等の適切な情報源を参照することができる。 ②適切な書式・様式に基づく文章を作成することができる。 ③基礎的なプレゼンテーション技法に基づく発表を行うことができる。 ④他者との適切なコミュニケーションを通じて課題等に取り組むことができる。 ⑤経済学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業中に提出された課題や発表については、教員によるフィードバックを行います。			
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	必要な資料等は授業中に配布・紹介します。		ISBN	なし
参考書	①日経新聞を「読む技術」「活用する技術」、山本 博幸，ディスカヴァー・トゥエンティワン，2019 年 ②SDGs 見るだけノート：基礎知識とビジネスチャンスにつなげた成功事例が丸わかり!，笹谷 秀光，宝島社，2022 年 （②については図書館の電子ブックでも閲覧することができます。）		ISBN	①9784799325476 ②9784299004512
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		50	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	本科目を通じて、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築く機会としてください。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	「大学生としてやるべき事」「自分がやりたいこと」について分析し、春学期の目標を立てる。春学期の面談シートを完成させ提出してください。	4時間
第2回	オンデマンド	オンデマンドガイダンス（図書館・学内施設紹介）	オンデマンド動画を視聴し、ガイダンス資料について復習を行ってください。	4時間
第3回	対面	大学オリエンテーション（学内施設紹介）	キャンパスマップを確認して、大学の施設を活用するイメージを持ってください。	4時間
第4回	対面	フェルミ推定	授業中で配布された資料を読み返し、改めて例題を考えてください。	4時間
第5回	対面	レポート作成ガイダンス1	レポート作成に関する授業資料を精読し、レポートの基本的な書式について復習を行ってください。	4時間
第6回	対面	レポート作成ガイダンス2	レポート作成に関する授業資料を精読し、レポート作成を行ってください。	4時間
第7回	対面	合同授業（金融経済セミナー）	セミナー内で配布された講義資料の復習を行ってください。	4時間
第8回	対面	グループ発表準備1	図書館等を活用しながら、グループ報告に向けた情報収集を行ってください。	4時間
第9回	対面	レポート作成ガイダンス3	講評を受けて、自身のレポートを見直し・加筆修正を行ってください。	4時間
第10回	対面	グループ発表準備2	図書館等を活用しながら、グループ報告に向けた情報収集を進めてください。授業中にグループで確認した方針に基づき、情報収集をさらに進めてください。	4時間
第11回	対面	グループ発表準備3	図書館等を活用しながら、グループ報告に向けた情報収集を進めてください。授業中にグループで確認した方針に基づき、情報収集をさらに進めてください。	4時間
第12回	対面	グループ発表準備4	スライドの作成と発表練習を行ってください。	4時間
第13回	対面	グループ発表1	自身の発表に関する改善点等について振り返ってください。	4時間
第14回	対面	グループ発表2 留学・海外体験ガイダンス	自身の発表に関する改善点等について振り返ってください。 期末レポートの作成を行ってください。 本学でサポートを受けられる留学制度について理解してください。	4時間
第15回	対面	振り返り	春学期の学生生活（学修）についてまとめてください。 夏休みの過ごし方（学修）について計画してください。	4時間

科目名	基礎演習 A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	畑野 吉則	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	大学での学び方（姿勢、学修技法）を身につける		
授業の目的及び概要	1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得などを目標とする入門的な内容の授業（演習）です。高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目指します。 大学においては、自ら学び、行動する自主的な学修態度が重要です。この演習では、レポート作成方法などのテクニックとともに、大学における学び方の態度・姿勢を学びつつ、経済新聞の活用等も通じて、社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。また、大学生活、さらには社会人に求められる、良好な人間関係を築く能力を身につけるため、他者への理解やコミュニケーション能力の向上を主な目標とします。 さらに、本科目は経済・社会に関するテーマを題材に経済学部での学びをスタートさせるための知識・技能の獲得を目指します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①書籍等の適切な情報源を参照することができる。 ②適切な書式・様式に基づく文章を作成することができる。 ③基礎的なプレゼンテーション技法に基づく発表を行うことができる。 ④他者との適切なコミュニケーションを通じて課題等に取り組むことができる。 ⑤経済学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中に提出された課題や発表については、教員によるフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	必要な資料等は授業中に配布・紹介します。	ISBN	なし
参考書	①日経新聞を「読む技術」「活用する技術」, 山本 博幸 , ディスカヴァー・トゥエンティワン, 2019 年 ②SDGs 見るだけノート：基礎知識とビジネスチャンスにつなげた成功事例が丸わかり!, 笹谷 秀光, 宝島社, 2022 年 (②については図書館の電子ブックでも閲覧することができます。)	ISBN	①9784799325476 ②9784299004512
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	本科目を通じて、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築く機会としてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	「大学生としてやるべき事」「自分がやりたいこと」について分析し、春学期の目標を立てる。春学期の面談シートを完成させ提出してください。	4時間
第2回	オンデマンド	オンデマンドガイダンス（図書館・学内施設紹介）	オンデマンド動画を視聴し、ガイダンス資料について復習を行ってください。	4時間
第3回	対面	大学オリエンテーション（学内施設紹介）	キャンパスマップを確認して、大学の施設を活用するイメージを持ってください。	4時間
第4回	対面	フェルミ推定	授業中で配布された資料を読み返し、改めて例題を考えてください。	4時間
第5回	対面	レポート作成ガイダンス1	レポート作成に関する授業資料を精読し、レポートの基本的な書式について復習を行ってください。	4時間
第6回	対面	レポート作成ガイダンス2	レポート作成に関する授業資料を精読し、レポート作成を行ってください。	4時間
第7回	対面	合同授業（金融経済セミナー）	セミナー内で配布された講義資料の復習を行ってください。	4時間
第8回	対面	グループ発表準備1	図書館等を活用しながら、グループ報告に向けた情報収集を行ってください。	4時間
第9回	対面	レポート作成ガイダンス3	講評を受けて、自身のレポートを見直し・加筆修正を行ってください。	4時間
第10回	対面	グループ発表準備2	図書館等を活用しながら、グループ報告に向けた情報収集を進めてください。授業中にグループで確認した方針に基づき、情報収集をさらに進めてください。	4時間
第11回	対面	グループ発表準備3	図書館等を活用しながら、グループ報告に向けた情報収集を進めてください。授業中にグループで確認した方針に基づき、情報収集をさらに進めてください。	4時間
第12回	対面	グループ発表準備4	スライドの作成と発表練習を行ってください。	4時間
第13回	対面	グループ発表1	自身の発表に関する改善点等について振り返ってください。	4時間
第14回	対面	グループ発表2 留学・海外体験ガイダンス	自身の発表に関する改善点等について振り返ってください。 期末レポートの作成を行ってください。 本学でサポートを受けられる留学制度について理解してください。	4時間
第15回	対面	振り返り	春学期の学生生活（学修）についてまとめてください。 夏休みの過ごし方（学修）について計画してください。	4時間

科目名	基礎演習 B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	楊 倩倩	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	大学での学び方（姿勢、学修技法）を身につけ、経済的・社会的な諸問題に取り組む		
授業の目的及び概要	本科目は、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得などを目標とする入門的な内容の授業（演習）であり、春学期の「基礎演習 A」に引き続き受講します。高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目指します。特にレポート作成やスライド作成、プレゼンテーション技法についても解説します。 大学においては、自ら学び、行動する自主的な学修態度が重要です。本科目では、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を学びつつ、経済等に関するテーマを取り扱いながら、社会の諸問題への興味・関心から 2 年次以降のコース選択に寄与する内容を扱います。また、大学生活、さらには社会人に求められる、良好な人間関係を築く能力を身につけるため、他者への理解やコミュニケーション能力の向上も目標とします。 さらに、本科目は経済・社会に関するテーマを題材に経済学部での学びをスタートさせるための知識・技能の獲得を目指します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①書籍等の適切な情報源を活用して、大学生に相応しい情報収集を行うことができる。 ②適切な書式・様式に基づき、論理的なレポート・文章を作成することができる。 ③基礎的なプレゼンテーション技法に基づく発表を行うことができる。 ④他者との適切なコミュニケーションを通じて課題等に取り組むことができる。 ⑤経済学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中に提出された課題や発表については、教員によるフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	必要な資料等は授業中に配布・紹介します。	ISBN	なし
参考書	①日経新聞を「読む技術」「活用する技術」、山本 博幸，ディスカヴァー・トゥエンティワン，2019 年 ②SDGs 見るだけノート：基礎知識とビジネスチャンスにつなげた成功事例が丸わかり！，笹谷 秀光，宝島社，2022 年 （②については図書館の電子ブックでも閲覧することができます。）	ISBN	①9784799325476 ②9784299004512
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）		
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	この授業を通じて、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、経済的・社会的な諸問題に取り組むことで、調査研究に関する一連の知識や技能を修得してください。また、2年次のゼミ・コース選択や自身のキャリアについて考える機会としてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス、合同発表会に向けた取り組み（グループ作成・役割分担・テーマの検討）、留学・海外体験ガイダンス	秋学期の目標シート、面談シートを完成させ提出しましょう。 合同発表のテーマについて整理してください。 本学でサポートを受けられる留学制度について理解してください。	4時間
第2回	オンデマンド	コース制ガイダンス、合同発表会ガイダンス	次年度のコース選択に向けて資料を参考にして検討してください。 合同発表会のテーマに関連する書籍を図書館等で借りて読んでおくようにしてください。	4時間
第3回	対面	合同発表会に向けた取り組み（調査）（E01～E05, E07, E09 クラスは合同授業（日経読み方講座））	授業内容に基づいて、合同発表会に向けた調査を進めてください。	4時間
第4回	対面	合同発表会に向けた取り組み（調査とスライド作成等）	合同発表会に向けた情報収集・調査を行ってください。 発表時に使用するスライドの作成を行ってください。	4時間
第5回	対面	合同発表会に向けた取り組み（調査とスライド作成等）	合同発表会に向けた情報収集・調査を行ってください。 発表時に使用するスライドの作成を行ってください。	4時間
第6回	対面	合同発表会に向けた取り組み（調査・スライド作成・発表練習等）	合同発表会に向けた情報収集・調査を行ってください。 発表時に使用するスライドの作成を行ってください。 クラス内での発表練習など発表の向けての準備を行ってください。	4時間
第7回	対面	合同発表会に向けた取り組み（スライド作成・クラス内発表）	スライドを完成させてください。 クラス内での発表練習など発表の向けての準備を行ってください。	4時間
第8回	対面	合同発表会に向けた取り組み（クラス内発表）	クラス内での発表練習など発表の向けての準備を行ってください。 スライド及び配布資料の完成させてください。	4時間
第9回	対面	合同発表会に向けた最終確認と発表練習を行ってください。	スライド及び配布資料の完成させてください。 合同発表会に向けた最終確認と発表練習を行ってください。	4時間
第10回	対面	合同発表会1	発表練習 ふりかえりシートの完成と提出 他チームの発表について復習	4時間
第11回	対面	合同発表会2	発表練習 ふりかえりシートの完成と提出 他チームの発表について復習	4時間
第12回	対面	合同発表会3	発表練習 ふりかえりシートの完成と提出 他チームの発表について復習	4時間
第13回	対面	レポート作成ガイダンス	期末レポート作成の準備を行ってください。	4時間
第14回	対面	合同発表会の振り返り、冬休み課題（期末レポート）の確認	自身の発表に関する改善点等について振り返る。 講評を受けて、自身のレポートを見直し・加筆修正を行ってください。	4時間
第15回	対面	振り返り	秋学期の学生生活（学修）について復習を行ってください。	4時間

科目名	基礎演習 B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	二替 大輔	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	大学での学び方（姿勢、学修技法）を身につけ、経済的・社会的な諸問題に取り組む		
授業の目的及び概要	本科目は、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得などを目標とする入門的な内容の授業（演習）であり、春学期の「基礎演習 A」に引き続き受講します。高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目指します。特にレポート作成やスライド作成、プレゼンテーション技法についても解説します。 大学においては、自ら学び、行動する自主的な学修態度が重要です。本科目では、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を学びつつ、経済等に関するテーマを取り扱いながら、社会の諸問題への興味・関心から 2 年次以降のコース選択に寄与する内容を扱います。また、大学生活、さらには社会人に求められる、良好な人間関係を築く能力を身につけるため、他者への理解やコミュニケーション能力の向上も目標とします。 さらに、本科目は経済・社会に関するテーマを題材に経済学部での学びをスタートさせるための知識・技能の獲得を目指します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①書籍等の適切な情報源を活用して、大学生に相応しい情報収集を行うことができる。 ②適切な書式・様式に基づき、論理的なレポート・文章を作成することができる。 ③基礎的なプレゼンテーション技法に基づく発表を行うことができる。 ④他者との適切なコミュニケーションを通じて課題等に取り組むことができる。 ⑤経済学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中に提出された課題や発表については、教員によるフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	必要な資料等は授業中に配布・紹介します。	ISBN	なし
参考書	①日経新聞を「読む技術」「活用する技術」、山本 博幸，ディスカヴァー・トゥエンティワン，2019 年 ②SDGs 見るだけノート：基礎知識とビジネスチャンスにつなげた成功事例が丸わかり！，笹谷 秀光，宝島社，2022 年 （②については図書館の電子ブックでも閲覧することができます。）	ISBN	①9784799325476 ②9784299004512
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	この授業を通じて、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、経済的・社会的な諸問題に取り組むことで、調査研究に関する一連の知識や技能を修得してください。また、2年次のゼミ・コース選択や自身のキャリアについて考える機会としてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス、合同発表会に向けた取り組み（グループ作成・役割分担・テーマの検討）、留学・海外体験ガイダンス	秋学期の目標シート、面談シートを完成させ提出しましょう。 合同発表のテーマについて整理してください。 本学でサポートを受けられる留学制度について理解してください。	4時間
第2回	オンデマンド	コース制ガイダンス、合同発表会ガイダンス	次年度のコース選択に向けて資料を参考にして検討してください。 合同発表会のテーマに関連する書籍を図書館等で借りて読んでおくようにしてください。	4時間
第3回	対面	合同発表会に向けた取り組み（調査）（E01～E05, E07, E09 クラスは合同授業（日経読み方講座））	授業内容に基づいて、合同発表会に向けた調査を進めてください。	4時間
第4回	対面	合同発表会に向けた取り組み（調査とスライド作成等）	合同発表会に向けた情報収集・調査を行ってください。 発表時に使用するスライドの作成を行ってください。	4時間
第5回	対面	合同発表会に向けた取り組み（調査とスライド作成等）	合同発表会に向けた情報収集・調査を行ってください。 発表時に使用するスライドの作成を行ってください。	4時間
第6回	対面	合同発表会に向けた取り組み（調査・スライド作成・発表練習等）	合同発表会に向けた情報収集・調査を行ってください。 発表時に使用するスライドの作成を行ってください。 クラス内での発表練習など発表の向けての準備を行ってください。	4時間
第7回	対面	合同発表会に向けた取り組み（スライド作成・クラス内発表）	スライドを完成させてください。 クラス内での発表練習など発表の向けての準備を行ってください。	4時間
第8回	対面	合同発表会に向けた取り組み（クラス内発表）	クラス内での発表練習など発表の向けての準備を行ってください。 スライド及び配布資料の完成させてください。	4時間
第9回	対面	合同発表会に向けた最終確認と発表練習を行ってください。	スライド及び配布資料の完成させてください。 合同発表会に向けた最終確認と発表練習を行ってください。	4時間
第10回	対面	合同発表会1	発表練習 ふりかえりシートの完成と提出 他チームの発表について復習	4時間
第11回	対面	合同発表会2	発表練習 ふりかえりシートの完成と提出 他チームの発表について復習	4時間
第12回	対面	合同発表会3	発表練習 ふりかえりシートの完成と提出 他チームの発表について復習	4時間
第13回	対面	レポート作成ガイダンス	期末レポート作成の準備を行ってください。	4時間
第14回	対面	合同発表会の振り返り、冬休み課題（期末レポート）の確認	自身の発表に関する改善点等について振り返る。 講評を受けて、自身のレポートを見直し・加筆修正を行ってください。	4時間
第15回	対面	振り返り	秋学期の学生生活（学修）について復習を行ってください。	4時間

科目名	基礎演習 B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	吉田 匠	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	大学での学び方（姿勢、学修技法）を身につけ、経済的・社会的な諸問題に取り組む		
授業の目的及び概要	本科目は、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得などを目標とする入門的な内容の授業（演習）であり、春学期の「基礎演習 A」に引き続き受講します。高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目指します。特にレポート作成やスライド作成、プレゼンテーション技法についても解説します。 大学においては、自ら学び、行動する自主的な学修態度が重要です。本科目では、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を学びつつ、経済等に関するテーマを取り扱いながら、社会の諸問題への興味・関心から 2 年次以降のコース選択に寄与する内容を扱います。また、大学生活、さらには社会人に求められる、良好な人間関係を築く能力を身につけるため、他者への理解やコミュニケーション能力の向上も目標とします。 さらに、本科目は経済・社会に関するテーマを題材に経済学部での学びをスタートさせるための知識・技能の獲得を目指します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①書籍等の適切な情報源を活用して、大学生に相応しい情報収集を行うことができる。 ②適切な書式・様式に基づき、論理的なレポート・文章を作成することができる。 ③基礎的なプレゼンテーション技法に基づく発表を行うことができる。 ④他者との適切なコミュニケーションを通じて課題等に取り組むことができる。 ⑤経済学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中に提出された課題や発表については、教員によるフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	必要な資料等は授業中に配布・紹介します。	ISBN	なし
参考書	①日経新聞を「読む技術」「活用する技術」、山本 博幸，ディスカヴァー・トゥエンティワン，2019 年 ②SDGs 見るだけノート：基礎知識とビジネスチャンスにつなげた成功事例が丸わかり！，笹谷 秀光，宝島社，2022 年 （②については図書館の電子ブックでも閲覧することができます。）	ISBN	①9784799325476 ②9784299004512
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）		
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	この授業を通じて、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、経済的・社会的な諸問題に取り組むことで、調査研究に関する一連の知識や技能を修得してください。また、2年次のゼミ・コース選択や自身のキャリアについて考える機会としてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス、合同発表会に向けた取り組み（グループ作成・役割分担・テーマの検討）、留学・海外体験ガイダンス	秋学期の目標シート、面談シートを完成させ提出しましょう。 合同発表のテーマについて整理してください。 本学でサポートを受けられる留学制度について理解してください。	4時間
第2回	オンデマンド	コース制ガイダンス、合同発表会ガイダンス	次年度のコース選択に向けて資料を参考にして検討してください。 合同発表会のテーマに関連する書籍を図書館等で借りて読んでおくようにしてください。	4時間
第3回	対面	合同発表会に向けた取り組み（調査）（E01～E05, E07, E09 クラスは合同授業（日経読み方講座））	授業内容に基づいて、合同発表会に向けた調査を進めてください。	4時間
第4回	対面	合同発表会に向けた取り組み（調査とスライド作成等）	合同発表会に向けた情報収集・調査を行ってください。 発表時に使用するスライドの作成を行ってください。	4時間
第5回	対面	合同発表会に向けた取り組み（調査とスライド作成等）	合同発表会に向けた情報収集・調査を行ってください。 発表時に使用するスライドの作成を行ってください。	4時間
第6回	対面	合同発表会に向けた取り組み（調査・スライド作成・発表練習等）	合同発表会に向けた情報収集・調査を行ってください。 発表時に使用するスライドの作成を行ってください。 クラス内での発表練習など発表の向けての準備を行ってください。	4時間
第7回	対面	合同発表会に向けた取り組み（スライド作成・クラス内発表）	スライドを完成させてください。 クラス内での発表練習など発表の向けての準備を行ってください。	4時間
第8回	対面	合同発表会に向けた取り組み（クラス内発表）	クラス内での発表練習など発表の向けての準備を行ってください。 スライド及び配布資料の完成させてください。	4時間
第9回	対面	合同発表会に向けた最終確認と発表練習を行ってください。	スライド及び配布資料の完成させてください。 合同発表会に向けた最終確認と発表練習を行ってください。	4時間
第10回	対面	合同発表会1	発表練習 ふりかえりシートの完成と提出 他チームの発表について復習	4時間
第11回	対面	合同発表会2	発表練習 ふりかえりシートの完成と提出 他チームの発表について復習	4時間
第12回	対面	合同発表会3	発表練習 ふりかえりシートの完成と提出 他チームの発表について復習	4時間
第13回	対面	レポート作成ガイダンス	期末レポート作成の準備を行ってください。	4時間
第14回	対面	合同発表会の振り返り、冬休み課題（期末レポート）の確認	自身の発表に関する改善点等について振り返る。 講評を受けて、自身のレポートを見直し・加筆修正を行ってください。	4時間
第15回	対面	振り返り	秋学期の学生生活（学修）について復習を行ってください。	4時間

科目名	基礎演習 B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	前田 一樹	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	大学での学び方（姿勢、学修技法）を身につけ、経済的・社会的な諸問題に取り組む		
授業の目的及び概要	本科目は、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得などを目標とする入門的な内容の授業（演習）であり、春学期の「基礎演習 A」に引き続き受講します。高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目指します。特にレポート作成やスライド作成、プレゼンテーション技法についても解説します。 大学においては、自ら学び、行動する自主的な学修態度が重要です。本科目では、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を学びつつ、経済等に関するテーマを取り扱いながら、社会の諸問題への興味・関心から 2 年次以降のコース選択に寄与する内容を扱います。また、大学生活、さらには社会人に求められる、良好な人間関係を築く能力を身につけるため、他者への理解やコミュニケーション能力の向上も目標とします。 さらに、本科目は経済・社会に関するテーマを題材に経済学部での学びをスタートさせるための知識・技能の獲得を目指します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①書籍等の適切な情報源を活用して、大学生に相応しい情報収集を行うことができる。 ②適切な書式・様式に基づき、論理的なレポート・文章を作成することができる。 ③基礎的なプレゼンテーション技法に基づく発表を行うことができる。 ④他者との適切なコミュニケーションを通じて課題等に取り組むことができる。 ⑤経済学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中に提出された課題や発表については、教員によるフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	必要な資料等は授業中に配布・紹介します。	ISBN	なし
参考書	①日経新聞を「読む技術」「活用する技術」、山本 博幸，ディスカヴァー・トゥエンティワン，2019 年 ②SDGs 見るだけノート：基礎知識とビジネスチャンスにつなげた成功事例が丸わかり！，笹谷 秀光，宝島社，2022 年 （②については図書館の電子ブックでも閲覧することができます。）	ISBN	①9784799325476 ②9784299004512
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	この授業を通じて、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、経済的・社会的な諸問題に取り組むことで、調査研究に関する一連の知識や技能を修得してください。また、2年次のゼミ・コース選択や自身のキャリアについて考える機会としてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス、合同発表会に向けた取り組み（グループ作成・役割分担・テーマの検討）、留学・海外体験ガイダンス	秋学期の目標シート、面談シートを完成させ提出しましょう。 合同発表のテーマについて整理してください。 本学でサポートを受けられる留学制度について理解してください。	4時間
第2回	オンデマンド	コース制ガイダンス、合同発表会ガイダンス	次年度のコース選択に向けて資料を参考にして検討してください。 合同発表会のテーマに関連する書籍を図書館等で借りて読んでおくようにしてください。	4時間
第3回	対面	合同発表会に向けた取り組み（調査）（E01～E05, E07, E09 クラスは合同授業（日経読み方講座））	授業内容に基づいて、合同発表会に向けた調査を進めてください。	4時間
第4回	対面	合同発表会に向けた取り組み（調査とスライド作成等）	合同発表会に向けた情報収集・調査を行ってください。 発表時に使用するスライドの作成を行ってください。	4時間
第5回	対面	合同発表会に向けた取り組み（調査とスライド作成等）	合同発表会に向けた情報収集・調査を行ってください。 発表時に使用するスライドの作成を行ってください。	4時間
第6回	対面	合同発表会に向けた取り組み（調査・スライド作成・発表練習等）	合同発表会に向けた情報収集・調査を行ってください。 発表時に使用するスライドの作成を行ってください。 クラス内での発表練習など発表の向けての準備を行ってください。	4時間
第7回	対面	合同発表会に向けた取り組み（スライド作成・クラス内発表）	スライドを完成させてください。 クラス内での発表練習など発表の向けての準備を行ってください。	4時間
第8回	対面	合同発表会に向けた取り組み（クラス内発表）	クラス内での発表練習など発表の向けての準備を行ってください。 スライド及び配布資料の完成させてください。	4時間
第9回	対面	合同発表会に向けた最終確認と発表練習を行ってください。	スライド及び配布資料の完成させてください。 合同発表会に向けた最終確認と発表練習を行ってください。	4時間
第10回	対面	合同発表会1	発表練習 ふりかえりシートの完成と提出 他チームの発表について復習	4時間
第11回	対面	合同発表会2	発表練習 ふりかえりシートの完成と提出 他チームの発表について復習	4時間
第12回	対面	合同発表会3	発表練習 ふりかえりシートの完成と提出 他チームの発表について復習	4時間
第13回	対面	レポート作成ガイダンス	期末レポート作成の準備を行ってください。	4時間
第14回	対面	合同発表会の振り返り、冬休み課題（期末レポート）の確認	自身の発表に関する改善点等について振り返る。 講評を受けて、自身のレポートを見直し・加筆修正を行ってください。	4時間
第15回	対面	振り返り	秋学期の学生生活（学修）について復習を行ってください。	4時間

科目名	基礎演習 B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	藤田 峻	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	大学での学び方（姿勢、学修技法）を身につけ、経済的・社会的な諸問題に取り組む		
授業の目的及び概要	本科目は、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得などを目標とする入門的な内容の授業（演習）であり、春学期の「基礎演習 A」に引き続き受講します。高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目指します。特にレポート作成やスライド作成、プレゼンテーション技法についても解説します。 大学においては、自ら学び、行動する自主的な学修態度が重要です。本科目では、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を学びつつ、経済等に関するテーマを取り扱いながら、社会の諸問題への興味・関心から 2 年次以降のコース選択に寄与する内容を扱います。また、大学生活、さらには社会人に求められる、良好な人間関係を築く能力を身につけるため、他者への理解やコミュニケーション能力の向上も目標とします。 さらに、本科目は経済・社会に関するテーマを題材に経済学部での学びをスタートさせるための知識・技能の獲得を目指します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①書籍等の適切な情報源を活用して、大学生に相応しい情報収集を行うことができる。 ②適切な書式・様式に基づき、論理的なレポート・文章を作成することができる。 ③基礎的なプレゼンテーション技法に基づく発表を行うことができる。 ④他者との適切なコミュニケーションを通じて課題等に取り組むことができる。 ⑤経済学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中に提出された課題や発表については、教員によるフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	必要な資料等は授業中に配布・紹介します。	ISBN	なし
参考書	①日経新聞を「読む技術」「活用する技術」、山本 博幸，ディスカヴァー・トゥエンティワン，2019 年 ②SDGs 見るだけノート：基礎知識とビジネスチャンスにつなげた成功事例が丸わかり！，笹谷 秀光，宝島社，2022 年 （②については図書館の電子ブックでも閲覧することができます。）	ISBN	①9784799325476 ②9784299004512
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	この授業を通じて、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、経済的・社会的な諸問題に取り組むことで、調査研究に関する一連の知識や技能を修得してください。また、2年次のゼミ・コース選択や自身のキャリアについて考える機会としてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス、合同発表会に向けた取り組み（グループ作成・役割分担・テーマの検討）、留学・海外体験ガイダンス	秋学期の目標シート、面談シートを完成させ提出しましょう。 合同発表のテーマについて整理してください。 本学でサポートを受けられる留学制度について理解してください。	4時間
第2回	オンデマンド	コース制ガイダンス、合同発表会ガイダンス	次年度のコース選択に向けて資料を参考にして検討してください。 合同発表会のテーマに関連する書籍を図書館等で借りて読んでおくようにしてください。	4時間
第3回	対面	合同発表会に向けた取り組み（調査）（E01～E05, E07, E09 クラスは合同授業（日経読み方講座））	授業内容に基づいて、合同発表会に向けた調査を進めてください。	4時間
第4回	対面	合同発表会に向けた取り組み（調査とスライド作成等）	合同発表会に向けた情報収集・調査を行ってください。 発表時に使用するスライドの作成を行ってください。	4時間
第5回	対面	合同発表会に向けた取り組み（調査とスライド作成等）	合同発表会に向けた情報収集・調査を行ってください。 発表時に使用するスライドの作成を行ってください。	4時間
第6回	対面	合同発表会に向けた取り組み（調査・スライド作成・発表練習等）	合同発表会に向けた情報収集・調査を行ってください。 発表時に使用するスライドの作成を行ってください。 クラス内での発表練習など発表の向けての準備を行ってください。	4時間
第7回	対面	合同発表会に向けた取り組み（スライド作成・クラス内発表）	スライドを完成させてください。 クラス内での発表練習など発表の向けての準備を行ってください。	4時間
第8回	対面	合同発表会に向けた取り組み（クラス内発表）	クラス内での発表練習など発表の向けての準備を行ってください。 スライド及び配布資料の完成させてください。	4時間
第9回	対面	合同発表会に向けた最終確認と発表練習を行ってください。	スライド及び配布資料の完成させてください。 合同発表会に向けた最終確認と発表練習を行ってください。	4時間
第10回	対面	合同発表会1	発表練習 ふりかえりシートの完成と提出 他チームの発表について復習	4時間
第11回	対面	合同発表会2	発表練習 ふりかえりシートの完成と提出 他チームの発表について復習	4時間
第12回	対面	合同発表会3	発表練習 ふりかえりシートの完成と提出 他チームの発表について復習	4時間
第13回	対面	レポート作成ガイダンス	期末レポート作成の準備を行ってください。	4時間
第14回	対面	合同発表会の振り返り、冬休み課題（期末レポート）の確認	自身の発表に関する改善点等について振り返る。 講評を受けて、自身のレポートを見直し・加筆修正を行ってください。	4時間
第15回	対面	振り返り	秋学期の学生生活（学修）について復習を行ってください。	4時間

科目名	基礎演習 B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	穴井 佑	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	大学での学び方（姿勢、学修技法）を身につけ、経済的・社会的な諸問題に取り組む		
授業の目的及び概要	本科目は、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得などを目標とする入門的な内容の授業（演習）であり、春学期の「基礎演習 A」に引き続き受講します。高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目指します。特にレポート作成やスライド作成、プレゼンテーション技法についても解説します。 大学においては、自ら学び、行動する自主的な学修態度が重要です。本科目では、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を学びつつ、経済等に関するテーマを取り扱いながら、社会の諸問題への興味・関心から 2 年次以降のコース選択に寄与する内容を扱います。また、大学生活、さらには社会人に求められる、良好な人間関係を築く能力を身につけるため、他者への理解やコミュニケーション能力の向上も目標とします。 さらに、本科目は経済・社会に関するテーマを題材に経済学部での学びをスタートさせるための知識・技能の獲得を目指します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①書籍等の適切な情報源を活用して、大学生に相応しい情報収集を行うことができる。 ②適切な書式・様式に基づき、論理的なレポート・文章を作成することができる。 ③基礎的なプレゼンテーション技法に基づく発表を行うことができる。 ④他者との適切なコミュニケーションを通じて課題等に取り組むことができる。 ⑤経済学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中に提出された課題や発表については、教員によるフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	必要な資料等は授業中に配布・紹介します。	ISBN	なし
参考書	①日経新聞を「読む技術」「活用する技術」、山本 博幸，ディスカヴァー・トゥエンティワン，2019 年 ②SDGs 見るだけノート：基礎知識とビジネスチャンスにつなげた成功事例が丸わかり！，笹谷 秀光，宝島社，2022 年 （②については図書館の電子ブックでも閲覧することができます。）	ISBN	①9784799325476 ②9784299004512
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	この授業を通じて、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、経済的・社会的な諸問題に取り組むことで、調査研究に関する一連の知識や技能を修得してください。また、2年次のゼミ・コース選択や自身のキャリアについて考える機会としてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス、合同発表会に向けた取り組み（グループ作成・役割分担・テーマの検討）、留学・海外体験ガイダンス	秋学期の目標シート、面談シートを完成させ提出しましょう。 合同発表のテーマについて整理してください。 本学でサポートを受けられる留学制度について理解してください。	4時間
第2回	オンデマンド	コース制ガイダンス、合同発表会ガイダンス	次年度のコース選択に向けて資料を参考にして検討してください。 合同発表会のテーマに関連する書籍を図書館等で借りて読んでおくようにしてください。	4時間
第3回	対面	合同発表会に向けた取り組み（調査）（E01～E05, E07, E09 クラスは合同授業（日経読み方講座））	授業内容に基づいて、合同発表会に向けた調査を進めてください。	4時間
第4回	対面	合同発表会に向けた取り組み（調査とスライド作成等）	合同発表会に向けた情報収集・調査を行ってください。 発表時に使用するスライドの作成を行ってください。	4時間
第5回	対面	合同発表会に向けた取り組み（調査とスライド作成等）	合同発表会に向けた情報収集・調査を行ってください。 発表時に使用するスライドの作成を行ってください。	4時間
第6回	対面	合同発表会に向けた取り組み（調査・スライド作成・発表練習等）	合同発表会に向けた情報収集・調査を行ってください。 発表時に使用するスライドの作成を行ってください。 クラス内での発表練習など発表の向けての準備を行ってください。	4時間
第7回	対面	合同発表会に向けた取り組み（スライド作成・クラス内発表）	スライドを完成させてください。 クラス内での発表練習など発表の向けての準備を行ってください。	4時間
第8回	対面	合同発表会に向けた取り組み（クラス内発表）	クラス内での発表練習など発表の向けての準備を行ってください。 スライド及び配布資料の完成させてください。	4時間
第9回	対面	合同発表会に向けた最終確認と発表練習を行ってください。	スライド及び配布資料の完成させてください。 合同発表会に向けた最終確認と発表練習を行ってください。	4時間
第10回	対面	合同発表会1	発表練習 ふりかえりシートの完成と提出 他チームの発表について復習	4時間
第11回	対面	合同発表会2	発表練習 ふりかえりシートの完成と提出 他チームの発表について復習	4時間
第12回	対面	合同発表会3	発表練習 ふりかえりシートの完成と提出 他チームの発表について復習	4時間
第13回	対面	レポート作成ガイダンス	期末レポート作成の準備を行ってください。	4時間
第14回	対面	合同発表会の振り返り、冬休み課題（期末レポート）の確認	自身の発表に関する改善点等について振り返る。 講評を受けて、自身のレポートを見直し・加筆修正を行ってください。	4時間
第15回	対面	振り返り	秋学期の学生生活（学修）について復習を行ってください。	4時間

科目名	基礎演習 B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	伊勢 公人	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	大学での学び方（姿勢、学修技法）を身につけ、経済的・社会的な諸問題に取り組む		
授業の目的及び概要	本科目は、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得などを目標とする入門的な内容の授業（演習）であり、春学期の「基礎演習 A」に引き続き受講します。高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目指します。特にレポート作成やスライド作成、プレゼンテーション技法についても解説します。 大学においては、自ら学び、行動する自主的な学修態度が重要です。本科目では、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を学びつつ、経済等に関するテーマを取り扱いながら、社会の諸問題への興味・関心から 2 年次以降のコース選択に寄与する内容を扱います。また、大学生活、さらには社会人に求められる、良好な人間関係を築く能力を身につけるため、他者への理解やコミュニケーション能力の向上も目標とします。 さらに、本科目は経済・社会に関するテーマを題材に経済学部での学びをスタートさせるための知識・技能の獲得を目指します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①書籍等の適切な情報源を活用して、大学生に相応しい情報収集を行うことができる。 ②適切な書式・様式に基づき、論理的なレポート・文章を作成することができる。 ③基礎的なプレゼンテーション技法に基づく発表を行うことができる。 ④他者との適切なコミュニケーションを通じて課題等に取り組むことができる。 ⑤経済学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中に提出された課題や発表については、教員によるフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1987 年から民間企業に 34 年間勤務しており、欧州事務所の副所長を務めた経験を有している。また、経済産業省の受託研究のプロジェクトリーダーを始め、多くの調査プロジェクトを担ってきた。本科目では、これらの経験を生かした授業を行う。		
テキスト	必要な資料等は授業中に配布・紹介します。	ISBN	なし
参考書	①日経新聞を「読む技術」「活用する技術」、山本 博幸，ディスカヴァー・トゥエンティワン，2019 年 ②SDGs 見るだけノート：基礎知識とビジネスチャンスにつなげた成功事例が丸わかり！，笹谷 秀光，宝島社，2022 年 （②については図書館の電子ブックでも閲覧することができます。）	ISBN	①9784799325476 ②9784299004512
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	その他 (%)	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	この授業を通じて、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、経済的・社会的な諸問題に取り組むことで、調査研究に関する一連の知識や技能を修得してください。また、2年次のゼミ・コース選択や自身のキャリアについて考える機会としてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス, 合同発表会に向けた取り組み（グループ作成・役割分担・テーマの検討）, 留学・海外体験ガイダンス	秋学期の目標シート, 面談シートを完成させ提出しましょう。 合同発表のテーマについて整理してください。 本学でサポートを受けられる留学制度について理解してください。	4時間
第2回	オンデマンド	コース制ガイダンス, 合同発表会ガイダンス	次年度のコース選択に向けて資料を参考にして検討してください。 合同発表会のテーマに関連する書籍を図書館等で借りて読んでおくようにしてください。	4時間
第3回	対面	合同発表会に向けた取り組み（調査）（E01～E05, E07, E09 クラスは合同授業（日経読み方講座））	授業内容に基づいて、合同発表会に向けた調査を進めてください。	4時間
第4回	対面	合同発表会に向けた取り組み（調査とスライド作成等）	合同発表会に向けた情報収集・調査を行ってください。 発表時に使用するスライドの作成を行ってください。	4時間
第5回	対面	合同発表会に向けた取り組み（調査とスライド作成等）	合同発表会に向けた情報収集・調査を行ってください。 発表時に使用するスライドの作成を行ってください。	4時間
第6回	対面	合同発表会に向けた取り組み（調査・スライド作成・発表練習等）	合同発表会に向けた情報収集・調査を行ってください。 発表時に使用するスライドの作成を行ってください。 クラス内での発表練習など発表の向けての準備を行ってください。	4時間
第7回	対面	合同発表会に向けた取り組み（スライド作成・クラス内発表）	スライドを完成させてください。 クラス内での発表練習など発表の向けての準備を行ってください。	4時間
第8回	対面	合同発表会に向けた取り組み（クラス内発表）	クラス内での発表練習など発表の向けての準備を行ってください。 スライド及び配布資料の完成させてください。	4時間
第9回	対面	合同発表会に向けた最終確認と発表練習を行ってください。	スライド及び配布資料の完成させてください。 合同発表会に向けた最終確認と発表練習を行ってください。	4時間
第10回	対面	合同発表会1	発表練習 ふりかえりシートの完成と提出 他チームの発表について復習	4時間
第11回	対面	合同発表会2	発表練習 ふりかえりシートの完成と提出 他チームの発表について復習	4時間
第12回	対面	合同発表会3	発表練習 ふりかえりシートの完成と提出 他チームの発表について復習	4時間
第13回	対面	レポート作成ガイダンス	期末レポート作成の準備を行ってください。	4時間
第14回	対面	合同発表会の振り返り, 冬休み課題（期末レポート）の確認	自身の発表に関する改善点等について振り返る。 講評を受けて、自身のレポートを見直し・加筆修正を	4時間

2026/05/01

			行ってください。	
第15回	対面	振り返り	秋学期の学生生活(学修)について復習を行ってください。	4時間

科目名	基礎演習 B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	篠田 太郎	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	大学での学び方（姿勢、学修技法）を身につけ、経済的・社会的な諸問題に取り組む		
授業の目的及び概要	本科目は、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得などを目標とする入門的な内容の授業（演習）であり、春学期の「基礎演習 A」に引き続き受講します。高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目指します。特にレポート作成やスライド作成、プレゼンテーション技法についても解説します。 大学においては、自ら学び、行動する自主的な学修態度が重要です。本科目では、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を学びつつ、経済等に関するテーマを取り扱いながら、社会の諸問題への興味・関心から 2 年次以降のコース選択に寄与する内容を扱います。また、大学生活、さらには社会人に求められる、良好な人間関係を築く能力を身につけるため、他者への理解やコミュニケーション能力の向上も目標とします。 さらに、本科目は経済・社会に関するテーマを題材に経済学部での学びをスタートさせるための知識・技能の獲得を目指します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①書籍等の適切な情報源を活用して、大学生に相応しい情報収集を行うことができる。 ②適切な書式・様式に基づき、論理的なレポート・文章を作成することができる。 ③基礎的なプレゼンテーション技法に基づく発表を行うことができる。 ④他者との適切なコミュニケーションを通じて課題等に取り組むことができる。 ⑤経済学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中に提出された課題や発表については、教員によるフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	必要な資料等は授業中に配布・紹介します。	ISBN	なし
参考書	①日経新聞を「読む技術」「活用する技術」、山本 博幸，ディスカヴァー・トゥエンティワン，2019 年 ②SDGs 見るだけノート：基礎知識とビジネスチャンスにつなげた成功事例が丸わかり！，笹谷 秀光，宝島社，2022 年 （②については図書館の電子ブックでも閲覧することができます。）	ISBN	①9784799325476 ②9784299004512
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	この授業を通じて、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、経済的・社会的な諸問題に取り組むことで、調査研究に関する一連の知識や技能を修得してください。また、2年次のゼミ・コース選択や自身のキャリアについて考える機会としてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス、合同発表会に向けた取り組み（グループ作成・役割分担・テーマの検討）、留学・海外体験ガイダンス	秋学期の目標シート、面談シートを完成させ提出しましょう。 合同発表のテーマについて整理してください。 本学でサポートを受けられる留学制度について理解してください。	4時間
第2回	オンデマンド	コース制ガイダンス、合同発表会ガイダンス	次年度のコース選択に向けて資料を参考にして検討してください。 合同発表会のテーマに関連する書籍を図書館等で借りて読んでおくようにしてください。	4時間
第3回	対面	合同発表会に向けた取り組み（調査）（E01～E05, E07, E09 クラスは合同授業（日経読み方講座））	授業内容に基づいて、合同発表会に向けた調査を進めてください。	4時間
第4回	対面	合同発表会に向けた取り組み（調査とスライド作成等）	合同発表会に向けた情報収集・調査を行ってください。 発表時に使用するスライドの作成を行ってください。	4時間
第5回	対面	合同発表会に向けた取り組み（調査とスライド作成等）	合同発表会に向けた情報収集・調査を行ってください。 発表時に使用するスライドの作成を行ってください。	4時間
第6回	対面	合同発表会に向けた取り組み（調査・スライド作成・発表練習等）	合同発表会に向けた情報収集・調査を行ってください。 発表時に使用するスライドの作成を行ってください。 クラス内での発表練習など発表の向けての準備を行ってください。	4時間
第7回	対面	合同発表会に向けた取り組み（スライド作成・クラス内発表）	スライドを完成させてください。 クラス内での発表練習など発表の向けての準備を行ってください。	4時間
第8回	対面	合同発表会に向けた取り組み（クラス内発表）	クラス内での発表練習など発表の向けての準備を行ってください。 スライド及び配布資料の完成させてください。	4時間
第9回	対面	合同発表会に向けた最終確認と発表練習を行ってください。	スライド及び配布資料の完成させてください。 合同発表会に向けた最終確認と発表練習を行ってください。	4時間
第10回	対面	合同発表会1	発表練習 ふりかえりシートの完成と提出 他チームの発表について復習	4時間
第11回	対面	合同発表会2	発表練習 ふりかえりシートの完成と提出 他チームの発表について復習	4時間
第12回	対面	合同発表会3	発表練習 ふりかえりシートの完成と提出 他チームの発表について復習	4時間
第13回	対面	レポート作成ガイダンス	期末レポート作成の準備を行ってください。	4時間
第14回	対面	合同発表会の振り返り、冬休み課題（期末レポート）の確認	自身の発表に関する改善点等について振り返る。 講評を受けて、自身のレポートを見直し・加筆修正を行ってください。	4時間
第15回	対面	振り返り	秋学期の学生生活（学修）について復習を行ってください。	4時間

科目名	基礎演習 B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	牧田 修治	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	大学での学び方（姿勢、学修技法）を身につけ、経済的・社会的な諸問題に取り組む		
授業の目的及び概要	本科目は、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得などを目標とする入門的な内容の授業（演習）であり、春学期の「基礎演習 A」に引き続き受講します。高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目指します。特にレポート作成やスライド作成、プレゼンテーション技法についても解説します。 大学においては、自ら学び、行動する自主的な学修態度が重要です。本科目では、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を学びつつ、経済等に関するテーマを取り扱いながら、社会の諸問題への興味・関心から 2 年次以降のコース選択に寄与する内容を扱います。また、大学生活、さらには社会人に求められる、良好な人間関係を築く能力を身につけるため、他者への理解やコミュニケーション能力の向上も目標とします。 さらに、本科目は経済・社会に関するテーマを題材に経済学部での学びをスタートさせるための知識・技能の獲得を目指します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①書籍等の適切な情報源を活用して、大学生に相応しい情報収集を行うことができる。 ②適切な書式・様式に基づき、論理的なレポート・文章を作成することができる。 ③基礎的なプレゼンテーション技法に基づく発表を行うことができる。 ④他者との適切なコミュニケーションを通じて課題等に取り組むことができる。 ⑤経済学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中に提出された課題や発表については、教員によるフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、金融機関のシンクタンクや徳島県庁で、長年にわたり統計データ分析や政策分析の業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	必要な資料等は授業中に配布・紹介します。	ISBN	なし
参考書	①日経新聞を「読む技術」「活用する技術」、山本 博幸，ディスカヴァー・トゥエンティワン，2019 年 ②SDGs 見るだけノート：基礎知識とビジネスチャンスにつなげた成功事例が丸わかり！，笹谷 秀光，宝島社，2022 年 （②については図書館の電子ブックでも閲覧することができます。）	ISBN	①9784799325476 ②9784299004512
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		

	その他の内容	
この科目の受講にあたって	この授業を通じて、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、経済的・社会的な諸問題に取り組むことで、調査研究に関する一連の知識や技能を修得してください。また、2年次のゼミ・コース選択や自身のキャリアについて考える機会としてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス, 合同発表会に向けた取り組み（グループ作成・役割分担・テーマの検討）, 留学・海外体験ガイダンス	秋学期の目標シート, 面談シートを完成させ提出しましょう。 合同発表のテーマについて整理してください。 本学でサポートを受けられる留学制度について理解してください。	4時間
第2回	オンデマンド	コース制ガイダンス, 合同発表会ガイダンス	次年度のコース選択に向けて資料を参考にして検討してください。 合同発表会のテーマに関連する書籍を図書館等で借りて読んでおくようにしてください。	4時間
第3回	対面	合同発表会に向けた取り組み（調査）（E01～E05, E07, E09 クラスは合同授業（日経読み方講座））	授業内容に基づいて、合同発表会に向けた調査を進めてください。	4時間
第4回	対面	合同発表会に向けた取り組み（調査とスライド作成等）	合同発表会に向けた情報収集・調査を行ってください。 発表時に使用するスライドの作成を行ってください。	4時間
第5回	対面	合同発表会に向けた取り組み（調査とスライド作成等）	合同発表会に向けた情報収集・調査を行ってください。 発表時に使用するスライドの作成を行ってください。	4時間
第6回	対面	合同発表会に向けた取り組み（調査・スライド作成・発表練習等）	合同発表会に向けた情報収集・調査を行ってください。 発表時に使用するスライドの作成を行ってください。 クラス内での発表練習など発表の向けての準備を行ってください。	4時間
第7回	対面	合同発表会に向けた取り組み（スライド作成・クラス内発表）	スライドを完成させてください。 クラス内での発表練習など発表の向けての準備を行ってください。	4時間
第8回	対面	合同発表会に向けた取り組み（クラス内発表）	クラス内での発表練習など発表に向けての準備を行ってください。 スライド及び配布資料の完成させてください。	4時間
第9回	対面	合同発表会に向けた最終確認と発表練習を行ってください。	スライド及び配布資料の完成させてください。 合同発表会に向けた最終確認と発表練習を行ってください。	4時間
第10回	対面	合同発表会1	発表練習 ふりかえりシートの完成と提出 他チームの発表について復習	4時間
第11回	対面	合同発表会2	発表練習 ふりかえりシートの完成と提出 他チームの発表について復習	4時間
第12回	対面	合同発表会3	発表練習 ふりかえりシートの完成と提出 他チームの発表について復習	4時間
第13回	対面	レポート作成ガイダンス	期末レポート作成の準備を行ってください。	4時間
第14回	対面	合同発表会の振り返り, 冬休み課題（期末レポート）の確認	自身の発表に関する改善点等について振り返る。 講評を受けて、自身のレポートを見直し・加筆修正を行ってください。	4時間

2026/05/01

第15回	対面	振り返り	秋学期の学生生活（学修）について復習を行ってください。	4 時間

科目名	基礎演習 B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	久米 高史	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	大学での学び方（姿勢、学修技法）を身につけ、経済的・社会的な諸問題に取り組む		
授業の目的及び概要	本科目は、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得などを目標とする入門的な内容の授業（演習）であり、春学期の「基礎演習 A」に引き続き受講します。高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目指します。特にレポート作成やスライド作成、プレゼンテーション技法についても解説します。 大学においては、自ら学び、行動する自主的な学修態度が重要です。本科目では、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を学びつつ、経済等に関するテーマを取り扱いながら、社会の諸問題への興味・関心から 2 年次以降のコース選択に寄与する内容を扱います。また、大学生活、さらには社会人に求められる、良好な人間関係を築く能力を身につけるため、他者への理解やコミュニケーション能力の向上も目標とします。 さらに、本科目は経済・社会に関するテーマを題材に経済学部での学びをスタートさせるための知識・技能の獲得を目指します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①書籍等の適切な情報源を活用して、大学生に相応しい情報収集を行うことができる。 ②適切な書式・様式に基づき、論理的なレポート・文章を作成することができる。 ③基礎的なプレゼンテーション技法に基づく発表を行うことができる。 ④他者との適切なコミュニケーションを通じて課題等に取り組むことができる。 ⑤経済学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中に提出された課題や発表については、教員によるフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	必要な資料等は授業中に配布・紹介します。	ISBN	なし
参考書	①日経新聞を「読む技術」「活用する技術」、山本 博幸，ディスカヴァー・トゥエンティワン，2019 年 ②SDGs 見るだけノート：基礎知識とビジネスチャンスにつなげた成功事例が丸わかり！，笹谷 秀光，宝島社，2022 年 （②については図書館の電子ブックでも閲覧することができます。）	ISBN	①9784799325476 ②9784299004512
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	この授業を通じて、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、経済的・社会的な諸問題に取り組むことで、調査研究に関する一連の知識や技能を修得してください。また、2年次のゼミ・コース選択や自身のキャリアについて考える機会としてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス、合同発表会に向けた取り組み（グループ作成・役割分担・テーマの検討）、留学・海外体験ガイダンス	秋学期の目標シート、面談シートを完成させ提出しましょう。 合同発表のテーマについて整理してください。 本学でサポートを受けられる留学制度について理解してください。	4時間
第2回	オンデマンド	コース制ガイダンス、合同発表会ガイダンス	次年度のコース選択に向けて資料を参考にして検討してください。 合同発表会のテーマに関連する書籍を図書館等で借りて読んでおくようにしてください。	4時間
第3回	対面	合同発表会に向けた取り組み（調査）（E01～E05, E07, E09 クラスは合同授業（日経読み方講座））	授業内容に基づいて、合同発表会に向けた調査を進めてください。	4時間
第4回	対面	合同発表会に向けた取り組み（調査とスライド作成等）	合同発表会に向けた情報収集・調査を行ってください。 発表時に使用するスライドの作成を行ってください。	4時間
第5回	対面	合同発表会に向けた取り組み（調査とスライド作成等）	合同発表会に向けた情報収集・調査を行ってください。 発表時に使用するスライドの作成を行ってください。	4時間
第6回	対面	合同発表会に向けた取り組み（調査・スライド作成・発表練習等）	合同発表会に向けた情報収集・調査を行ってください。 発表時に使用するスライドの作成を行ってください。 クラス内での発表練習など発表の向けての準備を行ってください。	4時間
第7回	対面	合同発表会に向けた取り組み（スライド作成・クラス内発表）	スライドを完成させてください。 クラス内での発表練習など発表の向けての準備を行ってください。	4時間
第8回	対面	合同発表会に向けた取り組み（クラス内発表）	クラス内での発表練習など発表の向けての準備を行ってください。 スライド及び配布資料の完成させてください。	4時間
第9回	対面	合同発表会に向けた最終確認と発表練習を行ってください。	スライド及び配布資料の完成させてください。 合同発表会に向けた最終確認と発表練習を行ってください。	4時間
第10回	対面	合同発表会1	発表練習 ふりかえりシートの完成と提出 他チームの発表について復習	4時間
第11回	対面	合同発表会2	発表練習 ふりかえりシートの完成と提出 他チームの発表について復習	4時間
第12回	対面	合同発表会3	発表練習 ふりかえりシートの完成と提出 他チームの発表について復習	4時間
第13回	対面	レポート作成ガイダンス	期末レポート作成の準備を行ってください。	4時間
第14回	対面	合同発表会の振り返り、冬休み課題（期末レポート）の確認	自身の発表に関する改善点等について振り返る。 講評を受けて、自身のレポートを見直し・加筆修正を行ってください。	4時間
第15回	対面	振り返り	秋学期の学生生活（学修）について復習を行ってください。	4時間

科目名	基礎演習 B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	張 哲	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	大学での学び方（姿勢、学修技法）を身につけ、経済的・社会的な諸問題に取り組む		
授業の目的及び概要	本科目は、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得などを目標とする入門的な内容の授業（演習）であり、春学期の「基礎演習 A」に引き続き受講します。高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目指します。特にレポート作成やスライド作成、プレゼンテーション技法についても解説します。 大学においては、自ら学び、行動する自主的な学修態度が重要です。本科目では、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を学びつつ、経済等に関するテーマを取り扱いながら、社会の諸問題への興味・関心から 2 年次以降のコース選択に寄与する内容を扱います。また、大学生活、さらには社会人に求められる、良好な人間関係を築く能力を身につけるため、他者への理解やコミュニケーション能力の向上も目標とします。 さらに、本科目は経済・社会に関するテーマを題材に経済学部での学びをスタートさせるための知識・技能の獲得を目指します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①書籍等の適切な情報源を活用して、大学生に相応しい情報収集を行うことができる。 ②適切な書式・様式に基づき、論理的なレポート・文章を作成することができる。 ③基礎的なプレゼンテーション技法に基づく発表を行うことができる。 ④他者との適切なコミュニケーションを通じて課題等に取り組むことができる。 ⑤経済学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中に提出された課題や発表については、教員によるフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	必要な資料等は授業中に配布・紹介します。	ISBN	なし
参考書	①日経新聞を「読む技術」「活用する技術」, 山本 博幸, ディスカヴァー・トゥエンティワン, 2019 年 ②SDGs 見るだけノート : 基礎知識とビジネスチャンスにつなげた成功事例が丸わかり!, 笹谷 秀光, 宝島社, 2022 年 (②については図書館の電子ブックでも閲覧することができます。)	ISBN	①9784799325476 ②9784299004512
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）		
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	この授業を通じて、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、経済的・社会的な諸問題に取り組むことで、調査研究に関する一連の知識や技能を修得してください。また、2年次のゼミ・コース選択や自身のキャリアについて考える機会としてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス、合同発表会に向けた取り組み（グループ作成・役割分担・テーマの検討）、留学・海外体験ガイダンス	秋学期の目標シート、面談シートを完成させ提出しましょう。 合同発表のテーマについて整理してください。 本学でサポートを受けられる留学制度について理解してください。	4時間
第2回	オンデマンド	コース制ガイダンス、合同発表会ガイダンス	次年度のコース選択に向けて資料を参考にして検討してください。 合同発表会のテーマに関連する書籍を図書館等で借りて読んでおくようにしてください。	4時間
第3回	対面	合同発表会に向けた取り組み（調査）（E01～E05, E07, E09 クラスは合同授業（日経読み方講座））	授業内容に基づいて、合同発表会に向けた調査を進めてください。	4時間
第4回	対面	合同発表会に向けた取り組み（調査とスライド作成等）	合同発表会に向けた情報収集・調査を行ってください。 発表時に使用するスライドの作成を行ってください。	4時間
第5回	対面	合同発表会に向けた取り組み（調査とスライド作成等）	合同発表会に向けた情報収集・調査を行ってください。 発表時に使用するスライドの作成を行ってください。	4時間
第6回	対面	合同発表会に向けた取り組み（調査・スライド作成・発表練習等）	合同発表会に向けた情報収集・調査を行ってください。 発表時に使用するスライドの作成を行ってください。 クラス内での発表練習など発表の向けての準備を行ってください。	4時間
第7回	対面	合同発表会に向けた取り組み（スライド作成・クラス内発表）	スライドを完成させてください。 クラス内での発表練習など発表の向けての準備を行ってください。	4時間
第8回	対面	合同発表会に向けた取り組み（クラス内発表）	クラス内での発表練習など発表の向けての準備を行ってください。 スライド及び配布資料の完成させてください。	4時間
第9回	対面	合同発表会に向けた最終確認と発表練習を行ってください。	スライド及び配布資料の完成させてください。 合同発表会に向けた最終確認と発表練習を行ってください。	4時間
第10回	対面	合同発表会1	発表練習 ふりかえりシートの完成と提出 他チームの発表について復習	4時間
第11回	対面	合同発表会2	発表練習 ふりかえりシートの完成と提出 他チームの発表について復習	4時間
第12回	対面	合同発表会3	発表練習 ふりかえりシートの完成と提出 他チームの発表について復習	4時間
第13回	対面	レポート作成ガイダンス	期末レポート作成の準備を行ってください。	4時間
第14回	対面	合同発表会の振り返り、冬休み課題（期末レポート）の確認	自身の発表に関する改善点等について振り返る。 講評を受けて、自身のレポートを見直し・加筆修正を行ってください。	4時間
第15回	対面	振り返り	秋学期の学生生活（学修）について復習を行ってください。	4時間

科目名	基礎演習 B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	朱 東平	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	大学での学び方（姿勢、学修技法）を身につけ、経済的・社会的な諸問題に取り組む		
授業の目的及び概要	本科目は、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得などを目標とする入門的な内容の授業（演習）であり、春学期の「基礎演習 A」に引き続き受講します。高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目指します。特にレポート作成やスライド作成、プレゼンテーション技法についても解説します。 大学においては、自ら学び、行動する自主的な学修態度が重要です。本科目では、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を学びつつ、経済等に関するテーマを取り扱いながら、社会の諸問題への興味・関心から 2 年次以降のコース選択に寄与する内容を扱います。また、大学生活、さらには社会人に求められる、良好な人間関係を築く能力を身につけるため、他者への理解やコミュニケーション能力の向上も目標とします。 さらに、本科目は経済・社会に関するテーマを題材に経済学部での学びをスタートさせるための知識・技能の獲得を目指します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①書籍等の適切な情報源を活用して、大学生に相応しい情報収集を行うことができる。 ②適切な書式・様式に基づき、論理的なレポート・文章を作成することができる。 ③基礎的なプレゼンテーション技法に基づく発表を行うことができる。 ④他者との適切なコミュニケーションを通じて課題等に取り組むことができる。 ⑤経済学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中に提出された課題や発表については、教員によるフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	必要な資料等は授業中に配布・紹介します。	ISBN	なし
参考書	①日経新聞を「読む技術」「活用する技術」、山本 博幸，ディスカヴァー・トゥエンティワン，2019 年 ②SDGs 見るだけノート：基礎知識とビジネスチャンスにつなげた成功事例が丸わかり！，笹谷 秀光，宝島社，2022 年 （②については図書館の電子ブックでも閲覧することができます。）	ISBN	①9784799325476 ②9784299004512
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）		
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	この授業を通じて、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、経済的・社会的な諸問題に取り組むことで、調査研究に関する一連の知識や技能を修得してください。また、2年次のゼミ・コース選択や自身のキャリアについて考える機会としてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス、合同発表会に向けた取り組み（グループ作成・役割分担・テーマの検討）、留学・海外体験ガイダンス	秋学期の目標シート、面談シートを完成させ提出しましょう。 合同発表のテーマについて整理してください。 本学でサポートを受けられる留学制度について理解してください。	4時間
第2回	オンデマンド	コース制ガイダンス、合同発表会ガイダンス	次年度のコース選択に向けて資料を参考にして検討してください。 合同発表会のテーマに関連する書籍を図書館等で借りて読んでおくようにしてください。	4時間
第3回	対面	合同発表会に向けた取り組み（調査）（E01～E05, E07, E09 クラスは合同授業（日経読み方講座））	授業内容に基づいて、合同発表会に向けた調査を進めてください。	4時間
第4回	対面	合同発表会に向けた取り組み（調査とスライド作成等）	合同発表会に向けた情報収集・調査を行ってください。 発表時に使用するスライドの作成を行ってください。	4時間
第5回	対面	合同発表会に向けた取り組み（調査とスライド作成等）	合同発表会に向けた情報収集・調査を行ってください。 発表時に使用するスライドの作成を行ってください。	4時間
第6回	対面	合同発表会に向けた取り組み（調査・スライド作成・発表練習等）	合同発表会に向けた情報収集・調査を行ってください。 発表時に使用するスライドの作成を行ってください。 クラス内での発表練習など発表の向けての準備を行ってください。	4時間
第7回	対面	合同発表会に向けた取り組み（スライド作成・クラス内発表）	スライドを完成させてください。 クラス内での発表練習など発表の向けての準備を行ってください。	4時間
第8回	対面	合同発表会に向けた取り組み（クラス内発表）	クラス内での発表練習など発表の向けての準備を行ってください。 スライド及び配布資料の完成させてください。	4時間
第9回	対面	合同発表会に向けた最終確認と発表練習を行ってください。	スライド及び配布資料の完成させてください。 合同発表会に向けた最終確認と発表練習を行ってください。	4時間
第10回	対面	合同発表会1	発表練習 ふりかえりシートの完成と提出 他チームの発表について復習	4時間
第11回	対面	合同発表会2	発表練習 ふりかえりシートの完成と提出 他チームの発表について復習	4時間
第12回	対面	合同発表会3	発表練習 ふりかえりシートの完成と提出 他チームの発表について復習	4時間
第13回	対面	レポート作成ガイダンス	期末レポート作成の準備を行ってください。	4時間
第14回	対面	合同発表会の振り返り、冬休み課題（期末レポート）の確認	自身の発表に関する改善点等について振り返る。 講評を受けて、自身のレポートを見直し・加筆修正を行ってください。	4時間
第15回	対面	振り返り	秋学期の学生生活（学修）について復習を行ってください。	4時間

科目名	基礎演習 B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	畑野 吉則	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	大学での学び方（姿勢、学修技法）を身につけ、経済的・社会的な諸問題に取り組む		
授業の目的及び概要	本科目は、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得などを目標とする入門的な内容の授業（演習）であり、春学期の「基礎演習 A」に引き続き受講します。高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目指します。特にレポート作成やスライド作成、プレゼンテーション技法についても解説します。 大学においては、自ら学び、行動する自主的な学修態度が重要です。本科目では、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を学びつつ、経済等に関するテーマを取り扱いながら、社会の諸問題への興味・関心から 2 年次以降のコース選択に寄与する内容を扱います。また、大学生活、さらには社会人に求められる、良好な人間関係を築く能力を身につけるため、他者への理解やコミュニケーション能力の向上も目標とします。 さらに、本科目は経済・社会に関するテーマを題材に経済学部での学びをスタートさせるための知識・技能の獲得を目指します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①書籍等の適切な情報源を活用して、大学生に相応しい情報収集を行うことができる。 ②適切な書式・様式に基づき、論理的なレポート・文章を作成することができる。 ③基礎的なプレゼンテーション技法に基づく発表を行うことができる。 ④他者との適切なコミュニケーションを通じて課題等に取り組むことができる。 ⑤経済学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中に提出された課題や発表については、教員によるフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	必要な資料等は授業中に配布・紹介します。	ISBN	なし
参考書	①日経新聞を「読む技術」「活用する技術」、山本 博幸，ディスカヴァー・トゥエンティワン，2019 年 ②SDGs 見るだけノート：基礎知識とビジネスチャンスにつなげた成功事例が丸わかり！，笹谷 秀光，宝島社，2022 年 （②については図書館の電子ブックでも閲覧することができます。）	ISBN	①9784799325476 ②9784299004512
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）		
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	この授業を通じて、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、経済的・社会的な諸問題に取り組むことで、調査研究に関する一連の知識や技能を修得してください。また、2年次のゼミ・コース選択や自身のキャリアについて考える機会としてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス、合同発表会に向けた取り組み（グループ作成・役割分担・テーマの検討）、留学・海外体験ガイダンス	秋学期の目標シート、面談シートを完成させ提出しましょう。 合同発表のテーマについて整理してください。 本学でサポートを受けられる留学制度について理解してください。	4時間
第2回	オンデマンド	コース制ガイダンス、合同発表会ガイダンス	次年度のコース選択に向けて資料を参考にして検討してください。 合同発表会のテーマに関連する書籍を図書館等で借りて読んでおくようにしてください。	4時間
第3回	対面	合同発表会に向けた取り組み（調査）（E01～E05, E07, E09 クラスは合同授業（日経読み方講座））	授業内容に基づいて、合同発表会に向けた調査を進めてください。	4時間
第4回	対面	合同発表会に向けた取り組み（調査とスライド作成等）	合同発表会に向けた情報収集・調査を行ってください。 発表時に使用するスライドの作成を行ってください。	4時間
第5回	対面	合同発表会に向けた取り組み（調査とスライド作成等）	合同発表会に向けた情報収集・調査を行ってください。 発表時に使用するスライドの作成を行ってください。	4時間
第6回	対面	合同発表会に向けた取り組み（調査・スライド作成・発表練習等）	合同発表会に向けた情報収集・調査を行ってください。 発表時に使用するスライドの作成を行ってください。 クラス内での発表練習など発表の向けての準備を行ってください。	4時間
第7回	対面	合同発表会に向けた取り組み（スライド作成・クラス内発表）	スライドを完成させてください。 クラス内での発表練習など発表の向けての準備を行ってください。	4時間
第8回	対面	合同発表会に向けた取り組み（クラス内発表）	クラス内での発表練習など発表の向けての準備を行ってください。 スライド及び配布資料の完成させてください。	4時間
第9回	対面	合同発表会に向けた最終確認と発表練習を行ってください。	スライド及び配布資料の完成させてください。 合同発表会に向けた最終確認と発表練習を行ってください。	4時間
第10回	対面	合同発表会1	発表練習 ふりかえりシートの完成と提出 他チームの発表について復習	4時間
第11回	対面	合同発表会2	発表練習 ふりかえりシートの完成と提出 他チームの発表について復習	4時間
第12回	対面	合同発表会3	発表練習 ふりかえりシートの完成と提出 他チームの発表について復習	4時間
第13回	対面	レポート作成ガイダンス	期末レポート作成の準備を行ってください。	4時間
第14回	対面	合同発表会の振り返り、冬休み課題（期末レポート）の確認	自身の発表に関する改善点等について振り返る。 講評を受けて、自身のレポートを見直し・加筆修正を行ってください。	4時間
第15回	対面	振り返り	秋学期の学生生活（学修）について復習を行ってください。	4時間

科目名	基礎演習 B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	片岡 浩史	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得および経営学部で学ぶための予備知識の習得		
授業の目的及び概要	科目等履修生が日本で大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成を主な目的とします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①大学での学修に必要な、基礎的な専門用語を理解することができる ②日本に留学した目的を明確にし、希望進路実現のための計画を作成することができる ③基本的なプレゼンテーションやレポートの作成ができる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストはありません。プリントなどの教材を配布します。	ISBN	なし
参考書	①大学生 学びのハンドブック [6 訂版], 世界思想社編集部 編, 世界思想社, 2024 年	ISBN	①9784790717911
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	70	
	授業期間中の小テスト、レポート 課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	講義資料や参考書などを予習しておくことを期待します。なお、授業の進行状況により内容を変更することがあります。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	(3 クラス合同) ガイダンス はじめての大学生活 シラバス・授業計画説明 (片岡、張、朴担当)	ガイダンスの内容についての復習 秋学期の達成目標を設定する	4 時間
第 2 回	対面	(3 クラス合同) 講義ノートを取り方とまとめ方について学ぶ (片岡担当)	事前学習 配布された資料をもとに、調べものや課題をやり、授業に臨む。 事後学習 授業で示された内容を、わかりやすくまとめてみる。	4 時間

第3回	対面	(3クラス合同) テキストの読み方① 本を読んで情報を集める。疑問や法頭から問をたてみよう。 (片岡担当)	事前学習 配布された資料をもとに、調べものや課題をやり、授業に臨む。 事後学習 授業で示された内容を、わかりやすくまとめる。	4 時間
第4回	対面	(3クラス合同) テキストの読み方② 問の答えである主張を考える。その根拠をあつめて考えてみよう。 (片岡担当)	事前学習 配布された資料をもとに、調べものや課題をやり、授業に臨む。 事後学習 授業で示された内容を、わかりやすくまとめる。	4 時間
第5回	対面	(3クラス合同) レポートの書き方① アカデミックライティングの基本 (片岡担当)	事前学習 配布された資料をもとに、調べものや課題をやり、授業に臨む。 事後学習 授業で示された内容を、わかりやすくまとめる。	4 時間
第6回	対面	(3クラス合同) レポートの書き方② アカデミックライティングの基本 (片岡担当)	事前学習 配布された資料をもとに、調べものや課題をやり、授業に臨む。 事後学習 授業で示された内容を、わかりやすくまとめる。	4 時間
第7回	対面	(3クラス合同) 資料の探し方 研究と調査のはじめかた (片岡担当)	事前学習 配布された資料をもとに、調べものや課題をやり、授業に臨む。 事後学習 授業で示された内容を、わかりやすくまとめる。	4 時間
第8回	対面	(3クラス合同) 大学図書館の使い方 図書館について実際に本を借りてみよう。 (片岡担当)	事前学習 配布された資料をもとに、調べものや課題をやり、授業に臨む。 事後学習 図書館について本を借りてみよう。借りた本について自分の関心をもとにレポートをまとめる。	4 時間
第9回	対面	(3クラス合同) ゼミ発表の仕方① 効果的なプレゼンテーションの方法を学ぶ 発表の構成を考えよう。 (片岡担当)	事前学習 配布された資料をもとに、調べものや課題をやり、授業に臨む。 事後学習 授業で示された内容を、わかりやすくまとめる。	4 時間
第10回	対面	(3クラス合同) ゼミ発表の仕方② プレゼンテーションの準備、視覚資料の使い方、話し方のコツ レジュメをつくろう。 (片岡担当)	事前学習 配布された資料をもとに、調べものや課題をやり、授業に臨む。 事後学習 授業で示された内容を、わかりやすくまとめる。	4 時間
第11回	対面	(3クラス合同) 大学の試験と評価について知る (片岡担当)	事前学習 配布された資料をもとに、調べものや課題をやり、授業に臨む。 事後学習 授業で示された内容を、わかりやすくまとめる。	4 時間
第12回	対面	経済学で何を学ぶのか① 基本編 (張担当)	事前学習 配布された資料をもとに、調べものや課題をやり、授業に臨む。 事後学習 授業で示された内容を、わかりやすくまとめる。	6 時間
第13回	対面	経済学で何を学ぶのか② 日本経済編 (張担当)	事前学習 配布された資料をもとに、調べものや課題をやり、授業に臨む。 事後学習 授業で示された内容を、わかりやすくまとめる。	6 時間
第14回	対面	経済学で何を学ぶのか③ 国際経済編 (張担当)	事前学習 配布された資料をもとに、調べものや課題をやり、授業に臨む。 事後学習 授業で示された内容を、わかりやすくまとめる。	6 時間
第15回	オンデマンド	(3クラス合同) 秋学期のふり振り返りとレポート作成 (片岡担当)	事前学習 配布された資料をもとに、調べものや課題をやり、授業に臨む。 事後学習 4月からの大学生活について、もういちど	6 時間

2026/05/01

			日本に来た目的と将来の希望する進路をふり返り、 春休みにすべきことを明確にする。	

科目名	演習 I A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	藤田 峻	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	ゲーム理論と行動経済学（基礎） －経済理論と戦略的思考で社会を考える－		
授業の目的及び概要	本科目ではゲーム理論や行動経済学の考え方に基づいて、身近な現象から大規模な社会問題まで、様々な社会現象・社会問題を考えます。 日常には様々な疑問が満ちています。たとえば、通販会社が「不満なら全額返金」を保証するのはなぜでしょうか。多くの学校で制服の着用が義務付けられているのはなぜでしょうか。航空券は直前に買うほど高くなるのに、東京スカイツリーの展望台入場券は当日券の方が安いのはなぜでしょうか。教育において「我慢強さ」が評価される理由を理論的に説明できるでしょうか。 社会にも様々な疑問を見出すことができます。地球温暖化問題が一向に解決しないのは、なぜでしょうか。政府が企業の競争を促進したり規制したりするのは、どのような判断基準に基づいているのでしょうか。 ゲーム理論や行動経済学といった経済理論を学修して戦略的思考力を身につけると、このような疑問に対して確固たる自分の考えを持つことができるようになります。そこで本科目では、受講生の関心に応じて、「企業の戦略的行動」、「環境問題」、「公共政策」といった経済学で頻繁に扱われるテーマを中心に、日常生活における人間の行動等も盛り込んで、経済学的・戦略的思考能力の修得を目指します。 本科目の学修を通じて、以下の「学修の到達目標」に記載された能力を養うことは、今後の大学での学修に限らず、就業力を高めることにもつながります。 なお、本科目で主要な分析ツールとするゲーム理論や行動経済学は、日常生活やビジネスの現場に応用することが容易な理論です。本科目で学修を通じて、人との関わりにおける戦略的關係や企業の戦略的行動などを理解することで、人生で役立つ経済学の修得につながります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 経済理論に基づいて問題の所在を正しく認識し、適切な調査・分析を行った結果をまとめることができる 2. 考察を他人にも伝わるように発表・プレゼンテーションを行うことができる 3. ゲーム理論や行動経済学の基礎的理解に基づき、現実経済・社会への適用を考えることができる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	グループまたは個人による研究報告に対するコメントを通じてフィードバックを行います。また、グループワークの作業を授業中に進める場合には、適宜進捗を確認しながらフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。 必要な資料等は授業中に配付・紹介します。	ISBN	なし
参考書	研究の状況に応じて適宜紹介します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	

	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	演習科目は受講者の主体的な取り組みを前提として授業が運営されます。ゼミにおける研究活動は授業時間中だけで完結するものではなく、授業時間外での調査・分析も不可欠です。それだけ時間をかける必要がある科目ですが、費やした時間は自身の成長として返ってくるので、努力する価値は充分にあります。受講者の皆様には積極的な授業参加を強く期待します。 なお、本科目の履修にあたってミクロ経済学・ゲーム理論・統計学といった経済学の分析手法を知っていると便利ですが、必須ではありません。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	・授業で作成した目標シート等に基づいて、今後の学修計画等を詳細に確認してください。 ・次回に行うグループワークに向けて、複数のテーマ候補を各自で考えてください。	4時間
第2回	対面	ゲーム理論と行動経済学の諸理論および第1回グループワーク（テーマ設定と調査）	・教科書・参考書を用いたゲーム理論・行動経済学に関する学修	4時間
第3回	対面	第1回グループワーク（テーマ設定と調査）	・教科書・参考書を用いたゲーム理論・行動経済学に関する学修 ・グループワークにおいて決められた作業	4時間
第4回	対面	第1回グループワーク（課題発見）	・教科書・参考書を用いたゲーム理論・行動経済学に関する学修 ・グループワークにおいて決められた作業	4時間
第5回	対面	第1回グループワーク（報告資料作成）	・教科書・参考書を用いたゲーム理論・行動経済学に関する学修 ・グループワークにおいて決められた作業	4時間
第6回	対面	第1回グループワーク（報告練習）	・教科書・参考書を用いたゲーム理論・行動経済学に関する学修 ・グループワークにおいて決められた作業 （各自の報告分担を確認するとともに、円滑な報告ができるよう練習を行ってください。） ・次のグループワークで使用するテーマの検討	4時間
第7回	対面	第1回グループワーク（報告）	・グループワークの振り返り ・次のグループワークで使用するテーマの検討	4時間
第8回	対面	第2回グループワーク（テーマ設定・チーム編成）	・テーマの検討 ・グループで決めた作業	4時間
第9回	対面	第2回グループワーク（調査1）	・グループで決めた作業 ・教科書・参考書等を用いたゲーム理論・行動経済学に関する学修	4時間
第10回	対面	グループワーク（調査2）	・グループで決めた作業 ・教科書・参考書等を用いたゲーム理論・行動経済学に関する学修	4時間
第11回	対面	第2回グループワーク（調査3，課題発見）	・グループで決めた作業 ・教科書・参考書等を用いたゲーム理論・行動経済学に関する学修	4時間
第12回	対面	第2回グループワーク（課題発見，課題解決案の検討）	・グループで決めた作業 ・教科書・参考書等を用いたゲーム理論・行動経済学に関する学修	4時間
第13回	対面	第2回グループワーク（課題解決案の検討，プレゼンテーション準備）	・グループで決めた作業 ・教科書・参考書等を用いたゲーム理論・行動経済学に関する学修	4時間
第14回	対面	第2回グループワーク（プレゼンテーション）	・グループで決めた作業	4時間

2026/05/01

		ン)	・レポート執筆	
第15回	オンデマンド	学生研究発表大会への備え	・資料に基づき, 学生研究発表大会に向けた準備を進めてください。	4 時間

科目名	演習ⅠA	開講年度	2026 年度春学期
担当者	楊 倩倩	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	労働と地域の経済を考える（基礎）		
授業の目的及び概要	演習Ⅰでは、労働や地域経済に関する身近なテーマを題材に、経済学の基礎的な理論や考え方を学びます。 文献の輪読を通じて専門的な文章の読み方に慣れるとともに、地域経済や労働に関する統計データの基本的な見方・扱い方を身につけます。 ゼミでの発表や議論を重ねながら、現実の経済問題を経済学的に整理し、自分の考えを論理的に説明する力を養うことを目的とします。あわせて、今後の演習や卒業研究につながる問題意識を形成します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	(1) 地域経済および労働経済に関する基礎的な理論や概念を理解し、自分の言葉で説明できる。 (2) 地域経済および労働経済に関する資料の取得方法や、基礎的なデータの見方を理解し、適切に扱うことができる。 (3) 文献輪読やディスカッションを通じて、課題を発見し、論理的に思考し、適切に表現できる。 (4) 自分の興味・関心に基づいて、今後研究したいテーマ（問題意識）を設定できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	グループまたは個人による研究報告に対するコメントを通じてフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	都市・地域経済学への招待状 新版, 佐藤泰裕, 有斐閣 ストウディア, 2023 年	ISBN	9784641151192
参考書	参考書は授業・研究の状況に応じて適宜紹介します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	演習Ⅰでは、基礎から丁寧に学びながら、自分なりに考え、お互いに議論することを重視します。積極的に発言するとともに、他者の意見に耳を傾ける姿勢を大切にしてください。 専門的な知識や分析手法については、ゼミを通じて段階的に身につけていきます。経済学を用いて現実の経済や社会の問題を考えることの面白さを、ゼミの活動を通じて実感してもらえばと考えています。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	ガイダンス（教員・受講生の自己紹介、演習の内容・進め方）	【予習】事前にテキストに目を通し、興味や関心のあるテーマについて考えておいてください。 【復習】自身が報告するテキストの対応箇所を把握し、どのような報告を行いたいのか検討してください。	4 時間
第2回	対面	テキストの輪読：日本の地域と都市	【予習】テキストの該当箇所を事前に精読し、疑問点をまとめておいてください。報告担当者はスライドを準備してください。 【復習】輪読したテキストの内容をまとめておいてください。	4 時間
第3回	対面	テキストの輪読：地域の産業構造（1）	【予習】テキストの該当箇所を事前に精読し、疑問点をまとめておいてください。報告担当者はスライドを準備してください。 【復習】輪読したテキストの内容をまとめておいてください。	4 時間
第4回	対面	テキストの輪読：地域の産業構造（2）	【予習】テキストの該当箇所を事前に精読し、疑問点をまとめておいてください。報告担当者はスライドを準備してください。 【復習】輪読したテキストの内容をまとめておいてください。	4 時間
第5回	対面	テキストの輪読：地域間人口移動	【予習】テキストの該当箇所を事前に精読し、疑問点をまとめておいてください。報告担当者はスライドを準備してください。 【復習】輪読したテキストの内容をまとめておいてください。	4 時間
第6回	対面	テキストの輪読：集積の経済と都市化	【予習】テキストの該当箇所を事前に精読し、疑問点をまとめておいてください。報告担当者はスライドを準備してください。 【復習】輪読したテキストの内容をまとめておいてください。	4 時間
第7回	対面	テキストの輪読：住宅市場	【予習】テキストの該当箇所を事前に精読し、疑問点をまとめておいてください。報告担当者はスライドを準備してください。 【復習】輪読したテキストの内容をまとめておいてください。	4 時間
第8回	対面	テキストの輪読：都市内土地利用の分析	【予習】テキストの該当箇所を事前に精読し、疑問点をまとめておいてください。報告担当者はスライドを準備してください。 【復習】輪読したテキストの内容をまとめておいてください。	4 時間
第9回	対面	テキストの輪読：都市システムモデルと最適人口規模	【予習】テキストの該当箇所を事前に精読し、疑問点をまとめておいてください。報告担当者はスライドを準備してください。 【復習】輪読したテキストの内容をまとめておいてください。	4 時間
第10回	対面	テキストの輪読：地域間交易	【予習】テキストの該当箇所を事前に精読し、疑問点をまとめておいてください。報告担当者はスライドを準備してください。 【復習】輪読したテキストの内容をまとめておいてください。	4 時間
第11回	対面	テキストの輪読：企業立地	【予習】テキストの該当箇所を事前に精読し、疑問点をまとめておいてください。報告担当者はスライドを準備してください。 【復習】輪読したテキストの内容をまとめておいてください。	4 時間
第12回	対面	テキストの輪読：空間経済学	【予習】テキストの該当箇所を事前に精読し、疑問点をまとめておいてください。報告担当者はスライド	4 時間

			を準備してください。 【復習】輪読したテキストの内容をまとめておいてください。	
第13回	対面	テキストの輪読：交通サービス	【予習】テキストの該当箇所を事前に精読し、疑問点をまとめておいてください。報告担当者はスライドを準備してください。 【復習】輪読したテキストの内容をまとめておいてください。	4 時間
第14回	対面	テキストの輪読：地域政府の役割	【予習】テキストの該当箇所を事前に精読し、疑問点をまとめておいてください。報告担当者はスライドを準備してください。 【復習】輪読したテキストの内容をまとめておいてください。	4 時間
第15回	オンデマンド	振り返り	オンデマンド動画を視聴し、今学期の振り返りを行なってください。	4 時間

科目名	演習 I A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	伊勢 公人	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	エネルギー・環境問題を経済学の視点から考える（基礎）		
授業の目的及び概要	エネルギー・環境問題への対策を考えるとときにはその原因者や被害者が空間的・時間的にどのように広がっているのかを考慮する必要があります。 本演習では、各地域、国が抱える問題にとどまらず国際的なエネルギー・環境問題も取り上げます。また、現代世代だけでなく、将来世代のことも考えて問題解決の方策を探っていきます。本演習では、エネルギー・環境問題に関する課題、問題解決の方策についての知見を高め、各問題を経済学的に解釈し表現できる能力の向上を目指します。 「実学としての経済学」との関係 この演習を履修することにより、経済指標にも影響を与えるエネルギー・環境問題、エネルギー・環境政策を分析できる力を身につけることを目的としています。		
履修条件・留意点	エネルギー・環境問題は、各地域・国の問題であるとともに国際問題でもあるので、いずれのコース所属でも履修可能です。		
DP との関係	本科目と学位授与の方針（DP）との関係については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①具体的なエネルギー・環境問題に関する基礎的な分析手法を学びます。 ②エネルギー・環境問題の様々なトピックスを学びます。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	グループまたは個人による調査・研究報告に対するコメントを通じてフィードバックする。また、グループワークの作業を授業中に進める場合には、適宜、進捗を確認しながらフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1987 年から民間企業に 34 年間勤務しており、欧州事務所の副所長を務めた経験を有している。また、経済産業省の受託研究のプロジェクトリーダーを始め、多くの調査プロジェクトを担ってきた。本科目では、これらの経験を生かした授業を行う。		
テキスト	特定のテキストは利用しない。	ISBN	なし
参考書	①新・環境経済学入門講義，浜本光紹，創成社，2024 年 ②入門 環境経済学 新版，有村俊秀・日引聡，中公新書，2023 年	ISBN	①9784794432490 ②9784121027511
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	本演習ではエネルギー・環境問題の経済学的な見方を学修します。 受講生自らが積極的に関与することを期待します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス(教員、演習受講者の自己紹介、本演習の進め方)	・興味や関心のあるエネルギー・環境問題について、考えておいてください。 ・授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4時間
第2回	対面	テーマの選定と解説(1)	・興味や関心のあるエネルギー・環境問題について、書籍、雑誌、新聞、ネットなどにアクセスして、理解を深めておいてください。 ・授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4時間
第3回	対面	テーマの選定と解説(2)	・興味や関心のあるエネルギー・環境問題について、書籍、雑誌、新聞、ネットなどにアクセスして、理解を深めておいてください。 ・授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4時間
第4回	対面	テーマの選定と解説(3)	・興味や関心のあるエネルギー・環境問題について、書籍、雑誌、新聞、ネットなどにアクセスして、理解を深めておいてください。 ・授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4時間
第5回	対面	発表並びに討論(1)	・報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。 ・その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連する書物や記事、情報等に触れて、理解を深めておいてください。 ・授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4時間
第6回	対面	発表並びに討論(2)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連する書物や記事、情報等に触れて、理解を深めておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4時間
第7回	対面	発表並びに討論(3)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連する書物や記事、情報等に触れて、理解を深めておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4時間
第8回	対面	発表並びに討論(4)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連する書物や記事、情報等に触れて、理解を深めておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4時間
第9回	対面	発表並びに討論(5)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連する書物や記事、情報等	4時間

			に触れて、理解を深めておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	
第10回	対面	発表並びに討論 (6)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連する書物や記事、情報等に触れて、理解を深めておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4 時間
第11回	対面	発表並びに討論 (7)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連する書物や記事、情報等に触れて、理解を深めておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4 時間
第12回	対面	発表並びに討論 (8)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連する書物や記事、情報等に触れて、理解を深めておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4 時間
第13回	対面	発表並びに討論 (9)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連する書物や記事、情報等に触れて、理解を深めておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4 時間
第14回	オンデマンド	レポートの書き方: テーマの選定から仮説の設定まで	・オンデマンド動画の資料を丁寧に読んでください。 ・「経済学部生のためのレポート作成要領」を読んで参考文献リストの作成方法を確認してください。	4 時間
第15回	対面	まとめ	・今学期の振り返り	4 時間

科目名	演習 I A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	朱 東平	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	ゲーム理論を実戦に生かそう（1）		
授業の目的及び概要	この演習では、ゲーム理論の基本的な考え方を理解するとともに、そのビジネス活動での応用、そしてゲーム理論を生かした意思決定プロセスについて勉強していきたいと思います。その主な内容は以下の通りです。 1. ゲーム理論とは何か 2. ゲーム理論の基礎 3. 囚人のジレンマ 4. 独自のゲームの作成 この演習は皆さんが社会人として持つべき専門知識・能力の高度化を図る科目です。この授業を受講することにより、ゲーム理論の視点から、現実の経済現象を理解できる力を身につけることを目的とします。 また、この演習は、ゲーム理論の基礎を学修することに重点を置きますので、ゲーム理論の入門レベルにあたります。		
履修条件・留意点	この授業科目は、履修条件を設けておりませんが、授業への出席に留意してください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この演習は、以下のことを目標とします。 1. ゲーム理論の基本的な考え方を理解することができる。 2. その考え方をを用いて、日常生活のさまざまな場面や卒業後のビジネス活動を理解することができる。 3. 就職活動に必要なプレゼン能力をもつことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	優秀なレポートは、授業中に紹介します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	活かすゲーム理論，浅古泰史・圖斎大・森谷文利，有斐閣，2023 年	ISBN	9784641200050
参考書	①図解で学ぶゲーム理論入門，天谷研一，日本能率協会マネジメントセンター，2011 年 ②ビジュアル ゲーム理論，渡辺隆裕，日本経済新聞，2019 年	ISBN	①9784820747185 ②9784532119393
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	ゲーム理論は、ミクロ経済学、マクロ経済学を問わず、経済学のほとんどの分野に応用され、経済分析のための基本道具の一つとなっています。さらに、経済学の分野を超えて政治学など		

他の社会科学の分野にも広く応用されています。少し難しい学問ですが、力を合わせて頑張りましょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス ・担当教員を含むゼミ参加者全員の自己紹介を行います。 ・授業内容や運営方法を説明し、参加者の意思統一をはかります。 （受講者数および受講者の希望に応じて、以下の内容を変更することもありうる。）	「学修ポートフォリオ」と「ラーニングポータル」の使い方や教材について確認し、予習してください。	4時間
第2回	対面	春学期の目標を設定しましょう ・「学修ポートフォリオ」の使い方について説明（確認）します。 ・現状確認をもとに春学期の成長目標について話し合います。	次回の授業までに、教材を読んで予習してください。	4時間
第3回	対面	グループ学習のスタート ・グループを編成し、グループの運営方法や運営ルール等について話し合います。	次回の授業までに、教材を読み込んだうえで、レジメを作成してください。	4時間
第4回	対面	ゲーム理論とは何か（1） ・ゲーム理論とは何かについて勉強します。	参加者は事前に教材を読み込んだうえで、レジメを作成してください。	4時間
第5回	対面	ゲーム理論とは何か（2） ・モデル化について勉強します。	参加者は事前に教材を読み込んだうえで、レジメを作成してください。	4時間
第6回	対面	囚人のジレンマ（1） ・モデル化と利得表	参加者は事前に教材を読み込んだうえで、レジメを作成してください。	4時間
第7回	対面	囚人のジレンマ（2） ・結果の予測と支配戦略	参加者は事前に教材を読み込んだうえで、レジメを作成してください。	4時間
第8回	対面	囚人のジレンマ（3） ・パレート最適性	参加者は事前に教材を読み込んだうえで、レジメを作成してください。	4時間
第9回	対面	共有地の悲劇（1） ・モデル化と利得表	参加者は事前に教材を読み込んだうえで、レジメを作成してください。	4時間
第10回	対面	共有地の悲劇（2） ・支配戦略による予測と囚人のジレンマの解決法	参加者は事前に教材を読み込んだうえで、レジメを作成してください。	4時間
第11回	対面	強く支配される戦略の逐次消去	参加者は事前に教材を読み込んだうえで、レジメを作成してください。	4時間
第12回	対面	弱く支配される戦略	参加者は事前に教材を読み込んだうえで、レジメを作成してください。	4時間
第13回	対面	独自のゲームでレポートを作成しましょう	次回の授業までに、春学期のレポートを完成してください。	4時間
第14回	対面	まとめ ・期末レポートの提出 ・春学期初めに作成した各自の「春学期の目標」の達成度と反省点について報告し、話し合います。 ・夏休み中の勉強内容について話し合います。	夏休み中の課題について取り組んでください。	4時間
第15回	オンデマンド	学生研究発表大会の参加を準備しましょう ・発表準備に向けて、学生研究発表大会の動画をオンデマンドで配信します。いずれかの動画を視聴して発表の参考にしてください。	オンデマンド動画を視聴した上で、発表資料を作成し、レジメを読み上げるだけの発表にならないよう準備を行ってください。	4時間

科目名	演習 I A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	畑佐 伸英	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	アジア各国の情勢と国際経済の要点を学ぶ（１）		
授業の目的及び概要	本演習では、世界経済に関連する様々なテーマを幅広く扱い、平易に分かりやすく学んでいくことで、国際的にはどのような経済問題が潜んでいるのか、世界の国々はどのような経済状況にあるかなどについて、理解を深めていくことにする。特に、アジア各国の経済社会問題や現実に行き起きている世界経済の諸課題に焦点を当て、その背景や本質を考察していく中で、実際に起きている経済現象への認識を深め、現実的な政策対応を検討していく。本演習での学びを基礎として、国際経済への興味や関心を高めていき、次年時以降の学習や研究課題の探究につなげていく。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	国際社会やアジアの国々が直面している、経済に関する諸問題を知ること、アジア経済やグローバル経済の現状や状況について精通していくと共に、国際経済学の領域において、幅広い理解と基礎的な素養を身に付けていく。また、各自でレジュメや資料を準備して発表してもらい、それらをもとに皆で議論していくことで、プレゼン力やコミュニケーション能力も獲得していく。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表内容については、授業の中で解説及び講評します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは利用しない。	ISBN	なし
参考書	①アジア動向年 2025, アジア経済研究所, 日本貿易振興機構アジア経済研究所, 2025 年 ②世界経済入門（講談社現代新書）, 野口悠紀雄, 講談社, 2018 年	ISBN	①9784258010257 ②9784062884730
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	ガイダンス 教員・受講者の紹介、演習の進め方、報告	興味や関心のある東アジアの国や地域について、考えておいてください。授業で学んだことと思ったこと	4 時間

		担当箇所の割り振り。	と、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	
第2回	対面	アジア経済を学ぶ テーマの選定と解説(1)	興味や関心のある東アジアの国や地域について、書籍、雑誌、新聞、ネットなどにアクセスして、理解を深めておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第3回	対面	アジア経済を学ぶ テーマの選定と解説(2)	興味や関心のある東アジアの国や地域について、書籍、雑誌、新聞、ネットなどにアクセスして、理解を深めておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第4回	対面	アジア経済を学ぶ テーマの選定と解説(3)	興味や関心のある東アジアの国や地域について、書籍、雑誌、新聞、ネットなどにアクセスして、理解を深めておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第5回	オンデマンド	アジア経済を学ぶ プレゼン資料の作成	報告するテーマについて、関連する書籍や資料などを収集し、プレゼンの資料を作成してください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第6回	対面	アジア経済を学ぶ 発表並びに討論(1)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連する書物や記事、情報等に触れて、理解を深めておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第7回	対面	アジア経済を学ぶ 発表並びに討論(2)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連する書物や記事、情報等に触れて、理解を深めておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第8回	対面	アジア経済を学ぶ 発表並びに討論(3)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連する書物や記事、情報等に触れて、理解を深めておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第9回	対面	アジア経済を学ぶ 発表並びに討論(4)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連する書物や記事、情報等に触れて、理解を深めておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第10回	対面	アジア経済を学ぶ 発表並びに討論(5)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連する書物や記事、情報等に触れて、理解を深めておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間

第11回	対面	アジア経済を学ぶ 発表並びに討論(6)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連する書物や記事、情報等に触れて、理解を深めておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4時間
第12回	対面	アジア経済を学ぶ 発表並びに討論(7)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連する書物や記事、情報等に触れて、理解を深めておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4時間
第13回	対面	アジア経済を学ぶ 発表並びに討論(8)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連する書物や記事、情報等に触れて、理解を深めておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4時間
第14回	対面	アジア経済を学ぶ 発表並びに討論(9)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連する書物や記事、情報等に触れて、理解を深めておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4時間
第15回	対面	まとめ並びに総括	これまでの学習を振り返って、学んだこと、分かったこと、発見したこと、難しかったこと、興味や関心を抱いたこと、などについて考えておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4時間

科目名	演習 I A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	前田 一樹	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	労働市場や雇用政策を経済学的な視点から学ぶ		
授業の目的及び概要	本科目では、労働経済学の視点に基づいて、身近な問題から賃金や雇用格差という社会的な問題まで、さまざまな社会問題について考えます。働くことは生活の基礎です。では、なぜ裕福な人とそうでない人がいるのか、仕事を失うとどうなるか、働く意味や働きがいとは何であるか、などの普段の生活で思い浮かぶ疑問について経済理論に基づいて理解できることを目指します。 また、政府が実施する雇用政策によって人々がどのように影響を受けるかというメカニズムについても理解し自分なりに読み解くことができるようになる。実際にデータなどを用いて現実の労働市場での事象が理論通りに起きているのかを確認したうえで、なぜそうなるのかという理由を探究していくことを行います。これらを通じて鍛えられる経済学的な論理的思考力、分析力、そして、データの読み取る能力は、大学における学修・研究だけでなく、就職活動にも役立ちます。 さらに、本科目で学修した知識を活用することで、経済学部における学びを通じて修得することを目指す「実学としての経済学」を、より円滑に学ぶことができるようになります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	日本の労働市場が直面している諸問題を知ること、日本経済の現状や仕組みについて精通していくとともに、労働経済学の分野での幅広い知識と素養を習得する。 また、報告にあたっての資料の作成や発表を通じてプレゼンテーション・コミュニケーション能力を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	グループまたは個人による研究報告に対するコメントを通じてフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①「働くこと」を思考する、久米功一、中央経済社、2020 年 毎回の講義はテキストに基づいて輪読・討論を行います。 （教科書は図書館の電子ブックでも閲覧することができます。）	ISBN	①9784502366413
参考書	①労働経済学―理論と実証をつなぐ、川口大司、有斐閣、2017 年 ②職業の経済学、阿部正浩・菅万理・勇上和史編著：中央経済社、2017 年	ISBN	①9784641165076 ②9784502238215
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）		

	その他の内容	
この科目の受講にあたって	演習科目は、受講者の主体的な取り組みを前提として授業が運営されます。ゼミにおける報告資料の準備はもちろん、議論をするために事前のテキストの確認など授業時間中だけでは完結しません。そのため、授業以外の時間でも準備が必要です。参加者のみなさんに積極的な授業参加を強く期待します。 履修にあたり、ミクロ経済学、マクロ経済学、労働経済学などの分析手法について知識があることが望ましいですが、必須ではありません。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	・事前にテキストに目を通し、興味のあるテーマについて考えてください（2時間程度）。 ・自身が報告するテキストの対応箇所を把握し、どのように報告を行うか検討してください（2時間程度）。	4時間
第2回	対面	日本の労働市場を学ぶ：働く人（1）	・授業で扱うテーマに対応したテキストの箇所を事前に読んでおいてください。報告担当者は、報告資料の準備を行ってください（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください（2時間程度）。	4時間
第3回	対面	日本の労働市場を学ぶ：働く人（2）	・授業で扱うテーマに対応したテキストの箇所を事前に読んでおいてください。報告担当者は、報告資料の準備を行ってください（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください（2時間程度）。	4時間
第4回	対面	日本の労働市場を学ぶ：働く人（3）	・授業で扱うテーマに対応したテキストの箇所を事前に読んでおいてください。報告担当者は、報告資料の準備を行ってください（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください（2時間程度）。	4時間
第5回	対面	日本の労働市場を学ぶ：働く人（4）	・授業で扱うテーマに対応したテキストの箇所を事前に読んでおいてください。報告担当者は、報告資料の準備を行ってください（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください（2時間程度）。	4時間
第6回	対面	日本の労働市場を学ぶ：能力・スキル・価値観（1）	・授業で扱うテーマに対応したテキストの箇所を事前に読んでおいてください。報告担当者は、報告資料の準備を行ってください（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください（2時間程度）。	4時間
第7回	対面	日本の労働市場を学ぶ：能力・スキル・価値観（2）	・授業で扱うテーマに対応したテキストの箇所を事前に読んでおいてください。報告担当者は、報告資料の準備を行ってください（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください（2時間程度）。	4時間
第8回	対面	日本の労働市場を学ぶ：能力・スキル・価値観（3）	・授業で扱うテーマに対応したテキストの箇所を事前に読んでおいてください。報告担当者は、報告資料の準備を行ってください（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください（2時間程度）。	4時間
第9回	対面	日本の労働市場を学ぶ：仕事と生活の両立（1）	・授業で扱うテーマに対応したテキストの箇所を事前に読んでおいてください。報告担当者は、報告資料の準備を行ってください（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください（2時間程度）。	4時間
第10回	対面	日本の労働市場を学ぶ：仕事と生活の両立	・授業で扱うテーマに対応したテキストの箇所を事	4時間

		(2)	前に読んでおいてください。報告担当者は、報告資料の準備を行ってください(2時間程度)。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください(2時間程度)。	
第11回	対面	日本の労働市場を学ぶ：仕事と生活の両立(3)	・授業で扱うテーマに対応したテキストの箇所を事前に読んでおいてください。報告担当者は、報告資料の準備を行ってください(2時間程度)。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください(2時間程度)。	4時間
第12回	対面	日本の労働市場を学ぶ：就業状態(1)	・授業で扱うテーマに対応したテキストの箇所を事前に読んでおいてください。報告担当者は、報告資料の準備を行ってください(2時間程度)。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください(2時間程度)。	4時間
第13回	対面	日本の労働市場を学ぶ：就業状態(2)	・授業で扱うテーマに対応したテキストの箇所を事前に読んでおいてください。報告担当者は、報告資料の準備を行ってください(2時間程度)。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください(2時間程度)。	4時間
第14回	対面	日本の労働市場を学ぶ：就業状態(3)	・授業で扱うテーマに対応したテキストの箇所を事前に読んでおいてください。報告担当者は、報告資料の準備を行ってください(2時間程度)。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください。学期末レポートの作成を行ってください(2時間程度)。	4時間
第15回	オンデマンド	振り返り	・オンデマンド動画を視聴し、今学期の振り返りを行ってください。 ・秋学期の研究発表に向けてどのようなテーマに取り組みたいか検討するとともに、自身の卒業研究で使えるようなデータセット等を探してください(4時間程度)。	4時間

科目名	演習 I A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	張 哲	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	国際経済について（入門）		
授業の目的及び概要	この演習では新聞紙等の資料を用い、経済学の視点から世の中の具体的な出来事を考えます。授業では資料の輪読を行うほか、研究報告も行います。研究報告のテーマを国際貿易関連と期待しますが、各自関心のあるテーマでも歓迎します。 授業中の討論や研究報告を通して、論理的思考力を鍛えると同時に、プレゼン能力を高めることも期待できます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	(1) 経済学の基礎知識を身に付けること。 (2) 資料を読み解ける能力を育成すること。 (3) 問題を発見し、解決に向けて自ら考えて、動けること。 (4) 自分の意見を文字化して、プレゼンテーションでできること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中にコメントを通じてフィードバックを行います。授業の最後に質疑応答の時間を設けます。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは使用しない。	ISBN	なし
参考書	授業中に随時紹介します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション、授業の進め方について	【予習】シラバスや資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第2回	対面	資料輪読①	【予習】輪読する資料を事前に精読しておきましょう。 【復習】輪読した資料の内容を整理し、理解を深めま	4 時間

			しょう。	
第3回	対面	資料輪読②	【予習】輪読する資料を事前に精読しておきましょう。 【復習】輪読した資料の内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第4回	対面	資料輪読③	【予習】輪読する資料を事前に精読しておきましょう。 【復習】輪読した資料の内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第5回	対面	資料輪読④	【予習】輪読する資料を事前に精読しておきましょう。 【復習】輪読した資料の内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第6回	対面	資料輪読⑤	【予習】輪読する資料を事前に精読しておきましょう。 【復習】輪読した資料の内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第7回	対面	資料輪読⑥	【予習】輪読する資料を事前に精読しておきましょう。 【復習】輪読した資料の内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第8回	対面	資料輪読⑦	【予習】輪読する資料を事前に精読しておきましょう。 【復習】輪読した資料の内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第9回	対面	資料輪読⑧	【予習】輪読する資料を事前に精読しておきましょう。 【復習】輪読した資料の内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第10回	対面	研究報告の準備	・各自関心の所在を確認し、テーマを練り、説明できるようにしておきましょう。 ・各自のテーマに関連する情報を確認してみましょう。	4 時間
第11回	対面	研究報告の準備	・参考資料を精読の上、レジュメを作成してみましょう。 ・疑問点をまとめてみましょう。	4 時間
第12回	対面	研究報告	・レジュメを完成させ、報告の練習をやってください。 ・討論やコメントに基づき、修正を行ってください。	4 時間
第13回	対面	研究報告	・レジュメを完成させ、報告の練習をやってください。 ・討論やコメントに基づき、修正を行ってください。	4 時間
第14回	オンデマンド	レポートの作成について	レポートの書式を定着させ、レポートを作成してみてください。	4 時間
第15回	対面	振り返り	これまでの講義内容を復習し、興味のあるテーマを見つけましょう。	4 時間

科目名	演習 I A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	穴井 佑	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	近世・近代西洋社会経済史		
授業の目的及び概要	近世・近代西洋の社会経済史に関する基礎的なテキストをいくつか輪読します。その一方で、各自の研究報告も行います。研究報告に関しては、近世・近代西洋社会経済史を中心にしますが、各自の関心にもとづく研究報告も歓迎します。これらの学修を通して、社会経済史研究者が研究を進めるうえで行うプロセスを体験してもらいます。また、本演習では、GDP・為替レート・金利などの「経済諸指標とその連動についての理解」をサブテーマに設定しています。歴史事象を検討する中で、そうした経済諸指標とその連動の具体例を見出していきます。そうすることで、現代社会の経済の動きを歴史的な観点から考察する力の涵養を目指します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	第一に、社会経済史の手法を理解する。 第二に、一つのテキストをしっかりと「読む」力を養成する。 第三に、スライドやレジュメの作成、ディスカッション、プレゼンテーションなどを通して、テキスト講読から得た知見をまとめ、自身の見解として再構築していくスキルを身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の授業の中で、課題への回答、スライド、レジュメ、プレゼンテーション、ディスカッションに対してコメントをします。質疑応答の時間もその都度確保します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特にありません。授業で用いるテキストはその都度担当教員から配布します。	ISBN	なし
参考書	特にありません。研究を進めるうえで必要な参考書については適宜紹介します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	10	
	その他の内容	輪読のレジュメや個別研究のスライドから判断します。	
この科目の受講にあたって	遅刻厳禁。履修者は自身がゼミの一員であることを自覚し、責任感をもって授業に参加すること。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	授業のイントロダクション（学術的な文章の作成の作法、文献の収集、スライドやレジュメの作成、プレゼンテーションの方法	【予習】基礎演習で学修した学術的な文章作成の作法、文献収集の方法、スライドやレジュメの作成、プレゼンテーションの方法などを復習しておくこと。	4 時間

		などについての説明をします)を行った後に、輪読するテキストの報告担当箇所を決めます。	【復習】学術的な文章作成の作法、文献収集の方法、スライドやレジюмеの作成、プレゼンテーションの方法などを復習すること。	
第2回	対面	テキストの輪読。担当者がレジюмеを作成して内容紹介をし、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。	【予習】輪読するテキストを事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	4 時間
第3回	対面	テキストの輪読。担当者がレジюмеを作成して内容紹介をし、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。	【予習】輪読するテキストを事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	4 時間
第4回	対面	テキストの輪読。担当者がレジюмеを作成して内容紹介をし、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。	【予習】輪読するテキストを事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	4 時間
第5回	対面	テキストの輪読。担当者がレジюмеを作成して内容紹介をし、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。	【予習】輪読するテキストを事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	4 時間
第6回	対面	テキストの輪読。担当者がレジюмеを作成して内容紹介をし、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。	【予習】輪読するテキストを事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	4 時間
第7回	対面	テキストの輪読。担当者がレジюмеを作成して内容紹介をし、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。	【予習】輪読するテキストを事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	4 時間
第8回	対面	テキストの輪読。担当者がレジюмеを作成して内容紹介をし、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。	【予習】輪読するテキストを事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	4 時間
第9回	対面	テキストの輪読。担当者がレジюмеを作成して内容紹介をし、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。	【予習】輪読するテキストを事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	4 時間
第10回	対面	グループか個人ごとに設定した研究テーマに関連する文献調査・収集を行います。十分な文献が収集でき次第、文献の精読を進めていきます。	【予習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献の調査を行うこと。 【復習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献を精読すること。	4 時間
第11回	対面	研究に必要な文献を精読しつつ、グループあるいは個人で研究報告に向けた作業を進めます(研究テーマに関するディスカッションやスライドなどの作成)。	【予習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献を精読すること。 【復習】文献の精読をすすめつつ、そこから得られた知見を自身の研究に反映できるよう整理すること。	4 時間
第12回	対面	研究に必要な文献を精読しつつ、グループあるいは個人で研究報告に向けた作業を進めます(研究テーマに関するディスカッションやスライドなどの作成)。	【予習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献を精読すること。 【復習】文献の精読をすすめつつ、そこから得られた知見を自身の研究に反映できるよう整理すること。	4 時間
第13回	対面	研究に必要な文献を精読しつつ、グループあるいは個人で研究報告に向けたスライドを完成させます。	【予習】文献の精読をすすめつつ、そこから得られた知見を自身の研究に反映できるよう整理すること。また、スライドの作成を進めること。 【復習】スライドについてのディスカッションを続け、必要な修正を行うこと。報告の練習も行うこと。	4 時間
第14回	対面	グループあるいは個人での研究報告を行います。また、それぞれの研究に対する質疑応答を行います。	【予習】スライドの修正や改善のためのディスカッションを行いつつ、プレゼンテーションの練習をすること。 【復習】研究報告に対して出された疑問や問題点の改善に努めること。	4 時間

2026/05/01

第15回	オンデマンド	これまで輪読してきたテキストの内容についてのまとめをオンデマンドで配信する動画教材で行う。	動画教材を視聴した上で、ラーニングポータル上で配布する資料を中心に輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	4時間

科目名	演習ⅠA		開講年度	2026 年度春学期
担当者	小巻 善郎		配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	証券投資の理論と実践			
授業の目的及び概要	この演習ⅠAは、証券投資の理論を学修し、金融経済教育推進機構の株式学習ゲームを利用した株式投資を実践することによって、社会に出てから必要となる金融指標や証券投資の知識を身につけることを目的としています。 人生100年時代を迎えようとしている中で、豊かな人生をおくるためにも個々人の資産形成はたいへん重要な課題になっています。そして、資産形成を行うためには、金融の知識は欠かせないものです。とくに証券投資はリスクを伴うものだけに、より深い知識と実践が必要です。春学期の演習ⅠAでは、代表的な有価証券の一つである株式の学修を行います。 また、この演習ⅠAでは、グループ討議、プレゼンテーション、ディスカッションなどを行います。社会に出てから必要となるレポート作成能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を身につけることを目的としています。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	この演習では、以下の3点を学修の到達目標とします。 ・ 金融市場のしくみが理解できるようになる。 ・ 株価指標が理解できるようになる。 ・ 説得力のあるプレゼンテーションができるようになる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	グループまたは個人の発表に対してコメント・解説をすることでフィードバックを行います。また、課題等の提出物は、コメントを付したうえで返却します。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当者は、都市銀行に26年間在職し、その間、支店や本部、海外支店において内部事務、営業・渉外、調査といった様々な業務に携わってきた。本科目では、そうした長年にわたる実務経験を通じて得た専門知識や知見などを授業に反映し、理論だけでなく具体的な事例の紹介などを基とした実践的な教育を行う。			
テキスト	テキスト指定はありません。 適宜、資料を配布します。		ISBN	なし
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		0	
	成果発表（口頭・実技）		50	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	この演習ⅠAでの学修の成果として、たとえば日本証券業協会が実施している二種外務員資格や、国家資格であるFP技能検定2級・3級といった金融関連の資格取得を目指していただきたいと思います。 意志あるところに、必ず道は開けます。主体的・積極的に取り組んでください。十分なサポー			

トを行います。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション 演習ⅠAの進め方を説明します。また、春学期の目標を作成します。	・配布資料を復習する。 ・次回の授業課題「株式上場制度の概要」「株式売買のルール」を予習する。	4時間
第2回	対面	株式上場制度の概要、株式売買のルール 配布資料を用いて解説した後、グループワークを行います。	・配布資料を復習する。 ・次回の授業課題「証券取引所と株式上場制度」を予習する。	4時間
第3回	対面	証券取引所と株式上場制度 配布資料を用いて解説した後、グループワークを行い、最後に全体でディスカッションします。	・配布資料を復習する。 ・次回の授業課題「株主としての権利、株式売買のルール」を予習する。	4時間
第4回	対面	株主としての権利、株式売買のルール 配布資料を用いて解説した後、グループワークを行い、最後に全体でディスカッションします。	・配布資料を復習する。 ・次回の授業課題「リスクとリターン、ポートフォリオ」を予習する。	4時間
第5回	対面	リスクとリターン、ポートフォリオ 配布資料を用いて解説した後、グループワークを行い、最後に全体でディスカッションします。	・配布資料を復習する。 ・次回の授業課題「企業の財務諸表の見方…ROE、ROAなど」を予習する。	4時間
第6回	対面	企業の財務諸表の見方…ROE、ROAなど 配布資料を用いて解説した後、グループワークを行い、最後に全体でディスカッションします。	・配布資料を復習する。 ・次回の授業課題「株式指標の分析…PER、PBRなど」を予習する。	4時間
第7回	対面	株式指標の分析…PER、PBRなど 配布資料を用いて解説した後、グループワークを行い、最後に全体でディスカッションします。	・配布資料を復習する。 ・次回の授業課題「株式指標の分析…配当性向、配当利回りなど」を予習する。	4時間
第8回	対面	株式指標の分析…配当性向、配当利回りなど 配布資料を用いて解説した後、グループワークを行い、最後に全体でディスカッションします。	・配布資料を復習する。 ・次回の授業課題「株式指標の分析… β 値」を予習する。	4時間
第9回	対面	株式指標の分析… β 値 配布資料を用いて解説した後、グループワークを行い、最後に全体でディスカッションします。	・配布資料を復習する。 ・次回の授業課題「個別企業の株式分析」を予習する。	4時間
第10回	対面	個別企業の株価分析 グループワークで個別企業の株価分析を行い、その結果をグループごとに発表します。	・配布資料を復習する。 ・次回の授業課題「個別企業の株式分析」を予習する。	4時間
第11回	対面	個別企業の株価分析 グループワークを個別企業の株価分析を行い、その結果をグループごとに発表します。	・配布資料を復習する。 ・次回の授業課題「個別企業の株式分析」を予習する。	4時間
第12回	対面	個別企業の株価分析 グループワークで個別企業の株価分析を行い、その結果をグループごとに発表します。	・配布資料を復習する。 ・次回の授業課題「個別企業の株式分析」を予習する。	4時間
第13回	対面	個別企業の株価分析 グループワークを個別企業の株価分析を行い、その結果をグループごとに発表します。	・配布資料を復習する。 ・次回の授業課題「ESG投資、インパクト投資」を予習する。	4時間
第14回	対面	ESG投資、インパクト投資 配布資料を用いて解説した後、グループワ	・配布資料を復習する。	4時間

2026/05/01

		ークを行い、最後に全体でディスカッションします。		
第15回	オンデマンド	総括 春学期のまとめを行います。	・配布資料を復習する。	4時間

科目名	演習 I A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	二替 大輔	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	産業組織論・企業経済学（基礎） ー産業組織論・企業経済学に基づいた産業および企業行動の分析ー		
授業の目的及び概要	本演習では、ミクロ経済学の応用としての産業組織論・企業経済学に基づいた企業行動の分析の基礎を学んでいきます。産業組織論や企業経済論の理論の基礎を学修しながら、現実の企業活動を理論的に分析することを目的とします。具体的には、流通業（小売業・卸売業）や観光業（宿泊業、テーマパーク）などの産業が考えられます。演習では、テキストを輪読することで、産業組織論における理論と具体例の考え方を習得した後、各グループ・個人で興味のある内容について調査し、発表してもらいます。それをもとにして、討論を行います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この演習は、以下のことを目標とします。 1. 産業組織論に関する基本的知識を修得する。 2. 1 で修得した知識をもとにして、現実起こっている産業・企業に関する経済現象について分析し説明できる。 3. 分析結果の内容をまとめ、プレゼンテーションできる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題については、Learning Portal を用いて、添削・採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	産業組織論への招待、西村淳一・山内勇、新世社、2025 年	ISBN	9784883844036
参考書	①この一冊で全部わかるビジネスモデル基本・成功パターン・作り方が一気に学べる、根来龍之・富樫佳織・足代訓史、SB クリエイティブ、2020 年 ②経営の経済学、丸山雅祥、有斐閣、2017 年 ③ミクロ経済学（第 3 版）、伊藤元重、日本評論社、2018 年 ④1 からの流通論（第 2 版）、石原武政・竹村正明・細井謙一（編著）、中央経済社、2018 年 ⑤1 からのマーケティング（第 4 版）、石井淳蔵・廣田章光・清水信年（編著）、中央経済社、2019 年 ⑥経済論文の書き方、経済セミナー編集部（編）、日本評論社、2022 年 その他、参加者の興味に応じて適宜参考文献を紹介します。	ISBN	①9784797392777 ②9784641164956 ③9784535558441 ④9784502283611 ⑤9784502327711 ⑥9784535540422
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	その他 (%)	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	本演習は、ミクロ経済学の基本的な知識を必要とします。 企業の行動、産業、ビジネスに関するニュースに常に注意を払ってください。 授業時間外に適宜、グループ内でグループ研究に関する議論を行ってください。 演習には積極的に参加して、報告資料、プレゼンテーションの見直しを継続的に行ってください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	【予習】シラバスを事前によく読んでおいてください。 【復習】ガイダンスの内容について復習してください。	2時間
第2回	対面	ミクロ経済学の基礎	【予習】テキストの該当箇所を読んで疑問点をまとめておいてください。報告担当者は資料を準備してください。 【復習】理解できた内容および疑問が残った内容をまとめておいてください。	4時間
第3回	対面	産業分析のための基本概念	【予習】テキストの該当箇所を読んで疑問点をまとめておいてください。報告担当者は資料を準備してください。 【復習】理解できた内容および疑問が残った内容をまとめておいてください。	4時間
第4回	対面	完全競争市場と独占	【予習】テキストの該当箇所を読んで疑問点をまとめておいてください。報告担当者は資料を準備してください。 【復習】理解できた内容および疑問が残った内容をまとめておいてください。	4時間
第5回	対面	新規参入	【予習】テキストの該当箇所を読んで疑問点をまとめておいてください。報告担当者は資料を準備してください。 【復習】理解できた内容および疑問が残った内容をまとめておいてください。	4時間
第6回	対面	市場の構造、行動、そして成果	【予習】テキストの該当箇所を読んで疑問点をまとめておいてください。報告担当者は資料を準備してください。 【復習】理解できた内容および疑問が残った内容をまとめておいてください。	4時間
第7回	対面	企業戦略	【予習】テキストの該当箇所を読んで疑問点をまとめておいてください。報告担当者は資料を準備してください。 【復習】理解できた内容および疑問が残った内容をまとめておいてください。	4時間
第8回	対面	価格差別	【予習】テキストの該当箇所を読んで疑問点をまとめておいてください。報告担当者は資料を準備してください。 【復習】理解できた内容および疑問が残った内容をまとめておいてください。	4時間
第9回	対面	イノベーション戦略	【予習】テキストの該当箇所を読んで疑問点をまとめておいてください。報告担当者は資料を準備してください。 【復習】理解できた内容および疑問が残った内容をまとめておいてください。	4時間
第10回	対面	製品戦略	【予習】テキストの該当箇所を読んで疑問点をまとめておいてください。報告担当者は資料を準備して	4時間

			ください。 【復習】理解できた内容および疑問が残った内容をまとめておいてください。	
第11回	対面	広告・流通戦略	【予習】テキストの該当箇所を読んで疑問点をまとめておいてください。報告担当者は資料を準備してください。 【復習】理解できた内容および疑問が残った内容をまとめておいてください。	4 時間
第12回	対面	企業の境界・組織のガバナンス	【予習】テキストの該当箇所を読んで疑問点をまとめておいてください。報告担当者は資料を準備してください。 【復習】理解できた内容および疑問が残った内容をまとめておいてください。	4 時間
第13回	対面	企業成長	【予習】テキストの該当箇所を読んで疑問点をまとめておいてください。報告担当者は資料を準備してください。 【復習】理解できた内容および疑問が残った内容をまとめておいてください。	4 時間
第14回	対面	競争優位のための戦略的行動	【予習】テキストの該当箇所を読んで疑問点をまとめておいてください。報告担当者は資料を準備してください。 【復習】理解できた内容および疑問が残った内容をまとめておいてください。	4 時間
第15回	オンデマンド	まとめ	【予習】これまで調査した経済現象についてまとめておいてください。 【復習】テキストで学んだことを復習してください。秋学期の学生研究発表大会に関するテーマを考え、関連する文献を読んでください。	6 時間

科目名	演習 I A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	牧田 修治	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	都市と地方の人口変動を考える		
授業の目的及び概要	この授業では、レポート作成や卒業論文の準備として、リサーチの方法論を習得することを目的としています。「問題・課題を発見し、その原因を考えて仮説を立て、仮説検証のためのデータを収集し検証を行い、結果をまとめて報告する」というリサーチの手順を、教科書の輪読によって学びます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	学修の到達目標は次の3つです。 1. リサーチの手順が理解できる。 2. 問題解決・課題解決のための仮説の設定と検証方法が理解できる。 3. 相関関係と因果関係の違いが理解できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	グループまたは個人で教科書の各章を分担して輪読する予定で、授業内でコメントを通じてフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、金融機関のシンクタンクや徳島県庁で、長年にわたり統計データ分析や政策分析の業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	①『政策リサーチ入門 増補版』, 伊藤修一郎著, 東京大学出版会, 2022 年	ISBN	①9784130322324
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	教科書の輪読をしますので、必ず教科書を予習してください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス（教員および学生の自己紹介、授業の進め方の説明、輪読の順番決め、教員による「序章」の説明）	【予習】事前に教科書を読み、疑問に思ったこと、読んでわからなかったことを明確にしておいてください。 【復習】教科書の序章を読み直し、知識の定着を図ってください。	4 時間
第2回	対面	リサーチ・クエスチョンを立てる（教科書第1章）	【予習】事前に教科書を読み、疑問に思ったこと、読んでわからなかったことを明確にしておいてくださ	4 時間

			い。担当者は事前に発表資料を作成してください。 【復習】教科書を読み直し、知識の定着を図ってください。	
第3回	対面	仮説をたてる（教科書第2章）①	【予習】事前に教科書を読み、疑問に思ったこと、読んでわからなかったことを明確にしておいてください。担当者は事前に発表資料を作成してください。 【復習】教科書を読み直し、知識の定着を図ってください。	4 時間
第4回	対面	仮説をたてる（教科書第2章）② 相関関係と因果関係について教員が説明します。	【予習】事前に教科書を読み、疑問に思ったこと、読んでわからなかったことを明確にしておいてください。 【復習】資料や授業中のメモを読み直し、知識の定着を図ってください。	4 時間
第5回	対面	資料・データを収集する（教科書第3章）①	【予習】事前に教科書を読み、疑問に思ったこと、読んでわからなかったことを明確にしておいてください。担当者は事前に発表資料を作成してください。 【復習】教科書を読み直し、知識の定着を図ってください。	4 時間
第6回	対面	資料・データを収集する（教科書第3章）② 地域間人口移動、結婚、出産に関する先行研究を紹介します。	【予習】事前に教科書を読み、疑問に思ったこと、読んでわからなかったことを明確にしておいてください。 【復習】資料や授業中のメモを読み直し、知識の定着を図ってください。	4 時間
第7回	対面	仮説を検証する（教科書第4章）①	【予習】事前に教科書を読み、疑問に思ったこと、読んでわからなかったことを明確にしておいてください。担当者は事前に発表資料を作成してください。 【復習】教科書を読み直し、知識の定着を図ってください。	4 時間
第8回	対面	仮説を検証する（教科書第4章）② 教科書で紹介されている分析手法について教員が説明します。	【予習】事前に配布する資料を読み、疑問点を明確にしておいてください。 【復習】資料を読み直し、知識の定着を図ってください。	4 時間
第9回	対面	リサーチの結果をまとめ、伝える（教科書第5章）	【予習】教科書の該当箇所をよく読んでおいてください。担当者は事前に発表資料を作成してください。 【復習】教科書を読み直し、知識の定着を図ってください。	4 時間
第10回	対面	リサーチ結果を政策化する（教科書第6章）	【予習】教科書の該当箇所をよく読んでおいてください。担当者は事前に発表資料を作成してください。 【復習】教科書を読み直し、知識の定着を図ってください。	4 時間
第11回	対面	演習例1 自転車事故の原因探求	【予習】教科書の該当箇所をよく読んでおいてください。担当者は事前に発表資料を作成してください。 【復習】教科書を読み直し、知識の定着を図ってください。	4 時間
第12回	対面	演習例2 景観保存の成功条件抽出	【予習】教科書の該当箇所をよく読んでおいてください。担当者は事前に発表資料を作成してください。 【復習】教科書を読み直し、知識の定着を図ってください。	4 時間
第13回	対面	演習例3 治安悪化の要因分析	【予習】教科書の該当箇所をよく読んでおいてください。担当者は事前に発表資料を作成してください。 【復習】教科書を読み直し、知識の定着を図ってください。	4 時間
第14回	対面	演習例4 広告景観規制の実施分析	【予習】教科書の該当箇所をよく読んでおいてください。担当者は事前に発表資料を作成してください。 【復習】教科書を読み直し、知識の定着を図ってください。	4 時間
第15回	オンデ	まとめ	【予習】これまでの勉強したことを振り返り、疑問点	4 時間

2026/05/01

	マンド		等がないか確認してください。 【復習】教科書を読み直し知識の定着を図ってください。	

科目名	演習 I B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	藤田 峻	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	ゲーム理論と行動経済学（基礎） －経済理論と戦略的思考で社会を考える－		
授業の目的及び概要	本科目ではゲーム理論や行動経済学の考え方に基づいて、身近な現象から大規模な社会問題まで、様々な社会現象・社会問題を考えます。 日常には様々な疑問が満ちています。たとえば、通販会社が「不満なら全額返金」を保証するのはなぜでしょうか。多くの学校で制服の着用が義務付けられているのはなぜでしょうか。航空券は直前に買うほど高くなるのに、東京スカイツリーの展望台入場券は当日券の方が安いのはなぜでしょうか。教育において「我慢強さ」が評価される理由を理論的に説明できるでしょうか。 社会にも様々な疑問を見出すことができます。地球温暖化問題が一向に解決しないのは、なぜでしょうか。政府が企業の競争を促進したり規制したりするのは、どのような判断基準に基づいているのでしょうか。 ゲーム理論や行動経済学といった経済理論を学修して戦略的思考力を身につけると、このような疑問に対して確固たる自分の考えを持つことができるようになります。そこで本科目では、受講生の関心に応じて、「企業の戦略的行動」、「環境問題」、「公共政策」といった経済学で頻繁に扱われるテーマを中心に、日常生活における人間の行動等も盛り込んで、学生研究発表大会への参加等を通じて、経済学的・戦略的思考能力の修得を目指します。 本科目の学修を通じて、以下の「学修の到達目標」に記載された能力を養うことは、今後の大学での学修に限らず、就業力を高めることにもつながります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 経済理論に基づいて問題の所在を正しく認識し、適切な調査・分析を行った結果をまとめることができる 2. 考察を他人にも伝わるように発表・プレゼンテーションを行うことができる 3. ゲーム理論や行動経済学の基礎的理解に基づき、現実経済・社会への適用を考えることができる 4. 他者と協力して研究等を行うことができる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	グループまたは個人による研究報告に対するコメントを通じてフィードバックを行います。また、グループワークの作業を授業中に進める場合には、適宜進捗を確認しながらフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。 必要な資料等は授業中に配付・紹介します。	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	演習科目は受講者の主体的な取り組みを前提として授業が運営されます。ゼミにおける研究活動は授業時間中だけで完結するものではなく、授業時間外での調査・分析も不可欠です。それだけ時間をかける必要がある科目ですが、費やした時間は自身の成長として返ってくるので、努力する価値は充分にあります。受講者の皆様には積極的な授業参加を強く期待します。 なお、本科目の履修にあたってミクロ経済学・ゲーム理論・統計学といった経済学の分析手法を知っていると便利ですが、必須ではありません。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	・シラバスの確認（30分程度） ・今学期の目標設定（90分程度） ・グループワークの計画検討（2時間程度）	4時間
第2回	対面	グループワーク（調査）	・テキスト・参考書等を用いたゲーム理論・行動経済学に関する学修（2時間程度） ・グループワークの作業（2時間程度） 各自で必要と思われる情報を調査してください。 集めた情報はグループ内で共有してください。	4時間
第3回	対面	グループワーク（調査）	・テキスト・参考書等を用いたゲーム理論・行動経済学に関する学修（2時間程度） ・グループワークの作業（2時間程度） 各自で必要と思われる情報を調査してください。 集めた情報はグループ内で共有してください。 集めた情報を基に、発表内容を準備してください。	4時間
第4回	対面	グループワーク（調査、分析）	・テキスト・参考書等を用いたゲーム理論・行動経済学に関する学修（2時間程度） ・グループワークの作業（2時間程度） 各自で必要と思われる情報を調査してください。 集めた情報はグループ内で共有してください。 集めた情報を基に、発表内容を準備してください。	4時間
第5回	対面	グループワーク（分析、中間報告準備）	・グループワークの作業 各自で必要と思われる情報を調査してください。 中間報告に備えて発表資料を作成してください。 集めた情報はグループ内で共有してください。	4時間
第6回	対面	中間報告会1	・グループワークの作業（2時間程度） 中間報告の準備を行ってください。 ・中間報告会の振り返り（2時間程度） 報告後は、コメント等を資料に反映させてください。	4時間
第7回	対面	中間報告会2	・グループワークの作業（2時間程度） 中間報告の準備を行ってください。 ・中間報告会の振り返り（2時間程度） 報告後は、コメント等を資料に反映させてください。	4時間
第8回	対面	最終報告に向けた準備1	・グループワークの作業 報告内容やスライド等の改善を行ってください。	4時間
第9回	対面	最終報告に向けた準備2	・グループワークの作業 報告内容やスライド等の改善を行ってください。	4時間
第10回	対面	最終報告・最終報告の振り返り	・最終報告に向けた準備（2時間程度） ・最終報告の振り返り（2時間程度）	4時間
第11回	対面	グループワーク	・テーマの検討（2時間程度） ・グループワークの作業（2時間程度）	4時間
第12回	対面	グループワーク	・グループワークの作業（2時間程度） ・期末レポートの執筆（2時間程度）	4時間
第13回	対面	グループワーク	・グループワークの作業（2時間程度）	4時間

2026/05/01

			・ 期末レポートの執筆（2 時間程度）	
第 1 4 回	対面	振り返り	・ 今学期の振り返り（2 時間程度） ・ 長期休み中の計画立案（2 時間程度）	4 時間
第 1 5 回	オンデマンド	学生研究発表大会への参加・振り返り	学生研究発表大会参加後に振り返りを行ってください。	4 時間

科目名	演習ⅠB	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	楊 倩倩	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	労働と地域の経済を考える（基礎）		
授業の目的及び概要	演習Ⅰでは、労働や地域経済に関する身近なテーマを題材に、経済学の基礎的な理論や考え方を学びます。 文献の輪読を通じて専門的な文章の読み方に慣れるとともに、地域経済や労働に関する統計データの基本的な見方・扱い方を身につけます。 ゼミでの発表や議論を重ねながら、現実の経済問題を経済学的に整理し、自分の考えを論理的に説明する力を養うことを目的とします。あわせて、今後の演習や卒業研究につながる問題意識を形成します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	(1) 地域経済および労働経済に関する基礎的な理論や概念を理解し、自分の言葉で説明できる。 (2) 地域経済および労働経済に関する資料の取得方法や、基礎的なデータの見方を理解し、適切に扱うことができる。 (3) 文献輪読やディスカッションを通じて、課題を発見し、論理的に思考し、適切に表現できる。 (4) 自分の興味・関心に基づいて、今後研究したいテーマ（問題意識）を設定できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	グループまたは個人による研究報告に対するコメントを通じてフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。必要な資料等は授業中に配布・紹介します。	ISBN	なし
参考書	参考書は授業・研究の状況に応じて適宜紹介します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	40	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	演習Ⅰでは、基礎から丁寧に学びながら、自分なりに考え、お互いに議論することを重視します。積極的に発言するとともに、他者の意見に耳を傾ける姿勢を大切にしてください。 専門的な知識や分析手法については、ゼミを通じて段階的に身につけていきます。経済学を用いて現実の経済や社会の問題を考えることの面白さを、ゼミの活動を通じて実感してもらえばと考えています。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	ガイダンス（春学期演習の振り返り、演習の内容・進め方）	【予習】春学期の演習を振り返り、興味や関心のある分野について考えておいてください。輪読するテキストや資料は授業中に配布・紹介します。 【復習】自身が報告するテキスト・資料の対応箇所を把握し、どのような報告を行いたいのか検討してください。	4 時間
第2回	対面	テキスト・資料の輪読	【予習】テキスト・資料の該当箇所を事前に精読し、疑問点をまとめておいてください。報告担当者はスライドを準備してください。 【復習】輪読したテキスト・資料の内容をまとめておいてください。	4 時間
第3回	対面	テキスト・資料の輪読	【予習】テキスト・資料の該当箇所を事前に精読し、疑問点をまとめておいてください。報告担当者はスライドを準備してください。 【復習】輪読したテキスト・資料の内容をまとめておいてください。	4 時間
第4回	対面	テキスト・資料の輪読	【予習】テキスト・資料の該当箇所を事前に精読し、疑問点をまとめておいてください。報告担当者はスライドを準備してください。 【復習】輪読したテキスト・資料の内容をまとめておいてください。	4 時間
第5回	対面	テキスト・資料の輪読	【予習】テキスト・資料の該当箇所を事前に精読し、疑問点をまとめておいてください。報告担当者はスライドを準備してください。 【復習】輪読したテキスト・資料の内容をまとめておいてください。	4 時間
第6回	対面	テキスト・資料の輪読	【予習】テキスト・資料の該当箇所を事前に精読し、疑問点をまとめておいてください。報告担当者はスライドを準備してください。 【復習】輪読したテキスト・資料の内容をまとめておいてください。	4 時間
第7回	対面	テキスト・資料の輪読	【予習】テキスト・資料の該当箇所を事前に精読し、疑問点をまとめておいてください。報告担当者はスライドを準備してください。 【復習】輪読したテキスト・資料の内容をまとめておいてください。	4 時間
第8回	対面	テキスト・資料の輪読	【予習】テキスト・資料の該当箇所を事前に精読し、疑問点をまとめておいてください。報告担当者はスライドを準備してください。 【復習】輪読したテキスト・資料の内容をまとめておいてください。	4 時間
第9回	対面	テキスト・資料の輪読	【予習】テキスト・資料の該当箇所を事前に精読し、疑問点をまとめておいてください。報告担当者はスライドを準備してください。 【復習】輪読したテキスト・資料の内容をまとめておいてください。	4 時間
第10回	対面	テキスト・資料の輪読	【予習】テキスト・資料の該当箇所を事前に精読し、疑問点をまとめておいてください。報告担当者はスライドを準備してください。 【復習】輪読したテキスト・資料の内容をまとめておいてください。	4 時間
第11回	対面	テキスト・資料の輪読	【予習】テキスト・資料の該当箇所を事前に精読し、疑問点をまとめておいてください。報告担当者はスライドを準備してください。 【復習】輪読したテキスト・資料の内容をまとめておいてください。	4 時間
第12回	対面	テキスト・資料の輪読	【予習】テキスト・資料の該当箇所を事前に精読し、	4 時間

			疑問点をまとめておいてください。報告担当者はスライドを準備してください。 【復習】輪読したテキスト・資料の内容をまとめておいてください。	
第13回	対面	テキスト・資料の輪読	【予習】テキスト・資料の該当箇所を事前に精読し、疑問点をまとめておいてください。報告担当者はスライドを準備してください。 【復習】輪読したテキスト・資料の内容をまとめておいてください。	4 時間
第14回	対面	テキスト・資料の輪読	【予習】テキスト・資料の該当箇所を事前に精読し、疑問点をまとめておいてください。報告担当者はスライドを準備してください。 【復習】輪読したテキスト・資料の内容をまとめておいてください。	4 時間
第15回	オンデマンド	振り返り	オンデマンド動画を視聴し、今学期の振り返りを行なってください。	4 時間

科目名	演習 I B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	伊勢 公人	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	エネルギー・環境問題を経済学の視点から考える（基礎）		
授業の目的及び概要	エネルギー・環境問題への対策を考えるとときにはその原因者や被害者が空間的・時間的にどのように広がっているのかを考慮する必要があります。 本演習では、各地域、国が抱える問題にとどまらず国際的なエネルギー・環境問題も取り上げます。また、現代世代にとどまらず、将来世代のことも考えて問題解決の方策を探っていきます。 本演習では、エネルギー・環境問題に関する課題、問題解決の方策についての知見を高め、各問題を経済学的に解釈し表現できる能力の向上を目指します。 「実学としての経済学」との関係 この演習を履修することにより、経済指標にも影響を与えるエネルギー・環境問題、エネルギー・環境政策を分析できる力を身につけることを目的としています。		
履修条件・留意点	エネルギー・環境問題は、各地域・国の問題であるとともに国際問題でもあるので、いずれのコース所属でも履修可能です。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①エネルギー・環境問題に関する基礎的な分析手法を学びます。 ②エネルギー・環境問題の様々なトピックスを学びます。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	グループまたは個人による調査・研究報告に対するコメントを通じてフィードバックする。また、グループワークの作業を授業中に進める場合には、適宜、進捗を確認しながらフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1987 年から民間企業に 34 年間勤務しており、欧州事務所の副所長を務めた経験を有している。また、経済産業省の受託研究のプロジェクトリーダーを始め、多くの調査プロジェクトを担ってきた。本科目では、これらの経験を生かした授業を行う。		
テキスト	特定のテキストは利用しない。	ISBN	なし
参考書	①新・環境経済学入門講義，浜本光紹，創成社，2024 年 ②入門 環境経済学 新版，有村俊秀・日引聡，中公新書，2023 年	ISBN	①9784794432490 ②9784121027511
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	演習 I A で学んだ様々なテーマを更に掘り下げ、研究を進めます。研究成果は学生研究発表大会（グループ）および学期末レポート（個人）で発表します。 受講生自らが積極的に関与することを期待します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス（本演習の進め方）	・学生研究発表大会のテーマを各自で考えておいてください。	4時間
第2回	対面	学生研究発表大会のためのテーマ選定	・学生研究発表大会のテーマを各自で考えておいてください。 ・グループのメンバーの調査分担を決め、次回までに各自で調査した内容をまとめておくようにしてください。	4時間
第3回	対面	学生研究発表大会のための調査（1）	・グループのメンバーの調査分担を決め、次回までに各自で調査した内容をまとめておくようにしてください。	4時間
第4回	対面	学生研究発表大会のための調査（2）	・グループのメンバーの調査分担を決め、次回までに各自で調査した内容をまとめておくようにしてください。	4時間
第5回	対面	学生研究発表大会のための調査（3）	・グループのメンバーの調査分担を決め、次回までに各自で調査した内容をまとめておくようにしてください。	4時間
第6回	対面	学生研究発表大会のためのパワーポイント作成（1）	・グループのメンバーの作成分担を決め、次回までに各自で分担した個所のパワーポイント資料をまとめておくようにしてください。	4時間
第7回	対面	学生研究発表大会のためのパワーポイント作成（2）	・グループのメンバーの作成分担を決め、次回までに各自で分担した個所のパワーポイント資料をまとめておくようにしてください。	4時間
第8回	対面	学生研究発表大会のための発表練習	・授業中のコメントを踏まえて各自発表の練習をしてください。	4時間
第9回	オンデマンド	学生研究発表大会への参加	・パワーポイント資料を最終確認し、発表をしてください。	4時間
第10回	対面	学生研究発表大会の振り返り	・学生研究発表大会における教員コメントとグループの回答をまとめてください。 ・学生研究発表大会の振り返りシートを完成させてください。	4時間
第11回	対面	期末レポートにおけるテーマ選定と解説（1）	・興味や関心のあるエネルギー・環境問題について、書籍、雑誌、新聞、ネットなどにアクセスして、理解を深めておいてください。 ・授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4時間
第12回	対面	期末レポートにおけるテーマ選定と解説（2）	・興味や関心のあるエネルギー・環境問題について、書籍、雑誌、新聞、ネットなどにアクセスして、理解を深めておいてください。 ・授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4時間
第13回	対面	期末レポートの要旨の発表並びに討論（1）	・報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。 ・その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連する書物や記事、情報等に触れて、理解を深めておいてください。 ・授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4時間
第14回	対面	期末レポートの要旨の発表並びに討論（2）	・報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。 ・その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連する書物や記事、情報等に触れて、理解	4時間

2026/05/01

			を深めておいてください。 ・授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	
第15回	対面	まとめ	・今学期の振り返りを各自まとめて提出してください。	4時間

科目名	演習 I B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	朱 東平	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	ゲーム理論を実戦に生かそう（2）		
授業の目的及び概要	この演習では、ゲーム理論の基本的な考え方を理解するとともに、そのビジネス活動での応用、そしてゲーム理論を生かした意思決定プロセスについて勉強していきたいと思います。その主な内容は以下の通りです。 1. ナッシュ均衡 2. 様々な同時手番ゲーム この演習は皆さんが社会人として持つべき専門知識・能力の高度化を図る科目です。この授業を受講することにより、ゲーム理論の視点から、現実の経済現象を理解できる力を身につけることを目的とします。 また、この演習は、ゲーム理論のもっとも基本的な解き方を学修することに重点を置きますので、ゲーム理論の入門レベルにあたります。		
履修条件・留意点	この授業科目は、履修条件を設けておりませんが、授業への出席に留意してください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この演習は、以下のことを目標とします。 1. 授業で勉強した主なゲームの説明ができる。 2. ゲーム理論の基本的な考え方を理解することができる。 3. その考え方をを用いて、日常生活のさまざまな場面や卒業後のビジネス活動を理解することができる。 4. 就職活動に必要なプレゼン能力をもつことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	優秀なレポートは、授業中に紹介します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	活かすゲーム理論，浅古泰史・圖斎大・森谷文利，有斐閣，2023 年	ISBN	9784641200050
参考書	①図解で学ぶゲーム理論入門，天谷研一，日本能率協会マネジメントセンター，2011 年 ②ビジュアル ゲーム理論，渡辺隆裕，日本経済新聞，2019 年	ISBN	①9784820747185 ②9784532119393
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	ゲーム理論は、ミクロ経済学、マクロ経済学を問わず、経済学のほとんどの分野に応用され、経済分析のための基本道具の一つとなっています。さらに、経済学の分野を超えて政治学など他の社会科学の分野にも広く応用されています。少し難しい学問ですが、力を合わせて頑張り		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	秋学期の目標を設定しましょう ・春学期の成長した点、秋学期の目標について話し合います。 (受講者数および受講者の希望に応じて、以下の内容を変更することもありうる。)	次回の授業までに、経済学部学生研究発表大会の発表内容について確認し修正してください。	4時間
第2回	対面	グループ学習の改善 ・秋学期のグループ運営の改善方法について話し合います。	次回の授業までに、経済学部学生研究発表大会の発表内容について確認し修正してください。	4時間
第3回	対面	学生研究発表大会出場チームの選出	次回の授業までに、経済学部学生研究発表大会報告用レジメを完成してください。	4時間
第4回	対面	出場チームの指導（1） ・経済学部学生研究発表大会出場チームに対して指導を行います。	次回の授業までに、研究発表大会報告用レジメを修正してください。	4時間
第5回	対面	出場チームの指導（2） ・経済学部学生研究発表大会出場チームに対して指導を行います。	次回の授業までに、研究発表大会報告用レジメを修正してください。	4時間
第6回	対面	出場チームの指導（3） ・経済学部学生研究発表大会出場チームに対して指導を行います。	次回の授業までに、研究発表大会報告用レジメを修正してください。	4時間
第7回	対面	最適反応とナッシュ均衡（1） ・ナッシュ均衡について勉強します。	次回の授業までに、教材を読み込んだうえで、レジメを作成してください。	4時間
第8回	対面	最適反応とナッシュ均衡（2） ・引き続きナッシュ均衡について勉強します。	経済学部学生研究発表大会の参加に向け、発表資料を修正し、レジメを読み上げるだけの発表にならないよう準備を行ってください。	4時間
第9回	オンデマンド	経済学部学生研究発表大会参加	次回の授業までに、教材を読み込んだうえで、レジメを作成してください。	4時間
第10回	対面	さまざまな同時手番ゲーム（1） ・コンソール・ウォーズ：鹿狩りゲーム	次回の授業までに、教材を読み込んだうえで、レジメを作成してください。	4時間
第11回	対面	さまざまな同時手番ゲーム（2） ・ATMの共同運用：逢引きゲーム	次回の授業までに、教材を読み込んだうえで、レジメを作成してください。	4時間
第12回	対面	さまざまな同時手番ゲーム（3） ・消耗戦：チキンゲーム	次回の授業までに、教材を読み込んだうえで、レジメを作成してください。	4時間
第13回	対面	さまざまな同時手番ゲーム（4） ・コイン合わせゲーム	次回の授業までに、秋学期のレポートを作成してください。	4時間
第14回	対面	秋学期のまとめ（1） ・秋学期初めに作成した各自の「秋学期の目標」の達成度と反省点について報告し、話し合います。	次回の授業までに、秋学期のレポートを完成してください。	4時間
第15回	対面	秋学期のまとめ（2） ・期末レポートの提出 ・春休み中と次年度春学期の学修内容について話し合います。	今年度の学修成果を踏まえ、次年度の目標について考えてください。	4時間

科目名	演習 I B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	畑佐 伸英	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	アジア各国の情勢と国際経済の要点を学ぶ（2）		
授業の目的及び概要	本演習では、世界経済に関連する様々なテーマを幅広く扱い、平易に分かりやすく学んでいくことで、国際的にはどのような経済問題が潜んでいるのか、世界の国々はどのような経済状況にあるかなどについて、理解を深めていくことにする。 特に、アジア各国の経済社会問題や現実に行き起きている世界経済の諸課題に焦点を当て、その背景や本質を考察していく中で、実際に起きている経済現象への認識を深め、現実的な政策対応を検討していく。 国際経済コースを選択した学生にとっては、本演習での学びを基礎として、国際経済への興味や関心を高めていき、次年時以降の学習や研究課題の探究につなげていくうえで有益となろう。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	国際社会やアジアの国々が直面している、経済に関する諸問題を知ること、アジア経済やグローバル経済の現状や状況について精通していくと共に、国際経済学の領域において、幅広い理解と基礎的な素養を身に付けていく。また、各自でレジュメや資料を準備して発表してもらい、それらをもとに皆で議論していくことで、プレゼン力やコミュニケーション能力も獲得していく。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表内容については、授業の中で解説及び講評します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは利用しない。	ISBN	なし
参考書	①アジア動向年 2025, アジア経済研究所, 日本貿易振興機構アジア経済研究所, 2025 年 ②世界経済入門（講談社現代新書）, 野口悠紀雄, 講談社, 2018 年	ISBN	①9784258010257 ②9784062884730
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	ガイダンス	興味や関心のある国際経済分野のテーマについて、	4 時間

		演習の進め方、報告担当箇所の割り振り。	考えておいてください。 授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	
第2回	対面	国際経済を学ぶ テーマの選定と解説(1)	興味や関心のある国際経済分野のテーマについて、書籍、雑誌、新聞、ネットなどにアクセスして、理解を深めておいてください。 授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4 時間
第3回	対面	国際経済を学ぶ テーマの選定と解説(2)	興味や関心のある国際経済分野のテーマについて、書籍、雑誌、新聞、ネットなどにアクセスして、理解を深めておいてください。 授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4 時間
第4回	対面	国際経済を学ぶ テーマの選定と解説(3)	興味や関心のある国際経済分野のテーマについて、書籍、雑誌、新聞、ネットなどにアクセスして、理解を深めておいてください。 授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4 時間
第5回	オンデマンド	国際経済を学ぶ プレゼン資料の作成	報告するテーマについて、関連する書籍や資料などを収集し、プレゼンの資料を作成してください。 授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4 時間
第6回	対面	国際経済を学ぶ 発表並びに討論(1)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連する書物や記事、情報等に触れて、理解を深めておいてください。 授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4 時間
第7回	対面	国際経済を学ぶ 発表並びに討論(2)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連する書物や記事、情報等に触れて、理解を深めておいてください。 授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4 時間
第8回	対面	国際経済を学ぶ 発表並びに討論(3)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連する書物や記事、情報等に触れて、理解を深めておいてください。 授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4 時間
第9回	対面	国際経済を学ぶ 発表並びに討論(4)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連する書物や記事、情報等に触れて、理解を深めておいてください。 授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4 時間
第10回	対面	国際経済を学ぶ 発表並びに討論(5)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連する書物や記事、情報等に触れて、理解を深めておいてください。 授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4 時間

			マについて、あらかじめ関連する書物や記事、情報等に触れて、理解を深めておいてください。 授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	
第11回	対面	国際経済を学ぶ 発表並びに討論(6)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連する書物や記事、情報等に触れて、理解を深めておいてください。 授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4 時間
第12回	対面	国際経済を学ぶ 発表並びに討論(7)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連する書物や記事、情報等に触れて、理解を深めておいてください。 授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4 時間
第13回	対面	国際経済を学ぶ 発表並びに討論(8)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連する書物や記事、情報等に触れて、理解を深めておいてください。 授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4 時間
第14回	対面	国際経済を学ぶ 発表並びに討論(9)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連する書物や記事、情報等に触れて、理解を深めておいてください。 授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4 時間
第15回	対面	まとめ並びに総括	これまでの学習を振り返って、学んだこと、分かったこと、発見したこと、難しかったこと、興味や関心を抱いたこと、などについて考えておいてください。 授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4 時間

科目名	演習 I B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	前田 一樹	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	労働市場や雇用政策を経済学的な視点から学ぶ		
授業の目的及び概要	本科目では、労働経済学の視点に基づいて、身近な問題から賃金や雇用格差という社会的な問題まで、さまざまな社会問題について考えます。働くことは生活の基礎です。では、なぜ裕福な人とそうでない人がいるのか、仕事を失うとどうなるか、働く意味や働きがいとは何であるか、などの普段の生活で思い浮かぶ疑問について経済理論に基づいて理解できることを目指します。 また、政府が実施する雇用政策によって人々がどのように影響を受けるかというメカニズムについても理解し自分なりに読み解くことができるようになる。実際にデータなどを用いて現実の労働市場での事象が理論通りに起きているのかを確認したうえで、なぜそうなるのかという理由を探究していくことを行います。これらを通じて鍛えられる経済学的な論理的思考力、分析力、そして、データの読み取る能力は、大学における学修・研究だけでなく、就職活動にも役立ちます。 さらに、本科目で学修した知識を活用することで、経済学部における学びを通じて修得することを目指す「実学としての経済学」を、より円滑に学ぶことができるようになります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	日本の労働市場が直面している諸問題を知ること、日本経済の現状や仕組みについて精通していくとともに、労働経済学の分野での幅広い知識と素養を習得する。 また、報告にあたっての資料の作成や発表を通じてプレゼンテーション・コミュニケーション能力を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	グループまたは個人による研究報告に対するコメントを通じてフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①「働くこと」を思考する、久米功一、中央経済社、2020 年 毎回の講義はテキストに基づいて輪読・討論を行います。 （教科書は図書館の電子ブックでも閲覧することができます。）	ISBN	①9784502366413
参考書	①労働経済学―理論と実証をつなぐ、川口大司、有斐閣、2017 年 ②職業の経済学、阿部正浩・菅万理・勇上和史編著：中央経済社、2017 年	ISBN	①9784641165076 ②9784502238215
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		

	その他の内容	
この科目の受講にあたって	演習科目は、受講者の主体的な取り組みを前提として授業が運営されます。ゼミにおける報告資料の準備はもちろん、議論をするために事前のテキストの確認など授業時間中だけでは完結しません。そのため、授業以外の時間でも準備が必要です。参加者のみなさんに積極的な授業参加を強く期待します。 履修にあたり、ミクロ経済学。マクロ経済学、労働経済学などの分析手法について知識があることが望ましいですが、必須ではありません。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	・事前にテキストに目を通し、興味や関心のあるテーマについて考えてください（2時間程度）。 ・自身が報告するテキストの対応箇所を把握し、どのように報告を行うか、どのような先行研究があるかを調べてください（2時間程度）。	4時間
第2回	対面	日本の労働市場を学ぶ：就業状態（1）	・授業で扱うテーマに対応したテキストの箇所を事前に読んでおいてください。報告担当者は、報告資料の準備を行ってください（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください（2時間程度）。	4時間
第3回	対面	日本の労働市場を学ぶ：就業状態（2）	・授業で扱うテーマに対応したテキストの箇所を事前に読んでおいてください。報告担当者は、報告資料の準備を行ってください（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください（2時間程度）。	4時間
第4回	対面	日本の労働市場を学ぶ：就業状態（3）	・授業で扱うテーマに対応したテキストの箇所を事前に読んでおいてください。報告担当者は、報告資料の準備を行ってください（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください（2時間程度）。	4時間
第5回	対面	日本の労働市場を学ぶ：各自の興味・関心のある内容についての報告（1）	・報告担当者は、各自が興味・関心がある研究内容についての報告資料の準備を行ってください（2時間程度）。 ・報告を行って受けたコメントをもとに報告資料の修正を行ってください。また、授業の中で得た情報や知識を確認してください（2時間程度）。	4時間
第6回	対面	日本の労働市場を学ぶ：各自の興味・関心のある内容についての報告（2）	・報告担当者は、各自が興味・関心がある研究内容についての報告資料の準備を行ってください（2時間程度）。 ・報告を行って受けたコメントをもとに報告資料の修正を行ってください。また、授業の中で得た情報や知識を確認してください（2時間程度）。	4時間
第7回	対面	日本の労働市場を学ぶ：各自の興味・関心のある内容についての報告（3）	・報告担当者は、各自が興味・関心がある研究内容についての報告資料の準備を行ってください（2時間程度）。 ・報告を行って受けたコメントをもとに報告資料の修正を行ってください。また、授業の中で得た情報や知識を確認してください（2時間程度）。	4時間
第8回	対面	日本の労働市場を学ぶ：各自の興味・関心のある内容についての報告（4）	・報告担当者は、各自が興味・関心がある研究内容についての報告資料の準備を行ってください（2時間程度）。 ・報告を行って受けたコメントをもとに報告資料の修正を行ってください。また、授業の中で得た情報や知識を確認してください（2時間程度）。	4時間
第9回	対面	日本の労働市場を学ぶ：発表・討論（1）	・報告担当者は、各自が興味・関心がある研究内容についての報告資料の準備を行ってください（2時間程度）。	4時間

			程度)。 ・報告を行って受けたコメントをもとに報告資料の修正を行ってください。また、授業の中で得た情報や知識を確認してください(2時間程度)。	
第10回	対面	日本の労働市場を学ぶ：発表・討論(2)	・報告担当者は、各自が興味・関心がある研究内容についての報告資料の準備を行ってください(2時間程度)。 ・報告を行って受けたコメントをもとに報告資料の修正を行ってください。また、授業の中で得た情報や知識を確認してください(2時間程度)。	4時間
第11回	対面	日本の労働市場を学ぶ：発表・討論(3)	・報告担当者は、各自が興味・関心がある研究内容についての報告資料の準備を行ってください(2時間程度)。 ・報告を行って受けたコメントをもとに報告資料の修正を行ってください。また、授業の中で得た情報や知識を確認してください(2時間程度)。	4時間
第12回	対面	日本の労働市場を学ぶ：発表・討論(4)	・報告担当者は、各自が興味・関心がある研究内容についての報告資料の準備を行ってください(2時間程度)。 ・報告を行って受けたコメントをもとに報告資料の修正を行ってください。また、授業の中で得た情報や知識を確認してください(2時間程度)。	4時間
第13回	対面	日本の労働市場を学ぶ：発表・討論(5)	・報告担当者は、各自が興味・関心がある研究内容についての報告資料の準備を行ってください(2時間程度)。 ・報告を行って受けたコメントをもとに報告資料の修正を行ってください。また、授業の中で得た情報や知識を確認してください(2時間程度)。	4時間
第14回	対面	日本の労働市場を学ぶ：発表・討論(6)	・報告担当者は、前回報告時のコメントを踏まえたくて報告資料の準備を行ってください(2時間程度)。 ・報告時にもらった指摘を反映させて、報告資料の改善を行ってください。学期末レポートの作成を行ってください(2時間程度)。	4時間
第15回	オンデマンド	振り返り	・オンデマンド動画を視聴し、今学期の振り返りを行ってください。 ・次年度の研究に向けてどのようなテーマに取り組みたいか検討するとともに、自身の卒業研究で使えるような先行研究等を探してください(4時間程度)。	4時間

科目名	演習 I B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	張 哲	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	国際経済について（入門）		
授業の目的及び概要	この演習では新聞紙等の資料を用い、経済学の視点から世の中の具体的な出来事を考えます。授業では資料の輪読を行うほか、研究報告も行います。研究報告のテーマを国際貿易関連と期待しますが、各自関心のあるテーマでも歓迎します。 授業中の討論や研究報告を通して、論理的思考力を鍛えると同時に、プレゼン能力を高めることも期待できます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	(1) 経済学の基礎知識を身に付けること。 (2) 資料を読み解ける能力を育成すること。 (3) 問題を発見し、解決に向けて自ら考えて、動けること。 (4) 自分の意見を文字化して、プレゼンテーションでできること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中にコメントを通じてフィードバックを行います。授業の最後に質疑応答の時間を設けます。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは使用しない。	ISBN	なし
参考書	授業中に随時紹介します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション、授業の進め方について	【予習】シラバスや資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第2回	対面	資料輪読①	【予習】輪読する資料を事前に精読しておきましょう。 【復習】輪読した資料の内容を整理し、理解を深めま	4 時間

			しょう。	
第3回	対面	資料輪読②	【予習】 輪読する資料を事前に精読しておきましょう。 【復習】 輪読した資料の内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第4回	対面	資料輪読③	【予習】 輪読する資料を事前に精読しておきましょう。 【復習】 輪読した資料の内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第5回	対面	資料輪読④	【予習】 輪読する資料を事前に精読しておきましょう。 【復習】 輪読した資料の内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第6回	対面	資料輪読⑤	【予習】 輪読する資料を事前に精読しておきましょう。 【復習】 輪読した資料の内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第7回	対面	資料輪読⑥	【予習】 輪読する資料を事前に精読しておきましょう。 【復習】 輪読した資料の内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第8回	対面	資料輪読⑦	【予習】 輪読する資料を事前に精読しておきましょう。 【復習】 輪読した資料の内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第9回	対面	資料輪読⑧	【予習】 輪読する資料を事前に精読しておきましょう。 【復習】 輪読した資料の内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第10回	対面	研究報告の準備	・各自関心の所在を確認し、テーマを練り、説明できるようにしておきましょう。 ・各自のテーマに関連する情報を確認してみましょう。	4 時間
第11回	オンデマンド	文献調査のガイダンス	・提示した方法を踏まえて、参考文献を入手してみてください。 ・重要な文献を精読して、まとめてみてください。 ・疑問点をまとめてください。	4 時間
第12回	対面	研究報告	・レジュメを完成させ、報告の練習をしてみてください。 ・討論やコメントに基づき、修正を行ってください。	4 時間
第13回	対面	研究報告	・レジュメを完成させ、報告の練習をしてみてください。 ・討論やコメントに基づき、修正を行ってください。	4 時間
第14回	対面	研究報告	・レジュメを完成させ、報告の練習をしてみてください。 ・討論やコメントに基づき、修正を行ってください。	4 時間
第15回	対面	振り返り	これまでの授業内容を復習して、興味の所在を見つけてみましょう。 修正したレジュメに基づき、レポートを作成してください。	4 時間

科目名	演習ⅠB	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	穴井 佑	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	近世・近代西洋社会経済史		
授業の目的及び概要	演習ⅠA の学修を踏まえたうえで、グループや個人ごとに研究テーマを設定し、個別研究を行います。また、演習ⅠA 同様に近世・近代西洋社会経済史に関する基礎的なテキストの輪読も行います。これらの学修を通して、社会経済史研究者が研究を進めるうで行うプロセスを追体験してもらいます。また、本演習では、GDP・為替レート・金利などの「経済諸指標とその連動についての理解」をサブテーマに設定しています。歴史事象を検討する中で、そうした経済諸指標とその連動の具体例を見出していきます。そうすることで、現代社会の経済の動きを歴史的な観点から考察する力の涵養を目指します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	第一に、社会経済史の手法を理解する。 第二に、一つのテキストをしっかりと「読む」力を養成する。 第三に、スライドやレジュメの作成、ディスカッション、プレゼンテーションなどを通して、テキスト講読から得た知見をまとめ、自身の見解として再構築していくスキルを身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の授業の中で、スライド、レジュメ、プレゼンテーション、ディスカッションに対してコメントをします。質疑応答の時間もその都度確保します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特にありません。授業で用いるテキストはその都度担当教員から配布します。	ISBN	なし
参考書	特にありません。研究を進めるうえで必要な参考書については適宜紹介します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	10	
	その他の内容	個別研究や輪読のスライドあるいはレジュメから判断します。	
この科目の受講にあたって	遅刻厳禁。履修者は自身がゼミの一員であることを自覚し、責任感をもって授業に参加すること。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	授業のイントロダクション（学術的な文章作成の作法、文献の収集、スライドやレジュメの作成、プレゼンテーションの方法など）	演習 I A で学修した、学術的な文章の作成の作法、文献収集の方法、スライドやレジュメの作成、プレゼンテーションの方法などを復習しておくこと。また、自	4 時間

		どについての説明をします)を行った後に、グループか個人ごとの研究テーマを設定してもらいます。	分が関心ある研究テーマに関連する文献の調査を行うこと。	
第2回	対面	グループか個人ごとに設定した研究テーマに関連する文献調査・収集を行います。十分な文献が収集でき次第、文献の精読を進めていきます。	【予習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献の調査を行うこと。 【復習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献を精読すること。	4 時間
第3回	対面	グループか個人ごとに設定した研究テーマに関連する文献調査・収集を行います。十分な文献が収集でき次第、文献の精読を進めていきます。	【予習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献の調査を行うこと。 【復習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献を精読すること。	4 時間
第4回	対面	研究に必要な文献を精読しつつ、グループあるいは個人で研究報告に向けた作業を進めます(研究テーマに関するディスカッションやスライドなどの作成)。	【予習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献を精読すること。 【復習】文献の精読をすすめてつ、そこから得られた知見を自身の研究に反映できるよう整理すること。	4 時間
第5回	対面	研究に必要な文献を精読しつつ、グループあるいは個人で研究報告に向けた作業を進めます(研究テーマに関するディスカッションやスライドなどの作成)。	【予習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献を精読すること。 【復習】文献の精読をすすめてつ、そこから得られた知見を自身の研究に反映できるよう整理すること。	4 時間
第6回	対面	研究に必要な文献を精読しつつ、グループあるいは個人で研究報告に向けた作業を進めます(研究テーマに関するディスカッションやスライドなどの作成)。	【予習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献を精読すること。 【復習】文献の精読をすすめてつ、そこから得られた知見を自身の研究に反映できるよう整理すること。	4 時間
第7回	対面	研究に必要な文献を精読しつつ、グループあるいは個人で研究報告に向けた作業を進めます(研究テーマに関するディスカッションやスライドなどの作成)。	【予習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献を精読すること。また、スライドなどの作成を進めること。 【復習】文献の精読をすすめてつ、そこから得られた知見を自身の研究に反映できるよう整理すること。また、スライドの作成を進めること。	4 時間
第8回	対面	研究に必要な文献を精読しつつ、グループあるいは個人で研究報告に向けたスライドを完成させます。	【予習】文献の精読をすすめてつ、そこから得られた知見を自身の研究に反映できるよう整理すること。また、スライドの作成を進めること。 【復習】スライドについてのディスカッションを続け、必要な修正を行うこと。	4 時間
第9回	対面	グループあるいは個人で研究報告に向けたスライドを完成させ、その修正や改善のためのディスカッションとプレゼンテーションの練習を行います。	【予習】スライドについてのディスカッションを続け、必要な修正を行うこと。 【復習】修正や改善のためのディスカッションを行いつつ、プレゼンテーションの練習をすること。	4 時間
第10回	対面	グループあるいは個人での研究報告を行います。また、それぞれの研究に対する質疑応答を行います。	【予習】スライドの修正や改善のためのディスカッションを行いつつ、プレゼンテーションの練習をすること。 【復習】研究報告に対して出された疑問や問題点の改善に努めること。	4 時間
第11回	対面	演習ⅠAで扱った問題の応用的なテキストの輪読を行います。担当者がレジメを作成して内容紹介をし、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。	【予習】輪読するテキストを事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	4 時間
第12回	対面	テキストの輪読。担当者がレジメを作成して内容紹介をし、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。	【予習】輪読するテキストを事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	4 時間
第13回	対面	テキストの輪読。担当者がレジメを作成して内容紹介をし、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。	【予習】輪読するテキストを事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	4 時間
第14回	対面	テキストの輪読。担当者がレジメを作成して内容紹介をし、それに対して履修者全	【予習】輪読するテキストを事前に精読しておくこと。	4 時間

2026/05/01

		員でディスカッションを行う。	【復習】輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	
第15回	オンデマンド	これまで輪読してきたテキストの内容についてのまとめをオンデマンドで配信する動画教材で行う。	動画教材を視聴した上で、ラーニングポータル上で配布する資料を中心に輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	4時間

科目名	演習 I B		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	小巻 善郎		配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	証券投資の理論と実践			
授業の目的及び概要	この演習 I B は、証券投資の理論を学修し、金融経済教育推進機構の株式学習ゲームを利用した株式投資を実践することによって、社会に出てから必要となる金融指標や証券投資の知識を身につけることを目的としています。 人生 100 年時代を迎えようとしている中で、豊かな人生をおくるためにも個々人の資産形成はたいへん重要な課題になっています。そして、資産形成を行うためには、金融の知識は欠かせないものです。とくに証券投資はリスクを伴うものだけに、より深い知識と実践が必要です。秋学期の演習 I B では、代表的な有価証券の一つである投資信託の学修を行います。 また、この演習 I B では、グループ討議、プレゼンテーション、ディスカッションなどを行います。社会に出てから必要となるレポート作成能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を身につけることを目的としています。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	この演習では、以下の 3 点を学修の到達目標とします。 ・投資信託のしくみが理解できるようになる。 ・論理展開が明快なプレゼン資料が作成できる。 ・説得力のあるプレゼンテーションができるようになる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	グループまたは個人の発表に対してコメント・解説をすることでフィードバックを行います。また、課題等の提出物は、コメントを付したうえで返却します。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当者は、都市銀行に 26 年間に在職し、その間、支店や本部、海外支店において内部事務、営業・渉外、調査といった様々な業務に携わってきた。本科目では、そうした長年にわたる実務経験を通じて得た専門知識や知見などを授業に反映し、理論だけでなく具体的な事例の紹介などを基とした実践的な教育を行う。			
テキスト	テキスト指定はありません。 適宜、資料を配布します。		ISBN	なし
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		0	
	成果発表（口頭・実技）		50	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	この演習 I B での学修の成果として、たとえば日本証券業協会が実施している二種外務員資格や、国家資格である F P 技能検定 2 級・3 級といった金融関連の資格取得を目指していただきたいと思います。 意志あるところに、必ず道は開けます。主体的・積極的に取り組んでください。十分なサポー			

トを行います。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション 演習ⅠBの進め方を説明します。また、秋学期の目標を作成します。	・配布資料を復習する。 ・調査研究テーマを検討する。	4時間
第2回	対面	グループワーク（研究テーマ検討、資料収集） 各グループで調査研究テーマの検討・設定を行います。	・調査研究テーマに関する検討と資料収集を行う。	4時間
第3回	対面	グループワーク（調査・分析） 各グループで調査研究テーマに関する資料収集や分析を行います。	・調査研究テーマに関する資料収集や分析を行う。	4時間
第4回	対面	グループワーク（調査・分析） 各グループで調査研究テーマに関する資料収集や分析を行います。	・調査研究テーマに関する資料収集や分析を行う。	4時間
第5回	対面	グループワーク（パワーポイント資料作成） 各グループで調査研究テーマに関する報告資料をパワーポイントで作成します。	・調査研究テーマに関する報告資料をパワーポイントで作成する。	4時間
第6回	対面	グループワーク（パワーポイント資料作成） 各グループで調査研究テーマに関する報告資料をパワーポイントで作成します。	・調査研究テーマに関する報告資料をパワーポイントで作成する。	4時間
第7回	対面	グループワーク（プレゼン） 各グループからパワーポイントの報告資料を用いてプレゼンを行います。	・作成したパワーポイントの報告資料を用いたプレゼンの準備を行う。	4時間
第8回	対面	グループワーク（プレゼン） 各グループからパワーポイントの報告資料を用いてプレゼンを行います。	・作成したパワーポイントの報告資料を用いたプレゼンの準備を行う。	4時間
第9回	対面	グループワーク（プレゼン） 各グループからパワーポイントの報告資料を用いてプレゼンを行います。	・作成したパワーポイントの報告資料を用いたプレゼンの最終調整を行う。	4時間
第10回	対面	グループワークのまとめ これまでグループで行った調査研究のまとめを行い、レポートを作成します。	・グループワークのまとめを行う。 ・次回授業の事前配布資料「投資信託の仕組み」を予習する。	4時間
第11回	対面	投資信託の仕組み 配布資料を用いて投資信託の仕組みを解説した後、グループワークを行い、最後に全体でディスカッションします。	・配布資料を復習する。 ・次回授業の事前配布資料「投資信託の分析」を予習する。	4時間
第12回	対面	投資信託の分析 配布資料を用いて投資信託の分析を解説した後、グループワークを行い、最後に全体でディスカッションします。	・配布資料を復習する。 ・次回授業の事前配布資料「投資信託の分析」を予習する。	4時間
第13回	対面	投資信託の分析 配布資料を用いて投資信託の分析を解説した後、グループワークを行い、最後に全体でディスカッションします。	・配布資料を復習する。 ・次回授業の事前配布資料「投資信託の分析」を予習する。	4時間
第14回	対面	投資信託の分析 配布資料を用いて投資信託の分析を解説した後、グループワークを行い、最後に全体でディスカッションします。	・配布資料を復習する。	4時間
第15回	オンデマンド	総括 秋学期のまとめを行います。	・配布資料を復習する。	4時間

科目名	演習 I B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	二替 大輔	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	産業組織論・企業経済学（基礎） ー産業組織論・企業経済学に基づいた企業行動の分析ー		
授業の目的及び概要	本演習では、ミクロ経済学の応用としての産業組織論・企業経済学に基づいた企業行動の分析の基礎を学んでいきます。産業組織論の基礎や企業のビジネスモデルを学修しながら、現実の企業活動を理論的に分析することを目的とします。具体的には、流通業（小売業・卸売業）、観光業（宿泊業、テーマパーク）、プラットフォーム企業などが考えられます。演習では、テキストを輪読することで、産業組織論における理論と具体例の考え方を習得した後、各グループで興味のある内容について調査し、発表してもらいます。それをもとにして、討論を行います。		
履修条件・留意点			
DP との関係	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この演習は、以下のことを目標とします。 1. 産業組織論に関する基本的知識を修得する。 2. 1 で修得した知識をもとにして、現実起こっている産業・企業に関する経済現象について分析し説明できる。 3. 分析結果の内容をまとめ、プレゼンテーションできる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題については、Learning Portal を用いて、添削・採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	産業組織論への招待、西村淳一・山内勇、新世社、2025 年	ISBN	9784883844036
参考書	①この一冊で全部わかるビジネスモデル基本・成功パターン・作り方が一気に学べる、根来龍之・富樫佳織・足代訓史、SB クリエイティブ、2020 年 ②経営の経済学、丸山雅祥、有斐閣、2017 年 ③ミクロ経済学（第 3 版）、伊藤元重、日本評論社、2018 年 ④1 からの流通論（第 2 版）、石原武政・竹村正明・細井謙一（編著）、中央経済社、2018 年 ⑤1 からのマーケティング（第 4 版）、石井淳蔵・廣田章光・清水信年（編著）、中央経済社、2019 年 ⑥経済論文の書き方、経済セミナー編集部（編）、日本評論社、2022 年 その他、参加者の興味に応じて適宜参考文献を紹介します。	ISBN	①9784797392777 ②9784641164956 ③9784535558441 ④9784502283611 ⑤9784502327711 ⑥9784535540422
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	その他 (%)	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	本演習は、ミクロ経済学の基本的な知識を必要とします。 企業の行動、ビジネスに関するニュースに常に注意を払ってください。 授業時間外に適宜、グループ内でグループ研究に関する議論を行ってください。 演習には積極的に参加して、報告資料、プレゼンテーションの見直しを継続的に行ってください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス・学生研究発表大会に向けての準備	【予習】シラバスを事前によく読んでおいてください。学生研究発表大会のテーマを考えてください。 【復習】ガイダンスの内容について復習してください。	2時間
第2回	対面	テーマに関する事例の紹介	【予習】学生研究発表大会のテーマに関する事例（新聞記事等）を探し、要約を準備してください。 【復習】チームでの議論をまとめてください。	4時間
第3回	対面	テーマに関する事例の分析	【予習】学生研究発表大会のテーマに関する事例について、産業組織論の理論を使ってどのように分析できるか考えてください。 【復習】チームでの議論をまとめてください。	4時間
第4回	対面	学生研究発表大会に関する調査と分析(1)	【予習】学生研究発表大会のテーマに関する調査と分析を行ってください。 【復習】チームでの議論をまとめてください。	4時間
第5回	対面	学生研究発表大会に関する調査と分析(2)	【予習】学生研究発表大会のテーマに関する調査と分析を行ってください。 【復習】チームでの議論をまとめてください。	4時間
第6回	対面	学生研究発表大会に関する調査と分析(3)	【予習】学生研究発表大会のテーマに関する調査と分析を行ってください。 【復習】チームでの議論をまとめてください。	4時間
第7回	対面	学生研究発表大会に関する調査と分析(4)	【予習】学生研究発表大会のテーマに関する調査と分析を行ってください。 【復習】チームでの議論をまとめてください。	4時間
第8回	オンデマンド	学生研究発表大会への参加	【予習】発表スライドの確認及びプレゼン練習をおこなってください。 【復習】発表での質疑応答の内容をまとめてください。	4時間
第9回	対面	学生研究発表大会の振り返り	【予習】報告スライドおよび質疑応答の内容をまとめた資料を準備してください。 【復習】チームでの議論をまとめてください。	4時間
第10回	対面	レポートの書き方とテーマの決定	【予習】事前に配布したレポートの書き方に関する資料を読んでください。レポートのテーマを考えてください。 【復習】理解できた内容および疑問が残った内容をまとめておいてください。	4時間
第11回	対面	文献の読み方と要約(1)	【予習】レポートのテーマに関する資料(書籍・論文・データ)を準備してください。テーマに関するテキストの該当箇所を調べてください。 【復習】資料の要約を作成してください。	4時間
第12回	対面	文献の読み方と要約(2)	【予習】レポートのテーマに関する資料(書籍・論文・データ)を準備してください。テーマに関するテキストの該当箇所を調べてください。 【復習】資料の要約を作成してください。	4時間
第13回	対面	文献の読み方と要約(3)	【予習】レポートのテーマに関する資料(書籍・論文・データ)を準備してください。テーマに関するテキストの該当箇所を調べてください。	4時間

			【復習】資料の要約を作成してください。	
第14回	対面	レポートの発表(1)	【予習】報告者はレポートの内容をまとめたスライドを作成してください。 【復習】発表に対するコメントを参考にして、レポートを改善してください。	4時間
第15回	対面	レポートの発表(2)	【予習】報告者はレポートの内容をまとめたスライドを作成してください。 【復習】発表に対するコメントを参考にして、レポートを改善してください。	6時間

科目名	演習 I B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	牧田 修治	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	都市と地方の人口変動を考える		
授業の目的及び概要	本授業では、人口変動の 3 要素と言われる「出生、死亡、転入・転出」のうち、出生と転入・転出に焦点をあてて、都市と地方の人口変動の現状を把握することを目的とします。まず、出生、転入・転出の現状把握のために必要な統計データについて学び、次いで、実際に政府統計の総合窓口（e-Stat）を使ってこれらの統計データを取得して、記述統計等によってデータを整理し、主に都道府県別の出生、転入・転出の現状を把握します。そしてこれらの学修の成果として、研究発表大会で発表します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	学修の到達目標は次の 3 つです。 1. 人口変動を考察するための統計データについて説明できる。 2. 政府統計の総合窓口（e-Stat）を使って分析目的に適した統計データを取得できる。 3. 学生研究発表大会で発表する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	グループまたは個人で報告や統計データ取得、エクセルによるグラフ作成などの実習を行います。参加者全員が実習内容をマスターできるようなフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、金融機関のシンクタンクや徳島県庁で、長年にわたり統計データ分析や政策分析の業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは使用しません。必要な資料等は授業前に配布します。	ISBN	ナシ
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	25	
	成果発表（口頭・実技）	25	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	ガイダンス（授業の進め方について説明）	【予習】演習 I A で使用した教科書や資料に目を通しておいください。 【復習】授業中に配布された資料を読み直しておいてください。	4 時間

第2回	対面	研究テーマの選定①	【予習】報告資料を作成してください。 【復習】授業中のコメントを受けてテーマの検討を続けてください。	4 時間
第3回	対面	テーマ選定②	【予習】報告資料を作成してください。 【復習】授業中のコメントを受けてテーマを検討してください。	4 時間
第4回	対面	テーマ選定③	【予習】報告資料を作成してください。 【復習】授業中のコメントを受けてテーマを検討してください。	4 時間
第5回	対面	中間報告①	【予習】報告資料を作成して下さい。 【復習】授業中のコメントを受けて報告内容の完成度を高めてください。	4 時間
第6回	対面	中間報告②	【予習】報告資料を作成してください。 【復習】授業中のコメントを受けて報告内容の完成度を高めてください。	4 時間
第7回	対面	中間報告③	【予習】報告資料を作成してください。 【復習】授業中のコメントを受けて報告内容の完成度を高めてください。	4 時間
第8回	対面	中間報告④	【予習】報告資料を作成してください。 【復習】授業中のコメントを受けて報告内容の完成度を高めてください。	4 時間
第9回	対面	最終報告①	【予習】報告資料を作成してください。 【復習】授業中のコメントを受けてプレゼンの完成度を高めてください。	4 時間
第10回	対面	最終報告②	【予習】報告資料を作成してください。 【復習】授業中のコメントを受けてプレゼンの完成度を高めてください。	4 時間
第11回	対面	研究発表大会の振り返り①	【予習】研究発表大会の反省点を書き出してください。 【復習】リサーチ手順を復習してください。	4 時間
第12回	対面	研究発表大会の振り返り②	【予習】研究発表大会の反省点を書き出してください。 【復習】リサーチ手順を復習してください。	4 時間
第13回	対面	リサーチ手順の再確認①	【予習】「政策リサーチ入門」を読み直してください。 【復習】授業ノートを復習してください。	4 時間
第14回	対面	リサーチ手順の再確認②	【予習】「政策リサーチ入門」を読み直してください。 【復習】授業ノートを復習してください。	4 時間
第15回	オンデマンド	まとめ	【予習】授業前に配布した資料に目を通して、疑問点などを明確にしておいてください。 【復習】配布資料を読み直し、知識の定着を図ってください。	4 時間

科目名	演習Ⅱ A	開講年度	2026 年度春学期	
担当者	久米 高史	配当年次	3	
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位	
グレード	G3	授業方法	演習	
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	比較経済史(貿易・内需・経済成長などをめぐる日本と欧米の比較史)①			
授業の目的及び概要	担当教員の専攻分野は経済史(日本経済史・アジア経済史・比較経済史)です。経済史と聞くと「ああ歴史か」と思われるかも知れませんが、経済を数十年や 100 年といった長期的なスパンで分析することによって、そこから得られた知見を未来に活かすことのできる学問です。この演習では、経済の長期的分析に関わる専門知識を学修します。春学期には、演習Ⅰでも使用した岩波講座『日本経済の歴史』の現代のパートを輪読し、第二次世界大戦後から現在までの日本経済の長期分析を学修します。(演習Ⅰでは、「経済成長と所得格差の関係は経済の発展段階に依存する」というアメリカの経済学者サイモン・クズネッツの仮説の検証を行いました。)また経済発展とイノベーションに関する理論として、シュンペーターの『経済発展の理論』も併せて学修します。秋学期には、「学生研究発表大会」に出場します。「大会」への出場を通して、専門知識の実践的応用を学修します。大会終了後は、卒業論文に向けての個人の卒業研究を開始します。			
履修条件・留意点	本演習を履修すると、あなたの専攻分野は「経済史」ということになります。「歴史」のイメージを「長期的分析」と置き換えて、自身の専攻分野を意識して学修することを求めます。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針(DP)との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	3 年次の 1 年間の目標は、①経済史にも理論があり、その理論とは何かを理解し修得すること、②一つのテーマを選択して「学生研究発表大会」に出場すること、③卒業研究を開始して 2000 字のレポートにまとめること、の 3 点です。こうして 4 年次の卒業論文につなげていきます。特に演習Ⅱ A では、上記の①と、②の「学生研究発表大会」へ向けての下準備を目標とします。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	毎回の授業の中で、補足解説と報告に対する講評を行います。			
アクティブ・ラーニングの取り組み	PBL(課題解決型学習)／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	中野剛志 (2024 年)『入門 シュンペーター』 PHP 新書 (購入してください)	ISBN	ISBN 9784569856186	
参考書	①岩波講座『日本経済の歴史』第 5 巻・第 6 巻(使用箇所のコピーを最初の授業で配布します) ②平口良司 (2022 年)『入門・日本の経済成長』 日本経済新聞出版 (秋学期で第 2 部のみ扱う予定です)	ISBN	① 第 5 巻 INBN 9784000114059 第 6 巻 ISBN 9784000114066 ②ISBN 9784296113767	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30		
	成果発表(口頭・実技)	40		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験(対面)	0		
	その他(%)	0		
	その他の内容	なし		
この科目の受講にあたって	遅刻及び発表の課題忘れは厳禁。履修者は自身がゼミの一員であることを自覚し、責任感を持って授業に参加すること。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	まずゼミ生の自己紹介を行い、次に授業の進め方について、イントロダクションを行います。最後に輪読のテキストを配布し、報告担当箇所の分担の割り振りを決めます。	【予習】基礎演習・演習Ⅰで学修した学術的な文章作成の作法、プレゼンテーションの方法などを復習しておくこと。 【復習】授業で扱った文献の箇所について、しっかりとその内容を復習しておくこと。	4時間
第2回	対面	・テキストの輪読。担当者が分担箇所のレジュメを作成して内容を紹介し、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。 ・『日本経済の歴史』第5巻 序章・第3節 所得と資産の分配 p.52～56	【予習】基礎演習・演習Ⅰで学修した学術的な文章作成の作法、プレゼンテーションの方法などを復習しておくこと。 【復習】授業で扱った文献の箇所について、しっかりとその内容を復習しておくこと。	4時間
第3回	対面	・テキストの輪読。担当者が分担箇所のレジュメを作成して内容を紹介し、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。 ・『日本経済の歴史』第5巻 序章・第3節 所得と資産の分配 p.57～62	【予習】基礎演習・演習Ⅰで学修した学術的な文章作成の作法、プレゼンテーションの方法などを復習しておくこと。 【復習】授業で扱った文献の箇所について、しっかりとその内容を復習しておくこと。	4時間
第4回	対面	・テキストの輪読。担当者が分担箇所のレジュメを作成して内容を紹介し、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。 ・『日本経済の歴史』第5巻 序章・第3節 所得と資産の分配 p.62～68	【予習】基礎演習・演習Ⅰで学修した学術的な文章作成の作法、プレゼンテーションの方法などを復習しておくこと。 【復習】授業で扱った文献の箇所について、しっかりとその内容を復習しておくこと。	4時間
第5回	対面	・テキストの輪読。担当者が分担箇所のレジュメを作成して内容を紹介し、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。 ・『日本経済の歴史』第6巻 序章・第3節 所得と資産の分配 p.48～53	【予習】基礎演習・演習Ⅰで学修した学術的な文章作成の作法、プレゼンテーションの方法などを復習しておくこと。 【復習】授業で扱った文献の箇所について、しっかりとその内容を復習しておくこと。	4時間
第6回	対面	・テキストの輪読。担当者が分担箇所のレジュメを作成して内容を紹介し、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。 ・『日本経済の歴史』第6巻 序章・第3節 所得と資産の分配 p.53～57	【予習】基礎演習・演習Ⅰで学修した学術的な文章作成の作法、プレゼンテーションの方法などを復習しておくこと。 【復習】授業で扱った文献の箇所について、しっかりとその内容を復習しておくこと。	4時間
第7回	対面	・テキストの輪読。担当者が分担箇所のレジュメを作成して内容を紹介し、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。 ・『日本経済の歴史』第6巻 序章・第3節 所得と資産の分配 p.57～62	【予習】基礎演習・演習Ⅰで学修した学術的な文章作成の作法、プレゼンテーションの方法などを復習しておくこと。 【復習】授業で扱った文献の箇所について、しっかりとその内容を復習しておくこと。	4時間
第8回	対面	・テキストの輪読。担当者が分担箇所のレジュメを作成して内容を紹介し、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。 ・『入門・シュンペーター』第1章	【予習】基礎演習・演習Ⅰで学修した学術的な文章作成の作法、プレゼンテーションの方法などを復習しておくこと。 【復習】授業で扱った文献の箇所について、しっかりとその内容を復習しておくこと。	4時間
第9回	対面	・テキストの輪読。担当者が分担箇所のレジュメを作成して内容を紹介し、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。 ・『入門・シュンペーター』第2章	【予習】基礎演習・演習Ⅰで学修した学術的な文章作成の作法、プレゼンテーションの方法などを復習しておくこと。 【復習】授業で扱った文献の箇所について、しっかりとその内容を復習しておくこと。	4時間
第10回	対面	・テキストの輪読。担当者が分担箇所のレジュメを作成して内容を紹介し、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。	【予習】基礎演習・演習Ⅰで学修した学術的な文章作成の作法、プレゼンテーションの方法などを復習しておくこと。	4時間

		う。 ・『入門・シュンペーター』第3章	【復習】授業で扱った文献の箇所について、しっかりとその内容を復習しておくこと。	
第11回	対面	・テキストの輪読。担当者が分担箇所のレジュメを作成して内容を紹介し、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。 ・『入門・シュンペーター』第4章	【予習】基礎演習・演習Ⅰで学修した学術的な文章作成の作法、プレゼンテーションの方法などを復習しておくこと。 【復習】授業で扱った文献の箇所について、しっかりとその内容を復習しておくこと。	4時間
第12回	対面	・テキストの輪読。担当者が分担箇所のレジュメを作成して内容を紹介し、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。 ・『入門・シュンペーター』第5章	【予習】基礎演習・演習Ⅰで学修した学術的な文章作成の作法、プレゼンテーションの方法などを復習しておくこと。 【復習】授業で扱った文献の箇所について、しっかりとその内容を復習しておくこと。	4時間
第13回	対面	・テキストの輪読。担当者が分担箇所のレジュメを作成して内容を紹介し、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。 ・『入門・シュンペーター』第6章	【予習】基礎演習・演習Ⅰで学修した学術的な文章作成の作法、プレゼンテーションの方法などを復習しておくこと。 【復習】授業で扱った文献の箇所について、しっかりとその内容を復習しておくこと。	4時間
第14回	対面	・テキストの輪読。担当者が分担箇所のレジュメを作成して内容を紹介し、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。 ・『入門・シュンペーター』第7章	【予習】基礎演習・演習Ⅰで学修した学術的な文章作成の作法、プレゼンテーションの方法などを復習しておくこと。 【復習】授業で扱った文献の箇所について、しっかりとその内容を復習しておくこと。	4時間
第15回	オンデマンド	これまで輪読してきた文献の内容のまとめ、秋学期の学生研究発表大会へ向けてのガイダンス、夏季休暇中の課題についての説明を、オンデマンドで配信する動画教材で行う。	【予習】授業で扱った文献について、しっかりとその内容を復習しておくこと。 【復習】オンデマンド講義で提示された夏期休暇中の課題について、しっかりと取り組んでおくこと。	4時間

科目名	演習Ⅱ A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	米山 秀隆	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	都市・地域から日本経済の課題を考える		
授業の目的及び概要	この演習では、日本経済が直面する様々な課題のうち、都市・地域分野を主たるターゲットとし、必要な知識と課題発見能力、調査・分析力を身に付けることを目指します。都市・地域の現状を、「人口移動」、「高齢化」、「都市再生」、「地域活性化」、「地方行政」、「観光振興」、「住宅・土地市場」などの側面から学び、課題を分析していきます。そうした過程で、4 年次の卒業論文で取り組むべき課題を各自見つけていきます。また、演習での報告、ディスカッションやグループワークを通じ、社会人として必要な基礎能力やコミュニケーション能力を高めていきます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・文献の要点をまとめ、報告できる。 ・報告に対し互いに意見を述べ、議論できる。 ・都市・地域の現状を理解し、課題を抽出できる。 ・グループワークで課題の調査・分析を行い、結果をとりまとめ、報告できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告内容に対し、授業内でコメント、アドバイスします。課題に対しては、コメントを付けて返却します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは使用しません。	ISBN	なし
参考書	①縮小まちづくり，米山秀隆，時事通信社，2018 年 ②アフターコロナの都市と住まい，米山秀隆，プログレス，2021 年	ISBN	①9784788715479 ②9784910288109
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	積極的な報告、発言、議論を心掛け、演習での学びを実りあるものにしていきましょう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	ガイダンス 教員・受講生の自己紹介、演習の内容・進め方、報告の割り振り	【予習】Learning Portal に掲載する配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理して下さい。	4 時間

第2回	対面	調査・分析の手法と調査事例1	【予習】配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理して下さい。	4時間
第3回	対面	調査・分析の手法と調査事例2	【予習】配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理して下さい。	4時間
第4回	対面	報告・議論1	【予習】配布資料を事前に読んでおいて下さい。報告者は報告の準備をしておいて下さい。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理して下さい。	4時間
第5回	対面	報告・議論2	【予習】配布資料を事前に読んでおいて下さい。報告者は報告の準備をしておいて下さい。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理して下さい。	4時間
第6回	対面	報告・議論3	【予習】配布資料を事前に読んでおいて下さい。報告者は報告の準備をしておいて下さい。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理して下さい。	4時間
第7回	対面	報告・議論4	【予習】配布資料を事前に読んでおいて下さい。報告者は報告の準備をしておいて下さい。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理して下さい。	4時間
第8回	対面	報告・議論5	【予習】配布資料を事前に読んでおいて下さい。報告者は報告の準備をしておいて下さい。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理して下さい。	4時間
第9回	対面	報告・議論6	【予習】配布資料を事前に読んでおいて下さい。報告者は報告の準備をしておいて下さい。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理して下さい。	4時間
第10回	対面	報告・議論7	【予習】配布資料を事前に読んでおいて下さい。報告者は報告の準備をしておいて下さい。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理して下さい。	4時間
第11回	対面	報告・議論8	【予習】配布資料を事前に読んでおいて下さい。報告者は報告の準備をしておいて下さい。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理して下さい。	4時間
第12回	対面	グループワーク1：グループ分け、テーマ設定	【予習】グループワークで取り組みたいテーマについて考えておいて下さい。 【復習】グループワークの結果を整理し、次回に向けた作業に取り組んで下さい。	4時間
第13回	対面	グループワーク2：文献収集	【予習】グループワークに向けて、必要な準備を行って下さい。 【復習】グループワークの結果を整理し、次回に向けた作業に取り組んで下さい。	4時間
第14回	対面	グループワーク3：文献収集、夏休み中の課題設定 演習のまとめ	【予習】グループワークに向けて、必要な準備を行って下さい。 【復習】グループワークを振り返り、夏休みで取り組むことを整理して下さい	4時間
第15回	オンデマンド	都市・地域経済の最新状況と課題	【予習】配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理して下さい。	4時間

科目名	演習Ⅱ A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	藤田 峻	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	ゲーム理論と行動経済学（応用） ーゲーム理論・行動経済学で戦略的行動を考えるー		
授業の目的及び概要	本科目ではゲーム理論や行動経済学を応用して、身近な現象から大規模な社会問題まで、様々な社会現象・社会問題を考えます。 ゲーム理論や行動経済学は、多様な社会現象・社会問題を分析することが可能です。たとえば、労使関係や、ライバル企業との競争関係なども考えられますし、様々な政策の効果や個人の意思決定も分析できます。 理論的な分析を行うと、様々な疑問に答えを得ることができます。たとえば、新卒採用で業務と直接関係ない資格取得やボランティアの経験が評価される場合があるのはなぜでしょうか。航空券は出発直前になるほど高額になるのに、東京スカイツリーの展望台入場券は当日券の方が安いのはなぜでしょうか。夏休みの宿題を計画通りに進められないのはなぜでしょうか。どうすれば年金保険料の未納率を下げるができるようになるのでしょうか。 ゲーム理論や行動経済学は、このような疑問への答えを考えるために便利な道具です。本科目では卒業研究のために、主にゲーム理論を用いた戦略的思考を学び、これを活用する能力を養うことを目的とします。このため授業ではゲーム理論・行動経済学を学びつつ、どのような状況に理論を応用できるか考える練習を受講者のプレゼンテーションを中心に行います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. ゲーム理論および行動経済学の基礎知識を修得する 2. 学修した理論を現実の様々な現象に応用できる 3. 社会問題・社会現象等に対してゲーム理論または行動経済学の考え方を適用し、他者と協働しながら自分の考えを整理して発信することができる 4. 他者と協力して研究活動に取り組むことができる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	グループまたは個人による研究報告に対するコメントを通じてフィードバックを行います。また、グループワークの作業を授業中に進める場合には、適宜進捗を確認しながらフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。 必要な資料等は授業中に配付・紹介します。	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	演習科目は受講者の主体的な取り組みを前提として授業が運営されます。ゼミにおける研究活動は授業時間中だけで完結するものではなく、授業時間外での調査・分析も不可欠です。それだけ時間をかける必要がある科目ですが、費やした時間は自身の成長として返ってくるので、努力する価値は充分にあります。受講者の皆様には積極的な授業参加を強く期待します。 なお、本科目の履修にあたってミクロ経済学・ゲーム理論・統計学といった経済学の分析手法を知っていると便利ですが、必須ではありません。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	・シラバスの確認（30分程度） ・今学期の目標設定（90分程度） ・グループワークの計画検討（2時間程度）	4時間
第2回	対面	グループワーク（調査）	・専門書等を用いたゲーム理論・行動経済学に関する学修（2時間程度） ・グループワークの作業（2時間程度） 各自で必要と思われる情報を調査してください。 集めた情報はグループ内で共有してください。	4時間
第3回	対面	グループワーク（調査）	・専門書等を用いたゲーム理論・行動経済学に関する学修（2時間程度） ・グループワークの作業（2時間程度） 各自で必要と思われる情報を調査してください。 集めた情報はグループ内で共有してください。	4時間
第4回	対面	グループワーク（調査、分析）	・専門書等を用いたゲーム理論・行動経済学に関する学修（2時間程度） ・グループワークの作業（2時間程度） 各自で必要と思われる情報を調査してください。 集めた情報はグループ内で共有してください。 集めた情報を基に、発表内容を準備してください。	4時間
第5回	対面	グループワーク（分析、中間報告準備）	・グループワークの作業 各自で必要と思われる情報を調査してください。 中間報告に備えて発表資料を作成してください。 集めた情報はグループ内で共有してください。	4時間
第6回	対面	中間報告会1	・グループワークの作業（2時間程度） 中間報告の準備を行ってください。 ・中間報告会の振り返り（2時間程度） 報告後は、コメント等を資料に反映させてください。	4時間
第7回	対面	中間報告会2	・グループワークの作業（2時間程度） 中間報告の準備を行ってください。 ・中間報告会の振り返り（2時間程度） 報告後は、コメント等を資料に反映させてください。	4時間
第8回	対面	最終報告に向けた準備1	・グループワークの作業 報告内容やスライド等の改善を行ってください。	4時間
第9回	対面	最終報告に向けた準備2	・グループワークの作業 報告内容やスライド等の改善を行ってください。	4時間
第10回	対面	最終報告・最終報告の振り返り	・最終報告に向けた準備（2時間程度） ・最終報告の振り返り（2時間程度）	4時間
第11回	対面	グループワーク1	・テーマの検討（2時間程度） ・グループワークの作業（2時間程度）	4時間
第12回	対面	グループワーク2	・グループワークの作業（2時間程度） ・期末レポートの執筆（2時間程度）	4時間
第13回	対面	グループワーク3	・グループワークの作業（2時間程度） ・期末レポートの執筆（2時間程度）	4時間
第14回	対面	振り返り	・今学期の振り返り（2時間程度） ・長期休み中の計画立案（2時間程度）	4時間
第15回	オンデマンド	学生研究発表大会に向けた準備	学生研究発表大会後に関連した授業資料に基づき、大会に向けた作業を進めてください。	4時間

科目名	演習Ⅱ A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	畑佐 伸英	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	国際経済の課題と政策対応		
授業の目的及び概要	グローバル化の進展が目覚ましい昨今にあって、たとえ一国内の問題であったとしても、広く国際社会や他国の政治・経済へとその影響が波及していく事態は、決して珍しい現象ではなくなっている。まさにグローバル経済の真ただ中にある日本並びに他のあらゆる地域や国々は、時にこうした国際化の波に直面しながら、様々な経済問題や課題と向き合っている。本講義では、このような世界経済に関連する諸課題を見つけ、その本質を解明していく作業を、各自の調査・発表と全体での議論・討論を通して行っていく。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	日本を含む世界各国・地域や国際社会が直面している経済問題について、自ら情報収集し考察していく中で、課題発見能力と分析力を磨いていく。また、各自でレジュメや資料を準備して発表してもらい、それらをもとに皆で議論していくことで、プレゼン力やコミュニケーション能力も獲得していく。最終的には、レポートという形で文章にまとめていくことで構成力や表現力、文章力を高めていくと共に、次年時の卒業レポートや卒業論文の執筆につなげていく。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表内容については、授業の中で解説及び講評します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは利用しない。	ISBN	なし
参考書	随時、授業の中で紹介します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	「国際経済学」「国際金融論」「開発経済論」などの国際経済に広く関連する科目を受講しておくことが望ましい。また、「アジア経済概論」「中国経済論」「アメリカ経済論」など、世界のあらゆる国や地域の経済について学ぶ講義を履修しておくこともお勧める。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 教員・受講者の紹介、演習の進め方、参考書の紹介、報告担当箇所の割り振り。	新聞やニュース記事などに目を通し、興味のあるテーマや課題について、考えておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくといいでしょう。	4 時間

第2回	対面	国際経済の課題と政策対応：テーマ選定(1)	新聞やニュース記事などに目を通し、興味のあるテーマや課題について、考えておいてください。また、参考となる書籍や論文、雑誌・新聞記事などを調査しておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4時間
第3回	対面	国際経済の課題と政策対応：テーマ選定(2)	新聞やニュース記事などに目を通し、興味のあるテーマや課題について、考えておいてください。また、参考となる書籍や論文、雑誌・新聞記事などを調査しておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4時間
第4回	対面	国際経済の課題と政策対応：テーマ選定(3)	新聞やニュース記事などに目を通し、興味のあるテーマや課題について、考えておいてください。また、参考となる書籍や論文、雑誌・新聞記事などを調査しておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4時間
第5回	オンデマンド	国際経済の課題と政策対応：プレゼン資料の作成	報告するテーマについて、関連する書籍や資料などを収集し、プレゼンの資料を作成してください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4時間
第6回	対面	国際経済の課題と政策対応：発表並びに討論(1)	報告担当者は、レジメを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4時間
第7回	対面	国際経済の課題と政策対応：発表並びに討論(2)	報告担当者は、レジメを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4時間
第8回	対面	国際経済の課題と政策対応：発表並びに討論(3)	報告担当者は、レジメを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4時間
第9回	対面	国際経済の課題と政策対応：発表並びに討論(4)	報告担当者は、レジメを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4時間
第10回	対面	国際経済の課題と政策対応：発表並びに討論(5)	報告担当者は、レジメを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4時間
第11回	対面	国際経済の課題と政策対応：発表並びに討論(6)	報告担当者は、レジメを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4時間

			たこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	
第12回	対面	国際経済の課題と政策対応：発表並びに討論(7)	報告担当者は、レジюмеを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4 時間
第13回	対面	国際経済の課題と政策対応：発表並びに討論(8)	報告担当者は、レジюмеを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4 時間
第14回	対面	国際経済の課題と政策対応：発表並びに討論(9)	報告担当者は、レジюмеを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4 時間
第15回	対面	まとめ並びに総括	これまでの学習を振り返って、学んだこと、分かったこと、発見したこと、難しかったこと、興味や関心を抱いたこと、などについて考えておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4 時間

科目名	演習Ⅱ A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	朱 東平	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	日本経済の課題を考える		
授業の目的及び概要	この演習は、専門知識・能力の高度化を図る科目です。演習では、主要な新聞（とくに「日本経済新聞」）や雑誌の経済記事に対して問題提起と討論を行うことによって、皆さんがこれまでに修得してきたさまざまな専門知識、とくにマクロ経済学とミクロ経済学の基礎知識を日本経済の分析に応用することに重点をおきます。この授業を受講することにより、経済学部を卒業した社会人として持つべき経済学的思考を身につけることを目的としています。 春学期には、限られた 90 分間の授業時間中にできるだけ多くのテーマを「浅く・広く」扱います。そのなかで自らが関心を持つテーマを少しずつ明確にしてもらいます。秋学期には、参加者の興味あるテーマについて、深く掘り下げていくように指導を行います。		
履修条件・留意点	この授業科目は、履修条件を設けておりませんが、授業への出席に留意してください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この演習は、以下のことを目標とします。 1. 1 年次と 2 年次に修得した経済学の基礎理論をさまざまな現実問題の分析に応用することができる。 2. 上記の目標を目指す中で、卒業論文のテーマを選定し、そのための資料収集を行うことができる。 3. ゼミの報告と討論を通して、一社会人として、また、就職活動にも必要なプレゼン能力やコミュニケーション能力を身につけることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	優秀なレポートは、授業中に紹介します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	ラーニングポータルで配布される資料を用いて事前・事後学修に活用してください。	ISBN	なし
参考書	予習・復習に役立つ教材として、報告内容に応じて以下の参考書の関連内容について理解するようにしてください。 ①ミクロ経済学（第 3 版）、伊藤元重、日本評論社、2018 年 ②入門マクロ経済学（第 5 版）、中谷巖、日本評論社、2007 年	ISBN	①9784535558441 ②9784535555136
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講に	皆で楽しく勉強できるゼミを作っていきましょう。		

あたって	経済学的な分析は、ミクロ経済学やマクロ経済学など基礎理論のもとで行われます。そのため、受講生には、この2科目の履修を望みます。ただし、演習でも必要に応じて指導しますので、とくに予備知識をもたなければ履修できないことはありません。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス ・担当教員を含むゼミ参加者全員の自己紹介を行います。 ・授業内容や運営方法を説明し、参加者の意思統一をはかります。 （受講者数および受講者の希望に応じて、以下の内容を変更することもありうる。）	・「学修ポートフォリオ」の使用方法和「ラーニングポータル」の掲載資料について確認し、予習してください。 ・春学期の目標について話し合ってください。	3時間
第2回	対面	グループ学習のスタート ・グループを編成し、グループの運営方法や運営ルール等について話し合います。	・次回の授業までに、「ラーニングポータル」の掲載資料について確認し、予習してください。 ・グループの運営方法や運営ルール等について話し合い、確認してください。	4時間
第3回	対面	経済記事を読む（1） ・選ばれた経済記事について順番に発表・議論し、経済学理論の見地から理解を深めます。	・参加者は、事前に新聞・雑誌の経済記事を選択し、自らの理解に基づいてレジメを作成してください。 ・授業終了後は、発表の結果に基づいてレジメを修正してください。	4時間
第4回	対面	経済記事を読む（2） ・選ばれた経済記事について順番に発表・議論し、経済学理論の見地から理解を深めます。	・参加者は、事前に新聞・雑誌の経済記事を選択し、自らの理解に基づいてレジメを作成してください。 ・授業終了後は、発表の結果に基づいてレジメを修正してください。	4時間
第5回	対面	経済記事を読む（3） ・選ばれた経済記事について順番に発表・議論し、経済学理論の見地から理解を深めます。	・参加者は、事前に新聞・雑誌の経済記事を選択し、自らの理解に基づいてレジメを作成してください。 ・授業終了後は、発表の結果に基づいてレジメを修正してください。	4時間
第6回	対面	経済記事を読む（4） ・選ばれた経済記事について順番に発表・議論し、経済学理論の見地から理解を深めます。	・参加者は、事前に新聞・雑誌の経済記事を選択し、自らの理解に基づいてレジメを作成してください。 ・授業終了後は、発表の結果に基づいてレジメを修正してください。	4時間
第7回	対面	経済記事を読む（5） ・選ばれた経済記事について順番に発表・議論し、経済学理論の見地から理解を深めます。	・参加者は、事前に新聞・雑誌の経済記事を選択し、自らの理解に基づいてレジメを作成してください。 ・授業終了後は、発表の結果に基づいてレジメを修正してください。	4時間
第8回	対面	経済記事を読む（6） ・選ばれた経済記事について順番に発表・議論し、経済学理論の見地から理解を深めます。	・参加者は、事前に新聞・雑誌の経済記事を選択し、自らの理解に基づいてレジメを作成してください。 ・授業終了後は、発表の結果に基づいてレジメを修正してください。	4時間
第9回	対面	経済記事を読む（7） ・選ばれた経済記事について順番に発表・議論し、経済学理論の見地から理解を深めます。	・参加者は、事前に新聞・雑誌の経済記事を選択し、自らの理解に基づいてレジメを作成してください。 ・授業終了後は、発表の結果に基づいてレジメを修正してください。	4時間
第10回	対面	研究テーマの選定（1） ・各自の研究テーマの一次案を決定していきます。	・参加者は、事前にこれまでの発表内容をもとに、関連資料を整理し、各自の研究テーマを決定して報告できるように準備してください。 ・授業終了後は、発表の結果に基づいてレジメを修正してください。参加者は、1回目の報告後の進捗状	4時間

			況をまとめて報告する必要があります。	
第11回	対面	研究テーマの選定（2） ・各自の研究テーマの一次案を決定していきます。	・参加者は、事前にこれまでの発表内容をもとに、関連資料を整理し、各自の研究テーマを決定して報告できるように準備してください。 ・授業終了後は、発表の結果に基づいてレジュメを修正してください。参加者は、1回目の報告後の進捗状況をまとめて報告する必要があります。	4時間
第12回	対面	研究テーマの選定（3） ・各自の研究テーマの一次案を決定していきます。	・参加者は、事前にこれまでの発表内容をもとに、関連資料を整理し、各自の研究テーマを決定して報告できるように準備してください。 ・授業終了後は、発表の結果に基づいてレジュメを修正してください。参加者は、1回目の報告後の進捗状況をまとめて報告する必要があります。	4時間
第13回	対面	まとめ（1） ・春学期の目標の達成度と反省点について話し合います。 ・夏休み中の勉強内容について話し合います。	・これまでの配布資料と自らの成果物を事前に読んでください。 ・次回の授業までに、春学期のレポートを完成してください。	6時間
第14回	対面	まとめ（2） ・期末レポートの提出 ・夏休み中の勉強内容を確認します。	・これまでの配布資料と自らの成果物を事前に読んでください。 ・夏休み中の課題について取り組んでください。	5時間
第15回	オンデマンド	学生研究発表大会の参加を準備しましょう ・発表準備に向けて、学生研究発表大会の動画をオンデマンドで配信します。いずれかの動画を視聴して発表の参考にしてください。	オンデマンド動画を視聴した上で、発表資料を作成し、レジュメを読み上げるだけの発表にならないよう準備を行ってください。	5時間

科目名	演習Ⅱ A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	楊 倩倩	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	労働市場と地域政策の経済分析（応用）		
授業の目的及び概要	演習Ⅱでは、労働市場や地域政策に関するテーマについて、より専門的な調査・分析を行います。 前半では、経済論文の書き方や基礎的なデータ分析に関する文献を輪読し、文献の整理方法、データ分析の進め方、考察のまとめ方を段階的に習得し、卒業論文の執筆に備えます。 後半では、学生一人ひとりが設定した研究テーマに基づいて報告や議論を重ね、経済学的な思考力を養いながら、卒業論文の執筆を見据えて自身の研究を段階的に深めていくことを目的とします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	(1) 経済論文の構成や書き方など、論文執筆の基本を理解し、自分の研究に活かすことができる。 (2) コンピュータを用いた基礎的なデータ分析手法を身につけ、自分の研究テーマに応じて活用することができる。 (3) 文献輪読やディスカッションを通じて、課題を発見し、論理的に思考し、適切に表現できる。 (4) 自分の興味・関心に基づいて研究テーマを設定し、独自の視点から調査・分析を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	グループまたは個人による研究報告に対するコメントを通じてフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。必要な資料等は授業中に配布・紹介します。	ISBN	なし
参考書	参考書は授業・研究の状況に応じて適宜紹介します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	40	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	演習Ⅱでは、自分の関心に基づいて主体的に研究テーマに取り組む姿勢が求められます。ゼミでの報告や議論を通じて、試行錯誤しながら研究を進めていきます。 すぐに完成度の高い成果を求めるのではなく、調査・分析・修正を繰り返しながら研究を深めていく過程を大切に、継続的に取り組むことを期待しています。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	ガイダンス（教員・受講生の自己紹介、演習の内容・進め方）	【予習】2年次の演習を振り返り、興味や関心のある分野について考えておいてください。輪読するテキストや資料は授業中に配布・紹介します。 【復習】自身が報告するテキスト・資料の対応箇所を把握し、どのような報告を行いたいのか検討してください。	4時間
第2回	対面	講義：経済論文の書き方	【予習】配布した資料・文献を事前に精読し、疑問点をまとめておいてください。 【復習】授業で理解できた内容と疑問が残った内容をまとめておいてください。	4時間
第3回	対面	発表・討論：経済論文の書き方	【予習】各自が興味・関心のある研究分野について、共有したい先行文献（論文）を用意し、報告のスライドを準備してください。 【復習】報告を行って受けたコメントをもとに報告スライドを修正してください。授業の中で討論した内容をまとめておいてください。	4時間
第4回	対面	講義：計量経済学とは何か	【予習】配布した資料・文献を事前に精読し、疑問点をまとめておいてください。 【復習】授業で理解できた内容と疑問が残った内容をまとめておいてください。	4時間
第5回	対面	輪読：回帰分析の基礎（最小2乗法と重回帰分析）	【予習】テキスト・資料の該当箇所を事前に精読し、疑問点をまとめておいてください。報告担当者はスライドを準備してください。 【復習】輪読したテキスト・資料の内容をまとめておいてください。	4時間
第6回	対面	輪読：回帰分析の応用（定式化）	【予習】テキスト・資料の該当箇所を事前に精読し、疑問点をまとめておいてください。報告担当者はスライドを準備してください。 【復習】輪読したテキスト・資料の内容をまとめておいてください。	4時間
第7回	対面	輪読：回帰分析の応用（因果関係1）	【予習】テキスト・資料の該当箇所を事前に精読し、疑問点をまとめておいてください。報告担当者はスライドを準備してください。 【復習】輪読したテキスト・資料の内容をまとめておいてください。	4時間
第8回	対面	輪読：回帰分析の応用（因果関係2）	【予習】テキスト・資料の該当箇所を事前に精読し、疑問点をまとめておいてください。報告担当者はスライドを準備してください。 【復習】輪読したテキスト・資料の内容をまとめておいてください。	4時間
第9回	対面	先行研究の発表	【予習】各自が興味・関心のある研究分野について、共有したい先行研究（論文など）を用意し、報告のスライドを準備してください。 【復習】報告を行って受けたコメントをもとに報告スライドを修正してください。授業の中で討論した内容をまとめておいてください。	4時間
第10回	対面	先行研究の発表	【予習】各自が興味・関心のある研究分野について、共有したい先行研究（論文など）を用意し、報告のスライドを準備してください。 【復習】報告を行って受けたコメントをもとに報告スライドを修正してください。授業の中で討論した内容をまとめておいてください。	4時間
第11回	対面	先行研究の発表	【予習】各自が興味・関心のある研究分野について、共有したい先行研究（論文など）を用意し、報告のスライドを準備してください。 【復習】報告を行って受けたコメントをもとに報告	4時間

			スライドを修正してください。授業の中で討論した内容をまとめておいてください。	
第12回	対面	先行研究の発表	【予習】各自が興味・関心のある研究分野について、共有したい先行研究（論文など）を用意し、報告のスライドを準備してください。 【復習】報告を行って受けたコメントをもとに報告スライドを修正してください。授業の中で討論した内容をまとめておいてください。	4 時間
第13回	対面	先行研究の発表	【予習】各自が興味・関心のある研究分野について、共有したい先行研究（論文など）を用意し、報告のスライドを準備してください。 【復習】報告を行って受けたコメントをもとに報告スライドを修正してください。授業の中で討論した内容をまとめておいてください。	4 時間
第14回	対面	先行研究の発表	【予習】各自が興味・関心のある研究分野について、共有したい先行研究（論文など）を用意し、報告のスライドを準備してください。 【復習】報告を行って受けたコメントをもとに報告スライドを修正してください。授業の中で討論した内容をまとめておいてください。	4 時間
第15回	オンデマンド	振り返り	オンデマンド動画を視聴し、今学期の振り返りを行なってください。 今までに扱った先行研究や自身の問題意識を踏まえ、研究テーマ案として文章にまとめてください。	4 時間

科目名	演習Ⅱ A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	穴井 佑	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	近世・近代西洋社会経済史		
授業の目的及び概要	近世・近代の西洋社会における貧困問題や産業革命と経済成長に関する基礎的なテキストをいくつか輪読していきます。その一方で、各自の研究報告も行います。研究報告に関しては、西洋社会経済史を中心にしますが、各自の関心にもとづく研究報告も歓迎します。これらの学修を通して、社会経済史研究者が研究を進めるうえで行うプロセスを追体験してもらいます。また、本演習では、GDP・為替レート・金利などの「経済諸指標とその連動についての理解」をサブテーマに設定しています。歴史事象を検討する中で、そうした経済諸指標とその連動の具体例を見出していきます。そうすることで、現代社会の経済の動きを歴史的な観点から考察する力の涵養を目指します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	第一に、社会経済史の手法を理解する。 第二に、一つのテキストをしっかりと「読む」力を養成する。 第三に、スライドやレジュメの作成、ディスカッション、プレゼンテーションなどを通して、テキスト講読から得た知見をまとめ、自身の見解として再構築していくスキルを身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の授業の中で、スライド、レジュメ、プレゼンテーション、ディスカッションに対してコメントをします。質疑応答の時間もその都度確保します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特にありません。授業で用いるテキストはその都度担当教員から配布します。	ISBN	なし
参考書	特にありません。研究を進めるうえで必要な参考書については適宜紹介します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	10	
	その他の内容	輪読のレジュメや個別研究のスライドから判断します。	
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業のイントロダクション（学術的な文章作成の作法、文献の収集、スライドやレジュメの作成）	【予習】基礎演習や演習Ⅰで学修した学術的な文章作成の作法、文献収集の方法、スライドやレジュメの作成	4 時間

		ユメの作成、プレゼンテーションの方法などについての説明をします)を行った後に、輪読するテキストの報告担当箇所を決めます。	作成、プレゼンテーションの方法などを復習しておくこと。 【復習】学術的な文章作成の作法、文献収集の方法、スライドやレジユメの作成、プレゼンテーションの方法などを復習すること。	
第2回	対面	テキストの輪読。担当者がレジユメを作成して内容紹介をし、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。	【予習】輪読するテキストを事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	4 時間
第3回	対面	テキストの輪読。担当者がレジユメを作成して内容紹介をし、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。	【予習】輪読するテキストを事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	4 時間
第4回	対面	テキストの輪読。担当者がレジユメを作成して内容紹介をし、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。	【予習】輪読するテキストを事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	4 時間
第5回	対面	テキストの輪読。担当者がレジユメを作成して内容紹介をし、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。	【予習】輪読するテキストを事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	4 時間
第6回	対面	テキストの輪読。担当者がレジユメを作成して内容紹介をし、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。	【予習】輪読するテキストを事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	4 時間
第7回	対面	テキストの輪読。担当者がレジユメを作成して内容紹介をし、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。	【予習】輪読するテキストを事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	4 時間
第8回	対面	テキストの輪読。担当者がレジユメを作成して内容紹介をし、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。	【予習】輪読するテキストを事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	4 時間
第9回	対面	テキストの輪読。担当者がレジユメを作成して内容紹介をし、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。	【予習】輪読するテキストを事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	4 時間
第10回	対面	グループか個人ごとに設定した研究テーマに関連する文献調査・収集を行います。十分な文献が収集でき次第、文献の精読を進めていきます。	【予習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献の調査を行うこと。 【復習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献を精読すること。	4 時間
第11回	対面	研究に必要な文献を精読しつつ、グループあるいは個人で研究報告に向けた作業を進めます(研究テーマに関するディスカッションやスライドなどの作成)。	【予習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献を精読すること。 【復習】文献の精読をすすめて、そこから得られた知見を自身の研究に反映できるよう整理すること。	4 時間
第12回	対面	研究に必要な文献を精読しつつ、グループあるいは個人で研究報告に向けたスライドの完成を目指します。	【予習】文献の精読をすすめて、そこから得られた知見を自身の研究に反映できるよう整理すること。また、スライドの作成を進めること。 【復習】スライドについてのディスカッションを続け、必要な修正を行うこと。報告の練習も行うこと。	4 時間
第13回	対面	グループあるいは個人で研究報告に向けたスライドを完成させ、その修正や改善のためのディスカッションとプレゼンテーションの練習を行います。	【予習】スライドについてのディスカッションを続け、必要な修正を行うこと。 【復習】修正や改善のためのディスカッションを行いつつ、プレゼンテーションの練習をすること。	4 時間
第14回	対面	グループあるいは個人での研究報告を行います。また、それぞれの研究に対する質疑応答を行います。	【予習】スライドの修正や改善のためのディスカッションを行いつつ、プレゼンテーションの練習をすること。	4 時間

2026/05/01

			【復習】研究報告に対して出された疑問や問題点の改善に努めること。	
第15回	オンデマンド	これまで輪読してきたテキストの内容についてのまとめをオンデマンドで配信する動画教材で行う。	動画教材を視聴した上で、ラーニングポータル上で配布する資料を中心に輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	4時間

科目名	演習Ⅱ A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	張 哲	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	中国経済および国際貿易の実証研究		
授業の目的及び概要	この演習では中国の経済発展を踏まえて、国際貿易における中国の位置付けを読み解きます。授業では資料の輪読を行うほか、研究報告も行います。研究報告のテーマを国際貿易関連と期待しますが、各自関心のあるテーマでも歓迎します。 授業中の討論や研究報告を通して、論理的思考力を鍛えると同時に、プレゼン能力を高めることも期待できます。 さらに資料の取得や分析を通じて、研究や調査の基礎を身に付けることを期待します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	(1) 経済学の知識を深めること。 (2) 資料を読み解ける能力を高めること。 (3) 問題を発見し、解決を試みること。 (4) レポートの作成や発表ができること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中にコメントを通じてフィードバックを行います。授業の最後に質疑応答の時間を設けます。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは使用しない。	ISBN	なし
参考書	現代中国経済論 [第2版], 梶谷懐・藤井大輔（編著）, ミネルヴァ書房, 2018 年	ISBN	9784623082247
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション、授業の進め方について	【予習】シラバスや資料等を事前に確認しておきましょう。 【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第2回	対面	資料輪読①	【予習】輪読する資料を事前に精読しておきましょう	4 時間

			う。 【復習】輪読した資料の内容を整理し、理解を深めましょう。	
第3回	対面	資料輪読②	【予習】輪読する資料を事前に精読しておきましょう。 【復習】輪読した資料の内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第4回	対面	資料輪読③	【予習】輪読する資料を事前に精読しておきましょう。 【復習】輪読した資料の内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第5回	対面	資料輪読④	【予習】輪読する資料を事前に精読しておきましょう。 【復習】輪読した資料の内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第6回	対面	資料輪読⑤	【予習】輪読する資料を事前に精読しておきましょう。 【復習】輪読した資料の内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第7回	対面	資料輪読⑥	【予習】輪読する資料を事前に精読しておきましょう。 【復習】輪読した資料の内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第8回	対面	資料輪読⑦	【予習】輪読する資料を事前に精読しておきましょう。 【復習】輪読した資料の内容を整理し、理解を深めましょう。	4 時間
第9回	オンデマンド	Excel によるデータ分析のガイダンス	研究テーマを考えて、関連するデータベースを確認してみましょう。	4 時間
第10回	対面	研究報告の準備	テーマに関連するデータおよび参考文献を入手し、内容を確認しましょう。	4 時間
第11回	対面	研究報告の準備	参考文献を精読し、まとめてみましょう。	4 時間
第12回	対面	研究報告	資料の作成と報告の練習	4 時間
第13回	対面	研究報告	資料の作成と報告の練習	4 時間
第14回	対面	研究報告	資料の作成と報告の練習	4 時間
第15回	オンデマンド	振り返りとレポートの作成	これまでの講義内容を復習し、興味のあるテーマを見つけましょう。	4 時間

科目名	演習Ⅱ A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	前田 一樹	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	労働市場や雇用政策を経済学的な視点から学ぶ		
授業の目的及び概要	本科目では、労働経済学の視点に基づいて、身近な問題から賃金や雇用格差という社会的な問題まで、さまざまな社会問題について考えます。働くことは生活の基礎です。では、なぜ裕福な人とそうでない人がいるのか、仕事を失うとどうなるか、働く意味や働きがいとは何であるか、などの普段の生活で思い浮かぶ疑問について経済理論に基づいて理解できることを目指します。 また、政府が実施する雇用政策によって人々がどのように影響を受けるかというメカニズムについても理解し自分なりに読み解くことができる。 さらに、実際にデータなどを用いて現実の労働市場での事象が理論通りに起きているのかを確認したうえで、なぜそうなるのかという理由を探究していくことを行います。これらを通じて鍛えられる経済学的な論理的思考力、分析力、そして、データの読み取る能力は、大学における学習・研究だけでなく、就職活動にも役立ちます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	日本の労働市場が直面している諸問題を知ること、日本経済の現状や仕組みについて精通していくとともに、労働経済学の分野での幅広い知識と素養を習得する。 また、報告にあたっての資料の作成や発表を通じてプレゼンテーション・コミュニケーション能力を身につける。これらを通じて、卒業研究を進める能力を習得する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	グループまたは個人による研究報告に対するコメントを通じてフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。 必要な資料等は授業中に配布・紹介します。	ISBN	なし
参考書	①「働くこと」を思考する、久米功一、中央経済社、2020 年 ②労働経済学―理論と実証をつなぐ、川口大司、有斐閣、2017 年 ③職業の経済学、阿部正浩・菅万理・勇上和史編著：中央経済社、2017 年 （①については図書館の電子ブックでも閲覧することができます。）	ISBN	①9784502366413 ②9784641165076 ③9784502238215
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	演習科目は、受講者の主体的な取り組みを前提として授業が運営されます。ゼミにおける報告資料の準備はもちろん、議論をするために事前のテキストの確認など授業時間中だけでは完結しません。そのため、授業以外の時間でも準備が必要です。参加者のみなさんに積極的な授業参加を強く期待します。 履修にあたり、ミクロ経済学、マクロ経済学、労働経済学などの分析手法について知識があることが望ましいですが、必須ではありません。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	・事前に参考文献に目を通し、興味のあるテーマについて考えてください（2時間程度）。 ・今学期の目標を決めるとともに、グループワークテーマの検討をしてください（2時間程度）。	4時間
第2回	対面	データ分析入門（データの把握1）	・事前にデータ分析入門の資料を読んでおいてください（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください。 ・グループワークテーマの検討（2時間程度）	4時間
第3回	対面	データ分析入門（データの把握2）	・事前にデータ分析入門の資料を読んでおいてください（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください。 ・グループワークテーマの検討（2時間程度）	4時間
第4回	対面	データ分析入門（回帰分析1）	・事前にデータ分析入門の資料を読んでおいてください（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください。 ・グループワークテーマの検討（2時間程度）	4時間
第5回	対面	データ分析入門（回帰分析2）	・事前にデータ分析入門の資料を読んでおいてください（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください。 ・グループワークテーマの検討（2時間程度）	4時間
第6回	対面	グループワーク1（テーマ設定と報告準備）	・報告に向けて報告資料の準備を行ってください（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認し、報告資料に反映してください（2時間程度）。	4時間
第7回	対面	グループワーク2（報告資料準備）	・報告に向けて報告資料の準備を行ってください（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認し、報告資料に反映してください（2時間程度）。	4時間
第8回	対面	グループワーク3（報告）	・報告に向けて報告資料の準備を行ってください（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認し、報告資料に反映してください（2時間程度）。	4時間
第9回	対面	グループワーク4（テーマ設定とグループ分け）	・グループワークのテーマについて考えてください（2時間程度）。 ・グループで決定したテーマをどのように分析していくか検討してください（2時間程度）。	4時間
第10回	対面	グループワーク5（資料収集）	・グループテーマについて関連する書籍・論文等を調べて研究方法を検討してください（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください（2時間程度）。	4時間
第11回	対面	グループワーク6（分析）	・グループテーマについて関連する書籍・論文等を調べて研究方法を検討してください（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください（2時間程度）。	4時間
第12回	対面	グループワーク7（報告準備）	・グループテーマに関して報告資料の作成を行ってください（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください（2時間程度）。	4時間

第13回	対面	グループワーク（報告1）	・報告担当者は、報告資料の準備を行ってください（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください（2時間程度）。	4時間
第14回	対面	グループワーク（報告2）	・報告担当者は、報告資料の準備を行ってください（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください。学期末レポートの作成を行ってください（2時間程度）。	4時間
第15回	オンデマンド	振り返り	・オンデマンド動画を視聴し、今学期の振り返りを行ってください。 ・秋学期の研究に向けてどのようなテーマに取り組みたいか検討するとともに、自身の卒業研究で使えるような先行研究等を探してください（4時間程度）。	4時間

科目名	演習Ⅱ A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	伊勢 公人	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	エネルギー・環境問題を経済学の視点から考える（応用）		
授業の目的及び概要	エネルギー・環境問題への対策を考えるとときにはその原因者や被害者が空間的・時間的にどのように広がっているのかを考慮する必要があります。 本演習では、各地域、国が抱える問題にとどまらず国際的なエネルギー・環境問題も取り上げます。また、現代世代にとどまらず、将来世代のことも考えて問題解決の方策を探っていきます。 「実学としての経済学」との関係 この演習を履修することにより、経済指標にも影響を与えるエネルギー・環境問題、エネルギー・環境政策を分析できる力を身につけることを目的としています。		
履修条件・留意点	エネルギー・環境問題は、各地域・国の問題であるとともに国際問題でもあるので、いずれのコース所属でも履修可能です。		
DP との関係	本科目と学位授与の方針（DP）との関係については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①パソコンを利用し、情報収集、文献検索、分析の技法を高めるとともに、プレゼン能力、論文作成技法の基礎を学びます。加えて、具体的な環境問題に関する発展的な分析手法を学びます。 ②エネルギー・環境問題の様々なトピックスを学びます。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	グループまたは個人による調査・研究報告に対するコメントを通じてフィードバックする。また、グループワークの作業を授業中に進める場合には、適宜、進捗を確認しながらフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1987 年から民間企業に 34 年間勤務しており、欧州事務所の副所長を務めた経験を有している。また、経済産業省の受託研究のプロジェクトリーダーを始め、多くの調査プロジェクトを担ってきた。本科目では、これらの経験を生かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要な資料等は授業中に配布・紹介します。	ISBN	なし
参考書	随時、授業の中で紹介します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	ガイダンス(教員、演習受講者の自己紹介、本演習の進め方)	・新聞やニュース記事などに目を通し、興味のあるテーマや課題について、考えておいてください。 ・授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4 時間
第2回	対面	エネルギー・環境問題と政策対応：テーマ選定 (1)	・新聞やニュース記事などに目を通し、興味のあるテーマや課題について、考えておいてください。 ・また、参考となる書籍や論文、雑誌・新聞記事などを調査しておいてください。 ・授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4 時間
第3回	対面	エネルギー・環境問題と政策対応：テーマ選定 (2)	・新聞やニュース記事などに目を通し、興味のあるテーマや課題について、考えておいてください。 ・また、参考となる書籍や論文、雑誌・新聞記事などを調査しておいてください。 ・授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4 時間
第4回	対面	エネルギー・環境問題と政策対応：テーマ選定 (3)	・新聞やニュース記事などに目を通し、興味のあるテーマや課題について、考えておいてください。 ・また、参考となる書籍や論文、雑誌・新聞記事などを調査しておいてください。 ・授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4 時間
第5回	対面	エネルギー・環境問題と政策対応：発表並びに討論 (1)	・報告担当者は、レジュメを作成し発表の準備をしてください。 ・その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連する書籍や新聞記事などを読んでおいてください。 ・授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4 時間
第6回	オンデマンド	エネルギー・環境問題と政策対応：発表並びに討論 (2)	・報告担当者は、レジュメを作成し発表の準備をしてください。 ・その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連する書籍や新聞記事などを読んでおいてください。 ・授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4 時間
第7回	対面	エネルギー・環境問題と政策対応：発表並びに討論 (3)	・報告担当者は、レジュメを作成し発表の準備をしてください。 ・その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連する書籍や新聞記事などを読んでおいてください。 ・授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4 時間
第8回	対面	エネルギー・環境問題と政策対応：発表並びに討論 (4)	・報告担当者は、レジュメを作成し発表の準備をしてください。 ・その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連する書籍や新聞記事などを読んでおいてください。 ・授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくの良いでしょう。	4 時間

			ておく和良好的でしょう。	
第9回	対面	エネルギー・環境問題と政策対応：発表並びに討論（5）	・報告担当者は、レジュメを作成し発表の準備をしてください。 ・その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連する書籍や新聞記事などを読んでおいてください。 ・授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておく和良好的でしょう。	4 時間
第10回	対面	エネルギー・環境問題と政策対応：発表並びに討論（6）	・報告担当者は、レジュメを作成し発表の準備をしてください。 ・その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連する書籍や新聞記事などを読んでおいてください。 ・授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておく和良好的でしょう。	4 時間
第11回	対面	エネルギー・環境問題と政策対応：発表並びに討論（7）	・報告担当者は、レジュメを作成し発表の準備をしてください。 ・その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連する書籍や新聞記事などを読んでおいてください。 ・授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておく和良好的でしょう。	4 時間
第12回	対面	エネルギー・環境問題と政策対応：発表並びに討論（8）	・報告担当者は、レジュメを作成し発表の準備をしてください。 ・その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連する書籍や新聞記事などを読んでおいてください。 ・授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておく和良好的でしょう。	4 時間
第13回	対面	エネルギー・環境問題と政策対応：発表並びに討論（9）	・報告担当者は、レジュメを作成し発表の準備をしてください。 ・その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連する書籍や新聞記事などを読んでおいてください。 ・授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておく和良好的でしょう。	4 時間
第14回	対面	レポートの書き方：テーマ設定から仮説の設定まで	・オンデマンド動画の資料を丁寧に読んでください。 ・「経済学部生のためのレポート作成要領」を読んで参考文献リストの作成方法を確認してください。	4 時間
第15回	対面	まとめ	・今学期の振り返り	4 時間

科目名	演習Ⅱ A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	二替 大輔	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	産業組織論・企業経済学（応用） ー産業組織論・企業経済学に基づいた企業行動の分析ー		
授業の目的及び概要	本演習では、ミクロ経済学の応用としての産業組織論・企業経済学に基づいた企業行動の分析の応用を学んでいきます。演習では、テキストを輪読することにより、応用的な知識を習得したあとで、グループで興味のある内容について調査し、発表してもらいます。それをもとにして、討論を行います。最終的に、その経済現象を産業組織論・企業経済論の理論を用いた分析についてレポートをまとめプレゼンテーションを行います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この演習は、以下のことを目標とします。 1. 産業組織論・企業経済学に関する応用的知識を修得する。 2. 1 で修得した知識をもとにして、現実起こっている産業・企業に関する経済現象についてまとめモデルを用いた分析ができるようになる。 3. 分析結果を文章にまとめ、それをわかりやすくプレゼンテーションできるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題については、Learning Portal を用いて、添削・採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	産業組織とビジネスの経済学，花園誠，有斐閣，2018 年	ISBN	9784641150591
参考書	①産業組織のエッセンス，明城聡・大西宏一郎，有斐閣，2022 年 ②経営の経済学，丸山雅祥，有斐閣，2017 年 ③ミクロ経済学（第 3 版），伊藤元重，日本評論社，2018 年 ④1 からの流通論（第 2 版），石原武政・竹村正明・細井謙一（編著），中央経済社，2018 年 ⑤1 からのマーケティング（第 4 版），石井淳蔵・廣田章光・清水信年（編著），中央経済社，2019 年 ⑥この一冊で全部わかるビジネスモデル基本・成功パターン・作り方が一気に学べる，根来龍之・富樫佳織・足代訓史，SB クリエイティブ，2020 年 ⑦経済論文の書き方，経済セミナー編集部（編），日本評論社，2022 年 その他，参加者の興味に応じて適宜参考文献を紹介します。	ISBN	①9784641151000 ②9784641164956 ③9784535558441 ④9784502283611 ⑤9784502327711 ⑥9784797392777 ⑦9784535540422
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	本演習は、ミクロ経済学、ゲーム理論の基本的な知識を必要とします。 企業の行動、ビジネスに関するニュースに常に注意を払ってください。 授業時間外に適宜、グループ内でグループ研究に関する議論を行ってください。 演習には積極的に参加して、報告資料、プレゼンテーションの見直しを継続的に行ってください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	【予習】シラバスを事前によく読んでおいてください。 【復習】ガイダンスの内容について復習してください。	2時間
第2回	対面	産業組織論・企業経済学の分析手法（1）	【予習】テキストの該当箇所を読んで疑問点をまとめておいてください。報告担当者は資料を準備してください。 【復習】理解できた内容および疑問が残った内容をまとめておいてください。	4時間
第3回	対面	産業組織論・企業経済学の分析手法（2）	【予習】テキストの該当箇所を読んで疑問点をまとめておいてください。報告担当者は資料を準備してください。 【復習】理解できた内容および疑問が残った内容をまとめておいてください。	4時間
第4回	対面	産業組織論・企業経済学の分析手法（3）	【予習】テキストの該当箇所を読んで疑問点をまとめておいてください。報告担当者は資料を準備してください。 【復習】理解できた内容および疑問が残った内容をまとめておいてください。	4時間
第5回	対面	産業組織論・企業経済学の分析手法（4）	【予習】テキストの該当箇所を読んで疑問点をまとめておいてください。報告担当者は資料を準備してください。 【復習】理解できた内容および疑問が残った内容をまとめておいてください。	4時間
第6回	対面	産業組織論・企業経済学の分析手法（5）	【予習】テキストの該当箇所を読んで疑問点をまとめておいてください。報告担当者は資料を準備してください。 【復習】理解できた内容および疑問が残った内容をまとめておいてください。	4時間
第7回	対面	産業組織論・企業経済学の分析手法（6）	【予習】テキストの該当箇所を読んで疑問点をまとめておいてください。報告担当者は資料を準備してください。 【復習】理解できた内容および疑問が残った内容をまとめておいてください。	4時間
第8回	対面	前半のまとめ	【予習】前半に学修した分析手法を用いて、現実に行っている産業・企業に関する経済現象の分析を行ってください。 【復習】発表内容に対する質問、コメントをもとに分析を見直してください。	4時間
第9回	対面	産業組織論・企業経済学の分析手法（7）	【予習】テキストの該当箇所を読んで疑問点をまとめておいてください。報告担当者は資料を準備してください。 【復習】理解できた内容および疑問が残った内容をまとめておいてください。	4時間

第10回	対面	産業組織論・企業経済学の分析手法（8）	【予習】テキストの該当箇所を読んで疑問点をまとめておいてください。報告担当者は資料を準備してください。 【復習】理解できた内容および疑問が残った内容をまとめておいてください。	4 時間
第11回	対面	産業組織論・企業経済学の分析手法（9）	【予習】テキストの該当箇所を読んで疑問点をまとめておいてください。報告担当者は資料を準備してください。 【復習】理解できた内容および疑問が残った内容をまとめておいてください。	4 時間
第12回	対面	産業組織論・企業経済学の分析手法（10）	【予習】テキストの該当箇所を読んで疑問点をまとめておいてください。報告担当者は資料を準備してください。 【復習】理解できた内容および疑問が残った内容をまとめておいてください。	4 時間
第13回	対面	産業組織論・企業経済学の分析手法（11）	【予習】テキストの該当箇所を読んで疑問点をまとめておいてください。報告担当者は資料を準備してください。 【復習】理解できた内容および疑問が残った内容をまとめておいてください。	4 時間
第14回	対面	後半のまとめ	【予習】後半に学修した分析手法を用いて、現実に行っている産業・企業に関する経済現象の分析を行ってください。 【復習】発表内容に対する質問、コメントをもとに分析を見直してください。	4 時間
第15回	オンデマンド	全体のまとめ	【予習】これまで調査した経済現象についてまとめておいてください。 【復習】テキストで学んだことを復習してください。	6 時間

科目名	演習Ⅱ A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	姜 興起	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	データを踏まえた社会経済変化過程の探索や現状の理解		
授業の目的及び概要	本演習の目的は、社会経済に関するデータを用いて、社会や経済の変化過程および現状を理解し、その内容を自分の言葉で説明・報告できる力を養うことです。新聞記事やインターネット上の情報に加え、政府や公的機関が公開している統計データを実際に確認しながら、社会経済がこれまでどのように変化してきたのか、現在どのような状況にあるのかについて考察します。本演習では、社会経済データの基本的な種類や特徴、表やグラフの読み取り方、時系列データや地域別データを用いた基礎的な分析方法を扱います。難しい数理的手法の習得を目的とせず、データを見る姿勢、問いを立てる力、図表を用いて分かりやすく説明する力を重視します。前期を通じて、データに基づく基礎的な分析と短い報告を経験し、後期（演習ⅡB）における発展的な分析・報告へとつなげます。		
履修条件・留意点	本演習では、社会経済の動きをデータに基づいて理解し、考察し、報告することを重視します。特別な数学的知識や高度なプログラミング技能は必須ではないが、授業内外での主体的な調査・準備を求めます。新聞記事やインターネット上の情報にとどまらず、データを確認しながら考える姿勢を大切にすること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本演習を通じて、学生は以下の点を達成することを目標とします。 1. 社会経済に関する関心や問題意識を持ち、データに基づいて課題を設定するとともに、データを用いる意義を理解できるようになる。 2. 社会経済データの基本的な種類や特徴を理解し、表やグラフを用いてデータの内容を適切に読み取ることができるようになる。 3. 時系列データや地域別データなどを用いて、社会経済の変化過程や現状について基礎的な分析・考察ができるようになる。 4. 収集したデータや資料を整理し、図表やスライドを用いて分かりやすくまとめることができるようになる。 5. 自らの考察を他者に伝えるために、論理的に説明し、質疑応答に対応する基礎的な報告能力を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	検討・報告内容については、授業内でコメントおよび助言を行います。提出課題については、コメントを付して返却します。必要に応じて、電子メール等を通じて補足的な指導や討議を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは使用しません。	ISBN	なし
参考書	参考書等については適時に指示します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	35	
	成果発表（口頭・実技）	25	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	その他 (%)	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	原則として毎回出席すること。やむを得ない事情を除き、欠席が多い場合は成績評価に反映します。主体的な準備と積極的な発言・討論参加が求められます。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス：自己紹介、ゼミの目的、進め方、報告の進め方	【予習】シラバスなどの関連資料を事前に読んでおいてください。 【復習】課題を立てるための資料を収集して学習すること。	4時間
第2回	対面	前年度の学生研究発表大会の動画を視聴したうえで、本授業を通して取り組むテーマや課題について討議します。	【予習】動画視聴およびレポート作成の準備をしておいてください。 【復習】配布資料を読み、次回の授業に向けた準備をしておいてください。	4時間
第3回	対面	社会経済データの種類と特徴（マクロ経済、人口、労働、地域データ等）	【予習】配布資料で学習すること。 【復習】配布資料を読んで次回のための準備をしておいてください。	4時間
第4回	対面	データの基本的な見方：表・グラフから読み取れること	【予習】配布資料を読み、表やグラフの例を確認しておいてください。 【復習】授業で扱ったデータを見直し、気づいた点を整理すること。	4時間
第5回	対面	社会経済の長期的変化の把握（時系列データの例）	【予習】配布資料を用いて時系列データの基本的な見方を確認してください。 【復習】授業で扱ったデータを用いて変化の特徴を整理すること。	4時間
第6回	対面	現状分析の考え方：最近のデータから何が言えるか	【予習】最新の社会経済データを確認しておいてください。 【復習】授業内容を踏まえて、現状について簡単に整理すること。	4時間
第7回	対面	地域比較・時点比較の方法	【予習】配布資料を読み、比較の視点を確認しておいてください。 【復習】地域や時点の違いについて気づいた点を整理すること。	4時間
第8回	対面	課題テーマの設定方法（問いの立て方）	【予習】これまでの内容を振り返り、関心のあるテーマを考えておいてください。 【復習】担当テーマを仮決定し、必要なデータを検討すること。	4時間
第9回	対面	各自テーマのデータ収集と整理	【予習】テーマに関連するデータを事前に探しておいてください。 【復習】収集したデータを整理し、次回の分析に備えること。	4時間
第10回	対面	データを用いた考察の進め方	【予習】収集したデータを見直しておいてください。 【復習】考察のポイントを整理し、報告内容を検討すること。	4時間
第11回	対面	報告資料（図表・スライド）の作成方法	【予習】報告用資料の構成を考えておいてください。 【復習】資料を修正・改善し、報告準備を進めること。	4時間
第12回	対面	ミニ報告①（報告と質疑）	【予習】報告資料を完成させ、発表準備を行ってください。 【復習】他の学生の報告を振り返り、自身の内容を見直すこと。	4時間
第13回	対面	ミニ報告②（報告と質疑）	【予習】報告資料を完成させ、発表準備を行ってください。 【復習】他の学生の報告を振り返り、自身の内容を見直すこと。	4時間

第14回	対面	ミニ報告③（報告と質疑）	【予習】報告内容の最終確認を行ってください。 【復習】質疑を踏まえて報告内容を整理すること。	4 時間
第15回	オンデマンド	前期のまとめと後期（演習ⅡB）への展望, レポートの作成	【予習】全体の授業内容を整理し、レポートにまとめてください。 【復習】後期に取り組みたいテーマについて考えること。	4 時間

科目名	演習Ⅱ B		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	久米 高史		配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G3		授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	比較経済史(貿易・内需・経済成長などをめぐる日本と欧米の比較史)②			
授業の目的及び概要	担当教員の専攻分野は経済史(日本経済史・アジア経済史・比較経済史)です。経済史と聞くと「ああ歴史か」と思われるかも知れませんが、経済を数十年や 100 年といった長期的なスパンで分析することによって、そこから得られた知見を未来に活かすことのできる学問です。この演習では、経済の長期的分析に関わる専門知識を学修します。春学期には、演習Ⅰでも使用した岩波講座『日本経済の歴史』の現代のパートを輪読し、第二次世界大戦後から現在までの日本経済の長期分析を学修します。また経済発展とイノベーションに関する理論として、シュンペーターの『経済発展の理論』も併せて学修します。秋学期には、「学生研究発表大会」に出場します。「大会」への出場を通して、専門知識の実践的応用を学修します。大会終了後は、卒業論文に向けての個人の卒業研究を開始します。			
履修条件・留意点	本演習を履修すると、あなたの専攻分野は「経済史」ということになります。「歴史」のイメージを「長期的分析」と置き換えて、自身の専攻分野を意識して学修することを求めます。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針(DP)との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	3 年次の演習Ⅱ Bにおける目標は、①演習Ⅱ Aに引き続き、経済史にも理論があり、その理論とは何かを理解し修得すること、②一つのテーマを選択して「学生研究発表大会」に出場すること、③卒業研究を開始して 2000 字のレポートにまとめること、の 3 点です。こうして 4 年次の卒業論文につなげていきます。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	毎回の授業の中で、補足解説と報告に対する講評を行います。			
アクティブ・ラーニング の取組み	PBL(課題解決型学習)／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	平口良司(2022 年)『入門・日本の経済成長』日本経済新聞出版 第 2 部の第 6～9 章がデータ分析に必要な理論ですので、6 回目の授業までは授業の冒頭で解説を行います。	ISBN	9784296113767	
参考書	特にありませんが、必要に応じて適宜紹介します。	ISBN	なし	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0		
	成果発表(口頭・実技)	50		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験(対面)	0		
	その他(%)	20		
	その他の内容	学生研究発表大会への取り組み		
この科目の受講にあたって	遅刻及び発表の課題忘れは厳禁。履修者は自身がゼミの一員であることを自覚し、責任感を持って授業に参加すること。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間

第1回	対面	夏期休暇中に考えてきてもらった学生研究発表大会のテーマについて、グループまたは個人単位で報告していただきます。	夏期休暇中にしっかりと準備しておく。	4 時間
第2回	対面	①『入門・日本の経済成長』第4章のコブ・ダグラス型生産関数についての解説 ② 学生研究発表大会の準備作業(1)	グループごとにテーマを決め、参考文献やデータを収集する。	4 時間
第3回	対面	①『入門・日本の経済成長』第4章の生産性の測定、経済成長率の求め方についての解説 ② 学生研究発表大会の準備作業(2)	グループごとにテーマを決め、参考文献やデータを収集し、それらを吟味する。	4 時間
第4回	対面	①『入門・日本の経済成長』第5章の経済成長の方程式、資本蓄積に関する方程式についての解説 ② 学生研究発表大会の準備作業(3)	グループごとにテーマを決め、参考文献やデータを収集し、それらを吟味する。	4 時間
第5回	対面	①『入門・日本の経済成長』第6章 人口の変化と経済成長 の解説 ② 学生研究発表大会の準備作業(4)	吟味した文献やデータを基に、Power Point のスライドショーの作成にかかる。	4 時間
第6回	対面	①『入門・日本の経済成長』第7章 人的資本と経済成長 の解説 ② 学生研究発表大会のリハーサル(1)	学生研究発表大会の報告準備をする。	4 時間
第7回	対面	①『入門・日本の経済成長』第8章 生産性と経済成長 の解説 ② 学生研究発表大会のリハーサル(2)	学生研究発表大会の報告準備をする。	4 時間
第8回	対面	①『入門・日本の経済成長』第9章 格差と成長 の解説 ② 学生研究発表大会のリハーサル(3)	学生研究発表大会の報告準備をする。	4 時間
第9回	対面	第8講までで実施したリハーサルを踏まえて、改善すべき点を修正する作業を行う。	学生研究発表大会の報告準備をする。	4 時間
第10回	対面	学生研究発表大会の振り返り(1)	学生研究発表大会での報告を振り返り、今後の卒業論文作成に向けての研究に活かす。	4 時間
第11回	対面	学生研究発表大会の振り返り(2)	学生研究発表大会での報告を振り返り、今後の卒業論文作成に向けての研究に活かす。	4 時間
第12回	対面	卒業研究のテーマの決定(1)	卒業研究のテーマを決め、参考文献やデータを収集し、その概略を考える。	4 時間
第13回	対面	卒業研究のテーマの決定(2)	卒業研究のテーマを決め、参考文献やデータを収集し、その概略を考える。	4 時間
第14回	対面	決定した卒業研究のテーマについての報告	・卒業論文のタイトルを決め、論文によって自分は何を言いたいのかを明確にし、他人に説明できるようにする。 ・自分が選んだテーマに関する先行研究をきちんと調べ、それを踏まえて自分の研究にはどのような意義があるのかを2000字レポートに反映できるようにする。	4 時間
第15回	オンデマンド	オンデマンドで、1年間の振り返りと総括を行います。次年度の卒業論文執筆に向けて、執筆要領を再確認します。	2000字レポートを完成させる。	4 時間

科目名	演習Ⅱ B		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	米山 秀隆		配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G3		授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	都市・地域から日本経済の課題を考える			
授業の目的及び概要	この演習では、日本経済が直面する様々な課題のうち、都市・地域分野を主たるターゲットとし、必要な知識と課題発見能力、調査・分析力を身に付けることを目指します。都市・地域の現状を、「人口移動」、「高齢化」、「都市再生」、「地域活性化」、「地方行政」、「観光振興」、「住宅・土地市場」などの側面から学び、課題を分析していきます。そうした過程で、4 年次の卒業論文で取り組むべき課題を各自見つけていきます。また、演習での報告、ディスカッションやグループワークを通じ、社会人として必要な基礎能力やコミュニケーション能力を高めていきます。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	・文献の要点をまとめ、報告できる。 ・報告に対し互いに意見を述べ、議論できる。 ・都市・地域の現状を理解し、課題を抽出できる。 ・グループワークで課題の調査・分析を行い、結果をとりまとめ、報告できる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	報告内容に対し、授業内でコメント、アドバイスします。課題に対しては、コメントを付けて返却します。			
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	テキストは使用しません。		ISBN	なし
参考書	①縮小まちづくり，米山秀隆，時事通信社，2018 年 ②アフターコロナの都市と住まい，米山秀隆，プログレス，2021 年		ISBN	①9784788715479 ②9784910288109
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		25	
	成果発表（口頭・実技）		25	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	積極的な報告、発言、議論を心掛け、演習での学びを実りあるものにしていきましょう。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	演習の内容・進め方、春学期の復習	【予習】 Learning Portal に掲載する配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】 授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理して下さい。	4 時間

第2回	対面	グループワーク1：調査・分析	【予習】グループワークに向けて、必要な準備をしておいて下さい。 【復習】グループワークの結果を整理し、次回に向けた作業に取り組んで下さい。	4時間
第3回	対面	グループワーク2：調査・分析	【予習】グループワークに向けて、必要な準備をしておいて下さい。 【復習】グループワークの結果を整理し、次回に向けた作業に取り組んで下さい。	4時間
第4回	対面	グループワーク3：調査・分析	【予習】グループワークに向けて、必要な準備をしておいて下さい。 【復習】グループワークの結果を整理し、次回に向けた作業に取り組んで下さい。	4時間
第5回	対面	グループワーク4：調査・分析、中間報告準備	【予習】グループワークに向けて、必要な準備をしておいて下さい。 【復習】グループワークの結果を整理し、次回に向けた作業に取り組んで下さい。	4時間
第6回	対面	グループワーク5：中間報告	【予習】中間報告の準備をしておいて下さい。 【復習】中間報告での議論の結果を整理し、次回に向けた作業に取り組んで下さい。	4時間
第7回	対面	グループワーク6：追加の調査・分析	【予習】グループワークに向けて、必要な準備をしておいて下さい。 【復習】グループワークの結果を整理し、次回に向けた作業に取り組んで下さい。	4時間
第8回	対面	グループワーク7：追加の調査・分析、最終報告準備	【予習】グループワークに向けて、必要な準備をしておいて下さい。 【復習】グループワークの結果を整理し、次回に向けた作業に取り組んで下さい。	4時間
第9回	対面	グループワーク8：最終報告	【予習】最終報告の準備をしておいて下さい。 【復習】最終報告での議論の結果を整理して下さい。	4時間
第10回	対面	個人課題研究1：個人の課題（卒業論文テーマ）決定、 テーマの概要に関するレポートの書き方	【予習】自分が卒業論文として取り組みたい課題を考えておいて下さい。 【復習】課題に関する情報収集を行って下さい。	4時間
第11回	対面	個人課題研究2：調査・分析	【予習】収集した情報について説明できるよう準備しておいて下さい。 【復習】情報を整理・分析し、レポートで書きたい骨子を考えて下さい。	4時間
第12回	対面	個人課題研究3：レポート作成	【予習】レポートのドラフトを準備しておいて下さい。 【復習】レポートの手直しを行って下さい。	4時間
第13回	対面	個人課題研究4：レポート提出	【予習】レポートを提出できるように準備しておいて下さい。 【復習】授業で得た知識、情報、自分で考えたことなどを整理して下さい。	4時間
第14回	対面	レポート返却及び演習のまとめ	【予習】演習全体の内容を振り返り、良かった点、反省点などを考えておいて下さい。 【復習】演習全体で得た知識、情報、自分で考えたことなどを整理して下さい。	4時間
第15回	オンデマンド	都市・地域経済の最新状況と課題	【予習】配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理して下さい。	4時間

科目名	演習Ⅱ B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	藤田 峻	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	ゲーム理論と行動経済学（応用） ーゲーム理論・行動経済学で戦略的行動を考えるー		
授業の目的及び概要	本科目ではゲーム理論や行動経済学を応用して、身近な現象から大規模な社会問題まで、様々な社会現象・社会問題を考えます。 ゲーム理論や行動経済学は、多様な社会現象・社会問題を分析することが可能です。たとえば、労使関係や、ライバル企業との競争関係なども考えられますし、様々な政策の効果や個人の意思決定も分析できます。 理論的な分析を行うと、様々な疑問に答えを得ることができます。たとえば、新卒採用で業務と直接関係ない資格取得やボランティアの経験が評価される場合があるのはなぜでしょうか。航空券は出発直前になるほど高額になるのに、東京スカイツリーの展望台入場券は当日券の方が安いのはなぜでしょうか。夏休みの宿題を計画通りに進められないのはなぜでしょうか。どうすれば年金保険料の未納率を下げるができるようになるのでしょうか。 ゲーム理論や行動経済学は、このような疑問への答えを考えるために便利な道具です。本科目では卒業研究のために、主にゲーム理論を用いた戦略的思考を学び、これを活用する能力を養うことを目的とします。このため授業ではゲーム理論を学びつつ、どのような状況に理論を応用できるか考える練習を受講者のプレゼンテーションを中心にを行います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. ゲーム理論および行動経済学の基礎知識を修得する 2. 学修した理論を現実の様々な現象に応用できる 3. 社会問題・社会現象等に対してゲーム理論または行動経済学の考え方を適用し、他者と協働しながら自分の考えを整理して発信する能力を身につけ、卒業研究を行う準備ができています 4. 他者と協力して研究活動に取り組むことができる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	グループまたは個人による研究報告に対するコメントを通じてフィードバックを行います。また、グループワークの作業を授業中に進める場合には、適宜進捗を確認しながらフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。 必要な資料等は授業中に配付・紹介します。	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	ゲーム理論を学ぶと、意思決定の基準とする直感や経験に対して、論理的な根拠を与えることができるようになります。さらに自分が置かれている状況を整理する能力を鍛えることもできるので、意思決定を助けるツールとして、社会に出てからも役に立つでしょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	・シラバスの確認 ・夏休みの振り返り ・秋学期の目標設定 ・グループワークの計画検討	4時間
第2回	対面	グループワーク1	学生研究発表大会に向けた準備	4時間
第3回	対面	グループワーク2	学生研究発表大会に向けた準備	4時間
第4回	対面	グループワーク3	学生研究発表大会に向けた準備	4時間
第5回	対面	グループワーク4	学生研究発表大会に向けた準備	4時間
第6回	対面	グループワーク5	学生研究発表大会に向けた準備	4時間
第7回	対面	グループワーク6	学生研究発表大会に向けた準備	4時間
第8回	対面	グループワーク7	学生研究発表大会に向けた準備	4時間
第9回	対面	グループワーク8	学生研究発表大会に向けた準備	4時間
第10回	対面	学生研究発表大会に向けた最終調整	学生研究発表大会に向けた準備	4時間
第11回	対面	卒業論文のテーマ検討	学生研究発表大会での経験をもとに、卒業論文のテーマ検討を進めてください。	4時間
第12回	対面	研究計画の策定1 （卒業論文テーマの考え方、期末レポートの書き方）	・卒業論文のテーマの検討 ・テーマに関する文献調査 ・期末レポートの執筆	4時間
第13回	対面	研究計画の策定2	・卒業論文のテーマの検討 ・テーマに関する文献調査 ・期末レポートの執筆	4時間
第14回	対面	まとめ	期末レポートの執筆	4時間
第15回	オンデマンド	学生研究発表大会への参加と振り返り	学生研究発表大会後に振り返りを行ってください。	4時間

科目名	演習Ⅱ B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	畑佐 伸英	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	国際経済の課題と政策対応		
授業の目的及び概要	グローバル化の進展が目覚ましい昨今にあって、たとえ一国内の問題であったとしても、広く国際社会や他国の政治・経済へとその影響が波及していく事態は、決して珍しい現象ではなくなっている。まさにグローバル経済の真ただ中にある日本並びに他のあらゆる地域や国々は、時にこうした国際化の波に直面しながら、様々な経済問題や課題と向き合っている。本講義では、このような世界経済に関連する諸課題を見つけ、その本質を解明していく作業を、各自の調査・発表と全体での議論・討論を通して行っていく。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	日本を含む世界各国・地域や国際社会が直面している経済問題について、自ら情報収集し考察していく中で、課題発見能力と分析力を磨いていく。また、各自でレジュメや資料を準備して発表してもらい、それらをもとに皆で議論していくことで、プレゼン力やコミュニケーション能力も獲得していく。最終的には、レポートという形で文章にまとめていくことで構成力や表現力、文章力を高めていくと共に、次年時の卒業レポートや卒業論文の執筆につなげていく。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表内容については、授業の中で解説及び講評します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは利用しない。	ISBN	なし
参考書	随時、授業の中で紹介します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	「国際経済学」「国際金融論」「開発経済論」などの国際経済に広く関連する科目を受講しておくことが望ましい。また、「アジア経済概論」「中国経済論」「アメリカ経済論」など、世界のあらゆる国や地域の経済について学が講義を履修しておくこともお勧める。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 演習の進め方、報告担当箇所の割り振り。	自分が取り上げたテーマや課題について、関連する新聞やニュース記事などに目を通して、最新の情報を収集しておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくといいでしょう。	4 時間

第2回	対面	国際経済の課題と政策対応：発表の準備 (1)	自分が取り上げたテーマや課題について、情報をアップデートしておくとともに、その対応策や解決手段について考えておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第3回	対面	国際経済の課題と政策対応：発表の準備 (2)	自分が取り上げたテーマや課題について、情報をアップデートしておくとともに、その対応策や解決手段について考えておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第4回	対面	国際経済の課題と政策対応：発表並びに討論(1)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第5回	対面	国際経済の課題と政策対応：発表並びに討論(2)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第6回	対面	国際経済の課題と政策対応：発表並びに討論(3)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第7回	対面	国際経済の課題と政策対応：発表並びに討論(4)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第8回	対面	国際経済の課題と政策対応：発表並びに討論(5)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第9回	対面	国際経済の課題と政策対応：発表並びに討論(6)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第10回	オンデマンド	国際経済の課題と政策対応：課題レポートの執筆	研究テーマについて、口頭発表で作成したパワーポイント資料の内容を参考にして、課題レポートの作成に取り組んでください。授業で学んだことや思っ	4 時間

			たこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	
第11回	対面	国際経済の課題と政策対応：発表並びに討論(7)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第12回	対面	国際経済の課題と政策対応：発表並びに討論(8)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第13回	対面	国際経済の課題と政策対応：発表並びに討論(9)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第14回	対面	国際経済の課題と政策対応：発表並びに討論(10)	報告担当者は、パワーポイントを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第15回	対面	まとめ並びに総括	これまでの学習を振り返って、学んだこと、分かったこと、発見したこと、難しかったこと、興味や関心を抱いたこと、などについて考えておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間

科目名	演習ⅡB	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	朱 東平	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	日本経済の課題を考える		
授業の目的及び概要	この演習は、専門知識・能力の高度化を図る科目です。演習では、主要な新聞（とくに「日本経済新聞」）や雑誌の経済記事に対して問題提起と討論を行うことによって、皆さんがこれまでに修得してきたさまざまな専門知識、とくにマクロ経済学とミクロ経済学の基礎知識を日本経済の分析に応用することに重点をおきます。この授業を受講することにより、経済学部を卒業した社会人として持つべき経済学的思考を身につけることを目的としています。 演習ⅡB では、演習ⅡA で各自が選定した研究テーマを深く掘り下げていくように指導を行います。		
履修条件・留意点	この授業科目は、履修条件を設けておりませんが、授業への出席に留意してください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この演習は、以下のことを目標とします。 1. 1 年次と 2 年次に修得した経済学の基礎理論をさまざまな現実問題の分析に応用することができる。 2. 上記の目標を目指す中で、卒業論文のテーマを選定し、そのための資料収集を行うことができる。 3. ゼミの報告と討論を通して、一社会人として、また、就職活動にも必要なプレゼン能力やコミュニケーション能力を身につけることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	優秀なレポートは、授業中に紹介します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	ラーニングポータルで配布される資料を用いて事前・事後学修に活用してください。	ISBN	なし
参考書	予習・復習に役立つ教材として、報告内容に応じて以下の参考書の関連内容について理解するようにしてください。 ①ミクロ経済学（第 3 版）、伊藤元重，日本評論社，2018 年 ②入門マクロ経済学（第 5 版），中谷巖，日本評論社，2007 年	ISBN	①9784535558441 ②9784535555136
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	皆で楽しく勉強できるゼミを作っていきましょう。 経済学的な分析は、ミクロ経済学やマクロ経済学など基礎理論のもとで行われます。そのた		

め、受講生には、この2科目の履修を望みます。ただし、演習でも必要に応じて指導しますので、とくに予備知識をもたなければ履修できないことはありません。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	秋学期の目標を設定しましょう ・春学期の成長した点、秋学期の目標について話し合います。 （授業の進行状況と皆さんの希望に応じて、以下の内容を変更することもある）	・春学期の成長した点、秋学期の目標について考えてください。	3時間
第2回	対面	より多くの文献を読む① ・演習ⅡAで選定した研究テーマへの理解を深めていきます。	・次回の授業までに、演習ⅡAで選定した研究テーマを中心に文献を整理し追加したうえで、レジユメを作成してください。 ・授業終了後は、発表の結果に基づいてレジユメを修正してください。	4時間
第3回	対面	より多くの文献を読む② ・演習ⅡAで選定した研究テーマへの理解を深めていきます。	・次回の授業までに、演習ⅡAで選定した研究テーマを中心に文献を整理し追加したうえで、レジユメを作成してください。 ・授業終了後は、発表の結果に基づいてレジユメを修正してください。	4時間
第4回	対面	より多くの文献を読む③ ・演習ⅡAで選定した研究テーマへの理解を深めていきます。	・次回の授業までに、演習ⅡAで選定した研究テーマを中心に文献を整理し追加したうえで、レジユメを作成してください。 ・授業終了後は、発表の結果に基づいてレジユメを修正してください。	4時間
第5回	対面	より多くの文献を読む④ ・演習ⅡAで選定した研究テーマへの理解を深めていきます。	・次回の授業までに、演習ⅡAで選定した研究テーマを中心に文献を整理し追加したうえで、レジユメを作成してください。 ・授業終了後は、発表の結果に基づいてレジユメを修正してください。	4時間
第6回	対面	より多くの文献を読む⑤ ・演習ⅡAで選定した研究テーマへの理解を深めていきます。	・次回の授業までに、演習ⅡAで選定した研究テーマを中心に文献を整理し追加したうえで、レジユメを作成してください。 ・授業終了後は、発表の結果に基づいてレジユメを修正してください。	4時間
第7回	対面	期末レポートの作成① ・期末レポートをまとめていきます。	・発表時に受けた指導に基づき、文献研究を深め、これまでの研究成果を期末レポートとしてまとめてください。 ・授業終了後は、発表の結果に基づいてレジユメを修正してください。	4時間
第8回	対面	期末レポートの作成② ・期末レポートをまとめていきます。	・発表時に受けた指導に基づき、文献研究を深め、これまでの研究成果を期末レポートとしてまとめてください。 ・授業終了後は、発表の結果に基づいてレジユメを修正してください。	4時間
第9回	対面	期末レポートの作成③ ・期末レポートをまとめていきます。	・発表時に受けた指導に基づき、文献研究を深め、これまでの研究成果を期末レポートとしてまとめてください。 ・授業終了後は、発表の結果に基づいてレジユメを修正してください。	4時間
第10回	オンデマンド	学生研究発表大会の参加	学生研究発表大会の参加に向け、発表資料を修正し、レジユメを読み上げるだけの発表にならないよう準備を行ってください。	4時間
第11回	対面	期末レポートの作成④ ・期末レポートをまとめていきます。	・発表時に受けた指導に基づき、文献研究を深め、これまでの研究成果を期末レポートとしてまとめてください。	4時間

			・授業終了後は、発表の結果に基づいてレジюмеを修正してください。	
第12回	対面	期末レポートの作成⑤ ・期末レポートをまとめていきます。	・発表時に受けた指導に基づき、文献研究を深め、これまでの研究成果を期末レポートとしてまとめてください。 ・授業終了後は、発表の結果に基づいてレジюмеを修正してください。	4 時間
第13回	対面	期末レポートの作成⑥ ・期末レポートをまとめていきます。	・発表時に受けた指導に基づき、文献研究を深め、これまでの研究成果を期末レポートとしてまとめてください。 ・授業終了後は、発表の結果に基づいてレジюмеを修正し、期末レポートとして完了してください。	5 時間
第14回	対面	期末レポートの作成⑦ ・期末レポートをまとめていきます。	・発表時に受けた指導に基づき、文献研究を深め、これまでの研究成果を期末レポートとしてまとめてください。 ・授業終了後は、発表の結果に基づいてレジюмеを修正し、期末レポートとして完了してください。	5 時間
第15回	対面	まとめ ・授業全般にわたる総括を行います。	・これまでの成果物を事前に読んで、現時点での到達点と不足する点など、自らの成長ぶりを確認してください。 ・今年度の学修成果を踏まえ、次年度の目標について考えてください。	4 時間

科目名	演習Ⅱ B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	楊 倩倩	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	労働市場と地域政策の経済分析（応用）		
授業の目的及び概要	演習Ⅱでは、労働市場や地域政策に関するテーマについて、より専門的な調査・分析を行います。 前半では、経済論文の書き方や基礎的なデータ分析に関する文献を輪読し、文献の整理方法、データ分析の進め方、考察のまとめ方を段階的に習得し、卒業論文の執筆に備えます。 後半では、学生一人ひとりが設定した研究テーマに基づいて報告や議論を重ね、経済学的な思考力を養いながら、卒業論文の執筆を見据えて自身の研究を段階的に深めていくことを目的とします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	(1) 経済論文の構成や書き方など、論文執筆の基本を理解し、自分の研究に活かすことができる。 (2) コンピュータを用いた基礎的なデータ分析手法を身につけ、自分の研究テーマに応じて活用することができる。 (3) 文献輪読やディスカッションを通じて、課題を発見し、論理的に思考し、適切に表現できる。 (4) 自分の興味・関心に基づいて研究テーマを設定し、独自の視点から調査・分析を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	グループまたは個人による研究報告に対するコメントを通じてフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。必要な資料等は授業中に配布・紹介します。	ISBN	なし
参考書	参考書は授業・研究の状況に応じて適宜紹介します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	演習Ⅱでは、自分の関心に基づいて主体的に研究テーマに取り組む姿勢が求められます。ゼミでの報告や議論を通じて、試行錯誤しながら研究を進めていきます。 すぐに完成度の高い成果を求めるのではなく、調査・分析・修正を繰り返しながら研究を深めていく過程を大切に、継続的に取り組むことを期待しています。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	ガイダンス（春学期演習の振り返り、演習の内容・進め方）	【予習】春学期の演習を振り返り、ご自身が設定した研究テーマ（問題意識）について、もう一度考えておいてください。 【復習】秋学期の研究目標を立て、どのような研究を上げたいかを検討してください。	4 時間
第2回	対面	研究の進捗発表	【予習】各自の研究テーマを中心に、先行研究・データ分析・考察などの進捗をまとめ、報告のスライドを準備してください。 【復習】報告を行って受けたコメントをもとに報告資料を修正してください。授業の中で討論した内容をまとめておいてください。	4 時間
第3回	対面	研究の進捗発表	【予習】各自の研究テーマを中心に、先行研究・データ分析・考察などの進捗をまとめ、報告のスライドを準備してください。 【復習】報告を行って受けたコメントをもとに報告資料を修正してください。授業の中で討論した内容をまとめておいてください。	4 時間
第4回	対面	研究の進捗発表	【予習】各自の研究テーマを中心に、先行研究・データ分析・考察などの進捗をまとめ、報告のスライドを準備してください。 【復習】報告を行って受けたコメントをもとに報告資料を修正してください。授業の中で討論した内容をまとめておいてください。	4 時間
第5回	対面	研究の進捗発表	【予習】各自の研究テーマを中心に、先行研究・データ分析・考察などの進捗をまとめ、報告のスライドを準備してください。 【復習】報告を行って受けたコメントをもとに報告資料を修正してください。授業の中で討論した内容をまとめておいてください。	4 時間
第6回	対面	研究の進捗発表	【予習】各自の研究テーマを中心に、先行研究・データ分析・考察などの進捗をまとめ、報告のスライドを準備してください。 【復習】報告を行って受けたコメントをもとに報告資料を修正してください。授業の中で討論した内容をまとめておいてください。	4 時間
第7回	対面	研究の進捗発表	【予習】各自の研究テーマを中心に、先行研究・データ分析・考察などの進捗をまとめ、報告のスライドを準備してください。 【復習】報告を行って受けたコメントをもとに報告資料を修正してください。授業の中で討論した内容をまとめておいてください。	4 時間
第8回	対面	研究の進捗発表	【予習】各自の研究テーマを中心に、先行研究・データ分析・考察などの進捗をまとめ、報告のスライドを準備してください。 【復習】報告を行って受けたコメントをもとに報告資料を修正してください。授業の中で討論した内容をまとめておいてください。	4 時間
第9回	対面	研究の進捗発表	【予習】各自の研究テーマを中心に、先行研究・データ分析・考察などの進捗をまとめ、報告のスライドを準備してください。 【復習】報告を行って受けたコメントをもとに報告資料を修正してください。授業の中で討論した内容をまとめておいてください。	4 時間
第10回	対面	研究の進捗発表	【予習】各自の研究テーマを中心に、先行研究・データ分析・考察などの進捗をまとめ、報告のスライドを準備してください。	4 時間

			【復習】報告を行って受けたコメントをもとに報告資料を修正してください。授業の中で討論した内容をまとめておいてください。	
第11回	対面	研究の進捗発表	【予習】各自の研究テーマを中心に、先行研究・データ分析・考察などの進捗をまとめ、報告のスライドを準備してください。 【復習】報告を行って受けたコメントをもとに報告資料を修正してください。授業の中で討論した内容をまとめておいてください。	4 時間
第12回	対面	研究の進捗発表	【予習】各自の研究テーマを中心に、先行研究・データ分析・考察などの進捗をまとめ、報告のスライドを準備してください。 【復習】報告を行って受けたコメントをもとに報告資料を修正してください。授業の中で討論した内容をまとめておいてください。	4 時間
第13回	対面	研究の進捗発表	【予習】各自の研究テーマを中心に、先行研究・データ分析・考察などの進捗をまとめ、報告のスライドを準備してください。 【復習】報告を行って受けたコメントをもとに報告資料を修正してください。授業の中で討論した内容をまとめておいてください。	4 時間
第14回	対面	研究の進捗発表	【予習】各自の研究テーマを中心に、先行研究・データ分析・考察などの進捗をまとめ、報告のスライドを準備してください。 【復習】報告を行って受けたコメントをもとに報告資料を修正してください。授業の中で討論した内容をまとめておいてください。	4 時間
第15回	オンデマンド	振り返り	オンデマンド動画を視聴し、今学期の振り返りを行ってください。自分の進捗に合わせて研究内容（先行研究・データ分析・考察など）を文章としてまとめておいてください。	4 時間

科目名	演習Ⅱ B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	穴井 佑	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	近世・近代西洋社会経済史		
授業の目的及び概要	演習ⅡA の学修を踏まえたうえで、グループや個人ごとに研究テーマを設定し、個別研究を行います。また、演習ⅡA 同様に近世から近代にかけての西洋社会における貧困問題や産業革命と経済成長に関する基礎的なテキストの輪読も行います。これらの学修を通して、社会経済史研究者が研究を進めるうえで行うプロセスを追体験してもらいます。また、本演習では、GDP・為替レート・金利などの「経済諸指標とその連動についての理解」をサブテーマに設定しています。歴史事象を検討する中で、そうした経済諸指標とその連動の具体例を見出していきます。そうすることで、現代社会の経済の動きを歴史的な観点から考察する力の涵養を目指します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	第一に、社会経済史の手法を理解する。 第二に、一つのテキストをしっかりと「読む」力を養成する。 第三に、スライドやレジュメの作成、ディスカッション、プレゼンテーションなどを通して、テキスト講読から得た知見をまとめ、自身の見解として再構築していくスキルを身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の授業の中で、スライド、レジュメ、プレゼンテーション、ディスカッションに対してコメントをします。質疑応答の時間もその都度確保します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特にありません。授業で用いるテキストはその都度担当教員から配布します。	ISBN	なし
参考書	特にありません。研究を進めるうえで必要な参考書については適宜紹介します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	10	
	その他の内容	個別研究や輪読のスライドあるいはレジュメから判断します。	
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業のイントロダクション（学術的な文章作成の作法、文献の収集、スライドやレジュメの作成、プレゼンテーションの方法など）	【予習】演習ⅡA で学修した、学術的な文章作成の作法、文献収集の方法、スライドやレジュメの作成、プレゼンテーションの方法などを復習しておくこと。	4 時間

		どについての説明をします)を行った後に、グループか個人ごとの研究テーマを設定してもらいます。	また、自分が関心ある研究テーマに関連する文献の調査を行うこと。 【復習】学術的な文章作成の作法、文献収集の方法、スライドやレジュメの作成、プレゼンテーションの方法などを復習すること。また、自分が関心ある研究テーマに関連する文献の調査を行うこと。	
第2回	対面	グループか個人ごとに設定した研究テーマに関連する文献調査・収集を行います。十分な文献が収集でき次第、文献の精読を進めていきます。	【予習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献の調査を行うこと。 【復習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献を精読すること。	4 時間
第3回	対面	グループか個人ごとに設定した研究テーマに関連する文献調査・収集を行います。十分な文献が収集でき次第、文献の精読を進めていきます。	【予習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献の調査を行うこと。 【復習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献を精読すること。	4 時間
第4回	対面	研究に必要な文献を精読しつつ、グループあるいは個人で研究報告に向けた作業を進めます(研究テーマに関するディスカッションやスライドなどの作成)。	【予習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献を精読すること。 【復習】文献の精読をすすめてつ、そこから得られた知見を自身の研究に反映できるよう整理すること。	4 時間
第5回	対面	研究に必要な文献を精読しつつ、グループあるいは個人で研究報告に向けた作業を進めます(研究テーマに関するディスカッションやスライドなどの作成)。	【予習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献を精読すること。 【復習】文献の精読をすすめてつ、そこから得られた知見を自身の研究に反映できるよう整理すること。	4 時間
第6回	対面	研究に必要な文献を精読しつつ、グループあるいは個人で研究報告に向けた作業を進めます(研究テーマに関するディスカッションやスライドなどの作成)。	【予習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献を精読すること。 【復習】文献の精読をすすめてつ、そこから得られた知見を自身の研究に反映できるよう整理すること。	4 時間
第7回	対面	研究に必要な文献を精読しつつ、グループあるいは個人で研究報告に向けた作業を進めます(研究テーマに関するディスカッションやスライドなどの作成)。	【予習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献を精読すること。また、スライドなどの作成を進めること。 【復習】文献の精読をすすめてつ、そこから得られた知見を自身の研究に反映できるよう整理すること。また、スライドの作成を進めること。	4 時間
第8回	対面	研究に必要な文献を精読しつつ、グループあるいは個人で研究報告に向けたスライドを完成させます。	【予習】文献の精読をすすめてつ、そこから得られた知見を自身の研究に反映できるよう整理すること。また、スライドの作成を進めること。 【復習】スライドについてのディスカッションを続け、必要な修正を行うこと。	4 時間
第9回	対面	グループあるいは個人で研究報告に向けたスライドを完成させ、その修正や改善のためのディスカッションとプレゼンテーションの練習を行います。	【予習】スライドについてのディスカッションを続け、必要な修正を行うこと。 【復習】修正や改善のためのディスカッションを行いつつ、プレゼンテーションの練習をすること。	4 時間
第10回	対面	グループあるいは個人での研究報告を行います。また、それぞれの研究に対する質疑応答を行います。	【予習】スライドの修正や改善のためのディスカッションを行いつつ、プレゼンテーションの練習をすること。 【復習】研究報告に対して出された疑問や問題点の改善に努めること。	4 時間
第11回	対面	演習ⅡAで扱った問題の応用的なテキストの輪読を行います。担当者がレジュメを作成して内容紹介をし、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。	【予習】輪読するテキストを事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	4 時間
第12回	対面	テキストの輪読。担当者がレジュメを作成して内容紹介をし、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。	【予習】輪読するテキストを事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	4 時間
第13回	対面	テキストの輪読。担当者がレジュメを作成して内容紹介をし、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。	【予習】輪読するテキストを事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの内容について整理し、理	4 時間

			解を深めること。	
第14回	対面	テキストの輪読。担当者がレジュメを作成して内容紹介をし、それに対して履修者全員でディスカッションを行う。	【予習】輪読するテキストを事前に精読しておくこと。 【復習】輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	4時間
第15回	オンデマンド	これまで輪読してきたテキストの内容についてのまとめをオンデマンドで配信する動画教材で行う。	動画教材を視聴した上で、ラーニングポータル上で配布する資料を中心に輪読したテキストの内容について整理し、理解を深めること。	4時間

科目名	演習Ⅱ B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	張 哲	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	中国経済および国際貿易の実証研究		
授業の目的及び概要	この演習では中国の経済発展を踏まえて、国際貿易における中国の位置付けを読み解きます。授業では資料の輪読を行うほか、研究報告も行います。研究報告のテーマを国際貿易関連と期待しますが、各自関心のあるテーマでも歓迎します。 演習ⅡAの学修を踏まえて、グループまたは個人で研究テーマを設定し、研究を行います。その上、試行錯誤しながら、レポートを仕上げます。また、参考文献の紹介やレポートの発表も求めます。 授業中の討論や研究報告を通して、論理的思考力を鍛えると同時に、プレゼン能力を高めることも期待できます。 さらに資料の取得や分析を通じて、研究や調査の基礎を身に付けることを期待します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	(1) 経済学の知識を深めること。 (2) 資料を読み解ける能力を高めること。 (3) 問題を発見し、解決を試みること。 (4) レポートの作成や発表ができること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中にコメントを通じてフィードバックを行います。授業の最後に質疑応答の時間を設けます。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは使用しない。	ISBN	なし
参考書	現代中国経済論 [第2版], 梶谷懐・藤井大輔（編著）, ミネルヴァ書房, 2018 年	ISBN	9784623082247
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション、授業の進め方について	【予習】シラバスや資料等を事前に確認しておきましょう。	4 時間

			【復習】受講した内容を整理し、理解を深めましょう。	
第2回	対面	文献調査	・研究テーマに関連する文献の調査を行ってください。 ・収集した文献を精読してください。	4 時間
第3回	対面	文献調査	・研究テーマに関連する文献の調査を行ってください。 ・収集した文献を精読してください。	4 時間
第4回	対面	文献調査	・研究テーマに関連する文献の調査を行ってください。 ・収集した文献を精読してください。	4 時間
第5回	対面	文献調査	・研究テーマに関連する文献の調査を行ってください。 ・収集した文献を精読してください。	4 時間
第6回	オンデマンド	レポートの作法について	・動画を視聴の上、レポートの構成を考えてみてください。 ・各章節ではどのような内容を書くかを考えてみましょう。	4 時間
第7回	対面	研究報告の準備	資料の作成と報告の練習	4 時間
第8回	対面	研究報告の準備	資料の作成と報告の練習	4 時間
第9回	対面	研究報告	・討論者は発表予定のレポートを事前に読んでおいてください。 ・発表者に関しては、コメント等を踏まえて修正してみてください。	4 時間
第10回	対面	研究報告	・討論者は発表予定のレポートを事前に読んでおいてください。 ・発表者に関しては、コメント等を踏まえて修正してみてください。	4 時間
第11回	対面	研究報告	・討論者は発表予定のレポートを事前に読んでおいてください。 ・発表者に関しては、コメント等を踏まえて修正してみてください。	4 時間
第12回	対面	レポートの作成	報告時のコメントを踏まえて、レポートを作成してください。	4 時間
第13回	対面	レポートの作成	報告時のコメントを踏まえて、レポートを作成してください。	4 時間
第14回	対面	レポートの作成	報告時のコメントを踏まえて、レポートを作成してください。	4 時間
第15回	対面	振り返り	これまでの授業内容を復習し、卒論のスケジュールを作成しましょう。	4 時間

科目名	演習Ⅱ B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	前田 一樹	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	労働市場や雇用政策を経済学的な視点から学ぶ		
授業の目的及び概要	本科目では、労働経済学の視点に基づいて、身近な問題から賃金や雇用格差という社会的な問題まで、さまざまな社会問題について考えます。働くことは生活の基礎です。では、なぜ裕福な人とそうでない人がいるのか、仕事を失うとどうなるか、働く意味や働きがいとは何であるか、などの普段の生活で思い浮かぶ疑問について経済理論に基づいて理解できることを目指します。 また、政府が実施する雇用政策によって人々がどのように影響を受けるかというメカニズムについても理解し自分なりに読み解くことができる。 さらに、実際にデータなどを用いて現実の労働市場での事象が理論通りに起きているのかを確認したうえで、なぜそうなるのかという理由を探究していくことを行います。これらを通じて鍛えられる経済学的な論理的思考力、分析力、そして、データの読み取る能力は、大学における学習・研究だけでなく、就職活動にも役立ちます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	日本の労働市場が直面している諸問題を知ること、日本経済の現状や仕組みについて精通をしていくとともに、労働経済学の分野での幅広い知識と素養を習得する。 また、報告にあたっての資料の作成や発表を通じてプレゼンテーションやコミュニケーションの能力を身につける。 これらを通じて、卒業研究を進める能力を習得する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	グループまたは個人による研究報告に対するコメントを通じてフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。 必要な資料等は授業中に配布・紹介します。	ISBN	なし
参考書	①「働くこと」を思考する、久米功一、中央経済社、2020 年 ②労働経済学一理論と実証をつなぐ、川口大司、有斐閣、2017 年 ③職業の経済学、阿部正浩・菅万理・勇上和史編著：中央経済社、2017 年 （①については図書館の電子ブックでも閲覧することができます。）	ISBN	①9784502366413 ②9784641165076 ③ 9784502238215
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）		

	その他の内容	
この科目の受講にあたって	演習科目は、受講者の主体的な取り組みを前提として授業が運営されます。ゼミにおける報告資料の準備はもちろん、議論をするために事前のテキストの確認など授業時間中だけでは完結しません。そのため、授業以外の時間でも準備が必要です。参加者のみなさんに積極的な授業参加を強く期待します。 履修にあたり、ミクロ経済学、マクロ経済学、労働経済学、計量経済学などの分析手法について知識があることが望ましいですが、必須ではありません。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	・事前に参考文献に目を通し、興味のあるテーマについて考えてください（2時間程度）。 ・今学期の目標を決めるとともに、グループワークテーマの検討をしてください（2時間程度）。	4時間
第2回	対面	グループワーク1	・グループワークに関連する調査（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください。テーマの掘り下げ方を検討してください（2時間程度）。	4時間
第3回	対面	グループワーク2	・グループワークに関連する調査（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください。テーマの掘り下げ方を検討してください（2時間程度）。	4時間
第4回	対面	グループワーク3	・グループワークに関連する調査（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください。テーマの掘り下げ方を検討してください（2時間程度）。	4時間
第5回	対面	グループワーク4	・グループワークに関連する調査（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください。テーマの掘り下げ方を検討してください（2時間程度）。	4時間
第6回	対面	グループワーク5	・グループワークに関連する調査（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください。テーマの掘り下げ方を検討してください（2時間程度）。	4時間
第7回	対面	グループワーク6	・グループワークに関連する調査（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください。テーマの掘り下げ方を検討してください（2時間程度）。	4時間
第8回	対面	グループワーク7	・グループワークに関連する調査（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください。テーマの掘り下げ方を検討してください（2時間程度）。	4時間
第9回	対面	グループワーク8	・グループワークに関連する調査（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください。テーマの掘り下げ方を検討してください（2時間程度）。	4時間
第10回	対面	グループワーク9	・グループワークに関連する調査（2時間程度）。 ・授業の中で得た情報や知識を確認してください。テーマの掘り下げ方を検討してください（2時間程度）。	4時間
第11回	対面	グループワーク（総括・振り返り）	・グループワークでこれまで調べたことを振り返ってください（2時間程度）。 ・グループワークの方法やテーマの掘り下げ方に関する振り返りを行ってください（2時間程度）。	4時間
第12回	対面	研究計画の策定1	・卒業研究のテーマの検討、興味関心のあるテーマに関する書籍・論文の調査（2時間程度）。	4時間

			・ 期末レポートの執筆（2時間程度）。	
第13回	対面	研究計画の策定2	・ 卒業研究のテーマの検討, 興味関心のあるテーマに関する書籍・論文の調査（2時間程度）。 ・ 期末レポートの執筆（2時間程度）。	4 時間
第14回	対面	研究計画の策定3	・ 卒業研究のテーマの検討, 興味関心のあるテーマに関する書籍・論文の調査（2時間程度）。 ・ 期末レポートの執筆（2時間程度）。	4 時間
第15回	オンデマンド	振り返り	・ オンデマンド動画を視聴し, 今学期の振り返りを行ってください。 ・ 次年度の研究に向けてどのようなテーマに取り組みたいか検討するとともに, 期末レポートの執筆と長期休みの目標を検討してください（4時間程度）。	4 時間

科目名	演習Ⅱ B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	伊勢 公人	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	エネルギー・環境問題を経済学の視点から考える（応用）		
授業の目的及び概要	エネルギー・環境問題への対策を考えるとときにはその原因者や被害者が空間的・時間的にどのように広がっているのかを考慮する必要があります。 本演習では、各地域、国が抱える問題にとどまらず国際的なエネルギー・環境問題も取り上げます。また、現代世代にとどまらず、将来世代のことも考えて問題解決の方策を探っていきます。 「実学としての経済学」との関係 この演習を履修することにより、経済指標にも影響を与えるエネルギー・環境問題、エネルギー・環境政策を分析できる力を身につけることを目的としています。		
履修条件・留意点	エネルギー・環境問題は、各地域・国の問題であるとともに国際問題でもあるので、いずれのコース所属でも履修可能です。		
DP との関係	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①パソコンを利用し、情報収集、文献検索の技法を高めるとともに、プレゼン能力、論文作成技法の基礎を学びます。加えて、具体的な環境問題に関する発展的な分析手法を学びます。 ②エネルギー・環境問題の様々なトピックスを学びます。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	グループまたは個人による調査・研究報告に対するコメントを通じてフィードバックする。また、グループワークの作業を授業中に進める場合には、適宜、進捗を確認しながらフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1987 年から民間企業に 34 年間勤務しており、欧州事務所の副所長を務めた経験を有している。また、経済産業省の受託研究のプロジェクトリーダーを始め、多くの調査プロジェクトを担ってきた。本科目では、これらの経験を生かした授業を行う。		
テキスト	テキストは使用しません。 適宜、資料を配布します。	ISBN	なし
参考書	随時、授業の中で紹介します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	本演習で学ぶデータの分析手法は卒業後の進路先（就職先、大学院）でも大いに役立つものです。本演習を通じて一生の財産を獲得しましょう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	ガイダンス（本演習の進め方）	・学生研究発表大会の報告テーマを各自で考えておいてください。	4時間
第2回	対面	学生研究発表大会における報告テーマ選定のための議論	・テーマ設定に向けて、テーマに関する先行研究を調べてください。 ・テーマに関する先行研究を分担して読んでください。	4時間
第3回	対面	学生研究発表大会における報告テーマ決定と基本資料の収集	・基本資料を収集してください。 ・収集した資料に基づき、テーマを決定してください。	4時間
第4回	対面	学生研究発表大会における報告準備：現状の把握と先行研究の読み込み	・テーマに関する現状を整理してください。 ・テーマに関する先行研究を分担して読み込んでください。 ・「問い」の設定を行い、報告資料にまとめてください。	4時間
第5回	対面	学生研究発表大会における報告準備：中間報告	・各グループは問いに関する報告資料を準備してください。 ・報告に対するコメントを踏まえて、資料を修正してください。	4時間
第6回	対面	学生研究発表大会における報告準備：データ収集／実証分析の実施	・問いに対する仮説を立ててください。 ・仮説を論証するためのデータを収集してください。	4時間
第7回	対面	学生研究発表大会における報告準備：データ分析／パワーポイント資料の作成	・収集したデータに基づき実証分析を実施してください。 ・実証分析に基づき、報告資料を作成してください。	4時間
第8回	対面	学生研究発表大会における報告の練習	・各グループは、報告資料を準備してください。 ・報告に対するコメントを反映して報告資料を提出してください。	4時間
第9回	オンデマンド	学生研究発表大会への参加，報告	・パワーポイント資料を最終確認し、発表練習をしてください。 ・審査員のコメントをメモしておいてください。	4時間
第10回	対面	学生研究発表大会の振り返り	・学生研究発表大会におけるコメントをメモしておいてください。 ・学生研究発表大会の審査員のコメントを踏まえて、パワーポイント資料を修正のうえ提出してください。	4時間
第11回	対面	卒業研究に向けた準備：テーマの選定	・テーマ設定に向けて、テーマに関する先行研究を調べてください。 ・テーマに関する先行研究を読んでください。	4時間
第12回	対面	卒業研究に向けた準備：テーマに関する現状の把握と先行研究の読み込み	・テーマに関する現状を整理してください。 ・テーマに関する先行研究を読み込んでください。 ・「問い」の設定を行い、報告資料にまとめてください。	4時間
第13回	対面	卒業研究に向けた準備：要旨を報告する（1）	・卒業研究の「要旨」に関する報告資料を準備してください。 ・授業中のコメントを反映して、期末レポートを作成してください。	4時間
第14回	対面	卒業研究に向けた準備：要旨を報告する（1）	・卒業研究の「要旨」に関する報告資料を準備してください。 ・授業中のコメントを反映して、期末レポートを作成してください。	4時間
第15回	対面	まとめ	・期末レポートを仕上げてください。	4時間

科目名	演習ⅡB	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	二替 大輔	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	産業組織論・企業経済学（応用） ー産業組織論・企業経済学に基づいた企業行動の分析ー		
授業の目的及び概要	本演習では、ミクロ経済学の応用としての産業組織論・企業経済学に基づいた企業行動の分析の応用を学んでいきます。演習ⅡBでは、演習ⅠBで学修した内容を用いて、現実起こっている産業・企業に関する経済現象についてまとめモデルを用いた分析ができるようになることを目指します。学生研究発表大会に向けたグループワークを通じて、分析手法を応用できることを目指します。また、卒業論文執筆のための準備も行います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この演習は、以下のことを目標とします。 1. 産業組織論・企業経済学に関する応用的知識を修得する。 2. 1 で修得した知識をもとにして、現実起こっている産業・企業に関する経済現象についてまとめモデルを用いた分析ができるようになる。 3. 分析結果を文章にまとめ、それをわかりやすくプレゼンテーションできるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題については、Learning Portal を用いて、添削・採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	産業組織とビジネスの経済学，花園誠，有斐閣，2018 年	ISBN	9784641150591
参考書	①産業組織のエッセンス，明城聡・大西宏一郎，有斐閣，2022 年 ②経営の経済学，丸山雅祥，有斐閣，2017 年 ③ミクロ経済学（第 3 版），伊藤元重，日本評論社，2018 年 ④1 からの流通論（第 2 版），石原武政・竹村正明・細井謙一（編著），中央経済社，2018 年 ⑤1 からのマーケティング（第 4 版），石井淳蔵・廣田章光・清水信年（編著），中央経済社，2019 年 ⑥この一冊で全部わかるビジネスモデル基本・成功パターン・作り方が一気に学べる，根来龍之・富樫佳織・足代訓史，SB クリエイティブ，2020 年 ⑦経済論文の書き方，経済セミナー編集部（編），日本評論社，2022 年 その他，参加者の興味に応じて適宜参考文献を紹介します。	ISBN	①9784641151000 ②9784641164956 ③9784535558441 ④9784502283611 ⑤9784502327711 ⑥9784797392777 ⑦9784535540422
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	本演習は、ミクロ経済学、ゲーム理論の基本的な知識を必要とします。 企業の行動、ビジネスに関するニュースに常に注意を払ってください。 授業時間外に適宜、グループ内でグループ研究に関する議論を行ってください。 演習には積極的に参加して、報告資料、プレゼンテーションの見直しを継続的行ってください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス・学生研究発表大会に向けての準備	【予習】シラバスを事前によく読んでおいてください。 【復習】ガイダンスの内容について復習してください。	2時間
第2回	対面	テーマに関する事例の紹介	【予習】学生研究発表大会のテーマに関する事例（新聞記事等）を探し、要約を準備してください。 【復習】チームでの議論をまとめてください。	4時間
第3回	対面	テーマに関する事例分析の準備	【予習】学生研究発表大会のテーマに関する事例について、産業組織論・企業経済学の理論を使ってどのように分析できるか考えてください。 【復習】チームでの議論をまとめてください。	4時間
第4回	対面	学生研究発表大会に関する調査と分析（1）	【予習】学生研究発表大会のテーマに関する調査と分析を行ってください。 【復習】チームでの議論をまとめてください。	4時間
第5回	対面	学生研究発表大会に関する調査と分析（2）	【予習】学生研究発表大会のテーマに関する調査と分析を行ってください。 【復習】チームでの議論をまとめてください。	4時間
第6回	対面	学生研究発表大会に関する調査と分析（3）	【予習】学生研究発表大会のテーマに関する調査と分析を行ってください。 【復習】チームでの議論をまとめてください。	4時間
第7回	対面	学生研究発表大会に関する調査と分析（4）	【予習】学生研究発表大会のテーマに関する調査と分析を行ってください。 【復習】チームでの議論をまとめてください。	4時間
第8回	オンデマンド	学生研究発表大会への参加	【予習】発表スライドの確認及びプレゼン練習をおこなってください。 【復習】発表での質疑応答の内容をまとめてください。	4時間
第9回	対面	学生研究発表大会の振り返り	【予習】報告スライドおよび質疑応答の内容をまとめた資料を準備してください。 【復習】チームでの議論をまとめてください。	4時間
第10回	対面	レポートの書き方と研究テーマの決定	【予習】事前に配布したレポートの書き方に関する資料を読んでください。卒業論文に向けた期末レポートのテーマを考えてください。 【復習】理解できた内容および疑問が残った内容をまとめておいてください。	4時間
第11回	対面	文献の読み方と要約（1）	【予習】レポートのテーマに関する資料（書籍・論文・データ）を準備してください。テーマに関するテキストの該当箇所を調べてください。 【復習】資料の要約を作成してください。	4時間
第12回	対面	文献の読み方と要約（2）	【予習】レポートのテーマに関する資料（書籍・論文・データ）を準備してください。テーマに関するテキストの該当箇所を調べてください。 【復習】資料の要約を作成してください。	4時間
第13回	対面	文献の読み方と要約（3）	【予習】レポートのテーマに関する資料（書籍・論文・	4時間

			データ)を準備してください。テーマに関するテキストの該当箇所を調べてください。 【復習】資料の要約を作成してください。	
第14回	対面	レポートの発表(1)	【予習】報告者はレポートの内容をまとめたスライドを作成してください。 【復習】発表に対するコメントを参考にして、レポートを改善してください。	4時間
第15回	対面	レポートの発表(2)	【予習】報告者はレポートの内容をまとめたスライドを作成してください。 【復習】発表に対するコメントを参考にして、レポートを改善してください。	6時間

科目名	演習ⅡB	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	姜 興起	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	データを踏まえた社会経済変化要因の探求や現状の分析		
授業の目的及び概要	演習ⅡB では、演習ⅡA で身につけた社会経済データの基礎的な理解と分析方法を踏まえ、社会経済変化の要因について、より踏み込んだ考察と分析を行い、その結果を報告としてまとめる能力を養うことを目的とします。学生各自が設定したテーマについて、複数のデータや関連資料を用いながら分析を深め、社会経済の変化や現状に影響を与える要因について考察します。本演習では、時系列データや地域別データの比較、複数指標を用いた分析などを通じて、変化の背景や要因をデータに基づいて説明する力を養います。本演習では、高度な数理的手法の習得を目的とせず、前期で培った基礎をもとに、分析内容の論理性や説明の明確さを重視します。後期を通じて、より完成度の高い分析と報告を行い、社会経済をデータから読み解く力の定着を図ります。		
履修条件・留意点	本演習では、学生一人ひとりの関心に基づいたテーマ設定と、主体的な調査・分析を重視します。高度な数理的手法や専門的な分析技術は必須ではありませんが、データを根拠として考え、説明する姿勢が求められます。前期以上に、報告内容の完成度と議論への積極的な参加を重視しますので、計画的に準備を進めてください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本演習を通じて、学生は以下の点を達成することを目標とします。 1. 社会経済の変化や現状に関する課題について、明確な問いを設定し、その背景や要因を意識して考察できるようになる。 2. 演習ⅡA で学んだデータの見方を踏まえ、複数のデータや資料を組み合わせる分析・比較ができるようになる。 3. 社会経済変化の要因について、データに基づいた根拠を示しながら、自分なりの解釈や考察を展開できるようになる。 4. 分析結果を整理し、図表やスライドを用いて、説得力のある報告資料を作成できるようになる。 5. 報告および質疑応答を通じて、他者の意見を踏まえながら、自らの考えを修正・深化させる力を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	検討・報告内容については、授業内でコメントおよび助言を行います。提出課題については、コメントを付して返却します。必要に応じて、電子メール等を通じて補足的な指導や討議を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは使用しません。	ISBN	なし
参考書	参考書等については適時に指示します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	35	
	成果発表（口頭・実技）	25	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	その他 (%)	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	原則として毎回出席すること。やむを得ない事情を除き、欠席が多い場合は成績評価に反映します。主体的な準備と積極的な発言・討論参加が求められます。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス：前期の振り返り，後期の目的，進め方，報告について	【予習】演習ⅡA で取り組んだ内容を振り返っておいてください。 【復習】後期に扱いたいテーマや関心事項を整理すること。	4 時間
第2回	対面	各自テーマの再確認と問題意識の明確化	【予習】自分のテーマと，考えたい社会経済的变化を整理しておいてください。 【復習】テーマに関連する背景や要因を簡単に整理すること。	4 時間
第3回	対面	社会経済変化の要因を考える視点（制度，人口，技術，社会，国際要因など）	【予習】配布資料を読んで要因の視点を確認してください。 【復習】自身のテーマに関係する要因を整理すること。	4 時間
第4回	対面	複数データを用いた分析の考え方	【予習】使用予定のデータを確認しておいてください。 【復習】データ同士の関係や比較の可能性を整理すること。	4 時間
第5回	対面	時系列データを用いた変化要因の考察	【予習】時系列データの変化点に注目して確認してください。 【復習】変化の背景として考えられる要因を整理すること。	4 時間
第6回	対面	地域比較・国際比較による要因分析	【予習】比較対象となる地域や国のデータを確認してください。 【復習】比較から読み取れる違いや共通点を整理すること。	4 時間
第7回	対面	中間報告（報告と質疑）	【予習】中間報告用の資料を準備してください。 【復習】質疑やコメントを踏まえて内容を見直すこと。	4 時間
第8回	対面	学生研究発表大会に向けた準備	【予習】発表用資料の推敲および発表準備を行ってください。 【復習】研究発表大会に向けた準備や検討を通じて学んだ内容についてレポートを作成してください。	4 時間
第9回	対面	分析内容の再検討と深化	【予習】修正後の分析内容を整理しておいてください。 【復習】報告の構成を意識して内容を再整理すること。	4 時間
第10回	対面	報告の論理構成と説明の仕方	【予習】報告全体の構成案を考えておいてください。 【復習】論点のつながりを意識して内容を修正すること。	4 時間
第11回	対面	最終報告資料（図表・スライド）の作成	【予習】最終報告用資料の下書きを準備してください。 【復習】資料を修正・完成させること。	4 時間
第12回	対面	最終報告①（報告と質疑）	【予習】最終報告の準備を行ってください。 【復習】質疑内容を踏まえて報告内容を見直すこと。	4 時間
第13回	対面	最終報告②（報告と質疑）	【予習】最終報告の準備を行ってください。 【復習】他の学生の報告を参考に内容を整理すること。	4 時間
第14回	対面	総合討論と報告内容の振り返り	【予習】自分の報告内容を振り返っておいてください。 【復習】全体を通じて得られた知見を整理すること。	4 時間

2026/05/01

第15回	オンデマンド	後期のまとめ，レポートの作成	【予習】最終レポートを作成しておいてください。 【復習】これまでの学習内容を振り返ること。	4時間

科目名	演習Ⅲ A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	牧田 修治	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	都市と地方の人口変動を考える		
授業の目的及び概要	本科目では、これまでの学修成果を活用して都市と地方の人口変動について分析し、卒業論文としてまとめることを目的とする。授業では、各自の研究報告を行い、教員や他のゼミ生との議論を通じて分析の視点を広げ分析手法の改善し、質の高い卒業論文執筆を目指す。これらに加えて、報告者に対する質問や意見に対する心構えや対応の仕方などについてもレベルを上げることを目指す。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	次の3つを目標とする。 1. 統計データを使って分析ができる。 2. 自分の考えを口頭や文章で論理的に伝えることができる。 3. 学術的な論文を読み、論文を書くことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中のコメントを通じてフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディバート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、金融機関のシンクタンクや徳島県庁で、長年にわたり統計データ分析や政策分析の業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しない。	ISBN	なし
参考書	研究の状況に応じて適宜紹介する。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	60	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	各自研究内容を決定し、研究計画を作成してください。	4 時間
第2回	対面	研究報告	研究報告の準備と文献調査（それぞれ2時間程度）	4 時間
第3回	対面	研究報告	研究報告の準備と文献調査（それぞれ2時間程度）	4 時間
第4回	対面	研究報告	研究報告の準備と文献調査（それぞれ2時間程度）	4 時間
第5回	対面	研究報告	研究報告の準備と文献調査（それぞれ2時間程度）	4 時間

2026/05/01

第6回	対面	研究報告	研究報告の準備と文献調査（それぞれ2時間程度）	4時間
第7回	対面	研究報告	研究報告の準備と文献調査（それぞれ2時間程度）	4時間
第8回	対面	研究報告	研究報告の準備と文献調査（それぞれ2時間程度）	4時間
第9回	対面	研究報告	研究報告の準備と文献調査（それぞれ2時間程度）	4時間
第10回	対面	研究報告	研究報告の準備と文献調査（それぞれ2時間程度）	4時間
第11回	対面	研究報告	研究報告の準備と文献調査（それぞれ2時間程度）	4時間
第12回	対面	研究報告	研究報告の準備と文献調査（それぞれ2時間程度）	4時間
第13回	対面	研究報告	研究報告の準備と文献調査（それぞれ2時間程度）	4時間
第14回	対面	振り返り	研究報告の準備と文献調査（それぞれ2時間程度）	4時間
第15回	オンデマンド	卒業論文執筆のポイント	授業資料にしたがって、卒業論文の素案を作成。	4時間

科目名	演習Ⅲ A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	久米 高史	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	経済史(経済成長、経済政策、金融政策、企業の興亡、国内需要や貿易、社会保障等々 に関する長期的分析)		
授業の目的及び概要	本授業は、これまでの学修成果を活用して、日本経済史・比較経済史(日本及び諸外国の経済成長、経済政策、金融政策、企業の興亡、国内需要や貿易、社会保障等々 に関する長期的分析)のテーマについて、先行研究を踏まえた上で自分自身の分析を進め、卒魚論文としてまとめることを目的とする。授業の中では、現在の日本経済の問題点を痛烈に指摘した文献を輪読しつつ、個々人の卒業研究を報告してもらい、教員や他のゼミ生との議論を通じて、自らの卒業論文のブラッシュアップを進めていく。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	次の3点を目標とする。 1. 学術的な文献を読み、それらをしっかりと理解した上で、自分自身の論点を明確にすることができる。 2. 統計データを使って分析を行い、自分自身の分析結果を自分独自のグラフや表で表現することができる。 3. 自分自身の考えを、口頭及び文章でしっかりとまた論理的に伝えることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中のコメントを通じて、フィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディバート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	日本経済の死角，河野龍太郎，ちくま新書 1840, 2025 年 必ず購入してください。	ISBN	9784480076717
参考書	授業の中で適宜指摘する。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	10	
	成果発表（口頭・実技）	60	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容	なし	
この科目の受講にあたって	日本及び諸外国の経済成長、経済政策、金融政策、企業の興亡、国内需要や貿易、社会保障等々に関する長期的分析という視点を卒業論文には反映させてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修 (予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス ・報告者の割り振りの決定	・卒業論文執筆に向けた研究計画の再確認と見直しを行う。	4 時間

		・演習ⅡB最後の課題であった、卒業論文のテーマと概略(2000字)の振り返り	・研究報告の準備と文献調査、データ分析	
第2回	対面	・輪読1回目『日本経済の死角』第1章の第1節と第2節 ・研究報告①(2名ずつ)	研究報告の準備と文献調査、データ分析	4時間
第3回	対面	・輪読2回目『日本経済の死角』第1章の第3節と第2章 ・研究報告②(2名ずつ)	研究報告の準備と文献調査、データ分析	4時間
第4回	対面	・輪読3回目『日本経済の死角』第3章 ・研究報告③(2名ずつ)研究報告(2名ずつ)	研究報告の準備と文献調査、データ分析	4時間
第5回	対面	・輪読4回目『日本経済の死角』第4章の第1節と第2節 ・研究報告④(2名ずつ)	研究報告の準備と文献調査、データ分析	4時間
第6回	対面	・輪読5回目『日本経済の死角』第4章の第3節と第5章の第1節 ・研究報告⑤(2名ずつ)	研究報告の準備と文献調査、データ分析	4時間
第7回	対面	・輪読6回目『日本経済の死角』第5章の第2節と第6章の第1節 ・研究報告⑥(2名ずつ)	研究報告の準備と文献調査、データ分析	4時間
第8回	対面	・輪読7回目『日本経済の死角』第6章の第2節と第3節 ・研究報告⑦(2名ずつ)	研究報告の準備と文献調査、データ分析	4時間
第9回	対面	・輪読8回目『日本経済の死角』第7章 ・研究報告⑧(2名ずつ)	研究報告の準備と文献調査、データ分析	4時間
第10回	対面	・輪読教材『日本経済の死角』のまとめ ・研究報告⑨(2名ずつ)	研究報告の準備と文献調査、データ分析	4時間
第11回	対面	・研究報告⑩(2名) ・中間としての振り返り	研究報告の準備と文献調査、データ分析	4時間
第12回	対面	・研究報告⑪(2名ずつ) ・研究報告2巡目の割振の決定	研究報告の準備と文献調査、データ分析	4時間
第13回	対面	研究報告・2巡目①(2名ずつ)	研究報告の準備と文献調査、データ分析	4時間
第14回	対面	研究報告・2巡目②(2名ずつ)	研究報告の準備と文献調査、データ分析	4時間
第15回	オンデマンド	1巡目の報告を終えての講評	研究報告の準備と文献調査、データ分析	4時間

科目名	演習Ⅲ A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	篠田 太郎	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	卒業論文執筆に必要な材料を集める		
授業の目的及び概要	秋学期に卒業論文の執筆を完了するため、論文に必要な先行研究の調査、分析を行い、執筆に取り掛かる準備を完成します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	卒業論文が執筆できる状態にする。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の演習で進捗に対してコメントします。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①ゼミナールゲーム理論入門，渡辺隆裕，日本経済新聞出版，2008 年	ISBN	①9784532133467
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	100	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	卒論指導	【予習】進捗報告の準備をしてください。（3時間程度） 【復習】フィードバックを受けて研究を進めてください。（3時間程度）	6 時間
第2回	対面	卒論指導	【予習】進捗報告の準備をしてください。（3時間程度） 【復習】フィードバックを受けて研究を進めてください。（3時間程度）	6 時間
第3回	対面	卒論指導	【予習】進捗報告の準備をしてください。（3時間程度） 【復習】フィードバックを受けて研究を進めてください。（3時間程度）	6 時間

第4回	対面	卒論指導	【予習】進捗報告の準備をしてください。(3時間程度) 【復習】フィードバックを受けて研究を進めてください。(3時間程度)	6 時間
第5回	対面	卒論指導	【予習】進捗報告の準備をしてください。(3時間程度) 【復習】フィードバックを受けて研究を進めてください。(3時間程度)	6 時間
第6回	対面	卒論指導	【予習】進捗報告の準備をしてください。(3時間程度) 【復習】フィードバックを受けて研究を進めてください。(3時間程度)	6 時間
第7回	対面	卒論指導	【予習】進捗報告の準備をしてください。(3時間程度) 【復習】フィードバックを受けて研究を進めてください。(3時間程度)	6 時間
第8回	対面	卒論指導	【予習】進捗報告の準備をしてください。(3時間程度) 【復習】フィードバックを受けて研究を進めてください。(3時間程度)	6 時間
第9回	対面	卒論指導	【予習】進捗報告の準備をしてください。(3時間程度) 【復習】フィードバックを受けて研究を進めてください。(3時間程度)	6 時間
第10回	対面	卒論指導	【予習】進捗報告の準備をしてください。(3時間程度) 【復習】フィードバックを受けて研究を進めてください。(3時間程度)	6 時間
第11回	対面	卒論指導	【予習】進捗報告の準備をしてください。(3時間程度) 【復習】フィードバックを受けて研究を進めてください。(3時間程度)	6 時間
第12回	対面	卒論指導	【予習】進捗報告の準備をしてください。(3時間程度) 【復習】フィードバックを受けて研究を進めてください。(3時間程度)	6 時間
第13回	対面	卒論指導	【予習】進捗報告の準備をしてください。(3時間程度) 【復習】フィードバックを受けて研究を進めてください。(3時間程度)	6 時間
第14回	対面	卒論指導	【予習】進捗報告の準備をしてください。(3時間程度) 【復習】フィードバックを受けて研究を進めてください。(3時間程度)	6 時間
第15回	オンデマンド	春学期のまとめと夏休み課題	【予習】これまでの指導を振り返ってください。(3時間程度) 【復習】これまでの指導を振り返ってください。(3時間程度)	6 時間

科目名	演習Ⅲ A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	畑佐 伸英	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	国際経済研究入門（１）		
授業の目的及び概要	本演習では、国際経済の各分野において、各自の関心に沿った研究テーマを絞り込むとともに、先行研究を講読する中で理解を深めていきながら、綿密な研究計画を立て、卒業レポートや卒業論文の内容を構想する。 また、「実学としての経済学」、具体的にはGDP、為替レート、金利、などの経済諸指標の連関についても、随時学んでいく。経済諸指標が互いに連動する関係を習熟しておくことで、経済の動きが見通せ、ビジネスや私生活においても実際に役に立つであろう。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	卒業研究につき、決定したテーマの下、学期末までに問題意識および章構成が固まり、先行研究講読に着手していることを目指す。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告内容については、授業の中で解説及び講評します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは利用しない。	ISBN	なし
参考書	各テーマに応じて適宜紹介する。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	「国際経済学」「国際金融論」「開発経済論」などの国際経済に広く関連する科目を受講しておくことが望ましい。また、「アジア経済概論」「中国経済論」「アメリカ経済論」など、世界のあらゆる国や地域の経済について学ぶ講義を履修しておくこともお勧めする。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 演習の進め方、報告担当者の割り振り。	卒業論文の執筆にあたって、興味のあるテーマや課題について、考えておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとうれしいでしょう。	4 時間
第2回	対面	国際経済研究：研究計画書について	取り上げたテーマについて、参考となる書籍や論文、雑誌・新聞記事などを調査しておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習	4 時間

			としてノートやファイルに整理して、まとめておく と良いでしょう。	
第3回	対面	国際経済研究：論文の書き方について(1)	取り上げたテーマについて、参考となる書籍や論文、 雑誌・新聞記事などを収集しておいてください。授業 で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習 としてノートやファイルに整理して、まとめておく と良いでしょう。	4 時間
第4回	対面	国際経済研究：論文の書き方について(2)	取り上げたテーマについて、参考となる書籍や論文、 雑誌・新聞記事などを読んでおいてください。授業で 学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習と してノートやファイルに整理して、まとめておく と良いでしょう。	4 時間
第5回	オンデ マンド	国際経済研究：研究計画書の執筆	各自のテーマについて、研究計画書の作成を行って ください。あらかじめ関連する書籍や論文、雑誌・新 聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだ ことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノ ートやファイルに整理して、まとめておく と良いでしょう。	4 時間
第6回	対面	国際経済研究：発表並びに討論(1)	報告担当者は、レジュメを作成し発表の準備をして ください。その他の受講者は、報告されるテーマにつ いて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事など を読んでおいてください。授業で学んだことや思っ たこと、考えたことなどは、復習としてノートやファ イルに整理して、まとめておく と良いでしょう。	4 時間
第7回	対面	国際経済研究：発表並びに討論(2)	報告担当者は、レジュメを作成し発表の準備をして ください。その他の受講者は、報告されるテーマにつ いて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事など を読んでおいてください。授業で学んだことや思っ たこと、考えたことなどは、復習としてノートやファ イルに整理して、まとめておく と良いでしょう。	4 時間
第8回	対面	国際経済研究：発表並びに討論(3)	報告担当者は、レジュメを作成し発表の準備をして ください。その他の受講者は、報告されるテーマにつ いて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事など を読んでおいてください。授業で学んだことや思っ たこと、考えたことなどは、復習としてノートやファ イルに整理して、まとめておく と良いでしょう。	4 時間
第9回	対面	国際経済研究：発表並びに討論(4)	報告担当者は、レジュメを作成し発表の準備をして ください。その他の受講者は、報告されるテーマにつ いて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事など を読んでおいてください。授業で学んだことや思っ たこと、考えたことなどは、復習としてノートやファ イルに整理して、まとめておく と良いでしょう。	4 時間
第10回	対面	国際経済研究：発表並びに討論(5)	報告担当者は、レジュメを作成し発表の準備をして ください。その他の受講者は、報告されるテーマにつ いて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事など を読んでおいてください。授業で学んだことや思っ たこと、考えたことなどは、復習としてノートやファ イルに整理して、まとめておく と良いでしょう。	4 時間
第11回	対面	国際経済研究：発表並びに討論(6)	報告担当者は、レジュメを作成し発表の準備をして ください。その他の受講者は、報告されるテーマにつ いて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事など を読んでおいてください。授業で学んだことや思っ たこと、考えたことなどは、復習としてノートやファ イルに整理して、まとめておく と良いでしょう。	4 時間
第12回	対面	国際経済研究：発表並びに討論(7)	報告担当者は、レジュメを作成し発表の準備をして ください。その他の受講者は、報告されるテーマにつ いて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事など	4 時間

			を読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくといいでしょう。	
第13回	対面	国際経済研究：発表並びに討論(8)	報告担当者は、レジюмеを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくといいでしょう。	4 時間
第14回	対面	国際経済研究：発表並びに討論(9)	報告担当者は、レジюмеを作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくといいでしょう。	4 時間
第15回	対面	まとめ並びに総括	これまでの学習を振り返って、学んだこと、分かったこと、発見したこと、難しかったこと、興味や関心を抱いたこと、などについて考えておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくといいでしょう。	4 時間

科目名	演習Ⅲ A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	朱 東平	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	経済学理論の視点から日本経済の諸課題を考える		
授業の目的及び概要	経済学理論を勉強する目的の一つは、さまざまな政治、経済、社会現象を経済学の視点から理解し、把握することです。この演習は、こうした应用能力の育成に重点を置きます。 この演習では、卒業論文を書くことにより、論理構成力を身につけることを目的としています。日本経済の抱える諸課題を中心に、経済記事の議論を中心とした学修を続けながら、3 年次の演習Ⅱ、とくに演習ⅡB で作成した期末レポートをもとに研究を深め、卒業研究の完成を目指します。秋学期の演習ⅢB では、卒業論文を作成する必要がありますので、演習ⅢA はそのための準備を進め、卒業研究の基礎を構築していきます。 この演習は皆さんが社会人として持つべき専門知識・能力の高度化を図る科目です。演習のレベルは、ミクロ経済学、マクロ経済学の応用レベルです。		
履修条件・留意点	この授業科目は、履修条件を設けておりませんが、卒業論文の執筆が必須となっております。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この演習は、以下のことを目標とします。 1. 3 年次までに修得した経済学の基礎理論をさまざまな現実問題の分析に応用することができる。 2. 卒業研究のテーマを確定し、卒業研究の初稿を作成することができる。 3. ゼミの報告と討論を通して、一社会人として、また、就職活動にも必要なプレゼン能力やコミュニケーション能力を身につけることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	レポートは、添削した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。 ラーニングポータルで配布される資料を用いて事前・事後学修に活用してください。	ISBN	なし
参考書	予習・復習に役立つ教材として、報告内容に応じて以下の参考書の関連内容について理解するようにしてください。 ①ミクロ経済学（第 3 版）、伊藤元重、日本評論社、2018 年 ②入門マクロ経済学（第 5 版）、中谷巖、日本評論社、2007 年	ISBN	①9784535558441 ②9784535555136
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	経済学的な分析は、ミクロ経済学やマクロ経済学など基礎理論のもとで行われます。そのため、受講生には、この2科目の履修を望みます。ただし、演習でも必要に応じて指導しますので、とくに予備知識をもたなければ履修できないことはありません。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ゼミの運営方法や内容について確認し、報告日程を決定します。（授業の進行状況と学生の希望に応じて、以下の内容を変更することもありうる）	・演習Ⅱで成長した点と今年度の目標について考えてください。 ・演習ⅡBで作成した期末レポートに対する担当教員のコメントと関連資料を予習してください。	3時間
第2回	対面	*経済記事について議論します。 *卒業論文（または卒業レポート）のテーマを確定します①。	・事前に、演習ⅡBで作成した期末レポートに対する担当教員のコメントと関連資料、そして卒業論文の作成要領を十分に理解してください。そのうえで、担当教員のコメントに基づき、文献研究を行い、研究計画を作成してください。	4時間
第3回	対面	*経済記事について議論します。 *卒業論文（または卒業レポート）のテーマを確定します②。	・事前に、演習ⅡBで作成した期末レポートに対する担当教員のコメントと関連資料、そして卒業論文の作成要領を十分に理解してください。そのうえで、担当教員のコメントに基づき、文献研究を行い、研究計画を作成してください。	4時間
第4回	対面	*経済記事について議論します。 *卒業論文（または卒業レポート）のテーマを確定します③。	・事前に、演習ⅡBで作成した期末レポートに対する担当教員のコメントと関連資料、そして卒業論文の作成要領を十分に理解してください。そのうえで、担当教員のコメントに基づき、文献研究を行い、研究計画を作成してください。	4時間
第5回	対面	*経済記事について議論します。 *卒業論文（または卒業レポート）のテーマを確定します④。	・事前に、演習ⅡBで作成した期末レポートに対する担当教員のコメントと関連資料、そして卒業論文の作成要領を十分に理解してください。そのうえで、担当教員のコメントに基づき、文献研究を行い、研究計画を作成してください。	4時間
第6回	対面	*経済記事について議論します。 *卒業論文（または卒業レポート）のテーマを確定します⑤。	・事前に、演習ⅡBで作成した期末レポートに対する担当教員のコメントと関連資料、そして卒業論文の作成要領を十分に理解してください。そのうえで、担当教員のコメントに基づき、文献研究を行い、研究計画を作成してください。	4時間
第7回	対面	*経済記事について議論します。 *卒業論文（または卒業レポート）のテーマを確定します⑥。	・事前に、演習ⅡBで作成した期末レポートに対する担当教員のコメントと関連資料、そして卒業論文の作成要領を十分に理解してください。そのうえで、担当教員のコメントに基づき、文献研究を行い、研究計画を作成してください。	4時間
第8回	対面	*経済記事について議論します。 *卒業論文（または卒業レポート）のテーマを確定します⑦。	・事前に、演習ⅡBで作成した期末レポートに対する担当教員のコメントと関連資料、そして卒業論文の作成要領を十分に理解してください。そのうえで、担当教員のコメントに基づき、文献研究を行い、研究計画を作成してください。	4時間
第9回	対面	*卒業論文（または卒業レポート）の中間発表を行います①。	・事前に、研究計画と文献研究の結果に基づき、中間発表を準備してください。 ・授業後は担当教員のコメントに基づいて修正してください。	4時間
第10回	対面	*卒業論文（または卒業レポート）の中間発表を行います②。	・事前に、研究計画と文献研究の結果に基づき、中間発表を準備してください。 ・授業後は担当教員のコメントに基づいて修正してください。	4時間
第11回	対面	*卒業論文（または卒業レポート）の中間発表を行います③。	・事前に、研究計画と文献研究の結果に基づき、中間発表を準備してください。 ・授業後は担当教員のコメントに基づいて修正してください。	4時間

第12回	対面	*卒業論文（または卒業レポート）の中間発表を行います④。	・事前に、研究計画と文献研究の結果に基づき、中間発表を準備してください。 ・授業後は担当教員のコメントに基づいて修正してください。	4時間
第13回	対面	*卒業論文（または卒業レポート）の中間発表を行います⑤。	・事前に、研究計画と文献研究の結果に基づき、中間発表を準備してください。 ・授業後は担当教員のコメントに基づいて修正してください。	4時間
第14回	対面	*授業全般にわたる総括を行います。	・発表時に受けた指導に基づき、これまでの研究成果を期末レポートとしてまとめてください。	4時間
第15回	オンデマンド	*卒業論文の執筆要領を理解します。 卒業論文執筆要領を解説する動画をオンデマンドで配信します。	・卒業論文執筆要領を熟読し理解すること。 ・オンデマンド動画を視聴した上で、卒業研究の初稿を、「卒業論文テンプレート」を用いて修正し、Learning Portal「レポート」機能にある「第15回（オンデマンド授業回）提出課題」に提出してください。	6時間

科目名	演習Ⅲ A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	伊勢 公人	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	環境問題を経済学の視点から考える（応用）		
授業の目的及び概要	自治体や国，地域の環境政策に関する課題，問題解決の方策についての知見を高め，自分の考えを明確に表現できるようなプレゼンテーション能力の向上に資する演習です。 「実学としての経済学」との関係 この演習を履修することにより，経済指標にも影響を与える環境問題，環境政策を分析できる力を身につけることを目的としています。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1．環境経済学の基礎を再確認し，独力で環境問題を分析できるようになる。 2．他者の報告を聴いて，自らの意見を踏まえた建設的な提案ができるようになる。 3．卒業論文等，学術的な文章を作成する基礎的な能力を習得する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	個人による研究報告に対するコメントを通じてフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1987 年から民間企業に 34 年間勤務しており、欧州事務所の副所長を務めた経験を有している。また、経済産業省の受託研究のプロジェクトリーダーを始め、多くの調査プロジェクトを担ってきた。本科目では、これらの経験を生かした授業を行う。		
テキスト	指定しない。	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	本科目は大学 4 年間の集大成となる卒業論文の執筆に直結する科目です。卒業論文の執筆には膨大な時間が必要となりますので，早い段階から計画的に研究を進めるように心がけてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	ガイダンス	シラバスの確認（30 分程度） 今学期の計画立案（90 分程度） 先行研究の読み込み（2 時間程度）	4 時間
第 2 回	オンデマンド	論文の書き方	・動画を視聴した上で、課題に取り組む。	4 時間

第3回	対面	先行研究の報告 1	先行研究の読み込み (4 時間程度)	4 時間
第4回	対面	先行研究の報告 2	先行研究の読み込み (4 時間程度)	4 時間
第5回	対面	先行研究の報告 3	先行研究の読み込み (4 時間程度)	4 時間
第6回	対面	先行研究の報告 4	先行研究の読み込み (4 時間程度)	4 時間
第7回	対面	先行研究の報告 5	先行研究の読み込み (4 時間程度)	4 時間
第8回	対面	研究計画書の報告 1	研究計画書の作成 (2 時間程度) 研究計画書の修正 (2 時間程度)	4 時間
第9回	対面	研究計画書の報告 2	研究計画書の作成 (2 時間程度) 研究計画書の修正 (2 時間程度)	4 時間
第10回	対面	研究計画書の報告 3	研究計画書の作成 (2 時間程度) 研究計画書の修正 (2 時間程度)	4 時間
第11回	対面	学期末レポートの報告 1	学期末レポートの作成 (2 時間程度) 学期末レポートの修正 (2 時間程度)	4 時間
第12回	対面	学期末レポートの報告 2	学期末レポートの作成 (2 時間程度) 学期末レポートの修正 (2 時間程度)	4 時間
第13回	対面	学期末レポートの報告 3	学期末レポートの作成 (2 時間程度) 学期末レポートの修正 (2 時間程度)	4 時間
第14回	対面	学期末レポートの報告 4	学期末レポートの作成 (2 時間程度) 学期末レポートの修正 (2 時間程度)	4 時間
第15回	対面	授業全体の総括	学期末レポートの最終版の作成 (4 時間程度)	4 時間

科目名	演習Ⅲ A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	米山 秀隆	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	都市・地域から日本経済の課題を探究する		
授業の目的及び概要	この演習では、日本経済が直面する様々な課題のうち、都市・地域分野を主たるターゲットとし、その基礎知識と課題発見能力、調査・分析力を身に付けることを目指します。3 年次の演習ⅡB で各自が作成したレポート（研究計画）に基づき、卒業論文の作成を進めていきます。演習での報告、ディスカッション、論文の作成を通じ、社会人として必要な基礎能力やコミュニケーション能力、文書作成・表現能力を高めていきます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ テーマに関する先行研究の内容を整理し、説明できる。 ・ 設定したリサーチクエストについて、自分なりに検証、考察できる。 ・ 調べた結果を、論文として論理的にまとめることができる。 ・ 論文の内容をわかりやすくプレゼンテーションできる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告内容に対し、授業内でコメント、アドバイスします。レポート・論文については、添削指導を行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディバート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは使用しません。	ISBN	なし
参考書	各テーマに応じ、適宜紹介します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	25	
	成果発表（口頭・実技）	25	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	卒業論文の完成に向け、授業で設定される課題を着実にこなしていくことはもちろんですが、自ら計画的に進めていくことを望みます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	ガイダンス 演習の内容・進め方、卒業論文の執筆要領、報告の割り振り	【予習】 Learning Portal に掲載する配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】 授業で得た知識や情報、自分で考えたことを整理して下さい。	4 時間
第 2 回	対面	研究報告Ⅰー1	【予習】 各自、研究を進めて下さい。報告者は報告の準備をしておいて下さい。 【復習】 授業で得た情報やコメントを研究に反映さ	4 時間

			せて下さい。	
第3回	対面	研究報告Ⅰー2	【予習】各自、研究を進めて下さい。報告者は報告の準備をしておいて下さい。 【復習】授業で得た情報やコメントを研究に反映させて下さい。	4 時間
第4回	対面	研究報告Ⅰー3	【予習】各自、研究を進めて下さい。報告者は報告の準備をしておいて下さい。 【復習】授業で得た情報やコメントを研究に反映させて下さい。	4 時間
第5回	対面	研究報告Ⅰー4	【予習】各自、研究を進めて下さい。報告者は報告の準備をしておいて下さい。 【復習】授業で得た情報やコメントを研究に反映させて下さい。	4 時間
第6回	対面	研究報告Ⅱー1	【予習】各自、研究を進めて下さい。報告者は報告の準備をしておいて下さい。 【復習】授業で得た情報やコメントを研究に反映させて下さい。	4 時間
第7回	対面	研究報告Ⅱー2	【予習】各自、研究を進めて下さい。報告者は報告の準備をしておいて下さい。 【復習】授業で得た情報やコメントを研究に反映させて下さい。	4 時間
第8回	対面	研究報告Ⅱー3	【予習】各自、研究を進めて下さい。報告者は報告の準備をしておいて下さい。 【復習】授業で得た情報やコメントを研究に反映させて下さい。	4 時間
第9回	対面	研究報告Ⅱー4	【予習】各自、研究を進めて下さい。報告者は報告の準備をしておいて下さい。 【復習】授業で得た情報やコメントを研究に反映させて下さい。	4 時間
第10回	対面	研究報告Ⅱー5	【予習】各自、研究を進めて下さい。報告者は報告の準備をしておいて下さい。 【復習】授業で得た情報やコメントを研究に反映させて下さい。	4 時間
第11回	対面	研究報告Ⅱー6	【予習】各自、研究を進めて下さい。報告者は報告の準備をしておいて下さい。 【復習】授業で得た情報やコメントを研究に反映させて下さい。	4 時間
第12回	対面	期末レポートの作成指導	【予習】各自、研究を進めて下さい。 【復習】授業で得た情報やコメントを研究に反映させて下さい。	4 時間
第13回	対面	期末レポートへのフィードバック1	【予習】各自、研究を進めて下さい。 【復習】授業で得た情報やコメントを研究に反映させて下さい。	4 時間
第14回	対面	期末レポートへのフィードバック2 演習のまとめ、夏休み中の計画策定	【予習】各自、研究を進めて下さい。 【復習】授業で得た情報やコメントを研究に反映させて下さい。	4 時間
第15回	オンデマンド	日本経済、都市・地域経済の最新状況と課題	【予習】配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことを整理して下さい。	4 時間

科目名	演習Ⅲ A	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	前田 一樹	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	労働市場や雇用政策を経済学的な視点から学ぶ		
授業の目的及び概要	本科目では、労働経済学の視点に基づいて、身近な問題から賃金や雇用格差という社会的な問題まで、さまざまな社会問題について考えます。働くことは生活の基礎です。では、なぜ裕福な人とそうでない人がいるのか、仕事を失うとどうなるか、働く意味や働きがいとは何であるか、などの普段の生活で思い浮かぶ疑問について経済理論に基づいて理解できることを目指します。 また、政府が実施する雇用政策によって人々がどのように影響を受けるかというメカニズムについても理解し自分なりに読み解けることを目指します。 さらに、実際にデータなどを用いて現実の労働市場での事象が理論通りに起きているのかを確認したうえで、なぜそうなるのかという理由を探究していくことを行います。これらを通じて鍛えられる経済学的な論理的思考力、分析力、そして、データの読み取る能力は、大学における学習・研究だけでなく、就職活動にも役立ちます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	日本の労働市場が直面している諸問題を知ること、日本経済の現状や仕組みについて精通をしていくとともに、労働経済学の分野での幅広い知識と素養を習得する。また、報告にあたっての資料の作成や発表を通じてプレゼンテーションやコミュニケーションの能力を身につける。 これらを通じて、卒業研究を進める能力を習得し、卒業研究を執筆・完成させる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	グループまたは個人による研究報告に対するコメントを通じてフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。必要な資料等は授業中に配布・紹介します。	ISBN	なし
参考書	①「働くこと」を思考する、久米功一、中央経済社、2020 年 ②労働経済学一理論と実証をつなぐ、川口大司、有斐閣、2017 年 ③職業の経済学、阿部正浩・菅万理・勇上和史編著：中央経済社、2017 年 （①については図書館の電子ブックでも閲覧することができます。）	ISBN	①9784502366413 ②9784641165076 ③9784502238215
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		

	その他の内容	
この科目の受講にあたって	演習科目は、受講者の主体的な取り組みを前提として授業が運営されます。ゼミにおける報告資料の準備はもちろん、議論をするために事前のテキストの確認など授業時間中だけでは完結しません。そのため、授業以外の時間でも準備が必要です。参加者のみなさんに積極的な授業参加を強く期待します。 履修にあたり、ミクロ経済学、マクロ経済学、労働経済学、計量経済学などの分析手法について知識があることが望ましいですが、必須ではありません。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	・事前に参考文献に目を通し、興味のあるテーマについて考えてください。(2 時間程度) ・今学期の目標を決めるとともに、研究計画の検討をしてください。(2 時間程度)	4 時間
第2回	対面	研究報告 1	・報告担当者は、報告資料を準備してください。(2 時間程度) ・授業の中で得た情報や知識を確認し、自身の資料に反映させてください。(2 時間程度)	4 時間
第3回	対面	研究報告 2	・報告担当者は、報告資料を準備してください。(2 時間程度) ・授業の中で得た情報や知識を確認し、自身の資料に反映させてください。(2 時間程度)	4 時間
第4回	対面	研究報告 3	・報告担当者は、報告資料を準備してください。(2 時間程度) ・授業の中で得た情報や知識を確認し、自身の資料に反映させてください。(2 時間程度)	4 時間
第5回	対面	研究報告 4	・報告担当者は、報告資料を準備してください。(2 時間程度) ・授業の中で得た情報や知識を確認し、自身の資料に反映させてください。(2 時間程度)	4 時間
第6回	対面	研究報告 5	・報告担当者は、報告資料を準備してください。(2 時間程度) ・授業の中で得た情報や知識を確認し、自身の資料に反映させてください。(2 時間程度)	4 時間
第7回	対面	中間報告会 1	・中間報告に向けて報告資料の準備を行ってください。(2 時間程度) ・授業の中で得た教員からのコメントや情報、知識を確認し、報告資料や分析に反映して修正してください。(2 時間程度)	4 時間
第8回	対面	中間報告会 1	・中間報告に向けて報告資料の準備を行ってください。(2 時間程度) ・授業の中で得た教員からのコメントや情報、知識を確認し、報告資料や分析に反映して修正してください。(2 時間程度)	4 時間
第9回	対面	研究報告 6	・報告担当者は報告資料の準備を行ってください。(2 時間程度) ・授業の中で得た教員からのコメントや情報、知識を確認し、報告資料や分析に反映して修正してください。(2 時間程度)	4 時間
第10回	対面	研究報告 7	・報告担当者は報告資料の準備を行ってください。(2 時間程度) ・授業の中で得た教員からのコメントや情報、知識を確認し、報告資料や分析に反映して修正してください。(2 時間程度)	4 時間
第11回	対面	研究報告 8	・報告担当者は報告資料の準備を行ってください。(2 時間程度)	4 時間

			・授業の中で得た教員からのコメントや情報, 知識を確認し, 報告資料や分析に反映して修正してください。(2 時間程度)	
第 1 2 回	対面	研究報告 9	・報告担当者は報告資料の準備を行ってください。(2 時間程度) ・授業の中で得た教員からのコメントや情報, 知識を確認し, 報告資料や分析に反映して修正してください。(2 時間程度)	4 時間
第 1 3 回	対面	前期最終報告 1	・前期最終報告に向けて報告資料の準備を行ってください。(2 時間程度) ・授業の中で得たコメントや情報・知識を確認してください。 ・報告資料や分析の修正をしてください。(2 時間程度)	4 時間
第 1 4 回	対面	前期最終報告 2	・前期最終報告に向けて報告資料の準備を行ってください。(2 時間程度) ・授業の中で得たコメントや情報・知識を確認してください。 ・報告資料や分析の修正をしてください。(2 時間程度)	4 時間
第 1 5 回	オンデマンド	振り返り	・オンデマンド動画を視聴し, 今学期の振り返りを行ってください。 ・秋学期の卒業研究完成に向けてどのような改善が必要か論文を執筆しながら検討してください。適宜の卒業研究で使えるような先行研究等を探してください (4 時間程度)。	4 時間

科目名	演習Ⅲ A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	藤田 峻	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	ゲーム理論・行動経済学の応用研究		
授業の目的及び概要	ゲーム理論は社会全般を分析可能な、社会科学における非常に強力な分析ツールです。本科目では、これまでの学修成果を十全に活用して、社会問題や社会的現象等を中心にゲーム理論に基づく独自の分析を行い、卒業論文の形にまとめることを目的とします。 この目的を達成するため、授業では各自の研究報告を中心として、教員や他のゼミ生との議論を通じて、卒業論文の質を高めることを目指します。さらに、自身の研究を高度な水準で進めるだけでなく、他者の研究に対して意見を述べることを通じて、他者と協働する能力を高めることができます。 なお、本科目で主要な分析ツールとするゲーム理論は、日常生活やビジネスの現場に応用することが容易な理論です。本科目での学修を通じて、人との関わりにおける戦略的關係や、企業の戦略的行動などを理解することで、人生で役立つ経済学の修得につながります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. ゲーム理論の基礎を再確認し、独力で社会に関連する戦略的状況を分析することができる 2. 他者の報告を聴いて、自らの意見を踏まえた建設的な提案ができる 3. 卒業論文等、学術的な文章を作成する基礎的な能力を修得している		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	原則として個人による研究報告に対するコメントを通じて、フィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。 必要な資料等は授業中に配付・紹介します。	ISBN	なし
参考書	研究の状況に応じて適宜紹介します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	60	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	本科目は大学 4 年間の集大成となる卒業論文の執筆に直結する科目です。卒業論文の執筆には膨大な時間が必要となりますので、早い段階から計画的に研究を進めるように心がけてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	ガイダンス	・シラバスの確認（30 分程度） ・今学期の計画立案（90 分程度）	4 時間

			・研究計画の確認（2 時間程度）	
第 2 回	対面	研究報告	・研究報告の準備（2 時間程度） 報告予定者は報告資料を準備してください。 ・文献調査（2 時間程度） 報告後は、指摘された改善点等を資料に反映させて、次の報告に備えてください。	4 時間
第 3 回	対面	研究報告	・研究報告の準備（2 時間程度） 報告予定者は報告資料を準備してください。 ・文献調査（2 時間程度） 報告後は、指摘された改善点等を資料に反映させて、次の報告に備えてください。	4 時間
第 4 回	対面	研究報告	・研究報告の準備（2 時間程度） 報告予定者は報告資料を準備してください。 ・文献調査（2 時間程度） 報告後は、指摘された改善点等を資料に反映させて、次の報告に備えてください。	4 時間
第 5 回	対面	研究報告	・研究報告の準備（2 時間程度） 報告予定者は報告資料を準備してください。 ・文献調査（2 時間程度） 報告後は、指摘された改善点等を資料に反映させて、次の報告に備えてください。	4 時間
第 6 回	対面	研究報告	・研究報告の準備（2 時間程度） 報告予定者は報告資料を準備してください。 ・卒業研究に関する計算・分析等（2 時間程度） 報告後は、指摘された改善点等を資料に反映させて、次の報告に備えてください。	4 時間
第 7 回	対面	研究報告	・研究報告の準備（2 時間程度） 報告予定者は報告資料を準備してください。 ・卒業研究に関する計算・分析等（2 時間程度） 報告後は、指摘された改善点等を資料に反映させて、次の報告に備えてください。	4 時間
第 8 回	対面	研究報告	・研究報告の準備（2 時間程度） 報告予定者は報告資料を準備してください。 ・卒業研究に関する計算・分析等（2 時間程度） 報告後は、指摘された改善点等を資料に反映させて、次の報告に備えてください。	4 時間
第 9 回	対面	研究報告	・研究報告の準備（2 時間程度） 報告予定者は PowerPoint 等を用いて、中間報告資料を作成してください。 ・卒業研究に関する計算・分析等（2 時間程度） 報告後は、指摘された改善点等を資料に反映させて、次の報告に備えてください。	4 時間
第 10 回	対面	研究報告	・研究報告の準備（2 時間程度） 報告予定者は PowerPoint 等を用いて、中間報告資料を作成してください。 ・卒業研究に関する計算・分析等（2 時間程度） 報告後は、指摘された改善点等を資料に反映させて、次の報告に備えてください。	4 時間
第 11 回	対面	研究報告	・研究報告の準備（2 時間程度） 報告予定者は PowerPoint 等を用いて、中間報告資料を作成してください。 ・卒業研究に関する計算・分析等（2 時間程度） 報告後は、指摘された改善点等を資料に反映させて、次の報告に備えてください。	4 時間
第 12 回	対面	研究報告	・研究報告の準備（2 時間程度） 報告予定者は PowerPoint 等を用いて、中間報告資料を作成してください。	4 時間

			・卒業研究に関する計算・分析等（2時間程度） 報告後は、指摘された改善点等を資料に反映させて、 次の報告に備えてください。	
第13回	対面	研究報告	・研究報告の準備（2時間程度） 報告予定者はPowerPoint等を用いて、中間報告資料 を作成してください。 ・卒業研究に関する計算・分析等（2時間程度） 報告後は、指摘された改善点等を資料に反映させて、 次の報告に備えてください。	4時間
第14回	対面	振り返り	・期末レポートの執筆 前期末レポートを完成させて、内容の要約を簡単に 発表できるよう準備してください。	4時間
第15回	オンデ マンド	期末レポート執筆のポイント	・授業資料にしたがって、自身の期末レポートを確認 し、必要な加筆修正を行ってください。	4時間

科目名	演習Ⅲ A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	前田 一樹	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	労働市場や雇用政策を経済学的な視点から学ぶ		
授業の目的及び概要	本科目では、労働経済学の視点に基づいて、身近な問題から賃金や雇用格差という社会的な問題まで、さまざまな社会問題について考えます。働くことは生活の基礎です。では、なぜ裕福な人とそうでない人がいるのか、仕事を失うとどうなるか、働く意味や働きがいとは何であるか、などの普段の生活で思い浮かぶ疑問について経済理論に基づいて理解できることを目指します。 また、政府が実施する雇用政策によって人々がどのように影響を受けるかというメカニズムについても理解し自分なりに読み解けることを目指します。 さらに、実際にデータなどを用いて現実の労働市場での事象が理論通りに起きているのかを確認したうえで、なぜそうなるのかという理由を探究していくことを行います。これらを通じて鍛えられる経済学的な論理的思考力、分析力、そして、データの読み取る能力は、大学における学習・研究だけでなく、就職活動にも役立ちます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	日本の労働市場が直面している諸問題を知ること、日本経済の現状や仕組みについて精通をしていくとともに、労働経済学の分野での幅広い知識と素養を習得する。また、報告にあたっての資料の作成や発表を通じてプレゼンテーションやコミュニケーションの能力を身につける。 これらを通じて、卒業研究を進める能力を習得し、卒業研究を執筆・完成させる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	グループまたは個人による研究報告に対するコメントを通じてフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。必要な資料等は授業中に配布・紹介します。	ISBN	なし
参考書	①「働くこと」を思考する、久米功一、中央経済社、2020 年 ②労働経済学一理論と実証をつなぐ、川口大司、有斐閣、2017 年 ③職業の経済学、阿部正浩・菅万理・勇上和史編著：中央経済社、2017 年 （①については図書館の電子ブックでも閲覧することができます。）	ISBN	①9784502366413 ②9784641165076 ③9784502238215
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）		

	その他の内容	
この科目の受講にあたって	演習科目は、受講者の主体的な取り組みを前提として授業が運営されます。ゼミにおける報告資料の準備はもちろん、議論をするために事前のテキストの確認など授業時間中だけでは完結しません。そのため、授業以外の時間でも準備が必要です。参加者のみなさんに積極的な授業参加を強く期待します。 履修にあたり、ミクロ経済学、マクロ経済学、労働経済学、計量経済学などの分析手法について知識があることが望ましいですが、必須ではありません。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	・事前に参考文献に目を通し、興味のあるテーマについて考えてください。(2時間程度) ・今学期の目標を決めるとともに、研究計画の検討をしてください。(2時間程度)	4時間
第2回	対面	研究報告1	・報告担当者は、報告資料を準備してください。(2時間程度) ・授業の中で得た情報や知識を確認し、自身の資料に反映させてください。(2時間程度)	4時間
第3回	対面	研究報告2	・報告担当者は、報告資料を準備してください。(2時間程度) ・授業の中で得た情報や知識を確認し、自身の資料に反映させてください。(2時間程度)	4時間
第4回	対面	研究報告3	・報告担当者は、報告資料を準備してください。(2時間程度) ・授業の中で得た情報や知識を確認し、自身の資料に反映させてください。(2時間程度)	4時間
第5回	対面	研究報告4	・報告担当者は、報告資料を準備してください。(2時間程度) ・授業の中で得た情報や知識を確認し、自身の資料に反映させてください。(2時間程度)	4時間
第6回	対面	研究報告5	・報告担当者は、報告資料を準備してください。(2時間程度) ・授業の中で得た情報や知識を確認し、自身の資料に反映させてください。(2時間程度)	4時間
第7回	対面	中間報告会1	・中間報告に向けて報告資料の準備を行ってください。(2時間程度) ・授業の中で得た教員からのコメントや情報、知識を確認し、報告資料や分析に反映して修正してください。(2時間程度)	4時間
第8回	対面	中間報告会1	・中間報告に向けて報告資料の準備を行ってください。(2時間程度) ・授業の中で得た教員からのコメントや情報、知識を確認し、報告資料や分析に反映して修正してください。(2時間程度)	4時間
第9回	対面	研究報告6	・報告担当者は報告資料の準備を行ってください。(2時間程度) ・授業の中で得た教員からのコメントや情報、知識を確認し、報告資料や分析に反映して修正してください。(2時間程度)	4時間
第10回	対面	研究報告7	・報告担当者は報告資料の準備を行ってください。(2時間程度) ・授業の中で得た教員からのコメントや情報、知識を確認し、報告資料や分析に反映して修正してください。(2時間程度)	4時間
第11回	対面	研究報告8	・報告担当者は報告資料の準備を行ってください。(2時間程度)	4時間

			・授業の中で得た教員からのコメントや情報, 知識を確認し, 報告資料や分析に反映して修正してください。(2 時間程度)	
第 1 2 回	対面	研究報告 9	・報告担当者は報告資料の準備を行ってください。(2 時間程度) ・授業の中で得た教員からのコメントや情報, 知識を確認し, 報告資料や分析に反映して修正してください。(2 時間程度)	4 時間
第 1 3 回	対面	前期最終報告 1	・前期最終報告に向けて報告資料の準備を行ってください。(2 時間程度) ・授業の中で得たコメントや情報・知識を確認してください。 ・報告資料や分析の修正をしてください。(2 時間程度)	4 時間
第 1 4 回	対面	前期最終報告 2	・前期最終報告に向けて報告資料の準備を行ってください。(2 時間程度) ・授業の中で得たコメントや情報・知識を確認してください。 ・報告資料や分析の修正をしてください。(2 時間程度)	4 時間
第 1 5 回	オンデマンド	振り返り	・オンデマンド動画を視聴し, 今学期の振り返りを行ってください。 ・秋学期の卒業研究完成に向けてどのような改善が必要か論文を執筆しながら検討してください。適宜の卒業研究で使えるような先行研究等を探してください (4 時間程度)。	4 時間

科目名	演習Ⅲ A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	張 哲	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	国際経済の実証研究		
授業の目的及び概要	本科目では、これまでの学修成果を活用して、国際経済に関連する内容をテーマに、文献調査を踏まえて、分析を行い、最終的に卒業論文としてまとめることを目的とします。授業では、各自の研究報告を行い、議論を通じて分析の視点を広げ、質の高い卒業論文の作成を目指します。と同時に、プレゼンテーション能力の向上を図ります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（１）信憑性の高い情報源より文献調査ができる。 （２）統計データを活用する分析ができる。 （３）考え方を論理よく表現できる。 （４）学術論文の読み書きができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中のコメントを通じてフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは使用しない。	ISBN	なし
参考書	授業中に随時紹介します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション、授業の進め方について	各自研究内容を決定し、研究計画を作成してください。	4 時間
第2回	オンデマンド	卒業論文の作成要領	配布する冊子の内容に基づき、卒論の書式要件を習得する。	4 時間
第3回	対面	研究報告	研究報告の準備と文献調査	4 時間
第4回	対面	研究報告	研究報告の準備と文献調査	4 時間
第5回	対面	研究報告	研究報告の準備と文献調査	4 時間

2026/05/01

第6回	対面	研究報告	研究報告の準備と文献調査	4 時間
第7回	対面	研究報告	研究報告の準備と文献調査	4 時間
第8回	対面	研究報告	研究報告の準備と文献調査	4 時間
第9回	対面	研究報告	研究報告の準備と文献調査	4 時間
第10回	対面	研究報告	研究報告の準備と文献調査	4 時間
第11回	対面	研究報告	研究報告の準備と文献調査	4 時間
第12回	対面	研究報告	研究報告の準備と文献調査	4 時間
第13回	対面	研究報告	研究報告の準備と文献調査	4 時間
第14回	対面	研究報告	研究報告の準備と文献調査	4 時間
第15回	対面	振り返り	これまでの授業内容を踏まえて、卒論の初稿を作成する。	4 時間

科目名	演習Ⅲ A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	穴井 佑	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	近世・近代イギリス社会経済史		
授業の目的及び概要	演習ⅡA・B の学修を踏まえたうえで、個人ごとに研究テーマを設定し、個別研究を行います。必要に応じて、近世から近代にかけてのイギリスにおける貧困問題や産業革命と経済成長に関するテキストの輪読も行います。これらの学修を通して、卒業論文の作成を目指します。また、本演習では、GDP・為替レート・金利などの「経済諸指標とその連動についての理解」をサブテーマに設定しています。歴史事象を検討する中で、そうした経済諸指標とその連動の具体例を見出していきます。そうすることで、現代社会の経済の動きを歴史的な観点から考察する力の涵養を目指します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	第一に、社会経済史の手法を理解する。 第二に、一つのテキストをしっかりと「読む」力を養成する。 第三に、スライドやレジュメの作成、ディスカッション、プレゼンテーションなどを通して、テキスト講読から得た知見をまとめ、自身の見解として再構築していくスキルを身につける。 第四に、以上の力やスキルを総動員して卒業論文の執筆に向けた準備をする。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の授業の中で、スライド、レジュメ、プレゼンテーション、ディスカッションに対してコメントをします。質疑応答の時間もその都度確保します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特にありません。授業で用いるテキストはその都度担当教員から配布します。	ISBN	なし
参考書	特にありません。研究を進めるうえで必要な参考書については適宜紹介します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	10	
	その他の内容	個別研究や輪読のスライドあるいはレジュメから判断します。	
この科目の受講にあたって	遅刻厳禁。履修者は自身がゼミの一員であることを自覚し、責任感をもって授業に参加すること。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	授業のイントロダクション（学術的な文章の作成作法、文献の収集、スライドやレジュメの作成）	【予習】演習Ⅱ A・B で学修した、学術的な文章作成の作法、文献収集の方法、スライドやレジュメの作成	4 時間

		ユメの作成、プレゼンテーションの方法などについての説明をします)を行った後に、個人ごとの研究テーマを設定してもらいます。	成、プレゼンテーションの方法などを復習しておくこと。また、自分が関心ある研究テーマに関連する文献の調査を行うこと。 【復習】学術的な文章作成の作法、文献収集の方法、スライドやレジユメの作成、プレゼンテーションの方法などを復習しておくこと。また、自分が関心ある研究テーマに関連する文献の調査を行うこと。	
第2回	対面	個人ごとに設定した研究テーマに関連する文献調査・収集を行います。十分な文献が収集でき次第、文献の精読を進めていきます。	【予習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献の調査を行うこと。 【復習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献を精読すること。	4 時間
第3回	対面	個人ごとに設定した研究テーマに関連する文献調査・収集を行います。十分な文献が収集でき次第、文献の精読を進めていきます。	【予習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献の調査を行うこと。 【復習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献を精読すること。	4 時間
第4回	対面	研究に必要な文献を精読しつつ、研究報告に向けた作業を進めます。	【予習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献を精読すること。 【復習】文献の精読をすすめてつ、そこから得られた知見を自身の研究に反映できるよう整理すること。	4 時間
第5回	対面	ここまでの研究の進捗状況を報告します。合わせて、それに対する質疑応答を行います。	【予習】研究報告を行うためのレジユメを作成すること。 【復習】質疑応答で得られた課題の改善に努めること。	4 時間
第6回	対面	ここまでの研究の進捗状況を報告します。あわせて、それに対する質疑応答を行います。	【予習】研究報告を行うためのレジユメを作成すること。 【復習】質疑応答で得られた課題の改善に努めること。	4 時間
第7回	対面	研究に必要な文献を精読しつつ、研究報告に向けた作業を進めます。	【予習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献を精読すること。 【復習】文献の精読をすすめてつ、そこから得られた知見を自身の研究に反映できるよう整理すること。	4 時間
第8回	対面	研究に必要な文献を精読しつつ、研究報告に向けた作業を進めます。	【予習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献を精読すること。 【復習】文献の精読をすすめてつ、そこから得られた知見を自身の研究に反映できるよう整理すること。	4 時間
第9回	対面	ここまでの研究の進捗状況を報告します。あわせて、それに対する質疑応答を行います。	【予習】研究報告を行うためのレジユメを作成すること。 【復習】質疑応答で得られた課題の改善に努めること。	4 時間
第10回	対面	ここまでの研究の進捗状況を報告します。あわせて、それに対する質疑応答を行います。	【予習】研究報告を行うためのレジユメを作成すること。 【復習】質疑応答で得られた課題の改善に努めること。	4 時間
第11回	対面	研究に必要な文献を精読しつつ、研究作業を進めます。また、ここまでの研究の文章化も始めていきます。	【予習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献を精読すること。ここまでの研究の文章化も始めること。 【復習】文献の精読をすすめてつ、そこから得られた知見を自身の研究に反映できるよう整理すること。また、文章の改善に努めること。	4 時間
第12回	対面	研究に必要な文献を精読しつつ、研究作業を進めます。また、ここまでの研究の文章化も始めていきます。	【予習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献を精読すること。ここまでの研究の文章化も始めること。 【復習】文献の精読をすすめてつ、そこから得られた知見を自身の研究に反映できるよう整理すること。また、文章の改善に努めること。	4 時間
第13回	対面	ここまでの研究を文章化し、それをもとにした研究報告を行います。	【予習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献を精読すること。ここまでの研究の文章化も始める	4 時間

			こと。 【復習】文献の精読をすすめつつ、そこから得られた知見を自身の研究に反映できるよう整理すること。 また、文章の改善に努めること。	
第14回	対面	ここまでの研究を文章化し、それをもとにした研究報告を行います。	【予習】自分が関心ある研究テーマに関連する文献を精読すること。ここまでの研究の文章化も始めること。 【復習】文献の精読をすすめつつ、そこから得られた知見を自身の研究に反映できるよう整理すること。 また、文章の改善に努めること。	4 時間
第15回	オンデマンド	これまでの研究内容についてのまとめをオンデマンドで配信する動画教材で行う。	動画教材を視聴した上で、これまでの研究の改善に努めること。	4 時間

科目名	演習Ⅲ A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	嶋田 裕光	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	日本経済が直面する諸課題について考えながら、卒論内容の骨格（要旨4000字以上）を固める。		
授業の目的及び概要	この演習では、日本経済や地域が抱える諸問題を考えたり今後の展望を行うことを中心に、3年時の演習ⅡBで各自選択したテーマについての研究方針に従って、卒業研究内容の充実を図ることを目指します。秋学期に卒業論文を完成させることを想定しますので、その準備として、研究の骨格、卒論要旨（4000字以上）を今学期中に固めます。この演習を通じて、経済現象をデータを用いながら自ら分析し、考えをまとめるという力を身につけることが目的となります。		
履修条件・留意点	研究計画発表と卒論要旨（4000字）提出を以て本学期単位（必修）を認定します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 3 年次までに身につけた経済学の知識を自分で選択したテーマに当てはめ分析に応用すること。 2. 研究に必要な文献収集、データ収集を的確に行えること。 3. 卒業研究として首尾一貫した論文の書き方を身につけること。 4. ゼミでの報告と討論を通して、就職活動などでも有用なプレゼン能力、コミュニケーション能力を養うこと。 以上の4点を到達目標とします。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	各自の発表時にコメントするほか、作成された文書については適宜添削指導します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1986 年に経済企画庁（現内閣府）に入庁し、国家公務員として 30 年以上のキャリアを積んでいる。また、経済白書や経済計画、GDP 統計、社会福祉政策にも携わった実務経験から、マクロ経済学、財政学、GDP 統計、少子化問題を専門領域としている。本科目では、これらの経験を生かし、経済データを正しく評価する目を養い、社会で役立てるための基本的な理論から実務的なプロセスまで含めた幅広い授業を行う。		
テキスト	テキスト指定は行いません。各自、必要な文献を用意してください。	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	40	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
この科目の受講にあたって	その他の内容		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ゼミの運営スケジュールや内容について確認し、報告日程を決定します。	ガイダンスに基づいて各自日程を踏まえながら準備を進めてください。	2 時間
第2回	対面	卒業論文の執筆要領について解説します。	卒業論文の執筆要領を事前に読んでおいてください。（予習） 解説後、改めて執筆要領に応じた書き方を常に意識するようにしてください。（復習）	4 時間
第3回	対面	各自選んだ研究テーマと研究計画書の作成方法、記載内容について確認します。	各自研究計画書をあらかじめ準備しておいてください。（予習） 解説後、必要があれば修正して発表に耐える形にしてください（復習）	4 時間
第4回	対面	卒業論文の研究計画書（テーマ、問題意識、検証したい仮説や予想される結果、分析の方法など）の発表を順次行います。①	研究計画書の作成要領に基づいて計画書をよく見直してください。（予習） 演習後、教員やゼミ生の指摘に基づいて計画書をすぐ修正してください（復習）	4 時間
第5回	対面	卒業論文の研究計画書（テーマ、問題意識、検証したい仮説や予想される結果、分析の方法など）の発表を順次行います。②	研究計画書の作成要領に基づいて計画書をよく見直してください。（予習） 演習後、教員やゼミ生の指摘に基づいて計画書をすぐ修正し、それに基づき研究要旨（4000字以上）を書いていきましょう。（復習）	4 時間
第6回	対面	卒業論文の研究計画書（テーマ、問題意識、検証したい仮説や予想される結果、分析の方法など）の発表を順次行います。③	研究計画書の作成要領に基づいて計画書をよく見直してください。（予習） 演習後、教員やゼミ生の指摘に基づいて計画書をすぐ修正し、それに基づき研究要旨（4000字以上）を書いていきましょう。（復習）	4 時間
第7回	対面	卒業論文の研究計画書（テーマ、問題意識、検証したい仮説や予想される結果、分析の方法など）の発表を順次行います。④	研究計画書の作成要領に基づいて計画書をよく見直してください。（予習） 演習後、教員やゼミ生の指摘に基づいて計画書をすぐ修正し、それに基づき研究要旨（4000字以上）を書いていきましょう。（復習）	4 時間
第8回	対面	卒業論文の研究計画書（テーマ、問題意識、検証したい仮説や予想される結果、分析の方法など）の発表を順次行います。⑤	研究計画書の作成要領に基づいて計画書をよく見直してください。（予習） 演習後、教員やゼミ生の指摘に基づいて計画書をすぐ修正し、それに基づき研究要旨（4000字以上）を書いていきましょう。（復習）	4 時間
第9回	対面	卒業論文の研究計画書（テーマ、問題意識、検証したい仮説や予想される結果、分析の方法など）の発表を順次行います。⑤	研究計画書の作成要領に基づいて計画書をよく見直してください。（予習） 演習後、教員やゼミ生の指摘に基づいて計画書をすぐ修正し、それに基づき研究要旨（4000字以上）を書いていきましょう。（復習）	4 時間
第10回	対面	卒業論文の研究計画書（テーマ、問題意識、検証したい仮説や予想される結果、分析の方法など）の発表を順次行います。⑥	研究計画書の作成要領に基づいて計画書をよく見直してください。（予習） 演習後、教員やゼミ生の指摘に基づいて計画書をすぐ修正し、それに基づき研究要旨（4000字以上）を書いていきましょう。（復習）	4 時間
第11回	対面	卒業論文の研究計画書（テーマ、問題意識、検証したい仮説や予想される結果、分析の方法など）の発表を順次行います。⑦	研究計画書の作成要領に基づいて計画書をよく見直してください。（予習） 演習後、教員やゼミ生の指摘に基づいて計画書をすぐ修正し、それに基づき研究要旨（4000字以上）を書いていきましょう。（復習）	4 時間
第12回	対面	卒業論文の研究計画書（テーマ、問題意識、検証したい仮説や予想される結果、分析の方法など）の発表を順次行います。⑧	研究計画書の作成要領に基づいて計画書をよく見直してください。（予習） 演習後、教員やゼミ生の指摘に基づいて計画書をすぐ修正し、それに基づき研究要旨（4000字以上）を書いていきましょう。（復習）	4 時間
第13回	対面	卒業論文の研究計画書（テーマ、問題意識、	研究計画書の作成要領に基づいて計画書をよく見直	4 時間

		検証したい仮説や予想される結果、分析の方法など）の発表を順次行います。⑨	してください。（予習） 演習後、教員やゼミ生の指摘に基づいて計画書をすぐ修正し、それに基づき研究要旨（４０００字以上）を書いていきましょう。（復習）	
第１４回	対面	卒業論文の研究計画書（テーマ、問題意識、検証したい仮説や予想される結果、分析の方法など）の発表を順次行います。⑩	研究計画書の作成要領に基づいて計画書をよく見直してください。（予習） 演習後、教員やゼミ生の指摘に基づいて計画書をすぐ修正し、それに基づき研究要旨（４０００字以上）を書いていきましょう。	４時間
第１５回	オンデマンド	各自、研究計画書に基づいて卒業論文作成に順次取り組んでもらいます。これまでの発表を踏まえて、卒論作成の注意点について総括するとともに、秋学期の卒論スケジュールについて確認します。なお、これまで執筆作業をしてきた研究要旨（４０００字）以上の提出をもって春学期の単位認定とします。	今一度卒業論文作成要領を参照し、各自、作業がそれに沿っているかどうかよく確認してください。	６時間

科目名	演習Ⅲ B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	牧田 修治	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	都市と地方の人口変動を考える		
授業の目的及び概要	本科目では、これまでの学修成果を活用して都市と地方の人口変動について分析し、卒業論文としてまとめることを目的とする。授業では各自の研究報告を行い、教員や他のゼミ生との議論を通じて、分析の視点を広げ分析手法の改善を行い、質の高い卒業論文の完成を目指す。さらに、報告者に対する質問や意見に対する報告者の心構えや対応の仕方などについてのレベル向上を目指す。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	次の3つを目標とする。 1. 統計データを使って分析ができる。 2. 自分の考えを口頭や文章で論理的に伝えることができる。 3. 学術的な論文を読み、論文を書くことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中のコメントを通じてフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニング の取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、金融機関のシンクタンクや徳島県庁で、長年にわたり統計データ分析や政策分析の業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しない。	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	60	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	・ 長期休み中の研究成果の振り返り（2時間程度） ・ 卒業論文執筆に向けた計画の再確認（2時間程度）	4 時間
第2回	対面	研究報告	報告の準備と卒業論文の執筆（それぞれ2時間）	4 時間
第3回	対面	研究報告	報告の準備と卒業論文の執筆（それぞれ2時間）	4 時間
第4回	対面	研究報告	報告の準備と卒業論文の執筆（それぞれ2時間）	4 時間
第5回	対面	研究報告	報告の準備と卒業論文の執筆（それぞれ2時間）	4 時間

2026/05/01

第6回	対面	研究報告	報告の準備と卒業論文の執筆（それぞれ2時間）	4時間
第7回	対面	研究報告	報告の準備と卒業論文の執筆（それぞれ2時間）	4時間
第8回	対面	研究報告	報告の準備と卒業論文の執筆（それぞれ2時間）	4時間
第9回	対面	研究報告	報告の準備と卒業論文の執筆（それぞれ2時間）	4時間
第10回	対面	研究報告	報告の準備と卒業論文の執筆（それぞれ2時間）	4時間
第11回	対面	卒論の最終調整	・卒業論文の仕上げ作業	4時間
第12回	対面	卒論の最終調整	・卒業論文の仕上げ作業	4時間
第13回	対面	卒論の最終調整	・卒業論文の仕上げ作業	4時間
第14回	対面	卒論の最終調整	・卒業論文の仕上げ作業	4時間
第15回	オンデマンド	卒論の最終確認事項について	卒論の完成のための最終確認をしてください	4時間

科目名	演習Ⅲ B		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	久米 高史		配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G4		授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	経済史(経済成長、経済政策、金融政策、企業の興亡、国内需要や貿易、社会保障等々 に関する長期的分析)			
授業の目的及び概要	本授業は、これまでの学修成果を活用して、日本経済史・比較経済史(日本及び諸外国の経済成長、経済政策、金融政策、企業の興亡、国内需要や貿易、社会保障等々 に関する長期的分析)のテーマについて、先行研究を踏まえた上で自分自身の分析を進め、卒魚論文としてまとめることを目的とする。授業では、春学期に引き続き個々人の卒業研究を報告してもらい、教員や他のゼミ生との議論を通じて、自らの卒業論文のさらなるブラッシュアップを図り、最終的な卒業論文を完成させる。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	次の3点を目標とする。 1. 学術的な文献を読み、それらをしっかりと理解した上で、自分自身の論点を明確にすることができる。 2. 統計データを使って分析を行い、自分自身の分析結果を自分独自のグラフや表で表現することができる。 3. 自分自身の考えを、口頭及び文章でしっかりとまた論理的に伝えることができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業中のコメントを通じて、フィードバックを行う。			
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディバート、討議／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	なし	ISBN	なし	
参考書	授業の中で適宜紹介する。	ISBN		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0		
	成果発表（口頭・実技）	60		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	0		
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	日本及び諸外国の経済成長、経済政策、金融政策、企業の興亡、国内需要や貿易、社会保障等々に関する長期的分析という視点を卒業論文には反映させてください。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	対面	現時点での卒業論文の発表	・卒業論文の執筆 ・教員や他のゼミ生からのコメントを受けての修正	4 時間
第2回	対面	現時点での卒業論文の発表	・卒業論文の執筆 ・教員や他のゼミ生からのコメントを受けての修正	4 時間

第3回	対面	現時点での卒業論文の発表	・卒業論文の執筆 ・教員や他のゼミ生からのコメントを受けての修正	4時間
第4回	対面	現時点での卒業論文の発表	・卒業論文の執筆 ・教員や他のゼミ生からのコメントを受けての修正	4時間
第5回	対面	現時点での卒業論文の発表	・卒業論文の執筆 ・教員や他のゼミ生からのコメントを受けての修正	4時間
第6回	対面	現時点での卒業論文の発表	・卒業論文の執筆 ・教員や他のゼミ生からのコメントを受けての修正	4時間
第7回	対面	現時点での卒業論文の発表	・卒業論文の執筆 ・教員や他のゼミ生からのコメントを受けての修正	4時間
第8回	対面	現時点での卒業論文の発表	・卒業論文の執筆 ・教員や他のゼミ生からのコメントを受けての修正	4時間
第9回	対面	現時点での卒業論文の発表	・卒業論文の執筆 ・教員や他のゼミ生からのコメントを受けての修正	4時間
第10回	対面	現時点での卒業論文の発表	・卒業論文の執筆 ・教員や他のゼミ生からのコメントを受けての修正	4時間
第11回	オンデマンド	振り返りと最終的な論文完成に向けての注意	・卒業論文の執筆 ・教員や他のゼミ生からのコメントを受けての修正	4時間
第12回	対面	現時点での卒業論文の発表	・卒業論文の執筆 ・教員や他のゼミ生からのコメントを受けての修正	4時間
第13回	対面	現時点での卒業論文の発表	・卒業論文の執筆 ・教員や他のゼミ生からのコメントを受けての修正	4時間
第14回	対面	現時点での卒業論文の発表	・卒業論文の執筆 ・教員や他のゼミ生からのコメントを受けての修正	4時間
第15回	対面	現時点での卒業論文の発表	・卒業論文の執筆 ・教員や他のゼミ生からのコメントを受けての修正	4時間

科目名	演習Ⅲ B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	畑佐 伸英	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	国際経済研究入門（2）		
授業の目的及び概要	本演習では、国際経済の各分野において、各自の関心に沿った研究テーマを絞り込むとともに、先行研究を講読する中で理解を深めていきながら、綿密な研究計画を立て、卒業レポートや卒業論文の内容を構想する。 また、「実学としての経済学」、具体的にはGDP、為替レート、金利、などの経済諸指標の連関についても、随時学んでいく。経済諸指標が互いに連動する関係を習熟しておくことで、経済の動きが見通せ、ビジネスや私生活においても実際に役に立つであろう。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	卒業研究の提出を目指す。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告内容については、授業の中で解説及び講評します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは利用しない。	ISBN	なし
参考書	各テーマに応じて適宜紹介する。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	70	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	「国際経済学」「国際金融論」「開発経済論」などの国際経済に広く関連する科目を受講しておくことが望ましい。また、「アジア経済概論」「中国経済論」「アメリカ経済論」など、世界のあらゆる国や地域の経済について学ぶ講義を履修しておくこともお勧めする。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 演習の進め方、報告担当者の割り振り。	自分が取り上げたテーマや課題について、関連する新聞やニュース記事などに目を通して、最新の情報も収集しておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくといいでしょう。	4 時間
第2回	対面	国際経済研究：発表並びに討論(1)	報告担当者は、レポート・論文を作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや	4 時間

			思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	
第3回	対面	国際経済研究：発表並びに討論(2)	報告担当者は、レポート・論文を作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第4回	対面	国際経済研究：発表並びに討論(3)	報告担当者は、レポート・論文を作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第5回	対面	国際経済研究：発表並びに討論(4)	報告担当者は、レポート・論文を作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第6回	対面	国際経済研究：発表並びに討論(5)	報告担当者は、レポート・論文を作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第7回	対面	国際経済研究：発表並びに討論(6)	報告担当者は、レポート・論文を作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第8回	対面	国際経済研究：発表並びに討論(7)	報告担当者は、レポート・論文を作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第9回	対面	国際経済研究：発表並びに討論(8)	報告担当者は、レポート・論文を作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第10回	オンデマンド	国際経済研究：研究論文の執筆	各自の研究テーマについて、関連する書籍や論文、雑誌・新聞記事などを参考にしながら、論文・レポートの執筆に取り組んでください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第11回	対面	国際経済研究：発表並びに討論(10)	報告担当者は、レポート・論文を作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくとい良いでしょう。	4 時間
第12回	対面	国際経済研究：発表並びに討論(11)	報告担当者は、レポート・論文を作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマ	4 時間

			について、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくといいでしょう。	
第13回	対面	国際経済研究：発表並びに討論(12)	報告担当者は、レポート・論文を作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくといいでしょう。	4 時間
第14回	対面	国際経済研究：発表並びに討論(13)	報告担当者は、レポート・論文を作成し発表の準備をしてください。その他の受講者は、報告されるテーマについて、あらかじめ関連するテキストや新聞記事などを読んでおいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくといいでしょう。	4 時間
第15回	対面	まとめ並びに総括	これまでの学習を振り返って、学んだこと、分かったこと、発見したこと、難しかったこと、興味や関心を抱いたこと、などについて考えておいてください。授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどは、復習としてノートやファイルに整理して、まとめておくといいでしょう。	4 時間

科目名	演習Ⅲ B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	朱 東平	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	経済学理論の視点から日本経済の諸課題を考える		
授業の目的及び概要	経済学理論を勉強する目的の一つは、さまざまな政治、経済、社会現象を経済学の視点から理解し、把握することです。この演習は、こうした応用能力の育成に重点を置きます。 この演習では、卒業論文を書くことにより、論理構成力を身につけることを目的としています。日本経済の抱える諸課題を中心に、経済記事の議論を中心とした学修を続けながら、演習ⅢA で作成した期末レポートをもとに、卒業研究の完成を目指します。演習ⅢB では、卒業論文を作成する必要があります。 この演習は皆さんが社会人として持つべき専門知識・能力の高度化を図る科目です。演習のレベルは、ミクロ経済学、マクロ経済学の応用レベルです。		
履修条件・留意点	この授業科目は、履修条件を設けておりませんが、卒業論文の執筆が必須となっております。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この演習は、以下のことを目標とします。 1. 3 年次までに修得した経済学の基礎理論をさまざまな現実問題の分析に応用することができる。 2. 卒業論文を作成することができる。 3. ゼミの報告と討論を通して、一社会人として、また、就職活動にも必要なプレゼン能力やコミュニケーション能力を身につけることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	レポートは、添削した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディバート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。 ラーニングポータルで配布される資料を用いて事前・事後学修に活用してください。	ISBN	なし
参考書	予習・復習に役立つ教材として、報告内容に応じて以下の参考書の関連内容について理解するようにしてください。 ①ミクロ経済学（第 3 版）、伊藤元重、日本評論社、2018 年 ②入門マクロ経済学（第 5 版）、中谷巖、日本評論社、2007 年	ISBN	①9784535558441 ②9784535555136
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講に	経済学的な分析は、ミクロ経済学やマクロ経済学など基礎理論のもとで行われます。そのため		

あたって	受講生には、この2科目の履修を望みます。ただし、演習でも必要に応じて指導しますので、とくに予備知識をもたなければ履修できないことはありません。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ゼミの運営方法や内容について確認し、報告日程を決定します。（授業の進行状況と学生の希望に応じて、以下の内容を変更することもありうる）	・演習ⅢAで成長した点と秋学期の目標について考えてください。また、卒業論文の執筆要領について復習してください。	3時間
第2回	対面	*最新の経済記事について議論します。 *卒業論文（または卒業レポート）の完成に向けた指導を行います①。	・事前に、演習ⅢAで作成した期末レポートに対する担当教員のコメントを十分に理解してください。そのうえで、卒業論文の執筆要領を参照しながら卒業研究の初稿をまとめてください。	4時間
第3回	対面	*最新の経済記事について議論します。 *卒業論文（または卒業レポート）の完成に向けた指導を行います②。	・事前に、演習ⅢAで作成した期末レポートに対する担当教員のコメントを十分に理解してください。そのうえで、卒業論文の執筆要領を参照しながら卒業研究の初稿をまとめてください。	4時間
第4回	対面	*最新の経済記事について議論します。 *卒業論文（または卒業レポート）の完成に向けた指導を行います③。	・事前に、演習ⅢAで作成した期末レポートに対する担当教員のコメントを十分に理解してください。そのうえで、卒業論文の執筆要領を参照しながら卒業研究の初稿をまとめてください。	4時間
第5回	対面	*最新の経済記事について議論します。 *卒業論文（または卒業レポート）の完成に向けた指導を行います④。	・事前に、演習ⅢAで作成した期末レポートに対する担当教員のコメントを十分に理解してください。そのうえで、卒業論文の執筆要領を参照しながら卒業研究の初稿をまとめてください。	4時間
第6回	対面	*最新の経済記事について議論します。 *卒業論文（または卒業レポート）の完成に向けた指導を行います⑤。	・事前に、演習ⅢAで作成した期末レポートに対する担当教員のコメントを十分に理解してください。そのうえで、卒業論文の執筆要領を参照しながら卒業研究の初稿をまとめてください。	4時間
第7回	対面	*最新の経済記事について議論します。 *卒業論文（または卒業レポート）の完成に向けた指導を行います⑥。	・事前に、演習ⅢAで作成した期末レポートに対する担当教員のコメントを十分に理解してください。そのうえで、卒業論文の執筆要領を参照しながら卒業研究の初稿をまとめてください。	4時間
第8回	対面	*最新の経済記事について議論します。 *卒業論文（または卒業レポート）の完成に向けた指導を行います⑦。	・事前に、演習ⅢAで作成した期末レポートに対する担当教員のコメントを十分に理解してください。そのうえで、卒業論文の執筆要領を参照しながら卒業研究の初稿をまとめてください。	4時間
第9回	対面	*最新の経済記事について議論します。 *卒業論文（または卒業レポート）の完成に向けた指導を行います⑧。	・事前に、演習ⅢAで作成した期末レポートに対する担当教員のコメントを十分に理解してください。そのうえで、卒業論文の執筆要領を参照しながら卒業研究の初稿をまとめてください。	4時間
第10回	対面	*最新の経済記事について議論します。 *卒業論文（または卒業レポート）の完成に向けた指導を行います⑨。	・事前に、演習ⅢAで作成した期末レポートに対する担当教員のコメントを十分に理解してください。そのうえで、卒業論文の執筆要領を参照しながら卒業研究の初稿をまとめてください。	4時間
第11回	対面	*卒業論文または卒業レポートの発表を行います①。	・発表時に受けた指導に基づき、文献研究をさらに深め、卒業研究の初稿を修正してください。 ・授業終了後は、発表の結果に基づいて初稿を修正し、卒業研究の完了を目指してください。	4時間
第12回	対面	*卒業論文または卒業レポートの発表を行います②。	・発表時に受けた指導に基づき、文献研究をさらに深め、卒業研究の初稿を修正してください。 ・授業終了後は、発表の結果に基づいて初稿を修正し、卒業研究の完了を目指してください。	4時間
第13回	対面	*卒業論文または卒業レポートの発表を行います③。	・発表時に受けた指導に基づき、文献研究をさらに深め、卒業研究の初稿を修正してください。 ・授業終了後は、発表の結果に基づいて初稿を修正し、卒業研究の完了を目指してください。	4時間

2026/05/01

第14回	対面	*全体の総括	・発表時に受けた指導に基づき、これまでの研究成果を卒業研究の最終版としてまとめてください。 ・卒業研究の作成より何を身につけたかについて総括してください。	4 時間
第15回	オンデマンド	*卒業論文の執筆要領を確認します。 卒業論文執筆要領を解説する動画をオンデマンドで配信します。	・動画を視聴した上で、卒業研究の原稿を修正し、Learning Portal に提出してください。	5 時間

科目名	演習Ⅲ B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	張 哲	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	国際経済の実証研究		
授業の目的及び概要	本科目では、これまでの学修成果を活用して、国際経済に関連する内容をテーマに、文献調査を踏まえて、分析を行い、最終的に卒業論文としてまとめることを目的とします。授業では、各自の研究報告を行い、議論を通じて分析の視点を広げ、質の高い卒業論文の作成を目指します。と同時に、プレゼンテーション能力の向上を図ります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（１）信憑性の高い情報源より文献調査ができる。 （２）統計データを活用する分析ができる。 （３）考え方を論理よく表現できる。 （４）学術論文の読み書きができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中のコメントを通じてフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは使用しない。	ISBN	なし
参考書	授業中に随時紹介します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション、授業の進め方について	卒論の初稿に対する教員の意見を踏まえて、卒業論文執筆に向けた計画の再確認	4 時間
第2回	対面	研究報告	研究報告の準備と卒業論文の執筆	4 時間
第3回	対面	研究報告	研究報告の準備と卒業論文の執筆	4 時間
第4回	対面	研究報告	研究報告の準備と卒業論文の執筆	4 時間
第5回	対面	研究報告	研究報告の準備と卒業論文の執筆	4 時間
第6回	対面	研究報告	研究報告の準備と卒業論文の執筆	4 時間

2026/05/01

第7回	対面	研究報告	研究報告の準備と卒業論文の執筆	4 時間
第8回	対面	研究報告	研究報告の準備と卒業論文の執筆	4 時間
第9回	対面	研究報告	研究報告の準備と卒業論文の執筆	4 時間
第10回	対面	研究報告	研究報告の準備と卒業論文の執筆	4 時間
第11回	対面	卒論の最終調整	卒業論文の仕上げ作業	4 時間
第12回	対面	卒論の最終調整	卒業論文の仕上げ作業	4 時間
第13回	対面	卒論の最終調整	卒業論文の仕上げ作業	4 時間
第14回	対面	卒論の最終調整	卒業論文の仕上げ作業	4 時間
第15回	オンデマンド	卒論の最終確認事項について	卒論の提出に向けた最終確認	4 時間

科目名	演習Ⅲ B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	米山 秀隆	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	都市・地域から日本経済の課題を探求する		
授業の目的及び概要	この演習では、日本経済が直面する様々な課題のうち、都市・地域分野を主たるターゲットとし、その基礎知識と課題発見能力、調査・分析力を身に付けることを目指します。演習ⅢA に引き続き、卒業論文の作成を進めていきます。演習での報告、ディスカッション、論文の作成を通じ、社会人として必要な基礎能力やコミュニケーション能力、文書作成・表現能力を高めていきます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ テーマに関する先行研究の内容を整理し、説明できる。 ・ 設定したリサーチクエストについて、自分なりに検証、考察できる。 ・ 調べた結果を、論文として論理的にまとめることができる。 ・ 論文の内容をわかりやすくプレゼンテーションできる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告内容に対し、授業内でコメント、アドバイスします。論文については、添削指導を行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは使用しません。	ISBN	なし
参考書	各テーマに応じ、適宜紹介します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	25	
	成果発表（口頭・実技）	25	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	卒業論文の完成に向け、授業で設定される課題を着実にこなしていくことはもちろんですが、自ら計画的に進めていくことを望みます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	演習の内容・進め方、報告の割り振り	【予習】 Learning Portal に掲載する配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】 授業で得た知識や情報、自分で考えたことを整理して下さい。	4 時間
第2回	対面	研究報告 1	【予習】 各自、研究を進めて下さい。報告者は報告の準備をしておいて下さい。 【復習】 授業で得た情報やコメントを研究に反映さ	4 時間

			せて下さい。	
第3回	対面	研究報告 2	【予習】各自、研究を進めて下さい。報告者は報告の準備をしておいて下さい。 【復習】授業で得た情報やコメントを研究に反映させて下さい。	4 時間
第4回	対面	研究報告 3	【予習】各自、研究を進めて下さい。報告者は報告の準備をしておいて下さい。 【復習】授業で得た情報やコメントを研究に反映させて下さい。	4 時間
第5回	対面	研究報告 4	【予習】各自、研究を進めて下さい。報告者は報告の準備をしておいて下さい。 【復習】授業で得た情報やコメントを研究に反映させて下さい。	4 時間
第6回	対面	研究報告 5	【予習】各自、研究を進めて下さい。報告者は報告の準備をしておいて下さい。 【復習】授業で得た情報やコメントを研究に反映させて下さい。	4 時間
第7回	対面	研究報告 6	【予習】各自、研究を進めて下さい。報告者は報告の準備をしておいて下さい。 【復習】授業で得た情報やコメントを研究に反映させて下さい。	4 時間
第8回	対面	完成に向けた指導 1	【予習】各自、研究を進めて下さい。 【復習】完成に向けた仕上げを行って下さい。	4 時間
第9回	対面	完成に向けた指導 2	【予習】各自、研究を進めて下さい。 【復習】完成に向けた仕上げを行って下さい。	4 時間
第10回	対面	完成に向けた指導 3	【予習】各自、研究を進めて下さい。 【復習】完成に向けた仕上げを行って下さい。	4 時間
第11回	対面	完成に向けた指導 4	【予習】各自、研究を進めて下さい。 【復習】完成に向けた仕上げを行って下さい。	4 時間
第12回	対面	最終報告 1	【予習】最終報告の準備をしておいて下さい。 【復習】提出に向けた最終の仕上げを行って下さい。	4 時間
第13回	対面	最終報告 2	【予習】最終報告の準備をしておいて下さい。 【復習】提出に向けた最終の仕上げを行って下さい。	4 時間
第14回	対面	演習のまとめ	【予習】演習全体の内容を振り返り、得られた点や反省点などを考えておいて下さい。 【復習】演習全体で得た知識、情報、自分で考えたことなどを整理して下さい。	4 時間
第15回	オンデマンド	日本経済、都市・地域経済の最新状況と課題	【予習】配布資料を事前に読んでおいて下さい。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことを整理して下さい。	4 時間

科目名	演習Ⅲ B	開講年度	2026 年度春学期
担当者	前田 一樹	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	労働市場や雇用政策を経済学的な視点から学ぶ		
授業の目的及び概要	本科目では、労働経済学の視点に基づいて、身近な問題から賃金や雇用格差という社会的な問題まで、さまざまな社会問題について考えます。働くことは生活の基礎です。では、なぜ裕福な人とそうでない人がいるのか、仕事を失うとどうなるか、働く意味や働きがいとは何であるか、などの普段の生活で思い浮かぶ疑問について経済理論に基づいて理解できることを目指します。 また、政府が実施する雇用政策によって人々がどのように影響を受けるかというメカニズムについても理解し自分なりに読み解けることを目指します。 さらに、実際にデータなどを用いて現実の労働市場での事象が理論通りに起きているのかを確認したうえで、なぜそうなるのかという理由を探究していくことを行います。これらを通じて鍛えられる経済学的な論理的思考力、分析力、そして、データの読み取る能力は、大学における学習・研究だけでなく、就職活動にも役立ちます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	日本の労働市場が直面している諸問題を知ること、日本経済の現状や仕組みについて精通をしていくとともに、労働経済学の分野での幅広い知識と素養を習得する。また、報告にあたっての資料の作成や発表を通じてプレゼンテーションやコミュニケーションの能力を身につける。 これらを通じて、卒業研究を進める能力を習得し、卒業研究を執筆・完成させる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	グループまたは個人による研究報告に対するコメントを通じてフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。必要な資料等は授業中に配布・紹介します。	ISBN	なし
参考書	①「働くこと」を思考する、久米功一、中央経済社、2020 年 ②労働経済学一理論と実証をつなぐ、川口大司、有斐閣、2017 年 ③職業の経済学、阿部正浩・菅万理・勇上和史編著：中央経済社、2017 年 （①については図書館の電子ブックでも閲覧することができます。）	ISBN	①9784502366413 ②9784641165076 ③9784502238215
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		

	その他の内容
この科目の受講にあたって	演習科目は、受講者の主体的な取り組みを前提として授業が運営されます。ゼミにおける報告資料の準備はもちろん、議論をするために事前のテキストの確認など授業時間中だけでは完結しません。そのため、授業以外の時間でも準備が必要です。参加者のみなさんに積極的な授業参加を強く期待します。 履修にあたり、ミクロ経済学、マクロ経済学、労働経済学、計量経済学などの分析手法について知識があることが望ましいですが、必須ではありません。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	・これまでの卒業研究の進捗状況について確認してください（2時間程度）。 ・今学期の目標を決めるとともに、卒業研究の執筆計画を検討してください（2時間程度）。	4時間
第2回	オンデマンド	卒業論文執筆ガイダンス	・オンデマンド動画を視聴し、卒業論文の執筆要領の確認を行ってください。 ・自身が執筆する卒業論文の内容が執筆要領にしたがっているか確認し、加筆修正を行ってください（4時間程度）。	4時間
第3回	対面	研究報告1	・報告担当者は報告資料の準備をしてください（2時間程度）。 ・卒業研究を執筆してください（2時間程度）。	4時間
第4回	対面	研究報告2	・報告担当者は報告資料の準備をしてください（2時間程度）。 ・卒業研究を執筆してください（2時間程度）。	4時間
第5回	対面	研究報告3	・報告担当者は報告資料の準備をしてください（2時間程度）。 ・卒業研究を執筆してください（2時間程度）。	4時間
第6回	対面	研究報告4	・報告担当者は報告資料の準備をしてください（2時間程度）。 ・卒業研究を執筆してください（2時間程度）。	4時間
第7回	対面	中間報告会1	・中間報告会用の報告資料を準備してください（2時間程度）。 ・卒業研究を執筆してください（2時間程度）。	4時間
第8回	対面	中間報告会2	・中間報告会用の報告資料を準備してください（2時間程度）。 ・卒業研究を執筆してください（2時間程度）。	4時間
第9回	対面	研究報告5	・報告担当者は、報告資料の準備をしてください（2時間程度）。 ・授業内で得た知識で卒業研究の修正を行ってください（2時間程度）。	4時間
第10回	対面	研究報告6	・報告担当者は、報告資料の準備をしてください（2時間程度）。 ・授業内で得た知識で卒業研究の修正を行ってください（2時間程度）。	4時間
第11回	対面	研究報告7	・報告担当者は、報告資料の準備をしてください（2時間程度）。 ・授業内で得た知識で卒業研究の修正を行ってください（2時間程度）。	4時間
第12回	対面	最終報告1	・卒業研究の提出に向けて修正を行ってください（2時間程度）。 ・授業内で得た知識で卒業研究の修正を行ってください（2時間程度）。	4時間
第13回	対面	最終報告2	・卒業研究の提出に向けて修正を行ってください（2時間程度）。 ・授業内で得た知識で卒業研究の修正を行ってくだ	4時間

2026/05/01

			さい（2時間程度）。	
第14回	対面	最終報告3	・卒業研究の提出に向けて修正を行ってください（2時間程度）。 ・授業内で得た知識で卒業研究の修正を行ってください（2時間程度）。	4時間
第15回	対面	振り返り	・卒業研究の振り返りを行ってください（2時間程度）。 ・今学期の振り返りを行ってください（2時間程度）。	4時間

科目名	演習Ⅲ B		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	藤田 峻		配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G4		授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	ゲーム理論・行動経済学の応用研究			
授業の目的及び概要	ゲーム理論は社会全般を分析可能な、社会科学における非常に強力な分析ツールです。本科目では、これまでの学修成果を十全に活用して、社会問題や社会的現象等を中心にゲーム理論に基づく独自の分析を行い、卒業論文の形にまとめることを目的とします。 この目的を達成するため、授業では各自の研究報告を中心として、教員や他のゼミ生との議論を通じて、卒業論文の質を高めることを目指します。さらに、自身の研究を高度な水準で進めるだけでなく、他者の研究に対して意見を述べることを通じて、他者と協働する能力を高めることができます。 なお、本科目で主要な分析ツールとするゲーム理論は、日常生活やビジネスの現場に応用することが容易な理論です。本科目での学修を通じて、人との関わりにおける戦略的關係や、企業の戦略的行動などを理解することで、人生で役立つ経済学の修得につながります。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	1. ゲーム理論・行動経済学に関連する卒業研究を行うことができる 2. 卒業論文の進捗を分かりやすく発表することができる 3. 卒業論文に相応しい文章を作成することができる			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	研究報告に対するコメント等を通じてフィードバックを行います。			
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	テキストは指定しません。 必要な資料等は授業中に配付・紹介します。		ISBN	なし
参考書	研究の状況に応じて適宜紹介します。		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		60	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）			
この科目の受講にあたって	その他の内容			
	本科目は大学 4 年間の集大成となる卒業論文の執筆に直結する科目です。卒業論文の執筆には膨大な時間が必要となりますので、早い段階から計画的に研究を進めるように心がけてください。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	ガイダンス	・長期休み中の研究成果に関する振り返り（2 時間程度）	4 時間

			・卒業論文完成に向けた計画・工程の再確認（2 時間程度）	
第 2 回	対面	研究報告	・報告資料の準備（1 時間程度） ・卒業論文の執筆（3 時間程度）	4 時間
第 3 回	対面	研究報告	・報告資料の準備（1 時間程度） ・卒業論文の執筆（3 時間程度）	4 時間
第 4 回	対面	研究報告	・報告資料の準備（1 時間程度） ・卒業論文の執筆（3 時間程度）	4 時間
第 5 回	対面	研究報告	・報告資料の準備（1 時間程度） ・卒業論文の執筆（3 時間程度）	4 時間
第 6 回	対面	研究報告	・報告資料の準備（1 時間程度） ・卒業論文の執筆（3 時間程度）	4 時間
第 7 回	対面	研究報告	・報告資料の準備（1 時間程度） ・卒業論文の執筆（3 時間程度）	4 時間
第 8 回	対面	研究報告	・報告資料の準備（1 時間程度） ・卒業論文の執筆（3 時間程度）	4 時間
第 9 回	対面	研究報告	・報告資料の準備（1 時間程度） ・卒業論文の執筆（3 時間程度）	4 時間
第 10 回	対面	研究報告	・報告資料の準備（1 時間程度） ・卒業論文の執筆（3 時間程度）	4 時間
第 11 回	対面	研究報告	・報告資料の準備（1 時間程度） ・卒業論文の執筆（3 時間程度）	4 時間
第 12 回	対面	卒業論文の最終調整	・卒業論文等の仕上げ作業 卒業論文の第 1 案を完成させてください。 指摘された改善点等を反映させてください。	4 時間
第 13 回	対面	卒業論文の最終調整	・卒業論文等の仕上げ作業 卒業論文を完成させてください。 指摘された改善点等を反映させてください。	4 時間
第 14 回	対面	卒業論文の最終調整・振り返り	・卒業論文等の仕上げ作業 卒業論文を完成させてください。 指摘された改善点等を反映させてください。	4 時間
第 15 回	オンデマンド	卒業論文の最終確認手順	・オンデマンド教材を用いて卒業論文を仕上げるにあたっての詳細な確認事項・改善事項を確認してください。	4 時間

科目名	演習Ⅲ B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	前田 一樹	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	労働市場や雇用政策を経済学的な視点から学ぶ		
授業の目的及び概要	本科目では、労働経済学の視点に基づいて、身近な問題から賃金や雇用格差という社会的な問題まで、さまざまな社会問題について考えます。働くことは生活の基礎です。では、なぜ裕福な人とそうでない人がいるのか、仕事を失うとどうなるか、働く意味や働きがいとは何であるか、などの普段の生活で思い浮かぶ疑問について経済理論に基づいて理解できることを目指します。 また、政府が実施する雇用政策によって人々がどのように影響を受けるかというメカニズムについても理解し自分なりに読み解けることを目指します。 さらに、実際にデータなどを用いて現実の労働市場での事象が理論通りに起きているのかを確認したうえで、なぜそうなるのかという理由を探究していくことを行います。これらを通じて鍛えられる経済学的な論理的思考力、分析力、そして、データの読み取る能力は、大学における学習・研究だけでなく、就職活動にも役立ちます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	日本の労働市場が直面している諸問題を知ること、日本経済の現状や仕組みについて精通をしていくとともに、労働経済学の分野での幅広い知識と素養を習得する。また、報告にあたっての資料の作成や発表を通じてプレゼンテーションやコミュニケーションの能力を身につける。 これらを通じて、卒業研究を進める能力を習得し、卒業研究を執筆・完成させる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	グループまたは個人による研究報告に対するコメントを通じてフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。必要な資料等は授業中に配布・紹介します。	ISBN	なし
参考書	①「働くこと」を思考する、久米功一、中央経済社、2020 年 ②労働経済学―理論と実証をつなぐ、川口大司、有斐閣、2017 年 ③職業の経済学、阿部正浩・菅万理・勇上和史編著：中央経済社、2017 年 （①については図書館の電子ブックでも閲覧することができます。）	ISBN	①9784502366413 ②9784641165076 ③9784502238215
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		

	その他の内容	
この科目の受講にあたって	演習科目は、受講者の主体的な取り組みを前提として授業が運営されます。ゼミにおける報告資料の準備はもちろん、議論をするために事前のテキストの確認など授業時間中だけでは完結しません。そのため、授業以外の時間でも準備が必要です。参加者のみなさんに積極的な授業参加を強く期待します。 履修にあたり、ミクロ経済学、マクロ経済学、労働経済学、計量経済学などの分析手法について知識があることが望ましいですが、必須ではありません。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	・これまでの卒業研究の進捗状況について確認してください（2時間程度）。 ・今学期の目標を決めるとともに、卒業研究の執筆計画を検討してください（2時間程度）。	4時間
第2回	オンデマンド	卒業論文執筆ガイダンス	・オンデマンド動画を視聴し、卒業論文の執筆要領の確認を行ってください。 ・自身が執筆する卒業論文の内容が執筆要領にしたがっているか確認し、加筆修正を行ってください（4時間程度）。	4時間
第3回	対面	研究報告1	・報告担当者は報告資料の準備をしてください（2時間程度）。 ・卒業研究を執筆してください（2時間程度）。	4時間
第4回	対面	研究報告2	・報告担当者は報告資料の準備をしてください（2時間程度）。 ・卒業研究を執筆してください（2時間程度）。	4時間
第5回	対面	研究報告3	・報告担当者は報告資料の準備をしてください（2時間程度）。 ・卒業研究を執筆してください（2時間程度）。	4時間
第6回	対面	研究報告4	・報告担当者は報告資料の準備をしてください（2時間程度）。 ・卒業研究を執筆してください（2時間程度）。	4時間
第7回	対面	中間報告会1	・中間報告会用の報告資料を準備してください（2時間程度）。 ・卒業研究を執筆してください（2時間程度）。	4時間
第8回	対面	中間報告会2	・中間報告会用の報告資料を準備してください（2時間程度）。 ・卒業研究を執筆してください（2時間程度）。	4時間
第9回	対面	研究報告5	・報告担当者は、報告資料の準備をしてください（2時間程度）。 ・授業内で得た知識で卒業研究の修正を行ってください（2時間程度）。	4時間
第10回	対面	研究報告6	・報告担当者は、報告資料の準備をしてください（2時間程度）。 ・授業内で得た知識で卒業研究の修正を行ってください（2時間程度）。	4時間
第11回	対面	研究報告7	・報告担当者は、報告資料の準備をしてください（2時間程度）。 ・授業内で得た知識で卒業研究の修正を行ってください（2時間程度）。	4時間
第12回	対面	最終報告1	・卒業研究の提出に向けて修正を行ってください（2時間程度）。 ・授業内で得た知識で卒業研究の修正を行ってください（2時間程度）。	4時間
第13回	対面	最終報告2	・卒業研究の提出に向けて修正を行ってください（2時間程度）。 ・授業内で得た知識で卒業研究の修正を行ってくだ	4時間

2026/05/01

			さい（2時間程度）。	
第14回	対面	最終報告3	・卒業研究の提出に向けて修正を行ってください（2時間程度）。 ・授業内で得た知識で卒業研究の修正を行ってください（2時間程度）。	4時間
第15回	対面	振り返り	・卒業研究の振り返りを行ってください（2時間程度）。 ・今学期の振り返りを行ってください（2時間程度）。	4時間

科目名	演習Ⅲ B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	篠田 太郎	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	卒業論文を完成させる		
授業の目的及び概要	卒業論文の執筆を完了します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	卒業論文の執筆を完了する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の演習で進捗に対してコメントします。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①ゼミナールゲーム理論入門，渡辺隆裕，日本経済新聞出版，2008 年	ISBN	①9784532133467
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	100	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	卒論指導	【予習】進捗報告の準備をしてください。（3時間程度） 【復習】フィードバックを受けて研究を進めてください。（3時間程度）	6 時間
第2回	対面	卒論指導	【予習】進捗報告の準備をしてください。（3時間程度） 【復習】フィードバックを受けて研究を進めてください。（3時間程度）	6 時間
第3回	対面	卒論指導	【予習】進捗報告の準備をしてください。（3時間程度） 【復習】フィードバックを受けて研究を進めてください。（3時間程度）	6 時間
第4回	対面	卒論指導	【予習】進捗報告の準備をしてください。（3時間程度）	6 時間

			度) 【復習】フィードバックを受けて研究を進めてください。(3時間程度)	
第5回	対面	卒論指導	【予習】進捗報告の準備をしてください。(3時間程度) 【復習】フィードバックを受けて研究を進めてください。(3時間程度)	6 時間
第6回	対面	卒論指導	【予習】進捗報告の準備をしてください。(3時間程度) 【復習】フィードバックを受けて研究を進めてください。(3時間程度)	6 時間
第7回	対面	卒論指導	【予習】進捗報告の準備をしてください。(3時間程度) 【復習】フィードバックを受けて研究を進めてください。(3時間程度)	6 時間
第8回	対面	卒論指導	【予習】進捗報告の準備をしてください。(3時間程度) 【復習】フィードバックを受けて研究を進めてください。(3時間程度)	6 時間
第9回	対面	卒論指導	【予習】進捗報告の準備をしてください。(3時間程度) 【復習】フィードバックを受けて研究を進めてください。(3時間程度)	6 時間
第10回	対面	卒論指導	【予習】進捗報告の準備をしてください。(3時間程度) 【復習】フィードバックを受けて研究を進めてください。(3時間程度)	6 時間
第11回	対面	卒論指導	【予習】進捗報告の準備をしてください。(3時間程度) 【復習】フィードバックを受けて研究を進めてください。(3時間程度)	6 時間
第12回	対面	卒論指導	【予習】進捗報告の準備をしてください。(3時間程度) 【復習】フィードバックを受けて研究を進めてください。(3時間程度)	6 時間
第13回	対面	卒論指導	【予習】進捗報告の準備をしてください。(3時間程度) 【復習】フィードバックを受けて研究を進めてください。(3時間程度)	6 時間
第14回	対面	卒論指導	【予習】進捗報告の準備をしてください。(3時間程度) 【復習】フィードバックを受けて研究を進めてください。(3時間程度)	6 時間
第15回	オンデマンド	2年間のゼミ指導のまとめ	【予習】これまでの指導を振り返ってください。(3時間程度) 【復習】これまでの指導を振り返ってください。(3時間程度)	6 時間

科目名	演習Ⅲ B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	伊勢 公人	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	環境問題を経済学の視点から考える（応用）		
授業の目的及び概要	本科目では、これまでの学修成果を十全に活用して、自治体や国、地域の環境政策に関する課題を分析し、卒業論文の形にまとめることを目的とします。 この目的を達成するため、授業では各自の研究報告を中心として、教員や他のゼミ生との議論を通じて、卒業論文の質を高めることを目指します。さらに、自身の研究を高度な水準で進めるだけでなく、他者の研究に対して意見を述べることを通じて、他者と協働する能力を高めることができます。 「実学としての経済学」との関係 この演習を履修することにより、経済指標にも影響を与える環境問題、環境政策を分析できる力を身につけることを目的としています。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	卒業論文の執筆を到達目標とします。卒業論文には自ら設定したテーマに基づいた調査・研究を行い、現状を踏まえた分析を行うことが必要です。 さらに分析結果をわかりやすく他者に伝える能力も求められます。1 年次の演習から積み重ねてきた学修成果を高い水準で発揮することが、本科目の目標です。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	個人による研究報告に対するコメントを通じてフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1987 年から民間企業に 34 年間勤務しており、欧州事務所の副所長を務めた経験を有している。また、経済産業省の受託研究のプロジェクトリーダーを始め、多くの調査プロジェクトを担ってきた。本科目では、これらの経験を生かした授業を行う。		
テキスト	指定しない。	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	本科目は大学 4 年間の集大成となる卒業論文の執筆に直結する科目です。卒業論文の執筆には膨大な時間が必要となりますので、早い段階から計画的に研究を進めるように心がけてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	ガイダンス	夏休み中の研究成果の確認（2 時間程度）	4 時間

			卒業論文執筆に向けた計画の再確認（2 時間程度）	
第 2 回	オンデマンド	卒業論文執筆要領の解説	卒業論文執筆要領の確認（1 時間程度） オンデマンド動画用の資料の復習（3 時間程度）	4 時間
第 3 回	対面	研究報告 1	報告資料の準備（1 時間程度） 卒業論文の執筆（3 時間程度）	4 時間
第 4 回	対面	研究報告 2	報告資料の準備（1 時間程度） 卒業論文の執筆（3 時間程度）	4 時間
第 5 回	対面	研究報告 3	報告資料の準備（1 時間程度） 卒業論文の執筆（3 時間程度）	4 時間
第 6 回	対面	研究報告 4	報告資料の準備（1 時間程度） 卒業論文の執筆（3 時間程度）	4 時間
第 7 回	対面	研究報告 5	報告資料の準備（1 時間程度） 卒業論文の執筆（3 時間程度）	4 時間
第 8 回	対面	研究報告 6	報告資料の準備（1 時間程度） 卒業論文の執筆（3 時間程度）	4 時間
第 9 回	対面	研究報告 7	報告資料の準備（1 時間程度） 卒業論文の執筆（3 時間程度）	4 時間
第 10 回	対面	研究報告 8	報告資料の準備（1 時間程度） 卒業論文の執筆（3 時間程度）	4 時間
第 11 回	対面	研究報告 9	報告資料の準備（1 時間程度） 卒業論文の執筆（3 時間程度）	4 時間
第 12 回	対面	最終報告 1	・ 卒業論文の仕上げ作業 卒業論文の第 1 案を完成させてください。 報告予定者は PowerPoint 等を用いて、卒業論文等の内容に関する最終報告資料を作成してください。 報告後は指摘された改善点等を反映させてください。	4 時間
第 13 回	対面	最終報告 2	・ 卒業論文の仕上げ作業 卒業論文の第 1 案を完成させてください。 報告予定者は PowerPoint 等を用いて、卒業論文等の内容に関する最終報告資料を作成してください。 報告後は指摘された改善点等を反映させてください。	4 時間
第 14 回	対面	最終報告 3	・ 卒業論文の仕上げ作業 卒業論文の第 1 案を完成させてください。 報告予定者は PowerPoint 等を用いて、卒業論文等の内容に関する最終報告資料を作成してください。 報告後は指摘された改善点等を反映させてください。	4 時間
第 15 回	対面	振り返り	卒業研究に関する振り返り（4 時間程度）	4 時間

科目名	演習Ⅲ B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	穴井 佑	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	近世・近代イギリス社会経済史		
授業の目的及び概要	演習ⅢAの学修を踏まえたうえで、引き続き個別研究を行います。必要に応じて、近世から近代にかけてのイギリスにおける貧困問題や産業革命と経済成長に関するテキストの輪読も行います。これらの学修を通して、卒業論の作成を目指します。また、本演習では、GDP・為替レート・金利などの「経済諸指標とその連動についての理解」をサブテーマに設定しています。歴史事象を検討する中で、そうした経済諸指標とその連動の具体例を見出していきます。そうすることで、現代社会の経済の動きを歴史的な観点から考察する力の涵養を目指します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	第一に、社会経済史の手法を理解する。 第二に、一つのテキストをしっかりと「読む」力を養成する。 第三に、スライドやレジュメの作成、ディスカッション、プレゼンテーションなどを通して、テキスト講読から得た知見をまとめ、自身の見解として再構築していくスキルを身につける。 第四に、以上の力やスキルを総動員して卒業論文を執筆する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の授業の中で、スライド、レジュメ、プレゼンテーション、ディスカッションに対してコメントをします。質疑応答の時間もその都度確保します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特にありません。授業で用いるテキストはその都度担当教員から配布します。	ISBN	なし
参考書	特にありません。研究を進めるうえで必要な参考書については適宜紹介します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	70	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	遅刻厳禁。履修者は自身がゼミの一員であることを自覚し、責任感をもって授業に参加すること。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業のイントロダクション（学術的な文章作成の作法、文献の収集、スライドやレジュメの作成、プレゼンテーションの方法などについての説明をします）を行った後	演習ⅢAで学修した、学術的な文章の作成の作法、文献収集の方法、スライドやレジュメの作成、プレゼンテーションの方法などを復習しておくこと。また、自分が関心ある研究テーマに関連する文献の調査を行	4 時間

		に、個人ごとの研究テーマを設定してもらいます。	うこと。卒業論文の執筆に励むこと。	
第2回	対面	卒業論文の執筆に向けた個人研究を進めます。3-4 人の研究の進捗状況報告を行います。	【予習】必要な文献の精読を継続して行うとともに、文章の作成に励むこと。 【復習】必要な文献の精読を継続して行うとともに、文章の作成に励むこと。	4 時間
第3回	対面	卒業論文の執筆に向けた個人研究を進めます。3-4 人の研究の進捗状況報告を行います。	【予習】必要な文献の精読を継続して行うとともに、文章の作成に励むこと。 【復習】必要な文献の精読を継続して行うとともに、文章の作成に励むこと。	4 時間
第4回	対面	卒業論文の執筆に向けた個人研究を進めます。3-4 人の研究の進捗状況報告を行います。	【予習】必要な文献の精読を継続して行うとともに、文章の作成に励むこと。 【復習】必要な文献の精読を継続して行うとともに、文章の作成に励むこと。	4 時間
第5回	対面	卒業論文の執筆に向けた個人研究を進めます。3-4 人の研究の進捗状況報告を行います。	【予習】必要な文献の精読を継続して行うとともに、文章の作成に励むこと。 【復習】必要な文献の精読を継続して行うとともに、文章の作成に励むこと。	4 時間
第6回	対面	卒業論文の執筆に向けた個人研究を進めます。3-4 人の研究の進捗状況報告を行います。	【予習】必要な文献の精読を継続して行うとともに、文章の作成に励むこと。 【復習】必要な文献の精読を継続して行うとともに、文章の作成に励むこと。	4 時間
第7回	対面	卒業論文の執筆に向けた個人研究を進めます。3-4 人の研究の進捗状況報告を行います。	【予習】必要な文献の精読を継続して行うとともに、文章の作成に励むこと。 【復習】必要な文献の精読を継続して行うとともに、文章の作成に励むこと。	4 時間
第8回	対面	卒業論文の執筆に向けた個人研究を進めます。3-4 人の研究の進捗状況報告を行います。	【予習】必要な文献の精読を継続して行うとともに、文章の作成に励むこと。 【復習】必要な文献の精読を継続して行うとともに、文章の作成に励むこと。	4 時間
第9回	対面	卒業論文の執筆に向けた個人研究を進めます。3-4 人の研究の進捗状況報告を行います。	【予習】必要な文献の精読を継続して行うとともに、文章の作成に励むこと。 【復習】必要な文献の精読を継続して行うとともに、文章の作成に励むこと。	4 時間
第10回	対面	卒業論文の執筆に向けた個人研究を進めます。3-4 人の研究の進捗状況報告を行います。	【予習】必要な文献の精読を継続して行うとともに、文章の作成に励むこと。 【復習】必要な文献の精読を継続して行うとともに、文章の作成に励むこと。	4 時間
第11回	対面	卒業論文の執筆に向けた個人研究を進めます。3-4 人の研究の進捗状況報告を行います。	【予習】必要な文献の精読を継続して行うとともに、文章の作成に励むこと。 【復習】必要な文献の精読を継続して行うとともに、文章の作成に励むこと。	4 時間
第12回	対面	卒業論文の執筆に向けた個人研究を進めます。3-4 人の研究の進捗状況報告を行います。	【予習】卒業論文の草稿を完成させること。 【復習】卒業論文の推敲・改善に努めること。	4 時間
第13回	対面	卒業論文の執筆に向けた個人研究を進めます。3-4 人の研究の進捗状況報告を行います。	【予習】卒業論文の草稿を完成させること。 【復習】卒業論文の推敲・改善に努めること。	4 時間
第14回	対面	卒業論文の執筆に向けた個人研究を進めます。3-4 人の研究の進捗状況報告を行います。	【予習】卒業論文の論文を完成させること。 【復習】卒業論文の推敲・改善に努めること。	4 時間
第15回	オンデマンド	これまでの研究内容についてのまとめをオンデマンドで配信する動画教材で行う。	動画教材を視聴した上で、これまでの研究を客観的に振り返り、よかった点、反省点などを見定めること。	4 時間

科目名	演習ⅢB		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	嶋田 裕光		配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G4		授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	日本経済が直面する諸課題について考察した卒業論文を各自完成させる。			
授業の目的及び概要	この演習では、日本経済や地域が抱える諸問題を考えたり今後の展望を行うことを中心に、演習ⅢA で各自報告した研究計画（要旨）に従って、卒業研究の完成を目指します。この演習での卒業研究を通じて、経済現象をデータを用いながら自ら分析し、考えをまとめ、プレゼンできる力を身につけることが目的となります。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	1. 3 年次までに身につけた経済学の知識を自分で選択したテーマに当てはめ分析に応用すること。 2. 研究に必要な文献、データを的確に収集できること。 3. 卒業研究として首尾一貫した論文の書き方を身につけること。 4. ゼミでの報告と討論を通して、就職活動などでも有用なプレゼン能力、コミュニケーション能力を養うこと。 以上の4点を到達目標とします。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	提出された卒業研究の原稿について、添削して返却します。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1986 年に経済企画庁（現内閣府）に入庁し、国家公務員として 30 年以上のキャリアを積んでいる。また、経済白書や経済計画、GDP 統計、社会福祉政策にも携わった実務経験から、マクロ経済学、財政学、GDP 統計、少子化問題を専門領域としている。本科目では、これらの経験を生かし、経済データを正しく評価する目を養い、社会で役立てるための基本的な理論から実務的なプロセスまで含めた幅広い授業を行う。			
テキスト	特に指定しません。各自、卒論研究に必要な文献、資料を集めてください。		ISBN	なし
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		70	
	成果発表（口頭・実技）		30	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	本演習は必修ですから、研究発表と卒論提出は義務とします。なお卒論は別途単位も付与されます。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	演習の運営方法や内容について確認し、報告日程を決定します。	研究計画書（要旨）に沿って、各自完成に向けた卒論執筆のスケジュール管理を徹底してください。 引き続き卒論執筆に必要な資料収集、文献読み込みを行ってください。	2 時間
第2回	対面	卒論執筆にあたっての疑問点や壁にぶつかっていることなどについて、演習参加者間で共有するとともに、適宜教員から指導します。	あらかじめ、卒論執筆に向けて明確にしておきたい疑問点やクリアしておきたい課題について整理しておいてください。 演習後、受けたアドバイスや指導を卒論執筆に適宜活かして作業を進めてください。	4 時間
第3回	対面	卒論執筆にあたっての疑問点や壁にぶつかっていることなどについて、演習参加者間で共有するとともに、適宜教員から指導します。	あらかじめ、卒論執筆に向けて明確にしておきたい疑問点やクリアしておきたい課題について整理しておいてください。 演習後、受けたアドバイスや指導を卒論執筆に適宜活かして作業を進めてください。	4 時間
第4回	対面	卒論執筆にあたっての疑問点や壁にぶつかっていることなどについて、演習参加者間で共有するとともに、適宜教員から指導します。	あらかじめ、卒論執筆に向けて明確にしておきたい疑問点やクリアしておきたい課題について整理しておいてください。 演習後、受けたアドバイスや指導を卒論執筆に適宜活かして作業を進めてください。	4 時間
第5回	対面	卒業論文（暫定案）の発表（内容の深度は進捗状況によります）を順次行います。①	卒業論文の説明スライドを事前に準備し、演習中に報告できるようにしてください。（事前） 演習後、指摘された事項について見直しや修正を行い、卒業論文の完成に向けた作業を進めてください（事後）	4 時間
第6回	対面	卒業論文（暫定案）の発表（内容の深度は進捗状況によります）を順次行います。②	卒業論文の説明スライドを事前に準備し、演習中に報告できるようにしてください。（事前） 演習後、指摘された事項について見直しや修正を行い、卒業論文の完成に向けた作業を進めてください（事後）	4 時間
第7回	対面	卒業論文（暫定案）の発表（内容の深度は進捗状況によります）を順次行います。③	卒業論文の説明スライドを事前に準備し、演習中に報告できるようにしてください。（事前） 演習後、指摘された事項について見直しや修正を行い、卒業論文の完成に向けた作業を進めてください（事後）	4 時間
第8回	対面	卒業論文（暫定案）の発表（内容の深度は進捗状況によります）を順次行います。④	卒業論文の説明スライドを事前に準備し、演習中に報告できるようにしてください。（事前） 演習後、指摘された事項について見直しや修正を行い、卒業論文の完成に向けた作業を進めてください（事後）	4 時間
第9回	対面	卒業論文（暫定案）の発表（内容の深度は進捗状況によります）を順次行います。⑤	卒業論文の説明スライドを事前に準備し、演習中に報告できるようにしてください。（事前） 演習後、指摘された事項について見直しや修正を行い、卒業論文の完成に向けた作業を進めてください（事後）	4 時間
第10回	対面	卒業論文（最終案）の発表（内容の深度は進捗状況によります）を順次行います。①	卒業論文の説明スライドを事前に準備し、演習中に報告できるようにしてください。（事前） 演習後、指摘された事項について見直しや修正を行い、卒業論文の完成に向けた作業を進めてください（事後）	4 時間
第11回	対面	卒業論文（最終案）の発表（内容の深度は進捗状況によります）を順次行います。②	卒業論文の説明スライドを事前に準備し、演習中に報告できるようにしてください。（事前） 演習後、指摘された事項について見直しや修正を行い、卒業論文の完成に向けた作業を進めてください（事後）	4 時間
第12回	対面	卒業論文（最終案）の発表（内容の深度は進捗状況によります）を順次行います。③	卒業論文の説明スライドを事前に準備し、演習中に報告できるようにしてください。（事前） 演習後、指摘された事項について見直しや修正を行	4 時間

			い、卒業論文の完成に向けた作業を進めてください（事後）	
第13回	対面	卒業論文（最終案）の発表（内容の深度は進捗状況によります）を順次行います。④	卒業論文の説明スライドを事前に準備し、演習中に報告できるようにしてください。（事前） 演習後、指摘された事項について見直しや修正を行い、卒業論文の完成に向けた作業を進めてください（事後）	4 時間
第14回	対面	卒業論文（最終案）の発表（内容の深度は進捗状況によります）を順次行います。⑤	卒業論文の説明スライドを事前に準備し、演習中に報告できるようにしてください。（事前） 演習後、指摘された事項について見直しや修正を行い、卒業論文の完成に向けた作業を進めてください（事後）	4 時間
第15回	オンデマンド	期限までの卒業論文の提出に向け、論文の形式的な面も含めたチェックポイントとスケジュールの説明をオンデマンドで行いますので、それに従い各自で最終チェックを行ってもらいます。	卒業論文の提出期限、要件を満たしているかどうか、最終的な確認を行ってください（事前） 演習（オンデマンド）後、必要に応じて修正を行い、期限までの提出に備えてください（事後）	6 時間

科目名	卒業論文		開講年度	2026 年度春学期
担当者	演習ⅢA・B 担当教員		配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	4 単位
グレード	G4		授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	卒業論文を通じて大学での学びを完成させる			
授業の目的及び概要	「演習ⅢA・B」での報告と教員の指導をもとに、卒業論文を完成させます。提出時期は1月（予定）です。作成の方法等については、「卒業論文執筆要領」を参照してください。 卒業論文は自身の所属ゼミの専攻分野の中からテーマを選び、講義科目で学修した知識や分析手法・思考法に基づき、演習をはじめとした各科目で身につけた情報収集力、文献理解力、文章力、分析力、課題解決能力、ICT スキル等を十全に発揮し、自身の集中力と忍耐力の全てをもって取り組むものです。これは、4年間にわたる大学での経済学に関する学びの集大成といえるべきものです。 卒業論文の執筆は、経済学の専門知識を深め、社会で活躍するために必要な経済・社会に関する課題を洞察・解決する力を身につけることに大きく寄与します。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	自身が設定したテーマに関して、これまでの議論を整理し、卒業論文に相応しい水準で、残された課題や自身の意見を述べるができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	卒業論文の指導・添削を行います。			
アクティブ・ラーニング の取り組み				
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	—	ISBN	—	
参考書		ISBN		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	100		
	その他の内容	卒業論文		
この科目の受講にあたって	“質”の高い卒業論文は、「1. 的確な課題を発見」し、「2. 問題の所在や本質を明らかに」した上で、「3. 多くの正確な資料」に基づき「4. 論理的に適切な手法によって考察・分析」を行い、「5. 自身の考えを他者に納得させるようなプレゼンテーション」によって公表されます。これらのプロセスは大学における学びに限らず、就業後に大多数の業務で一般に行われるもので、こうした取り組みを本格的に「学術的」な観点で行うことができる機会は人生の中でも稀少です。 この機会を十全に活用して、卒業論文を完成させることができれば、大学4年間の象徴的な成果として誇ることができる作品を残すことができるだけでなく、自身の飛躍的な成長にもつながります。 大学生生活の「総仕上げ」として、これまでに身につけたあらゆるスキルを発揮して、素晴らしい卒業論文を執筆されることを期待します。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	—	—	6時間
第2回	対面	—	—	6時間
第3回	対面	—	—	6時間
第4回	対面	—	—	6時間
第5回	対面	—	—	6時間
第6回	対面	—	—	6時間
第7回	対面	—	—	6時間
第8回	対面	—	—	6時間
第9回	対面	—	—	6時間
第10回	対面	—	—	6時間
第11回	対面	—	—	6時間
第12回	対面	—	—	6時間
第13回	対面	—	—	6時間
第14回	対面	—	—	6時間
第15回	対面	—	—	6時間

科目名	経済理論演習	開講年度	2026 年度春学期
担当者	篠田 太郎	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	大学院のための経済理論		
授業の目的及び概要	本科目では難関大学院に進学可能な水準の経済理論に関する知識を学修することを目標とします。授業中に扱う経済理論の知識は大学院進学のほかにも、経済学検定試験（ERE）や公務員試験の専門科目の対策とも関連します。 本科目での学びを通じて、大学院入試を中心に、上記試験に対応できるだけのエconomicsに関連する問題を解く力を修得します。 高度な内容を扱うため、ミクロ経済学・マクロ経済学の基礎と、連立方程式・微分の計算ができることを前提とします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目では下記の通り学修の到達目標を定めます。 1. 経済理論に関連する大学院入試レベルの問題を解くことができるようになる。 2. 大学院など、更に高度な経済理論の学修に必要な知識を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	講義内で出した課題を解説します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキスト：指定しません。	ISBN	なし
参考書	下記のほか、授業内で適宜紹介します。 ①奥野正寛 編著、『ミクロ経済学』，東京大学出版会,2008 年。 ②Jehle, G. A. and P. J. Reny , “Advanced Microeconomic Theory 3rd ed.,” Prentice Hall, 2011. ③岡田章、『ゲーム理論(第 3 版)』，有斐閣, 2021 年。 ④二神孝一・堀敬一，『マクロ経済学(第 2 版)』，有斐閣, 2017 年。	ISBN	①9784130421270 ②9780273731917 ③9784641165779 ④9784641165021
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	本科目は高度な内容を取り扱う予定ですので、数学や経済学の基礎知識に不安がある方は、事前に相談することをおすすめします。 また、分からない箇所がある場合には、積極的に質問に来てください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンスと研究計画の確認	(事前)ミクロ経済学とマクロ経済学の復習を行ってください (事後)授業中に提示する課題を次回までに解いてください	4時間
第2回	対面	過去問演習（初級）	(事前)ミクロ経済学とマクロ経済学の復習を行ってください (事後)授業中に提示する課題を次回までに解いてください	4時間
第3回	対面	過去問演習（初級）	(事前)ミクロ経済学とマクロ経済学の復習を行ってください (事後)授業中に提示する課題を次回までに解いてください	4時間
第4回	対面	過去問演習（初級）	(事前)ミクロ経済学とマクロ経済学の復習を行ってください (事後)授業中に提示する課題を次回までに解いてください	4時間
第5回	対面	過去問演習（中級）	(事前)ミクロ経済学とマクロ経済学の復習を行ってください (事後)授業中に提示する課題を次回までに解いてください	4時間
第6回	対面	過去問演習（中級）	(事前)ミクロ経済学とマクロ経済学の復習を行ってください (事後)授業中に提示する課題を次回までに解いてください	4時間
第7回	対面	過去問演習（中級）	(事前)ミクロ経済学とマクロ経済学の復習を行ってください (事後)授業中に提示する課題を次回までに解いてください	4時間
第8回	対面	過去問演習（中級）	(事前)ミクロ経済学とマクロ経済学の復習を行ってください (事後)授業中に提示する課題を次回までに解いてください	4時間
第9回	対面	過去問演習（中級）	(事前)ミクロ経済学とマクロ経済学の復習を行ってください (事後)授業中に提示する課題を次回までに解いてください	4時間
第10回	対面	過去問演習（中級）	(事前)ミクロ経済学とマクロ経済学の復習を行ってください (事後)授業中に提示する課題を次回までに解いてください	4時間
第11回	対面	過去問演習（上級）	(事前)ミクロ経済学とマクロ経済学の復習を行ってください (事後)授業中に提示する課題を次回までに解いてください	4時間
第12回	対面	過去問演習（上級）	(事前)ミクロ経済学とマクロ経済学の復習を行ってください (事後)授業中に提示する課題を次回までに解いてください	4時間
第13回	対面	過去問演習（上級）	(事前)ミクロ経済学とマクロ経済学の復習を行ってください (事後)授業中に提示する課題を次回までに解いてください	4時間
第14回	対面	過去問演習（上級）	(事前)ミクロ経済学とマクロ経済学の復習を行ってください (事後)これまでの講義内容を復習してください	4時間

2026/05/01

第15回	オンデマンド	過去問演習（上級）	(事前)ミクロ経済学とマクロ経済学の復習を行ってください (事後)これまでの講義内容を復習してください	4 時間

科目名	I C T特別演習 I A		開講年度	2026 年度春学期
担当者	岩田 順敬		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	プログラミングやデジタルコンテンツの作成といった ICT や AI に関する実習を通して、高度な情報スキルを修得する。			
授業の目的及び概要	・ ICT 特別演習全体のテーマは ICT(Information and Communication Technology：情報通信技術)に関する知識と技能の修得であり、計 2 年間(4 学期)の ICT 特別演習全体を通して、現代社会を支える ICT を理解しそれを活用できる能力を身につけることを授業の目的とする。就業力育成の観点からも、ICT に関する総合的知識と技能があらゆる業種・職種で不可欠となっている。ICT がもたらす経済への影響（「実学としての経済学」の観点）や ICT を利用したサービスの法的性質を理解する上でも本授業の受講は有益である。			
履修条件・留意点	IT パスポート資格の取得、さらにはその上位資格の取得を志す受講生を募る。ICT 特別演習での勉強を通して情報系資格への受験意志のある学生に受講を限定する。 講義中に、プログラミング実習、Web ページ作成実習、SQL 実習、デジタルコンテンツ作成実習を行う。情報技術と芸術の融合、情報技術を用いたデータの可視化、インターネットを用いた情報発信に興味がある学生を募る。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（D P）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	・ 情報系国家資格の取得のための勉強を通して、ICT に関する幅広い知識を修得する。IT パスポート試験、情報セキュリティマネジメント試験、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、高度情報技術者試験への合格を目指す。基本情報技術者試験科目 B への対策を念頭に置いて、プログラミング言語 Python を基礎から学修しプログラミング技能を身につける。 ・ 国家資格の他にも、民間情報系資格として Python エンジニア認定試験、G 検定、データサイエンティスト検定（リテラシーレベル）、オラクル認定資格への合格を目指す受講者も受け入れる。 ・ 知識偏重の学修にならないように、ICT や AI に関する実習も行うことで、ICT に関する実用能力も養う。実際に、プログラミング実習（Python）, SQL 実習、生成 AI 実習、Web ページ作成実習、IoT 実習（デジタル作品作成実習）を行う。希望に応じて、学修した内容をもとにしてビジネスコンテスト等へ出場する学生をサポートする。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	適時教室内を巡回しながら質問に答えていく。また理解度試験の解説を行うなどのフィードバックを実施する。			
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	第 1 回目の講義で、個別に面談を行い、それぞれの目標に即したテキストを指定する。		ISBN	該当なし
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		60	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		20	
	その他の内容		期間中の資格取得：IT パスポート、情報セキュリ	

		ティマネジメント、基本情報技術者、データサイエンティストの資格を新規取得した場合に 100 点満点中の 20 点を加算する。
この科目の受講にあたって	春学期に受講登録をして 1 年間受講するという通年受講を基本とする。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	※演習形式の授業であるので授業計画はあくまで「計画」であることに留意すること。 ・ガイダンス	【予習】シラバスの内容を確認しておくこと。 【復習】各自、第 1 回目に指定された教科書を第 2 回目の講義までに購入しておくこと	4 時間
第 2 回	対面	・ストラテジ分野 1 ・プログラミング実習 1	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 3 回	対面	・ストラテジ分野 2 ・プログラミング実習 2	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 4 回	対面	・ストラテジ分野 3 ・プログラミング実習 3	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 5 回	対面	・マネジメント分野 1 ・生成 AI 実習 1	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 6 回	対面	・マネジメント分野 2 ・生成 AI 実習 2	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 7 回	対面	・マネジメント分野 3 ・生成 AI 実習 3	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 8 回	対面	・テクノロジー分野 1 ・SQL 実習 1	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 9 回	対面	・テクノロジー分野 2 ・SQL 実習 2	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの	4 時間

			問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	
第 10 回	対面	・テクノロジー分野 3 ・Webpage 作成実習 1	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 11 回	対面	・テクノロジー分野 4 ・Webpage 作成実習 2	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 12 回	対面	・ストラテジ・マネジメント・テクノロジー分野総合 1 ・デジタル作品作成実習 1	【予習】教科書を使って、これまでに勉強した範囲を総復習しておくといよい。 【復習】不正解だった問題について、過去問道場サイトの解説などを利用して確実な理解を目指す。	4 時間
第 13 回	対面	・ストラテジ・マネジメント・テクノロジー分野総合 2 ・デジタル作品作成実習 2	【予習】教科書を使って、これまでに勉強した範囲を総復習しておくといよい。 【復習】不正解だった問題について、過去問道場サイトの解説などを利用して確実な理解を目指す。	4 時間
第 14 回	対面	プレゼンテーション 作成した作品の発表会	【予習】パワーポイントを使ったプレゼンテーションファイルを作成 【復習】自身の発表についての良かった点と悪かった点、他の人の発表についての良かった点と悪かった点の振り返り	4 時間
第 15 回	オンデマンド	オンデマンド講義：課題を提出 資料と動画を配布する。	【復習】オンデマンド課題で学んだ技術を、これまでに作成したデジタルコンテンツに反映させると良い。	4 時間

科目名	I C T 特別演習 I B		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	岩田 順敬		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	プログラミングやデジタルコンテンツの作成といった ICT や AI に関する実習を通して、高度な情報スキルを修得する。			
授業の目的及び概要	・ ICT 特別演習全体のテーマは ICT (Information and Communication Technology : 情報通信技術) に関する知識と技能の修得であり、計 2 年間(4 学期)の ICT 特別演習全体を通して、現代社会を支える ICT を理解しそれを活用できる能力を身につけることを授業の目的とする。就業力育成の観点からも、ICT に関する総合的知識と技能があらゆる業種・職種で不可欠となっている。ICT がもたらす経済への影響(「実学としての経済学」の観点)や ICT を利用したサービスの法的性質を理解する上でも本授業の受講は有益である。			
履修条件・留意点	IT パスポート資格の取得、さらにはその上位資格の取得を志す受講生を募る。ICT 特別演習での勉強を通して情報系資格への受験意志のある学生に受講を限定する。 講義中に、プログラミング実習、Web ページ作成実習、SQL 実習、デジタルコンテンツ作成実習を行う。情報技術と芸術の融合、情報技術を用いたデータの可視化、インターネットを用いた情報発信に興味がある学生を募る。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針(DP)との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	・ 情報系国家資格の取得のための勉強を通して、ICT に関する幅広い知識を修得する。IT パスポート試験、情報セキュリティマネジメント試験、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、高度情報技術者試験への合格を目指す。基本情報技術者試験科目 B への対策を念頭に置いて、プログラミング言語 Python を基礎から学修しプログラミング技能を身につける。 ・ 国家資格の他にも、民間情報系資格として Python エンジニア認定試験、G 検定、データサイエンティスト検定(リテラシーレベル)、オラクル認定資格への合格を目指す受講者も受け入れる。 ・ 知識偏重の学修にならないように、ICT や AI に関する実習も行うことで、ICT に関する実用能力も養う。実際に、プログラミング実習(Python) , SQL 実習、生成 AI 実習、Web ページ作成実習、IoT 実習(デジタル作品作成実習)を行う。希望に応じて、学修した内容をもとにしてビジネスコンテスト等へ出場する学生をサポートする。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	適時教室内を巡回しながら質問に答えていく。また理解度試験の解説を行うなどのフィードバックを実施する。			
アクティブ・ラーニングの取り組み	プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	第 1 回目の講義で、個別に面談を行い、それぞれの目標に即したテキストを指定する。		ISBN	該当なし
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		60	
	成果発表(口頭・実技)		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験(対面)		0	
	その他(%)		20	
	その他の内容		期間中の資格取得: IT パスポート、情報セキュリ	

		ティマネジメント、基本情報技術者、データサイエンティストの資格を新規取得した場合に 100 点満点中の 20 点を加算する。
この科目の受講にあたって	春学期に受講登録をして 1 年間受講するという通年受講を基本とする。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	※演習形式の授業であるので授業計画はあくまで「計画」であることに留意すること。 ・ガイダンス	【予習】シラバスの内容を確認しておくこと。 【復習】各自、第 1 回目に指定された教科書を第 2 回目の講義までに購入しておくこと	4 時間
第 2 回	対面	・ストラテジ分野 1 ・プログラミング実習 1	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 3 回	対面	・ストラテジ分野 2 ・プログラミング実習 2	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 4 回	対面	・ストラテジ分野 3 ・プログラミング実習 3	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 5 回	対面	・マネジメント分野 1 ・生成 AI 実習 1	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 6 回	対面	・マネジメント分野 2 ・生成 AI 実習 2	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 7 回	対面	・マネジメント分野 3 ・生成 AI 実習 3	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 8 回	対面	・テクノロジー分野 1 ・SQL 実習 1	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 9 回	対面	・テクノロジー分野 2 ・SQL 実習 2	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの	4 時間

			問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	
第 10 回	対面	・テクノロジー分野 3 ・Webpage 作成実習 1	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 11 回	対面	・テクノロジー分野 4 ・Webpage 作成実習 2	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 12 回	対面	・ストラテジ・マネジメント・テクノロジー分野総合 1 ・デジタル作品作成実習 1	【予習】教科書を使って、これまでに勉強した範囲を総復習しておくといよい。 【復習】不正解だった問題について、過去問道場サイトの解説などを利用して確実な理解を目指す。	4 時間
第 13 回	対面	・ストラテジ・マネジメント・テクノロジー分野総合 2 ・デジタル作品作成実習 2	【予習】教科書を使って、これまでに勉強した範囲を総復習しておくといよい。 【復習】不正解だった問題について、過去問道場サイトの解説などを利用して確実な理解を目指す。	4 時間
第 14 回	対面	プレゼンテーション 作成した作品の発表会	【予習】パワーポイントを使ったプレゼンテーションファイルを作成 【復習】自身の発表についての良かった点と悪かった点、他の人の発表についての良かった点と悪かった点の振り返り	4 時間
第 15 回	オンデマンド	オンデマンド講義：課題を提出 資料と動画を配布する。	【復習】オンデマンド課題で学んだ技術を、これまでに作成したデジタルコンテンツに反映させると良い。	4 時間

科目名	I C T 特別演習Ⅱ A		開講年度	2026 年度春学期
担当者	岩田 順敬		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	プログラミングやデジタルコンテンツの作成といった ICT や AI に関する実習を通して、高度な情報スキルを修得する。			
授業の目的及び概要	・ ICT 特別演習全体のテーマは ICT(Information and Communication Technology：情報通信技術)に関する知識と技能の修得であり、計 2 年間(4 学期)の ICT 特別演習全体を通して、現代社会を支える ICT を理解しそれを活用できる能力を身につけることを授業の目的とする。就業力育成の観点からも、ICT に関する総合的知識と技能があらゆる業種・職種で不可欠となっている。ICT がもたらす経済への影響（「実学としての経済学」の観点）や ICT を利用したサービスの法的性質を理解する上でも本授業の受講は有益である。			
履修条件・留意点	IT パスポート資格の取得、さらにはその上位資格の取得を志す受講生を募る。ICT 特別演習での勉強を通して情報系資格への受験意志のある学生に受講を限定する。 講義中に、プログラミング実習、Web ページ作成実習、SQL 実習、デジタルコンテンツ作成実習を行う。情報技術と芸術の融合、情報技術を用いたデータの可視化、インターネットを用いた情報発信に興味がある学生を募る。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	・ 情報系国家資格の取得のための勉強を通して、ICT に関する幅広い知識を修得する。IT パスポート試験、情報セキュリティマネジメント試験、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、高度情報技術者試験への合格を目指す。基本情報技術者試験科目 B への対策を念頭に置いて、プログラミング言語 Python を基礎から学修しプログラミング技能を身につける。 ・ 国家資格の他にも、民間情報系資格として Python エンジニア認定試験、G 検定、データサイエンティスト検定（リテラシーレベル）、オラクル認定資格への合格を目指す受講者も受け入れる。 ・ 知識偏重の学修にならないように、ICT や AI に関する実習も行うことで、ICT に関する実用能力も養う。実際に、プログラミング実習（Python），SQL 実習、生成 AI 実習、Web ページ作成実習、IoT 実習（デジタル作品作成実習）を行う。希望に応じて、学修した内容をもとにしてビジネスコンテスト等へ出場する学生をサポートする。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	適時教室内を巡回しながら質問に答えていく。また理解度試験の解説を行うなどのフィードバックを実施する。			
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	第 1 回目の講義で、個別に面談を行い、それぞれの目標に即したテキストを指定する。		ISBN	該当なし
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	60		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	20		
	その他の内容	期間中の資格取得：IT パスポート、情報セキュリ		

		ティマネジメント、基本情報技術者、データサイエンティストの資格を新規取得した場合に 100 点満点中の 20 点を加算する。
この科目の受講にあたって	春学期に受講登録をして 1 年間受講するという通年受講を基本とする。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	※演習形式の授業であるので授業計画はあくまで「計画」であることに留意すること。 ・ガイダンス	【予習】シラバスの内容を確認しておくこと。 【復習】各自、第 1 回目に指定された教科書を第 2 回目の講義までに購入しておくこと	4 時間
第 2 回	対面	・ストラテジ分野 1 ・プログラミング実習 1	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 3 回	対面	・ストラテジ分野 2 ・プログラミング実習 2	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 4 回	対面	・ストラテジ分野 3 ・プログラミング実習 3	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 5 回	対面	・マネジメント分野 1 ・生成 AI 実習 1	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 6 回	対面	・マネジメント分野 2 ・生成 AI 実習 2	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 7 回	対面	・マネジメント分野 3 ・生成 AI 実習 3	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 8 回	対面	・テクノロジー分野 1 ・SQL 実習 1	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 9 回	対面	・テクノロジー分野 2 ・SQL 実習 2	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの	4 時間

			問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	
第 10 回	対面	・テクノロジー分野 3 ・Webpage 作成実習 1	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 11 回	対面	・テクノロジー分野 4 ・Webpage 作成実習 2	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 12 回	対面	・ストラテジ・マネジメント・テクノロジー分野総合 1 ・デジタル作品作成実習 1	【予習】教科書を使って、これまでに勉強した範囲を総復習しておくといよい。 【復習】不正解だった問題について、過去問道場サイトの解説などを利用して確実な理解を目指す。	4 時間
第 13 回	対面	・ストラテジ・マネジメント・テクノロジー分野総合 2 ・デジタル作品作成実習 2	【予習】教科書を使って、これまでに勉強した範囲を総復習しておくといよい。 【復習】不正解だった問題について、過去問道場サイトの解説などを利用して確実な理解を目指す。	4 時間
第 14 回	対面	プレゼンテーション 作成した作品の発表会	【予習】パワーポイントを使ったプレゼンテーションファイルを作成 【復習】自身の発表についての良かった点と悪かった点、他の人の発表についての良かった点と悪かった点の振り返り	4 時間
第 15 回	オンデマンド	オンデマンド講義：課題を提出 資料と動画を配布する。	【復習】オンデマンド課題で学んだ技術を、これまでに作成したデジタルコンテンツに反映させると良い。	4 時間

科目名	I C T 特別演習Ⅱ B		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	岩田 順敬		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	プログラミングやデジタルコンテンツの作成といった ICT や AI に関する実習を通して、高度な情報スキルを修得する。			
授業の目的及び概要	・ ICT 特別演習全体のテーマは ICT (Information and Communication Technology : 情報通信技術) に関する知識と技能の修得であり、計 2 年間(4 学期)の ICT 特別演習全体を通して、現代社会を支える ICT を理解しそれを活用できる能力を身につけることを授業の目的とする。就業力育成の観点からも、ICT に関する総合的知識と技能があらゆる業種・職種で不可欠となっている。ICT がもたらす経済への影響(「実学としての経済学」の観点)や ICT を利用したサービスの法的性質を理解する上でも本授業の受講は有益である。			
履修条件・留意点	IT パスポート資格の取得、さらにはその上位資格の取得を志す受講生を募る。ICT 特別演習での勉強を通して情報系資格への受験意志のある学生に受講を限定する。 講義中に、プログラミング実習、Web ページ作成実習、SQL 実習、デジタルコンテンツ作成実習を行う。情報技術と芸術の融合、情報技術を用いたデータの可視化、インターネットを用いた情報発信に興味がある学生を募る。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針(DP)との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	・ 情報系国家資格の取得のための勉強を通して、ICT に関する幅広い知識を修得する。IT パスポート試験、情報セキュリティマネジメント試験、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、高度情報技術者試験への合格を目指す。基本情報技術者試験科目 B への対策を念頭に置いて、プログラミング言語 Python を基礎から学修しプログラミング技能を身につける。 ・ 国家資格の他にも、民間情報系資格として Python エンジニア認定試験、G 検定、データサイエンティスト検定(リテラシーレベル)、オラクル認定資格への合格を目指す受講者も受け入れる。 ・ 知識偏重の学修にならないように、ICT や AI に関する実習も行うことで、ICT に関する実用能力も養う。実際に、プログラミング実習(Python) , SQL 実習、生成 AI 実習、Web ページ作成実習、IoT 実習(デジタル作品作成実習)を行う。希望に応じて、学修した内容をもとにしてビジネスコンテスト等へ出場する学生をサポートする。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	適時教室内を巡回しながら質問に答えていく。また理解度試験の解説を行うなどのフィードバックを実施する。			
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	第 1 回目の講義で、個別に面談を行い、それぞれの目標に即したテキストを指定する。		ISBN	該当なし
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		60	
	成果発表(口頭・実技)		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験(対面)		0	
	その他(%)		20	
	その他の内容		期間中の資格取得: IT パスポート、情報セキュリティ	

		ティマネジメント、基本情報技術者、データサイエンティストの資格を新規取得した場合に 100 点満点中の 20 点を加算する。
この科目の受講にあたって	春学期に受講登録をして 1 年間受講するという通年受講を基本とする。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	※演習形式の授業であるので授業計画はあくまで「計画」であることに留意すること。 ・ガイダンス	【予習】シラバスの内容を確認しておくこと。 【復習】各自、第 1 回目に指定された教科書を第 2 回目の講義までに購入しておくこと	4 時間
第 2 回	対面	・ストラテジ分野 1 ・プログラミング実習 1	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 3 回	対面	・ストラテジ分野 2 ・プログラミング実習 2	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 4 回	対面	・ストラテジ分野 3 ・プログラミング実習 3	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 5 回	対面	・マネジメント分野 1 ・生成 AI 実習 1	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 6 回	対面	・マネジメント分野 2 ・生成 AI 実習 2	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 7 回	対面	・マネジメント分野 3 ・生成 AI 実習 3	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 8 回	対面	・テクノロジー分野 1 ・SQL 実習 1	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 9 回	対面	・テクノロジー分野 2 ・SQL 実習 2	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの	4 時間

			問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	
第 10 回	対面	・テクノロジー分野 3 ・Webpage 作成実習 1	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 11 回	対面	・テクノロジー分野 4 ・Webpage 作成実習 2	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみるのが望ましい。	4 時間
第 12 回	対面	・ストラテジ・マネジメント・テクノロジー分野総合 1 ・デジタル作品作成実習 1	【予習】教科書を使って、これまでに勉強した範囲を総復習しておくといよい。 【復習】不正解だった問題について、過去問道場サイトの解説などを利用して確実な理解を目指す。	4 時間
第 13 回	対面	・ストラテジ・マネジメント・テクノロジー分野総合 2 ・デジタル作品作成実習 2	【予習】教科書を使って、これまでに勉強した範囲を総復習しておくといよい。 【復習】不正解だった問題について、過去問道場サイトの解説などを利用して確実な理解を目指す。	4 時間
第 14 回	対面	プレゼンテーション 作成した作品の発表会	【予習】パワーポイントを使ったプレゼンテーションファイルを作成 【復習】自身の発表についての良かった点と悪かった点、他の人の発表についての良かった点と悪かった点の振り返り	4 時間
第 15 回	オンデマンド	オンデマンド講義：課題を提出 資料と動画を配布する。	【復習】オンデマンド課題で学んだ技術を、これまでに作成したデジタルコンテンツに反映させると良い。	4 時間

科目名	公務員特別演習 I A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	嶋田 裕光	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	行政職公務員の仕事内容に関する理解を深めながら志望モチベーションを高めるとともに、自分で計画を立てながら公務員試験（教養試験）対策、人物試験対策に取り組む。		
授業の目的及び概要	近年、日本や地域社会は、少子高齢化やデジタル化にとどまらず、持続的な賃上げやインフレなどの新たな課題への対応にも迫られています。こうした日本や地域社会全体の方向性を見ずして、そのための制度や政策を国民や地域のために企画し実行・実現していくという公務員の役割はますます重要になっています。公務員の仕事は、私たちの生活や社会にとってなくてはならないさまざまな仕事を国民や地域の人々のためにしていく仕事です。それだけにやりがいのある仕事であり、志望する人もたくさんいます。公務員には、幅広い知識の習得を怠らない学習意欲、多くの人の意見に耳を傾け施策について伝えることができるコミュニケーション能力、同僚や関係者と協調しながら社会のためにやりとげる責任感が必要です。 そこで、本演習は行政職公務員志望者を対象とした公務員特別演習の初年度科目であることから、都市経済研究会が実施するフィールドワーク参加も含め公務員の仕事に関する理解を深めて志望モチベーションを高めるとともに、公務員試験問題（筆記、面接（エントリーシートの書き方を含む））を解くために必要な基礎知識や解法テクニックを学んでもらいます。 なお、本演習の内容は法学部と共通するところが多いことから、講演や説明会など演習の実施を法学部と合同で行う回（外部講師を招くため都合により授業回を変更する場合があります）があります。		
履修条件・留意点	本演習だけで試験範囲や量をカバーすることはできませんので、S コース（教養試験対策、専門試験対策）を必ず並行して履修するようにしてください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①行政職公務員の仕事内容に関する理解を深めて志望モチベーションを高める。 ②自分がめざす分野の公務員について、具体的な志望動機を説明できるようになる。 ③公務員試験（1 次試験や SP I）問題を解くために必要な基礎知識や解法テクニックを修得する（判断推理、数的推理、文章理解、資料解釈）。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告内容に対し、授業内でコメントやアドバイスをします。必修問題に対しては、授業中に正解を解説します。期末レポートに対しては、個別にコメントを返します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1986 年に経済企画庁（現内閣府）に入庁し、国家公務員として 30 年以上のキャリアを積んでいる。また、経済白書や経済計画、GDP 統計、社会福祉政策にも携わった実務経験から、マクロ経済学、財政学、GDP 統計、少子化問題を専門領域としている。本科目では、これらの経験を生かし、経済データを正しく評価する目を養い、社会で役立てるための基本的な理論から実務的なプロセスまで含めた幅広い授業を行う。		
テキスト	指定しません。 担当教員が作成する授業資料を配布して授業を行います。 配布資料がある場合は、Learning Portal にも掲載します（原則、授業開講日の前日から閲覧可能）。	ISBN	なし
参考書	①公務就職支援室配布の『公務就職ナビブック』（最新版） ②公務員試験 新スーパー過去問ゼミ 7 判断推理，資格試験研究会，実務教育出版，2023 年 ③公務員試験 新スーパー過去問ゼミ 7 数的推理，資格試験研究会，実務教育出版，2023 年	ISBN	①なし ②9784788937444 ③9784788937451 ④9784788937468

	④公務員試験 新スーパー過去問ゼミ 7 文章理解・資料解釈, 資格試験研究会, 実務教育出版, 2023 年	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	40
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	60
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	公務員試験は、対策と準備にできるだけ早く取り組むことが望ましく、本演習は、真剣に公務員試験合格をめざす学生を対象とします。ただし、本演習は、あくまでも公務員志望者のサポーターであり、履修生自身が各自試験対策を練り、S コースの履修はもちろんのこと、各自自習を重ねる必要があることは言うまでもありません。限られた授業回数ながら、本演習では、行政職公務員の仕事への理解を深めて志望モチベーションを高めるとともに、最初の関門である 1 次試験突破に必要な基礎知識や基礎力の修得に全力でサポートしていきます。なお、法学部と演習内容が共通する場合は法学部・経済学部合同で演習を実施します。また、公務員になるというモチベーションを高めるには、職場の実際を知ることが不可欠です。このため、受講生は必ず「都市経済研究会」サークルに加入し、同サークルが開催するフィールドワーク（職場訪問、説明会）に参加することを授業回 1 回としてカウントしますから注意してください。いうまでもなく、正当な理由のない欠席や遅刻をせず、授業には規律と緊張感を持ちつつ出席し、仲間同士が励まし合いながら、一緒に頑張りましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 教員・受講生の自己紹介、どのように授業を進行させるかについての概略を説明します。ここで、学生幹事を決めます。	【予習】シラバスや Learning Portal に掲載する配布資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理してください。	2 時間
第2回	対面	公務員試験の種類、試験の現状、公務就職支援室の有効活用方法（Sコースの履修確認も含む）について知る。（法学部と合同）	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理するとともに、志望先候補（どの公務員を第1志望とするかなど）を検討してください。	4 時間
第3回	対面	公務員の仕事研究 国家公務員・地方公務員仕事比較（公務員出身の教員パネルディスカッション）を実施します。（法学部と合同）	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で調べたり考えたことなどを整理してください。	4 時間
第4回	対面	地方公務員の一次試験としても広く採用されるようになっている SPI の模試（30分）を受けてもらいます。終了後、反省会を実施します。	【予習】 SPI とはどのようなものか、事前情報収集しておいてください。また、Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】 SPI 模試でできなかったところを反省し、今後、重点的に学習すべきポイントを洗い出してください。	4 時間
第5回	対面	いくつかの行政課題（テーマ）についてグループワークを行い、成果を発表してもらいます。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。行政が抱える問題について一覧しておいてください。 【復習】 グループワークを通して、気づきの点、反省すべきところを整理しておいてください。	4 時間
第6回	対面	公務員と防災（講義またはパネルディスカッション）について自治体職員の仕事のリアルを知ってもらいます。法学部との合同開催を予定しています。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】 聴いた講演内容をよく整理しておいてください。	4 時間

第7回	対面	公務員と防災をテーマとして、クロスロード（カードゲーム）を通じて情報収集や前提を元に意思決定に至る過程を体験してもらいます。法学部との合同開催を予定しています。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】 演習で得た行政の意思決定に至るプロセスを振り返って整理しておいてください。	4 時間
第8回	対面	基礎能力試験対策に欠かせない判断推理に関する問題研究 1年生からのSコース（教養試験対策）などです。すでに学修済の内容から、判断推理に関する典型問題をピックアップして問題を解いてもらいます。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】 授業資料を読み直し、必修問題を再度解くなどの復習をしてください。	4.5 時間
第9回	対面	基礎能力試験対策に欠かせない数的推理に関する問題研究① 整数の性質の問題、年齢算・平均算の問題、文章題に関する基本事項を解説し、必修問題を解いてもらいます。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】 授業資料を読み直し、必修問題を再度解くなどの復習をしてください。	4 時間
第10回	対面	基礎能力試験対策に欠かせない数的推理に関する問題研究② 不定方程式の問題、平均速度・通過算の問題、流水算の問題、旅人算・相対速度の問題に関する基本事項を解説し、必修問題を解いてもらいます。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】 授業資料を読み直し、必修問題を再度解くなどの復習をしてください。	4 時間
第11回	対面	公務員試験対策（国家公務員、地方公務員）のこれからの予定について、公務就職支援室からの説明（今後調整）を踏まえ、各自学習計画を考えてもらえます。なお、本演習回は法学部と合同で実施します。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】 説明を聞いた後、各自学習計画を完成させてください。	4 時間
第12回	対面	講演会（国家公務員1（一般職、専門職で本学卒業生を想定））を法学部と合同で開催します。	【予習】 Learning Portal に掲載する関連資料を事前に読んでおいてください。 【復習】 講演内容を整理してレポートの形でまとめておいてください。	4.5 時間
第13回	対面	講演会（国家公務員2（一般職、専門職で本学卒業生を想定））を法学部と合同で実施します。	【予習】 Learning Portal に掲載する関連資料を事前に読んでおいてください。 【復習】 講演内容を整理してレポートの形でまとめておいてください。	4 時間
第14回	対面	夏休みの宿題（SPI、教養・基礎能力分野）について説明します。	（復習） 配布された宿題について取り組み始めましょう。	4 時間
第15回	オンデマンド	国・地方自治体の説明会等への参加、志望先役所、都市経済研究会実施のフィールドワーク参加を通じて得たことを800～1000字のレポートを提出してください。これを提出することで出席1回分とみなします（オンデマンドは実施しない）	【復習】 説明会やフィールドワークに参加したことで得られた知見をまとめてレポートを提出してください。なお、夏休み中の時間も利用して、参考書なども活用してSPI、判断推理・数的推理・文章理解・資料解釈に関する過去問をより多く解くトレーニングを積み重ねてください。また、もう一度自分が志望する行政組織について、採用試験（毎年度変わる可能性があります）がどうなっているか、どのような行政課題があるかをホームページから今一度調べておきましょう。	5 時間

科目名	公務員特別演習ⅠA		開講年度	2026 年度春学期
担当者	雑喉 浩久		配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	公安職公務員として社会貢献する立志と求められる適性・資質の醸成。			
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献する志を立て、そのために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織に求められる人物像、組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究と自己分析等により、社会人及び公安職公務員としての基礎力を養います。			
履修条件・留意点	履修希望者については、選考を行います。 選考方法(基準)は、①志望理由、②志望進路、③前年度授業への参加度、取組度(出席率や成績等を含む)とします。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③ 志望先組織に求められる人物像への自己分析結果や諸課題に関する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。			
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署副署長まで務めた実績を有する。また、警察学校において後進の教育経験も有している。本科目では、これら警察官の実務経験、警察学校での教育経験を生かした授業を行う。			
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。		ISBN	なし。
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ) 等		ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		20	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		20	
	その他の内容		コメントシート	
この科目の受講にあたって	敢えて厳しい職業を目指す学生が共に刺激し合い、励まし合いながら目標に向けてモチベーションを維持できるよう頑張っていきましょう。 日ごろから新聞記事やニュースを注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と自身の意見を考えておきましょう。 ・私語、授業と無関係な電子機器（PC やスマホなど）の使用は厳禁とします。違反者に対して			

	は厳しく対応します。なお、授業に関する調査・検討等で特に教員から使用許可があった場合はこの限りではありません。 ・各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ・課題提出等(オンデマンド授業)については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ・現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	春学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 自己紹介 志望先アンケート等	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第2回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 社会人としての基礎的素養1)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第3回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 社会人としての基礎的素養2)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第4回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 公務員に関する法律① 憲法、警察法、消防法等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第5回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 公務員に関する法律② 地公法：公務員の基本事項・義務・権利等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第6回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 公務員という仕事、求められる人物像)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第7回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 公務員を目指す学生に必要なこと)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第8回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 志望理由① 職種別の志望理由)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間

第9回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 志望理由② 組織別の志望理由)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第10回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己 PR)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第11回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 ガクチ力)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第12回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 PREP 法)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第13回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 エントリーシート、面接カードとは)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第14回	オンデマンド	課題提出 (課題例 志望理由、自己 PR、ガクチ力等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第15回	対面	春学期の総括	【予習】各自が春学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習 I A		開講年度	2026 年度春学期
担当者	上林 大		配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	公安職公務員として社会貢献する立志と求められる適性・資質の醸成。			
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献する志を立て、そのために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織に求められる人物像、組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究と自己分析等により、社会人及び公安職公務員としての基礎力を養います。			
履修条件・留意点	履修希望者については、選考を行います。 選考方法(基準)は、①志望理由、②志望進路、③前年度授業への参加度、取組度(出席率や成績等を含む)とします。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③ 志望先組織に求められる人物像への自己分析結果や諸課題に関する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署長や警察学校の校長を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。			
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。		ISBN	なし。
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ) 等		ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		20	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		20	
	その他の内容		コメントシート	
この科目の受講にあたって	敢えて厳しい職業を目指す学生が共に刺激し合い、励まし合いながら目標に向けてモチベーションを維持できるよう頑張っていきましょう。 日ごろから新聞記事やニュースを注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と自身の意見を考えておきましょう。 ・私語、授業と無関係な電子機器（PC やスマホなど）の使用は厳禁とします。違反者に対しては厳しく対応します。なお、授業に関する調査・検討等で特に教員から使用許可があった場合			

	はこの限りではありません。 ・各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ・課題提出等(オンデマンド授業)については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ・現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	春学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 自己紹介 志望先アンケート等	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第2回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 社会人としての基礎的素養 1)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第3回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 社会人としての基礎的素養 2)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第4回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 公務員に関する法律① 憲法、警察法、消防法等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第5回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 公務員に関する法律② 地公法：公務員の基本事項・義務・権利等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第6回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 公務員という仕事、求められる人物像)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第7回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 公務員を目指す学生に必要なこと)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第8回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 志望理由① 職種別の志望理由)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第9回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 志望理由② 組織別の志望理由)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。	4 時間

		由)	うにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	
第10回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己PR)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第11回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 ガクチ力)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第12回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 PREP 法)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第13回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 エントリーシート、面接カードとは)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第14回	オンデマンド	課題提出 (課題例 志望理由、自己PR、ガクチ力等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第15回	対面	春学期の総括	【予習】各自が春学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習 I A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	中久保 寛幸	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	公安職公務員として社会貢献する立志と求められる適性・資質の醸成。		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献する志を立て、そのために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織に求められる人物像、組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究と自己分析等により、社会人及び公安職公務員としての基礎力を養います。		
履修条件・留意点	履修希望者については、選考を行います。 選考方法(基準)は、①志望理由、②志望進路、③前年度授業への参加度、取組度(出席率や成績等を含む)とします。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③ 志望先組織に求められる人物像への自己分析結果や諸課題に関する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、管理官・調査官・署長などに従事して、経験を積み重ねてきた。本科目では、実務経験を活かし、職種に必要な法律解釈や業務の理解、職務倫理や心構え、実務で要求される知識・技能などを教授し、実際の事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし。
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ) 等	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	コメ ントシート	
この科目の受講にあたって	敢えて厳しい職業を目指す学生が共に刺激し合い、励まし合いながら目標に向けてモチベーションを維持できるよう頑張っていきましょう。 日ごろから新聞記事やニュースを注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と		

	自身の意見を考えておきましょう。 ・私語、授業と無関係な電子機器（PC やスマホなど）の使用は厳禁とします。違反者に対しては厳しく対応します。なお、授業に関する調査・検討等で特に教員から使用許可があった場合はこの限りではありません。 ・各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ・課題提出等（オンデマンド授業）については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ・現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	春学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 自己紹介 志望先アンケート等	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第2回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 社会人としての基礎的素養1）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第3回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 社会人としての基礎的素養2）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第4回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員に関する法律① 憲法、警察法、消防法等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第5回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員に関する法律② 地公法：公務員の基本事項・義務・権利等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第6回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員という仕事、求められる人物像）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第7回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員を目指す学生に必要なこと）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第8回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 志望理由① 職種別の志望理由）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間

			めておく。	
第9回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 志望理由② 組織別の志望理由)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第10回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己 PR)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第11回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 ガクチ力)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第12回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 PREP 法)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第13回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 エントリーシート、面接カードとは)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第14回	オンデマンド	課題提出 (課題例 志望理由、自己 PR、ガクチ力等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第15回	対面	春学期の総括	【予習】各自が春学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習ⅠA		開講年度	2026 年度春学期
担当者	雑喉 浩久		配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	公安職公務員として社会貢献する立志と求められる適性・資質の醸成。			
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献する志を立て、そのために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織に求められる人物像、組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究と自己分析等により、社会人及び公安職公務員としての基礎力を養います。			
履修条件・留意点	履修希望者については、選考を行います。 選考方法(基準)は、①志望理由、②志望進路、③前年度授業への参加度、取組度(出席率や成績等を含む)とします。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③ 志望先組織に求められる人物像への自己分析結果や諸課題に関する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。			
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署副署長まで務めた実績を有する。また、警察学校において後進の教育経験も有している。本科目では、これら警察官の実務経験、警察学校での教育経験を生かした授業を行う。			
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。		ISBN	なし。
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ) 等		ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		20	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		20	
	その他の内容		コメントシート	
この科目の受講にあたって	敢えて厳しい職業を目指す学生が共に刺激し合い、励まし合いながら目標に向けてモチベーションを維持できるよう頑張っていきましょう。 日ごろから新聞記事やニュースを注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と自身の意見を考えておきましょう。 ・私語、授業と無関係な電子機器（PC やスマホなど）の使用は厳禁とします。違反者に対して			

	は厳しく対応します。なお、授業に関する調査・検討等で特に教員から使用許可があった場合はこの限りではありません。 ・各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ・課題提出等(オンデマンド授業)については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ・現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	春学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 自己紹介 志望先アンケート等	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第2回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 社会人としての基礎的素養 1)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第3回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 社会人としての基礎的素養 2)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第4回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 公務員に関する法律① 憲法、警察法、消防法等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第5回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 公務員に関する法律② 地公法：公務員の基本事項・義務・権利等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第6回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 公務員という仕事、求められる人物像)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第7回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 公務員を目指す学生に必要なこと)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第8回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 志望理由① 職種別の志望理由)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間

第9回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 志望理由② 組織別の志望理由)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第10回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己 PR)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第11回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 ガクチ力)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第12回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 PREP 法)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第13回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 エントリーシート、面接カードとは)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第14回	オンデマンド	課題提出 (課題例 志望理由、自己 PR、ガクチ力等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第15回	対面	春学期の総括	【予習】各自が春学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習 I B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	嶋田 裕光	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	行政職公務員の仕事内容に関する理解を深めながら志望モチベーションを高めるとともに、公務員試験（専門試験）対策に取り組む。		
授業の目的及び概要	近年、日本や地域社会は、少子高齢化やデジタル化にとどまらず、持続的な賃上げやインフレなどの新たな課題への対応にも迫られています。こうした日本や地域社会全体の方向性を見ずして、そのための制度や政策を国民や地域のために企画し実行・実現していくという公務員の役割はますます重要になっています。公務員の仕事は、私たちの生活や社会にとってなくてはならないさまざまな仕事を国民や地域の人々のためにしていく仕事です。それだけにやりがいのある仕事であり、志望する人もたくさんいます。公務員には、幅広い知識の習得を怠らない学習意欲、多くの人の意見に耳を傾け施策について伝えることができるコミュニケーション能力、同僚や関係者と協調しながら社会のためにやりとげる責任感が必要です。そこで、本演習では、春学期に引き続き行政職公務員の仕事に関する理解を深めて志望モチベーションを高めるとともに、公務員試験問題（1 次試験）を解くために必要な経済学の基礎知識と問題解法のテクニックを学んでもらいます。また、共通するテーマについては春学期同様法学部と合同開催（外部講師の都合により実施回が変更になる可能性があります）になります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①公務員の仕事に関する理解を深めて志望モチベーションを高める。 ②公務員試験問題を解くために必要な基礎知識と問題解法のテクニックを修得する（教養分野＋経済学分野関係）。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	必修問題については、授業内で正解を示します。期末レポートに対しては、コメントを返します。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1986 年に経済企画庁（現内閣府）に入庁し、国家公務員として 30 年以上のキャリアを積んでいる。また、経済白書や経済計画、GDP 統計、社会福祉政策にも携わった実務経験から、マクロ経済学、財政学、GDP 統計、少子化問題を専門領域としている。本科目では、これらの経験を生かし、経済データを正しく評価する目を養い、社会で役立てるための基本的な理論から実務的なプロセスまで含めた幅広い授業を行う。		
テキスト	指定しません。 担当教員が作成する授業資料を配布して授業を行います。 配布資料は、Learning Portal にも掲載します（原則、授業開講日の前日から閲覧可能）。	ISBN	なし
参考書	①公務就職支援室配布の『公務就職ナビブック』 ②公務員試験 新スーパー過去問ゼミ7 ミクロ経済学，資格試験研究会，実務教育出版，2023 年 ③公務員試験 新スーパー過去問ゼミ7 マクロ経済学，資格試験研究会，実務教育出版，2023 年	ISBN	①なし ②9784788937574 ③9784788937581
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	70	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	

	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	公務員試験について2年生から受験準備を本格化させることは、ライバルに対してアドバンテージとなります。したがって、本演習は、真剣に公務員試験合格をめざす学生を対象とします。ただし、本演習は、あくまでも公務員志望者のサポーターであり、履修生自身が試験対策を練り、Sコースの履修はもちろんのこと各自自習を重ねる必要があることは言うまでもありません。ただし、やみくもに時間ばかりかけて勉強すれば良いというものではなく、ポイントを要領よく効率よく学習していくことも重要です。そこで、限られた授業回数ながら、本演習では、行政職公務員の仕事への理解を深めて志望モチベーションを高めるとともに、公務員試験の最初の関門である1次試験突破に必要な基礎知識や基礎力の修得に全力でサポートしていきます。正当な理由のない欠席や遅刻をせず、授業には規律と緊張感を持ちつつ出席し、仲間同士が励まし合いながら、一緒に頑張りましょう。なお、春学期同様、共通するテーマについては法学部と合同開催となります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス どのように授業を進行させるかについての概略、教養試験対策、ミクロ・マクロ経済学問題攻略のポイントについて説明します。	【予習】シラバスや Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理してください。	2.5 時間
第2回	対面	教養試験（SPI）対策① 言語分野（国語分野）に関する基本事項を解説し、必修問題を解いてもらいます。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業資料を読み直し、必修問題を再度解いて復習してください。	4 時間
第3回	対面	教養試験（SPI）対策② 非言語分野（数的分野）に関する基本事項を解説し、必修問題を解いてもらいます。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業資料を読み直し、必修問題を再度解いて復習してください。	4 時間
第4回	対面	SPI 模試（70分）に臨んでもらいます。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料（注意事項）を事前に読んでおいてください。 【復習】間違えた問題を再度解いて復習してください。	4 時間
第5回	対面	講演会①（地方公務員1：市役所職員想定）を実施します。法学部との合同開催になります。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】講演内容をレポートの形で整理しておいてください。	4 時間
第6回	対面	講演会②（地方公務員2：市役所職員想定）を実施します。法学部との合同開催になります。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】講演内容をレポートの形で整理しておいてください。	4 時間
第7回	対面	講演会③（地方公務員3：県庁職員想定）を実施します。法学部との合同開催になります。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】講演内容をレポートの形で整理しておいてください。	4 時間
第8回	対面	ミクロ経済学問題の研究① 消費者理論の典型的な必修問題を解いてもらいます。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業資料を読み直し、必修問題を再度解いて復習してください。	4.5 時間
第9回	対面	ミクロ経済学問題の研究② ミクロ経済学の生産者理論の分野に関する基本事項を解説し、必修問題を解いてもらいます。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業資料を読み直し、必修問題を再度解いて復習してください。	4 時間

第10回	対面	ミクロ経済学問題の研究③ ミクロ経済学における市場分野と応用各分野（産業組織論、国際経済）に関する基本事項を解説し、必修問題を解いてもらいます。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】 授業資料を読み直し、必修問題を再度解いて復習してください。	4 時間
第11回	対面	マクロ経済学問題の研究① GDP 統計、産業連関表、財市場の分析に関する基本事項を解説し、必修問題を解いてもらいます。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】 授業資料を読み直し、必修問題を再度解いて復習してください。	4 時間
第12回	対面	マクロ経済学問題の研究② 貨幣市場と IS-LM 分析に関する基本事項を解説し、必修問題を解いてもらいます。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】 授業資料を読み直し、必修問題を再度解いて復習してください。	4 時間
第13回	対面	マクロ経済学問題の研究③ 総需要・総供給（AD=AS）分析、ハロッド＝ドーマの成長論の基礎に関する基本事項を解説し、必修問題を解いてもらいます。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】 授業資料を読み直し、必修問題を再度解いて復習してください。	4 時間
第14回	対面	講演会④「見た目の大事さ又は面接の極意」について外部講師を招いての講演を聴きます。法学部との合同開催になります。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。	4.5 時間
第15回	オンデマンド	本学で実施するフィールドワーク、外部説明会等への参加で出席レポート（800～1000字）をもって出席1回とします（オンデマンドは実施しない）。	【復習】 各種説明会、職場訪問によって得た知見をレポートとして提出してください。 また、秋学期を振り返り、春休み中の時間も利用して、参考書なども活用してミクロ経済学・マクロ経済学に関する過去問をより多く解くトレーニングを積み重ねてください。また、自分が志望する行政組織について、採用試験はどうなっているか、どのような行政課題があるかを今一度ホームページから調べておきましょう。	4.5 時間

科目名	公務員特別演習 I B		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	上林 大		配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	公安職公務員として社会貢献する立志と求められる適性・資質の醸成。			
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献する志を立て、そのために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織に求められる人物像、組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究と自己分析等により、社会人及び公安職公務員としての基礎力を養います。			
履修条件・留意点	原則として、公務員特別演習 I A の本クラス履修生とします。 就職志望先の変更等によるクラス替えや履修取消については、担当教員との協議等により検討します。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（D P）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③ 志望先組織に求められる人物像への自己分析結果や諸課題に関する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。			
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署長や警察学校の校長を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。			
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。		ISBN	なし。
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ) 等		ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		20	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		20	
	その他の内容		コメ ントシート	
この科目の受講にあたって	敢えて厳しい職業を目指す学生が共に刺激し合い、励まし合いながら目標に向けてモチベーションを維持できるよう頑張っていきましょう。 日ごろから新聞記事やニュースを注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と自身の意見を考えておきましょう。 ・私語、授業と無関係な電子機器（PC やスマホなど）の使用は厳禁とします。違反者に対しては厳しく対応します。なお、授業に関する調査・検討等で特に教員から使用許可があった場合			

	はこの限りではありません。 ・各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ・課題提出等(オンデマンド授業)については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ・現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	秋学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 自己紹介 志望先アンケート等	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第2回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 組織研究①)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第3回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 組織研究②)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第4回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 組織研究③)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第5回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 組織研究④)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第6回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析① マインドマップ)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第7回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析② あなたの強み、仕事にどう活かすか。)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第8回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析③ あなたの弱み、どう克服した。)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第9回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析④ 失敗や挫折、どう	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるよ	4 時間

		乗り越えた。)	うにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	
第10回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑤ 志望理由(職種))	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第11回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑥ 志望理由(組織))	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第12回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑦ PREP 法)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第13回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑧ まとめ)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第14回	オンデマンド	課題提出 (課題例 エントリーシート、面接カード等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第15回	対面	秋学期の総括	【予習】各自が秋学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習 I B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	中久保 寛幸	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	公安職公務員として社会貢献する立志と求められる適性・資質の醸成。		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献する志を立て、そのために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織に求められる人物像、組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究と自己分析等により、社会人及び公安職公務員としての基礎力を養います。		
履修条件・留意点	原則として、公務員特別演習 I A の本クラス履修生とします。 就職志望先の変更等によるクラス替えや履修取消については、担当教員との協議等により検討します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③ 志望先組織に求められる人物像への自己分析結果や諸課題に関する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、管理官・調査官・署長などに従事して、経験を積み重ねてきた。本科目では、実務経験を活かし、職種に必要な法律解釈や業務の理解、職務倫理や心構え、実務で要求される知識・技能などを教授し、実際の事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし。
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ) 等	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	コメントシート	
この科目の受講にあたって	敢えて厳しい職業を目指す学生が共に刺激し合い、励まし合いながら目標に向けてモチベーションを維持できるよう頑張っていきましょう。 日ごろから新聞記事やニュースを注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と		

	自身の意見を考えておきましょう。 ・私語、授業と無関係な電子機器（PC やスマホなど）の使用は厳禁とします。違反者に対しては厳しく対応します。なお、授業に関する調査・検討等で特に教員から使用許可があった場合はこの限りではありません。 ・各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ・課題提出等（オンデマンド授業）については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ・現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	秋学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 自己紹介 志望先アンケート等	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第2回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 組織研究①）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第3回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 組織研究②）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第4回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 組織研究③）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第5回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 組織研究④）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第6回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 自己分析① マインドマップ）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第7回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 自己分析② あなたの強み、仕事にどう活かすか。）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第8回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 自己分析③ あなたの弱み、どう克服した。）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深	4 時間

			めておく。	
第9回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析④ 失敗や挫折、どう乗り越えた。)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第10回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑤ 志望理由(職種))	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第11回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑥ 志望理由(組織))	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第12回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑦ PREP 法)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第13回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑧ まとめ)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第14回	オンデマンド	課題提出 (課題例 エントリーシート、面接カード等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第15回	対面	秋学期の総括	【予習】各自が秋学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習 I B		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	雑喉 浩久		配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	公安職公務員として社会貢献する立志と求められる適性・資質の醸成。			
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献する志を立て、そのために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織に求められる人物像、組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究と自己分析等により、社会人及び公安職公務員としての基礎力を養います。			
履修条件・留意点	原則として、公務員特別演習 I A の本クラス履修生とします。 就職志望先の変更等によるクラス替えや履修取消については、担当教員との協議等により検討します。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③ 志望先組織に求められる人物像への自己分析結果や諸課題に関する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。			
アクティブ・ラーニング の取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署副署長まで務めた実績を有する。また、警察学校において後進の教育経験も有している。本科目では、これら警察官の実務経験、警察学校での教育経験を生かした授業を行う。			
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。		ISBN	なし。
参考書	①公務就職ナビブック（公務就職支援室等編著） ②警察白書（警察庁ホームページ） ③消防白書（総務省消防庁ホームページ） ④防衛白書（防衛省ホームページ） ⑤犯罪白書（法務省ホームページ） 等		ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		20	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		20	
	その他の内容		コメントシート	
この科目の受講にあたって	敢えて厳しい職業を目指す学生が共に刺激し合い、励まし合いながら目標に向けてモチベーションを維持できるよう頑張っていきましょう。 日ごろから新聞記事やニュースを注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と自身の意見を考えておきましょう。 ・私語、授業と無関係な電子機器（PC やスマホなど）の使用は厳禁とします。違反者に対して			

	は厳しく対応します。なお、授業に関する調査・検討等で特に教員から使用許可があった場合はこの限りではありません。 ・各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ・課題提出等(オンデマンド授業)については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ・現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	秋学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 自己紹介 志望先アンケート等	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第2回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 組織研究①)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第3回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 組織研究②)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第4回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 組織研究③)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第5回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 組織研究④)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第6回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析① マインドマップ)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第7回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析② あなたの強み、仕事にどう活かすか。)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第8回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析③ あなたの弱み、どう克服した。)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間

第9回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析④ 失敗や挫折、どう乗り越えた。)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第10回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑤ 志望理由(職種))	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第11回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑥ 志望理由(組織))	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第12回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑦ PREP 法)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第13回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑧ まとめ)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第14回	オンデマンド	課題提出 (課題例 エントリーシート、面接カード等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第15回	対面	秋学期の総括	【予習】各自が秋学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習 I B		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	雑喉 浩久		配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	公安職公務員として社会貢献する立志と求められる適性・資質の醸成。			
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献する志を立て、そのために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織に求められる人物像、組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究と自己分析等により、社会人及び公安職公務員としての基礎力を養います。			
履修条件・留意点	原則として、公務員特別演習 I A の本クラス履修生とします。 就職志望先の変更等によるクラス替えや履修取消については、担当教員との協議等により検討します。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③ 志望先組織に求められる人物像への自己分析結果や諸課題に関する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。			
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署副署長まで務めた実績を有する。また、警察学校において後進の教育経験も有している。本科目では、これら警察官の実務経験、警察学校での教育経験を生かした授業を行う。			
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。		ISBN	なし。
参考書	①公務就職ナビブック（公務就職支援室等編著） ②警察白書（警察庁ホームページ） ③消防白書（総務省消防庁ホームページ） ④防衛白書（防衛省ホームページ） ⑤犯罪白書（法務省ホームページ） 等		ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		20	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		20	
	その他の内容		コメントシート	
この科目の受講にあたって	敢えて厳しい職業を目指す学生が共に刺激し合い、励まし合いながら目標に向けてモチベーションを維持できるよう頑張っていきましょう。 日ごろから新聞記事やニュースを注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と自身の意見を考えておきましょう。 ・私語、授業と無関係な電子機器（PC やスマホなど）の使用は厳禁とします。違反者に対して			

	は厳しく対応します。なお、授業に関する調査・検討等で特に教員から使用許可があった場合はこの限りではありません。 ・各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ・課題提出等(オンデマンド授業)については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ・現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	秋学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 自己紹介 志望先アンケート等	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第2回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 組織研究①)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第3回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 組織研究②)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第4回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 組織研究③)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第5回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 組織研究④)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第6回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析① マインドマップ)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第7回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析② あなたの強み、仕事にどう活かすか。)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第8回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析③ あなたの弱み、どう克服した。)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間

第9回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析④ 失敗や挫折、どう乗り越えた。)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第10回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑤ 志望理由(職種))	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第11回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑥ 志望理由(組織))	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第12回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑦ PREP 法)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第13回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己分析⑧ まとめ)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第14回	オンデマンド	課題提出 (課題例 エントリーシート、面接カード等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第15回	対面	秋学期の総括	【予習】各自が秋学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習Ⅱ A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	平阪 美穂	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	教員として必要な資質・能力、学校を取り巻く諸課題について理解を深めるとともに、教員採用試験の人物評価試験対策に取り組む。		
授業の目的及び概要	教職についての理解を深め、これからの時代に対応できる教員を目指す実践的な演習である。現在の学校、子どもが抱える困難な課題の現状や背景への理解を深め、中央教育審議会答申や通知、国家・各自が志望する自治体などの教育振興基本計画等をふまえて、教員の役割、あるべき対応について考察する。 教育実習や学校ボランティアなどを念頭に、学校現場で行かせる能力を培う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 志望先を決め、教員採用試験に向けて、教員になるために必要な心構え、知識、論理的思考力、表現力、文章作成能力等の素養を身に付けている。 ② 学校、子どもを取り巻く諸課題について、基本データ等をふまえて理解し、それらに対する国や自治体の方針、対策について把握している。 ③ 学校現場での様々な場面に対して、教員としてどのようにふるまい、対応すべきか理解し、実践しようとしてすることができる。 ④ 教員採用試験に向けてのモチベーションを高め、自ら必要な準備を理解し、対策を進めることができる。 ⑤ 教育問題、子どもを取り巻く問題に関心を持つようになり、教養を身に付けている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	各回の発表や報告に対する講評を行い、レポート、小論文は添削後にコピーを返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。 配布資料等を参照して、政策課題への理解を深めてください。	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	毎日新聞記事等をよく読み、時事問題や社会の動き・課題等について、積極的に情報収集等を行ってください。 教職課程科目の履修とともに、その復習を怠らないように。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	オリエンテーション 志望する自治体の採用試験内容に基づき、学習計画を作成する。	事前に、自分の志望先の採用試験内容について調べておくこと（2時間）。 復習として、面談の結果に基づき、個々の試験科目に対し的確な計画となっているかについて再検討し、必要に応じて修正を行うこと（2時間）。	4時間
第2回	対面	採用試験の合格に向けて必要なことを理解する 教員を取り巻く環境、採用試験動向を踏まえ、学内の支援体制や今後取り組むべき事項を理解し、学修計画をたてる。	事前に、自分の志望先の採用試験内容について調べておくこと（2時間）。 復習として、面談の結果に基づき、個々の試験科目に対し的確な計画となっているかについて再検討し、必要に応じて修正を行うこと（2時間）。	4時間
第3回	対面	SPI 模擬テスト 授業内でSPI 模擬テストを実施し、自身の現在位置と目標値を確認する。	事前に、過去問等を利用して試験問題の形式を理解し対策を進めておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第4回	対面	課題理解1 令和の日本型教育 与えられた課題に基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第5回	対面	課題理解2 教員の働き方改革 教員の資質能力の向上 与えられた課題に基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第6回	対面	課題理解3 教育の情報化 与えられた課題に基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第7回	対面	課題理解4 いじめ、不登校 与えられた課題に基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。 ※中間課題：今までの課題理解で取り上げた内容で、志望先の現状と課題点、解決案を考える（2時間）。	6時間
第8回	対面	課題理解5 子育て支援・児童虐待 与えられた課題に基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第9回	対面	課題理解6 学校安全・危機管理 与えられた課題に基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第10回	対面	課題理解7 特別支援教育 与えられた課題に基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第11回	対面	課題理解8 人権教育等 与えられた課題に基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2時間）。	4時間
第12回	対面	課題理解9 学校と地域・保護者との連携	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法を	4時間

		与えられた課題に基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。	まとめておくこと（2 時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2 時間）。	
第 13 回	対面	課題理解 10 総合演習・まとめ	事前に、これまで学習した政策課題について整理し、まとめておくこと（2 時間）。 復習として、講演の内容を振り返り、各自整理しておくこと（2 時間）。	4 時間
第 14 回	対面	仕事理解 1 外部講師による講演	事前に、講演テーマについて調べて、疑問点などを考えておくこと（2 時間）。 復習として、講演の内容を振り返り、各自整理しておくこと（2 時間）。	4 時間
第 15 回	オンデマンド	まとめ 春学期全体を振り返り、自身の課題や今後の就職活動や公務員試験に向けて、今後するべきことについて整理する。	事前に、春学期全体を振り返り、自身の課題や今後の就職活動や公務員試験に向けて、今後するべきことについて整理する（2 時間）。 復習として、ゼミ仲間との意見交換した内容について整理確認し、自身の課題や今後の就職活動や公務員試験に向けて、今後するべきことについて整理する（2 時間）。 ※期末課題：志望動機について（2 時間） ※夏に実施される公務員模試を受験する	6 時間

科目名	公務員特別演習Ⅱ A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	嶋田 裕光	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	行政職公務員を目指すうえで必要となる公務員試験（教養・専門試験等）対策に取り組む。		
授業の目的及び概要	行政職公務員試験の最初に課せられる関門は、教養試験（基礎能力試験）と専門試験という 1 次試験です（受験先によっては論文試験もある）。これを突破しないと最後の関門の人物試験に行くことができません。公務員を目指すうえで、なんとしても 1 次試験に合格することが不可欠となります。そこで、本演習では、公務員特別演習Ⅰの内容を追加する形で、さらに進んだ公務員試験（1 次試験の教養・専門試験）対策を進めるために必要な基礎知識と問題解法のテクニックをより幅を広げて学んでもらいます。なお、講演会を実施する場合は法学部との合同になります。		
履修条件・留意点	本演習だけで、公務員試験範囲（分野）、演習量を全てカバーすることはできませんから、並行して S コース（教養試験対策、専門試験対策）を必ず履修してください。		
DP との関係	本科目と学位授与の方針（DP）との関係については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①公務員試験問題を解くために必要な基礎知識と問題解法のテクニックを修得する（教養問題、ミクロ経済学・マクロ経済学・財政学に関する問題）。 ②公務員試験の 1 次試験（教養試験、専門試験）で合格ボーダーラインに到達できるレベルになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	必修問題については、授業内で正解を示します。確認テストに対しては、答案の提出と引き換えに詳しい解説資料を渡します。期末レポートに対しては、コメントを返します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1986 年に経済企画庁（現内閣府）に入庁し、国家公務員として 30 年以上のキャリアを積んでいる。また、経済白書や経済計画、GDP 統計、社会福祉政策にも携わった実務経験から、マクロ経済学、財政学、GDP 統計、少子化問題を専門領域としている。本科目では、これらの経験を生かし、経済データを正しく評価する目を養い、社会で役立てるための基本的な理論から実務的なプロセスまで含めた幅広い授業を行う。		
テキスト	指定しません。 担当教員が作成する授業資料を配布して授業を行います。 配布資料は、Learning Portal にも掲載します（原則、授業開講日の前日から閲覧可能）。	ISBN	なし
参考書	①公務就職支援室配布の『公務就職ナビブック』 ②公務員試験 新スーパー過去問ゼミ 7 ミクロ経済学、資格試験研究会、実務教育出版、2023 年 ③公務員試験 新スーパー過去問ゼミ 7 マクロ経済学、資格試験研究会、実務教育出版、2023 年 ④公務員試験 新スーパー過去問ゼミ 7 財政学、資格試験研究会、実務教育出版、2024 年	ISBN	①なし ②9784788937574 ③9784788937581 ④9784788937598
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	70	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	公務員試験は、受験準備を継続する強い意志が必要です。したがって、本演習は真剣に行政職の公務員試験合格をめざす学生を対象とします。ただし、本演習は、あくまでも公務員志望者のサポーターであり、履修生自身が試験対策を練り、Sコースの履修はもちろんのこと、各自自習を重ねる必要があることは言うまでもありません。そこで、限られた授業回数ながら、本演習では、公務員試験の最初の関門である1次試験突破に必要な基礎知識や基礎力の学修に全力でサポートしていきます。正当な理由のない欠席や遅刻をせず、仲間同士が励まし合いながら、一緒に頑張りましょう。講演を実施する場合は、法学部と合同開催となります。なお、本演習で十分にカバーできない時事問題に関しては、日頃から新聞記事に目を通すことにより、自分なりの考えを持つようにしてください。 また、自分が志望する国や地方の行政組織がある程度固まってきたら、ホームページを見て、どのような行政課題があるのかを適宜チェックしておいてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 教員・受講生の自己紹介（志望先や動機などの紹介も含めます）、どのように授業を進行させるかについての概略を説明します。	【予習】シラバスや Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理してください。	1 時間
第2回	対面	地方公務員と国家公務員（大卒一般職）について 国家公務員（大卒一般職）は、公務員志望者にとってお勧めの職業です。それを理解してもらうために、国家公務員の仕事の基本と特徴、国家公務員の魅力と待遇、国家公務員試験の流れと試験科目（攻略方法も含め）について説明します。あわせて、地方公務員や民間企業と比べたとき、国家公務員の仕事はどう違うのか、何が魅力と言えるのか、ディスカッションします。 また、授業終了後、Learning Portal を通じて、受講生全員を対象に志望先のアンケートを実施します。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理してください。また、Learning Portal を通じて、志望先のアンケートに回答してください。	3 時間
第3回	対面	教養問題（判断推理、数的推理）に関する確認テストの実施	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料（教養問題の解法のポイント）を事前に読んでおいてください。 【復習】確認テストの解説資料を読み、間違った問題を再度解くなどの復習をしておいてください。	5 時間
第4回	対面	ミクロ経済学問題の研究① 消費者理論の応用、最適生産要素投入に関する基本事項を解説し、必修問題を解いてもらいます。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業資料を読み直し、必修問題を再度解いて復習してください。	4 時間
第5回	対面	ミクロ経済学問題の研究② 寡占者理論、パレート最適性に関する基本事項を解説し、必修問題を解いてもらいます。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業資料を読み直し、必修問題を再度解いて復習してください。	4 時間
第6回	対面	マクロ経済学問題の研究① 投資理論、国際マクロ経済学に関する基本事項を解説し、必修問題を解いてもらいます。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業資料を読み直し、必修問題を再度解いて復習してください。	4 時間
第7回	対面	マクロ経済学問題の研究② 経済変動理論（ハロッド＝ドーマー型経済成長理論（一部復習）、新古典派経済成長	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業資料を読み直し、必修問題を再度解いて	4 時間

		理論)に関する基本事項を解説し、必修問題を解いてもらいます。	復習してください。	
第8回	対面	ミクロ経済学・マクロ経済学に関する確認テストの実施	【予習】確認テストに向けて、これまで学んだ基本事項を確認するとともに、必修問題を繰り返し解くなどの必要な準備をしておいてください。 【復習】確認テストの解説資料を読み、間違った問題を再度解くなどの復習をしておいてください。	5 時間
第9回	対面	今後の人物試験を想定して講演会(面接の極意)開催を予定しています。法学部との合同になります。	【予習】Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】講演内容をレポートとして整理しておいてください。	4 時間
第10回	対面	財政学問題の研究① 予算の原則と制度、日本の財政事情、地方財政に関する基本事項を解説し、必修問題を解いてもらいます。	【予習】Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業資料を読み直し、必修問題を再度解いて復習してください。	4 時間
第11回	対面	財政学問題の研究② 租税の分類、租税体系の理論、租税の原則、日本の税制に関する基本事項を解説し、必修問題を解いてもらいます。	【予習】Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業資料を読み直し、必修問題を再度解いて復習してください。	4 時間
第12回	対面	財政学問題の研究③ 日本の税制史、租税負担、公債の制度、公債の理論に関する基本事項を解説し、必修問題を解いてもらいます。	【予習】Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業資料を読み直し、必修問題を再度解いて復習してください。	4 時間
第13回	対面	財政学問題の研究④ 財政の役割、公共財の理論、乗数効果(ビルトイン・スタビライザー)に関する基本事項を解説し、必修問題を解いてもらいます。	【予習】Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業資料を読み直し、必修問題を再度解いて復習してください。	4 時間
第14回	対面	財政学問題に関する確認テストの実施	【予習】確認テストに向けて、これまで学んだ基本事項を確認するとともに、必修問題を繰り返し解くなどの必要な準備をしておいてください。 【復習】確認テストの解説資料を読み、間違った問題を再度解くなどの復習をしておいてください。	5 時間
第15回	オンデマンド	本学セミナー(都市経済研究会のフィールドワーク含む)、国・地方自治体の説明会などへの参加を通じて得た知見をレポート(800~1000字)をもって出席1回とします。オンデマンド形式では開催しません。	【復習】春学期中に参加した説明会、フィールドワーク等への参加から得た知見を整理して期末レポートとして提出してください。この提出をもって1回分の授業参加とみなします。 なお、夏休み中の時間も利用して、参考書なども活用して、これまで学修してきた、判断推理、数的推理、ミクロ経済学、マクロ経済学、財政学に関する過去問をより多く解くトレーニングを積み重ねてください。また、自分が志望する行政組織について、どのような行政課題があるかを引き続きホームページから調べておきましょう。	5 時間

科目名	公務員特別演習Ⅱ A		開講年度	2026 年度春学期
担当者	中久保 寛幸		配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G3		授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	「全体の奉仕者」として社会貢献ができ、即戦力として活躍できる人材の育成			
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。			
履修条件・留意点	履修希望者については、選考を行います。 選考方法(基準)は、①志望理由、②志望進路、③前年度授業への参加度、取組度(出席率や成績等を含む)とします。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③ 志望先組織に求められる人物像への自己分析結果や諸課題に関する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、管理官・調査官・署長などに従事して、経験を積み重ねてきた。本科目では、実務経験を活かし、職種に必要な法律解釈や業務の理解、職務倫理や心構え、実務で要求される知識・技能などを教授し、実際の事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。			
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。		ISBN	なし
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ) 等		ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		20	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		20	
	その他の内容		コメントシート	
この科目の受講にあたって	敢えて厳しい職業を目指す学生が共に刺激し合い、励まし合いながら目標に向けてモチベーションを維持できるよう頑張っていきましょう。 日ごろから新聞記事やニュースを注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と			

	自身の意見を考えておきましょう。 ・私語、授業と無関係な電子機器（PC やスマホなど）の使用は厳禁とします。違反者に対しては厳しく対応します。なお、授業に関する調査・検討等で特に教員から使用許可があった場合はこの限りではありません。 ・各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ・課題提出等（オンデマンド授業）については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ・現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	春学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 自己紹介 志望先アンケート等	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第2回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 社会人としての基礎的素養1）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第3回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 社会人としての基礎的素養2）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第4回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員に関する法律① 憲法、警察法、消防法等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第5回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員に関する法律② 地公法：公務員の基本事項・義務・権利等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第6回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員という仕事、求められる人物像）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第7回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 公務員を目指す学生に必要なこと）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第8回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例 志望理由① 職種別の志望動機）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間

			めておく。	
第9回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 志望理由② 自治体別・組織別 志望理由)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第10回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己 PR)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第11回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 ガクチ力)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第12回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 PREP 法)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第13回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 エントリーシート、面接カード とは)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第14回	オンデ マンド	課題提出 (課題例 志望理由、自己 PR、ガクチ力等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第15回	対面	春学期の総括	【予習】各自が春学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習Ⅱ A		開講年度	2026 年度春学期
担当者	雑喉 浩久		配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G3		授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	「全体の奉仕者」として社会貢献ができ、即戦力として活躍できる人材の育成			
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。			
履修条件・留意点	履修希望者については、選考を行います。 選考方法(基準)は、①志望理由、②志望進路、③前年度授業への参加度、取組度(出席率や成績等を含む)とします。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③ 志望先組織に求められる人物像への自己分析結果や諸課題に関する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足をを行います。			
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署副署長まで務めた実績を有する。また、警察学校において後進の教育経験も有している。本科目では、これら警察官の実務経験、警察学校での教育経験を生かした授業を行う。			
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。		ISBN	なし
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ) 等		ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		20	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		20	
	その他の内容		コメントシート	
この科目の受講にあたって	敢えて厳しい職業を目指す学生が共に刺激し合い、励まし合いながら目標に向けてモチベーションを維持できるよう頑張っていきましょう。 日ごろから新聞記事やニュースを注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と自身の意見を考えておきましょう。 ・私語、授業と無関係な電子機器（PC やスマホなど）の使用は厳禁とします。違反者に対して			

	は厳しく対応します。なお、授業に関する調査・検討等で特に教員から使用許可があった場合はこの限りではありません。 ・各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ・課題提出等(オンデマンド授業)については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ・現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	春学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 自己紹介 志望先アンケート等	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第2回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 社会人としての基礎的素養1)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第3回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 社会人としての基礎的素養2)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第4回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 公務員に関する法律① 憲法、警察法、消防法等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第5回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 公務員に関する法律② 地公法：公務員の基本事項・義務・権利等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第6回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 公務員という仕事、求められる人物像)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第7回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 公務員を目指す学生に必要なこと)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第8回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 志望理由① 職種別の志望動機)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間

第9回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 志望理由② 自治体別・組織別 志望理由)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第10回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己 PR)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第11回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 ガクチ力)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第12回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 PREP 法)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第13回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 エントリーシート、面接カード とは)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第14回	オンデ マンド	課題提出 (課題例 志望理由、自己 PR、ガクチ力等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第15回	対面	春学期の総括	【予習】各自が春学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習Ⅱ A		開講年度	2026 年度春学期
担当者	上林 大		配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G3		授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	「全体の奉仕者」として社会貢献ができ、即戦力として活躍できる人材の育成			
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。			
履修条件・留意点	履修希望者については、選考を行います。 選考方法(基準)は、①志望理由、②志望進路、③前年度授業への参加度、取組度(出席率や成績等を含む)とします。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③ 志望先組織に求められる人物像への自己分析結果や諸課題に関する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署長や警察学校の校長を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。			
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。		ISBN	なし
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ) 等		ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		20	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		20	
	その他の内容		コメントシート	
この科目の受講にあたって	敢えて厳しい職業を目指す学生が共に刺激し合い、励まし合いながら目標に向けてモチベーションを維持できるよう頑張っていきましょう。 日ごろから新聞記事やニュースを注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と自身の意見を考えておきましょう。 ・私語、授業と無関係な電子機器（PC やスマホなど）の使用は厳禁とします。違反者に対しては厳しく対応します。なお、授業に関する調査・検討等で特に教員から使用許可があった場合			

	はこの限りではありません。 ・各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ・課題提出等(オンデマンド授業)については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ・現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	春学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 自己紹介 志望先アンケート等	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第2回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 社会人としての基礎的素養 1)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第3回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 社会人としての基礎的素養 2)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第4回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 公務員に関する法律① 憲法、警察法、消防法等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第5回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 公務員に関する法律② 地公法：公務員の基本事項・義務・権利等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第6回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 公務員という仕事、求められる人物像)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第7回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 公務員を目指す学生に必要なこと)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第8回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 志望理由① 職種別の志望動機)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第9回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 志望理由② 自治体別・組織別)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるよ	4 時間

		志望理由)	うにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	
第10回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己PR)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第11回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 ガクチ力)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第12回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 PREP 法)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第13回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 エントリーシート、面接カードとは)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第14回	オンデマンド	課題提出 (課題例 志望理由、自己PR、ガクチ力等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4時間
第15回	対面	春学期の総括	【予習】各自が春学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4時間

科目名	公務員特別演習Ⅱ A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	石川 英樹	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	「全体の奉仕者」として社会貢献ができ、即戦力として活躍できる人材の育成		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。		
履修条件・留意点	履修希望者については、選考を行います。 選考方法(基準)は、①志望理由、②志望進路、③前年度授業への参加度、取組度(出席率や成績等を含む)とします。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針(DP)との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③ 志望先組織に求められる人物像への自己分析結果や諸課題に関する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	担当教員は奈良県警察本部にて、36年間警察官として勤務し、調査官・監察官・地域指導室長など、第一線を始め管理部門での実務経験と警察庁近畿管区警察局監察課への出向などの警察行政における人事、業務管理・企画立案及び服務・業務指導、若手警察官の育成、指導に従事してきた。 本科目では、こうした実務経験を活かして、警察官・消防官などの公安職に必要とされる職務倫理や心構え、実務で要求される知識技能など、事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ) 等	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表(口頭・実技)	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験(対面)	0	
	その他(%)	20	

	その他の内容	コメントシート
この科目の受講にあたって	敢えて厳しい職業を目指す学生が共に刺激し合い、励まし合いながら目標に向けてモチベーションを維持できるよう頑張っていきましょう。 日ごろから新聞記事やニュースを注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と自身の意見を考えておきましょう。 ・私語、授業と無関係な電子機器（PC やスマホなど）の使用は厳禁とします。違反者に対しては厳しく対応します。なお、授業に関する調査・検討等で特に教員から使用許可があった場合はこの限りではありません。 ・各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ・課題提出等(オンデマンド授業)については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ・現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	春学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 自己紹介 志望先アンケート等	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第2回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 社会人としての基礎的素養 1)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第3回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 社会人としての基礎的素養 2)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第4回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 公務員に関する法律① 憲法、警察法、消防法等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第5回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 公務員に関する法律② 地公法：公務員の基本事項・義務・権利等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第6回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 公務員という仕事、求められる人物像)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第7回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 公務員を目指す学生に必要なこと)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間

第8回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 志望理由① 職種別の志望動機)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第9回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 志望理由② 自治体別・組織別志望理由)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第10回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 自己 PR)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第11回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 ガクチ力)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第12回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 PREP 法)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第13回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 (課題例 エントリーシート、面接カードとは)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第14回	オンデマンド	課題提出 (課題例 志望理由、自己 PR、ガクチ力等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第15回	対面	春学期の総括	【予習】各自が春学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習Ⅱ B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	嶋田 裕光	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	行政職公務員を目指すうえで必要な公務員試験（論文試験、面接（人物）試験）対策に取り組む。		
授業の目的及び概要	公務員試験は、ますます「仕事力」や「即戦力」という視点を重視するようになっており、「知識重視型」の選抜から行政の担い手としての「資質評価型」の選抜へと変わってきています。そうしたことから、国家公務員試験、地方公務員試験ともに、行政課題や公共政策についての論文試験や集団討論を課することが多くなっています。面接での問いも、行政課題や公共政策にかかわることが増えています。つまり、国も地方も、本気で公務員を目指しているのかを「行政課題や政策についてきちんと考えているか」によって確認しようとしています。 公務員試験の新傾向に対応するために、本演習では、公務員試験の論文試験、面接試験に対する対策として、論文作成のポイントの指導と論文の作成トレーニング、面接試験での留意点の指導と面接試験のトレーニングを行います。この演習を通じて、論文作成能力や自己表現能力を高めたいと思います。		
履修条件・留意点	春学期（本特別演習ⅡA）からの継続履修を原則とします。また、本演習終了後、直ちに公務員試験（特に国家公務員関係）の申し込み期間が始まりますから、自分で立てた受験計画に沿って必ずエントリーすることを忘れないようにしてください。なお、授業内容によって、法学部と合同開催することがあります。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①必要な知識・情報の把握と理解を前提に、根拠で裏付けつつ説得的な論述ができる論文作成能力を身に付ける。 ②面接での基本である素直に相手と会話のキャッチボールができ、良い印象が得られるような対応を心がけ、実践できるようになる。 ③行政課題が問われる面接において、対応すべき課題が何であり、自分が考える政策が何かを述べられるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	トレーニングで作成した論文については、個別に添削した答案とコメントを返すとともに、授業内で問題点や改善点を議論します。模擬面接については、授業内で個別に講評を行い、改善に向けた指導・助言を行います。期末レポートに対しては、個別にコメントを返します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1986 年に経済企画庁（現内閣府）に入庁し、国家公務員として 30 年以上のキャリアを積んでいる。また、経済白書や経済計画、GDP 統計、社会福祉政策にも携わった実務経験から、マクロ経済学、財政学、GDP 統計、少子化問題を専門領域としている。本科目では、これらの経験を生かし、経済データを正しく評価する目を養い、社会で役立てるための基本的な理論から実務的なプロセスまで含めた幅広い授業を行う。		
テキスト	指定しません。 必要に応じて、担当教員が作成する授業資料を配布して授業を行います。 配布資料は、Learning Portal にも掲載します（原則、授業開講日の前日から閲覧可能）。	ISBN	なし
参考書	公務就職支援室配布の『公務就職ナビブック』	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	70	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	公務員試験は、受験準備を継続する強い意志が必要です。したがって、本演習は、真剣に公務員試験合格をめざす学生を対象とします。ただし、本演習は、あくまでも公務員志望者のサポーターであり、履修生自身が試験対策を練り、Sコースの履修はもちろんのこと、各自自習を重ねる必要があることは言うまでもありません。そこで、限られた授業回数ながら、本演習では、知識の活用や思考力を問う新傾向の公務員試験で重視される論文試験に対して、実践的なトレーニングを重ねることで自信を持てるようにします。正当な理由のない欠席や遅刻をせず、授業には規律と緊張感を持ちつつ出席し、仲間同士が励まし合いながら、一緒に頑張りましょう。なお、本演習で十分にカバーできない時事問題に関しては、日頃から新聞記事に目を通すことにより、自分なりの考えを持つようにしてください。また、自分が志望する行政組織について、随時、ホームページを見て、どのような行政課題があるのか、どのような政策が展開されているのか、を適宜チェックしておいてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 新傾向の公務員試験対策として、論文試験と面接に対応するためにどのように授業を進行させるかについて説明します。 また、授業終了後、Learning Portalを通じて、受講生全員を対象に志望先のアンケートを実施します。	【予習】シラバスや Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理してください。また、Learning Portal を通じてアンケートを回答してください。	2 時間
第2回	対面	公務就職支援室の協力を得て、当該時点での2026年度の受験者の状況（本学からの合格状況を含む）を確認します（法学部と合同実施を予定）。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】受験情報から自分の志望戦略と学修計画が適切かどうか確認しておいてください。模擬試験を積極的に受けるようにしてください。	5 時間
第3回	対面	論文対策①： 論文試験で、論述をどう展開していくかのポイントについて解説し、ディスカッションします。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理してください。	4 時間
第4回	対面	論文対策②： 担当教員が出すテーマについて、実際に論文を書いてもらうトレーニングを行います。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理してください。	4 時間
第5回	対面	論文対策③： 前回授業で作成した論文について、担当教員が必要な知識・情報を解説します。それに基づいて、各自が自分の論文内容を振り返りながら、改善点をディスカッションします。	【復習】自分の作成した論文内容について、知識や情報が不十分だったこと、わからなかったことについて、調べるようにしてください。	4 時間
第6回	対面	論文対策④： 担当教員が出すテーマについて、実際に論文を書いてもらうトレーニングを行います。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理してください。	4 時間
第7回	対面	論文対策⑤： 前回授業で作成した論文について、担当教員が必要な知識・情報を解説します。それに基づいて、各自が自分の論文内容を振り返りながら、改善点をディスカッションします。	【復習】自分の作成した論文内容について、知識や情報が不十分だったこと、わからなかったことについて、調べるようにしてください。	4 時間

第8回	対面	論文対策⑥： 担当教員が出すテーマについて、実際に論文を書いてもらうトレーニングを行います。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】 授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理してください。	4 時間
第9回	対面	論文対策⑦： 前回授業で作成した論文について、担当教員が必要な知識・情報を解説します。それに基づいて、各自が自分の論文内容を振り返りながら、改善点をディスカッションします。	【復習】 自分の作成した論文内容について、知識や情報が不十分だったこと、わからなかったことについて、調べるようにしてください。	4 時間
第10回	対面	論文対策⑧： 担当教員が出すテーマについて、実際に論文を書いてもらうトレーニングを行います。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】 授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理してください。	4 時間
第11回	対面	論文対策⑨： 前回授業で作成した論文について、担当教員が必要な知識・情報を解説します。それに基づいて、各自が自分の論文内容を振り返りながら、改善点をディスカッションします。	【復習】 模擬面接で問われたことで、知識・情報が不十分だったこと、わからなかったことについては調べておいてください。言い方で見直すことがあれば、どう見直すべきかを自分なりに考えてください（書き出して整理するようにしてください）。	4 時間
第12回	対面	面接対策①： 担当教員が面接官となって、行政課題に関する模擬面接を行います。	【復習】 模擬面接で問われたことで、知識・情報が不十分だったこと、わからなかったことについては調べておいてください。言い方で見直すことがあれば、どう見直すべきかを自分なりに考えてください（書き出して整理するようにしてください）。	4 時間
第13回	対面	面接対策②： 担当教員が面接官となって、自身に関する模擬面接を行います。	【復習】 模擬面接で問われたことで、言い方を見直すことがあれば、どう見直すべきかを自分なりに考えてください（書き出して整理するようにしてください）。	4 時間
第14回	対面	面接対策③： これまでの模擬面接について、担当教員がコメントや助言、留意点、必要な知識・情報の解説をします。それに基づいて、各自が自分の受け答え内容を振り返りながら、改善点をディスカッションします。	【予習】 Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおいてください。 【復習】 授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理してください。	4 時間
第15回	オンデマンド	本学セミナー（公務員の仕事説明会、フィールドワーク含む）、国・地方自治体の説明会等への参加によって得た知見をレポート（800～1000字）にまとめその提出をもって出席1回とします。	【復習】 秋学期中に参加した各種説明会、フィールドワークを振り返り、そこで得た知見をまとめて期末レポートとして提出してください。 なお、本演習終了後の春休み中に各種公務員試験の申し込みが開始されますから、受験計画に従って間違いないようにエントリーするようにしてください。	5 時間

科目名	公務員特別演習Ⅱ B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	中久保 寛幸	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	「全体の奉仕者」として社会貢献ができ、即戦力として活躍できる人材の育成		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。		
履修条件・留意点	原則として、公務員特別演習ⅡA の本クラス履修生とします。 就職志望先の変更等によるクラス替えや履修取消については、担当教員との協議等により検討します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③ 志望先組織から求められる人物像に関する自己分析結果、情勢や諸課題に対する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、管理官・調査官・署長などに従事して、経験を積み重ねてきた。本科目では、実務経験を活かし、職種に必要な法律解釈や業務の理解、職務倫理や心構え、実務で要求される知識・技能などを教授し、実際の事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ) 等	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	コメントシート	
この科目の受講にあたって	敢えて厳しい職業を目指す学生が共に刺激し合い、励まし合いながら目標に向けてモチベーションを維持できるよう頑張っていきましょう。 日ごろから新聞記事やニュースを注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と		

	自身の意見を考えておきましょう。 ・私語、授業と無関係な電子機器（PC やスマホなど）の使用は厳禁とします。違反者に対しては厳しく対応します。なお、授業に関する調査・検討等で特に教員から使用許可があった場合はこの限りではありません。 ・各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ・課題提出等（オンデマンド授業）については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ・現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	秋学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 春学期及び夏季休暇の振り返りと秋学期の目標やスケジュールの設定について 志望先アンケート等の実施	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。志望先の絞り込みと採用試験に関する情報の収集をしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第2回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例 自己分析：志望動機1）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第3回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例 自己分析：志望動機2）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第4回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例 自己分析：強み、長所）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第5回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例 自己分析：失敗への対応、挫折時の克服）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第6回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例 人物評価：小論文1）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第7回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例 人物評価：小論文2）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第8回	オンデマンド	課題提出 （課題例 小論文等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見をまとめておく。 【復習】提出した課題等について、担当教員から指示・指導・添削等に基づいて自己検証し、理解を深める。	4 時間

			ておく。	
第9回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 人物評価：面接全般)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第10回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 人物評価：服装・姿勢・態度)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第11回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 人物評価：入室・着席・退室等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第12回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 人物評価：答弁要領1)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第13回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 人物評価：答弁要領2)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第14回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 採用試験準備について)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第15回	対面	秋学期の総括、就活に向けた休暇中の取り組み	【予習】各自が秋学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習ⅡB		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	雑喉 浩久		配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G3		授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	「全体の奉仕者」として社会貢献ができ、即戦力として活躍できる人材の育成			
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。			
履修条件・留意点	原則として、公務員特別演習ⅡAの本クラス履修生とします。 就職志望先の変更等によるクラス替えや履修取消については、担当教員との協議等により検討します。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③ 志望先組織から求められる人物像に関する自己分析結果、情勢や諸課題に対する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。			
アクティブ・ラーニング の取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による 授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署副署長まで務めた実績を有する。また、警察学校において後進の教育経験も有している。本科目では、これら警察官の実務経験、警察学校での教育経験を生かした授業を行う。			
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。		ISBN	なし
参考書	①公務就職ナビブック（公務就職支援室等編著） ②警察白書（警察庁ホームページ） ③消防白書（総務省消防庁ホームページ） ④防衛白書（防衛省ホームページ） ⑤犯罪白書（法務省ホームページ） 等		ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		20	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		20	
	その他の内容		コメントシート	
この科目の受講にあたって	敢えて厳しい職業を目指す学生が共に刺激し合い、励まし合いながら目標に向けてモチベーションを維持できるよう頑張っていきましょう。 日ごろから新聞記事やニュースを注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と自身の意見を考えておきましょう。 ・私語、授業と無関係な電子機器（PC やスマホなど）の使用は厳禁とします。違反者に対して			

	は厳しく対応します。なお、授業に関する調査・検討等で特に教員から使用許可があった場合はこの限りではありません。 ・各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ・課題提出等(オンデマンド授業)については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ・現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	秋学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 春学期及び夏季休暇の振り返りと秋学期の目標やスケジュールの設定について 志望先アンケート等の実施	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。志望先の絞り込みと採用試験に関する情報の収集をしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第2回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 自己分析：志望動機1)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第3回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 自己分析：志望動機2)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第4回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 自己分析：強み、長所)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第5回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 自己分析：失敗への対応、挫折時の克服)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第6回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 人物評価：小論文1)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第7回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 人物評価：小論文2)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第8回	オンデマンド	課題提出 (課題例 小論文等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見をまとめておく。 【復習】提出した課題等について、担当教員から指示・指導・添削等に基づいて自己検証し、理解を深めておく。	4 時間

第9回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 人物評価：面接全般)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第10回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 人物評価：服装・姿勢・態度)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第11回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 人物評価：入室・着席・退室等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第12回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 人物評価：答弁要領1)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第13回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 人物評価：答弁要領2)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第14回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 採用試験準備について)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第15回	対面	秋学期の総括、就活に向けた休暇中の取り組み	【予習】各自が秋学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習ⅡB		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	上林 大		配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G3		授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	「全体の奉仕者」として社会貢献ができ、即戦力として活躍できる人材の育成			
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。			
履修条件・留意点	原則として、公務員特別演習ⅡAの本クラス履修生とします。 就職志望先の変更等によるクラス替えや履修取消については、担当教員との協議等により検討します。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③ 志望先組織から求められる人物像に関する自己分析結果、情勢や諸課題に対する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署長や警察学校の校長を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。			
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。		ISBN	なし
参考書	①公務就職ナビブック（公務就職支援室等編著） ②警察白書（警察庁ホームページ） ③消防白書（総務省消防庁ホームページ） ④防衛白書（防衛省ホームページ） ⑤犯罪白書（法務省ホームページ） 等		ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		20	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		20	
	その他の内容		コメントシート	
この科目の受講にあたって	敢えて厳しい職業を目指す学生が共に刺激し合い、励まし合いながら目標に向けてモチベーションを維持できるよう頑張っていきましょう。 日ごろから新聞記事やニュースを注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と自身の意見を考えておきましょう。 ・私語、授業と無関係な電子機器（PC やスマホなど）の使用は厳禁とします。違反者に対しては厳しく対応します。なお、授業に関する調査・検討等で特に教員から使用許可があった場合			

	はこの限りではありません。 ・各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ・課題提出等(オンデマンド授業)については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ・現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	秋学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 春学期及び夏季休暇の振り返りと秋学期の目標やスケジュールの設定について 志望先アンケート等の実施	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。志望先の絞り込みと採用試験に関する情報の収集をしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第2回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 自己分析：志望動機1)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第3回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 自己分析：志望動機2)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第4回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 自己分析：強み、長所)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第5回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 自己分析：失敗への対応、挫折時の克服)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第6回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 人物評価：小論文1)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第7回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 人物評価：小論文2)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第8回	オンデマンド	課題提出 (課題例 小論文等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見をまとめておく。 【復習】提出した課題等について、担当教員から指示・指導・添削等に基づいて自己検証し、理解を深めておく。	4 時間
第9回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 人物評価：面接全般)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにして	4 時間

			おく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	
第10回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 人物評価：服装・姿勢・態度)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第11回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 人物評価：入室・着席・退室等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第12回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 人物評価：答弁要領1)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第13回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 人物評価：答弁要領2)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第14回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 採用試験準備について)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第15回	対面	秋学期の総括、就活に向けた休暇中の取り組み	【予習】各自が秋学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習Ⅱ B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	石川 英樹	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	「全体の奉仕者」として社会貢献ができ、即戦力として活躍できる人材の育成		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。		
履修条件・留意点	原則として、公務員特別演習ⅡA の本クラス履修生とします。 就職志望先の変更等によるクラス替えや履修取消については、担当教員との協議等により検討します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ② 志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③ 志望先組織から求められる人物像に関する自己分析結果、情勢や諸課題に対する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	担当教員は奈良県警察本部にて、36年間警察官として勤務し、調査官・監察官・地域指導室長など、第一線を始め管理部門での実務経験と警察庁近畿管区警察局監察課への出向などの警察行政における人事、業務管理・企画立案及び服務・業務指導、若手警察官の育成、指導に従事してきた。 本科目では、こうした実務経験を活かして、警察官・消防官などの公安職に必要とされる職務倫理や心構え、実務で要求される知識技能など、事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ) 等	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	

	その他の内容	コメントシート
この科目の受講にあたって	敢えて厳しい職業を目指す学生が共に刺激し合い、励まし合いながら目標に向けてモチベーションを維持できるよう頑張っていきましょう。 日ごろから新聞記事やニュースを注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と自身の意見を考えておきましょう。 ・私語、授業と無関係な電子機器（PC やスマホなど）の使用は厳禁とします。違反者に対しては厳しく対応します。なお、授業に関する調査・検討等で特に教員から使用許可があった場合はこの限りではありません。 ・各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ・課題提出等(オンデマンド授業)については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ・現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	秋学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 春学期及び夏季休暇の振り返りと秋学期の目標やスケジュールの設定について 志望先アンケート等の実施	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。志望先の絞り込みと採用試験に関する情報の収集をしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第2回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 自己分析：志望動機1)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第3回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 自己分析：志望動機2)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第4回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 自己分析：強み、長所)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第5回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 自己分析：失敗への対応、挫折時の克服)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第6回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 人物評価：小論文1)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第7回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 人物評価：小論文2)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深	4 時間

			めておく。	
第8回	オンデマンド	課題提出 (課題例 小論文等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見をまとめておく。 【復習】提出した課題等について、担当教員から指示・指導・添削等に基づいて自己検証し、理解を深めておく。	4 時間
第9回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 人物評価：面接全般)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第10回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 人物評価：服装・姿勢・態度)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第11回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 人物評価：入室・着席・退室等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第12回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 人物評価：答弁要領1)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第13回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 人物評価：答弁要領2)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第14回	対面	公安職志望者としての課題の理解 (課題例 採用試験準備について)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第15回	対面	秋学期の総括、就活に向けた休暇中の取り組み	【予習】各自が秋学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習Ⅲ A /経済		開講年度	2026 年度春学期
担当者	嶋田 裕光		配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G4		授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	各種公務員行政職試験に向けた直前対策			
授業の目的及び概要	公務員試験に向けて、公務員志望者として知っておくべき最新の主要な行政課題や時事問題に関する知識を集中的に確認するとともに、公務員試験の直前対策としてこれまで学修してきた教養、専門試験、論文・人物試験対策の最終チェックを行います。個別の志望先に応じた対策も要望に応じて別途行います。この演習を通じて必要な準備に着実な取り組みを行うことで、本試験には自信と気持ちの余裕を持って臨めるようにしてもらいます。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	①公務員試験の直前対策として必要な知識の整理等を行い、公務員試験に合格できる能力に達する。 ②行政課題や時事問題に関する知識や情報を把握し自分なりの考え方を持った上で、論文試験や人物試験に臨めるようにする。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	発言や報告の内容に対し、授業内でコメントやアドバイスをします（必要に応じて授業外でも）。 期末レポートなどの課題に対しては、コメントを付けて戻します。			
アクティブ・ラーニング の取り組み	ディスカッション、ディベート、討議			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1986 年に経済企画庁（現内閣府）に入庁し、国家公務員として 30 年以上のキャリアを積んでいる。また、経済白書や経済計画、GDP 統計、社会福祉政策にも携わった実務経験から、マクロ経済学、財政学、GDP 統計、少子化問題を専門領域としている。本科目では、これらの経験を生かし、経済データを正しく評価する目を養い、社会で役立てるための基本的な理論から実務的なプロセスまで含めた幅広い授業を行う。			
テキスト	指定しません。 適宜、必要に応じて、担当教員が資料を配布します。 配布資料は、Learning Portal にも掲載します（原則、授業開講日の前日から閲覧可能）。	ISBN	なし	
参考書	公務就職支援室配布の「公務就職ナビブック」 受験ジャーナル（実務教育出版社）の各種直前特集。	ISBN	なし	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	70		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	0		
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	公務員になりたいというモチベーションを維持しながら、目標をともにする人たちが互いに励まし合い、高め合っていくことで、望む結果を獲得していきましょう。 担当教員は、長年国家公務員としての勤務経験があるので、公務員の仕事の現場の実態とやりがいを伝えることができます。受講者の公務員志望のモチベーションを維持し、さらに高めていくことに貢献したいと思います。これまで使ってきた各種参考書や問題集を再度やり直した			

	り、毎日、テレビニュースを見たり、新聞記事を読んで、時事問題や行政の動き、様々な行政課題について、積極的に情報収集を行ってください。詳しい情報は役所のホームページに資料等が掲載されていることが多いので、アクセスしてよく見ておいてください。情報収集のアンテナをできるだけ広げておくことが大切です。気になった時事問題や行政課題等で、うまく調べられないときは、遠慮せずに担当教員に尋ねてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 演習の内容・進め方、情報の集め方、公務員試験の受験先と試験日、その他受験にあたっての注意事項を確認します。	【予習】シラバスや「公務就職ナビブック」を事前に目を通しておいてください。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理してください。授業終了後、Learning Portal を通じて、受講生全員が公務員試験の受験先と試験日のアンケートに回答してください。	4 時間
第2回	対面	公務員試験（国家、地方）共通の教養・知能分野問題の最終チェックを行います。	【予習】これまで学修してきた教養・知能分野の中で特に苦手意識のあるところを確認しておいてください。 【復習】授業で取り上げた典型問題の類題をどんどん解いておくようにしてください。	4 時間
第3回	対面	公務員試験（国家、地方）共通の専門分野（経済学関係）問題の最終チェックを行います。	【予習】これまで学修してきた専門分野の中で特に苦手意識のあるところを確認しておいてください。 【復習】授業で取り上げた典型問題の類題をどんどん解いておくようにしてください。	4 時間
第4回	対面	最近の行政課題、時事問題研究① 今年の公務員試験の筆記、論文や討論で出題されそうな政策分野の解説を行います。	【予習】前回授業の指示に基づき、必要な準備をしておいてください。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを実戦の場で活用できるよう整理しておいてください。	4 時間
第5回	対面	最近の行政課題、時事問題研究② 今年の公務員試験の論文や討論で出題されそうな政策分野の解説を行います。	【予習】前回授業の指示に基づき、必要な準備をしておいてください。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを実戦の場で活用できるよう整理してください。	4 時間
第6回	対面	最近の行政課題、時事問題研究③ 今年の公務員試験の論文や討論で出題されそうな政策分野の解説を行います。	【予習】前回授業の指示に基づき、必要な準備をしておいてください。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを実戦の場で活用できるよう整理してください。	4 時間
第7回	対面	個別志望先に応じた直前対策相談の実施① 教員から受験の直前の心構えや情報提供、個別に相談したい事項があればそれについて説明します。	【予習】前回授業の指示に基づき、必要な準備をしておいてください。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理してください。	4 時間
第8回	対面	個別志望先に応じた直前対策相談の実施② 教員から受験の直前の心構えや情報提供、個別に相談したい事項があればそれについて説明します。	【予習】前回授業の指示に基づき、必要な準備をしておいてください。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理してください。	4 時間
第9回	対面	個別志望先に応じた直前対策相談の実施③ 教員から受験の直前の心構えや情報提供、個別に相談したい事項があればそれについて説明します。	【予習】前回授業の指示に基づき、必要な準備をしておいてください。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理してください。	4 時間
第10回	対面	面接・集団討論対策① 筆記試験終了後に始まる人物試験（2次試験）に向けて個別面接・集団討論の練習を行います。	【予習】前回授業の指示に基づき、必要な準備をしておいてください。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理してください。	4 時間
第11回	対面	面接・集団討論対策② 筆記試験終了後に始まる人物試験（2次試験）	【予習】前回授業の指示に基づき、必要な準備をしておいてください。	4 時間

		験)に向けて個別面接・集団討論の練習を行います。	【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理してください。	
第12回	対面	個別の志望先に対する受験対策① 個別の志望先に応じて、受験対策の個別相談・アドバイス	【予習】前回授業の指示に基づき、必要な準備をしておいてください。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理してください。	4 時間
第13回	対面	個別の志望先に対する受験対策② 個別の志望先に応じて、受験対策の個別相談・アドバイス	【予習】前回授業の指示に基づき、必要な準備をしておいてください。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理してください。	4 時間
第14回	対面	個別の志望先に対する受験対策③ 個別の志望先に応じて、受験対策の個別相談・アドバイス	【予習】前回授業の指示に基づき、必要な準備をしておいてください。 【復習】授業で得た知識や情報、自分で考えたことなどを整理してください。	4 時間
第15回	オンデマンド	春学期中に受験した公務員試験結果の状況と今後の受験計画(市役所が中心)についてについて確認します。	【復習】春学期を振り返っての自身の課題、今後の就職活動や公務員試験に向けてすべきことについて整理し、期末レポートを提出してください。	4 時間

科目名	日本史概説Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	久米 高史	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	日本史(前近代史)の概論（原始・古代から近世後期まで）		
授業の目的及び概要	日本列島が誕生する原始時代から江戸時代後期までの日本史の概説講義を行います。各時代の基礎的事項と日本史全体の流れを理解することを目的とし、社会科教員にとって必須である基本的知識とその運用法を学修します。		
履修条件・留意点	特にありませんが、社会科教員を目指すという強い意志を持って受講してください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ 原始・古代から近世中期までの日本史の基本的な流れを完全に理解し、それぞれの時代の特徴について説明できるようになる。 ・ 必須となる歴史用語についても、きちんと説明できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・ 毎講授業終了後にラーニングポータルより小テストを実施し、理解度をチェックします。 ・ 翌週の授業で小テストの講評を行い、質問への回答や補足説明をします。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『概論 日本歴史』，佐々木潤之介・佐藤信・中島三千男・藤田覚・外園豊基・渡辺隆喜(編)，吉川弘文館，2000 年	ISBN	ISBN 9784642077101
参考書	特にありません。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	日本史は、小学校、中学校、高等学校で繰り返し学習する教科ですが、大学入試までの基礎事項の暗記を中心とした学習とは異なり、大学では各時代の様々な現象を総合し、時代と時代のつながりを論理的に捉えることが重視されます。また世界史の中の日本史という観点も踏まえて、歴史の理解を現代社会に対する洞察力、理解力にフィードバックするという意識も持ち合わせてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	対面	・授業の概要・成績評価などについての説明。 ・テキスト I = 古代: 第1章 古代国家の成立	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 旧石器時代から縄文時代にかけての日本と東アジアについて 2 弥生時代の日本と東アジアについて	4 時間

		1 原始の日本列島		
第2回	対面	テキストⅠ＝古代：第1章 古代国家の成立 2 倭王権の伸長 3 古代国家への歩み ①	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 倭王権から大和政権への展開について 2 大王権力の伸長と東アジアの動向について 3 推古朝の政治と外交について	4 時間
第3回	対面	テキストⅠ＝古代：第1章 古代国家の成立 3 古代国家への歩み ② 古代：第2章 律令国家の形成と展開 1 律令国家の形成	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 大化の改新と改新政治について 2 天智朝に至る過程と対外関係について 3 壬申の乱について 4 天武・持統朝における中央集権化について 5 律令国家の成立と律令政治について	4 時間
第4回	対面	テキストⅠ＝古代：第2章 律令国家の形成と展開 2 律令国家の成熟と展開	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 聖武朝の政治と社会について 2 奈良朝政争史について 3 平安京遷都に至る過程について	4 時間
第5回	対面	テキストⅠ＝古代：第3章 摂関政治と地方社会 1 摂関政治の展開と外交・文化 ①	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 桓武～嵯峨朝の政治と藤原北家の台頭について 2 延喜・天曆の治について	4 時間
第6回	対面	テキストⅠ＝古代：第3章 摂関政治と地方社会 1 摂関政治の展開と外交・文化 ② 2 地方支配の転換	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 摂関政治確立に至る過程とその政治について 2 土地制度史の変遷について	4 時間
第7回	対面	テキストⅠ＝古代：第3章 摂関政治と地方社会 3 武士と荘園 Ⅱ＝中世：第1章 中世社会の成立と展開 1 院政の成立と平氏の台頭 ①	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 武士の台頭と院政の展開について 2 保元・平治の乱と平氏政権の誕生について	4 時間
第8回	対面	テキストⅡ＝中世：第1章 中世社会の成立と展開 1 院政の成立と平氏の台頭 ② 2 武家政権の確立 ①	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 平氏政権の展開～滅亡について 2 鎌倉幕府の成立になつて	4 時間
第9回	対面	テキストⅡ＝中世：第1章 中世社会の成立と展開 2 武家政権の確立 ② 3 鎌倉後期の政治と社会	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 執権政治の成立とその展開について 2 得宗権力の確立と元寇について 3 農村社会の変容と御家人の窮乏について 4 鎌倉幕府の滅亡について	4 時間
第10回	対面	テキストⅡ＝中世：第2章 内乱と一揆の時代 1 南北朝の内乱 2 室町時代の政治と社会 ①	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 室町幕府の成立と南北朝の争乱の展開について 2 足利義満による南北朝の合一と幕府権力の強化について 3 日明勘合貿易について	4 時間
第11回	対面	テキストⅡ＝中世：第2章 内乱と一揆の時代 2 室町時代の政治と社会 ② 3 中世後期のアジアと日本	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 惣村の展開と土一揆・国一揆 2 中世の琉球・朝鮮・蝦夷地と倭寇について	4 時間
第12回	対面	テキストⅡ＝中世：第2章 内乱と一揆の時代	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 応仁の乱から室町幕府の崩壊過程について	4 時間

		4 戦国大名の時代 Ⅲ＝近世：第1章 幕藩体制の確立 1 織豊政権	2 戦国大名と家臣団、戦国大名の領国経営について 3 織田信長の登場から豊臣秀吉による天下統一について	
第13回	対面	テキストⅢ＝近世：第1章 幕藩体制の確立 2 江戸幕府の成立と鎖国 3 幕藩体制の確立	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 豊臣政権の崩壊から徳川家康による江戸幕府成立に至る過程について 2 家康から家光に至る武断政治期の政治と外交について	4 時間
第14回	対面	テキストⅢ＝近世：第1章 幕藩体制の確立 4 元禄・享保の文化と幕政 テキストⅢ＝近世：第2章 幕藩体制の動揺と解体 1 幕藩体制の動揺と対応 2 幕藩体制の本格的危機と対応	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 元禄期の政治・経済・社会について 2 8代将軍吉宗による享保の改革について 3 田沼時代について 4 老中松平定信による寛政の改革について 5 老中水野忠邦による天保の改革について	4 時間
第15回	オンデマンド	オンデマンド授業により、これまでの14回の講義を振り返るとともに、期末試験への対策について解説します。	動画をしっかりと視聴し、必要な事項はレジュメに書き込むなどして理解を深め、試験対策を万全なものとしてください。	4 時間

科目名	日本史概説Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	久米 高史	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	日本史(近現代史)の概論（近世末期から 1990 年代まで）		
授業の目的及び概要	幕末開港期から 1990 年代までの日本史の概説講義を行います。各時代の基礎的事項と日本史全体の流れを理解することを目的とし、社会科教員にとって必須である基本的知識とその運用法を学修します。		
履修条件・留意点	特にありませんが、社会科教員を目指すという強い意志を持って受講してください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・幕末開港期から 1990 年代までの日本史の基本的な流れを完全に理解し、それぞれの時代の特徴について説明できるようになる。 ・必須となる歴史用語についても、きちんと説明できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・毎講授業終了後に Learning Portal より小テストを実施し、理解度をチェックします。 ・小テストの講評は翌週の授業で行い、質問への回答や補足説明をします。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『概論 日本歴史』，佐々木潤之介・佐藤信・中島三千男・藤田覚・外園豊基・渡辺隆喜(編)，吉川弘文館，2000 年	ISBN	ISBN 9784642077101
参考書	特にありませんが、必要な場合は授業の中で提示します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	日本史は、小学校、中学校、高等学校で繰り返し学習する教科ですが、大学入試までの基礎事項の暗記を中心とした学習とは異なり、大学では各時代の様々な現象を総合し、時代と時代のつながりを論理的に捉えることが重視されます。また世界史の中の日本史という観点も踏まえて、歴史の理解を現代社会に対する洞察力、理解力にフィードバックするという意識も持ち合わせてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	・授業の全体像や成績評価の基準などについて。 ・テキストⅢ＝近世：第2章 幕藩体制の動揺と解体	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 なぜ日本は開国しなければならなかったのかについて 2 開国による貿易の開始は、日本の社会と政治に	4 時間

		3 開国と幕藩 体崩壊崩壊	どのような影響を及ぼしたのかについて	
第2回	対面	・テキストⅣ＝近代：第1章 近代国家の 成立 1 明治政府の 成立 ①	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 版籍奉還や廃藩置県など明治初年度の政治改革 の内容とその影響について 2 地租改正や新貨条例など明治初年度の経済改革 の内容とその影響について	4 時間
第3回	対面	・テキストⅣ＝近代：第1章 近代国家の 成立 1 明治政府の 成立 ②	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 岩倉遣外使節に始まる明治前期の初期外交につ いて 2 学制、徴兵令などの欧米流の近代的制度の導入 とその影響について	4 時間
第4回	対面	・テキストⅣ＝近代：第1章 近代国家の 成立 2 自由民権運 動と政党 ①	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 自由民権運動の展開から政党の結成に至るまで の過程について 2 大隈財政と明治十四年の政変について	4 時間
第5回	対面	・テキストⅣ＝近代：第1章 近代国家の 成立 2 自由民権運 動と政党 ②	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 松方デフレと激化事件について 2 松方財政とその後の企業勃興、さらに 1890 年恐 慌について	4 時間
第6回	対面	・テキストⅣ＝近代：第1章 近代国家の 成立 3 帝国憲法と 初期議会 ①	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 大日本帝国憲法成立に至るまでの過程について 2 初期議会の動向について	4 時間
第7回	対面	・テキストⅣ＝近代：第1章 近代国家の 成立 3 帝国憲法と 初期議会 ②	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 明治初期の日清関係・日朝関係について 2 日清戦争開戦に至るまで経緯について	4 時間
第8回	対面	・テキストⅣ＝近代：第2章 政党政治の 発展と社会運動 1 立憲政友会 の成立と日清戦後の社会 ①	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 初の植民地獲得と三国干渉について 2 日清戦後経営について 3 第一次大隈内閣の崩壊から立憲政友会の結成・ 旧自由党系の合流について	4 時間
第9回	対面	・テキストⅣ＝近代：第2章 政党政治の 発展と社会運動 1 立憲政友会 の成立と日清戦後の社会 ② 2 大正政変前 後 ①	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 日清戦争後の社会運動について 2 桂園時代とはどのような時代であったかについ て 2 韓国併合に至る過程について	4 時間
第10回	対面	・テキストⅣ＝近代：第2章 政党政治の 発展と社会運動 2 大正政変前 後 ② 3 普選・治安維 持法体制の成立 ①	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 大正政変に至る過程について 2 シーメンス事件について 3 第一次世界大戦下の日本の政治・外交について 4 大戦景気とはどのようなものであったかについ て 5 米騒動と社会運動の発展について 6 原敬内閣の誕生からワシントン体制に至る過程 について	4 時間
第11回	対面	・テキストⅣ＝近代：第2章 政党政治の 発展と社会運動 3 普選・治安 維持法体制の成立 ② 第3章 アジ ア太平洋戦争 1 恐慌の時 代と政党内閣制 2 協調外交	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 戦後恐慌と震災恐慌について 2 護憲三派内閣の誕生と普通選挙法・治安維持法 の成立過程について 3 憲政党内閣から立憲政友会の田中義一内閣への 政治動向について 4 3の原因である対欧米・対中国の外交方針につ いて	4 時間

		から積極外交へ ①		
第12回	対面	・テキストⅣ＝近代：第3章 アジア太平洋戦争 2 協調外交から積極外交へ ② 3 軍部の台頭 4 二・二六事件と近衛新体制運動 5 日中戦争からアジア太平洋戦争へ	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 1920年代の一連の恐慌と金解禁について 7 二・二六事件から日中戦争に至る過程について 2 世界恐慌・昭和恐慌と日本の農村について 8 日本の南進と対米英蘭開戦について 3 憲政会内閣から立憲政友会の田中義一内閣への政治動向について 9 戦局の悪化と敗戦について 4 ロンドン海軍軍縮条約と協調外交の終わりについて 5 満州事変から満州国建国に至る過程について 6 高橋財政について	4時間
第13回	対面	・テキストⅤ＝現代：第1章 戦後改革	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 敗戦直後の極度のインフレと金融緊急措置令について 2 GHQによる農地改革と財閥解体 3 敗戦後の政党政治の復活について 4 アメリカの占領政策の転換について	4時間
第14回	対面	・テキストⅤ＝現代：第2章 復興と高度経済成長	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 朝鮮戦争と講和に続く高度経済成長の開始について 2 高度経済成長の実態について	4時間
第15回	オンデマンド	オンデマンドで講義により、これまで14回の授業の振り返りを行うとともに、学期末試験のポイントを解説します。	動画の講義をレジメを参照しながら視聴し、ポイントをレジメに書き込むなどして、試験準備を行ってください。	4時間

科目名	外国史 I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	穴井 佑	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	近世イギリスの歴史的な展開を理解する。		
授業の目的及び概要	本講義は、近代への過渡期となる近世イギリスの歴史的展開を、研究史上の論争にも留意しつつ学ぶことで、一面的な歴史理解ではなく、物事を多面的に捉える歴史学の基本的な視座の養成に努めるものである。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	第一に、近世から近代へと至るイギリスの歴史的展開を学び、その基礎的な知識を得ることで、近代という時代の特徴や成り立ちを説明できるようになる。 第二に、一面的な歴史理解ではなく、近世・近代イギリス史に関する研究史上の論争にも留意することで、歴史的なものの見方や、バランスのとれた批判的精神を涵養する。 第三に、授業の内容を明瞭かつ論理的にまとめる能力、多様な史資料・図像を分析する能力を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の授業後にレスポンスシートを執筆してもらいます。各授業では、それに対する応答をしたうえで、講義を行っていきます。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特になし。	ISBN	なし
参考書	①論点・西洋史学、金澤周作監修、ミネルヴァ書房、2020 年 ②よくわかるイギリス近現代史、君塚直隆編、ミネルヴァ書房、2018 年	ISBN	①9784623087792 ②9784623083183
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	本科目は教職科目ともなっています。将来、中学校や高等学校などの教員として歴史教育にたずさわる可能性もあることを自覚して講義に臨んでください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	【ガイダンス、異文化としての近世イングランド】 どのように授業を進めていくかを説明す	【予習】 高校までの世界史の教科書などを振り返っておくこと。 【復習】 レジュメをよく読んで、近世社会の歴史を学	4 時間

		るとともに、現在の私たちの世界観や価値観とは大きな隔たりがある近世社会の歴史を学ぶためのガイダンスを行う。	ぶ上で必要な世界観についての理解を深める。	
第2回	対面	【イングランドの宗教改革①】 イングランドの宗教改革の概説を理解する。	【予習】参考書②8-11 頁を事前に読んでおく。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第3回	対面	【イングランドの宗教改革②】 イングランド宗教改革に関する研究の変遷と論争を理解する。これによって、複数の異なる歴史観が存在することを理解し、多角的な物事の見方を身につける。	【予習】前回のレジュメをよく読んで、イングランド宗教改革の概説を確認しておく。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第4回	対面	【初期スチュアート朝の財政問題】 チューダー朝以来の財政構造が破綻していたこと、チャールズ1世期にはその改革が試みられるも頓挫し、内戦／革命へと至る問題が準備されたことを学ぶ。	【予習】参考書①148-149 頁、参考書②16-17 頁を事前に読んでおく。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第5回	対面	【内戦、三王国戦争、革命？】 かつて「ピューリタン革命」と呼ばれることが一般的であった17世紀半ばの政治的な大変動をめぐる研究史を題材に、複数の異なる歴史観が存在することを理解し、多角的な物事の見方を身につける。	【予習】参考書①170-171 頁、参考書②17-21 頁を事前に読んでおくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第6回	対面	【近世イングランドの貧困対策】 近世イングランドにおいて、貧困が社会問題として認識されるようになり、それへの対策が模索されたことを学ぶ。	【予習】貧困とは何か、自分なりに考えを整理してきてください。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第7回	対面	【ウィンスタンリと近世イングランドの入会地／権】 入会地 (commons and wastes) を利用することで貧民の窮状を救おうとしたウィンスタンリについて学ぶ。	【予習】辞典や英語辞書などを用いて commons や wastes、入会地や入会権の意味を調べておくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。第8回の授業時に行う中間テストに向けたポイント解説を行うので、その内容をきちんと身につけておくこと。	5 時間
第8回	対面	【中間テスト】 第1回～第7回の授業範囲で中間テストを行う。 【1665年のペスト大流行】 1665年のロンドンにおけるペスト大流行を題材として、前近代の社会と現代社会の相違について考えを深める。	【予習】新型コロナウイルスに翻弄され続けてきた2020年以降の現代世界の状況を振り返っておくこと。第7回の授業時に中間テストに向けたポイント解説を行うので、その内容をきちんと身につけておくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	5 時間
第9回	対面	【1666年のロンドン大火】 1666年のロンドン大火を事例に、災害後の都市復興や都市の水事情について理解を深める。	【予習】参考書②24-25 頁を事前によく読んでおくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第10回	対面	【王位継承排除危機と名誉革命】 「長い18世紀」のイギリスにおける統治体制を決定づけることとなる名誉革命に対する理解を深める。	【予習】参考書②28-33 頁を事前によく読んでおくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第11回	対面	【「投資社会」の拡大と南海泡沫事件】 18世紀におけるイギリスの金融市場の拡大について学ぶ。	【予習】参考書②44-45 頁を事前によく読んでおくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考	4 時間

			文献を精読する。	
第12回	対面	【都市の消費文化】 18世紀イギリスにおける都市化の進展と、それとともに消費文化の発展について学ぶ。	【予習】参考書①202－203 頁、参考書②58－59 頁を事前によく読んでおくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に興味を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第13回	対面	【風刺画から見る 18 世紀のイギリス社会】 ウィリアム・ホーガースとジェームズ・ギルレイの風刺画から 18 世紀イギリス社会を学ぶ。	【予習】第 12 回のレジュメを読んで、内容を整理しておくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に興味を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第14回	対面	【民衆の政治文化】 民衆の政治文化、「モラル・エコノミー」という観点から 18 世紀イギリスにおける食糧暴動について理解する。	【予習】参考書①196－197 頁を事前によく読んでおくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に興味を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第15回	オンデマンド	【まとめと総括】 定期試験に向けて授業を総括する動画教材をオンデマンドで配信する。	【予習】これまでのレジュメを読んで、学んできた内容を整理すること。 【復習】オンデマンド動画を視聴した上で、ラーニングポータル上で配布する資料を中心に、これまでの学修内容の総復習を行うこと。	5 時間

科目名	外国史 I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	畑野 吉則	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	6 世紀までの中国における歴史・社会・文化の形成と展開		
授業の目的及び概要	新石器時代末期から魏晉南北朝時代に至るまで（紀元前 2000 年頃～6 世紀）の中国史を概観する。 各王朝の成立と変遷を通時的にたどりながら、①王朝制の形成過程、②支配構造の変遷、③行政システムの展開という 3 つの観点に着目する。 これらの視点を通じて、中国王朝の歴史的展開を体系的に理解し、中国史に関する基礎的な知識を習得することを目的とする。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（１）中国の諸制度および文化がどのように生まれ、歴史の中でいかに変容してきたのかを理解するとともに、それらが東アジア諸地域に与えた多様な影響について理解する。 （２）中国を中心とする歴史事象について、原因と結果の相互関係を整理し、論理的な文章で論述できるようになる。 （３）6 世紀までの中国史に関する基礎的な知識を学ぶとともに、中国の影響を受けてきた日本の歴史・文化を、東アジアという広域的視点から評価できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートは翌週の授業で紹介し、質問への回答や補足説明をします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	毎回レジュメを配布します	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	（１）毎回の授業内容に即したコメントシートあるいは簡易アンケートの提出を求めます。内容は成績評価の対象とします。 （２）授業期間中に、授業の理解度を確認する内容の小テスト（あるいはミニレポート）を複数回実施します。 （３）期末試験は論述形式を予定しています。毎回配布するレジュメをもとに復習し、準備をおこなってください。 （４）授業中に、私語、無断退出、不正出席等、授業運営を妨げる行為が認められた場合は、減点の対象とします。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンスⅠ — 中国史を学ぶために	【予習】シラバスの内容を事前に読んでおくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4 時間
第2回	対面	新石器時代 — 農耕社会の形成と古典文明	【予習】授業概要およびキーワードを事前に知らせるので、調べておくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4 時間
第3回	対面	殷・周王朝 — 中国王朝のはじまりと「中原」の形成	【予習】授業概要およびキーワードを事前に知らせるので、調べておくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4 時間
第4回	対面	春秋時代 — 封建制の崩壊と覇者体制	【予習】授業概要およびキーワードを事前に知らせるので、調べておくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4 時間
第5回	対面	戦国時代 — 封建制から県制へ	【予習】授業概要およびキーワードを事前に知らせるので、調べておくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4 時間
第6回	対面	諸子百家 — 中国古代の思想と学問	【予習】授業概要およびキーワードを事前に知らせるので、調べておくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4 時間
第7回	対面	秦王朝 — 始皇帝の統一と中央集権国家の形成	【予習】授業概要およびキーワードを事前に知らせるので、調べておくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4 時間
第8回	対面	前漢王朝 ① — 秦の滅亡と漢の建国	【予習】授業概要およびキーワードを事前に知らせるので、調べておくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4 時間
第9回	対面	前漢王朝 ② — 武帝の治世と対外政策	【予習】授業概要およびキーワードを事前に知らせるので、調べておくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4 時間
第10回	対面	中国古代の文書行政	【予習】授業概要およびキーワードを事前に知らせるので、調べておくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4 時間
第11回	対面	後漢王朝 — 王莽・新の篡奪と漢王朝の再興	【予習】授業概要およびキーワードを事前に知らせるので、調べておくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4 時間
第12回	対面	「三国志」の時代 — 三国鼎立と地方社会の萌芽	【予習】授業概要およびキーワードを事前に知らせるので、調べておくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4 時間
第13回	対面	魏晉南北朝時代 ① — 漢族と胡族の対立と融合	【予習】授業概要およびキーワードを事前に知らせるので、調べておくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4 時間
第14回	対面	魏晉南北朝時代 ② — 多元化と多様化の時代	【予習】授業概要およびキーワードを事前に知らせるので、調べておくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4 時間

2026/05/01

第15回	オンデマンド	まとめ — 中国王朝と遊牧国家：農耕民族と遊牧民族 第1回から第14回までのテーマを総括する	【予習】これまでの授業レジュメを整理し、授業内容を総括しておくこと。 【復習】ノートを整理し、期末試験に備えること。	4時間

科目名	外国史Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	穴井 佑	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	イギリスを中心にして、16－20 世紀にいたるまでの世界の歴史的な展開を学ぶことで、現代社会の成り立ちについての理解を深める。		
授業の目的及び概要	本講義では、現在の私たちの生活や価値観にも大きな影響を及ぼしている近代イギリスの歴史的展開を概説する。その際に、イギリスが世界各地に植民地を有し、また自由貿易体制を世界規模で拡大しようとしたことに着目することで、現代世界の成り立ちについての理解を深めていく。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	第一に、世界各地に植民地を拡大し、やがて大英帝国を築き上げていったイギリスの歴史を通して、西洋近代の世界規模での影響を検討することで、現代社会の成り立ちについての理解を深める。第二に、一つの歴史的な事柄に対する多様な研究のあり方を紹介することで物事を多角的かつ批判的にとらえる歴史的な思考を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の授業後にレスポンスシートを執筆してもらいます。各授業では、それに対する応答をしたうえで、講義を行っていきます。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特になし。	ISBN	なし
参考書	①論点・西洋史学、金澤周作監修、ミネルヴァ書房、2020 年 ②よくわかるイギリス近現代史、君塚直隆編、ミネルヴァ書房、2018 年	ISBN	①9784623087792 ②9784623083183
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	本科目は教職科目ともなっています。将来、中学校や高等学校などの教員として歴史教育にたずさわる可能性もあることを自覚して講義に臨んでください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	【ガイダンス、近代の西洋について学ぶことの意味】 どのように授業を進めていくかを説明す	【予習】参考書①の i－vi 頁を読んでおくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、近代西洋の歴史を学ぶ上で必要な準備をする。	4 時間

		るとともに、近代西洋の歴史を学ぶことの意義について自分なりに考えていくためのガイダンスを行います。		
第2回	対面	【覇権をめぐる闘争①：ポルトガル、スペイン】 ポルトガルとスペインがヨーロッパの外へと拡張をはじめていく要因と過程を学びます。	【予習】参考書①の126－131頁、194－195頁を事前に読んでおくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4時間
第3回	対面	【覇権をめぐる闘争②：オランダ】 オランダが近代世界システムにおける覇権を掌握していく過程を学びます。	【予習】参考書①の134－137、194－195頁を事前に読んでおくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4時間
第4回	対面	【覇権をめぐる闘争③：イギリス】 近代世界システムにおける覇権がオランダからイギリスへと移っていく過程を学びます。	【予習】参考書①の178－179頁と、参考書②48－51、56－57頁を事前に読んでおくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4時間
第5回	対面	【イギリスによる環大西洋経済圏の確立】 環大西洋世界における優位を築いたイギリスが、大西洋奴隷貿易を土台として環大西洋経済圏を確立していった過程を学びます。	【予習】事前に参考書①の192－193頁と、第4回のレジュメをよく読んでおくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4時間
第6回	対面	【奴隷貿易および奴隷制の廃止】 イギリスが奴隷貿易および奴隷制を廃止していく過程を、人道主義的な観点と経済的な観点から学びます。	【予習】第5回のレジュメを読んで、内容を整理しておくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4時間
第7回	対面	【産業革命と生活水準論争】 イギリスにおける産業革命についての理解を深めるとともに、経済や社会の変動が人びとの生活にもたらした変化を学びます。	【予習】参考書①188－194頁、参考書②52－53頁を事前によく読んでおくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。第8回の授業時に行う中間テストに向けてポイント解説を行うので、その内容をきちんと身につけること。	5時間
第8回	対面	【中間テスト】 第1回～第7回の授業範囲で中間テストを行う。 【清朝と大英帝国】 清朝に対して自由貿易を求め、アヘン戦争などの武力衝突に至った歴史事象から、イギリス帝国についての理解を深めます。	【予習】参考書②62－65頁を事前によく読んでおくこと。第7回の授業時に中間テストに向けたポイント解説を行うので、その内容をきちんと身につけておくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	5時間
第9回	対面	【奴隷制廃止と国際労働市場の変容】 前半で奴隷制が廃止された後の奴隷たちの処遇を、後半で奴隷にかわる労働力について、中国人移民労働者を事例に学びます。	【予習】第5－6回のレジュメを読んで、内容を整理しておくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4時間
第10回	対面	【帝国主義の時代】 イギリスを帝国主義的な政策を題材にし、帝国主義の時代についての理解を深めます。また、日本における帝国主義研究の変遷についても学びます。	【予習】参考書①230－231頁、240－243頁、参考書②84－85頁、90－91頁を事前によく読んでおくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4時間
第11回	対面	【イギリス帝国の危機：自由貿易か保護貿易か】 19世紀末イギリスの経済的、軍事的な地位低下への危機感から生じた自由貿易政策の再検討について学ぶことで、イギリス	【予習】第8回、第10回のレジュメを読んで、内容を整理しておくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4時間

		帝国と近現代世界の歴史に関する理解を深めます。		
第12回	対面	【ハゲモニー国家が提供する国際公共財】 19世紀末以降のイギリスにおいて経済的・軍事的な地位低下への危機感が見られた一方で、世界経済のフレームワークやインフラの構築を通してイギリスが依然として世界規模で多大な影響力を維持し続けたことを学びます。	【予習】第8回、第10回、第11回のレジュメをよく読んで、イギリス帝国について知識を整理しておくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4時間
第13回	対面	【イギリス帝国内の移民】 駒形丸事件を中心に近現代イギリスにおける移民について学びます。	【予習】第8回、第10回、第11回、第12回のレジュメをよく読んで、イギリス帝国について知識を整理しておくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4時間
第14回	対面	【現代イギリスの多文化・多民族・多宗教】 世界の各地に植民地を有した帝国という歴史が、現代イギリスの多文化・多民族・多宗教的な状況を作りだしていることを学び、近現代の歴史と現代社会との結びつきについての理解を深めます。	【予習】第8回、第10回、第11回、第12回、第13回のレジュメをよく読んで、イギリス帝国について知識を整理しておくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4時間
第15回	オンデマンド	【まとめと総括】 定期試験に向けて授業を総括する動画教材をオンデマンドで配信します。	【予習】これまでのレジュメを読んで、学んできた内容を整理すること。 【復習】オンデマンド動画を視聴した上で、ラーニングポータル上で配布する資料を中心に、これまでの学修内容の総復習を行うこと。	4時間

科目名	外国史Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	畑野 吉則	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	20 世紀初頭までの中国における歴史・社会・文化の形成と展開		
授業の目的及び概要	本講義では、隋王朝の成立から清末に至るまで（6 世紀～20 世紀初頭）の中国史を概観する。各王朝の成立と変遷を通時的にたどりながら、①中国王朝と征服王朝の対立構造、②中国史と同時代世界史との関係、③伝統中国と現代中国との連続性および相違点という 3 つの観点に着目する。 これらの視点を通じて、中国史を長期的・広域的な文脈のなかで理解し、現代中国を歴史的に捉えるための基礎的な知識を習得することを目的とする。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（１）伝統中国において形成された諸制度および文化が、近代以降の中国社会に与えた多様な影響について理解する。 （２）中国を中心とする歴史事象について、原因と結果の相互関係を整理し、論理的な文章で論述できるようになる。 （３）20 世紀初頭までの中国史に関する基礎的な知識を学ぶとともに、中国の影響を受けてきた日本の歴史・文化を、東アジアという広域的視点から評価できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートは翌週の授業で紹介し、質問への回答や補足説明をします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	毎回レジュメを配布します	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	（１）毎回の授業内容に即したコメントシートあるいは簡易アンケートの提出を求めます。内容は成績評価の対象とします。 （２）授業期間中に、授業の理解度を確認する内容の小テスト（あるいはミニレポート）を複数回実施します。 （３）期末試験は論述形式を予定しています。毎回配布するレジュメをもとに復習し、準備をおこなってください。 （４）授業中に、私語、無断退出、不正出席等、授業運営を妨げる行為が認められた場合は、減点の対象とします。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンスⅡ ― 伝統中国と現代中国	【予習】シラバスの内容を事前に読んでおくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4時間
第2回	対面	隋王朝 ― 天下の再統一	【予習】授業概要およびキーワードを事前に知らせるので、調べておくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4時間
第3回	対面	唐王朝 ① ― 律令国家の形成	【予習】授業概要およびキーワードを事前に知らせるので、調べておくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4時間
第4回	対面	唐王朝 ② ― 世界帝国の衰退	【予習】授業概要およびキーワードを事前に知らせるので、調べておくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4時間
第5回	対面	古代日本における唐文化の受容 ― 正倉院と聖武天皇	【予習】授業概要およびキーワードを事前に知らせるので、調べておくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4時間
第6回	対面	宋王朝 ① ― 北宋による中国の再統一	【予習】授業概要およびキーワードを事前に知らせるので、調べておくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4時間
第7回	対面	宋王朝 ② ― 征服王朝と宋の南遷	【予習】授業概要およびキーワードを事前に知らせるので、調べておくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4時間
第8回	対面	元王朝 ① ― モンゴル帝国の形成	【予習】授業概要およびキーワードを事前に知らせるので、調べておくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4時間
第9回	対面	元王朝 ② ― 元王朝の中国支配とその社会	【予習】授業概要およびキーワードを事前に知らせるので、調べておくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4時間
第10回	対面	明王朝 ① ― 明初の南北同等支配	【予習】授業概要およびキーワードを事前に知らせるので、調べておくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4時間
第11回	対面	明王朝 ② ― 永楽帝の世界秩序と北虜南倭の時代	【予習】授業概要およびキーワードを事前に知らせるので、調べておくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4時間
第12回	対面	明王朝 ③ ― 中華帝国の再構築と崩壊	【予習】授業概要およびキーワードを事前に知らせるので、調べておくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4時間
第13回	対面	清王朝 ① ― 「華夷変態」と大清帝国	【予習】授業概要およびキーワードを事前に知らせるので、調べておくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4時間
第14回	対面	清王朝 ② ― 中国の近代化と19世紀のアジア	【予習】授業概要およびキーワードを事前に知らせるので、調べておくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4時間

2026/05/01

第15回	オンデマンド	まとめ — 中華民国と中華人民共和国 第1回から第14回までのテーマを総括する	【予習】これまでの授業レジュメを整理し、授業内容を総括しておくこと。 【復習】ノートを整理し、期末試験に備えること。	4時間

科目名	人文地理学 I		開講年度	2026 年度春学期
担当者	岡田 良平		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目			
テーマ	人文地理学の基本的な見方・考え方			
授業の目的及び概要	この授業は人文地理学の基本的な見方について具体的なトピックの紹介を通じて学びます。現在、高校では「地理総合」が必修化されました。それをふまえてこの授業では高校地理の内容にも立ち返りながら進めます。春学期では、文化地理学、言語地理学、社会地理学、都市地理学、経済地理学、地理教育学について学びます。この授業を通じて、地理学の多角的な見方・考え方を通して見える地域の社会・経済・文化的な変容や影響について学修します。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	この授業を受講することによって学生は、以下の能力を身につけることができます。 1. 人文地理学の基本的な見方・考え方を身につけることができる。 2. 事象を通して地域に関する具体的なトピックを提示することによって、授業で取り上げられている内容が日常の社会生活に密着していることを認識することができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	本授業はオンデマンドで行います。担当教員に E-mail やディスカッションで適宜、質問等をして下さい。また、15 回目の学修において寄せられた質問等について解説します。試験については、授業支援システム（Learning Portal）に「学修のまとめ・ふりかえりシート」を配布し、そこから出題されます。解答も掲載されていますので「学修のまとめ・ふりかえりシート」で確認しましょう。			
アクティブ・ラーニング の取組み				
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	特定のテキストは使用しません。自作の PowerPoint スライド、添付資料を活用します。	ISBN	なし	
参考書	レジュメで作成した引用文献の形で紹介する予定です。	ISBN	なし	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	100		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	成績・評価について。 ①各回では小テストを実施する。小テストは評価の 20％です。なお、小テストは全 15 回の学修の習熟と出席状況を把握するものでもあります。全 15 回中 12 回以上の回答がない場合（4 回以上回答していない）は、学修到達度確認テストの試験の得点に関わらず単位取得ができません。 ②第 7 回、第 15 回の学修後は学修到達度確認テストを行う。計 2 回のテストは評価の 80％です。2 回いずれもテストを受験していない場合は、12 回以上の小テストの受験があっても単位			

	取得ができません。 成績は 12 回以上の小テストの回答及び計 2 回の学修到達度確認テストの結果を総合して評価を行う。全 15 回の小テスト及び学修到達度確認テストにおいてテスト中に試験を中断したり、インターネットを遮断してしまうと web の設定上、再度試験は受けられません。そのため、出席確認となる小テストも未受験となり欠席扱いとなります。また、学修到達度確認テストも未受験となり、計 2 回の学修到達度確認テストを受験していない場合も単位取得ができません。こうしたテストの受験不備による出席扱い、再受験の依頼する問い合わせには対応しません。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	オンデマンド	オリエンテーション 講義の進め方、内容、計画、留意事項の説明 人文地理学 人文地理学の基本的な見方・考え方について学修します。文化地理学、言語地理学、社会地理学、都市地理学、経済地理学、地理教育学について学びます。この授業を通じて、地理学の多角的な見方・考え方を通して見える地域の社会・経済・文化的な変容や影響について学修します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	4 時間
第 2 回	オンデマンド	文化地理学：麺の文化地理と地誌 私たちの生活で麺類は切っても切り離せません。うどん、そば、パスタ、ラーメン、焼きそばなど調理方法まで含めれば、多種多様です。これらの麺文化の背景には小麦など穀物の生産が欠かせません。講義では、中国を中心に東アジア、東南アジアへと麺文化が波及していった麺文化の系統性や文化史を通して、東アジアや東南アジア全体における文化地理学的視点から麺と地域性について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	4 時間
第 3 回	オンデマンド	文化地理学：魚醤・発酵の分布圏—東南アジア・東アジアの食文化— 東南アジアから東アジア地域の発酵食品、とりわけ魚醤と地域性について考察します。日本の食生活では魚醤と言われてもピンとこないかもしれません。調味料として有名なのはナンプラーです。しかし、そのルーツ、製造過程を見ていくと東南アジアから東アジアにかけて広がる「魚醤文化圏」が見えてきます。麺の文化地理学は中国を中心とした広がりでしたが、東南アジアを中心とした東アジアにわたる河川や海洋圏での広がりとして考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	4 時間
第 4 回	オンデマンド	文化地理学：ご当地グルメの背景と味覚の境界線 現在ではメディアの影響、コンビニや EC の発達によって気軽にご当地グルメを味わえるようになりました。特に「B 級グルメ」は、複数の書籍・SNS での情報もあり、観光資源となっている場合もあります。しかし、実際にはそれだけではなく、家庭料理での材料や味付けの違いといったものまであります。学修では、いくつかのご当地グルメを事例に、それらの地域の自然環境や歴史的な背景、地域差等について学修	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んで復習すること。	4 時間

		します。		
第5回	オンデマンド	言語地理学：方言と地域性 一般的な感覚では、方言は国語の分野での研究となります。しかし、地理学や地誌学ではこうした他分野の領域も地域性を表すテーマとして取り上げることができます。明治時代以降、近代国家の建設において統一した教育政策は最重要課題のひとつでした。現代では、方言は地域の独自性やアイデンティティを示すものとして認識され、地域のまちおこしや観光資源の重要なコンテンツとして認識されています。学修では、方言圏論や方言の位置付けの変化、まちおこしの事例紹介、方言や言葉、地域そのものに対する人々のまなざしの変容について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のレジュメを読んで復習すること。	4 時間
第6回	オンデマンド	言語地理学：大阪の方言に見る地域差 私たちが日常的に使っている話し言葉には方言が含まれています。特に「関西弁」は全国的に有名です。学修では、大阪を事例にしながら大阪の各地で使われている方言の特徴や違いについて考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のレジュメを読んで復習すること。	4 時間
第7回	オンデマンド	農村地理学：農村社会の地理学 現代の日本の農村では人口減少・少子高齢化の傾向が著しいです。学修では、戦後の農村社会の変容や農業の変貌について概観し、現在の農村問題や農村政策について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第8回	オンデマンド	漁業地理学：漁業と地理学 日本は周辺を海に囲まれ、河川や湖も多数ある地理的環境から漁業が非常に盛んでした。しかし、第二次世界大戦以降、食文化の変化に伴って、水産物や水産加工物の消費量が激減しています。学修では、日本の漁業を取り巻く現状と大阪府の深日（ふけ）漁業協同組合の取り組みについて考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第9回	オンデマンド	社会地理学：環境循環社会：ラオスの農村社会を事例に ラオスは文化圏として世界で唯一のモチ米を主食とする文化圏です。また、昆虫食などが文化的に根付いた地域でもあります。ラオスの農村社会を事例に自然環境と人との環境循環型社会の在り方について学修します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第10回	オンデマンド	地理教育学：地理的学習の重要性と地理総合に向けて 高校で「地理総合」が必修化されました。今後、地歴科の教員になるためには地理の指導が重要になってきます。残念ながら、現状では高校では地理の指導ができる教員は十分ではなく、地理総合必修化には大きな課題が残されています。学修では、小学校から高校までの地理的な学習を系統的に考察し、各段階における課題について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第11回	オンデ	経済地理学：教育問題と地理学	予習：不要	4 時間

	マンド	家計に占める一人当たりの教育費は年々、増加しています。少子化による学区の統廃合、無計画な開発による特定の地域や地区の学校のマンモス校化、幼少期からの有名な学校への「お受験」等、教育問題は単なる学校や教育委員会における問題ではなく、地域の社会経済的な課題として認識しなければなりません。学修では、いくつかの地域を事例に学校の統廃合や学区制度における課題について考察します。	復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	
第12回	オンデマンド	経済地理学：地域資源とまちづくり 現在、多くの自治体が人口減少・少子高齢化という課題を抱え、地域資源を活用したまちづくりを実施しています。また、近年では地域活性化に関する関心も高く、大学生でも人気の学修や進路先として位置付けられています。学修では、いくつかの自治体の事例を考察し、地域資源の活用に関する成果と課題について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第13回	オンデマンド	都市地理学：日本の都市問題 日本は人口減少という課題に直面する一方で、東京・大阪・名古屋の三代都市圏では過密という課題があります。他方、地方の都市部では中心市街地の空洞化、ドーナツ化という課題があります。学修では、基本的な都市問題について事例を挙げながら考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第14回	オンデマンド	都市地理学：都市とプロ野球 日本では、三大都市圏を中心に都市部にプロ野球チームが本拠地を置いています。日本では明治時代以降、学校や企業がシンボルとして「野球」を位置付け、その後、職業野球（プロ野球）として人気を博してきました。いわば、プロ野球は都市文化のひとつとして位置付けることができます。プロ野球の球団史からみえる地域性や社会経済の発展について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第15回	オンデマンド	学修のまとめ 各回ごとの学修を振り返り、人文地理学的な見方・考え方について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間

科目名	人文地理学Ⅱ		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	岡田 良平		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目			
テーマ	人文地理学の基本的な見方・考え方			
授業の目的及び概要	この授業は人文地理学の基本的な見方について具体的なトピックの紹介を通じて学びます。現在、高校では「地理総合」が必修化されました。それをふまえてこの授業では高校地理の内容にも立ち返りながら進めます。春学期では、文化地理学、言語地理学、社会地理学、都市地理学、経済地理学、地理教育学について学びます。この授業を通じて、地理学の多角的な見方・考え方を通して見える地域の社会・経済・文化的な変容や影響について学修します。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	この授業を受講することによって学生は、以下の能力を身につけることができます。 1. 人文地理学の基本的な見方・考え方を身につけることができる。 2. 事象を通して地域に関する具体的なトピックを提示することによって、授業で取り上げられている内容が日常の社会生活に密着していることを認識することができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	本授業はオンデマンドで行います。担当教員に E-mail やディスカッションで適宜、質問等をして下さい。また、15 回目の学修において寄せられた質問等について解説します。試験については、授業支援システム（Learning Portal）に「学修のまとめ・ふりかえりシート」を配布し、そこから出題されます。解答も掲載されていますので「学修のまとめ・ふりかえりシート」で確認しましょう。			
アクティブ・ラーニング の取組み				
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	特定のテキストは使用しません。自作の PowerPoint スライド、添付資料を活用します。	ISBN	なし	
参考書	レジュメで作成した引用文献の形で紹介する予定です。	ISBN	なし	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	100		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	成績・評価について。 ①各回では小テストを実施する。小テストは評価の 20％です。なお、小テストは全 15 回の学修の習熟と出席状況を把握するものでもあります。全 15 回中 12 回以上の回答がない場合（4 回以上回答していない）は、学修到達度確認テストの試験の得点に関わらず単位取得ができません。 ②第 7 回、第 15 回の学修後は学修到達度確認テストを行う。計 2 回のテストは評価の 80％です。2 回いずれもテストを受験していない場合は、12 回以上の小テストの受験があっても単位			

	取得ができません。 成績は 12 回以上の小テストの回答及び計 2 回の学修到達度確認テストの結果を総合して評価を行う。全 15 回の小テスト及び学修到達度確認テストにおいてテスト中に試験を中断したり、インターネットを遮断してしまうと web の設定上、再度試験は受けられません。そのため、出席確認となる小テストも未受験となり欠席扱いとなります。また、学修到達度確認テストも未受験となり、計 2 回の学修到達度確認テストを受験していない場合も単位取得ができません。こうしたテストの受験不備による出席扱い、再受験を依頼する問い合わせには対応しません。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	オンデマンド	人文地理学の基本的な見方・考え方について学修します。工業地理学、農業地理学、観光地理学、交通地理学、歴史地理学、地図学、風景論・空間論について学びます。この授業を通じて、地理学の多角的な見方・考え方を通して見える地域の社会・経済・文化的な変容や影響について学修します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	4 時間
第 2 回	オンデマンド	工業地理学：日本・ヨーロッパ・アメリカの諸地域における工業地帯の変化 国家の近代化において「工業」は非常に重要です。工場が集積することで、そこに労働者が集まり、その労働者が飲食や居住するためのまちが形成されます。このように工業は都市化と密接に関係しています。学修では、日本・ヨーロッパ・アメリカの工業地帯の変遷について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	4 時間
第 3 回	オンデマンド	工業地理学：日本における工業の変化 日本の工業の特色と工業の変化に自動車産業を事例として考察しながら学修を深めます。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	4 時間
第 4 回	オンデマンド	地図学：世界の地図の歴史 地図にはその時代の世界観が表現されます。学修では、いくつかの国の地図の歴史について概観し、時代とともにそれぞれの国の人々がどのように異文化の世界を見てきたのか、考えていたのかについて考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んで復習すること。	4 時間
第 5 回	オンデマンド	地図学：ヨーロッパから見た異世界 地図にはその時代の世界観が表現されます。学修では、中世のヨーロッパの人たちが作成した地図を中心に、誤った情報、思い込み、そうあってほしいと思う願望などから作られた地図について考察をします。言い換えれば、非科学的、うその地図ともいえるでしょうが、当時としてはそれが最新の情報でもありました。こうした時代を経て、近代地理学が誕生します。時代とともにそれぞれの国の人々がどのように異文化の世界を見てきたのか、考えていたのかについて考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のレジュメを読んで復習すること。	4 時間
第 6 回	オンデマンド	観光地理学：観光学の定義と観光地の課題 観光は人がその地を訪れることによって成立する産業です。また、旅行者は訪問した土地ならではの楽しみ方を求めています。そのため他の産業とは違い、観光産業	予習：不要 復習：該当する箇所のレジュメを読んで復習すること。	4 時間

		はその地域の第一次・第二次・第三次産業の全てに波及することから経済効果が高く、どの国や地域でも観光政策に力を入れています。学修では、観光学の基本的な考え方やその課題について学び、いくつかの事例を紹介しながら地理的なアプローチによる観光について考察します。		
第7回	オンデマンド	観光地理学：沖縄を事例に 沖縄県はその立地的な特性から長年、日本本土から多くの観光客の「目的地」として観光産業が発展してきました。しかし、近年は、東アジアや東南アジアから「近くて安いリゾート地」として認識されています。また、「目的地」であった立場から、ハブ空港としての機能を強化し、中継地としての機能もあります。学修では沖縄の観光産業について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第8回	オンデマンド	環境地理学 地球環境問題を解決して、地球と人類が共存できる持続可能な社会の実現について学修を深めます。近年、SDGs（持続可能な社会）の概念が広く一般に知られるようになり、環境問題への関心がとても高まっています。身近な環境問題を考えるだけでなく、世界規模、地球規模での環境問題について学修を深めることで、より環境に対する理解を深めます。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第9回	オンデマンド	歴史地理学 アメリカの産業とメジャーリーグ スポーツ大国アメリカという側面からメジャーリーグを事例に、地理的な考察を行う。チーム名や本拠地とするスタジアム、フランチャイズにしている都市との関係など、アメリカの国技であるベースボールから都市の産業の盛衰・人口移動の歴史から地域性について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第10回	オンデマンド	歴史地理学：城郭と城下町 日本には複数の城下町が存在しています。こうした城下町では城郭を設計する段階で、城下町の都市計画も並行して考えられています。今昔マップも活用しながら複数の城下町の都市計画や特徴について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第11回	オンデマンド	歴史地理学 「風土をいかに読み解くか～なぜ秀吉は伏見に城を築いたのか～」 歴史地理学的な視点から風土に関する学修を深めます。なぜ豊臣秀吉が伏見に城を築いたのかという観点から、交通・産業について地理的特徴から考察を行います。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第12回	オンデマンド	歴史地理学：ならまち・岸和田市・貝塚市の歴史地理 事例としてならまち、岸和田市、貝塚市を取り上げます。特定の地域の地誌を事例として取り上げ、古代から現代まで考察します。学修を通して、地理的な見方・考え方の実践例として捉え、自身の興味・関心のある地域での調査等に役立てるようにし	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間

		ましょう。		
第13回	オンデマンド	交通地理学：交通機関の発達と時間利用の変化 交通機関の発達は地域の様相やつながりを大きく変化させます。学修では、道路、鉄道、空路、水上輸送に関する事例から交通機関の発展と衰退によって、産業がどのように変化していったのかについて考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第14回	オンデマンド	空間論・風景論 地理学は空間を扱う研究領域です。同じ家庭・地域に住んでいても個人によって空間認識は異なります。また、同一人物であっても生活環境や年齢の違いによって空間認識は変化していきます。学修では、住環境や生活空間の変化とその背景、日常生活における空間や風景の見方・考え方についても考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第15回	オンデマンド	学修のまとめ 毎回ごとの学修を振り返り、人文地理学的な見方・考え方について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間

科目名	自然地理学Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	目代 邦康	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	気候・水文現象に関する基本的な科学的理解とそれらと人との関係		
授業の目的及び概要	気候現象や水文現象とは何か、どのような要素から成り立ち、どのような歴史的変化をたどってきたのか。そして、気候現象や水文現象が他の自然現象（地形や植生）や人間生活にどのように影響を与えているのか（生活・文化、災害）など、水圏・気圏に関わる自然地理学的内容の基礎から応用まで解説する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	地球における気候・水文現象について、それらを地理学的に捉え、理解でき、説明することができる。また、気候・水文現象と人間生活との関係を説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	各回の授業に関して、質問があれば、メールで送ってください。授業の内容についての質問は、追加の動画で解答、解説をします。 最終試験の、授業支援システム（Learning Portal）に解答と講評を掲載します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	自然地理学概論（地理学基礎シリーズ 2）、高橋日出男・小泉武栄、朝倉書店、2008 年	ISBN	9784254168174
参考書	学んでみると気候学は面白い、日下博幸、ベレ出版、2013 年	ISBN	9784860643621
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	100	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	オンデマンド	ガイダンス：授業の計画、進め方、留意事項などの説明	授業前に、自然地理学、気候学、水文学とはどのような学問なのかをテキストを読んで大枠を把握する。 授業後に、授業内容を振り返り、ノートを整理する。	2.5 時間
第 2 回	オンデマンド	気候要素（気温・降水）	授業前に、テキスト 2 章を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返り、ノートを整理する。	4 時間
第 3 回	オンデ	気候要素（気圧・湿度）	授業前に、テキスト 3 章を読んでおく。	4 時間

	マンド		授業後に、授業内容を振り返り、ノートを整理する。	
第4回	オンデマンド	熱収支と大気大循環	授業前に、テキスト4章1～4を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返り、ノートを整理する。	4時間
第5回	オンデマンド	気候区分	授業前に、テキスト3章を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返り、ノートを整理する。	4時間
第6回	オンデマンド	モンスーン	授業前に、テキスト4章5を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返り、ノートを整理する。	4時間
第7回	オンデマンド	都市気候	授業前に、テキスト5章1を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返り、ノートを整理する。	4時間
第8回	オンデマンド	地域スケールの気候	授業前に、テキスト5章2, 3を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返り、ノートを整理する。	4時間
第9回	オンデマンド	日本の気候	授業前に、テキスト6章を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返り、ノートを整理する。	4時間
第10回	オンデマンド	地質時代の気候変動	授業前に、テキスト7章を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返り、ノートを整理する。	4時間
第11回	オンデマンド	地球温暖化	授業前に、テキスト15章1を読んでおく。 授業後に、気候変動に関する課題レポートを行い、期日までに提出する。	4時間
第12回	オンデマンド	水の循環・水資源	授業前に、テキスト13章を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返り、ノートを整理する。	4時間
第13回	オンデマンド	気象災害	授業前に、テキスト14章3を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返り、ノートを整理する。	4時間
第14回	オンデマンド	地球規模の環境問題	授業前に、テキスト15章2, 3を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返り、ノートを整理する。	4時間
第15回	オンデマンド	この授業のまとめ	授業前に、これまでのノートを見直し、分からなかったところをまとめておく。 授業後に、授業内容を振り返り、ノートを整理する。	5.5時間

科目名	自然地理学Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	目代 邦康	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	地形や土壌・植生に関する基本的な科学的知識ならびにそれらと人との関係についての理解		
授業の目的及び概要	地形やそれを構成する土壌や地質，またその上に成立する植生とは何か，どのような要素から成り立ち，どのような歴史的変化をたどってきたのか．そして，地形や土壌，植生が人間生活にどのように影響を与えているのか（生活・文化，災害）など，地圏・生物圏に関わる自然地理学的内容の基礎から応用まで解説する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	地球における地形・土壌・植生について，それらを物質収支と歴史的側面から捉え，説明することができる。また，地形・土壌・植生といった自然現象と人間生活との関係を説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内容に関する質問があれば，メールで送ってください。それについて追加の講義動画で解答，解説をします。 定期試験については，試験終了後に Learning Portal で解説を公開します。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	地理学基礎シリーズ 2 自然地理学概論，高橋日出男・小泉武栄，朝倉書店，2008	ISBN	9784254168174
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	100	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	オンデマンド	ガイダンス：授業の計画，進め方，留意事項などの説明	授業前に，身の回りにある地形，土壌，植生について，中学，高校までの学習内容を思い出し，整理しておく。 授業後に，授業内容を振り返りノートを整理する。	2.5 時間
第 2 回	オンデマンド	世界と日本の大地形	授業前に，8 章を読んでおく。 授業後に，授業内容を振り返りノートを整理する。	4 時間

第3回	オンデマンド	日本列島の地質と地形	授業前に、8章を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返りノートを整理する。	4時間
第4回	オンデマンド	第四紀と氷河時代	授業前に、9章を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返りノートを整理する。	4時間
第5回	オンデマンド	隆起山地・火山の地形	授業前に、10章を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返りノートを整理する。	4時間
第6回	オンデマンド	授業前に、10, 11章を読んでおく。 平野・丘陵地の地形	授業後に、授業内容を振り返りノートを整理する。	4時間
第7回	オンデマンド	変動地形	授業前に、10章を読んでおく。 授業後に授業後に、授業内容を振り返りノートを整理する。	4時間
第8回	オンデマンド	河川と湖沼の地形	授業前に、11章を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返りノートを整理する。	4時間
第9回	オンデマンド	海の地形	授業前に、11章を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返りノートを整理する。	4時間
第10回	オンデマンド	植生地理学	授業前に、12章を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返りノートを整理する。	4時間
第11回	オンデマンド	地生態学・生態系サービス	授業前に、12章を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返りノートを整理する。	4時間
第12回	オンデマンド	自然の恵みと開発	授業前に、事前配付資料を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返りノートを整理する。	4時間
第13回	オンデマンド	自然災害：地震災害	授業前に、14章を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返りノートを整理する。	4時間
第14回	オンデマンド	自然災害：水害	授業前に、14章を読んでおく。 授業後に、授業内容を振り返りノートを整理する。	4時間
第15回	オンデマンド	自然災害：火山災害・斜面災害 この授業のまとめ	授業前に、14章を読んでおく。また、これまでのノートを見直し、分からなかったところをまとめておく。 授業後に、授業内容を振り返りノートを整理する。	5.5時間

科目名	地誌Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	岡田 良平	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	世界の地誌と地域性		
授業の目的及び概要	世界地誌を中心とし、東アジア、東南アジア、南アジア、アフリカ、アングロアメリカ、ラテンアメリカ、ヨーロッパ・ロシア、オセアニアから数か国を事例として、自然・気候・歴史・文化・産業・人口等について、多角的な視点から地域の形成過程を学び、特徴ある国や地域を社会問題と関連させながら考察していきます。そのなかで、地域性とは何か、地誌とは何かを考察できるようになることを目指す。学修の前半は国や地域ごとの地誌を学修し、地誌学の基礎的な見方・考え方を学びます。後半では、俯瞰的な視点を取り入れ、テーマや比較という観点から地誌の学修を深めます。また、教職の履修科目でもあることからどのように地域を生徒にとらえさせるのかについても適宜、考察していき、社会科や地歴科教員の素地の育成にも対応する。		
履修条件・留意点	教職資格取得希望者を主な対象としますが、それ以外の学生も履修できます。教員免許状（中学校「社会」及び高等学校「地理歴史」）取得希望者は、「地誌Ⅱ」もあわせて履修してください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	地域を多角的に捉えながら、自然・気候・産業・歴史・文化等から地域性を精緻に探求できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	本授業はオンデマンドで行います。担当教員に E-mail やディスカッションで適宜、質問等をして下さい。また、15 回目の学修において寄せられた質問等について解説します。試験については、授業支援システム（Learning Portal）に「学修のまとめ・ふりかえりシート」を配布し、そこから出題されます。解答も掲載されていますので「学修のまとめ・ふりかえりシート」で確認しましょう。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは使用しません。自作の PowerPoint スライド、添付資料を活用します。	ISBN	なし
参考書	レジュメで作成した引用文献の形で紹介する予定です。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	100	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	成績・評価について。 ①各回では小テストを実施する。小テストは評価の 20％です。なお、小テストは全 15 回の学修の習熟と出席状況を把握するものでもあります。全 15 回中 12 回以上の回答がない場合（4 回以上回答していない）は、学修到達度確認テストの試験の得点に関わらず単位取得ができません。		

	ん。 ②第7回、第15回の学修後は学修到達度確認テストを行う。計2回のテストは評価の80%です。2回いずれもテストを受験していない場合は、12回以上の小テストの受験があっても単位取得ができません。 成績は12回以上の小テストの回答及び計2回の学修到達度確認テストの結果を総合して評価を行う。全15回の小テスト及び学修到達度確認テストにおいてテスト中に試験を中断したり、インターネットを遮断してしまうとwebの設定上、再度試験は受けられません。そのため、出席確認となる小テストも未受験となり欠席扱いとなります。また、学修到達度確認テストも未受験となり、計2回の学修到達度確認テストを受験していない場合も単位取得ができません。こうしたテストの受験不備による出席扱い、再受験を依頼する問い合わせには対応しません。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	オリエンテーション 講義の進め方、内容、計画、留意事項の説明 地理学と地誌学 地理学における地誌学の位置づけ、地誌学の見方・考え方について考察します。また、地誌学は特定の地域の自然・歴史・文化・産業・人口等から総合的に分析し、地域の特徴を明らかにする分野です。自然環境と人文環境のつながりが重要な要素になります。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	4時間
第2回	オンデマンド	中国の地誌 中国は面積でも世界4位、人口は世界2位という大国です。農業でもコメや小麦の生産量も世界1位、「世界の工場」とに表されるように産業用ロボットの稼働台数、造船の竣工量も世界1位です。こうした急速な経済成長は1990年代以降に中国全土に広がっていきました。こうした経済成長のプロセスを地域別に紐解きながら、産業構造や地域差について学修します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	4時間
第3回	オンデマンド	朝鮮半島 韓国の地誌 朝鮮半島・韓国を事例に自然・気候・歴史・文化・産業等を中心にそれぞれの社会や文化の概観、地理的特徴について学修します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	4時間
第4回	オンデマンド	東南アジアの地誌 東アジア全体の気候や文化の多様性を考察し自然・気候・歴史・文化・産業等を中心にそれぞれの概観や地理的特徴について学修します。16世紀以降、香辛料を求めて東南アジアに進出したヨーロッパ人は、19世紀の産業革命以降、東南アジア諸国の植民地支配を強めます。東南アジア諸国はイギリス、フランス、オランダ、スペイン、ポルトガル、アメリカ、日本の植民地支配の影響を受けつつ、それぞれの国や地域で独自の文化を形成しています。また、長い歴史の中で、華僑、インド、イスラムの文化も影響する複合社会です。こうした背景を国ごとに考察することで東南アジアの全体像にも理解を深めていきます。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んで復習すること。	4時間
第5回	オンデマンド	タイの地誌 東南アジアの中で、タイを事例に取り上げ	予習：不要 復習：該当する箇所のレジュメを読んで復習すること。	4時間

		ます。日本でも人気の海外旅行先であるタイ。首都バンコクのあるタイ中央部、世界的観光地ブーケットのあるタイ南部、古都チェンマイがあるタイ北部などには多くの観光客が押し寄せます。しかし、タイ東北部は観光地も少なく、経済的にも貧しい地域とされてきました。講義では、タイ東北部のドンデーン村とその周辺の村を事例に、都市化に翻弄される都市近郊農村を考察します。	と。	
第6回	オンデマンド	南アジアの地誌 南アジアでは、インドを中心に取り上げます。インドは北はヒマラヤ山脈に接し、国内は8つの気候区分に分けられます。そのため、歴史や文化も多様性に富んでいます。2023年にインドは中国を抜き、人口が14億2860万人となり世界1位となりました。2050年には16億7000万人になると予想されており、地球の総人口の2割を占めると言われています。また、英語をベースにした理数教育が急速な経済成長を支えていると言われています。しかし、インドではヒンドゥー教とカースト制度によって、差別などの社会問題が顕在化しています。また、経済成長による国内の「南北問題」、都市部と農村部における経済格差も顕著になっています。インドは移民の国としても知られています。世界に広がるインド人社会についても学修します。	予習：不要 復習：該当する箇所のレジュメを読んで復習すること。	4時間
第7回	オンデマンド	西アジア・中央アジアの地誌 西アジアと中央アジアの自然・気候・歴史・文化・産業等を中心にそれぞれの社会や文化の概観、地理的特徴について学修します。日常生活の中で日本とは縁があまりないと感じることもあります。石油などの多くの天然資源の大半を輸入しています。また、近年はドバイなどに観光客が訪れています。こうした著しい経済成長の背景についても学修を深めます。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4時間
第8回	オンデマンド	アフリカの地誌 アフリカでは南アフリカ共和国を中心に複数の国を取り上げます。日本人の多くがアフリカに対する一般的なイメージとして「豊かな自然」や「野生動物」を思い浮かべます。しかし、気候の特徴から広大な砂漠や熱帯と乾燥帯が併存する厳しい自然環境です。また、アフリカ各国では、歴史的背景からプランテーション依存型の経済、貧困、紛争の爪痕が色濃く残っています。「希望の大陸」と言われて久しいアフリカ大陸の各国に共通する社会問題とも関連させて考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4時間
第9回	オンデマンド	ヨーロッパの地誌 ヨーロッパの地形と気候、民俗・宗教・言語を概観します。ヨーロッパには50の主権国家と6つ一部主権国家から成る大州です。この地域には主な言語は14、宗教や	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4時間

		民族も複雑かつ多様性に富んでいる。第二次世界大戦以降の東西冷戦では西側と東側に分かれ、ソ連の崩壊以降は、現在ではEUを中心とした経済圏が存在している。自然・人文環境の多様性を知ること、地誌の魅力と学修を深めていきます。		
第10回	オンデマンド	オランダの地誌 オランダの自然・気候・歴史・文化・産業等を中心にそれぞれの社会や文化の概観、地理的特徴について学修します。オランダは低地という地理的な特徴があります。国土の多くを排水による干拓で切り開いてきた歴史的背景があります。そうした自然環境を克服してきた国民性、ヨーロッパにおける水運・海運の要衝として経済成長してきた歴史的背景を考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第11回	オンデマンド	ロシアの地誌 ロシアは国内の20%が他民族であり、バルト3国や中央アジア5カ国などの周辺諸国との結びつきも強い。ヨーロッパ・ロシアの全体像を俯瞰的な視点で把握することで、自然・人文環境の多様性を知ること、地誌の魅力と学修を深めていきます。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第12回	オンデマンド	北アメリカ アメリカ合衆国 カナダの地誌 アメリカ合衆国・カナダを事例に自然・気候・歴史・文化・産業等を中心にそれぞれの概観や地理的特徴を考察します。アメリカは世界一の経済大国です。広大な面積を背景に、徹底的に効率化された大規模農業や畜産業があり世界の食糧基地とまでいわれています。また豊富な地下資源による鉱工業に加え、ICTや航空宇宙産業などの工業でも世界をリードしています。また、ファッションやエンターテインメント等の文化でも多くの影響を与えています。カナダは豊かな自然に恵まれ、比較的治安も良く、観光や留学先としても人気の国です。両国に共通するのは、奴隷や移民による多文化が背景にあり、それによる差別や社会問題を内包していることでしょう。多角的な視点からアングロアメリカについて考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第13回	オンデマンド	ラテンアメリカの地誌 ラテンアメリカの気候と地形、メキシコ合衆国、ブラジルを事例に自然・気候・歴史・文化・産業等を中心にそれぞれの概観や地理的特徴を考察します。ラテンアメリカはインカやアステカ文明などに代表されるように古代から独自の社会を形成してきました。しかし、大航海時代の到来とともにヨーロッパ列強の植民地となり、スペインやポルトガルの言語や文化が色濃く残っています。政治的にも不安定な地域が多く、急速な経済成長が貧富の格差を広げ、無計画な開発によるアマゾンの原生林な	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間

		どが深刻な自然環境の破壊にさらされている現状もあります。		
第14回	オセアニア オーストラリア ニュージーランド	オセアニア オーストラリア ニュージーランドの地誌 オーストラリア、ニュージーランドを事例に自然・気候・歴史・文化・産業等を中心にそれぞれの概観や地理的特徴を考察します。オセアニア諸国、ハワイとも人気の観光地です。オーストラリアは「乾燥大陸」という別名を持ち、内陸部と西部のほとんどが砂漠と乾燥した気候になっています。また、豊富な地下資源を背景に、輸出産業が盛んです。ニュージーランドは牧畜業が盛んで、両国とも大陸の形成過程から独自の進化を遂げた生物が存在しています。オセアニア地域には数千を超える島々が散在しています。多くの国が現在は観光産業を中心にしていますが、植民地時代以降、砂糖産業や軍事基地としての側面もあります。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第15回	オセアニア オーストラリア ニュージーランド	地誌学とは何か 学修の総括を行います。第1回目で提示した地誌学とは何かという問いに対し、学修した内容を中心に地誌的な視点による地域理解や考察をふり返ります。その中で、地域調査においてミクロ・マクロ（ズームの調整）による視点に切り替えの重要性について学修します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間

科目名	地誌Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	岡田 良平	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	日本地誌を網羅的かつ系統的に学ぶ。		
授業の目的及び概要	地誌学は、地理学のなかでも重要な分野のひとつであり、ある一定の広がりをもった地域（土地や場所）を総合的に理解し、その地域の特徴を把握する学問分野である。学修では、日本地誌を中心として、日本における各地域の自然環境・気候・人口・産業などから総合的に地域の特徴について考察する。		
履修条件・留意点	教職資格取得希望者を主な対象としますが、それ以外の学生も履修できます。教員免許状（中学校「社会」及び高等学校「地理歴史」）取得希望者は、「地誌Ⅰ」もあわせて履修してください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 日本の各地域の特徴を理解し考察することができる。 2. 地域の統計資料等から分析・考察し、地域の特徴を総合的に考察することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	本授業はオンデマンドで行います。担当教員に E-mail やディスカッションで適宜、質問等をして下さい。また、15 回目の学修において寄せられた質問等について解説します。試験については、授業支援システム（Learning Portal）に「学修のまとめ・ふりかえりシート」を配布し、そこから出題されます。解答も掲載されていますので「学修のまとめ・ふりかえりシート」で確認しましょう。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは使用しません。自作の PowerPoint スライド、添付資料を活用します。	ISBN	なし
参考書	レジュメで作成した引用文献の形で紹介する予定です。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	100	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	成績・評価について。 ①各回では小テストを実施する。小テストは評価の 20％です。なお、小テストは全 15 回の学修の習熟と出席状況を把握するものでもあります。全 15 回中 12 回以上の回答がない場合（4 回以上回答していない）は、学修到達度確認テストの試験の得点に関わらず単位取得ができません。 ②第 7 回、第 15 回の学修後は学修到達度確認テストを行う。計 2 回のテストは評価の 80％です。2 回いずれもテストを受験していない場合は、12 回以上の小テストの受験があっても単位取得ができません。		

	成績は 12 回以上の小テストの回答及び計 2 回の学修到達度確認テストの結果を総合して評価を行う。全 15 回の小テスト及び学修到達度確認テストにおいてテスト中に試験を中断したり、インターネットを遮断してしまうと web の設定上、再度試験は受けられません。そのため、出席確認となる小テストも未受験となり欠席扱いとなります。また、学修到達度確認テストも未受験となり、計 2 回の学修到達度確認テストを受験していない場合も単位取得ができません。こうしたテストの受験不備による出席扱い、再受験を依頼する問い合わせには対応しません。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	オンデマンド	地理学・地誌学とは 日本地誌・世界の中の日本 地理学・地誌学の基本的な考え方について解説します。日本列島の自然環境・気候・風土などの地理的環境について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	4 時間
第 2 回	オンデマンド	沖縄 沖縄の地誌について学修します。沖縄は琉球王国として東アジアにおける中継貿易で栄えた独自の歴史・文化があります。気候も亜熱帯気候に属し、本土との気候や自然環境も大きくおこなっています。こうした世界でも有数の珊瑚礁があり、日本だけでなくアジアの各地から観光客が訪れています。こうした沖縄・南西諸島の自然・人口・産業等について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	4 時間
第 3 回	オンデマンド	九州地方 九州地方は温暖な気候を生かした農業が盛んな地域です。九州北部は東アジアとの近接性から古くから大陸との交流が盛んでした。明治時代以降は、石炭採掘に伴う工業地帯として栄え、日本の近代化に貢献しました。現在では福岡市を中心とした都市圏を形成しています。一方、南部では火山灰の土地で稲作に適していないため、畑作や畜産業が非常に盛んです。こうした地域差について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	4 時間
第 4 回	オンデマンド	中国地方・四国地方 中国地方と四国地方はよく「中国・四国地方」と一括りにされて呼ばれます。中国地方と四国地方の間には瀬戸内海が存在します。瀬戸内海はこれらの地域を「区別」する存在である一方、水運を通して両地域は密接に関係してきました。学修では、中国地方と四国地方の地誌的な特徴を概観し、その上で、両地域のつながりについて考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んで復習すること。	4 時間
第 5 回	オンデマンド	近畿地方 近畿地方は古代から都が置かれ、政治や文化の中心地でした。学修では、古代の人がどのように近畿を捉え、どういった地域に当たるのかを解説します。その上で、それぞれの地域の地誌的な特徴を概観し、近畿地方の地域差について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のレジュメを読んで復習すること。	4 時間
第 6 回	オンデマンド	鶴橋・コリアタウン 2000 年代以降、断続的に韓流ブームがあり、多くの観光客が鶴橋・コリアタウンに観光に訪れています。近年では、修学旅	予習：不要 復習：該当する箇所のレジュメを読んで復習すること。	4 時間

		行や校外学習のコースにも組み込まれており、まちそのものが異文化理解の学習の場にもなっています。こうした鶴橋・コリアタウンの歴史の変遷や地域性について考察します。		
第7回	オンデマンド	ニュータウン：吹田市 吹田市はもともとは緑豊かな農村地帯でした。しかし、大阪市内へのアクセスの良さから阪急電車の敷設と宅地開発によって、郊外の住宅地として位置付けられました。第二次世界大戦後は、急増する人口の受け皿として千里ニュータウンが開発されました。学修では、ニュータウンの定義・開発過程・課題について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第8回	オンデマンド	八尾市 本学が位置する八尾市の自然・歴史・文化・産業について学修します。八尾市は江戸時代に行われた一大事業である「大和川付け替え工事」がターニングポイントになります。学修をより深めるために八尾駅前キャンパス周辺の開発についても学修します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第9回	オンデマンド	和歌山県・太地町 和歌山県・太地町は捕鯨のまちとして有名です。その歴史は古く、江戸時代から捕鯨を生業としており、戦後の食糧難の時代には、多くの日本人が鯨肉を食べてきました。しかし、世界的な捕鯨規制と文化的価値観の衝突から現在では、鯨肉は一般的ではなくなりました。学修では、捕鯨の歴史、捕鯨に関わる人々、食文化について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第10回	オンデマンド	中部地方 中部地方は太平洋側、山岳部、日本海側に分けられ、それぞれの様相は大きく異なります。太平洋側は名古屋を中心とした都市圏であり、日本最大の工業地帯です。山岳部は急峻な日本アルプスがあり、日本海側と合わせて世界有数の豪雪地帯です。学修ではそれぞれの地域の特徴について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第11回	オンデマンド	東京 東京は世界有数の経済都市です。経済や文化の中心地であり、ヒト・モノ・カネが一極集中しています。学修では、東京の都市化を概観し、一極集中をテーマに産業の集積や大学の立地について学修します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第12回	オンデマンド	関東地方 関東地方は首都圏という経済的な性格とそれ以遠の近郊農業の集積地という二面性を持っています。交通網が非常に発達した首都圏ではビジネス街、通勤・通学圏として人口が集中する一方で、以遠の地域ではコールドチェーンを生かした近郊農業が盛んです。こうした二面性を中心に多角的に学修します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第13回	オンデマンド	東北地方 東北地方は南北に長く、日本海側と太平洋	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間

		側を含むことから多様な自然環境とそれを生かした文化が見られます。米と果樹をはじめとした農村、豊かな漁場を背景とした漁村の風景が広がる一方で、先端技術産業や自動車組立工場などの工業も多く立地しています。学修では、東北地方の多彩な気候と地形から東北地方の文化、産業について考察します。		
第14回	オンデマンド	北海道地方 北海道の面積は日本全体の約 22%を占めることから、人口密度は日本で一番低い自治体です。北海道を代表する産業は農業や畜産業ですが、これらは明治時代以降の入植者らによって開拓されてきました。アイヌ文化、北海道の歴史を概観しつつ、気候や地形を生かした産業について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第15回	オンデマンド	学習のまとめ・レポートについての解説 各地方ごとの学習を振り返り、各地方や地域の独自性から地誌的な見方・考え方について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間

科目名	社会学概説	開講年度	2026 年度春学期
担当者	稲葉 渉太	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	社会学における基本的な考え方、理論、手法などについて学び、現代社会における諸課題について考える。		
授業の目的及び概要	・本講義は、社会学における入門講義として位置づけられるが、現代社会における様々なトピックや事象を取り上げ、社会学に関連する基本的な知識や研究スキルを幅広く学ぶことを目的とする。 ・どのように私たちの生活が社会とかかわっているのかを理解し、「人びとが人生で経験するできごと」（筒井・前田 2017: 9）や関連する時事問題についてグループディスカッションやグループワークで検討する。 ・また授業の後半では、授業の前半の内容を踏まえて、私たちの生活が社会とかかわっているのか具体的な事例を用いたプレゼンテーションを行なってもらう。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	ここでは、以下の 3 点を主な到達目標とする。 ①社会学の基本的なものの見方、考え方、社会学の基礎理論を学ぶ。 ②授業で身に付けた社会学的な見方から、日常生活における様々な社会現象を読み解き、考えることができる。 ③自身の身の回りのものごとについて、社会学的な視座から読み解き、自らの考えや意見を表現(発表・記述)することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・講義時に振り返りシート(感想シート)への記入をしてもらい、それに対してコメントを付して返却を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし	ISBN	なし
参考書	①社会学入門, 筒井淳也・前田泰樹, 有斐閣, 2017 年 ②社会学の力, 友枝敏雄・浜日出夫・山田真茂留, 有斐閣, 2017 年	ISBN	①9784641150461 ②9784641174306
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	10	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	30	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	◇社会学概説の授業ガイダンス ・本講義の進め方や受講するにあたっての留意点(授業の内容や評価方法など)についての確認を行う。	事前学習：シラバスの内容に目を通し、確認しておく。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、必要があれば参考書を読み、復習しておくこと。	4時間
第2回	対面	◇社会的なものとしての自己（1） ※私たちが日常的に他人から期待される役割について社会学的に考える	事前学習：シラバスの内容に目を通し、確認しておく。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、必要があれば参考書を読み、復習しておくこと。	4時間
第3回	対面	◇社会的なものとしての自己（2） ※私たちの性格やキャラについて社会学的な観点から考える	事前学習：シラバスの内容に目を通し、確認しておく。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、必要があれば参考書を読み、復習しておくこと。	4時間
第4回	対面	◇社会的なものとしての自己（3） ※かけがえのないわたし・社会に還元できないわたしはどこにあるのか社会学的な観点から考える。	事前学習：シラバスの内容に目を通し、確認しておく。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、必要があれば参考書を読み、復習しておくこと。	4時間
第5回	対面	◇自分のふるまいと社会（1） ※日常における演技や普段のなにげないふるまいについて社会学的に考える。	事前学習：シラバスの内容に目を通し、確認しておく。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、必要があれば参考書を読み、復習しておくこと。	4時間
第6回	対面	◇自分のふるまいと社会（2） ※感情を表現することについて社会学的な観点から考える。	事前学習：シラバスの内容に目を通し、確認しておく。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、必要があれば参考書を読み、復習しておくこと。	4時間
第7回	対面	◇自分のふるまいと社会（3） ※個人の心の内側にあるとされる動機について社会学的な観点から考える。	事前学習：シラバスの内容に目を通し、確認しておく。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、必要があれば参考書を読み、復習しておくこと。	4時間
第8回	対面	◇中間総括 ※これまでの授業内容を一度総括し、授業後半で行ってもらうプレゼンテーションに向けた準備をすすめる。	事前学習：シラバスの内容に目を通し、確認しておく。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、必要があれば参考書を読み、復習しておくこと。	4時間
第9回	対面	◇準拠集団と自己アイデンティティ ※どのようなときに自分がどういった役割やキャラを用いているのか、準拠集団との関係で整理を行う。	事前学習：シラバスの内容に目を通し、確認しておく。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、必要があれば参考書を読み、復習しておくこと。	4時間
第10回	対面	◇プレゼンテーション① ・これまで学んできた内容などを踏まえて個人発表を行う。 ・他の人の発表を聞いて、自分なりの考えや意見を具体的に述べる。	事前学習：シラバスの内容に目を通し、確認しておく。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、必要があれば参考書を読み、復習しておくこと。	4時間
第11回	対面	◇プレゼンテーション② ・これまで学んできた内容などを踏まえて個人発表を行う。 ・他の人の発表を聞いて、自分なりの考えや意見を具体的に述べる。	事前学習：シラバスの内容に目を通し、確認しておく。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、必要があれば参考書を読み、復習しておくこと。	4時間
第12回	対面	◇教育と社会 ※教育について社会学的な観点から考える	事前学習：シラバスの内容に目を通し、確認しておく。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、必要があれば参考書を読み、復習しておくこと。	4時間
第13回	対面	◇性別と社会 ※性別について、まずジェンダーとセクシャリティーについて整理したうえで、社会学的に考える。	事前学習：シラバスの内容に目を通し、確認しておく。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、必要があれば参考書を読み、復習しておくこと。	4時間
第14回	対面	◇逸脱と社会	事前学習：シラバスの内容に目を通し、確認しておく。	4時間

		※私たちの社会において逸脱とされるような現象（犯罪など）について社会的な観点から考える。	く。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、必要があれば参考書を読み、復習しておくこと。	
第15回	オンデマンド	◇社会学の総括 ・これまで本講義で取り上げてきた内容を総括し、知識の定着を図る。 ・期末課題に向けた最終整理ならびに、期末課題を提出する上での注意点について述べる。	事前学習：第1回～第14回までの講義内容について基本事項を確認してくること。 事後学習：本講義全体で学んだ社会学の基本理論・専門用語などについて補足事項を調べ、ノートやデータに整理しておくこと。	4時間

科目名	哲学概説 I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	山口 尚	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	哲学の歴史と課題—古代・近代・現代		
授業の目的及び概要	西洋哲学史上の代表的な哲学者について基本的知識を身に付け、彼らの問題を内側から理解すること。また、古代哲学と近代哲学の特徴を全体として感じ取り、そのうえで現代を生きるわれわれにとっての哲学的課題を自ら問い尋ねてゆくこと。それがこの授業の目的です。 授業はプラトン、アリストテレス、デカルト、カント等の原典翻訳に即して進められますが、受講生には、なじみのない固有名詞や難解な概念・論証を単に情報としてインプットすることにとどまらず、哲学者たちの思考を追体験することで自分自身の思考のなかに血肉化することが期待されます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1）西洋哲学史上の代表的な哲学者について、固有名詞とその鍵概念を知り、その内容について説明できる 2）古代哲学と近代哲学について、それぞれの特徴と相互の差異を俯瞰的に把握し、それを論述できる 3）以上1）2）を踏まえつつ、現代の哲学的課題を自分なりに把握し、アプローチの仕方を提案できる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・提出物をコメントつきで返却する		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①『シグマベスト 理解しやすい倫理』，藤田正勝著，文栄堂，2023 年	ISBN	①978-4578244271
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	哲学とは何か	【予習】 シラバスを読んでくること。	4 時間

			【復習】 再度シラバスを読み、自身に履修に適した科目か確認すること。	
第2回	対面	ギリシア哲学	【予習】 教科書 pp. 40-44 を読んで、その内容に即した問い・疑問を3つ以上、用意してくる。 【復習】 返却した第1回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第3回	対面	プラトンとイデア論	【予習】 教科書 pp. 44-51 を読み、プラトンに関する内容をまとめたうえで、そのイデア論に対する賛否を自分なりに述べる。 【復習】 返却した第2回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第4回	対面	アリストテレスと哲学の体系	【予習】 教科書 pp. 51-56 を読んで、その内容を踏まえつつ、古代ギリシア人の自然観・宇宙像について自分なりに調べてくる。 【復習】 返却した第3回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第5回	対面	アウグスティヌスとキリスト教	【予習】 教科書 pp. 57-70 を読んでキリスト教(思想)について大づかみに理解した上で、キリスト教徒が十字を切って祈ることの意味についてできるだけ詳しく調べてくる。 【復習】 返却した第4回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第6回	対面	コペルニクスと科学革命	【予習】 教科書 pp. 198-201 を参考に、「科学革命」について調べてくる。 【復習】 返却した第5回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第7回	対面	デカルト『方法序説』およびベーコン『ノヴム・オルガヌム』と学問の方法	【予習】 教科書 pp. 201-207 を読み、デカルトの演繹法とベーコンの帰納法についてまとめてくる。 【復習】 返却した第6回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第8回	対面	スピノザ『エチカ』およびライプニッツ『人間知性新論』と大陸合理論	【予習】 教科書 p. 206「物心二元論」および、pp. 209-210「合理論」について読み、「物心二元論」にどのような難問があるか考えてくる。 【復習】 返却した第7回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第9回	対面	ロック『人間知性論』およびヒューム『人間本性論』と英国経験論	【予習】 教科書 pp. 208-209 を参考に、ジョン・ロックについて調べてくる。 【復習】 返却した第8回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第10回	対面	カント『純粋理性批判』と形而上学	【予習】	4 時間

			教科書 pp. 220-225 を参考に、カントの「第一アンチノミー」について調べてくること。 【復習】 返却した第9回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	
第11回	対面	コント『実証哲学講義』とフランス革命	【予習】 教科書 pp. 248-249 を参考に、コントのフルネームと生涯について調べてくること。 【復習】 返却した第10回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第12回	対面	ウィリアム・ジェームズ『プラグマティズム』から考える	【予習】 アメリカ人とはどのような人々か？ その国民性について自分なりに調べてくること。 【復習】 返却した第11回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第13回	対面	ウィトゲンシュタイン『論理哲学論考』から考える	【予習】 「世界」とは何か？ 自分なりに定義してみること。 【復習】 返却した第12回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第14回	対面	サルトル『実存主義とは何か』から考える	【予習】 「ペーパーナイフ」について調べてくること。 【復習】 返却した第13回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第15回	オンデマンド	哲学の歴史と課題――復習の講義動画を公開する（同時にレポート試験の課題を説明する）。	【復習】 これまでのワークシートと教科書の対応範囲について抜かりなく復習してくる。	4 時間

科目名	哲学概説Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	山口 尚	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	哲学の現代—社会理論・実存主義・分析哲学・構造主義・ヒューマニズム		
授業の目的及び概要	現代の哲学へ入門するため、この授業では社会理論・実存主義・分析哲学・構造主義・ヒューマニズムの思想を学びます。具体的には、マルクス、キェルケゴールやニーチェやハイデガー、ウィトゲンシュタイン、フーコー、シュヴァイツァーなどの思想を学びます。それぞれの哲学者がどのような問題関心のもと・何を・どのように論じているのか、じっくり腰を据えて考えてゆきましょう。。これによって自分たちの社会を作りあげている考え方を知ることができ、そこからこれからの社会を新たな世代が作り上げていくさいの足がかりを得ることができるでしょう。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1）それぞれの思想について、その哲学的文脈を理解し、他者に説明できる 2）それぞれの哲学者の問題意識と創意とを、テキストに内在的に理解し、他者に説明できる 3）以上1）2）を踏まえて、自身の解釈を提示できる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・提出物はコメントを付して返却します。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①『シグマベスト 理解しやすい倫理』，藤田正勝著，文栄堂，2023 年	ISBN	①978-4578244271
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	西洋哲学史概観	【予習】 シラバスを読んでくること。 【復習】 再度シラバスを読み、自身の履修に適した科目を確認すること。	4 時間

第2回	対面	功利主義	【予習】 教科書 pp. 238-242 を読んで功利主義の思想をまとめてくること。 【復習】 返却した第1回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第3回	対面	マルクス	【予習】 教科書 pp. 242-248 を読んで、社会主義の思想について簡潔にまとめてくること。 【復習】 返却した第2回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第4回	対面	キェルケゴール	【予習】 教科書 pp. 255-257 を読んで、キェルケゴールの思想をまとめてくること。 【復習】 返却した第3回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第5回	対面	ニーチェ	【予習】 教科書 pp. 257-259 を読んで、ニーチェの思想をまとめてくること 【復習】 返却した第4回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第6回	対面	ハイデガー	【予習】 教科書 pp. 260-262 を読んでハイデガーの思想をまとめてくること 【復習】 返却した第5回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第7回	対面	ヤスパースとサルトル	【予習】 教科書 pp. 259-264 を読んでヤスパースとサルトルの思想をまとめてくること。 【復習】 返却した第6回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第8回	対面	フロイトとユング	【予習】 教科書 pp. 264-267 を読んでフロイトとユングの考えをまとめてくること。 【復習】 返却した第7回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第9回	対面	フランクフルト学派	【予習】 教科書 pp. 270-271 を読んでフランクフルト学派の思想をまとめてくること。 【復習】 返却した第8回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第10回	対面	アーレント	【予習】 教科書 p. 282 を読んでアーレントの思想をまとめてくること。 【復習】 返却した第9回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第11回	対面	構造主義	【予習】 教科書 pp. 272-274 を読んで構造主義の思想をまとめてくること。	4 時間

			【復習】 返却した第10回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	
第12回	対面	ウィトゲンシュタイン	【予習】 教科書 pp. 269-270 を読んでウィトゲンシュタインの思想をまとめること。 【復習】 返却した第11回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第13回	対面	クーン	【予習】 教科書 p. 287 を読みクーンの思想をまとめること。 【復習】 返却した第12回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第14回	対面	ポスト構造主義	【予習】 教科書を読みポスト構造主義の思想をまとめること。 【復習 p. 274】 返却した第13回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第15回	オンデマンド	現代のヒューマニズムー復習の講義動画を公開する(同時にレポート試験の課題を説明する)。	【予習】 教科書 pp. 275-280 を読み現代のヒューマニズムの思想をまとめること。	4 時間

科目名	倫理学概説Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	山口 尚	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	倫理思想の体得—中国思想と仏教から日本思想へ		
授業の目的及び概要	近代以前の日本の倫理思想はおもに中国思想と仏教を背景として展開してきました。本講義では、このふたつの伝統思想についての踏み込んだ理解のために、それぞれの思潮の思想家がどのような考えを提示したのかを確認します。そのうえで日本思想を学びます。これによって自分たちの社会を作りあげている考え方を知ることができ、そこからこれからの社会を新たな世代が作り上げていくさいの足がかりを得ることができるでしょう。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1）中国思想および仏教の基本事項について理解し、他者に説明できる 2）古代から近世までの日本思想史の流れを理解し、他者に説明できる 3）古典が読まれてきた仕方を理解し、自らもその読解に参入できる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・提出物は原則として次の回の授業冒頭に返却します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①シグマベスト 理解しやすい倫理, 藤田正勝著, 文栄堂, 2023 年	ISBN	978-4578244271
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	1 「倫理」と「倫理学」の異同について 2 高校「倫理」と日本思想史について	【予習】 シラバスを読んでくること。 【復習】 再度シラバスを読み、自身の履修に適した科目が確認すること。	4 時間
第2回	対面	1 『論語』とはどのような書物か 2 『論語』はどのように読まれてきたか	【予習】 教科書を読み、自分なりに調べ、次の3点について考	4 時間

			えてくること。 ①『論語』とはどのような書物か？ ②孔子とはどのような人物か？ ③『論語』を読むとはどういうことか？ 【復習】 返却した第1回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	
第3回	対面	仏教の起源	【予習】 教科書を読み pp. 76-86 を読み、仏教の思想についてまとめてくること。 【復習】 返却した第2回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第4回	対面	仏教の広がり	【予習】 教科書を読み pp. 76-86 を読み、仏教の思想についてまとめてくること。 【復習】 返却した第3回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第5回	対面	朱子学と陽明学	【予習】 教科書 pp. 140-144 を読んで朱子学と陽明学についてまとめてくること。 【復習】 返却した第4回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第6回	対面	神道	【予習】 教科書 pp. 112-117 を読んで神道についてまとめてくること 【復習】 返却した第5回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第7回	対面	聖徳太子	【予習】 教科書 pp. 118-119 を読んで聖徳太子の思想についてまとめてくること 【復習】 返却した第6回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第8回	対面	最澄と空海	【予習】 教科書 pp. 120-122 を読んで最澄と空海の思想についてまとめてくること 【復習】 返却した第7回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第9回	対面	鎌倉新仏教（1）——法然・親鸞・一遍	【予習】 教科書 pp. 124-130 を読んで法然・親鸞・一遍の思想をまとめてくること。 【復習】 返却した第8回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第10回	対面	鎌倉新仏教（2）——栄西・道元・日蓮	【予習】 教科書 pp. 130-134 を読んで栄西・道元・日蓮の思想をまとめてくること。 【復習】 返却した第9回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第11回	対面	林羅山・山崎闇斎・中江藤樹	【予習】 教科書 pp. 140-142 を読んで林羅山・山崎闇斎・中江	4 時間

			藤樹の思想をまとめてくること 【復習】 返却した第10回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	
第12回	対面	伊藤仁斎・山鹿素行・荻生徂徠	【予習】 教科書 pp. 143-145 を読んで伊藤仁斎・山鹿素行・荻生徂徠について調べてくること。 【復習】 返却した第11回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第13回	対面	明六社と福沢諭吉	【予習】 教科書 pp. 154-156 を読んで明六社と福沢諭吉についてまとめてくること 【復習】 返却した第12回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第14回	対面	西田幾多郎	【予習】 教科書 pp. 163-164 を読んで西田幾多郎についてまとめてくること。 【復習】 返却した第13回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第15回	オンデマンド	日本倫理思想史の振り返りー復習の講義動画を公開する(同時にレポート試験の課題を説明する)。	【復習】 ノート等に即してこれまでの授業内容について細密に確認してくる。	4 時間

科目名	倫理学概説Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	山口 尚	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	倫理学の歴史と課題―青年期の心理と現代の課題		
授業の目的及び概要	倫理学の主要な立場について基本的知識を身に付け、それぞれの立脚点や相互の対立点を理解すること。また、そのうえで現代の応用倫理学の諸問題に触れ、われわれが直面している諸問題について倫理的観点から考察を深めること。それがこの授業の目的です。。これによって、これからの社会を新たな世代が作り上げていくさいの足がかりを得ることができるでしょう。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1）青年期の心理をめぐる諸問題を理解し、それを説明できる 2）現代の応用倫理学の諸問題について、事例を具体的に知り、1）の諸原理・諸原則と関連付けて捉えられる 3）とくに関心のある現代の問題について、倫理的観点から論点を整理し、自身の立場を説得的に提示できる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・提出物はコメントをつけて返却します。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①シグマベスト 理解しやすい倫理, 藤田正勝著, 文栄堂, 2023 年	ISBN	①978-4578244271
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	青年期の倫理と現代の課題	【予習】 シラバスを読んでくること。 【復習】 再度シラバスを読み、自身の履修に適した科目を確認すること。	4 時間

第2回	対面	人間とは何か	【予習】 教科書 pp. 11-15 を読んで、人間とは何かをめぐる思想をまとめてくること。 【復習】 返却した第1回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第3回	対面	欲求と防衛機制	【予習】 教科書第1章第2節を読んで欲求と防衛機制についてまとめてくること 【復習】 返却した第2回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第4回	対面	エリクソンとライフサイクル	【予習】 教科書第1章第2節を読んでエリクソンのライフサイクル理論についてまとめてくること。 【復習】 返却した第3回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第5回	対面	パーソナリティ	【予習】 教科書第1章第2節を読んでパーソナリティの心理学の要点をまとめてくること。 【復習】 返却した第4回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第6回	対面	青年期の課題	【予習】 教科書第1章第2節を読んで「青年期」とは何かについて自分なりの理解を形成しておくこと。 【復習】 返却した第5回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第7回	対面	生命の倫理（1）	【予習】 教科書 pp. 297-300 を読んで生命倫理の問題についてまとめてくること 【復習】 返却した第6回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第8回	対面	生命の倫理（2）	【予習】 教科書 pp. 300-304 を読んで生命倫理の問題についてまとめてくること 【復習】 返却した第7回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第9回	対面	環境の倫理（1）	【予習】 教科書 pp. 305-307 を読んで環境倫理の問題についてまとめてくること 【復習】 返却した第8回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第10回	対面	環境の倫理（2）	【予習】 教科書 pp. 307-310 を読んで環境倫理の問題についてまとめてくること 【復習】 返却した第9回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第11回	対面	家族をめぐる問題	【予習】 教科書 pp. 311-315 を読んで家族をめぐる問題について調べてくること。	4 時間

			【復習】 返却した第10回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	
第12回	対面	地域社会をめぐる問題	【予習】 教科書 pp. 316-317 を読んで地域社会をめぐる問題についてまとめてくること 【復習】 返却した第11回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第13回	対面	情報の倫理	【予習】 教科書 pp. 318-321 を読んで情報倫理の問題についてまとめてくること 【復習】 返却した第12回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第14回	対面	文化と宗教の問題	【予習】 教科書 pp. 322-324 を読んで情報倫理の問題についてまとめてくること 【復習】 返却した第13回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第15回	オンデマンド	平和をめぐる問題――復習の講義動画を公開する(同時にレポート試験の課題を説明する)。	【予習】 教科書 pp. 325-327 を読んで平和をめぐる問題についてまとめてくること	4 時間

科目名	宗教学概説	開講年度	2026 年度春学期
担当者	本多 真	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	この講義では、宗教の歴史的な流れを理解しつつ、グローバルな状況の中で宗教がどのように需要されているかについて学びます。		
授業の目的及び概要	宗教文化、宗教対話、宗教慣習に関心を持ちつつ、宗教をめぐる現象を客観的に理解／分析することのできる力を身に付けることを目指します。また宗教が社会とどう関わり、宗教のどのような側面が社会と反発するののかを知ることとおして、身のまわりにある宗教や宗教的な風習との付き合い方に関心を向けることができるようになります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	宗教がどのような歴史を経て、今日どのような形で現存し、社会とどのように共存しているのか、その概要について理解することができるようになります。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	フロアから寄せられた質問にその場で答えます。また講評についても授業時に対応します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	毎回、資料を準備します。	ISBN	特になし。
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション：宗教について考える	・講義概要の説明。 ・あなたがイメージする宗教とはいったい何を指していますか。調べておいてください。 ・世界に宗教を信じる人はどのくらいいるのか、調べておいてください。	4 時間
第2回	対面	宗教のタイプ：一神教、多神教、無神論／民族宗教、世界宗教	・前回講義の内容を復習してきてください。 ・どの宗教が「一神教」「多神教」「無神論」か、またそれらの宗教が「民族宗教」「世界宗教」のいずれに該当するか、調べておきましょう。	4 時間

第3回	対面	ユダヤ教について	・前回講義の内容を復習してきてください。 ・ユダヤ教について学びますので、事前学習をしてきてください。	4 時間
第4回	対面	キリスト教について	・前回講義の内容を復習してきてください。 ・キリスト教について学びますので、事前学習をしてきてください。	4 時間
第5回	対面	イスラム教について	・前回講義の内容を復習してきてください。 ・イスラム教について学びますので、事前学習をしてきてください。	4 時間
第6回	対面	ヒンドゥー教について	・前回講義の内容を復習してきてください。 ・ヒンドゥー教について学びますので、事前学習をしてきてください。	4 時間
第7回	対面	仏教について	・前回講義の内容を復習してきてください。 ・仏教について学びますので、事前学習をしてきてください。	4 時間
第8回	対面	神道について	・前回講義の内容を復習してきてください。 ・神道について学びますので、事前学習をしてきてください。	4 時間
第9回	対面	日本人と宗教	・前回講義の内容を復習してきてください。 ・日本人の多くは「無宗教」でありながら、日本には無数の宗教施設があります。この謎に迫ります。 ・無数に存在する神社、寺院はどのように維持されているのか、インターネットなどで調べておきましょう。	4 時間
第10回	対面	発表：自由論題①	・宗教について調べた内容を発表していただきます。	4 時間
第11回	対面	発表：自由論題②	・宗教について調べた内容を発表していただきます。	4 時間
第12回	対面	発表：自由論題③	・宗教について調べた内容を発表していただきます。	4 時間
第13回	対面	宗教と社会課題①	・宗教は命をどう捉えるか、生命操作の現場に迫ります。 ・人工妊娠中絶、胃ろうなどの医療行為にどの宗教が反対意見なのか、調べておきましょう。	4 時間
第14回	対面	宗教と社会課題②	・宗教と政治について考えます。 ・イスラエルとはどのような国か、調べておきましょう。	4 時間
第15回	オンデマンド	講義総括	・前回講義の内容を復習してきてください。	4 時間

科目名	心理学概説	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	竹井 夏生	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	子どもたちの育ちと学びに携わりたいと考える学生向けの教職科目としての心理学		
授業の目的及び概要	いじめ、不登校、偏差値教育、学校不信、家族のきずなの弱まり、社会不安の高まり—子どもたちを含め、私たちが育ち、学び、そして生きる環境は、内的にも外的にも、大きく揺らいでいるように思います。この科目では、主に教職に関心を持つ学生に向けて、心理学の観点から、私たちがよりよく育ち、学び、生きるための手掛かりを共に考えていくことを目的としています。		
履修条件・留意点	教職に関心を持つ学生に広く開かれています。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・発達（育ち）の観点から、自己および他者理解を深め、教職に携わる上でのヒントを見出すことができる。 ・学習（学び）の観点から、人間を豊かにするための学びのあり方を考え、教職においてそれを実践するためのヒントを見出すことができる。 ・関係性（関わり）の観点から、他者の悩みや集団における困難を受け止め、洞察し、手立てを共に考えることのできる教師としての姿勢を育むことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	個別の質問については授業の前後、またはメールにて受け付ける。各回のコメントシートについては、授業内でできる限り取り上げながら受講生と問題意識を共有できるようにする。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しない（こちらでレジメを準備する）。	ISBN	なし
参考書	・以下を代表的な文献として講義の準備をしてくるので、関心のある受講生は直接手に取ってみるとよい。 ① エリクソンの人間学，西平直（著），東京大学出版会，1993 年 ② いじめのある世界に生きる君たちへ，中井久夫（著），中央公論新社，2016 年	ISBN	① 9784130161015 ② 9784120049217
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	10	
	成果発表（口頭・実技）	40	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	職業選択に自らの未解決の問題が反映されるとするならば、教職に関心を持つ学生は、育つこと、学ぶこと、そしてそれらを通して生きること「くすぶり」を持っているのかもしれない。それはむしろ教職において大切な資産になるはず。自らの内面に目を向けながら、それを通して子どもたちの育ちや学び、そして生きることに関わることでできるあり方を		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	教職科目としての心理学への導入 育ちや学びを支える教師に必要となる心理学について、全体像を示し導入を図る。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみる。	4 時間
第2回	対面	心の育ちと発達（1） E.H. エリクソンの発達心理学について、特に学齢期の発達を中心に学ぶ。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみる。	4 時間
第3回	対面	心の育ちと発達（2） 前回の内容を引き続き深めていく。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみる。	4 時間
第4回	対面	心の育ちと発達（3） 前回の内容を引き続き深めていく。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみる。	4 時間
第5回	対面	心の育ちと病（1） 学齢期に見られる精神疾患や障害特性について、心の育ちや関係性といった観点から考える。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみる。	4 時間
第6回	対面	心の育ちと病（2） 前回の内容を引き続き深めていく。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみる。	4 時間
第7回	対面	学ぶ理由と動機付け（1） 学習について、学びの意欲、主体性、内容、環境、受験勉強といった観点から考え、よりよい学びを支えるあり方について考える。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみる。	4 時間
第8回	対面	学ぶ理由と動機付け（2） 前回の内容を引き続き深めていく。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみる。	4 時間
第9回	対面	いじめの心理学（1） 「いじめ」についての深い洞察と、子どもを守る倫理観を持てるように、学校場面でのいじめについて考える。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみる。	4 時間

			触れてみること。	
第10回	対面	いじめの心理学 (2) 前回の内容を引き続き深めていく。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみること。	4 時間
第11回	対面	子どもの心と物語 子どもの育ちを「物語 (narrative)」という観点から学ぶ。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみること。	4 時間
第12回	対面	カウンセリングへの導入 カウンセリング心理学を学ぶための導入として、提示する臨床素材をもとにして、自分自身のこれまでの育ち、学び、関わりについて振り返る取り組みを行う。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみること。	4 時間
第13回	対面	カウンセリング心理学 (1) 教師に必要となるカウンセリングについて、その理論と実践を学ぶ。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみること。	4 時間
第14回	対面	カウンセリング心理学 (2) 前回の内容を引き続き深めていく。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみること。	4 時間
第15回	オンデマンド	まとめと展望 これまで学んだ内容を振り返り、その定着を図る。	学期を通して学んだことを総括すべく、これまで配布したレジュメ全体を振り返っておくこと。	4 時間

科目名	キャリア開発A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	赤城 永里子	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	将来を見据えた学生生活の設計		
授業の目的及び概要	キャリア開発Aは、キャリア開発Bとともに、卒業後の生涯にわたる「生き方・学び方・働き方（＝キャリア）」を考えながら、社会人に求められる就業力を培う科目である。就業力とは、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的・職業的自立を図るために必要な能力となる。この授業では、日本の経済・社会情勢の変化やグローバル化の進展を踏まえ、卒業後の進路選択で重要となる社会観と職業観を養成するため、「社会理解、産業・企業理解、職業理解」をテーマとして、課題に取り組むことで就業力を培う。これらの理解を通じて、将来のキャリア形成に向けた自己の目標を設定し、学生時代に取り組むべき諸課題を認識する。さらに、専門教育科目での学びを踏まえつつ、経済学部生として身につけるべきキャリアスキルを涵養する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	キャリア開発A（留学生クラス）の目標は以下のとおりである。 1. 自己理解を通じて日本に留学した志望理由を改めて認識し、希望進路の実現を目指して必要な知識を身に付ける。 2. 希望進路の実現に必要な日本語力を理解し、その向上に向けた具体的学修計画を立てることができる。 3. 日本の雇用環境を理解した上で、就活のスケジュールや手順に沿って行動することができる。 4. 企業が求める人材像を理解し、自己分析に基づいた最適な進路選択を行なうことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）を課し、適宜授業にてフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	改訂版 留学生のための就職内定ワークブック	ISBN	978-4820729907
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	40	
	その他の内容	期末課題	
この科目の受講にあたって	授業を通じて、卒業後の進路に関する視野を広げ、将来のキャリアデザインについて積極的に取り組む姿勢・価値観を培うことを期待する。 キャリア形成科目は、大学卒業後、社会で生きていくために必要な素養を身につける授業である。 社会では当たり前のルールとマナーを守り、積極的な授業参加が必要となる。		

	①時間厳守、②授業中の飲食禁止、③シチュエーションに適した服装、④私語や必要ない携帯端末操作の禁止、⑤机の上にカバンやコートを置かない、⑥許可なく離席しないことは最低限のルールとマナーである。 特に、授業中の私語は他の受講生の迷惑になるので、注意してもやめられない場合は退室してもらう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【自己理解】ガイダンス 異文化社会で学ぶこと① ・キャリアとは何か、本科目で何を学ぶかについてガイダンスを行う。 ・日本に留学してきた目的を改めて明確にする	【復習】授業内で使用した配布資料などを読み直し、改めてこれまでの学生生活と留学の目的を振り返りましょう。	4 時間
第2回	対面	【自己理解】異文化社会で学ぶこと② ・異なる言語、文化、社会の土地にいます。人と出会ってどのように感じましたか。 ・異文化を学ぶ意味は何だと思えますか。	【予習】日本に留学してやってみたいこと、いままで思っていた日本像と違いはなにがあるか考え、書き出してくる。 【復習】挨拶や生活様式など自国文化との違いを考え、その理由も考える。	4 時間
第3回	対面	【自己理解】日本での大学生活を考えよう① ・私の日本語学修の意味 ・大学に必要な日本語力 ・日本語の力を向上させるための良い方法とはなにかについて考える ・勉強の困難を乗り越える方法 ・大学で勉強する際に困ったことがあったらどうすればいいかを考えよう ・先生に相談してみる（敬語を使って、アポを取る）	【予習】大学での授業を受けて、日本語の力についてどのような課題あると思えますか。大学の授業で困っていることは何かを具体的にあげ、その原因を考えてくる。 【復習】日本語の力を向上させるための良い方法とはなにかについて考え、7月のJLPTで合格についてすべきことを考えて、まとめる。困っている課題について、ではどのようにすれば解決できるのか、だれに相談すればよいのかを考える。自分の言葉でどのように伝えればよいのか考え記述してみる。	4 時間
第4回	対面	【自己理解】日本での大学生活を考えよう② ・日本の大学で学ぶということと将来の自分の姿を考える ・サークル・部活、インターンシップ、留学の魅力を知り、今後の大学生活を考える。 ・資格の魅力・大学で取れる資格について知り、学修計画を立てる	【予習】大学の授業と授業以外の学修には何があるのか、日本でとれる資格には何があるのかを考える。 【復習】日本への留学の目的を実現するために必要になる資格を挙げて、その取得計画を立てる。	4 時間
第5回	対面	【自己理解】日本での大学生活を考えよう③ 論理的に考える力・書く力等のポイントを理解する。就活で役立つ『伝わる日本語表現』について学び、表現する力を養う。	【予習】学就 BOOK「スタディスキル」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「スタディスキル」を読み直し、文章作成のポイントについて復習する。	4 時間
第6回	対面	【自己理解】日本での大学生活を考えよう④ 就活で役立つ『伝わる日本語表現』について学び、表現する力を養う。	【予習】学就 BOOK「スタディスキル」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「スタディスキル」を読み直し、文章作成のポイントについて復習する。	6 時間
第7回	対面	【自己理解】日本での大学生活を考えよう⑤ 論理的に考える力・書く力等のポイントを理解する。就活で役立つ『伝わる日本語表現』について学び、表現する力を養う。自己理解に基づいた自己PRを作成する。	【予習】学就 BOOK「スタディスキル」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「スタディスキル」を読み直し、文章作成のポイントについて復習する。	4 時間
第8回	対面	中間課題	【予習】中間課題に向けて、これまでの授業の内容を復習し、課題の準備をする。	4 時間

第9回	対面	【自己理解】将来の「キャリア」を考えよう ・卒業したあとのことを考えよう。進路は就職？進学？ ・どのようなスキル・能力が必要なのかを考えよう ・将来、どんな働き方をしたいですか？	【予習】「キャリア」という言葉の意味をまず調べる。留学した目的をもう一度ふりかえり、大学を卒業してなりたい「自分」を考える。 【復習】将来なりたい自分、活躍している自分にひつようなスキルはなにかを考える。	4 時間
第10回	対面	【職業理解】就職活動について知る① ・日本の雇用環境について知る ・新規卒労働市場と就職活動の流れを理解する。	【予習】Chapter1-1 を事前に読んでくる。自国での大学での学修と卒業そして就職活動の時期、雇用環境を調べる。 【復習】Chapter1-1、パワーポイント資料を読み直す。新規卒労働市場と日本の就職活動制度とその流れを理解する。	4 時間
第11回	対面	【職業理解】就職活動について知る② 留学生の日本企業への就職事情	【予習】Chapter1-2 を事前に読んでおく。 【復習】Chapter1-2、パワーポイント資料を読み直し、新規卒労働市場と就職活動の流れについて復習する。	4 時間
第12回	対面	【職業理解】就職活動について知る③ 日本企業が求める留学生像 日本で就職するためには、何が必要かを知ろう。	【予習】Chapter1-3 を事前に読んでおく。正規雇用・非正規雇用の違いについて自身で調べ、理解を深める。 Chapter1-4 を事前に読んでおく。自分が将来なりたい人材とそれを実現するために必要なスキルを考える。 【復習】Chapter1-3、パワーポイント資料を読み直し、正規雇用・非正規雇用について復習する。	4 時間
第13回	対面	【職業理解】就職活動について知る④ 日本の採用文化について知る 就職活動のスケジュールと準備	【予習】Chapter1-4 を事前に読んでおく。採用文化、正規雇用・非正規雇用の違いについて自身で調べ、理解を深める。 【復習】Chapter1-4、パワーポイント資料を読み直し、正規雇用・非正規雇用について復習する。また、日本における就職活動の開始とスケジュールから必要な準備とスキル取得時期を考える。	4 時間
第14回	オンデマンド	【オンデマンド】【自己理解】進路実現に向けた大学生活を考えよう 先輩学生のインタビュー動画を通して、学生生活の過ごし方のポイントを理解する。 学生時代に「やって良かったこと・やれば良かったこと」を知り、今後の大学生活を考えた上で、直近の夏休みをどのように過ごすべきか、計画を立てる	【復習】パワーポイント資料を読み直し、大学生活の取り組みについて復習し、夏休みの計画を立てる	4 時間
第15回	対面	まとめ・期末課題	【予習】これまでの資料やメモを読み返し、留学の目的、自己理解と職業理解について理解を深める。 【復習】授業で計画した通りに夏休みを過ごす	4 時間

科目名	キャリア開発A		開講年度	2026 年度春学期
担当者	畑野 吉則		配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G1		授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	将来を見据えた学生生活の設計			
授業の目的及び概要	キャリア開発Aは、キャリア開発Bとともに、卒業後の生涯にわたる「生き方・学び方・働き方（＝キャリア）」を考えながら、社会人に求められる就業力を培う科目である。就業力とは、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的・職業的自立を図るために必要な能力となる。この授業では、日本の経済・社会情勢の変化やグローバル化の進展を踏まえ、卒業後の進路選択で重要となる社会観と職業観を養成するため、「社会理解、産業・企業理解、職業理解」をテーマとして、課題に取り組むことで就業力を培う。これらの理解を通じて、将来のキャリア形成に向けた自己の目標を設定し、学生時代に取り組むべき諸課題を認識する。さらに、専門教育科目での学びを踏まえつつ、経済学部生として身につけるべきキャリアスキルを涵養する。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	キャリア開発A（留学生クラス）の目標は以下のとおりである。 1. 自己理解を通じて日本に留学した志望理由を改めて認識し、希望進路の実現を目指して必要な知識を身に付ける。 2. 希望進路の実現に必要な日本語力を理解し、その向上に向けた具体的学修計画を立てることができる。 3. 日本の雇用環境を理解した上で、就活のスケジュールや手順に沿って行動することができる。 4. 企業が求める人材像を理解し、自己分析に基づいた最適な進路選択を行なうことができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）を課し、適宜授業にてフィードバックを行う。			
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	改訂版 留学生のための就職内定ワークブック		ISBN	978-4820729907
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		0	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		30	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		40	
	その他の内容		期末課題	
この科目の受講にあたって	授業を通じて、卒業後の進路に関する視野を広げ、将来のキャリアデザインについて積極的に取り組む姿勢・価値観を培うことを期待する。 キャリア形成科目は、大学卒業後、社会で生きていくために必要な素養を身につける授業である。 社会では当たり前のルールとマナーを守り、積極的な授業参加が必要となる。			

	①時間厳守、②授業中の飲食禁止、③シチュエーションに適した服装、④私語や必要ない携帯端末操作の禁止、⑤机の上にカバンやコートを置かない、⑥許可なく離席しないことは最低限のルールとマナーである。 特に、授業中の私語は他の受講生の迷惑になるので、注意してもやめられない場合は退室してもらう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【自己理解】ガイダンス 異文化社会で学ぶこと① ・キャリアとは何か、本科目で何を学ぶかについてガイダンスを行う。 ・日本に留学してきた目的を改めて明確にする	【復習】授業内で使用した配布資料などを読み直し、改めてこれまでの学生生活と留学の目的を振り返りましょう。	4 時間
第2回	対面	【自己理解】異文化社会で学ぶこと② ・異なる言語、文化、社会の土地にいます。人と出会ってどのように感じましたか。 ・異文化を学ぶ意味は何だと思えますか。	【予習】日本に留学してやってみたいこと、いままで思っていた日本像と違いはなにがあるか考え、書き出してくる。 【復習】挨拶や生活様式など自国文化との違いを考え、その理由も考える。	4 時間
第3回	対面	【自己理解】日本での大学生活を考えよう① ・私の日本語学修の意味 ・大学に必要な日本語力 ・日本語の力を向上させるための良い方法とはなにかについて考える ・勉強の困難を乗り越える方法 ・大学で勉強する際に困ったことがあったらどうすればいいかを考えよう ・先生に相談してみる（敬語を使って、アポを取る）	【予習】大学での授業を受けて、日本語の力についてどのような課題あると思えますか。大学の授業で困っていることは何かを具体的にあげ、その原因を考えてくる。 【復習】日本語の力を向上させるための良い方法とはなにかについて考え、7月のJLPTで合格についてすべきことを考えて、まとめる。困っている課題について、ではどのようにすれば解決できるのか、だれに相談すればよいのかを考える。自分の言葉でどのように伝えればよいのか考え記述してみる。	4 時間
第4回	対面	【自己理解】日本での大学生活を考えよう② ・日本の大学で学ぶということと将来の自分の姿を考える ・サークル・部活、インターンシップ、留学の魅力を知り、今後の大学生活を考える。 ・資格の魅力・大学で取れる資格について知り、学修計画を立てる	【予習】大学の授業と授業以外の学修には何があるのか、日本でとれる資格には何があるのかを考える。 【復習】日本への留学の目的を実現するために必要になる資格を挙げて、その取得計画を立てる。	4 時間
第5回	対面	【自己理解】日本での大学生活を考えよう③ 論理的に考える力・書く力等のポイントを理解する。就活で役立つ『伝わる日本語表現』について学び、表現する力を養う。	【予習】学就 BOOK「スタディスキル」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「スタディスキル」を読み直し、文章作成のポイントについて復習する。	4 時間
第6回	対面	【自己理解】日本での大学生活を考えよう④ 就活で役立つ『伝わる日本語表現』について学び、表現する力を養う。	【予習】学就 BOOK「スタディスキル」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「スタディスキル」を読み直し、文章作成のポイントについて復習する。	6 時間
第7回	対面	【自己理解】日本での大学生活を考えよう⑤ 論理的に考える力・書く力等のポイントを理解する。就活で役立つ『伝わる日本語表現』について学び、表現する力を養う。自己理解に基づいた自己PRを作成する。	【予習】学就 BOOK「スタディスキル」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「スタディスキル」を読み直し、文章作成のポイントについて復習する。	4 時間
第8回	対面	中間課題	【予習】中間課題に向けて、これまでの授業の内容を復習し、課題の準備をする。	4 時間

第9回	対面	【自己理解】将来の「キャリア」を考えよう ・卒業したあとのことを考えよう。進路は就職？進学？ ・どのようなスキル・能力が必要なのかを考えよう ・将来、どんな働き方をしたいですか？	【予習】「キャリア」という言葉の意味をまず調べる。留学した目的をもう一度ふりかえり、大学を卒業してなりたい「自分」を考える。 【復習】将来なりたい自分、活躍している自分にひつようなスキルはなにかを考える。	4 時間
第10回	対面	【職業理解】就職活動について知る① ・日本の雇用環境について知る ・新規卒労働市場と就職活動の流れを理解する。	【予習】Chapter1-1 を事前に読んでくる。自国での大学での学修と卒業そして就職活動の時期、雇用環境を調べる。 【復習】Chapter1-1、パワーポイント資料を読み直す。新規卒労働市場と日本の就職活動制度とその流れを理解する。	4 時間
第11回	対面	【職業理解】就職活動について知る② 留学生の日本企業への就職事情	【予習】Chapter1-2 を事前に読んでおく。 【復習】Chapter1-2、パワーポイント資料を読み直し、新規卒労働市場と就職活動の流れについて復習する。	4 時間
第12回	対面	【職業理解】就職活動について知る③ 日本企業が求める留学生像 日本で就職するためには、何が必要かを知ろう。	【予習】Chapter1-3 を事前に読んでおく。正規雇用・非正規雇用の違いについて自身で調べ、理解を深める。 Chapter1-4 を事前に読んでおく。自分が将来なりたい人材とそれを実現するために必要なスキルを考える。 【復習】Chapter1-3、パワーポイント資料を読み直し、正規雇用・非正規雇用について復習する。	4 時間
第13回	対面	【職業理解】就職活動について知る④ 日本の採用文化について知る 就職活動のスケジュールと準備	【予習】Chapter1-4 を事前に読んでおく。採用文化、正規雇用・非正規雇用の違いについて自身で調べ、理解を深める。 【復習】Chapter1-4、パワーポイント資料を読み直し、正規雇用・非正規雇用について復習する。また、日本における就職活動の開始とスケジュールから必要な準備とスキル取得時期を考える。	4 時間
第14回	オンデマンド	【オンデマンド】【自己理解】進路実現に向けた大学生活を考えよう 先輩学生のインタビュー動画を通して、学生生活の過ごし方のポイントを理解する。 学生時代に「やって良かったこと・やれば良かったこと」を知り、今後の大学生活を考えた上で、直近の夏休みをどのように過ごすべきか、計画を立てる	【復習】パワーポイント資料を読み直し、大学生活の取り組みについて復習し、夏休みの計画を立てる	4 時間
第15回	対面	まとめ・期末課題	【予習】これまでの資料やメモを読み返し、留学の目的、自己理解と職業理解について理解を深める。 【復習】授業で計画した通りに夏休みを過ごす	4 時間

科目名	キャリア開発A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	佐々木 研	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	将来を見据えた学生生活の設計		
授業の目的及び概要	キャリア開発Aは、キャリア開発Bとともに、卒業後の生涯にわたる「生き方・学び方・働き方（＝キャリア）」を考えながら、社会人に求められる就業力を培う科目である。就業力は、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的・職業的自立を図るために必要な能力である。この授業では、日本の経済・社会情勢の変化やグローバル化の進展を踏まえ、卒業後の進路選択で重要となる社会観と職業観を養成するため、「社会理解、産業・企業理解、職業理解」をテーマとして、課題に取り組むことで就業力を培う。そして、これらの理解を通じて、将来のキャリア形成に向けた自己の目標を設定し、学生時代に取り組むべき諸課題を認識する。さらに、専門教育科目での学びを踏まえつつ、経済学部生として身につけるべきキャリアスキルを涵養する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	キャリア開発Aの具体的な到達目標は以下のとおりである。 ①キャリアの意味と領域を知り、働くことの意義と、職業が個人に及ぼす影響について理解する。 ②様々な職業を知り、自己の興味・適性と照らし合わせることで、関心を高める。 ③キャリアプランニングに着手し、自己のキャリア形成のため、大学生活の過ごし方を計画することができる。 ④自分自身の長所や短所について、根拠や具体的な経験に基づき論理的に表現できる。 ⑤学部の進路として想定される業界やその特色について、理解し説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は採点し、翌週の授業にて総評を行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、事業会社に勤務しながら、社会貢献事業の一環として、まちづくりやキャリア教育事業等に携わり、現在は若者の「働く」価値観を変えるミライ企業プロジェクトを中心に、大学のキャリア教育事業や企業の経営サポートなどに従事している。本科目では、これらの実務経験を活かして、社会理解、業界企業理解、職業理解に関する具体的な指導を行う。		
テキスト	学就 BOOK（改訂第6版），日経 HR 編集部，2026 年	ISBN	978-4-296-13004-7
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	40	
	その他の内容	期末課題	
この科目の受講にあたって	授業を通じて、卒業後の進路に関する視野を広げ、将来のキャリアデザインについて積極的に取り組む姿勢・価値観を培うことを期待する。		

	キャリア形成科目は、大学を出て社会で生きていくために必要な素養を身につける授業である。社会では当たり前のルールとマナーを守り、積極的な授業参加が必要となる。 特に、授業中の私語は他の受講生の迷惑になるので、私語がやめられない場合は退室してもらう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【自己理解】ガイダンス キャリアとは何か、本科目で何を学ぶかについてガイダンスを行う。	【復習】授業内で使用した配布資料などを読み直し、改めてこれまでの学生生活を振り返る。	4 時間
第2回	オンデマンド	【自己理解】大学生活を考えよう① 先輩学生のインタビュー動画を通して、学生生活の過ごし方のポイントを理解する。学生時代に「やって良かったこと・やれば良かったこと」を知り、今後の大学生活を考える。	【予習】学就 BOOK「4 章・5 章・6 章」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「4 章・5 章・6 章」、パワーポイント資料を読み直し、大学生活の取り組みについて復習する。	4 時間
第3回	対面	【自己理解】大学生活を考えよう② サークル・部活、インターンシップ、留学の魅力を知り、今後の大学生活を考える。特に、インターンシップや資格の魅力について知り、今後の学修計画を立てる。	【予習】学就 BOOK「8 章」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「8 章」、パワーポイント資料を読み直し、大学生活の取り組みについて復習する。	4 時間
第4回	対面	【自己理解】大学生活を考えよう③ キャリア理論（スーパーの理論）に基づいた客観的自己分析を行うことで、これまでの人生の棚卸を行い、今後の学修計画を考える。	【予習】学就 BOOK「8 章・9 章」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「8 章・9 章」、パワーポイント資料を読み直し、大学生活の取り組みについて復習する。	4 時間
第5回	対面	【自己理解】大学生活を考えよう④ 論理的に考える力・書く力等のポイントを理解する。就活で役立つ「伝わる日本語表現」について学び、表現する力を養う。	【予習】学就 BOOK「巻末特集スタディスキル」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「巻末特集スタディスキル」を読み直し、文章作成のポイントについて復習する。	4 時間
第6回	対面	【自己理解】大学生活を考えよう⑤ 論理的に考える力・書く力等のポイントを理解する。就活で役立つ「伝わる日本語表現」について学び、表現する力を養う。自己理解に基づいた自己 PR を作成する。	【予習】学就 BOOK「巻末特集スタディスキル」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「巻末特集スタディスキル」を読み直し、文章作成のポイントについて復習する。	4 時間
第7回	対面	中間試験	【予習】これまでの学修についての中間試験を実施するので、第6回までの内容を復習する。	6 時間
第8回	対面	【職業理解】金融リテラシーの重要性について ファイナンシャルプランニングについて学び、お金・時間の使い方について理解を深める。	【予習】学就 BOOK「1 章・2 章」を事前に読んでおく。 【復習】配布された資料を読み直し、ファイナンシャルプランニングについて復習する。	4 時間
第9回	対面	【職業理解】就職活動について知る① 就活生を取り巻く社会を知り、新規卒労働市場と就職活動の流れについて理解する。	【予習】学就 BOOK「11 章」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「11 章」、パワーポイント資料を読み直し、新規卒労働市場と就職活動の流れについて復習する。	4 時間
第10回	対面	【職業理解】就職活動について知る② 正規雇用・非正規雇用の違いを理解し、社会人基礎力についての理解を深める。	【予習】正規雇用・非正規雇用の違いについて自身で調べ、理解を深める。 【復習】配布された資料を読み直し、正規雇用・非正規雇用について復習する。	4 時間
第11回	対面	【職業理解】就職活動について知る③ 就業力で求められる SPI 試験について理解し、具体的対策に向けて計画する。	【予習】SPI 試験に関する資料を読んでおく。 【復習】SPI 試験の自身の結果を踏まえて、自身がどのように対策を行うかを計画する。	4 時間
第12回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成① 学部での学びを通じて、自身の未来や社会の未来を考える。（学部コンテンツ×キャ	【予習】学部での学修内容を見直し、学びについて振り返る。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習する。	4 時間

		リア)		
第13回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成② 学部での学びを通じて、自身の未来や社会の未来を考える。(学部コンテンツ×キャリア)	【予習】学部での学修内容を見直し、学びについて振り返る。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習する。	4時間
第14回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】特別講演① ゲスト講師による特別講演を聞き「将来の進路と今後の大学生活」について知る。	【予習】講義内にて指示を受けた業界について事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、働く上で大切なこと・留意すべきポイントについて復習する。	4時間
第15回	対面	まとめ・期末課題	【予習】学期内の学修についての期末課題を授業内で実施するので、第14回までの内容を復習する。	4時間

科目名	キャリア開発A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	佐々木 研	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	将来を見据えた学生生活の設計		
授業の目的及び概要	キャリア開発Aは、キャリア開発Bとともに、卒業後の生涯にわたる「生き方・学び方・働き方（＝キャリア）」を考えながら、社会人に求められる就業力を培う科目である。就業力は、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的・職業的自立を図るために必要な能力である。この授業では、日本の経済・社会情勢の変化やグローバル化の進展を踏まえ、卒業後の進路選択で重要となる社会観と職業観を養成するため、「社会理解、産業・企業理解、職業理解」をテーマとして、課題に取り組むことで就業力を培う。そして、これらの理解を通じて、将来のキャリア形成に向けた自己の目標を設定し、学生時代に取り組むべき諸課題を認識する。さらに、専門教育科目での学びを踏まえつつ、経済学部生として身につけるべきキャリアスキルを涵養する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	キャリア開発Aの具体的な到達目標は以下のとおりである。 ①キャリアの意味と領域を知り、働くことの意義と、職業が個人に及ぼす影響について理解する。 ②様々な職業を知り、自己の興味・適性と照らし合わせることで、関心を高める。 ③キャリアプランニングに着手し、自己のキャリア形成のため、大学生活の過ごし方を計画することができる。 ④自分自身の長所や短所について、根拠や具体的な経験に基づき論理的に表現できる。 ⑤学部の進路として想定される業界やその特色について、理解し説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は採点し、翌週の授業にて総評を行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、事業会社に勤務しながら、社会貢献事業の一環として、まちづくりやキャリア教育事業等に携わり、現在は若者の「働く」価値観を変えるミライ企業プロジェクトを中心に、大学のキャリア教育事業や企業の経営サポートなどに従事している。本科目では、これらの実務経験を活かして、社会理解、業界企業理解、職業理解に関する具体的な指導を行う。		
テキスト	学就 BOOK（改訂第6版），日経 HR 編集部，2026 年	ISBN	978-4-296-13004-7
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	40	
	その他の内容	期末課題	
この科目の受講にあたって	授業を通じて、卒業後の進路に関する視野を広げ、将来のキャリアデザインについて積極的に取り組む姿勢・価値観を培うことを期待する。		

	キャリア形成科目は、大学を出て社会で生きていくために必要な素養を身につける授業である。社会では当たり前のルールとマナーを守り、積極的な授業参加が必要となる。 特に、授業中の私語は他の受講生の迷惑になるので、私語がやめられない場合は退室してもらう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【自己理解】ガイダンス キャリアとは何か、本科目で何を学ぶかについてガイダンスを行う。	【復習】授業内で使用した配布資料などを読み直し、改めてこれまでの大学生活を振り返る。	4 時間
第2回	オンデマンド	【自己理解】大学生活を考えよう① 先輩学生のインタビュー動画を通して、学生生活の過ごし方のポイントを理解する。学生時代に「やって良かったこと・やれば良かったこと」を知り、今後の大学生活を考える。	【予習】学就 BOOK「4 章・5 章・6 章」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「4 章・5 章・6 章」、パワーポイント資料を読み直し、大学生活の取り組みについて復習する。	4 時間
第3回	対面	【自己理解】大学生活を考えよう② サークル・部活、インターンシップ、留学の魅力を知り、今後の大学生活を考える。特に、インターンシップや資格の魅力について知り、今後の学修計画を立てる。	【予習】学就 BOOK「8 章」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「8 章」、パワーポイント資料を読み直し、大学生活の取り組みについて復習する。	4 時間
第4回	対面	【自己理解】大学生活を考えよう③ キャリア理論（スーパーの理論）に基づいた客観的自己分析を行うことで、これまでの人生の棚卸を行い、今後の学修計画を考える。	【予習】学就 BOOK「8 章・9 章」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「8 章・9 章」、パワーポイント資料を読み直し、大学生活の取り組みについて復習する。	4 時間
第5回	対面	【自己理解】大学生活を考えよう④ 論理的に考える力・書く力等のポイントを理解する。就活で役立つ「伝わる日本語表現」について学び、表現する力を養う。	【予習】学就 BOOK「巻末特集スタディスキル」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「巻末特集スタディスキル」を読み直し、文章作成のポイントについて復習する。	4 時間
第6回	対面	【自己理解】大学生活を考えよう⑤ 論理的に考える力・書く力等のポイントを理解する。就活で役立つ「伝わる日本語表現」について学び、表現する力を養う。自己理解に基づいた自己 PR を作成する。	【予習】学就 BOOK「巻末特集スタディスキル」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「巻末特集スタディスキル」を読み直し、文章作成のポイントについて復習する。	4 時間
第7回	対面	中間試験	【予習】これまでの学修についての中間試験を実施するので、第6回までの内容を復習する。	6 時間
第8回	対面	【職業理解】金融リテラシーの重要性について ファイナンシャルプランニングについて学び、お金・時間の使い方について理解を深める。	【予習】学就 BOOK「1 章・2 章」を事前に読んでおく。 【復習】配布された資料を読み直し、ファイナンシャルプランニングについて復習する。	4 時間
第9回	対面	【職業理解】就職活動について知る① 就活生を取り巻く社会を知り、新規卒労働市場と就職活動の流れについて理解する。	【予習】学就 BOOK「11 章」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「11 章」、パワーポイント資料を読み直し、新規卒労働市場と就職活動の流れについて復習する。	4 時間
第10回	対面	【職業理解】就職活動について知る② 正規雇用・非正規雇用の違いを理解し、社会人基礎力についての理解を深める。	【予習】正規雇用・非正規雇用の違いについて自身で調べ、理解を深める。 【復習】配布された資料を読み直し、正規雇用・非正規雇用について復習する。	4 時間
第11回	対面	【職業理解】就職活動について知る③ 就業力で求められる SPI 試験について理解し、具体的対策に向けて計画する。	【予習】SPI 試験に関する資料を読んでおく。 【復習】SPI 試験の自身の結果を踏まえて、自身がどのように対策を行うかを計画する。	4 時間
第12回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成① 学部での学びを通じて、自身の未来や社会の未来を考える。（学部コンテンツ×キャ	【予習】学部での学修内容を見直し、学びについて振り返る。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習する。	4 時間

		リア)		
第13回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成② 学部での学びを通じて、自身の未来や社会の未来を考える。(学部コンテンツ×キャリア)	【予習】学部での学修内容を見直し、学びについて振り返る。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習する。	4時間
第14回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】特別講演① ゲスト講師による特別講演を聞き「将来の進路と今後の大学生活」について知る。	【予習】講義内にて指示を受けた業界について事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、働く上で大切なこと・留意すべきポイントについて復習する。	4時間
第15回	対面	まとめ・期末課題	【予習】学期内の学修についての期末課題を授業内で実施するので、第14回までの内容を復習する。	4時間

科目名	キャリア開発A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	牧田 修治	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	将来を見据えた学生生活の設計		
授業の目的及び概要	キャリア開発Aは、キャリア開発Bとともに、卒業後の生涯にわたる「生き方・学び方・働き方（＝キャリア）」を考えながら、社会人に求められる就業力を培う科目である。就業力は、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的・職業的自立を図るために必要な能力である。この授業では、日本の経済・社会情勢の変化やグローバル化の進展を踏まえ、卒業後の進路選択で重要となる社会観と職業観を養成するため、「社会理解、産業・企業理解、職業理解」をテーマとして、課題に取り組むことで就業力を培う。そして、これらの理解を通じて、将来のキャリア形成に向けた自己の目標を設定し、学生時代に取り組むべき諸課題を認識する。さらに、専門教育科目での学びを踏まえつつ、経済学部生として身につけるべきキャリアスキルを涵養する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	キャリア開発Aの具体的な到達目標は以下のとおりである。 ①キャリアの意味と領域を知り、働くことの意義と、職業が個人に及ぼす影響について理解する。 ②様々な職業を知り、自己の興味・適性と照らし合わせることで、関心を高める。 ③キャリアプランニングに着手し、自己のキャリア形成のため、大学生生活の過ごし方を計画することができる。 ④自分自身の長所や短所について、根拠や具体的な経験に基づき論理的に表現できる。 ⑤学部の進路として想定される業界やその特色について、理解し説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は採点し、翌週の授業にて総評を行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、金融機関のシンクタンクや徳島県庁で、長年にわたり統計データ分析や政策分析の業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	学就 BOOK（改訂第6版），日経 HR 編集部，2026 年	ISBN	978-4-296-13004-7
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	40	
	その他の内容	期末課題	
この科目の受講にあたって	授業を通じて、卒業後の進路に関する視野を広げ、将来のキャリアデザインについて積極的に取り組む姿勢・価値観を培うことを期待する。 キャリア形成科目は、大学を出て社会で生きていくために必要な素養を身につける授業である。社会では当たり前のルールとマナーを守り、積極的な授業参加が必要となる。 特に、授業中の私語は他の受講生の迷惑になるので、私語がやめられない場合は退室してもら		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【自己理解】ガイダンス キャリアとは何か、本科目で何を学ぶかについてガイダンスを行う。	【復習】授業内で使用した配布資料などを読み直し、改めてこれまでの学生生活を振り返る。	4時間
第2回	オンデマンド	【自己理解】大学生活を考えよう① 先輩学生のインタビュー動画を通して、学生生活の過ごし方のポイントを理解する。学生時代に「やって良かったこと・やれば良かったこと」を知り、今後の大学生活を考える。	【予習】学就BOOK「4章・5章・6章」を事前に読んでおく。 【復習】学就BOOK「4章・5章・6章」、パワーポイント資料を読み直し、大学生活の取り組みについて復習する。	4時間
第3回	対面	【自己理解】大学生活を考えよう② サークル・部活、インターンシップ、留学の魅力を知り、今後の大学生活を考える。特に、インターンシップや資格の魅力について知り、今後の学修計画を立てる。	【予習】学就BOOK「8章」を事前に読んでおく。 【復習】学就BOOK「8章」、パワーポイント資料を読み直し、大学生活の取り組みについて復習する。	4時間
第4回	対面	【自己理解】大学生活を考えよう③ キャリア理論（スーパーの理論）に基づいた客観的自己分析を行うことで、これまでの人生の棚卸を行い、今後の学修計画を考える。	【予習】学就BOOK「8章・9章」を事前に読んでおく。 【復習】学就BOOK「8章・9章」、パワーポイント資料を読み直し、大学生活の取り組みについて復習する。	4時間
第5回	対面	【自己理解】大学生活を考えよう④ 論理的に考える力・書く力等のポイントを理解する。就活で役立つ「伝わる日本語表現」について学び、表現する力を養う。	【予習】学就BOOK「巻末特集スタディスキル」を事前に読んでおく。 【復習】学就BOOK「巻末特集スタディスキル」を読み直し、文章作成のポイントについて復習する。	4時間
第6回	対面	【自己理解】大学生活を考えよう⑤ 論理的に考える力・書く力等のポイントを理解する。就活で役立つ「伝わる日本語表現」について学び、表現する力を養う。自己理解に基づいた自己PRを作成する。	【予習】学就BOOK「巻末特集スタディスキル」を事前に読んでおく。 【復習】学就BOOK「巻末特集スタディスキル」を読み直し、文章作成のポイントについて復習する。	4時間
第7回	対面	中間試験	【予習】これまでの学修についての中間試験を実施するので、第6回までの内容を復習する。	6時間
第8回	対面	【職業理解】金融リテラシーの重要性について ファイナンシャルプランニングについて学び、お金・時間の使い方について理解を深める。	【予習】学就BOOK「1章・2章」を事前に読んでおく。 【復習】配布された資料を読み直し、ファイナンシャルプランニングについて復習する。	4時間
第9回	対面	【職業理解】就職活動について知る① 就活生を取り巻く社会を知り、新規卒労働市場と就職活動の流れについて理解する。	【予習】学就BOOK「11章」を事前に読んでおく。 【復習】学就BOOK「11章」、パワーポイント資料を読み直し、新規卒労働市場と就職活動の流れについて復習する。	4時間
第10回	対面	【職業理解】就職活動について知る② 正規雇用・非正規雇用の違いを理解し、社会人基礎力についての理解を深める。	【予習】正規雇用・非正規雇用の違いについて自身で調べ、理解を深める。 【復習】配布された資料を読み直し、正規雇用・非正規雇用について復習する。	4時間
第11回	対面	【職業理解】就職活動について知る③ 就業力で求められるSPI試験について理解し、具体的対策に向けて計画する。	【予習】SPI試験に関する資料を読んでおく。 【復習】SPI試験の自身の結果を踏まえて、自身がどのように対策を行うかを計画する。	4時間
第12回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成① 学部での学びを通じて、自身の未来や社会の未来を考える。（学部コンテンツ×キャリア）	【予習】学部での学修内容を見直し、学びについて振り返る。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習する。	4時間
第13回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成②	【予習】学部での学修内容を見直し、学びについて振り返る。	4時間

		学部での学びを通じて、自身の未来や社会の未来を考える。(学部コンテンツ×キャリア)	【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習する。	
第14回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】特別講演① ゲスト講師による特別講演を聞き「将来の進路と今後の大学生活」について知る。	【予習】講義内にて指示を受けた業界について事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、働く上で大切なこと・留意すべきポイントについて復習する。	4 時間
第15回	対面	まとめ・期末課題	【予習】学期内の学修についての期末課題を授業内で実施するので、第14回までの内容を復習する。	4 時間

科目名	キャリア開発B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	畑野 吉則	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	将来を見据えた学生生活の設計		
授業の目的及び概要	キャリア開発 B は、キャリア開発 A に続く科目であり、卒業後の「生き方・学び方・働き方」（＝キャリア）を考えながら、社会人として求められる就業力をさらに発展させることを目的としています。 授業では、日本の経済・社会情勢の変化やグローバル化の進展を背景に、卒業後の進路選択において重要な社会観と職業観を育むことを目指します。具体的には、「さまざまな働き方を知る」「業界について考える」といったテーマをもとに課題に取り組み、実践的な就業力を培います。 また、将来のキャリアデザインを描きながら、社会人として求められる能力について考察し、その能力を身につけるための学びを深めます。これには、最新のキャリア事情を取り入れたワーク課題を通じて、特にコミュニケーション能力などの汎用的基礎力を養成することが含まれます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	キャリア開発 B（留学生）の目標は以下のとおりである。 1. 自己分析を通じて自分の強みと弱みを理解することができる。 2. これまでの日本との関わりから将来に自分がどうしたいのか考えることができる。 3. 企業が求めるコンピテンシーについて理解することができる。 4. 将来の進路に向けてキャリアプランを立てることができる。 5. 学部での学び（専門）を通じて、自らの強みを理解することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）を課し、適宜授業にてフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	改訂版 留学生のための就職内定ワークブック	ISBN	978-4820729907
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	40	
	その他の内容	期末課題	
この科目の受講にあたって	授業を通じて、卒業後の進路に関する視野を広げ、将来のキャリアデザインについて積極的に取り組む姿勢・価値観を培うことを期待する。 キャリア形成科目は、大学を出て社会で生きていくために必要な素養を身につける授業である。社会では当たり前のルールとマナーを守り、積極的な授業参加が必要となる。 ①時間厳守、②授業中の飲食禁止、③シチュエーションに適した服装、④私語や必要ない携帯		

	端末操作の禁止、⑤机の上にカバンやコートを置かない、⑥許可なく離席しないことは最低限のルールとマナーである。 特に、授業中の私語は他の受講生の迷惑になるので、注意してもやめられない場合は退室してもらう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【自己理解】ガイダンス ・社会人基礎力診断＋企業動向を知る ・キャリアとは何か 「内的キャリア」と「外的キャリア」を考える	【予習】Chapter2-1、Chapter2-2 を事前に読んでおく。 【復習】Chapter2-1、Chapter2-2、パワーポイント資料を読み直し、自分自身の「内的キャリア」と「外的キャリア」を考える。	4 時間
第2回	対面	【自己理解】自分を知る① ・自己分析とは ・自分を分析する観点を理解する。 ・人生曲線を作成してみる	【予習】Chapter2-3、Chapter2-4 を事前に読んでおく。自己分析の意義目的を理解する。 【復習】Chapter2-3、Chapter2-4、配布資料等を読み直し、人生曲線を完成させる。	4 時間
第3回	対面	【自己理解】自分を知る② ・自分史とは ・自分史の作成と分析	【予習】Chapter3-4、配布資料を事前に読んでおく。 【復習】Chapter3-4 およびワークシートを振り返り、自分史を完成させる。	4 時間
第4回	対面	【自分理解】自分を知る③ 「ジョハリの窓」から自分の姿を知る	【予習】Chapter3-4 を事前に読んでおく。作成した自分史から、自分にとっての強みは何かを考える。 【復習】Chapter3-4、配布資料等を読み直し、ジョハリの窓作成による自分の姿を確認する。	4 時間
第5回	対面	【自己理解】自分を知る④ コンピテンシーについて 企業がもつ特性・資質について考える。	【予習】Chapter3-6、配布資料を事前に読んでおく。コンピテンシーという言葉の意味、使われ方を確認する。 【復習】Chapter3-6、配布資料等を読み直し、企業がもつ特性・資質、人材について確認する。	4 時間
第6回	対面	【オンデマンド】【職業理解】特別講演① 働き方改革やダイバーシティ＆インクルージョンの基本的知識を習得する。	【予習】働き方改革やダイバーシティ＆インクルージョンについて事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、働き方について復習する。	4 時間
第7回	対面	【自己理解】将来の自分を描く① 死ぬまでにしたいこと、人生の目標を考える 自分の未来の活躍を描き、人生設計を立てる	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】配布資料を読み直し、「職種・業界」について再度確認する。	6 時間
第8回	対面	中間試験	【復習】これまでの学修についての中間試験を実施するので、第6回までの内容を復習する。	4 時間
第9回	対面	【自己理解】将来の自分を描く② 自分の未来の活躍を描き、人生設計を立てる	【予習】様々な業界の種類について事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、業界の働き方について復習する。	4 時間
第10回	対面	【自己理解】将来の自分を描く③ 日本の良いところ・悪いところを考える 自分と日本の関係史をつくる。	【予習】前回の授業で使ったワークシートを提出（発表）できるよう事前準備をする。 【復習】グループ発表の振り返りと身の回りにある商品・サービスの業界間のつながりを検討し、理解を深める。	4 時間
第11回	対面	【職業理解】特別講演② ゲスト講師による「企業が求める人材像」について知る。	【予習】講義で扱われる業界について事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、働き方について復習する。	4 時間
第12回	対面	【職業理解】「業界」について考える① （サプライズと産業）グループワーク「チョコレートが消費者に届くまで」 グループワークを通じて、業界間のつながりを理解する。	【予習】様々な業界の種類について事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、業界の働き方について復習する。	4 時間
第13回	対面	【職業理解】「業界」について考える② （サプライズと産業）グループ発表	【予習】前回の授業で使ったワークシートを提出（発表）できるよう事前準備をする。	4 時間

		前回の取り組みのグループ発表及び講評・まとめ(サプライチェーンの観点を解説など)	【復習】グループ発表の振り返りと身の回りにある商品・サービスの業界間のつながりを検討し、理解を深める。	
第14回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びと自身のキャリアについて考えよう① 学部での学びを通じて、進路を見据えた2年生からの学修計画について考える。	【予習】学部での学習内容を見直し、学部での学びについて振り返る。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習する。	4時間
第15回	対面	まとめ・期末課題	【予習】学期内の学修についての期末課題を授業内で実施するので、第14回までの内容を復習する。	4時間

科目名	キャリア開発B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	赤城 永里子	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	将来を見据えた学生生活の設計		
授業の目的及び概要	キャリア開発 B は、キャリア開発 A に続く科目であり、卒業後の「生き方・学び方・働き方」（＝キャリア）を考えながら、社会人として求められる就業力をさらに発展させることを目的としています。 授業では、日本の経済・社会情勢の変化やグローバル化の進展を背景に、卒業後の進路選択において重要な社会観と職業観を育むことを目指します。具体的には、「さまざまな働き方を知る」「業界について考える」といったテーマをもとに課題に取り組み、実践的な就業力を培います。 また、将来のキャリアデザインを描きながら、社会人として求められる能力について考察し、その能力を身につけるための学びを深めます。これには、最新のキャリア事情を取り入れたワーク課題を通じて、特にコミュニケーション能力などの汎用的基礎力を養成することが含まれます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	キャリア開発 B（留学生）の目標は以下のとおりである。 1. 自己分析を通じて自分の強みと弱みを理解することができる。 2. これまでの日本との関わりから将来に自分がどうしたいのか考えることができる。 3. 企業が求めるコンピテンシーについて理解することができる。 4. 将来の進路に向けてキャリアプランを立てることができる。 5. 学部での学び（専門）を通じて、自らの強みを理解することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）を課し、適宜授業にてフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	改訂版 留学生のための就職内定ワークブック	ISBN	978-4820729907
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	40	
	その他の内容	期末課題	
この科目の受講にあたって	授業を通じて、卒業後の進路に関する視野を広げ、将来のキャリアデザインについて積極的に取り組む姿勢・価値観を培うことを期待する。 キャリア形成科目は、大学を出て社会で生きていくために必要な素養を身につける授業である。社会では当たり前のルールとマナーを守り、積極的な授業参加が必要となる。 ①時間厳守、②授業中の飲食禁止、③シチュエーションに適した服装、④私語や必要ない携帯		

	端末操作の禁止、⑤机の上にカバンやコートを置かない、⑥許可なく離席しないことは最低限のルールとマナーである。 特に、授業中の私語は他の受講生の迷惑になるので、注意してもやめられない場合は退室してもらう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【自己理解】ガイダンス ・社会人基礎力診断＋企業動向を知る ・キャリアとは何か 「内的キャリア」と「外的キャリア」を考える	【予習】Chapter2-1、Chapter2-2 を事前に読んでおく。 【復習】Chapter2-1、Chapter2-2、パワーポイント資料を読み直し、自分自身の「内的キャリア」と「外的キャリア」を考える。	4 時間
第2回	対面	【自己理解】自分を知る① ・自己分析とは ・自分を分析する観点を理解する。 ・人生曲線を作成してみる	【予習】Chapter2-3、Chapter2-4 を事前に読んでおく。自己分析の意義目的を理解する。 【復習】Chapter2-3、Chapter2-4、配布資料等を読み直し、人生曲線を完成させる。	4 時間
第3回	対面	【自己理解】自分を知る② ・自分史とは ・自分史の作成と分析	【予習】Chapter3-4、配布資料を事前に読んでおく。 【復習】Chapter3-4 およびワークシートを振り返り、自分史を完成させる。	4 時間
第4回	対面	【自分理解】自分を知る③ 「ジョハリの窓」から自分の姿を知る	【予習】Chapter3-4 を事前に読んでおく。作成した自分史から、自分にとっての強みは何かを考える。 【復習】Chapter3-4、配布資料等を読み直し、ジョハリの窓作成による自分の姿を確認する。	4 時間
第5回	対面	【自己理解】自分を知る④ コンピテンシーについて 企業がもつ特性・資質について考える。	【予習】Chapter3-6、配布資料を事前に読んでおく。コンピテンシーという言葉の意味、使われ方を確認する。 【復習】Chapter3-6、配布資料等を読み直し、企業がもつ特性・資質、人材について確認する。	4 時間
第6回	対面	【オンデマンド】【職業理解】特別講演① 働き方改革やダイバーシティ＆インクルージョンの基本的知識を習得する。	【予習】働き方改革やダイバーシティ＆インクルージョンについて事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、働き方について復習する。	4 時間
第7回	対面	【自己理解】将来の自分を描く① 死ぬまでにしたいこと、人生の目標を考える 自分の未来の活躍を描き、人生設計を立てる	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】配布資料を読み直し、「職種・業界」について再度確認する。	6 時間
第8回	対面	中間試験	【復習】これまでの学修についての中間試験を実施するので、第6回までの内容を復習する。	4 時間
第9回	対面	【自己理解】将来の自分を描く② 自分の未来の活躍を描き、人生設計を立てる	【予習】様々な業界の種類について事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、業界の働き方について復習する。	4 時間
第10回	対面	【自己理解】将来の自分を描く③ 日本の良いところ・悪いところを考える 自分と日本の関係史をつくる。	【予習】前回の授業で使ったワークシートを提出（発表）できるよう事前準備をする。 【復習】グループ発表の振り返りと身の回りにある商品・サービスの業界間のつながりを検討し、理解を深める。	4 時間
第11回	対面	【職業理解】特別講演② ゲスト講師による「企業が求める人材像」について知る。	【予習】講義で扱われる業界について事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、働き方について復習する。	4 時間
第12回	対面	【職業理解】「業界」について考える① （サプライズと産業）グループワーク「チョコレートが消費者に届くまで」 グループワークを通じて、業界間のつながりを理解する。	【予習】様々な業界の種類について事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、業界の働き方について復習する。	4 時間
第13回	対面	【職業理解】「業界」について考える② （サプライズと産業）グループ発表	【予習】前回の授業で使ったワークシートを提出（発表）できるよう事前準備をする。	4 時間

		前回の取り組みのグループ発表及び講評・まとめ(サプライチェーンの観点を解説など)	【復習】グループ発表の振り返りと身の回りにある商品・サービスの業界間のつながりを検討し、理解を深める。	
第14回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びと自身のキャリアについて考えよう① 学部での学びを通じて、進路を見据えた2年生からの学修計画について考える。	【予習】学部での学習内容を見直し、学部での学びについて振り返る。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習する。	4時間
第15回	対面	まとめ・期末課題	【予習】学期内の学修についての期末課題を授業内で実施するので、第14回までの内容を復習する。	4時間

科目名	キャリア開発B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	佐々木 研	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	将来を見据えた学生生活の設計		
授業の目的及び概要	キャリア開発 B は、キャリア開発 A に続き、卒業後の生涯にわたる「生き方・学び方・働き方（＝キャリア）」を考えながら、社会人に求められる就業力を培う科目である。就業力は、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的・職業的自立を図るために必要な能力である。この授業では、日本の経済・社会情勢の変化やグローバル化の進展を踏まえ、卒業後の進路選択で重要となる社会観と職業観を養成するため、「様々な働き方を知る」「業界について考える」などをテーマとして、課題に取り組むことで就業力を培う。そして、将来のキャリアデザインをイメージしつつ、社会人として求められる能力とは何かを考え、その養成を図る。そのため、最新のキャリア事情を踏まえて、様々なワーク・課題に取り組みつつ、コミュニケーション能力をはじめとする汎用的基礎力を養成する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	キャリア開発 B の具体的な到達目標は以下のとおりである。 ①自分自身の長所や短所について、根拠や具体的な経験に基づき論理的に表現できる。 ②社会課題や業界・企業について、関心を持って情報収集ができる。 ③自身の将来や社会で働くことについて、関心を持って行動計画を立てることができる。 ④学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について、理解し説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は採点し、翌週の授業にて総評を行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、事業会社に勤務しながら、社会貢献事業の一環として、まちづくりやキャリア教育事業等に携わり、現在は若者の「働く」価値観を変えるミライ企業プロジェクトを中心に、大学のキャリア教育事業や企業の経営サポートなどに従事している。本科目では、これらの実務経験を活かして、社会理解、業界企業理解、職業理解に関する具体的な指導を行う。		
テキスト	学就 BOOK（改訂第 6 版）、日経 HR 編集部、2026 年	ISBN	978-4-296-13004-7
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	40	
	その他の内容	期末課題	
この科目の受講にあたって	授業を通じて、卒業後の進路に関する視野を広げ、将来のキャリアデザインについて積極的に取り組む姿勢・価値観を培うことを期待する。 キャリア形成科目は、大学を出て社会で生きていくために必要な素養を身につける授業である。社会では当たり前のルールとマナーを守り、積極的な授業参加が必要となる。		

特に、授業中の私語は他の受講生の迷惑になるので、私語がやめられない場合は退室してもらう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【自己理解】ガイダンス 社会人基礎力診断+企業動向を知る	【予習】学就BOOK「10章」を事前に読んでおく。 【復習】学就BOOK「10章」、パワーポイント資料を読み直し、社会人基礎力について復習する。	4時間
第2回	対面	【職業理解】社会人基礎力について考える ① ビンゴゲームとディスカッションを通して、社会人基礎力について理解する。	【予習】社会人基礎力について調べ、ワークシートに記入する。 【復習】配布資料等を読み直し、社会人基礎力について再度確認する。	4時間
第3回	対面	【職業理解】社会人基礎力について考える ②（観察とディスカッション） 仕事の現場で奮闘する社会人の動画視聴を通して、仕事に向き合う姿勢や価値観について観察する。感想や意見などをグループでディスカッションすることで、社会人に求められる諸要素について考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】動画およびワークシートを振り返り、社会人基礎力を身につけるためには何が必要かを確認する。	4時間
第4回	対面	【職業理解】就職活動について知る① キャリア理論（ホルンドの理論）に基づき、自身の価値観（興味・関心）を知り、職業との理解を深める。	【予習】学就BOOK「10章」を事前に読んでおく。 【復習】配布資料等を読み直し、講義で得た知識を確認する。	4時間
第5回	対面	【職業理解】就職活動について知る② 仕事観と働き方の変遷、多様な価値観に触れ、自身が大切にしたい生き方・働き方について考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】配布資料等を読み直し、講義で得た知識を確認する。	4時間
第6回	オンデマンド	【職業理解】特別講演① 働き方改革やダイバーシティ&インクルージョンの基本的知識を習得する。	【予習】働き方改革やダイバーシティ&インクルージョンについて事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、働き方について復習する。	4時間
第7回	対面	中間試験	【予習】これまでの学修についての中間試験を実施するので、第6回までの内容を復習する。	6時間
第8回	対面	【職業理解】「職種」「業種」について理解する 職種・業種の体系、内容について理解し、各自の興味・関心・強みと重ねながら、今後の進路について考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】配布資料を読み直し、「職種・業種」について再度確認する。	4時間
第9回	対面	【職業理解】「業界」について考える①（サプライチェーンと産業） グループワークを通じて、業界間のつながりを理解する。	【予習】様々な業界の種類について事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、業界の働き方について復習する。	4時間
第10回	対面	【職業理解】「業界」について考える②（サプライチェーンと産業） 前回の取り組みのグループ発表及び講評・まとめ（サプライチェーンの観点解説など）	【予習】前回の授業で使ったワークシートを提出（発表）できるよう事前準備をする。 【復習】グループ発表の振り返りと身の回りにある商品・サービスの業界間のつながりを検討し、理解を深める。	4時間
第11回	対面	【職業理解】特別講演② ゲスト講師による特別講演を聞き「企業が求める人材像」について考える。	【予習】講義で扱われる業界について事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、働き方について復習する。	4時間
第12回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成① 学部での学びを通じて、進路を見据えた2年生からの学修計画について考える。（学部コース選択）	【予習】学部での学修内容を見直し、学びについて振り返る。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習し、今後の学部コース選択について考える。	4時間
第13回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成②	【予習】学就BOOK「7章・8章・9章」を事前に読んでおく。	4時間

		先輩学生（企業内定者・公務員合格者）による特別講演を聞き「目指す進路に向けた今後の大学生活」について考える。	【復習】学就BOOK「7章・8章・9章」、講演資料を読み直し、成長する学生生活について復習する。	
第14回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成③ 1年間を振り返り、今後に向けた具体的学修計画を立てる。	【予習】学部での学修内容を見直し、学部での学びについて振り返る。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習する。	4時間
第15回	対面	まとめ・期末課題	【予習】学期内の学修についての期末課題を授業内で実施するので、第14回までの内容を復習する。	4時間

科目名	キャリア開発B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	佐々木 研	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	将来を見据えた学生生活の設計		
授業の目的及び概要	キャリア開発 B は、キャリア開発 A に続き、卒業後の生涯にわたる「生き方・学び方・働き方（＝キャリア）」を考えながら、社会人に求められる就業力を培う科目である。就業力は、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的・職業的自立を図るために必要な能力である。この授業では、日本の経済・社会情勢の変化やグローバル化の進展を踏まえ、卒業後の進路選択で重要となる社会観と職業観を養成するため、「様々な働き方を知る」「業界について考える」などをテーマとして、課題に取り組むことで就業力を培う。そして、将来のキャリアデザインをイメージしつつ、社会人として求められる能力とは何かを考え、その養成を図る。そのため、最新のキャリア事情を踏まえて、様々なワーク・課題に取り組みつつ、コミュニケーション能力をはじめとする汎用的基礎力を養成する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	キャリア開発 B の具体的な到達目標は以下のとおりである。 ①自分自身の長所や短所について、根拠や具体的な経験に基づき論理的に表現できる。 ②社会課題や業界・企業について、関心を持って情報収集ができる。 ③自身の将来や社会で働くことについて、関心を持って行動計画を立てることができる。 ④学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について、理解し説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は採点し、翌週の授業にて総評を行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、事業会社に勤務しながら、社会貢献事業の一環として、まちづくりやキャリア教育事業等に携わり、現在は若者の「働く」価値観を変えるミライ企業プロジェクトを中心に、大学のキャリア教育事業や企業の経営サポートなどに従事している。本科目では、これらの実務経験を活かして、社会理解、業界企業理解、職業理解に関する具体的な指導を行う。		
テキスト	学就 BOOK（改訂第 6 版），日経 HR 編集部，2026 年	ISBN	978-4-296-13004-7
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	40	
	その他の内容	期末課題	
この科目の受講にあたって	授業を通じて、卒業後の進路に関する視野を広げ、将来のキャリアデザインについて積極的に取り組む姿勢・価値観を培うことを期待する。 キャリア形成科目は、大学を出て社会で生きていくために必要な素養を身につける授業である。社会では当たり前のルールとマナーを守り、積極的な授業参加が必要となる。		

特に、授業中の私語は他の受講生の迷惑になるので、私語がやめられない場合は退室してもらう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【自己理解】ガイダンス 社会人基礎力診断+企業動向を知る	【予習】学就BOOK「10章」を事前に読んでおく。 【復習】学就BOOK「10章」、パワーポイント資料を読み直し、社会人基礎力について復習する。	4時間
第2回	対面	【職業理解】社会人基礎力について考える ① ビンゴゲームとディスカッションを通して、社会人基礎力について理解する。	【予習】社会人基礎力について調べ、ワークシートに記入する。 【復習】配布資料等を読み直し、社会人基礎力について再度確認する。	4時間
第3回	対面	【職業理解】社会人基礎力について考える ②（観察とディスカッション） 仕事の現場で奮闘する社会人の動画視聴を通して、仕事に向き合う姿勢や価値観について観察する。感想や意見などをグループでディスカッションすることで、社会人に求められる諸要素について考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】動画およびワークシートを振り返り、社会人基礎力を身につけるためには何が必要かを確認する。	4時間
第4回	対面	【職業理解】就職活動について知る① キャリア理論（ホルンドの理論）に基づき、自身の価値観（興味・関心）を知り、職業との理解を深める。	【予習】学就BOOK「10章」を事前に読んでおく。 【復習】配布資料等を読み直し、講義で得た知識を確認する。	4時間
第5回	対面	【職業理解】就職活動について知る② 仕事観と働き方の変遷、多様な価値観に触れ、自身が大切にしたい生き方・働き方について考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】配布資料等を読み直し、講義で得た知識を確認する。	4時間
第6回	オンデマンド	【職業理解】特別講演① 働き方改革やダイバーシティ&インクルージョンの基本的知識を習得する。	【予習】働き方改革やダイバーシティ&インクルージョンについて事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、働き方について復習する。	4時間
第7回	対面	中間試験	【予習】これまでの学修についての中間試験を実施するので、第6回までの内容を復習する。	6時間
第8回	対面	【職業理解】「職種」「業種」について理解する 職種・業種の体系、内容について理解し、各自の興味・関心・強みと重ねながら、今後の進路について考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】配布資料を読み直し、「職種・業種」について再度確認する。	4時間
第9回	対面	【職業理解】「業界」について考える①（サプライチェーンと産業） グループワークを通じて、業界間のつながりを理解する。	【予習】様々な業界の種類について事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、業界の働き方について復習する。	4時間
第10回	対面	【職業理解】「業界」について考える②（サプライチェーンと産業） 前回の取り組みのグループ発表及び講評・まとめ（サプライチェーンの観点解説など）	【予習】前回の授業で使ったワークシートを提出（発表）できるよう事前準備をする。 【復習】グループ発表の振り返りと身の回りにある商品・サービスの業界間のつながりを検討し、理解を深める。	4時間
第11回	対面	【職業理解】特別講演② ゲスト講師による特別講演を聞き「企業が求める人材像」について考える。	【予習】講義で扱われる業界について事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、働き方について復習する。	4時間
第12回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成① 学部での学びを通じて、進路を見据えた2年生からの学修計画について考える。（学部コース選択）	【予習】学部での学修内容を見直し、学びについて振り返る。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習し、今後の学部コース選択について考える。	4時間
第13回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成②	【予習】学就BOOK「7章・8章・9章」を事前に読んでおく。	4時間

		先輩学生（企業内定者・公務員合格者）による特別講演を聞き「目指す進路に向けた今後の大学生活」について考える。	【復習】学就BOOK「7章・8章・9章」、講演資料を読み直し、成長する学生生活について復習する。	
第14回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成③ 1年間を振り返り、今後に向けた具体的な学修計画を立てる。	【予習】学部での学修内容を見直し、学部での学びについて振り返る。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習する。	4時間
第15回	対面	まとめ・期末課題	【予習】学期内の学修についての期末課題を授業内で実施するので、第14回までの内容を復習する。	4時間

科目名	キャリア開発B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	牧田 修治	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	将来を見据えた学生生活の設計		
授業の目的及び概要	キャリア開発 B は、キャリア開発 A に続き、卒業後の生涯にわたる「生き方・学び方・働き方（＝キャリア）」を考えながら、社会人に求められる就業力を培う科目である。就業力は、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的・職業的自立を図るために必要な能力である。 この授業では、日本の経済・社会情勢の変化やグローバル化の進展を踏まえ、卒業後の進路選択で重要となる社会観と職業観を養成するため、「様々な働き方を知る」「業界について考える」などをテーマとして、課題に取り組むことで就業力を培う。そして、将来のキャリアデザインをイメージしつつ、社会人として求められる能力とは何かを考え、その養成を図る。そのため、最新のキャリア事情を踏まえて、様々なワーク・課題に取り組みつつ、コミュニケーション能力をはじめとする汎用的基礎力を養成する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	キャリア開発 B の具体的な到達目標は以下のとおりである。 ①自分自身の長所や短所について、根拠や具体的な経験に基づき論理的に表現できる。 ②社会課題や業界・企業について、関心を持って情報収集ができる。 ③自身の将来や社会で働くことについて、関心を持って行動計画を立てることができる。 ④学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について、理解し説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は採点し、翌週の授業にて総評を行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、金融機関のシンクタンクや徳島県庁で、長年にわたり統計データ分析や政策分析の業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	学就 BOOK（改訂第 6 版），日経 HR 編集部，2026 年	ISBN	978-4-296-13004-7
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	40	
	その他の内容	期末課題	
この科目の受講にあたって	授業を通じて、卒業後の進路に関する視野を広げ、将来のキャリアデザインについて積極的に取り組む姿勢・価値観を培うことを期待する。 キャリア形成科目は、大学を出て社会で生きていくために必要な素養を身につける授業である。社会では当たり前のルールとマナーを守り、積極的な授業参加が必要となる。 特に、授業中の私語は他の受講生の迷惑になるので、私語がやめられない場合は退室してもらう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【自己理解】ガイダンス 社会人基礎力診断+企業動向を知る	【予習】学就BOOK「10章」を事前に読んでおく。 【復習】学就BOOK「10章」、パワーポイント資料を読み直し、社会人基礎力について復習する。	4時間
第2回	対面	【職業理解】社会人基礎力について考える ① ビンゴゲームとディスカッションを通して、社会人基礎力について理解する。	【予習】社会人基礎力について調べ、ワークシートに記入する。 【復習】配布資料等を読み直し、社会人基礎力について再度確認する。	4時間
第3回	対面	【職業理解】社会人基礎力について考える ②（観察とディスカッション） 仕事の現場で奮闘する社会人の動画視聴を通して、仕事に向き合う姿勢や価値観について観察する。感想や意見などをグループでディスカッションすることで、社会人に求められる諸要素について考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】動画およびワークシートを振り返り、社会人基礎力を身につけるためには何が必要かを確認する。	4時間
第4回	対面	【職業理解】就職活動について知る① キャリア理論（ホルランドの理論）に基づき、自身の価値観（興味・関心）を知り、職業との理解を深める。	【予習】学就BOOK「10章」を事前に読んでおく。 【復習】配布資料等を読み直し、講義で得た知識を確認する。	4時間
第5回	対面	【職業理解】就職活動について知る② 仕事観と働き方の変遷、多様な価値観に触れ、自身が大切にしたい生き方・働き方について考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】配布資料等を読み直し、講義で得た知識を確認する。	4時間
第6回	オンデマンド	【職業理解】特別講演① 働き方改革やダイバーシティ&インクルージョンの基本的知識を習得する。	【予習】働き方改革やダイバーシティ&インクルージョンについて事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、働き方について復習する。	4時間
第7回	対面	中間試験	【予習】これまでの学修についての中間試験を実施するので、第6回までの内容を復習する。	6時間
第8回	対面	【職業理解】「職種」「業種」について理解する 職種・業種の体系、内容について理解し、各自の興味・関心・強みと重ねながら、今後の進路について考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】配布資料を読み直し、「職種・業種」について再度確認する。	4時間
第9回	対面	【職業理解】「業界」について考える①（サプライチェーンと産業） グループワークを通じて、業界間のつながりを理解する。	【予習】様々な業界の種類について事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、業界の働き方について復習する。	4時間
第10回	対面	【職業理解】「業界」について考える②（サプライチェーンと産業） 前回の取り組みのグループ発表及び講評・まとめ（サプライチェーンの観点解説など）	【予習】前回の授業で使用したワークシートを提出（発表）できるよう事前準備をする。 【復習】グループ発表の振り返りと身の回りにある商品・サービスの業界間のつながりを検討し、理解を深める。	4時間
第11回	対面	【職業理解】特別講演② ゲスト講師による特別講演を聞き「企業が求める人材像」について考える。	【予習】講義で扱われる業界について事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、働き方について復習する。	4時間
第12回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成① 学部での学びを通じて、進路を見据えた2年生からの学修計画について考える。（学部コース選択）	【予習】学部での学修内容を見直し、学びについて振り返る。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習し、今後の学部コース選択について考える。	4時間
第13回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成② 先輩学生（企業内定者・公務員合格者）による特別講演を聞き「目指す進路に向けた今後の大学生活」について考える。	【予習】学就BOOK「7章・8章・9章」を事前に読んでおく。 【復習】学就BOOK「7章・8章・9章」、講演資料を読み直し、成長する学生生活について復習する。	4時間

第14回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成③ 1年間を振り返り、今後に向けた具体的学修計画を立てる。	【予習】学部での学修内容を見直し、学部での学びについて振り返る。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習する。	4時間
第15回	対面	まとめ・期末課題	【予習】学期内の学修についての期末課題を授業内で実施するので、第14回までの内容を復習する。	4時間

科目名	キャリアデザインA	開講年度	2026 年度春学期
担当者	佐々木 研	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	将来を見据えたキャリア設計		
授業の目的及び概要	キャリアデザインは、大学 2 年次の経済学部生を対象とし、将来のキャリア形成に向け取り組む科目です。さまざまな業界の経営者などの講話を通じ、今後の社会・企業がどのように変化していくのか、その方向性について学修し、卒業後の「生き方・学び方・働き方」(＝キャリア)について考えながら、就業力を身につけることを目的としています。また、3 年時以降の就職活動で必要となる基本的な力(知識、行動力等)の修得を目指します。		
履修条件・留意点	－		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①今後の社会のあり方について理解し、基本的事項を説明できる。 ②技術革新による企業と生活の変化について理解し、自分の意見を表明できる。 ③今後の社会で求められるスキルや態度を理解し、それらと自分を関連づけて説明できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）を実施し、翌週の授業で質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、事業会社に勤務しながら、社会貢献事業の一環として、まちづくりやキャリア教育事業等に携わり、現在は若者の「働く」価値観を変えるミライ企業プロジェクトを中心に、大学のキャリア教育事業や企業の経営サポートなどに従事している。本科目では、これらの実務経験を活かして、社会理解、業界企業理解、職業理解に関する具体的な指導を行う。		
テキスト	市販テキストは使用せず、適宜プリントを配付する。	ISBN	なし
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	40	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容	－	
この科目の受講にあたって	この授業では多くの経営者など外部講師が登壇し、今後の社会のあり方についてお話をされることもあり、将来の進路選択において重要な指標となるため、授業内で積極的に発言し、課題に取り組むことを期待する。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	ガイダンス 授業計画の内容や進め方、各回の外部講師の詳細などについて説明します。 担当：佐々木 研(CH 代表 / 一般社団法人ミライ企業協議会 代表理事)	今回取り上げた内容について、配布資料や講義内容に基づき復習してください。(2 時間) 次回のテーマについて、関連する記事やニュース等で予習してください。(2 時間)	4 時間

第2回	対面	現代社会の状況 現代の社会情勢について、業界ごとの状況などについて解説します。 担当：佐々木 研（CH 代表 / 一般社団法人ミライ企業協議会 代表理事）	今回取り上げた内容について、配布資料や講義内容に基づき復習してください。（2 時間） 次回のテーマについて、関連する記事やニュース等で予習してください。（2 時間）	4 時間
第3回	対面	商社 介護食・治療食業界の状況について、担当教員やゲストスピーカーから解説します。 ゲスト：三嶋 頼之（三嶋商事株式会社 代表取締役社長）	今回取り上げた内容について、配布資料や講義内容に基づき復習してください。（2 時間） 次回のテーマについて、関連する記事やニュース等で予習してください。（2 時間）	4 時間
第4回	対面	ソフトウェア IT 業界の状況について、担当教員やゲストスピーカーから解説します。 ゲスト：松井 佑介（株式会社コンピュータ技研 代表取締役社長）	今回取り上げた内容について、配布資料や講義内容に基づき復習してください。（2 時間） 次回のテーマについて、関連する記事やニュース等で予習してください。（2 時間）	4 時間
第5回	対面	メーカー 印刷業界の状況について、担当教員やゲストスピーカーから解説します。 ゲスト：孝橋 悦達（株式会社明成孝橋美術 代表取締役社長）	今回取り上げた内容について、配布資料や講義内容に基づき復習してください。（2 時間） 次回のテーマについて、関連する記事やニュース等で予習してください。（2 時間）	4 時間
第6回	対面	広告・出版・マスコミ 広報業界の状況について、担当教員やゲストスピーカーから解説します。 ゲスト：神崎 英徳（株式会社 PR リンク 代表取締役社長）	今回取り上げた内容について、配布資料や講義内容に基づき復習してください。（2 時間） 次回のテーマについて、関連する記事やニュース等で予習してください。（2 時間）	4 時間
第7回	対面	中間課題	これまでの授業内容について、配布資料や講義内容に基づき復習してください。（4 時間）	4 時間
第8回	対面	官公庁・公社・団体 公的な事業を行う団体や支援機関の状況について、担当教員やゲストスピーカーから解説します。 ゲスト：馬籠 莉央	今回取り上げた内容について、配布資料や講義内容に基づき復習してください。（2 時間） 次回のテーマについて、関連する記事やニュース等で予習してください。（2 時間）	4 時間
第9回	対面	小売 食品製造業界（ポップコーン）の状況について、担当教員やゲストスピーカーから解説します。 ゲスト：宮平 崇（株式会社 Dreams 代表取締役社長）	今回取り上げた内容について、配布資料や講義内容に基づき復習してください。（2 時間） 次回のテーマについて、関連する記事やニュース等で予習してください。（2 時間）	4 時間
第10回	対面	サービス ビルメンテナンス業界の状況について、担当教員やゲストスピーカーから解説します。 ゲスト：奥 斗志雄（株式会社ベル 代表取締役社長）	今回取り上げた内容について、配布資料や講義内容に基づき復習してください。（2 時間） 次回のテーマについて、関連する記事やニュース等で予習してください。（2 時間）	4 時間
第11回	対面	商社 鉄鋼業界の状況について、担当教員やゲストスピーカーから解説します。 ゲスト：樋口 友夫（株式会社天彦産業 取締役会長）	今回取り上げた内容について、配布資料や講義内容に基づき復習してください。（2 時間） 次回のテーマについて、関連する記事やニュース等で予習してください。（2 時間）	4 時間
第12回	対面	サービス クリーニング業界の状況について、担当教員やゲストスピーカーから解説します。 ゲスト：武田 純（株式会社みずほカーテンメンテナンス 代表取締役社長）	今回取り上げた内容について、配布資料や講義内容に基づき復習してください。（2 時間） 次回のテーマについて、関連する記事やニュース等で予習してください。（2 時間）	4 時間
第13回	オンデマンド	■オンデマンド■人を大切にする経営 全国の「人を大切にする経営」を実践して	今回取り上げた内容について、配布資料や講義内容に基づき復習してください。（2 時間）	4 時間

2026/05/01

		いる企業等について解説します。 担当：佐々木 研（CH 代表 / 一般社団法人ミライ企業協議会 代表理事）	次回のテーマについて、関連する記事やニュース等で予習してください。（2 時間）	
第 1 4 回	対面	まとめ これまでの授業内容の振り返り 担当：佐々木 研（CH 代表 / 一般社団法人ミライ企業協議会 代表理事）	これまでの授業内容について、配布資料や講義内容に基づき復習してください。（4 時間）	4 時間
第 1 5 回	対面	期末課題	これまでの授業内容について、配布資料や講義内容に基づき復習してください。	4 時間

科目名	キャリアデザインA	開講年度	2026 年度春学期
担当者	黒原 杏衣	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	日本企業への就職をめざす留学生が、自己理解・業界/企業研究・就活実践力を段階的に高め、「内定獲得」から「日本で働き続ける」キャリアを自律的に形成する。		
授業の目的及び概要	【P①】コミュニケーション力強化：「話す（やり取り）・話す（発表）」を毎回の授業に組み込む 【P②】就活スキル向上：履歴書（作成→添削→修正）反復練習・就活ミニテスト・ビジネスマナー・在留資格指導 【P③】幅広い学修機会：OB・OG ロールモデル活用・ガクチカ蓄積支援・課外活動の言語化 【P④】学内外支援行事との連動：インターンシップ・企業訪問体験・就活イベントなど就活材料に転換 【P⑤】長期キャリアビジョン：自己理解（ライフラインチャート・キャリアアンカー・RIASEC）活用・在留資格理解・早期離職防止・5～10 年後のキャリア設計		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 業界・企業研究の基礎的枠組みを理解し、自己の志望と結びつけて考えられる。 2. 社会課題や業界・企業について関心を高め、情報収集した内容を日本語で論理的に表現できる。 3. 授業内ワークを通じ『話す（やり取り・発表）』の機会を蓄積し、日常的な日本語コミュニケーション力を高める。【P①】 4. 日本の雇用形態・在留資格の基礎を理解し、業界研究ワークシートを作成・発表できる。【P⑤】 5. 自己分析（ライフラインチャート・キャリアアンカー・RIASEC）を用いて自己分析を行い、夏季インターンシップに向けた具体的な業界・企業の絞り込みと戦略を立てられる。【P②⑤】		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）を課し、適宜授業にてフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、人材採用コンサルティング企業での新卒・中途採用の営業、採用担当などの業務経験を有しており、現在はフリーランスとして独立し、採用コンサルティング・採用業務代行業、企業研修講師業など、多岐にわたる業務に従事している。国家資格キャリアコンサルタント所持者。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	改訂版 留学生のための就職内定ワークブック, 久保田 学, 日本能率協会マネジメントセンター, 2022 年	ISBN	9784820729907
参考書	① 就職四季報 企業研究・インターンシップ版, 東洋経済新報社, 2027 年（図書館 DB で閲覧可） ② 会社四季報 業界地図, 東洋経済新報社, 2026 年（図書館 DB で閲覧可） ③ 就職四季報 総合版, 東洋経済新報社, 2027-28 年度版（図書館 DB で閲覧可） ④ 絶対内定 2027 自己分析とキャリアデザインの描き方, 杉村太郎他, ダイヤモンド社, 2025 年 ⑤ 絶対内定 2027 エントリーシート・面接, 杉村太郎, ダイヤモンド, 2025 年 ⑥ 絶対内定 2025-2027 インターシップ, 藤本 健司, ダイヤモンド社, 2023 年	ISBN	① 9784492974391 ② 9784492973356 ③ 9784492971420 ④ 9784478122297 ⑤ 9784478122303 ⑥ 9784478117552

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	30
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	日本就職を前提に、社会人・ビジネスパーソンとしての社会人基礎力を獲得しましょう。まず「遅刻をしない」「期限までに指定の方法で提出する」という基本的な習慣を身に着けることが出発点です。そのうえで、留学生であることの強み（多言語・多文化体験・異文化適応力）を活かした就活とは何かを考え、課題に取り組んでいきます。授業での学びは将来の進路選択において重要な指標となります。積極的に発言し、課題に主体的に取り組む姿勢を大切にしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	▶ 授業概要・到達目標・評価方法・年間スケジュールの説明	【事後学修】授業内で使用した配布資料等を読み直し、説明内容を確認する。	2 時間
第2回	対面	Ch5-1 ▶ テーマ：業界を知る① 業界・企業研究とは何か ・夏季インターンシップのエントリー時期・方法①（概要） ▷【自己理解①】ライフラインチャート：人生の出来事・感情の起伏を書き出す【P⑤】	【事前学修】Ch5-1、配布資料を事前に読んでおく。 業界研究、企業研究の意義を理解する。 【事後学修】Ch5-1、授業内で使用した配布資料等を読み直し、自分のやりたい仕事の業界を調べる。	4 時間
第3回	対面	Ch5-2（Ch6-2） ▶ テーマ：業界を知る② 業界研究の3つの視点 ・外国人雇用サービスセンターの情報を確認する ▷【自己理解②】ライフラインチャート完成：ターニングポイントと自分の価値観を言語化【P⑤】	【事前学修】Ch5-2、Ch6-2 配布資料を事前に読んでおく。 【事後学修】Ch5-2、Ch6-2 授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した3つの視点をもとに興味ある業界の研究を行う。	4 時間
第4回	対面	Ch5-3（Ch6-3） ▶ テーマ：業界を知る③ 企業研究の視点① ・夏季インターンシップ応募準備②：応募書類（ES）の基本を学ぶ	【事前学修】Ch5-3（Ch6-3）、配布資料を事前に読んでおく。配布資料を事前に読んでおく。留学生を採用している業界、企業を調べる。 【事後学修】Ch5-3（Ch6-3）、授業内で使用した配布資料等を読み直し、身近にあるグローバル・ニッチ企業を調べ、それぞれの企業の価値を考える。	4 時間
第5回	対面	Ch5-3（Ch6-3） ▶ テーマ：業界を知る④ 企業研究の視点② ・夏季インターンシップ応募準備③：エントリーシートの下書きを作成する ▷【自己理解③】キャリアアンカー診断：働く上で自分が最も重視する価値観を確認する【P⑤】	【事前学修】Ch5-3（Ch6-3）、配布資料を事前に読んでおく。 【事後学修】Ch5-3（Ch6-3）、授業内で使用した配布資料等を読み直し、さらに興味ある企業を選んで分析し、ESを作成する。	4 時間
第6回	対面	中間課題	【事前学修】これまでの資料や教科書の内容を復習し中間課題の準備をする。 【事後学修】次回の授業範囲を調べておく。	6 時間
第7回	対面	Ch5-4 ▶ テーマ：業界を知る⑤ 職種研究とは	【事前学修】Ch5-4、配布資料を事前に読んでおく。 【事後学修】Ch5-4、授業内で使用した配布資料等を	4 時間

		・「業種（業界）」と「職種」の違いを整理し、主な職種を理解する ▷【自己理解④】RIASEC（六角形モデル）診断：自分の職業的興味タイプを確認する【P⑤】	読み直し、習得した知識を確認する。	
第8回	対面	Ch5-5 ▶ テーマ：業界を知る⑥ 日本企業の雇用形態・基礎編 ・正社員・契約社員・派遣社員の違いと特徴を理解する ・在留資格変更の重要ポイント：専攻と職種の一致が審査に影響することを理解する【P②⑤】	【事前学修】Ch5-5、配布資料を事前に読み、日本企業の雇用形態、採用形態を理解する。自国の雇用・採用システムと比較する。 【事後学修】Ch5-5、授業内で使用した配布資料等を読み直し、留学生が活躍する職種について詳しく調べる。	4 時間
第9回	オンデマンド	Ch5-5（続） ▶ テーマ：日本企業の雇用形態と在留資格（オンデマンド学習） ・「技術・人文知識・国際業務」ビザの取得要件を深く理解する	【事前学修】、配布資料を事前に読んでおく。 【事後学修】授業内で使用した配布資料等を読み直し、雇用形態について自国と比較する。	4 時間
第10回	対面	Ch5-5（続） ▶ テーマ：業界を知る⑥（続） 日本企業の雇用形態・実践編 ・業界別の雇用特性（製造業・IT・サービス業・商社等）を比較する	【事前学修】配布資料を事前に読んでおく。 【事後学修】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第11回	対面	Ch5-6 ▶ テーマ：業界を知る⑦ 業界研究の手順 ・業界研究5ステップを学ぶ ▷「ガクチカ（学生時代に力を入れたこと）」の初稿を書き、日本語で言語化する練習【P③】	【事前学修】配布資料を事前に読んでおく。 【事後学修】授業内で使用した配布資料等を読み直し、各業界の特徴・動向について理解を深める。	4 時間
第12回	対面	Ch5-7 ▶ テーマ：業界を知る⑧ 気になる業界を深く調べる ・業界調べワークシートを使い、自分が興味をもつ業界を詳しく調査する ▷「ガクチカ」反復練習：課外活動（アルバイト・サークル・ボランティア等）を日本語で言語化する【P③】	【事前学修】Ch5-7、配布資料を事前に読んでおく。 【事後学修】Ch5-7、授業内で使用した配布資料等を読み直し、ワークシートを完成する。	4 時間
第13回	対面	Ch5-8 ▶ テーマ：業界を知る⑨ 業界のつながり・周辺業界 ・気になる業界とその周辺業界・関連業界のつながりをワークシートで整理する ・OB・OGのキャリアパス紹介：多様な進路（大企業・中小・ベンチャー・海外勤務等）をロールモデルとして学ぶ【P③】	【事前学修】Ch5-8、配布資料を事前に読み、ワークシートを完成させる。 【事後学修】Ch5-8、まとめた内容の課題点などを整理して、知識の理解を深める。	4 時間
第14回	対面	Ch5-9 ▶ テーマ：業界を知る⑩ 春学期のまとめ・最終発表 ・春学期（第2～13回）の業界研究・企業研究の成果をワークシートに最終整理する	【事前学修】これまでの資料を読んでおく。 【事後学修】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第15回	対面	▶ 春学期まとめ・期末レポートの準備 ・春学期全体の振り返り：自己理解→業界研究→企業研究の連携を確認する	【事前学修】配布資料を事前に読み、期末課題の準備する。 【事後学修】春学期の授業を振り返り、秋学期に向け	4 時間

2026/05/01

	・期末レポート（志望業界・企業リスト＋選んだ理由）の準備	行動計画を立てる。	

科目名	キャリアデザインB	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	佐々木 研	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	将来を見据えたキャリア設計		
授業の目的及び概要	キャリアデザイン B は、キャリアデザイン A（春）に続く科目であり、今後のキャリア形成に向け、就業力をさらに発展させることを目的としています。さまざまな業界の経営者や人事担当者などの講話や、企業からの課題に対しての企画提案なども行います。コミュニケーション能力や課題発見力、解決力などの汎用的基礎能力の修得を目指します。また、SPI 対策など、採用選考への参加を確保出来る基礎力を固めていきます。		
履修条件・留意点	—		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（D P）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①今後の社会のあり方について理解し、基本的事項を説明できる。 ②技術革新による企業と生活の変化について理解し、自分の意見を表明できる。 ③今後の社会で求められるスキルや態度を理解し、それらと自分を関連づけて説明できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）を実施し、翌週の授業で質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、事業会社に勤務しながら、社会貢献事業の一環として、まちづくりやキャリア教育事業等に携わり、現在は若者の「働く」価値観を変えるミライ企業プロジェクトを中心に、大学のキャリア教育事業や企業の経営サポートなどに従事している。本科目では、これらの実務経験を活かして、社会理解、業界企業理解、職業理解に関する具体的な指導を行う。		
テキスト	市販テキストは使用せず、適宜プリントを配付する。	ISBN	なし
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	40	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	この授業では外部講師が登壇される他、グループワークを多用するため、授業内で積極的に発言し、課題に取り組むことを期待します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修 (予習・復習等)	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	ガイダンス 授業計画の内容や進め方、各回の外部講師の詳細等について説明します。 担当：佐々木 研 (CH 代表 / 一般社団法人ミライ企業協議会 代表理事)	今回取り上げた内容について、配布資料や講義内容に基づき復習してください。(2 時間) 次回のテーマについて、関連する記事やニュース等で予習してください。(2 時間)	4 時間

第2回	対面	グループワークの進め方 今後授業内で行うグループワークのあり方について解説します。 担当：佐々木 研（CH 代表 / 一般社団法人ミライ企業協議会 代表理事）	今回取り上げた内容について、配布資料や講義内容に基づき復習してください。（2 時間） 次回のテーマについて、関連する記事やニュース等で予習してください。（2 時間）	4 時間
第3回	対面	サービス / 企業課題 介護業界の状況や、障がい者・高齢者支援をはじめとする事業の多角化について、担当教員やゲストスピーカーから解説します。 また、第6回の発表に向け、グループで取り組む課題について解説します。 担当：田井 大介（株式会社 TRUST Relation 代表取締役社長）	今回取り上げた内容について、配布資料や講義内容に基づき復習してください。（2 時間） 次回のテーマについて、関連する記事やニュース等で予習してください。（2 時間）	4 時間
第4回	対面	グループワーク グループごとに、前回提示の課題に対しての企画立案を行います。 担当：佐々木 研（CH 代表 / 一般社団法人ミライ企業協議会 代表理事）	今回取り上げた内容について、配布資料や講義内容に基づき復習してください。（2 時間） 次回のテーマについて、関連する記事やニュース等で予習してください。（2 時間）	4 時間
第5回	対面	グループワーク グループごとに、前々回提示の課題に対しての企画立案、発表資料作成を行います。 担当：佐々木 研（CH 代表 / 一般社団法人ミライ企業協議会 代表理事）	今回取り上げた内容について、配布資料や講義内容に基づき復習してください。（2 時間） 次回のテーマについて、関連する記事やニュース等で予習してください。（2 時間）	4 時間
第6回	対面	プレゼン 第3回に提示された課題に対しての企画案をチームごとにプレゼンし、ゲストに講評いただきます。 担当：田井 大介（株式会社 TRUST Relation 代表取締役社長）	今回取り上げた内容について、配布資料や講義内容に基づき復習してください。（2 時間） 次回のテーマについて、関連する記事やニュース等で予習してください。（2 時間）	4 時間
第7回	対面	中間課題	これまでの授業内容について、配布資料や講義内容に基づき復習してください。	4 時間
第8回	対面	NPO / 企業課題 さまざまな非営利団体の状況について、担当教員やゲストスピーカーから解説します。 また、第11回の発表に向け、グループで取り組む課題について解説します。 担当：小西 美由紀（特定非営利活動法人ママトリエ 代表理事）	今回取り上げた内容について、配布資料や講義内容に基づき復習してください。（2 時間） 次回のテーマについて、関連する記事やニュース等で予習してください。（2 時間）	4 時間
第9回	対面	グループワーク グループごとに、前回提示の課題に対しての企画立案を行います。 担当：佐々木 研（CH 代表 / 一般社団法人ミライ企業協議会 代表理事）	今回取り上げた内容について、配布資料や講義内容に基づき復習してください。（2 時間） 次回のテーマについて、関連する記事やニュース等で予習してください。（2 時間）	4 時間
第10回	対面	グループワーク グループごとに、前々回提示の課題に対しての企画立案、発表資料作成を行います。 担当：佐々木 研（CH 代表 / 一般社団法人ミライ企業協議会 代表理事）	今回取り上げた内容について、配布資料や講義内容に基づき復習してください。（2 時間） 次回のテーマについて、関連する記事やニュース等で予習してください。（2 時間）	4 時間
第11回	対面	プレゼン 第8回に提示された課題に対しての企画案をチームごとにプレゼンし、ゲストに講評いただきます。 担当：小西 美由紀（特定非営利活動法人ママトリエ 代表理事）	今回取り上げた内容について、配布資料や講義内容に基づき復習してください。（2 時間） 次回のテーマについて、関連する記事やニュース等で予習してください。（2 時間）	4 時間
第12回	対面	パネルディスカッション	今回取り上げた内容について、配布資料や講義内容	4 時間

		さまざまな業界の人事担当者をお招きし、最新の採用市場の状況や、今後求められるスキル等について解説します。 担当：人事担当者	に基づき復習してください。(2 時間) 次回のテーマについて、関連する記事やニュース等で予習してください。(2 時間)	
第13回	オンデマンド	■オンデマンド■振り返り・まとめ これまでの授業内容の振り返り 担当：佐々木 研 (CH 代表 / 一般社団法人ミライ企業協議会 代表理事)	今回取り上げた内容について、配布資料や講義内容に基づき復習してください。(2 時間) 次回のテーマについて、関連する記事やニュース等で予習してください。(2 時間)	4 時間
第14回	対面	パネルディスカッション フリーランスや副業として活躍するゲストをお招きし、これからの新たな働き方等について解説します。 担当：フリーランス・副業人財	今回取り上げた内容について、配布資料や講義内容に基づき復習してください。(2 時間) 次回のテーマについて、関連する記事やニュース等で予習してください。(2 時間)	4 時間
第15回	対面	期末課題	これまでの授業内容について、配布資料や講義内容に基づき復習してください。	4 時間

科目名	キャリアデザインB	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	黒原 杏衣	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	日本企業への就職をめざす留学生が、自己理解・業界/企業研究・就活実践力を段階的に高め、「内定獲得」から「日本で働き続ける」キャリアを自律的に形成する。		
授業の目的及び概要	【P①】コミュニケーション力強化：「話す（やり取り）・話す（発表）」を毎回の授業に組み込む 【P②】就活スキル向上：履歴書（作成→添削→修正）反復練習・就活ミニテスト・ビジネスマナー・在留資格指導 【P③】幅広い学修機会：OB・OG ロールモデル活用・ガクチカ蓄積支援・課外活動の言語化 【P④】学内外支援行事との連動：インターンシップ・企業訪問体験・就活イベントなど就活材料に転換 【P⑤】長期キャリアビジョン：自己理解（ライフラインチャート・キャリアアンカー・RIASEC）活用・在留資格理解・早期離職防止・5～10 年後のキャリア設計		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 就活で特に重要な『話す（やり取り）・話す（発表）』を実践的に行うことができる。【P①】 2. 就職活動の選考プロセスを理解し、履歴書・ES 作成→添削→修正のサイクルを実践できる。【P②】 3. 就活行事・キャリアセンター・外国人雇用サービスセンターを活用し、企業説明会・インターンシップへの参加と体験を就活材料として活用できる。【P④】 4. ビジネスマナー・ビジネス日本語・在留資格変更の知識を定着させ、選考突破に応用できる。【P②⑤】 5. 自己分析を深め、「内定獲得」から「日本で働き続ける」中長期キャリアビジョンを描ける。【P⑤】		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）を課し、適宜授業にてフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、人材採用コンサルティング企業での新卒・中途採用の営業、採用担当などの業務経験を有しており、現在はフリーランスとして独立し、採用コンサルティング・採用業務代行業、企業研修講師業など、多岐にわたる業務に従事している。国家資格キャリアコンサルタント所持者。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	改訂版 留学生のための就職内定ワークブック, 久保田 学, 日本能率協会マネジメントセンター, 2022 年	ISBN	9784820729907
参考書	① 就職四季報 企業研究・インターンシップ版, 東洋経済新報社, 2027 年（図書館 DB で閲覧可） ② 会社四季報 業界地図, 東洋経済新報社, 2026 年（図書館 DB で閲覧可） ③ 就職四季報 総合版, 東洋経済新報社, 2027-28 年度版（図書館 DB で閲覧可） ④ 絶対内定 2027 自己分析とキャリアデザインの描き方, 杉村太郎他, ダイヤモンド社, 2025 年 ⑤ 絶対内定 2027 エントリーシート・面接, 杉村太郎, ダイヤモンド, 2025 年 ⑥ 絶対内定 2025-2027 インターシップ, 藤本 健司, ダイヤモンド社, 2023 年	ISBN	① 9784492974391 ② 9784492973356 ③ 9784492971420 ④ 9784478122297 ⑤ 9784478122303 ⑥ 9784478117552

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	30
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	日本就職を前提に、社会人・ビジネスパーソンとしての社会人基礎力を獲得しましょう。まず「遅刻をしない」「期限までに指定の方法で提出する」という基本的な習慣を身に着けることが出発点です。そのうえで、留学生であることの強み（多言語・多文化体験・異文化適応力）を活かした就活とは何かを考え、課題に取り組んでいきます。授業での学びは将来の進路選択において重要な指標となります。積極的に発言し、課題に主体的に取り組む姿勢を大切にしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	▶ 秋学期オリエンテーション：授業概要・到達目標・評価方法・年間スケジュールの説明 ▶ 外国人雇用サービスセンターの活用方法を確認	【事前学習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、すべきことを確認する。	2 時間
第2回	対面	Ch6-1 ▶ テーマ：企業と出会う① 企業研究の方法とタイミング ▶ 日本のビジネス習慣①：時間管理・報告・連絡・相談（報連相）の文化【P5】	【事前学修】Ch6-1、配布資料を事前に読んでおく。 【事後学修】Ch6-1、授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第3回	対面	Ch6-2 ▶ テーマ：企業と出会う② インターンシップとは ▶ 日本のビジネス習慣②：挨拶・自己紹介・お辞儀のマナーを体験する	【事前学修】Ch6-2、配布資料を事前に読んでおく。 【事後学修】Ch6-2、授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第4回	対面	Ch6-3 ▶ テーマ：企業と出会う③ 先輩の情報を活用する ▶ ビジネス日本語①：アポイントメントメールの件名・書き出し・結語のマナー【P②】	【事前学修】配布資料を事前に読んでおく。 【事後学修】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第5回	対面	Ch6-4 ▶ テーマ：企業と出会う④ プレゼンター ・プレゼンターとは何か、目的・注意点・適切なエンタリー数を理解する ・ES「志望動機」の初稿を作成【P①②】	【事前学修】配布資料を事前に読んでおく。 【事後学修】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第6回	オンデマンド	▶ 特別課題①（オンデマンド）：職業理解・「働き方改革」「ダイバーシティ＆インクルージョン（D&I）」の基本知識を動画・資料で学ぶ	【事前学修】配布資料を事前に読んでおく。 【事後学修】授業内で使用した配布資料等を読み直し、働き方改革・ダイバーシティ＆インクルージョンについて考えてくる。	4 時間
第7回	対面	中間課題	【事前学習】これまでの授業内で使用した配布資料等を読み直し、中間課題への準備をする 【事後学修】次回の授業範囲を調べておく	6 時間
第8回	対面	Ch7-1 ▶ テーマ：企業と出会う⑤ 会社説明会・	【事前学修】Ch7-1、配布資料を事前に読んでおく。 【事後学修】Ch7-1、授業内で使用した配布資料等を	4 時間

		セミナー ▶ビジネスマナー①:説明会での言葉遣い・質問の仕方・服装・身だしなみ【P②】	読み直し、留学生用セミナー開催情報をネット等で調べる。	
第9回	対面	Ch7-2 Ch7-3 ▶ テーマ:企業を知る・選ぶ① 企業を選ぶ6つの視点 ▶就活日本語クイズ(メール・電話・敬語の基本表現)	【事前学修】Ch7-2、Ch7-3、配布資料を事前に読んでおく。 【事後学修】Ch7-2、Ch7-3、授業内で使用した配布資料等を読み直し、興味ある企業HPから得られる6つの視点で情報を調べる。	4時間
第10回	対面	Ch7-4 ▶ テーマ:企業を知る・選ぶ② 9つの企業類型 ・経営視点(安定性・成長性)と職場視点(働きやすさ・キャリアパス)で企業を分類する	【事前学修】Ch7-4、配布資料を事前に読んでおく。 【事後学修】Ch7-4、授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第11回	対面	Ch7-5 ▶ テーマ:企業を知る・選ぶ③ 企業分析フレームワーク 3C分析 ・3C分析(Customer 顧客・Competitor 競合・Company 自社)の考え方を学ぶ	【事前学修】Ch7-5、配布資料を事前に読んでおく。 専門科目で学んだ3C分析を復習する。 【事後学修】Ch7-5、授業内で使用した配布資料等を読み直し、興味ある企業を数社選択しフレームワーク(3C分析)をおこなう。	4時間
第12回	対面	▶【職業理解】特別講演② ゲスト講師による特別講演(予定) ・日本企業の採用方針・仕事内容の講演	【事前学修】Ch7-6、配布資料を事前に読んでおく。 【事後学修】Ch7-6、授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第13回	対面	▶【専門学習とキャリア】先輩学生(留学生OB・OG)による就活経験談 ・多様なキャリアパスをロールモデルとして学ぶ:大企業・中小企業・起業・国際機関等【P③】	【事前学修】配布資料を事前に読んでおく。 【事後学修】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第14回	対面	Ch7-6~7-9 ▶ テーマ:企業を知る・選ぶ④ 業界・企業研究まとめ ・仕事選びの基準(条件・理念・成長・環境など)を自分の価値観と照らし合わせ整理する	【事前学修】配布資料を事前に読んでおく。 【事後学修】これまで授業内で使用した配布資料等を読み直し、期末課題に向けた資料準備。	4時間
第15回	対面	秋学期まとめ・期末課題 全体振り返り:内定獲得に向けた今後のアクションプラン作成	【事前学修】配布資料を事前に読んでおく。 【事後学修】1年間の授業を振り返り、3年次の就職活動に備える。	4時間

科目名	キャリア演習 A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	榎原 千春	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	希望進路の実現に向けて、就業力の向上をはかる。		
授業の目的及び概要	キャリア演習 A では、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することを目的とし、演習の特性を活かしてグループワークを中心に授業を進める。この科目では、主に「自己分析」、「業界・企業研究」、「志望動機作成」に取り組む。希望進路の実現には個人に合わせた事前準備が重要となるため、演習形式の授業を通じて就活準備を始めておくことで、自己理解や企業理解が進み、納得のいく就職活動を進めることができる。 自己を客観的に捉え、論理的に表現する力を身に付けながら、企業研究や業界研究などを通じて産業への知識を深めることで、自らの強みと職業とをリンクさせる志望動機の素地を形成し、職業人となるための基礎力を養成する。 授業においては、双方向型実践型形式、課題解決型授業（PBL）を行う。例えば、グループディスカッション、志望動機形成力、集団面接など実践を通して学ぶ。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自分自身の長所や短所について、根拠や具体的な経験に基づいて説明ができる。 ②社会課題や業界・企業について主体的に研究・探索を行うと共に、多角的な視点を持って思考することができる。 ③自身の希望進路を実現するための計画について、自律的且つ具体的に考え、行動することができる。 ④困難に直面した際も自身で乗り越えるマインドや戦略を持っており、ある程度自分で考え、対処ができる。又、必要な際は助言を求めることができる。 ⑤学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について、理解し説明することができる。 ⑥インターンシップに向けて具体的に業界・企業を絞り、戦略を立てて、活動することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は、翌週の授業で返却し、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、CDA（キャリア・デベロップメント・アドバイザー）、キャリアコンサルタントの資格を有し、民間企業での業務経験に加え、個人事業主として、大学・企業でのキャリアカウンセリングや研修を多数実施してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	—
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	その他 (%)	40
	その他の内容	期末課題
この科目の受講にあたって	本科目の学修にあたっては、課題への積極的取り組みと課題提出が不可欠である。これらの課題にしっかりと取り組んでいけば、就職活動や公務員採用試験に必要な汎用的基礎力が着実に身に付いてくる。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【就業力】ガイダンス 雇用情勢、採用活動スケジュール、授業の流れ等についてガイダンスを行い、自らの経験の棚卸に取り組む。	【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第2回	対面	【職業理解】企業研究入門 業界理解 企業の採用説明会動画を視聴し、業界理解を深める。グループワークを通して、業界・企業研究の方法や情報収集の重要性について理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第3回	対面	【職業理解】企業研究入門 企業の探し方、求人票の見方 ナビサイトを活用し、インターンシップ参加に向けて、企業の探し方と求人票の見方を学ぶ。関心を持った企業へ実際にエントリーを行い、企業研究を行う。情報収集のポイントや調べ方を、実践を通して理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第4回	対面	【職業理解】インターンシップでターゲットにする業界・企業の選定 ターゲットにする業界を複数、企業や官公庁自治体を選定することについて、クラス内で発表する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第5回	対面	【就業力】対象企業へのアプローチ／ディスカッション インターンシップを公募している企業ばかりではないため、志望企業が公募していない場合に、就活も睨んでどのような企業にどのようにアプローチすべきかを考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第6回	対面	【自己理解】エントリーシートの作成に向けて① 就職活動で求められるエントリーシートの作成に向けて、自身の経験の棚卸し、言語化を行う。 リクナビ担当者の解説（教室 ZOOM 中継）のもと、「ガクチカ AI アシスタント」を操作し、自動生成された素案を自分でブラッシュアップしていく方法を習得する。 ※中間課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。就活ナビサイト、「リクナビ」の登録を完了しておく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第7回	対面	【就業力】文章表現力養成講座「読み手に伝わる文章を書こう」（特別講演） 報道記者や人事局などマスコミ業界で幅広い活躍経験をもつゲストスピーカーが、読み手に伝わる文章を書くためのポイントを具体的に解説する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第8回	対面	【自己理解】エントリーシートの作成に向けて② 就職活動で求められるエントリーシート	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

		について、読み手・聞き手に印象に残るよう推敲する。		
第9回	対面	【自己理解】志望動機を考える① 志望動機の評価ポイントを知り、採用者側の意図を理解する。応募企業を1社選び、志望動機の作成を進める。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第10回	対面	【自己理解】志望動機を考える② 応募企業の選定と志望動機作成を進め、グループワークを通じて、作成した志望動機の足りない点や課題に気づき、改善を行う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第11回	オンデマンド	■オンデマンド■【就業力】適性検査対策 採用試験で実施される適性検査について理解する。(経法 SPI の受験)	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第12回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング グループディスカッション 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第13回	対面	【就業力】実践トレーニング 集団面接① 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接（WEB 含む）特有の雰囲気慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第14回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング 集団面接② 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接（WEB 含む）特有の雰囲気慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第15回	対面	まとめ 春学期全体を振り返り、自身の課題への対応や今後の就職活動、公務員試験準備に向けて、これからやるべきことについて整理する。 ※期末課題提出	【予習】春学期の学修に関する期末課題（エントリーシートの作成）を実施するので、第14回までの内容を復習する。 【復習】春学期の授業を振り返り、秋学期に向け行動計画を立てる。	4 時間

科目名	キャリア演習 A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	南 美弥	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	希望進路の実現に向けて、就業力の向上をはかる。		
授業の目的及び概要	キャリア演習 A では、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することを目的とし、演習の特性を活かしてグループワークを中心に授業を進める。この科目では、主に「自己分析」、「業界・企業研究」、「志望動機作成」に取り組む。希望進路の実現には個人に合わせた事前準備が重要となるため、演習形式の授業を通じて就活準備を始めておくことで、自己理解や企業理解が進み、納得のいく就職活動を進めることができる。 自己を客観的に捉え、論理的に表現する力を身に付けながら、企業研究や業界研究などを通じて産業への知識を深めることで、自らの強みと職業とをリンクさせる志望動機の素地を形成し、職業人となるための基礎力を養成する。 授業においては、双方向型実践型形式、課題解決型授業（PBL）を行う。例えば、グループディスカッション、志望動機形成力、集団面接など実践を通して学ぶ。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自分自身の長所や短所について、根拠や具体的な経験に基づいて説明ができる。 ②社会課題や業界・企業について主体的に研究・探索を行うと共に、多角的な視点を持って思考することができる。 ③自身の希望進路を実現するための計画について、自律的且つ具体的に考え、行動することができる。 ④困難に直面した際も自身で乗り越えるマインドや戦略を持っており、ある程度自分で考え、対処ができる。又、必要な際は助言を求めることができる。 ⑤学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について、理解し説明することができる。 ⑥インターンシップに向けて具体的に業界・企業を絞り、戦略を立てて、活動することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は、翌週の授業で返却し、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、キャリアコンサルタントの資格を有し、民間企業での業務経験に加え、ビジネスマナー講師として活動してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	—
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	40	

	その他の内容	期末課題
この科目の受講にあたって	本科目の学修にあたっては、課題への積極的取り組みと課題提出が不可欠である。これらの課題にしっかりと取り組んでいれば、就職活動や公務員採用試験に必要な汎用的基礎力が着実に身に付いてくる。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【就業力】ガイダンス 雇用情勢、採用活動スケジュール、授業の流れ等についてガイダンスを行い、自らの経験の棚卸に取り組む。	【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第2回	対面	【職業理解】企業研究入門 業界理解 企業の採用説明会動画を視聴し、業界理解を深める。グループワークを通して、業界・企業研究の方法や情報収集の重要性について理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第3回	対面	【職業理解】企業研究入門 企業の探し方、求人票の見方 ナビサイトを活用し、インターンシップ参加に向けて、企業の探し方と求人票の見方を学ぶ。関心を持った企業へ実際にエントリーを行い、企業研究を行う。情報収集のポイントや調べ方を、実践を通して理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第4回	対面	【職業理解】インターンシップでターゲットにする業界・企業の選定 ターゲットにする業界を複数、企業や官公庁自治体を選定することについて、クラス内で発表する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第5回	対面	【就業力】対象企業へのアプローチ／ディスカッション インターンシップを公募している企業ばかりではないため、志望企業が公募していない場合に、就活も睨んでどのような企業にどのようにアプローチすべきかを考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第6回	対面	【自己理解】エントリーシートの作成に向けて① 就職活動で求められるエントリーシートの作成に向けて、自身の経験の棚卸し、言語化を行う。 リクナビ担当者の解説（教室 ZOOM 中継）のもと、「ガクチカ AI アシスタント」を操作し、自動生成された素案を自分でブラッシュアップしていく方法を習得する。 ※中間課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。就活ナビサイト、「リクナビ」の登録を完了しておく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第7回	対面	【就業力】文章表現力養成講座「読み手に伝わる文章を書こう」（特別講演） 報道記者や人事局などマスコミ業界で幅広い活躍経験をもつゲストスピーカーが、読み手に伝わる文章を書くためのポイントを具体的に解説する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第8回	対面	【自己理解】エントリーシートの作成に向けて② 就職活動で求められるエントリーシートについて、読み手・聞き手に印象に残るよ	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

		う推敲する。		
第9回	対面	【自己理解】志望動機を考える① 志望動機の評価ポイントを知り、採用者側の意図を理解する。応募企業を1社選び、志望動機の作成を進める。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第10回	対面	【自己理解】志望動機を考える② 応募企業の選定と志望動機作成を進め、グループワークを通じて、作成した志望動機の足りない点や課題に気づき、改善を行う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第11回	オンデマンド	■オンデマンド■【就業力】適性検査対策 採用試験で実施される適性検査について理解する。(経法 SPI の受験)	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第12回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング グループディスカッション 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第13回	対面	【就業力】実践トレーニング 集団面接① 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接（WEB 含む）特有の雰囲気慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第14回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング 集団面接② 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接（WEB 含む）特有の雰囲気慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第15回	対面	まとめ 春学期全体を振り返り、自身の課題への対応や今後の就職活動、公務員試験準備に向けて、これからやるべきことについて整理する。 ※期末課題提出	【予習】春学期の学修に関する期末課題（エントリーシートの作成）を実施するので、第14回までの内容を復習する。 【復習】春学期の授業を振り返り、秋学期に向け行動計画を立てる。	4 時間

科目名	キャリア演習 A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	全 允子	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	希望進路の実現に向けて、就業力の向上をはかる。		
授業の目的及び概要	キャリア演習 A では、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することを目的とし、演習の特性を活かしてグループワークを中心に授業を進める。この科目では、主に「自己分析」、「業界・企業研究」、「志望動機作成」に取り組む。希望進路の実現には個人に合わせた事前準備が重要となるため、演習形式の授業を通じて就活準備を始めておくことで、自己理解や企業理解が進み、納得のいく就職活動を進めることができる。 自己を客観的に捉え、論理的に表現する力を身に付けながら、企業研究や業界研究などを通じて産業への知識を深めることで、自らの強みと職業とをリンクさせる志望動機の素地を形成し、職業人となるための基礎力を養成する。 授業においては、双方向型実践型形式、課題解決型授業（PBL）を行う。例えば、グループディスカッション、志望動機形成力、集団面接など実践を通して学ぶ。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自分自身の長所や短所について、根拠や具体的な経験に基づいて説明ができる。 ②社会課題や業界・企業について主体的に研究・探索を行うと共に、多角的な視点を持って思考することができる。 ③自身の希望進路を実現するための計画について、自律的且つ具体的に考え、行動することができる。 ④困難に直面した際も自身で乗り越えるマインドや戦略を持っており、ある程度自分で考え、対処ができる。又、必要な際は助言を求めることができる。 ⑤学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について、理解し説明することができる。 ⑥インターンシップに向けて具体的に業界・企業を絞り、戦略を立てて、活動することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は、翌週の授業で返却し、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、国家資格キャリアコンサルタントを有し、民間企業で留学生の就職支援を行ってきた。また、ハローワークの職業訓練講師としてキャリアコンサルティングの業務に従事している。本科目では、これらの実務経験を活かして、自己理解・社会理解・職業理解に関する具体的な指導を行う。		
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	—
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	その他 (%)	40
	その他の内容	期末課題
この科目の受講にあたって	本科目の学修にあたっては、課題への積極的取り組みと課題提出が不可欠である。これらの課題にしっかりと取り組んでいけば、就職活動や公務員採用試験に必要な汎用的基礎力が着実に身に付いてくる。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【就業力】ガイダンス 雇用情勢、採用活動スケジュール、授業の流れ等についてガイダンスを行い、自らの経験の棚卸に取り組む。	【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第2回	対面	【職業理解】企業研究入門 業界理解 企業の採用説明会動画を視聴し、業界理解を深める。グループワークを通して、業界・企業研究の方法や情報収集の重要性について理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第3回	対面	【職業理解】企業研究入門 企業の探し方、求人票の見方 ナビサイトを活用し、インターンシップ参加に向けて、企業の探し方と求人票の見方を学ぶ。関心を持った企業へ実際にエントリーを行い、企業研究を行う。情報収集のポイントや調べ方を、実践を通して理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第4回	対面	【職業理解】インターンシップでターゲットにする業界・企業の選定 ターゲットにする業界を複数、企業や官公庁自治体を選定することについて、クラス内で発表する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第5回	対面	【就業力】対象企業へのアプローチ／ディスカッション インターンシップを公募している企業ばかりではないため、志望企業が公募していない場合に、就活も睨んでどのような企業にどのようにアプローチすべきかを考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第6回	対面	【自己理解】エントリーシートの作成に向けて① 就職活動で求められるエントリーシートの作成に向けて、自身の経験の棚卸し、言語化を行う。 リクナビ担当者の解説（教室 ZOOM 中継）のもと、「ガクチカ AI アシスタント」を操作し、自動生成された素案を自分でブラッシュアップしていく方法を習得する。 ※中間課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。就活ナビサイト、「リクナビ」の登録を完了しておく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第7回	対面	【就業力】文章表現力養成講座「読み手に伝わる文章を書こう」（特別講演） 報道記者や人事局などマスコミ業界で幅広い活躍経験をもつゲストスピーカーが、読み手に伝わる文章を書くためのポイントを具体的に解説する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第8回	対面	【自己理解】エントリーシートの作成に向けて② 就職活動で求められるエントリーシート	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

		について、読み手・聞き手に印象に残るよう推敲する。		
第9回	対面	【自己理解】志望動機を考える① 志望動機の評価ポイントを知り、採用者側の意図を理解する。応募企業を1社選び、志望動機の作成を進める。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第10回	対面	【自己理解】志望動機を考える② 応募企業の選定と志望動機作成を進め、グループワークを通じて、作成した志望動機の足りない点や課題に気づき、改善を行う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第11回	オンデマンド	■オンデマンド■【就業力】適性検査対策 採用試験で実施される適性検査について理解する。(経法 SPI の受験)	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第12回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング グループディスカッション 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第13回	対面	【就業力】実践トレーニング 集団面接① 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接 (WEB 含む) 特有の雰囲気慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第14回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング 集団面接② 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接 (WEB 含む) 特有の雰囲気慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第15回	対面	まとめ 春学期全体を振り返り、自身の課題への対応や今後の就職活動、公務員試験準備に向けて、これからやるべきことについて整理する。 ※期末課題提出	【予習】春学期の学修に関する期末課題 (エントリーシートの作成) を実施するので、第 14 回までの内容を復習する。 【復習】春学期の授業を振り返り、秋学期に向け行動計画を立てる。	4 時間

科目名	キャリア演習 A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	南 美弥	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	希望進路の実現に向けて、就業力の向上をはかる。		
授業の目的及び概要	キャリア演習 A では、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することを目的とし、演習の特性を活かしてグループワークを中心に授業を進める。この科目では、主に「自己分析」、「業界・企業研究」、「志望動機作成」に取り組む。希望進路の実現には個人に合わせた事前準備が重要となるため、演習形式の授業を通じて就活準備を始めておくことで、自己理解や企業理解が進み、納得のいく就職活動を進めることができる。 自己を客観的に捉え、論理的に表現する力を身に付けながら、企業研究や業界研究などを通じて産業への知識を深めることで、自らの強みと職業とをリンクさせる志望動機の素地を形成し、職業人となるための基礎力を養成する。 授業においては、双方向型実践型形式、課題解決型授業（PBL）を行う。例えば、グループディスカッション、志望動機形成力、集団面接など実践を通して学ぶ。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自分自身の長所や短所について、根拠や具体的な経験に基づいて説明ができる。 ②社会課題や業界・企業について主体的に研究・探索を行うと共に、多角的な視点を持って思考することができる。 ③自身の希望進路を実現するための計画について、自律的且つ具体的に考え、行動することができる。 ④困難に直面した際も自身で乗り越えるマインドや戦略を持っており、ある程度自分で考え、対処ができる。又、必要な際は助言を求めることができる。 ⑤学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について、理解し説明することができる。 ⑥インターンシップに向けて具体的に業界・企業を絞り、戦略を立てて、活動することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は、翌週の授業で返却し、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、キャリアコンサルタントの資格を有し、民間企業での業務経験に加え、ビジネスマナー講師として活動してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	—
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	40	

	その他の内容	期末課題
この科目の受講にあたって	本科目の学修にあたっては、課題への積極的取り組みと課題提出が不可欠である。これらの課題にしっかりと取り組んでいけば、就職活動や公務員採用試験に必要な汎用的基礎力が着実に身に付いてくる。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【就業力】ガイダンス 雇用情勢、採用活動スケジュール、授業の流れ等についてガイダンスを行い、自らの経験の棚卸に取り組む。	【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第2回	対面	【職業理解】企業研究入門 業界理解 企業の採用説明会動画を視聴し、業界理解を深める。グループワークを通して、業界・企業研究の方法や情報収集の重要性について理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第3回	対面	【職業理解】企業研究入門 企業の探し方、求人票の見方 ナビサイトを活用し、インターンシップ参加に向けて、企業の探し方と求人票の見方を学ぶ。関心を持った企業へ実際にエントリーを行い、企業研究を行う。情報収集のポイントや調べ方を、実践を通して理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第4回	対面	【職業理解】インターンシップでターゲットにする業界・企業の選定 ターゲットにする業界を複数、企業や官公庁自治体を選定することについて、クラス内で発表する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第5回	対面	【就業力】対象企業へのアプローチ／ディスカッション インターンシップを公募している企業ばかりではないため、志望企業が公募していない場合に、就活も睨んでどのような企業にどのようにアプローチすべきかを考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第6回	対面	【自己理解】エントリーシートの作成に向けて① 就職活動で求められるエントリーシートの作成に向けて、自身の経験の棚卸し、言語化を行う。 リクナビ担当者の解説（教室 ZOOM 中継）のもと、「ガクチカ AI アシスタント」を操作し、自動生成された素案を自分でブラッシュアップしていく方法を習得する。 ※中間課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。就活ナビサイト、「リクナビ」の登録を完了しておく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第7回	対面	【就業力】文章表現力養成講座「読み手に伝わる文章を書こう」（特別講演） 報道記者や人事局などマスコミ業界で幅広い活躍経験をもつゲストスピーカーが、読み手に伝わる文章を書くためのポイントを具体的に解説する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第8回	対面	【自己理解】エントリーシートの作成に向けて② 就職活動で求められるエントリーシートについて、読み手・聞き手に印象に残るよ	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

		う推敲する。		
第9回	対面	【自己理解】志望動機を考える① 志望動機の評価ポイントを知り、採用者側の意図を理解する。応募企業を1社選び、志望動機の作成を進める。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第10回	対面	【自己理解】志望動機を考える② 応募企業の選定と志望動機作成を進め、グループワークを通じて、作成した志望動機の足りない点や課題に気づき、改善を行う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第11回	オンデマンド	■オンデマンド■【就業力】適性検査対策 採用試験で実施される適性検査について理解する。(経法 SPI の受験)	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第12回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング グループディスカッション 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第13回	対面	【就業力】実践トレーニング 集団面接① 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接（WEB 含む）特有の雰囲気慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第14回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング 集団面接② 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接（WEB 含む）特有の雰囲気慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第15回	対面	まとめ 春学期全体を振り返り、自身の課題への対応や今後の就職活動、公務員試験準備に向けて、これからやるべきことについて整理する。 ※期末課題提出	【予習】春学期の学修に関する期末課題（エントリーシートの作成）を実施するので、第14回までの内容を復習する。 【復習】春学期の授業を振り返り、秋学期に向け行動計画を立てる。	4 時間

科目名	キャリア演習 A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	榎原 千春	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	希望進路の実現に向けて、就業力の向上をはかる。		
授業の目的及び概要	キャリア演習 A では、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することを目的とし、演習の特性を活かしてグループワークを中心に授業を進める。この科目では、主に「自己分析」、「業界・企業研究」、「志望動機作成」に取り組む。希望進路の実現には個人に合わせた事前準備が重要となるため、演習形式の授業を通じて就活準備を始めておくことで、自己理解や企業理解が進み、納得のいく就職活動を進めることができる。 自己を客観的に捉え、論理的に表現する力を身に付けながら、企業研究や業界研究などを通じて産業への知識を深めることで、自らの強みと職業とをリンクさせる志望動機の素地を形成し、職業人となるための基礎力を養成する。 授業においては、双方向型実践型形式、課題解決型授業（PBL）を行う。例えば、グループディスカッション、志望動機形成力、集団面接など実践を通して学ぶ。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自分自身の長所や短所について、根拠や具体的な経験に基づいて説明ができる。 ②社会課題や業界・企業について主体的に研究・探索を行うと共に、多角的な視点を持って思考することができる。 ③自身の希望進路を実現するための計画について、自律的且つ具体的に考え、行動することができる。 ④困難に直面した際も自身で乗り越えるマインドや戦略を持っており、ある程度自分で考え、対処ができる。又、必要な際は助言を求めることができる。 ⑤学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について、理解し説明することができる。 ⑥インターンシップに向けて具体的に業界・企業を絞り、戦略を立てて、活動することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は、翌週の授業で返却し、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、CDA（キャリア・デベロップメント・アドバイザー）、キャリアコンサルタントの資格を有し、民間企業での業務経験に加え、個人事業主として、大学・企業でのキャリアカウンセリングや研修を多数実施してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	—
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	その他 (%)	40
	その他の内容	期末課題
この科目の受講にあたって	本科目の学修にあたっては、課題への積極的取り組みと課題提出が不可欠である。これらの課題にしっかりと取り組んでいけば、就職活動や公務員採用試験に必要な汎用的基礎力が着実に身に付いてくる。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【就業力】ガイダンス 雇用情勢、採用活動スケジュール、授業の流れ等についてガイダンスを行い、自らの経験の棚卸に取り組む。	【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第2回	対面	【職業理解】企業研究入門 業界理解 企業の採用説明会動画を視聴し、業界理解を深める。グループワークを通して、業界・企業研究の方法や情報収集の重要性について理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第3回	対面	【職業理解】企業研究入門 企業の探し方、求人票の見方 ナビサイトを活用し、インターンシップ参加に向けて、企業の探し方と求人票の見方を学ぶ。関心を持った企業へ実際にエントリーを行い、企業研究を行う。情報収集のポイントや調べ方を、実践を通して理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第4回	対面	【職業理解】インターンシップでターゲットにする業界・企業の選定 ターゲットにする業界を複数、企業や官公庁自治体を選定することについて、クラス内で発表する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第5回	対面	【就業力】対象企業へのアプローチ／ディスカッション インターンシップを公募している企業ばかりではないため、志望企業が公募していない場合に、就活も睨んでどのような企業にどのようにアプローチすべきかを考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第6回	対面	【自己理解】エントリーシートの作成に向けて① 就職活動で求められるエントリーシートの作成に向けて、自身の経験の棚卸し、言語化を行う。 リクナビ担当者の解説（教室 ZOOM 中継）のもと、「ガクチカ AI アシスタント」を操作し、自動生成された素案を自分でブラッシュアップしていく方法を習得する。 ※中間課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。就活ナビサイト、「リクナビ」の登録を完了しておく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第7回	対面	【就業力】文章表現力養成講座「読み手に伝わる文章を書こう」（特別講演） 報道記者や人事局などマスコミ業界で幅広い活躍経験をもつゲストスピーカーが、読み手に伝わる文章を書くためのポイントを具体的に解説する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第8回	対面	【自己理解】エントリーシートの作成に向けて② 就職活動で求められるエントリーシート	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

		について、読み手・聞き手に印象に残るよう推敲する。		
第9回	対面	【自己理解】志望動機を考える① 志望動機の評価ポイントを知り、採用者側の意図を理解する。応募企業を1社選び、志望動機の作成を進める。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第10回	対面	【自己理解】志望動機を考える② 応募企業の選定と志望動機作成を進め、グループワークを通じて、作成した志望動機の足りない点や課題に気づき、改善を行う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第11回	オンデマンド	■オンデマンド■【就業力】適性検査対策 採用試験で実施される適性検査について理解する。(経法 SPI の受験)	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第12回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング グループディスカッション 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第13回	対面	【就業力】実践トレーニング 集団面接① 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接 (WEB 含む) 特有の雰囲気慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第14回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング 集団面接② 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接 (WEB 含む) 特有の雰囲気慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第15回	対面	まとめ 春学期全体を振り返り、自身の課題への対応や今後の就職活動、公務員試験準備に向けて、これからやるべきことについて整理する。 ※期末課題提出	【予習】春学期の学修に関する期末課題 (エントリーシートの作成) を実施するので、第14回までの内容を復習する。 【復習】春学期の授業を振り返り、秋学期に向け行動計画を立てる。	4 時間

科目名	キャリア演習 A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	全 允子	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	希望進路の実現に向けて、就業力の向上をはかる。		
授業の目的及び概要	キャリア演習 A では、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することをねらいとし、演習の特性を活かしてグループワークを中心に授業を進める。この科目では、主に「自己分析」、「業界・企業研究」、「志望動機作成」に取り組む。 自己を客観的に捉え、論理的に表現する力を身に付けながら、企業研究や業界研究などを通じて産業への知識を深めることで、自らの強みと職業とをリンクさせる志望動機の素地を形成し、職業人となるための基礎力を養成する。 授業においては、双方向型実践型形式を行う。例えば、グループディスカッション、志望動機アピール、集団面接、個人面接など実践を通して学ぶ。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自分自身の長所や短所について、日本語で根拠や具体的な経験に基づいて説明ができる ②社会課題や業界・企業について主体的に研究・探索を行うと共に、多角的な視点を持って思考することができる。 ③自身の希望進路を実現するための計画について、自律的且つ具体的に考え、行動することができる。 ④困難に直面した際も自身で乗り越えるマインドや戦略で対処ができ、自身の体験を基に周りに助言を求めることができる。 ⑤学部の進路として想定される業界の特色、留学生として求められる人材像を理解し説明することができる。 ⑥インターンシップに向けて具体的に業界・企業を絞り、戦略を立てて、活動することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は、翌週の授業で返却し、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、国家資格キャリアコンサルタントを有し、民間企業で留学生の就職支援を行ってきた。また、ハローワークの職業訓練講師としてキャリアコンサルティングの業務に従事している。本科目では、これらの実務経験を活かして、自己理解・社会理解・職業理解に関する具体的な指導を行う。		
テキスト	改訂版 留学生のための就職内定ワークブック, 久保田 学, 日本能率協会マネジメントセンター, 2022 年	ISBN	9784820729907
参考書	① 就職四季報 企業研究・インターンシップ版, 東洋経済新報社, 2027 年（図書館 DB で閲覧可） ② 会社四季報 業界地図, 東洋経済新報社, 2026 年（図書館 DB で閲覧可） ③ 就職四季報 総合版, 東洋経済新報社, 2027-28 年度版（図書館 DB で閲覧可） ④ 絶対内定 2027 自己分析とキャリアデザインの描き方, 杉村太郎他, ダイヤモンド社, 2025 年 ⑤ 絶対内定 2027 エントリーシート・面接, 杉村太郎, ダイヤモンド, 2025 年 ⑥ 絶対内定 2025-2027 インターシップ, 藤本 健	ISBN	① 9784492974391 ② 9784492973356 ③ 9784492971420 ④ 9784478122297 ⑤ 9784478122303 ⑥ 9784478117552

	司, ダイヤモンド社, 2023 年	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	30
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	・本科目の学修にあたっては、課題への積極的取り組みと課題提出が不可欠である。これらの課題にしっかりと取り組んでいけば、就職活動に必要な汎用的基礎力が着実に身に付いてくる。 ・なお、テキストは秋学期も使用する。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【就業力】ガイダンス 雇用情勢、採用活動スケジュール、授業の流れ等についてガイダンスを行い、自らの経験の棚卸に取り組む。 自己分析ワーク ガクチカ①	【事後学修】 テキスト該当箇所を読み復習。	2 時間
第2回	対面	【職業理解】企業研究入門 業界理解 企業の採用説明会動画を視聴し、業界理解を深める。グループワークを通して、業界・企業研究の方法や情報収集の重要性について理解する。 自己分析ワーク ガクチカ②	【事前学習】 興味のある業界・企業研究の方法や情報収集 【事後学修】 収集した業界・企業の情報について、さらにふかく調べる	4 時間
第3回	対面	【職業理解】企業研究入門 企業の探し方、求人票の見方 ナビサイトを活用し、インターンシップ参加に向けて、企業の探し方と求人票の見方を学び、求人 NAVI を活用し、留学生を積極採用する企業情報と求人票を検索する。関心を持った企業へは実際にエントリーを行い、企業研究を行う。情報収集のポイントや調べ方を、実践を通して理解する。 業界研究ワークシート①／企業研究ワークシート①	【事前学習】 ナビサイトのサイトの確認、登録をしておく 【事後学修】 ワークシートの完成	4 時間
第4回	対面	【職業理解】インターンシップでターゲットにする業界・企業の選定 ターゲットにする業界を複数選定することについて、クラス内で発表する。 [OB・OG ローモデル紹介]、業界研究ワークシート②／企業研究ワークシート②	【事前学習】 ターゲットにする企業を複数調べてくる 【事後学修】 ワークシートの完成	4 時間
第5回	対面	【就業力】対象企業へのアプローチ／ディスカッション インターンシップを公募している企業ばかりではないため、志望企業が公募していない場合に、就活も睨んでどのような企業にどのようにアプローチすべきかを考える。 業界研究ワークシート③／企業研究ワークシート③	【事前学習】 インターンシップのある企業、ない企業を調べてくる 【事後学修】 ワークシートの完成	4 時間
第6回	対面	【自己理解】エントリーシートの作成に向けて①	【事前学習】 自分のこれまでの経験をまとめてくる 【事後学修】 ワークシートの完成	4 時間

		就職活動で求められるエントリーシートの作成に向けて、自身の経験の棚卸し、言語化を行う。 ガクチカ・自己PR作成ワーク①		
第7回	対面	【自己理解】エントリーシートの作成に向けて② 就職活動で求められるエントリーシートについて日本語で読み手、聞き手に印象に残るような内容、話しかたを学ぶ ガクチカ・自己PR作成ワーク②	【事前学習】エントリーシートの推敲をすすめて、完成する 【事後学修】ワークシートの完成	4 時間
第8回	対面	【就業力】読み手に伝わる文章を書く 幅広い実務経験をもつ講師が、読み手に伝わる文章を書くためのポイントを具体的に解説する。 ※中間課題提出	【事前学習】中間課題に向けてこれまでの授業内容をふり振り返り準備する 【事後学修】次回の授業範囲を調べておく	6 時間
第9回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング グループディスカッション 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。 夏季インターンシップにエントリー	【事前学習】専攻（メジャー）をどのように将来生かすかを考えてくる 【事後学修】インターンシップのエントリーを完了する	4 時間
第10回	オンデマンド	■オンデマンド■【就業力】適性検査対策 採用試験で実施される適性検査について理解する。（経法SPIの受験）	【事前学習】SPIの取り組み 【事後学修】SPI復習	4 時間
第11回	対面	在留資格変更の正確な理解	【事前学習】在留資格認定証明書の確認と卒業後の進路を考えてくる 【事後学修】志望進路と在留資格の種類を調べてくる	4 時間
第12回	対面	【自己理解】志望動機を考える① 応募企業の選定と志望動機作成を進め、グループワークを通じて、作成した志望動機の足りない点や課題に気づき、改善を行う。	【事前学習】志望動機を作成してくる 【事後学修】作成した志望動機の足りない点や課題を補足し完成する	4 時間
第13回	対面	【自己理解】志望動機を考える② 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接（WEB含む）特有の雰囲気慣れとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【事前学習】集団面接で必要なポイントを調べておく 【事後学修】エントリーする企業の入社試験を形式を調べる	4 時間
第14回	対面	【就業力】実践トレーニング 集団面接 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接（WEB含む）特有の雰囲気慣れとともに、日本語で簡潔に自己表現する力を養う。	【事前学習】面接トレーニングでの課題を踏まえ、話す練習をする。 【事後学修】面接での振る舞いや言葉遣いを確認する。	4 時間
第15回	対面	まとめ 春学期全体を振り返り、自身の課題への対応や今後の就職活動に向けて、これからやるべきことについて整理する。	【事前学習】これまでの授業内容、資料をふり振り返り、課題についてまとめてくる。 【事後学修】秋学期からのアクションプランを考える。	4 時間

科目名	キャリア演習 B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	南 美弥	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	希望進路の実現に向けて、就業力の向上をはかる。		
授業の目的及び概要	キャリア演習 B では、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することをねらいとし、演習の特性を活かしてワークを中心に授業を進める。このうちこの科目では、就職活動に際しての実践力養成を行うことを目的とする。希望進路の実現には個人に合わせた事前準備が重要となるため、演習形式の授業を通じて就活準備を始めておくことで、自己理解や企業理解が進み、納得のいく就職活動を進めることができる。 授業において、双方向型実践型形式、課題解決型授業（PBL）を行う。例えば、グループディスカッション、志望動機形成力、集団面接、個人面接など実践を通して学ぶ。 また、授業後半には、進路を決定した 4 年生が「キャリアメンター」として参画し、アドバイス等を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自身の強みを将来どのように活かしたいか具体的且つ効果的に述べることができる。 ②社会課題や業界・企業について、主体的に研究・探索し、思考を深めると共に自身の志望動機や将来のキャリア展望と結びつけて表現ができる。 ③自身の希望進路を実現するための計画について、自律的且つ具体的に考え、行動ができる。 ④困難に直面した際も自身で乗り越えるマインドや戦略を持ち対処ができ、自身の体験談を基に周りに助言を行うことができる。 ⑤学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について理解し、説明することができる。 ⑥就活本番に向けて、具体的に業界・企業を絞り、戦略を立てて、活動することができる。 ⑦就活で、採用評価につながる発言を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）等、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、キャリアコンサルタントの資格を有し、民間企業での業務経験に加え、ビジネスマナー講師として活動してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	—
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	40	
	その他の内容	期末課題	
この科目の受講に	本科目の学修にあたっては、課題への積極的取り組みと課題提出が不可欠である。これらの課		

あたって	題にしっかりと取り組んでいれば、就職活動や公務員採用試験に必要な汎用的基礎力、就業力が着実に身に付いてくる。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【就業力】ガイダンス・夏休みの振り返り 夏休み中の取り組みを振り返り、今後の就職活動の目標とスケジュールを確認し、実践力を高める。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第2回	対面	【就活戦略】就活本番に向けて、インターンシップの参加経験を踏まえて、ターゲットを再設定する。 ターゲットにする業界、企業を、インターンシップ経験を踏まえて、再設定する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第3回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング グループディスカッション① 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。特に集团内で採用評価につながる発言ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第4回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング グループディスカッション② 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。特に集团内で採用評価につながる発言ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第5回	オンデマンド	■オンデマンド■【就業力】特別講演：ビジネスマナーの基本（プロカメラマンによる「外見力」講座） プロの写真家が、動画選考や証明写真における表情・髪型等による印象の違いや、選考での印象面の重要性について講演を行う。業界・企業の特徴を踏まえ、外見力で自己表現する面白さ等について、具体的に解説する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第6回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】企業研究入門 企業実務家から業界・職種を知る（特別講演） 学部特性に合わせた企業実務家による特別講演を行い、業界・職業理解と求められる人物像を知る。また、講演者の学生時代から現在までの職業観に触れることで、業界研究や同業他社比較などの情報収集の重要性を理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第7回	対面	【職業理解】就職活動とキャリア これまでの学習を通じて得られた学びから、自身の希望進路を実現するために必要なことについて内省し、まとめる。 ※中間課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第8回	対面	【就業力】実践トレーニング 集団面接① 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気慣れとともに、簡潔に自己表現する力を養う。特に集团内で採用	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

		評価につながる自己表現ができるようにする。		
第9回	対面	【就業力】実践トレーニング 集団面接② 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気慣れとともに、簡潔に自己表現する力を養う。特に集団内で採用評価につながる自己表現ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第10回	対面	【就業力】実践トレーニング 集団面接③ 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気慣れとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第11回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接① 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第12回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接② 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第13回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接③ 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第14回	対面	【職業理解】労働法について 内定後～入社まで、入社後の基本的な労働に関する法律に関して理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第15回	対面	まとめ これまで学修してきた内容について振り返りを行い、総括する。 ※期末課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】1年間の授業を振り返り、今後の就職活動に備える。	4 時間

科目名	キャリア演習 B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	榎原 千春	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	希望進路の実現に向けて、就業力の向上をはかる。		
授業の目的及び概要	キャリア演習 B では、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することをねらいとし、演習の特性を活かしてワークを中心に授業を進める。このうちこの科目では、就職活動に際しての実践力養成を行うことを目的とする。希望進路の実現には個人に合わせた事前準備が重要となるため、演習形式の授業を通じて就活準備を始めておくことで、自己理解や企業理解が進み、納得のいく就職活動を進めることができる。 授業において、双方向型実践型形式、課題解決型授業（PBL）を行う。例えば、グループディスカッション、志望動機形成力、集団面接、個人面接など実践を通して学ぶ。 また、授業後半には、進路を決定した 4 年生が「キャリアメンター」として参画し、アドバイス等を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自身の強みを将来どのように活かしたいか具体的且つ効果的に述べることができる。 ②社会課題や業界・企業について、主体的に研究・探索し、思考を深めると共に自身の志望動機や将来のキャリア展望と結びつけて表現ができる。 ③自身の希望進路を実現するための計画について、自律的且つ具体的に考え、行動ができる。 ④困難に直面した際も自身で乗り越えるマインドや戦略を持ち対処ができ、自身の体験談を基に周りに助言を行うことができる。 ⑤学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について理解し、説明することができる。 ⑥就活本番に向けて、具体的に業界・企業を絞り、戦略を立てて、活動することができる。 ⑦就活で、採用評価につながる発言を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）等、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、CDA（キャリア・デベロップメント・アドバイザー）、キャリアコンサルタントの資格を有し、民間企業での業務経験に加え、個人事業主として、大学・企業でのキャリアカウンセリングや研修を多数実施してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	—
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	40	
	その他の内容	期末課題	

この科目の受講にあたって	本科目の学修にあたっては、課題への積極的取り組みと課題提出が不可欠である。これらの課題にしっかりと取り組んでいれば、就職活動や公務員採用試験に必要な汎用的基礎力、就業力が着実に身に付いてくる。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【就業力】ガイダンス・夏休みの振り返り 夏休み中の取り組みを振り返り、今後の就職活動の目標とスケジュールを確認し、実践力を高める。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第2回	対面	【就活戦略】就活本番に向けて、インターンシップの参加経験を踏まえて、ターゲットを再設定する。 ターゲットにする業界、企業を、インターンシップ経験を踏まえて、再設定する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第3回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング グループディスカッション① 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。特に集团内で採用評価につながる発言ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第4回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング グループディスカッション② 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。特に集团内で採用評価につながる発言ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第5回	オンデマンド	■オンデマンド■【就業力】特別講演：ビジネスマナーの基本（プロカメラマンによる「外見力」講座） プロの写真家が、動画選考や証明写真における表情・髪型等による印象の違いや、選考での印象面の重要性について講演を行う。業界・企業の特徴を踏まえ、外見力で自己表現する面白さ等について、具体的に解説する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第6回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】企業研究入門 企業実務家から業界・職種を知る（特別講演） 学部特性に合わせた企業実務家による特別講演を行い、業界・職業理解と求められる人物像を知る。また、講演者の学生時代から現在までの職業観に触れることで、業界研究や同業他社比較などの情報収集の重要性を理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第7回	対面	【職業理解】就職活動とキャリア これまでの学習を通じて得られた学びから、自身の希望進路を実現するために必要なことについて内省し、まとめる。 ※中間課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第8回	対面	【就業力】実践トレーニング 集団面接① 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気慣れとともに、簡潔に	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

		自己表現する力を養う。特に集団内で採用評価につながる自己表現ができるようにする。		
第9回	対面	【就業力】実践トレーニング 集団面接② 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気慣れとともに、簡潔に自己表現する力を養う。特に集団内で採用評価につながる自己表現ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第10回	対面	【就業力】実践トレーニング 集団面接③ 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気慣れとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第11回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接① 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第12回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接② 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第13回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接③ 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第14回	対面	【職業理解】労働法について 内定後～入社まで、入社後の基本的な労働に関する法律に関して理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第15回	対面	まとめ これまで学修してきた内容について振り返りを行い、総括する。 ※期末課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】1年間の授業を振り返り、今後の就職活動に備える。	4 時間

科目名	キャリア演習 B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	全 允子	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	希望進路の実現に向けて、就業力の向上をはかる。		
授業の目的及び概要	キャリア演習 B では、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することをねらいとし、演習の特性を活かしてワークを中心に授業を進める。このうちこの科目では、就職活動に際しての実践力養成を行うことを目的とする。希望進路の実現には個人に合わせた事前準備が重要となるため、演習形式の授業を通じて就活準備を始めておくことで、自己理解や企業理解が進み、納得のいく就職活動を進めることができる。 授業において、双方向型実践型形式、課題解決型授業（PBL）を行う。例えば、グループディスカッション、志望動機形成力、集団面接、個人面接など実践を通して学ぶ。 また、授業後半には、進路を決定した 4 年生が「キャリアメンター」として参画し、アドバイス等を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自身の強みを将来どのように活かしたいか具体的且つ効果的に述べることができる。 ②社会課題や業界・企業について、主体的に研究・探索し、思考を深めると共に自身の志望動機や将来のキャリア展望と結びつけて表現ができる。 ③自身の希望進路を実現するための計画について、自律的且つ具体的に考え、行動ができる。 ④困難に直面した際も自身で乗り越えるマインドや戦略を持ち対処ができ、自身の体験談を基に周りに助言を行うことができる。 ⑤学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について理解し、説明することができる。 ⑥就活本番に向けて、具体的に業界・企業を絞り、戦略を立てて、活動することができる。 ⑦就活で、採用評価につながる発言を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）等、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、国家資格キャリアコンサルタントを有し、民間企業で留学生の就職支援を行ってきた。また、ハローワークの職業訓練講師としてキャリアコンサルティングの業務に従事している。本科目では、これらの実務経験を活かして、自己理解・社会理解・職業理解に関する具体的な指導を行う。		
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	—
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	40	
	その他の内容	期末課題	

この科目の受講にあたって	本科目の学修にあたっては、課題への積極的取り組みと課題提出が不可欠である。これらの課題にしっかりと取り組んでいれば、就職活動や公務員採用試験に必要な汎用的基礎力、就業力が着実に身に付いてくる。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【就業力】ガイダンス・夏休みの振り返り 夏休み中の取り組みを振り返り、今後の就職活動の目標とスケジュールを確認し、実践力を高める。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第2回	対面	【就活戦略】就活本番に向けて、インターンシップの参加経験を踏まえて、ターゲットを再設定する。 ターゲットにする業界、企業を、インターンシップ経験を踏まえて、再設定する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第3回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング グループディスカッション① 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。特に集团内で採用評価につながる発言ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第4回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング グループディスカッション② 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。特に集团内で採用評価につながる発言ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第5回	オンデマンド	■オンデマンド■【就業力】特別講演：ビジネスマナーの基本（プロカメラマンによる「外見力」講座） プロの写真家が、動画選考や証明写真における表情・髪型等による印象の違いや、選考での印象面の重要性について講演を行う。業界・企業の特徴を踏まえ、外見力で自己表現する面白さ等について、具体的に解説する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第6回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】企業研究入門 企業実務家から業界・職種を知る（特別講演） 学部特性に合わせた企業実務家による特別講演を行い、業界・職業理解と求められる人物像を知る。また、講演者の学生時代から現在までの職業観に触れることで、業界研究や同業他社比較などの情報収集の重要性を理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第7回	対面	【職業理解】就職活動とキャリア これまでの学習を通じて得られた学びから、自身の希望進路を実現するために必要なことについて内省し、まとめる。 ※中間課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第8回	対面	【就業力】実践トレーニング 集団面接① 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気慣れとともに、簡潔に	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

		自己表現する力を養う。特に集団内で採用評価につながる自己表現ができるようにする。		
第9回	対面	【就業力】実践トレーニング 集団面接② 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気になれるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。特に集団内で採用評価につながる自己表現ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第10回	対面	【就業力】実践トレーニング 集団面接③ 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気になれるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第11回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接① 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第12回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接② 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第13回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接③ 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第14回	対面	【職業理解】労働法について 内定後～入社まで、入社後の基本的な労働に関する法律に関して理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第15回	対面	まとめ これまで学修してきた内容について振り返りを行い、総括する。 ※期末課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】1年間の授業を振り返り、今後の就職活動に備える。	4 時間

科目名	キャリア演習 B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	南 美弥	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	希望進路の実現に向けて、就業力の向上をはかる。		
授業の目的及び概要	キャリア演習 B では、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することをねらいとし、演習の特性を活かしてワークを中心に授業を進める。このうちこの科目では、就職活動に際しての実践力養成を行うことを目的とする。希望進路の実現には個人に合わせた事前準備が重要となるため、演習形式の授業を通じて就活準備を始めておくことで、自己理解や企業理解が進み、納得のいく就職活動を進めることができる。 授業において、双方向型実践型形式、課題解決型授業（PBL）を行う。例えば、グループディスカッション、志望動機形成力、集団面接、個人面接など実践を通して学ぶ。 また、授業後半には、進路を決定した 4 年生が「キャリアメンター」として参画し、アドバイス等を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自身の強みを将来どのように活かしたいか具体的且つ効果的に述べることができる。 ②社会課題や業界・企業について、主体的に研究・探索し、思考を深めると共に自身の志望動機や将来のキャリア展望と結びつけて表現ができる。 ③自身の希望進路を実現するための計画について、自律的且つ具体的に考え、行動ができる。 ④困難に直面した際も自身で乗り越えるマインドや戦略を持ち対処ができ、自身の体験談を基に周りに助言を行うことができる。 ⑤学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について理解し、説明することができる。 ⑥就活本番に向けて、具体的に業界・企業を絞り、戦略を立てて、活動することができる。 ⑦就活で、採用評価につながる発言を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）等、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、キャリアコンサルタントの資格を有し、民間企業での業務経験に加え、ビジネスマナー講師として活動してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	—
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	40	
	その他の内容	期末課題	
この科目の受講に	本科目の学修にあたっては、課題への積極的取り組みと課題提出が不可欠である。これらの課		

あたって	題にしっかりと取り組んでいれば、就職活動や公務員採用試験に必要な汎用的基礎力、就業力が着実に身に付いてくる。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【就業力】ガイダンス・夏休みの振り返り 夏休み中の取り組みを振り返り、今後の就職活動の目標とスケジュールを確認し、実践力を高める。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第2回	対面	【就活戦略】就活本番に向けて、インターンシップの参加経験を踏まえて、ターゲットを再設定する。 ターゲットにする業界、企業を、インターンシップ経験を踏まえて、再設定する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第3回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング グループディスカッション① 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。特に集团内で採用評価につながる発言ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第4回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング グループディスカッション② 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。特に集团内で採用評価につながる発言ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第5回	オンデマンド	■オンデマンド■【就業力】特別講演：ビジネスマナーの基本（プロカメラマンによる「外見力」講座） プロの写真家が、動画選考や証明写真における表情・髪型等による印象の違いや、選考での印象面の重要性について講演を行う。業界・企業の特徴を踏まえ、外見力で自己表現する面白さ等について、具体的に解説する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第6回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】企業研究入門 企業実務家から業界・職種を知る（特別講演） 学部特性に合わせた企業実務家による特別講演を行い、業界・職業理解と求められる人物像を知る。また、講演者の学生時代から現在までの職業観に触れることで、業界研究や同業他社比較などの情報収集の重要性を理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第7回	対面	【職業理解】就職活動とキャリア これまでの学習を通じて得られた学びから、自身の希望進路を実現するために必要なことについて内省し、まとめる。 ※中間課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第8回	対面	【就業力】実践トレーニング 集団面接① 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気慣れとともに、簡潔に自己表現する力を養う。特に集团内で採用	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

		評価につながる自己表現ができるようにする。		
第9回	対面	【就業力】実践トレーニング 集団面接② 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気慣れとともに、簡潔に自己表現する力を養う。特に集団内で採用評価につながる自己表現ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第10回	対面	【就業力】実践トレーニング 集団面接③ 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気慣れとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第11回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接① 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第12回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接② 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第13回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接③ 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第14回	対面	【職業理解】労働法について 内定後～入社まで、入社後の基本的な労働に関する法律に関して理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第15回	対面	まとめ これまで学修してきた内容について振り返りを行い、総括する。 ※期末課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】1年間の授業を振り返り、今後の就職活動に備える。	4 時間

科目名	キャリア演習 B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	榎原 千春	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	希望進路の実現に向けて、就業力の向上をはかる。		
授業の目的及び概要	キャリア演習 B では、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することをねらいとし、演習の特性を活かしてワークを中心に授業を進める。このうちこの科目では、就職活動に際しての実践力養成を行うことを目的とする。希望進路の実現には個人に合わせた事前準備が重要となるため、演習形式の授業を通じて就活準備を始めておくことで、自己理解や企業理解が進み、納得のいく就職活動を進めることができる。 授業において、双方向型実践型形式、課題解決型授業（PBL）を行う。例えば、グループディスカッション、志望動機形成力、集団面接、個人面接など実践を通して学ぶ。 また、授業後半には、進路を決定した 4 年生が「キャリアメンター」として参画し、アドバイス等を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自身の強みを将来どのように活かしたいか具体的且つ効果的に述べることができる。 ②社会課題や業界・企業について、主体的に研究・探索し、思考を深めると共に自身の志望動機や将来のキャリア展望と結びつけて表現ができる。 ③自身の希望進路を実現するための計画について、自律的且つ具体的に考え、行動ができる。 ④困難に直面した際も自身で乗り越えるマインドや戦略を持ち対処ができ、自身の体験談を基に周りに助言を行うことができる。 ⑤学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について理解し、説明することができる。 ⑥就活本番に向けて、具体的に業界・企業を絞り、戦略を立てて、活動することができる。 ⑦就活で、採用評価につながる発言を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）等、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、CDA（キャリア・デベロップメント・アドバイザー）、キャリアコンサルタントの資格を有し、民間企業での業務経験に加え、個人事業主として、大学・企業でのキャリアカウンセリングや研修を多数実施してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	—
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	40	
	その他の内容	期末課題	

この科目の受講にあたって	本科目の学修にあたっては、課題への積極的取り組みと課題提出が不可欠である。これらの課題にしっかりと取り組んでいれば、就職活動や公務員採用試験に必要な汎用的基礎力、就業力が着実に身に付いてくる。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【就業力】ガイダンス・夏休みの振り返り 夏休み中の取り組みを振り返り、今後の就職活動の目標とスケジュールを確認し、実践力を高める。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第2回	対面	【就活戦略】就活本番に向けて、インターンシップの参加経験を踏まえて、ターゲットを再設定する。 ターゲットにする業界、企業を、インターンシップ経験を踏まえて、再設定する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第3回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング グループディスカッション① 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。特に集团内で採用評価につながる発言ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第4回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング グループディスカッション② 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。特に集团内で採用評価につながる発言ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第5回	オンデマンド	■オンデマンド■【就業力】特別講演：ビジネスマナーの基本（プロカメラマンによる「外見力」講座） プロの写真家が、動画選考や証明写真における表情・髪型等による印象の違いや、選考での印象面の重要性について講演を行う。業界・企業の特徴を踏まえ、外見力で自己表現する面白さ等について、具体的に解説する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第6回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】企業研究入門 企業実務家から業界・職種を知る（特別講演） 学部特性に合わせた企業実務家による特別講演を行い、業界・職業理解と求められる人物像を知る。また、講演者の学生時代から現在までの職業観に触れることで、業界研究や同業他社比較などの情報収集の重要性を理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第7回	対面	【職業理解】就職活動とキャリア これまでの学習を通じて得られた学びから、自身の希望進路を実現するために必要なことについて内省し、まとめる。 ※中間課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第8回	対面	【就業力】実践トレーニング 集団面接① 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気慣れとともに、簡潔に	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

		自己表現する力を養う。特に集団内で採用評価につながる自己表現ができるようにする。		
第9回	対面	【就業力】実践トレーニング 集団面接② 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気慣れとともに、簡潔に自己表現する力を養う。特に集団内で採用評価につながる自己表現ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第10回	対面	【就業力】実践トレーニング 集団面接③ 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気慣れとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第11回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接① 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第12回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接② 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第13回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接③ 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第14回	対面	【職業理解】労働法について 内定後～入社まで、入社後の基本的な労働に関する法律に関して理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第15回	対面	まとめ これまで学修してきた内容について振り返りを行い、総括する。 ※期末課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】1年間の授業を振り返り、今後の就職活動に備える。	4 時間

科目名	キャリア演習 B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	全 允子	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	希望進路の実現に向けて、就業力の向上をはかる。		
授業の目的及び概要	キャリア演習 B では、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することをねらいとし、演習の特性を活かしてワークを中心に授業を進める。この科目では、就職活動に際しての実践力養成を行うことを目的とする。 授業においては、双方向型実践型形式を行う。例えば、グループディスカッション、志望動機アピール、集団面接、個人面接など実践を通して学ぶ。 また、授業後半には、進路を決定した 4 年生が「キャリアメンター」として参画し、アドバイス等を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自身の強みを将来どのように活かしたいか日本語で具体的かつ効果的に述べることができる。 ②社会課題や業界・企業について、主体的に研究・探索し、思考を深めると共に自身の志望動機や将来のキャリア展望と結びつけて表現ができる。 ③自身の希望進路を実現するための計画について、自律的且つ具体的に考え、行動することができる。 ④困難に直面した際も自身で乗り越えるマインドや戦略で対処ができ、自身の体験談を基に周りに助言を行うことができる。 ⑤学部の進路として想定される業界の特色、留学生として求められる人材像を理解し、説明することができる。 ⑥就活本番に向けて、具体的に業界・企業を絞り、戦略を立てて、行動することができる。 ⑦就活で、採用評価につながる発言を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）等、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、国家資格キャリアコンサルタントを有し、民間企業で留学生の就職支援を行ってきた。また、ハローワークの職業訓練講師としてキャリアコンサルティングの業務に従事している。本科目では、これらの実務経験を活かして、自己理解・社会理解・職業理解に関する具体的な指導を行う。		
テキスト	改訂版 留学生のための就職内定ワークブック, 久保田 学, 日本能率協会マネジメントセンター, 2022 年	ISBN	9784820729907
参考書	① 就職四季報 企業研究・インターンシップ版, 東洋経済新報社, 2027 年 (図書館 DB で閲覧可) ② 会社四季報 業界地図, 東洋経済新報社, 2026 年 (図書館 DB で閲覧可) ③ 就職四季報 総合版, 東洋経済新報社, 2027-28 年度版 (図書館 DB で閲覧可) ④ 絶対内定 2027 自己分析とキャリアデザインの描き方, 杉村太郎他, ダイアモンド社, 2025 年 ⑤ 絶対内定 2027 エントリーシート・面接, 杉村太郎, ダイアモンド社, 2025 年 ⑥ 絶対内定 2025-2027 インターシップ, 藤本 健司, ダイアモンド社, 2023 年	ISBN	① 9784492974391 ② 9784492973356 ③ 9784492971420 ④ 9784478122297 ⑤ 9784478122303 ⑥ 9784478117552

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	30
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	本科目の学修にあたっては、課題への積極的取り組みと課題提出が不可欠である。これらの課題にしっかりと取り組んでいけば、就職活動に必要な汎用的基礎力、就業力が着実に身に付いてくる。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【就業力】ガイダンス・夏休みの振り返り 夏休み中の活動を振り返り、今後の就職活動の目標とスケジュールを確認し、具体的な行動へと結びつける。 秋冬インターンシップにエントリーへの準備	【事後学修】インターンシップエントリーに向けて、ナビサイトの登録の確認、興味ある企業をリストアップ	4時間
第2回	対面	【就活戦略】就活本番に向けて、インターンシップの参加経験を踏まえて、ターゲットを再設定する。 ターゲットにする業界、企業を、インターンシップ経験を踏まえて、再設定する。 秋冬インターンシップにエントリー（続）。	【事前学習】興味ある企業を絞り込み、インターンシップ内容を確認する 【事後学修】企業へのエントリーをおこなう。	4時間
第3回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング グループディスカッション① 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。特に集団内で採用評価につながる日本語で発言ができるようにする。 秋冬インターンシップにエントリー（続）。	【事前学習】グループディスカッションでの課題を確認しておく 【事後学修】インターンシップエントリーを完了する	4時間
第4回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング グループディスカッション② 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。特に集団内で採用評価につながる日本語で発言ができるようにする。	【事前学習】グループディスカッションでの課題を確認しておく 【事後学修】役割、話し方の手順、テーマごとの話題の確認する	4時間
第5回	オンデマンド	■オンデマンド■【就業力】特別講演：ビジネスマナーの基本（プロカメラマンによる「外見力」講座） プロの写真家が、動画選考や証明写真における表情・髪型等による印象の違いや、選考での印象面の重要性について講演を行う。業界・企業の特徴を踏まえ、外見力で自己表現する面白さ等について、具体的に解説する。	【事前学習】講義資料を読み、課題を解く 【事後学修】講義内容の復習	2時間
第6回	対面	【就業力】実践トレーニング 集団面接① 「集団面接」の実践練習を通して、集団面	【事前学習】テキスト該当箇所を読み予習・復習。 【事後学修】SPI 演習。	4時間

		接特有の雰囲気になれるとともに、日本語で簡潔に自己表現する力を養う。特に集団内で採用評価につながる表現ができるようにする。 SPI 練習。		
第7回	対面	【就業力】実践トレーニング 集団面接② 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気になれるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。特に採用評価につながる表現ができるようにする。 SPI 練習。	【事前学習】テキスト該当箇所を読み予習・復習。 【事後学修】SPI 復習。	6 時間
第8回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】業界および企業研究を深め、また、職能、職種を知る。 SPI 練習。	【事前学習】テキスト該当箇所を読み予習・復習。 【事後学修】SPI 復習。	4 時間
第9回	対面	【職業理解】就職活動とキャリア これまでの学習を通じて得られた学びから、自身の希望進路を実現するために必要なことについて内省し、まとめる。 ※中間課題提出	【事前学習】テキスト該当箇所を読み予習 【事後学修】テキスト該当箇所を読み復習。	4 時間
第10回	対面	【就業力】実践トレーニング 集団面接③ 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気になれるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。 採用評価につながる自己表現ができるようにする。 SPI 練習。	【事前学修】テキスト該当箇所を読み予習・復習。 【事後学修】SPI 復習。	4 時間
第11回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接① 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。 SPI 練習。	【事前学習】テキスト該当箇所を読み予習・復習。 【事後学修】SPI 復習。	4 時間
第12回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接② 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。 SPI 練習。	【事前学習】テキスト該当箇所を読み予習・復習。 【事後学修】SPI 復習。	4 時間
第13回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接③ 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。 SPI 練習。	【事前学修】テキスト該当箇所を読み予習・復習。 【事後学修】SPI 復習。	4 時間
第14回	対面	【職業理解】労働法について 内定後～入社まで、入社前後の基本的な労働に関する法律に関して理解する。 SPI 練習。	【事前学修】別途準備する資料を事前に読んでおく。 【事後学修】SPI 復習。	4 時間
第15回	対面	まとめ これまで学修してきた内容について振り返りを行い、総括する。 ※期末課題提出	【事前学習】秋学期の学修に関する期末課題を実施するので、第14回までの内容を復習する。 【事後学修】2月から6月にかけての内定獲得へのアクションプランを考える	4 時間

科目名	キャリア演習C	開講年度	2026 年度春学期
担当者	鳥居 佳世	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	希望進路の実現に向けて、就業力の向上をはかる。		
授業の目的及び概要	キャリア演習Cでは、日本での就職をめざす留学生を対象に、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することを目的とし、演習の特性を活かしてグループワークを中心に授業を進める。この科目では、主に「日本特有の就活事情と方法論についての理解」「自己分析」「業界・企業研究」「志望動機作成」「面接対策」に取り組む。希望進路の実現には個人に合わせた事前準備が重要となるため、演習形式の授業を通じて就活準備を進め、自己理解・企業理解により、納得のいく就職活動と進路実現を果たすことを目的とする。自己を客観的に捉え、論理的に日本語で表現する力を身に付けながら、企業研究や業界研究などを通じて産業への知識を深め、自らの強みと職業とをリンクさせる志望動機の素地を形成し、職業人となるための基礎力を養成する。 授業においては、双方向型実践型形式、課題解決型授業（PBL）を行う。例えば、グループディスカッション、志望動機形成力、集団面接など実践を通して学ぶ。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自分自身の長所や短所について、根拠や具体的な経験に基づき文章化できる。 ②自身の強みを応募企業でどのように活かしたいのか、具体的且つ効果的に言語化できる。 ③内定獲得に向けて必要な計画力を身に付け、自律的に行動することができる。 ④日本特有の就活ルールに関する知識を身に付け、行動につなげることができる。 ⑤業界・企業研究を幅広く効果的に行うことで（業界理解と産業としてのつながり、特色理解）、留学生一人ひとりの個性を発揮した企業への内定獲得を実現できる力を身に着ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は、翌週の授業で返却し、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	—
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	40	
	その他の内容	期末課題	
この科目の受講にあたって	本科目の学修にあたっては、グループワークへの積極的取り組みと課題提出が不可欠である。これらの課題にしっかりと取り組んでいれば、就職活動に必要な汎用的基礎力を着実に身に付け、日本での希望進路実現をめざすことができる。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【就業力】ガイダンス 雇用情勢、採用活動スケジュール、日本特有の就活ルール、授業の流れ等についてガイダンスを行い、希望進路の実現をめざしてスケジュールを理解する。	【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第2回	オンデマンド	■オンデマンド■【自己理解】「自己」を理解し具体的目標を設定する（自分の興味・関心・強みの認識） 進路決定した先輩学生のインタビュー動画をを通して、進路選択に必要な素養と準備を理解し、目標設定と具体的計画を作成する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第3回	対面	【職業理解】 業界理解・企業研究① 業界・企業研究についての情報収集の重要性・方法論（企業の探し方と求人票の見方など）について理解する。講義を通して、自身の目標を明確化する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第4回	対面	【職業理解】 業界理解・企業研究② グループワークを通して目標を明確化し、具体的計画へと落とし込む。実際の行動力を高める。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第5回	対面	【自己理解】 エントリーシートの作成① 就職活動で求められるエントリーシートの作成に向けて、自己診断ツール等を活用しながら、自身の経験の棚卸を行う。読み手＝企業担当者を意識し、伝わる日本語での言語化を行う（自己 PR・ガクチカ）。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第6回	対面	【自己理解】 エントリーシートの作成② 就職活動で求められるエントリーシートの作成に向けて、自己診断ツール等を活用しながら、自身の経験の棚卸を行う。読み手＝企業担当者を意識し、伝わる日本語での言語化を行う（自己 PR・ガクチカ）。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第7回	対面	中間課題 ※授業内で中間課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第8回	対面	【自己理解】 エントリーシートの作成③ 就職活動で求められるエントリーシートの作成に向けて、自身の経験の棚卸し、言語化を行う（志望動機）。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第9回	対面	【自己理解】 エントリーシートの作成④ 就職活動で求められるエントリーシートの作成に向けて、自身の経験の棚卸し、言語化を行う（志望動機）。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第10回	対面	【就業力】面接実践トレーニング① 面接で必要な日本特有の基礎的マナー（言葉遣い、服装、所作等）について理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第11回	対面	【就業力】面接実践トレーニング② ※集団面接編	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、	4 時間

		面接に必要な日本特有の基礎的マナー（言葉遣い、服装、所作等）を学び、選考突破に向けた実践力を養う。	習得した知識を確認する。	
第12回	対面	【就業力】面接実践トレーニング③ ※集団面接編 面接に必要な日本特有の基礎的マナー（言葉遣い、服装、所作等）を学び、簡潔な自己表現など、選考突破に向けた実践力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第13回	対面	【就業力】面接実践トレーニング④ ※個人面接編 面接に必要な日本特有の基礎的マナー（言葉遣い、服装、所作等）を学び、選考突破に向けた実践力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第14回	対面	【就業力】適性検査対策 採用試験で実施される適性検査について理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第15回	対面	まとめ 春学期全体を振り返り、自身の課題への対応や今後の就職活動に向けて、具体的計画案の作成、実際の行動計画へとつなげる。 ※授業内で期末課題提出	【予習】春学期の学修に関する期末課題を実施するので、第14回までの内容を復習する。 【復習】春学期の授業を振り返り、秋学期に向け行動計画を立てる。	4 時間

科目名	海外インターンシップ		開講年度	2026 年度春学期
担当者	米山 秀隆		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	実習
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	アメリカ、韓国、東南アジアでの就業体験を通じて異文化理解を深め、グローバルマインドを養う。			
授業の目的及び概要	海外インターンシップは、授業のない夏季休暇期間（8・9月）において、アメリカ、韓国、東南アジアにある企業等にて就業体験をするプログラムである。海外での実習を通じて将来の進路や職業の選択に向けた社会観・職業観を養成するとともに、グローバル人材で求められる素養や態度、価値観について理解を深める。海外の企業、団体、事業所等への派遣にあたっては、学内での事前ガイダンス受講を必須とする。 授業の目的は、海外の企業・事業所等における就業体験を行い、大学における学習と社会での実習経験を結びつけることで、将来の社会的・職業的自立を目指すことである。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	海外の企業・事業所等における就業体験を行い、大学における学修と社会での実習経験を結びつけることで、将来の社会的・職業的自立を意識できるようになる。さらに、異文化社会における就業体験により、海外でのワークスタイル、海外勤務の職務特性、現地スタッフとの協働について理解を深め、グローバル人材で求められる素養や態度、価値観を培う。また、外国語コミュニケーション能力の向上、国際的視野の涵養、海外で活躍できるグローバル人材への準備、そして、最終的には日本国内外での広いフィールドで活躍することができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	企業担当者によって、口頭や実習中に作成する日誌へのコメントで行われる。			
アクティブ・ラーニングの取り組み	PBL（課題解決型学習）／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	なし		ISBN	指定テキストはありません。
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		0	
	成果発表（口頭・実技）		50	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	海外現地での円滑なコミュニケーションには、一定レベルの外国語コミュニケーション能力が必要。そのため、派遣先の国に応じて研修前か研修後の TOEIC®（IP も可）あるいは TOPIC の受験を強く推奨する。 この科目を履修する際には、必ず、キャリアセンターで開催する説明会に参加して、海外インターンシップの基本的な意義目的について理解しておくこと。 なお、海外インターンシップは国内でのインターンシップと同様に、社会人としてのマナーが厳しく問われる。さらに、派遣先地域・国の治安状況は比較的安定しているものの、日本国内とは異なることを肝に銘じておくこと。そのため、プログラム全般において、緊張感を持って			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション・ガイダンス 授業の目的、授業の進め方、成績評価の方法など、授業の概要を説明する。併せて、インターンシップの意義と目的について概要を説明する。	【予習】事前学修として、シラバス等の内容を確認しておく。（30分程度） 【復習】事後学修として、説明があった内容について再確認しておく。（30分程度）	1時間
第2回	対面	事前研修①（ビジネスマナー講座） ゲスト講師による講義とグループワークを通じて、ビジネス社会で求められる素養、ビジネスマナー、コミュニケーションスキルを養い、社会人にとって必要な素養・能力等を理解する。	【予習】事前学修として、社会人として求められる素養、ビジネスマナー、コミュニケーションスキルについて確認しておく。（30分程度） 【復習】事後学修として、講義とグループワークの内容について再確認しておく。（30分程度）	1時間
第3回	対面	事前研修②（現地事情理解講座） ゲスト講師による講義を通じて渡航先の政治・経済事情、文化、歴史に関する理解を深める。	【予習】事前学修として、現地の歴史・文化・経済などの情報や治安に関する新聞・ニュースに接し、雇用や社会情勢に関心を高めておく。（30分程度） 【復習】事後学修として、講義とグループワークの内容について再確認しておく。（30分程度）	1時間
第4回	対面	事前研修③（危機管理講座） 海外の治安状況を踏まえ、危機管理に対する基本事項を理解する。	【予習】事前学修として、現地の歴史・文化・経済などの情報や治安に関する新聞・ニュースに接し、雇用や社会情勢に関心を高めておく。（30分程度） 【復習】事後学修として、講義とグループワークの内容について再確認しておく。（30分程度）	1時間
第5回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習①（1日目） 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。（30分程度） 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。（30分程度）	1時間
第6回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習②（2日目） 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。（30分程度） 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。（30分程度）	1時間
第7回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習③（3日目） 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。（30分程度） 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。（30分程度）	1時間
第8回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習④（4日目） 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。（30分程度） 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。（30分程度）	1時間
第9回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習⑤（5日目） 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。（30分程度） 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習	1時間

		を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。(30分程度)	
第10回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習⑥(6日目) 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。(30分程度) 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。(30分程度)	1時間
第11回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習⑦(7日目) 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。(30分程度) 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。(30分程度)	1時間
第12回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習⑧(8日目) 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。(30分程度) 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。(30分程度)	1時間
第13回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習⑨(9日目) 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。(30分程度) 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。(30分程度)	1時間
第14回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習⑩(10日目) 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。(30分程度) 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、これまでの実習内容の振り返りを行い、体験レポートの作成に活かす。(30分程度)	1時間
第15回	対面	レポート作成・提出 企業実習の総括を行うことで、海外インターンシップの成果と課題を認識する。	【予習】事前学習として、これまでの実習内容の振り返りを行い、体験レポートの作成に活かす。(30分程度) 【復習】事後学修として、社会、働く意味、そして社会人としての自らのあり方について考える。(30分程度)	1時間

科目名	経済理論特殊講義	開講年度	2026 年度春学期
担当者	中嶋 哲也	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	短期におけるマクロ経済政策の理論		
授業の目的及び概要	本講義では、短期のマクロ経済理論を詳細な点まで説明する。財・サービス市場、貨幣市場のつながりを表す IS-LM モデル、開放経済モデル（マンデル・フレミングモデル）における経済政策の効果について学修する。最後に、日本経済における金融政策・財政政策についても学修する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本講義では、マクロ経済モデルにおける消費と投資の理論や失業の原因、金融政策と財政政策についての理論的なモデルについて学修する。そして、経済学研究にとって重要なマクロ経済理論を詳細な点まで学び、日本経済のマクロ経済動向や政策の効果について説明できることを目標とする。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の授業中および最後に質疑応答の時間を設け、質問へのフィードバックおよびコミュニケーションをはかる。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは使用しないが、資料を Learning Portal の「授業内容/教材」にアップする。	ISBN	特にありません。
参考書	①上級マクロ経済学[原著第3 版]，デビッド ローマー(著) 堀 雅博・岩成 博夫・南條 隆（翻訳），日本評論社，2010 年 ②Advanced Macroeconomics 5th edition, David Romer, McGraw-Hill Education, 2018 年	ISBN	① 9784535554931 ② 9781260185218
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	100	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	個々の小さな経済問題にも、マクロ経済の動向が関係していることは多い。マクロ経済理論をより深く学修することによって、個別問題を考える際にも、充実した結論が得られるであろう。本講義で勉強するマクロ経済モデルを理解するためには、基礎的数学の知識が必要である。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	ケインズのマクロ経済学について説明するとともに、授業の案内を行う。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4 時間
第 2 回	対面	短期における総生産と政府支出との関係	予習：資料を読んでおく。	4 時間

		を説明する。	復習：授業内容を振り返っておく。	
第3回	対面	均衡財政乗数の詳しい説明を行う。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4 時間
第4回	対面	貨幣について説明する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4 時間
第5回	対面	利子率について説明する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4 時間
第6回	対面	金融政策の効果について説明する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4 時間
第7回	対面	財市場と貨幣市場の相互作用について説明する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4 時間
第8回	対面	開放経済について説明する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4 時間
第9回	対面	修正マンデル・フレミングモデルについて説明する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4 時間
第10回	対面	修正マンデル・フレミングモデルで予想変化の効果を説明する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4 時間
第11回	対面	バブル経済について説明する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4 時間
第12回	対面	財政政策の効果について再説明する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4 時間
第13回	対面	均衡財政政策の効果について再説明する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4 時間
第14回	対面	開放経済の下での財政政策の効果について再説明する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4 時間
第15回	オンデマンド	今までの内容を振り返り、今後の課題等について説明する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4 時間

科目名	国際経済特殊講義	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	中嶋 哲也	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目		
テーマ	東アジア・東南アジア諸経済の発展		
授業の目的及び概要	国際経済のうちで、とりわけ大きく変化してきた東アジア・東南アジア諸国を取り上げ、その経済発展の特徴を論じます。各国に共通する経済発展パターン、及び特殊性が理解できることを目指します。参考書『新・東アジアの開発経済学』の流れに沿って授業を進めます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	東アジア・東南アジア諸国の経済発展について、共通する部分を説明できる。 各国ごとの特殊性について、主要なポイントを説明できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業時間中および授業終盤で質疑応答の時間を設け、質問へのフィードバックができるようにします。		
アクティブ・ラーニング の取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	使用しない。	ISBN	なし。
参考書	①新・東アジアの開発経済学 [有斐閣アルマ]，大野・櫻井・伊藤・大橋著，有斐閣，2024 年	ISBN	①9784641222298
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	100	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事事前事後学修（予習・復習等）	事事前事後の学修時間
第1回	対面	東アジア・東南アジア経済の概観、および授業計画・内容を案内します。	東アジア・東南アジア諸国について、基本的情報を集めておいてください。	4 時間
第2回	対面	東アジア・東南アジア経済の産業構造を概観します。	講義内容の復習と自分でキーワードを詳しく調べてください。	4 時間
第3回	対面	東アジア・東南アジア諸経済における直接投資と貿易構造について説明します。	講義内容を復習し、キーワードについて自分で調べるようにしてください。	4 時間
第4回	対面	東アジア・東南アジアにおける資本移動と通貨危機について説明します。	講義内容を復習し、自分でキーワードについて調べるようにしてください。	4 時間
第5回	対面	開発におけるデジタル化と社会的側面について取り上げます。	講義内容を復習し、自分でキーワードについて調べるようにしてください。	4 時間

第6回	対面	経済発展と所得格差について説明します。	講義内容を復習し、キーワードについて調べるようにしてください。	4 時間
第7回	対面	韓国・台湾経済について説明します。	講義内容を復習し、キーワードについて調べるようにしてください。	4 時間
第8回	対面	経済開発と政治体制について概説します。	講義内容を復習し、キーワードについて調べるようにしてください。	4 時間
第9回	対面	シンガポール経済について説明します。	講義内容を復習し、キーワードについて調べるようにしてください。	4 時間
第10回	対面	途上国開発と政府介入について説明します。	講義内容を復習し、キーワードについて調べるようにしてください。	4 時間
第11回	対面	マレーシア経済について説明します。	講義内容を復習し、キーワードについて調べるようにしてください。	4 時間
第12回	対面	インドネシア経済について説明します。	講義内容を復習し、キーワードについて調べるようにしてください。	4 時間
第13回	対面	フィリピン経済について説明します。	講義内容を復習し、キーワードについて調べるようにしてください。	4 時間
第14回	対面	東アジア・東南アジア経済について振り返りまとめます。	講義内容を復習し、キーワードについて調べるようにしてください。	4 時間
第15回	オンデマンド	授業のまとめとポイントを説明します。	全体の流れと重要ポイントを整理するようにしてください。	4 時間

科目名	経営管理論Ⅰ		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	氏田 壮一郎		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目			
テーマ	経営管理に関する基本知識を学びます。			
授業の目的及び概要	経営管理の実際の業務は、企業内部で行われており、中々表に出てこないため、難しいと思われるかもしれません。この授業では、それを学ぶ第一歩として、企業とはどのようなものでいかなる構造を持っているのか、経営資源（ヒト・モノ・カネ）がどのようなものか、そして、実際にどうやって管理し、作り出しているのかを学びます。日本で企業を経営する際には、どういったことを知っておくべきかを学び、企業がどのような活動を行っているかをイメージでき、経営管理の基本理論が企業の活動にどのように影響を及ぼしているかを理解しましょう。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	①日本企業の特徴を表す基本用語を理解する。 ②企業の諸活動の詳細を理解するための基本用語を理解する。 ③経営管理論の代表的な理論を理解する。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	知識定着を確認するための中間テストを 2 回実施し、その中間テスト準備のためのウォーミングアップテストも必要に応じて実施します。その試験結果について講義中にフィードバックを行います。			
アクティブ・ラーニングの取り組み				
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	①経営管理論, 上野 恭裕・馬場 大治 編著, 中央経済社, 2016 年 授業では、教科書、参考書を参照しながら、板書、パワーポイントと資料(Learning Portal に掲載)を用いて行います。	ISBN	①9784502190612	
参考書	井原久光, 経営学入門キーコンセプト, ミネルヴァ書房, 2013 年	ISBN	9784623064410	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	30		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	50		
	その他（％）	0		
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	①教科書、参考書は必ず持参してください。毎回、講義内容の定着を確認するために小テストを実施し、解答を提出していただきます。 ②授業で習ったキーワードについては、必ず復習するようにして下さい。 ③毎回、授業前に必ずラーニングポータルで課題や資料の掲示がないか確認してください。 ④学修内容の確認と定着のため、課題を課すことがあります。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス・経営管理とは 参考書対応項目：管理過程論(41) キーワード：経営管理、管理職能、トップ・マネジメント	【事前学習】シラバスを参考に、授業の構成を確認すること。教科書第1章（pp. 12-25）、参考書の対応項目を事前に確認し、キーワードについて調べる。 【事後学修】シラバスを確認し、授業の構成と目的について確認すること。教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	3.5 時間
第2回	対面	企業とはどのような存在か 参考書対応項目：株式会社のしくみ(4)、所有と経営の分離(5) キーワード：株式会社、有限責任と無限責任、所有と経営の分離、株式相互持合い	【事前学習】教科書の第2章（pp. 26-42）、参考書の対応項目を事前に確認し、キーワードについて調べる。 また、時事的ニュース・出来事に関心を持ち、新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4 時間
第3回	対面	財務管理 参考書対応項目：株式会社のしくみ(4)、所有と経営の分離(5) キーワード：コーポレート・ガバナンス、間接金融、直接金融、メインバンク制	【事前学習】教科書第15章(pp. 238-247)、参考書の対応項目を事前に確認し、キーワードについて調べる。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4 時間
第4回	対面	人のマネジメント 日本企業の人事制度 参考書対応項目：人事評価制度(59)、賃金体系(61)、OJT と OFFJT(64)、日本的経営(67)” キーワード：日本的経営、職位、職能、スタッフ、ライン、人事評価制度、OJT	【事前学習】教科書第13章(pp. 206-217)、参考書の対応項目を事前に確認し、キーワードについて調べる。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4 時間
第5回	対面	【事例研究①】 楽天、リクルートの経営管理	【事前学習】楽天、リクルートについてホームページ等を参照して、企業概要および事業概要を事前に理解すること。 【事後学修】楽天、リクルートについてホームページ等を参照して、授業内容の復習を行うこと。	4 時間
第6回	対面	中間試験①	【事前学習】第1回～第5回の内容を確認し、復習すること。 【事後学修】講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4 時間
第7回	対面	生産管理の概要 参考書対応項目：生産形態(71)、見込み生産と受注生産(72)、ライン生産とセル生産(73) キーワード：見込み生産、受注生産、ライン生産、セル生産	【事前学習】参考書：項目 71-73(pp. 152～p. 157)を事前に確認し、キーワードについて調べる。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4 時間
第8回	対面	フォードシステムと生産方式 参考書対応項目：オートメーション(74)、フォードシステムとフォーディズム(75) キーワード：フォードシステム、フォーディズム、オートメーション（自動化）	【事前学習】教科書第14章(pp. 221-225)、参考書の対応項目を事前に確認し、キーワードについて調べる。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。	4 時間

			と。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	
第9回	対面	マネジメントの誕生:科学的管理法と人間関係論(伝統的管理論) 参考書対応項目:科学的管理法(40)、人間関係論(42) キーワード:科学的管理法、ホーソン実験、人間関係論	【事前学習】教科書第3章(pp. 49-p. 56)、参考書の対応項目を事前に確認し、キーワードについて調べること。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4 時間
第10回	対面	デトロイト方式とトヨタ方式 参考書対応項目:フォードシステムとフォードイズム(75)、デトロイト方式とトヨタ方式(76) キーワード:JIT、自動化、かんぱん方式、カイゼン	【事前学習】トヨタ生産方式について、また、6回～8回の授業の内容を事前に確認し、キーワードについて調べること。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4 時間
第11回	対面	中間試験②	【事前学習】第1回～第10回の内容を確認し、復習すること。 【事後学修】講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4 時間
第12回	対面	【事例研究②】トヨタ、テスラの経営管理	【事前学習】トヨタ、テスラについてホームページ等を参照して、企業概要および事業概要を事前に理解すること。 【事後学修】トヨタ、テスラについてホームページ等を参照して、授業内容の復習を行うこと。	4 時間
第13回	対面	【事例研究③】メルカリの起業	【事前学習】メルカリについてホームページ等を参照して、企業概要および事業概要を事前に理解すること。 【事後学修】メルカリについてホームページ等を参照して、授業内容の復習を行うこと。	4 時間
第14回	対面	全体まとめ(総復習)	【事前学習】第1回～第13回の内容を確認し、復習すること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4 時間
第15回	オンデマンド	【全体のまとめ(オンデマンド)】 本授業全体のまとめと内容の確認	【事前学習】これまでの授業内容に該当する教科書の箇所をもう一度確認すること。 【事後学修】授業で説明した箇所を中心に、自分でまとめたノートや資料を確認すること。	4.5 時間

科目名	経営管理論Ⅰ		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	朴 亨珠		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目			
テーマ	経営管理に関する基本知識を学びます。			
授業の目的及び概要	経営管理の実際の業務は、企業内部で行われており、中々表に出てこないため、難しいと思われるかもしれません。この授業では、それを学ぶ第一歩として、企業とはどのようなものでいかなる構造を持っているのか、経営資源（ヒト・モノ・カネ）がどのようなものか、そして、実際にどうやって管理し、作り出しているのかを学びます。日本で企業を経営する際には、どういったことを知っておくべきかを学び、企業がどのような活動を行っているかをイメージでき、経営管理の基本理論が企業の活動にどのように影響を及ぼしているかを理解しましょう。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	①日本企業の特徴を表す基本用語を理解する。 ②企業の諸活動の詳細を理解するための基本用語を理解する。 ③経営管理論の代表的な理論を理解する。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	知識定着を確認するための中間テストを 2 回実施し、その中間テスト準備のためのウォーミングアップテストも必要に応じて実施します。その試験結果について講義中にフィードバックを行います。			
アクティブ・ラーニングの取り組み				
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	①経営管理論, 上野 恭裕・馬場 大治 編著, 中央経済社, 2016 年 授業では、教科書、参考書を参照しながら、板書、パワーポイントと資料(Learning Portal に掲載)を用いて行います。	ISBN	①9784502190612	
参考書	井原久光, 経営学入門キーコンセプト, ミネルヴァ書房, 2013 年	ISBN	9784623064410	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	30		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	50		
	その他（％）	0		
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	①教科書、参考書は必ず持参してください。毎回、講義内容の定着を確認するために小テストを実施し、解答を提出していただきます。 ②授業で習ったキーワードについては、必ず復習するようにして下さい。 ③毎回、授業前に必ずラーニングポータルで課題や資料の掲示がないか確認してください。 ④学修内容の確認と定着のため、課題を課すことがあります。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス・経営管理とは 参考書対応項目：管理過程論(41) キーワード：経営管理、管理職能、トップ・マネジメント	【事前学習】シラバスを参考に、授業の構成を確認すること。教科書第1章（pp. 12-25）、参考書の対応項目を事前に確認し、キーワードについて調べる。 【事後学修】シラバスを確認し、授業の構成と目的について確認すること。教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	3.5 時間
第2回	対面	企業とはどのような存在か 参考書対応項目：株式会社のしくみ(4)、所有と経営の分離(5) キーワード：株式会社、有限責任と無限責任、所有と経営の分離、株式相互持合い	【事前学習】教科書の第2章（pp. 26-42）、参考書の対応項目を事前に確認し、キーワードについて調べる。 また、時事的ニュース・出来事に関心を持ち、新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4 時間
第3回	対面	財務管理 参考書対応項目：株式会社のしくみ(4)、所有と経営の分離(5) キーワード：コーポレート・ガバナンス、間接金融、直接金融、メインバンク制	【事前学習】教科書第15章(pp. 238-247)、参考書の対応項目を事前に確認し、キーワードについて調べる。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4 時間
第4回	対面	人のマネジメント 日本企業の人事制度 参考書対応項目：人事評価制度(59)、賃金体系(61)、OJT と OFFJT(64)、日本的経営(67)” キーワード：日本的経営、職位、職能、スタッフ、ライン、人事評価制度、OJT	【事前学習】教科書第13章(pp. 206-217)、参考書の対応項目を事前に確認し、キーワードについて調べる。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4 時間
第5回	対面	【事例研究①】 楽天、リクルートの経営管理	【事前学習】楽天、リクルートについてホームページ等を参照して、企業概要および事業概要を事前に理解すること。 【事後学修】楽天、リクルートについてホームページ等を参照して、授業内容の復習を行うこと。	4 時間
第6回	対面	中間試験①	【事前学習】第1回～第5回の内容を確認し、復習すること。 【事後学修】講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4 時間
第7回	対面	生産管理の概要 参考書対応項目：生産形態(71)、見込み生産と受注生産(72)、ライン生産とセル生産(73) キーワード：見込み生産、受注生産、ライン生産、セル生産	【事前学習】参考書：項目 71-73(pp. 152～p. 157)を事前に確認し、キーワードについて調べる。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4 時間
第8回	対面	フォードシステムと生産方式 参考書対応項目：オートメーション(74)、フォードシステムとフォーディズム(75) キーワード：フォードシステム、フォーディズム、オートメーション（自動化）	【事前学習】教科書第14章(pp. 221-225)、参考書の対応項目を事前に確認し、キーワードについて調べる。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。	4 時間

			と。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	
第9回	対面	マネジメントの誕生:科学的管理法と人間関係論(伝統的管理論) 参考書対応項目:科学的管理法(40)、人間関係論(42) キーワード:科学的管理法、ホーソン実験、人間関係論	【事前学習】教科書第3章(pp. 49-p. 56)、参考書の対応項目を事前に確認し、キーワードについて調べること。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4 時間
第10回	対面	デトロイト方式とトヨタ方式 参考書対応項目:フォードシステムとフォードイズム(75)、デトロイト方式とトヨタ方式(76) キーワード:JIT、自動化、かんぱん方式、カイゼン	【事前学習】トヨタ生産方式について、また、6回～8回の授業の内容を事前に確認し、キーワードについて調べること。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4 時間
第11回	対面	中間試験②	【事前学習】第1回～第10回の内容を確認し、復習すること。 【事後学修】講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4 時間
第12回	対面	【事例研究②】トヨタ、テスラの経営管理	【事前学習】トヨタ、テスラについてホームページ等を参照して、企業概要および事業概要を事前に理解すること。 【事後学修】トヨタ、テスラについてホームページ等を参照して、授業内容の復習を行うこと。	4 時間
第13回	対面	【事例研究③】メルカリの起業	【事前学習】メルカリについてホームページ等を参照して、企業概要および事業概要を事前に理解すること。 【事後学修】メルカリについてホームページ等を参照して、授業内容の復習を行うこと。	4 時間
第14回	対面	全体まとめ(総復習)	【事前学習】第1回～第13回の内容を確認し、復習すること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4 時間
第15回	オンデマンド	【全体のまとめ(オンデマンド)】 本授業全体のまとめと内容の確認	【事前学習】これまでの授業内容に該当する教科書の箇所をもう一度確認すること。 【事後学修】授業で説明した箇所を中心に、自分でまとめたノートや資料を確認すること。	4.5 時間

科目名	経営管理論 I		開講年度	2026 年度春学期
担当者	朴 亨珠		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目			
テーマ	経営管理に関する基本知識を学びます。			
授業の目的及び概要	経営管理の実際の業務は、企業内部で行われており、中々表に出てこないため、難しいと思われるかもしれません。この授業では、それを学ぶ第一歩として、企業がどのような構造を持っているのか、企業とはどのようなものかや経営資源（ヒト・モノ・カネ）がどのようなものか、そして、実際にどうやって管理し、作り出しているのかを学びます。日本で企業を経営する際には、こういったことを知っておくべきかを学び、企業がどのような活動を行っているかをイメージでき、経営管理の基本理論が企業の活動にどのように影響を及ぼしているかを理解しましょう。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	①日本企業の特徴を表す基本用語を理解する。 ②企業の諸活動の詳細を理解するための基本用語を理解する。 ③経営管理論の代表的な理論を理解する。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	知識定着を確認するための中間テストを 2 回実施し、その中間テスト準備のためのウォーミングアップテストも必要に応じて実施します。その試験結果について講義中にフィードバックを行います。			
アクティブ・ラーニング の取り組み				
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	上野 恭裕・馬場 大治 編著、『経営管理論』中央経済社、2016 年 授業では、教科書、参考書を参照しながら、板書、パワーポイントと資料(Learning Portal に掲載)を用いて行います。	ISBN	9784502190612	
参考書	井原久光編著、経営学入門キーコンセプト、ミネルヴァ書房、2013 年	ISBN	9784623064410	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	10		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	30		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	60		
	その他（％）	0		
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	①教科書、参考書は必ず持参してください。毎回、講義内容の定着を確認するために小テストを実施し、解答を提出していただきます。 ②授業で習ったキーワードについては、必ず復習するようにして下さい。 ③毎回、授業前に必ずラーニングポータルで課題や資料の掲示がないか確認してください。 ④学修内容の確認と定着のため、課題を課すことがあります。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	ガイダンス・経営管理とは 参考書対応項目：管理過程論(41) キーワード：経営管理、管理職能、トップ・マネジメント	【事前学習】シラバスを参考に、授業の構成を確認すること。教科書第1章（pp. 12-25）、参考書の対応項目を事前に確認し、キーワードについて調べること。 【事後学修】シラバスを確認し、授業の構成と目的について確認すること。教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	3.5時間
第2回	オンデマンド	第2回：企業を起業する！！でも会社と個人商店は何が違うのか 現在は、誰でも簡単に起業することが出来ます。しかし、起業した企業が「会社」と呼ばれるには、様々なしくみが必要です。日本で会社と呼ばれるにはどのようなしくみが必要なのか学びましょう。 参考書対応項目：株式会社のしくみ(4)、所有と経営の分離(5) キーワード：日本的経営、株式会社、有限責任、所有と経営の分離、株式相互持合い	【事前学習】教科書の第2章（pp. 26-42）、参考書の対応項目を事前に確認し、キーワードについて調べること。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4時間
第3回	オンデマンド	第3回：どうやってお金を集めるのか？株主からの投資と銀行からの借金の違い 会社の形を整え、事業を始めようとする際、自分のお金だけでは不足します。投資を募りましょう。その際、どこからお金を調達したらよいのでしょうか？日本企業の資金調達方法の特徴や仕組みについて学びます。 参考書対応項目：株式会社のしくみ(4)、所有と経営の分離(5) キーワード：コーポレート・ガバナンス、間接金融、直接金融、メインバンク制	【事前学習】教科書第15章(pp. 238-247)、参考書の対応項目を事前に確認し、キーワードについて調べること。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4時間
第4回	オンデマンド	第4回：人を雇って、給料をきめよう 起業をして事業の元手となる資金を集めたら、それを活用する人材を集めないといけません。その際、どんな給料体系にしたら良いのでしょうか？様々な人事制度の特徴について学びます。 日本企業の人事制度 参考書対応項目：人事評価制度(59)、賃金体系(61)、OJTとOFFJT(64)、日本的経営(67)” キーワード：日本的経営、職位、職能、スタッフ、ライン、人事評価制度、OJT	【事前学習】教科書第13章(pp. 206-217)、参考書の対応項目を事前に確認し、キーワードについて調べること。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4時間
第5回	オンデマンド	第5回：第1回～第4回のまとめ 第1回から第4回の授業内容について復習します。	【事前学習】第1回～第4回の内容を確認し、復習すること。 【事後学修】テスト内容、参考書、授業資料を参考に復習すること。	4時間
第6回	オンデマンド	第6回：製品を作ろう！！だが、その前に行う事業が決まり、ヒトも雇ったら、いよいよ事業を展開していきましょう。製品の生産です。しかし、生産のやり方にはそれぞれ特徴があります。それらの違いについて	【事前学習】参考書：項目 71-73(pp. 152～p. 157)を事前に確認し、キーワードについて調べること。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。	4時間

		て学びましょう。 生産管理の基本 参考書対応項目：生産形態(71)、見込み生産と受注生産(72)、ライン生産とセル生産(73) キーワード：見込み生産、受注生産、ライン生産、セル生産	【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	
第7回	オンデマンド	第7回：製品を作ろう！！大量生産するには① フォードシステム 製品はたくさん作れば良いというわけではありませんし、たくさん作るためには、さまざまな工夫が必要です。今まで行われた大量生産のやり方を学び、大量生産にはどのようなことが必要なのか知りましょう。 参考書対応項目：オートメーション(74)、フォードシステムとフォードイズム(75) キーワード：フォードシステム、フォードイズム、オートメーション（自動化）	【事前学習】教科書第14章(pp. 221-225)、参考書の対応項目を事前に確認し、キーワードについて調べること。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4 時間
第8回	オンデマンド	第8回：製品を作ろう！！大量生産するには② トヨタ生産方式 トヨタ生産方式は、大量生産をしながらたくさんの品種展開にも対応するというフォードシステムを発展させたものでした。それがどのようなものかを学び、これを実行するにはどのようなことが必要なのか知りましょう。 参考書対応項目：フォードシステムとフォードイズム(75)、デトロイト方式とトヨタ方式(76) キーワード：デトロイト方式、かんぱん方式、JIT、QC 活動	【事前学習】トヨタ生産方式について、また、6回～8回の授業の内容を事前に確認し、キーワードについて調べること。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4 時間
第9回	オンデマンド	第9回：第1～第8回のまとめ 日本企業の財務・人材・生産管理の特徴(第1回～第8回の内容)について復習します。	【事前学習】第1回～第8回の内容を事前に確認し、キーワードについて調べること。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4 時間
第10回	オンデマンド	中間テスト 第1回～第9回の内容について復習の上、レポート提出を課します。	【事前学習】第1回～第9回の内容を確認し、復習すること。 【事後学修】講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4 時間
第11回	オンデマンド	第11回：従業員がサボらないようにするためにはどうしたらいいのか？理論から学ぶ経営管理① 企業を経営する際、「ヒト（従業員）をやる気にさせるにはどうすればいいのか？」ということは大きな問題です。経営管理でも大きなテーマです。そのベースとなる理論を学び、今まで学んだことにどのように反映されているかを学びます。 科学的管理法と人間関係論（伝統的管理	【事前学習】教科書第3章(pp. 49-p. 56)、参考書の対応項目を事前に確認し、キーワードについて調べること。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4 時間

		論) 参考書対応項目：科学的管理法(40)、人間関係論(42) キーワード：科学的管理法、ホーソン実験、人間関係論		
第12回	オンデマンド	第12回：仕事とプライベートは別物か一緒なのか？理論から学ぶ経営管理② 近代的管理論 仕事とプライベートを両立するべきか否か。日本企業でも働き方に対する考え方が変化してきました。働き方に関する考え方の変化を近代的管理論を通して学びます。 キーワード：自律型人材モデル、協働、共通（組織）目的、協働意思（貢献意欲）	【事前学習】教科書第4章(pp. 60-p. 69)、参考書の対応項目を事前に確認し、キーワードについて調べること。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4時間
第13回	オンデマンド	第13回：周りの状況によってやり方も変えないといけない？理論から学ぶ経営管理③ コンティンジェンシー理論 状況によってうまくいったり、うまくいかなかったり…。変化にすばやく対応することも企業経営をうまくやるコツの一つです。コンティンジェンシー理論の学修を通して、環境適応の功罪を学びます。 参考書対応項目：コンティンジェンシー理論(56) キーワード：コンティンジェンシー理論、組織構造、分権化、集権化	【事前学習】教科書第9章(pp. 142-146, pp. 150-152)、参考書の対応項目を事前に確認し、キーワードについて調べること。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4時間
第14回	オンデマンド	第14回：第11～13回のまとめ 第10回から第13回の授業内容についてまとめを行います。	【事前学習】11回～13回の内容を事前に確認し、キーワードについて調べること。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4時間
第15回	オンデマンド	【全体のまとめ】 本授業全体のまとめと内容の確認	【事前学習】これまでの授業内容に該当する教科書の箇所をもう一度確認すること。 【事後学修】授業で説明した箇所を中心に、自分でまとめたノートや資料を確認すること。	4.5時間

科目名	経営管理論Ⅱ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	朴 亨珠	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	経営管理に関する所論の歴史的発展経緯を辿り、他の領域との関連性を学びます。		
授業の目的及び概要	この科目では、まず「経営管理論Ⅰ」で学修した日本的経営の基になる経営の源流に遡り、経営管理の生成と発展の足跡をたどり、関連する諸理論はどのような背景や事情のもとで生まれてきたのかを学修する。また、生き物としての組織をより成長、活性化させるための理論を学び、経営管理とはどのような機能を果たし、その機能はどのように変化してきたのかについて理解を深めます。それらのことを通して、経営管理と戦略、組織との関連性について理解し、企業経営の全体像を掴むことを学修の目的とします。 この科目の内容は、「経営管理論Ⅰ」で学んだ内容の理論的側面の理解を深めることを目的とし、「経営管理論Ⅰ」と併せて学修することで、経営管理全体の理解をより深めることができます。また、経営戦略論や経営組織論と関連する経営学を学修するための基本的な科目です。		
履修条件・留意点	この科目はⅠとⅡの両方を履修して内容が完結するので、Ⅰの単位習得後にⅡを履修してください。よって、経営管理論Ⅰの教科書も使用いたします。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①現代の企業経営の基礎となる伝統的管理論や人間関係論、近代的管理論などの経営管理論に関する代表的な理論の特徴とその意義と限界について説明できる。 ②経営管理理論に関する代表的な理論がどのような経緯を辿り、どのような企業の発展を経て成立してきたかを過去の代表的な事例を踏まえながら理解し、説明できる。 ③経営管理論の一部としてのリーダーシップ論、モチベーション論、組織文化論、そして経営理念や企業目標などを理解し、企業経営への経営管理の影響について理解できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	LP のアンケート機能を活用しながら、受講生の意見に対し、フィードバックいたします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	経営管理論，上野 恭裕・馬場 大治編，中央経済社，2016 年	ISBN	9784502190612
参考書	経営学入門キーコンセプト，井原久光編著，ミネルヴァ書房，2013 年	ISBN	9784623064410
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	10	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	この経営管理論Ⅱでは、経営管理理論の歴史的発展経緯をメインに説明します。経営組織論や管理モデルについての基礎知識を歴史的経緯と共に習得したいと考えている受講生さん向けの科目です。ただし、この科目では、経営組織論や経営戦略論と管理モデルの相互関連にも注意して講義していきます。履修にあたっては、専門用語や断片的知識をただ集積するのではなく		

	講義やプリントがどのような話の流れ(論理)で進んでいるのか、話と話のつながりにつねに留意することが大切です。経営管理論Ⅰの内容を踏まえた構成となりますので、履修にあたり、経営管理論Ⅰを前もって復習することをおすすめします。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【ガイダンス】 授業全体の進め方と経営管理論Ⅰとの関連を説明します。	【事前学習】 シラバスを確認し、日々発生する企業にかかわるニュース・出来事についてチェックすること。 【事後学修】 シラバスを確認し復習すること。	3 時間
第2回	対面	【組織管理と経営管理】 組織がうまく動けば、企業は、必ず成功するのでしょうか。そこには、成果があがることと組織がうまく動くことの二つの問題が存在します。企業の経営において直面するこの二つの問題について説明し、経営管理と組織管理は、それらとどのような関連があるかを学びます。 キーワード：集団と組織、経営管理、組織管理	【事前学修】 組織管理とは何かを調べ、経営管理との違いを確認すること。同時に日々発生する企業にかかわるニュース・出来事についてチェックすること。 【事後学修】 経営管理論Ⅰで扱った経営戦略と経営管理との関連との違いを確認すること。	4 時間
第3回	対面	【科学的管理法】 経営管理はどのように形成されていったのでしょうか。その始まりとされる科学的管理法の歴史的背景、経営管理論の源流とされる理由、その体系性、当時の社会への影響等について解説し、伝統的管理論の特徴について学びます。「経営管理論」の第3章を理解します。 キーワード：成行管理、組織的総業、科学的管理法、課業管理、動作研究、計画部、機能別組織、経済人モデル	【事前学習】 F.W. テイラーの科学的管理法について調べ、それが生み出された背景を確認すること。同時に日々発生する企業にかかわるニュース・出来事についてチェックすること。 【事後学修】 科学的管理法が必要とされたあるいは必要だと思われるのはなぜか、講義内容・ノートを確認して復習してください。	4 時間
第4回	対面	【管理原則と管理過程論】 科学的管理法を契機に多くの経営管理の理論が生み出されました。その中には、現代の企業経営にも強く影響を及ぼしているものもあります。伝統的管理論が契機となって生まれてきた多様な管理職能論について解説し、それらの吟味と帰結について考察します。 出来高給から職務給までの歴史的発展の論理について解説し、伝統的管理論の基本的考え方について考察します。「経営管理論」の第1章第2項をへの理解を深めます。 キーワード：管理原則、マネジメントサイクル	【事前学習】 アンリ・ファヨールの管理原則論を調べ、科学的管理法からどのように発展したかを確認すること。同時に日々発生する企業にかかわるニュース・出来事についてチェックすること。 【事後学修】 出来高給と職務給の違いについて説明できるか、マネジメントサイクルについて講義内容・ノートを参照して復習してください。	4 時間
第5回	対面	【フォードとGM】 伝統的管理論は当時、最新の理論でした。そして、企業はその理論を積極的に取り入れていました。その結果、どのようなことが起きたのでしょうか。伝統的管理論の特徴を色濃く反映する2つの現代的な管理への応用（ケース）について解説し、考察します。	【事前学習】 伝統的管理論を企業経営に取り入れ、より実践的に修正するとしたらどのようなことになるか検討すること。同時に日々発生する企業にかかわるニュース・出来事についてチェックすること。 【事後学修】 ケースでとりあげた二社の違いを講義内容・ノートを参照して復習してください。	4 時間

		キーワード: 移動組み立て方式、奉仕動機、分権組織、フルライン戦略		
第6回	対面	【ホーソン実験と人間関係論学派】 伝統的管理論の検証実験に失敗したホーソン実験と新たに提起された人間関係モデルについて解説し、このモデルの意義について考察します。「経営管理論」の第3章第2項をへの理解を深めます。 キーワード: 社会人モデル、人間関係、動機づけ、非公式組織	【事前学習】 伝統的管理論の内容を確認し、その問題点を検討すること。同時に日々発生する企業にかかわるニュース・出来事についてチェックすること。 【事後学修】 ホーソン実験はどのような実験なのかを講義内容・ノートを参照して復習してください。	4 時間
第7回	対面	【第1回～6回までのまとめ】	【事前学習】 1回～6回の内容を事前に確認し、キーワードについて調べる。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】 教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4 時間
第8回	対面	【中間試験】	【事前学習】 第1回～第7回の内容を確認し、復習すること。 【事後学修】 講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4 時間
第9回	対面	【近代的組織管理論と経営人モデル】 従業員の動機付けと組織の管理を両立させるにはどうしたら良いか。その論理を提案したのが近代的組織管理論です。ここで示されたモデルは、今現在でも非常に大きな影響力を持っています。それについて説明し、組織と個人の管理について考えます。「経営管理論」第4章への理解を深めます。 キーワード: 誘因、貢献意欲、個人目標、組織目標、コミュニケーション、自律型モデル、有効性、効率性	【事前学習】 人間関係論と伝統的組織管理論を統合する方法を検討すること。同時に日々発生する企業にかかわるニュース・出来事についてチェックすること。 【事後学修】 C. I. バーナードの誘因-貢献モデルや H. A. サイモンの経営人モデルについてを講義内容・ノートを参照して復習してください。	4 時間
第10回	対面	【動機づけとリーダーシップ】 動機付けの具体的な方法として、組織学習や欲求仮説が考え出されました。それらの内容について説明し、学習効果や動機付けについて考えます。「経営管理論」第5章と第6章への理解を深めます。 キーワード: X 理論、Y 理論、衛生要因、期待要因、ダブルループ学習、アンラーニング	【事前学習】 どのようなことがあれば意欲が湧くかそして、新しいことの学習を人に促すにはどうしたら良いかそれを検討してみてください。同時に日々発生する企業にかかわるニュース・出来事についてチェックすること。 【事後学修】 マクレガーやハーズバーグ、アージリスなどの諸論についてを講義内容・ノートを参照して復習してください。	4 時間
第11回	対面	【経営理念と企業目標】 企業が巨大化、複雑化するにつれ、管理だけではなく戦略が必要だといわれるようになってきました。 経営管理のためになぜ経営戦略が必要なのでしょう？それについて学習します。「経営管理論」第10章への理解を深めます。 キーワード: 経営戦略、全社戦略、経営理念、意思決定、乱気流的環境、経営理念、	【事前学習】 組織が大きくなり、複雑になった際、どうやって管理していけばよいかを検討してみてください。同時に日々発生する企業にかかわるニュース・出来事についてチェックすること。 【事後学修】 経営戦略についてを講義内容・ノートを参照して復習してください。	4 時間

		企業目標		
第12回	対面	【経営管理論から経営戦略論へ】 「経営戦略の父」と呼ばれたアンゾフ以降、経営戦略論が展開されていきました。戦略論として、戦略計画学派、創発戦略学派、ポジショニング・ビュー、リソース・ベースド・ビュー、ゲーム理論アプローチの歴史的な流れを理解しながら、どのように発展していったのか、理解します。前半部分は、「経営管理論」の第11章への理解を深めます。	【事前学習】 経営学基礎や経営戦略論で学んだ企業戦略（全社戦略）や競争戦略（事業戦略）について、復習して下さい。 【事後学修】 なぜ様々な戦略論展開されてきたのか、その関係についてを講義内容・ノートを参照して復習してください。	4時間
第13回	対面	【人的資源管理の基本と経営管理の理論】 経営管理において組織の中で働く人材の管理は重要なものです。経営管理論Ⅰで学修した人的資源管理の内容を確かめながら、関連する事例で理解を深めます。 キーワード：日本的経営、職位、職能、スタッフ、ライン、人事評価制度、OJT	【事前学習】 経営管理Ⅰで学修した「人的資源管理」の内容について復習すること。また、時事的ニュース・出来事により遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】 教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4時間
第14回	対面	【生産管理の基本と経営管理の理論】 経営管理の歴史から確認できるように生産管理は企業の経営管理の重要な部分です。経営管理論Ⅰで学修した生産管理の内容を確かめながら、関連する事例で理解を深めます。トヨタ生産方式の歴史的経緯を振り返りながら、その課題を学びます。 キーワード：見込み生産、発注生産、ライン生産、セル生産、フォーディズム、デトロイト方式、かんぱん方式、JIT	【事前学習】 経営管理Ⅰで学修した「生産管理の基本」の内容について復習すること。また、時事的ニュース・出来事により遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】 教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4時間
第15回	オンデマンド	【総括】 授業全体の総括とまとめを行います。各回のポイントと要点をおさらいします。これまでの授業資料を参照しながら、動画を視聴し、自分のノートをまとめてください。	【事前学習】 これまでの授業内容に該当する教科書の箇所をもう一度確認すること。 【事後学修】 授業で説明した箇所を中心に、自分でまとめたノートや資料を確認すること。	5時間

科目名	経営管理論Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	朴 亨珠	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	経営管理に関する所論の歴史的発展経緯を辿り、他の領域との関連性を学びます。		
授業の目的及び概要	この科目では、まず「経営管理論Ⅰ」で学修した日本的経営の基になる経営の源流に遡り、経営管理の生成と発展の足跡をたどり、関連する諸理論はどのような背景や事情のもとで生まれてきたのかを学修する。また、生き物としての組織をより成長、活性化させるための理論を学び、経営管理とはどのような機能を果たし、その機能はどのように変化してきたのかについて理解を深めます。それらのことを通して、経営管理と戦略、組織との関連性について理解し、企業経営の全体像を掴むことを学修の目的とします。 この科目の内容は、「経営管理論Ⅰ」で学んだ内容の理論的側面の理解を深めることを目的とし、「経営管理論Ⅰ」と併せて学修することで、経営管理全体の理解をより深めることができます。また、経営戦略論や経営組織論と関連する経営学を学修するための基本的な科目です。		
履修条件・留意点	この科目はⅠとⅡの両方を履修して内容が完結するので、Ⅰの単位習得後にⅡを履修してください。よって、経営管理論Ⅰの教科書も使用いたします。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①現代の企業経営の基礎となる伝統的管理論や人間関係論、近代的管理論などの経営管理論に関する代表的な理論の特徴とその意義と限界について説明できる。 ②経営管理理論に関する代表的な理論がどのような経緯を辿り、どのような企業の発展を経て成立してきたかを過去の代表的な事例を踏まえながら理解し、説明できる。 ③経営管理論の一部としてのリーダーシップ論、モチベーション論、組織文化論、そして経営理念や企業目標などを理解し、企業経営への経営管理の影響について理解できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	LP のアンケート機能を活用しながら、受講生の意見に対し、フィードバックいたします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	経営管理論，上野 恭裕・馬場 大治編，中央経済社，2016 年	ISBN	9784502190612
参考書	経営学入門キーコンセプト，井原久光編著，ミネルヴァ書房，2013 年	ISBN	9784623064410
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	10	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	この経営管理論Ⅱでは、経営管理理論の歴史的発展経緯をメインに説明します。経営組織論や管理モデルについての基礎知識を歴史的経緯と共に習得したいと考えている受講生さん向けの科目です。ただし、この科目では、経営組織論や経営戦略論と管理モデルの相互関連にも注意して講義していきます。履修にあたっては、専門用語や断片的知識をただ集積するのではなく、		

	講義やプリントがどのような話の流れ(論理)で進んでいるのか、話と話のつながりにつねに留意することが大切です。経営管理論Ⅰの内容を踏まえた構成となりますので、履修にあたり、経営管理論Ⅰを前もって復習することをおすすめします。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	【ガイダンス】 授業全体の進め方と経営管理論Ⅰとの関連を説明します。	【事前学習】 シラバスを確認し、日々発生する企業にかかわるニュース・出来事についてチェックすること。 【事後学修】 シラバスを確認し復習すること。	3時間
第2回	オンデマンド	【組織管理と経営管理】 組織がうまく動けば、企業は、必ず成功するのでしょうか。そこには、成果があがることと組織がうまく動くことの二つの問題が存在します。企業の経営において直面するこの二つの問題について説明し、経営管理と組織管理は、それらとどのような関連があるかを学びます。 キーワード：集団と組織、経営管理、組織管理	【事前学習】 組織管理とは何かを調べ、経営管理との違いを確認すること。同時に日々発生する企業にかかわるニュース・出来事についてチェックすること。 【事後学修】 経営管理論Ⅰで扱った経営戦略と経営管理との関連との違いを確認すること。	4時間
第3回	オンデマンド	【科学的管理法】 経営管理はどのように形成されていったのでしょうか。その始まりとされる科学的管理法の歴史的背景、経営管理論の源流とされる理由、その体系性、当時の社会への影響等について解説し、伝統的管理論の特徴について学びます。「経営管理論」の第3章を理解します。 キーワード：成行管理、組織的総業、科学的管理法、課業管理、動作研究、計画部、職能別組織、経済人モデル	【事前学習】 F.W. テイラーの科学的管理法について調べ、それが生み出された背景を確認すること。同時に日々発生する企業にかかわるニュース・出来事についてチェックすること。 【事後学修】 科学的管理法が必要とされたあるいは必要だと思われるのはなぜか、講義内容・ノートを確認して復習してください。	4時間
第4回	オンデマンド	【管理原則と管理過程論】 科学的管理法を契機に多くの経営管理の理論が生み出されました。その中には、現代の企業経営にも強く影響を及ぼしているものもあります。伝統的管理論が契機となって生まれてきた多様な管理職能論について解説し、それらの吟味と帰結について考察します。 出来高給から職務給までの歴史的発展の論理について解説し、伝統的管理論の基本的考え方について考察します。「経営管理論」の第1章第2項をへの理解を深めます。 キーワード：管理原則、マネジメントサイクル	【事前学習】 アンリ・ファヨールの管理原則論を調べ、科学的管理法からどのように発展したかを確認すること。同時に日々発生する企業にかかわるニュース・出来事についてチェックすること。 【事後学修】 出来高給と職務給の違いについて説明できるか、マネジメントサイクルについて講義内容・ノートを参照して復習してください。	4時間
第5回	オンデマンド	【フォードとGM】 伝統的管理論は当時、最新の理論でした。そして、企業はその理論を積極的に取り入れていました。その結果、どのようなことが起きたのでしょうか。伝統的管理論の特徴を色濃く反映する2つの現代的な管理への応用（ケース）について解説し、考察します。	【事前学習】 伝統的管理論を企業経営に取り入れ、より実践的に修正するとしたらどのようなことになるか検討すること。同時に日々発生する企業にかかわるニュース・出来事についてチェックすること。 【事後学修】 ケースでとりあげた二社の違いを講義内容・ノートを参照して復習してください。	4時間

		キーワード: 移動組み立て方式、奉仕動機、分権組織、フルライン戦略		
第6回	オンデマンド	【ホーソン実験と人間関係論学派】 伝統的管理論の検証実験に失敗したホーソン実験と新たに提起された人間関係モデルについて解説し、このモデルの意義について考察します。「経営管理論」の第3章第2項をへの理解を深めます。 キーワード: 社会人モデル、人間関係、動機づけ、非公式組織	【事前学習】 伝統的管理論の内容を確認し、その問題点を検討すること。同時に日々発生する企業にかかわるニュース・出来事についてチェックすること。 【事後学修】 ホーソン実験はどのような実験なのかを講義内容・ノートを参照して復習してください。	4 時間
第7回	オンデマンド	【第1回～6回までのまとめ】	【事前学習】 1回～6回の内容を事前に確認し、キーワードについて調べること。 また、時事的ニュース・出来事に乗り遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】 教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4 時間
第8回	オンデマンド	【中間試験】	【事前学習】 第1回～第7回の内容を確認し、復習すること。 【事後学修】 講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4 時間
第9回	オンデマンド	【近代的組織管理論と経営人モデル】 従業員の動機付けと組織の管理を両立させるにはどうしたら良いか。その論理を提案したのが近代的組織管理論です。ここで示されたモデルは、今現在でも非常に大きな影響力を持っています。それについて説明し、組織と個人の管理について考えます。「経営管理論」第4章への理解を深めます。 キーワード: 誘因、貢献意欲、個人目標、組織目標、コミュニケーション、自律型モデル、有効性、効率性	【事前学習】 人間関係論と伝統的組織管理論を統合する方法を検討すること。同時に日々発生する企業にかかわるニュース・出来事についてチェックすること。 【事後学修】 C. I. バーナードの誘因-貢献モデルや H. A. サイモンの経営人モデルについてを講義内容・ノートを参照して復習してください。	4 時間
第10回	オンデマンド	【動機づけとリーダーシップ】 動機付けの具体的な方法として、組織学習や欲求仮説が考え出されました。それらの内容について説明し、学習効果や動機付けについて考えます。「経営管理論」第5章と第6章への理解を深めます。 キーワード: X 理論、Y 理論、衛生要因、期待要因、ダブルループ学習、アンラーニング	【事前学習】 どのようなことがあれば意欲が湧くかそして、新しいことの学習を人に促すにはどうしたら良いかそれを検討してみてください。同時に日々発生する企業にかかわるニュース・出来事についてチェックすること。 【事後学修】 マクレガーやハーズバーグ、アージリスなどの諸論についてを講義内容・ノートを参照して復習してください。	4 時間
第11回	オンデマンド	【経営理念と企業目標】 企業が巨大化、複雑化するにつれ、管理だけではなく戦略が必要だといわれるようになってきました。 経営管理のためになぜ経営戦略が必要なのでしょう？それについて学習します。「経営管理論」第10章への理解を深めます。 キーワード: 経営戦略、全社戦略、経営理念、意思決定、乱気流的環境、経営理念、	【事前学習】 組織が大きく、複雑になった際、どうやって管理していけばよいかを検討してみてください。同時に日々発生する企業にかかわるニュース・出来事についてチェックすること。 【事後学修】 経営戦略についてを講義内容・ノートを参照して復習してください。	4 時間

		企業目標		
第12回	オンデマンド	【経営管理論から経営戦略論へ】 「経営戦略の父」と呼ばれたアンゾフ以降、経営戦略論が展開されていきました。戦略論として、戦略計画学派、創発戦略学派、ポジショニング・ビュー、リソース・ベースド・ビュー、ゲーム理論アプローチの歴史的な流れを理解しながら、どのように発展していったのか、理解します。前半部分は、「経営管理論」の第11章への理解を深めます。	【事前学習】 経営学基礎や経営戦略論で学んだ企業戦略（全社戦略）や競争戦略（事業戦略）について、復習して下さい。 【事後学修】 なぜ様々な戦略論展開されてきたのか、その関係についてを講義内容・ノートを参照して復習してください。	4時間
第13回	オンデマンド	【人的資源管理の基本と経営管理の理論】 経営管理において組織の中で働く人材の管理は重要なものです。経営管理論Ⅰで学修した人的資源管理の内容を確かめながら、関連する事例で理解を深めます。 キーワード：日本的経営、職位、職能、スタッフ、ライン、人事評価制度、OJT	【事前学習】 経営管理Ⅰで学修した「人的資源管理」の内容について復習すること。また、時事的ニュース・出来事により遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】 教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4時間
第14回	オンデマンド	【生産管理の基本と経営管理の理論】 経営管理の歴史から確認できるように生産管理は企業の経営管理の重要な部分です。経営管理論Ⅰで学修した生産管理の内容を確かめながら、関連する事例で理解を深めます。トヨタ生産方式の歴史的経緯を振り返りながら、その課題を学びます。 キーワード：見込み生産、発注生産、ライン生産、セル生産、フォーティズム、デトロイト方式、かんぱん方式、JIT	【事前学習】 経営管理Ⅰで学修した「生産管理の基本」の内容について復習すること。また、時事的ニュース・出来事により遅れないように新聞や経済・経営関連のニュースをチェックすること。 【事後学修】 教科書、参考書、授業資料を再度確認し、講義中に作成したノートや資料を参考に復習すること。	4時間
第15回	オンデマンド	【総括】 授業全体の総括とまとめを行います。各回のポイントと要点をおさらいします。これまでの授業資料を参照しながら、動画を視聴し、自分のノートをまとめてください。	【事前学習】 これまでの授業内容に該当する教科書の箇所をもう一度確認すること。 【事後学修】 授業で説明した箇所を中心に、自分でまとめたノートや資料を確認すること。	5時間

科目名	マーケティング基礎	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	五島 光	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	マーケティングとは何かについて、企業経営における役割・職能から基本的なフレームワークを理解する。		
授業の目的及び概要	この授業は、マーケティングとは何かについて、企業経営における役割・職能の点から学修する。主に、マーケティング基本概念である STP(Segmentation、Targeting、 Positioning)やマーケティングの 4P(Product、Price、Place、 Promotion)等の専門用語に関する理解と解説ができるように、マネジメントの観点から考察する。また、マーケティング戦略コースの要となるものであり、各論であるマーケティングマネジメント関連の講義（マーケティング戦略論Ⅰ）において理解を深めることができるよう、重要な用語についての理解を深めるように講義を進める。主要なマーケティングの考え方を理解し、マーケティング志向に基づいた判断や考え方ができる基礎力をつけることを目標とする。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. マーケティングの考え方や基本的フレーム（4P・STP）を理解し、記述できる。 2. マーケティング・マネジメントの基本的な各要素（製品・流通・価格・販促）や顧客との関係性、ブランドなどに関する基本的な概念・基本知識を理解し、記述できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内の課題、問題については、適宜授業内でフィードバックやコメント、アドバイスをを行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、民間企業において、マーケティングおよびマネジメントに関わるコンサルティング・調査業務をおよそ 20 年間行ってきた。また社会人に対してコミュニケーションに関する講義の実施や自社におけるコンサルタント育成のためのカリキュラム作成、マニュアル整備等の経験を有している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	1 からのマーケティング〈第 5 版〉, 石井淳蔵・廣田章光・清水信年, 碩学社, 2026 年	ISBN	9784502558412
参考書	参考になる文献、論文、資料等は、授業中に適宜紹介します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	40	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	企業を取り巻く環境が著しく変化するなか、企業経営においてマーケティングの重要性は増し、マーケティング志向に基づく判断力を身につけることが求められています。日常よりニュースや新聞などで報じられる企業のマーケティング活動に関心を持ち、ビジネス事例を通じて、自分なりのマーケティングの考え方を持つよう心がけることを期待します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス・（マーケティング発想の経営） 授業の目的と方法、授業計画、成績評価等について説明します。 マーケティングの考え方について学びます。 【キーワード】 マーケティング発想、マーケティング近視眼、ニーズ、価値、顧客満足（教科書1章）	事前学修：教科書の第1章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4時間
第2回	対面	マーケティング論の成り立ち マーケティング論の特徴、発展について学びます。 【キーワード】 マーケティング論、生産者、使用者、コミュニケーション（教科書2章）	事前学修：教科書の第2章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4時間
第3回	対面	マーケティングの基本概念 STPを中心に統合されたマーケティング活動について学びます。 【キーワード】 STP、4P（各項目含む）、セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング（教科書3章）	事前学修：教科書の第3章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4時間
第4回	対面	マーケティング 4P（製品のマネジメント） 製品マネジメントにおける製品戦略の概要やそのステップについて解説します。 【キーワード】 製品戦略、市場機会、製品コンセプト、製品ライフサイクル（教科書4章）	事前学修：教科書の第4章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4時間
第5回	対面	★中間試験Ⅰ（講義中に実施） 第1回から4回までに学修した用語についての理解を確認します。	事前学修：第1回から4回までの教科書、ノートにまとめた内容を確認し、授業で学修した用語の意味を復習しておくこと。 事後学修：中間試験1のふりかえりをしておくこと。	4時間
第6回	対面	マーケティング 4P（価格のマネジメント） 製品やサービスの価格設定の基本的な考え方を講義します。価格設定における需要曲線、価格弾力性の概念や価格戦略について解説します。 【キーワード】 需要曲線、価格弾力性（仕組みも含む）、代替品、高付加価値（教科書5章）	事前学修：教科書の第5章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4時間
第7回	対面	マーケティング 4P（チャネルのマネジメント） チャネル別ブランド戦略、チャネルマネジメントにおける選択・管理について解説します。 【キーワード】 チャネル選択、チャネル管理、流通経路、販社制度、チェーンストア制度、オムニチャネル（教科書7章）	事前学修：教科書の第6章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4時間
第8回	対面	サプライチェーンのマネジメント 企業における在庫問題やSCM（サプライチェーン・マネジメント）の役割について解説します。 【キーワード】 在庫、鮮度、不良在庫、SCM（教科書8章）	事前学修：教科書の第8章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4時間

第9回	対面	営業のマネジメント ビジネス市場における企業組織が購入対象となる製品・サービスに対してニーズを確立し、複数のブランドや供給業者を特定し、評価し、その名から選択する意思決定プロセスにおいてキープレイヤーとなる営業について学びます。 【キーワード】 境界連結者、資源動員、ネットワーク、属人信頼、システム信頼（教科書9章）	事前学修：教科書の第9章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4時間
第10回	対面	★中間試験2（講義中に実施） 第1回から9回までに学修した用語についての理解を確認します。	事前学修：第1回から9回までの教科書、ノートにまとめた内容を確認し、授業で得た用語の意味を復習しておくこと。 事後学修：中間試験2のふりかえりをしておくこと。	4時間
第11回	対面	マーケティング4P（広告のマネジメント） 消費者ニーズの明確化、消費者対応、プロモーションミックス等について解説します。 【キーワード】 消費者対応、競争対応、ブランド対応、プロモーション・ミックス、メディア・ミックス（教科書6章）	事前学修：教科書の第6章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4時間
第12回	対面	顧客関係のマネジメント ユーザーとしての消費者との関係作りや顧客関係の構築と関係維持について解説します。 【キーワード】 ライトユーザー、ロイヤルカスタマー、関係性パラダイム、コミットメント、CRM（教科書10章）	事前学修：教科書の第10章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4時間
第13回	対面	ビジネスモデルと顧客理解のマネジメント 顧客理解のためのマーケティング・リサーチについて解説します。 【キーワード】 価値志向、ビジネスエコシステム、成長マトリックス、事業コンセプト（教科書11章）と市場調査2次データ、マーケティング・リサーチ、定性的調査、定量的調査、粘着性（教科書12章）	事前学修：教科書の第11・12章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4時間
第14回	対面	ブランドのマネジメント ※テキスト2章分を1章に纏める ブランドの意味や機能及びブランド・エクイティの概念やブランド組織のマネジメントについて解説します。 【キーワード】 保証機能、識別機能、想起機能、ブランド認知、ブランド・パワー、ブランドエクイティ、ブランドマネージャー。（教科書13・14章）	事前学修：教科書の第13・14章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4時間
第15回	オンデマンド	総括 これまでに学修した内容について復習するとともに、それぞれがマーケティング発想におけるフレームのどの部分に位置づくかを説明します。	事前学修：これまでの学修内容を再度、確認しておくこと。 事後学修：教科書やノートにまとめた内容等を確認し、これまでに学修した部分を復習しておくこと。	6時間

科目名	マーケティング基礎	開講年度	2026 年度春学期
担当者	范 沈俐	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	マーケティングとは何かについて、企業経営における役割・職能から基本的なフレームワークを理解する。		
授業の目的及び概要	この授業は、マーケティングとは何かについて、企業経営における役割・職能の点から学修する。主に、マーケティング基本概念である STP(Segmentation、Targeting、 Positioning)やマーケティングの 4P(Product、Price、Place、 Promotion)等の専門用語に関する理解と解説ができるように、マネジメントの観点から考察する。また、マーケティング戦略コースの要となるものであり、各論であるマーケティングマネジメント関連の講義（マーケティング戦略論Ⅰ）において理解を深めることができるよう、重要な用語についての理解を深めるように講義を進める。主要なマーケティングの考え方を理解し、マーケティング志向に基づいた判断や考え方ができる基礎力をつけることを目標とする。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. マーケティングの考え方や基本的フレーム（4P・STP）を理解し、記述できる。 2. マーケティング・マネジメントの基本的な各要素（製品・流通・価格・販促）や顧客との関係性、ブランドなどに関する基本的な概念・基本知識を理解し、記述できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内の課題、問題については、適宜授業内でフィードバックやコメント、アドバイスをを行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	1 からのマーケティング〈第 5 版〉, 石井淳蔵・廣田章光・清水信年, 碩学社, 2026 年	ISBN	9784502558412
参考書	参考になる文献、論文、資料等は、授業中に適宜紹介します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	40	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	企業を取り巻く環境が著しく変化するなか、企業経営においてマーケティングの重要性は増し、マーケティング志向に基づく判断力を身につけることが求められています。日常よりニュースや新聞などで報じられる企業のマーケティング活動に関心を持ち、ビジネス事例を通じて、自分なりのマーケティングの考え方を持つよう心がけることを期待します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	ガイダンス・(マーケティング発想の経営) 授業の目的と方法、授業計画、成績評価等について説明します。 マーケティングの考え方について学びます。 【キーワード】 マーケティング発想、マーケティング近視眼、ニーズ、価値、顧客満足 (教科書1章)	事前学修：教科書の第1章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4時間
第2回	対面	マーケティング論の成り立ち マーケティング論の特徴、発展について学びます。 【キーワード】 マーケティング論、生産者、使用者、コミュニケーション (教科書2章)	事前学修：教科書の第2章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4時間
第3回	対面	マーケティングの基本概念 STPを中心に統合されたマーケティング活動について学びます。 【キーワード】 STP、4P (各項目含む)、セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング (教科書3章)	事前学修：教科書の第3章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4時間
第4回	対面	マーケティング 4P (製品のマネジメント) 製品マネジメントにおける製品戦略の概要やそのステップについて解説します。 【キーワード】 製品戦略、市場機会、製品コンセプト、製品ライフサイクル (教科書4章)	事前学修：教科書の第4章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4時間
第5回	対面	★中間試験Ⅰ (講義中に実施) 第1回から4回までに学修した用語についての理解を確認します。	事前学修：第1回から4回までの教科書、ノートにまとめた内容を確認し、授業で学修した用語の意味を復習しておくこと。 事後学修：中間試験Ⅰのふりかえりをしておくこと。	4時間
第6回	対面	マーケティング 4P (価格のマネジメント) 製品やサービスの価格設定の基本的な考え方を講義します。価格設定における需要曲線、価格弾力性の概念や価格戦略について解説します。 【キーワード】 需要曲線、価格弾力性 (仕組みも含む)、代替品、高付加価値 (教科書5章)	事前学修：教科書の第5章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4時間
第7回	対面	マーケティング 4P (チャネルのマネジメント) チャネル別ブランド戦略、チャネルマネジメントにおける選択・管理について解説します。 【キーワード】 チャネル選択、チャネル管理、流通経路、販社制度、チェーンストア制度、オムニチャネル (教科書7章)	事前学修：教科書の第6章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4時間
第8回	対面	サプライチェーンのマネジメント 企業における在庫問題や SCM (サプライチェーン・マネジメント) の役割について解説します。 【キーワード】 在庫、鮮度、不良在庫、SCM (教科書8章)	事前学修：教科書の第8章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4時間
第9回	対面	営業のマネジメント ビジネス市場における企業組織が購入対象となる製品・サービスに対してニーズを	事前学修：教科書の第9章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4時間

		確立し、複数のブランドや供給業者を特定し、評価し、その名から選択する意思決定プロセスにおいてキープレイヤーとなる営業について学びます。 【キーワード】 境界連結者、資源動員、ネットワーク、属人信頼、システム信頼（教科書9章）		
第10回	対面	★中間試験2（講義中に実施） 第1回から9回までに学修した用語についての理解を確認します。	事前学修：第1回から9回までの教科書、ノートにまとめた内容を確認し、授業で得た用語の意味を復習しておくこと。 事後学修：中間試験2のふりかえりをしておくこと。	4時間
第11回	対面	マーケティング4P（広告のマネジメント） 消費者ニーズの明確化、消費者対応、プロモーションミックス等について解説します。 【キーワード】 消費者対応、競争対応、ブランド対応、プロモーション・ミックス、メディア・ミックス（教科書6章）	事前学修：教科書の第6章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4時間
第12回	対面	顧客関係のマネジメント ユーザーとしての消費者との関係作りや顧客関係の構築と関係維持について解説します。 【キーワード】 ライトユーザー、ロイヤルカスタマー、関係性パラダイム、コミットメント、CRM（教科書10章）	事前学修：教科書の第10章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4時間
第13回	対面	ビジネスモデルと顧客理解のマネジメント 顧客理解のためのマーケティング・リサーチについて解説します。 【キーワード】 価値志向、ビジネスエコシステム、成長マトリックス、事業コンセプト（教科書11章）と市場調査2次データ、マーケティング・リサーチ、定性的調査、定量的調査、粘着性（教科書12章）	事前学修：教科書の第11・12章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4時間
第14回	対面	ブランドのマネジメント ※テキスト2章分を1章に纏める ブランドの意味や機能及びブランド・エクイティの概念やブランド組織のマネジメントについて解説します。 【キーワード】 保証機能、識別機能、想起機能、ブランド認知、ブランド・パワー、ブランドエクイティ、ブランドマネージャー。（教科書13・14章）	事前学修：教科書の第13・14章を読んでおくこと。 事後学修：授業で得た知識をノート等にまとめ、復習しておくこと。	4時間
第15回	オンデマンド	総括 これまでに学修した内容について復習するとともに、それぞれがマーケティング発想におけるフレームのどの部分に位置づけるかを説明します。	事前学修：これまでの学修内容を再度、確認しておくこと。 事後学修：教科書やノートにまとめた内容等を確認し、これまでに学修した部分を復習しておくこと。	6時間

科目名	上級簿記	開講年度	2026 年度春学期
担当者	藤原 大花	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	日商簿記検定 1 級レベルの商業簿記を学ぶ。		
授業の目的及び概要	この授業は、「初級簿記」・「中級簿記」の履修等を通じて、中級程度の商業簿記について十分な学修を行っている学生を対象に開設されるものであり、会計専門職を目指すための土台となる知識を養うことを目的とする。近年の会計制度の改革とそれに伴う会計基準の整備等により複雑化した会計処理について、最新の法令・会計基準に基づいた詳細な会計処理を学修する。この授業を履修することによって、「日本商工会議所簿記検定 1 級（商業簿記・会計学）」の基礎を修得することができる。		
履修条件・留意点	日商簿記 2 級資格取得または「中級簿記」の単位を取得していること。 ※第 1 回目の講義で実力確認テストを実施します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・大企業の取引を理解し、仕訳できる。 ・大企業の財務諸表を作成することができる。 ・日商簿記検定 1 級（商業簿記・会計学）等の上級レベルの簿記の問題を解くことができる。 ・会計処理を他者に説明できる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	各種問題については、返却後に解説いたします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、公認会計士（日本公認会計士協会会員）であり、監査法人にて様々な監査業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	初回授業で案内します。	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	100	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容	6 月の日商簿記検定 1 級の結果を成績に反映させます。詳細については、初回授業で案内します。	
この科目の受講にあたって	本授業は、今までの簿記のレベルと比較できないほど難易度が上がること、意識の高い受講生が集まることから、遅刻・欠席・途中退室には厳しく対処する。また、取り扱う内容は日商簿記 2 級までの範囲を完璧に理解していなければ太刀打ちできないものであり、その知識を前提として授業を進めるので、受講生は必ず日商簿記 2 級までの知識を持ち合わせておくように。簿記を理解することにより、企業の経理事務に必要な会計知識だけでなく、財務諸表を読む力、基礎的な経営管理や分析力が修得できる。日商簿記の最高峰である 1 級の取得は就職活動に有利なステータスとなる。本科目受講生は是非 1 級取得にチャレンジしてほしい。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	・オリエンテーション ・実力確認問題（中級簿記の範囲）	【事事学修】日商簿記2級の範囲の総復習をしておくこと。	6時間
第2回	対面	固定資産	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、各自問題集等を使用し復習しておくこと。	6時間
第3回	対面	有価証券	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、各自問題集等を使用し復習しておくこと。	6時間
第4回	対面	デリバティブ取引	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、各自問題集等を使用し復習しておくこと。	6時間
第5回	対面	リース会計	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、各自問題集等を使用し復習しておくこと。	6時間
第6回	対面	減損会計	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、各自問題集等を使用し復習しておくこと。	6時間
第7回	対面	税効果会計	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、各自問題集等を使用し復習しておくこと。	6時間
第8回	対面	外貨建取引	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、各自問題集等を使用し復習しておくこと。	6時間
第9回	対面	退職給付会計	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、各自問題集等を使用し復習しておくこと。	6時間
第10回	対面	資産除去債務	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、各自問題集等を使用し復習しておくこと。	6時間
第11回	対面	純資産	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、各自問題集等を使用し復習しておくこと。	6時間
第12回	対面	その他の重要論点	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、各自問題集等を使用し復習しておくこと。	6時間
第13回	対面	その他の重要論点	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、各自問題集等を使用し復習しておくこと。	6時間
第14回	対面	その他の重要論点	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、各自問題集等を使用し復習しておくこと。	6時間
第15回	オンデ	まとめ（定期試験に向けて）	【事前学修】テキスト及び配布資料全てを事前に読	6時間

2026/05/01

	マンド		んでおくこと。 【事後学修】テキスト及び配布資料を全て読み直し、各自の持っている日商簿記検定問題集等の該当問題を間違うことがないレベルまで解き、定期試験に備えること。	

科目名	デジタル経営論Ⅰ ＜経営情報論Ⅰ＞		開講年度	2026 年度春学期
担当者	中川 隆広		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義	
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目			
テーマ	デジタル技術を活用して企業経営を革新するデジタル経営について学修する。			
授業の目的及び概要	近年の企業経営における IT の活用は、ビジネスの支援ツールとしての活用の枠を超えており、経営やビジネスモデルを、AI、IoT、ビッグデータなどの最新のデジタル技術で大きく変革することを活用の目的としている。この授業では、企業での IT 活用の中心となる、「経営情報システム」や「e ビジネス」と「デジタルマーケティング」の分野で、企業を変革する IT の活用と重要なデジタル技術の詳細について学修することを目的とします。授業では、履修者自身が調べ、まとめる能動的な学修を行います。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	①現代経営にの变革に利用されている主要なデジタル技術の用語を理解し、記述することができる。 ②EC やソーシャルメディア、クラウドコンピュータなどビジネスのインフラとなっているプラットフォームの内容を理解し、記述することができる。 ③SCM やマーケティングなどビジネスプロセスがデジタル技術でどのように变革しているのかを理解し、記述することができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	コメントシートを実施して質問への回答や補足説明を行い、要望を受け付けます。			
アクティブ・ラーニングの取組み				
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1986 年に大手電機メーカーに入社し、物流企画部等を経て、2014 年には本社情報企画部部長、2021 年には本社情報戦略部部長に就任するなど、同社の情報システムに関する実務経験を 30 年以上積んでいる。本科目では、これらの経験を生かした授業を行う。			
テキスト	大嶋淳俊, デジタル経営学入門 IT 経営、e ビジネス、マーケティング編、2021, 学文社		ISBN	978-4762030758
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		10	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		30	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		60	
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	事前事後の学修を行い、目的意識を持って授業に臨むようにしてください。 授業で取り組む演習を毎回提出してもらいます。提出していない場合は欠席となります。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	ガイダンス デジタルを活用したデジタル経営学について学修する。 キーワード：ITの進化の動向	事前にテキストを購入しておくこと 事後学修としてテキストの第Ⅰ部1. P27の発展学習のポイント2. を考えて下さい。	4時間
第2回	対面	ITの進化が社会にどのような影響を与えたか 日本の経済・社会の変化と情報化の関係について学修する。 キーワード：少子化に対するデジタル化	事前学修として教科書第Ⅰ部2. を読み、予習しておいてください。 事後学修としてテキストの第Ⅰ部2. P38の発展学習のポイント2. を考えて下さい。	4時間
第3回	対面	政府のIT政策とIT産業 政府のIT政策の変遷とIT産業の発展について学修する。 キーワード：IT産業	事前学修として教科書第Ⅰ部3. を読み、予習しておいてください。 事後学修としてテキストの第Ⅰ部3. P49の発展学習のポイント2. を考えて下さい。	4時間
第4回	対面	企業経営とデジタル 企業経営の中でITがどのように使われてきたのかを学修します。 キーワード：経営情報システム	事前学修として教科書第Ⅱ部4. を読み、予習しておいてください。 事後学修としてテキストの第Ⅱ部4. P65の発展学習のポイント2. を考えて下さい。	4時間
第5回	対面	企業経営と情報システムの活用 企業経営の中心となるCRM、SFA、ERP、SCMについて学修します。 キーワード：企業経営と情報システム	事前学修として教科書第Ⅱ部5. を読み、予習しておいてください。 事後学修としてテキストの第Ⅱ部5. P72の発展学習のポイント2. を考えて下さい。	4時間
第6回	対面	eビジネスの基本枠組み インターネットを使ったeビジネスについて学修する。 キーワード：eビジネス	事前学修として教科書第Ⅲ部6. を読み、予習しておいてください。 事後学修としてテキストの第Ⅲ部6. P94の発展学習のポイント2. を考えて下さい。	4時間
第7回	対面	モバイル機器の進化 スマートフォンなどのモバイル機器がビジネスにどのような影響を与えたのかを学修する。 キーワード：スマートフォン	事前学修として教科書第Ⅲ部7. を読み、予習しておいてください。 事後学修としてテキストの第Ⅲ部7. P105の発展学習のポイント2. を考えて下さい。	4時間
第8回	対面	クラウドコンピューティング クラウドコンピューティングの種類と企業でどのように使われているのかを学修する。 ・中間テスト キーワード：クラウドコンピューティング	事前学修として教科書第Ⅲ部8. を読み、予習しておいてください。 事後学修としてテキストの第Ⅲ部8. P113の発展学習のポイント2. を考えて下さい。	4時間
第9回	対面	ソーシャルメディア ソーシャルメディアの種類と活用事例について学修する。 キーワード：ソーシャルメディア	事前学修として教科書第Ⅲ部9. を読み、予習しておいてください。 事後学修としてテキストの第Ⅲ部9. P130の発展学習のポイント3. を考えて下さい。	4時間
第10回	対面	ビッグデータとIoT ビッグデータの構成要素や収集・蓄積・活用とIoTについて学修する。 キーワード：ビッグデータ、IoT	事前学修として教科書第Ⅲ部10. を読み、予習しておいてください。 事後学修としてテキストの第Ⅲ部10. P141の発展学習のポイント2. を考えて下さい。	4時間
第11回	対面	AIとロボット AIとロボットの詳細を整理し、ビジネスや生活でどのように使われ、今後の可能性は何かを学修する。 キーワード：AI、ロボット	事前学修として教科書第Ⅲ部11. を読み、予習しておいてください。 事後学修としてテキストの第Ⅲ部11. P155の発展学習のポイント2. を考えて下さい。	4時間
第12回	対面	情報セキュリティ インターネットの活用により増加するサーバー攻撃に対する情報セキュリティについて学修する。 キーワード：情報セキュリティ	事前学修として教科書第Ⅲ部12. を読み、予習しておいてください。 事後学修としてテキストの第Ⅲ部12. P172の発展学習のポイント4. を考えて下さい。	4時間
第13回	対面	マーケティングの基本 マーケティングの基本の定義や考え方、プロセスなどについて学修する。	事前学修として教科書第Ⅳ部13. を読み、予習しておいてください。 事後学修としてテキストの第Ⅳ部13. P186の発展学	4時間

		キーワード：マーケティング	習のポイント2. を考えて下さい。	
第14回	対面	デジタルマーケティング マーケティングにデジタル化が及ぼす影響と概念の変化について学修する。 キーワード：デジタルマーケティング	事前学修として教科書第IV部 14. を読み、予習しておいてください。 事後学修としてテキストの第IV部 14. P206 の発展学習のポイント4. を考えて下さい。	4 時間
第15回	オンデマンド	復習 第1回目から第14回目までの授業を復習します。	事前学修として教科書と授業で配布したレジюмеを予習しておいてください。 事後学修として定期試験にむけて学修しておいてください。	4 時間

科目名	ビジネス統計学 I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	五島 光	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	ビジネスにおいて必要となる統計学の基本的な用語・分析の理解および結果の読み解き方を習得する		
授業の目的及び概要	現代のビジネスでは、データ分析が重要なツールとなっています。人間の勘や経験だけでなく、データが示す事実がより正確な判断材料を与えてくれるからです。 例えば、商品開発や販売戦略を考えると、人材マネジメントやお金の使い方を決めるとき、データ分析は「これがおそらく正しい選択だろう」と教えてくれます。だからこそ、ビジネスに関わる人はデータを読み解く力を身につける必要があります。データを見て「なぜこうなっているのか」「これから何が起きそうか」を考える能力を持った人がどんな業界・分野でも求められているのです。 本授業では、記述統計（現状の把握）と簡単な推測統計（未来の予測）まで扱います。授業内もしくは授業外の演習課題に取り組むことによって、受講者が基本的な統計学の考え方を身につけることを目的とします。 なお、履修中に統計検定 3 級にチャレンジすることを推奨します。		
履修条件・留意点	授業では必ずパソコン（充電済み）を持参してください。Python, R を用いて、分析を行うときにパソコンが必要です。 また、Google アカウントも必要です。Google Colab を使うときがあるためです。持っていない学生は授業初回までに Google アカウントを作成しておいてください。 発言や質問など積極的・主体的に参加すること。授業内の課題・提出物に取り組むこと。 授業内で小テストを 2～3 回実施予定です。実施回は授業やラーニングポータルで説明します。 本授業は統計検定 3 級に完全準拠しているわけではありません（その範囲を超える）が、授業で学修した知識をもとに過去問題集を解けば合格は十分に可能です。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 平均、最頻値、中央値、分散、標準偏差、相関係数、回帰分析などの基本的な統計用語を理解し、簡潔に説明できる。 2. データの性質（尺度水準）について理解し、説明できる。 3. 棒グラフ、折れ線グラフ、ヒストグラム、散布図などの代表的な図の特徴を説明できる。 4. いろいろな確率分布があることを知り、特に二項分布と正規分布の特徴を理解できる。 5. 確率の簡単な計算ができる。 6. 仮説検定の基本的な概要を理解できる。 7. データ分析の必要性や手順を理解し、分析結果を説明することができる。 8. Excel, Python, R などを利用して分析を実行できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	本授業での課題・問題についてはフィードバックやコメント・アドバイスをを行います。 コメントシートの提出を求める場合、重要なものは翌週の授業で紹介し、質問への回答や補足説明を行います。 アクティブラーニングの取り組みは受講者数や進度によって実施しない場合があります。 小テスト等の結果によって進度の調整を行う場合があります。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、民間企業において、マーケティングおよびマネジメントに関わるコンサルティング・調査業務をおよそ 20 年間行ってきた。また社会人に対してコミュニケーションに関する講義の実施や自社におけるコンサルタント育成のためのカリキュラム作成、マニュアル整備等の経験を有している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		

テキスト	総務省統計局『データサイエンススクール レベル別教材』（無料） https://www.stat.go.jp/dss/getting/textbook.html	ISBN	なし
参考書	①経営・商学のための統計学入門 直感的な例題で学ぶ，竹内広宜，講談社，2021 年 ②フリー統計分析ツール HAD のトリセツ，横田晋大，ナカニシヤ出版，2025 年 ③マンガでわかる統計学，高橋信，トレンドプロ，2004 年 ④Excel・R ではじめる 文系のためのデータ分析入門，須山憲之・長島直樹・張婷婷，中央経済社，2025 年 ⑤改訂版 日本統計学会公式認定 統計検定 3 級対応 データの分析，日本統計学会，東京図書，2020 年 ⑥日本統計学会公式認定 統計検定 3 級・4 級 公式問題集，日本統計学会，実務教育出版，2023 年 ⑦THE FIRST STEP データサイエンス，名古屋大学教育学部附属中・高等学校，大修館書店，2025 年	ISBN	①9784065251614 ②9784779518409 ③9784274065705 ④9784502555213 ⑤9784489023323 ⑥9784788920484 ⑦9784469273038
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	25	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）		
	その他の内容	履修中に統計検定 3 級以上もしくは G 検定に合格した者は定期試験を満点扱いとする。	
この科目の受講にあたって	算数や数学が苦手だからといって，本授業を避けないでほしいと思います。難しい数式が出てくるんじゃないかと恐れる必要はありません。わかりたいという気持ちを持ち，理解する努力がある限り，わからないことは恥ではありません。あきらめず，根気よく学習すれば文系（社会科学）の学生のための統計分析の基本は身につけられます。 生成 AI によって，分析そのものはますます身近になり，分析すること自体は本当に簡単になってきました。 しかし，統計分析の基本を理解し，結果を読み解ける人はまだまだ少ない。だからこそ，統計分析の基本をきちんと身につけておくで就職・進学してから必ず役に立ちますし，必要とされる人になれる可能性が高まります。ぜひ多くの人に本授業を受けてほしいと思います。いっしょにがんばりましょう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	【イントロダクション&ガイダンス】 授業の目的と方法、進め方・受け方、授業計画、成績評価等について説明します。授業で使う教材やクラウド型分析ツール（Google Colab）の導入と基本操作を習得します。	事前学修としてシラバスを事前に読み、授業の目的等を理解しておくこと。 事後学修として自分のメモ・ノートを読んで授業の復習をすること。分析演習があった場合は、習得できるまで操作を復習すること。	2 時間
第 2 回	対面	【データの可視化と現状把握】 「平均」だけでは見えない組織や市場の実態を把握するため、ヒストグラムや度数分布表を用いたデータの分布形状の読み取り方を学びます。	事前学修として初級編教材の「I. 統計の役割」および中級編教材の「第 1 部 I 様々なグラフ表現」を読んでおくこと。事後学修として教材・資料を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。分析演習があった場合は、習得できるまで操作を復習すること。	4 時間
第 3 回	対面	【記述統計(1)：代表値】 平均値・中央値・最頻値などの定義と特性を理解します。データの偏りが意思決定に与える影響を学び、適切な代表値の選び方	事前学修として初級編教材の「II データのばらつきの方」を読んでおくこと。事後学修として教材・資料を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間

		を考察します。		
第4回	対面	【記述統計(2)：データのちらばり・ばらつき】 分散・標準偏差・四分位数を用いてデータの「ばらつき」を定量化する方法を学びます。ビジネスにおけるリスク評価や安定性の指標としての活用法を理解します。	事前学修として中級編教材「第1部 II データの分ブ ロ見る&III 観測値の標準化と外れ値」を読んでおくこと。事前学修として事後学修として教材・資料を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第5回	対面	【相関分析：変数間の関係性の探索】 2つの変数間の関係（相関）を数値化する相関係数と散布図について学びます。相関関係と因果関係の違い（擬似相関）についても留意し、誤った解釈を防ぐ視点を養います。	事前学修として中級編教材「第1部 IV 関係の分析」を読んでおくこと。 事後学修として教材・資料を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第6回	対面	【質的データの分析：クロス集計】 アンケート結果や顧客属性などの質的データを分析するためのクロス集計表について学びます。属性間の傾向の違いや特徴を把握する手法を習得します。	事前学修として中級編教材「第1部 IV 関係の分析」を読んでおくこと。 事後学修として教材・資料を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第7回	対面	【確率の基礎と意思決定】 不確実なビジネス環境下での合理的な判断を行うための基礎として、確率の概念・条件付き確率・期待値の考え方を学びます。	事前学修として初級編教材「IV 確率の基礎」および中級編教材「第1部 V 確率」に目を通しておくこと。 事後学修として教材・資料を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第8回	対面	【確率分布(1)：二項分布とその性質】 離散型確率分布（二項分布）を題材に、成功・失敗の確率モデルを学びます。営業成約率や品質管理などの事例を通じて確率分布の有用性を理解します。	事前学修として上級編教材「II 確率変数&III 確率分布」を読んでおくこと（数式は気にしなくてよい）。 事後学修として教材・資料を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第9回	対面	【確率分布(2)：正規分布と標準化】 統計学で最も重要な正規分布と標準化について学びます。異なる条件下でのデータを公平に比較・評価する手法を習得します。	事前学修として上級編教材「II 確率変数&III 確率分布」を読んでおくこと（数式は気にしなくてよい）。 事後学修として教材・資料を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第10回	対面	【推測統計の基礎：母集団と標本】 全数調査が困難な場合に行う標本調査の理論的根拠（無作為抽出、中心極限定理）を学びます。一部のデータから全体を推測する統計学の本質に触れます。	事前学修として中級編教材「第1部 VI 標本調査」および上級編教材「IV 標本分布」を読んでおくこと（数式は気にしなくてよい）。 事後学修として教材・資料を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第11回	対面	【統計的推定：区間推定の理論】 標本データから母数（母平均・母比率）を幅を持って推定する方法（信頼区間）を学びます。	事前学修として中級編教材「第1部 VI 標本調査」および上級編教材「IV 標本分布」を読んでおくこと（数式は気にしなくてよい）。 事後学修として教材・資料を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第12回	対面	【仮説検定(1)：検定の論理と仕組み】 仮説検定の基本的な論理（帰無仮説・対立仮説・P値・有意水準）を重点的に学びます。計算よりも「なぜその結論になるのか」という思考プロセスを理解します。	事前学修として上級編教材「VI 仮説検定」を読んでおくこと（数式は気にしなくてよい）。 事後学修として教材・資料を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第13回	対面	【仮説検定(2)：ビジネスにおける差異の検証】 前回学んだ論理を用いて、実際に2群の平均値の差の検定（t検定）を行います。A/Bテストの結果検証など、ビジネス上の差異を科学的に判定する方法を習得します。	事前学修として上級編教材「VII 回帰分析 1. 単回帰モデル」に目を通しておくこと（数式は気にしなくてよい）。 事後学修として教材・資料を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第14回	対面	【回帰分析：データに基づく将来予測】 単回帰分析による予測モデルの構築について学びます。過去のデータから将来の売	事前学修として上級編教材「VII 回帰分析 1. 単回帰モデル」に目を通しておくこと（数式は気にしなくてよい）。 事後学修として教材・資料を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間

		上や数値を予測する回帰直線の意味と活用法を理解します。	事後学修として教材・資料を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。	
第15回	オンデマンド	【総括】 これまで取り扱ってきた内容について振り返り、あらためて重要なポイントは何かについて確認します。今後学んでほしい分析手法についても紹介します。また定期試験についても説明を行います。	事前学修としてこれまでの教材・資料を事前に読んでおくこと。 事後学修として講義資料やメモを読んで授業で得た知識を復習しておくこと。定期試験に備えること。	6 時間

科目名	ビジネス統計学 I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	范 沈俐	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	ビジネスにおいて必要となる基礎統計の理論と手法を理解する。		
授業の目的及び概要	コンピュータの普及および分析手法の高度化に伴い、社会全体に膨大なデータが蓄積・流通するようになった。ビジネス領域においても、意思決定の精緻化と競争優位性の確立のため、データ駆動型の洞察を得ることが不可欠となっている。そのため、統計学の理論的基盤および実践的手法の修得は、現代のビジネスパーソンにとって必須の要件である。本講義では、マーケティング、ファイナンス、財務分析といった情報化時代のビジネス環境において、広範に応用可能な統計学の基盤を構築することを目的とする。統計的記述の方法、統計的推測の理論と技法を体系的に学修し、さらに具体的な演習課題を通じて実践的スキルを養う。これにより、履修者が統計的な視座を獲得し、定量的分析を駆使した論理的思考能力を養成し、また「統計検定 3 級」の資格を取得することを目指す。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. データ分析の必要性や手順を理解し、説明することができる。 2. データ分析における仮説とサンプリングについて理解し、説明することができる。 3. 平均、分散、相関分析などの基礎統計の概念を理解し、Excel を利用して分析を実行できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内の課題、問題については、適宜授業内でフィードバックやコメント、アドバイスをを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	反転授業		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキスト指定は行いません。必要な資料を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	① 1 からのマーケティング分析、恩蔵直人・富田健司、碩学舎、2011 年 ② 経営・商学のための統計学入門、竹内広宜、講談社、2021 年 ③ 日本統計学会公式認定 統計検定 3 級・4 級公式問題集 [CBT 対応版]	ISBN	① 9784502683602 ② 9784065251614 ③ 9784788920484
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート 課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート 試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	ビジネス業界において、データに基づく戦略の重要性がより強調されています。本講義はデータ分析における必要な基礎統計の概念や手法について説明します。とくに統計手法について Excel を用いて演習します。秋学期のビジネス統計学 II を履修することをお勧めします。また、		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 授業の目的と方法、授業計画、成績評価等について説明します。	事前学修：シラバスを事前に読み、授業の目的等を理解しておくこと。 事後学修：授業で配布した資料を読んで「ビジネス統計学Ⅰ」の概要等を確認しておくこと。	4 時間
第2回	対面	マーケティング分析の手順 マーケティング分析における問題設定やリサーチ・デザインについて説明します。	事前学修：講義資料を事前に読んでおくこと。 事後学修：講義資料・参考書を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第3回	対面	仮説検証 仮説の概念や仮説検証の手順について説明します。	事前学修：講義資料を事前に読んでおくこと。 事後学修：講義資料・参考書を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第4回	対面	データの種類 データのタイプの違いを理解し、それぞれのデータに適した処理法を解説します。	事前学修：講義資料を事前に読んでおくこと。 事後学修：講義資料・参考書を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第5回	対面	標本調査 標本調査の意味と必要性を理解し、標本の抽出方法や推定方法について解説します。	事前学修：講義資料を事前に読んでおくこと。 事後学修：講義資料・参考書を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第6回	対面	統計グラフ 1 変数または 2 変数の統計グラフを適切な見方・読み方について学びます。	事前学修：講義資料を事前に読んでおくこと。 事後学修：講義資料・参考書を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第7回	対面	データ集計 1 変数または 2 変数のデータを適切に集計表に記述すること、また集計表から適切な情報の読み取りについて解説します。	事前学修：講義資料を事前に読んでおくこと。 事後学修：講義資料・参考書を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第8回	対面	学修内容の再確認 学修してきた内容の再確認を進めるため、主に事例として取り上げ、これまで学修した理論を使ってどのように考えられるのかを再確認します。	事前学修：講義資料を事前に読んでおくこと。 事後学修：講義資料・参考書を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第9回	対面	データの代表値 数値を用いてデータの中心的位置を表現すること、またそれらを用いて適切にデータの特徴を説明します。	事前学修：講義資料を事前に読んでおくこと。 事後学修：講義資料・参考書を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第10回	対面	確率分布 確率変数の平均・分散・標準偏差などを用いて、基本的な確立分布の特徴について説明します。	事前学修：講義資料を事前に読んでおくこと。 事後学修：講義資料・参考書を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第11回	対面	相関分析 相関関係と因果関係について説明します。	事前学修：講義資料を事前に読んでおくこと。 事後学修：講義資料・参考書を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第12回	対面	回帰分析 最小 2 乗法や回帰係数などについて説明します。	事前学修：講義資料を事前に読んでおくこと。 事後学修：講義資料・参考書を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第13回	対面	実験法 実験の意味と必要性を理解し、実験の基本的な考え方について学びます。	事前学修：講義資料を事前に読んでおくこと。 事後学修：講義資料・参考書を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第14回	対面	分散分析 分散分析の概念と内容について解説します。	事前学修：講義資料を事前に読んでおくこと。 事後学修：講義資料・参考書を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第15回	オンデマンド	総括 これまで取り扱ってきた内容について振り返るとともに、あらためて重要なポイントは何かについて確認します。	事前学修：講義資料を事前に読んでおくこと。 事後学修：講義資料・参考書を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。	6 時間

科目名	経営組織論Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	竹田 次郎	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	企業組織が成立・機能する仕組みについて、ミクロ組織論の諸理論を通じて学修します。		
授業の目的及び概要	この科目は、会社などの組織において従業員やそのチームの働く場における行動や態度について学ぶ組織行動論という学問分野です。 卒業後、キャリアの階段を上がっていく皆さんに、国内外の理論・事例を紹介し、有用な知識を修得して頂きます。 なお、この科目とあわせ、経営組織論Ⅱにて、外部環境との関係性から組織の構造や戦略を考察する学問を学ぶことで、組織の状況を的確に捉え、リーダーシップやマネジメントが発揮できる基本的な知識の修得を目標とします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	モチベーション論、組織コミットメント論、リーダーシップ論、キャリア・マネジメント論などに関する、 （１）基本的な知識を習得し、 （２）理論や概念を体系的に理解し、 （３）特に代表的な理論や概念について、説明できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	定期試験の他に、中間試験を行なったうえで、解答・解説を示して理解の定着を図ります。 また、受講生からの示唆に富んだ質問や秀逸な意見を紹介し、それに対する回答を提示します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、セメントメーカーで 20 年以上に渡って人事部門や会計部門で業務に従事しており、人事課長の経験も有している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	組織行動論，開本浩矢，中央経済社，2019 年	ISBN	9784502295614
参考書	キャリアで語る経営組織：個人の論理と組織の論理〔第 2 版〕，稲葉祐之他，有斐閣，2022 年	ISBN	9784641222014
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	10	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	40	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	・この科目はⅠとⅡの両方を履修して内容が完結するので、Ⅰの単位習得後はⅡを履修して下さい。 ・日頃からビジネス誌を読み、ビジネス情報に触れて、世界や日本の企業事情に関する出来事を把握して下さい。 ・経営組織論の基本概念を理解した上で、その実践につながる知識が習得出来ているか確認します。		

・テキストや授業で学んだ知識・理論を覚えるだけでなく、実際に活用できるようになることが大事ですので、現実起こり得る事例についても、適宜言及します。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	「ガイダンス」 この科目の目的・目標、授業の進め方・受け方、成績評価などについて、授業計画の詳細とともに説明します。 「組織行動論への招待」 組織行動論を学ぶ準備として、会社などの「組織」で働くとはどういうことか、について考察します。	(事前学修) この科目のシラバスを読み込むとともに、参考書第1章、配布資料（レジュメ）を事前に読んでください（2時間）。 (事後学修) テキスト第1章、配布資料（レジュメ）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい（2時間）。	4時間
第2回	対面	「モチベーション：会社と仕事に慣れる」 ①モチベーションとは何か②何によって動機づけられるか③どのように動機づけられるか④多様なモチベーション理論とその捉え方について学修します。 (特に重要な事項) 欲求段階説、ERGモデル、動機付け-衛生理論、期待理論、職務特性理論	(事前学修) 参考書第3章、配布資料（レジュメ）を事前に読んでください(2時間)。 (事後学修) テキスト第2章、配布資料（レジュメ）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい（2時間）。	4時間
第3回	対面	「組織コミットメント：愛着／一体感はどう育まれる？」 ①組織コミットメントとは②組織コミットメントが強いことの意味③組織コミットメントに影響を与える要因④組織コミットメントの変化⑤日本における組織コミットメントについて学修します。 (特に重要な事項) 組織コミットメントの変化、見えざる出資	(事前学修) テキスト第3章、配布資料（レジュメ）を事前に読んでください（2時間）。 (事後学修) テキスト第3章、配布資料（レジュメ）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい（2時間）。	4時間
第4回	対面	「意思決定と合意形成：集団の意見をまとめるには？ 対立を解消するには？」 ①「経営人」の意思決定②意思決定におけるヒューリスティックとバイアス③合意形成④問題解決の実践と第三者による支援について学修します。 (特に重要な事項) 満足化原理の意思決定、ヒューリスティック、バイアス、協調的問題解決 【小テスト#1実施】	(事前学修) 参考書第6・8章、配布資料（レジュメ）を事前に読んでください（2時間）。 (事後学修) テキスト第4章、配布資料（レジュメ）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい（2時間）。	4時間
第5回	対面	「キャリア・マネジメント：人事異動とは？ 会社の中でのキャリア開発？」 ①キャリアに対する関心の高まり②キャリアとは③何がキャリアを形づくるのか④キャリア・マネジメントにおける今後の課題について学修します。 (特に重要な事項) 組織内キャリアモデル、キャリア・アンカー、「遅い選抜」、自律的キャリア	(事前学修) 参考書第4章、配布資料（レジュメ）を事前に読んでください（2時間）。 (事後学修) テキスト第5章、配布資料（レジュメ）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい（2時間）。	4時間
第6回	対面	「組織ストレス：ストレスの原因は色々。どんな目配りが要る？」 ①人間と環境の相互作用としての組織ストレス②組織の中の人間に対する外圧とその反応③ストレスへの対処④組織ストレスに関する課題について学修します。 (特に重要な事項) ストレッサ、ストレイン、モデレータ、ソーシャル・サポート	(事前学修) テキスト第7章、配布資料（レジュメ）を事前に読んでください（2時間）。 (事後学修) テキスト第7章、配布資料（レジュメ）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい（2時間）。	4時間

		【小テスト#2実施】		
第7回	対面	第1回～第6回の学修内容の再確認および中間試験Ⅰ 第1回～第6回までに学修してきた内容の再確認をした上で、中間試験を実施します。	(事前学修) あらためて当該部分のテキスト、配布資料(レジュメ)、ノートを一通り読み返し、不明点を無くすようにしておいて下さい。 (事後学修) 当該部分のテキスト、配布資料(レジュメ)、ノートを読み返し、あらためてポイントになるところは何かを考えながら復習して下さい。	4時間
第8回	対面	中間試験Ⅰの解答・解説および「リーダーシップ：優れた上司とは？」 ①リーダーシップとは何か②初期のリーダーシップ研究③フォロワーの視点を重視するリーダーシップ研究④変革型リーダーシップについて学修します。 (特に重要な事項) 行動アプローチ、状況アプローチ、特異性－信頼理論	(事前学修) 参考書第5章、配布資料(レジュメ)を事前に読んでおいてください(2時間)。 (事後学修) テキスト第9章、配布資料(レジュメ)、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい(2時間)。	4時間
第9回	対面	「組織学習：組織が学習するとは？ 環境変化に対応した学びとは？」 ①組織学習とは②誰が学習するのか③どうやって学習するのか④実践共同体による学習⑤組織学習を進めようについて学修します。 (特に重要な事項) 組織学習、アンラーニング、ルーティン、パラダイム、ダブル・ループ学習、SECIモデル	(事前学修) 参考書第7章、配布資料(レジュメ)を事前に読んでおいてください(2時間)。 (事後学修) テキスト第10章、配布資料(レジュメ)、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい(2時間)。	4時間
第10回	対面	「組織文化：会社の文化に馴染む／馴染ませるとは？」 ①組織文化とは②組織文化のメリットとデメリット③組織文化を知る④組織文化のマネジメントについて学修します。 (特に重要な事項) 基本的仮定、組織文化の4タイプ、下位文化、対抗文化 【小テスト#3実施】	(事前学修) 参考書第2章、配布資料(レジュメ)を事前に読んでおいてください(2時間)。 (事後学修) テキスト第12章、配布資料(レジュメ)、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい(2時間)。	4時間
第11回	対面	「組織社会化：入社したての従業員の定着のためには？」 ①組織社会化②組織社会化の概念整理③組織社会化を促進する社会化エージェント④組織社会化の成果⑤組織社会化の組織への影響⑥組織社会化の展望について学修します。 (特に重要な事項) 予期的社会化、組織内社会化、職業的社会化、文化的社会化、役割的社会化、メンター、社会化戦術、プロアクティブ行動	(事前学修) 参考書第2章(再)、配布資料(レジュメ)を事前に読んでおいてください(2時間)。 (事後学修) テキスト第14章、配布資料(レジュメ)、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい(2時間)。	4時間
第12回	対面	「ダイバーシティ・マネジメント：ダイバーシティは経営成果に結びつくか？」 ①ダイバーシティ・マネジメントへの注目②ダイバーシティ・マネジメントの必要性③ダイバーシティ・マネジメントのプロセス④ダイバーシティと経営成果の関係⑤ダイバーシティ・マネジメントと差別⑥ダイバーシティ・マネジメントにおける今後の課題について学修します。 (特に重要な事項) 同化・分離・統合、社会的カテゴリー理論、統計的差別理論 【小テスト#4実施】	(事前学修) テキスト第15章、配布資料(レジュメ)を事前に読んでおいてください(2時間)。 (事後学修) テキスト第15章、配布資料(レジュメ)、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい(2時間)。	4時間

第13回	対面	第8回～第12回の学修内容の再確認および中間試験Ⅱ 第8回～第12回までに学修してきた内容の再確認をした上で、中間試験を実施します。	(事前学修) あらためて当該部分のテキスト、配布資料（レジюме）ノートを一通り読み返し、不明点が内容に再読、確認しておいて下さい（2時間）。 (事後学修) 配布資料（レジюме）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい（2時間）。	4時間
第14回	対面	中間試験Ⅱの解答・解説および全体の総括（これまでの学修内容の再確認） これまで学修した内容を総復習し、更なる深い理解を図ります。	(事前学修) あらためて当該部分のテキスト、配布資料（レジюме）、ノートを一通り読み返し、不明点が内容に再読、確認しておいて下さい（2時間）。 (事後学修) 当該部分の配布資料（レジюме）、ノートを読み返し、あらためてポイントになるところは何かを考えながら復習して下さい（2時間）。	4時間
第15回	オンデマンド	全体の総括（これまでの学修内容の再確認：続） これまで学修した内容を総復習し、更なる深い理解を図ります。	(事前学修) あらためて当該部分のテキスト、配布資料（レジюме）、ノートを一通り読み返し、不明点がないようにしておいて下さい（2時間）。 (事後学修) 授業で確認された重要ポイントを中心にテキスト、配布資料（レジюме）、ノートを読み返し、復習して下さい（2時間）。	4時間

科目名	経営組織論Ⅰ		開講年度	2026 年度春学期
担当者	朴 亨珠		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目			
テーマ	企業組織が成立・機能する仕組みについて、ミクロ組織論の諸理論を通じて学修します。			
授業の目的及び概要	この科目は、会社などの組織において従業員やそのチームの働く場における行動や態度について学ぶ組織行動論という学問分野です。 卒業後、キャリアの階段を上がっていく皆さんに、国内外の理論・事例を紹介し、有用な知識を修得して頂きます。 なお、この科目とあわせ、経営組織論Ⅱにて、外部環境との関係性から組織の構造や戦略を考察する学問を学ぶことで、組織の状況を的確に捉え、リーダーシップやマネジメントが発揮できる基本的な知識の修得を目標とします。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	モチベーション論、組織コミットメント論、リーダーシップ論、キャリア・マネジメント論などに関する、 （１）基本的な知識を習得し、 （２）理論や概念を体系的に理解し、 （３）特に代表的な理論や概念について、説明できる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	定期試験の他に、中間試験を行なったうえで、解答・解説を示して理解の定着を図ります。 また、受講生からの示唆に富んだ質問や秀逸な意見を紹介し、それに対する回答を提示します。			
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	組織行動論，開本浩矢，中央経済社，2019 年		ISBN	9784502295614
参考書	キャリアで語る経営組織：個人の論理と組織の論理〔第2 版〕，稲葉祐之他，有斐閣，2022 年		ISBN	9784641222014
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		10	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		40	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		50	
	その他（％）		0	
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	・この科目はⅠとⅡの両方を履修して内容が完結するので、Ⅰの単位習得後はⅡを履修して下さい。 ・日頃からビジネス誌を読み、ビジネス情報に触れて、世界や日本の企業事情に関する出来事を把握して下さい。 ・経営組織論の基本概念を理解した上で、その実践につながる知識が習得出来ているか確認します。 ・テキストや授業で学んだ知識・理論を覚えるだけでなく、実際に活用できるようになることが大事ですので、現実起こり得る事例についても、適宜言及します。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	「ガイダンス」 この科目の目的・目標、授業の進め方・受け方、成績評価などについて、授業計画の詳細とともに説明します。 「組織行動論への招待」 組織行動論を学ぶ準備として、会社などの「組織」で働くとはどういうことか、について考察します。	（事前学修） この科目のシラバスを読み込むとともに、参考書第1章、配布資料（レジュメ）を事前に読んでください（2時間）。 （事後学修） テキスト第1章、配布資料（レジュメ）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい（2時間）。	4時間
第2回	対面	「モチベーション：会社と仕事に慣れる」 ①モチベーションとは何か②何によって動機づけられるか③どのように動機づけられるか④多様なモチベーション理論とその捉え方について学修します。 （特に重要な事項）欲求段階説、ERGモデル、動機付け－衛生理論、期待理論、職務特性理論	（事前学修） 参考書第3章、配布資料（レジュメ）を事前に読んでください（2時間）。 （事後学修） テキスト第2章、配布資料（レジュメ）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい（2時間）。	4時間
第3回	対面	「組織コミットメント：愛着／一体感はどう育まれる？」 ①組織コミットメントとは②組織コミットメントが強いことの意味③組織コミットメントに影響を与える要因④組織コミットメントの変化⑤日本における組織コミットメントについて学修します。 （特に重要な事項）組織コミットメントの変化、見えざる出資	（事前学修） テキスト第3章、配布資料（レジュメ）を事前に読んでください（2時間）。 （事後学修） テキスト第3章、配布資料（レジュメ）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい（2時間）。	4時間
第4回	対面	「意思決定と合意形成：集団の意見をまとめるには？ 対立を解消するには？」 ①「経営人」の意思決定②意思決定におけるヒューリスティックとバイアス③合意形成④問題解決の実践と第三者による支援について学修します。 （特に重要な事項）満足化原理の意思決定、ヒューリスティック、バイアス、協調的問題解決 【小テスト#1実施】	（事前学修） 参考書第6・8章、配布資料（レジュメ）を事前に読んでください（2時間）。 （事後学修） テキスト第4章、配布資料（レジュメ）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい（2時間）。	4時間
第5回	対面	「キャリア・マネジメント：人事異動とは？ 会社の中でのキャリア開発？」 ①キャリアに対する関心の高まり②キャリアとは③何がキャリアを形づくるのか④キャリア・マネジメントにおける今後の課題について学修します。 （特に重要な事項）組織内キャリアモデル、キャリア・アンカー、「遅い選抜」、自律的キャリア	（事前学修） 参考書第4章、配布資料（レジュメ）を事前に読んでください（2時間）。 （事後学修） テキスト第5章、配布資料（レジュメ）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい（2時間）。	4時間
第6回	対面	「組織ストレス：ストレスの原因は色々。どんな目配りが要る？」 ①人間と環境の相互作用としての組織ストレス②組織の中の人間に対する外圧とその反応③ストレスへの対処④組織ストレスに関する課題について学修します。 （特に重要な事項）ストレッサ、ストレーン、モデレータ、ソーシャル・サポート 【小テスト#2実施】	（事前学修） テキスト第7章、配布資料（レジュメ）を事前に読んでください（2時間）。 （事後学修） テキスト第7章、配布資料（レジュメ）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい（2時間）。	4時間
第7回	対面	第1回～第6回の学修内容の再確認および	（事前学修）	4時間

		び中間試験Ⅰ 第1回～第6回までに学修してきた内容の再確認をした上で、中間試験を実施します。	あらためて当該部分のテキスト、配布資料（レジюме）、ノートを一通り読み返し、不明点を無くすようにしておいて下さい。 （事後学修） 当該部分のテキスト、配布資料（レジюме）、ノートを読み返し、あらためてポイントになるところは何かを考えながら復習して下さい。	
第8回	対面	中間試験Ⅰの解答・解説および「リーダーシップ：優れた上司とは？」 ①リーダーシップとは何か②初期のリーダーシップ研究③フォロワーの視点を重視するリーダーシップ研究④変革型リーダーシップについて学修します。 （特に重要な事項）行動アプローチ、状況アプローチ、特異性－信頼理論	（事前学修） 参考書第5章、配布資料（レジюме）を事前に読んでおいてください（2時間）。 （事後学修） テキスト第9章、配布資料（レジюме）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい（2時間）。	4時間
第9回	対面	「組織学習：組織が学習するとは？ 環境変化に対応した学びとは？」 ①組織学習とは②誰が学習するのか③どうやって学習するのか④実践共同体による学習⑤組織学習を進めようについて学修します。 （特に重要な事項）組織学習、アンラーニング、ルーティン、パラダイム、ダブル・ループ学習、SECIモデル	（事前学修） 参考書第7章、配布資料（レジюме）を事前に読んでおいてください（2時間）。 （事後学修） テキスト第10章、配布資料（レジюме）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい（2時間）。	4時間
第10回	対面	「組織文化：会社の文化に馴染む／馴染ませるとは？」 ①組織文化とは②組織文化のメリットとデメリット③組織文化を知る④組織文化のマネジメントについて学修します。 （特に重要な事項）基本的仮定、組織文化の4タイプ、下位文化、対抗文化 【小テスト#3実施】	（事前学修） 参考書第2章、配布資料（レジюме）を事前に読んでおいてください（2時間）。 （事後学修） テキスト第12章、配布資料（レジюме）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい（2時間）。	4時間
第11回	対面	「組織社会化：入社したての従業員の定着のためには？」 ①組織社会化②組織社会化の概念整理③組織社会化を促進する社会化エージェント④組織社会化の成果⑤組織社会化の組織への影響⑥組織社会化の展望について学修します。 （特に重要な事項）予期的社会化、組織内社会化、職業的社会化、文化的社会化、役割的社会化、メンター、社会化戦術、プロアクティブ行動	（事前学修） 参考書第2章（再）、配布資料（レジюме）を事前に読んでおいてください（2時間）。 （事後学修） テキスト第14章、配布資料（レジюме）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい（2時間）。	4時間
第12回	対面	「ダイバーシティ・マネジメント：ダイバーシティは経営成果に結びつくか？」 ①ダイバーシティ・マネジメントへの注目②ダイバーシティ・マネジメントの必要性③ダイバーシティ・マネジメントのプロセス④ダイバーシティと経営成果の関係⑤ダイバーシティ・マネジメントと差別⑥ダイバーシティ・マネジメントにおける今後の課題について学修します。 （特に重要な事項）同化・分離・統合、社会的カテゴリー理論、統計的差別理論 【小テスト#4実施】	（事前学修） テキスト第15章、配布資料（レジюме）を事前に読んでおいてください（2時間）。 （事後学修） テキスト第15章、配布資料（レジюме）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい（2時間）。	4時間
第13回	対面	第8回～第12回の学修内容の再確認および中間試験Ⅱ	（事前学修） あらためて当該部分のテキスト、配布資料（レジюме）	4時間

		第 8 回～第 12 回までに学修してきた内容の再確認をした上で、中間試験を実施します。	メ) ノートを一通り読み返し、不明点が内容に再読、確認しておいて下さい (2 時間)。 (事後学修) 配布資料 (レジュメ)、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい (2 時間)。	
第 14 回	対面	中間試験Ⅱの解答・解説および全体の総括 (これまでの学修内容の再確認) これまで学修した内容を総復習し、更なる深い理解を図ります。	(事前学修) あらためて当該部分のテキスト、配布資料 (レジュメ)、ノートを一通り読み返し、不明点が内容に再読、確認しておいて下さい (2 時間)。 (事後学修) 当該部分の配布資料 (レジュメ)、ノートを読み返し、あらためてポイントになるところは何かを考えながら復習して下さい (2 時間)。	4 時間
第 15 回	オンデマンド	全体の総括 (これまでの学修内容の再確認: 続) これまで学修した内容を総復習し、更なる深い理解を図ります。	(事前学修) あらためて当該部分のテキスト、配布資料 (レジュメ)、ノートを一通り読み返し、不明点がないようにしておいて下さい (2 時間)。 (事後学修) 授業で確認された重要ポイントを中心にテキスト、配布資料 (レジュメ)、ノートを読み返し、復習して下さい (2 時間)。	4 時間

科目名	経営組織論Ⅰ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	朴 亨珠	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	企業組織が成立・機能する仕組みについて、ミクロ組織論の諸理論を通じて学修します。		
授業の目的及び概要	この科目は、会社などの組織において従業員やそのチームの働く場における行動や態度について学ぶ組織行動論という学問分野です。 卒業後、キャリアの階段を上がっていく皆さんに、国内外の理論・事例を紹介し、有用な知識を修得して頂きます。 なお、この科目とあわせ、経営組織論Ⅱにて、外部環境との関係性から組織の構造や戦略を考察する学問を学ぶことで、組織の状況を的確に捉え、リーダーシップやマネジメントが発揮できる基本的な知識の修得を目標とします。		
履修条件・留意点	・この科目はオンデマンドで実施されます。出席課題（小テスト）を忘れないようにしてください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	モチベーション論、組織コミットメント論、リーダーシップ論、キャリア・マネジメント論などに関する、 （１）基本的な知識を習得し、 （２）理論や概念を体系的に理解し、 （３）特に代表的な理論や概念について、説明できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	定期試験の他に、中間テストを行なったうえで、解答・解説を示して理解の定着を図ります。 また、受講生からの示唆に富んだ質問や秀逸な意見を紹介し、それに対する回答を提示します。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	組織行動論，開本浩矢，中央経済社，2019 年	ISBN	9784502295614
参考書	稲葉祐之他，キャリアで語る経営組織 -- 個人の論理と組織の論理 第2 版，有斐閣，2022 年	ISBN	9784641222014
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	10	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	・この科目はⅠとⅡの両方を履修して内容が完結するので、Ⅰの単位習得後はⅡを履修して下さい。 ・日頃からビジネス誌を読み、ビジネス情報に触れて、世界や日本の企業事情に関する出来事を把握して下さい。 ・経営組織論の基本概念を理解した上で、その実践につながる知識が習得出来ているか確認します。 ・テキストや授業で学んだ知識・理論を覚えるだけでなく、実際に活用できるようになること		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	「ガイダンス」 この科目の目的・目標、授業の進め方・受け方、成績評価などについて、授業計画の詳細とともに説明します。 「組織行動論への招待」 組織行動論を学ぶ準備として、会社などの「組織」で働くとはどういうことか、について考察します。	（事前学修） この科目のシラバスを読み込むとともに、参考書第1章、配布資料（レジュメ）を事前に読んでください（2時間）。 （事後学修） テキスト第1章、配布資料（レジュメ）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい（2時間）。	4時間
第2回	オンデマンド	「モチベーション：会社と仕事に慣れる」 ①モチベーションとは何か②何によって動機づけられるか③どのように動機づけられるか④多様なモチベーション理論とその捉え方について学修します。 （特に重要な事項）欲求段階説、ERGモデル、動機付け－衛生理論、期待理論、職務特性理論	（事前学修） 参考書第3章、配布資料（レジュメ）を事前に読んでください（2時間）。 （事後学修） テキスト第2章、配布資料（レジュメ）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい（2時間）。	4時間
第3回	オンデマンド	「組織コミットメント：愛着／一体感はどう育まれる？」 ①組織コミットメントとは②組織コミットメントが強いことの意味③組織コミットメントに影響を与える要因④組織コミットメントの変化⑤日本における組織コミットメントについて学修します。 （特に重要な事項）組織コミットメントの変化、見えざる出資	（事前学修） テキスト第3章、配布資料（レジュメ）を事前に読んでください（2時間）。 （事後学修） テキスト第3章、配布資料（レジュメ）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい（2時間）。	4時間
第4回	オンデマンド	「意思決定と合意形成：集団の意見をまとめるには？ 対立を解消するには？」 ①「経営人」の意思決定②意思決定におけるヒューリスティックとバイアス③合意形成④問題解決の実践と第三者による支援について学修します。 （特に重要な事項）満足化原理の意思決定、ヒューリスティック、バイアス、協調的問題解決	（事前学修） 参考書第6・8章、配布資料（レジュメ）を事前に読んでください（2時間）。 （事後学修） テキスト第4章、配布資料（レジュメ）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい（2時間）。	4時間
第5回	オンデマンド	「キャリア・マネジメント：人事異動とは？ 会社の中でのキャリア開発？」 ①キャリアに対する関心の高まり②キャリアとは③何がキャリアを形づくるのか④キャリア・マネジメントにおける今後の課題について学修します。 （特に重要な事項）組織内キャリアモデル、キャリア・アンカー、「遅い選抜」、自律的キャリア	（事前学修） 参考書第4章、配布資料（レジュメ）を事前に読んでください（2時間）。 （事後学修） テキスト第5章、配布資料（レジュメ）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい（2時間）。	4時間
第6回	オンデマンド	「組織ストレス：ストレスの原因は色々。どんな目配りが要る？」 ①人間と環境の相互作用としての組織ストレス②組織の中の人間に対する外圧とその反応③ストレスへの対処④組織ストレスに関する課題について学修します。 （特に重要な事項）ストレッサ、ストレイン、モデレータ、ソーシャル・サポート	（事前学修） テキスト第7章、配布資料（レジュメ）を事前に読んでください（2時間）。 （事後学修） テキスト第7章、配布資料（レジュメ）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい（2時間）。	4時間
第7回	オンデマンド	「リーダーシップ：優れた上司とは？」 ①リーダーシップとは何か②初期のリー	（事前学修） 参考書第5章、配布資料（レジュメ）を事前に読んで	4時間

		ダーシップ研究③フォロワーの視点を重視するリーダーシップ研究④変革型リーダーシップについて学修します。 (特に重要な事項) 行動アプローチ、状況アプローチ、特異性－信頼理論	おいください(2時間)。 (事後学修) テキスト第9章、配布資料(レジュメ)、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい(2時間)。	
第8回	オンデマンド	「組織学習:組織が学習するとは? 環境変化に対応した学びとは?」 ①組織学習とは②誰が学習するのか③どうやって学習するのか④実践共同体による学習⑤組織学習を進めようについて学修します。 (特に重要な事項) 組織学習、アンラーニング、ルーティン、パラダイム、ダブル・ループ学習、SECIモデル	(事前学修) 参考書第7章、配布資料(レジュメ)を事前に読んでおいください(2時間)。 (事後学修) テキスト第10章、配布資料(レジュメ)、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい(2時間)。	4時間
第9回	オンデマンド	「組織文化:会社の文化に馴染む/馴染ませるとは?」 ①組織文化とは②組織文化のメリットとデメリット③組織文化を知る④組織文化のマネジメントについて学修します。 (特に重要な事項) 基本的仮定、組織文化の4タイプ、下位文化、対抗文化	(事前学修) 参考書第2章、配布資料(レジュメ)を事前に読んでおいください(2時間)。 (事後学修) テキスト第12章、配布資料(レジュメ)、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい(2時間)。	4時間
第10回	オンデマンド	中間テスト	(事前学修) あらためて当該部分のテキスト、配布資料(レジュメ)、ノートを一通り読み返し、不明点を無くすようにしておいて下さい。 (事後学修) 当該部分のテキスト、配布資料(レジュメ)、ノートを読み返し、あらためてポイントになるところは何かを考えながら復習して下さい。	4時間
第11回	オンデマンド	「組織社会化:入社したての従業員の定着のためには?」 ①組織社会化②組織社会化の概念整理③組織社会化を促進する社会化エージェント④組織社会化の成果⑤組織社会化の組織への影響⑥組織社会化の展望について学修します。 (特に重要な事項) 予期的社会化、組織内社会化、職業的社会化、文化的社会化、役割的社会化、メンター、社会化戦術、プロアクティブ行動	(事前学修) 参考書第2章(再)、配布資料(レジュメ)を事前に読んでおいください(2時間)。 (事後学修) テキスト第14章、配布資料(レジュメ)、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい(2時間)。	4時間
第12回	オンデマンド	「ダイバーシティ・マネジメント:ダイバーシティは経営成果に結びつくか?」 ①ダイバーシティ・マネジメントへの注目②ダイバーシティ・マネジメントの必要性③ダイバーシティ・マネジメントのプロセス④ダイバーシティと経営成果の関係⑤ダイバーシティ・マネジメントと差別⑥ダイバーシティ・マネジメントにおける今後の課題について学修します。 (特に重要な事項) 同化・分離・統合、社会的カテゴリー理論、統計的差別理論	(事前学修) テキスト第15章、配布資料(レジュメ)を事前に読んでおいください(2時間)。 (事後学修) テキスト第15章、配布資料(レジュメ)、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい(2時間)。	4時間
第13回	オンデマンド	「プロフェッショナル・マネジメント:プロ(プロフェッショナル)とは?」 ①プロフェッショナルへの関心②プロフェッショナルとは③プロフェッショナルの組織化と準拠集団④プロフェッショナルの二重のロイヤリティ⑤プロフェッショナルのマ	(事前学修) テキスト第16章、配布資料(レジュメ)を事前に読んでおいください(2時間)。 (事後学修) テキスト第16章、配布資料(レジュメ)、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加え	4時間

		ネジメントについて学修します。 (特に重要な事項)専門職制度、準拠集団、ローカル、コスモポリタン、二重のロイヤリティ	ながら復習して下さい(2時間)。	
第14回	オンデマンド	後半(第11回～第13回)の中括(これまでの学修内容の再確認) これまで学修した内容を総復習し、更なる深い理解を図ります。	(事前学修) あらためて当該部分のテキスト、配布資料(レジュメ)、ノートを一通り読み返し、不明点が内容に再読、確認しておいて下さい(2時間)。 (事後学修) 当該部分の配布資料(レジュメ)、ノートを読み返し、あらためてポイントになるところは何かを考えながら復習して下さい(2時間)。	4時間
第15回	オンデマンド	全体の総括(これまでの学修内容の再確認:続) これまで学修した内容を総復習し、更なる深い理解を図ります。	(事前学修) あらためて当該部分のテキスト、配布資料(レジュメ)、ノートを一通り読み返し、不明点がないようにしておいて下さい(2時間)。 (事後学修) 授業で確認された重要ポイントを中心にテキスト、配布資料(レジュメ)、ノートを読み返し、復習して下さい(2時間)。	4時間

科目名	人的資源管理論		開講年度	2026 年度春学期
担当者	城戸 亮		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目			
テーマ	日本企業等の組織において、人が仕事をする事、人に仕事をさせることに関する管理について、学修します。			
授業の目的及び概要	人生において、働くことは大きな部分を占めています。職場における仕組み、制度、経営者や働く者の意識を学ぶことは、社会に出る前の準備として必要となります。また、就職活動をする上でも参考となります。大学卒業後、社会に出て働く際に、職場において生じている様々な問題、現象について理解し、解決する能力を身につけることを授業の目的とします。皆さんが実際に就職し働く現場では、様々な人にまつわる悩ましい問題に1年目からぶつかることと思います。その際に、役立つ知識・考え方を学修します。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	人的資源管理の理論・概念を理解し、説明することができる。 人的資源管理の仕組み、現状、課題について、理解し、実際の事例に当てはめて考えることができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	中間テストは、採点した上で返却し、講評します。			
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	1 からの人的資源管理, 西村孝史他編, 碩学舎, 2022 年	ISBN	9784502407017	
参考書	経験から学ぶ人的資源管理 [第3版], 上林憲雄・厨子直之・森田雅也, 有斐閣, 2025 年	ISBN	9784641184732	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	30		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	40		
	その他（％）	0		
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	「働くこと」について、知ることは、これから社会に出る学生にとって重要です。インターンシップ、就職活動にも役立ちます。また、業種によっては、若い頃から様々な人を動かしながら仕事をしていかなければならない場合もあり、経営学の科目の中でも、就職後実践で最も活用するものです。新聞、雑誌、ニュース、ドキュメンタリーなどでも「働くこと」は頻繁に取り上げられる題材です。これらにも広く関心を持つとともに、身近な働いている人に「職場がどのようなものなのか」を色々な機会に聞いてみてください。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	ガイダンス：授業の進め方、概要、成績評価の方法など、ガイダンスを行います。 第1章人的資源管理とは何か	【予習】テキストを購入し、全体を見て、どのような内容があるのかを認識しておいてください。テキストの第1章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第2回	対面	第2章 組織構造・職場マネジメント 人的資源管理と組織、組織の時代、分業の方法、典型的な組織構造：機能別組織と事業部制組織、会社が想定する社員とは、人間モデル、代表的なモチベーション理論、管理者の役割、管理職（マネジャー）とリーダーシップ、人的資源管理から見た管理職	【予習】第2章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第3回	対面	第3章 日本的経営の成り立ち / 戦略的人的資源管理 人事異動と長期の人材育成、日本的経営の「三種の神器」、その他の日本的経営の要素、能力主義と成果主義、戦略的人的資源管理	【予習】第3章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第4回	対面	第4章 社員区分制度と格付け制度 多様な雇用形態と仕事、社員区分制度、社員区分の基準、社員区分間の均衡問題、非正社員と外部人材、非正社員の基幹労働力化、非正社員の類型化、社員格付け制度、職能資格制度、職務等級制度、役割等級制度、人材ポートフォリオ、無期転換ルール	【予習】第4章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第5回	対面	第5章 採用・定着 就職活動と入社、企業の採用活動のプロセス、組織社会化、社会化エージェント、就職と就社、リアリティ・ショック	【予習】第5章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第6回	対面	第6章 評価 評価の仕組み、評価基準・内容、人事評価の目的、評価手法、能力評価・情意評価・行動評価、業績評価と目標管理制度、相対評価・絶対評価、多面評価、フィードバック、バイアス、多段階評価、組織的公正、目標設定理論	【予習】第6章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第7回	対面	第7章 配置・異動 人事異動、ジョブ・ローテーションの目的、人事異動の効果、昇進・昇格、昇格管理の特徴、昇進管理の特徴、出向・転籍の目的、出向の2類型、 第1回～第6回までの復習	【予習】第7章を一読し、わからない用語などを調べておきます。第1回～第6回までの授業を思い出し復習し、学修した知識の整理・確認をしておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、第1回～第7回までのテキストの該当箇所を読んで知識の定着を図ります。	4時間
第8回	対面	中間テスト（第1回～第7回）【翌週等に変更する場合がありますので、直前の授業等で必ず日程を確認下さい。】	【予習】第1回～第7回までの授業を思い出し復習し、学修した知識の整理・定着をしておきます。 【復習】中間テストの内容を思い出し、解答の自信のなかった箇所について、テキスト等の該当箇所を読んで知識の確認をしておきます。	4時間
第9回	対面	第8章 人材育成とキャリア 「育つ」と「育てる」の両面性、人材育成が果たす機能、企業が従業員を「育てる」、働く人びとが自ら「育つ」、企業による人材育成の方法、仕事を通じた人材育成、仕事から離れての人材育成、日本企業における人材育成の実態、人材育成の新たな展開と課題、エンプロイアビリティとキャリア	【予習】第8章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間

		開発、タレント・マネジメント、生涯現役時代の人材育成とキャリア、職場における学習		
第10回	対面	第9章報酬管理 給与と待遇の違い、報酬管理の据え方、賃金管理、総額賃金管理と個別賃金管理、基本給の決め方、昇給の仕組み、手当と賞与、福利厚生と退職給付の管理、福利厚生管理、退職給付管理、期待理論、同一労働同一賃金	【予習】第9章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第11回	対面	第10章退職管理・雇用調整 高齢者雇用、セカンドキャリア、ライフシフト、定年・雇用延長、雇用調整、整理解雇の4要件、早期退職、ワークシェアリング、心理的契約	【予習】第10章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第12回	対面	第11章労働時間管理 長時間労働のメカニズム、労働時間の現状、長時間労働の要因、労働時間短縮と働き方改革、労働時間制度、労働時間に対する規制、多様な労働時間制度、休日と休暇・休業制度、年次有給制度の現状と課題、育児・介護休業の現状と課題、ワーク・ライフ・バランス	【予習】第11章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第13回	対面	第12章健康経営・安全衛生 健康経営、健康経営の実践、ウェルビーイングへの注目、メンタルヘルス不調者の増加、職場のメンタルヘルス対策、ストレスチェック、職場のいじめからハラスメントへ、ハラスメントのタイプ、ハラスメント防止の取り組み 第13章労使関係 労働組合の役割、日本の企業別組合、日本の労働組合の多層性、団体交渉・春闘、労使協議制、個別的労使関係、労働協議制の広がり、苦情処理、コミュニケーション	【予習】第12・13章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第14回	対面	第14章ダイバーシティと多様な働き方 ダイバーシティ、多様な働き方（テレワーク、副業）、インクルージョン（Inclusion：包摂）、知覚された組織的支援 第15章国際人事 グローバル化に対応した人事施策、国際化の影響、多国籍企業で働く人材への個別人事、海外駐在員、現地国籍人材、本国本社の外国籍人材、グローバルHRM、国の文化の測定	【予習】第14・15章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第15回	オンデマンド	全体総括 第1回～第14回までの復習	【予習】第1回～第14回までの授業を思い出し復習し、学修した知識の整理をしておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、自信のない箇所を中心にテキスト等をもう一度読み込み、知識の定着を図ります。	4時間

科目名	人的資源管理論	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	城戸 亮	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	日本企業等の組織において、人が仕事をする事、人に仕事をさせることに関する管理について、学修します。		
授業の目的及び概要	人生において、働くことは大きな部分を占めています。職場における仕組み、制度、経営者や働く者の意識を学ぶことは、社会に出る前の準備として必要となります。また、就職活動をする上でも参考となります。大学卒業後、社会に出て働く際に、職場において生じている様々な問題、現象について理解し、解決する能力を身につけることを授業の目的とします。皆さんが実際に就職し働く現場では、様々な人にまつわる悩ましい問題に 1 年目からぶつかることと思います。その際に、役立つ知識・考え方を学修します。毎回出席確認を兼ねた小テスト等をラーニングポータルに掲載しますので、受講後必ず回答して下さい。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	人的資源管理の理論・概念を理解し、説明することができる。 人的資源管理の仕組み、現状、課題について、理解し、実際の事例に当てはめて考えることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	小テスト、小レポート等への講評（回答へのコメントなど）		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	1 からの人的資源管理, 西村孝史他編, 碩学舎, 2022 年	ISBN	9784502407017
参考書	経験から学ぶ人的資源管理 [第 3 版], 上林憲雄・厨子直之・森田雅也, 有斐閣, 2025 年	ISBN	9784641184732
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	「働くこと」について、知ることは、これから社会に出る学生にとって重要です。インターンシップ、就職活動にも役立ちます。また、業種によっては、若い頃から様々な人を動かしながら仕事をしていかなければならない場合もあり、経営学の科目の中でも、就職後実践で最も活用するものです。新聞、雑誌、ニュース、ドキュメンタリーなどでも「働くこと」は頻繁に取り上げられる題材です。これらにも広く関心を持つとともに、身近な働いている人に「職場がどのようなものなのか」を色々な機会に聞いておいてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	オンデマンド	ガイダンス：授業の進め方、概要、成績評価の方法など、ガイダンスを行います。 第1章人的資源管理とは何か	【予習】テキストを購入し、全体を見て、どのような内容があるのかを認識しておいてください。テキストの第1章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第2回	オンデマンド	第2章 組織構造・職場マネジメント 人的資源管理と組織、組織の時代、分業の方法、典型的な組織構造：機能別組織と事業部制組織、会社が想定する社員とは、人間モデル、代表的なモチベーション理論、管理者の役割、管理職（マネジャー）とリーダーシップ、人的資源管理から見た管理職	【予習】第2章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第3回	オンデマンド	第3章 日本的経営の成り立ち / 戦略的人的資源管理 人事異動と長期の人材育成、日本的経営の「三種の神器」、その他の日本的経営の要素、能力主義と成果主義、戦略的人的資源管理	【予習】第3章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第4回	オンデマンド	第4章 社員区分制度と格付け制度 多様な雇用形態と仕事、社員区分制度、社員区分の基準、社員区分間の均衡問題、非正社員と外部人材、非正社員の基幹労働力化、非正社員の類型化、社員格付け制度、職能資格制度、職務等級制度、役割等級制度、人材ポートフォリオ、無期転換ルール	【予習】第4章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第5回	オンデマンド	第5章 採用・定着 就職活動と入社、企業の採用活動のプロセス、組織社会化、社会化エージェント、就職と就社、リアリティ・ショック	【予習】第5章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第6回	オンデマンド	第6章 評価 評価の仕組み、評価基準・内容、人事評価の目的、評価手法、能力評価・情意評価・行動評価、業績評価と目標管理制度、相対評価・絶対評価、多面評価、フィードバック、バイアス、多段階評価、組織的公正、目標設定理論	【予習】第6章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第7回	オンデマンド	第7章 配置・異動 人事異動、ジョブ・ローテーションの目的、人事異動の効果、昇進・昇格、昇格管理の特徴、昇進管理の特徴、出向・転籍の目的、出向の2類型、	【予習】第7章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、第1回～第7回までのテキストの該当箇所を読んで知識の定着を図ります。	4時間
第8回	オンデマンド	第8章 人材育成とキャリア 「育つ」と「育てる」の両面性、人材育成が果たす機能、企業が従業員を「育てる」、働く人びとが自ら「育つ」、企業による人材育成の方法、仕事を通じた人材育成、仕事から離れての人材育成、日本企業における人材育成の実態、人材育成の新たな展開と課題、エンプロイアビリティとキャリア開発、タレント・マネジメント、生涯現役時代の人材育成とキャリア、職場における学習	【予習】第8章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第9回	オンデマンド	第9章 報酬管理 給与と待遇の違い、報酬管理の据え方、賃金管理、総額賃金管理と個別賃金管理、基	【予習】第9章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を	4時間

		本給の決め方、昇給の仕組み、手当と賞与、福利厚生と退職給付の管理、福利厚生管理、退職給付管理、期待理論、同一労働同一賃金	読んで理解しておきます。	
第10回	オンデマンド	第10章退職管理・雇用調整 高齢者雇用、セカンドキャリア、ライフシフト、定年・雇用延長、雇用調整、整理解雇の4要件、早期退職、ワークシェアリング、心理的契約	【予習】第10章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第11回	オンデマンド	第11章労働時間管理 長時間労働のメカニズム、労働時間の現状、長時間労働の要因、労働時間短縮と働き方改革、労働時間制度、労働時間に対する規制、多様な労働時間制度、休日と休暇・休業制度、年次有給制度の現状と課題、育児・介護休業の現状と課題、ワーク・ライフ・バランス	【予習】第11章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第12回	オンデマンド	第12章健康経営・安全衛生 健康経営、健康経営の実践、ウェルビーイングへの注目、メンタルヘルス不調者の増加、職場のメンタルヘルス対策、ストレスチェック、職場のいじめからハラスメントへ、ハラスメントのタイプ、ハラスメント防止の取り組み	【予習】第12章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第13回	オンデマンド	第13章労使関係 労働組合の役割、日本の企業別組合、日本の労働組合の多層性、団体交渉・春闘、労使協議制、個別的労使関係、労働協議制の広がり、苦情処理、コミュニケーション	【予習】第13章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第14回	オンデマンド	第14章ダイバーシティと多様な働き方 ダイバーシティ、多様な働き方（テレワーク、副業）、インクルージョン（Inclusion：包摂）、知覚された組織的支援 第15章国際人事 グローバル化に対応した人事施策、国際化の影響、多国籍企業で働く人材への個別人事、海外駐在員、現地国籍人材、本国本社の外国籍人材、グローバルHRM、国の文化の測定	【予習】第14・15章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第15回	オンデマンド	全体総括 第1回～第14回までの復習	【予習】第1回～第14回までの授業を思い出し復習し、学修した知識の整理をしておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、自信のない箇所を中心にテキスト等をもう一度読み込み、知識の定着を図ります。	4時間

科目名	企業論	開講年度	2026 年度春学期
担当者	范 沈俐	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	(1) 企業はいつ、どのようにできたのかについて (2) 21 世紀の日本の企業の特徴や課題について 学修の上、現代社会における企業を理解する。		
授業の目的及び概要	「なぜ企業があるのか？」という基本的な問いに対して、平易な言葉で誰にでも回答できるようになること。 講義の概要は、①標準的な教科書を用いながら、②講義資料等での用語や理論の理解を深め、③現在事象として起こっている経済・経営現象を理解できるように試み、④小テスト等で理解力や実践力を高めることです。受講者数によりますが、授業中に多くの発言することを求めます。		
履修条件・留意点	経営学基礎を修得の上、経営管理論、経営戦略論、経営組織論を受講していることが望ましい（必須ではない）。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	(1) 企業と会社の違いを「知識のない人にも」説明できる。 (2) 企業の存在意義について「知識のない人にも」説明できる。 (3) 21 世紀の日本の企業の特徴や抱える課題について自分なりの回答を持つことができる。 の 3 点を目指します。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	質問等は、講義開始前・講義終了後及び随時メール・Teams チャットにて受け付けます。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①三戸 浩・池内 秀己・勝部 伸夫（編著）、企業論（第 5 版）、有斐閣、2026 年	ISBN	①978-4-641-22268-7
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	企業に興味を持ち、日々の経済・経営現象を理解しようと心がけ、新聞や雑誌に目を通すことを心掛けて下さい。それにより、教科書や講義での理解度から、飛躍的に向上できることが期待できます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	第 1 回：ガイダンス（受講上の注意、成績評価についてなど）	【予習】事前にシラバスを確認しておくこと。 【復習】シラバスと講義ノートをよく読んで気にな	4 時間

			ることがあれば適宜質問またはメールなどでお問合せください。	
第2回	対面	第2回：現代企業を見る視点①これまでの企業観～19世紀の企業観（教科書序章）	【予習】事前に教科書（序章）読んで、ポイントや不明点を確認しておくこと。 【復習】教科書（序章）と資料をよく読んで気になることがあれば適宜質問またはメールなどでお問合せください。	4時間
第3回	対面	第3回：現代企業を見る視点②20世紀の企業観（教科書序章）	【予習】事前に教科書（序章）読んで、ポイントや不明点を確認しておくこと。 【復習】教科書（序章）と資料をよく読んで気になることがあれば適宜質問またはメールなどでお問合せください。	4時間
第4回	対面	第4回：財・サービスの提供機関としての企業①経済発展と生活の変化（教科書第1章）	【予習】事前に教科書（第1章第1項）読んで、ポイントや不明点を確認しておくこと。 【復習】教科書（第1章第1項）と資料をよく読んで気になることがあれば適宜質問またはメールなどでお問合せください。	4時間
第5回	対面	第5回：財・サービスの提供機関としての企業②大企業の実態（教科書第1章第2項、第3章第1項）	【予習】事前に教科書（第1章第2項、第3章第1項）読んで、ポイントや不明点を確認しておくこと。 【復習】教科書（第1章第2項、第3章第1項）と資料をよく読んで気になることがあれば適宜質問またはメールなどでお問合せください。	4時間
第6回	対面	第6回：財・サービスの提供機関としての企業③企業の長期戦略（教科書第1章第3項）	【予習】事前に教科書（第1章第3項）読んで、ポイントや不明点を確認しておくこと。 【復習】教科書（第1章第3項）と資料をよく読んで気になることがあれば適宜質問またはメールなどでお問合せください。	4時間
第7回	対面	中間テスト（第1回～第6回までの範囲） 第7回：株式会社としての企業①株式会社の機能と特徴（教科書第2章第1項）	【予習】事前に教科書（第2章第1項）読んで、ポイントや不明点を確認しておくこと。 【復習】教科書（第2章第1項）と資料をよく読んで気になることがあれば適宜質問またはメールなどでお問合せください。	4時間
第8回	対面	第8回：株式会社としての企業②株式会社の現実（教科書第2章第2項）	【予習】事前に教科書（第2章第2項）読んで、ポイントや不明点を確認しておくこと。 【復習】教科書（第2章第2項）と資料をよく読んで気になることがあれば適宜質問またはメールなどでお問合せください。	4時間
第9回	対面	第9回：大企業としての企業①大企業の支配構造（教科書第3章第2項）	【予習】事前に教科書（第3章第2項）読んで、ポイントや不明点を確認しておくこと。 【復習】教科書（第3章第2項）と資料をよく読んで気になることがあれば適宜質問またはメールなどでお問合せください。	4時間
第10回	対面	第10回：大企業としての企業②日本の大企業の経営者支配の実態（教科書第3章第4項）	【予習】事前に教科書（第3章第4項）読んで、ポイントや不明点を確認しておくこと。 【復習】教科書（第3章第4項）と資料をよく読んで気になることがあれば適宜質問またはメールなどでお問合せください。	4時間
第11回	対面	第11回：大企業としての企業③コーポレートガバナンス（教科書第3章第5項）	【予習】事前に教科書（第3章第5項）読んで、ポイントや不明点を確認しておくこと。 【復習】教科書（第3章第5項）と資料をよく読んで気になることがあれば適宜質問またはメールなどでお問合せください。	4時間
第12回	対面	第12回：組織としての企業①官僚制と企業形態（教科書第4章第1項）	【予習】事前に教科書（第4章第1項）読んで、ポイントや不明点を確認しておくこと。 【復習】教科書（第4章第1項）と資料をよく読んで気になることがあれば適宜質問またはメールなどでお問合せください。	4時間

第13回	対面	第13回：組織としての企業②企業組織の諸形態（教科書第4章第2項）	【予習】事前に教科書（第4章第2項）読んで、ポイントや不明点を確認しておくこと。 【復習】教科書（第4章第2項）と資料をよく読んで気になることがあれば適宜質問またはメールなどでお問合せください。	4時間
第14回	対面	第14回：社会的器官としての企業—企業の社会的責任（教科書第6章）	【予習】事前に教科書（第6章）読んで、ポイントや不明点を確認しておくこと。 【復習】教科書（第6章）と資料をよく読んで気になることがあれば適宜質問またはメールなどでお問合せください。	4時間
第15回	オンデマンド	第15回：まとめ—企業の社会的責任からSDGsへ—企業は誰のためにあるのか？ 第1回から第14回までの復習	【予習】事前に教科書（第6章）読んで、ポイントや不明点を確認しておくこと。 【復習】教科書（第6章）と資料をよく読んで気になることがあれば適宜質問またはメールなどでお問合せください。	4時間

科目名	経営戦略論Ⅱ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	朴 亨珠	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	企業の存続と成長・発展のために不可欠な戦略的行動について、事例を交えて学ぶ。		
授業の目的及び概要	この科目では、経営戦略論Ⅰで学んだ「経営戦略の考え方」をもとに、企業の存続と成長・発展のための具体的な戦略的行動について、企業の事例を参照しながら学びます。本講義の内容は、大きく3つのテーマに分かれています。1つ目は、企業の存続と成長・発展における経営戦略の意義について学びます。2つ目は、企業を取り巻く外部環境や企業内部の資源・能力を分析し、競争優位を構築するための基本的な戦略について学びます。3つ目は、競争戦略や成長戦略などの具体的な戦略について理解を深めます。 本講義は、経営戦略論Ⅰで学修した内容を発展させたものとなり、「経営学基礎」および「経営戦略論Ⅰ」を連続して受講することで、よりスムーズに学修を進めることができます。		
履修条件・留意点	経営学基礎および経営戦略論Ⅰを履修済みであることが望ましいです。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①企業の存続と成長・発展における経営戦略の意義や、経営戦略の基本的な考え方を理解し、説明できる。 ②企業を取り巻く外部環境および企業内部の資源・能力を分析し、競争優位を構築するための基本的な戦略を理解し、説明できる。 ③競争戦略や成長戦略などの具体的な戦略について理解し、説明できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートを授業で紹介し、質問への回答や補足説明をします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	経営戦略をつかむ, 浅羽 茂・牛島 辰男, 有斐閣, 2010 年	ISBN	9784641177130
参考書	①1 からの戦略論, 嶋口充輝, 内田和成, 黒岩健一郎, 碩学舎, 2022 年 ② 経営学入門キーコンセプト, 井原久光編, ミネルヴァ書房, 2013 年	ISBN	①9784502410918 ②9784623064410
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	10	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	この科目は、経営戦略論Ⅰで学んだ「経営戦略の考え方」をもとに、「企業の戦略的行動」について学んでいきます。経営戦略論Ⅰで学修した内容を発展させるものとなります。「経営学基礎」および「経営戦略論Ⅰ」を連続して受講することで、よりスムーズな学修ができます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【ガイダンス】 科目の目的、授業の概要と計画、到達目標と評価方法について説明を行います。 【経営戦略とは何か】 企業にとっての利益の意味や、企業内における戦略の担い手、ミッションと戦略の関係などの検討を通じて、経営戦略の本質への理解を深めます。	【事前学修】 シラバスの授業内容とテキストの unit1 を事前に読んでおいてください。 【事後学修】 テキスト、配布資料（レジュメ）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい	3.5 時間
第2回	対面	【経営戦略の成立と種類】 経営戦略の成立、その構成要素である領域、優位性、手段・手順、ロジックの意味について学びます。 【戦略論の歴史】 経営戦略論がどのように発展してきたか、主要な考え方(理論)が生まれた背景について学びます。	【事前学修】 シラバスの授業内容とテキストの unit2、3 を事前に読んでおいてください。 【事後学修】 テキスト、配布資料（レジュメ）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい。	4 時間
第3回	対面	【事業戦略の考え方】 事業戦略が企業に利益をもたらすためには、企業外部の環境要因と企業内部の要因の双方をうまく踏まえたものでなければなりません。この基本となる考え方への理解を深めます。 【外部要因の分析】 外部要因が利益にどのように影響するのか、企業は戦略を通じて、その影響にどう対処できるのかを学びます。	【事前学修】 シラバスの授業内容とテキストの unit4、5 を事前に読んでおいてください。 【事後学修】 テキスト、配布資料（レジュメ）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい。	4 時間
第4回	対面	【内部要因の分析】 企業の強み・弱みの一般的な性格を、活動と経営資源という2つの補完的な視点から検討し、いかなる内部要因が企業に強みと弱みをもたらすのかを学びます。 【競争優位と基本戦略】 企業利益の基礎である競争優位の一般的な性格を明らかにし、コスト優位と差別化優位の両者の特徴をあわせ持つ二重の優位が成り立つための条件について学びます。	【事前学修】 シラバスの授業内容とテキストの unit6、7 を事前に読んでおいてください。 【事後学修】 テキスト、配布資料（レジュメ）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい。	4 時間
第5回	対面	【コスト優位】 コスト優位はどのようにしてもたらされるのか。企業のコストに影響する主な要因とその働きについて学びます。 【差別化優位】 差別化優位の一般的な性格を明らかにし、それを支える要因の種類、差別化優位のタイプについて学びます。	【事前学修】 シラバスの授業内容とテキストの unit8、9 を事前に読んでおいてください。 【事後学修】 テキスト、配布資料（レジュメ）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい。	4 時間
第6回	対面	【競争優位の持続可能性】 競争優位を持続させるメカニズムについて学びます。 【業界標準をめぐる競争】 企業間の競争と協力が織りなす複雑な相互作用について学びます。	【事前学修】 シラバスの授業内容とテキストの unit10、11 を事前に読んでおいてください。 【事後学修】 テキスト、配布資料（レジュメ）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい。	4 時間
第7回	対面	【イノベーション】 イノベーションが企業間競争に及ぼす影響や、イノベーションから収益を生み出す	【事前学修】 シラバスの授業内容とテキストの unit12、13 を事前に読んでおいてください。	4 時間

		方策について学びます。 【産業進化】 競争構造はどのように変化していくのか、産業特性が競争構造の変化の姿や程度にどのような影響を及ぼすかについて学びます。	【事後学修】 テキスト、配布資料（レジュメ）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい。	
第8回	対面	【中間テスト】 第1回～第7回までに学修してきた内容を再確認する中間テストを実施します。	【事前学修】 これまでの授業内容に該当する教科書の箇所をもう一度確認してください。 【事後学修】 テキスト、配布資料（レジュメ）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい。	4時間
第9回	対面	【企業戦略の考え方】 取引費用の節約やシナジーの発揮といった事業範囲の拡大を促進する要因と事業範囲を制限する要因について学びます。 【垂直統合】 事業の垂直段階について、企業が事業範囲をいかに決定するかを学びます。	【事前学修】 シラバスの授業内容とテキストのunit14、15を事前に読んでおいてください。 【事後学修】 テキスト、配布資料（レジュメ）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい。	4時間
第10回	対面	【多角化】 事業を規定する製品や業種を軸とした事業範囲の拡大について学びます。 【多角化のダイナミックス】 多角化のタイプと企業の業績との関係について学びます。	【事前学修】 シラバスの授業内容とテキストのunit16、17を事前に読んでおいてください。 【事後学修】 テキスト、配布資料（レジュメ）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい。	4時間
第11回	対面	【多角化のマネジメント】 複数の事業を管理するための組織形態やマネジメントについて学びます。	【事前学修】 シラバスの授業内容とテキストのunit18を事前に読んでおいてください。 【事後学修】 テキスト、配布資料（レジュメ）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい。	4時間
第12回	対面	【国際化】 事業を規定する軸の1つである地域軸や国境を超えた事業範囲の拡大について学びます。	【事前学修】 シラバスの授業内容とテキストのunit19を事前に読んでおいてください。 【事後学修】 テキスト、配布資料（レジュメ）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい。	4時間
第13回	対面	【参入のマネジメント】 代表的な参入モードである内部成長、合併・買収(M&A)、提携の特徴について学びます。 【撤退のマネジメント】 撤退の重要性やその課題を確認したうえで主要な撤退モードである精算、売却、事業統合の特徴について学びます。	【事前学修】 シラバスの授業内容とテキストのunit20、21を事前に読んでおいてください。 【事後学修】 テキスト、配布資料（レジュメ）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい。	4時間
第14回	対面	【企業リストラクチャリング】 企業構造の変革であるリストラクチャリングと経営戦略の関係について学びます。	【事前学修】 シラバスの授業内容とテキストのunit22を事前に読んでおいてください。 【事後学修】 テキスト、配布資料（レジュメ）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい。	4時間
第15回	オンデ	【振り返りとまとめ（オンデマンド）】	【事前学習】	4.5時間

	マンド	授業全体の総括とまとめを行います。 各回のポイントと要点をおさらいします。これまでの授業資料を参照しながら、動画を視聴し、自分のノートをまとめてください。	これまでの授業内容に該当する教科書の箇所をもう一度確認してください。 【事後学修】 テキスト、配布資料（レジュメ）、ノートを読み返し、重要な内容について自分なりの発見を加えながら復習して下さい。	

科目名	経営戦略論 I	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	吉田 忠彦	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	経営戦略とは何か、企業戦略論・競争戦略論の理論・概念・フレームワークについて		
授業の目的及び概要	■「すぐに潰れてしまう会社と長く続く会社の差はどこにあるのか」、「会社の業績差は何によって決まるのか」、「かつては業界 No. 1 だった企業が、後発企業に追い抜かれるのはなぜか」、経営戦略論はこうした企業活動の成否についての根本的な問いに答えようとする学問領域です。本科目では、「①経営戦略とは何か」、「②企業戦略論」、「③競争戦略論」を中心とした経営戦略の基本的な考え方について学びます。 ■この科目の前に「経営学基礎」を履修し、続けて「経営戦略論 II」を受講することで、より体系的に、そして、深く経営戦略論の知識を修得することができます。		
履修条件・留意点	この科目は経営学基礎の知識が前提となる部分があります。経営学基礎を受講していない人は、初回の講義の際に、科目担当教員に声をかけてください。補助教材を渡します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①経営戦略とは何かについて、主な研究の変遷と策定プロセスの観点から理解することができる。 ②市場成長率、市場占有率、企業の収益性と事業ポートフォリオ形成の関係に関する概念・フレームワークを理解し、それらに基づいて、事例について解釈することができる。 ③企業間競争の基本的理論・概念・フレームワークである、ポーターの競争戦略、コトラーの競争地位戦略、バーニーらの資源ベース理論、脱・競争のための戦略について理解し、それらに基づいて企業がとるべき戦略について理解することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・中間試験の採点後、間違いが多かった箇所について詳しく説明をします。 ・中間試験の受験後にアンケートを実施し、意見、要望、コメントについて、フィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	経営戦略入門（第 2 版）、井上善海・大杉奉代・森宗一、中央経済社、2022 年	ISBN	9784502421310
参考書	①やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ よくわかる経営戦略論、井上善海・佐久間信夫、ミネルヴァ書房、2008 年 ②経営学入門キーコンセプト、井原久光・平野賢哉・菅野洋介・福地宏之、ミネルヴァ書房、2013 年	ISBN	①9784623050697 ②9784623064410
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	

この科目の受講にあたって	■履修について： ・「経営学基礎」で学んだ知識を前提として、理論・概念・フレームワークを活用することを目指します。自信がない人は、経営戦略論の分野の復習をしながら、講義を受講することをお勧めします。 ・より具体的な企業の戦略的行動や企業の枠組みを超えた経営戦略に関しては、「経営戦略論II」で扱います。本科目の履修後に、履修することで、より実践的な経営戦略に関する知識を修得することができます。 ■勉強方法： ①講義中にテキストの中でも特に重要な箇所の朗読、書き込みを行います。テキストは毎回必ず持参してください。 ②予習や復習用の宿題を配布します。必ず取り組み、保管して何度も見返すようにしてください。 ③重要なお知らせは、ラーニングポータル（変更がある場合は授業内で告知します）を経由して行います。授業後に毎週確認をしておくようにしてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【ガイダンス・経営戦略の役割と命題】(確認テスト) なぜ大学生が経営戦略論を学ぶのか、この講義で扱う経営戦略とは何なのかについて学びます。 ■キーコンセプト：経営戦略の役割 ■確認テスト（経営学基礎で学んだ経営戦略に関する知識について）を行います。経営学基礎を履修していない人は、科目担当教員に声をかけてください。どのような内容を自習するとスムーズに履修できるかを指導します。	【事前学習】 ・経営学基礎のテキスト「経営学入門」第5,6章を読んで、確認テストに備えておくこと。 ・シラバスに目を通して、授業を受けるにあたってわからないことがあれば、メモをしておくこと。 【事後学修】 ・確認テストで正解ができなかった箇所を重点的に、復習をしておくこと。	4時間
第2回	対面	■経営戦略とは何か1：戦略の策定プロセス 経営戦略とは何かについて、実際の経営戦略の策定プロセスに沿って理解をしていきます。 キーコンセプト：経営戦略の階層、経営戦略の策定プロセス、SWOT分析、計画性と創発性	【事前学修】 ・キーコンセプトをテキストで探し、マーカーをつけておくこと。また、序章・第1章中心を読んで予習しておくこと。 【事後学修】 ・宿題を解いて、復習をしておくこと。	4時間
第3回	対面	■経営戦略とは何か2：経営戦略の発生史 経営戦略はなぜ必要とされるようになったのでしょうか。管理（マネジメント）だけではなく、戦略（ストラテジー）が必要とされるようになった理由について、歴史を振り返りながら学びます。 キーコンセプト：科学的管理法、フォード・システム、SWOT分析、企業成長、競争戦略	【事前学修】 ・テキストの序章、LPに掲載される資料を読んで、キーコンセプトを確認しておくこと。 【事後学修】 ・宿題を解いて、復習をしておくこと。	4時間
第4回	対面	■企業戦略論1：成長のための多角化戦略 アンゾフは企業成長の方法の一つとして、多角化戦略を提案しました。では、どのような事業に多角化をすれば良いのでしょうか。この回では、事業同士の関係性と業績の関係についての法則性について学びます。 キーコンセプト：成長ベクトル、関連型多角化・非関連型多角化、シナジー、範囲の経済	【事前学修】 ・テキストの4、5章、LPに掲載される資料を読んで、キーコンセプトを確認しておくこと。 【事後学修】 ・宿題を解いて、復習をしておくこと。	4時間
第5回	対面	■企業戦略論2：市場成長率と市場占有率 会計学基礎では、（企業の）成長性・収益	【事前学修】 ・テキスト6章、LPに掲載される資料を読んで、キ	4時間

		性・安全性について学びました。これらと市場の成長率と市場占有率には重要な関係があります。なぜ、市場が成長していることはいいことなのでしょうか？なぜ、市場占有率を上げなければいけないのでしょうか。今までに学んだ知識を使いながら、業績と戦略の関係について理解します。 キーコンセプト：PLC、市場成長率、市場占有率、PPM、規模の経済、経験効果	ーコンセプトを確認しておくこと。 【事後学修】 ・宿題を解いて、復習をしておくこと。中間試験1に向けて、総復習をすること。	
第6回	対面	■競争戦略1：競争戦略とは何か、3つの基本戦略 ポーターは、企業が収益を獲得するためには3つしか方法がないと言います。なぜ、その3つなのでしょう。この回は、競争とは何か、収益は何によって生まれるのかについて、考えます。 キーコンセプト：競争戦略、ポジショニング理論、3つの基本戦略 ■中間試験①に向けた復習も行います。	【事前学修】 ・テキストの第8,9章を読んで予習しておくこと。 【事後学修】 ・宿題を解いて、復習をしておくこと。中間試験1に向けて、総復習をすること。	4時間
第7回	対面	中間試験① 試験範囲：第1回～第5回（＋第6回の中間試験①に向けた復習） 持ち込み：一切不可 第1回～第6回（企業戦略論2まで）が試験範囲です。用語の暗記だけではなく、正しい使い方を問う問題が出ます。ワークシート類をしっかりと見て、復習をしておきましょう。	【事前学修】 ・第1回から第6回の重要箇所を中心に復習をしておくこと。特に講義中で配布するポイントに従って、ワークシートや宿題を繰り返し行う。 【事後学修】 ・中間試験②が近いので、分からなかった箇所はすぐに復習をしましょう。	4時間
第8回	対面	■競争戦略2：ファイブ・フォース分析1（顧客の奪い合い） 競争は激しくない方が良い。では、どのような特徴のある業界やどのような戦略を取れば、競争を避けられるのでしょうか。ファイブ・フォースの強さに着目して、収益の得やすい業界の特徴について理解しましょう。 キーコンセプト：競争業者の敵対関係、新規参入の脅威、代替品の脅威、参入障壁、撤退障	【事前学修】 ・テキスト第11章を読んで予習しておくこと。 【事後学修】 ・ラーニングポータルで復習用小テストを満点になるまで受験しておくこと。 ・講義資料を見て、第10回の中間試験②に備えておくこと。	4時間
第9回	対面	■競争戦略3：ファイブフォース分析2（利益の奪い合い） ファイブ・フォースの中でも、利益を取り合う関係にある競争相手に対抗し、良い関係を築くためにはどのように振る舞うべきかについて、考えます。 キーコンセプト：供給業者の交渉力、買い手の交渉力、情報の非対称性	【事前学修】 ・テキスト8章を読んで、キーコンセプトを確認しておくこと。 【事後学修】 ・宿題を解いて、復習をしておくこと。中間試験2に向けて、総復習をしておくこと。	4時間
第10回	対面	■競争戦略4：競争地位戦略 競争優位にある企業と劣位にある企業は同じ戦略をとるべきなのでしょうか。この回では、業界の中での相対的な立ち位置によって最適な戦略が異なるという考え方を学びます。また、中間試験①に向けた復習を行います。 キーコンセプト：競争地位戦略	【事前学修】 ・テキスト9章を読んで、キーコンセプトを確認しておくこと。 【事後学修】 ・宿題を解いて、復習をしておくこと。中間試験2に向けて、総復習をしておくこと。	4時間

第11回	対面	中間試験② 試験範囲：第1回～第9回（+第10回の中間試験②に向けた復習） 持ち込み：一切不可 前半に質問タイムを設けますが、この日までに疑問があれば、科目担当教員に聞いておいてください。	【事前学修】 ・第1回から第9回の重要箇所を中心に復習をしておくこと。特に講義中で配布するポイントに従って、ワークシートや宿題を繰り返し行うこと。 【事後学修】 ・自信がなかった問題について確認をしておくこと。	4時間
第12回	対面	■競争戦略5：資源ベース理論 せっかく差別化をしても他社から真似されてしまうと、価格競争に陥ります。他社からの模倣から身を守るためにはどうすればいいのかについて、学びます。 キーコンセプト：経営資源、資源ベース理論、VRIO分析、コア・コンピタンス	【事前学修】 ・テキスト3章、補助資料を読んで、宿題の予習ワークをしておくこと。 【事後学修】 ・宿題を解いて、復習をしておくこと。	4時間
第13回	対面	■競争戦略6：脱競争の戦略論 絶え間のない競争から抜け出すにはどうすれば良いでしょうか、また、後発者になってしまった企業はどのような戦略をたてるべきでしょうか。この回は、競争から抜け出すための戦略論について学びます。 キーコンセプト：ブルー・オーシャン戦略、タイムベース戦略、プラット・フォーム戦略	【事前学修】 ・テキスト11章、補助資料を読んで、宿題の予習ワークをしておくこと。 【事後学修】 ・宿題を解いて、復習をしておくこと。	4時間
第14回	対面	■経営戦略の考え方（経営戦略論Ⅰのまとめ） 今までの講義を振り返り、経営戦略とはどのような考え方をするのかについて理解し、自身のメジャーとの関係性やこれからの学びにつなげます。また、定期試験に向けた問題演習を行います。 ■模擬試験：中間試験1、中間試験2の追・再試を含んでいます。しっかり勉強して良い点を取りましょう。	【事前学修】 ・模擬試験に向けて総復習をしておくこと。 【事後学修】 ・分からなかったところは、講義資料を確認し、必要であれば、科目担当教員に質問すること。	4時間
第15回	オンデマンド	■模擬試験の解説（オンデマンド） オンデマンドで第14回の模擬試験の解説を行います。模擬試験に出た問題以外への応用方法も解説するので、忘れずに視聴してください。Formsから課題テストに答えることで出席とします。	【事前学修】 ・模擬試験の分からなかった箇所を明らかにしておくこと。 【事後学修】 ・課題テストに解答し、復習をすること。	4時間

科目名	経営戦略論 I	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	氏田 壮一郎	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	経営戦略とは何か、企業戦略論・競争戦略論の理論・概念・フレームワークについて		
授業の目的及び概要	■「すぐに潰れてしまう会社と長く続く会社の差はどこにあるのか」、「会社の業績差は何によって決まるのか」、「かつては業界 No. 1 だった企業が、後発企業に追い抜かされるのはなぜか」、経営戦略論はこうした企業活動の成否についての根本的な問いに答えようとする学問領域です。本科目では、「①経営戦略とは何か」、「②企業戦略論」、「③競争戦略論」を中心とした経営戦略の基本的な考え方について学びます。 ■この科目の前に「経営学基礎」を履修し、続けて「経営戦略論 II」を受講することで、より体系的に、そして、深く経営戦略論の知識を修得することができます。		
履修条件・留意点	この科目は経営学基礎の知識が前提となる部分があります。経営学基礎を受講していない人は、初回の講義の際に、科目担当教員に声をかけてください。補助教材を渡します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①経営戦略とは何かについて、主な研究の変遷と策定プロセスの観点から理解することができる。 ②市場成長率、市場占有率、企業の収益性と事業ポートフォリオ形成の関係に関する概念・フレームワークを理解し、それらに基づいて、事例について解釈することができる。 ③企業間競争の基本的理論・概念・フレームワークである、ポーターの競争戦略、コトラーの競争地位戦略、バーニーらの資源ベース理論、脱・競争のための戦略について理解し、それらに基づいて企業がとるべき戦略について理解することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・中間試験の採点後、間違いが多かった箇所について詳しく説明をします。 ・中間試験の受験後にアンケートを実施し、意見、要望、コメントについて、フィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	経営戦略入門（第2版）、井上善海・大杉奉代・森宗一、中央経済社、2022 年	ISBN	9784502421310
参考書	①やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ よくわかる経営戦略論、井上善海・佐久間信夫、ミネルヴァ書房、2008 年 ②経営学入門キーコンセプト、井原久光・平野賢哉・菅野洋介・福地宏之、ミネルヴァ書房、2013 年	ISBN	①9784623050697 ②9784623064410
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（%）	0	
	その他の内容	0	

この科目の受講にあたって	■履修について： ・「経営学基礎」で学んだ知識を前提として、理論・概念・フレームワークを活用することを目指します。自信がない人は、経営戦略論の分野の復習をしながら、講義を受講することをお勧めします。 ・より具体的な企業の戦略的行動や企業の枠組みを超えた経営戦略に関しては、「経営戦略論II」で扱います。本科目の履修後に、履修することで、より実践的な経営戦略に関する知識を修得することができます。 ■勉強方法： ①講義中にテキストの中でも特に重要な箇所の朗読、書き込みを行います。テキストは毎回必ず持参してください。 ②予習や復習用の宿題を配布します。必ず取り組み、保管して何度も見返すようにしてください。 ③重要なお知らせは、ラーニングポータル（変更がある場合は授業内で告知します）を経由して行います。授業後に毎週確認をしておくようにしてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【ガイダンス・経営戦略の役割と命題】(確認テスト) なぜ大学生が経営戦略論を学ぶのか、この講義で扱う経営戦略とは何なのかについて学びます。 ■キーコンセプト：経営戦略の役割 ■確認テスト（経営学基礎で学んだ経営戦略に関する知識について）を行います。経営学基礎を履修していない人は、科目担当教員に声をかけてください。どのような内容を自習するとスムーズに履修できるかを指導します。	【事前学習】 ・経営学基礎のテキスト「経営学入門」第5,6章を読んで、確認テストに備えておくこと。 ・シラバスに目を通して、授業を受けるにあたってわからないことがあれば、メモをしておくこと。 【事後学修】 ・確認テストで正解ができなかった箇所を重点的に、復習をしておくこと。	4時間
第2回	対面	■経営戦略とは何か1：戦略の策定プロセス 経営戦略とは何かについて、実際の経営戦略の策定プロセスに沿って理解をしていきます。 キーコンセプト：経営戦略の階層、経営戦略の策定プロセス、SWOT分析、計画性と創発性	【事前学修】 ・キーコンセプトをテキストで探し、マーカーをつけておくこと。また、序章・第1章中心を読んで予習しておくこと。 【事後学修】 ・宿題を解いて、復習をしておくこと。	4時間
第3回	対面	■経営戦略とは何か2：経営戦略の発生史 経営戦略はなぜ必要とされるようになったのでしょうか。管理（マネジメント）だけではなく、戦略（ストラテジー）が必要とされるようになった理由について、歴史を振り返りながら学びます。 キーコンセプト：科学的管理法、フォード・システム、SWOT分析、企業成長、競争戦略	【事前学修】 ・テキストの序章、LPに掲載される資料を読んで、キーコンセプトを確認しておくこと。 【事後学修】 ・宿題を解いて、復習をしておくこと。	4時間
第4回	対面	■企業戦略論1：成長のための多角化戦略 アンゾフは企業成長の方法の一つとして、多角化戦略を提案しました。では、どのような事業に多角化をすれば良いのでしょうか。この回では、事業同士の関係性と業績の関係についての法則性について学びます。 キーコンセプト：成長ベクトル、関連型多角化・非関連型多角化、シナジー、範囲の経済	【事前学修】 ・テキストの4、5章、LPに掲載される資料を読んで、キーコンセプトを確認しておくこと。 【事後学修】 ・宿題を解いて、復習をしておくこと。	4時間
第5回	対面	■企業戦略論2：市場成長率と市場占有率 会計学基礎では、（企業の）成長性・収益	【事前学修】 ・テキスト6章、LPに掲載される資料を読んで、キ	4時間

		性・安全性について学びました。これらと市場の成長率と市場占有率には重要な関係があります。なぜ、市場が成長していることはいいことなのでしょうか？なぜ、市場占有率を上げなければいけないのでしょうか。今までに学んだ知識を使いながら、業績と戦略の関係について理解します。 キーコンセプト：PLC、市場成長率、市場占有率、PPM、規模の経済、経験効果	ーコンセプトを確認しておくこと。 【事後学修】 ・宿題を解いて、復習をしておくこと。中間試験1に向けて、総復習をすること。	
第6回	対面	■競争戦略1：競争戦略とは何か、3つの基本戦略 ポーターは、企業が収益を獲得するためには3つしか方法がないと言います。なぜ、その3つなのでしょう。この回は、競争とは何か、収益は何によって生まれるのかについて、考えます。 キーコンセプト：競争戦略、ポジショニング理論、3つの基本戦略 ■中間試験①に向けた復習も行います。	【事前学修】 ・テキストの第8,9章を読んで予習しておくこと。 【事後学修】 ・宿題を解いて、復習をしておくこと。中間試験1に向けて、総復習をすること。	4時間
第7回	対面	中間試験① 試験範囲：第1回～第5回（＋第6回の中間試験①に向けた復習） 持ち込み：一切不可 第1回～第6回（企業戦略論2まで）が試験範囲です。用語の暗記だけでなく、正しい使い方を問う問題が出ます。ワークシート類をしっかりと見て、復習をしておきましょう。	【事前学修】 ・第1回から第6回の重要箇所を中心に復習をしておくこと。特に講義中で配布するポイントに従って、ワークシートや宿題を繰り返し行う。 【事後学修】 ・中間試験②が近いので、分からなかった箇所はすぐに復習をしましょう。	4時間
第8回	対面	■競争戦略2：ファイブ・フォース分析1（顧客の奪い合い） 競争は激しくない方が良い。では、どのような特徴のある業界やどのような戦略を取れば、競争を避けられるのでしょうか。ファイブ・フォースの強さに着目して、収益の得やすい業界の特徴について理解しましょう。 キーコンセプト：競争業者の敵対関係、新規参入の脅威、代替品の脅威、参入障壁、撤退障	【事前学修】 ・テキスト第11章を読んで予習しておくこと。 【事後学修】 ・ラーニングポータルで復習用小テストを満点になるまで受験しておくこと。 ・講義資料を見て、第10回の中間試験②に備えておくこと。	4時間
第9回	対面	■競争戦略3：ファイブフォース分析2（利益の奪い合い） ファイブ・フォースの中でも、利益を取り合う関係にある競争相手に対抗し、良い関係を築くためにはどのように振る舞うべきかについて、考えます。 キーコンセプト：供給業者の交渉力、買い手の交渉力、情報の非対称性	【事前学修】 ・テキスト8章を読んで、キーコンセプトを確認しておくこと。 【事後学修】 ・宿題を解いて、復習をしておくこと。中間試験2に向けて、総復習をしておくこと。	4時間
第10回	対面	■競争戦略4：競争地位戦略 競争優位にある企業と劣位にある企業は同じ戦略をとるべきなのでしょうか。この回では、業界の中での相対的な立ち位置によって最適な戦略が異なるという考え方を学びます。また、中間試験①に向けた復習を行います。 キーコンセプト：競争地位戦略	【事前学修】 ・テキスト9章を読んで、キーコンセプトを確認しておくこと。 【事後学修】 ・宿題を解いて、復習をしておくこと。中間試験2に向けて、総復習をしておくこと。	4時間

第11回	対面	中間試験② 試験範囲：第1回～第9回（+第10回の中間試験②に向けた復習） 持ち込み：一切不可 前半に質問タイムを設けますが、この日までに疑問があれば、科目担当教員に聞いておいてください。	【事前学修】 ・第1回から第9回の重要箇所を中心に復習をしておくこと。特に講義中で配布するポイントに従って、ワークシートや宿題を繰り返し行うこと。 【事後学修】 ・自信がなかった問題について確認をしておくこと。	4時間
第12回	対面	■競争戦略5：資源ベース理論 せっかく差別化をしても他社から真似されてしまうと、価格競争に陥ります。他社からの模倣から身を守るためにはどうすればいいのかについて、学びます。 キーコンセプト：経営資源、資源ベース理論、VRIO分析、コア・コンピタンス	【事前学修】 ・テキスト3章、補助資料を読んで、宿題の予習ワークをしておくこと。 【事後学修】 ・宿題を解いて、復習をしておくこと。	4時間
第13回	対面	■競争戦略6：脱競争の戦略論 絶え間のない競争から抜け出すにはどうすれば良いでしょうか、また、後発者になってしまった企業はどのような戦略をたてるべきでしょうか。この回は、競争から抜け出すための戦略論について学びます。 キーコンセプト：ブルー・オーシャン戦略、タイムベース戦略、プラット・フォーム戦略	【事前学修】 ・テキスト11章、補助資料を読んで、宿題の予習ワークをしておくこと。 【事後学修】 ・宿題を解いて、復習をしておくこと。	4時間
第14回	対面	■経営戦略の考え方（経営戦略論Ⅰのまとめ） 今までの講義を振り返り、経営戦略とはどのような考え方をするのかについて理解し、自身のメジャーとの関係性やこれからの学びにつなげます。また、定期試験に向けた問題演習を行います。 ■模擬試験：中間試験1、中間試験2の追・再試を含んでいます。しっかり勉強して良い点を取りましょう。	【事前学修】 ・模擬試験に向けて総復習をしておくこと。 【事後学修】 ・分からなかったところは、講義資料を確認し、必要であれば、科目担当教員に質問すること。	4時間
第15回	オンデマンド	■模擬試験の解説（オンデマンド） オンデマンドで第14回の模擬試験の解説を行います。模擬試験に出た問題以外への応用方法も解説するので、忘れずに視聴してください。Formsから課題テストに答えることで出席とします。	【事前学修】 ・模擬試験の分からなかった箇所を明らかにしておくこと。 【事後学修】 ・課題テストに解答し、復習をすること。	4時間

科目名	経営戦略論Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	朴 亨珠	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	経営戦略とは何か、企業戦略論・競争戦略論の理論・概念・フレームワークについて		
授業の目的及び概要	■「すぐに潰れてしまう会社と長く続く会社の差はどこにあるのか」、「会社の業績差は何によって決まるのか」、「かつては業界 No.1 だった企業が、後発企業に追い抜かされるのはなぜか」、経営戦略論はこうした企業活動の成否についての根本的な問いに答えようとする学問領域です。本科目では、「①経営戦略とは何か」、「②企業戦略論」、「③競争戦略論」を中心とした経営戦略の基本的な考え方について学びます。		
履修条件・留意点	この科目は経営学基礎の知識が前提となる部分があります。経営学基礎を受講していない人は、必ず受講するようにしてください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①経営戦略とは何かについて、主な研究の変遷と策定プロセスの観点から理解することができる。 ②市場成長率、市場占有率、企業の収益性と事業ポートフォリオ形成の関係に関する概念・フレームワークを理解することができる。 ③企業間競争の基本的理論・概念・フレームワークである、ポーターの競争戦略、コトラーの競争地位戦略、バーニーらの資源ベース理論、脱・競争のための戦略について理解することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	必要に応じてアンケートを実施し、質問に対してフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	経営戦略入門（第2版）、井上善海・大杉奉代・森宗一、中央経済社、2022 年	ISBN	9784502421310
参考書	①やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ よくわかる経営戦略論、井上善海・佐久間信夫、ミネルヴァ書房、2008 年 ②経営学入門キーコンセプト、井原久光・平野賢哉・菅野洋介・福地宏之、ミネルヴァ書房、2013 年	ISBN	①9784623050697 ②9784623064410
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	10	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	40	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	■履修について： ・「経営学基礎」で学んだ知識を前提として、理論・概念・フレームワークを活用することを目指します。自信がない人は、経営戦略論の分野の復習をしながら、講義を受講することをお勧めします。		

	・より具体的な企業の戦略的行動や企業の枠組みを超えた経営戦略に関しては、「経営戦略論II」で扱います。本科目の履修後に、履修することで、より実践的な経営戦略に関する知識を修得することができます。 ■勉強方法： オンデマンド講義になりますので、時間を決めて集中し視聴してください。理解度に応じて繰り返し視聴し知識を定着してください。 ■出席方法 毎回、講義の最後に出席確認のためのアンケートを実施します。ビデオを視聴後は必ず、アンケートに回答してください。アンケートへの回答を確認した時点で出席とします。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	【ガイダンス・経営戦略の役割と命題】 なぜ大学生が経営戦略論を学ぶのか、この講義で扱う経営戦略とは何なのかについて学びます。	【事前学習】 ・経営学基礎のテキスト「経営学入門」第5,6章を読んで、確認テストに備えておくこと。 ・シラバスに目を通して、授業を受けるにあたってわからないことがあれば、メモしておくこと。 【事後学修】 ・わかりにくかった箇所を重点的に、復習しておくこと。	4時間
第2回	オンデマンド	■経営戦略とは何か1：戦略の策定プロセス 経営戦略とは何かについて、実際の経営戦略の策定プロセスに沿って理解をしていきます。 キーコンセプト：経営戦略の階層、経営戦略の策定プロセス、SWOT分析、計画性と創発性	【事前学修】 ・キーコンセプトをテキストで探し、マーカーをつけておくこと。また、序章・第1章中心を読んで予習しておくこと。 【事後学修】 ・わかりにくかった箇所を重点的に、復習しておくこと。	4時間
第3回	オンデマンド	■経営戦略とは何か2：経営戦略の発生史 経営戦略はなぜ必要とされるようになったのでしょうか。管理（マネジメント）だけではなく、戦略（ストラテジー）が必要とされるようになった理由について、歴史を振り返りながら学びます。 キーコンセプト：科学的管理法、フォード・システム、SWOT分析、企業成長、競争戦略	【事前学修】 ・テキストの序章、LPに掲載される資料を読んで、キーコンセプトを確認しておくこと。 【事後学修】 ・わかりにくかった箇所を重点的に、復習しておくこと。	4時間
第4回	オンデマンド	■企業戦略論1：成長のための多角化戦略 アンゾフは企業成長の方法の一つとして、多角化戦略を提案しました。では、どのような事業に多角化をすれば良いのでしょうか。この回では、事業同士の関係性と業績の関係についての法則性について学びます。 キーコンセプト：成長ベクトル、関連型多角化・非関連型多角化、シナジー、範囲の経済	【事前学修】 ・テキストの4、5章、LPに掲載される資料を読んで、キーコンセプトを確認しておくこと。 【事後学修】 ・わかりにくかった箇所を重点的に、復習しておくこと。	4時間
第5回	オンデマンド	■企業戦略論2：市場成長率と市場占有率 会計学基礎では、（企業の）成長性・収益性・安全性について学びました。これらと市場の成長率と市場占有率には重要な関係があります。なぜ、市場が成長していることはいいことなのでしょうか？なぜ、市場占有率を上げなければいけないのでしょうか。今までに学んだ知識を使いながら、業績と戦略の関係について理解します。 キーコンセプト：PLC、市場成長率、市場	【事前学修】 ・テキスト6章、LPに掲載される資料を読んで、キーコンセプトを確認しておくこと。 【事後学修】 ・わかりにくかった箇所を重点的に復習しておくこと。	4時間

		占有率、PPM、規模の経済、経験効果		
第6回	オンデマンド	■競争戦略1：競争戦略とは何か、3つの基本戦略 ポーターは、企業が収益を獲得するためには3つしか方法がないと言います。なぜ、その3つなのでしょう。この回は、競争とは何か、収益は何によって生まれるのかについて、考えます。 キーコンセプト：競争戦略、ポジショニング理論、3つの基本戦略	【事前学修】 ・テキストの第8,9章を読んで予習しておくこと。 【事後学修】 ・わかりにくかった箇所を重点的に復習しておくこと。	4時間
第7回	オンデマンド	中間試験①	【事前学修】 ・第1回から第6回の重要箇所を中心に復習しておくこと。 【事後学修】 ・配布された資料について、復習しておくこと。	4時間
第8回	オンデマンド	■競争戦略2：ファイブ・フォース分析1（顧客の奪い合い） 競争は激しくない方が良い。では、どのような特徴のある業界やどのような戦略を取れば、競争を避けられるのでしょうか。ファイブ・フォースの強さに着目して、収益の得やすい業界の特徴について理解しましょう。 キーコンセプト：競争業者の敵対関係、新規参入の脅威、代替品の脅威、参入障壁、撤退障	【事前学修】 ・テキスト第11章を読んで予習しておくこと。 【事後学修】 ・わかりにくかった箇所を重点的に復習しておくこと。	4時間
第9回	オンデマンド	■競争戦略3：ファイブフォース分析2（利益の奪い合い） ファイブ・フォースの中でも、利益を取り合う関係にある競争相手に対抗し、良い関係を築くためにはどのように振る舞うべきかについて、考えます。 キーコンセプト：供給業者の交渉力、買い手の交渉力、情報の非対称性	【事前学修】 ・テキスト8章を読んで、キーコンセプトを確認しておくこと。 【事後学修】 ・わかりにくかった箇所を重点的に復習しておくこと。	4時間
第10回	オンデマンド	■競争戦略4：競争地位戦略 競争優位にある企業と劣位にある企業は同じ戦略をとるべきなのでしょう。この回では、業界の中での相対的な立ち位置によって最適な戦略が異なるという考え方を学びます。また、中間試験①に向けた復習を行います。 キーコンセプト：競争地位戦略	【事前学修】 ・テキスト9章を読んで、キーコンセプトを確認しておくこと。 【事後学修】 ・わかりにくかった箇所を重点的に復習しておくこと。	4時間
第11回	オンデマンド	中間試験②	【事前学修】 ・第1回から第9回の重要箇所を中心に復習しておくこと。 【事後学修】 ・配布された資料について、復習しておくこと。	4時間
第12回	オンデマンド	■競争戦略5：資源ベース理論 せっかく差別化をしても他社から真似されてしまうと、価格競争に陥ります。他社からの模倣から身を守るためにはどうすればいいのかについて、学びます。 キーコンセプト：経営資源、資源ベース理論、VRIO分析、コア・コンピタンス	【事前学修】 ・テキスト3章を読んで、キーコンセプトを確認しておくこと。 【事後学修】 ・わかりにくかった箇所を重点的に復習しておくこと。	4時間
第13回	オンデマンド	■競争戦略6：脱競争の戦略論 絶え間のない競争から抜け出すにはどう	【事前学修】 ・テキスト11章を読んで、キーコンセプトを確認し	4時間

		すれば良いでしょうか、また、後発者になってしまった企業はどのような戦略をたてるべきでしょうか。この回は、競争から抜け出すための戦略論について学びます。 キーコンセプト：ブルー・オーシャン戦略、タイムベース戦略、プラット・フォーム戦略	ておくこと。 【事後学修】 ・わかりにくかった箇所を重点的に復習をしておくこと。	
第14回	オンデマンド	これまでの復習③ 今までの講義を振り返り、経営戦略とはどのような考え方をするのかについて理解し、自身のメジャーとの関係性やこれからの学びにつなげます。 またアンケートなどでコメントがあった分りにくい箇所を取り上げて、詳細に説明します。	【事前学修】 ・総復習をしておくこと。 【事後学修】 ・分からなかったところは、講義資料を確認し、必要であれば、科目担当教員に質問すること。	4 時間
第15回	オンデマンド	総復習について：定期試験対策	【事前学修】 ・これまで配布された資料を確認しておくこと。 【事後学修】 ・配布された資料を復習をすること。	4 時間

科目名	コーポレートファイナンス論	開講年度	2026 年度春学期
担当者	条井 淳子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	企業価値の最大化		
授業の目的及び概要	この授業は、企業における資金の調達・運用、設備投資等に関して包括的に学び、理論を正確に理解した上で、その応用力を身につけることができることを目的とする。具体的には、会計情報を利用し、問題を解決できること、会計情報を意思決定に利用できること、基本的なファイナンスに関する理論、企業における資金調達と資本構成の実態、資本コストの考え方やその算出方法、企業における配当政策、債券と株式の評価方法、現在価値の概念を用いたキャッシュフローの評価方法等に関する知識を修得し、企業財務意思決定の基礎理論を理解することができることなどである。		
履修条件・留意点	ファイナンスは「資金調達」と訳されており、投資者サイドと企業サイドからの視点に分けて考えることができ、それぞれ「証券論」と「コーポレートファイナンス論」で取り上げています。この「コーポレートファイナンス論」では、企業サイドからのファイナンスを取り上げ、企業が新たに設立され、株主資本や負債により資金調達を行って、その企業価値を高めていく過程について学修します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	基本的なコーポレートファイナンスの考え方を身につけ、グローバル化する企業の経営戦略の理解に役立てることができることを到達目標とする。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	確認テストについては授業中に講評を行います。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『コーポレートファイナンス 戦略と実践』, 田中慎一、保田隆明著, ダイヤモンド社, 2019 年	ISBN	9784478105412
参考書	会計・ファイナンスの基礎・基本 [改訂版], 島本克彦・条井淳子・引地夏奈子・藤原大花, 創成社, 2025 年 その他、授業中に配布プリント等でお知らせします。	ISBN	9784794416025
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	テキスト、参考書、書込み式の配布資料を用いて講義形式で授業を行い、また知識の確認のために、毎回、確認テストを実施します。確認テストは評価対象です。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	ファイナンスの全体像	【予習】事前にシラバスに目を通しテキストの第1章の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第1章の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第2回	対面	会計とファイナンス1 B/SとP/L	【予習】事前にテキストの第2章01及び02の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第2章01及び02の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第3回	対面	会計とファイナンス2 キャッシュフロー	【予習】事前にテキストの第2章03～07の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第2章03～07の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第4回	対面	会計とファイナンス3 財務諸表の活用	【予習】事前にテキストの第3章01～03の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第3章01～03の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第5回	対面	会計とファイナンス4 株式市場での評価	【予習】事前にテキストの第3章04～08の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第3章04～08の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第6回	対面	企業価値1 現在価値	【予習】事前にテキストの第4章の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第4章の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第7回	対面	企業価値2 資本コスト	【予習】事前にテキストの第5章の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第5章の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第8回	対面	企業価値3 事業評価	【予習】事前にテキストの第6章01～03の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第6章01～03の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第9回	対面	企業価値4 企業価値	【予習】事前にテキストの第6章04～08の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第6章04～08の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第10回	対面	企業価値5 類似会社比較法	【予習】事前にテキストの第7章の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第7章の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第11回	対面	企業価値6 M&A	【予習】事前にテキストの第8章の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第8章の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第12回	対面	株主還元政策	【予習】事前にテキストの第9章の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第9章の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第13回	対面	IR戦略	【予習】事前にテキストの第10章の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第10章の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第14回	対面	ベンチャーファイナンス	【予習】事前にテキストの第11章の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第11章の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4時間

第15回	オンデマンド	まとめ	【予習】事前に確認テストの計算問題や用語について復習しておきましょう。 【復習】テキストや参考書、配布資料を用いて用語や確認テストの計算問題について復習し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間

科目名	国際経営概論	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	四宮 由紀子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	この講義では、(1) 国際経営の基本的な概念や理論を学ぶこと、(2) 国際経営が抱える課題と解決について考えること、(3) 国際経営の実態を理解すること、の3つをテーマとしています。		
授業の目的及び概要	この講義では、国際経営の理論と歴史、仕組みと企業活動、実態と様々な課題について知識を深め、国際経営の課題と解決について考えます。国際経営とは「企業が国境を越えてビジネス活動を行うこと」です。企業はなぜ国際化するのか、また国際経営における戦略、組織、ビジネス活動の特徴はどのようなものか、日本および海外の企業の国際経営にはどのような特徴がありどのような課題を抱えているのか、これらの視点から国際経営への理解を深めます。 この講義の目的は、国際経営とは何か、また国際経営をする企業にはどのような特徴があるのかを理解できるようになることです。初めて国際経営について学ぶ人でも理解しやすいように、実際の企業の事例を多く用いながら解説します。なお、経営学の基礎的な知識があると、より国際経営についての理解が深まります。 具体的には、貿易と直接投資、多国籍企業の歴史と理論、国際経営の所有政策／経営管理／経営組織／技術と研究開発／マーケティング／人的資源管理／リスク、そして日本や海外の国際経営事例について学びます。		
履修条件・留意点	この授業科目は、経営学基礎の上位科目であり、経営学基礎の合格者の履修を推奨します。また、経営学の基礎的な科目（経営管理論、経営組織論、経営戦略論、マーケティング戦略論、人的資源管理論など）とも深く関連していますので、これらの科目を履修することを推奨します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	国際経営の基礎概念と理論、歴史と現状、および課題について理解し、以下のようなレベルに到達すること。 1. 国際経営の歴史的背景と基礎的な知識を理解し、国際化のメカニズムについて説明することができる。 2. 企業の国際経営について理解を深め、現実の企業活動について分析できるようになる。 3. 日本企業および外資系企業の国際経営の実態や課題を理解し、その解決について考察することができる。 4. 国際的な視野を養い、世界で活躍できる知識を持つことが出来る。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内の小テストやレポートについて、翌週の授業の冒頭で正答や解答例を解説します。また、質問やコメントについては授業内でフィードバックし、共有します。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキスト指定は行いません。必要な資料を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	①国際経営論への招待、吉原英樹編著、有斐閣ブックス、2002 年 ②新グローバル経営論、安室憲一編著、白桃書房、2007 年 ③テキストブック国際経営[新版]、山崎清・竹田志郎、有斐閣ブックス、1993 年	ISBN	①9784641086661 ②9784561264668 ③9784641085220
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	

	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	60
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	できるだけ実際の企業の事例を盛り込みながら、理論と実践に関してわかりやすく講義します。国際経営について実践的で幅広い知識を身につけるとともに、「なぜ国際化するのか」、「国際経営の課題は何か」、「どうすれば解決できるのか」、について分析し考える力を養いましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【ガイダンス：国際経営とは】 この講義の進め方や評価方法、国際経営概論の授業計画の全体像について説明する。 国際経営の概要とデータについてクイズ形式で紹介し、解説する。	国際経営とは何か、考えてみよう。 国際経営に関して身近な企業の例を、ニュースや新聞などから調べてみよう。	2時間
第2回	対面	【貿易と海外直接投資】 「企業の国際化と国際経営」にとって不可欠である貿易と直接投資について学ぶ。 また国際貿易の歴史と世界経済の現状についても解説する。	貿易と海外直接投資の違いについて正しく理解しよう。 日本の貿易と海外直接投資の規模について調べ、諸外国と比べてみよう。	4時間
第3回	対面	【多国籍企業の誕生と発展】 多国籍企業の誕生と発展の歴史について学ぶ。また多国籍企業の定義や形態についても紹介し、時代の変化に伴う変遷についても理解を深める。 さらに日本、欧米、新興国の多国籍企業の特徴について考える。	多国籍企業とは何か、説明できるようにしよう。 日本や海外の多国籍企業について調べよう。	4時間
第4回	対面	【日本の多国籍企業と発展史】 日本の多国籍企業の発展の歴史を知り、現在の日本の多国籍企業が産業別・業種別やエリア別にどのような特徴を持つのか、について学ぶ。	日本を代表する多国籍企業について、その世界的な分布や事業展開について調べよう。	4時間
第5回	対面	【多国籍企業の理論】 企業はなぜ国際化するのか、その理論として①プロダクト・ライフサイクル、②ダニングの折衷理論、③内部化理論について学ぶ。	企業が国際化する理由や意義について考えよう。 多国籍企業の様々な理論について正しく理解し、その違いについて整理しよう。	4時間
第6回	対面	【国際経営と所有政策】 企業が海外に進出する際にどのような形態で国際化するのか、特に企業の所有方式について学ぶ。 完全所有、ジョイントベンチャー、M&A等の方式についてそれぞれの特徴とその方式を選択する背景について解説する。	中央集権型／現地化／グローバル化の多国籍企業の事例について調べよう。 経営管理のそれぞれの方式の問題点や課題について分析しよう。	4時間
第7回	対面	【国際経営と戦略】 国際経営戦略の基本となる「グローバル統合戦略」と「ローカル適応戦略」の2軸とI-Rフレームワークを理解する。またバートレット＝ゴシャルの国際経営戦略の4類型についても学ぶ。	グローバル統合戦略とローカル適応戦略の事例を調べて、その製品やマーケティングの違いについて見てみよう。	4時間

第8回	対面	【国際経営と異文化】 企業の国際化において異文化マネジメントは欠かせない。多様な文化的背景を持つマネジメントにおいて、同のような特徴や課題があるのかについて学ぶ。	過去の新聞記事等で、日本の多国籍企業の異文化マネジメントの事例について調べよう。	4 時間
第9回	対面	【国際経営と組織構造】 企業が国際化するにつれ、企業の組織の在り方が変化する。国際化のフェーズと組織構造（事業部制組織／マトリックス組織）について学ぶ。 また、国際経営組織のマルチナショナル型／インターナショナル型／グローバル型／トランスナショナル型、地域統括本社制などについても解説する。	企業が国際化し、拡大する中で、最適な組織構造は何か、考えよう。 実際の企業組織の事例から、なぜその組織構造を選択したのか分析しよう。	4 時間
第10回	対面	【国際経営と研究開発】 企業の成長や発展のために研究開発は不可欠である。国際研究開発について、その目的と要因、発展段階と現状について学ぶ。 また、研究開発の国際化においてどのような課題があるのか解説する。	研究開発が国際化することで、どのような問題が生じるのか考えてみよう。 実際の企業の国際研究開発の事例を調べてみよう。	4 時間
第11回	対面	【国際経営とマーケティング】 企業が国際化すると、世界中の顧客をターゲットにした国際マーケティング活動が必要になる。 国際マーケティングの役割と重要性について学び、標準化 vs 適応化問題やグローバル・サプライチェーンマネジメントについても言及する。	国際マーケティングの標準化と適応化問題について、それぞれのメリット・デメリットを正しく理解しよう。 世界的に有名な企業のマーケティングについて調べ、その特徴について分析しよう。	4 時間
第12回	対面	【国際経営と人的資源管理】 企業が国際化するに従い、人材もグローバル化し、国際的な人的資源管理が必要である。 実際の事例を紹介しながら、国際人的資源管理の在り方や特徴、課題について学び、異文化経営への理解を深める。	多様な国籍や文化的背景を持つ人々が働く企業では、どのような人的資源管理が必要か考えよう。 実際の企業の国際人的資源管理について調べ、その特徴を比較してみよう。企業の国際化においてどのようなリスクが考えられるか、考察しよう。	4 時間
第13回	対面	【国際経営とカントリーリスク】 企業が国際化する中で、多様な国において異なる経済制度や経営習慣、異文化などに直面し、企業は様々なリスクにさらされている。 国際経営を取り巻く環境とリスクについて学び、その課題と解決について考察する。	実際の多国籍企業のカントリーリスクの事例について調べてみよう。	4 時間
第14回	対面	【世界の多国籍企業の国際経営事例】 世界の多国籍企業について、国際経営の事例を中心に学ぶ。	世界の多国籍企業について調べ、どのような違いや特徴があるか考えよう。	4 時間
第15回	オンデマンド	【総括】 これまでの講義を振り返り、今後の国際経営の発展と拡大について考察する。 オンデマンド動画を視聴して復習し、定期試験に向けて学修する。	配信したオンデマンド動画を見て、これまでの講義で学修した国際経営の理論や知識について整理しよう。 国際経営の現状と課題について正しく把握し、その解決について考えよう。	6 時間

科目名	国際経営概論	開講年度	2026 年度春学期
担当者	四宮 由紀子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	この講義では、(1) 国際経営の基本的な概念や理論を学ぶこと、(2) 国際経営が抱える課題と解決について考えること、(3) 国際経営の実態を理解すること、の3つをテーマとしています。		
授業の目的及び概要	この講義では、国際経営の理論と歴史、仕組みと企業活動、実態と様々な課題について知識を深め、国際経営の課題と解決について考えます。国際経営とは「企業が国境を越えてビジネス活動を行うこと」です。企業はなぜ国際化するのか、また国際経営における戦略、組織、ビジネス活動の特徴はどのようなものか、日本および海外の企業の国際経営にはどのような特徴がありどのような課題を抱えているのか、これらの視点から国際経営への理解を深めます。 この講義の目的は、国際経営とは何か、また国際経営をする企業にはどのような特徴があるのかを理解できるようになることです。初めて国際経営について学ぶ人でも理解しやすいように、実際の企業の事例を多く用いながら解説します。なお、経営学の基礎的な知識があると、より国際経営についての理解が深まります。 具体的には、貿易と直接投資、多国籍企業の歴史と理論、国際経営の所有政策／経営管理／経営組織／技術と研究開発／マーケティング／人的資源管理／リスク、そして日本や海外の国際経営事例について学びます。		
履修条件・留意点	この授業科目は、経営学基礎の上位科目であり、経営学基礎の合格者の履修を推奨します。また、経営学の基礎的な科目（経営管理論、経営組織論、経営戦略論、マーケティング戦略論、人的資源管理論など）とも深く関連していますので、これらの科目を履修することを推奨します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	国際経営の基礎概念と理論、歴史と現状、および課題について理解し、以下のようなレベルに到達すること。 1. 国際経営の歴史的背景と基礎的な知識を理解し、国際化のメカニズムについて説明することができる。 2. 企業の国際経営について理解を深め、現実の企業活動について分析できるようになる。 3. 日本企業および外資系企業の国際経営の実態や課題を理解し、その解決について考察することができる。 4. 国際的な視野を養い、世界で活躍できる知識を持つことが出来る。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内の小テストやレポートについて、翌週の授業の冒頭で正答や解答例を解説します。また、質問やコメントについては授業内でフィードバックし、共有します。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキスト指定は行いません。必要な資料を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	①国際経営論への招待、吉原英樹編著、有斐閣ブックス、2002 年 ②新グローバル経営論、安室憲一編著、白桃書房、2007 年 ③テキストブック国際経営[新版]、山崎清・竹田志郎、有斐閣ブックス、1993 年	ISBN	①9784641086661 ②9784561264668 ③9784641085220
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	

	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	60
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	できるだけ実際の企業の事例を盛り込みながら、理論と実践に関してわかりやすく講義します。国際経営について実践的で幅広い知識を身につけるとともに、「なぜ国際化するのか」、「国際経営の課題は何か」、「どうすれば解決できるのか」、について分析し考える力を養いましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【ガイダンス：国際経営とは】 この講義の進め方や評価方法、国際経営概論の授業計画の全体像について説明する。 国際経営の概要とデータについてクイズ形式で紹介し、解説する。	国際経営とは何か、考えてみよう。 国際経営に関して身近な企業の例を、ニュースや新聞などから調べてみよう。	2時間
第2回	対面	【貿易と海外直接投資】 「企業の国際化と国際経営」にとって不可欠である貿易と直接投資について学ぶ。 また国際貿易の歴史と世界経済の現状についても解説する。	貿易と海外直接投資の違いについて正しく理解しよう。 日本の貿易と海外直接投資の規模について調べ、諸外国と比べてみよう。	4時間
第3回	対面	【多国籍企業の誕生と発展】 多国籍企業の誕生と発展の歴史について学ぶ。また多国籍企業の定義や形態についても紹介し、時代の変化に伴う変遷についても理解を深める。 さらに日本、欧米、新興国の多国籍企業の特徴について考える。	多国籍企業とは何か、説明できるようにしよう。 日本や海外の多国籍企業について調べよう。	4時間
第4回	対面	【日本の多国籍企業と発展史】 日本の多国籍企業の発展の歴史を知り、現在の日本の多国籍企業が産業別・業種別やエリア別にどのような特徴を持つのか、について学ぶ。	日本を代表する多国籍企業について、その世界的な分布や事業展開について調べよう。	4時間
第5回	対面	【多国籍企業の理論】 企業はなぜ国際化するのか、その理論として①プロダクト・ライフサイクル、②ダニングの折衷理論、③内部化理論について学ぶ。	企業が国際化する理由や意義について考えよう。 多国籍企業の様々な理論について正しく理解し、その違いについて整理しよう。	4時間
第6回	対面	【国際経営と所有政策】 企業が海外に進出する際にどのような形態で国際化するのか、特に企業の所有方式について学ぶ。 完全所有、ジョイントベンチャー、M&A等の方式についてそれぞれの特徴とその方式を選択する背景について解説する。	中央集権型／現地化／グローバル化の多国籍企業の事例について調べよう。 経営管理のそれぞれの方式の問題点や課題について分析しよう。	4時間
第7回	対面	【国際経営と戦略】 国際経営戦略の基本となる「グローバル統合戦略」と「ローカル適応戦略」の2軸とI-Rフレームワークを理解する。またバートレット＝ゴシャルの国際経営戦略の4類型についても学ぶ。	グローバル統合戦略とローカル適応戦略の事例を調べて、その製品やマーケティングの違いについて見てみよう。	4時間

第8回	対面	【国際経営と異文化】 企業の国際化において異文化マネジメントは欠かせない。多様な文化的背景を持つマネジメントにおいて、同のような特徴や課題があるのかについて学ぶ。	過去の新聞記事等で、日本の多国籍企業の異文化マネジメントの事例について調べよう。	4 時間
第9回	対面	【国際経営と組織構造】 企業が国際化するにつれ、企業の組織の在り方が変化する。国際化のフェーズと組織構造（事業部制組織／マトリックス組織）について学ぶ。 また、国際経営組織のマルチナショナル型／インターナショナル型／グローバル型／トランスナショナル型、地域統括本社制などについても解説する。	企業が国際化し、拡大する中で、最適な組織構造は何か、考えよう。 実際の企業組織の事例から、なぜその組織構造を選択したのか分析しよう。	4 時間
第10回	対面	【国際経営と研究開発】 企業の成長や発展のために研究開発は不可欠である。国際研究開発について、その目的と要因、発展段階と現状について学ぶ。 また、研究開発の国際化においてどのような課題があるのか解説する。	研究開発が国際化することで、どのような問題が生じるのか考えてみよう。 実際の企業の国際研究開発の事例を調べてみよう。	4 時間
第11回	対面	【国際経営とマーケティング】 企業が国際化すると、世界中の顧客をターゲットにした国際マーケティング活動が必要になる。 国際マーケティングの役割と重要性について学び、標準化 vs 適応化問題やグローバル・サプライチェーンマネジメントについても言及する。	国際マーケティングの標準化と適応化問題について、それぞれのメリット・デメリットを正しく理解しよう。 世界的に有名な企業のマーケティングについて調べ、その特徴について分析しよう。	4 時間
第12回	対面	【国際経営と人的資源管理】 企業が国際化するに従い、人材もグローバル化し、国際的な人的資源管理が必要である。 実際の事例を紹介しながら、国際人的資源管理の在り方や特徴、課題について学び、異文化経営への理解を深める。	多様な国籍や文化的背景を持つ人々が働く企業では、どのような人的資源管理が必要か考えよう。 実際の企業の国際人的資源管理について調べ、その特徴を比較してみよう。企業の国際化においてどのようなリスクが考えられるか、考察しよう。	4 時間
第13回	対面	【国際経営とカントリーリスク】 企業が国際化する中で、多様な国において異なる経済制度や経営習慣、異文化などに直面し、企業は様々なリスクにさらされている。 国際経営を取り巻く環境とリスクについて学び、その課題と解決について考察する。	実際の多国籍企業のカントリーリスクの事例について調べてみよう。	4 時間
第14回	対面	【世界の多国籍企業の国際経営事例】 世界の多国籍企業について、国際経営の事例を中心に学ぶ。	世界の多国籍企業について調べ、どのような違いや特徴があるか考えよう。	4 時間
第15回	オンデマンド	【総括】 これまでの講義を振り返り、今後の国際経営の発展と拡大について考察する。 オンデマンド動画を視聴して復習し、定期試験に向けて学修する。	配信したオンデマンド動画を見て、これまでの講義で学修した国際経営の理論や知識について整理しよう。 国際経営の現状と課題について正しく把握し、その解決について考えよう。	6 時間

科目名	流通システム論		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	仲川 直毅		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義	
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目			
テーマ	流通に関する基本原理と現状の理解			
授業の目的及び概要	生産と消費を架橋する流通は、経済活動において重要な役割を果たしています。経済活動において重要な役割を果たしている流通の機能や役割など流通の基本的枠組みを理解することが本講義の目標です。具体的には、消費者（我々）にとって身近な存在である流通の機能、役割などの基本概念や百貨店、スーパー、コンビニエンスストアなどの各業態の歴史や現状などについて学習したうえで、流通担当者の活動について理解を深めていきます。なお、授業は、流通をはじめて学ぶ学生を想定し、流通の基礎から解説していきます。			
履修条件・留意点	－			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	1. 流通の機能や役割を理解し、説明することができる 2. 各業態の歴史や現状を理解し、説明することができる 3. 流通業の現状や流通業者が抱える課題やその対応策について、自分の考えや意見をまとめることができる			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業内の課題、問題については、適宜授業内にフィードバックやコメントを行います。			
アクティブ・ラーニングの取り組み				
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	とくに指定しません。 必要に応じて資料を配布します。		ISBN	なし
参考書	参考になる文献、論文、資料等は、授業中に適宜紹介します。		ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		10	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		40	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		50	
	その他（％）		0	
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	我々にとって身近な存在である流通に興味、関心をもち、授業に主体的に参加することを期待します。講義の形式を基本として行いますが、積極的に授業に参加すること（質疑応答など）を希望します。授業中に教員から質問をしますので、積極的に自ら考え、答えるようにしてください。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 授業の目的と方法、授業計画、成績評価	事前学修：シラバスを読み、授業の目的、授業の全体の流れ等を事前に把握しておいてください。	4 時間

		等について説明します。流通とは何かについて説明します。	事後学修：授業で配布した資料を読み、流通システム論の概略、流通とは何かについて復習してください。	
第2回	対面	流通の役割 流通の役割について学びます。	事前学修：配布資料を事前に読んでおいてください。 事後学修：配布資料を読み重要な点や授業で得た知識をまとめ、復習してください。	4 時間
第3回	対面	卸売業 卸売業の機能と役割を中心に学びます。	事前学修：配布資料を事前に読んでおいてください。 事後学修：配布資料を読み重要な点や授業で得た知識をまとめ、復習してください。	4 時間
第4回	対面	小売業① 小売業の機能と役割を中心に学びます。	事前学修：配布資料を事前に読んでおいてください。 事後学修：配布資料を読み重要な点や授業で得た知識をまとめ、復習してください。	4 時間
第5回	対面	小売業② 小売業の業種と業態を中心に学びます。	事前学修：配布資料を事前に読んでおいてください。 事後学修：配布資料を読み重要な点や授業で得た知識をまとめ、復習してください。	4 時間
第6回	対面	中間試験 1 これまでの学修内容について、中間試験を実施します。	事前学修：これまでの配布資料を読み、中間試験の準備をしてください。 事後学修：確認テストの振り返りをしてください。	4 時間
第7回	対面	百貨店の歴史と現状 百貨店の歴史と現状を中心に学びます。	事前学修：配布資料を事前に読んでおいてください。 事後学修：配布資料を読み重要な点や授業で得た知識をまとめ、復習してください。	4 時間
第8回	対面	コンビニエンスストアの歴史と現状① コンビニエンスストアの歴史と現状を中心に学びます。	事前学修：配布資料を事前に読んでおいてください。 事後学修：配布資料を読み重要な点や授業で得た知識をまとめ、復習してください。	4 時間
第9回	対面	コンビニエンスストアの歴史と現状② コンビニエンスストアの歴史について、事例を交えて学びます。	事前学修：配布資料を事前に読んでおいてください。 事後学修：配布資料を読み重要な点や授業で得た知識をまとめ、復習してください。	4 時間
第10回	対面	スーパーマーケットの歴史と現状・POS システム スーパーマーケットの歴史と現状・POS システムを中心に学びます。	事前学修：配布資料を事前に読んでおいてください。 事後学修：配布資料を読み重要な点や授業で得た知識をまとめ、復習してください。	4 時間
第11回	対面	中間試験 2 これまでの学修内容について、中間試験を実施します。	事前学修：これまでの配布資料を読み、中間試験の準備をしてください。 事後学修：確認テストの振り返りをしてください。	4 時間
第12回	対面	各業態の動向 これまでの内容（各業態の現状）を踏まえたうえで、各業態の動向について学びます。	事前学修：配布資料を事前に読んでおいてください。 事後学修：配布資料を読み重要な点や授業で得た知識をまとめ、復習してください。	4 時間
第13回	対面	事例研究① SPA のビジネスモデルについて、事例を交えて学びます。	事前学修：配布資料を事前に読んでおいてください。 事後学修：配布資料を読み重要な点や授業で得た知識をまとめ、復習してください。	4 時間
第14回	対面	事例研究② プライベートブランドについて、事例を交えて学びます。	事前学修：配布資料を事前に読んでおいてください。 事後学修：配布資料を読み重要な点や授業で得た知識をまとめ、復習してください。	4 時間
第15回	オンデマンド	総括 これまでのまとめを行います。	事前学修：これまでに配布した授業資料を再度、確認してください。 事後学修：これまでの授業内容を復習してください。	4 時間

科目名	マーケティングリサーチ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	深瀬 澄	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	実証研究事例から学ぶ「消費者心理、購買行動分析、商品開発」のためのデータサイエンス		
授業の目的及び概要	マーケティング・商品開発、行動経済学、人的資源管理、管理会計分野等の卒業論文の作成において、学術的な実証的研究をするために必要な統計分析手法について手ほどきをする。 授業で採り上げる分析手法については、経営学分野を中心とする様々な社会科学・人文科学系の学会を梯子して拝聴し、最近の学会報告の中で用いられていた手法の中から比較的易しく、初心者にも扱えそうなものを集めている。「意識・感情」等の目に見えない「構成概念」の統計量の測定や、潜在的な原因による結果への影響力を分析するためには、社会心理学的なアプローチによる分析手法が有益である。さらに、本学経営学科の教育特色とする「顧客や同僚など他者の気持ちを推察する」ための分析にもこだわり、人的資源管理における「能力・モチベーション」、財務分析におけるブランドや社風等の「無形資産」をはじめ、先端的な分析に対応する。 心理統計学を基礎とするマーケティングリサーチではいずれも一般的な手法だが、様々な実証研究事例を暗記するのではなく、アイデアを学び各自の研究に生かす「応用力」に期待する。		
履修条件・留意点	商品開発や市場調査は高校生もやっていますが、マーケティング専攻の大学生との決定的な違いは「科学的なデータ解析力」だと思います。履修に際して、特に先修条件はありませんが、PC 実習は「ビジネス統計学Ⅱ」で学ぶ「相関係数」「仮説検定」「回帰分析」を基礎とし、Excel では分析できない統計手法を学びますので留意して下さい。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	到達目標は、マーケティング・商品開発、行動経済学、人的資源管理、管理会計分野の研究で、下記の統計分析手法を理解し、使えるようになることである。具体的な項目に分解すると多くなるが、到達度を測定する項目を予め絞り込み公開する。授業期間中に全てに到達することは想定していない。それぞれの所属ゼミでの研究活動に応用し、実践する中で定着していけば良い。 1. 因子分析 ・潜在因子を正しく抽出し、測定尺度としての妥当性を判断できる。 ・因子得点から標本を類型化できる。 2. 回帰分析 ・出力結果からモデルの妥当性を判断し、目的変数への各説明変数の影響力を分析できる。 ・単回帰分析と重回帰分析による分析の理論的な違いを説明できる。 ・説明変数を過剰に用いた場合に発生する問題を理解し、解決できる。 3. 共分散構造分析 ・t 検定と分散分析を使い分けことができる。 ・複数の要因が重なって発生する交互作用の存在を判定できる。 ・2 要因の比較で、要因以外の条件の違いを統計的に調整して分析できる。 4. 調整効果分析 ・重回帰分析において、促進要因や抑制要因による説明変数の影響力の変化を分析できる。 5. 媒介効果分析 ・原因と結果の因果関係を、直接効果と媒介変数を経由する間接効果とに分解して分析できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	1. 講義内容に関する質問については、授業内で受け付けて回答する。 2. PC 実習の質問については、復習時にオンデマンド動画で対応する。 3. テストに対しては、正解と講評を示しフィードバックする。 4. 授業改善のためのアンケートを実施し、回答結果に対する改善案を示しフィードバックする。		
アクティブ・ラーニング	反転授業		

の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①社会心理学のための統計学, 清水裕士・荘島宏二郎, 誠信書房, 2017 年	ISBN	①9784414301892
参考書	①教育を科学する力、教師のための量的・質的研究法, 石川美智子・松本みゆき, 学術研究出版, 2018 年	ISBN	①9784865843194
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	25	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	25	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	英国で研究をされた亀田教授によれば、世界標準の経営学研究は、理論をより厳密化し科学的に考察するために、統計分析を重視する潮流がみられるそうである。 現在では、研究手法が従来のケーススタディを中心とする帰納法的アプローチから、仮説を立ててデータを集め、統計処理して分析する演繹的アプローチが主流になっている。 ここで、研究テーマは無数にあるが、分析に用いる統計手法は限られていることに気づいて欲しい。つまり分野横断的に分析の流れは類似しており、特にマーケティング分野では、消費者心理、購買行動、商品開発、広告効果、デザイン選好等の分析に心理学的な統計手法が積極的に導入されてきたのである。 本授業で扱う多変量解析や媒介効果分析等は、大学院生も共通に学んでいる分析手法で、Excelで分析できるレベルを超えているため、PC 実習では専門のフリーソフトを用いる。 原則として、「ビジネス統計学Ⅰ・Ⅱ」の単位を取得し、マーケティングや製品開発の専門職、大学院進学志望、学生研究発表大会や懸賞論文等で勝負に出たい人等を対象としている。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	第1章 心についての構成概念の測定① 「構成概念」の測定尺度と実習で使うソフトウェア1 「態度」とは、体験より獲得する心の状態で、人の周りの対象に対して、行動を起こしたり変えたりする構成概念である。例えばファンの心理を直接に測定することはできないが、支援願望、憧憬、到達目標、生き甲斐、献身・自己犠牲等の感情の度合いより推定される。このようにそれ自体は直接には観測できないが、現象を説明するのに便利な科学的な仮定を構成概念という。構成概念の測定法を「態度」を事例として講義する。 テキスト pp. 1-18 を理解すること。	【予習】オンデマンドの講義動画教材を視聴してください 【復習】フリーソフトウェアをインストールして、動作を確認して下さい。	4 時間
第2回	対面	第1章 心についての構成概念の測定② 「構成概念」の測定尺度と実習で使うソフトウェア2 第1講 「自尊心」の測定方法 第2講 分析に用いる統計手法 第3講 フリーソフトウェアによる PC 実習： データ読込、データ変換、基本統計、ヒストグラム、I-T 相関	【予習】テキスト pp. 1-18 を熟読してくること 【復習】実習課題を提出して下さい	4 時間

第3回	対面	第2章 対人認知構造を明らかにする① 因子分析1 潜在因子の抽出 無数にある色彩も、わずか3色の原色で構成されている。このように複雑な観測データ（結果）を、少ない潜在因子（原因とする構成概念）に集約し、因子の意味を割り出す統計手法を因子分析という。 「他人に対する印象形成の構造解明」を分析事例とし、因子分析の手法を説明する。ある人物Aの印象について10項目の質問を行い得られた回答者200人の評価結果より、人の印象がどのような潜在的要因によって形成されているのか、因子分析による構造解明を実習する。 実習では、因子数の決定、計算手法・軸回転手法の選択、出力結果の解釈の順に通して進めるが、オプション選択の組合せの調整を加えて、分析結果の向上に向けた試行錯誤も必要である。 第1講 他者への印象形成と対人認知次元 第2講 因子分析の考え方 第3講 因子分析を体験してみる 第4講 因子分析のための行列計算	テキスト pp. 20-28 を理解すること。 【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してください 【復習】 実習課題を提出して下さい。	4 時間
第4回	対面	第2章 対人認知構造を明らかにする② 因子分析2 因子得点と尺度得点による類型化とポジショニング 人は幼児期の親子関係から愛情を得るための心の仕組み（愛着）を形成し（内的作業モデル）、成人後の自己や他者に対して持つ期待や信念の個人差のことを「成人の愛着スタイル」という。 「成人の愛着スタイル」について、Bartholmew&Hoerwitz(1991)は、「自己に対する自信」と「他者に対する信頼」の測定尺度による座標系を想定し、それぞれの回答者を座標上の因子得点（構成概念の測定値）に位置付け、4タイプに類型化した。ここでは、日本の測定尺度研究事例の短縮版を用いて、サンプルデータの類型化を実習する。 第1講 因子分析の理論 第2講 因子分析の手順と分析 第3講 パソコン実習（別の動画） 第4講 マーケティングリサーチへの応用	テキスト pp. 29-39 を理解すること。 【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してください（2 時間） 【復習】 オンデマンドの PC 実習動画教材を視聴し。実習課題を提出して下さい（2 時間）。	4 時間
第5回	対面	第3章 他者への期待や信念の類型化－尺度の信頼性と妥当性 因子分析3 因子分析のディテールおよび分析結果の評価 前回作成した因子得点を測定する評価尺度の信頼性（安定性と一貫性）をクロンバック α 係数、ω 係数等を用いて評価し、妥当性（関連基準、内容的、構成概念）についても検討をする。 第1項 マーケティングにおける他者理解の意義 第2講 愛着スタイルと先行研究	テキスト pp. 40-56 を理解すること。 【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してください 【復習】 実習課題を提出して下さい	4 時間

		第3講 実習の分析内容：「学生の恋人に対する想い」 第4講 因子分析3（上級者編） 第5講 尺度の信頼性と妥当性の検討 第6講 被験者の測定結果		
第6回	対面	因子分析4 因子分析のマーケティングへの応用（STP戦略におけるポジショニング）	テキストにはありません。 【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してください。 【復習】 実習課題を提出して下さい。	4 時間
第7回	対面	第4章 似ている人は好き 回帰分析1 単回帰分析と分析結果の評価 他者のことを好きになることを「対人魅力」という。Byrne&Nelson（1965）による「初対面でも、自分と「態度」が似ている人を好きになる」とする「類似性魅力仮説」の実証事例について、単回帰分析の実習をする。単回帰の既習者も多いだろうが、ここではより専門的に、回帰分析を実行するための前提（残差の独立性・分散均一性・正規性）や予測力の評価にも留意する。 第1講 類似性魅力仮説 第2講 回帰分析の理論 第3講 本日の実習概要 第4講 出力結果の解釈	テキスト pp. 57-72 を理解すること。 【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してください。 【復習】 実習課題を提出して下さい。	4 時間
第8回	対面	第5章 一緒にいたい気持ちを予測する 回帰分析2 重回帰分析に因子分析の結果を利用する 「ある対象と関りをもちたい」という心理的な強度を「コミットメント」という。Rusbult（1980）は、「対人関係へのコミットメントがどのように形成されるのか」について、「コミットメント＝関係に近づく力-遠避ける力+留めようとする力」の葛藤であるとする「投資モデル」を用いて説明した。しかし、分析に用いるデータは構成概念であり直接には計測できない。そこで因子分析によりこれらの因子得点を測定し、重回帰分析に利用するのである。 「コミットメントを予測する投資モデル」において、3つの説明変数の影響力を比較し、多重共線性の問題とその解決について検討する。 第1講 イン트로ダクション 第2講 ラズバルトの投資モデル 第3講 本日の実習概要 第4講 重回帰分析と偏回帰係数 第5講 効果量と標準偏回帰係数 第6講 多重共線性の問題	テキスト pp. 73-90 を理解すること。 【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してください 【復習】 実習課題を提出して下さい	4 時間
第9回	対面	中間試験 25点満点(60分) 第1講 中間試験の正解 第2講 授業改善アンケート	試験範囲の復習（3時間） 中間試験を受験（1時間）	4 時間
第10回	対面	共第6章 集団への所属意識を予測するものは① 分散分析(ANCOVA)1 効果比較の分析 変数間の因果関係を分析する「共分散構造	テキストにはありません 【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してください 【復習】 実習課題を提出して下さい（2時間）	4 時間

		分析」と、グループ間の平均との差を検定する「共分散分析」は別な分析手法である。共分散分析を学ぶ前の準備として、分散分析を復習しておく。 第1講 一要因分散分析 第2講 2要因分散分析とは 第3講 2要因分散分析の理論 第4講 多重比較の補足説明		
第11回	対面	第6章 集団への所属意識を予測するものは② 共分散分析(ANCOVA)2 共分散分析と重回帰分析の関係 自分を集団によって定義したり認識することを「社会的アイデンティティ」といい、それは集団内における他集団との区別の意識の有無より実証される。「他社との比較」により、「自社への愛着度」が高まるかを共分散分析により検証する。この分析に必要な不等価群事前事後テスト計画、余剰変数の統制、共変量などの考え方について講義する。「他社との比較」意識による「自社への愛着度」の促進効果について、①実験群と統制群との「共分散分析」、②ダミー変数を用いた重回帰分析によって、分析実習をする。 第0講 インターナルマーケティング 第1講 社会的アイデンティティ理論 第2講 第3講 共分散分析 第4講 共分散分析と重回帰分析実験と準実験	テキスト pp. 91-106 を理解すること。 【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してください。 【復習】 オ実習課題を提出して下さい。	4 時間
第12回	対面	第7章 リーダーシップ・スタイルの相乗効果 階層的重回帰分析と調整効果分析1 調整効果分析の概要 三隅(1996)の PM 理論では、リーダーシップの機能には、P (Performance: 課題達成) 機能と M (Maintenance: 関係維持) 機能の2つがあるとし、リーダーシップ・スタイルを両機能の高低の組合せで4つに類型化した。P 型リーダー、M 型リーダーによるモチベーション管理において、残る他方の機能による調整効果(相乗効果)について、階層的重回帰分析を用いて検証する。単純勾配変化からも検討する。 なお、この考え方を、新製品の開発、顧客満足度改善等、多方面のマーケティング戦略に応用することを期待している。 第1講 リーダーシップ研究の系譜 第2講 交互作用とは 第3講 PM理論と本日の分析概要 第4講 調整効果分析の理論	テキスト pp. 107-125 を理解すること。 【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してください 【復習】 実習課題を提出して下さい	4 時間
第13回	対面	第8章 心の文化差を説明する媒介効果分析 媒介効果分析 「自分に対して、人は危害を加えない」という意識を一般的信頼という。Yuuki et al. (2007)は、「流動性が高い環境では一般的信頼が必要だが、人間関係が固定的な環	テキスト pp126-141 を理解すること。 【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してください 【復習】 実習課題を提出して下さい	4 時間

		境では不要」、すなわち、「関係流動性が一般的信頼に関する文化の差の要因である」とした。「日米間の一般的信頼の文化の差に、関係流動性が影響している」という仮説について、媒介分析による4段階の手続きを踏む実証を実習する。さらに「日米間の一般的信頼の文化の差における関係流動性による間接効果」の有意性について、①ソベル検定、②ブートストラップ法を用いた検定を実習する。		
第14回	対面	一般化線形回帰 第1講 一般化線形回帰分析 第2講 ロジスティック回帰分析の考え方 第3講 ロジスティック回帰分析の例題 第4講 シグモイド関数とロジスティック関数 第5講 プロビット回帰分析とトービット回帰分析 テキストにはありません	テキストにはありません 【予習】オンデマンドの講義動画教材を視聴してください 【復習】実習課題を提出して下さい	4時間
第15回	オンデマンド	総括 後半の授業で学習してきたことを総括し、質疑応答の時間を確保して、不明な点、研究の相談に対応する。	これまで勉強してきた実習課題を中心に復習し、不明な点を確認すること。	4時間

科目名	マーケティングリサーチ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	五島 光	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	基本的なマーケティング・リサーチの適切な選択と分析，結果の解釈ができるようになる。		
授業の目的及び概要	本授業の目的は，マーケティング・リサーチとはどのようなものであるかを理解し，定量調査・定性調査の基本的な知識・方法を習得することです。もう 1 つ，受講者自身がマーケティングにおけるどのような問題・課題に興味を持ち，より深く学びたい・分析したいのかを講義と分析演習を通して考えてもらうことも目的です。 本授業では，まずマーケティング・リサーチの基本概念の紹介し，定性調査・定量調査の手法を解説し，マーケティング・リサーチの幅広さ・奥深さを体感します。実社会におけるマーケティングリサーチの実践・応用例も紹介する予定です。 適宜，復習や小テストを行い，受講者の理解度を測りながら授業を進めていきます。		
履修条件・留意点	「マーケティング基礎」「マーケティング戦略論 I」「ビジネス統計学 I」を合格済みであることが望ましいです。また「ビジネス統計学 II」を履修済み，もしくは同時期に履修が望ましいです。 受講者数によって最終プレゼンテーションが適さない場合は評価方法を筆記テストやレポート課題に切り替える場合があります。 アクティブ・ラーニングの取り組みは受講者数や進度によって実施しない場合があります。 発言や質問など積極的・主体的に参加すること。授業内の課題・提出物に取り組むこと。 授業内で小テストを 2～3 回実施します。 授業では必ずパソコンを持参してください。分析するときは Excel 上で動くマクロ（無料）やその他のフリーソフトウェアを使用します。使い方は授業内で説明します。Python, R などの分析ツールを使う場合もあります。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については，以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. マーケティングリサーチにおける定量調査，定性調査の代表的な方法を理解し，説明できる。 2. データを適切な方法で分析できる。 3. 分析結果を適切に解釈できる。 4. 分析結果をまとめてプレゼンテーションができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	本授業での課題・問題についてはフィードバックやコメント・アドバイスをを行います。 コメントシートの提出を求める場合，重要なものは翌週の授業で紹介し，質問への回答や補足説明を行います。 小テスト等の結果によって進度の調整を行う場合があります。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、民間企業において、マーケティングおよびマネジメントに関わるコンサルティング・調査業務をおよそ 20 年間行ってきた。また社会人に対してコミュニケーションに関する講義の実施や自社におけるコンサルタント育成のためのカリキュラム作成、マニュアル整備等の経験を有している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	事例で学ぶマーケティング・リサーチ 定性・定量調査の理論と実践，多田実・多田伶，オーム社，2025 年	ISBN	9784274233937
参考書	①経営・商学のための統計学入門 直感的な例題で学ぶ，竹内広宜，講談社，2021 年 ②Excel で今すぐはじめる心理統計 第 2 版，小宮あすか・布井雅人，講談社，2024 年	ISBN	①9784065251614 ②9784065371800 ③9784502421617 ④9784502436413

	③1 からのマーケティング分析（第2版），恩蔵直人・富田健司，碩学社，2022 年 ④1 からのデータ分析，古川一郎・上原渉，碩学社，2022 年 ⑤基本がわかる実践できる マーケティングリサーチの手順と使い方【定性調査編】，石井 栄造，日本能率協会マネジメントセンター，2019 年 ⑥やってみようテキストマイニング 増訂版，牛澤健二，朝倉書店，2021 年 ⑦ビジネスのための調査・リサーチ入門，広瀬安彦，日経文庫，2024 年		⑤9784820727019 ⑥9784254122619 ⑦9784296120925
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		15
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		35
	成果発表（口頭・実技）		50
	中間試験		0
	【定期試験】レポート試験		0
	【定期試験】筆記試験（対面）		0
	その他（%）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	マーケティングと統計分析の基本知識を持っている前提で，マーケティングリサーチという言葉を見て興味を持った人はもちろんのこと，「自分には関係ない」という人にもぜひ受講してほしいと思います（ビジネス統計学Ⅰなどを履修済みであることが条件です）。 将来，マーケティングリサーチとはまったく関係がない職業に就いても，ある日上司から「お客様の満足度調査をしたいからリサーチ会社の人と打ち合わせをしろ」と言われるかもしれません。そういうときに専門の人たちが話している内容がある程度わかっているれば，よりよい調査を実施することができ，業績向上につながって，あなたの評価が高まる可能性があります。授業内容は「マーケティング基礎」や「ビジネス統計学Ⅰ」よりも難しくなりますが，授業中に理解が追いつかなくてもあきらめずに学習を続けることが大切です。本授業はあなたの世界・可能性を広げるためにあるのです。いっしょにがんばりましょう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【ガイダンス&リサーチの基礎と進め方】 授業の目的と方法，進め方・受け方，授業計画，成績評価等について説明します。授業で使う資料や Excel マクロ・ソフトウェアの概要，ダウンロード方法について解説します。マーケティングリサーチの基本について学びます。	事前学修としてシラバスを事前に読み，授業の目的等を理解しておくこと。テキストの序章・第1章を読んでおくこと。 事後学修として資料や自分のメモ・ノートを読んでマーケティングリサーチの講義の流れを確認しておくこと。テキストの序章・第1章を読み直すこと。	4 時間
第2回	対面	【定性調査と定量調査の使い分け】 デザイン思考のマーケティングとデータ・ドリブン・マーケティングについて説明し，定性調査と定量調査の違いを学びます。	事前学修としてシラバスを事前に読み，授業の目的等を理解しておくこと。テキスト第2章を読んでおくこと。 事後学修として資料や自分のメモ・ノートを読んでマーケティングリサーチの講義の流れを確認しておくこと。テキストの第2章を読み直すこと。	4 時間
第3回	対面	【マーケティング・データの基礎知識】 データの分類，量的データとテキストデータの扱い方を学びます。	事前学修としてシラバスを事前に読み，授業の目的等を理解しておくこと。テキスト第3章を読んでおくこと。 事後学修として資料や自分のメモ・ノートを読んでマーケティングリサーチの講義の流れを確認しておくこと。テキストの第3章を読み直すこと。	4 時間
第4回	対面	【インタビュー調査】 数値では表現しづらい潜在ニーズを把握するためのインタビュー調査について学	事前学修としてシラバスを事前に読み，授業の目的等を理解しておくこと。テキスト第4章を読んでおくこと。	4 時間

		びます。	事後学修として資料や自分のメモ・ノートを読んでマーケティングリサーチの講義の流れを確認しておくこと。テキストの第4章を読み直すこと。	
第5回	対面	【フィールドワーク】 フィールドワーク（現場）の調査とその技法について学びます。	事前学修としてシラバスを事前に読み、授業の目的等を理解しておくこと。テキスト第5章を読んでおくこと。 事後学修として資料や自分のメモ・ノートを読んでマーケティングリサーチの講義の流れを確認しておくこと。テキストの第5章を読み直すこと。	4時間
第6回	対面	【質問紙調査】 多くのマーケティング・リサーチで用いられているインターネット上での調査を基本として、質問紙調査の設計方法について学びます。	事前学修としてシラバスを事前に読み、授業の目的等を理解しておくこと。テキスト第6章を読んでおくこと。 事後学修として資料や自分のメモ・ノートを読んでマーケティングリサーチの講義の流れを確認しておくこと。テキストの第6章を読み直すこと。	4時間
第7回	対面	【実験】 因果関係を知るために適した実験について設計方法を学びます。	事前学修としてシラバスを事前に読み、授業の目的等を理解しておくこと。テキスト第7章を読んでおくこと。 事後学修として資料や自分のメモ・ノートを読んでマーケティングリサーチの講義の流れを確認しておくこと。テキストの第7章を読み直すこと。	4時間
第8回	対面	【データの要約】 データやリサーチ結果をグラフ化して要約することで市場を分析するアプローチについて学びます。	事前学修としてシラバスを事前に読み、授業の目的等を理解しておくこと。テキスト第8章を読んでおくこと。 事後学修として資料や自分のメモ・ノートを読んでマーケティングリサーチの講義の流れを確認しておくこと。テキストの第8章を読み直すこと。	4時間
第9回	対面	【差の分析】 1要因・2要因の差（平均の差など）の分析手法について学びます。	事前学修としてシラバスを事前に読み、授業の目的等を理解しておくこと。テキスト第9章を読んでおくこと。 事後学修として資料や自分のメモ・ノートを読んでマーケティングリサーチの講義の流れを確認しておくこと。テキストの第9章を読み直すこと。	4時間
第10回	対面	【回帰分析】 「要因Aが結果Bに影響を与える」ような関係について分析する回帰分析について学びます。	事前学修としてシラバスを事前に読み、授業の目的等を理解しておくこと。テキスト第10章を読んでおくこと。 事後学修として資料や自分のメモ・ノートを読んでマーケティングリサーチの講義の流れを確認しておくこと。テキストの第10章を読み直すこと。	4時間
第11回	対面	【因子分析】 潜在的な因子の抽出を目的として因子分析について学びます。	事前学修としてシラバスを事前に読み、授業の目的等を理解しておくこと。テキスト第11章を読んでおくこと。 事後学修として資料や自分のメモ・ノートを読んでマーケティングリサーチの講義の流れを確認しておくこと。テキストの第11章を読み直すこと。	4時間
第12回	対面	【クラスター分析】 階層的クラスター分析と非階層的クラスター分析について学びます。	事前学修としてシラバスを事前に読み、授業の目的等を理解しておくこと。テキスト第12章を読んでおくこと。 事後学修として資料や自分のメモ・ノートを読んでマーケティングリサーチの講義の流れを確認しておくこと。テキストの第12章を読み直すこと。	4時間
第13回	オンデマンド	【リサーチ法の振り返り】 これまで取り扱ってきた内容について振り返り、あらためて重要なポイントは何かについて確認します。今後学んでほしい分析手法についても紹介します。	事前学修としてシラバスを事前に読み、授業の目的等を理解しておくこと。テキスト終章を読んでおくこと。 事後学修として資料や自分のメモ・ノートを読んでマーケティングリサーチの講義の流れを確認しておくこと。テキスト全体を読み直すこと。	4時間

第14回	対面	【最終プレゼンテーション (1)】 まとめた資料を発表します。	事前学修としてこれまでの教材・資料を事前に読んでおくこと。また最終プレゼンテーションの準備をすること。 事後学修として他の受講生のプレゼンテーションや授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第15回	対面	【最終プレゼンテーション (2)】 まとめた資料を発表します。	事前学修としてこれまでの教材・資料を事前に読んでおくこと。また最終プレゼンテーションの準備をすること。 事後学修として他の受講生のプレゼンテーションや授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間

科目名	広告論	開講年度	2026 年度春学期
担当者	五島 光	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	広告およびそれを利用した企業等のマーケティング活動への理解を深める。		
授業の目的及び概要	本授業の目的は、マーケティングの代表的フレームワークである 4P のうち Promotion について、特に広告を活用した企業等のマーケティング・コミュニケーションについてより専門的な知識を獲得することです。 具体的には、広告の役割・機能、広告ビジネスの仕組み、各種広告メディアの特徴について学びます。 本授業は広告の作り方そのものを学ぶものではなく「ありません」。必要に応じて授業内で各種広告（紙媒体、テレビ CM など）を提示することもあります。それらを鑑賞することが主目的ではなく「ありません」。		
履修条件・留意点	マーケティング戦略コースでない学生が履修する場合（他コースの学生の受講は大歓迎です）、「マーケティング基礎」や「マーケティング戦略論Ⅰ」の内容（STP、4P とはどのようなものであったかなど）を復習しておくことが望ましいです。 アクティブ・ラーニングの取り組みは受講者数によって実施しない場合があります。 小テスト等を行う場合があります。 発言や質問など積極的・主体的に参加すること。授業内の課題・提出物に取り組むこと。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 広告の定義・役割・機能について基本的な知識を理解し、説明できる。 2. 広告が作られる一般的な流れを把握し、説明できる。 3. 広告をめぐる規制・倫理について理解し、説明できる。 4. 各種メディアでの広告について、それぞれの特徴を理解し、簡潔に説明できる。 5. 自分が関心を寄せる広告について調査し、報告できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	本授業での課題や質問がある場合、フィードバックやコメント・アドバイスをを行います。 コメントシートの提出を求める場合、重要なものは翌週の授業で紹介し、質問への回答や補足説明を行います。 小テスト等の結果によって進度の調整を行う場合があります。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、民間企業において、マーケティングおよびマネジメントに関わるコンサルティング・調査業務をおよそ 20 年間行ってきた。また社会人に対してコミュニケーションに関する講義の実施や自社におけるコンサルタント育成のためのカリキュラム作成、マニュアル整備等の経験を有している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	これからの広告コミュニケーション、広瀬盛一・岸谷和広・田部溪哉・峯尾圭、有斐閣、2024 年	ISBN	9784641200104
参考書	①わかりやすいマーケティング・コミュニケーションと広告(第 3 版)、石崎徹、八千代出版、2024 年 ②現代広告論 第 4 版、岸志津江・田中洋・嶋村和恵・丸岡吉人、有斐閣、2024 年 ③現代広告全書、田中洋・岸志津江・嶋村和恵、有斐閣、2021 年 ④この 1 冊ですべてわかる 新版 広告の基本、波田浩之、日本実業出版社、2018 年 ⑤宣伝会議、月刊『宣伝会議』編集部、各巻	ISBN	①9784842918655 ②9784641222328 ③9784641165885 ④9784534055804 ⑤なし ⑥なし

	⑥販促会議，月刊『販促会議』編集部，各巻		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	25	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	大企業の広告はたくさんの人が関わり，膨大な予算をかけて作っています。一方，中小零細企業の広告は担当者がたった１人で孤軍奮闘していることが多いです。どの広告も関わった人たちの「知と汗と涙の結晶」です。 将来自分は広告と関係ないから受講しないというのはいらないと思います。例えば，公務員になったとして，「●●市の特産物を推していきたいから広告会社といっしょにCM作れ」と上司から言われるかもしれません。そのときに本授業で学んだことを少しでも思い出せば役に立つでしょう。 少なくとも授業期間中は各種広告について興味を持って世の中を見てください（毎週，気になる広告を報告してもらいます）。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【授業ガイダンス&マーケティングコミュニケーション】 授業の目的と方法，進め方・受け方，授業計画，成績評価・筆記試験について説明します。広告論の全体像，テキスト・参考書についても紹介します。	事前学修としてシラバスを読み，授業の目的等を理解しておくこと。また，またテキスト序章を読んでおくこと。事後学習として，序章を読み直したり，資料や自分のメモ・ノートを読んで授業の講義の流れを確認しておくこと。	2時間
第2回	対面	【マーケティングとIMC】 広告論を学ぶために必要なマーケティングの基本的な知識を復習し，消費者に好まれるブランドを築くためのコミュニケーション上の工夫を学びます。	事前学修としてテキスト1章を読んでおくこと。また，この1週間で見かけた広告の中でもっとも興味深いと思う広告とその理由を考えておくこと。事後学修としてテキスト第1章を読み直したり，資料や自分のメモ・ノートなどで授業で得た知識を復習しておくこと。	4時間
第3回	対面	【広告コミュニケーション実施のための組織】 広告主，広告会社，媒体社との関係性やそれぞれの果たす機能・役割について学びます。	事前学修としてテキスト第2章を読んでおくこと。また，この1週間で見かけた広告の中でもっとも興味深いと思う広告とその理由を考えておくこと。事後学修としてテキスト第2章を読み直したり，資料や自分のメモ・ノートなどで授業で得た知識を復習しておくこと。	4時間
第4回	対面	【コミュニケーション・プロセス】 広告主から発せられた広告メッセージを消費者が受容するためのプロセスがどのように進むのかについて，代表的なモデルを通して学びます。	事前学修としてテキスト第3章を読んでおくこと。また，この1週間で見かけた広告の中でもっとも興味深いと思う広告とその理由を考えておくこと。事後学修としてテキスト第3章を読み直したり，資料や自分のメモ・ノートなどで授業で得た知識を復習しておくこと。	4時間
第5回	対面	【広告目標】 広告にどのような目標や予算が設定されているかについて学びます。	事前学修としてテキスト第4章を読んでおくこと。また，この1週間で見かけた広告の中でもっとも興味深いと思う広告とその理由を考えておくこと。事後学修としてテキスト第4章を読み直したり，資料や自分のメモ・ノートなどで授業で得た知識を復習しておくこと。	4時間
第6回	対面	【クリエイティブ戦略】 広告主の考えるマーケティング上の課題を具体的な言葉や映像などの表現する戦	事前学修としてテキスト第5章を読んでおくこと。また，この1週間で見かけた広告の中でもっとも興味深いと思う広告とその理由を考えておくこと。	4時間

		略について学びます。	事後学修としてテキスト第 5 章を読み直したり、資料や自分のメモ・ノートなどで授業で得た知識を復習しておくこと。	
第 7 回	対面	【メディア・プランニング】 広告をどれくらいの期間や頻度でどのような媒体を用いて消費者に届けるのかを決めるメディア・プランニングについて学びます。	事前学修としてテキスト第 6 章を読んでおくこと。 また、この 1 週間で見かけた広告の中でもっとも興味深いと思う広告とその理由を考えておくこと。 事後学修としてテキスト第 6 章を読み直したり、資料や自分のメモ・ノートなどで授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第 8 回	対面	【マスメディア】 伝統的なメディアであるテレビ・ラジオ・新聞・雑誌の特性について学びます。	事前学修としてテキスト第 7 章を読んでおくこと。 また、この 1 週間で見かけた広告の中でもっとも興味深いと思う広告とその理由を考えておくこと。 事後学修としてテキスト第 7 章を読み直したり、資料や自分のメモ・ノートなどで授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第 9 回	対面	【サポート・メディア】 マスメディアを補完するサポート・メディアについて、その効果と有効性およびインターネット・メディアやデジタル技術との関係を踏まえて学びます。	事前学修としてテキスト第 8 章を読んでおくこと。 また、この 1 週間で見かけた広告の中でもっとも興味深いと思う広告とその理由を考えておくこと。 事後学修としてテキスト第 8 章を読み直したり、資料や自分のメモ・ノートなどで授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第 10 回	対面	【デジタル・メディア】 現在もっとも広告費が使われているデジタル広告の特性について学びます。	事前学修としてテキスト第 9 章を読んでおくこと。 また、この 1 週間で見かけた広告の中でもっとも興味深いと思う広告とその理由を考えておくこと。 事後学修としてテキスト第 9 章を読み直したり、資料や自分のメモ・ノートなどで授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第 11 回	対面	【効果測定】 広告の効果測定について具体的にどのように行われているかについて学びます。	事前学修としてテキスト第 10 章を読んでおくこと。 また、この 1 週間で見かけた広告の中でもっとも興味深いと思う広告とその理由を考えておくこと。 事後学修としてテキスト第 10 章を読み直したり、資料や自分のメモ・ノートなどで授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第 12 回	対面	【広報・PR】 広告と混同しやすい広報について、その意味・意義を理解し、具体的な手法について学びます。	事前学修としてテキスト第 11 章を読んでおくこと。 また、この 1 週間で見かけた広告の中でもっとも興味深いと思う広告とその理由を考えておくこと。 事後学修としてテキスト第 11 章を読み直したり、資料や自分のメモ・ノートなどで授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第 13 回	対面	【規制・ルール】 マーケティング・コミュニケーションを実践するにあたり注意しなければならない規制について学びます。	事前学修としてテキスト第 12 章を読んでおくこと。 また、この 1 週間で見かけた広告の中でもっとも興味深いと思う広告とその理由を考えておくこと。 事後学修としてテキスト第 12 章を読み直したり、資料や自分のメモ・ノートなどで授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第 14 回	対面	【社会的・倫理的・経済的側面】 広告の持つ力と影響を理解し、これからの広告が直面する課題について学びます。	事前学修としてテキスト第 13 章を読んでおくこと。 また、この 1 週間で見かけた広告の中でもっとも興味深いと思う広告とその理由を考えておくこと。 事後学修としてテキスト第 13 章を読み直したり、資料や自分のメモ・ノートなどで授業で得た知識を復習しておくこと。	4 時間
第 15 回	オンデマンド	【総括】 これまで取り扱ってきた内容について振り返り、あらためて重要なポイントは何かについて確認します。また定期試験についても説明を行います。	事前学修としてこれまでのテキスト・資料を事前に読んでおくこと。 事後学修としてテキスト、資料やメモ・ノートを読んで授業で自分が興味あることは何か考えること。定期試験に備えること。	6 時間

科目名	広告論	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	石川 靖之	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	広告作成のワークを通じた論理的思考力とコミュニケーション力の養成		
授業の目的及び概要	「広告はラブレター」と言われます。すぐれた広告とは、伝えたい相手に的確に自分の言いたいことを伝えることです。本授業では、実際の広告制作手法の基礎を学び、実際のキャッチフレーズ制作を通して、社会人基礎力として重要な論理的思考力やコミュニケーション力を身につけていただくことを目的としています。 また、毎回授業前に達成すべき目標を「目標管理シート」を使って自ら設定。授業終了後に達成できたかを自己評価することで、目標達成のコツ習得と目標達成意識の醸成につなげます。		
履修条件・留意点	コピーライティング中心の授業のため、日本語が問題なく使える語学力が必要です。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	就活で使える「自分キャッチフレーズ」など5回の「キャッチフレーズ」の企画及び論理的文章の作成及びそれに対する解説を通して、文章作成能力と論理的思考力を身につけることができます。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	実践課題はラーニングポータルに提出していただき、次回授業で全体講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、リクルートで採用広告制作を 5 年、制作会社でイベントや各種広告・販促物・音楽の企画制作等で 15 年の勤務経験を経た後、自らの会社を起業。大手企業から行政、中小企業まで幅広いクライアントを対象に広告・マーケティング分野で 30 年以上の実務経験を有しており、現在も現役プランナーとして活動している。本科目では、これらの実務経験を活かして、具体的な事例を挙げながら、メディアと広告の関連性や機能、課題、今後の可能性について解説する。		
テキスト	指定のテキストはありません。ラーニングポータルにアップする講義資料（パワーポイント等）を用いて行います。	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	「約束を守る」こと。これが社会人になってまず問われる能力です。授業を通して約束を守る習慣を身につけながら、いかに自ら積極的に行動できるかがポイントです。 課題が全5回と多い授業のため、課題未提出者は単位取得できません。 ※コピーライティング中心の授業のため、日本語が問題なく使える語学力が必要です。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	●ガイダンス 教員自己紹介。授業の進め方・注意点説明	事前：シラバスをよく読み、受講によって達成したい目標を考えておくこと（1時間程度）	1時間
第2回	オンデマンド	●伝わる広告とは？ 広告制作手法の基礎知識	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと（2時間程度）	3時間
第3回	オンデマンド	●自分を知る マーケティング分析手法のひとつ「3C分析」を学んだ後、将来の仕事を考える時、どうしても譲れないこと＝自分のキャリアアンカーを知るワーク	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと（2時間程度）	3時間
第4回	オンデマンド	●相手を知る ターゲット設定方法として「ペルソナ分析」を学ぶワーク	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと（2時間程度）	3時間
第5回	オンデマンド	●課題① 自分キャッチフレーズ制作（ラーニングポータルに提出）	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1時間程度） 事後：課題を制作し「Learning Portal」にアップすること（4時間程度）	5時間
第6回	オンデマンド	●課題① 提出分の中から発表・講評。次回課題発表	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1時間程度） 事後：次回課題の情報収集をしておくこと（2時間程度）	3時間
第7回	オンデマンド	●課題② 課題のオリエンの後、個別ワークにてキャッチフレーズを制作（ラーニングポータルに提出）	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1時間程度） 事後：課題を制作し「Learning Portal」にアップすること（4時間程度）	5時間
第8回	オンデマンド	●課題② 提出分の中から発表・講評。次回課題発表	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1時間程度） 事後：次回課題の情報収集をしておくこと（3時間程度）	4時間
第9回	オンデマンド	●課題③ 課題のオリエンの後、個別ワークにてキャッチフレーズを制作（ラーニングポータルに提出）	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1時間程度） 事後：課題を制作し「Learning Portal」にアップすること（4時間程度）	5時間
第10回	オンデマンド	●課題③ 提出分の中から発表・講評。次回課題発表	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1時間程度） 事後：次回課題の情報収集をしておくこと（3時間程度）	4時間
第11回	オンデマンド	●課題④ 課題のオリエンの後、個別ワークにてキャッチフレーズを制作（ラーニングポータルに提出）	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1時間程度） 事後：課題を制作し「Learning Portal」にアップすること（4時間程度）	5時間
第12回	オンデマンド	●課題④ 提出分の中から発表・講評。次回課題発表	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1時間程度） 事後：次回課題の情報収集をしておくこと（3時間程度）	4時間
第13回	オンデマンド	●課題⑤ 課題のオリエンの後、個別ワークにてキャッチフレーズを制作（ラーニングポータルに提出）	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1時間程度） 事後：課題を制作し「Learning Portal」にアップすること（4時間程度）	5時間
第14回	オンデマンド	●課題⑤ 提出分の中から発表・講評。	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1時間程度） 事後：これまでの資料を復習しておくこと（4時間程度）	5時間

2026/05/01

			度)	
第15回	オンデマンド	講義の総括	事前：これまでたてた目標の達成状況を確認しておくこと（1時間程度） 事後：これまで学んだ事を復習しておく（4時間程度）	5時間

科目名	社会心理学	開講年度	2026 年度春学期
担当者	竹井 夏生	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	「私」、「他者」、「社会」とそのダイナミズムについて学びながら、共生社会の道のりを探る。		
授業の目的及び概要	この授業では、社会との関係における個人の心理を考察するとともに、社会のなかにある心理的な側面から、人々の心理や行動に対する理解を深めることを目標とする。また著名な社会心理学の研究を紹介しながら、社会的動物である人間の行動や認知、他者と共に生活することの意味やその影響について考察する。加えて、人間関係、集団過程と組織行動、説得的コミュニケーションについて、心理学的基本概念や臨床的問題、臨床的な援助法の具体事例から理解を深める。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・社会の「あたりまえ」を批判的・学問的に疑い、「とらわれ」や「思い込み」から自由になるためのものの見方を獲得することができる。 ・社会に出る準備段階にいる受講生が、「私」についての理解を深めながら、社会や集団の中で起こりうることにについて知り、備え、しなやかに生き抜くことができるための洞察的視野を獲得することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	講義のリアクションペーパーについては、授業内で取り上げる。その他、講義内容の質問等は直接ないしメールで受け付ける。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しない（こちらでレジュメを準備する）。	ISBN	なし
参考書	・以下は参考書として、関心があれば手に取ってほしい。 ①現実の社会的構成―知識社会学論考，ピーター・バーガー・トーマス・ルックマン（著），山口節郎（訳），新曜社，2003 年 ②フーコー―知と権力，桜井哲夫（著），講談社，2003 年 ③ハンナ・アーレント―「戦争の世紀」を生きた政治哲学者，矢野久美子（著），中央公論新社，2014 年	ISBN	① 9784788508392 ② 9784062659260 ③ 9784121022578
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講に	受講生一人一人が、私―他者―社会という結びつきの中で生きていることに自覚的になりなが		

あたって	ら、その結びつきをよりよいものにしていくことができるよう、受講生とともに考えていく時間にしたい。価値観、立場、文化、国籍、言語などが異なる人々と関わる上で、私という存在を大切に保ちながら、他者をも重んじ、よりよい社会を築いていくための小さな礎となるような講義にしたい。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	社会心理学への導入（1） 「私」、他者、社会の縦横無尽の絡み合いについて、現代的なトピックを用いながら、社会心理学への導入を図る。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみる。	4 時間
第2回	対面	社会心理学への導入（2） 前回の内容を引き続き深めていく。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみる。	4 時間
第3回	対面	社会構成主義とナラティブ（1） 社会構成主義的なものの見方について、またその臨床心理的な展開としてのナラティブについて理解を深める。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみる。	4 時間
第4回	対面	社会構成主義とナラティブ（2） 前回の内容を引き続き深めていく。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみる。	4 時間
第5回	対面	知・権力・言説—フーコーを手掛かりに（1） ミシェル・フーコーを手掛かりにして、「私」を取り巻き規定する、他者、社会、時代、「知」との絡み合いについて、精神疾患、性、犯罪、学校などをテーマに考える。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみる。	4 時間
第6回	対面	知・権力・言説—フーコーを手掛かりに（2） 前回の内容を引き続き深めていく。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみる。	4 時間
第7回	対面	社会集団における「私」—アーレントを手掛かりに（1） 社会心理学において有名ないわゆるミルグラム実験の背景にもなっているハンナ・アーレントの思想について、暴力、服従、集団、パーソナリティといった観点から考えてみる。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみる。	4 時間
第8回	対面	社会集団における「私」—アーレントを手掛かりに（2） 前回の内容を引き続き深めていく。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみる。	4 時間

第9回	対面	集団力動と家族療法（1） 集団に働く見えざる力について洞察する視点を学ぶ。またその展開としての家族療法についても扱う。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみること。	4 時間
第10回	対面	集団力動と家族療法（2） 前回の内容を引き続き深めていく。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみること。	4 時間
第11回	対面	集団力動と家族療法（3） 前回の内容を引き続き深めていく。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみること。	4 時間
第12回	対面	社会心理学の観点から現代を読み解く（1） 現代的なトピックも含め、さまざまなテーマについて社会心理学的な観点から読み解いていく。学校や会社などの組織集団について、ウェブ空間について、また古典や小説テキストも題材にしたい。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみること。	4 時間
第13回	対面	社会心理学の観点から現代を読み解く（2） 前回の内容を引き続き深めていく。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみること。	4 時間
第14回	対面	講義のまとめと振り返り（1） これまで学んだ内容を振り返り、その定着を図る。	学期を通して学んだことを総括すべく、これまで配布したレジュメ全体を振り返っておくこと。	4 時間
第15回	オンデマンド	講義のまとめと振り返り（2） これまで学んだ内容を振り返り、その定着を図る。	学期を通して学んだことを総括すべく、これまで配布したレジュメ全体を振り返っておくこと。	4 時間

科目名	商品開発論	開講年度	2026 年度春学期
担当者	石川 靖之	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	商品開発のプロセスの学修を通じたマーケティング能力の養成		
授業の目的及び概要	マーケティングの考え方は、就職してから様々な場面で活用が可能です。この授業では、商品開発の流れを通してマーケティングの基礎知識を習得した後、後半はその知識をもとに、具体的な商品開発の企画書を作成し、論理的思考の習得にもつなげます。マーケティングの基礎知識から講義をするので、マーケティング関連の受講がなくても大丈夫です。 また、毎回授業前に達成すべき目標を「目標管理シート」を使って自ら設定。授業終了後に達成できたかを自己評価することで、目標達成のコツ習得と目標達成意識の醸成につなげます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	論理的思考力とあらゆる仕事に役立つマーケティングの習得を目的とし、授業で提示する SWOT 分析、ターゲティング、差別化、ベネフィット、4P 分析の各課題を、締切までに正しく作成・提出することを到達目標とします。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	講義授業の翌週は前回の復習を行います。また、提出した課題は受講者にフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、リクルートで採用広告制作を 5 年、制作会社でイベントや各種広告・販促物・音楽の企画制作等で 15 年の勤務経験を経た後、自らの会社を起業。大手企業から行政、中小企業まで幅広いクライアントを対象に広告・マーケティング分野で 30 年以上の実務経験を有しており、現在も現役プランナーとして活動している。本科目では、これらの実務経験を活かして、具体的な事例を挙げながら、メディアと広告の関連性や機能、課題、今後の可能性について解説する。		
テキスト	指定のテキストはありません。ラーニングポータルにアップする講義資料（パワーポイント等）を用いて行います。	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	「約束を守る」こと。これが社会人になってまず問われる能力です。授業を通して約束を守る習慣を身につけながら、いかに自ら積極的に行動できるかがポイントです。実務で使えるレベルの内容のため、全授業の出席はもとより、受講者自身の積極的な参加と継続的な向上心が必要。単位取得のみの目的ではついてこれません。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	●ガイダンス 教員自己紹介。授業の進め方・注意点について説明	事前：シラバスをよく読み、本授業で達成したい目標を決めておくこと	1 時間
第2回	対面	●商品開発の流れ～マーケティングの基礎知識	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと（3 時間程度）	4 時間
第3回	対面	●環境分析方法（PEST、3C、SWOT 分析）	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと。（3 時間程度）	4 時間
第4回	対面	●ベネフィット／ターゲティング／差別化	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと（3 時間程度）	4 時間
第5回	対面	●4 P 分析～Product（アイデア発想法）	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと（3 時間程度）	4 時間
第6回	対面	●4 P 分析～Product（商品コンセプト作成）	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと（3 時間程度）	4 時間
第7回	対面	●4 P 分析～Price	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと（3 時間程度）	4 時間
第8回	対面	●4 P 分析～Place/Promotion	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと。（3 時間程度）	4 時間
第9回	対面	●購買までの流れ～採用される企画書作成のポイント	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと（3 時間程度）	4 時間
第10回	対面	●実践1～ミッション提示：開発コンセプトから4 P 分析	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、次週に向けて情報収集をしておくこと（3 時間程度）	4 時間
第11回	対面	●実践2～SWOT 分析	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：課題作成（4 時間程度）	5 時間
第12回	対面	●実践3～ターゲット設定～Product（商品コンセプト文作成）	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：課題作成（4 時間程度）	5 時間
第13回	対面	●実践4～Price/Place/Promotion 企画	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：課題作成（4 時間程度）	5 時間
第14回	対面	●まとめ 最終レポートに向け、これまで学んだことをおさらい	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：最終レポートにむけて復習をしておくこと（3 時間程度）	4 時間

2026/05/01

第15回	オンデマンド	全授業の理解度を見るための最終レポート課題を出題します。最終レポートはラーニングポータルに提出していただきます。	事前：最終レポートにむけて復習しておくこと	4時間

科目名	商品開発論	開講年度	2026 年度春学期
担当者	氏田 壮一郎	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	製品開発の本質である技術・市場の融合について、マーケティングの視点から理解する。		
授業の目的及び概要	本講義は、製品開発の理論や概念について事例をもとに説明するものである。製品開発の考え方の背景には技術と市場ニーズの融合がある。つまりこれは、技術やイノベーションをどのようにマネジメントするかといった視点と、市場を構成する顧客のニーズを発見し価値をどのようにに検討するかといった視点が存在するということであり、共に重要なものである。本講義では後者に焦点をあて、マーケティング活動の事例を通して、製品開発の本質である技術と市場の融合について講義を進める。		
履修条件・留意点	マーケティング基礎や経営管理論Ⅰ、マーケティング戦略論Ⅰを履修していることが望ましい。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	講義内で学修した製品開発に関係する考え方やプロセスについて説明できる。 さらに学修した内容について、他のケースや新しいビジネスモデルにあてはめて説明でき、さらに自身の考察も加えることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回ミニッツシートを書くこと。優秀な回答については翌週授業内でフィードバックなどを行う。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	1 からのマーケティング・デザイン、石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文，碩学舎，2022	ISBN	9784502200212
参考書	参考になる図書、論文、資料については案内いたします。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	40	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	マーケティング基礎や経営管理論Ⅰ、マーケティング戦略論Ⅰを履修していることが望ましい。 また日常から新製品情報に興味を持ち、それに関する情報を集めておくこと。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス・製品開発の基本 授業の目的と方法、授業計画、成績評価等について説明します。 基本的な製品開発の流れなどを説明しま	事前学修としてシラバスを事前に読み、授業の目的等を理解しておくこと。（2時間程度） 事後学修として授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。（2時間程度）	4 時間

		す。		
第2回	対面	マーケティングミックスによる顧客創造 マーケティングミックスを復習するとともに、この視点に基づき顧客をどのように創造するかを説明します。	事前学修としてテキストの第2章を事前に読んでおくこと。(2時間程度) 事後学修としてテキストの第2章を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。(2時間程度)	4時間
第3回	対面	顧客創造のプロセス 製品利用を通じた市場創造の事例を学修します。	事前学修としてテキストの第3章を事前に読んでおくこと。(2時間程度) 事後学修としてテキストの第3章を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。(2時間程度)	4時間
第4回	対面	価格設定と製品開発 製品価格の意味や、その設定と価値について学びます。	事前学修としてテキストの第4章を事前に読んでおくこと。(2時間程度) 事後学修としてテキストの第4章を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。(2時間程度)	4時間
第5回	対面	チャネルと製品開発 新しいチャネルの構築と製品開発について学びます。	事前学修としてテキストの第5章を事前に読んでおくこと。(2時間程度) 事後学修としてテキストの第5章を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。(2時間程度)	4時間
第6回	対面	コミュニケーションと製品開発 新製品の認知度とコミュニケーションとメディア活用について学びます。	事前学修としてテキストの第6章を事前に読んでおくこと。(2時間程度) 事後学修としてテキストの第6章を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。(2時間程度)	4時間
第7回	対面	マーケティングリサーチと製品開発 製品開発における市場開発の過程について学びます。	事前学修としてテキストの第7章を事前に読んでおくこと。(2時間程度) 事後学修としてテキストの第7章を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。(2時間程度)	4時間
第8回	対面	中間テスト：第1回～第7回の復習 最終レポートを正しい用語で書いていただくために、用語確認を含めた中間テストを行います。	事前学修として、1回目の講義資料とテキストの2から7章を事前に読んでおくこと。(2時間程度) 事後学修として、中間テストで配布した解答チェックし、講義資料とテキストを読んで復習しておくこと。(2時間程度)	4時間
第9回	対面	顧客との関係構築による製品開発 オフラインからオンラインへ移行した製品開発を学びます。	事前学修としてテキストの第8章を事前に読んでおくこと。(2時間程度) 事後学修としてテキストの第8章を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。(2時間程度)	4時間
第10回	対面	デジタル特性を活用した製品開発 デジタルの長所短所からそれらを生かした製品開発について学びます。	事前学修としてテキストの第9章を事前に読んでおくこと。(2時間程度) 事後学修としてテキストの第9章を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。(2時間程度)	4時間
第11回	対面	ブランド構築と製品開発 ロングセラーブランドの構築プロセスと製品開発について学びます。	事前学修としてテキストの第11章を事前に読んでおくこと。(2時間程度) 事後学修としてテキストの第11章を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。(2時間程度)	4時間
第12回	対面	営業と製品開発 ニーズを聞き出す営業と製品開発の関係やプロセスを学びます。	事前学修としてテキストの第12章を事前に読んでおくこと。(2時間程度) 事後学修としてテキストの第12章を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。(2時間程度)	4時間
第13回	対面	自社資源と製品開発 マーケティング戦略に基づいた社内資源の活用について学びます。	事前学修としてテキストの第13章を事前に読んでおくこと。(2時間程度) 事後学修としてテキストの第13章を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。(2時間程度)	4時間
第14回	対面	製品価値について いくつかの視点から製品価値について学びます。	事前学修として、提供する資料を事前に読んでおくこと。(2時間程度) 事後学修として、提供した資料を読んで授業で得た知識を復習しておくこと。(2時間程度)	4時間
第15回	オンデマンド	総括 これまでの春学期のまとめ	事前学修としてテキストや授業で配布した資料等を事前に読み、予習しておくこと。(3時間程度) 事後学修としてテキストや授業で配布した資料等で	6時間

2026/05/01

			これまで学修した部分を復習しておくこと。(3 時間程度)	

科目名	商品開発論	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	石川 靖之	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	商品開発のプロセスの学修を通じたマーケティング能力の養成		
授業の目的及び概要	マーケティングの考え方は、就職してから様々な場面で活用が可能です。この授業では、商品開発の流れを通してマーケティングの基礎知識を習得した後、後半はその知識をもとに、具体的な商品開発の企画書を作成し、論理的思考の習得にもつなげます。マーケティングの基礎知識から講義をするので、マーケティング関連の受講がなくても大丈夫です。 また、毎回授業前に達成すべき目標を「目標管理シート」を使って自ら設定。授業終了後に達成できたかを自己評価することで、目標達成のコツ習得と目標達成意識の醸成につなげます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	論理的思考力とあらゆる仕事に役立つマーケティングの習得を目的とし、授業で提示する SWOT 分析、ターゲティング、差別化、ベネフィット、4P 分析の各課題を、締切までに正しく作成・提出することを到達目標とします。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	講義授業の翌週は前回の復習を行います。また、提出した課題は受講者にフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、リクルートで採用広告制作を 5 年、制作会社でイベントや各種広告・販促物・音楽の企画制作等で 15 年の勤務経験を経た後、自らの会社を起業。大手企業から行政、中小企業まで幅広いクライアントを対象に広告・マーケティング分野で 30 年以上の実務経験を有しており、現在も現役プランナーとして活動している。本科目では、これらの実務経験を活かして、具体的な事例を挙げながら、メディアと広告の関連性や機能、課題、今後の可能性について解説する。		
テキスト	指定のテキストはありません。ラーニングポータルにアップする講義資料（パワーポイント等）を用いて行います。	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	「約束を守る」こと。これが社会人になってまず問われる能力です。授業を通して約束を守る習慣を身につけながら、いかに自ら積極的に行動できるかがポイントです。実務で使えるレベルの内容のため、全授業の出席はもとより、受講者自身の積極的な参加と継続的な向上心が必要。単位取得のみの目的ではついてこれません。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	●ガイダンス 教員自己紹介。授業の進め方・注意点について説明	事前：シラバスをよく読み、本授業で達成したい目標を決めておくこと	1 時間
第2回	オンデマンド	●商品開発の流れ～マーケティングの基礎知識	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと（3 時間程度）	4 時間
第3回	オンデマンド	●環境分析方法（PEST、3C、SWOT 分析）	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと。（3 時間程度）	4 時間
第4回	オンデマンド	●ベネフィット／ターゲティング／差別化	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと（3 時間程度）	4 時間
第5回	オンデマンド	●4 P 分析～Product（アイデア発想法）	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと（3 時間程度）	4 時間
第6回	オンデマンド	●4 P 分析～Product（商品コンセプト作成）	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと（3 時間程度）	4 時間
第7回	オンデマンド	●4 P 分析～Price	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと（3 時間程度）	4 時間
第8回	オンデマンド	●4 P 分析～Place/Promotion	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと。（3 時間程度）	4 時間
第9回	オンデマンド	●購買までの流れ～採用される企画書作成のポイント	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと（3 時間程度）	4 時間
第10回	オンデマンド	●実践1～ミッション提示：開発コンセプトから4 P 分析	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、次週に向けて情報収集をしておくこと（3 時間程度）	4 時間
第11回	オンデマンド	●実践2～SWOT 分析	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：課題作成（4 時間程度）	5 時間
第12回	オンデマンド	●実践3～ターゲット設定～Product（商品コンセプト文作成）	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：課題作成（4 時間程度）	5 時間
第13回	オンデマンド	●実践4～Price/Place/Promotion 企画	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：課題作成（4 時間程度）	5 時間
第14回	オンデマンド	●まとめ 最終のレポート提出に向け、これまで学んだことをおさらい	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1 時間程度） 事後：最終レポートにむけて復習をしておくこと（3 時間程度）	4 時間

2026/05/01

第15回	オンデマンド	全授業の理解度を見るための最終レポートを作成していただきます。	事前：最終レポート作成に向け、復習しておくこと	4時間

科目名	ホスピタリティ論		開講年度	2026 年度春学期
担当者	仙波 慶子		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目			
テーマ	ホスピタリティの内容を深く理解し、実践する。			
授業の目的及び概要	成熟社会となった我が国では、サービス産業のみならず、製造業をはじめとする様々な分野で「顧客満足」を重視しています。また、一部のサービス業は「ホスピタリティ産業」とも呼ばれるようになりました。 「顧客満足」につながる「ホスピタリティ」とは何であるか、何をすれば達成できるのか、メリット・デメリット、リスクは何かを考察し、社会のニーズを適切に理解して、将来社会人として職場や顧客とのより良い関係性を構築できる人材、求められる人材になることを目指します。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	社会や企業から求められる、次のような人になることを到達目標とします。 ①「ホスピタリティ」の重要性を理解し、適切なコミュニケーションができる。 ②他者の考え方や感じ方を推測し、適切な対応や配慮ができる。 ③産業やビジネスにおける「ホスピタリティ」のあり方を理解し、実践できる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業時には、テキストの他、教師作成のパワーポイントで内容補充、事例紹介をします。 双方向のディスカッションや質疑のほか、不定期にコメントシート（記載内容は都度指示）の提出を求めます。 コメントシートで提出された問題や質問、傑出したコメントなどをピックアップし、次回授業で紹介して解説を行います。			
アクティブ・ラーニング の取組み				
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	①感動体験を創る！「ホスピタリティ・マネジメント」〔第3版〕, 山口一美著, 創成社, 2022 年	ISBN	①9784794426017	
参考書	指定の参考書はありません。必要な資料はパワーポイントで作成し、ラーニングポータルで公開します。	ISBN		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	50		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	現実の経済社会とリンクしながら、社会や産業のトレンドをより良く理解し、社会に出てからの第一歩で差をつける考え方やスキルを身につける、具体性のある講義です。 社会の現状を知り、様々な角度から分析し、積極的に取り組んでください。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	講義概要の説明： 授業の内容や目標、評価方法などについてガイダンスを行います。 また、ホスピタリティの基本的な概念について紹介します。	授業後に、テキスト第1章を読んで予習して下さい。	4時間
第2回	対面	ホスピタリティとサービス： ホスピタリティとサービスの違いについて理解し、ホスピタリティ産業で提供するサービスの特性を考察します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第1章）を復習し、テキスト第2章を読んで予習して下さい。	4時間
第3回	対面	経営管理（サービス・マーケティング）： サービスの特性と、社会における位置づけ、ビジネスシーンにおける役割を理解し、マーケティングとの関連性を考察します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第2章）を復習し、テキスト第3章を読んで予習して下さい。	4時間
第4回	対面	サービス・リカバリー、エンパワーメント： 顧客クレームに対応する考え方、従業員へのエンパワーメント（権限委譲）の重要性やリスク（メリット・デメリット）について、考察します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第3章）を復習し、テキスト第4章を読んで予習して下さい。	4時間
第5回	対面	顧客満足（1）： 顧客の選択行動を理解し、対応するサービスの品質、リピーターを生むサービスについて、考察します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第4章）をよく復習して下さい。次回は更に関連の内容について考察を深めます。	4時間
第6回	対面	顧客満足（2）： サービスの品質、リピーターを生むサービスと、マーケティングとの関連性を考察します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第4章）を復習し、テキスト第5章を読んで予習して下さい。	4時間
第7回	対面	従業員満足： ホスピタリティ産業、サービス業における従業員のモチベーションについて考察します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第5章）を復習し、テキスト第6章を読んで予習して下さい。	4時間
第8回	対面	従業員とコミュニケーション（1）： 人のパーソナリティとコミュニケーションについて理解し、言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションについて考察します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第6章—1,2）を復習し、テキスト第6章—3を読んで予習して下さい。	4時間
第9回	対面	従業員とコミュニケーション（2）： コミュニケーションとマナーについて、事例を紹介しながら理解を深めます。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第6章-3）を復習し、テキスト第7章を読んで予習して下さい。	4時間
第10回	対面	ホスピタリティ産業の主要ビジネス：旅行ビジネス 旅行ビジネスの歴史（これまでの発展）と、現状や課題について学修します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第7章）を復習し、テキスト第8章を読んで予習して下さい。	4時間
第11回	対面	ホスピタリティ産業の主要ビジネス：航空ビジネス 航空ビジネスの歴史（これまでの発展）と、現状や課題について学修します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第8章）を復習し、テキスト第9章を読んで予習して下さい。	4時間
第12回	対面	ホスピタリティ産業の主要ビジネス：宿泊ビジネス（1） 宿泊ビジネスの歴史（これまでの発展）と、現状や課題について学修します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第9章）をよく復習して下さい。次回は具体的な事例について、考察します。	4時間
第13回	対面	ホスピタリティ産業の主要ビジネス：宿泊ビジネス（2） 宿泊ビジネスの具体的な事例を研究し、理解を深めます。	授業後に、宿泊ビジネス（テキスト第9章及び事例研究）について復習し、テキスト第10章を読んで予習して下さい。	4時間

第14回	対面	ホスピタリティ産業の主要ビジネス：テーマパーク・ビジネス（1） テーマパーク・ビジネスの歴史（これまでの発展）と、現状や課題について学修します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第10章）をよく復習して下さい。次回は具体的な事例について、考察します。	4時間
第15回	オンデマンド	講義の総括： 講義内容全体を振り返り、ホスピタリティの概念、実践とビジネスシーンでの応用について、総合的に考えます。	授業後に、テキスト全編を振り返って復習して下さい。	4時間

科目名	ホスピタリティ論		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	仙波 慶子		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目			
テーマ	ホスピタリティの内容を深く理解し、実践する。			
授業の目的及び概要	成熟社会となった我が国では、サービス産業のみならず、製造業をはじめとする様々な分野で「顧客満足」を重視しています。また、一部のサービス業は「ホスピタリティ産業」とも呼ばれるようになりました。 「顧客満足」につながる「ホスピタリティ」とは何であるか、何をすれば達成できるのか、メリット・デメリット、リスクは何かを考察し、社会のニーズを適切に理解して、将来社会人として職場や顧客とのより良い関係性を構築できる人材、求められる人材になることを目指します。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	社会や企業から求められる、次のような人になることを到達目標とします。 ①「ホスピタリティ」の重要性を理解し、適切なコミュニケーションができる。 ②他者の考え方や感じ方を推測し、適切な対応や配慮ができる。 ③産業やビジネスにおける「ホスピタリティ」のあり方を理解し、実践できる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業時には、テキストの他、教師作成のパワーポイントで内容補充、事例紹介をします。 双方向のディスカッションや質疑のほか、不定期にコメントシート（記載内容は都度指示）の提出を求めます。 コメントシートで提出された問題や質問、傑出したコメントなどをピックアップし、次回授業で紹介して解説を行います。			
アクティブ・ラーニング の取組み				
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	①感動体験を創る！「ホスピタリティ・マネジメント」〔第3版〕, 山口一美著, 創成社, 2022 年	ISBN	①9784794426017	
参考書	指定の参考書はありません。必要な資料はパワーポイントで作成し、ラーニングポータルで公開します。	ISBN		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	50		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	現実の経済社会とリンクしながら、社会や産業のトレンドをより良く理解し、社会に出てからの第一歩で差をつける考え方やスキルを身につける、具体性のある講義です。 社会の現状を知り、様々な角度から分析し、積極的に取り組んでください。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	講義概要の説明： 授業の内容や目標、評価方法などについてガイダンスを行います。 また、ホスピタリティの基本的な概念について紹介します。	授業後に、テキスト第1章を読んで予習して下さい。	4時間
第2回	オンデマンド	ホスピタリティとサービス： ホスピタリティとサービスの違いについて理解し、ホスピタリティ産業で提供するサービスの特性を考察します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第1章）を復習し、テキスト第2章を読んで予習して下さい。	4時間
第3回	オンデマンド	経営管理（サービス・マーケティング）： サービスの特性と、社会における位置づけ、ビジネスシーンにおける役割を理解し、マーケティングとの関連性を考察します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第2章）を復習し、テキスト第3章を読んで予習して下さい。	4時間
第4回	オンデマンド	サービス・リカバリー、エンパワーメント： 顧客クレームに対応する考え方、従業員へのエンパワーメント（権限委譲）の重要性やリスク（メリット・デメリット）について、考察します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第3章）を復習し、テキスト第4章を読んで予習して下さい。	4時間
第5回	オンデマンド	顧客満足（1）： 顧客の選択行動を理解し、対応するサービスの品質、リピーターを生むサービスについて、考察します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第4章）をよく復習して下さい。次回は更に関連の内容について考察を深めます。	4時間
第6回	オンデマンド	顧客満足（2）： サービスの品質、リピーターを生むサービスと、マーケティングとの関連性を考察します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第4章）を復習し、テキスト第5章を読んで予習して下さい。	4時間
第7回	オンデマンド	従業員満足： ホスピタリティ産業、サービス業における従業員のモチベーションについて考察します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第5章）を復習し、テキスト第6章を読んで予習して下さい。	4時間
第8回	オンデマンド	従業員とコミュニケーション（1）： 人のパーソナリティとコミュニケーションについて理解し、言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションについて考察します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第6章—1,2）を復習し、テキスト第6章—3を読んで予習して下さい。	4時間
第9回	オンデマンド	従業員とコミュニケーション（2）： コミュニケーションとマナーについて、事例を紹介しながら理解を深めます。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第6章-3）を復習し、テキスト第7章を読んで予習して下さい。	4時間
第10回	オンデマンド	ホスピタリティ産業の主要ビジネス：旅行ビジネス 旅行ビジネスの歴史（これまでの発展）と、現状や課題について学修します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第7章）を復習し、テキスト第8章を読んで予習して下さい。	4時間
第11回	オンデマンド	ホスピタリティ産業の主要ビジネス：航空ビジネス 航空ビジネスの歴史（これまでの発展）と、現状や課題について学修します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第8章）を復習し、テキスト第9章を読んで予習して下さい。	4時間
第12回	オンデマンド	ホスピタリティ産業の主要ビジネス：宿泊ビジネス（1） 宿泊ビジネスの歴史（これまでの発展）と、現状や課題について学修します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第9章）をよく復習して下さい。次回は具体的な事例について、考察します。	4時間
第13回	オンデマンド	ホスピタリティ産業の主要ビジネス：宿泊ビジネス（2） 宿泊ビジネスの具体的な事例を研究し、理解を深めます。	授業後に、宿泊ビジネス（テキスト第9章及び事例研究）について復習し、テキスト第10章を読んで予習して下さい。	4時間

第14回	オンデマンド	ホスピタリティ産業の主要ビジネス：テーマパーク・ビジネス（1） テーマパーク・ビジネスの歴史（これまでの発展）と、現状や課題について学修します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第10章）をよく復習して下さい。次回は具体的な事例について、考察します。	4時間
第15回	オンデマンド	講義の総括： 講義内容全体を振り返り、ホスピタリティの概念、実践とビジネスシーンでの応用について、総合的に考えます。	授業後に、テキスト全編を振り返って復習して下さい。	4時間

科目名	観光論	開講年度	2026 年度春学期
担当者	仙波 慶子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	観光の歴史や産業的役割を理解すると共に、ウィズコロナやアフターコロナなど近年発生した事象、高齢化、スマート化などを踏まえた新たな時代のツーリズムについて考える		
授業の目的及び概要	「観光」は 21 世紀型産業といわれ、世界中が注目し、取り組んでいる成長産業です。特に日本では、近年インバウンド観光客が大幅に増加し、様々な産業の成長や発展を促す大きなトレンドとなりました。 しかしながら、近年は新型コロナウイルスの世界的流行により世界的にヒト、モノ、カネの往来が限定的になったり、世界中が持続可能な発展を重視する社会に向かっているなど、様々な新しい事象や問題が発生し、それを踏まえて、新たな時代には、従来タイプの観光に加え、新たな形や概念のツーリズムのニーズも高まっています。 本講義では、観光学の基礎を理解したうえで、世界ではどのような形式のツーリズム産業が存在して、先端技術を応用した運営がなされているのか、事例を研究すると共に、これからの新時代のツーリズムビジネスを考えていきます。 「社会の変化に合わせて事業も適切に変化する」ことに重点を置いて、「状況を分析し、解決する力」をつけることをポイントにしていますので、観光関連業界を進路として目指すかどうかによらず、「人間力向上」に役立つものです。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	多種多様なビジネスシーンにおいて活躍できる、次のような力をつけることを到達目標とします。 ①社会や環境の変化を適切に分析できるようになる。 ②周辺環境や条件の変化に応じて、様々な形の新しい観光ビジネスや周辺ビジネスをイメージ、プランすることができるようになる。 ③観光ビジネスについて理解し、具体的なメリットやデメリットに注目し、問題解決できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業時には、テキストの他、教師作成のパワーポイントで内容補充、事例紹介をします。 また、対面の場合は双方向のディスカッションや質疑のほか、不定期にコメントシート（記載内容は都度指示）の提出を求め、理解を深めます。コメントシートの中で提起された問題や質問、傑出したコメントについては、次回授業で紹介して解説を行います。 オンデマンドの場合は毎回のテストで学修内容の確認を行い、理解を深めます。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①「観光再生」, 村山慶輔著, プレジデント社, 2020 年	ISBN	①9784833423854
参考書	「新・観光学入門」中村忠司・王静（編著）、晃洋書房 〔内容をピックアップして、パワーポイントで紹介しますので、購入の必要はありません〕	ISBN	ISBN: 978-4-7710-3137-1
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	

	【定期試験】レポート試験	50
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	現実の経済社会とリンクしながら、社会や産業のトレンドをより良く理解し、社会に出てからの第一歩で差をつける考え方やスキルを身につける、具体性のある講義です。 社会の現状を知り、様々な角度から分析し、積極的に発言して下さい。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	講義概要の説明： 授業の内容や目標、評価方法などについてガイダンスを行います。 また、「観光」の意義や概念について、紹介します。 （参考書「新・観光学入門」に基づく教師作成のパワーポイント資料を使用）	授業後に、パワーポイントの内容を復習し、次回用パワーポイント（第1回時に提供）を読んで予習して下さい。	4時間
第2回	対面	観光の歴史、位置づけ： 日本の観光の歴史、世界の観光の歴史、観光事業に関連する分野について理解を深めます。 （参考書「新・観光学入門」に基づく教師作成のパワーポイント資料を使用）	授業後に、今回のパワーポイント資料の内容を復習し、テキスト第1章 01～02 を読んで予習して下さい。（約1時間）	4時間
第3回	対面	「サステナブル」という視点：サステナブル・ツーリズム、リジェネラティブ・トラベル： 持続可能な観光のガイドライン、「環境にやさしい」だけでなく「環境をよくする」取り組みについて、学修します。 また、その分野における世界（フィンランド、メキシコ）の観光の取り組みを検証します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第1章 01～02）を復習し、テキスト第1章 03～04 を読んで予習して下さい。	4時間
第4回	対面	地域教育とシビック・プライド、コミュニティ・ツーリズム： 地域住民が地元に誇りや愛着を持ち、地域をよりよくするために取り組むツーリズム、地域振興に貢献するアクションについて、学修します。 また、その分野における日本（秋田県、兵庫県）や世界（スペイン、エクアドル）の取り組みを検証します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第1章 03～04）を復習し、テキスト第1章 05～06 を読んで予習して下さい。	4時間
第5回	対面	観光貢献度の可視化、量から質への「発想の転換」： 観光公害、オーバーツーリズムについて、学修します。 また、「マストツーリズム」からの脱却、「量から質へ」の転換を図るオーストリア・ウィーンの取り組みを検証します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第1章 05～06）を復習し、テキスト第1章 07 を読んで予習して下さい。	4時間
第6回	対面	BCP の策定： 観光事業におけるリスク管理、リスク対策となる BCP（事業継続計画）について、学修します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第1章 07）を復習し、テキスト第2章 08～09 を読んで予習して下さい。	4時間
第7回	対面	「新技術」でネクストステップへ進む：マイクロモビリティ、観光型 MaaS。 都市型・郊外型など、タイプに合わせた移	授業後に、今回の授業内容（テキスト第2章 08～09）を復習し、テキスト第2章 10～11 を読んで予習して下さい。	4時間

		動手段の導入、SDG'sにつながる MaaS について、学修します。 また、日本（大分、奈良、）や世界（ニュージーランド、スコットランド）の観光地における具体的な取り組みを検証します。		
第8回	対面	デジタルトランスフォーメーション、スマートツーリズム： データやデジタルを活用した新たな観光サービス、システムを学修します。 また、シンガポール、スペインでの取り組みを検証します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第2章10～11）を復習し、テキスト第2章12～13を読んで予習して下さい。	4時間
第9回	対面	バーチャルツーリズム、ライブコマース： オンライン体験とリアル体験の整合、観光分野における「企画力」を学修します。また、インタラクティブコミュニケーションを導入した「ライブコマース」の発展について考察します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第2章12～13）を復習し、テキスト第2章14を読んで予習して下さい。	4時間
第10回	対面	AI・ロボット/非接触型機器： 接客やサービスにおけるシステム、ロボットの導入について学修します。 また、メキシコなど世界における導入の現状を検証します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第2章14）を復習し、テキスト第3章15～16を読んで予習して下さい。	4時間
第11回	対面	観光の新たなトレンドを捉え、対応する： アフターインスタ映え、食の多様化。 「美味しい、きれい、かわいい」以外の価値、多様化（ベジタリアン、ムスリム、ヴィーガン、グルテンフリーなど）への観光ビジネスの対応について、学修します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第3章15～16）を復習し、テキスト第3章17～19を読んで予習して下さい。	4時間
第12回	対面	アドベンチャーツーリズム、ロングステイヤー／ワーケーション、レスポンスブルツーリズム： ニューノーマルに合致する新たな観光や滞在の形、ビジネスの取り組みについて、学修します。 また、世界（ニュージーランド、エストニア、アメリカなど）の取り組みを検証します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第3章17～19）を復習し、テキスト第4章20～22を読んで予習して下さい。	4時間
第13回	対面	「新戦略」で未来のニーズを先取りする： 高付加価値化、富裕層マーケット、ニューマーケットの開拓。 観光ビジネス、旅行業において不可欠な「高付加価値化」と、ターゲットとなる市場について、学修します。 また、富裕層向けの観光資源に恵まれた日本、観光付加価値の向上に取り組むタイについて、検証します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第4章20～22）を復習し、テキスト第4章23～24を読んで予習して下さい。	4時間
第14回	対面	観光 CRM、リスク分散／事業の多様化： 観光ビジネス、観光行政における顧客管理の位置づけ、重要性について、学修します。 また、観光ビジネスの成長を考える上での、リスクや問題を分析し、解決を考えます。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第4章23～24）を復習し、テキスト第5章27を読んで予習して下さい。	4時間
第15回	オンデマンド	ダイバーシティの理解、講義の総括： 観光ビジネスにおける多様化について、考察します。 また、講義内容を総括します。	授業後に、パワーポイント及びテキスト全編を振り返って復習して下さい。	4時間

科目名	観光論	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	仙波 慶子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	観光の歴史や産業的役割を理解すると共に、ウィズコロナやアフターコロナなど近年発生した事象、高齢化、スマート化などを踏まえた新たな時代のツーリズムについて考える		
授業の目的及び概要	「観光」は 21 世紀型産業といわれ、世界中が注目し、取り組んでいる成長産業です。特に日本では、近年インバウンド観光客が大幅に増加し、様々な産業の成長や発展を促す大きなトレンドとなりました。 しかしながら、近年は新型コロナウイルスの世界的流行により世界的にヒト、モノ、カネの往来が限定的になったり、世界中が持続可能な発展を重視する社会に向かっているなど、様々な新しい事象や問題が発生し、それを踏まえて、新たな時代には、従来タイプの観光に加え、新たな形や概念のツーリズムのニーズも高まっています。 本講義では、観光学の基礎を理解したうえで、世界ではどのような形式のツーリズム産業が存在して、先端技術を応用した運営がなされているのか、事例を研究すると共に、これからの新時代のツーリズムビジネスを考えていきます。 「社会の変化に合わせて事業も適切に変化する」ことに重点を置いて、「状況を分析し、解決する力」をつけることをポイントにしていますので、観光関連業界を進路として目指すかどうかによらず、「人間力向上」に役立つものです。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	多種多様なビジネスシーンにおいて活躍できる、次のような力をつけることを到達目標とします。 ①社会や環境の変化を適切に分析できるようになる。 ②周辺環境や条件の変化に応じて、様々な形の新しい観光ビジネスや周辺ビジネスをイメージ、プランすることができるようになる。 ③観光ビジネスについて理解し、具体的なメリットやデメリットに注目し、問題解決できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業時には、テキストの他、教師作成のパワーポイントで内容補充、事例紹介をします。 また、対面の場合は双方向のディスカッションや質疑のほか、不定期にコメントシート（記載内容は都度指示）の提出を求め、理解を深めます。コメントシートの中で提起された問題や質問、傑出したコメントについては、次回授業で紹介して解説を行います。 オンデマンドの場合は毎回のテストで学修内容の確認を行い、理解を深めます。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①「観光再生」, 村山慶輔著, プレジデント社, 2020 年	ISBN	①9784833423854
参考書	「新・観光学入門」中村忠司・王静（編著）、晃洋書房 〔内容をピックアップして、パワーポイントで紹介しますので、購入の必要はありません〕	ISBN	ISBN: 978-4-7710-3137-1
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	

	【定期試験】レポート試験	50
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	現実の経済社会とリンクしながら、社会や産業のトレンドをより良く理解し、社会に出てからの第一歩で差をつける考え方やスキルを身につける、具体性のある講義です。 社会の現状を知り、様々な角度から分析し、積極的に取り組んでください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	講義概要の説明： 授業の内容や目標、評価方法などについてガイダンスを行います。 また、「観光」の意義や概念について、紹介します。 （参考書「新・観光学入門」に基づく教師作成のパワーポイント資料を使用）	授業後に、パワーポイントの内容を復習し、次回用パワーポイント（第1回時に提供）を読んで予習して下さい。	4時間
第2回	オンデマンド	観光の歴史、位置づけ： 日本の観光の歴史、世界の観光の歴史、観光事業に関連する分野について理解を深めます。 （参考書「新・観光学入門」に基づく教師作成のパワーポイント資料を使用）	授業後に、今回のパワーポイント資料の内容を復習し、テキスト第1章01～02を読んで予習して下さい。	4時間
第3回	オンデマンド	「サステナブル」という視点：サステナブル・ツーリズム、リジェネラティブ・トラベル： 持続可能な観光のガイドライン、「環境にやさしい」だけでなく「環境をよくする」取り組みについて、学修します。 また、その分野における世界（フィンランド、メキシコ）の観光の取り組みを検証します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第1章01～02）を復習し、テキスト第1章03～04を読んで予習して下さい。	4時間
第4回	オンデマンド	地域教育とシビック・プライド、コミュニティ・ツーリズム： 地域住民が地元に誇りや愛着を持ち、地域をよりよくするために取り組むツーリズム、地域振興に貢献するアクションについて、学修します。 また、その分野における日本（秋田県、兵庫県）や世界（スペイン、エクアドル）の取り組みを検証します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第1章03～04）を復習し、テキスト第1章05～06を読んで予習して下さい。	4時間
第5回	オンデマンド	観光貢献度の可視化、量から質への「発想の転換」： 観光公害、オーバーツーリズムについて、学修します。 また、「マストツーリズム」からの脱却、「量から質へ」の転換を図るオーストリア・ウィーンの取り組みを検証します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第1章05～06）を復習し、テキスト第1章07を読んで予習して下さい。	4時間
第6回	オンデマンド	BCPの策定： 観光事業におけるリスク管理、リスク対策となるBCP（事業継続計画）について、学修します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第1章07）を復習し、テキスト第2章08～09を読んで予習して下さい。	4時間
第7回	オンデマンド	「新技術」でネクストステップへ進む：マイクロモビリティ、観光型MaaS。 都市型・郊外型など、タイプに合わせた移	授業後に、今回の授業内容（テキスト第2章08～09）を復習し、テキスト第2章10～11を読んで予習して下さい。	4時間

		動手段の導入、SDG'sにつながる MaaS について、学修します。 また、日本（大分、奈良、）や世界（ニュージーランド、スコットランド）の観光地における具体的な取り組みを検証します。		
第8回	オンデマンド	デジタルトランスフォーメーション、スマートツーリズム： データやデジタルを活用した新たな観光サービス、システムを学修します。 また、シンガポール、スペインでの取り組みを検証します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第2章10～11）を復習し、テキスト第2章12～13を読んで予習して下さい。	4時間
第9回	オンデマンド	バーチャルツーリズム、ライブコマース： オンライン体験とリアル体験の整合、観光分野における「企画力」を学修します。また、インタラクティブコミュニケーションを導入した「ライブコマース」の発展について考察します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第2章12～13）を復習し、テキスト第2章14を読んで予習して下さい。	4時間
第10回	オンデマンド	AI・ロボット/非接触型機器： 接客やサービスにおけるシステム、ロボットの導入について学修します。 また、メキシコなど世界における導入の現状を検証します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第2章14）を復習し、テキスト第3章15～16を読んで予習して下さい。	4時間
第11回	オンデマンド	観光の新たなトレンドを捉え、対応する： アフターインスタ映え、食の多様化。 「美味しい、きれいな、かわいい」以外の価値、多様化（ベジタリアン、ムスリム、ヴィーガン、グルテンフリーなど）への観光ビジネスの対応について、学修します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第3章15～16）を復習し、テキスト第3章17～19を読んで予習して下さい。	4時間
第12回	オンデマンド	アドベンチャーツーリズム、ロングステイヤー／ワーケーション、レスポンスブルツーリズム： ニューノーマルに合致する新たな観光や滞在の形、ビジネスの取り組みについて、学修します。 また、世界（ニュージーランド、エストニア、アメリカなど）の取り組みを検証します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第3章17～19）を復習し、テキスト第4章20～22を読んで予習して下さい。	4時間
第13回	オンデマンド	「新戦略」で未来のニーズを先取りする： 高付加価値化、富裕層マーケット、ニューマーケットの開拓。 観光ビジネス、旅行業において不可欠な「高付加価値化」と、ターゲットとなる市場について、学修します。 また、富裕層向けの観光資源に恵まれた日本、観光付加価値の向上に取り組むタイについて、検証します。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第4章20～22）を復習し、テキスト第4章23～24を読んで予習して下さい。	4時間
第14回	オンデマンド	観光 CRM、リスク分散／事業の多様化： 観光ビジネス、観光行政における顧客管理の位置づけ、重要性について、学修します。 また、観光ビジネスの成長を考える上での、リスクや問題を分析し、解決を考えます。	授業後に、今回の授業内容（テキスト第4章23～24）を復習し、テキスト第5章27を読んで予習して下さい。	4時間
第15回	オンデマンド	ダイバーシティの理解、講義の総括： 観光ビジネスにおける多様化について、考察します。 また、講義内容を総括します。	授業後に、パワーポイント及びテキスト全編を振り返って復習して下さい。	4時間

科目名	スポーツマネジメント論	開講年度	2026 年度春学期
担当者	吉田 明	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	スポーツの現状及び課題について、マネジメントの観点から考察する。		
授業の目的及び概要	スポーツマネジメント論の基礎知識を把握するとともに、スポーツ組織や地域スポーツのあり方について、理解を深めることを目的とする。具体的には、現代、スポーツを楽しむ人々の年齢層が広がるとともに、スポーツやレジャーを楽しむ場所や機会が飛躍的に増大しました。「するスポーツ」や「見るスポーツ」においても旺盛な消費活動を展開するようになり、ビジネスとしてスポーツが注目されるようになりました。この授業では、スポーツマネジメント、スポーツ活動・組織のマネジメントについて学びます。組織の事業活動が機能するためには、マネジメントが必要になり、スポーツ活動・組織においても例外ではありません。スポーツ活動・組織における事例をもとにマネジメントの必要性を理解します。そして、チームマネジメントに欠かせない「リーダーシップ」や「リーダーの役割やスタイル」、「チームワーク」や「チーム・組織の魅力」、「指導者のマネジメント」についても学びます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業では、以下の到達目標を掲げる。 ①スポーツマネジメントに必要な考え方や倫理観について理解することができる。 ②スポーツマネジメントの専門的・実践的知識を修得し、それらを統合・活用することができる。 ③スポーツマネジメントにおけるリーダーシップやチームワークについて理解することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内に、適時、口頭によるフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、大学卒業後、大手鉄鋼メーカーで業務を行いつつ、同社ラグビー部にて日本代表選手に選ばれるなどの活躍をしてきた。また、私立大学の学生課にてスポーツ推進を行うとともに、ラグビー部の指導及びマネジメントを行うなどの実務経験を有している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	指定のテキストはありません。必要な資料を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	①スポーツ・マネジメント入門「24 のキーワードで理解する」、広瀬一郎著、東洋経済、2014 年 ②スポーツ集団のマネジメント、永田靖章著、きょうせい、1998 年 ③組織マネジメント戦略、高木晴夫監修、慶応義塾大学ビジネススクール編集、有斐閣、2005 年 ④宇宙兄弟「今いる仲間であまういくチーム」の話、長尾彰著、Gokken、2019 年 ⑤チームの心を一つにする技術、村田祐造著、日本実業出版社、2010 年 ⑥スポーツマネジメント、原田宗彦・小笠原悦子著、大修館書店、2015 年	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	

	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	30
	【定期試験】レポート試験	30
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	スポーツマネジメントという学問領域を理解するためには、問題意識を持つとともに幅広い知識を身につけることが求められる。 スポーツマネジメントに関する予備知識、そして、授業に臨む学修者の積極的な姿勢が重要である。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業の概要や到達目標等について、ガイダンスを行います。	【予習】シラバスとガイダンス資料を事前に読んでおいてください。 【復習】シラバスとガイダンス資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第2回	対面	「スポーツマネジメントとは」（「スポーツマネジメントとは何か」を何故、必要なかを理解する）	【予習】「スポーツマネジメント」に関する書籍やインターネットを利用して予習しておくこと。 【復習】「スポーツマネジメント」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認しておくこと。	4 時間
第3回	対面	スポーツマネジメントの時代（「スポーツマーケティングの時代」から「スポーツマネジメントの時代」へ移り変わってきた底流を理解する）	【予習】「スポーツマーケティング」に関する書籍やインターネットを利用して予習しておくこと。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、講義で得た知識を確認し、復習しておくこと。	4 時間
第4回	対面	スポーツ企業のマネジメント（スポーツ用具やスポーツメーカーが与える影響を理解する）	【予習】「スポーツ用具」に関する書籍やインターネットを利用して予習しておくこと。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、講義で得た知識を確認し、復習しておくこと。	4 時間
第5回	対面	組織マネジメントについて（組織が事業活動によって、生産性を上げるためには、組織を効率的に運用するマネジメントが必要なことを理解する）	【予習】「組織のマネジメント」に関する書籍やインターネットを利用して予習しておくこと。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、講義で得た知識を確認し、復習しておくこと。	4 時間
第6回	対面	スポーツ組織について（スポーツ組織においても、単なる目標ではなく、理念（ミッション、ヒ・シ・ジョン）が必要なことを理解する）	【予習】「スポーツ組織」に関する書籍やインターネットを利用して予習しておくこと。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、講義で得た知識を確認し、復習しておくこと。	4 時間
第7回	対面	スポーツ組織に学ぶマネジメント（組織の仕組み作りについて理解する）	【予習】「スポーツ組織」に関する書籍やインターネットを利用して予習しておくこと。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、講義で得た知識を確認し、復習しておくこと。	4 時間
第8回	対面	中間テスト	【予習】第2回目から第7回目までにに関する配布資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、講義で得た知識を確認し、復習しておくこと。	4 時間
第9回	オンデマンド	中間テストの総括・まとめ・振り返り	【予習】第2回目から第7回目までにに関する配布資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、講義で得た知識を確認し、復習しておくこと。	4 時間
第10回	対面	集団のマネジメントはどうあるべきか？（スポーツ集団の目標管理やマネジメントについて理解する）	【予習】「スポーツ集団のマネジメント」に関する書籍やインターネットを利用して予習しておくこと。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、講義で得た知識を確認し、復習しておくこと。	4 時間

第11回	対面	組織・チームを阻害する要因（理想の組織の実現が難しい局面は多く、阻害する要因について、どのようにして解決していくかを理解する）	【予習】「チームを阻害する要因」に関する書籍やインターネットを利用して予習しておくこと。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、講義で得た知識を確認し、復習しておくこと。	4時間
第12回	対面	組織・チームのリーダースタイル（組織に変革をもたらす変革リーダーシップなどのリーダースタイルを理解する）	【予習】「リーダースタイル」に関する書籍やインターネットを利用して予習しておくこと。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、講義で得た知識を確認し、復習しておくこと。	4時間
第13回	対面	組織のコミュニケーション（組織やスポーツチームにおけるコミュニケーションの重要性を理解する）	【予習】「組織のコミュニケーション」に関する書籍やインターネットを利用して予習しておくこと。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、講義で得た知識を確認し、復習しておくこと。	4時間
第14回	対面	スポーツ団体の活動意欲、チームリーダーの条件とは（個の能力を上げる意欲の向上に向けた素養について理解する）	【予習】「活動意欲、リーダーの条件」に関する書籍やインターネットを利用して予習しておくこと。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、講義で得た知識を確認し、復習しておくこと。	4時間
第15回	対面	マネジメントの仕組みと成果（スポーツでは、仕組みと成果においては他の業界と異なる要因で動く、その要因について理解する）	【予習】「マネジメントの仕組みと成果」書籍やインターネットを利用して予習しておくこと。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、講義で得た知識を確認し、復習しておくこと。	4時間

科目名	スポーツマネジメント論	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	吉田 明	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	スポーツの現状及び課題について、マネジメントの観点から考察する。		
授業の目的及び概要	スポーツマネジメント論の基礎知識を把握するとともに、スポーツ組織や地域スポーツのあり方について、理解を深めることを目的とする。具体的には、現代、スポーツを楽しむ人々の年齢層が広がるとともに、スポーツやレジャーを楽しむ場所や機会が飛躍的に増大しました。「するスポーツ」や「見るスポーツ」においても旺盛な消費活動を展開するようになり、ビジネスとしてスポーツが注目されるようになりました。この授業では、スポーツマネジメント、スポーツ活動・組織のマネジメントについて学びます。組織の事業活動が機能するためには、マネジメントが必要になり、スポーツ活動・組織においても例外ではありません。スポーツ活動・組織における事例をもとにマネジメントの必要性を理解します。そして、チームマネジメントに欠かせない「リーダーシップ」や「リーダーの役割やスタイル」、「チームワーク」や「チーム・組織の魅力」、「指導者のマネジメント」についても学びます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業では、以下の到達目標を掲げる。 ①スポーツマネジメントに必要な考え方や倫理観について理解することができる。 ②スポーツマネジメントの専門的・実践的知識を修得し、それらを統合・活用することができる。 ③スポーツマネジメントにおけるリーダーシップやチームワークについて理解することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内に、適時、口頭によるフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、大学卒業後、大手鉄鋼メーカーで業務を行いつつ、同社ラグビー部にて日本代表選手に選ばれるなどの活躍をしてきた。また、私立大学の学生課にてスポーツ推進を行うとともに、ラグビー部の指導及びマネジメントを行うなどの実務経験を有している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	指定のテキストはありません。必要な資料を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	①スポーツ・マネジメント入門「24 のキーワードで理解する」、広瀬一郎著、東洋経済、2014 年 ②スポーツ集団のマネジメント、永田靖章著、きょうせい、1998 年 ③組織マネジメント戦略、高木晴夫監修、慶応義塾大学ビジネススクール編集、有斐閣、2005 年 ④宇宙兄弟「今いる仲間であまういくチーム」の話、長尾彰著、Gokken、2019 年 ⑤チームの心を一つにする技術、村田祐造著、日本実業出版社、2010 年 ⑥スポーツマネジメント、原田宗彦・小笠原悦子著、大修館書店、2015 年	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	

	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	30
	【定期試験】レポート試験	30
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	スポーツマネジメントという学問領域を理解するためには、問題意識を持つとともに幅広い知識を身につけることが求められる。 スポーツマネジメントに関する予備知識、そして、授業に臨む学修者の積極的な姿勢が重要である。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業の概要や到達目標等について、ガイダンスを行います。	【予習】シラバスとガイダンス資料を事前に読んでおいてください。 【復習】シラバスとガイダンス資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第2回	対面	「スポーツマネジメントとは」（「スポーツマネジメントとは何か」を何故、必要なかを理解する）	【予習】「スポーツマネジメント」に関する書籍やインターネットを利用して予習しておくこと。 【復習】「スポーツマネジメント」に関する配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認しておくこと。	4 時間
第3回	対面	スポーツマネジメントの時代（「スポーツマーケティングの時代」から「スポーツマネジメントの時代」へ移り変わってきた底流を理解する）	【予習】「スポーツマーケティング」に関する書籍やインターネットを利用して予習しておくこと。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、講義で得た知識を確認し、復習しておくこと。	4 時間
第4回	対面	スポーツ企業のマネジメント（スポーツ用具やスポーツメーカーが与える影響を理解する）	【予習】「スポーツ用具」に関する書籍やインターネットを利用して予習しておくこと。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、講義で得た知識を確認し、復習しておくこと。	4 時間
第5回	対面	組織マネジメントについて（組織が事業活動によって、生産性を上げるためには、組織を効率的に運用するマネジメントが必要なことを理解する）	【予習】「組織のマネジメント」に関する書籍やインターネットを利用して予習しておくこと。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、講義で得た知識を確認し、復習しておくこと。	4 時間
第6回	対面	スポーツ組織について（スポーツ組織においても、単なる目標ではなく、理念（ミッション、ヒ・シ・ジョン）が必要なことを理解する）	【予習】「スポーツ組織」に関する書籍やインターネットを利用して予習しておくこと。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、講義で得た知識を確認し、復習しておくこと。	4 時間
第7回	対面	スポーツ組織に学ぶマネジメント（組織の仕組み作りについて理解する）	【予習】「スポーツ組織」に関する書籍やインターネットを利用して予習しておくこと。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、講義で得た知識を確認し、復習しておくこと。	4 時間
第8回	対面	中間テスト	【予習】第2回目から第7回目までにに関する配布資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、講義で得た知識を確認し、復習しておくこと。	4 時間
第9回	オンデマンド	中間テストの総括・まとめ・振り返り	【予習】第2回目から第7回目までにに関する配布資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、講義で得た知識を確認し、復習しておくこと。	4 時間
第10回	対面	集団のマネジメントはどうあるべきか？（スポーツ集団の目標管理やマネジメントについて理解する）	【予習】「スポーツ集団のマネジメント」に関する書籍やインターネットを利用して予習しておくこと。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、講義で得た知識を確認し、復習しておくこと。	4 時間

第11回	対面	組織・チームを阻害する要因（理想の組織の実現が難しい局面は多く、阻害する要因について、どのようにして解決していくかを理解する）	【予習】「チームを阻害する要因」に関する書籍やインターネットを利用して予習しておくこと。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、講義で得た知識を確認し、復習しておくこと。	4 時間
第12回	対面	組織・チームのリーダースタイル（組織に変革をもたらす変革リーダーシップなどのリーダースタイルを理解する）	【予習】「リーダースタイル」に関する書籍やインターネットを利用して予習しておくこと。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、講義で得た知識を確認し、復習しておくこと。	4 時間
第13回	対面	組織のコミュニケーション（組織やスポーツチームにおけるコミュニケーションの重要性を理解する）	【予習】「組織のコミュニケーション」に関する書籍やインターネットを利用して予習しておくこと。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、講義で得た知識を確認し、復習しておくこと。	4 時間
第14回	対面	スポーツ団体の活動意欲、チームリーダーの条件とは（個の能力を上げる意欲の向上に向けた素養について理解する）	【予習】「活動意欲、リーダーの条件」に関する書籍やインターネットを利用して予習しておくこと。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、講義で得た知識を確認し、復習しておくこと。	4 時間
第15回	対面	マネジメントの仕組みと成果（スポーツでは、仕組みと成果においては他の業界と異なる要因で動く、その要因について理解する）	【予習】「マネジメントの仕組みと成果」書籍やインターネットを利用して予習しておくこと。 【復習】授業で配布した資料を読み直し、講義で得た知識を確認し、復習しておくこと。	4 時間

科目名	貿易論 <貿易論Ⅰ>	開講年度	2026 年度春学期
担当者	高砂 謙二	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	貿易に関する理論と実践知識の修得		
授業の目的及び概要	現代において、海外との貿易取引なくして日本経済は成り立ちません。将来もグローバルな貿易取引がますます拡大していくものと考えられます。このような現状を踏まえ、本科目では貿易取引の基礎的な理論と実践的な知識の習得を目指し、社会において実務に活かせる内容を提供します。したがって、「貿易実務検定C級」の資格取得を目指すことも指導します。 この授業は、貿易の果たす経済効果に対して、貿易に関する諸問題を分析するのに必要な貿易理論や貿易政策についてミクロ的基礎を学びます。そして、最新のトピックスである産業内貿易の動向を取りあげ、アジアと欧米の事例を挙げて経済理論の理解を深めることができるようにします。また、外国為替や国際収支についてマクロ的基礎を学び、さらに、WTO や各 EPA 等の貿易協定についても触れ、現実の国家間の政策の理解や評価に役立てることを配慮した構成とします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	以下の内容を到達レベルとします。 ・貿易の意義を理論的に説明できる ・貿易の種類と内容を説明できる ・輸出入管理の制度を説明できる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の理解度テストや、レポートまたは中間試験については、解答を示し、知識・理解の定着を図ります。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、金融機関において営業店や外国部、審査部、経営企画等で 16 年間勤務し、銀行業務全般や国際業務（外国為替リーディング業務、外為与信審査業務、国際経営・貿易相談業務、輸出入貿易書類点検業務）、法務・市場調査・広報等の実務経験を積んできた。本科目では、国際的なマーケットの実態や外国為替相場特性などについて、こうした実務経験を活かして解説するなど、実践的な教育を行う。		
テキスト	なし（テキストは指定しませんが、レジュメを配布します）	ISBN	なし
参考書	①コンパクト 国際経済学、多和田真、新世社、2010 年 ②図解 貿易実務ハンドブック ベーシック版 第 7 版 「貿易実務検定®」C 級オフィシャルテキスト、日本貿易実務検定協会、日本能率協会マネジメントセンター、2020 年	ISBN	①978-4883841530 ②978-4820728016
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	40
	その他（％）	0
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	1. 本科目を履修するにあたり、「貿易論Ⅱ（経営学部）」/「貿易論（貿易実務）（経済学部）」も履修することを前提とします。 2. 本科目は、理論と実践の両方をカバーすることを目指します。商社もしくは企業の海外担当部署や輸出入管理部署に関心があれば、履修することを勧めます。 3. 関連科目として、「国際経営概論」、「ビジネス取引法」を履修することを勧めます。 4. 将来、留学生も自国と日本とのビジネスに関わる事を想定して履修すること勧めます。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【ガイダンス】 授業の進め方、評価方法、受講者の心得等の説明を行います。 ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う。	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4時間
第2回	対面	【貿易の意義と特色（基礎）】 本科目の概要として、国内取引との違い、貿易取引の流れ、商流/物流、貿易の便益を理解する ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う。	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4時間
第3回	対面	【伝統的貿易論（基礎）①】 貿易理論の基本として、アダム・スミスの絶対優位論とリカードの比較優位論を理解する ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う。	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4時間
第4回	対面	【伝統的貿易論（基礎）②】 貿易理論の基本として、ヘクシャー=オリーンモデルを理解する ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う。	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4時間
第5回	対面	【現代の国際貿易論（基礎）】 新しい貿易理論として、規模の経済性や産業内貿易について理解する ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う。	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4時間
第6回	対面	【貿易政策（基礎）】 貿易政策として行われる①関税、②輸入割当、③輸出補助金、④輸入禁止、⑤輸出自主規制について経済理論から理解する ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う。	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4時間
第7回	対面	【産業内貿易（基礎）】 垂直的産業内貿易と水平的産業内貿易の	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨む	4時間

		違いや、近年盛んな国際分業について理解する アジアと欧米の具体的な貿易事例などを紹介する・ ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う。 ※中間試験またはレポート課題を課す	こと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジュメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	
第8回	対面	【世界の貿易体制と日本の貿易】 世界の貿易環境と枠組み、および日本の貿易取引状況について観察する ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う。	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジュメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4 時間
第9回	対面	【国際収支統計と為替レート】 貿易による国際収支や為替の影響について理解する ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う。	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジュメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4 時間
第10回	対面	【貿易の基礎知識】 貿易の流れ、貿易に関する国際ルール、多国籍企業の市場参入について理解する ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う。	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジュメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4 時間
第11回	対面	【貿易取引の形態】 貿易の種類（輸出入、三国間貿易、加工貿易）や貿易の形態（売主、買主、代理人の関係）について理解する ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う。 ※中間試験またはレポート課題を課す	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジュメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4 時間
第12回	対面	【取引準備と契約交渉】 貿易取引の準備と契約締結に向けた準備について理解する ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う。	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジュメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4 時間
第13回	対面	【契約条件（インコタームズ）】 貨物の引渡しと危険負担の範囲および費用負担を定めるインコタームズについて理解する ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う。	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジュメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4 時間
第14回	対面	【日本の輸出入貿易管理制度】 輸出入管理法および該非判定などの管理制度について理解する ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う。	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジュメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4 時間
第15回	オンデ	【授業の総括】	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュ	4 時間

2026/05/01

	マンド	これまでの内容の総括を行う	メ)をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料(レジュメ)を読んで、重要な内容を復習しておくこと	

科目名	貿易論Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	高砂 謙二	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	貿易に関する理論と実践知識の修得		
授業の目的及び概要	現代において、海外との貿易取引なくして日本経済は成り立ちません。将来もグローバルな貿易取引がますます拡大していくものと考えられます。このような現状を踏まえ、本科目では貿易取引の基礎的な理論と貿易における代金決済やリスク、保険、クレーム、輸出入通関の手続き等の実践的な知識の習得を目指し、社会において実務に活かせる内容を提供します。したがって、「貿易実務検定C級」の資格取得を目指すことも指導します。 この授業は、「貿易論Ⅰ」に引き続き、国際貿易の理論的背景をもとに、貿易実務に欠かせない輸出入管理について取り上げます。授業で、貿易取引の形態についての特徴や役割等、貿易取引に欠かせない取引準備や契約交渉、代金決済方法、インコタームズ等の各種貿易の具体的な仕組み、それに輸出入規制に関する法令遵守等を説明します。さらに、インボイス等の輸出入通関書類の具体的な内容を説明しながら輸出入取引の全体的な流れを理解することを目標とします。		
履修条件・留意点	・本科目は対面授業で行う。授業に関する案内は、Learning Portal に記載します。 ・教材の公開は、学年暦に沿って、授業当日に公開します。 ・毎週の授業に関する課題（小テスト）を実施し、その提出・解答で出席と評価を行います。 ・授業に関する質問は、教室またはメールで質疑応答します。 ・中間試験および期末定期試験は対面で実施します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	以下の内容を到達レベルとします。 ・貿易の目的と意義を理論的に説明できる。 ・貿易における代金決済やリスクと保険、クレームについて理解できる。 ・輸出入通関の手続きについて理解できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストや、レポートまたは中間試験については、解答を示し、知識・理解の定着を図ります。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、金融機関において営業店や外国部、審査部、経営企画等で 16 年間勤務し、銀行業務全般や国際業務（外国為替リーディング業務、外為与信審査業務、国際経営・貿易相談業務、輸出入貿易書類点検業務）、法務・市場調査・広報等の実務経験を積んできた。本科目では、国際的なマーケットの実態や外国為替相場の特性などについて、こうした実務経験を活かして解説するなど、実践的な教育を行う。		
テキスト	なし（テキストは指定しないが、適宜レジュメを配布します）	ISBN	なし
参考書	①入門・貿易実務＜第3版＞、椿 弘次、日本経済新聞出版社、2011 年 ②図解 貿易実務ハンドブック ベーシック版 第7 版 「貿易実務検定®」C 級オフィシャルテキスト、日本貿易実務検定協会、日本能率協会マネジメントセンター、2020 年	ISBN	①978-4-532112448 ②978-4820728016
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	

	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	30
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	40
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	1. 本科目は、「貿易論Ⅰ（経営学部）」/「貿易論（貿易基礎）（経済学部）」を履修しておくことが望ましい。 2. 本科目は、理論と実践の両方をカバーすることを目指します。商社もしくは企業の海外業務担当部署や輸出入管理部署に関心があれば、履修することを勧めます。 3. 関連科目として、「国際経営概論」、「ビジネス取引法」を履修することを勧めます。 4. 将来、留学生も自国と日本とのビジネスに関わる事を想定して履修すること勧めます。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【ガイダンス】 授業の概要と進め方、評価方法、受講者の心得等の説明を行います ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジュメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4時間
第2回	対面	【貿易の意義と特色（応用）】 貿易の意義と概要および貿易を行う企業と業務について理解する ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジュメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4時間
第3回	対面	【伝統的貿易論（応用）①】 絶対優位論と比較優位論に加えて顕示的比較優位指数と貿易特化係数について理解する 特定の品目を事例に、貿易統計から貿易特化係数を求める演習を行う。 ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジュメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4時間
第4回	対面	【伝統的貿易論（応用）②および現代の貿易理論】 ・伝統的貿易論のヘクシャー=オリーンモデルに加えて生産可能性フロンティアについて理解する ・新貿易理論（クルーグマンの新貿易理論やメリッツの新々貿易論）と産業内貿易について理解する ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジュメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4時間
第5回	対面	【外国為替による代金決済①】 貿易における代金決済方法（L/C 決済、D/P、D/A 決済）と外国為替について理解する ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジュメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4時間

第6回	対面	【外国為替による代金決済②】 貿易における代金決済方法（外国為替送金）と外国為替について理解する ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジュメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4 時間
第7回	対面	【運送契約と貨物の受け渡し】 運送契約や船荷証券（B/L）について理解する ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジュメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4 時間
第8回	対面	【貿易取引のリスクと保険】 貿易における保険（海上保険、貿易保険、P/L 保険）について理解する ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う ※中間試験またはレポート課題を課す（授業の進行によって前後する場合がある）	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジュメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4 時間
第9回	対面	【契約条件（インコタームズ）】 11 種類の規則による費用負担と危険負担の違いについて理解する ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジュメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4 時間
第10回	対面	【輸出入通関の手続き①】 輸出通関の手続きおよび申告に必要な書類について理解する ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジュメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4 時間
第11回	対面	【輸出入通関手続き②】 輸入通関の手続きおよび申告に必要な書類について理解する ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジュメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4 時間
第12回	対面	【輸出入通関手続き③】 輸入消費税の仕組みおよび評価申告について理解する ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジュメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4 時間
第13回	対面	【運送クレームと貿易クレーム】 貿易におけるクレーム（運送クレームと貿易クレーム）について対処および手続きについて理解する ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料（レジュメ）を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4 時間
第14回	対面	【税関と事後調査】	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料（レジュメ）をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと	4 時間

		税関が貿易を行う企業に対して実施する「事後調査」について理解する ※授業期間中はラーニングポータルにおける小テストで理解度の評価を行う	メ)をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料(レジュメ)を読んで、重要な内容を復習しておくこと	
第15回	オンデマンド	【授業の総括】 これまでの内容の総括をオンデマンド授業で行う	・ラーニング・ポータルに掲載する授業資料(レジュメ)をプリントアウトし、授業前に読んで授業に臨むこと ・授業ではメモを録りながら、講義内容を理解すること ・授業後は、授業資料(レジュメ)を読んで、重要な内容を復習しておくこと	4時間

科目名	証券論	開講年度	2026 年度春学期
担当者	条井 淳子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	証券投資と企業金融		
授業の目的及び概要	政府は「貯蓄から投資へ」の基盤づくりとして iDeCo(個人型確定拠出年金)や NISA(少額投資非課税制度)などを創設するなどさまざまな改革を進めている。運用の成果は個人の選択によって変化することになるため、金融リテラシーとして、基本的な資産運用の知識は欠かせない。この授業は、企業の存在意義、その中でも特に株式会社を取り上げ、株式会社の資金調達手段において重要な役割を果たしている証券市場の仕組み、証券投資のリスクとリターン、証券の価格形成及び価格決定の要因といった証券投資に係る基礎知識を理解できることを目標とする。また、近年増加している投資信託、デリバティブ取引、オルタナティブ取引、グローバル投資や、個人投資家の資産を預かる機関投資家のスチュワードシップ責任についてもとりあげる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	金融経済を中心とする幅広い専門知識や、現代社会における証券投資や証券市場の重要性について理解し説明できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	確認テストについては授業中に講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『新・入門証券論』、榊原茂樹、城下賢吾、岡村秀夫、山口聖、月岡靖智、北島孝博著、有斐閣，2024 年	ISBN	9784641166370
参考書	会計・ファイナンスの基礎・基本 [改訂版]，島本克彦・条井淳子・引地夏奈子・藤原大花，創成社，2025 年 その他、授業中に提示します。	ISBN	9784794416025
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	ファイナンスは「資金調達」と訳されており、投資者サイドと企業サイドからの視点に分けて考えることができ、それぞれ「証券論」と「コーポレートファイナンス論」で取り上げています。この「証券論」の授業では、投資者サイドからのファイナンスを取り上げ、債券や株式への投資について学修します。 テキスト、参考書、書込み式の配布資料を用いて講義形式で授業を行い、また毎回、確認テストを実施します。確認テストは成績評価の対象です。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	証券と投資 証券の役割、証券の種類、金融市場、投資、 証券分析	【予習】事前にシラバスを確認し、テキストの第1章の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第1章の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第2回	対面	評価の基本原則 将来価値、現在価値、評価の基本原則	【予習】事前にテキストの第2章の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第2章の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第3回	対面	企業分析 財務諸表、株価と財務分析	【予習】事前にテキストの第3章の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第3章の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第4回	対面	債券市場	【予習】事前にテキストの第4章の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第4章の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第5回	対面	債券分析	【予習】事前にテキストの第5章の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第5章の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第6回	対面	株式市場	【予習】事前にテキストの第6章の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第6章の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第7回	対面	株式分析 行動ファイナンス	【予習】事前にテキストの第7章および第10章の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第7章および第10章の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第8回	対面	投資信託	【予習】事前にテキストの第8章の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第8章の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第9回	対面	ポートフォリオ理論と資本市場理論	【予習】事前にテキストの第9章の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第9章の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第10回	対面	デリバティブ市場	【予習】事前にテキストの第11章の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第11章の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第11回	対面	デリバティブ価格と投資戦略	【予習】事前にテキストの第12章の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第12章の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第12回	対面	グローバル投資と各国の証券投資	【予習】事前にテキストの第13章の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第13章の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第13回	対面	オルタナティブ投資	【予習】事前にテキストの第14章の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第14章の部分や配布資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第14回	対面	スチュワードシップ責任	【予習】事前にテキストの第15章の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第15章の部分や配布資料を読み	4時間

2026/05/01

			返し、講義で得た知識を確認してください。	
第15回	オンデマンド	まとめ	【予習】事前にテキストや配布資料をもとに復習しておきましょう。 【復習】テキストや配布資料をもとに復習し、講義で得た知識を確認してください。	4時間

科目名	銀行論	開講年度	2026 年度春学期
担当者	小巻 善郎	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	銀行の役割とその業務		
授業の目的及び概要	この銀行論を受講することによって、銀行が経済社会で果たしている役割・機能やその業務内容を知識を習得できることはもとより、実務経験に基づいた講義を通じて、社会に出てから必要となる金融全般の知識と、銀行を使った資金の運用・調達の知識を身につけることを目的としています。 授業では、制度的な面を中心にして、銀行の役割とその業務内容を学修します。 具体的には、まず銀行が金融市場で担っている役割を学び、次いで銀行の預金業務、貸出業務、為替業務、証券業務、国際業務などの業務の内容を学びます。加えて、明治期から現在までの銀行制度の歩みや、銀行の収益構造と収益動向、預金保険制度のしくみ、そして中央銀行である日本銀行の役割・機能を学ぶことにより、銀行の役割とその業務に対する理解を補強します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	以下の3点を学修の到達目標とします。 ・金融市場の構造と銀行が果たしている役割を理解できるようになる。 ・銀行の主な業務内容を理解できるようになる。 ・銀行の収益構造と収益動向を理解できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	パワーポイントを使った講義中心の授業を行います。パワーポイント資料は、事前にラーニングポータルに「授業レジュメ」として掲載します。 授業中に毎回小テストを行いますので、授業終了時にはその小テストに回答することが必要です。小テストの結果は、授業において口頭でフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当者は、都市銀行に26年間在職し、その間、支店や本部、海外支店において内部事務、営業・渉外、調査といった様々な業務に携わってきた。本科目では、そうした長年にわたる実務経験を通じて得た専門知識や知見などを授業に反映し、理論だけでなく具体的な事例の紹介などを基とした実践的な教育を行う。		
テキスト	テキスト指定はありません。	ISBN	なし
参考書	①図説 わが国の銀行，全国銀行協会企画部金融調査室，財経詳報社，2017	ISBN	①9784881774434
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	45	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	55	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講に	「銀行の経済社会における地位は、あたかも人体における心臓のようなものである」。19世紀		

あたって	のドイツの学者が述べた言葉です。 戦後のわが国の経済社会は大きな変貌を遂げ、銀行も大きな変化を遂げてきました。そうであっても、銀行が「人、企業、国・自治体などにお金という血液を送り込む心臓のような存在」であることは、今も昔も変わっていません。むしろ銀行の重要性は、一層高まっていると思います。 そうした銀行の姿を、証券会社など銀行以外の金融機関との比較も加えながら分かりやすく解説します。しっかりと学修してください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 授業の概要や進め方について、ガイダンスを行います。	・第1回授業レジュメを復習する。	4時間
第2回	対面	金融市場のしくみ 間接金融と直接金融、短期金融市場と長期金融市場などの金融市場のしくみについて学びます。	・参考書の第1章「わが国の金融構造」を予習する。 ・第2回授業レジュメを復習する。	4時間
第3回	対面	金融機関の種類 金融機関の種類について学ぶとともに、銀行の業態別の特徴について学びます。	・参考書の第2章「銀行の基本的機能」を予習する。 ・第3回授業レジュメを復習する。	4時間
第4回	対面	銀行の役割と機能 銀行の基本的な3つの機能（資金仲介・信用創造・資金決済）について学びます。	・参考書の第2章「銀行の基本的機能」を予習する。 ・第4回授業レジュメを復習する。	4時間
第5回	対面	預金業務 銀行の固有業務である預金業務で取り扱っている預金の種類のほか、信託、利子課税などについて学びます。	・参考書の第5章「預金業務」を予習する。 ・第5回授業レジュメを復習する。	4時間
第6回	対面	貸出業務① 銀行の固有業務である貸出業務の基本5原則と、企業向け貸出の種類、銀行取引約定書などについて学びます。	・参考書の第6章「貸出業務」を予習する。 ・第6回授業レジュメを復習する。	4時間
第7回	対面	貸出業務② 銀行の個人向けローンの種類、貸出のリスク管理、自己査定などについて学びます。	・参考書の第6章「貸出業務」を予習する。 ・第7回授業レジュメを復習する。	4時間
第8回	対面	為替業務 銀行の固有業務である為替業務の種類とともに、決済システムのしくみについて学びます。	・参考書の第7章「為替業務」を予習する。 ・第8回授業レジュメを復習する。	4時間
第9回	対面	証券業務・国際業務 銀行本体による証券業務と証券子会社等による証券業務の内容について学びます。 また、海外展開を中心とした銀行の国際業務について学びます。	・参考書の第9章「証券業務」、第11章「銀行の国際業務」を予習する。 ・第9回授業レジュメを復習する。	4時間
第10回	対面	銀行制度のこれまでの歩み わが国に銀行が創設された明治期以降、現在に至るまでのわが国の銀行制度の歩みについて学びます。	・参考書の第3章「我が国の金融制度と金融機関」を予習する。 ・第10回授業レジュメを復習する。	4時間
第11回	対面	銀行の収益動向 銀行の収益構造と、業態別（都市銀行、地方銀行、第二地銀、信託銀行、信用金庫、信用組合）の収益動向およびその要因を学びます。	・参考書の第13章「銀行の経営」を予習する。 ・第11回授業レジュメを復習する。	4時間
第12回	対面	預金保険制度 預金者の保護と破綻金融機関の資金決済の確保を目的とする預金保険制度のしくみについて学びます。	・参考書の第12章「銀行に対する規制・監督」を予習する。 ・第12回授業レジュメを復習する。	4時間

第13回	対面	金融サービスの新潮流 近年の銀行規制の緩和と、フィンテックなどの新たに登場してきた金融サービスについて学びます。	・参考書の第12章「銀行に対する規制・監督」を予習する。 ・第13回授業レジュメを復習する。	4時間
第14回	対面	日本銀行の機能 中央銀行である日本銀行の機能と役割について学びます。	・参考書の第3章「我が国の金融制度と金融機関」を予習する。 ・第14回授業レジュメを復習する。	4時間
第15回	オンデマンド	春学期の総括 春学期の学修内容の総括を行い、学期末の定期試験についての説明を行います。	・第15回授業レジュメを復習する。 ・学期末の定期試験に向けた春学期全体の復習を行う。	4時間

科目名	現代企業経営論 I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	岡野 寿彦	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	留学体験をキャリアで活かすための基礎知識と応用能力を学修する		
授業の目的及び概要	【目的】 (1) 海外留学から帰国した学生が、留学先での体験を知識として体系化し、キャリアでどのように活かしていくかを考え、継続的な学修、就職活動で実践する契機とする (2) 留学を計画する学生が、帰国学生からの報告・交流も活かして、留学目的を明確化しその実現に向け事前学修する (3) 海外からの留学生がグローバルビジネスへの関心を高め、自国企業との比較を通じて日本企業について理解する 【概要】 次の3分野の講義をベースとして、ディスカッション、成果発表などアウトプット機会を積極的に設ける。 ① 異文化マネジメント・コミュニケーション論、国際経営論、日本的経営論など経営学の基礎知識 ② 日本企業のグローバルビジネス、外資系著名企業の日本ビジネスと求められる人材・能力（事例分析） ③ 留学先国の国家戦略、産業・デジタル化等の動向、注目すべき企業、および世界の情勢		
履修条件・留意点	海外留学から帰国した学生、海外留学を計画している・関心がある学生、および留学生を受講対象として指定する		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 異文化マネジメント・コミュニケーション論、国際経営論、日本的経営論の基礎知識を理解し、留学での体験を経営学等理論と結び付けて説明できる 2. 日本企業のグローバルビジネス、外資系著名企業の日本におけるビジネスの動向と求められる人材について理解し説明できる 3. 留学先国（または関心ある国）の国家戦略、産業・デジタル化等の動向、注目すべき企業について関心を持ち、説明できる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートを翌週の授業で紹介し、質問への回答や補足説明をします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、情報・通信業の民間企業にて、中国でのプロジェクトのマネージャー（担当課長）、現地法人経営（経営トップとして戦略策定と組織管理）等を歴任しており、海外での豊富な業務経験を有している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	授業資料（レジュメ）については授業ごとに提示します。	ISBN	なし
参考書	① 多文化世界 -- 違いを学び未来への道を探る 原書第3版, ホフステード, 有斐閣, 2013年 ② 異文化理解力, エリン・メイヤー, 英治出版, 2015年	ISBN	① 9784641173897 ② 9784862762085
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	

	【定期試験】レポート試験	40
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	授業でのアウトプットを通じて留学体験を言語化し、就職活動において自信をもって語れる「ガクチカ力」を養いましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【オリエンテーション】 留学で学ぶ/学んだことをキャリアでどのように活かすか	【予習】シラバスの授業内容をよく読んでおいてください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	3.5時間
第2回	対面	【事例分析1】NTT データのグローバルビジネスと人材-1：アジア編	【予習】ラーニングポータルに掲載する授業資料（レジュメ）を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	4時間
第3回	対面	【事例分析1】NTT データのグローバルビジネスと人材-2：欧米編	【予習】ラーニングポータルに掲載する授業資料（レジュメ）を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	4時間
第4回	対面	異文化マネジメント論：ホフステード『多文化世界』等	【予習】ラーニングポータルに掲載する授業資料（レジュメ）を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	4時間
第5回	対面	海外留学から帰国した学生による報告→ディスカッション	【予習】ラーニングポータルに掲載する授業資料（レジュメ）を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	4時間
第6回	対面	外資系企業の日本におけるビジネスと求められる人材・能力	【予習】ラーニングポータルに掲載する授業資料（レジュメ）を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	4時間
第7回	対面	留学先国の国家戦略、産業、企業&世界の情勢①	【予習】ラーニングポータルに掲載する授業資料（レジュメ）を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	4時間
第8回	対面	【事例分析2】ダイキンのグローバルビジネスと人材マネジメント （※ 事例分析対象企業は変更する可能性があります）	【予習】ラーニングポータルに掲載する授業資料（レジュメ）を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	4時間
第9回	対面	中括、学修成果の発表1	【予習】学修成果の発表1の準備をしてください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	4時間
第10回	対面	国際経営論	【予習】ラーニングポータルに掲載する授業資料（レジュメ）を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	4時間
第11回	対面	留学先国の国家戦略、産業、企業&世界の情勢②	【予習】ラーニングポータルに掲載する授業資料（レジュメ）を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイントを見直してください。	4時間
第12回	対面	日本的経営論：中国企業経営者は日本企業の経営をどう見ているのか？	【予習】ラーニングポータルに掲載する授業資料（レジュメ）を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料（レジュメ）を読み直し、ポイント	4時間

			を見直してください。	
第13回	対面	〔事例分析3〕食品・外食企業のグローバルビジネスと人材マネジメント (※ 事例分析対象企業は変更する可能性があります)	【予習】ラーニングポータルに掲載する授業資料(レジュメ)を授業前に読んで授業に臨んでください。 【復習】授業資料(レジュメ)を読み直し、ポイントを見直してください。	4 時間
第14回	対面	学修成果の発表2、まとめ	【予習】学修成果の発表2の準備をしてください。 【復習】授業資料(レジュメ)を読み直し、ポイントを見直してください。	4 時間
第15回	オンデマンド	【振り返りとまとめ(オンデマンド)】 この授業のまとめを行います。	【予習】授業資料(レジュメ)を読み直し、ポイントを見直してください。 【復習】留学で学ぶ/学んだことをキャリアでどのように活かすか、考えと計画を整理してください。	4.5 時間

科目名	ビジネスプレゼンテーション	開講年度	2026 年度春学期
担当者	酒井 立夫	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	実社会でのプレゼンテーションの実践能力を身につける。		
授業の目的及び概要	ビジネスにおけるプレゼンテーションの手法を理解し、状況に応じたプレゼンの実践力を養うことを目的とする。 実社会でのプレゼンテーションとはどんなものか、構成の立て方・コミュニケーションと表現技術・視覚資料の作り方・動画の撮影や編集方法について講義を行う。 テーマ毎に資料を作成し発表する。 ディスカッションをしてスキルアップを図る。 ※受講人数等によっては授業計画の変更あり。		
履修条件・留意点	募集定員 25 名を越えた場合、レポートによる選抜試験を行ないます		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①プレゼンテーションを行うための基本や手法を説明することができる。 ②企画書や視覚資料を作りプレゼンテーションができる。 ③動画を組み合わせたプレゼンテーションができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	中間・最終発表後、授業中に口頭で講評をします。 また、発表中の撮影 VTR を見たあとでレポート提出、LearningPortal にて講評を掲載します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、36 年間、民間放送局でテレビ番組の企画・制作の他に、企業と連携した商品開発や、販売促進、大型イベントの運営等にも責任者として携わってきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	①必要に応じテキストを配布	ISBN	なし
参考書	①KP 法 シンプルに伝える紙芝居プレゼンテーション、川嶋直、みくに出版、2018 年 ②瞬時に「話す」「書く」技術、橋本淳司、すばる舎、2011 年 ③一生使える見やすい資料のデザイン入門 森重湧太、インプレス、2022 年	ISBN	①948-4-8403-0532-7 ②978-4-88399-986-6 ③978-4-8443-3963-2
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	40	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	ビジネスはもとより学生生活でも、相手に説明したり説得するにはプレゼンは欠かせません。デジタルツールはあくまで補助手段ですが、使い方によっては効果的なプレゼンが行えます。上達にはコミュニケーション及びプレゼンテーション技法を学び、発表とフィードバックを繰り返すことが大切です。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【ガイダンス】 授業の目的と方法、授業計画、到達目標、成績評価等について説明します	【事前】 シラバスを読み授業の目標を考えておいてください 【事後】 授業後目標について見直してください	2 時間
第2回	対面	【ビジネスにおけるプレゼンテーション事例】 目的・事例・ツール等 中間課題のテーマを出します	【事前】 配布資料を読んでおく 【事後】 講義内容の振り返り	4 時間
第3回	対面	【プレゼンテーションの構成①】 構成のたて方を学ぶ	【事前】 配布資料を読んでおく 【事後】 講義内容の振り返り	4 時間
第4回	対面	【プレゼンテーションの構成②】 見やすい資料作り・企画書を作る	【事前】 課題の企画書作成 【事後】 企画書を作りプレゼン準備	4 時間
第5回	対面	【強い言葉を作る表現技術】 プレゼンテーションに使う印象に残るフレーズの作り方	【事前】 課題の企画書作成 【事後】 企画書を作りプレゼン準備	6 時間
第6回	対面	【中間発表】 プレゼンテーション発表 フィードバック	【事前】 発表準備 【事後】 フィードバックを受けレポート提出	4 時間
第7回	対面	【コミュニケーションと表現技術】	【事前】 配布資料を読んでおく 【事後】 講義内容の振り返り	4 時間
第8回	対面	【デジタルツール動画編①】 わかりやすく伝える撮影のテクニック	【事前】 配布資料を読んでおく 【事後】 撮影後のプレビュー・補撮・編集準備	4 時間
第9回	対面	【デジタルツール動画編②】 わかりやすく伝える編集のテクニック	【事前】 配布資料を読んでおく 【事後】 粗編集	4 時間
第10回	対面	【デジタルツール動画編③・試写会】 わかりやすく伝えるテロップ・ナレーション・音効のテクニック	【事前】 配布資料を読んでおく 【事後】 完成した VTR を見て振り返り	4 時間
第11回	対面	【アナログツール・KP 法①】 環境教育で考案されたプレゼン手法を学ぶ	【事前】 配布資料を読んでおく 【事後】 講義内容の振り返り	4 時間
第12回	対面	【アナログツール・KP 法②】 課題に向けたリハーサルを KP 法で行う	【事前】 課題準備 【事後】 講義内容の振り返り	4 時間
第13回	オンデマンド	【まとめ】 最終プレゼンの発表前にこれまでの復習などを行う	【事前】 これまでの配布資料の見直しをする 【事後】 レポート提出	4 時間
第14回	対面	【最終発表①】 学んだ手法を交えてプレゼンテーション	【事前】 発表準備	6 時間

2026/05/01

		をする フィードバック	【事後】 フィードバックを受けレポート提出	
第15回	対面	【最終発表②及びまとめ】 学んだ手法を交えてプレゼンテーション をする フィードバック これまでのまとめと総括	【事前】 発表準備 【事後】 全体を振り返る	4時間

科目名	ビジネスプレゼンテーション	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	酒井 立夫	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	実社会でのプレゼンテーションの実践能力を身につける。		
授業の目的及び概要	ビジネスにおけるプレゼンテーションの手法を理解し、状況に応じたプレゼンの実践力を養うことを目的とする。 実社会でのプレゼンテーションとはどんなものか、構成の立て方・コミュニケーションと表現技術・視覚資料の作り方・動画の撮影や編集方法について講義を行う。 テーマ毎に資料を作成し発表する。 ディスカッションをしてスキルアップを図る。 ※受講人数等によっては授業計画の変更あり。		
履修条件・留意点	募集定員 25 名を越えた場合、レポートによる選抜試験を行ないます		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①プレゼンテーションを行うための基本や手法を説明することができる。 ②企画書や視覚資料を作りプレゼンテーションができる。 ③動画を組み合わせたプレゼンテーションができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	中間・最終発表後、授業中に口頭で講評をします。 また、発表中の撮影 VTR を見たあとでレポート提出、LearningPortal にて講評を掲載します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、36 年間、民間放送局でテレビ番組の企画・制作の他に、企業と連携した商品開発や、販売促進、大型イベントの運営等にも責任者として携わってきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	①必要に応じテキストを配布	ISBN	なし
参考書	①KP 法 シンプルに伝える紙芝居プレゼンテーション、川嶋直、みくに出版、2018 年 ②瞬時に「話す」「書く」技術、橋本淳司、すばる舎、2011 年 ③一生使える見やすい資料のデザイン入門 森重湧太、インプレス、2022 年	ISBN	①948-4-8403-0532-7 ②978-4-88399-986-6 ③978-4-8443-3963-2
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	40	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	ビジネスはもとより学生生活でも、相手に説明したり説得するにはプレゼンは欠かせません。デジタルツールはあくまで補助手段ですが、使い方によっては効果的なプレゼンが行えます。上達にはコミュニケーション及びプレゼンテーション技法を学び、発表とフィードバックを繰り返すことが大切です。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【ガイダンス】 授業の目的と方法、授業計画、到達目標、成績評価等について説明します	【事前】 シラバスを読み授業の目標を考えておいてください 【事後】 授業後目標について見直してください	2 時間
第2回	対面	【ビジネスにおけるプレゼンテーション事例】 目的・事例・ツール等 中間課題のテーマを出します	【事前】 配布資料を読んでおく 【事後】 講義内容の振り返り	4 時間
第3回	対面	【プレゼンテーションの構成①】 構成のたて方を学ぶ	【事前】 配布資料を読んでおく 【事後】 講義内容の振り返り	4 時間
第4回	対面	【プレゼンテーションの構成②】 見やすい資料作り・企画書を作る	【事前】 課題の企画書作成 【事後】 企画書を作りプレゼン準備	4 時間
第5回	対面	【強い言葉を作る表現技術】 プレゼンテーションに使う印象に残るフレーズの作り方	【事前】 課題の企画書作成 【事後】 企画書を作りプレゼン準備	6 時間
第6回	対面	【中間発表】 プレゼンテーション発表 フィードバック	【事前】 発表準備 【事後】 フィードバックを受けレポート提出	4 時間
第7回	対面	【コミュニケーションと表現技術】	【事前】 配布資料を読んでおく 【事後】 講義内容の振り返り	4 時間
第8回	対面	【デジタルツール動画編①】 わかりやすく伝える撮影のテクニック	【事前】 配布資料を読んでおく 【事後】 撮影後のプレビュー・補撮・編集準備	4 時間
第9回	対面	【デジタルツール動画編②】 わかりやすく伝える編集のテクニック	【事前】 配布資料を読んでおく 【事後】 粗編集	4 時間
第10回	対面	【デジタルツール動画編③・試写会】 わかりやすく伝えるテロップ・ナレーション・音効のテクニック	【事前】 配布資料を読んでおく 【事後】 完成した VTR を見て振り返り	4 時間
第11回	対面	【アナログツール・KP 法①】 環境教育で考案されたプレゼン手法を学ぶ	【事前】 配布資料を読んでおく 【事後】 講義内容の振り返り	4 時間
第12回	対面	【アナログツール・KP 法②】 課題に向けたリハーサルを KP 法で行う	【事前】 課題準備 【事後】 講義内容の振り返り	4 時間
第13回	オンデマンド	【まとめ】 最終プレゼンの発表前にこれまでの復習などを行う	【事前】 これまでの配布資料の見直しをする 【事後】 レポート提出	4 時間
第14回	対面	【最終発表①】 学んだ手法を交えてプレゼンテーション	【事前】 発表準備	6 時間

2026/05/01

		をする フィードバック	【事後】 フィードバックを受けレポート提出	
第15回	対面	【最終発表②及びまとめ】 学んだ手法を交えてプレゼンテーション をする フィードバック これまでのまとめと総括	【事前】 発表準備 【事後】 全体を振り返る	4時間

科目名	会計学	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	藤原 大花	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	会計学の基本的な知識とスキルを修得する。		
授業の目的及び概要	この授業は、「会計学基礎」で学んだ、財務会計、管理会計、監査といった会計学の各領域における学修の基礎をさらに身につけることを目標としている。会計とは企業活動を取引という形で把握し、一定のルールにしたがって貨幣単位に変換して測定・記録し、会計情報として情報利用者（代表的には、一般投資家・株主・債権者）に伝達する行為である。会計学という学問領域の全体像を理解し、経済社会、そして企業経営において果たされるべき会計の役割について説明できるようになることを目指す。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・財務会計に関する基礎理論を中心に会計学に関する専門用語及び理論を理解し、説明できる。 ・基本的な指標の理解を前提に、財務諸表分析を行い、その結果を評価できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	確認テストについては、採点後に返却したうえで、解説と講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、公認会計士（日本公認会計士協会会員）であり、監査法人にて様々な監査業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	〔改訂版〕会計・ファイナンスの基礎・基本，島本克彦・糸井淳子・引地夏奈子・藤原大花，創成社，2025 年	ISBN	9784794416025
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	30	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	ガイダンス 分析に使用する指標の確認	【事前学修】テキスト・配布資料の該当箇所を読み、予習しておくこと（2 時間程度）。 【事後学修】テキスト・配布資料の授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと（2 時間程度）。	4 時間

第2回	対面	経営分析① (外部環境の分析、経営戦略の分析、財務諸表分析)	【事前学修】テキスト・配布資料の該当箇所を読み、予習しておくこと(2時間程度)。 【事後学修】テキスト・配布資料の授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと(2時間程度)。	4時間
第3回	対面	経営分析② (外部環境の分析、経営戦略の分析、財務諸表分析)	【事前学修】テキスト・配布資料の該当箇所を読み、予習しておくこと(2時間程度)。 【事後学修】テキスト・配布資料の授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと(2時間程度)。	4時間
第4回	対面	経営分析③ (外部環境の分析、経営戦略の分析、財務諸表分析)	【事前学修】テキスト・配布資料の該当箇所を読み、予習しておくこと(2時間程度)。 【事後学修】テキスト・配布資料の授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと(2時間程度)。	4時間
第5回	対面	分析結果の中間報告	【事前学修】テキスト・配布資料の該当箇所を読み、予習しておくこと(2時間程度)。 【事後学修】テキスト・配布資料の授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと(2時間程度)。	4時間
第6回	対面	経営分析④ (外部環境の分析、経営戦略の分析、財務諸表分析)	【事前学修】テキスト・配布資料の該当箇所を読み、予習しておくこと(2時間程度)。 【事後学修】テキスト・配布資料の授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと(2時間程度)。	4時間
第7回	対面	経営分析⑤ (外部環境の分析、経営戦略の分析、財務諸表分析)	【事前学修】テキスト・配布資料の該当箇所を読み、予習しておくこと(2時間程度)。 【事後学修】テキスト・配布資料の授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと(2時間程度)。	4時間
第8回	対面	経営分析⑥ (外部環境の分析、経営戦略の分析、財務諸表分析)	【事前学修】テキスト・配布資料の該当箇所を読み、予習しておくこと(2時間程度)。 【事後学修】テキスト・配布資料の授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと(2時間程度)。	4時間
第9回	対面	分析結果の最終報告	【事前学修】テキスト・配布資料の該当箇所を読み、予習しておくこと(2時間程度)。 【事後学修】テキスト・配布資料の授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと(2時間程度)。	4時間
第10回	対面	財務会計(基礎理論)	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと(2時間程度)。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと(2時間程度)。	4時間
第11回	対面	財務会計(損益会計)	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと(2時間程度)。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと(2時間程度)。	4時間
第12回	対面	財務会計(資産会計)	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと(2時間程度)。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと(2時間程度)。	4時間
第13回	対面	小テスト(財務会計に関する理論)	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと(2時間程度)。	4時間

			【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと（2時間程度）。	
第14回	対面	ディスカッション（経営分析・財務会計）	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第15回	オンデマンド	まとめ	【事前学修】テキストの全頁を再度読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】テキストの授業で扱ったまとめの事項を、授業での説明事項とともに復習しておくこと（2時間程度）。	4時間

科目名	会計学	開講年度	2026 年度春学期
担当者	藤原 大花	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	会計学の基本的な知識とスキルを修得する。		
授業の目的及び概要	この授業は、「会計学基礎」で学んだ、財務会計、管理会計、監査といった会計学の各領域における学修の基礎をさらに身につけることを目標としている。会計とは企業活動を取引という形で把握し、一定のルールにしたがって貨幣単位に変換して測定・記録し、会計情報として情報利用者（代表的には、一般投資家・株主・債権者）に伝達する行為である。会計学という学問領域の全体像を理解し、経済社会、そして企業経営において果たされるべき会計の役割について説明できるようになることを目指す。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・財務会計に関する基礎理論を中心に会計学に関する専門用語及び理論を理解し、説明できる。 ・基本的な指標の理解を前提に、財務諸表分析を行い、その結果を評価できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	中間試験等については、採点後に返却したうえで、解説と講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、公認会計士（日本公認会計士協会会員）であり、監査法人にて様々な監査業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	〔改訂版〕会計・ファイナンスの基礎・基本，島本克彦・糸井淳子・引地夏奈子・藤原大花，創成社，2025 年	ISBN	9784794416025
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	40	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	・授業の【予習】と【復習】を怠らないようにしてください。 ・事前に通知した授業回には電卓（12 桁以上）を持参してください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	オンデマンド	ガイダンス 実力確認テスト（会計学基礎レベル）	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2 時間程度）。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと（2 時間程度）。	4 時間

第2回	オンデマンド	財務会計Ⅰ	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第3回	オンデマンド	財務会計Ⅱ（企業会計を支える仕組み）	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第4回	オンデマンド	連結会計	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第5回	オンデマンド	キャッシュ・フロー計算書（この回は配布資料で学修）	【事前学修】キャッシュフロー計算書のひな形を確認しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】配布資料を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第6回	オンデマンド	中間試験①	【事前学修】中間試験の範囲を復習し、試験の準備をしておくこと（4時間程度）。	4時間
第7回	オンデマンド	管理会計（中間試験の解説含む）	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第8回	オンデマンド	財務諸表分析Ⅰ	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第9回	オンデマンド	財務諸表分析Ⅱ	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第10回	オンデマンド	中間試験②	【事前学修】中間試験の範囲を復習し、試験の準備をしておくこと（4時間程度）。	4時間
第11回	オンデマンド	ファイナンス・税務会計（中間試験の解説含む）	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第12回	オンデマンド	監査	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第13回	オンデマンド	監査（分析）	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第14回	オンデマンド	国際会計	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと（2時間程度）。	4時間

			時間程度)。	
第15回	オンデマンド	まとめ	【事前学修】テキストの全頁を再度読み、予習しておくこと(2時間程度)。 【事後学修】テキストの授業で扱ったまとめの事項を、授業での説明事項とともに復習しておくこと(2時間程度)。	4時間

科目名	財務会計論Ⅰ		開講年度	2026 年度春学期
担当者	藤原 大花		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G3		授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目			
テーマ	財務会計理論の学修			
授業の目的及び概要	この授業は、簿記・会計の上級者を対象に開設されるものであり、会計専門職を目指すための土台となる知識を養うことが目的である。「初級簿記」・「中級簿記」・「上級簿記」といった複式簿記による技術的側面の学修を中心としたものに対し、なぜそのような仕訳をするのかという会計処理の理論的側面を学修するものである。この授業を履修することによって、会計学の基礎概念や会計基準の構造を理解することができ、税理士試験（財務諸表論）や公認会計士試験（財務会計）の基礎を修得することができる。			
履修条件・留意点	この科目は「会計学」と「中級簿記」の知識を前提とします。そのため、両科目の単位を修得していることが望ましいです。			
DP との関係	本科目と学位授与の方針（DP）との関係については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	・財務会計に関する基礎理論を理解し、説明できる。 ・主要な会計基準とその理論的問題や背景を理解し、説明することができる。 ・財務会計に関する理論を理解し、会計処理を説明できる			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	中間試験等は採点の上で解説します。授業で説明した内容の問いかけや疑問点の質問に回答します。			
アクティブ・ラーニングの取組み	反転授業／ディスカッション、ディベート、討議			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、公認会計士（日本公認会計士協会会員）であり、監査法人にて様々な監査業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。			
テキスト	レジュメを使用します。また、必要な資料（会計基準等）を適宜案内いたします。		ISBN	なし
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		100	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	この科目は、「上級簿記」を理論的に支える科目となります。税理士試験（財務諸表論）、公認会計士試験（財務会計）で出題される範囲全般を広く浅く取り上げる予定です。したがって、これらの受験を考えている人は、必ず履修してください。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	・ガイダンス ・実力確認テスト	会計学、中級簿記、上級簿記等のテキストを使用し、内容を思い出しやすくすること。	4 時間
第2回	対面	・財務会計の機能	配布資料を再度読み、授業での説明事項とともに復	4 時間

		・財務会計の基礎概念	習しておくこと。	
第3回	対面	・損益会計	配布資料を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第4回	対面	・損益会計	配布資料を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第5回	対面	・資産会計	配布資料を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第6回	対面	・概念フレームワーク（財務報告の目的・会計情報の質的特性）	配布資料を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第7回	対面	・概念フレームワーク（財務諸表の質的特性・財務諸表における認識と測定）	配布資料を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第8回	対面	・中間試験	・第7回目までの範囲の総復習を行い、中間試験に備えること。	6 時間
第9回	対面	・中間試験の解説と復習	【復習】 ・中間試験の復習を丁寧に行うこと 【予習】 ・次回のディスカッションテーマについて、各自調べてまとめてくること （以下を中心に調べること） ・会計基準（適用指針含む） ・論文 ・専門書 等	6 時間
第10回	対面	・自己株式	【復習】 配布資料を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと。 【予習】 ・次回のディスカッションテーマについて、各自調べてまとめてくること （以下を中心に調べること） ・会計基準（適用指針含む） ・論文 ・専門書 等	6 時間
第11回	対面	・研究開発費	・第10回（自己株式）及び第11回授業（研究開発費）の復習を実施すること	6 時間
第12回	対面	・実力確認問題の実施と復習	【復習】 配布資料を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと。 【予習】 ・次回のディスカッションテーマについて、各自調べてまとめてくること （以下を中心に調べること） ・会計基準（適用指針含む） ・論文 ・専門書 等	6 時間
第13回	対面	・棚卸資産と固定資産の期末評価	【復習】 配布資料を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと。 【予習】 ・次回のディスカッションテーマについて、各自調べてまとめてくること （以下を中心に調べること） ・会計基準（適用指針含む） ・論文 ・専門書 等	6 時間
第14回	対面	・引当金と資産除去債務	・配布資料を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	6 時間
第15回	オンデ	まとめ	・定期試験に向けて総復習を行うこと。	6 時間

2026/05/01

	マンド			

科目名	管理会計論	開講年度	2026 年度春学期
担当者	島本 克彦	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	管理会計の基礎・基本的な理論について学修する。		
授業の目的及び概要	管理会計に関する知識と技能を習得し、経営管理に必要な情報を利活する能力を身につける。 同時に経営戦略の意義とその重要性についても理解する。		
履修条件・留意点	工業簿記の日商簿記 2 級程度の基本的な知識が必要です。留意点として、必ずテキストを購入し、予習・復習を行ってください。なお、理由なき欠席は認めません。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業では、経営管理に役立つ会計情報を提供することを目的とする管理会計の領域を幅広く理解し、短期利益計画、予算編成、予算統制など管理会計の基礎・基本的理論および技法を学修する。そしてその学修することにより、企業を取り巻く環境の変化に伴って企業戦略が重要になっていることと、企業の業績の管理や短期的な意思決定など、会計情報を経営管理に活用することができるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題については、授業中に解説および講評を行う。		
アクティブ・ラーニング の取り組み	ディスカッション、ディバート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	エッセンシャル管理会計，谷武幸，中央経済社，2022 年	ISBN	978-4502439018
参考書	授業中に適宜指示します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	100	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事事前事後学修（予習・復習等）	事事前事後の学修時間
第 1 回	対面	授業の目標と進め方についてのオリエンテーションを行い、管理会計の基礎・基本の概略について学修する。	・事前学修は、テキスト「序章 管理会計を学ぶ」を読み、管理会計の枠組みを学習をしてください（2 時間程度）。 ・事後学修は、授業後にテキストの該当箇所を読み、授業内容を復習してしてください（2 時間）。	4 時間
第 2 回	対面	「第 1 章 管理会計の意義」経営管理・管理会計のアプローチについて学修する。	・事前学修は、テキスト「第 1 章 管理会計の意義」を読み、管理会計の枠組みを学習をしてください（2 時	4 時間

			間)。 ・事後学修は、授業後にテキストの該当箇所を読み、授業内容を復習しておくこと(2時間)。	
第3回	対面	「第2章 管理会計の基礎概念」原価概念・原価分解・計画の種類について学修する(2時間)。	・事前学修は、テキスト「第2章 管理会計の基礎概念」を読み、管理会計の基礎概念を学習してください(2時間)。 ・事後学修は、授業後にテキストの該当箇所を読み、授業内容を復習しておくこと(2時間)。	4時間
第4回	対面	「第3章 意思決定アプローチの方法」マネジメントコントロール・差額分析の原価概念について学修する。	・事前学修は、テキスト「第3章 意思決定アプローチの方法」を読み、意思決定の方法を学習してください(2時間)。 ・事後学修は、授業後にテキストの該当箇所を読み、授業内容を復習しておくこと(2時間)。	4時間
第5回	対面	「第4章 業績アプローチの方法」業績アプローチの意義・業績管理システムによる統合・責任センターの設定・管理可能性基準の適用について学修する(2時間)。	・事前学修は、テキスト「第4章 業績アプローチの方法」を読み、業績アプローチの方法を学習してください(2時間)。 ・事後学修は、授業後にテキストの該当箇所を読み、授業内容を復習しておくこと(2時間)。	4時間
第6回	対面	「第5章 原価管理」原価管理の意義・直接費・製造間接費の管理について学修する。	・事前学修は、テキスト「第5章 原価管理」を読み、原価管理の枠組みを学習してください(2時間)。 ・事後学修は、授業後にテキストの該当箇所を読み、授業内容を復習しておくこと(2時間)。	4時間
第7回	対面	授業テスト第1章から第5章	・事前学修は、授業テストの準備と復習をしてください(2時間)。 ・事後学修は、授業後にテスト項目の該当箇所を読み、テスト内容を復習しておくこと(2時間)。	4時間
第8回	対面	「第6章 長期経営計画」長期経営計画の意義・プロセス・部門の関与について学修する。	・事前学修は、テキスト「第6章 長期経営計画」を読み、長期経営計画について学習してください(2時間)。 ・事後学修は、授業後にテキストの該当箇所を読み、授業内容を復習しておくこと(2時間)。	4時間
第9回	対面	「第7章 設備投資計画」経済性計算・資本コストについて学修する。	・事前学修は、テキスト「第7章 設備投資計画」を読み、設備投資計画について学習してください(2時間)。 ・事後学修は、授業後にテキストの該当箇所を読み、授業内容を復習しておくこと(2時間)。	4時間
第10回	対面	「第8章 利益計画」利益管理・CVP関係の分析について学修する。	・事前学修は、テキスト「第8章 利益計画」を読み、利益計画について学習してください(2時間)。 ・事後学修は、授業後にテキストの該当箇所を読み、授業内容を復習しておくこと(2時間)。	4時間
第11回	対面	「第9章 予算管理」予算管理の意義・プロセス・運用・差異分析について学修する。	・事前学修は、テキスト「第9章 予算管理」を読み、予算管理について学習してください(2時間)。 ・事後学修は、授業後にテキストの該当箇所を読み、授業内容を復習しておくこと(2時間)。	4時間
第12回	対面	「第10章 事業部の業績管理」相互依存性の管理・事業部利益の測定・振替価格の設定について学修する。	・事前学修は、テキスト「第10章 事業部の業績管理」を読み、事業部の業績管理について学習してください(2時間)。 ・事後学修は、授業後にテキストの該当箇所を読み、授業内容を復習しておくこと(2時間)。	4時間
第13回	対面	「第11章 ABC/ABM」戦略管理会計・ABC・ABMについて学修する。	・事前学修は、テキスト「第11章 ABC/ABM」を読み、ABC/ABMについて学習してください(2時間)。 ・事後学修は、授業後にテキストの該当箇所を読み、授業内容を復習しておくこと(2時間)。	4時間
第14回	対面	「第12章 バランスト・スコアカード」バランスト・スコアカードの意義・視点について学修する。	・事前学修は、テキスト「第12章 バランスト・スコアカード」を読み、バランスト・スコアカードについて学習してください(2時間)。 ・事後学修は、授業後にテキストの該当箇所を読み、	4時間

			授業内容を復習しておくことさい（2時間）。	
第15回	オンデマンド	「第13章 原価企画」日本の管理会計について学修する。 管理会計全般についての振り返り	・事前学修は、テキスト「第13章 原価企画」を読み、原価企画について学習してください（2時間）。 ・事後学修は、授業後にテキストの該当箇所を読み、授業内容を復習し、定期テストの準備をしておくこと（2時間）。	4時間

科目名	原価計算論	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	藤原 大花	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	原価計算の基礎理論及び計算手法を学ぶ。		
授業の目的及び概要	この授業は、「工業簿記」の履修等を通じて、中級程度の工業簿記について十分な学修を行っている学生を対象に開設されるものであり、会計専門職を目指すための土台となる知識を養うことを目的とする。「日本商工会議所簿記検定 1 級」の検定試験で出題される範囲のみではなく、2 級の範囲に含まれる論点の復習や要点の整理を含めながら、原価計算の基礎知識を土台として、理論的に応用分野をも学修する。この授業を履修することによって、「日本商工会議所簿記検定 1 級（工業簿記・原価計算）」の基礎を修得することができる。		
履修条件・留意点	工業簿記の上位科目ですので、工業簿記の単位を取得している又は日商簿記 2 級を取得していることが望ましいです。 初回授業時に実力確認テストを実施します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・日商簿記検定 1 級レベルの製品原価計算の技法を修得し、使用できる。 ・原価計算の基礎理論を理解し、説明できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	各種テスト等は採点の上で解説します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	反転授業／ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、公認会計士（日本公認会計士協会会員）であり、監査法人にて様々な監査業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	初回授業で案内します。	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	100	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	原価計算は公認会計士や企業の経理担当といった会計に関する仕事に就くことを目標としている方には必要な知識です。また、原価計算の基礎理論や計算手法を身に付けることにより、企業のコスト管理を実施できるようになります。 日商簿記の最高峰である 1 級の取得は就職活動に有利なステータスとなります。本科目受講生は、是非日商簿記 1 級取得にチャレンジしてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	ガイダンス 実力確認テスト（工業簿記）	テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間

第2回	対面	原価計算総論 材料費会計	テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第3回	対面	労務費会計 経費会計	テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第4回	対面	製造間接費会計	テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第5回	対面	部門別計算	テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第6回	対面	個別原価計算	テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第7回	対面	単純総合原価計算	テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第8回	対面	工程別総合原価計算	テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第9回	対面	組別総合原価計算	テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第10回	対面	等級別総合原価計算	テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第11回	対面	連産品	テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第12回	対面	標準原価計算	テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第13回	対面	直接原価計算	テキストの授業で扱った箇所を再度読み、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第14回	オンデマンド	問題演習	実施した問題の復習を入念に実施すること	4 時間
第15回	対面	まとめ（定期試験に向けて）	定期試験に向けて総復習を行うこと。	4 時間

科目名	税務会計	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	島本 克彦	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	法人税法の規定による課税所得および税額の計算の学修。		
授業の目的及び概要	本授業における税務会計とは、企業会計の利益計算を前提に、法人税法の規定に従って課税所得および税額を計算するための会計のことをいいます。この授業では、企業会計の理解をふまえて、法人税法の規定にしたがって、法人が課税所得および税額を計算し、申告し、納税する一連の税務会計手続について解説します。また、テーマに関する事例について意見交換を行います。		
履修条件・留意点	日商簿記 2 級程度の基礎・基本知識が必要です。留意点として、テキストを必ず購入し、予習復習を行い、理由なき欠席をしないことです。財務会計の科目を履修していることが条件になります。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・税法における所得概念について会計との異同点について理解できる。 ・企業会計と法人税法の関係を理解したうえで、会計上の処理・手続と税務上の処理・手続の異同を説明することができる。 ・法人税法にしたがって、法人の課税所得および税額を計算することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・意見交換については、講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディバート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	現代税務会計論〈第 9 版〉, 成道 秀雄（監修）, 坂本雅士（著, 編集）, 中央経済グループパブリッシング, 2026 年。	ISBN	9784502583513
参考書	適宜配布、指示します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	100	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	この科目を深く理解するためには、簿記の知識と技能が必須です。また財務会計や税法の基礎理論を学ぶことを推奨します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	授業の概要及び到達目標、成績評価の方法等についてガイダンスを行ったあと、税務会計の概要について学びます。	・事前学修は、テキストの序章「税務会計を学ぶにあたって」を読み税務会計の体系を学習をしてください（2 時間程度）。	4 時間

			・事後学修は、授業後にテキストの該当箇所を読み、授業内容を復習しておくこと。(2時間)。	
第2回	対面	課税所得の計算構造―その1― 第1 確定決算主義 第2 企業会計と課税所得計算～通達の取扱い～ 第3 「別段の定め」と租税特別措置法	・事前学修は、テキスト第1章第1から第3を読み、税務会計の課税所得の計算構造を学習をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、授業後にテキストの該当箇所を読み、授業内容を復習しておくこと。(2時間程度)。	4時間
第3回	対面	課税所得の計算構造―その2― 第4 税務調整 第5 益金の範囲 第6 損金の範囲 第7 資本等取引	・事前学修は、テキスト第1章第4から第7を読み、税務会計の課税所得の計算構造を学習をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、授業後にテキストの該当箇所を読み、授業内容を復習しておくこと(2時間程度)。	4時間
第4回	対面	第2章 益金の会計 第1 収益の計上基準 第2 工事の請負	・事前学修は、テキスト第2章第1から第2を読み、益金の会計を学習をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、授業後にテキストの該当箇所を読み、授業内容を復習しておくこと(2時間程度)。	4時間
第5回	対面	第2章 益金の会計 第3 受取配当等 第4 有価証券の譲渡損益および評価損益 第5 その他の収益	・事前学修は、テキスト第2章第3から第5を読み、益金の会計を学習をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、授業後にテキストの該当箇所を読み、授業内容を復習しておくこと(2時間程度)。	4時間
第6回	対面	第3章 損金の会計 第1 売上原価 第2 固定資産の減価償却 第3 特別償却	・事前学修は、テキスト第3章第1から第3を読み、損金の会計を学習をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、授業後にテキストの該当箇所を読み、授業内容を復習しておくこと(2時間程度)。	4時間
第7回	対面	第3章 損金の会計 第4 資本的支出と修繕費 第5 繰延資産の償却 第6 給与等 第7 寄附金 第8 交際費等	・事前学修は、テキスト第3章第4から第8を読み、損金の会計を学習をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、授業後にテキストの該当箇所を読み、授業内容を復習し、授業テストの準備をしておくこと(2時間程度)。	4時間
第8回	対面	授業テスト―第1章から第3章	・事前学修は、授業テストの準備のための学習をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、授業後にテスト項目の該当箇所を読み、復習しておくこと(2時間程度)。	4時間
第9回	対面	第4章 課税所得・税額の計算 第1 課税所得計算と欠損金 第2 法人税額の計算 第3 税額控除	・事前学修は、テキスト第4章第1から第3を読み、課税所得・税額の計算を学習をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、授業後にテキストの該当箇所を読み、授業内容を復習しておくこと(2時間程度)。	4時間
第10回	対面	第5章 申告、納付、申告内容の是正等 第1 申告 第2 納付および還付 第3 申告内容の是正 第4 不服申立てと訴訟～審査請求前置主義～	・事前学修は、テキスト第5章を読み、申告、納付、申告内容の是正等を学習をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、授業後にテキストの該当箇所を読み、授業内容を復習しておくこと(2時間程度)。	4時間
第11回	対面	Ⅱ部第1章 同族会社課税 第1 同族会社に対する特別な取扱い 第2 同族会社の判定 第3 同族会社に対する特別規定 第4 特定同族会社の特別税率(留保金課税) 第5 留保金課税の計算	・事前学修は、テキストⅡ部第1章を読み、同族会社課税を学習をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、授業後にテキストの該当箇所を読み、授業内容を復習しておくこと(2時間程度)。	4時間
第12回	対面	Ⅱ部第2章 グループ通算制度 第1 グループ通算制度の概要	・事前学修は、テキストⅡ部第2章を読み、グループ通算制度を学習をしてください(2時間程度)。	4時間

		第2 グループ通算制度の申請と承認の効力等 第3 所得計算および法人税額の計算 第4 グループ通算制度の適用開始・新規加入に伴う資産の時価評価と欠損金の切捨て	・事後学修は、授業後にテキストの該当箇所を読み、授業内容を復習しておくこと（2時間程度）。	
第13回	対面	Ⅱ第④章 組織再編税制 第1 組織再編税制の概要 第2 適格組織再編と日適格組織再編 第3 非適格組織再編の取り扱い 第4 適格組織再編の取り扱い 第5 組織再編に係る租税回避防止の規定	・事前学修は、テキストⅡ第4章を読み、組織再編税制を学習をしてください（2時間程度）。 ・事後学修は、授業後にテキストの該当箇所を読み、授業内容を復習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第14回	対面	Ⅲ部第①章 国際課税の進展 第1 国際課税の枠組み 第2 外国法人に対する課税 第3 国際的~~二重~~課税への対応 第4 国内法における租税回避への対応	・事前学修は、テキストⅢ部第4章を読み、国際課税の進展を学習をしてください（2時間程度）。 ・事後学修は、授業後にテキストの該当箇所を読み、授業内容を復習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第15回	オンデマンド	課税所得および税額の計算の振り返りとまとめ。BEPSの内容。定期試験について。	・事前学修は、定期試験に向けた準備。復習をしてください（2時間程度）。 ・事後学修は、試験内容を振り返り、自己の解答の確認等をしてください（2時間程度）。	4時間

科目名	監査論	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	藤原 大花	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	会計監査の基礎理論を学ぶ		
授業の目的及び概要	現代の市場経済では、企業に対して財務内容の開示が求められており、開示の主要な手段である財務諸表については、その適正性に関して独立した公認会計士又は監査法人による監査が必要とされている。その意味で、財務諸表の監査は、市場経済を支える重要な役割を担っているといえる。この授業は、財務諸表監査を中心とした監査の目的や機能、我が国における監査制度、監査基準の構成、監査実施のプロセスについて学修し、監査制度についての理解を深めることが目的である。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ 職業的専門家が実施する監査の意義や制度を理解し、説明することができる。 ・ 監査の計画、実施及び報告に至る一連のプロセスを理解し、説明することができる。 ・ 財務分析の手法を用いて、財務諸表の異常値を発見できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	中間試験等は採点し、解説します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、公認会計士（日本公認会計士協会会員）であり、監査法人にて様々な監査業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	初回授業で案内します。	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	100	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	・ガイダンス ・財務諸表監査制度の成立とその目的	【復習】配布資料等を用いて、講義内容の復習を行う。	4 時間
第2回	対面	・経済社会を支える財務情報 ・監査を要請する法律	【復習】配布資料等を用いて、講義内容の復習を行う。	4 時間
第3回	対面	・監査を担当する専門家	【復習】配布資料等を用いて、講義内容の復習を行う。	4 時間

第4回	対面	・ 監査基準（目的基準と一般基準）	【復習】配布資料等を用いて、講義内容の復習を行う。	4 時間
第5回	対面	・ 監査の実施	【復習】配布資料等を用いて、講義内容の復習を行う。	4 時間
第6回	対面	・ 中間試験	今までの範囲を総復習し、中間試験に備えること	4 時間
第7回	オンデマンド	中間試験の解説	【復習】配布資料等を用いて、講義内容の復習を行う。	4 時間
第8回	対面	・ 監査の手続①	【復習】配布資料等を用いて、講義内容の復習を行う。	4 時間
第9回	対面	・ 監査の手続②	【復習】配布資料等を用いて、講義内容の復習を行う。	4 時間
第10回	対面	・ 監査結果の報告	【復習】配布資料等を用いて、講義内容の復習を行う。	4 時間
第11回	対面	・ ケーススタディ①	【復習】配布資料等を用いて、講義内容の復習を行う。	4 時間
第12回	対面	・ ケーススタディ②	【復習】配布資料等を用いて、講義内容の復習を行う。	4 時間
第13回	対面	・ ケーススタディ③	【復習】配布資料等を用いて、講義内容の復習を行う。	4 時間
第14回	対面	・ ケーススタディ④	【復習】配布資料等を用いて、講義内容の復習を行う。	4 時間
第15回	対面	・ まとめ	総復習し、定期試験に備えること	4 時間

科目名	経営分析 I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	向山 敦夫	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	財務諸表分析に関する基礎的知識の習得		
授業の目的及び概要	われわれが最も簡単に入手でき、かつ最も有用な情報は有価証券報告書です。企業を分析する主体は一般投資家（株主）・証券アナリスト・債権者（銀行）・ファンドマネジャー・従業員（労働組合）・大学生（潜在的従業員）などさまざまです。企業を分析する視角は、代表的には収益性と安全性ですが、将来性や成長性、CSR（企業の社会的責任）や ESG/サステナビリティ情報などの重要性が増しています。この授業では、有価証券報告書に掲載されている財務諸表（貸借対照表と損益計算書）を使ってさまざまな経営分析指標を説明し、また実際に算定することにより、企業を分析する知識の習得を目指します。		
履修条件・留意点	とくに履修に際しての条件はないが、会計関係科目の応用編であることに留意されたい。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ 学生が実際の企業の財務諸表を使って指標を算出し、企業業績・経営内容を分析することができるようになること。 ・ 自分が将来働きたいと思う企業や、名前は知っているけれども企業の内容は知らないという企業の財務諸表をみて、収益性や安全性を分析することができるようになること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	講義の進捗に合わせて、理解度を確かめるためのミニテストをおこない、翌週に返却して解答します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	とくに指定しません。PowerPoint の資料を使って説明します。	ISBN	なし
参考書	①ビジネススクールで教える経営分析，太田康広，日本経済新聞出版，2018 年 ②ビジュアル 経営分析の基本 〈第 5 版〉，佐藤裕一，日経文庫ビジュアル，2012 年	ISBN	①9784532113865 ②9784532119256
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	講義内容の理解を深めるために、期間中に 4 回のミニテスト（小テスト）をおこないます。ミニテストは提出のみをチェックし、翌週返却して解答します。過去の経験から言えば、単位取得率・成績評価は、出席率と強い相関を示しています（すなわち、講義に毎回出席し、きっちりミニテストをこなしていれば、講義内容は十分に理解できます）。成績評価の方法は第 1 回目に詳しく説明します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	講義の進め方・評価方法等についてガイダンスをおこないます。	【予習】シラバスを事前に読んでおいてください。 【復習】PowerPoint の資料や参考書などを確認しておいてください。	2 時間
第2回	対面	トライアングル体制と呼ばれた日本の会計制度の現状と歴史について解説し、財務情報の入手方法について説明します。	【予習】参考書や関連する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】PowerPoint の資料や関連する資料・参考書で「トライアングル体制」や財務情報の入手方法について確認しておいてください。	4 時間
第3回	対面	損益計算書と貸借対照表の構造について説明します。	【予習】参考書や関連する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】PowerPoint の資料や関連する資料・参考書で「損益計算書と貸借対照表の構造」について確認しておいてください。	4 時間
第4回	対面	経営分析の目的と機能について説明します。	【予習】参考書や関連する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】PowerPoint の資料や関連する資料・参考書で「経営分析の目的と機能」について確認しておいてください。	4 時間
第5回	対面	損益計算書を用いて、企業の収益性分析の指標について説明します	【予習】参考書や関連する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】PowerPoint の資料や関連する資料・参考書で「収益性分析の指標」を確認しておいてください。	4 時間
第6回	対面	損益計算書を用いて、企業の収益性分析の指標について説明します（売上と利益の関係）。	【予習】参考書や関連する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】PowerPoint の資料や関連する資料・参考書で「売上高利益率」について確認しておいてください。	4 時間
第7回	対面	損益計算書を用いて、企業の収益性分析の指標について説明します（資本と利益の関係）。	【予習】参考書や関連する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】PowerPoint の資料や関連する資料・参考書で「資本利益率」について確認しておいてください。	4 時間
第8回	対面	貸借対照表を用いて、企業の安全性分析の指標について説明します（流動性指標を中心に）。	【予習】参考書や関連する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】PowerPoint の資料や関連する資料・参考書で「安全性分析の指標（とくに流動性指標）」を確認しておいてください。	4 時間
第9回	対面	貸借対照表を用いて、企業の安全性分析の指標について説明します（固定性指標を中心に）。	【予習】参考書や関連する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】PowerPoint の資料や関連する資料・参考書で「安全性分析の指標（とくに固定性指標）」を確認しておいてください。	4 時間
第10回	対面	貸借対照表を用いて、企業の安全性分析の指標について説明します（資本構成を中心に）。	【予習】参考書や関連する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】PowerPoint の資料や関連する資料・参考書で「安全性分析の指標（とくに資本構成）」を確認しておいてください。	4 時間
第11回	対面	実際の企業の財務諸表を利用して、経営内容を分析します（1）。	【予習】これまでの PowerPoint の資料や参考書で財務諸表を分析するための諸指標について事前に確認しておいてください。 【復習】実際の企業の財務諸表を使って分析した内容を確認しておいてください。	4 時間
第12回	対面	実際の企業の財務諸表を利用して、経営内容を分析します（2）。	【予習】これまでの PowerPoint の資料や参考書で財務諸表を分析するための諸指標について事前に確認しておいてください。 【復習】実際の企業の財務諸表を使って分析した内	4 時間

			容を確認しておいてください。	
第13回	対面	実際の企業の財務諸表を利用して、経営内容を分析します(3)。	【予習】これまでの PowerPoint の資料や参考書で財務諸表を分析するための諸指標について事前に確認しておいてください。 【復習】実際の企業の財務諸表を使って分析した内容を確認しておいてください。	4 時間
第14回	対面	財務諸表分析の意義と限界について説明します。	【予習】参考書や関連する資料を事前に読んでおいてください。 【復習】PowerPoint の資料や関連する資料・参考書で「財務諸表分析の意義と限界」について確認しておいてください。	4 時間
第15回	オンデマンド	講義の全体の流れを振り返ります。	【予習】これまでの PowerPoint の資料・これまで実施したミニ・テスト等を事前に確認しておくこと。 【復習】これまでの PowerPoint の資料・これまで実施したミニ・テスト等を確認し、講義を通じて得られた経営分析の知識を復習すること。	6 時間

科目名	経営分析 I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	川口 将輝	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	財務諸表に関する知識及び財務分析の手法の基本の修得。		
授業の目的及び概要	財務分析は、財務諸表から企業の財政状態や経営成績などを読み取るための分析手法であり、現代のビジネス現場において必要とされる知識・技能の一つです。本科目は、財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書）の基本構造等や財務分析の手法（収益性、安全性、成長性など）を理解し、その手法を用いて収益性、安全性、成長性等を分析し、分析結果を評価できるようになることを目指します。		
履修条件・留意点	－		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書）の基本構造等を理解し、説明することができる。 ・財務分析の手法を用いて収益性・安全性・成長性などを分析し、分析結果を評価することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	中間テストは返却し、解説と講評を行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、公認会計士（日本公認会計士協会会員）であり、監査法人にて様々な監査業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	学部生のための企業分析テキスト[改訂版] ー業界・経営・財務分析の基本ー, 高橋聡・福川裕徳・三浦敬, 創成社, 2024 年	ISBN	9784794415905
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容	－	
この科目の受講にあたって	財務分析は、現代のビジネス現場において必要とされる知識・技能の一つです。興味・関心のある学生はぜひ履修してください。 【注意事項】 ・事前に通知した授業回は電卓（12 桁以上）を持参すること。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	ガイダンス後、分析の概要、なぜ財務分析を行うのかについて学びます。	【事前学修】テキストの Chapter1「分析の概要」（p.1-12）、Chapter4「財務分析」（pp.66-69）を事前に	4 時間

			読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	
第2回	対面	貸借対照表について学びます。	【事前学修】テキストのChapter4「財務分析」(pp. 69-74)を事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第3回	対面	損益計算書について学びます。	【事前学修】テキストのChapter4「財務分析」(pp. 74-79)を事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第4回	対面	キャッシュ・フロー計算書について学びます。	【事前学修】テキストのChapter4「財務分析」(pp. 79-83)を事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第5回	対面	財務分析の流れについて学びます。	【事前学修】テキストのChapter4「財務分析」(pp. 84-90)を事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第6回	対面	収益性の分析について学びます。	【事前学修】テキストのChapter4「財務分析」(pp. 90-102)を事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第7回	対面	安全性の分析について学びます。	【事前学修】テキストのChapter4「財務分析」(pp. 102-107)を事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第8回	対面	成長性の分析について学びます。	【事前学修】テキストのChapter4「財務分析」(pp. 107-113)を事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第9回	対面	キャッシュ・フロー計算書を用いた財務分析①について学びます。	【事前学修】テキストのChapter4「財務分析」(pp. 113-119)を事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第10回	対面	キャッシュ・フロー計算書を用いた財務分析②について学びます。	【事前学修】テキストのChapter4「財務分析」(pp. 120-126)を事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第11回	対面	中間試験	【事前学修】中間試験に向けてテキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第12回	対面	中間試験の解説後、事例に向けた説明を行います。	【事前学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。 中間試験で間違えた箇所について、テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	6 時間
第13回	対面	事例①について学びます。	【事前学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。 【事後学修】配布資料、テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第14回	対面	事例②について学びます。	【事前学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。 【事後学修】配布資料、テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第15回	オンデ	定期試験に向けて、これまでの内容のまとめ	定期試験に向けて配布資料、テキスト等を読み直し、	6 時間

2026/05/01

	マンド	めをオンデマンドで配信します。	授業での説明事項とともに復習しておくこと。	

科目名	経営分析Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	向山 敦夫	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	財務諸表分析に関する応用的知識の習得		
授業の目的及び概要	企業を分析する主体は、一般投資家（株主）・証券アナリスト・債権者（銀行）・信用調査会社・ファンドマネジャー・従業員（労働組合）・大学生（潜在的従業員）などさまざまです。企業を分析する視角は、代表的には収益性や安全性ですが、将来性や成長性、CSR（企業の社会的責任）や ESG/サステナビリティ情報などの重要性が増しています。この授業では「経営分析Ⅰ」の知識を前提にして、授業の前半（第 1 回～第 8 回）は講義形式、授業の後半（第 9 回～第 14 回）は受講生自身でさまざまな経営分析指標を用いて有価証券報告書に掲載されている財務諸表（貸借対照表と損益計算書）を分析するプレゼンテーションをおこないます。		
履修条件・留意点	「経営分析Ⅰ」の上位科目であり、「経営分析Ⅰ」を履修済みであることを強く推奨する。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ 学生が実際の企業の財務諸表を使って指標を算出し、企業業績・経営内容を分析することができるようになること。 ・ 自分が将来働きたいと思う企業や、名前は知っているけれども企業の内容は知らないという企業の財務諸表をみて、収益性や安全性を分析することができるようになること。 ・ 学生が ESG/サステナビリティ情報を分析することにより、多角的に企業を分析・評価することができるようになること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	講義の進捗に合わせて理解度を確かめるためにミニテストをおこない、返却して解答します。受講生によるプレゼンテーションに対しては、他の受講生からコメントシートを提出してもらいます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	とくに指定しません。PowerPoint の資料を使って説明します。	ISBN	なし
参考書	①ビジネススクールで教える経営分析，太田康広，日本経済新聞出版，2018 年 ②ビジュアル 経営分析の基本 〈第 5 版〉，佐藤裕一，日経文庫ビジュアル，2012 年	ISBN	①9784532113865 ②9784532119256
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	第 1 回目の授業で詳しく説明しますが、一人 2 回ずつ、PowerPoint の資料を作成してプレゼンテーションをおこないますので、PowerPoint の使い方に慣れておいてください。 他の受講生の迷惑になる行為は慎むこと。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	講義の進め方・評価方法等についてガイダンスをおこないます。	【予習】シラバスを事前に読んでください。 【復習】PowerPoint の資料や参考書などを確認しておいてください。	2 時間
第2回	対面	トライアングル体制と呼ばれた日本の会計制度の変革について解説するとともに、財務情報の入手方法について説明します。	【予習】参考書や関連する資料を事前に読んでください。 【復習】PowerPoint の資料や関連する資料・参考書で「トライアングル体制」や財務情報の入手方法について確認しておいてください。	4 時間
第3回	対面	損益計算書と貸借対照表の構造について説明します。	【予習】参考書や関連する資料を事前に読んでください。 【復習】PowerPoint の資料や関連する資料・参考書で「損益計算書と貸借対照表の構造」について確認しておいてください。	4 時間
第4回	対面	損益計算書を中心にして、企業の収益性分析の指標について説明します。	【予習】参考書や関連する資料を事前に読んでください。 【復習】PowerPoint の資料や関連する資料・参考書で「収益性分析の指標」を確認しておいてください。	4 時間
第5回	対面	貸借対照表を中心にして、企業の安全性分析の指標について説明します。	【予習】参考書や関連する資料を事前に読んでください。 【復習】PowerPoint の資料や関連する資料・参考書で「安全性分析の指標」を確認しておいてください。	4 時間
第6回	対面	損益分岐点分析について説明します。	【予習】参考書や関連する資料を事前に読んでください。 【復習】PowerPoint の資料や関連する資料・参考書で「損益分岐点分析」について確認しておいてください。	4 時間
第7回	対面	証券投資で用いられる基本的な指標（PER と PBR）について解説します。	【予習】参考書や関連する資料を事前に読んでください。 【復習】PowerPoint の資料や関連する資料・参考書で「PER と PBR」を確認しておいてください。	4 時間
第8回	対面	CSR（企業の社会的責任）や ESG/サステナビリティ情報の分析について説明します。	【予習】参考書や関連する資料を事前に読んでください。 【復習】PowerPoint の資料や関連する資料・参考書で「CSR/ESG 情報」について確認しておいてください。	4 時間
第9回	対面	これまでの講義内容のとりまとめをおこないます。また、第1回目のプレゼンテーションについての説明をおこないます。	【予習】PowerPoint の資料や関連する資料をもとに、プレゼンテーション用の資料を作成してください。 【復習】プレゼンテーションに対してコメントシートを提出するとともに、PowerPoint の資料の修正点を確認しておいてください。	4 時間
第10回	対面	具体的な企業の財務諸表を利用して経営内容を分析し、第1回目のプレゼンテーションをおこないます（1）。	【予習】PowerPoint の資料や関連する資料をもとに、プレゼンテーション用の資料を作成してください。 【復習】プレゼンテーションに対してコメントシートを提出するとともに、PowerPoint の資料の修正点を確認しておいてください。	4 時間
第11回	対面	具体的な企業の財務諸表を利用して経営内容を分析し、第1回目のプレゼンテーションをおこないます（2）。	【予習】PowerPoint の資料や関連する資料をもとに、プレゼンテーション用の資料を作成してください。 【復習】プレゼンテーションに対してコメントシートを提出するとともに、PowerPoint の資料の修正点を確認しておいてください。	4 時間
第12回	対面	具体的な企業の財務諸表を利用して経営内容を分析し、第1回目のプレゼンテーションをおこないます（3）。	【予習】PowerPoint の資料や関連する資料をもとに、プレゼンテーション用の資料を作成してください。 【復習】プレゼンテーションに対してコメントシートを提出するとともに、PowerPoint の資料の修正点を確認しておいてください。	4 時間

第13回	対面	具体的な企業の財務諸表を利用して経営内容を分析し、第1回目のプレゼンテーションで指摘された課題を修正して、第2回目のプレゼンテーションをおこないます（4）。	【予習】PowerPointの資料や関連する資料をもとに、プレゼンテーション用の資料を作成してください。 【復習】プレゼンテーションに対してコメントシートを提出するとともに、PowerPointの資料の修正点を確認しておいてください。	4時間
第14回	対面	具体的な企業の財務諸表を利用して経営内容を分析し、第1回目のプレゼンテーションで指摘された課題を修正して、第2回目のプレゼンテーションをおこないます（5）。	【予習】PowerPointの資料や関連する資料をもとに、プレゼンテーション用の資料を作成してください。 【復習】プレゼンテーションに対してコメントシートを提出するとともに、PowerPointの資料の修正点を確認しておいてください。	4時間
第15回	オンデマンド	講義の全体の流れを振り返ります。	【予習】これまでのPowerPointの資料・これまで実施したミニ・テスト等を事前に確認しておくこと。 【復習】これまでのPowerPointの資料・これまで実施したミニ・テスト等を確認し、講義を通じて得られた経営分析の知識を復習すること。	6時間

科目名	経営分析Ⅱ		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	川口 将輝		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G3		授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目			
テーマ	財務諸表に関する知識及び財務分析の手法の応用の修得。			
授業の目的及び概要	経営分析は、企業が開示するデータから事業内容や経営戦略などを踏まえ財政状態や経営成績等を読み取るための分析手法であり、現代のビジネス現場において必要とされる知識・技能の一つです。本科目は、「経営分析Ⅰ」で学修した知識・手法を前提として、前半（第1回～第5回）は財務数値の裏側にある事業内容や経営戦略などの分析手法について学修し、後半（第6回～第14回）は事例分析を通じてそれらを踏まえた財務分析の結果から企業の財政状態及び経営成績等を評価できるようになることを目指します。			
履修条件・留意点	本科目は、「経営分析Ⅰ」の上位科目であり、「経営分析Ⅰ」の単位を取得していることを推奨します。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	・ 企業の事業内容や経営戦略などの分析手法について理解し、説明できる。 ・ 企業の事業内容や経営戦略などの分析を踏まえた財務分析の結果から企業の財政状態及び経営成績等を評価することができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	中間テストは返却し、解説と講評を行う。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、公認会計士（日本公認会計士協会会員）であり、監査法人にて様々な監査業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。			
テキスト	学部生のための企業分析テキスト[改訂版] ー業界・経営・財務分析の基本ー, 高橋聡・福川裕徳・三浦敬, 創成社, 2024 年		ISBN	9784502299612
参考書	ー		ISBN	ー
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		30	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		50	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		0	
	その他の内容		ー	
この科目の受講にあたって	本科目は、経営分析Ⅰで学修した財務分析を前提として、企業の事業内容や経営戦略などを踏まえた分析手法について学修することで、企業の財政状態及び経営成績等を評価できるようになることを目指します。「経営分析Ⅰ」の単位を取得しており、さらに深く経営分析を学びたい学生はぜひ履修してください。 【注意事項】 ・ 電卓（12 桁以上）を持参してください。 ・ ディスカッションを行うため、積極的に参加してください。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス後、実力確認テストを行います。	【事前学習】テキスト Chapter1「分析の概要」、Chapter4「財務分析」を読み直し、経営分析Ⅰで学修した内容について復習すること。 【事後学修】実力確認テストで間違えた箇所について復習しておくこと。	6 時間
第2回	対面	業界分析について学びます。	【事前学修】テキストの Chapter2「業界分析」（pp. 13-33）を事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第3回	対面	経営分析について学びます。	【事前学修】テキストの Chapter2「業界分析」（pp. 33-55）を事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第4回	対面	業界分析・経営分析と財務分析の関係について学びます。	【事前学修】テキストの Chapter3「業界分析・経営分析と財務分析の関係」（pp. 56-65）を事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第5回	対面	分析結果を踏まえた考察について学んだ後、事例分析に向けた説明を行います。	【事前学修】テキストの Chapter5「分析結果を踏まえた考察・総合判断」（pp. 129-136）を事前に読んでおくこと。 【事後学修】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第6回	対面	事例分析①	【事前学習】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。 【事後学修】テキスト・配布資料等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第7回	対面	事例分析①	【事前学習】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。 【事後学修】テキスト・配布資料等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第8回	対面	事例分析①	【事前学習】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。 【事後学修】テキスト・配布資料等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第9回	対面	事例分析①	【事前学習】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。 【事後学修】テキスト・配布資料等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第10回	対面	事例分析①	【事前学習】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。 【事後学修】テキスト・配布資料等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第11回	対面	事例分析②	【事前学習】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。 【事後学修】テキスト・配布資料等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第12回	対面	事例分析②	【事前学習】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。 【事後学修】テキスト・配布資料等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第13回	対面	事例分析②	【事前学習】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。 【事後学修】テキスト・配布資料等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間

2026/05/01

第14回	対面	事例分析②	【事前学習】テキスト等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。 【事後学修】テキスト・配布資料等を読み直し、授業での説明事項とともに復習しておくこと。	4 時間
第15回	オンデマンド	まとめ	テキスト等を読み直し、期末レポートに向けて復習しておくこと。	6 時間

科目名	情報管理論	開講年度	2026 年度春学期
担当者	山本 訓弘	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	現代社会の人々の意思決定や行動は、多種多様な情報に基づいてなされている。本講義では「情報を整理・活用し、自分の考えを文章で伝えるための基礎を学ぶ」を講義する。		
授業の目的及び概要	現代社会では、意思決定や行動の多くが多様な情報に基づいて行われている。本講義では、情報の基本的な考え方や管理の方法を学び、情報を整理・活用する力を身につけることを目的とする。 あわせて、大学での学修に必要な基礎的能力として、90 分間機に向かい、講義内容を整理し、短い文章としてまとめて提出する学習習慣の定着を重視する。授業内での演習や文章作成を通じて、情報を自分の言葉で説明する力を養う。		
履修条件・留意点	本講義では、毎回の授業内で短い文章作成やミニ課題の提出を行う。授業中に指示された提出物は学修プロセスの一部であり、期限内提出を原則とする。 遅刻、学生証忘れ、提出漏れは学修機会の損失につながるため、授業内で定めるルールに従って対応する。 生成 AI（ChatGPT 等）は、情報整理や発想補助としての利用に限り認めるが、最終的な文章は受講生自身の言葉で作成することを求める。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 情報の基本的な概念を理解し、現代社会における情報管理の役割を説明できる。 2. 講義内容の要点を整理し、100～300 字程度の文章としてまとめることができる。 3. 指定された構成に沿って、自分の考えを文章で表現できる。 4. 授業内のルール（時間・提出・形式）を守り、学修を継続できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内ミニ課題・提出物：30% グループディスカッションへの参加・取組み：30% 【定期試験】筆記試験（対面）：40%		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、町の観光協会の役割を担う一般社団法人吉野ビジターズビューローにて、観光振興コンサルティングや調査を行う業務に 6 年間従事してきた。また、ビデオゲーム開発職に 18 年従事し、プロジェクトマネジメントを行う経験も有する。観光振興の実践的な知識に加え、情報管理など、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	指定のテキストはありません。必要な資料は授業内で配布します。	ISBN	なし
参考書	必要に応じて授業内で紹介します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	40	
	その他（%）	0	
	その他の内容	授業内ミニ課題・提出物：30%	

		グループディスカッションへの参加・取り組み：30% 【定期試験】筆記試験（対面）：40% 出席率、講義への取り組みも配慮します。
この科目の受講にあたって	本講義では、現代社会にあふれる情報を整理し、自分の考えを文章で伝えるための基礎を学びます。情報管理は、特別な専門職だけでなく、大学でのレポート作成や将来の仕事、日常生活における判断や行動にも深く関わる力です。 本講義では、知識を覚えることだけを目的とせず、授業内での短い文章作成や演習を通じて、「聞く・考える・書く・提出する」という大学での基本的な学修習慣を身につけることを重視します。最初は文章を書くことに難しさを感じるかもしれませんが、毎回の課題に取り組むことで、少しずつ慣れていくことができます。 また、生成 AI などの新しい技術についても取り上げますが、道具に頼りきるのではなく、自分の言葉で考えを表現することを大切にします。授業内での指示を守り、継続して取り組むことで、本講義は卒業後にも役立つ基礎力を身につける機会となるでしょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	第1回 大学で「情報」と「管理」を学ぶとは(オリエンテーション)授業の進め方、評価方法、ルールの説明 情報管理を学ぶ意義 【演習】3行ミニ提出（理解点・疑問点）	復習：授業内容の振り返りを行う	1時間
第2回	対面	第2回 情報とは何か①(情報の収集と評価)情報の定義 情報の収集・整理・評価 【演習】要約100字（途中提出あり）	予習：情報の収集・分析・評価について調べる 復習：授業内容の振り返りを行う	2.5時間
第3回	対面	第3回 情報とは何か②(情報から行動へ)情報を活かした行動・意思決定 売り手と買い手の情報量 【演習】PREP形式200字文章作成	予習：google 検索で、中古市場、売り手と買い手の情報量について調べる 復習：授業内容の振り返りを行う	2.5時間
第4回	対面	第4回 生成 AI の使いどころ・ダメどころ生成 AI の特徴と限界／本講義における生成 AI の扱い方 【演習】AI 文章と自分の文章の比較	予習：生成 AI の使える環境を準備 復習：授業内容の振り返りを行う	3時間
第5回	対面	第5回 管理とは何か①(CRM)CRM(顧客関係管理)の考え方／顧客情報を管理する意味	予習：google 検索で、CRM について調べる 復習：授業内容の振り返りを行う	3時間
第6回	対面	第6回 管理とは何か②・経営戦略マネジメント顧客価値・One to One マーケティング／経営戦略の基本(SWOT等) 【演習】簡単な戦略整理	予習：google 検索等で、経営戦略の基本(SWOT等)について調べておく 復習：授業内容の振り返りを行う	6時間
第7回	対面	第7回 グループディスカッション①(意見整理)グループディスカッションの進め方・評価方法 テーマ：「大学で学ぶことについて、どうすればコストパフォーマンスがよくなるか」 ※途中までの意見整理を行い、最終的に個人レポートとして提出	予習：自分自身で「大学で学ぶことについて、どうすればコストパフォーマンスがよくなるか」を考えておく 復習：個人レポートとして提出	6時間
第8回	対面	第8回 文章で「伝える」①(文章の型)分かりやすい文章の特徴／PREP形式の確認 【演習】文章の書き直し	予習：PREP形式について調べる 復習：分かりやすい文章の復習	6時間
第9回	対面	第9回 文章で「伝える」②(要約と根拠)要約の方法／引用・根拠の示し方 【演習】記事要約	予習：伝える方法を予習する。 復習：授業内容の振り返りを行う	3時間

第10回	対面	第10回 文章で「伝える」③ (AI時代のレポート) AI的文章の特徴/自分の言葉で書く方法 【演習】文章改善課題	予習: 事前に生成AIの活用に慣れる 復習: 授業内容の振り返りを行う	3時間
第11回	対面	第11回 ナレッジマネジメントナレッジマネジメントの考え方 テーマ: 「アルバイトのコツをマニュアル化する」	予習: google 検索で、ナレッジマネジメントについて調べる 復習: 授業内容の振り返りを行う	3時間
第12回	対面	第12回 グループディスカッション②準備チームビルディング/暗黙知の形式知化	予習: ナレッジマネジメント「形式知・暗黙知」を調べる 復習: 授業内容の振り返りを行う	3時間
第13回	対面	第13回 グループディスカッション②発表グループ発表/質疑応答/講評	予習: 各自発表の準備をする 復習: ふりかえりを提出日までに提出すること	6時間
第14回	対面	第14回 これまでのまとめ講義全体の振り返り 定期試験(筆記試験・対面)の範囲・形式・評価基準の説明	予習: これまでの学習内容の振り返り 復習: 定期試験に向けての勉強	6時間
第15回	オンデマンド	第15回 定期試験の対策 試験範囲の解説	予習: 過去の学習範囲を振り返る 復習: 試験対策に十分時間を取るように	6時間

科目名	情報処理論 <情報処理論Ⅰ>		開講年度	2026 年度春学期
担当者	川口 将輝		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目			
テーマ	ビジネスで使える Excel の修得			
授業の目的及び概要	企業経営において、環境分析、戦略策定、マーケティング面で、データ分析の役割が大きくなっている。また、新たな価値を創造する上で必要な気づきを得るためにも、データから有用な知見を如何に抽出するかが社会的な関心となっている。この授業ではデータの可視化、報告、意思決定などのデータ分析に関連した一連のプロセスを身に付けることを目的とする。授業では実践的な課題に取り組むことで、修得した知識の定着を図る。情報処理の基礎とデータベースの概要について理解するとともに、Excel を用いたデータ管理・活用の手法を学び、ビジネス現場において必要となる顧客名簿や売り上げデータ等の多様なデータを適切に管理・活用する技能を身に付ける。			
履修条件・留意点	履修登録者数に応じて抽選を行うことがあります。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	①データの可視化、報告、意思決定などのデータ分析に関連した一連のプロセスを理解している。 ②データベースの概念や特徴について説明できる。 ③Excel をデータベースとして活用し、各種データの管理・検索・集計・分析を行うことができる。 ④上記③を実施するため、テーブル作成、データ入力、データの取り込み、データの加工、データの並び替え、データの抽出、関数やピボットテーブルを用いた集計など Excel の各種機能を使うことができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	コメントシートを翌週の授業で紹介し、質問への回答や補足説明を行います。			
アクティブ・ラーニング の取組み				
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、公認会計士（日本公認会計士協会会員）であり、監査法人にて様々な監査業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。			
テキスト	できる Excel データベース 入力・整形・分析の効率アップに役立つ本 2019/2016/2013&Microsoft365 対応、早坂清志&できるシリーズ編集部，インプレス，2020 年	ISBN	9784295010289	
参考書		ISBN		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	30		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	ビジネス現場で使えるスキルを身に付けられるよう演習を繰り返してください。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業ガイダンス データベースの特徴と作り方	テキストの 13～22 ページを事前に読んで授業を受け、授業後に復習してください。	4 時間
第2回	対面	情報処理の基礎理論 ・ テーブルの作成とデザインの変更 ・ 演習課題	予習：テキストの 23～38 ページを事前に読んで授業を受けてください。 復習：授業で作成したエクセルを再度実行させて下さい。	4 時間
第3回	対面	効率的なデータ入力 ・ データ入力、ドロップダウンリスト、入力規制、郵便番号辞書、入力時のメッセージ等 ・ 演習課題	予習：テキストの 39～70 ページを事前に読んで授業を受けてください。 復習：授業で作成したエクセルを再度実行させて下さい。	4 時間
第4回	対面	データの取り込み ・ データのコピー、貼り付け、CSV データ、外部データの取り込み等 ・ 演習課題	予習：テキストの 71～106 ページを事前に読んで授業を受けて下さい。 復習：授業で作成したエクセルを再度実行させて下さい。	4 時間
第5回	対面	表記の統一 ・ TRIM 関数、ASC 関数、JIS 関数、SUBSTITUTE 関数、検索と置換、条件付き書式、COUNTIF 関数等 ・ 演習課題	予習：テキストの 107～134 ページを事前に読んで授業を受けて下さい。 復習：授業で作成したエクセルを再度実行させて下さい。	4 時間
第6回	対面	データの取り出し ・ 構造化参照式、PHONETIC 関数、VLOOKUP 関数、INDEX 関数、COUNTA 関数、MID 関数、LEFT 関数 ・ 演習課題	予習：テキストの 135～162 ページを事前に読んで授業を受けて下さい。 復習：授業で作成したエクセルを再度実行させて下さい。	4 時間
第7回	対面	データの並び替え ・ 複数項目の並び替え、ユーザー設定リスト、セルの文字や色で並び替え等 ・ 演習課題	予習：テキストの 163～182 ページを事前に読んで授業を受けて下さい。 復習：授業で作成したエクセルを再度実行させて下さい。	4 時間
第8回	対面	フィルター機能によるデータの抽出 ・ テキストフィルター、ワイルドカード、数値フィルター、トップテン等 ・ 演習課題	予習：テキストの 183～214 ページを事前に読んで授業を受けて下さい。 復習：授業で作成したエクセルを再度実行させて下さい。	4 時間
第9回	対面	条件付き書式でデータの傾向を可視化 ・ 上位/下位ルール、セルの協調表示ルール、カラースケール、データバー、アイコンセット等 ・ 演習課題	予習：テキストの 215～236 ページを事前に読んで授業を受けて下さい。 復習：授業で作成したエクセルを再度実行させて下さい。	4 時間
第10回	対面	目標に沿った方法でデータを分析 ・ 小計、SUMIF 関数、COUNTIF 関数等 ・ 演習課題	予習：テキストの 237～256 ページを事前に読んで授業を受けて下さい。 復習：授業で作成したエクセルを再度実行させて下さい。	4 時間
第11回	対面	ピボットテーブルによるデータ集計 ・ ピボットテーブル、クロス集計 ・ 演習課題	予習：テキストの 257～274 ページを事前に読んで授業を受けて下さい。 復習：授業で作成したエクセルを再度実行させて下さい。	4 時間
第12回	対面	大量データの処理 ・ Power Query の機能、データの取得、CSV 形式等 ・ 演習課題	予習：テキストの 275～305 ページを事前に読んで授業を受けて下さい。 復習：授業で作成したエクセルを再度実行させて下さい。	4 時間
第13回	対面	復習① 第1章から第5章までの復習を行います。	予習：資料を読んでおいてください。 復習：授業で作成したエクセルを再度実行させて下さい。	4 時間

2026/05/01

第14回	オンデマンド	復習② 第6章～第12章までの復習	予習：資料を読んでおいてください。 復習：授業で作成したエクセルを再度実行させて下さい。	4時間
第15回	対面	復習③	【予習】今までの復習をしておいて下さい。 【復習】定期試験レポートで取り組んだ内容を見直して下さい。	4時間

科目名	情報処理論Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	山本 訓弘	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	生成 AI と情報を活用し、論点を整理しながら自分の考えを文章で表現する力を身につける		
授業の目的及び概要	本講義では、生成 AI、情報、法律（著作権法・個人情報保護法・不正アクセス禁止法・不正競争防止法）を題材として、文章を「読んで理解する」「論点を整理する」「自分の言葉で書く」力を養うことを目的とする。 特に、生成 AI を単なる代替手段として用いるのではなく、構成整理や推敲のための補助的なツールとして適切に活用する方法を学ぶ。 少人数での対話型・ゼミ形式の授業を通じて、受講生一人ひとりの理解度や課題に応じた指導を行い、卒業後の実務や社会生活において必要となる情報活用力と文章表現力の基礎を身につける。		
履修条件・留意点	本講義は、対話や演習への参加を重視する。 授業内では短い文章作成や読解課題を行うため、積極的な参加が求められる。 生成 AI（ChatGPT 等）の使用は認めるが、出力結果の丸写しは禁止とし、最終成果物は受講生自身の考えや判断を反映した文章とすること。 生成 AI を使用した場合は、使用目的や方法を明示する。 欠席や提出遅延が生じた場合でも、指定された代替課題や再提出による補完を認める。 DP との関連 本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 生成 AI や情報を取り巻く基本的な仕組みやルールを説明できる。 2. 法律や事例に関する文章を読み、要点や論点を整理できる。 3. 自分の意見を、根拠や具体例を示しながら文章で表現できる。 4. 生成 AI を補助的に活用しながら、AI に依存しない文章を作成できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内で提出された課題については、次回授業内で講評を行う。 優れた例や改善点については匿名で紹介する。中間レポートおよび最終レポートについては、全体講評を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、町の観光協会の役割を担う一般社団法人吉野ビジターズビューローにて、観光振興コンサルティングや調査を行う業務に 6 年間従事してきた。また、ビデオゲーム開発職に 18 年従事し、プロジェクトマネジメントを行う経験も有する。観光振興の実践的な知識に加え、情報管理など、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	指定のテキストはありません。必要な資料は授業内で配布します。	ISBN	なし
参考書	必要に応じて授業内で紹介します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	

	【定期試験】レポート試験	30
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	0
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	本講義は、生成 AI や情報をテーマに、文章を「読んで理解する」「考えを整理する」「自分の言葉で書く」力を身につけることを目的としています。扱う内容は、卒業後の仕事や社会生活に直結するものが多く、特別な専門知識よりも、情報をどう受け取り、どう判断し、どう表現するかを重視します。 本講義では、生成 AI の使用を禁止するのではなく、構成整理や推敲の補助として活用する方法を学びます。一方で、生成 AI の出力をそのまま用いるのではなく、自分自身の考えや具体例を加え、AI に頼りきらない文章を書くことが求められます。授業内では、「AI っぽくならない」文章にするための工夫や実践的なテクニックも取り上げます。 少人数での対話型・ゼミ形式の授業のため、発言や演習への参加を通じて、互いの考えに触れながら学ぶことを大切にします。文章を書くことに不安がある場合でも、途中で修正や再提出を通じて改善できるように設計していますので、積極的に取り組んでください。 本講義は、単位取得だけでなく、卒業後に役立つ情報活用力と文章表現力の基礎を身につける機会です。生成 AI を上手に使いながら、自分の考えを形にする経験を積んでいきましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	第1回 オリエンテーション・学生プロフィール把握 授業の目的・評価方法の説明／受講生の関心・進路・AI 利用経験の共有 【演習】短文作成（理解度確認）	復習：演習内容の振り返りを行う	1 時間
第2回	対面	第2回 文章力・論理構成の初期診断（ゼミ形式） 文章の型（PREP）の確認／文章読解と簡単な添削演習	予習：卒業論文の途中経過を見直す 復習：授業内容の振り返りを行う	2.5 時間
第3回	対面	第3回 生成 AI の基礎構造 生成 AI の仕組みと特徴／できること・できないこと 【演習】仕組みを説明する短文作成	予習：事前に生成 AI の利用環境を整える 復習：授業内容の振り返りを行う	2.5 時間
第4回	対面	生成 AI サービスの種類／学問的・教育的ルール 【演習】AI 文章と人の文章の比較・修正	予習：普段使用している AI 以外、どのようなサービスが有るか調べる 復習：授業内容の振り返りを行う	3 時間
第5回	対面	著作権の概要／生成 AI と著作物の論点 【演習】論点整理	予習：著作権について調べる 復習：授業内容の振り返りを行う	3 時間
第6回	対面	第6回 中間レポート作成①（論点設計） 中間レポートテーマ説明／構成・根拠の考え方 【提出】アウトライン	予習：文章の構成を予習する 復習：中間レポートのイメージを復習	6 時間
第7回	対面	第7回 中間レポート作成②（文章化） 論理構成を意識した文章作成 【提出】ドラフト	予習：文章化の練習 復習：ドラフトを作成し提出する	6 時間
第8回	対面	第8回 個人情報保護法 個人情報の基本／企業活動との関係 【演習】条文・事例の要約	予習：個人情報保護法について調べる 復習：講義内容の復習	6 時間
第9回	対面	第9回 不正アクセス禁止法 不正アクセスの定義／事例と注意点 【演習】ケーススタディ	予習：不正アクセス禁止法の事例を調べる 復習：授業内容の振り返りを行う	6 時間
第10回	対面	第10回 不正競争防止法 データと競争／AI 時代の情報管理 【演習】論点比較	予習：不正競争防止法の事例について調べる 復習：授業内容の振り返りを行う	3 時間
第11回	対面	第11回 グループディスカッション	予習：生成 AI 時代に大学生が身につけるべき力を考	3 時間

		テーマ：生成 AI 時代に大学生が身につけるべき力 【演習】意見整理（発表なし）	えておく 復習：授業内容の振り返りを行い、課題の整理をする。	
第12回	対面	第12回 ロジカルシンキングと文章表現 MECE・PREP の応用 【演習】文章の改善	予習：MECE, PREP 法について予習する。 復習：課題のレポートを作成、提出する。	3 時間
第13回	対面	第13回 文章改善・個別指導 提出文章の講評とリライト演習	予習：課題レポートの準備 復習：演習の提出	6 時間
第14回	オンデマンド	第14回 まとめ 講義全体の整理／最終レポート説明	予習：全講義のふりかえっておく 復習：最終レポートに向けた準備	6 時間
第15回	対面	第15回 最終レポート提出にむけて 生成 AI 活用可のレポート提出についての解説	予習：最終レポート準備 復習：最終レポート提出	6 時間

科目名	ビジネス統計学Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	深瀬 澄	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	学生研究発表大会報告や卒業研究に統計手法を活用しよう（統計検定 2 級レベルの基礎）		
授業の目的及び概要	受験対策の授業ではありませんが、統計検定 2 級レベルでも出題される記述統計学、区間推定、仮説検定、影響分析、予測、最適化等の基礎的な推測統計学を PC 実習形式で学びます。現代の経済、経営、社会、心理、教育、医学等の分野に応用されているので手強そうにみられていますが、扱う統計理論は 100 年以上も昔、コンピュータも電卓もなかった時代に英国を中心に研究されたもので、今では Excel の分析ツールで、誰でも簡単に計算ができてしまいます。授業では統計学的な考え方と出力結果の解釈をしっかりと学んで下さい。学生研究発表大会や卒業研究にぜひ活用して下さい。学内で上位入賞や、大学院進学を目指すには「マーケティングリサーチ」まで必要ですが、その基礎をこの授業で習得しておく必要があります。		
履修条件・留意点	・定期試験の成績だけでなく、毎回の授業に対する努力も評価しますので、統計が苦手な人も挑戦してください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 標本データの分布状況について、基本統計量を中心とする要約ができる。 2. 標本データから、母集団の平均値を推定できる。 3. 複数の標本のデータ間の統計量の差について、適切な手法を使い分けて仮説検定を行うことができる。 4. 分散分析の概念を理解し、分析結果を正確に解釈することができる。 5. Excel のソルバーを利用して、最適化や数値解を求められる。 6. 最小 2 乗法を理論的に理解し、回帰分析を用いた分析ができる。 8. データに基づき原因と結果の間の関係を、数学的に関係づけることができる。 9. 単回帰分析の出力結果を正確に解釈できる。 10. 回帰分析で初歩的な統計上の問題が生じた場合に、適切な処置ができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内の課題、問題については、適宜授業内でフィードバックやコメント、アドバイスをを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	反転授業		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『Excel で簡単統計学 分析ツールを使いこなそう!』, 上田太郎監修 近藤宏・淵上美喜・末吉正成・村田真樹, オーム社, 2007 年, 2800 円	ISBN	9784274066917
参考書	授業中に紹介する（学術図書出版より、2025 年 10 月出版目標）。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	14	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	36	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	30	
	その他（%）	0	
	その他の内容	0	

この科目の受講にあたって	履修上の注意：担当教員によって学修内容が異なりますので、同じ教員の科目を継続して履修した方がわかりやすいです。 「ビジネス統計学Ⅰ」と「ビジネス統計学Ⅱ」の関係は、「初級」と「中級」というよりも、むしろ「手動運転」（データ処理の操作方法）と「自動運転」（出力結果の考察）の关系到近いイメージです。「ビジネス統計学Ⅰ」から学ぶ方がわかりやすいです。 秋学期開講「ビジネス統計学Ⅱ」（深瀬）Excel のデータ解析ツール（プログラム化） 春学期開講「マーケティングリサーチ」（深瀬）：Excel 非対応の多変量解析（プログラム化）

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	基本統計量1 (1) 平均 (2) 最小、最大、範囲 (3) 中央値（メジアン）、最頻値（モード） (4) 標準偏差、分散 (5) 尖度、歪度 (6) 合計、標本数	【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してきてください（2 時間） 【復習】 実習課題を提出して下さい（2 時間）	4 時間
第2回	対面	基本統計量2 第1講 標準偏差と偏差値 第2講 標本抽出 第3講 標準誤差	【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してきてください（2 時間） 【復習】 実習課題を提出して下さい（2 時間）	4 時間
第3回	対面	標準誤差の補足説明 中心極限定理 確率密度関数 区間推定	【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してきてください（2 時間） 【復習】 実習課題を提出して下さい（2 時間）	4 時間
第4回	対面	統計分析に用いる数式と確率分布関数 第1講 ガンマ関数 第2講 ベータ関数 第3講 t 分布 第4講 F 分布 第5講 χ^2 乗分布	【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してきてください（2 時間） 【復習】 実習課題を提出して下さい（2 時間）	4 時間
第5回	対面	仮説検定1 第1講 平均の差の検定（1）z 検定、 第2講 分散の差の検定 F 検定 第3講 トピックス：Student の t 分布	【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してきてください（2 時間） 【復習】 実習課題を提出して下さい（2 時間）	4 時間
第6回	対面	仮説検定2 第1講 平均の差の検定（2） t 検定（等分散／異分散） 第2講 平均の差の検定（3） t 検定（対応あり）	【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してきてください（2 時間） 【復習】 実習課題を提出して下さい（2 時間）	4 時間
第7回	対面	中間テスト 第2回～第7回までに学修してきた内容について中間テストを行います。	【予習】 今までの授業をよく復習して下さい（3 時間） 【復習】 動画を視聴して、正解と解き方を確認して下さい（1 時間）	4 時間
第8回	対面	分散分析（ANOVA）1 第1講 平均周回変動の分解 第2講 一元配置の分散分析	【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してきてください（2 時間） 【復習】 実習課題を提出して下さい（2 時間）	4 時間
第9回	対面	分散分析（ANOVA）2 第1講 二元配置の分散分析（繰返しなし） 第2講 二元配置の分散分析（繰返しあり）	【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してきてください（2 時間） 【復習】 実習課題を提出して下さい（2 時間）	4 時間
第10回	対面	相関と共分散 第講 1. 共分散と相関 第講 2. 行列の積の計算 第講 3. 分散共分散行列 第講 4. 相関係数行列 第講 5. 資産運用への応用	【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してきてください（2 時間） 【復習】 実習課題を提出して下さい（2 時間）	4 時間

第11回	対面	回帰分析1 第1講：回帰直線と最小2乗法（OLS） 第2講：Excel ソルバーの使い方 第3講：Excel ソルバーによるOLS推定 第4講：Excel ソルバーの応用	【予習】オンデマンドの講義動画教材を視聴してください（2時間） 【復習】実習課題を提出して下さい（2時間）	4時間
第12回	対面	回帰分析2 単回帰分析から重回帰分析へ 第講（1）最小2乗法の復習と補足説明 第講（2）Excel 分析ツールによる回帰分析 第講（3）単回帰分析から重回帰分析へ 第講（4）多重共線性問題	【予習】オンデマンドの講義動画教材を視聴してください（2時間） 【復習】実習課題を提出して下さい（2時間）	4時間
第13回	対面	回帰分析3 回帰分析の応用1 第講（1）ダミー変数の利用 第講（2）数量化理論Ⅰ類 第講（3）変数変換と非線形回帰	【予習】オンデマンドの講義動画教材を視聴してください（2時間） 【復習】実習課題を提出して下さい（2時間）	4時間
第14回	対面	時系列予測 第1講 TCSI 要因分解 第2講 移動平均 第3講 指数平滑法 第4講 周波数領域	【予習】オンデマンドの講義動画教材を視聴してください（2時間） 【復習】実習課題を提出して下さい（2時間）	4時間
第15回	オンデマンド	総括 これまで取り扱ってきた内容について振り返るとともに、あらためて重要なポイントは何かについて確認します。	事前学修として授業で配布した資料を事前に読み、予習しておくこと。 事後学修として授業で配布した資料と参考書のこれまで学修した部分を読んで復習しておくこと。	4時間

科目名	ビジネス法入門	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	芳中 千裕	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	ビジネスの現場で「騙されない」「損しない」「価値を生む」ための、法律の活用センスを磨く。		
授業の目的及び概要	本講義では、条文の丸暗記は行いません。代わりに、皆さんが将来ビジネスの現場（就職先や起業）で直面する具体的なトラブルやチャンスを想定し、そこに関わる法律（民法、会社法、労働法、知的財産法など）を横断的に学びます。講師は、企業のマーケティング部門や法務部門の責任者として、「法律をどう使って売上を上げるか」「トラブルをどう解決するか」を実践してきた実務家です。法律を堅苦しいルールブックとしてではなく、ビジネスというゲームを有利に進めるための「武器」や「防具」として捉え直し、社会に出たその日から使える「リーガルセンス（法的思考力）」を習得することを目的とします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1 ビジネスの現場で遭遇するリスクを予見し、回避・解決するための基礎的な法的知識を習得する。 2 ビジネス実務法務検定試験® 3 級の出題範囲を概ね網羅し、実務で通用するレベルの知識を習得する。 3 経営者・管理者の視点から、法的根拠に基づいた意思決定のプロセスを理解し、論理的に説明できるスキルを習得する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の授業で実施するクイズや小テストについて、その場で解答・解説を行い、理解度の確認とフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、民間企業での採用面接や新入社員の研修などの業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	『スポーツから始めるビジネス法』中央経済社（※2026 年春出版予定） ※授業では、本書のスポーツ事例を一般的なビジネスケースに読み替えて使用します。	ISBN	9784502456817
参考書	「ビジネス実務法務検定」に関するテキスト（公式でなくともよい） ※資格取得を目指す学生は購入を推奨します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	40	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	法律の予備知識は一切不要です。「将来、民間企業で働きたい」「起業に興味がある」「ブラック企業に就職したくない」といった、自身のキャリアに対する関心を持って受講してください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス：なぜ経営学部法律が必要か	予習：教科書 Introduction を読む 復習：本講義で取り扱う分野の体系を確認しておく	4 時間
第2回	対面	契約の基本：口約束とビジネス取引	予習：教科書の該当チャプターを読む 復習：小テストの再確認	4 時間
第3回	対面	契約の落とし穴：自分を守る武器	予習：教科書の該当チャプターを読む 復習：小テストの再確認	4 時間
第4回	対面	売買契約の実務：不良品への対応と責任	予習：教科書の該当チャプターを読む 復習：小テストの再確認	4 時間
第5回	対面	賃貸借と管理：オフィスや店舗を借りる	予習：教科書の該当チャプターを読む 復習：小テストの再確認	4 時間
第6回	対面	知的財産権①：パクリ商品と商標・特許	予習：教科書の該当チャプターを読む 復習：小テストの再確認	4 時間
第7回	対面	広告のルール：No.1 表示の裏側	予習：教科書の該当チャプターを読む 復習：小テストの再確認	4 時間
第8回	オンデマンド	【中間課題】前半の総復習	予習：教科書の該当チャプターを読む 復習：小テストの再確認	4 時間
第9回	対面	働く人の法律：ブラック企業を見極める	予習：教科書の該当チャプターを読む 復習：小テストの再確認	4 時間
第10回	対面	責任の所在：バイトテロと損害賠償	予習：教科書の該当チャプターを読む 復習：小テストの再確認	4 時間
第11回	対面	知的財産権②：SNS 発信と著作権	予習：教科書の該当チャプターを読む 復習：小テストの再確認	4 時間
第12回	対面	組織のルール：株式会社の仕組み	予習：教科書の該当チャプターを読む 復習：小テストの再確認	4 時間
第13回	対面	ビジネスと競争：公正なルールの維持	予習：教科書の該当チャプターを読む 復習：小テストの再確認	4 時間
第14回	対面	トラブル解決：お金を払ってもらえない時	予習：教科書の該当チャプターを読む 復習：小テストの再確認	4 時間
第15回	対面	まとめ：社会で生き抜く判断軸	予習：全範囲の総復習 復習：小テストの再確認	4 時間

科目名	初級簿記	開講年度	2026 年度春学期
担当者	藤原 大花	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	4 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	商業簿記の初級論点の学修、計算実践。		
授業の目的及び概要	この授業は、ビジネスの「言語」といわれる、会計の基礎となる簿記を修得するために開設されるものであり、企業の経理事務や経理関連書類の読み取りができ、取引先企業の経営状況を数字から理解できるようになることが目的である。簿記の初学者を対象に商業簿記の基本的な考え方とその計算実践を学修する。勘定や仕訳といった複式簿記の基礎と簡易な期中取引の会計処理、決算手続きが行えるようになることを目標とする。この授業を履修することによって、「日本商工会議所簿記検定 3 級」程度の簿記技能を修得することができる。		
履修条件・留意点	【履修にあたっての注意】 ・会計職基礎講座（S コース）と連動していますので、S コースを必ず受講してください。（S コースを受講しない場合は、岡野先生の初級簿記を履修してください） ・6 月の日商簿記検定 3 級の合格を目指して講義を進めますので、授業開始時に受験申込を完了しておくようにしてください。 ・簿記の知識・技能は自主学習なしでは身に付けることは困難です。毎日復習を怠らないようにしてください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・小規模企業の取引を理解し、仕訳できる。 ・小規模企業の財務諸表を作成することができる。 ・日商簿記検定 3 級レベルの簿記の知識・技能を修得する。		
資格・検定試験への対応	日商簿記検定試験 3 級：6 月の試験での合格を目指します。		
フィードバックの方法	小テストや中間試験は講義内で解説いたします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、公認会計士（日本公認会計士協会会員）であり、監査法人にて様々な監査業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	① 合格テキスト 日商簿記 3 級（ver15.0），TAC 簿記講座，TAC 出版，2025 年 ② 合格トレーニング 日商簿記 3 級（ver15.0），TAC 簿記講座，TAC 出版，2025 年	ISBN	① 9784300115824 ② 9784300115831
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	40	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）	※	
	その他の内容	①その他※の内容について 以下いずれか一方の出席率が 90%未満(6 月の検定までで判定)となった場合、10 点の減点。 ・初級簿記 ・S コース ②中間試験について	

		6月の日商簿記検定3級の結果を基に評価します。
この科目の受講にあたって	初級簿記は会計専門職はもちろんのこと、企業の経理担当といった会計に関する仕事を目指す方には必須の知識です。また、初級簿記で扱う内容はビジネスに関わる人すべてに関わる重要な知識・技能・考え方になります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	・ガイダンス ・簿記の基礎 ・日常の手続き	問題集（トレーニング）を使用し、次回授業までに復習を行うこと。 【復習にあたって】 1 回目：すべての問題に取り組む（間違った論点はテキストに立ち返り理解する） 2 回目：間違った問題に取り組む	6 時間
第2回	対面	・商品売買Ⅰ ・商品売買Ⅱ	問題集（トレーニング）を使用し、次回授業までに復習を行うこと。 【復習にあたって】 1 回目：すべての問題に取り組む（間違った論点はテキストに立ち返り理解する） 2 回目：間違った問題に取り組む	6 時間
第3回	対面	・現金・預金 ・小口現金 ・クレジット売掛金 ・手形取引 ・電子記録債権・債務	問題集（トレーニング）を使用し、次回授業までに復習を行うこと。 【復習にあたって】 1 回目：すべての問題に取り組む（間違った論点はテキストに立ち返り理解する） 2 回目：間違った問題に取り組む	6 時間
第4回	対面	・その他の取引ⅠⅡⅢ	問題集（トレーニング）を使用し、次回授業までに復習を行うこと。 【復習にあたって】 1 回目：すべての問題に取り組む（間違った論点はテキストに立ち返り理解する） 2 回目：間違った問題に取り組む	6 時間
第5回	対面	・その他の取引Ⅲ（残り） ・さまざまな帳簿の関係 ・試算表 ・決算 ・現金過不足 ・売上原価	問題集（トレーニング）を使用し、次回授業までに復習を行うこと。 【復習にあたって】 1 回目：すべての問題に取り組む（間違った論点はテキストに立ち返り理解する） 2 回目：間違った問題に取り組む	6 時間
第6回	対面	・貸倒れ ・減価償却 ・貯蔵品 ・当座借越 ・税金	問題集（トレーニング）を使用し、次回授業までに復習を行うこと。 【復習にあたって】 1 回目：すべての問題に取り組む（間違った論点はテキストに立ち返り理解する） 2 回目：間違った問題に取り組む	6 時間
第7回	対面	経過勘定項目 株式の発行 剰余金の配当と処分 証憑 後TB 精算表 締切 PL・BS	問題集（トレーニング）を使用し、次回授業までに復習を行うこと。 【復習にあたって】 1 回目：すべての問題に取り組む（間違った論点はテキストに立ち返り理解する） 2 回目：間違った問題に取り組む	6 時間
第8回	対面	・仕訳100問テスト	問題集（トレーニング）等を使用し、次回授業までに復習を行うこと。	6 時間
第9回	対面	答練	答練の復習と解き直しを行い、次回授業で提出すること	6 時間

第10回	対面	答練	答練の復習と解き直しを行い、次回授業で提出すること	6 時間
第11回	対面	答練	答練の復習と解き直しを行い、次回授業で提出すること	6 時間
第12回	対面	答練	答練の復習と解き直しを行い、次回授業で提出すること	6 時間
第13回	対面	答練	答練の復習と解き直しを行い、次回授業で提出すること	6 時間
第14回	対面	答練	答練の復習と解き直しを行い、次回授業で提出すること	6 時間
第15回	対面	答練	答練の復習と解き直しを行い、次回授業で提出すること	6 時間
第16回	対面	答練	答練の復習と解き直しを行い、次回授業で提出すること	4 時間
第17回	対面	答練	答練の復習と解き直しを行い、次回授業で提出すること	4 時間
第18回	対面	答練	答練の復習と解き直しを行い、次回授業で提出すること	4 時間
第19回	対面	答練	答練の復習と解き直しを行い、次回授業で提出すること	4 時間
第20回	対面	答練	答練の復習と解き直しを行い、次回授業で提出すること	4 時間
第21回	オンデマンド	答練	答練の復習と解き直しを行い、次回授業で提出すること	4 時間
第22回	対面	答練	答練の復習と解き直しを行い、次回授業で提出すること	4 時間
第23回	対面	答練	答練の復習と解き直しを行い、次回授業で提出すること	4 時間
第24回	対面	答練	答練の復習と解き直しを行い、次回授業で提出すること	4 時間
第25回	対面	答練	答練の復習と解き直しを行い、次回授業で提出すること	4 時間
第26回	対面	答練	答練の復習と解き直しを行い、次回授業で提出すること	4 時間
第27回	対面	答練	答練の復習と解き直しを行い、次回授業で提出すること	4 時間
第28回	対面	答練	答練の復習と解き直しを行い、次回授業で提出すること	4 時間
第29回	対面	答練	答練の復習と解き直しを行い、次回授業で提出すること	4 時間
第30回	オンデマンド	定期試験に向けての問題演習	答練の復習と解き直しを行い、次回授業で提出すること	4 時間

科目名	初級簿記	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	岡野 彩可	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	4 単位
グレード	G1	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	商業簿記の初級論点の学修、計算実践。日商簿記検定 3 級の合格を目指します。		
授業の目的及び概要	この授業は、ビジネスの「言語」といわれる、会計の基礎となる簿記を修得するために開設されるものであり、企業の経理事務や経理関連書類の読み取りができ、取引先企業の経営状況を数字から理解できるようになることが目的である。簿記の初学者を対象に商業簿記の基本的な考え方とその計算実践を学修する。勘定や仕訳といった複式簿記の基礎と簡易な期中取引の会計処理、決算手続きが行えるようになることを目標とする。この授業を履修することによって、「日本商工会議所簿記検定 3 級」程度の簿記技能を修得することができる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・小規模企業の取引を理解し、仕訳できる。 ・小規模企業の財務諸表を作成することができる。 ・日商簿記検定 3 級レベルの簿記の知識・技能を修得する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	解説付き確認テストの実施 「よくある間違い（PITFALLS）」の事前組み込み		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、税理士の資格を持ち、税理士事務所にて税務に関わる業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	① 合格テキスト 日商簿記 3 級（ver15.0），TAC 簿記講座，TAC 出版，2025 年 ② 合格トレーニング 日商簿記 3 級（ver15.0），TAC 簿記講座，TAC 出版，2025 年	ISBN	①9784300115824 ②9784300115831
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	100	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	資格取得を目標とした授業です。 自身のスキルアップに繋がりますが、授業時間以外での復習が必須となります。とにかく繰り返し問題を解くことが肝要です。 学修上の疑問など小さなことでも「まあいいか」と済まらずにすぐに相談してください。 将来に備えてどんどん日商簿記検定試験に挑戦してください。本授業でさらに興味がわけば翌学期以降「中級簿記」「工業簿記」を履修して 2 級、さらに次年度には「上級簿記」「原価計算」を履修して 1 級にもチャレンジしてください。欠席・遅刻・早退について特段の事情(就職活動、クラブ活動など)がある場合には必ず事前に相談してください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	ガイダンス 簿記の基礎	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第2回	オンデマンド	簿記の基礎、商品売買	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第3回	オンデマンド	商品売買、現金・預金	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第4回	オンデマンド	小口現金、クレジット売掛金、手形取引、 電子記録債権・債務	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第5回	オンデマンド	その他の取引	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第6回	オンデマンド	その他の取引、さまざまな帳簿の関係	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第7回	オンデマンド	試算表	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第8回	オンデマンド	中間試験対策（仕訳復習）	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解	4時間

			けるようにして、次回の講義に臨んでください。	
第9回	オンデマンド	中間試験対策（帳面復習）	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第10回	オンデマンド	中間試験対策（総復習）	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第11回	オンデマンド	中間試験	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第12回	オンデマンド	決算整理－売上原価	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第13回	オンデマンド	決算整理－現金過不足、貸倒引当金	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第14回	オンデマンド	決算整理－減価償却	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第15回	オンデマンド	決算整理－貯蔵品、当座借越、経過勘定項目	中間試験に向けて、今までの学習範囲を復習しましょう。	4 時間
第16回	オンデマンド	決算整理後残高試算表	中間試験に向けて、今までの学習範囲を復習しましょう。	4 時間
第17回	オンデマンド	精算表	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第18回	オンデマンド	帳簿の締め切り	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。	4 時間

			わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	
第19回	オンデマンド	損益計算書と貸借対照表	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいってください。わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第20回	オンデマンド	株式の発行、剰余金の配当と処分	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいってください。わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第21回	オンデマンド	税金	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいってください。わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第22回	オンデマンド	証ひょう、伝票	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいってください。わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第23回	オンデマンド	学期末試験対策（仕訳1）	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいってください。わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第24回	オンデマンド	学期末試験対策（仕訳2）	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいってください。わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第25回	オンデマンド	学期末試験対策（総合ミニ1）	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいってください。わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第26回	オンデマンド	学期末試験対策（総合ミニ2）	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいってください。わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間

			であるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	
第27回	オンデマンド	学期末試験対策（総合ミニ3）	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいってください。わからない箇所があっても構いませんが、何を書いているのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第28回	オンデマンド	学期末試験対策（総合1）	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいってください。わからない箇所があっても構いませんが、何を書いているのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第29回	オンデマンド	学期末試験対策（総合2）	学期末試験に向けて、今までの範囲を復習しましょう。	4 時間
第30回	オンデマンド	学期末試験対策	学期末試験に向けて、今までの範囲を復習しましょう。	4 時間

科目名	初級簿記	開講年度	2026 年度春学期
担当者	岡野 彩可	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	4 単位
グレード	G1	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	商業簿記の初級論点の学修、計算実践。日商簿記検定 3 級の合格を目指します。		
授業の目的及び概要	この授業は、ビジネスの「言語」といわれる、会計の基礎となる簿記を修得するために開設されるものであり、企業の経理事務や経理関連書類の読み取りができ、取引先企業の経営状況を数字から理解できるようになることが目的である。簿記の初学者を対象に商業簿記の基本的な考え方とその計算実践を学修する。勘定や仕訳といった複式簿記の基礎と簡易な期中取引の会計処理、決算手続きが行えるようになることを目標とする。この授業を履修することによって、「日本商工会議所簿記検定 3 級」程度の簿記技能を修得することができる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ 小規模企業の取引を理解し、仕訳できる。 ・ 小規模企業の財務諸表を作成することができる。 ・ 日商簿記検定 3 級レベルの簿記の知識・技能を修得する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	解説付き確認テストの実施 「よくある間違い（PITFALLS）」の事前組み込み		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、税理士の資格を持ち、税理士事務所にて税務に関わる業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	① 合格テキスト 日商簿記 3 級（ver15.0），TAC 簿記講座，TAC 出版，2025 年 ② 合格トレーニング 日商簿記 3 級（ver15.0），TAC 簿記講座，TAC 出版，2025 年	ISBN	①9784300115824 ②9784300115831
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	100	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	資格取得を目標とした授業です。 自身のスキルアップに繋がりますが、授業時間以外での復習が必須となります。とにかく繰り返し問題を解くことが肝要です。 学修上の疑問など小さなことでも「まあいいか」と済まらずにすぐに相談してください。 将来に備えてどんどん日商簿記検定試験に挑戦してください。本授業でさらに興味がわけば翌学期以降「中級簿記」「工業簿記」を履修して 2 級、さらに次年度には「上級簿記」「原価計算」を履修して 1 級にもチャレンジしてください。欠席・遅刻・早退について特段の事情(就職活動、クラブ活動など)がある場合には必ず事前に相談してください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	ガイダンス 簿記の基礎	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第2回	オンデマンド	簿記の基礎、商品売買	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第3回	オンデマンド	商品売買、現金・預金	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第4回	オンデマンド	小口現金、クレジット売掛金、手形取引、 電子記録債権・債務	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第5回	オンデマンド	その他の取引	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第6回	オンデマンド	その他の取引、さまざまな帳簿の関係	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第7回	オンデマンド	試算表	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第8回	オンデマンド	中間試験対策（仕訳復習）	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解	4時間

			けるようにして、次回の講義に臨んでください。	
第9回	オンデマンド	中間試験対策（帳面復習）	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいってください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第10回	オンデマンド	中間試験対策（総復習）	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいってください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第11回	オンデマンド	中間試験	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいってください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第12回	オンデマンド	決算整理－売上原価	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいってください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第13回	オンデマンド	決算整理－現金過不足、貸倒引当金	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいってください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第14回	オンデマンド	決算整理－減価償却	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいってください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第15回	オンデマンド	決算整理－貯蔵品、当座借越、経過勘定項目	中間試験に向けて、今までの学習範囲を復習しましょう。	4 時間
第16回	オンデマンド	決算整理後残高試算表	中間試験に向けて、今までの学習範囲を復習しましょう。	4 時間
第17回	オンデマンド	精算表	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいってください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第18回	オンデマンド	帳簿の締め切り	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいってください。	4 時間

			わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	
第19回	オンデマンド	損益計算書と貸借対照表	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいってください。わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第20回	オンデマンド	株式の発行、剰余金の配当と処分	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいってください。わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第21回	オンデマンド	税金	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいってください。わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第22回	オンデマンド	証ひょう、伝票	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいってください。わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第23回	オンデマンド	学期末試験対策（仕訳1）	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいってください。わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第24回	オンデマンド	学期末試験対策（仕訳2）	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいってください。わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第25回	オンデマンド	学期末試験対策（総合ミニ1）	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいってください。わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第26回	オンデマンド	学期末試験対策（総合ミニ2）	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいってください。わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間

			であるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	
第27回	オンデマンド	学期末試験対策（総合ミニ3）	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいってください。わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第28回	オンデマンド	学期末試験対策（総合1）	「合格テキスト日商簿記3級」「合格トレーニング日商簿記3級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいってください。わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4 時間
第29回	オンデマンド	学期末試験対策（総合2）	学期末試験に向けて、今までの範囲を復習しましょう。	4 時間
第30回	オンデマンド	学期末試験対策	学期末試験に向けて、今までの範囲を復習しましょう。	4 時間

科目名	中級簿記	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	藤原 大花	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	4 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	商業簿記の中級論点の学習、計算実践。		
授業の目的及び概要	この授業は、「初級簿記」もしくは「日本商工会議所簿記検定 3 級」程度の知識を前提に、株式会社の複式簿記について、発展的内容を理解することが目的である。小規模企業・中規模企業及び連結企業における取引に関する適切な会計処理ができ、さらにこれら企業の財務諸表作成における基礎知識を修得することを目標とし、この授業を履修することによって、商業簿記について「日本商工会議所簿記検定 2 級」程度の技能を修得することができる。		
履修条件・留意点	この授業は、会計職基礎講座（夏季 S コース）を受講し、日商簿記検定 2 級に合格した方を対象とした科目になります（日商簿記 2 級の合格を前提に日商簿記 1 級以上の内容を扱います）。以下の事項すべてに当てはまらない方は、中級簿記（岡野先生）を受講してください。 【履修条件】 ①：日商簿記検定 2 級に合格済み ②：以下のいずれかの資格の学習を開始している ・公認会計士 ・日商簿記 1 級 ③：S コース（簿記上級講座）を受講する ※公認会計士講座を受講している方も上記 S コースを受講してください（詳しくは説明します）。 ④：GPA3.0 以上 【留意点】 ・遅刻欠席厳禁（守れない場合は厳しく対処します）		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・中規模企業の取引を理解し、仕訳できる。 ・中規模企業の財務諸表及び連結財務諸表を作成することができる。 ・日商簿記検定 2 級レベルの商業簿記の知識・技能を修得する。		
資格・検定試験への対応	日商簿記検定試験 2 級：12 月下旬のネット試験での合格を目指します。		
フィードバックの方法	小テストや中間試験は講義内で解説いたします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、公認会計士（日本公認会計士協会会員）であり、監査法人にて様々な監査業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	初回授業で案内します。	ISBN	なし
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	100	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講に	この授業は、日商簿記 2 級合格者を対象に 2026 年 6 月の日商簿記 1 級合格を目指すクラスにな		

あたって	ります。 Sコースと併せての履修でハードな内容になりますが、6月検定までに合格レベルに到達するように進めていきますので、食らいついて来てください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 実力確認テスト	【事前学修】初級簿記の総復習（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第2回	対面	簿記の一巡の手続き 財務諸表	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第3回	対面	商品売買 現金および預金	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第4回	対面	債権債務 有価証券	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第5回	対面	有形固定資産① 有形固定資産②（前半）	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第6回	対面	有形固定資産②（後半） リース取引	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第7回	対面	無形固定資産等と研究開発費 引当金	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第8回	対面	外貨換算会計 税金	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第9回	対面	税効果会計	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第10回	対面	株式の発行 剰余金の配当と処分	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第11回	対面	決算手続 収益・費用の認識基準	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第12回	対面	本支店会計	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第13回	対面	合併と事業譲渡 連結会計Ⅰ（資本連結）	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間

第14回	対面	連結会計Ⅰ（資本連結） 連結会計Ⅱ（資本連結）	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第15回	対面	連結会計Ⅱ（資本連結） 連結会計Ⅲ（成果連結）	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第16回	対面	連結会計Ⅳ（連結株主資本等変動計算書） 製造業会計	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第17回	対面	問題演習	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第18回	対面	問題演習	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第19回	対面	問題演習	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第20回	対面	問題演習	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第21回	対面	問題演習	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第22回	対面	問題演習	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第23回	対面	問題演習	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第24回	対面	問題演習	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第25回	対面	問題演習	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第26回	対面	問題演習	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第27回	オンデマンド	問題演習	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第28回	オンデ	問題演習	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習してお	4時間

2026/05/01

	マンド		くこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点を できるまで復習する（2時間程度）。	
第29回	対面	実力確認試験の実施	過去の範囲の総復習を行うこと	4時間
第30回	対面	実力確認試験の解説	過去の範囲の総復習を行うこと	4時間

科目名	中級簿記	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	岡野 彩可	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	4 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	◇商業簿記の中級論点の学習、計算実践。 ◇日商簿記検定 2 級取得を目指します。		
授業の目的及び概要	この授業は、「初級簿記」もしくは「日本商工会議所簿記検定 3 級」程度の知識を前提に、株式会社の複式簿記について、発展的内容を理解することが目的である。小規模企業・中規模企業及び連結企業における取引に関する適切な会計処理ができ、さらにこれら企業の財務諸表作成における基礎知識を修得することを目標とし、この授業を履修することによって、商業簿記について「日本商工会議所簿記検定 2 級」程度の技能を修得することを目指す。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・中規模企業の取引を理解し、仕訳できる。 ・中規模企業の財務諸表及び連結財務諸表を作成することができる。 ・日商簿記検定 2 級レベルの商業簿記の知識・技能を修得する。		
資格・検定試験への対応	日商簿記検定試験 2 級（「商業簿記」分野）：2 月の試験での合格を目指します。		
フィードバックの方法	解説付き確認テストの実施 「よくある間違い（PITFALLS）」の事前組み込み		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、税理士の資格を持ち、税理士事務所にて税務に関わる業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	① 合格テキスト 日商簿記 2 級 商業簿記(Ver. 17.0), TAC 簿記講座, TAC 出版 ② 合格トレーニング 日商簿記 2 級 商業簿記 (Ver. 17.0), TAC 簿記講座, TAC 出版	ISBN	①9784300106570 ② 9784300106655
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	100	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	◇「初級簿記」の単位を「秀」「優」で取得した学生、あるいは日商簿記検定 3 級を取得済であることが強く推奨されます。該当しない学生は、日商簿記検定 3 級を合格してから本科目を受講してください。 ◇日商簿記検定 2 級は工業簿記からも出題されます。そのため、本科目の履修者は必ず秋学期に開講される「工業簿記」も履修してください。 ◆資格取得を目標とした授業です。 自身のスキルアップに繋がりますが、授業時間以外での復習が必須となります。とにかく繰り返し問題を解くことが肝要です。 学修上の疑問など小さなことでも「まあいいか」と済まらずにすぐに相談してください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	財務諸表	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第2回	オンデマンド	商品売買	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第3回	オンデマンド	現金および預金について学習します。	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第4回	オンデマンド	債券・債務について学習します。	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第5回	オンデマンド	有価証券	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第6回	オンデマンド	有価証券	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第7回	オンデマンド	有形固定資産	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第8回	オンデマンド	有形固定資産	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間

			けるようにして、次回の講義に臨んでください。	
第9回	オンデマンド	リース取引	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいってください。 わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第10回	オンデマンド	無形固定資産等、研究開発費引当金	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいってください。 わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第11回	オンデマンド	外貨換算会計	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいってください。 わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第12回	オンデマンド	税金 税効果会計	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいってください。 わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第13回	オンデマンド	株式の発行 剰余金の配当と処分	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいってください。 わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第14回	オンデマンド	決算手続	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいってください。 わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第15回	オンデマンド	決算手続	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいってください。 わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第16回	オンデマンド	決算手続	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいってください。 わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間

第17回	オンデマンド	復習	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第18回	オンデマンド	復習	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第19回	オンデマンド	復習	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第20回	オンデマンド	中間試験	ここまで学習した全範囲より出題	4時間
第21回	オンデマンド	本支店会計	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第22回	オンデマンド	連結会計	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第23回	オンデマンド	連結会計	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第24回	オンデマンド	連結会計	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第25回	オンデマンド	連結会計	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何を書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間

			けるようにして、次回の講義に臨んでください。	
第26回	オンデマンド	連結会計	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第27回	オンデマンド	連結会計	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第28回	オンデマンド	復習	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第29回	オンデマンド	復習	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間
第30回	オンデマンド	復習	「合格テキスト日商簿記2級」「合格トレーニング日商簿記2級」 該当箇所 予習としてテキストに目を通しておいください。 わからない箇所があっても構いませんが、何が書いてあるのかを理解するよう努めてください。復習として授業で学習した範囲のトレーニングを完璧に解けるようにして、次回の講義に臨んでください。	4時間

科目名	工業簿記	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	藤原 大花	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	4 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 経営学部専門教育科目		
テーマ	工業簿記の論点の学修、計算実践。		
授業の目的及び概要	この授業は、製造業における製品原価等の計算方法ならびに記帳体系を学修するために開設されるものであり、原価計算・工業簿記の基礎から中級程度を理解することが目的である。「初級簿記」の履修、もしくは「日本商工会議所簿記検定 3 級」程度の知識を前提に、個別原価計算、部門別原価計算、総合原価計算、標準原価計算、直接原価計算の基本を学修する。この授業を履修することによって、工業簿記について「日本商工会議所簿記検定 2 級」程度の技能を修得することができる。		
履修条件・留意点	この授業は、会計職基礎講座（夏季 S コース）を受講し、日商簿記検定 2 級に合格した方を対象とした科目になります（日商簿記 2 級の合格を前提に日商簿記 1 級以上の内容を扱います）。以下の事項すべてに当てはまらない方は、中級簿記（川口先生）を受講してください。 【履修条件】 ①：日商簿記検定 2 級に合格済み ②：以下のいずれかの資格の学習を開始している ・公認会計士 ・日商簿記 1 級 ③：S コース（簿記上級講座）を受講する ※公認会計士講座を受講している方も上記 S コースを受講してください（詳しくは説明します）。 ④：GPA3.0 以上 【留意点】 ・遅刻欠席厳禁（守れない場合は厳しく対処します）		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・工業簿記・原価計算に関する企業の経営活動を理解し、計算・記録・管理を行うことができる。 ・日商簿記検定 2 級レベルの工業簿記・原価計算の知識・技能を修得する。		
資格・検定試験への対応	日商簿記検定試験 2 級：12 月下旬のネット試験での合格を目指します。		
フィードバックの方法	小テストや中間試験は講義内で解説いたします。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、公認会計士（日本公認会計士協会会員）であり、監査法人にて様々な監査業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	初回授業で案内します。	ISBN	なし
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	100	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）		
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	この授業は、日商簿記2級合格者を対象に2026年6月の日商簿記1級合格を目指すクラスになります。 Sコースと併せての履修でハードな内容になりますが、6月検定までに合格レベルに到達するように進めていきますので、食らいついて来てください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 実力確認テスト	【事前学修】初級簿記の範囲の総復習（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第2回	対面	工業簿記の基礎 工業簿記の勘定連絡	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第3回	対面	材料費Ⅰ 材料費Ⅱ	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第4回	対面	労務費Ⅰ 労務費Ⅱ	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第5回	対面	経費	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第6回	対面	個別原価計算Ⅰ 個別原価計算Ⅱ	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第7回	対面	部門別個別原価計算Ⅰ 部門別個別原価計算Ⅱ	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第8回	対面	総合原価計算Ⅰ 総合原価計算Ⅱ	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第9回	対面	総合原価計算Ⅲ（仕損と減損）	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第10回	対面	総合原価計算Ⅳ（工程別総合原価計算） 総合原価計算Ⅴ（組別総合原価計算）	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第11回	対面	総合原価計算Ⅵ（等級別総合原価計算）	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第12回	対面	財務諸表	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第13回	対面	標準原価計算Ⅰ 標準原価計算Ⅱ（前半）	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点を	4時間

			できるまで復習する（2時間程度）。	
第14回	対面	標準原価計算Ⅱ（後半） 直接原価計算Ⅰ	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第15回	対面	直接原価計算Ⅱ	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第16回	対面	本社工場会計	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第17回	対面	問題演習	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第18回	対面	問題演習	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第19回	対面	問題演習	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第20回	対面	問題演習	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第21回	対面	問題演習	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第22回	対面	問題演習	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第23回	対面	問題演習	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第24回	対面	問題演習	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第25回	対面	問題演習	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第26回	対面	問題演習	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第27回	オンデマンド	問題演習	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間

2026/05/01

第28回	オンデマンド	問題演習	【事前学修】テキストの該当箇所を読み、予習しておくこと（2時間程度）。 【事後学修】問題集等を使用し、授業で扱った論点をできるまで復習する（2時間程度）。	4時間
第29回	対面	実力確認問題の実施	過去の範囲の総復習を行うこと	4時間
第30回	対面	実力確認問題の解説	過去の範囲の総復習を行うこと	4時間

科目名	インターンシップ I		開講年度	2026 年度春学期
担当者	米山 秀隆		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	1 単位
グレード	G2		授業方法	実習
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	インターンシップ（就業体験学習）を通じて社会、働く意味、そして自分を知る。			
授業の目的及び概要	インターンシップでは、授業のない夏季休暇期間（8・9月）において、企業や地方公共団体などでの実習（＝就業体験）を行うもので、実習を通じて社会や職業への理解を深め、将来の進路や職業の選択に向けた社会観・職業観を養成する。企業、団体、事業所等への派遣にあたっては、学内で事前のガイダンスもしくは研修を経て、インターンシップの意義・目的についての理解を深めた後、受入事業所において、1 週間（実働5日間）以上の実習を行う。実習終了後、体験レポートを作成することで、インターンシップでの成果と課題を認識する。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	企業・団体・事業所等における一定期間の就業体験を行い、大学における学習と社会での実習経験を結びつけることで、将来の社会的・職業的自立を意識できるようになる。さらに、主体的な職業選択に向けた動機づけを行うとともに、社会観・職業観を含む就業力を育成し、希望進路の実現に不可欠な就職活動に対する意識を高めることができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	企業担当者によって、口頭や実習中に作成する日誌へのコメントで行われる。			
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	なし	ISBN	指定テキストはありません。	
参考書		ISBN		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	—		
	成果発表（口頭・実技）	50		
	中間試験	—		
	【定期試験】レポート試験	—		
	【定期試験】筆記試験（対面）	—		
	その他（％）	—		
	その他の内容	—		
この科目の受講にあたって	<重要>この科目を履修する際には、必ず、キャリアセンターで開催する説明会に参加して、インターンシップの基本的な意義目的について理解しておくこと。 なお、インターンシップは実習先において社会人としてのマナーが厳しく問われる。そのため、欠席・遅刻・早退は論外である。自覚して臨んでほしい。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション	【予習】事前学修として、シラバス等の内容を確認しておく。 【復習】事後学修として、説明があった内容について再確認しておく。	1 時間

第2回	対面	事前研修	【予習】事前学修として、社会人としての素養・マナー・コミュニケーションスキルについて確認しておく。 【復習】事後学修として、事後学修として、講義とグループワークの内容について再確認しておく。	1 時間
第3回	対面	インターンシップ派遣先等において実習①（1日目） インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、その内容を業務報告として実習日誌を作成することで、業務の理解や社会のしくみ、社会人としての行動規範を身に着け、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。	1 時間
第4回	対面	インターンシップ派遣先等において実習②（2日目） インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身に着け、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。	1 時間
第5回	対面	インターンシップ派遣先等において実習③（3日目） インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身に着け、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。	1 時間
第6回	対面	インターンシップ派遣先等において実習④（4日目） インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身に着け、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。	1 時間
第7回	対面	インターンシップ派遣先等において実習⑤（5日目） インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身に着け、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、これまでの実習内容の振り返りを行い、体験レポートの作成に活かす。	1 時間
第8回	対面	体験レポートの作成・提出 インターンシップ派遣先企業等にて行った就業体験について、体験レポートを作成し、インターンシップでの成果と課題を振り返り、社会人として必要なビジネススキル等について復習を行う。	【予習】事前学修として、これまでの実習内容の振り返りを行い、体験レポートの作成に活かす。 【復習】事後学修として、社会、働く意味、そして社会人としての自らのあり方について考える。	6 時間

科目名	インターンシップⅡ		開講年度	2026 年度春学期
担当者	米山 秀隆		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	1 単位
グレード	G2		授業方法	実習
科目区分	経済学部専門教育科目			
テーマ	インターンシップ（就業体験学習）を通じて社会、働く意味、そして自分を知る。			
授業の目的及び概要	インターンシップでは、授業のない夏季休暇期間（８・９月）において、企業や地方公共団体などでの実習（＝就業体験）を行うもので、実習を通じて社会や職業への理解を深め、将来の進路や職業の選択に向けた社会観・職業観を養成する。企業、団体、事業所等への派遣にあたっては、学内で事前のガイダンスもしくは研修を経て、インターンシップの意義・目的についての理解を深めた後、受入事業所において、1 週間（実働5日間）以上の実習を行う。実習終了後、体験レポートを作成することで、インターンシップでの成果と課題を認識する。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	企業・団体・事業所等における一定期間の就業体験を行い、大学における学習と社会での実習経験を結びつけることで、将来の社会的・職業的自立を意識できるようになる。さらに、主体的な職業選択に向けた動機づけを行うとともに、社会観・職業観を含む就業力を育成し、希望進路の実現に不可欠な就職活動に対する意識を高めることができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	企業担当者によって、口頭や実習中に作成する日誌へのコメントで行われる。			
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	なし		ISBN	指定テキストはありません。
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		—	
	成果発表（口頭・実技）		50	
	中間試験		—	
	【定期試験】レポート試験		—	
	【定期試験】筆記試験（対面）		—	
	その他（％）		—	
	その他の内容		—	
この科目の受講にあたって	<重要>この科目を履修する際には、必ず、キャリアセンターで開催する説明会に参加して、インターンシップの基本的な意義目的について理解しておくこと。 なお、インターンシップは実習先において社会人としてのマナーが厳しく問われる。そのため、欠席・遅刻・早退は論外である。自覚して臨んでほしい。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション	【予習】事前学修として、シラバス等の内容を確認しておく。 【復習】事後学修として、説明があった内容について再確認しておく。	1 時間

第2回	対面	事前研修	【予習】事前学修として、社会人としての素養・マナー・コミュニケーションスキルについて確認しておく。 【復習】事後学修として、事後学修として、講義とグループワークの内容について再確認しておく。	1 時間
第3回	対面	インターンシップ派遣先等において実習①（1日目） インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、その内容を業務報告として実習日誌を作成することで、業務の理解や社会のしくみ、社会人としての行動規範を身に付け、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。	1 時間
第4回	対面	インターンシップ派遣先等において実習②（2日目） インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身に付け、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。	1 時間
第5回	対面	インターンシップ派遣先等において実習③（3日目） インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身に付け、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。	1 時間
第6回	対面	インターンシップ派遣先等において実習④（4日目） インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身に付け、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。	1 時間
第7回	対面	インターンシップ派遣先等において実習⑤（5日目） インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身に付け、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、これまでの実習内容の振り返りを行い、体験レポートの作成に活かす。	1 時間
第8回	対面	体験レポートの作成・提出 インターンシップ派遣先企業等にて行った就業体験について、体験レポートを作成し、インターンシップでの成果と課題を振り返り、社会人として必要なビジネススキル等について復習を行う。	【予習】事前学修として、これまでの実習内容の振り返りを行い、体験レポートの作成に活かす。 【復習】事後学修として、社会、働く意味、そして社会人としての自らのあり方について考える。	6 時間